



中华野史

中华野史

(卷一)

先秦至唐朝卷 (上)



三秦出版社



总 目 录

卷一、先秦至唐朝卷（上）

野 史 文 存

蜀王本纪·····	(2)
孔子家语·····	(5)
徐偃王志·····	(74)
吴越春秋·····	(92)
楚汉春秋·····	(132)
西京杂记·····	(142)
天禄阁外史·····	(161)
献帝春秋·····	(230)
三国杂事·····	(231)
汉末英雄记·····	(241)
九州春秋·····	(257)
晋后略·····	(265)
汉晋春秋·····	(267)
南北朝杂记·····	(287)
五代新说·····	(303)
十六国春秋别本·····	(310)
魏晋世语·····	(356)
世说新语·····	(357)
博物志·····	(436)
搜神记·····	(459)
搜神后记·····	(522)
拾遗记·····	(539)
书断列传·····	(577)
续世说·····	(596)



桂苑丛谈·····	(700)
南岳小录·····	(707)
历代崇道记·····	(715)
独异志·····	(722)
隋唐嘉话·····	(753)
朝野金载·····	(769)
大唐创业起居注·····	(822)
魏郑公谏录·····	(844)

卷二、先秦至唐朝卷（中）

大唐转载·····	(881)
南部新书·····	(891)
大唐新语·····	(948)
玄怪录·····	(1019)
刘宾客嘉话录·····	(1059)
唐摭言·····	(1078)
河东记·····	(1153)
宣室志·····	(1175)
封氏闻见记·····	(1260)
唐才子传·····	(1293)
开天传记记·····	(1380)
北里志·····	(1386)
次柳氏旧闻·····	(1395)
明皇杂录·····	(1399)
因话录·····	(1410)
唐国史补·····	(1433)
奉天录·····	(1457)
唐阙史·····	(1478)
广异记·····	(1501)
兼明书·····	(1607)
五代史补·····	(1636)

帝王秘闻

千古一帝秦始皇·····	(1670)
置酒焚书·····	(1670)



阿房筑宫	(1671)
太子自杀	(1671)
珍奇之墓	(1672)
昏愤暴虐秦二世	(1673)
宫廷斗争的幕后秘谋	(1673)
秦二世巡游疑点揭秘	(1677)
楚王铸剑记	(1682)
布衣皇帝汉高祖	(1683)
悦服群臣	(1683)
未央取乐	(1683)
宠姬夜泣	(1684)
群谏废嫡	(1684)
宦者共寝	(1684)
故乡行乐	(1685)
汉昭帝秘闻	(1686)
脱簪求免	(1686)
立而废之	(1686)
狱后进女	(1687)
势高夷族	(1688)
徐福上疏	(1688)
伪君子王莽	(1690)
王莽进女	(1690)
鬼神惑莽	(1690)
国号更新	(1691)
饮酒不乐	(1691)
父子同妻	(1691)
阴险狡诈——汉光武帝	(1692)
光武废后	(1692)
置酒行乐	(1692)
姊妹连诛	(1692)
陈辞侍母	(1693)
善治国的汉文帝、汉景帝	(1694)
吴楚七国之乱	(1694)
汉景帝与王娡秘闻	(1697)
汉武帝野史	(1701)
汉武帝内传	(1701)
汉武帝别国洞冥记	(1709)
好色误国——汉成帝	(1721)
汉成帝私生活揭秘	(1721)



赵氏姐妹死亡原因探幽	(1727)
乱世奸雄曹操	(1729)
曹操的本来面目	(1729)
曹操不称帝	(1732)
曹操为美人损兵折将	(1734)
曹操嗜美妇二纳人妻	(1738)
重友薄妻昭烈帝刘备	(1744)
刘备怕说是英雄	(1744)
刘备丢失徐州揭秘	(1745)
刘关张重聚前后	(1746)
“三顾茅庐”	(1748)
晋武帝司马炎秘闻	(1751)
宫中号泣	(1751)
恃女益豪	(1751)
富贵共之	(1751)
羞煞贾充	(1752)
逃于厕中	(1752)
吴妓入宫	(1753)
骏怀恶意	(1753)
太子之谜	(1753)
白痴天子晋惠帝	(1762)
太子諲古	(1762)
贾后杀人	(1762)
侍御绝食	(1763)
廉耻沦亡	(1763)
不了了之	(1763)
逼杀太子	(1764)
狗尾续貂	(1765)
晋愍帝秘闻	(1766)
三后并立	(1766)
陵中金帛	(1766)
太弟失宠	(1766)
肉袒牵羊	(1767)
孝宗穆皇帝秘闻	(1768)
瞎儿一泪	(1768)
杀心太重	(1768)
天助人杀	(1769)
人亦杀之	(1769)
文武双全风流鬼——孝武帝	(1771)



狱君立像	(1771)
溺酒荒淫	(1771)
举酒祝星	(1772)
燕王杀母	(1772)
太子昏庸	(1772)
倒悬井中	(1773)
穷途托母	(1773)
毒酒杀人	(1774)
杀戮成性石虎父子	(1775)

卷三、先秦至唐朝卷（下）

天下一统隋文帝	(1781)
隋文帝夺位秘谋内幕	(1781)
隋文帝宫廷生活秘闻	(1785)
隋文帝宫廷斗争秘闻	(1792)
穷奢极欲隋炀帝	(1798)
大营苑囿	(1798)
大闹龙舟	(1798)
髦毛投地	(1799)
帐里赋诗	(1799)
私通妃子	(1799)
格杀弗论	(1800)
美女供献	(1800)
将士得妻	(1800)
溥海同怨	(1800)
迷楼记	(1801)
炀帝海山记	(1804)
开河记	(1814)
大业拾遗记	(1816)
唐高祖秘闻	(1821)
体有三乳	(1821)
兄弟阋墙	(1821)
贤良君主唐太宗	(1824)
临别赠言	(1824)
洛阳话旧	(1824)
庸懦无为唐肃宗	(1826)



五不可留	(1826)
易地为宜	(1827)
重见太上	(1827)
辅国专横	(1828)
唐德宗宫廷内幕	(1829)
假冒太后	(1829)
父子如初	(1829)
借吉成婚	(1830)
劫夺民物	(1831)
唐代宗秘事	(1832)
骝马打金枝秘闻	(1832)
宫廷斗争秘闻	(1834)
代宗与太后	(1841)
宗教狂唐宪宗	(1843)
宪宗宫廷生活秘闻	(1843)
宪宗宫廷斗争内幕	(1845)
宪宗与太后秘闻	(1849)
孱弱昏君唐穆宗	(1851)
剃发为僧	(1851)
病于打球	(1851)
太后撕诏书	(1851)
荒淫无度	(1852)
贞献皇后萧氏秘闻	(1853)
死于游戏的唐敬宗	(1856)
以死进言	(1856)
六旬箴	(1856)
骊山有什么罪	(1856)
死于游戏	(1857)
敬宗皇帝荒淫大揭秘	(1857)
贪玩荒政秘闻	(1859)
女皇武则天秘史	(1861)
初献狐媚	(1861)
攫取后位始末	(1863)
独揽大权，自立为帝	(1866)
荒淫无度的奇闻	(1868)
大兴佛寺内幕	(1871)
武则天宫廷秘闻	(1872)
抑佛崇道唐武宗	(1875)
武宗宫廷斗争秘闻	(1875)

壮志难酬唐文宗	(1878)
宦官专权内幕	(1878)
太子暴死	(1879)
说起来就伤心	(1879)
血洗大明官始末	(1880)
勤于政事的后唐明宗	(1884)
焚珠碎玉	(1884)
信任谗佞	(1884)
空中神语	(1885)
望梅止渴	(1885)
妙舞清歌	(1886)
生离死别	(1887)
姊妹联吟	(1887)
花容憔悴	(1888)
未免有情	(1889)
后唐明宗秘闻	(1891)
节俭为政	(1891)
须知农家之苦	(1892)
请妹代做皇后揭秘	(1893)
卧病哀声	(1893)
方士惑主揭秘	(1894)

后 妃 隐 密

赵太后隐密	(1898)
从歌伎到太后	(1898)
深宫秘行	(1901)
临朝执政乱天下——汉高后吕雉	(1905)
皇后之路	(1905)
太后吕雉	(1911)
吕后隐密	(1914)
孝惠张皇后隐密	(1916)
使威弄权窦太后	(1921)
堪为贤妻 难成良母	(1921)
阴错阳差 一步登天	(1921)
醋波不兴 旧梦难续	(1923)
溺儿之心 至死不灭	(1925)
金屋藏娇痴帝王——陈阿娇	(1929)
宠辱频仍卫子夫	(1935)



倾国倾城李夫人	(1940)
深宫美女赵氏姐妹	(1947)
飞燕外传	(1958)
赵后遗事	(1962)
和帝后妃之争	(1966)
后来居上	(1966)
以柔克刚	(1968)
权力的魔杖	(1971)
“洛神”甄夫人	(1973)
持戟皇后贾南风	(1985)
晋孝武帝皇后王法慧	(1995)
冯氏美女与孝文帝	(1997)
独孤皇后隐密	(2012)
驭夫有术	(2012)
“无毒不丈夫”	(2014)
血溅仁寿宫	(2015)
所择非人	(2018)
嫁鸡随鸡	(2021)
软弱的抗议	(2021)
几多享受，几多烦恼	(2023)
无可奈何花落去	(2025)
太穆皇后窦氏择婿秘闻	(2028)
高后武则天轶事	(2031)
韦后传奇	(2044)
“要学会忍耐”	(2044)
超越君王的权势	(2046)
天津桥畔黄纸之谜	(2048)
杀夫而自取败亡	(2051)
失踪之谜	(2053)
一代才女上官婉儿	(2055)
才女婉儿 辅佐则天治国	(2055)
媚娘退位 婉儿再度得宠	(2057)
玄宗登基 草菅婉儿性命	(2058)
杨玉环野史	(2060)
杨太真外传	(2060)
长恨歌传	(2070)
梅妃秘闻	(2075)
遁入空门的刘皇后	(2078)
沉鱼落雁 刘氏始入皇宫	(2078)



棒笞生父 玉娘谋得后位	(2079)
认匠作父 搜刮民脂民膏	(2081)
勾结伶宦 陷害忠臣良将	(2083)
灌死亲夫 拼逃不得善终	(2084)
小周皇后隐密	(2086)
享乐	(2086)
亡国	(2088)
红颜薄命徐花蕊	(2090)
勾结宦官 幼儿东宫	(2090)
毒死丈夫 卖国揽政	(2091)
刻诗炫耀 乐极生悲	(2093)
离恨绵绵费花蕊	(2095)
红颜命薄两花蕊	(2095)
离恨绵绵费花蕊	(2096)

名 臣 名 相

权倾天下——吕不韦	(2100)
异人为质 不韦逢机	(2100)
政治投机	(2104)
千秋功罪	(2106)
赵高野史	(2109)
闺房天子	(2109)
女婿得力	(2109)
女儿内助	(2109)
席见淫秽	(2110)
赵高弑帝	(2110)
丽娥侍侧	(2110)
燕子丹野史	(2112)
专权弄术——石显	(2117)
逼杀帝师	(2117)
蒙蔽视听	(2119)
清除异己	(2121)
死有余辜	(2123)
跋扈将军梁冀	(2125)
皇亲贵戚	(2125)
贪婪横行	(2126)
质帝轻言被弑	(2129)
权倾朝野	(2131)



饮鸩自杀	(2132)
投机钻营——单超	(2134)
妙除九侯	(2134)
五侯受封	(2136)
无恶不作	(2138)
党锢之祸，文人受摧残	(2140)
窃权误国——黄皓	(2142)
献媚取宠	(2142)
狼狈为奸的闹剧	(2143)
牵制姜维 害民误国	(2144)
官场混混——刘腾	(2148)
秘告皇后	(2148)
勾结元叉 狼狈为奸	(2153)
命丧黄泉	(2155)
名将奸相——杨素	(2158)
出身名门	(2158)
媚主取宠 见风使舵	(2161)
培养自己的势力	(2163)
弑君矫诏 助广篡权	(2165)
忧郁而终	(2167)
“赵氏孤儿”悲剧的制造者——屠岸贾	(2170)
唆使灵公	(2170)
谋害赵相国	(2172)
秉性难改 作恶依旧	(2175)
屠氏终伏诛	(2177)
路人皆知——司马昭	(2179)
世代智囊	(2179)
尽握国权	(2183)
灭蜀篡逆	(2185)
窃国大盗——董卓	(2190)
戎马起家	(2190)
乘机进京谋废立	(2195)
祸乱两京害官民	(2201)
连环计	(2207)
传奇人物——宗爱	(2213)
鲜卑的兴起	(2213)
少年宗爱	(2215)
权力顶峰	(2218)
疯狂的毁灭	(2224)



汉丞相诸葛忠武侯传	(2235)
口蜜腹剑——李林甫	(2254)
攀附权贵	(2254)
独揽大权	(2256)
上下其手 蒙蔽玄宗	(2258)
妒贤臣暗下毒手	(2259)
大兴冤狱	(2262)
最后身败名裂	(2264)
裙带宰相——杨国忠	(2268)
小人得志	(2268)
勾心斗角	(2271)
擅权乱政 贿赂公行	(2273)
终于激反安禄山	(2276)
丧命马嵬坡	(2279)
掌宦宦官——程元振	(2283)
受命刺杀 得到提拔	(2283)
公公赐妻	(2286)
青云直上的途径	(2291)
免官归乡的下场	(2293)
平步青云——鱼朝恩	(2296)
典掌军权	(2296)
阻挠将帅	(2298)
典掌禁军而后谋陷功臣	(2300)
仗权行不法	(2303)
被缢身亡	(2305)
奴大欺主——李辅国	(2308)
发迹的马馆	(2308)
安史之乱带来的机遇	(2311)
神秘来客将机遇冲走了	(2314)
因祸得福	(2319)
恃宠弄权	(2321)
屠戮后官	(2327)
罪恶到了尽头	(2331)
“安史之乱”——安禄山	(2334)
李泌传	(2356)
权倾朝野的小太监——仇士良	(2362)
小太监的追求	(2362)
恃宠扬威	(2369)
保驾立功	(2372)



权倾朝野	(2375)
武宗的反击	(2382)

名 妓 名 女

绿珠情断金谷园	(2388)
倾城名花姚玉京	(2392)
妍暖破轻裘	(2392)
零落成泥碾作尘，只有香如故	(2397)
薄命红颜苏小小	(2399)
苏家有女初长成	(2399)
春色迷人	(2403)
自古红颜多薄命	(2405)
莫愁湖畔莫愁女	(2407)
莫愁啊莫愁	(2407)
莫愁湖水深千尺	(2408)
广陵楚雨打琼花——柳琼花	(2412)
往事不堪回首	(2412)
受宠淫君隋炀帝	(2414)
烈女李姝	(2417)
鱼玄机私密	(2419)
霍小玉传	(2423)
莺莺传	(2429)
杨娼传	(2435)
绝世佳人谭意哥	(2436)
粉蝶悄悄促早妆	(2436)
有情人终成眷属	(2440)
姑苏太守青娥女——韦芳	(2442)
流落长沙舞杯妓	(2442)
他乡遇故知	(2443)
军营藏娇杨安秀	(2446)
把酒祝东风，共睹芳容	(2446)
军营藏娇	(2446)
妾愿随君 共赴黄泉	(2447)
从歌伎到嫔妃——永新	(2449)
入宫	(2449)
人生得意须尽欢	(2452)
同是天涯沦落人	(2453)
临颖美人公孙大娘	(2455)



剑侠美女	(2455)
如日中天	(2457)
复得返自然	(2457)
麻疯玉女褚企兰	(2459)
舍身忘死,义救情郎	(2459)
恰逢好心人	(2461)
残花零落杨菜儿	(2464)
徘徊久,叹息愁思盈	(2464)
过尽飞鸿字字愁	(2467)
风尘痴情女玉箫	(2470)
沦落风尘 心许情郎	(2470)
隐入相府 情郎又见	(2470)
月圆之夜 破镜重圆	(2473)
将军恩赐 结为夫妻	(2476)
仕宦才女薛涛	(2478)
仕宦之女 沦落风尘	(2478)
落花有意 流水无情	(2481)
一代才女 被贬赴边	(2483)
衷情渐消 退隐浣花	(2486)
唐代侠妓红线女	(2489)
乱世入烟花	(2489)
终南学艺	(2490)
拯救苍生	(2492)
复归终南	(2496)
《琵琶行》的女主角——裴兴奴	(2498)
放荡的妓女	(2498)
一生的转变	(2499)
天涯同命鸟	(2502)
长安名妓柳青娘	(2504)
长安名妓柳青娘	(2504)
遇淫将,误入虎口	(2505)
才子佳人成伴侣	(2507)
沦落风尘几度春——徐月英	(2508)
嫁给郭昭述	(2508)
青楼原系可怜人	(2509)
终成双飞燕	(2510)
文坛怨女关盼盼	(2511)
孤女遭奸	(2511)
入娼门,委身张建封	(2512)



上有怨女关盼盼	(2514)
王福娘削发为尼	(2517)
献身孙策	(2517)
心灰意冷	(2519)
金华烈女刘采春	(2520)
跳楼沉河 却结连理	(2520)
波澜乍起 吟诗自绝	(2521)
《望夫》绕梁 千年不绝	(2524)
张好好三遇杜侍郎	(2526)
好好十三 初遇杜牧	(2526)
再遇杜侍郎	(2528)
张好好三遇杜侍郎，初效云雨	(2529)
张好好殉情	(2530)
吾未成名君未嫁——李云英	(2532)
情投意合的不羁男女	(2532)
再续前缘 白头偕老	(2536)
可怜灼灼成疯女	(2539)
沦落风尘	(2539)
钟情裴郎	(2539)
可怜灼灼成疯女	(2541)

当 朝 要 案

改诏杀兄	(2544)
衡山王刘赐谋反案	(2553)
汉宫巫蛊冤案	(2557)
昌邑王刘贺被废案	(2565)
以言获罪案	(2568)
赵广汉被诛案	(2570)
阴皇后巫蛊案	(2572)
窦宪谋杀汉和帝案	(2574)
自辩诽谤案	(2576)
渤海王刘惺案	(2578)
蔡邕狱死案	(2580)
崔琰惨案	(2582)
孔融弃市案	(2585)
诬杀大臣案	(2588)
太子蒙冤案	(2591)
错斩名将案	(2596)



范晔案	(2598)
谢朓案	(2602)
侯景策反案	(2605)
少年天子之死案	(2608)
陈朝冤案	(2612)
废帝要案	(2615)
长江漂尸案	(2617)
隋朝太子蒙冤案	(2620)
苏威遭诬陷	(2624)
高颀私通反臣案	(2626)
太子谋反案	(2628)
泄露天机案	(2631)
除逆杀子案	(2633)
宗室诸王喋血案	(2635)
人鬼相庆诛国贼案	(2638)
甘露之变案	(2642)
李义府案	(2647)
长孙无忌案	(2651)
七大臣冤狱案	(2653)
忠佞同路案	(2657)
观葬识盗案	(2660)
换刀擒凶案	(2661)
借刀杀人案	(2663)
请君入瓮案	(2665)

卷四、宋朝卷（上）

野 史 文 存

北梦琐言	(2670)
洛阳缙绅旧闻记	(2748)
五代史阙文	(2771)
五代春秋	(2777)
五国故事	(2783)
江南野史	(2793)
蜀梼杌	(2822)



鉴诫录	(2840)
燕翼诒谋录	(2876)
湘山野录	(2902)
续湘山野录	(2929)
玉壶清话	(2939)
闻见近录	(2984)
括异志	(2998)
东坡志林	(3037)
澠水燕谈录	(3083)
梦溪笔谈	(3134)
梦溪补笔谈	(3228)
梦溪续笔谈	(3248)
青箱杂记	(3250)
东轩笔录	(3281)
温公日记	(3335)
涑水记闻	(3352)
默记	(3460)
东斋记事	(3483)
醴泉笔录	(3508)
家世旧闻	(3526)
铁围山丛谈	(3544)

卷五、宋朝卷（下）

却扫编	(3589)
清波杂志	(3622)
大宋宣和遗事	(3698)
靖康纪闻	(3750)
靖康传信录	(3778)
建炎笔录	(3795)
宋朝事实	(3808)
宾退录	(3930)
独醒杂志	(3993)
容斋随笔	(4036)
容斋续笔	(4128)



帝王秘闻

北宋开国皇帝宋太祖	(4216)
陈桥兵变	(4216)
夺取后周皇权	(4218)
杜太后的隐忧	(4219)
杯酒释兵权	(4220)
历史的巧合	(4221)
道士的预言	(4222)
斧声烛影	(4223)
“金匱之盟”	(4225)
兄弟恩怨寻踪	(4226)
众说纷纭死亡谜	(4228)
赵氏家族病之谜	(4229)
烛光斧影宋太宗	(4232)
抱尸哭子	(4232)
希夷先生	(4232)
后苑赏花	(4233)
纵火焚宫	(4233)
开宝塔寺	(4233)
群犬同食	(4233)
半部《论语》	(4234)
登楼观灯	(4234)
宋真宗秘闻	(4235)
神人下降	(4235)
令兄改名	(4235)
效唐明皇	(4236)
官中火灾	(4236)
飞蝗遮天	(4236)
太子监国	(4237)
即位不知生母的宋仁宗	(4238)
殿中种麦	(4238)
厚葬宸妃	(4238)
掩饰后过	(4238)
开棺哭母	(4239)
误批帝颈	(4239)
阎罗包老	(4240)
大放官人	(4240)



疯癫皇帝宋英宗	(4241)
宋英宗即位前秘闻	(4241)
英宗母子间猜疑秘闻	(4244)
风流皇帝宋徽宗	(4248)
宋徽宗宫廷秘闻	(4248)
宋徽宗与名妓李师师艳事	(4251)
落难皇帝宋钦宗	(4255)
宋钦宗即位	(4255)
徽、钦二帝“北狩”始末	(4258)
宠奸害忠的宋高宗	(4275)
临安小住	(4275)
半臂遮身	(4276)
帝作三宝	(4276)
遣使迎后	(4276)
赵构逃难秘闻	(4276)
宋高宗再度复辟内幕	(4278)
宋高宗、秦桧残害岳飞秘闻	(4282)
韦太后由金归宋始末	(4284)

后 妃 隐 密

会稽郡夫人、琅琊郡夫人与花蕊夫人	(4290)
李皇后临危不乱	(4293)
女皇梦回——刘娥	(4296)
从敲鼓女到皇后	(4296)
做武则天的美梦	(4298)
勒马回头的幸运	(4300)
宋仁宗后妃隐密	(4302)
因妒生祸被废	(4302)
临危不惧救驾	(4303)
听政不贪权位	(4305)
南宋基业的开创者——孟皇后	(4308)
帝后大婚	(4308)
后妃之争	(4310)
身负国难	(4313)
流亡的皇妃	(4316)
靖康耻辱，魂断塞外	(4316)
屈身辱志究可哀	(4318)
宋代贾南风——李凤娘	(4320)



贾南风再世	(4320)
淫威下病魔缠身	(4322)
不顾亲情犯众怒	(4324)
狡诈善谋杨贵妃	(4326)
棋高一招	(4326)
报复杀人	(4327)
共谋废立	(4329)
病后受美女	(4330)

名 臣 名 相

误国奸臣——蔡京	(4334)
窃取相位	(4334)
朝政独揽于手	(4340)
大肆搜刮民财	(4344)
罪有应得	(4347)
贾似道势倾朝野	(4350)
飞黄腾达依裙带	(4350)
虚报战功	(4351)
祸国殃民的宰相	(4354)
腐败的朝政	(4356)
毙命漳州	(4357)
死有余辜——童贯	(4360)
幼年入官	(4360)
“媼相”诞生	(4363)
剿杀方腊 出使契丹	(4367)
六贼乱朝纲	(4369)
北伐残辽 结果兵败燕京	(4371)
临阵脱逃 被枭首示众	(4374)
为虎作伥——张邦昌	(4377)
沆瀣一气	(4377)
甘当金人的走狗	(4381)
狡猾奸诈的人	(4383)
自缢身亡的下场	(4385)
卖国奸贼——秦桧	(4389)
降金受宠	(4389)
谋得相位受信任	(4392)
表演投降丑剧	(4394)
冤杀岳飞	(4396)



欲盖弥彰的丑剧	(4400)
东窗事发 死有余辜	(4401)

名 妓 名 女

李师师外传	(4406)
林灵素传	(4410)
名妓莲芬梦系秦观	(4412)
幼玉情痴——衡阳名妓王真姬	(4416)
敷桂英索命负心贼	(4421)
天台官妓严蕊	(4425)
洛阳艳妓张采萍	(4428)
本非同林鸟	(4428)
产生爱慕意	(4430)
成了双飞燕	(4433)
谢玉英殉情为柳永	(4436)
百日同床却秋毫无犯	(4436)
千日磨剑一朝显锋	(4438)
生不同衾死同穴	(4441)
李念奴游说苏东坡	(4445)
苏轼游西湖	(4445)
说服苏学士	(4446)
神医名妓宇文柔娘	(4449)
会医术的宇文柔娘	(4449)
柔娘与王巩	(4450)
贤妻良柱	(4452)
红粉顿作刀下鬼——閻惜姣	(4454)
宋江救美	(4454)
宋江成婚	(4456)
宋江杀妻	(4458)
香消玉碎李慧娘	(4461)
一句话引来杀身祸	(4461)
二人同在相府	(4463)
冤恨终有出头日	(4464)

当 朝 要 案

玉仙观奇闻	(4468)
大盗“我来也”奇案	(4470)



弱女子智擒大盗案	(4472)
和尚与女尸案	(4474)
包公擒盗平冤狱	(4476)
无头女尸案	(4478)
和尚奸杀案	(4483)
无头女尸迷案	(4485)
白马报案	(4487)
“莫须有”冤案	(4489)
剖棺戮尸案	(4493)
《十香词》淫词冤案	(4496)
五十贯	(4503)
护身券案	(4505)

卷六、辽夏金元卷

野 史 文 存

辽志	(4510)
辽小史	(4517)
燕魏杂记	(4525)
西夏事略	(4529)
西夏书事	(4532)
金志	(4739)
金小史	(4744)
大金吊伐录	(4772)
南征集	(4834)
北狩见闻录	(4840)
汝南遗事	(4844)
南征集	(4857)
续夷坚志	(4873)
归潜志	(4915)
墨史	(4983)
蒙鞑备录	(4996)
黑鞑事略	(5000)
元朝秘史	(5004)
圣武亲征录校注	(5041)



平宋录	(5054)
元朝征缅录	(5066)
庚申外史	(5070)
国初群雄事略	(5089)

帝王秘闻

辽太祖耶律阿保机	(5214)
辽太祖开国秘闻	(5214)
阿保机征战	(5218)
断腕太后述律平	(5221)
辽太宗耶律德光	(5225)
弟兄三人权位之争	(5225)
耶律倍被封为东丹王	(5226)
述律后偏向耶律德光	(5227)
耶律倍出走寻秘	(5228)
辽穆宗耶律璟	(5230)
世宗在位秘闻	(5230)
穆宗残暴秘闻	(5231)
穆宗穷奢酒欲秘闻	(5233)
穆宗丢失三关秘事	(5234)
暴君被杀	(5235)
辽景帝耶律贤	(5237)
横刀夺爱	(5238)
颠鸾倒凤，乾坤在握	(5239)
天下安定，旧情复燃	(5240)
辽圣宗耶律隆绪	(5242)
肖太后摄政秘闻	(5242)
战败宋太宗秘闻	(5245)
澶渊结盟秘闻	(5246)
天祚帝耶律延禧	(5250)
天祚帝弊政秘闻	(5250)
文妃惨死	(5252)
天祚帝流亡秘闻	(5254)
雄暴帝王元昊	(5258)
元昊之祖李继迁秘闻	(5258)
元昊称帝	(5262)
元昊礼贤下士	(5264)
元昊被刺揭秘	(5265)



西夏仁宗李仁孝	(5268)
李仁孝除奸密谋	(5268)
李仁孝治国秘闻	(5272)
西夏襄宗李安全	(5275)
桓宗暴死秘事	(5275)
襄宗与成吉思汗战争秘事	(5275)
开国帝王金太祖完颜阿骨打	(5277)
阿骨打登基秘闻	(5277)
元太祖成吉思汗	(5282)
“一代天骄”	(5282)
成吉思汗和耶律楚材关系揭秘	(5286)
成吉思汗的葬礼与成陵之谜	(5288)
元太祖窝阔台	(5291)
即位内幕	(5291)
窝阔台为政秘事	(5292)
与察合台关系揭秘	(5293)
元世祖忽必烈	(5296)
与蒙哥释去误会秘决	(5296)
争帝位大战中阿里布哥秘史	(5299)
忽必烈灭宋秘闻	(5302)
文天祥就义秘事	(5304)
平定李璘叛乱秘事	(5305)
平定北边诸王之乱	(5308)
为理财忽必烈重用贪臣内幕	(5312)
忽必烈宫闱秘闻	(5315)
荒淫皇帝元顺帝	(5319)
元顺帝宫廷争斗	(5319)
元顺帝与脱脱关系揭秘	(5323)
元顺帝贬杀太后秘闻	(5329)
奇氏僭后弄权秘闻	(5332)
荒淫房中术秘闻	(5336)

后 妃 隐 密

卜鲁罕与失怜答里	(5342)
才貌超群嫁酒鬼——真哥与速哥失里	(5345)
泰定皇后八不罕	(5346)
蛇蝎皇后卜答失里	(5348)
乱世三凤——元顺帝后妃隐密	(5353)



断腕擅朝纲的述律太后	(5357)
相得益彰 佐夫立国称帝	(5357)
断腕擅朝纲	(5359)
退居二线的太后	(5362)
尴尬凄凉的结局	(5364)
翻云覆雨李师儿	(5367)
鸡犬升天的李氏家族	(5367)
风流才女自迷人	(5368)
翻云覆雨把朝纲	(5369)
命赴黄泉	(5370)
风月皇妃——奇妃	(5372)
封后	(5372)
起兵	(5374)

名 臣 名 相

元代巨奸阿合马	(5376)
李璵叛乱 因缘获用	(5376)
聚敛财富	(5378)
恃宠擅私害贤	(5379)
破坏汉法	(5380)
心狠手辣 残害异己	(5382)
脑碎身亡	(5383)
玩火自焚的哈麻	(5386)
以谄媚事君	(5386)
谋害脱脱	(5388)
玩火自焚的下场	(5389)
怙宠自用的完颜匡	(5391)
书生	(5391)
戎马	(5393)
忽必烈的财政大臣桑哥	(5398)
得势	(5398)
揽权	(5399)
争名夺利	(5400)
失宠	(5401)

名 妓 名 女

带刺的玫瑰——京师名妓樊事真	(5404)
----------------------	--------



张丽容金心恋书生	(5407)
名妓罗爱爱	(5411)
女神童沦入风尘——刘婆惜	(5415)
初识齐元鼎	(5415)
暗渡陈仓	(5417)
委身金子仁	(5417)
元曲声声连枝秀	(5419)
殷勤花下同携手，我亦多情	(5419)
满眼繁华，俱是浮云流水	(5421)
活王昭君	(5423)
酒仙名妓张怡云	(5425)
皇族妓女	(5425)
劝君更尽一杯酒	(5425)
皆大欢喜	(5429)
深得关汉卿赏识的王巧儿	(5430)
从艺关汉卿	(5430)
初遇陈郎	(5430)
终成眷属	(5433)
樊素贞孽海浮沉	(5435)
无可奈何花落去	(5435)
正人君子周仲宏	(5436)
又遇变态色魔	(5437)
重见天日	(5439)

当 朝 要 案

诬陷害人反害己	(5442)
胡参政谋杀兄弟案	(5444)
杀媳案	(5446)
郑贵杀侄案	(5447)
杀母案	(5449)
媳诬翁奸案	(5451)
通奸奇案	(5453)
因奸谋杀本夫	(5455)
偷奸被杀案	(5457)
讨债杀兄案	(5459)



卷七、明朝卷（上）

野 史 文 存

皇明本纪	(5462)
北平录	(5478)
北巡私记	(5482)
姜氏秘史	(5486)
致身录	(5549)
北征录	(5554)
北征后录	(5563)
瀛涯胜览	(5566)
北使录	(5582)
寓圃杂记	(5588)
复斋日记	(5628)
复辟录	(5646)
天顺日录	(5652)
东征纪行录	(5687)
青溪暇笔	(5695)
抚安东夷记	(5711)
水东日记	(5714)
菽园杂记	(5789)
前闻纪	(5871)
平蛮录	(5890)
治世余闻	(5896)
林泉随笔	(5921)
野记	(5937)
庚巳编	(5970)
继世纪闻	(6024)
震泽纪闻	(6043)
奢斋琐缀录	(6053)
皇明纪略	(6102)
大同纪事	(6117)
云中事记	(6121)
云中纪变	(6124)
余冬序录	(6131)



涉异志	(6193)
徐襄阳西园杂记	(6203)
东谷赘言	(6239)
会仙女志	(6257)
炎徽纪闻	(6262)
晏林子	(6295)
倭变事略	(6325)
北窗琐语	(6344)
新知录摘抄	(6355)

卷八、明朝卷（中）

七修类稿	(6371)
七修续稿	(6715)
今言	(6761)
贤弈编	(6855)
都公谭纂	(6911)
松窗梦语	(6938)
玉堂丛语	(7004)
清暑笔谈	(7132)
皇明盛事述	(7139)
皇明奇事述	(7190)
广志绎	(7229)

卷九、明朝卷（下）

谷山笔麈	(7291)
皇明异典述	(7385)
旧京遗事	(7479)
玉镜新谭	(7489)
陶庵梦忆	(7556)
烈皇小识	(7599)



帝王秘闻

明太祖朱元璋	(7702)
朱元璋早年秘闻	(7702)
朱元璋与马皇后关系揭秘	(7705)
朱元璋暗害小明王内幕	(7715)
朱元璋登基秘闻	(7719)
朱元璋治国秘闻	(7721)
朱元璋诛杀功臣秘闻	(7734)
朱元璋与文字狱秘闻	(7744)
明太祖秘闻	(7749)
明惠帝朱允炆	(7754)
被立为太子	(7754)
太子的藩王之忧	(7756)
燕王夺位	(7757)
建文帝削藩	(7758)
靖难之役	(7759)
建文帝失败的时刻	(7760)
建文帝成了一名云游僧吗	(7762)
“假建文帝案”	(7763)
建文帝“自焚”说质疑	(7765)
建文帝出逃依据	(7766)
建文帝秘事拾零	(7770)
明惠帝秘闻	(7770)
明成祖朱棣	(7773)
朱棣做龙靴	(7773)
朱棣官闱秘闻	(7775)
明成祖秘闻	(7779)
明仁宗朱高炽	(7781)
仁宗传位秘闻	(7781)
仁宗建馆讲经	(7783)
明宣宗朱瞻基	(7784)
宣宗治国秘诀	(7784)
宣宗私生活揭秘	(7784)
宣宗官闱秘闻	(7785)
明宣宗秘闻	(7786)
明英宗朱祁镇	(7788)
朝政被太监王振控制	(7788)



英宗被俘	(7791)
南官复辟内幕	(7793)
景帝废太子	(7795)
北京保卫战	(7796)
明宪宗朱见深	(7798)
宠幸万妃	(7798)
宪宗官闱秘事	(7802)
明孝宗朱祐樞	(7805)
即位前秘闻	(7805)
官闱秘闻	(7805)
明孝宗秘闻	(7807)
明武宗朱厚照	(7809)
疏于朝政	(7809)
重用刘瑾	(7812)
纵情享乐	(7813)
肆意巡游	(7816)
戏谑丧身	(7820)
武宗外纪	(7823)
明世宗朱厚熜	(7834)
崇信道术方士	(7834)
纵容明代第一大奸臣	(7838)
挥霍奢靡 天下独绝	(7841)
明神宗朱翊钧	(7843)
抄杀流放 一揽大权	(7843)
天选王者意	(7845)
恋美女，嗜美酒	(7847)
皇帝臣子尽豺狼	(7849)
党派纷争乱天下	(7851)
明光宗朱常洛	(7854)
备受冷遇的皇子	(7854)
“挺击案”	(7857)
“红丸案”	(7859)
明熹宗朱由校	(7861)
移官案秘事	(7861)
魏忠贤闹乱官闱	(7862)
不爱江山爱木匠	(7868)
熹宗官闱的秘事拾零	(7870)
明思宗朱由检	(7871)
崇祯帝自缢之谜	(7871)



崇祯官闱秘闻	(7876)
太子惨死内幕	(7881)

后 妃 隐 密

朱元璋的患难夫人——马皇后	(7888)
爱民如子徐皇后	(7891)
家事国事费思量——张皇后	(7893)
妖娆狐媚孙贵妃	(7896)
钱皇后隐密	(7899)
一妃敌两后——万贞儿	(7902)
半老徐娘的魅力	(7902)
残杀人子的魔鬼	(7903)
张太后的晚境	(7906)
三个皇后的悲惨命运	(7909)
遭凌虐二后惨死	(7909)
纵火伤妻恩将仇报	(7911)
慈母的苦心	(7914)
无意争宠有心扶弱	(7917)
谋宝座终成画饼	(7919)
邪不压正	(7921)
喋血明宫田贵妃	(7925)
骄横苛刻的西李	(7928)
西李骄横	(7928)
官中疑案	(7930)
嗜权如命的女强人——郑贵妃	(7934)
争立太子	(7934)
腐化无度	(7936)
三大奇案	(7937)
《忧危谏议》	(7940)

名 臣 名 相

明朝宦官专权第一人——王振	(7946)
排斥三杨	(7946)
盗毁铁牌	(7950)
把持朝政大权	(7950)
敲榨勒索	(7952)
征讨麓川	(7954)



命丧于沙场之上	(7957)
皇帝大伴——冯保	(7960)
幼年入宫	(7960)
与高拱斗法	(7962)
落井下石	(7970)
“大伴”，结局悲惨	(7973)
明代宦之首魏忠贤	(7977)
市井无赖	(7977)
矫杀王安 屠戮东林	(7980)
手握朝政大权	(7986)
罪大恶极的结局	(7989)
专权乱政的汪直	(7992)
甘当特务	(7992)
一起一落 权势更炽	(7994)
终于死于非命	(7995)
“五虎”之首崔呈秀	(7998)
甘做义子求荣	(7998)
迫害东林迎魏氏	(7999)
一人得道	(8000)
落得个可耻下场	(8001)
内阁大学士——温体仁	(8003)
谄媚魏阉	(8003)
何故自毁长城	(8005)
两奸倾轧得灭亡	(8008)
立地皇帝——刘瑾	(8011)
“八虎”之首	(8011)
祸害朝廷	(8016)
立地皇帝	(8021)
大特务头子	(8028)
刘瑾激化的矛盾	(8030)
权阉受劾	(8032)
青词宰相——严嵩	(8035)
登第与退隐	(8035)
左右逢源 初展宦术	(8038)
登阁拜相 位极人臣	(8041)
恃权聚敛 草菅人命	(8048)
祸国殃民	(8055)
权奸败落	(8057)
两朝叛臣——吴三桂	(8061)



降清	(8061)
谋反	(8065)

名 妓 名 女

董小宛别传	(8074)
冒姬董小宛传	(8080)
李娇凤情系吴公子	(8088)
杜十娘怒沉百宝箱	(8091)
高娃舍生取义	(8097)
王翠翘魂断清流	(8098)
侠风义骨李香君	(8105)
文武兼备铁秀英	(8108)
教坊母女	(8108)
欲刺帝王	(8110)
苏州名妓沈九娘	(8112)
“状元红”	(8112)
一纸休书	(8114)
终成眷属	(8115)
色艺双绝马湘兰	(8119)
幽兰出空谷	(8119)
幽兰苦争香	(8122)
唯有香如故	(8125)
金陵名花寇白门	(8127)
妓女亦侠	(8127)
侠妓取义	(8129)
秦淮“八艳”之首柳如是	(8131)
年幼入娼门	(8131)
两历感情纠纷	(8132)
终得人生归宿	(8137)
无奈身死保家	(8143)
卞玉京洁身自爱	(8145)
初入风月场	(8145)
一见钟情	(8146)
出家入道	(8149)
终老惠山	(8150)
说书红妓郑妥娘	(8152)
苦难命运	(8152)
拜师学艺	(8153)



初露锋芒	(8155)
书谏福王	(8157)
圆圆传	(8158)
绝代名花陈圆圆	(8161)
初恋冒辟疆	(8161)
又识吴三桂	(8164)
终悟万事休	(8166)
娇小玲珑香扇坠李香君	(8169)
从师李贞丽	(8169)
巧笑艳歌皆我意	(8169)
香君贞丽纷落难	(8173)
桃花扇留情	(8177)

当 朝 要 案

《忧危竝议》疑案	(8180)
深宫疑案	(8185)
郭桓贪脏案	(1888)
刘恩等人被诬案	(8191)
于谦之案	(8193)
真假女婿案	(8197)
袁崇焕案	(8200)
洪羽越狱案	(8203)

卷十、清朝卷（上）

野 史 文 存

十叶野闻	(8206)
满清兴亡史	(8305)
满清外史	(8350)
清朝前纪	(8376)
纤言	(8408)
江阴城守纪	(8431)
江阴城守后纪	(8447)
江上遗闻	(8449)



东南纪事	(8454)
行在阳秋	(8520)
广东新语	(8547)
康雍乾间文字之狱	(8858)
潮嘉风月	(8878)
海隅冶游录	(8888)
鸦片事略	(8903)
信及录	(8938)
榆巢杂识	(9007)
丁香花	(9132)

卷十一、清朝卷（中）

夷氛闻记	(9139)
湘烟小录	(9176)
庸闲斋笔记	(9209)
太平天国战记	(9345)
武昌纪事	(9380)
湘军志	(9392)
德宗承统私记	(9472)
栖霞阁野乘	(9480)
梦蕉亭杂记	(9543)
李文忠公事略	(9590)
张文襄公事略	(9636)
张文襄幕府纪闻	(9650)
述庵秘录	(9676)
归庐谭往录	(9684)
网庐漫墨	(9693)
春冰室野乘	(9709)
西巡回銮始末记	(9787)
国闻备乘	(9911)
外交小史	(9966)
行素斋杂记	(9977)
清宫禁二年记	(10004)
奴才小史	(10071)



卷十二、清朝卷（下）

藤阴杂记	(10085)
乡曲枝辞	(10149)
熙朝新语	(10166)
蕉廊胜录	(10250)
眉庐丛话	(10364)
续眉庐丛话	(10456)
清代野记	(10488)

帝 王 秘 闻

清世祖顺治帝	(10562)
幼年登基的内幕	(10562)
宫廷斗争内幕揭秘	(10564)
顺治帝与两皇后的恩恩怨怨	(10571)
生死之恋	(10574)
顺治帝出家	(10581)
痴情天子	(10586)
清圣祖康熙帝	(10589)
通向皇帝之路	(10589)
铲除鳌拜	(10593)
康熙帝与孝庄皇太后	(10598)
康熙帝废立嗣内幕	(10602)
康熙帝不近女色?	(10615)
失败的父亲，杰出的君主	(10616)
清世宗雍正帝	(10619)
雍正登基前的成长秘闻	(10619)
皇官斗争内幕	(10638)
雍正私生活秘闻	(10645)
清高宗乾隆帝	(10655)
康熙的“宠孙”	(10655)
宫廷斗争秘闻	(10661)
乾隆私生活揭秘	(10668)
乾隆和皇妃们的秘闻	(10672)
清仁宗嘉庆帝	(10674)
嘉庆成长秘史	(10674)



皇官斗争内幕寻踪	(10676)
嘉庆和皇妃们的秘史	(10685)
清宣宗道光帝	(10689)
称帝前的秘闻	(10689)
官廷斗争内幕揭秘	(10695)
妃子钮祜禄氏秘闻	(10698)
清文宗咸丰帝	(10700)
咸丰帝登基前的幕后	(10700)
官廷斗争内幕	(10704)
咸丰与皇妃	(10711)
暮年秘闻	(10715)
清德宗光绪帝	(10719)
幼童皇帝秘闻	(10719)
光绪官廷生涯揭秘	(10724)
光绪私生活秘闻	(10736)
清宣统帝溥仪	(10744)
末代皇三岁登基	(10744)
袁世凯拥兵逼宫	(10745)
辫子帅张勋复辟	(10746)
满清覆灭	(10747)
遵祖制皇上完婚	(10749)
满洲傀儡皇帝	(10750)
末代情怨	(10752)
两贵人两种结局	(10756)
琴瑟相谐	(10760)
窃国大盗袁世凯	(10764)
北洋军阀之父	(10764)
玩弄权术	(10767)
总统府内争斗内幕	(10773)
袁世凯与其妻妾们	(10785)
暮年生活	(10789)

后 妃 隐 密

艰辛尴尬一皇后——庄妃	(10794)
册封	(10794)
劝降	(10795)
辅佐儿子登基	(10796)
下嫁	(10798)



定都北京	(10799)
呵护幼主	(10802)
康熙孝顺	(10803)
辞世慈宁宫	(10805)
千古痴情的董妃	(10807)
受宠	(10807)
短命	(10808)
皇帝出家之谜	(10809)
西域美人香妃	(10813)
传说香妃 香妃越传越香	(10813)
战火生涯 自幼企盼和平	(10814)
窈窕温顺 容妃宫内受宠	(10814)
魂归真主 终前全为他人	(10816)
香魂何处 扑朔迷离堪寻	(10816)
垂帘听政的慈禧	(10820)
初入禁宫	(10820)
攫取权力	(10821)
再度垂帘	(10823)
扼杀变法	(10825)
丧权辱国	(10826)
穷奢极欲	(10827)
太后淫乱	(10830)
生命终结	(10832)

名 臣 名 相

军族豪臣鳌拜	(10836)
屡立战功	(10836)
夹缝之内	(10838)
受命辅佐康熙帝	(10841)
专横跋扈	(10844)
排除异己固党羽	(10847)
阴谋篡政	(10849)
康熙智擒鳌拜	(10851)
古今首贪和珅	(10854)
机缘巧附青云	(10854)
宦途弄风云	(10861)
致富良方	(10866)
和珅跌倒 嘉庆吃饱	(10873)



大权监安德海	(10880)
初识那拉氏	(10880)
借辛酉政变 以飞黄腾达	(10881)
干预朝政	(10884)
伏诛于历城	(10887)
第一太监李莲英	(10891)
鞋铺贫童 变成后官贵人	(10891)
累受封赏	(10893)
无耻勒索富商	(10895)
毒死了慈安	(10896)
横行乡里之中	(10898)
身首异处的结局	(10899)

名 妓 名 女

秦娘守贞	(10904)
金玉奴香消秦淮	(10908)
红颜薄命——吴朝霞	(10912)
潮州名妓濮小姑	(10915)
金陵俏人素娟	(10917)
烟花奇女魏月波	(10919)
秦阿香显灵报冤	(10924)
名震秦淮——赛金花	(10929)
嫁给状元郎	(10929)
连克两夫	(10932)
妓女报国	(10933)
凄凉晚景	(10935)

当 朝 要 案

山阳县令毒杀监察大员案	(10938)
顺天府科场舞弊案	(10942)
千古之谜刺马案	(10945)
哑女案	(10949)
云落店惨案	(10951)
康陈氏自缢之谜	(10955)
七太监案	(10957)
和尚风流案	(10959)
绣鞋疑案	(10965)



杨乃武与小白菜案	(10969)
杨月楼与韦阿宝案	(10972)
江南科场案	(10975)
康雍乾间文字之狱	(10978)
庄廷铨之狱	(10978)
戴名世之狱	(10979)
查嗣庭之狱	(10979)
陆生楠之狱	(10981)
曾静、吕留良之狱	(10986)
谢济世之狱	(10995)
胡中藻之狱	(10996)
风水先生煽动谋反案	(11001)
“伪奏稿”案	(11006)
白华庵三尼姑之死案	(11009)
贡玉奇案	(11016)



野史文存



蜀王本纪

〔明〕郑朴 辑

蜀之先，称王者有蚕丛、柏濩、鱼凫、开明。是时人萌椎髻，左衽，不晓文字，未有礼乐。从开明已上至蚕丛，积三万四千岁。

蜀王之先名蚕丛，后代名曰柏濩，后者名鱼凫。此三代各数百岁，皆神化不死，其民亦颇随王去。鱼凫田于湔山，得仙。今庙祀之于湔。时蜀民稀少。

后有一男子，名曰杜宇，从天堕，止朱提。有一女子，名利，从江源井中出，为杜宇妻。乃自立为蜀王，号曰望帝。治汶山下邑，曰郫化，民往往复出。

望帝积百余岁，荆有一人，名鳖灵，其尸亡去，荆人求之不得。鳖灵尸随江水上至郫，遂活，与望帝相见。望帝以鳖灵为相。时玉山出水，若尧之洪水。望帝不能治，使鳖灵决玉山，民得安处。鳖灵治水去后，望帝与其妻通。惭愧，自以德薄不如鳖灵，乃委国授之而去，如尧之禅舜。鳖灵即位，号曰开明帝。帝生卢保，亦号开明。

望帝去时子鵲鸣，故蜀人悲子鵲鸣而思望帝。望帝，杜宇也，从天堕。

开明帝下至五代，有开明尚。始去帝号，复称王也。

天为蜀王生五丁力士，能徙蜀山。王无五丁，辄立大石，长三丈，重千钧，号曰石牛。千人不能动，万人不能移。

蜀王据有巴蜀之地，本治广都樊乡，徙居成都。秦惠王遣张仪、司马错定蜀，因筑成都而县之。成都在赤里街，张若徙置少城内。始造府县寺舍，令与长安同制。

秦惠王时，蜀王不降秦，秦亦无道出于蜀。蜀王从万余人，东猎褒谷，卒见秦惠王。秦王以金一笥遗蜀王，蜀王报以礼物，礼物尽化为土。秦王大怒，臣下皆再拜，贺曰：“土者，地也，秦当得蜀矣。”



《秦惠王本纪》曰：秦惠王欲伐蜀，乃刻五石牛，置金其后。蜀人见之，以为牛能大便金。牛下有养卒，以为此天牛也，能使金。蜀王以为然，即发卒千人，使五丁力士拖牛成道，致三枚于成都。秦道得通，石牛之力也。后遣丞相张仪等随石牛道伐蜀焉。

武都人有善知，蜀王者将其妻女适蜀。居蜀之后，不习水土，欲归。蜀王心爱其女，留之，乃作《伊鸣之声》六曲以舞之。

武都丈夫化为女子，颜色美好，盖山之精也。蜀王娶以为妻。不习水土，疾病欲归，蜀王留之。无几物故，蜀王发卒之武都担土，于成都郭中葬之。盖地三亩，高七丈，号曰武担以石作镜一枚表其墓，径一丈，高五尺。

于是，秦王知蜀王好色，乃献美女五人于蜀王。蜀王爱之，遣五丁迎女。还至梓潼，见一大蛇入山穴中。一丁引其尾，不出。五丁共引蛇，山乃崩，压五丁。五丁踏地大呼，秦王五女及迎送者皆上山，化为石，蜀王登台，望之不来，因名五妇侯台。蜀王亲埋作冢，皆致万石，以志其墓。

秦惠王遣张仪、司马错伐蜀。王开明拒战，不利，退走武阳，获之。

张仪伐蜀。蜀王开明战不胜，为仪所灭。

秦王诛蜀侯恽，后迎葬咸阳。天雨，三月不通，因葬成都。蜀人求雨，祠蜀侯必雨。

蜀王有鸛武舟。

秦为太白船万艘，欲以攻楚。

秦为舶舡万艘，欲攻楚。

秦襄王时，宕渠郡献长人，长二十五丈六尺。

禹本汶山郡广柔县人，生于石纽，其地名桐儿畔。禹母吞珠孕禹，拆副而生于县。涂山娶妻生子，名启。于今涂山有禹庙，亦为其母立庙。

老子为关令尹喜著《道德经》。临别，曰：“子行道千日后，于成都青羊肆寻吾。”今为青牛观是也。

江水为害，蜀守李冰作石犀五枚。二枚在府中，一枚在市桥下，二枚在水中，以厌水



精，因曰石犀里也。

李冰以秦时为蜀守，谓汶山为天彭阙，号曰天彭门。云亡者悉过其中，鬼神精灵数见。

县前有两石，对如阙，号曰彭门。

宣帝地节中，始穿盐井数十所



孔子家语

〔汉魏〕佚名 撰

卷 一

相鲁第一

孔子出仕，为中都宰，制为养生送死之节：长幼异食，强弱异任，男女别涂，路无拾遗，器不雕伪；为四寸之棺、五寸之椁，因丘陵为坟，不封不树。行之一年，而西方之诸侯则焉。定公谓孔子曰：“学子此法以治鲁国，何如？”孔子对曰：“虽天下可乎，何但鲁国而已哉？”于是二年，定公以为司空，乃别五土之性，而物各得其所生之宜，咸得厥所。

先时季氏葬昭公于墓道之南，孔子沟而合诸墓焉。谓季桓子曰：“贬君以彰己罪，非礼也。今合之，所以揜夫子之不臣。”由司空为鲁大司寇，设法而不用，无奸民。

定公与齐侯会于夹谷，孔子摄相事，曰：“臣闻有文事者必有武备，有武事者必有文备。古者诸侯并出疆，必具官以从。请具左右司马。”定公从之。

至会所，为坛位，土阶三等，以遇礼相见，揖让而登。献酢既毕，齐使莱人以兵鼓噪，劫定公。孔子历阶而进，以公退，曰：“士以兵之！吾两君为好，裔夷之俘敢以兵乱之，非齐君所以命诸侯也。裔不谋夏，夷不乱华，俘不干盟，兵不逼好，于神为不祥，于德为德义，于人为失礼，君必不然。”齐侯心忤，麾而避之。

有顷，齐奏宫中之乐，俳优、侏儒戏于前。孔子趋进，历阶而上，不尽一等，曰：“匹夫荧侮诸侯者，罪应诛！请右司马速刑焉！”于是斩侏儒，手足异处。齐侯惧，有惭色。

将盟，齐人加载书曰：“齐师出境，而不以兵车三百乘从我者，有如此盟！”孔子使兹无还对曰：“而不返我汶阳之田，吾以供命者，亦如之！”

齐侯将设享礼。孔子谓梁丘据曰：“齐、鲁之故，吾子何不闻焉？事既成矣，而又享之，是勤执事。且牺、象不出门，嘉乐不野合。享而既具，是弃礼；若其不具，是用秕



稗。用稗种，君辱；弃礼，名恶。子盍图之？夫享，所以昭德也。不昭，不如其已。”乃不果享。

齐侯归，责其群臣曰：“鲁以君子道辅其君，而子独以夷狄道教寡人，使得罪。”于是乃归所侵鲁之四邑及汶阳之田。

孔子言于定公曰：“家不藏甲，邑无百雉之城，古之制也。今三家过制，请皆损之。”乃使季氏宰仲由堕三都。叔孙不得意于季氏，因费宰公山弗扰，率费人以袭鲁。孔子以公与季孙、叔孙、孟孙入于费氏之宫，登武子之台。费人攻之，及台侧，孔子命申句须、乐颀励士众，下伐之。费人北。遂堕三都之城，强公室，弱私家，尊君卑臣，政化大行。

初，鲁之贩羊有沈犹氏者，常朝饮其羊以诈市人。有公慎氏者，妻淫不制。有慎溃氏，奢侈逾法。鲁之鬻六畜者，饰之以储价。及孔子之为政也，则沈犹氏不敢朝饮其羊，公慎氏出其妻，慎溃氏越境而徙。三月，则鬻牛马者不储价，卖羊豚者不加饰，男女行者别其途，道不拾遗，男尚忠信，女尚贞顺，四方客至于邑，不求有司，皆如归焉。

始诛第二

孔子为鲁司寇，摄行相事，有喜色。仲由问曰：“由闻君子祸至不惧，福至不喜。今夫子得位而喜，何也？”孔子曰：“然，有是言也。不曰‘乐以贵下人’乎？”于是朝政七日而诛敌政大夫少正卯，戮之于两观之下，尸于朝三日。

子贡进曰：“夫少正卯，鲁之闻人也。今夫子为政而始诛之，或者为失乎？”孔子曰：“居，吾语汝以其故。天下有大恶者五，而窃盗不与焉：一曰心逆而险，二曰行僻而坚，三曰言伪而辩，四曰记丑而博，五曰顺非而泽。此五者，有一于人，则不免君子之诛，而少正卯皆兼有之：其居处足以撮徒成党，其谈说足以饰褒荣众，其强御足以反是独立。此乃人之奸雄者也，不可以不除。夫殷汤诛尹谐，文王诛藩正，周公诛管蔡，太公诛华士，管仲诛付乙，子产诛史何，是此七子皆异世而同诛者，以七子异世而同恶，故不可赦也。《诗》云：‘忧心悄悄，愠于群小。’小人成群，斯足忧矣。”

孔子为鲁大司寇，有父子讼者，夫子同狴执之，三月不别。其父请止，夫子赦之焉。季孙闻之，不悦，曰：“司寇欺余。曩告余曰：‘国家必先以孝。’余今戮一孝以教民孝，不亦可乎？而又赦，何哉？”冉有以告孔子。

子喟然叹曰：“呜呼！上失其道而杀其下，非理也。不教以孝而听其狱，是杀不辜。三军大败，不可斩也；狱犴不治，不可刑也。何者？上教之不行，罪不在民故也。夫慢令谨诛，贼也；征敛无时，暴也；不试责成，虐也。政无此三者，然后刑可即也。《书》云：‘义刑义杀，勿庸以即汝心，惟曰未有慎事。’言必教而后刑也。既陈道德，以先服之；而犹不可，尚贤以劝之；又不可，即废之；又不可，而后以威悼之。若是三年，而百姓正矣。其有邪民不从化者，然后待之以刑，则民咸知罪矣。《诗》云：‘天子是毗，俾民不’



迷。’是以威厉而不试，刑错而不用。今世则不然，乱其教，繁其刑，使民迷惑而陷焉，又从而制之，故刑弥繁而盗不胜也。夫三尺之限，空车不能登者，何哉？峻故也。百仞之山，重载陟焉，何哉？陵迟故也。今世俗之陵迟久矣，虽有刑法，民能勿逾乎？”

王言解第三

孔子闲居，曾参侍。孔子曰：“参乎！今之君子唯士与大夫之言可闻也，至于君子之言者希也。於乎！吾以王言之，其不出户牖而化天下。”曾子起，下席而对曰：“敢问何谓王之言？”孔子不应。曾子曰：“侍夫子之闲也难对，是以敢问。”孔子又不应，曾子肃然而惧，捫衣而退，负席而立。

有顷，孔子叹息，顾谓曾子曰：“参，汝可语明王之道与？”曾子曰：“非敢以为足也。请因所闻而学焉。”

子曰：“居，吾语汝。夫道者所以明德也，德者所以尊道也，是以非德道不尊，非道德不明。虽有国之良马，不以其道服乘之，不可以道里。虽有博地众民，不以其道治之，不可以致霸王。是故昔者明王内修七教，外行三至。七教修然后可以守，三至行然后可以征。明王之道，其守也，则必折冲千里；其征也，则必还师衽席之上。故曰内修七教而上不劳，外行三至而财不费。此之谓明王之道也。”

曾子曰：“不劳不费之谓明王，可得闻乎？”孔子曰：“昔者帝舜左禹而右皋陶，不下席而天下治。夫如此，何上之劳乎？政之不平，君之患也；令之不行，臣之罪也。若乃十一而税，用民之力岁不过三日，入山泽以其时而无征，关讥市廛，皆不收赋，此则生财之路，而明王节之，何财之费乎？”

曾子曰：“敢问何谓七教？”孔子曰：“上敬老则下益孝，上尊齿则下益悌，上乐施则下益宽，上亲贤则下择友，上好德则下不隐，上恶贪则下耻争，上廉让则下耻节，此之谓七教。七教者，治民之本也。政教定则本正也。凡上者民之表也，表正则何物不正？是故人君先立人于己，然后大夫忠而士信，民敦俗璞，男慤而女贞。六者教之致也，布诸天下四方而不寃，纳诸寻常之室而不塞，等之以礼，立之以义，行之以顺，则民之弃恶如汤之灌雪焉。”

曾子曰：“道则至矣，弟子不足以明之。”孔子曰：“参以为姑止乎？又有焉。昔者明王之治民也，法必裂地以封之，分属以理之，然后贤民无所隐，暴民无所伏，使有司日省而时考之，进用贤良，退贬不肖，然则贤者悦而不肖者惧。哀鳏寡，养孤独，恤贫苦，诱孝悌，选才能。此七者修，则四海之内无刑民矣。上之亲下也，如手足之于腹心；下之亲上也，如幼子之于慈母矣。上下相亲如此，故令则从，施则行，民怀其德，近者悦服，远者来附，政之致也。夫布指知寸，布手知尺，舒肘知寻，斯不远之则也。周制三百步为里，千步为井，三井而埒，埒三而矩，五十里而都，封百里而有国，乃为累积资聚焉，恤



行者有亡。是以蛮夷诸夏，虽衣冠不同，言语不合，莫不来宾。故曰无市而民不乏，无刑而民不乱。田猎罩弋，非以盈宫室也；征敛百姓，非以盈府库也。惨怛以补不足，礼节以损有余，多信而寡貌，其礼可守，其言可覆，其迹可履，如饥而食，如渴而饮，民之信之，如寒暑之必验。故视远若迹，非道迹也，见明德也。是故兵革不动而威，用利不施而亲，万民怀其惠。此之谓明王之守，折冲千里之外者也。”

曾子曰：“敢问何谓三至？”孔子曰：“至礼不让而天下治，至赏不费而天下士悦，至乐无声而天下民和。明王笃行三至，故天下之君可得而知，天下之士可得而臣，天下之民可得而用。”

曾子曰：“敢问此义何谓？”孔子曰：“古者明王必尽知天下良士之名。既知其名，又知其实，又知其数及其所在，然后因天下之爵以尊之，此之谓至礼不让而天下治。因天下之禄以富天下之士，此之谓至赏不费而天下之士悦。如此则天下之民名誉兴焉，此之谓至乐无声而天下之民和。故曰所谓天下之至仁者，能合天下之至亲也；所谓天下之至明者，能举天下之至贤者也。此三者咸通，然后可以征。是故仁者莫大乎爱人，智者莫大乎知贤，贤政者莫大乎官能。有土之君修此三者，则四海之内供命而已矣。夫明王之所征，必道之所废者也，是故诛其君而改其政，吊其民而不夺其财。故明王之政，犹时雨之降，降至则民悦矣。是故行施弥博，得亲弥众。此之谓还师枉席之上。”

大婚解第四

孔子侍坐于哀公。公问曰：“敢问人道孰为大？”孔子愀然作色而对曰：“君及此言也，百姓之惠也，固臣敢无辞以对。人道，政为大。夫政者，正也。君为正，则百姓从而正矣。君之所为，百姓之所从。君不为正，百姓何所从乎？”

公曰：“敢问为政如之何？”孔子对曰：“夫妇别，男女亲，君臣信。三者正，则庶物从之。”

公曰：“寡人虽无能也，愿知所以行三者之道。可得闻乎？”孔子对曰：“古之政，爱人为大。所以治爱人，礼为大；所以治礼，敬为大；敬之至矣，大婚为大；大婚至矣，冕而亲迎。亲迎者，敬之也。是故君子兴敬为亲。舍敬则是遗亲也。弗亲弗敬，弗尊也。爱与敬，其政之本与？”

公曰：“寡人愿有言也。然冕而亲迎，不已重乎？”孔子愀然作色而对曰：“合二姓之好，以继先圣之后，以为天下宗庙社稷之主，君何谓已重焉？”

公曰：“寡人实固，不固，安得闻此言乎？寡人欲问，不能为辞，请少进。”孔子曰：“天地不合，万物不生。大婚，万世之嗣也，君何谓已重焉？”

孔子遂言曰：“内以治宗庙之礼，足以配天地之神；出以治直言之礼，以立上下之敬。物耻则足以振之，国耻足以兴之。故为政先乎礼。礼，其政之本与？”



孔子遂言曰：“昔三代明王，必敬妻子也，盖有道焉。妻也者，亲之主也；子也者，亲之后也，敢不敬与？是故君子无不敬。敬也者，敬身为大。身也者，亲之支也，敢不敬与？不敬其身，是伤其亲；伤其亲，是伤本也；伤其本，则支从之而亡。三者，百姓之象也。身以及身，子以及子，妃以及妃。君以修此三者，则大化汽乎矣。昔太王之道也如此，国家顺矣。”

公曰：“敢问何谓敬身？”孔子对曰：“君子过言则民作辞，过行则民作则。言不过辞，动不过则，百姓恭敬以从命。若是则可谓能敬其身，则能成其亲矣。”

公曰：“何谓成其亲？”孔子对曰：“君子者也，人之成名也。百姓与名，谓之君子，则是成其亲为君而为其子也。”

孔子遂言曰：“为政而不能爱人，则不能成其身；不能成其身，则不能安其土；不能安其土，则不能乐天。”

公曰：“敢问何能成身？”孔子对曰：“夫其行己不过乎物，谓之成身。不过乎，合天道也。”

公曰：“君子何贵乎天道也？”孔子曰：“贵其不已也。如日月东西相从而不已也，是天道也；不闭而能久，是天道也；无为而物成，是天道也；已成而明之，是天道也。”

公曰：“寡人且愚冥，幸烦子之于心。”孔子蹴然避席而对曰：“仁人不过乎物，孝子不过乎亲。是故仁人之事亲也如事天，事天如事亲。此谓孝子成身。”

公曰：“寡人既闻如此言，无如后罪何？”孔子对曰：“君子及此言，是臣之福也。”

儒行解第五

孔子在卫，冉求言于季孙曰：“国有圣人而不能用，欲以求治，是犹却步而欲求及前人，不可得已。今孔子在卫，卫将用之。已有才而以资邻国，难以言智也。请以重币迎之。”季孙以告哀公，公从之。

孔子既至舍，哀公馆焉。公自阼阶，孔子宾阶，升堂立侍。公曰：“夫子之服，其儒服与？”孔子对曰：“丘少居鲁，衣逢掖之衣。长居宋，冠章甫之冠。丘闻之，君子之学也博，其服以乡。丘未知其为儒服也。”

公曰：“敢问儒行。”孔子曰：“略言之则不能终其物，悉数之则留，仆未可以对。”

哀公命席。孔子侍坐，曰：“儒有席上之珍以待聘，夙夜强学以待问，怀忠信以待举，力行以待取。其自立有如此者。

“儒有衣冠中，动作顺，其大让如慢，小让如伪，大则如威，小则如愧，难进而易退也，粥粥若无能也。其容貌有如此者。

“儒有居处齐难，其起坐恭敬，言必诚信，行必忠正，道涂不争险易之利，冬夏不争阴阳之和，爱其死以有待也，养其身以有为也。其备预有如此者。



“儒有不宝金玉而忠信以为宝，不祈土地而仁义以为土地，不求多积，多文以为富，难得而易禄也，易禄而难畜也。非时不见，不亦难得乎？非义不合，不亦难畜乎？先劳而后禄，不亦易禄乎？其近人情有如此者。

“儒有委之以货财而不贪，淹之以乐好而不淫，劫之以众而不惧，阻之以兵而不慑。见利不亏其义，见死不更其守。往者不悔，来者不豫，过言不再，流言不极，不断其威，不习其谋。其特立有如此者。

“儒有可亲而不可劫，可近而不可迫，可杀而不可辱。其居处不过，其饮食不得，其过失可微辩而不可面数也。其刚毅有如此者。

“儒有忠信以为甲冑，礼义以为干櫓，戴仁而行，抱德而处。虽有暴政，不更其所。其自立有如此者。

“儒有一亩之宫，环堵之室，蓬门圭窬，蓬户瓮牖，易衣而出，并日而食。上答之，不敢以疑；上不答之，不敢以谄。其为士有如此者。

“儒有今人宜居，古人以耆。今世行之，后世以为楷。若不逢世，上所不受，下所不推。谗谄之民有比党而危之，身可危也，其志不可夺也，虽危起居，犹竟信其志，乃不忘百姓之病也。其忧思有如此者。

“儒有博学而不穷，笃行而不倦，幽居而不淫，上通而不困。礼必以和，优游以法。慕贤而容众，毁方而瓦合。其宽裕有如此者。

“儒有内称不避亲，外举不避怨。程功积事，不求厚禄；推贤达能，不望其报。君得其志，民赖其德。苟利国家，不求富贵。其举贤援能有如此者。

“儒有澡身浴德，陈言而伏，静言而正之，而上下不知也，默而翘之，又不急为也。不临深而为高，不加少而为多。世治不轻，世乱不沮。同己不与，异己不非。其特立独行有如此者。

“儒有上不臣天子，下不事诸侯，慎静尚宽，底厉廉隅，强毅以与人，博学以知服。虽以分国，视之如铢铢，弗肯臣仕。其规为有如此者。

“儒有合志同方，营道同术，并立则乐，相下不厌，久别则闻流言不信，义同而进，不同而退。其交有如此者。

“夫温良者，仁之本也；慎敬者，仁之地也；宽裕者，仁之作也；逊接者，仁之能也；礼节者，仁之貌也；言谈者，仁之文也；歌乐者，仁之和也；分散者，仁之施也。儒皆兼而有之，犹且不敢言仁也。其尊让有如此者。

“儒有不陨获于贫贱，不充诎于富贵，不溺君王，不累长上，不闵有司，故曰儒。今人之名儒也妄，常以儒相诟讟。”

袁公既得闻此言也，言加信，行加敬，曰：“终歿吾世，弗敢复以儒为戕矣。”



问礼第六

哀公问于孔子曰：“大礼何如？子之言礼，何其尊也？”孔子对曰：“丘也鄙人，不足以知大礼也。”

公曰：“吾子言焉。”孔子曰：“丘闻之，民之所以生者，礼为大。非礼则无以节事天地之神焉，非礼则无以辩君臣、上下、长幼之位焉，非礼则无以别男女、父子、兄弟、婚姻、亲族、疏数之交焉。是故君子此之为尊敬，然后以其所能教顺百姓，不废其会节。既有成事，而后治其文章、黼黻，以别尊卑、上下之等。其顺之也，而后言其丧祭之纪、宗庙之序，品其牺牲，设其豕腊，修其岁时，以敬其祭祀，别其亲疏，序其昭穆，而后宗族会醺。即安其居，以缀恩义。卑其宫室，节其服御，车不雕玕，器不彤镂，食不二味，心不淫志，以与万民同利。古之明王，行礼也如此。”

公曰：“今之君子，胡莫之行也？”孔子对曰：“今之君子，好利无厌，淫行不倦，荒怠慢游，固民是尽，以遂其心，以怨其政，忤其众，以伐有道。求得当欲，不以其所；虐杀刑诛，不以其治。夫昔之用民者由前，今之用民者由后。是即今之君子莫能为礼也。”

言偃问曰：“夫子之极言礼也，可得而闻乎？”孔子言：“我欲观夏道，是故之杞，而不足征也，吾得《夏时》焉。我欲观殷道，是故之宋，而不足征也，吾得《乾坤》焉。《乾坤》之义，《夏时》之等，吾以此观之。”

“夫礼初也，始于饮食。太古之时，燔黍擘豚，汙樽抔饮，蕢桴土鼓，犹可以致敬鬼神。及其死也，升屋而号，告曰：‘高！某复！’然后饮腥直熟。形体则降，魂气则上，是谓天望而地藏也。故生者南向，死者北首，皆从其初也。”

“昔之先王未有宫室，冬则居营窟，夏则居橧巢。未有火化，食草木之实、鸟兽之肉，饮其血，茹其毛。未有丝麻，衣其羽皮。后圣有作，然后修火之利，范金合土，以为宫室、户牖，以炮以燔，以烹以炙，以为醴酪。治其丝麻，以为布帛。以养生送死，以事鬼神。故玄酒在室，醴醖在户，粢醍在堂，澄酒在下。陈其牺牲，备其鼎俎，列其琴瑟管磬钟鼓，以降上神与其先祖，以正君臣，以笃父子，以睦兄弟，以齐上下，夫妇有所。是谓承天之佑。作其祝号，玄酒以祭，荐其血毛，腥其俎，熟其醢。越席以坐，疏布以褻。衣其浣布，醴醖以献，荐其燔炙。君与夫人交献，以嘉魂魄。然后退而合烹，体其犬豕牛羊，实其簠簋笾豆脯羹，祝以孝告，嘏以慈告，是为大祥。此礼之大成也。”

五仪解第七

哀公问于孔子曰：“寡人欲论鲁国之士，与之为治。敢问如何取之？”孔子对曰：“生今之世，志古之道；居今之俗，服古之服。舍此而为非者，不亦鲜乎？”

曰：“然则章甫纁履，绅带搢笏者，皆贤人也。”孔子曰：“不必然也。丘之所言，非



此之谓也。夫端衣玄裳，冕而乘轩者，则志不在于食烹；斩衰管菲，杖而歠粥者，则志不在于酒肉。生今之世，志古之道；居今之俗，服古之服，谓此类也。”

公曰：“善哉！尽此而已乎？”孔子曰：“人有五仪：有庸人，有士人，有君子，有贤人，有圣人。审此五者，则治道毕矣。”

公曰：“敢问何如斯可谓之庸人？”孔子曰：“所谓庸人者，心不存慎终之规，口不吐训格之言，不择贤以托其身，不力行以自定。见小暗大，而不知所务；从物如流，不知其所执。此则庸人也。”

公曰：“何谓士人？”孔子曰：“所谓士人者，心有所定，计有所守。虽不能尽道术之本，必有率也；虽不能备百善之美，必有处也。是故知不务多，必审其所知；言不务多，必审其所谓；行不务多，必审其所由。智既知之，言既道之，行既由之，则若性命之形骸之不可易也。富贵不足以益，贫贱不足以损。此则士人也。”

公曰：“何谓君子？”孔子曰：“所谓君子者，言必忠信而心不怨，仁义在身而色不伐，思虑通明而辞不专，笃行信道，自强不息，油然若将可越而终不可及者。此则君子也。”

公曰：“何谓贤人？”孔子曰：“所谓贤人者，德不逾闲，行中规绳，言足以法于天下而不伤于身，道足以化于百姓而不伤于本。富则天下无宛财，施则天下不病贫。此则贤者也。”

公曰：“何谓圣人？”孔子曰：“所谓圣者，德合于天地，变通无方，穷万事之终始，协庶品之自然，敷其大道，而遂成情性。明并日月，化行若神，下民不知其德，睹者不识其邻。此谓圣人也。”

公曰：“善哉！非子之贤，则寡人不得闻此言也。虽然，寡人生于深宫之内，长于妇人之手，未尝知哀，未尝知忧，未尝知劳，未尝知惧，未尝知危，恐不足以行五仪之教，若何？”孔子对曰：“如君之言，已知之矣，则丘亦无所闻焉。”

公曰：“非吾子，寡人无以启其心。吾子言也。”孔子曰：“君子入庙如右，登自阼阶，仰视榑桷，俯察机筵，其器皆存，而不睹其人。君以此思哀，则哀可知矣。昧爽夙兴，正其衣冠，平旦视朝，虑其危难，一物失理，乱亡之端。君以此思忧，则忧可知矣。日出听政，至于中冥。诸侯子孙，往来为宾，行礼揖让，慎其威仪。君以此思劳，则劳亦可知矣。孳然长思，出于四门，周章远望，睹亡国之墟，必将有数焉。君以此思惧，则惧可知矣。夫君者舟也，庶人者水也。水所以载舟，亦所以覆舟。君以此思危，则危可知矣。君既明此五者，又少留意于五仪之事，则于政治何有失矣！”

哀公问于孔子曰：“请问取人之法。”孔子对曰：“事任于官，无取捷捷，无取钳钳，无取啍啍。捷捷，贪也；钳钳，乱也；啍啍，诞也。故弓调而后求劲焉，马服而后求良焉，士必嫫而后求智能者焉。不嫫而多能，譬之豺狼不可宥。”

哀公问于孔子曰：“寡人欲吾国小而能守，大则攻。其道如何？”孔子对曰：“使君朝廷有礼，上下相亲，天下百姓皆君之民，将谁攻之？”苟违此道，民畔如归，皆君之仇也，



将与谁守？”

公曰：“善哉！”于是废山泽之禁，弛关市之税，以惠百姓。

哀公问于孔子曰：“吾闻君子不博，有之乎？”孔子曰：“有之。”公曰：“何为？”对曰：“为其有二乘。”公曰：“有二乘则何为不博？”子曰：“为其兼行恶道也。”

哀公惧焉。有间，复问曰：“若是乎，君子恶恶道至甚也。”孔子曰：“君子之恶恶道不甚，则好善道亦不堪；好善道不甚，则百姓亲上亦不甚。《诗》云：‘未见君子，忧心惓惓。亦既见止，亦既覯止，我心则悦。’《诗》之好善道甚也如此！”

公曰：“美哉！”夫君子成人之善，不成人之恶。微吾子言焉，吾弗之闻也。”

哀公问于孔子曰：“夫国家之存亡祸福，信有天命，非唯人也。”孔子对曰：“存亡祸福，皆己而已，天灾地妖，不能加也。”

公曰：“善！吾子之言，岂有其事乎？”孔子曰：“昔者殷王帝辛之世，有雀生大鸟于城隅焉。占之曰：‘凡以小生大，则国家必王而名必昌。’于是帝辛介雀之德，不修国政，亢暴无极，朝臣莫救，外寇乃至，殷国以亡，此即以己逆天时，诡福反为祸者也。又其先世殷王太戊之时，道缺法圯，以致天孽，桑穀于朝，七日大拱。占之者曰：‘桑穀，野木，而不合生朝，意者国亡乎？’太戊恐骇，侧身修行，思先王之政，明养民之道。三年之后，远方慕义，重译至者十有六国。此即以己逆天时，得祸为福者也。故天灾地妖，所以儆人主者也；寤梦征怪，所以儆人臣者也。灾妖不胜善政，寤梦不胜善行。能知此者，至治之极也，唯明王达此。”

公曰：“寡人不鄙固此，亦不得闻君子之教也。”

哀公问于孔子曰：“智者寿乎？仁者寿乎？”孔子对曰：“然。人有三死而非其命也，行己自取也。夫寝处不时，饮食不节，逸劳过度者，疾共杀之。居下位而上干其君，嗜欲无厌而求不止者，刑共杀之。以少犯众，以弱侮强，忿怒不类，动不量力者，兵共杀之。此三者，死非命也，人自取之。若夫智士仁人，将身有节，动静以义，喜怒以时，无害其性，虽得寿焉，不亦可乎？”

卷 二

致思第八

孔子北游于农山，子路、子贡、颜渊侍侧。孔子四望，喟然而叹曰：“于斯致思，无所不至矣。二三子各言尔志，吾将择焉。”

子路进曰：“由愿得白羽若月，赤羽若日，钟鼓之音，上震于天，旌旗缤纷，下蟠于地，由当一队而敌之，必也攘地千里，搴旗执贖，唯由能之。使二子者从我焉。”夫子曰：



“勇哉！”

子贡复进曰：“赐愿使齐楚合战于濮谿之野，两垒相望，尘埃相接，挺刃交兵，赐著缟衣白冠，陈说其间，推论利害，释国之患，唯赐能之。使夫二者从我焉。”夫子曰：“辩哉！”

颜回退而不对。孔子曰：“回，来，汝奚独无愿乎？”颜回对曰：“文武之事，则二子既言之矣，回何云焉？”孔子曰：“虽然，各言尔志也。小子言之。”对曰：“回闻薰莸不同器而藏，尧桀不共国而治，以其类异也。回愿得明王圣主辅相之，敷其五教，导之以礼乐，使民城郭不修，沟池不越，铸剑戟以为农器，放牛马于原藪，室家无离旷之思，千岁无战斗之患。则由无所施其勇，而赐无所用其辩矣。”夫子凛然曰：“美哉德也！”

子路抗手而对曰：“夫子何选焉？”孔子曰：“不伤财，不害民，不繁词，则颜氏之子有矣。”

鲁有俭嗇者，瓦鬲煮食，食之，自谓其美，盛之土型之器，以进孔子。孔子受之，欢然而悦，如受大牢之饗。子路曰：“瓦甗，陋器也；煮食，薄膳也。夫子何喜之如此乎？”子曰：“夫好谏者思其君，食美者念其亲。吾非以饌具之为厚，以其食厚而我思焉。”

孔子之楚，而有渔者而献鱼焉，孔子不受。渔者曰：“天暑市远，无所鬻也，思虑弃之粪壤不如献之君子，故敢以进焉。”于是夫子再拜受之，使弟子扫地，将以享祭。门人曰：“彼将弃之，而夫子以祭之，何也？”孔子曰：“吾闻诸惜其腐馱而欲以务施者，仁人之偶也。恶有受仁人之饗而无祭者乎？”

季羔为卫之士师，别人之足，俄而卫有蒯聩之乱，季羔逃之。走郭门，别者守门焉，谓季羔曰：“彼有缺。”季羔曰：“君子不逾。”又曰：“彼有窞。”季羔曰：“君子不隧。”又曰：“于此有室。”季羔乃入焉。

既而追者罢，季羔将去，谓别者曰：“吾不能亏主之法而亲别子之足矣。今吾在难，此正子之报怨之时，而逃我者三，何故哉？”别者曰：“断足固我之罪，无可奈何。曩者君治臣以法令，先人后臣，欲臣之免也，臣知。狱决罪定，临当论刑，君愀然不乐，见君颜色，臣又知之。君岂私臣哉？天生君子，其道固然。此臣之所以悦君也。”

孔子闻之，曰：“善哉为吏！其用法一也，思仁恕则树德，加严暴则树怨，公以行之，其子羔乎？”

孔子曰：“季孙之赐我粟千钟也，而交益亲。自南宫敬叔之乘我车，而道加行。故道有时而后重，有势而后行。微夫二子之贶财，则丘之道殆将废矣。”

孔子曰：“王者有似乎春秋，文王以王季为父，以太任为母，以太姒为妃，以武王、周公为子，以太颠、闳夭为臣，其本美矣。武王正其身以正其国，正其国以正天下，伐无道，刑有罪，一动而天下正，其事成矣。春秋致其时而万物皆及，王者致其道而万民皆治。周公载已行化而天下顺之，其诚至矣。”

曾子曰：“人是国也，言信于群臣，而留可也；行忠于卿大夫，则仕可也；泽施于百



姓，则富可也。”孔子曰：“参之言此，可谓善安身矣。”

子路为蒲宰，为水备，与其民修沟洫。以民之劳烦苦也，人与之一箪食、一壶浆。孔子闻之，使子贡止之。

子路忿然不悦，往见孔子曰：“由也以暴雨将至，恐有水灾，故与民修沟洫以备之。而民多匪饿，是以箪食壶浆而与之。夫子使赐止之，是夫子止由之行仁也。夫子以仁教而禁其行，由不受也。”孔子曰：“汝以民为饿也，何不白于君，发仓廩以赈之？而私以尔食馈之，是汝明君之无惠而见己之德美矣。汝速已则可，不则汝之见罪必矣。”

子路问于孔子曰：“管仲之为人何如？”子曰：“仁也。”子路曰：“昔管仲说襄公，公不受，是不辩也；欲立公子纠而不能，是不智也；家残于齐而无忧色，是不慈也；桎梏而居槛车，无惭心，是无丑也；事所射之君，是不贞也；召忽死之，管仲不死，是不忠也。仁人之道，固若是乎？”孔子曰：“管仲说襄公，襄公不受，公之暗也；欲立子纠而不能，不遇时也；家残于齐而无忧色，是知权命也；桎梏而无惭心，自裁审也；事所射之君，通于变也；不死子纠，量轻重也。夫子纠未成君，管仲未成臣。管仲才度义，管仲不死束缚而立功名，未可非也；召忽虽死，过与取仁，未足多也。”

孔子适齐，中路闻哭声之声，其音甚哀。孔子谓其仆曰：“此哭哀则哀矣，然非丧者之哀矣。”驱而前，少进，见有异人焉，拥镰带素，哭音不衰。

孔子下车，追而问曰：“子何人也？”对曰：“吾，丘吾子也。”曰：“子今非丧之所，奚哭之悲也？”丘吾子曰：“吾有三失，晚而自觉，悔之何及？”曰：“三失可得闻乎？愿子告吾，无隐也。”丘吾子曰：“吾少时好学，周遍天下，后还，丧吾亲，是一失也；长事齐君，君骄奢失士。臣节不遂，是二失也；吾平生厚交，而今皆离绝，是三失也，夫树欲静而风不停，子欲养而亲不待。往而不来者，年也；不可再见者，亲也。请从此辞！”遂投水而死。

孔子曰：“小子识之！此足为戒矣。”自是弟子辞归养亲者十有三。

孔子谓伯鱼曰：“鲤乎，吾闻可以与人终日不倦者，其唯学焉！其容体不足观也，其勇力不足恃也，其先祖不足称也，其族姓不足道也。终而有大名，以显闻四方，流声后裔者，岂非学之效也？故君子不可以不学，其容不可以不飭。不飭无类，无类失亲，失亲不忠，不忠失礼，失礼不立。夫远而有光者，飭也；近而愈明者，学也。譬之污池，水潦注焉，萑苇生焉，虽或以观之，孰知其源乎？”

子路见于孔子曰：“负重涉远，不择地而休；家贫亲老，不择禄而仕。昔者由也事二亲之时，常食藜藿之实，为亲负米百里之外。亲歿之后，南游于楚，从车百乘，积粟万钟，累茵而坐，列鼎而食，愿欲食藜藿，为亲负米，不可得也。枯鱼衔索，几何不蠹？二亲之寿，忽若过隙。”

孔子曰：“由也事亲，可谓生事尽力，死事尽思者也。”

孔子之郈，遭程子于涂，倾盖而语终日，甚相亲。顾谓子路曰：“取束帛以赠先生。”



子路肩然对曰：“由闻之，士不中间见，女嫁无媒，君子不以交，礼也。”有间，又顾谓子路。子路又对如初。孔子曰：“由，《诗》不云乎：‘有美一人，清扬婉兮。邂逅相遇，适我愿兮。’今程子天下贤士也，于斯不赠，则终身弗能见也。小子行之！”

孔子自卫返鲁，息驾于河梁而观焉。有悬水三十仞，圜流九十里，鱼鳖不能导，鼃鼃不能居，有一丈夫，方将厉之。孔子使人并涯止之，曰：“此悬水三十仞，圜流九十里，鱼鳖鼃鼃不能居也，意者难可济也。”丈夫不以措意，遂渡而出。

孔子问之曰：“子巧乎？有道术乎？所以能人而出者何也？”丈夫对曰：“始吾之人也，先以忠信；及吾之出也，又从以忠信。忠信措吾躯于波流，而吾不敢以用私，所以能入而复出也。”

孔子谓弟子曰：“二三子识之，水且犹可以忠信成身亲之，而况于人乎？”

孔子将行，雨而无盖。门人曰：“商也有之。”孔子曰：“商之为，人，甚吝于财。吾闻与人交，推其长者，违其短者，故能久也。”

楚王渡江，江中有物大如斗，圆而赤，直触王舟，舟人取之。王大怪之，遍问群臣，莫之能识。王使使聘于鲁，问于孔子。子曰：“此所谓萍实者也，可剖而食之，吉祥也，唯霸者为能获焉。”

使者返，王遂食，大美。久之，使来，以告鲁大夫。大夫因子游问曰：“夫子何以知其然乎？”曰：“吾昔之郑，过乎陈之野，闻童谣曰：‘楚王渡江得萍实，大如斗，赤如日，剖而食之甜如蜜。’此是楚王之应也，吾是以知之。”

子贡问于孔子曰：“死者有知乎，将无知乎？”子曰：“吾欲言死之有知，将恐孝子顺孙妨生以送死；吾欲言死之无知，将恐不孝之子弃其亲而不葬。赐欲知死者有知与无知，非今之急，后自知之。”

子贡问治民于孔子。子曰：“懔懔焉若持腐索之扞马。”子贡曰：“何其畏也？”孔子曰：“夫通达御皆人也，以道道之，则吾畜也；不以道导之，则吾仇也。如之何其无畏也？”

鲁国之法，贱人臣妾于诸侯者，皆取金于府。子贡赎之，辞而不取金。孔子闻之曰：“赐失之矣。夫圣人之举事也，可以移风易俗，而教导可以施之于百姓，非独适身之行也。今鲁国富者寡而贫者众，贱人受金，则为不廉，则何以相赎乎？自今以后，鲁人不复赎人于诸侯。”

子路治蒲，请见于孔子曰：“由愿受教于夫子。”子曰：“蒲其何如？”对曰：“邑多壮士，又难治也。”子曰：“然吾语尔，恭而敬，可以摄勇；宽而正，可以怀强；爱而恕，可以容困；温而断，可以抑奸。如此而加之，则正不难矣。”

三恕第九

孔子曰：“君子有三恕。有君不能事，有臣而求其使，非恕也；有亲不能孝，有子而



求其报，非恕也；有兄不能敬，有弟而求其顺，非恕也。士能明于三恕之本。则可谓端身矣。”

孔子曰：“君子有三思，不可不察也。少而不学，长无能也；老而不教，死莫之思也；有而不施，穷莫之救也。故君子少思其长则务学，老思其死则务教，有思其穷则务施。”

伯常骞问于孔子曰：“骞固周国之贱吏也，不自以不肖，将北面以事君子。敢问正道宜行，不容于世；隐道宜行，然亦不忍。今欲身亦不穷，道亦不隐，为之有道乎？”孔子曰：“善哉子之问也！自丘之闻，未有若吾子所问辩且说也。丘尝闻君子之言道矣，听者无察，则道不入；奇伟不稽，则道不信。又尝闻君子之言事矣，制无度量，则事不成；其政晓察，则民不保。又尝闻君子之言志也，斟酌者不终，径易者则数伤，浩倨者不亲，就利者则无不弊。又尝闻养世之君子矣，从轻勿为先，从重勿为后，见像而勿强，陈道而勿拂。此四者，丘之所闻也。”

孔子观于鲁桓公之庙，有欹器焉。夫子问于守庙者曰：“此谓何器？”对曰：“此盖为宥坐之器。”孔子曰：“吾闻有坐之器，虚则欹，中则正，满则覆。明君以为至戒，故常置于坐侧。”顾谓弟子曰：“试注水焉。”乃注之水，中则正，满则覆。夫子喟然叹曰：“呜呼！夫物恶有满而不覆哉？”

子路进曰：“敢问持满有道乎？”子曰：“聪明睿智，守之以愚；功被天下，守之以让；勇力振世，守之以怯，富有四海，守之以谦。此所谓损之又损之道也。”

孔子观于东流之水。子贡问曰：“君子所见大水必观焉，何也？”孔子对曰：“以其不息，且遍与诸生而不为也，夫水有似乎德；其流也，则卑下倨拘必修其理，似义；浩浩乎无屈尽之期，此似道；流行赴百仞之溪而不惧，此似勇；至量必平之，此似法；盛而不求概，此似正；绰约微达，此似察；发源必东，此似志；以出以入，万物就以化洁，此似善化也。水之德有若此，是故君子见必观焉。”

子贡观于鲁庙之北堂，出而问于孔子曰：“向也赐观于太庙之堂，未既辍，还瞻北楹，皆断焉。彼将有说耶？匠过之也？”孔子曰：“太庙之堂，官致良工之匠，匠致良材，尽其功巧，盖贵久矣，尚有说也。”

孔子曰：“吾有所耻，有所鄙，有所殆。夫幼而不能强学，老而无以教，吾耻文；去其乡，事君而达，卒遇故人，曾无旧言，吾鄙之；与小人处而不能亲贤，吾殆之。”

子路见于孔子。孔子曰：“智者若何？仁者若何？”子路对曰：“智者使人知己，仁者使人爱己。”子曰：“可谓士矣。”

子路出，子贡入。问亦如之。子贡对曰：“智者知人，仁者爱人。”子曰：“可谓士矣。”

子贡出，颜回入。问亦如之。对曰：“智者自知，仁者自爱。”子曰：“可谓士君子矣。”

子贡问于孔子曰：“子从父命，孝；臣从君命，贞矣。奚疑焉？”孔子曰：“鄙哉赐！



汝不识也！昔者明王万乘之国，有争臣七人，则主无过举；千乘之国，有争臣五人，则社稷不危也；百乘之家，有争臣三人，则禄位不替；父有争子，不陷无礼；士有争友，不行不义。故子从父命，奚诿为孝？臣从君命，奚诿为贞？夫能审其所从，之谓孝，之谓贞矣。”

子路盛服见于孔子。子曰：“由，是倨倨者何也？夫江始出于岷山，其源可以滥觞；及其至于江津，不舫舟，不避风，则不可以涉。非唯下流水多耶？今尔衣服既盛，颜色充盈，天下且孰肯以非告汝乎？”

子路趋而出，改服而入，盖自若也。子曰：“由，志之！吾告汝：奋于言者华，奋于行者伐。夫色智而有能者，小人也。故君子知之曰智，言之要也；不能曰不能，行之至也。言要见智，行至则仁。既仁且智，恶不足哉？”

子路问于孔子曰：“有人于此，披褐而怀玉，何如？”子曰：“国无道，隐之可也；国有道，则充冕而执玉。”

好生第十

鲁哀公问于孔子曰：“昔者舜冠何冠乎？”孔子不对。公曰：“寡人有问于子，而子无言，何也？”对曰：“以君之问不先其大者，故方思所以对。”公曰：“其大何乎？”孔子曰：“舜之为君也，其政好生而恶杀，其任授贤而替不肖，德若天地而静虚，化若四时而变物。是以四海承风，畅于异类，凤翔麟至，鸟兽驯德。无他也，好生故也。君舍此道而冠冕是问，是以缓对。”

孔子读史，至楚复陈，喟然叹曰：“贤哉楚王！轻千乘之国而重一言之信，匪申叔之信不能达其义，匪庄王之贤不能受其训。”

孔子常自筮，其卦得《贲》焉，愀然有不平之状。子张进曰：“师闻卜者得《贲卦》，吉也。而夫子之色有不平，何也？”孔子对曰：“以其离耶。在《周易》，山下有火谓之《贲》，非正色之卦也。夫质也，黑白宜正焉。今得《贲》，非吾兆也。吾闻丹漆不文，白玉不雕，何也！质有余，不受饰故也。”

孔子曰：“吾于《甘棠》，见宗庙之敬甚矣。思其人，必爱其树，尊其人，必敬其位，道也。”

子路戎服见于孔子，拔剑而舞之，曰：“古之君子，以剑自卫乎？”孔子曰：“古之君子，忠以为质，仁以为卫，不出环堵之室而知千里之外，有不善则以忠化之，侵暴则以仁固之，何持剑乎？”子路曰：“由乃今闻此言。请摄齐以受教。”

楚王出游，亡弓，左右请求之。王曰：“止！楚王失弓，楚人得之，又何求之？”

孔子闻之，曰：“惜乎其不大也，不曰人遗弓，人得之而已，何必楚也？”

孔子为鲁司寇，断狱讼，皆进众议者而问之，曰：“子以为奚若？某以为何若？”皆曰



云云如是，然后夫子曰：“当从某子几是。”

孔子问漆雕凭曰：“子事臧文仲、武仲及孺子容，此三大夫孰贤？”对曰：“臧氏家有守龟焉，名曰蔡。文仲三年而为一兆，武仲三年而为二兆，孺子容三年而为三兆。凭从此之见，若问三人之贤与不贤，所未敢识也。”

孔子曰：“君子哉，漆雕氏之子！其言人之美也，隐而显；言人之过也，微而著。智而不可及，明而不能见，孰克如此？”

鲁公索氏将祭而亡其牲。孔子闻之曰：“公索氏不及二年将亡。”后一年而亡。门人问曰：“昔公索氏亡其祭牲，而夫子曰：‘不及二年必亡。’今过期而亡，夫子何以知其然？”孔子曰：“夫祭者，孝子所以自尽于其亲。将祭而亡其牲，则其余所亡者多矣。若此而不亡者，未之有也。”

虞、芮二国争田而讼，连年不决，乃相谓曰：“西伯仁也，盍往质之？”入其境，则耕者让畔，行者让路。入其朝，士让为大夫，大夫让于卿。虞、芮之君曰：“嘻！吾侪小人也，不可以入君子之朝。”遂自相与而退，咸以所争之田为闲田也。

孔子曰：“以此观之，文王之道，其不可加焉。不令而从，不教而听，至矣哉！”

曾子曰：“狎甚则相简，庄甚则不亲。是故君子之狎足以交欢，其庄足以成礼。”

孔子闻斯言也，曰：“二三子志之！孰谓参也不知礼乎？”

哀公问曰：“绅、委、章甫，有益于仁乎？”孔子作色而对曰：“君胡然焉？衰麻直杖者，志不存乎乐，非耳弗闻，服使然也；黼黻充冕者，容不褻慢，非性矜庄，服使然也；介冑执戈者，无退懦之气，非体纯猛，服使然也。且臣闻之，好肆不守折，而长者不为市。窃夫有益与无益，君子所以知。”

孔子谓子路曰：“见长者而不尽其辞，虽有风雨，吾不能入其门矣。故君子以其所能敬人，小人反是。”

孔子谓子路曰：“君子以心导耳目，立义以为勇；小人以耳目导心，不愆以为勇。故曰退之而不怨，先之斯可从已。”

孔子曰：“君子三患：未之闻，患不得闻；既得闻之，患弗得学；既得学之，患弗能行。有其德而无其言，君子耻之；有其言而无其行，君子耻之；既得之而又失之，君子耻之；地有余，民不足，君子耻之；众寡均而人功倍己焉，君子耻之。”

鲁人有独处者，邻之釐妇亦独处一室。夜，暴风雨至，釐妇室坏，趋而托焉。鲁人闭户而不纳。釐妇自牖与之言：“何不仁而不纳我乎？”鲁人曰：“吾闻男女不六十不同居。今子幼，吾亦幼，是以不敢纳尔也。”

妇人曰：“子何不如柳下惠然？姬不逮门之女，国人不称其乱。”鲁人曰：“柳下惠则可，吾固不可。吾将以吾之不可，学柳下惠之可。”

孔子闻之曰：“善哉！欲学柳下惠者，未有似于此者，期于至善，而不袭其为，可谓智乎！”



孔子曰：“小辩害义，小言破道。《关雎》兴于鸟，而君子美之，取其雌雄之有别；《鹿鸣》兴于兽，而君子大之，取其得食而相呼。若以鸟兽之名嫌之，固不可行也。”

孔子谓子路曰：“君子而不强气，而不得其死；小人不强气，则刑戮荐臻。《豳诗》曰：‘殆天之未阴雨，彻彼桑土，绸缪牖户。今汝下民，或敢侮余。’”孔子曰：“能治国家之如此，虽欲侮之，岂可得乎？周自后稷，积行累功，以有爵土，公刘重之以仁。乃至太王亶甫，敦以德让，其树根置木，备预远矣。初，太王都豳，翟人侵之。事之以皮币，不得免焉；事之以珠玉，不得免焉。于是属耆老而告之：‘所欲吾土地。吾闻之，君子不以所养而害人。二三子何患乎无君？’遂独与太姜去之，逾梁山，邑于岐山之下。豳人曰：‘仁人之君，不可失也。’从之如归市焉。天与之周，民之去殷久矣，若此而不能王天下，未之有也。武庚恶能侮？《邶诗》曰：‘执轡如组，两骖如俦。’”孔子曰：“为此诗者，其知政乎？夫为组者，总紕于此，成文于彼。言其动于近，行于远也。执此法以御民，岂不化乎？《竿旄》之忠告，至矣哉！”

卷 三

观周第十一

孔子谓南宫敬叔曰：“吾闻老聃博古知今，通礼乐之原，明道德之归，则吾帅也。今将往矣。”对曰：“谨受命。”遂言于鲁君曰：“臣受先臣之命云：‘孔子，圣人之后也，灭于宋，其祖弗父何始有国而授厉公，及正考父，佐戴、武、宣，三命兹兹恭，故其鼎铭曰：‘一命而偻，再命而伋，三命而俯，循墙而走，变莫余敢侮。’’”于是，粥于是，以糊其口。”其恭俭也若此。臧孙纥有言，圣人之后，若不当世，则必有明德而达者焉。孔子少而好礼，其将在矣！”属臣曰：“汝必师之！”今孔子将适周，观先王之遗制，孝礼乐之所极，斯大业也。君盍以乘资之？臣请与往。”公曰：“诺。”与孔子车一乘，马二匹，竖子侍御。敬叔与俱至周。

问礼于老聃，访乐于苌弘，历郊社之所，考明堂之则，察庙朝之度。于是喟然曰：“吾乃今知周公之圣与周之所以王也。”

及去周，老子送之曰：“吾闻富贵者送人以财，仁者送人以言。吾虽不能富贵，而窃仁者之号，请送子以言乎：凡当今之世，聪明深察而近于死者，好讥议人者也；博辩闲达而危其身者，好发人之恶者也。无以有己为人子者，无以恶己为人臣者。”孔子曰：“敬奉教。”自周反鲁，道弥尊矣。远方弟子之进，盖三千焉。

孔子观乎明堂，睹四门墉有尧舜之容、桀纣之象，而各有善恶之状、兴废之诫焉。又有周公相成王，抱之负斧扆南面以朝诸侯之图焉。孔子徘徊而望之，谓从者曰：“此周之



所以盛也。夫明镜所以察形，往古者所以知今。人主不务衰迹于其所以安存，而忽怠所以危亡，是犹未有以异于却走而欲求及前人也，岂不惑哉？”

孔子观周，遂入太祖后稷之庙。庙堂右阶之前有金人焉，三缄其口，而铭其背曰：“古之慎言人也。戒之哉！无多言，多言多败；无多事，多事多患。安乐必戒，无所行悔。勿谓何伤，其祸将长；勿谓何害，其祸将大；勿谓不闻，神将伺人，焰焰不灭，炎炎若何；涓涓不壅，终为江河；绵绵不绝，或成网罗；毫末不札，将寻斧柯。诚能慎之，福之根也；口是何伤？祸之门也。强梁者不得其死，好胜者必遇其敌。盗憎主人，民怨其上。君子知天下之不可上也，故下之；知众人之不可先也，故后之。温恭慎德，使人慕之；执雌持下，人莫逾之；人皆趋彼，我独守此；人皆或之，我独不徙；内藏我智，不示人技；我虽尊高，人弗我害。谁能于此？江海虽左，长于百川，以其卑也；天道无亲，而能下人。戒之哉！”

孔子既读斯文也，顾谓弟子曰：“小人识之！此言实而中，情而信。《诗》曰：‘战战兢兢，如临深渊，如履薄冰。’行身如此，岂以口过患哉！”

孙子见老聃而问焉，曰：“甚矣，道之于今难行也。吾比执道，而今委质以求当世之君，而弗受也。道于今难行也。”老子曰：“夫说者流于辩，听者乱于辞。如此二者，则道不可以忘也。”

弟子行第十二

卫将军文子问于子贡曰：“吾闻孔子之施教也，先之以《诗》、《书》，而道之以孝悌，说之以仁义，观之以礼乐，然后成之以文德。盖入室升堂者七十有余人，其孰为贤？”子贡对以不知。

文子曰：“以吾子常与学，贤者也，不知何谓？”子贡对曰：“贤人无妄，知贤即难，故君子之言曰：‘智莫难于知人。’是以难对也。”

文子曰：“若夫知贤，莫不难。今吾子亲游焉，是以敢问。”子贡曰：“夫子之门人，盖有三千就焉。赐有逮及焉。未逮及焉，故不得遍知以告也。”

文子曰：“吾子所及者，请问其行。”子贡对曰：“夫能夙兴夜寐，讽诵崇礼，行不贰过，称言不苟，是颜回之行也。孔子说之以《诗》曰‘媚兹一人，应侯慎德。’‘永言孝思，孝思惟则。’若逢有德之君，世受显命，不失厥名；以御于天子，则王者之相也。

“在贫如客，使其臣如借，不迁怒，不深怨，不录旧罪，是冉雍之行也。孔子论其材曰：‘有土之君子也，有众使也，有刑用也，然后称怒焉。’孔子告之以《诗》曰：‘靡不有初，鲜克有终。’匹夫不怒，唯以亡其身。

“不畏强御，不侮矜寡，其言循性，其都以富，材任治戎，是仲由之行也。孔子和之以文，说之以《诗》曰：‘受小拱大拱，而为下国骏庞。荷天子之龙’，‘不愆不慄’，‘敷



奏其勇’。强乎武哉！文不胜其质。

“恭老恤幼，不忘宾旅，好学博艺，省物而勤也，是冉求之行也。孔子因而语之曰：‘好学则智，恤孤则惠，恭则近礼，勤则有继。尧舜笃恭，以王天下。’其称之也曰：‘宜为国老。’

“齐庄而能肃，志通而好礼，接相两君之事，笃雅有节，是公西赤之行也。子曰：‘礼经三百，可勉能也；威仪三千，则难也。’公西赤问曰：‘何谓也？’子曰：‘貌以饬礼，礼以饬辞，是谓难焉。’众人闻之，以为成也。孔子语人曰：‘当宾客之事则达矣。’谓门人曰：‘二三子之欲学宾客之礼者，其于赤也。’

“满而不盈，实而如虚，过之如不及，先王难之；博无不学，其貌恭，其德敦；其言于人也，无所不信；其骄大人也，常以浩浩。是以眉寿。是曾参之行也。孔子曰：‘孝，德之始也；悌，德之序也；信，德之厚也；忠，德之正也。参中夫四德者也。’以此称之。

“美功不伐，贵位不善，不侮不佚，不傲无告，是顓孙师之行也。孔子言之曰：‘其不伐则犹可能也，其不弊百姓则仁也。《诗》云：‘恺悌君子，民之父母。’夫子以其仁为大。

“学之深，送迎必敬，上交下接若截焉，是卜商之行也。孔子说之以《诗》曰：‘式夷式已，无小人殆。’若商也，其可谓不险矣。

“贵之不喜，贱之不怒，苟利于民矣，廉于律己，其事上也，以佑其下，是澹台灭明之行也。孔子曰：‘独贵独富，君子耻之，夫也中之矣。’

“先成其虑，及事而用之，故动则不妄，是言偃之行也。孔子曰：‘欲能则学，欲知则问，欲善则详，欲给则豫，当是而行，偃也得之矣。’

“独居思仁，公言仁义，其于《诗》也，则一日三复‘白圭之玷’，是宫绍之行也。孔子信其能仁，以为异士。

“自见孔子，出入于户，未尝越礼；往来过之，足不履影；启蛰不杀，方长不折；执亲之丧，未尝见齿。是高柴之行也。孔子曰：‘柴于亲丧，则难能也；启蛰不杀，则顺人道；方长不折，则恕仁也。成汤恭而以恕，是以日昃。’

“凡此诸子，赐之所亲睹者也。吾子有命而讯赐，赐也固，不足以知贤。”

文子曰：“吾闻之也，国有道则贤人兴焉，中人用焉，乃百姓归之。若吾子之论，既富茂矣，壹诸侯之相也，抑末世未有明君，所以不遇也。”

子贡既与卫将军文子言，适鲁，见孔子曰：“卫将军文子问二三子之于赐，不壹而三焉。赐也辞不获命，以所见者对矣。未知中否，请以告。”

孔子曰：“言之乎。”子贡以其辞状告孔子。子闻而笑曰：“赐，汝次为人矣。”子贡对曰：“赐也何敢知人，此以赐之所睹也。”

孔子曰：“然。吾亦语汝耳之所未闻，目之所未见者，岂思之所不至，智之所未及哉？”子贡曰：“赐愿得闻之。”

孔子曰：“不克不忌，不念旧怨，盖伯夷、叔齐之行也。思天而敬人，服义而行信，



孝于父母，恭于兄弟，从善而不教，盖赵文子之行也。其君也，不敢爱其死，然亦不敢忘其身，谋其身不遗其友，君陈则进而用之，不陈则行而退，盖随武子之行也。其为人之渊源也，多闻而难诞，内植足以没其世，国家有道，其言足以治，无道，其默足以生，盖铜鞮伯华之行也。外宽而内正，自极于隐括之中，直己而不直人，汲汲于仁，以善自终，盖蘧伯玉之行也。孝恭慈仁，允德图义，约货去怨，轻财不匮，盖柳下惠之行也。其言曰：‘君虽不量于其身，臣不可以不忠于其君。是故君择臣而任之，臣亦择君而事之。有道顺命，无道衡命。盖晏平仲之行也。蹈忠而行信，终日言，不在尤之内，国无道，处贱不闷，贫而能乐，盖老子之行也。易行以俟天命，居下不援其上，其观于四方也，不忘其亲，不尽其乐，以不能则学，不为己终身之忧，盖介子山之行也。’

子贡曰：“敢问夫子之所知者，盖尽于此而已乎？”孔子曰：“何谓其然？亦略举耳目之所及而矣。昔晋平公问祁奚曰：‘羊舌大夫，晋之良大夫也。其行如何？’祁奚辞以不知。公曰：‘吾闻子少长乎其所。今子掩之，何也？’祁奚对曰：‘其少也，恭而顺，心有耻而不使其过宿；其为大夫，悉善而谦其端；其为舆尉也，信而好直其功；至于其为容也，温良而好礼，博闻而时出其志。’公曰：‘曩者问子，子奚曰不知也？’祁奚曰：‘每位改变，未知所止，是以不敢得知也。此又羊舌大夫之行也。’”

子贡跪曰：“请退而记之。”

贤君第十三

哀公问于孔子曰：“当今之君，孰为最贤？”孔子对曰：“丘未之见也。抑有卫灵公乎？”

公曰：“吾闻其闺门之内无别，而子次之贤，何也？”孔子曰：“臣语其朝廷行事，不论其私家之际也。”

公曰：“其事何如？”孔子对曰：“灵公之弟曰公子渠牟，其智足以治千乘，其信足以守之。灵公爱而任之。又有士林国者，见贤必进之，而退与分其禄，是以灵公无游放之士。灵公贤而尊之。又有士曰庆足者，卫国有大事，则必起而治之；国无事，则退而容贤。灵公悦而敬之。又有大夫史鳅，以道去卫，而灵公郊舍三日，琴瑟不御，必待史鳅之人而后敢入。臣以此取之。虽次之贤，不亦可乎？”

子贡问于孔子曰：“今之人臣，孰为贤？”孔子曰：“吾未识也。往者齐有鲍叔，郑有子皮，则贤者矣。”

子贡曰：“齐无管仲，郑无子产？”子曰：“赐，汝徒知其一，未知其二也。汝闻用力为贤乎，进贤为贤乎？”子贡曰：“进贤贤哉！”子曰：“然。吾闻鲍叔达管仲，子皮达子产，未闻二子之达贤己之才者也。”

哀公问于孔子曰：“寡人闻忘之甚者，徙而忘其妻，有诸？”孔子对曰：“此犹未甚者



也。甚者乃忘其身。”

公曰：“可得而闻乎？”孔子曰：“昔者夏桀贵为天子，富有四海，忘其圣祖之道，坏其典法，废其世祀，荒于淫乐，耽溺于酒；佞臣谄谀，窥导其心；忠士折口，逃罪不言。天下诛桀而有其国。此谓忘其身之甚矣。”

颜渊将西游于宋，问于孔子曰：“何以为身？”子曰：“恭敬忠信而已矣。恭则远于患，敬则人爱之，忠则和于众，信则人任之。勤斯四者，可以治国，岂特一身者哉？故夫不比于数而比于疏，不亦远乎？不修其中而修外者，不亦反乎？虑其先定，临事而谋，不亦晚乎？”

孔子读《诗》，于《正月》六章，惕焉如惧，曰：“彼不达之君子，岂不殆哉！从上依世则道废；违上离俗则身危。时不兴善，己独由之，则曰非妖即妄也。故贤也既不遇天，恐不终其命焉。桀杀龙逢，纣杀比干，皆类是也。《诗》曰：‘谓天盖高，不敢不局。谓地盖厚，不敢不跼。’此言上下畏罪，无所自容也。”

子路问于孔子曰：“贤君治国，所先者何？”孔子曰：“在于尊贤而贱不肖。”子路曰：“由闻晋中行氏尊贤而贱不肖矣，其亡何也？”孔子曰：“中行氏尊贤而不能用，贱不肖而不能去。贤者知其不用而怨之，不肖者知其必己贱而仇之。怨仇并存于国，邻敌搆兵于郊，中行氏虽欲无亡，岂可得乎？”

孔子闲处，喟然而叹曰：“向使铜鞮伯华无死，则天下其有定矣！”子路曰：“由愿闻其人也。”子曰：“其幼也，敏而好学；其壮也，有勇而不屈；其老也，有道而能下人。有此三者，以定天下也，何难乎哉？”

子路曰：“幼而好学，壮而有勇则可也，若夫有道下人，又谁下哉？”子曰：“由不知。吾闻以众攻寡，无不克也；以贵下贱，无不得也。昔者周公居冢宰之尊，制天下之政，而犹下白屋之士，日见百七十人。斯岂以无道也？欲得士之用也。恶有道而无下天下君子哉？”

齐景公来适鲁，舍于公馆，使晏婴迎孔子。孔子至，景公问政焉。孔子答曰：“政在节财。”

公悦，又问曰：“秦穆公國小处僻而霸，何也？”孔子曰：“其国虽小，其志大；处虽僻而政其中。其举也果，其谋也和，法无私而令不愉。首拔五羖，爵之大夫，与语三日而授之以政。以此取之，虽王可，其霸少矣。”景公曰：“善哉！”

哀公问政于孔子。孔子对曰：“政之急者莫大乎使民富且寿也。”公曰：“为之奈何？”孔子曰：“省力役，薄赋敛，则民富矣；敦礼教，远罪疾，则民寿矣。”公曰：“寡人欲行夫子之言，恐吾国贫矣。”孔子曰：“《诗》云：‘恺悌君子，民之父母。’未有子富而父母贫者也。”

卫灵公问于孔子曰：“有语寡人：‘有国家者，计之于庙堂之上，则政治矣。’何如？”孔子曰：“其可也。爱人者则人爱之，恶人者则人恶之。知得之己者，则知得之人。所谓



不出环堵之室，而知天下者，知反己之谓也。”

孔子见宋君。君问孔子曰：“吾欲使长有国而列都得之，吾欲使民无惑，吾欲使士竭力，吾欲使日月当时，吾欲使圣人自来，吾欲使官府治理，为之奈何？”孔子对曰：“千乘之君问丘者多矣，而未有若主君之问问之悉也。然主君所欲者尽可得也。丘闻之，邻国相亲，则长有国；君惠臣忠，则列都得之；不杀辜，无释罪人，则民不惑；士益之禄，则皆竭力；尊天敬鬼，则日月当时；崇道贵德，则圣人自来；任能黜否，则官府治理。”

宋君曰：“善哉！岂不然乎？寡人不佞，不足以治之也。”孔子曰：“此事非难，唯欲行之云耳。”

辩政第十四

子贡问于孔子曰：“昔者齐君问政于夫子，夫子曰‘政在节财’；鲁君问政于夫子，子曰‘政在谏臣’；叶公问政于夫子，夫子曰‘政在悦近来远’。三者之问一也，而夫子应之不同。然政在异端乎？”孔子曰：“各因其事也。齐君为国，奢乎台榭，淫于苑囿，五官伎乐，不解于时，一旦而赐人以千乘之家者三，故曰‘政在节财’；鲁君有臣三人，内比周以愚其君，外距诸侯之宾以蔽其明，故曰‘政在谏臣’；大荆之地广而都狭，民有离心，莫安其居，故曰‘政在悦近来远’。此三者所以为政殊矣。《诗》云：‘丧乱蔑资，曾不惠我师！’此伤奢侈不节以为乱者也。又曰：‘匪其止共，惟王之邛。’此伤奸臣蔽主以为乱也。又曰：‘乱离瘼矣，奚其适归？’此伤离散以为乱者也。察此三者，政之所欲，岂同乎哉？”

孔子曰：“忠臣之谏君，有五义焉：一曰谏，二曰谏，三曰降谏，四曰直谏，五曰风谏。唯度主而行之，吾从其风谏乎！”

子曰：“夫道不可不贵也，中行文子倍道失义以亡其国，而能礼贤以活其身。圣人转祸为福，此谓是与！”

楚王将游荆台，司马子祺谏，王怒之。令尹子西贺于殿下，谏曰：“今荆台之观，不可失也。”王喜，拊子西之背曰：“与子共乐之矣。”

子西步马十里，引辔而止，曰：“臣愿言有道，王肯听之乎？”王曰：“子其言之。”子西曰：“臣闻为人臣而忠其君者，爵禄不足以赏也；谀其君者，刑罚不足以诛也。夫子祺者，忠臣也；而臣者，谀臣也。愿王赏忠而诛谀焉。”

王曰：“我今听司马之谏，是独能禁我耳。若后世游之何也？”子西曰：“禁后世易耳。大王万岁之后，起山陵于荆台之上，则子孙必不忍游于父祖之墓以为欢乐也。”王曰：“善！”乃还。

孔子闻之，曰：“至哉，子西之谏也！人之于千里之上，抑之于百世之后者也。”

子贡问于孔子曰：“夫子之于子产、晏子，可为至矣。敢问二大夫之所为目，夫子之



所以与之者。”孔子曰：“夫子产于民为惠主，于学为博物。晏子于君为忠臣，而行为恭敏。故吾皆以兄事之，而加爱敬。”

齐有一足之鸟，飞集于宫朝，下止于殿前，舒翅而跳。齐侯大怪之，使使聘鲁问孔子。孔子曰：“此鸟名曰商羊，水祥也。昔童儿有屈其一脚，振讯两眉而跳，且谣曰：‘天将大雨，商羊鼓舞。’今齐有之，其应至矣。急告民趋治沟渠，修堤防，将有大水为灾。”

顷之，大霖雨，水溢泛诸国，伤害民人，唯齐有备不败。景公曰：“圣人之言，信而征矣。”

孔子谓宓子贱曰：“子治单父，众悦。子何施而得之也？子语丘所以为之者。”对曰：“不齐之治也，父恤其子，其子恤诸孤而哀丧纪。”

孔子曰：“善。小节也，小民附矣，犹未足也。”曰：“不齐所父事者三人，所兄事者五人，所友事者十一人。”

孔子曰：“父事三人，可以教孝矣；兄事五人，可以教悌矣；友事十一人，可以举善矣。中节也，中人附矣，犹未足也。”曰：“此地有贤于不齐者五人，不齐事之而慕度焉，皆教不齐之道。”

孔子叹曰：“其大者乃于此乎有矣！昔尧舜听天下，各求贤以自辅。夫贤者，百福之宗也，神明之主也。惜乎不齐之以所治者小也。”

子贡为信阳宰，将行，辞于孔子。孔子曰：“勤之慎之，奉天子之时，无夺无伐，无暴无盗”子贡曰：“赐也少而事君子，岂以盗为累哉？”

孔子曰：“汝未之详也。夫以贤代贤，是谓之夺；以不肖代贤，是谓之伐；缓令急诛，是谓之暴；取善自与，谓之盗。盗非窃财之谓也。吾闻之，知为吏者，奉法以利民；不知为吏者，枉法以侵民。此怨之所由生也。治官莫若平，临财莫如廉。廉平之守，不可改也。匿人之善，斯谓蔽贤；扬人之恶，斯为小人。内不相训而外相谤，非亲睦也。言人之善，若己有之；言人之恶，若己受之。故君子无所不慎焉。”

子路治蒲三年，孔子过之，入其境，曰：“善哉！由也恭敬以信矣。”入其邑，曰：“善哉！由也忠信以宽矣。”至庭，曰：“善哉！由也明察以断矣。”

子贡执轡而问曰：“夫子未见由之政，而三称其善，其善可得闻乎？”孔子曰：“吾见其政矣。入其境，田畴尽易，草莱甚辟，沟渎深治，此其恭敬以信，故其民尽力也。入其邑，墙屋完固，树木甚茂，此其忠信以宽，故其民不偷也。至其庭，庭其清闲，诸下用命，此其言明察以断，故其政不扰也。以此观之，虽三称其善，庸尽其美乎？”



卷 四

六本第十五

孔子曰：“行己有六本焉，然后为君子也。立身有义矣，而孝为本；丧纪有礼矣，而哀为本；战阵有列矣，而勇为本；治政有理矣，而农为本；居国有道矣，而嗣为本；生财有时矣，而力为本。置本不固，无务农桑；亲戚不悦，无务外交；事不终始，无务多业；记闻而言，无务多说；比近不安，无务求远。是故反本求迹，君子之道也。”

孔子曰：“良药苦于口而利于病，忠言逆于耳而利于行。汤武以谏谏而昌，桀纣以唯唯而亡。君无争臣，父无争子，兄无争弟，士无争友，无其过者，未之有也。故曰君失之，臣得之；父失之，子得之；兄失之，弟得之；己失之，友得之。是以国无危亡之兆，家无悖乱之恶，父子兄弟无失，而交友无绝也。”

孔子见齐景公，公悦焉，请置康丘之邑以为养，孔子辞而不受。人谓弟子曰：“吾闻君子当功受赏。今吾言于齐君，君未之有行，而赐吾邑，其不知丘亦甚矣。”于是遂行。

孔子在齐，舍于外馆，景公造焉。宾主之辞既接，而左右白曰：“周使适至，言先王庙灾。”景公复问：“灾何王之庙也？”孔子曰：“此必釐王之庙。”

公曰：“何以知之？”孔子曰：“《诗》云：‘皇皇上天，其命不忒。天之以善，必报其德。’祸亦如之。夫釐王变文武之制，而作玄黄华丽之饰，宫室崇峻，舆马奢侈，弗可振也，故天殃所宜加其庙焉。以是占之以为然。”公曰：“天何不殃其身而加罚其庙也？”孔子曰：“盖以文武故也。若殃其身，则文武之嗣无乃殄乎？故当殃其庙以彰其过。”

俄顷，左右报曰：“所灾者，釐王庙也。”景公惊起，再拜曰：“善哉！圣人之智，过人远矣。”

子夏三年之丧毕，见于孔子。子曰：“与之琴，使之弦。”侃侃而乐，作而曰：“先王制礼，不敢不及。”子曰：“君子也！”

闵子三年之丧毕，见于孔子。孔子与之琴，使之弦。切切而悲，作而曰：“先王制礼，弗敢过也。”子曰：“君子也！”

子贡曰：“闵子哀未忘，夫子曰‘君子也’；子夏哀已尽，又曰‘君子也’。二者殊情而俱曰君子，赐也或，敢问之。”孔子曰：“闵子哀未忘，能断之以礼；子夏哀已尽，能引之及礼。虽均之君子，不亦可乎？”

孔子曰：“无体之礼，敬也；无服之丧，哀也；无声之乐，欢也。不言而信，不动而威，不施而仁，志。夫钟之音，怒而击之则武，忧而击之则悲。其志变者，声亦随之。故志诚感之，通于金石，而况人乎？”



孔子见罗雀者所得皆黄口小雀。夫子问之曰：“大雀独不得，何也？”罗者曰：“大雀善惊而难得。黄口从大雀则不得，大雀从黄口亦不得。”

孔子顾谓弟子曰：“善惊以远害，利食而忘患，自其心矣，而以所从为祸福。故君子慎其所从。以长者之虑，则有全身之阶；随小者之慧，而有危亡之败也。”

孔子读《易》，至于《损》、《益》，喟然而叹。子夏避席问曰：“夫子何叹焉？”孔子曰：“夫自损者必有益之，自益者必有决之，吾是以叹也。”

子夏曰：“然则学者不可以益乎？”子曰：“非道益之谓也。道弥益而身弥损。夫学者损其自多，以虚受人，故能成其满。博哉天道，成而必变，凡持满而能久者，未尝有也。故曰，自贤者，天下之善言不得闻于耳矣。昔尧治天下之位，犹允恭以持之，克让以接下，是以千岁而益盛，迄今而逾彰。夏桀、昆吾自满而极，亢意而不节，斩刈黎民如草芥焉，天下讨之，如诛匹夫，是以千载而恶著，迄今而不灭。观此，如行，则让长不疾先；如在舆，遇三人则下，遇二人则式之。调其盈虚，不令自满，所以能久也。”

子夏曰：“商请志之，而终身奉行焉。”

子路问于孔子曰：“请释古之道而行由之意，可乎？”子曰：“不可。昔东夷之子慕诸夏之礼，有女而寡，为内私媾，终身不嫁。不嫁则不嫁矣，亦非贞节之义也。苍梧婉娶妻而美，让与其兄。让则让矣，然非礼之让矣。不慎其初，而悔其后，何嗟及矣？今汝欲舍古之道，行子之意，庸知子意不以为非，以非为是乎？虽欲悔，难哉！”

曾子耘瓜，误斩其根。曾皙怒，建大杖以击其背。曾子仆地而不知人，久之。有顷乃苏，欣然而起，进于曾皙曰：“向也参得罪于大人，大人用力教参，得无疾乎？”退而就房，援琴而歌，欲令曾皙而闻之，知其体康也。孔子闻之而怒，告门弟子曰：“参来，勿内。”

曾参自以为无罪，使人请于孔子。子曰：“汝不闻乎，昔瞽瞍有子曰舜，舜之事瞽瞍，欲使之，未尝不在于侧；索而杀之，未尝可得。小桎则待过，大杖则逃走。故瞽瞍不犯不父之罪，而舜不失蒸蒸之孝。今参事父，委身以待暴怒，殄而不避。既身死而陷父于不义，其不孝孰大焉？汝非天子之民也，杀天子之民，其罪奚若？”

曾参闻之，曰：“参罪大矣。”遂造孔子而谢过。

荆公子行年十五而摄荆相事。孔子闻之，使人往观其为政焉。使者反曰：“视其朝，清静而少事，其堂上有五老焉，其廊下有二十壮士焉。”孔子曰：“合二十五人之智，以治天下，其固免矣，况荆乎？”

子夏问于孔子曰：“颜回之为人奚若？”子曰：“回之信贤于丘。”曰：“子贡之为人奚若？”子曰：“赐之敏贤于丘。”曰：“子路之为人奚若？”子曰：“由之勇贤于丘。”曰：“子张之为人奚若？”子曰：“师之庄贤于丘。”

子夏避席而问曰：“然则四子何为事先生？”子曰：“居，吾语汝。夫回能信而不能反，赐能敏而不能诘，由能勇而不能怯，师能庄而不能同。兼四子者之有以易吾，弗与也。此



其所以事吾而弗贰也。”

孔子游于泰山，见荣声期行乎郕之野，鹿裘带索，鼓瑟而歌。孔子问曰：“先生所以为乐者，何也？”期对曰：“吾乐甚多，而至者三。天生万物，唯人为贵。吾既得为人，是一乐也。男女之别，男尊女卑，故人以男为贵。吾既得为男，是二乐也。人生有不见日月，不免襁褓者。吾既以行年九十五矣，是三乐也。贫者，士之常；死者，人之终。处常得终，当何忧哉？”孔子曰：“善哉！能自宽者也。”

孔子曰：“回有君子之道四焉：强于行义，弱于受谏，休于待禄，慎于治身。史籀有君子之道三焉：不仕而敬上，不祀而敬鬼，直己而曲人。”曾子侍，曰：“参昔常闻夫子三言，而末之能行也。夫子见人之一善，而忘其百非，是夫子之易事也；见人之有善，若己有之，是夫子之不争也；闻善必躬行之，然后导之，是夫子之能劳也。学夫子之三言，而未能行，以自知终不及二子者也。”

孔子曰：“吾死之后，则商也日益，赐也日损。”曾子曰：“何谓也？”子曰：“商也好与贤己者处，赐也好说不若己者。不知其子，视其父；不知其人，视其友；不知其君，视其所使；不知其地，视其草木。故曰，与善人居，如入芝兰之室，久而不闻其香，即与之化矣；与不善人居，如入鲍鱼之肆，久而不闻其臭，亦与之化矣。丹之所藏者赤，漆之所藏者黑。是以君子必慎其所与处者焉。”

曾子从孔子之齐，齐景公以下卿之礼聘曾子，曾子固辞。将行，晏子送之曰：“吾闻之，君子遗人以财，不若善言。今夫兰本三年，湛之以鹿醢，既成噍之，则易之匹马。非兰之本性也，所以湛者美矣。愿子详其所湛者。夫君子居必择处，游必择方，仕必择君。择君所以求仕，择方所以修道。迁风移俗者，嗜欲移性，可不慎乎？”

孔子闻之曰：“晏子之言，君子哉！依贤者固不困，依富者固不穷。马蚊斩足而复行，何也？以其辅之者众。”

孔子曰：“以富贵而下人，何人不尊？以富贵而爱人，何人不亲？发言不逆，可谓知言矣；言而众向之，可谓知时矣。是故以富而能富人者，欲贫不可得也；以贵而能贵人者，欲贱不可得也；以达而能达人者，欲穷不可得也。”

孔子曰：“中人之情也，有余则侈，不足则俭，无禁则淫，无度则逸，从欲则败。是故鞭扑之子，不从父之教，刑戮之民，不从君子令。此言疾之难忍，急之难行也。故君子不急断，不急制，使饮食有量，衣服有节，宫室有度，畜积有数，车器有限，所以防乱之原也。夫度量不可不明，是中人所由之令。”

孔子曰：“巧而好度必攻，勇而好问必胜，智而好谋必成。以愚者反之。是以非其人，告之弗听；非其地，树之弗生。得其人，如聚砂而雨之；非其人，如会聋而鼓之。夫处重擅宠，专事妒贤，愚者之情也。位高则危，任重则崩，可立而待。”

孔子曰：“舟非水不行，水入舟则没；君非民不治，民犯上则倾。是故君子不可不严也，小人不可不整一也。”



齐高庭问于孔子曰：“庭不旷山，不直地，衣穰而提赞，精气以问事君子之道，愿夫子告之。”孔子曰：“贞以干之，敬以辅之，施仁无倦，见君子则举之，见小人则退之，去汝恶心，而忠与之，效其行，修其礼，千里之外，亲如兄弟。行不效，礼不修，则对门不汝通知。夫终日言，不遗己之忧；终日行，不遗己之患。唯智者能之。故自修者，必恐惧以除患，恭俭以避难者也。终日为善，一言则败之，可不慎乎？”

辩物第十六

季桓子穿井，获如土缶，其中有羊焉。使使问孔子曰：“吾穿井于费，而于井中得一狗，何也？”孔子曰：“丘之所闻者，羊也。丘闻之，木石之怪，夔、罔、蛭；水之怪，龙、罔象；土之怪，羝羊也。”

吴伐越，躒会稽，获巨骨一节，专车焉。吴子使来聘于鲁，且问之孔子，命使者曰：“无以吾命也。”宾既将事，乃发币于大夫，及孔子，孔子爵之。

既彻俎而燕，客执骨而问曰：“敢问骨何如为大？”孔子曰：“丘闻之，昔禹致群臣于会稽之山，防风后至，禹杀而戮之，其骨专车焉。此为大矣。”

客曰：“敢问谁守为神？”孔子曰：“山川之灵，足以纪纲天下者，其守为神。诸侯社稷之守为公侯，山川之祀者为诸侯，皆属于王。”

客曰：“防风氏何守？”孔子曰：“汪芒氏之君，守封嵎山者，为漆姓，在虞夏为防风氏，商为汪芒氏，于周为长翟氏，今曰大人。”

有客曰：“人长之极几何？”孔子曰：“焦侥氏长三尺，短之至也。长者不过十，数之极也。”

孔子在陈，陈惠公宾之于上馆。时有隼集陈侯之庭而死，楷矢贯之，石砮，其长尺有咫。惠公使人持隼，如孔子馆而问焉。孔子曰：“隼之来远矣。此肃慎氏之矢。昔武王克商，通道于九夷百蛮，使各以其方贿来贡，而不忘职业。于是肃慎氏贡楷矢、石砮，其长尺有咫。先王欲昭其令德之致远物也，以示后人，使永鉴焉，故铭其牓曰‘肃慎氏贡楷矢’，以分大姬，配胡公而封诸陈。古者分同姓以珍玉，所以展亲亲也；分异姓以远方之职贡，所以无忘服也。故分陈以肃慎氏贡焉。君若使有司求诸故府，其可得也。”公使人求，得之金牒，如之。

邾子朝鲁，鲁人问曰：“少昊氏以鸟名官，何也？”对曰：“吾祖也，我知之。昔黄帝以云纪官，故为云师而云名。炎帝以火，共工以水，大昊以龙，其义一也。我高祖少昊摯之立也，凤鸟适至，是以纪之于鸟，故为鸟师而鸟名。自颛顼氏以来，不能纪远，乃纪于近，为民师而命以民事，则不能故也。”

孔子闻之，遂见邾子而学焉。既而告人曰：“吾闻之，天子失官，学在四夷。犹信。”

邾隐公朝于鲁，子贡观焉。邾子执玉高，其容仰；定公受玉卑，其容俯。子贡曰：



“以礼观之，二君者将有死亡焉！夫礼，生死存亡之体。将左右、周旋，进退、俯仰，于是乎取之；朝、祀、丧、戎，于是乎观之。今正月相朝，而皆不度，心以亡矣。嘉事不体，何以能久？高、仰，骄；卑、俯，替。骄近乱，替近疾。君为主，其先亡乎！”

夏五月，公薨，又邾子出奔。孔子曰：“赐不幸而言中，是赐多言。”

孔子在陈，陈侯就之燕游焉。行路之人云：“鲁司铎灾，及宗庙。”以告孔子。子曰：“所及者其桓、僖之庙。”

陈侯曰：“何以知之？”子曰：“礼，祖有功而宗有德，故不毁其庙焉。今桓、僖之亲尽矣，又功德不足以存其庙，而鲁不毁，是以天灾加之。”

三日，鲁使至。问焉，则桓、僖也。陈侯谓子贡曰：“吾乃今知圣人之可贵。”对曰：“君今知之，可矣，未若专其道而行其化之善也。”

阳虎既奔齐，自齐奔晋，适赵氏。孔子闻之，谓子路曰：“赵氏其世有乱乎！”子路曰：“权不在焉，岂能为乱？”孔子曰：“非汝所知。夫阳虎亲富而不亲仁，有宠于季孙，又将杀之，不克而奔，求容于齐；齐人囚之，乃亡归晋。是齐、鲁二国已去其疾。赵简子好利而多信，必溺其说而从其谋。祸败所终，非一世可知也。”

季康子问于孔子曰：“今周十二月，夏之十月，而犹有蠡，何也？”孔子对曰：“丘闻之，火伏而后蛰者毕。今火犹西流，司历过也。”

季康子曰：“所失者几月也？”孔子曰：“于夏十月，火既没矣，今火见，再失闰也。”

吴王夫差将与哀公见晋侯。子服景伯对使者曰：“王合诸侯，则伯率侯牧以见于王；伯合诸侯，则侯率子、男以见于伯。今诸侯会，而君与寡君见晋君，则晋成为伯也。且执事以伯召诸侯，而以侯终之，何利之有焉？”吴人乃止。既而悔之，遂囚景伯。

伯谓太宰嚭曰：“鲁将以十月上辛有事于上帝、先王，季辛而毕，何也？世有职焉，自襄已来未之改。若其不会，则祝宗将曰‘吴实然’”。嚭言于夫差，归之。

子贡闻之，见于孔子曰：“子服氏之子拙于说矣，以实获囚，以诈得免。”孔子曰：“吴子为夷德，可欺而不可以实。是听者之蔽，非说者之拙也。”

叔孙氏之车士曰子祖商，采薪于大野，获麟焉，折其前左足，载以归。叔孙以为不祥，弃之于郭外，使人告孔子曰：“有麋而角者，何也？”孔子往视之，曰：“麟也。胡为来哉？胡为来哉？”反袂拭面，涕泣沾衿。叔孙闻之，然后取之。

子贡问曰：“夫子何泣尔？”孔子曰：“麟之至，为明王也。出非其时而害，吾是以伤焉。”

哀公问政第十七

哀公问政于孔子。孔子对曰：“文武之政，布在方策。其人存，则其政举；其人亡，则其政息。天道敏生，人道敏政，地道敏树。夫政者，犹蒲卢也，待化以成。故为政在于



得人。取人以身，修道以仁。仁者，人也，亲亲为大；义者，宜也，尊贤为大。亲亲之杀，尊贤之等，礼所以生也。礼者，政之本也。是以君子不可以不修身；思修身，不可以不事亲；思事亲，不可以不知人；思知人，不可以不知天。天下之达道有五，其所以行之者三。曰君臣也，父子也，夫妇也，昆弟也，朋友也，五者，天下之达道。智、仁、勇三者，天下之达德也，所以行之者一也。或生而知之，或学而知之，或困而知之，及其知之一也。或安而行之，或利而行之，或勉强而行之，及其成功一也。”

公曰：“子之言，美矣至矣！寡人实固，不足以成之也。”孔子曰：“好学近乎智，力行近乎仁，知耻近乎勇。知斯三者，则知所以修身；知所以修身，则知所以治人；知所以治人，则能成天下国家者矣。”

公曰：“政其尽此而已乎？”孔子曰：“凡为天下国家有九经，曰修身也，尊贤也，亲亲也，敬大臣也，体群臣也，子庶民也，来百工也，柔远人也，怀诸侯也。夫修身则道立，尊贤则不惑，亲亲则诸父、昆弟不怨，敬大臣则不眩，体群臣则士之报礼重，子庶民则百姓劝，来百工则财用足，柔远人则四方归之，怀诸侯则天下畏之。”

公曰：“为之奈何？”孔子曰：“齐洁盛服，非礼不动，所以修身也；去饕远色，贱财而贵德，所以尊贤也；爵其能，重其禄，同其好恶，所以笃亲亲也；官盛任使，所以敬大臣也；忠信重禄，所以劝士也；时使薄敛，所以子百姓也；日省月考，既廩称事，所以来百工也；送往迎来，嘉善而矜不能，所以绥远人也；继绝世，举废邦，治乱持危，朝聘以时，厚往而薄来，所以怀诸侯也。治天下国家有九经，其所以行之者一也。凡事豫则立，不豫则废，言前定则不殆，事前定则不困，行前定则不疚，道前定则不穷。在下位不获于上，民弗可得而治矣；获于上有道，不信于友，不获于上矣；信于友有道，不顺于亲，不信于友矣；顺于亲有道，反诸身不诚，不顺于亲矣；诚身有道，不明于善，不诚于身矣。诚者，天之至道也；诚之者，人之道也。夫诚，弗勉而中，不思而得，从容中道，圣人之所以体定也。诚之者，择善而固执之者也。”

公曰：“子之教寡人备矣。敢问行之所始。”孔子曰：“立爱自亲始，教民睦也；立敬自长始，教民顺也。教之慈睦，而民贵有亲；教之以敬，而民贵用命。民既孝于亲，又顺以听命，措诸天下，无所不可。”

公曰：“寡人既得闻此言也，惧不能果行而获罪咎。”

宰我问于孔子曰：“吾闻鬼神之名，而不知所谓，敢问焉。”孔子曰：“人生有气有魄。气者，人之盛也；魄者，鬼之盛也。夫生必死，死必归土，此谓鬼；魂气归天，此谓神。合鬼与神而享之，教之至也。骨肉弊于下，化为野土，其气发扬于上者，此神之著也。圣人因物之精，制为之极，明命鬼神，以为民之则，而犹以是为未足也，故筑为宫室，设为宗祧，春秋祭祀，以别亲疏，教民反古复始，不敢忘其所由生也。众人服自此，听且速焉。教以二端，二端既立，报以二礼：建设朝事，燔燎膋芻，所以报气也；荐黍稷，羞肺肝，加以郁鬯，所以报魄也。此教民修本反始崇爱，上下用情，礼之至也。君子反古复



始，不忘其所由生，是以致其敬，发其情，竭力从事，不敢不自尽也，此之谓大教。昔者文王之祭也，事死如事生，思死而不欲生，忌日则必哀，称讳则如见亲。祀之忠也，思之深，如见亲之所爱。祭欲见亲之颜色者，其唯文王与！《诗》云：‘明发不寐，有怀二人。’则文王之谓与！祭之明日，明发不寐，有怀二人，敬而致之，又从而思之。祭之日，乐与哀半，飨之必乐，已至必哀，孝子之情也。文王为能得之矣。”

卷五

颜回第十八

鲁定公问于颜回曰：“子亦闻东野毕之善御乎？”对曰：“善则善矣。虽然，其马将佚。”定公色不悦，谓左右曰：“君子固有诬人也。”颜回退。

后三日，牧来诉之曰：“东野毕之马佚，两驂曳，两服入于厩。”公闻之，越席而起，促驾召颜回。回至，公曰：“前日寡人问吾子以东野毕之御，而子曰善则善矣，其马将佚。不识吾子奚以知之？”颜回对曰：“以政知之。昔者帝舜巧于使民，造父巧于使马。舜不穷其民力，造父不穷其马力，是以舜无佚民，造父无佚马。今东野毕之御也，升马执轡，衔体正矣；步骤驰骋，朝礼毕矣；历险致远，马力尽矣。然而犹乃求马不已。臣以此知之。”

公曰：“善。诚若吾子之言也。吾子之言，其义大矣。愿少进乎。”颜回曰：“臣闻之，鸟穷则啄，兽穷则攫，人穷则诈，马穷则佚，自古及今，未有穷其下而能无危者也。”

公悦，遂以告孔子。孔子对曰：“夫其所以为颜回者，此之类也。岂足多哉？”

孔子在卫，昧旦晨兴，颜回侍侧，闻哭者之声甚哀。子曰：“回，汝知此何所哭乎？”对曰：“回以此哭声非但为死者而已，又有生离别者也。”子曰：“何以知之？”对曰：“回闻桓山之鸟生四子焉，羽翼既成，将分于四海，其母悲鸣而送之，哀声有似于此，谓其往而不返也。回窃以音类知之。”

孔子使人问哭者，果曰：“父死家贫，卖子以葬，与子长决。”子曰：“回也善于识音矣。”

颜回问于孔子曰：“成人之行若何？”子曰：“达于性情之理，通于物类之变，知幽明之故，睹游气之原。若此可谓成人矣。既能成人，而又加以仁义礼乐，成人之行也。若乃穷神知礼，德之盛也。”

颜回问于孔子曰：“臧文仲、武仲孰贤？”孔子曰：“武仲贤哉！”颜回曰：“武仲世称圣人，而身不免于罪，是智不足称也；好言兵讨，而挫锐于邾，是智不足名也。夫文仲，其身虽殁，而言不朽，恶有未贤？”孔子曰：“身歿言立，所以为文仲也。然犹有不仁者三，不智者三，是则不及武仲也。”



回曰：“可得闻乎？”孔子曰：“下展禽，置六关，妾织蒲，三不仁；设虚器，纵逆祀，祠海鸟，三不智。武仲在齐，齐将有祸，不受其田，以避其难，是智之难也。夫臧武仲之智，而不容于鲁，抑有由焉。作而不顺，施而不恕也夫。《夏书》曰：‘念兹在兹，顺事恕施。’”

颜回问君子。孔子曰：“爱近仁，度近智，为己不重，为人不轻，君子也夫！”回曰：“敢问其次。”子曰：“弗学而行，弗思而得。小子勉之！”

仲孙何忌问于颜回曰：“仁者一言而必有益于仁智，可得闻乎？”回曰：“一言而有益于智，莫如预；一言而有益于仁，莫如恕。夫知其所不可由，斯知所由矣。”

颜回问小人。孔子曰：“毁人之善以为辩，狡讦怀诈以为智，幸人之有过，耻学而羞不能，小人也。”

颜回问子路曰：“力猛于德而得其死者鲜矣，盍慎诸焉？”

孔子谓颜回曰：“人莫不知此道之美，而莫之御也，莫之为也，何居？为闻者盍日思也夫！”

颜回问于孔子曰：“小人之言有同乎君子者，不可不察也。”孔子曰：“君子以行言，小人以舌言。故君子于为义之上相疾也，退而相爱；小人于为乱之上相爱也，退而相恶。”

颜回问：“朋友之际如何？”孔子曰：“君子之于朋友也，心必有非焉，而弗能谓‘吾不知，其仁人也。不忘久德，不思久怨，仁矣夫！’”

叔孙武叔见未仕于颜回。回曰：“宾之。”武叔多称人之过而已评论之。颜回曰：“固子之来辱也，宜有得于回焉？”吾闻诸孔子曰：‘言人之恶，非所以美己；言人之枉，非所以正己。故君子攻其恶，无攻人恶。’

颜回谓子贡曰：“吾闻诸夫子，身不用礼而望礼于人，身不用德而望德于人，乱也。夫子之言，不可不思也。”

子路初见第十九

子路见孔子，子曰：“汝何好乐？”对曰：“好长剑。”孔子曰：“吾非此之问也，徒谓以子之所能，而加之以学问，岂可及乎？”

子路曰：“学岂益也哉？”孔子曰：“夫人君而无谏臣则失正，士而无教友则失听。御狂马不释策，操弓不反桡，木受绳则直，人受谏则圣。受学重问，孰不顺成？毁仁恶仕，必近于刑。君子不可不学。”

子路曰：“南山有竹，不揉自直，斩而用之，达于犀革。以此言之，何学之有？”孔子曰：“括而羽之，镞而砺之，其入之不亦深乎？”子路再拜曰：“敬而受教。”

子路将行，辞于孔子。子曰：“赠汝以车乎，赠汝以言乎？”子路曰：“请以言。”孔子曰：“不强不达，不劳无功，不忠无亲，不信无复，不恭失礼。慎此五者而矣。”



子路曰：“由请终身奉之。敢问亲交取亲若何？言寡可行若何？长为善士而无犯若何？”孔子曰：“汝所问，苞在五者中矣。亲交取亲，其忠也；言寡可行，其信乎；长为善士而无犯，其礼也。”

孔子为鲁司寇，见季康子，康子不悦，孔子又见之。宰予进曰：“昔予也常闻诸夫子曰：‘王公不我聘，则弗动。’今夫子之于司寇也日少，而屈节数矣。不可以已乎？”孔子曰：“然。鲁国以众相陵，以兵相暴之日久矣，而有司不治，则将乱也。其聘我者，孰大于是哉！”

鲁人闻之，曰：“圣人将治，何不先自远刑罚！”自此之后，国无争者。孔子谓宰子曰：“违山十里，螽蛄之声犹在于耳。故政事莫如应之。”

孔子兄子有孔蔑者，与宓子贱偕仕。孔子往过孔蔑而问之曰：“自汝之仕，何得何亡？”对曰：“未有所得，而所亡者三。王事若龙，学焉得习？是学不得明也；俸禄少，饘粥不及亲戚，是以骨肉益疏也；公事多急，不得吊死问疾，是朋友之道阙也。其所亡者三，即谓此也。”

孔子不悦。往过子贱，问如孔蔑。对曰：“自来仕者，无所亡，其有所得者三。始诵之，今得而行之，是学益明也；俸禄所供，被及亲戚，是骨肉益亲也；虽有公事，而兼以吊死问疾，是朋友笃也。”孔子喟然谓子贱曰：“君子哉若人！鲁无君子者，则子贱焉取此？”

孔子侍坐于哀公。赐之桃与黍焉，哀公曰：“请食。”孔子先食黍而后食桃。左右皆掩口而笑。公曰：“黍者所以雪桃，非所为食之也。”孔子对曰：“丘知之矣。然夫黍者，五谷之长，郊礼宗庙以为盛。果属有六，而桃为下，祭祀不用，不登郊庙。丘闻之，君子以贱雪贵，不闻以贵雪贱。今以五谷之长雪果之下者，是从上雪下，臣以为妨于教，害于义，故不敢。”公曰：“善哉！”

子贡曰：“陈灵公宣淫于朝，泄冶正谏而杀之。是与比干谏而死同，可谓仁乎？”子曰：“比干于纣，亲则诸父，官则少师，忠报之心，在于宗庙而已，固必以死争之，冀身死之，纣将悔寤，其本志情在于仁者也。泄冶之于灵公，位在大夫，无骨肉之亲，怀宠不去，仕于乱朝。以区区一身，欲正一国之淫昏，死而无害，可谓狷矣。《诗》云：‘民之多辟，无自立辟。’其泄冶之谓乎！”

孔子相鲁，齐人患其将霸，欲败其政，乃选好女子八十人，衣以文锦而舞容玼，及文马四十驷，以遗鲁君。陈女乐，列文马于鲁城南高门外，季桓子微服往观之，再三，将受焉，告鲁君为周道游，观之终日，怠于政事。子路言于孔子曰：“夫子可以行矣！”孔子曰：“鲁今且郊，若致饔于大夫，是则未废其常，吾犹可以止也。”

桓子既受女乐，君臣淫荒，三日不听国政，郊又不致饔飧。孔子遂行，宿于郭屯。师已送曰：“夫子非罪也。”孔子曰：“吾歌可乎？”歌曰：“彼妇人之口，可以出走；彼妇人之请，可以死败。优或游哉，聊以卒岁。”



澹台子羽有君子之容，而行不胜其貌；宰我有文雅之辞，而智不充其辩。孔子曰：“里语云：‘相马以舆，相士以居，弗可废矣。’以容取人，则失之子羽；以辞取人，则失之宰予。”

孔子曰：“君子以其所不能畏人，小人以其所不能不信人。故君子长人之才，小人抑人而取胜焉。”

孔蔑问行己之道。子曰：“知而弗为，莫如勿知；亲而弗信，莫如勿亲。乐之方至，乐而勿骄；患之将至，思而勿忧。”孔蔑曰：“行己乎？”子曰：“攻其所不能，补其所不备。毋以其所不能疑人，毋以其所能骄人。终日言，无遗己之忧；终日行，不遗己之患。唯智者有之。”

在厄第二十

楚昭王聘孔子，孔子往拜礼焉，路出于陈、蔡。陈、蔡大夫相与谋曰：“孔子圣贤，其所刺讥，皆中诸侯之病。若用于楚，则陈、蔡危矣。”遂使徒兵距孔子。

孔子不得行，绝粮七日，外无所通，藜羹不充，从者皆病。孔子愈慷慨讲诵弦歌不衰。乃召子路而问焉，曰：“《诗》云：‘匪兕匪虎，率彼旷野。’吾道非乎？奚为至于此？”子路愠，作色而对曰：“君子无所困。意者夫子未仁与，人之弗吾信也，意者夫子未智与，人之弗吾行也？且由也昔者闻诸夫子：‘为善者，天报之以福；为不善者，天报之以祸。’今夫子积德怀义，行之久矣，奚居之穷也？”子曰：“由未之识也！吾语汝。汝以仁者为必信也，则伯夷、叔齐不饿死首阳；汝以智者为必用也，则王子比干不见剖心；汝以忠者为必报也，则关龙逢不见刑；汝以谏者为必听也，则伍子胥不见杀。夫遇不遇者，时也；贤不肖者，才也。君子博学深谋，而不遇时者众矣，何独丘哉！且芝兰生于深林，不以无人而不芳；君子修道立德，不谓穷困而改节。为之者，人也；生死者，命也。是以晋重耳之有霸心，生于曹、卫；越王勾践之有霸心，生于会稽。故居下而无忧者，则思不远；处身而常逸者，则志不广。庸知其终始乎？”子路出。

召子贡，告如子路。子贡曰：“夫子之道至大，故天下莫能容夫子，夫子盍少贬焉？”子曰：“赐！良农能稼，不必能穡；良工能巧，不能为顺。君子能修其道，纲而纪之，不必其能容。今不修其道，而求其容，赐，尔志不广矣！思不远矣！”子贡出。

颜回入，问亦如之。颜回曰：“夫子之道至大，天下莫能容。虽然，夫子推而行之，世不我用，有国者之丑也。夫子何病焉？不容然后见君子。”孔子欣然叹曰：“有是哉，颜氏之子！使尔多财，吾为尔宰。”

子路问于孔子曰：“君子亦有忧乎？”子曰：“无也。君子之修行也，其未得之，则乐其意；既得之，又乐其治。是以有终身之乐，无一日之忧。小人则不然，其未得也，患弗得之；既得之，又恐失之。是以有终身之忧，无一日之乐也。”



曾子弊衣而耕于鲁，鲁君闻之而致邑焉。曾子固辞不受。或曰：“非子之求，君自致之，奚固辞也？”曾子曰：“吾闻受人施者常畏人，与人者常骄人。纵君有赐，不我骄也，吾岂能勿畏乎？”

孔子闻之曰：“参之言，足以全其节也。”

孔子厄于陈、蔡，从者七日不食。子贡以所赍货，窃犯围而出，告余于野人，得米一石焉。颜回、仲由炊之于坏屋之下，有埃墨堕饭中，颜回取而食之。

子贡自井望见之，不悦，以为窃食也。人问孔子曰：“仁人廉士穷改节乎？”孔子曰：“改节即何称于仁廉哉？”子贡问：“若回也，其不改节乎？”子曰：“然。”子贡以所饭告孔子。子曰：“吾信回之为仁久矣，虽汝有云，弗以疑也，其或者必有故乎？汝止，吾将问之。”召颜回曰：“畴昔予梦见先人，岂或启佑我哉？子炊而进饭，吾将进焉。”对曰：“向有埃墨堕饭中，欲置之，则不洁；欲弃之，则可惜。回即食之，不可祭也。”孔子曰：“然乎！吾亦食之。”

颜回出，孔子顾谓二三子曰：“吾之信回也，非待今日也。”二三子由此乃服之。

入官第二十一

子张问入官于孔子。孔子曰：“安身取誉为难。”子张曰：“为之如何。”孔子曰：“己有善勿专，教不能勿息，已过勿发，失言勿诘，不善勿遂，行事勿留。君子入官，有此六者，则身安誉至而政从矣。且夫忿数者，官狱所由生也；距谏者，虑之所以塞也；慢易者，礼之所以失也；怠惰者，时之所以后也；奢侈者，财之所以不足也；专独者，事之所以不成也。君子入官，除此六者，则身安誉至而政从矣。故君子南面临官，大域之中而公治之，精知而略行之。合是忠信，考是大伦，存是美恶，进是利而除是害，无求其报焉，而民之情可得也。夫临之无抗民之恶，胜之无犯民之言，量之无侵民之辞，养之无忧于其时，爱之无宽于刑法。若此，则身安誉至而民得也。君子以临官所见则迹，故明不可蔽也；所求于迹，故不劳而得也；所以治者约，故不用众而誉立；凡法象在内，故法不远而源泉不竭。是以天下积而本不寡，短长得其量，人志治而不乱政，德贯乎心，藏乎志，形乎色，发乎声。若此，而身安誉至，民咸自治矣。是故临官不治则乱，乱生则争之者至，争之至又于乱。明君必宽裕以容其民，慈爱优柔之，而民自得矣。行者，政之始也；说者，情之导也；善政行易而民不怨；言调说和则民不变。法在身则民象之，明在己则民显之。若乃供己而不节，则财利之生者微矣；贪以不得，则善政必简矣；苟以乱之，则善言必不听也；详以纳之，则规谏日至。言之善者，在所日闻；行之善者，在所能为。故君上者，民之仪也；有司执政者，民之表也；迹臣便僻者，群仆之伦也。故仪不正则民失，表不端则百姓乱，迹臣便僻则群臣污矣，是以人主不可不敬乎三伦。君子修身反道，察里言而服之，则身安誉至，终始在焉。故夫女子必自择丝麻，良工必自择完材，贤君必自择左



右。劳于取人，佚于治事，君子欲誉，则必谨其左右。为上者，譬如缘木焉，务高而畏下滋甚。六马之乖离，必于四达之交衢；万民之叛道，必于君上之失政。长者尊严而危，民者卑贱而神。爱之则存，恶之则亡。长民者必明此之要。故南面临官，贵而不骄，富而能供，有本而能图末，修事而能建业，久居而不滞，情近而畅乎远，察一物而贯乎多，治一物而万物不能乱者，以身本者也。君子莅民，不可以不知民之性而达诸民之情。既知其性，又习其情，然后民乃从命矣。故世举则民亲之，政均则民无怨。故君子莅民，不临以高，不导以远，不责民之所不为，不强民之所不能。廓之以明王之功，不因其情，则民严而不迎；笃之以累年之业，不因其力，则民引而不从。若责民所不为，强民所不能，则民疾，疾则僻矣。古者圣主冕而前旒，所以蔽明也；纁纁充耳，所以掩聪也。水至清则无鱼，人至察则无徒。枉而直之，使自得之；优而柔之，使自求之；揆而度之，使自索之。民有小罪，必求其善，以赦其过；民有大罪，必原其故，以仁辅化。如有死罪，其使之生，则善也。是以上下亲而不离，道化流而不蕴。故德者，政之始也。政不和，则民不从其教矣；不从教，则民不习；不习，则不可得而使也。君子欲言之见信也，莫善乎先虚其内；欲政之速行也，莫善乎以身先之；欲民之速服也，莫善乎以道御之。故虽服必强，自非忠信，则无可以取亲于百姓者矣。内外不相应，则无已取信于庶民者矣。此治民之至道矣，人官之大统矣。”

子张既闻孔子斯言，遂退而记之。

困誓第二十二

子贡问于孔子曰：“赐倦于学，困于道矣。愿息于事君，可乎？”孔子曰：“《诗》云：‘温恭朝夕，执事有恪。’事君之难也，焉可以息哉？”

曰：“然则赐愿息于事亲。”孔子曰：“《诗》云：‘孝子不匮，永锡尔类。’事亲之难也，焉可以息哉？”

曰：“然则请息于妻子。”孔子曰：“《诗》云：‘刑于寡妻，至于兄弟，以御于家邦。’妻子之难也，焉可以息哉？”

曰：“然则赐愿息于朋友。”孔子曰：“《诗》云：‘朋友攸摄，摄以威仪。’朋友之难也，焉可以息哉？”

曰：“然则赐愿息于耕矣。”孔子曰：“《诗》云：‘昼尔于茅，宵尔索綯。亟其乘屋，其始播百谷。’耕之难也，焉可以息哉？”

曰：“然则赐将无所息者也？”孔子曰：“有焉。自望其广，则蚤如也；视其高，则填如也；察其从，则隔如也。此其所以息也矣。”

子贡曰：“大哉乎死也！君子息焉！小人休焉！大哉乎死也！”

孔子自卫将入晋，至河，闻赵简子杀襄婴鸣钺及舜华，乃临河而叹曰：“美哉水，洋



洋乎！丘之不济此，命也夫！”子贡趋而进曰：“敢问何谓也？”孔子曰：“寔犇鸣犢、舜华，晋之贤大夫也。赵简子未得志之时，须此二人而后从政。及其已得志也，而杀之。丘闻之，刳胎杀夭，则麒麟不至其郊；竭泽而渔，则蛟龙不处其渊；覆巢破卵，则凤凰不翔其邑。何则？君子违伤其类者也。鸟兽之于不义，尚知避之，况于人乎！”遂还，息于邹，作《桀操》以哀之。

子路问于孔子曰：“有人于此，夙兴夜寐，耕芸树艺，手足胼胝，以养其亲，然而名不称孝，何也？”孔子曰：“意者身不敬与？”辞不顺也？色不悦与？古之人有言曰：‘人与己与，不汝欺。’”

“今尽力养亲，而无三者之阙，何谓无孝子之名？”孔子曰：“由！汝志之！吾语汝。虽有国士之力，而不能自举其身，非力之少，势不可矣。夫内行不修，身之罪也；行修而名不彰，友之罪也；行修而名自立。故君子入则笃行，出则交贤，何谓无孝名乎？”

孔子遭厄于陈、蔡之间，绝粮七日，弟子馁病，孔子弦歌。子路入见曰：“夫子之歌，礼乎？”孔子弗应，曲终而曰：“由来！吾语汝。君子好乐，为无骄也；小人好乐，为无倦也。其谁之子不我知而从我者乎？子路悦，援戚而舞，三终而出。

明日，免于厄，子贡执轡，曰：“二三子从夫子而遭此难也，其弗忘矣！”孔子曰：“善！恶何也？夫陈、蔡间，丘之幸也。二三子从丘者，皆幸也。吾闻之，君不困不成王，烈士不困行不彰，庸知其非激愤厉志之始于是乎在？”

孔子之宋，匡人简子以甲士围之。子路怒，奋戟将与战。孔子止之，曰：“恶有修仁义而不免世俗之恶者乎？夫《诗》、《书》之不讲，礼乐之不习，是丘之过也；若以述先王、好古法而为咎者，则非丘之罪也。命也夫！由歌，予和汝。”

子路弹琴而歌，孔子和之。曲三终，匡人解甲而罢。

孔子曰：“不观高崖，何以知颠坠之患？不临深泉，何以知没溺之患？不观巨海，何以知风波之患？失之者其不在此乎？士慎此三者，则无累于身矣。”

子贡问于孔子曰：“赐既为人下矣，而未知为人下之道，敢问之。”孔曰：“为人下者，其犹土乎！汨之深则出泉；树之壤，则百谷滋焉，草木植焉，禽兽育焉。生则出焉，死则入焉。多其功而不意，弘其志而无不容。为人下者以此也。”

孔子适郑，与弟子相失，独立东郭门外。或人谓子贡曰：“东门外有一人焉，其长九尺有六寸，河目隆颡，其头似尧，其颈似皋繇，其肩似子产，然自腰已下不及禹者三寸，累累然如丧家之狗。”

子贡以告，孔子欣然而叹曰：“形状，未也。如丧家之狗，然乎哉！然乎哉！”

孔子适卫，路出乎蒲，会公叔氏以蒲叛卫而止之。孔子弟子有公良儒者，为人贤长，有勇力，以私车五乘从夫子行，喟然曰：“昔吾从夫子遇难于匡，又伐树于宋，今遇困于此，命也夫！与其见夫子仍遇于难，宁我斗死！”挺剑而合众，将与之战。蒲人惧，曰：“苟无适卫，吾则出子。”以盟孔子，而出之东门。孔子遂适卫。子贡曰：“盟可负乎？”孔



子曰：“要我以盟，非义也。”

卫侯闻孔子来，喜而郊迎之。问伐蒲，对曰：“可哉！”公曰：“吾大夫以为蒲者，卫之所以待晋、楚也，伐之无乃不可乎？”孔子曰：“其男子有死之志，吾之所伐者，不过四五人矣。”公曰：“善。”卒不果伐。

他日，灵公又与夫子语，见飞雁过而仰视之，色不悦。孔子乃逝。

卫蘧伯玉贤，而灵公不用；弥子瑕不肖，反任之。史鱼骤谏而不从。史鱼病，将卒，命其子曰：“吾在卫朝，不能进蘧伯玉，退弥子瑕，是吾为臣不能正君也。生而不能正君，则死无以成礼。我死，汝置尸牖下，于我毕矣。”其子从之。

灵公吊焉，怪而问焉。其子以其父言告。公愕然失容，曰：“是寡人之过也。”于是命之殡于客位，进蘧伯玉而用之，退弥子瑕而远之。

孔子闻之，曰：“古之列谏之者，死则已矣，未有若史鱼死而尸谏，忠感其君者也，不可谓直乎？”

五帝德第二十三

宰我问于孔子曰：“昔者吾闻诸荣伊曰：‘黄帝三百年。’请问黄帝者，人也？抑非人也？何以能至三百年乎？”孔子曰：“禹、汤、文、武、周公，不可胜以观也，而上世黄帝之问，将谓先生难言之故乎？”宰我曰：“上世之传，隐微之说，卒采之辩，暗忽之意，非君子之道者，则予之问也固矣。”

孔子曰：“可也。吾略闻其说，黄帝者，少昊之子，曰轩辕，生而神灵，弱而能言，幼齐睿庄，敦敏诚信，长聪明。治五气，设五量，抚万民，度四方，服牛乘马，扰驯猛兽，以与炎帝战于阪泉之野，三战而后克之。始垂衣裳，作为黼黻。治民以顺天地之纪，知幽明之故，达生死存亡之说，播时百谷，尝味草木，仁厚及于鸟兽昆虫。考日月星辰，劳耳目，勤心力，用水火财物以生民。民赖其利，百年而死；民畏其神，百年而亡；民用其教，百年而移。故曰：‘黄帝三百年。’”

宰我曰：“请问帝颛顼。”孔子曰：“五帝用说，三王有度。汝欲一日遍闻远古之说，躁哉予也！”宰我曰：“昔予也闻诸夫子曰：‘小子毋或宿。’故敢问。”

孔子曰：“颛顼，黄帝之孙，昌意之子，曰高阳。渊而有谋，疏通以知远，养财以任地，履时以象天，依鬼神而制义，治气性以教众，洁诚以祭祀，巡四海以宁民，北至幽陵，南暨交趾，西抵流沙，东极蟠木，动静之神，小大之物，日月所照，莫不底属。”

宰我曰：“请问帝喾。”孔子曰：“玄枵之孙，乔极之子，曰高辛。生而神异，自言其名。博施厚利，不于其身。聪以知远，明以察微。仁以威，惠而信，以顺天地之义。知民所急，修身而天下服，取地之财而节用焉。抚教万民而海利之，历日月之生朔而迎送之，明鬼神而敬事之。其色也和，其德也重，其动也时，其服也哀。春夏秋冬，育护天下。日



月所照，风雨所至，莫不从化。”

宰我曰：“请问帝尧。”孔子曰：“高辛氏之子，曰陶唐。其仁如天，其智如神。就之如日，望之如云。富而不骄，贵而能降。伯夷典礼，夔、龙典乐，舜时而仕，趋视四时，务先民始之，流四凶而天下服。其言不贰，其德不回。四海之内，舟舆所及，莫不夷说。”

宰我曰：“请问帝舜。”孔子曰：“乔牛之孙，瞽瞍之子也，曰有虞。舜孝友闻于四方，陶渔事亲，宽裕而温良，敦敏而知时，畏天而爱民，恤远而亲近。承受大命，依于二女。睿明智通，为天下帝。命二十二臣，率尧旧职，躬己而已。天平地成，巡狩四海，五载一始。三十年在位，嗣帝五十载。陟方岳，死于苍梧之野而葬焉。”

宰我曰：“请问禹。”孔子曰：“高阳之孙，鲧之子也，曰夏后。敏给克齐，其德不爽，其仁可亲，其言可信。声为律，身为度。亹亹穆穆，为纪为纲。其功为百神之主，其惠为民父母。左准绳，右规矩，履四时，据四海。任皋繇、伯益以赞其治，兴六师以征不序。四极之民，莫敢不服。”

孔子曰：“予！大者如天，小者如言，民悦至矣。予也非其人也。”宰我曰：“予也不足以戒敬承矣。”

他日，宰我以语子贡，子贡以复孔子。子曰：“吾欲以颜状取人也，则于天明改之矣；吾欲以言辞取人也，则于宰我改之矣；吾欲以容貌取人也，则于子张改之矣。”宰我闻之，惧，弗敢见焉。

卷 六

五帝第二十四

季康子问于孔子曰：“旧闻五帝之名而不知其实，请问何谓五帝？”孔子曰：“昔丘也闻诸老聃曰：‘天有五行，水、火、金、木、土，分时化育，以成万物，其神谓之五帝。’古之王者，易代而改号，取法五行。五行更王，终始相生，亦象其义。故其为明王者，而死配五行，是以太皞配木，炎帝配火，黄帝配土，少皞配金，颛顼配水。”

康子曰：“太皞氏其始之木何如？”孔子曰：“五行用事，先起于木。木，东方，万物之初皆出焉。是故王者则之，而首以木德王天下，其次则以所生之行转相承也。”

康子曰：“吾闻勾芒为木正，祝融为火正，蓐收为金正，玄冥为水正，后土为土正。此五行之主而不乱，称曰帝者，何也？”孔子曰：“凡五正者，五行之官名。五行佐成上帝，而称五帝。太皞之属配焉，亦云帝，从其号。其少皞氏之子有四叔，曰重，曰该，曰修，曰熙，实能金、木及水，使重为勾芒，该为蓐收，修及熙为玄冥。颛顼氏之子曰黎，为祝融。共工氏之子曰勾龙，为后土。此五者各以所能业为官职，生为上公，死为贵神，



别称五祀，不得同帝。”

康子曰：“如此之言，帝王改号，于五行之德，各有所统，则其所以相变者，皆主何事？”孔子曰：“所尚则各从其所王之德次焉。夏后氏以金德王，色尚黑，大事敛用昏，戎事乘骊，牲用玄；殷人用水德王，色尚白，大事敛用日中，戎事乘翰，牲用白；周人以木德王，色尚赤，大事敛用日出，戎事乘驂，牲用騂。此三代之所以不同。”

康子曰：“唐、虞二帝，其所尚者何色？”孔子曰：“尧以火德王，色尚黄；舜以土德王，色尚青。”

康子曰：“陶唐、有虞、夏后、殷、周独不配五帝，意者德不及上古邪？将有限乎？”孔子曰：“古之平治水土及播殖百谷者众矣，唯勾龙氏兼食于社，而弃为稷神，易代奉之，无敢益者，明不可与等。故自太皞以降，逮于颛顼，其应五行而王，数非徒五，而配五帝，是其德不可以多也。”

执轡第二十五

闵子骞为费宰，问政于孔子。子曰：“以德以法。夫德法者，御民之具，犹御马之有衔勒也。君者，人也；吏者，轡也；刑者，策也。夫人君之政，执其轡策而已。”

子骞曰：“敢问古之为政。”孔子曰：“古者天子以内史为左右手，以德法为衔勒，以百官为轡，以刑罚为策，以万民为马，故御天下数百年而不失。善御马，正衔勒，齐轡策，均马力，和马心，故口无声而马应轡，策不举而极千里。善御民，壹其德法，正其百官，以均齐民力，和安民心，故令不再而民顺从，刑不用而天下治。是以天地德之，而兆民怀之。夫天地之所德，兆民之所怀，其政美，其民而众称之。今人言五帝、三王者，其盛无偶，威察若存，其故何也？其法盛，其德厚，故思其德必称其人，朝夕祝之，升闻于天，上帝俱歆，用水厥世而丰其年。不能御民者，弃其德法，专用刑辟，譬犹御马，弃其衔勒而专用桎策。其不制也可必矣。夫无衔勒而用桎策，马必伤，车必败；无德法而用刑，民必流，国必亡。治国而无德法，则民无修；民无修，则迷惑失道。如此，上帝必以其为乱天道也。苟乱天道，则刑罚暴，下不相谄，莫知念忠，俱无道故也。今人言恶者，必比之于桀、纣，其故何也？其法不听，其德不厚，故民恶其残虐，莫不吁嗟，朝夕祝之，升闻于天，上帝不觐，降之以祸罚，灾害并生，用殄厥世。故曰德法者，御民之本。古之御天下者，以六官总治焉：冢宰之官以成道，司徒之官以成德，宗伯之官以成仁，司马之官以成圣，司寇之官以成义，司空之官以成礼。六官在手以为轡，司会均仁以为纳，故曰御四马者执六轡，御天下者正六官。是故，善御马者，正身以总轡。均马力，齐马心，回旋曲折，唯其所之，故可以取长道，可赴急疾，此圣人所以御天地与人事之法则也。天子以内史为左右手，以六官为轡，已而与三公为执六官，均五教，齐五法，故亦唯其所引，无不如志。以之道，则国治；以之德，则国安；以之仁，则国和；以之圣，则国



平；以之礼，则国定；以之义，则国义。此御政之术。过失，人之情莫不有焉；过而改之，是为不过。故官属不理，分职不明，法政不一，百官失纪，曰乱。乱则伤宰宰。地而不殖，财物不蕃，万民饥寒，教训不行，风俗淫僻，人民流散，曰危。危则伤司徒。父子不亲，长幼失序，君臣上下乖离异志，曰不和。不和则伤宗伯。贤能而失官爵，功劳而失赏禄，士卒疾怨，兵弱不用，曰不平。不平则伤司马。刑罚暴乱，奸邪不胜，曰不义。不义则伤司空。度量不审，举事失理，都鄙不修，财物失所，曰贫。贫则伤司空。故御者同是车马，或以取千里，或不及数百里，其所谓进退缓急异也。夫治者同是官法，或以致平，或以致乱者，亦其所以为进退缓急异也。古者，天子常以季冬考德正法，以观治乱。德盛者治也，德薄者乱也。故天子考德，则天下之治乱，可坐庙堂之上而知之。夫德盛则法修，德不盛则伤法与政，威德而不衰。故曰王者又以孟春论吏之德及功能，能德法者为有德，能行德法者为有行，能成德法者为有功，能治德法者为有智。故天子论吏而德法行，事治而功成。夫季冬正法，孟春论吏，治国之要。”

子夏问于孔子曰：“商闻《易》之生人及万物鸟兽昆虫，各有奇耦，气分不同，而凡人莫知其情，唯达德者能原其本焉。天一，地二，人三，三三如九，九九八十一，一主日，日数十，故人十月而生。八九七十二，偶以从奇，奇主辰，辰为月，月主马，故马十二月而生。七九六十三，三主斗，斗主狗，故狗三月而生。六九五十四，四主时，时主豕，故豕四月而生。五九四十五，五为音，音主猿，故猿五月而生。四九三十六，六为律，律主鹿，故鹿六月而生。三九二十七，七主星，星主虎，故虎七月而生。二九一十八，八主风，风为虫，故虫八月而生。其余各从其类矣。鸟、鱼生阴，而属于阳，故皆卵生。鱼游于水，鸟游于云，故立冬则燕雀入海，化为蛤。蚕食而不饮，蝉饮而不食，蜉蝣不饮不食，万物之所以不同。介鳞夏食而冬蛰，齧舌者八窍而卵生，齧鬣者九窍而胎生，四足者无羽翼，戴角者无上齿，无角无前齿者膏，有角无后齿者脂，昼生者类父，夜生者似母，是以至阴主牝，至阳主牡。敢问其然乎？”孔子曰：“然。吾昔闻老聃亦如汝之言。”

子夏曰：“商闻《山书》曰：地东西为纬，南北为经；山为积德，川为积刑；高者为生，下者为死；丘陵为牡，溪谷为牝；蚌蛤龟珠与日月而盛虚。是故坚土之人刚，弱土之人柔，墟土之人大，沙土之人细，息土之人美，耗土之人丑。食土者无心而不息，食木者多力而不治，食草者善走而愚，食桑者有绪而蛾，食肉者勇毅而悍，食气者神明而寿，食谷者智慧而巧，不食者不死而神。故曰，羽虫三百有六十，而凤为之长；毛虫三百有六十，而麟为之长；甲虫三百有六十，而龟为之长；鳞虫三百有六十，而龙为之长；倮虫三百有六十，而人为之长。此乾《》之美也，殊形异类之数。王者动必以道动，静必以道静，必顺理以奉天地之性，而不害其主，谓之仁圣焉。”子夏言终而出。

子贡进曰：“商之论也如何？”孔子曰：“汝谓何也？”对曰：“微则微矣，然非治世之待也。”孔子曰：“然，各其所能。”



本命解第二十六

鲁哀公问于孔子曰：“人之命与性何谓也？”孔子对曰：“分于道，谓之命；形于一，谓之性；化于阴阳，象形而发，谓之生；化穷数尽，谓之死。故命者，性之始也；死者，生之终也。有始则必有终矣。人始生而有不具者五焉：目无见，不能食，不能行，不能言，不能化。及生三月而微煦，然后有见；八月生齿，然后能食；三年颡合，然后能言；十有六而精通，然后能化。阴穷反阳，故阴以阳变；阳穷反阴，故阳以阴化。是以男子八月生齿，八岁而鬣；女子七月生齿，七岁而鬣，十有四有化。一阳一阴，奇偶相配，然后道合成。性命之端，形于此也。”

公曰：“男子十六精通，女子十四而化，是则可以生民矣。而礼，男子三十而有室，女子二十而有夫，岂不晚哉？”孔子曰：“夫礼言其极，不是过也。男子二十而冠，有为人父之端；女子十五许嫁，有适人之道。于此而往，则自婚矣。群生闭藏乎阴，而为化育之始。故圣人因时以合偶男女，穷天数之极。霜降而妇功成，嫁娶者行焉。冰泮而农桑起，婚礼而杀于此。男子者，任天道而长万物者也。知可为，知不可为；知可言，知不可言；知可行，知不可行者。是故审其伦而明其别，谓之知，所以效匹夫之听也。女子者，顺男子之教而长其理者也。是故无专制之义，而有三从之道，幼从父兄，既嫁从夫，夫死从子，言无再醮之端，教令不出于闺门，事在供酒食而已，无阍外之非仪也，不越境而奔丧，事无擅为，行无独成，参知而后动，可验而后言，昼不游庭，夜行以火，所以效匹妇之德也。”

孔子遂言曰：“女有五不取：逆家子者，乱家子者，世有刑人子者，有恶疾子者，丧父长子。妇有七出、三不去。七出者，不顺父母者，无子者，淫僻者，嫉妒者，恶疾者，多口舌者，窃盗者。三不去者，谓有所取无所归，与共更三年之丧，先贫贱后富贵。凡此，圣人所以顺男女之际，重婚姻之始也。”

孔子曰：“礼之所以象五行也，其义四时也，故丧礼有举焉，有恩有义，有节有权，其恩厚者其服重，故为父母斩衰三年，以恩制者也。门内之治恩掩义，门外之治义掩恩。资于事父以事君，而敬同。尊尊尊贵，义之大也。故为君亦服衰三年，以义制者也。三日而食，三月而沐，期练，毁不灭性，不以死伤生，丧不过三，齐衰不补，坟墓不修，除服之日鼓素琴，示民有终也。凡此以节制者也。资于事父以事母，而爱同。天无二日，国无二君，家无二尊，以一治之，故父在为母齐衰期者，见无二尊也。百官备，百物具，不言而事行者，扶而起；言而后事行者，杖而起；身自执事行者，面垢而已。此以权制者也。亲始死，三日不怠，三月不懈，期悲号，三年忧，哀之杀也。圣人因杀以制节也。”



论礼第二十七

孔子闲居，子张、子贡、言游侍。论及于礼，孔子曰：“居！汝三人者，吾语汝以礼周流无不通也。”

子贡越席而对曰：“敢问如何？”子曰：“敬而不中礼，谓之野；恭而不中礼，谓之给；勇而不中礼，谓之逆。”子曰：“给夺仁慈。”

子贡曰：“敢问将何以为此中礼者？”子曰：“礼乎！夫礼，所以制中也。”子贡退。

言游进曰：“敢问礼也，领恶而全好者与？”子曰：“然。”子贡问：“何也？”子曰：“郊社之礼，所以仁鬼神也；禘尝之礼，所以仁昭穆也；馈尊之礼，所以仁死丧也；射飧之礼，所以仁乡党也；食飧之礼，所以仁宾客也。明乎郊社之义、禘尝之礼，治国其指诸掌而已。是故，居家有礼，故长幼辨；以之闾门有礼，故三族和；以之朝廷有礼，故官爵序；以之田猎有礼，故戎事闲；以之军旅有礼，故武功成。是以宫室得其度，鼎俎得其象，物得其时，乐得其节，车得其轼，鬼神得其享，丧纪得其哀，辩说得其党，百官得其体，政事得其施。加于身而措于前，凡众之动，得其宜也。”言游退。

子张进曰：“敢问礼何谓也？”子曰：“礼者，即事之治也。君子有其事，必有其治。治国而无礼，譬犹瞽之无相，伥伥乎何所之？譬犹终夜有求于幽室之中，非烛何以见？故无礼则手足无所措，耳目无所加，进退揖让无所制。是故，以其居处，长幼失其别，闾门三族失其和，朝廷官爵失其序，田猎戎事失其策，军旅武功失其势，宫室失其度，鼎俎失其象，物失其时，乐失其节，车失其轼，鬼神失其享，丧纪失其哀，辩说失其党，百官失其体，政事失其施。加于身而措于前，凡动之众失其宜。如此，则无以祖洽四海。”

子曰：“慎听之！汝三人者，吾语汝：礼犹有九焉，大飧有四焉。苟如此矣，虽在畎亩之中，事之，圣人矣。两君相见，揖让而入门，入门而悬兴；揖让而升堂，升堂而乐阋，下管象舞，夏籥序兴；陈其荐俎，序其礼乐，备其百官。如此而后，君子知仁焉。行中规，旋中矩，銮和中《采芡》，客出以《雍》，彻以《振羽》。是故君子无物而不在于礼焉。入门而金作，示情也；升歌《清庙》，示德也；下管象舞，示事也。是故，古之君子，不必亲相与言也，以礼乐相示而已。夫礼者，理也；乐者，节也。无礼不动，无节不作。不能《诗》，于礼谬；不能乐，于礼素；于德薄，于礼虚。”

子贡作而问曰：“然则夔其穷与？”子曰：“古之人与！上古之人也，达于礼而不达于乐，谓之素；达于乐而不达于礼，谓之偏。夫夔达于乐而不达于礼，是以传于此名也。古之人也。凡制度在礼，文为在礼，行之其人在乎！”三子者，既得闻此论于夫子也，焕若发蒙焉。

子夏侍坐于孔子，曰：“敢问《诗》云‘恺悌君子，民之父母’，何如斯可谓民之父母？”孔子曰：“夫民之父母，必达于礼乐之源，以至五至而行三无，以横于天下。四方有



败，必先知之。此之谓民之父母。”

子夏曰：“敢问何谓五至？”孔子曰：“志之所至，诗亦至焉；诗之所至，礼亦至焉；礼之所至，乐亦至焉；乐之所至，哀亦至焉。诗礼相成，哀乐相生。是以正明目而视之，不可得而见；倾耳而听，不可得而闻。志气塞于天地，行之充于四海。此之谓五至矣。”

子夏曰：“敢问何谓三无？”孔子曰：“无声之乐，无体之礼，无服之丧，此之谓三无。”子夏曰：“敢问三无，何诗近之？”孔子曰：“‘夙夜基命宥密’，无声之乐也；‘威仪逮逮，不可选也’，无体之礼也；‘凡民有丧，扶伏救之’，无服之丧也。”

子夏曰：“言则美矣大矣！言尽于此而已？”孔子曰：“何谓其然？吾语汝，其义犹有五起焉。”子夏曰：“何如？”孔子曰：“无声之乐，气志不违；无体之礼，威仪迟迟；无服之丧，内恕孔悲。无声之乐，所愿必从；无体之礼，上下和同；无服之丧，施及万邦。既然，而又奉之以三无私而劳天下，此之谓五起。”

子夏曰：“何谓三无私？”孔子曰：“天无私覆，地无私载，日月无私照。其在《诗》曰：‘帝命不违，至于汤齐。汤降不迟，圣敬日跻。昭假迟迟，上帝是祗，帝命式于九围。’是汤之德也。”子夏颔然而起，负墙而立，曰：“弟子敢不志之？”

卷 七

观乡射第二十八

孔子观于乡射，喟然叹曰：“射之以礼乐也。何以射，何以听，而不失正鹄者？其唯贤者乎！若夫不肖之人，则安能以求饮？《诗》云：‘发彼有的，以祈尔爵。’祈，求也。求中，所以辞爵。酒者，所以养老，所以养病也。求中以辞爵，辞其养也。是故士使之射而弗能，则辞以病，悬弧之义。”

于是退而与门人习射于矍相之圃，盖观者如堵墙焉。射至于司马，使子路执弓出列延，谓射之者曰：“奔军之将，亡国之大夫，与为人后者，不得入。其余皆入。”盖去者半。

又使公罔之裘、序点扬觶而语曰：“幼壮孝悌，耆老好礼，不从流俗，修身以俟死者，在此位。”盖去者半。

序点扬觶而语曰：“好学不倦，好礼不变，耄期称道而不乱者，在此位。”盖仅有存焉。

射既闋，子路进曰：“由与二三子者之为司马，何如？”孔子曰：“能用命矣。”

孔子曰：“吾观于乡，而知王道之易易也。主人亲速宾及介，而众宾从之，至于正门之外。主人拜宾及介，而众自入。贵贱之义别矣。三揖至于阶，三让，以宾升，拜至，献



酬辞让之节繁。及介升，则省矣。至于众宾，升而受爵，坐祭，立饮，不酢而降。杀之义辩矣。工入，升歌三终，主人献宾；笙入三终，主人又献之；间歌三终，合乐三阙，工告乐备而遂出。一人扬觶，乃立司正焉。知其能和乐而不流。宾酬主人，主人酬介，介酬众宾，宾少长以齿，终于沃洗者焉。知其能弟长而无遗矣。降，脱屣升坐，修爵无算。饮酒之节，盥不废朝，暮不废夕。宾出，主人迎送，节文终遂焉。知其能安燕而不乱也。贵贱既明，降杀既辩，和乐而不流，弟长而无遗，安燕而不乱，此五者足以正身安国矣。彼国安，而天下安矣。故曰：‘吾观于乡，而知王道之易易也。’”

子贡观于蜡。孔子曰：“赐也，乐乎？”对曰：“一国之人皆若狂，赐未知其为乐也。”孔子曰：“百日之劳，一日之乐，一日之泽，非尔所知也。张而不弛，文武弗能；弛而不张，文武弗为；一张一弛，文武之道也。”

郊问第二十九

定公问于孔子曰：“古之帝王必郊祀其祖以配天，何也？”孔子对曰：“万物本于天，人本乎祖。郊之祭也，大报本反始也，故以配上帝。天垂象，圣人则之。郊所以明天道也。”

公曰：“寡人闻郊而莫同，何也？”孔子曰：“郊之祭也，迎长日之至也。大报天而主日，配以月，故周之始郊，其月以日至，其日用上辛；至于启蛰之月，则又祈谷于上帝。此二者，天子之礼也。鲁无冬至大郊之事，降杀于天子，是以不同也。”

公曰：“其言郊何也？”孔子曰：“兆丘于南，所以就阳位也，于郊，故谓之郊焉。”

曰：“其牲器何如？”孔子曰：“上帝之牛角茧栗，必在涤三月，后稷之牛唯具，所以别事天神与人鬼也。牲用騂，尚赤也；用饗，贵诚也。扫地而祭，于其质也。器用陶匏，以象天地之性也。万物无可称之者，故因其自然之体也。”

公曰：“天子之郊，其礼仪可得闻乎？”孔子对曰：“臣闻天子卜郊，则受命于祖庙，而作龟于祢宫，尊祖亲考之义也。卜之日，王亲立于泽宫，以听誓命，受教谏之义也。既卜，献命库门之内，所以诫百官也。将郊，则天子皮弁以听报，示民严上也。郊之日，丧者不敢哭，凶服者不敢入国门，汜扫清路，行者必止，弗命而民听，敬之至也。天子大裘以黼之，被衾象天，乘素车，贵其质也。旂十有二旒，龙章而设以日月，所以法天也。既至泰坛，王脱裘矣，服衾以临燔柴，戴冕，璅十有二旒，则天数也。臣闻之，诵《诗》三百，不足以一献；一献之礼，不足以大飨；大飨之礼，不足以大旅；大旅具矣，不足以飨帝。是以君子无敢轻议于礼者也。”

五刑解第三十

冉有问于孔子曰：“古者三皇、五帝不用五刑，信乎？”孔子曰：“圣人之设防，贵其



不犯也；制五刑而不用，所以为至治也。凡夫之为奸邪、窃盗、靡法、妄行者，生于不足，不足生于无度。无度，则小者偷盗，大者侈靡，各不知节。是以上有制度，则民知所止，民知所止则不犯。故虽有奸邪、贼盗、靡法、妄行之狱，而无陷刑之民。不孝者生于不仁，不仁者生于丧祭之礼无。明丧祭之礼，所以教仁爱也。能教仁爱，则丧思慕，祭祀不解人馈养之道。丧祭之礼明，则民孝矣。故虽有不孝之狱，而无陷刑之民。杀上者生于不义。义所以别贵贱，明尊卑也。贵贱有别，尊卑有序，则民莫不尊上而敬长。朝聘之礼者，所以明义也。义必明，则民不犯。故虽有杀上之狱，而无陷刑之民。斗变者，生于相陵；相陵者，生于长幼无序而遭敬让。乡饮酒之礼者，所以明长幼之序而崇敬让也。长幼必序，民怀敬让。故虽有斗变之狱，而无陷刑之民。淫乱者，生于男女无别；男女无别，则夫妇失义。婚礼聘享者，所以别男女，明夫妇之义也。男女既别、夫妇既明，故虽有淫乱之狱，而无陷刑之民。此五者，刑罚之所以生，各有源焉。不豫塞其源，而辄绳之以刑，是谓为民设阱而陷之。刑罚之源，生于嗜欲不节。夫礼度者，所以御民之嗜欲而明好恶，顺天之道。礼度既陈、五教毕修，而民犹或未化，尚必明其法典，以申固之。其犯奸邪、靡法、妄行之狱者，则飭制量之度；有犯不孝之狱者，则飭丧祭之礼；有犯杀上之狱者，则飭朝觐之礼；有犯斗变之狱者，则飭乡饮酒之礼；有犯淫乱之狱者，则飭婚聘之礼。三皇、五帝之所化民者如此，虽有五刑之用，不亦可乎？”

孔子曰：“大罪有五，而杀人为下。逆天地者罪及五世，诬文武者罪及四世，逆人伦者罪及三世，谋鬼神者罪及二世，手杀人者罪及其身。故曰大罪有五，而杀人为下矣。”

冉有问于孔子曰：“先王制法，使刑不上于大夫，礼不下于庶人，然则大夫犯罪不可以加刑，庶人之行事不可以治于礼乎？”孔子曰：“不然。凡治君子以礼，御其心，所以属之以廉耻之节也。故古之大夫，其有坐不廉污秽而退放之者，不谓之不廉污秽而退放，则曰簠簋不飭。有坐淫乱、男女无别者，不谓之淫乱、男女无别，则曰帷幕不修也。有坐罔上不忠者，不谓之罔上不忠，则曰臣节未著。有坐罢软不胜任者，不谓之罢软不胜任，则曰下官不职。有坐干国之纪者，不谓之干国之纪，则曰行事不请。此五者，大夫既自有罪名矣，而犹不忍斥然正以呼之也。既而为之讳，所以愧耻之。是故大夫之罪，其在五刑之城者，闻而遽发，则白冠黻纁，盘水加剑，造乎阙而自请罪，君不使人执缚牵掣而加之也。其有大罪者，闻命则北面再拜跪而自裁，君不使人摔引而刑杀，曰：‘子大夫自取之耳，吾遇子有礼矣。’以刑不上大夫，而大夫亦不失其罪者，教使然也。所谓礼不下庶人者，以庶人遽其事而不能充礼，故不责之以备礼也。”

冉有跪然免席，曰：“言则美矣！求未之闻。”退而记之。

刑政第三十一

仲弓问于孔子曰：“雍闻至刑无所用政，至政无所用刑。至刑无所用政，桀纣之世是



也；至政无所用刑，成康之世是也。信乎？”孔子曰：“圣人之治化也，必刑政相参焉。太上以德教民，而以礼齐之，其次以政焉导民，以刑禁之，刑不刑也。化之弗变，导之弗从，伤义以败俗，于是乎用刑矣。颺五刑必即天伦，行刑罚则轻无赦。刑，例也；例成也。壹成而不可更，故君子尽心焉。”

仲弓曰：“古之听讼，尤罚丽于事，不以其心。可得闻乎？”孔子曰：“凡听五刑之讼，必原父子之情，立君臣之义以权之；意论轻重之序，慎测浅深之量以别之；悉其聪明，正其忠爱以尽之。大司寇正刑明辟以察狱，狱必三讯焉。有指无简，则不听也。附从轻，赦从重。疑狱则泛与众共之，疑则赦之，皆以小大之比成也。是故爵人必于朝，与众共之也；刑人必于市，与众弃之也。古者公家不畜刑人，大夫弗养也。士遇之涂，以弗与之言，屏诸四方，唯其所之，不及与政，弗欲生之也。”

仲弓曰：“听狱，狱之成，成何官？”孔子曰：“成狱成于吏，吏以狱成告于正。正既听之，乃告大司寇。大司寇听之，乃奉于王。王命三公卿士参听棘木之下，然后乃以狱之成疑于王。王三宥之，以听命而制刑焉，所以重之也。”

仲弓曰：“其禁何禁？”孔子曰：“巧言破律，遁名改作，执左道与乱政者，杀；作淫声，造异服，设伎奇器以荡上心者，杀；行伪而坚，言诈而辩，学非而博，顺非而泽，以惑众者，杀；假于鬼神、时日、卜筮以疑众者，杀。此四诛者，不以听。”

仲弓曰：“其禁尽于此而已？”孔子曰：“此其急者。其余禁者，十有四焉：命服命车不粥于市；珪璋璧琮不粥于市；宗庙之器不粥于市；兵车旂旗不粥于市；牺牲粢鬯不粥于市；戎器兵甲不粥于市；用器不中度，不粥于市；布帛精粗不中数，广狭不中量，不粥于市；奸色乱正色，不粥于市；文锦珠玉之器，雕饰靡丽，不粥于市；衣服饮食不粥于市；果实不时，不粥于市；五木不中伐，不粥于市；鸟兽鱼鳖不中杀，不粥于市。凡执此禁以齐众者，不赦过也。”

礼运第三十二

孔子为鲁司寇，与于蜡。既宴事毕，乃出游于观之上，喟然而叹。言偃侍，曰：“夫子何叹也？”孔子曰：“昔大道之行，与三代之英，吾未之逮也，而有记焉。大道之行，天下为公，选贤与能，讲信修睦。故人不独亲其亲，不独子其子。老有所终，壮有所用，矜寡孤疾皆有所养。货恶其弃于地，不必藏于己；力恶其不出于身，不必为人。是以奸谋闭而不兴，盗窃乱贼不作，故外户不闭。谓之大同。今大道既隐，天下为家，各亲其亲，各子其子。货则为己，力则为人。大人世及以为常，城郭沟池以为固。禹、汤、文、武、成王、周公由此而选，未有不谨于礼。礼之所兴，与天地并。如有不由礼而在位者，则以为殃。”

言偃复问曰：“如此乎，礼之急也？”孔子曰：“夫礼，先王所以承天之道，以治人之



情，列其鬼神，达于丧祭、乡射、冠婚、朝聘。故圣人以礼治之，则天下国家可得以礼正矣。”

言偃曰：“今之在位，莫知由礼，何也？”孔子曰：“呜呼哀哉！我观周道，幽、厉伤也。吾舍鲁何适？夫鲁之郊及禘皆非礼，周公其已衰矣。杞之郊也禹，宋之郊也契。是天子之事守也，天子以杞、宋二王之后。周公摄政，致太平，而与天子同是礼也。诸侯祭社稷宗庙，上下皆奉其典，而祝嘏莫敢易其常法。是谓大嘉。今使祝嘏辞说徒藏于宗祝巫史，非礼也。是谓幽国。戡殪及尸君，非礼也。是谓僭君。冕弁兵车藏于私家，非礼也。是谓胁君。大夫具官，祭器不假，声乐皆具，非礼也。是为乱国。故仕于公曰臣，仕于家曰仆。三年之丧与新有婚者，期不使也。以衰裳入朝，与家仆杂居齐齿，非礼也。是谓臣与君共国。天子有田以处其子孙，诸侯有国以处其子孙，大夫有采以处其子孙，是谓制度。天子适诸侯，必舍其宗庙。而不以礼籍入，是谓天子坏法乱纪。诸侯非问疾吊丧而入诸臣之家，是谓君臣为谑。夫礼者，君之柄，所以别嫌明微，俟鬼神，考制度，列仁义，立政教，安君臣上下也。故政不正则君位危，君位危则大臣倍，小臣窃。刑肃而俗弊则法无常，法无常则礼无别，礼无别则士不仕，民不归。是谓疵国。是故夫政者，君之所以藏身也，必本之天，效以降命。命降于社之谓教地，降于祖庙之谓仁义，降于山川之谓兴作，降于五祀之谓制度。此圣人所以藏身之固也。圣人参于天地，并于鬼神，以治政也。处其所存，礼之序也；玩其所乐，民之治也。天生时，地生财，人其父生而师教之。四者君以政用之，所以立于无过之地。君者人所共，非明人者也；人所养，非养人者也；人所事，非事人者也。夫君者明人则有过，养人则不足，事人则失位。故百姓明君以自治，养君以自安，事君以自显。是以礼达而分定，人皆爱其死而患其生。是故用人之智去其诈，用人之勇去其怒，用人之仁去其贪。国有患，君死社稷，为之义；大夫死宗庙，为之变。凡圣人能以天下为一家，以中国为一人，非意之，必知其情，从于其义，明于其利，达于其患，然后为之。何谓人情？喜、怒、哀、惧、爱、恶、欲，七者弗学而能。何谓人义？父慈、子孝、兄良、弟悌、夫义、妇听、长惠、幼顺、君仁、臣忠，十者谓之人义。讲信修睦，谓之人利。争夺相杀，谓之人患。圣人之所以治人，七情修，十义讲，信修睦，尚辞让，去争夺，舍礼何以治之？饮食男女，人之大欲存焉；死亡贫苦，人之大恶存焉。欲、恶者，人之大端。人藏其心，不可测度。美、恶皆在其心，不见其色。欲一以穷之，舍礼何以治之？故人者，天地之德，阴阳之交，鬼神之会，五行之秀。天秉阳，垂日星；地秉阴，载山川。播五行于四时，和四气而后月生。是以三五而盈，三五而缺。五行之动，共相竭也。五行、四气、十二月，还相为本；五声、五律、十二管，还相为宫；五味、六和、十二食，还相为质；五色、六章、十二衣，还相为主。故人者，天地之心而五行之端，食味、别声、被色而生者。圣人作则，必以天地为本，以阴阳为端，以四时为柄，以日星为纪，月以为量，鬼神以为徒，五行以为质，礼义以为器，人情以为田，四灵以为畜。以天地为本，故物可举；以阴阳为端，故情可睹；以四时为柄，故可劝；以日



星为纪，故业可别；月以为量，故功有艺；鬼神以为徒，故事有守；五行以为质，故事可复也；礼义以为器，故事行有考；人情以为田，故人以为奥也；四灵以为畜，故饮食有由也。何谓四灵？麟、凤、龟、龙，谓之四灵。故龙以为畜，而鱼鲔不谗；凤以为畜，而鸟不祗；麟以为畜，而兽不噬；龟以为畜，而人情不失。先王秉蓍龟，列祭祀，瘞缙，宣祝嘏，设制度、祝嘏辞说，故国有礼，官有御，职有序。先王患礼之不达于下，故饗帝于郊，所以定天位也；祀社于国，所以别地利也；禘祖庙，所以本仁也；旅山川，所以俟鬼神也；祭五祀，所以本事也。故宗祝在庙，三公在朝，三老在学，王前巫而后史，卜蓍誓侑皆在左右。王中心无为也，以守至正。是以礼行于郊，而百神受职；礼行于社，而百货可极；礼行于祖庙，而孝慈服焉；礼行于五祀，而正法则焉。故郊社、宗庙、五祀，义之修而礼之藏。夫礼必本于太一，分而为天地，转而为阴阳，变而为四时，列而为鬼神。其降曰命。其官于天也，协于分艺，其居于人也曰养。所以讲信修睦，而固人之肌肤之会、筋骸之束者；所以养生送死。事鬼神之大端；所以达天道，顺人情之大窦。唯圣人为知礼之不可以已也。故破国、丧家、亡人，必先去其礼。礼之于人，犹酒之有药也。君子以厚，小人以薄。圣人修义之柄、礼之序，以治人情。人情者，圣人之田也，修礼以耕之，陈义以种之，讲学以耨之，本仁以聚之，播乐以安之。故礼者，义之实也，协诸义而协，则礼虽先王未有，可以义起焉。义者，艺之分，仁之节。协于义，讲于仁，得之者强，失之者丧。仁者，义之本，顺之体，得之者尊。故治国不以礼，犹无耜而耕；为礼而不本于义，犹耕之而弗种；为义而不讲于学，犹种而弗耨；讲之以学而不合之以仁，犹耨而不获；合之以仁而不安之以乐，犹获而弗食；安之以乐而不达于顺，犹食而不肥。四体既正，肤革充盈，人之肥也；大臣法，小臣廉，官职相序，君臣相正，国之肥也；天子之德为车，以乐为御，诸侯以礼相与，大夫以法相序，士以信相考，百姓以睦相守，天下之肥也。是谓大顺。顺者，所以养生送死，事鬼神之常也。故事大积焉而不苑，并行而不谬，细行而不失，深而通，茂而有间，连而不相及，动而不相害，此顺之至也。明于顺，然后乃能守危。夫礼之不同、不丰、不杀，所以持情而合危也。山者不使居川，渚者不使居原，用水、火、金、木，饮食必时。冬合男女，春颁爵位，必当年德，皆所顺也。用民必顺。故无水旱昆虫之灾，民无凶饥妖孽之疾，天不爱其道，地不爱其宝，人不爱其情。是以天降甘露，地出醴泉，山出器车，河出马图，凤凰、麒麟皆在郊谿，龟龙在宫沼，其余鸟兽及卵胎，皆可俯而窥也。则是无故，先王能循礼以达义，体信以达顺。此顺之实也。”

卷八

冠颂第三十三

邾隐公既即位，将冠，使大夫因孟懿子问礼于孔子。子曰：“其礼如世子之冠。冠于



阼者，以著代也。醴以客位，加其有成，三加弥尊，导喻其志。冠而字之，敬其名也。虽天子之元子，犹士也。其礼无变，天下无生而贵者故也。行冠事必于祖庙，以裸享之礼以将之，以金石之乐以革之。所以自卑而尊先祖，示不敢擅。”

懿子曰：“天子未冠即位，长亦冠乎？”孔子曰：“古者王世子虽幼，其即位则尊为人君。人君，治成人之事者，何冠之有？”

懿子曰：“然则诸侯之冠异天子与？”孔子曰：“君薨而世子主丧，是亦冠也已。人君无所殊也。”

懿子曰：“今邾君之冠非礼也？”孔子曰：“诸侯之有冠礼也，夏之末造也，有自来矣，今无饥焉。天子冠者，武王崩，成王年十有三而嗣立。周公居冢宰，摄政以治天下。明年夏六月，既葬，冠成王而朝于祖，以见诸侯亦有君也。周公命祝雍作颂曰：‘祝王达而未幼。’祝雍辞曰：‘使王近于民，远于年，斋于时，惠于财，亲贤而任能。’其颂曰：‘令月吉日，王始加元服。去王幼志，服充职，钦若昊命，六合是式。率尔祖考，永永无极。’此周公之制也。”

懿子曰：“诸侯之冠，其所以为宾主，何也？”孔子曰：“公冠则以卿为宾，无介，公自为主，迎宾揖，升自阼，立于席北。其醴也，则如士，飧之以三献之礼。既醴，降自阼阶。诸侯非公而自为主者，其所以异，皆降自西阶，玄端与皮弁异。朝服素毕，公冠四，加玄冕祭。其酬币于宾，则束帛乘马。王太子、庶子之冠拟焉，皆天子自为主。其礼与士无变，飧食宾也皆同。”

懿子曰：“始冠必加缁布之冠，何也？”孔子曰：“示不忘古。太古冠布，斋则缁之。其缁也，吾未之闻。今则冠而弊之可也。”

懿子曰：“三王之冠，其异何也？”孔子曰：“周弁，殷舄，夏收，一也。三王共皮弁、素纁。委貌，周道也；章甫，殷道也；毋追，夏后氏之道也。”

庙制第三十四

卫将军文子将立三军之庙于其家，使子羔访于孔子。子曰：“公庙设于私家，非古礼之所及，吾弗知。”

子羔曰：“敢问尊卑上下立庙之制，可得而闻乎？”孔子曰：“天下有王，分地建国，设祖宗，乃为亲疏贵贱多少之数。是故天子立七庙，三昭三穆，与太祖之庙七；太祖近庙，皆月祭之；远庙为祧，有二祧焉，享尝乃止。诸侯立五庙，二昭二穆，与太祖之庙而五，曰祖考庙，享尝乃止。大夫立三庙，一昭一穆，与太庙而三，曰皇考庙，享尝乃止。士立一庙，曰考庙。王考无庙，合于享尝乃止。庶人无庙，四时祭于寝。此自有虞以至于周之所不变也。凡四代帝王之所谓郊者，皆以配天；其所谓禘者，皆五年大祭之所及也。应为太祖者，则其庙不毁；不及太祖，虽在禘郊，其庙则毁矣。古者祖有功而宗有德，谓



之祖宗者，其庙皆不毁。”

子羔问曰：“祭典云：昔有虞氏祖颡项而宗尧，夏后氏亦祖颡项而宗禹，殷人祖契而宗汤，周人祖文王而宗武王。此四祖四宗，或乃异代，或其考祖之有功德，其庙可也。若有虞宗尧，夏祖颡项，皆异代之有功德者也，亦可以存其庙乎？”孔子曰：“善，如汝所闻也。如殷周之祖宗，其庙可以不毁。其他祖宗者，功德不殊，虽在殊代，亦可以无疑矣。《诗》云：‘蔽芾甘棠，勿剪勿伐’，‘邵伯所憩’。周人之于邵公也，爱其人，犹敬其所舍之树，况祖宗其功德而可以不尊奉其庙焉？”

辨乐解第三十五

孔子学琴于师襄子。襄子曰：“吾虽以击磬为官，然能于琴。今子于琴已习，可以益矣。”孔子曰：“丘未得其数也。”

有间，曰：“已习其数，可以益矣。”孔子曰：“丘未得其志也。”

有间，曰：“已习其志，可以益矣。”孔子曰：“丘未得其为人也。”

有间，孔子有所凄然思焉，有所颀然高望而远眺，曰：“丘迨得其为人矣。近黧而黑，欣然长，旷如望羊，奄有四方，非文王其孰能为此？”师襄子避席叶拱而对曰：“君子圣人也！其传曰《文王操》。”

子路鼓琴，孔子闻之，谓冉有曰：“甚矣，由之不才也！夫先王之制音也，奏中声以为节，流入于南，不归于北。夫南者，生育之乡；北者，杀伐之域。故君子之音，温柔居中，以养生育之气。忧愁之感，不加于心也；暴厉之动，不在于体也。夫然者，乃所谓治安之风也。小人之音则不然，亢丽微末，以象杀伐之气。中和之感，不载于心；温和之动，不存于体。夫然者，乃所以为乱之风。昔者舜弹五弦之琴，造《南风》之诗，其诗曰：‘南风之薰兮，可以解吾民之愠兮；南风之时兮，可以阜吾民之财兮。’唯修此化，故其兴也勃焉，德如泉流，至于今，王公大人述而弗忘。殷紂好为北鄙之声，其废也忽焉，至于今，王公大人举以为诫。夫舜起布衣，积德含和，而终以帝。纣为天子，荒淫暴乱，而终以亡。非各所修之致乎？由，今也匹夫之徒，曾无意于先王之制，而习亡国之声，岂能保其六七尺之体哉？”

冉有以告子路。子路惧而自悔，静思不食，以至骨立。夫子曰：“过而能改，其进矣乎！”

周宾牟贾侍坐于孔子。孔子与之言及乐，曰：“夫《武》之备戒之以久，何也？”对曰：“病疾不得其众。”“咏叹之，淫液之，何也？”对曰：“恐不逮事。”发扬蹈厉之已蚤，何也？”对曰：“及时事。”“《武》坐致右而轩左，何也？”对曰：“非《武》坐。”“声淫及商，何也？”对曰：“非《武》音也。”孔子曰：“若非《武》音，则何音也？”对曰：“有司失其传也。”孔子曰：“唯，丘闻诸萑弘，若吾子之言是也。若非有司失其传，则武王之志



荒矣。”

宾牟贾起，免席而请曰：“夫《武》之备减之以久，则既闻命矣。敢问迟矣而又久立于缀，何也？”子曰：“居，吾语尔。夫乐者，象成者也。总干而山立，武王之事也。发扬蹈厉，太公之志也。《武》乱皆坐，周邵之治也。且夫《武》，始成而北出，再成而灭商，三成而南反，四成而南国是疆，五成而分陕，周公左，邵公右，六成而复缀，以崇其天子焉。众夹振焉而四伐，所以盛威于中国。分陕而进，所以事蚤济。久立于缀，所以待诸侯之至也。今汝独未闻牧野之语乎？武王克殷而反商之政。未及下车，则封黄帝之后于蓟，封帝尧之后于祝，封帝舜之后于陈；下车又封夏后氏之后于杞，封殷之后于宋，封王子比干之墓，释箕子之囚，使人行商容之旧以复其位，庶民弛政，庶士倍禄。既济河西，马散于华山之阳而弗复乘，牛散之桃林之野而弗复服，车甲则衅之而藏诸府库，以示弗复用，倒载干戈而包之以虎皮，将率之士使为诸侯，命之曰韃橐。然后天下知武王之不复用兵也。散军而修郊射，左射以《狸首》，右射以《騶虞》，而贯革之射息也。裨冕褫笏，而虎賁之士脱剑。郊祀后稷，而民知尊父焉。配明堂，而民知孝焉。朝覲，然后诸侯知所以臣。耕籍，然后民知所以敬亲。六者，天下之大教也。食三老五更于太学，天子袒而割牲执酱而馈，执爵而酹，冕而总干，所以教诸侯之弟也。如此，则周道四通，礼乐交通。夫《武》之迟久，不亦宜乎？”

问玉第三十六

子贡问于孔子曰：“敢问君子贵玉而贱珉，何也？为玉之寡而珉多欤？”孔子曰：“非为玉之寡故贵之，珉之多故贱之。夫昔者君子比德于玉：温润而泽，仁也；缜密以栗，智也；廉而不刿，义也；垂之如坠，礼也；叩之，其声清越而长，其终则浊然，乐矣；瑕不掩瑜，瑜不掩瑕，忠也；孚尹旁达，信也；气如白虹，天也；精神见于山川，地也；圭璋特达，德也；天下莫不贵者，道也。《诗》云：‘言念君子，温如玉玉。’故君子贵之也。”

孔子曰：“入其国，其教可知也。其为人也，温柔敦厚，《诗》教也；疏通知远，《书》教也；广博易良，《乐》教也；洁静精微，《易》教也；恭俭庄敬，《礼》教也；属辞比事，《春秋》教也。故《诗》之失愚，《书》之失诬，《乐》之失奢，《易》之失贼，《礼》之失烦，《春秋》之失乱。其为人也，温柔敦厚而不愚，则深于《诗》者矣；疏通知远而不诬，则深于《书》者矣；广博易良而不奢，则深于《乐》者矣；恭俭庄敬而不烦，则深于《礼》者矣；属辞比事而不乱，则深于《春秋》者矣。天有四时者，春夏秋冬，风雨霜露，无非教也。地载神气，吐纳雷霆，流形庶物，无非教也。清明在躬，气志如神，有物将至，其兆必先。是故天地之教，与圣人相参。其在《诗》曰：‘嵩高惟岳，峻极于天。惟岳降神，生甫及申。惟申及甫，惟周之翰。四国于蕃，四方于宣，’此文、武之德‘矢其文德，协此四国。’此文王之德也。凡三代之王，必先其令问。《诗》云：‘明明天子，令



问不已。’三代之德也。”

子张问圣人之所以教。孔子曰：“师乎！吾语汝。圣人明于礼乐，举而措之而已。”子张又问。孔子曰：“师，尔以为必布几筵，揖让升降，酌献酬酢，然后谓之礼乎？尔以为必行纓屨，执羽籥，作钟鼓，然后谓之乐乎？言而可履，礼也；行而可乐，乐也。圣人力此二者，以躬己南面。是故天下太平，万民顺伏，百官承事，上下有礼也。夫礼之所以兴，众之所以治也；礼之所以废，众之所以乱也。目巧之室则有隳阼，席则有上下，车则有左右，行则有并随，立则有列序，古之义也。室而无隳阼，则乱于堂室矣；席而无上下，则乱于席次矣；车而无左右，则乱于车上矣；行而无并随，则乱于阶涂矣；列而无次序，则乱于著矣。昔者明王圣人，辩贵贱长幼，正男女内外，序亲疏远近，而莫敢相逾越者，皆由此涂出也。”

屈节解第三十七

子路问于孔子曰：“由闻丈夫居世，富贵不能有益于物，处贫贱之地而不能居节以求伸，则不足以论乎人之域矣。”孔子曰：“君子之行己，期于必达于己。可以屈则屈，可以伸则伸。故屈节者所以有待，求伸者所以及时。是以虽受屈而不毁其节，志达而不犯于义。”

孔子在卫，闻齐国田常将欲为乱，而惮鲍、晏，因欲移其兵以伐鲁。孔子会诸弟子而告之曰：“鲁，父母之国，不可不救，不忍视其受敌。今吾欲屈节于田常，以救鲁。二三子谁为使？”于是子路曰“请往齐。”孔子弗许。子张请往，又弗许。子石请往，又弗许。三子退，谓子贡曰：“今夫子欲屈节以救父母之国，吾三人请使而不获往。此则吾子用辩之时也。吾子盍请行焉？”

子贡请使，夫子许之。遂如齐，说田常曰：“今子欲收功于鲁，实难。不若移兵于吴，则易。”田常不悦。子贡曰：“夫忧在内者攻强，忧在外者攻弱。吾闻子三封而三不成，是大臣不听令。战胜以骄主，破国以专臣，而子之功不与焉，则交日疏于主，而与大臣争。如此，则子之位危矣。”田常曰：“善！然兵甲已加鲁矣，不可更，如何？”子贡曰：“缓师。吾请于吴，令救鲁而伐齐，子因以兵迎之。”田常许诺。

子贡遂南说吴王曰：“王者不灭国，霸者无强敌，千钧之重，加铢两而移。今以齐国而私千乘之鲁，与吾争强，甚为王患之。且夫救鲁以显名，以抚泗上诸侯，诛暴齐以服晋，利莫大焉。名存亡鲁，实困强齐，智者不疑。”吴王曰：“善！然吴尝困越，越王今苦身养士，有报吴之心。子待我先越，然后乃可。”子贡曰：“越之劲不过鲁，吴之强不过齐，而置齐而伐越，则齐必私鲁矣。王方以存亡继绝之名，弃齐而伐小越，非勇也。勇者不避难，仁者不穷约，智者不失时，义者不绝世。今存越，示天下以仁；救鲁伐齐，威加晋国，诸侯必相率而朝，霸业盛矣。且王必恶越，臣请见越君，令出兵以从。此则实害越



而名从诸侯以伐齐。”吴王悦，乃遣子贡之越。

越王郊迎，而自为子贡御，曰：“此蛮夷之国，大夫何足俨然辱而临之？”子贡曰：“今者吾说吴王以救鲁伐齐，其志欲之，而心畏越，曰：‘待我伐越而后可。’则破越必矣。且无报人之志而令人疑之，拙矣；有报人之意而使人知之，殆乎；事未发而先闻者，危矣。三者，举事之患矣。”

勾践顿首曰：“孤尝不料力而兴吴难，受困会稽，痛于骨髓，日夜焦唇干舌，徒欲与吴王接踵而死，孤之愿也。今大夫幸告以利害。”子贡曰：“吴王为人猛暴，群臣不堪，国家疲弊，百姓怨上，大臣内变，申胥以谏死，太宰嚭用事，此则报吴之时也。王诚能发卒佐之，以邀射其志，而重宝以悦其心，卑辞以尊其礼，则其伐齐必矣。此圣人所谓屈节求其达者也。彼战不胜，王之祸；若胜，则必以兵临晋。臣还北请见晋君共攻之，其弱吴必矣。锐兵尽于齐，重甲困于晋，而王制其弊焉。”越王顿首许诺。

子贡返五日，越使大夫文种顿首言于吴王曰：“越悉境内之士三千人以事吴。”吴王告子贡曰：“越王欲身从寡人，可乎？”子贡曰：“悉人之率众，又从其君，非义也。”吴王乃受越王卒，谢留勾践，遂自发国内之兵以伐齐，败之。子贡遂北见晋君，令承其弊。吴、晋遂遇于黄池。越王袭吴之国，吴王归与越战，灭焉。

孔子曰：“夫其乱齐存鲁，吾之始愿，若能强晋以弊吴，使吴亡而越霸者，赐之说之也。美言伤信，慎言哉！”

孔子弟子有宓子贱者，仕于鲁，为单父宰。恐鲁君听馋言，使己不得行其政，于是辞行，故请君之近史二人，与之俱至官。宓子戒其邑吏，令二史书。方书则掣其肘，书不善则从而怒之。二史患之，辞请归鲁。宓子曰：“子之书甚不善，子勉而归矣。”二史归报于君曰：“宓子使臣书而掣肘，书恶而又怒臣，邑吏皆笑之。此臣所以去之而来也。”

鲁君以问孔子，子曰：“宓不齐，君子也。其才任霸王之佐，屈节治单父，将以自试也。意者以此为谏乎？”公寤，太息而叹曰：“此寡人之不肖。寡人乱宓子之政而责其善者，非矣。微二史，寡人无以知其过；微夫子，寡人无以自寤。”遽发所爱之使告宓子曰：“自今已往，单父非吾有也，从子之制。有便于民者，子决为之，五年一言其要。”宓子敬奉诏，遂得行其政，于是单父治焉。躬敦厚，明亲亲，尚笃敬，施至仁，加恩诚，致忠信，百姓化之。

齐人攻鲁，道由单父。单父之老请曰：“麦已熟矣。今齐寇至，不及人人自收其麦。请放民出，皆获傅郭之麦，可以益粮，且不资于寇。”三请而宓子不听。俄而齐寇逮于麦。季孙闻之，怒，使人以让宓子曰：“民寒耕热耘，曾不得食，岂不哀哉？不知犹可，以告者而子不听，非所以为民也。”宓子蹴然曰：“今兹无麦，明年可树。若使不耕者获，是使民乐有寇。且得单父一岁之麦，于鲁不加强，丧之不加弱。若使民有自取之心，其创必数世不息。”季孙闻之，赧然而愧，曰：“地若可入，吾岂忍见宓子哉！”

三年，孔子使巫马期远观政焉。巫马期阴免衣，衣敝裘，入单父界。见夜渔者，得鱼



辄舍之。巫马期问焉，曰：“凡渔者为得，何以得鱼即舍之？”渔者曰：“鱼之大者名为鲋，吾大夫爱之；其小者名为鲋，吾大夫欲长之。是以得二者辄舍之。”巫马期返以告孔子曰：“宓子之德至，使民暗行若有严刑于旁。敢问宓子何行而得于是？”孔子曰：“吾尝与之言曰：‘诚于此者刑乎彼。宓子行此术于单父也。’”

孔子之旧曰原壤，其母死，夫子将助之以沐椁。子路曰：“由也昔者闻诸夫子曰：‘无友不如己者，过则勿惮改。’夫子惮矣，姑已若何？”孔子曰：“‘凡民有丧，匍匐救之。’况故旧乎？非友也。吾其往。”

及为椁，原壤登木曰：“久矣，予之不托于音也。”遂歌曰：“狸首之斑然，执女手之卷然。”夫子为之隐，佯不闻以过之。子路曰：“夫子屈节而极于此，失其与矣，岂未可以已乎？”孔子曰：“吾闻之，亲者不失其为亲也，故者不失其为故也。”

卷 九

七十二弟子解第三十八

颜回，鲁人，字子渊。年二十九而发白，三十一早死。孔子曰：“自吾有回，门人日益亲。”回之德行著名，孔子称其仁焉。

闵损，鲁人，字子骞。以德行著名，孔子称其孝焉。

冉耕，鲁人，字伯牛。以德行著名。有恶疾，孔子曰：“命也夫！”

冉雍，字仲弓，伯牛之宗族。生于不肖之父。以德行著名。

宰予，字子我，鲁人。有口才著名。

端木赐，字子贡，卫人。有口才著名。

冉求，字子有，仲弓之族。有才艺，以政事著名。

仲由，弁人，字子路。有勇力才艺，以政事著名。

言偃，鲁人，字子游。以文学著名。

卜商，卫人。无以尚之。尝返卫，见读史志者云：“晋师伐秦，三豕渡河。”子夏曰：“非也，‘己亥’耳。”读史志者问诸晋史，果曰：“己亥”。于是卫以子夏为圣。孔子卒后，教于西河之上，魏文侯师之而咨国政焉。

颛孙师，陈人，字子张，少孔子四十八岁。为人有容貌资质，宽冲博接，从容自务，居不务立于仁义之行，孔子门人友之而弗敬。

曾参，南武城人，字子舆，少孔子四十六岁。志存孝道，故孔子因之以作《孝经》。齐尝聘，欲与为卿，而不就，曰：“吾父母老，食人之禄，则忧人之事，故吾不忍远亲而为人役。”参后母遇之无恩，而供养不衰。及其妻以藜烝不熟，因出之。人曰：“非七出



也。”参曰：“藜蒸，小物耳。吾欲使熟，而不用吾命，况大事乎？”遂出之，终身不取妻。其子元请焉，告其子曰：“高宗以后妻杀孝己，尹吉甫以后妻放伯奇。吾上不及高宗，下不比吉甫，庸知其得免于非乎？”

澹台灭明，武城人，字子羽，少孔子四十九岁。有君子之姿，孔子尝以容貌望其才。其才不充孔子之望，然其为人公正无私，以取与去就以诺为名。仕鲁为大夫也。

高柴，齐人，高氏之别族，字子羔，少孔子四十岁。长不过六尺，状貌甚恶，为人笃孝而有法正。少居鲁，知名于孔子之门，仕为武城宰。

宓不齐，鲁人，字子贱，少孔子四十九岁。仕为单父宰。有才智，仁爱，百姓不忍欺。孔子大之。

樊须，鲁人，字子迟，少孔子四十六岁。弱仕于季氏。

有若，鲁人，字子有，少孔子三十六岁。为人强识，好古道也。

公西赤，鲁人，字子华，少孔子四十二岁。束带立朝，闲宾主之仪。

原宪，宋人，字子思，少孔子三十六岁。清静守节，贫而乐道。孔子为鲁司寇，原宪尝为孔子宰。孔子卒后，原宪退隐，居于卫。

公冶长，鲁人，字子长。为人能忍耻。孔子以女妻之。

南宫适，鲁人，字子容。以智自将，世清不废，世浊不诤。孔子以兄子妻之。

公析哀，齐人，字季沉。鄙天下多仕于大夫家者，是故未尝屈节人臣。孔子特叹贵之。

曾点，曾参父，字子皙。疾时礼教不行，欲修之，孔子善焉，《论语》所谓浴乎沂，风乎舞雩之下。

颜由，颜回父，字季路。孔子始教学于阙里，而受学。少孔子六岁。

商瞿，鲁人，字子木，少孔子二十九岁。特好《易》，孔子传之，志焉。

漆雕开，蔡人，字子若，少孔子十一岁。习《尚书》，不乐仕。孔子曰：“子之齿可以仕矣，时将过。”子若报其书曰：“吾斯之未能信。”孔子悦焉。

公良儒，陈人，字子正，贤而有勇。孔子周行，常以家车五乘从。

秦商，鲁人，字不慈，少孔子四岁。其父董父与孔子父叔梁纥俱力闻。

颜刻，鲁人，字子骄，少孔子五十岁。孔子适卫，子骄为仆。卫灵公与夫人南子同车出，而令宦者雍梁参乘，使孔子为次乘，游过市。孔子耻之。颜刻曰：“夫子何耻之？”孔子曰：“《诗》云：‘觐尔新婚，以慰我心。’”乃叹曰：“吾未见好德如好色者也。”

司马黎耕，宋人，字子牛。牛为人性躁，好言语。见兄桓魋行恶，牛常忧之。

巫马期，陈人，字子期，少孔子三十岁。孔子将近行，命从者皆持盖。已而果雨。巫马期问曰：“旦无云，既日出，而夫子命持雨具。敢问何以知之？”孔子曰：“昨暮月宿毕。《诗》不云乎：‘月离于毕，俾滂沱矣。’以此知之。”

梁鱣，齐人，字叔鱼，少孔子三十九岁。年三十，未有子，欲出其妻。商瞿谓曰：



“子未也。昔吾年三十八无子，吾母为吾更取室。夫子使吾之齐，母欲请留吾。夫子曰：‘无忧也。瞿过四十，当有五丈夫。’今果然。吾恐子自晚生耳，未必妻之过。”从之，二年而有子。

琴牢，卫人，字子开，一字子张。与宗鲁友，闻宗鲁死，欲往吊焉。孔子弗许，曰：“非义也。”

冉孺，鲁人，字子鱼，少孔子五十岁。

颜辛，鲁人，字子柳，少孔子四十六岁。

伯虔，字楷，少孔子五十岁。

公孙宠，卫人，字子石，少孔子五十三岁。

曹彪，少孔子五十岁。

陈亢，陈人，字子亢，一字子禽，少孔子四十岁。

叔仲会，鲁人，字子期，少孔子五十岁。与孔璇年相比，每孺子之执笔记事于夫子，二人迭侍左右。孟武伯见孔子而问曰：“此二孺子之幼也于学，岂能识于壮哉？”孔子曰：“然。少成则若性也，习惯若自然也。”

秦祖，字子南。

奚葺，字子偕。

公祖兹，字子之。

廉洁，字子曹。

公西与，字子上。

宰父黑，字子黑。

公西减，字子尚。

穰骀赤，字子从。

冉季，字子产。

薛邦，字子从。

石处，字里之。

悬璽，字子象。

左郢，字子行。

狄黑，字哲之。

高泽，字子秀。

任不齐，字子选。

荣析，字子祺。

颜诔，字子声。

原愬，字子籍。

公肩定，字子仲。



秦非，字子之。

漆雕从，字子文。

燕伋，字子思。

公夏守，字子乘。

勾井疆，字子疆。

步叔乘，字子车。

石子蜀，字子明。

邽选，字子饮。

施之常，字子常。

申绩，字子周。

乐欣，字子声。

颜之仆，字子叔。

孔弗，字子蔑。

漆雕侈，字子敛。

悬成，字子横。

颜相，字子襄。

右件夫子七十二人弟子，皆升堂入室者。

本姓解第三十九

孔子之先，宋之后也。微子启，帝乙之元子，纣之庶兄。以圻内诸侯，人为王卿士。微，国名，子爵。初，武王克殷，封纣之子武庚于朝歌，使奉汤祀。武王崩，而与管、蔡、霍三叔作难。周公相成王，东征之。二年，罪人斯得，乃命微子于殷后，作《微子之命》，由之与国于宋，徙殷之子孙。唯微子先往仕周，故封之贤。其弟曰仲思，名衍，或名泄，嗣微之后，故号微仲，生宋公稽。胄子虽迁爵易位，而班级不及其故者，得以故官为称。故二微虽为宋公，而犹以微之号自终，至于稽乃称公焉。宋公生丁公申，申生缙公共及襄公熙，熙生弗父何及厉公方祀。方祀以下，世为宋卿。

弗父何生宋父周，周生世子胜，胜生正考甫，考甫生孔父嘉。五世亲尽，别为公族，故后以孔为氏焉。一曰孔父者，生时所赐号也，是以子孙遂以氏族。孔父生子木金父，金父生皋夷，皋夷生防叔，避华氏之祸而奔鲁。防叔生伯夏，伯夏生叔梁纥。曰：“虽有九女，是无子。”其妾生孟皮，孟皮一字伯尼，有足病。于是乃求婚于颜氏。颜氏有三女，其小曰微在。颜父问三女曰：“睽大夫虽父祖为士，然其先圣王之裔。今其人身长十尺，武力绝伦，吾甚贪之。虽年长性严，不足为疑。三子孰能为之妻？”二女莫对。微在进曰：“从父所制，将何问焉？”父曰：“即尔能矣。”遂以妻之。



徵在既往，庙见，以夫之年大，惧不时有男，而私祷尼丘之山以祈焉。生孔子，故名丘，字仲尼。孔子三岁，而叔梁纥卒，葬于防。至十九，娶于宋之亓官氏。一岁而生伯鱼。鱼之生也，鲁昭公以鲤鱼赐孔子。荣君之貺，故因以名曰鲤，而字伯鱼。鱼年五十，先孔子卒。

齐太史子与适鲁，见孔子。孔子与之言道，子与悦，曰：“吾鄙人也，闻子之名不睹子之形久矣！而求知之宝贵也。乃今而后，知泰山之为高，渊海之为大。惜乎夫子之不逢明王，道德不加于民，而将垂宝以贻后世。”遂退而谓南宫敬叔曰：“今孔子，先圣之嗣。自弗父何以来，世有德让，天所祚也。成汤以武德王天下，其配在文。殷宗以下，未始有也。孔子生于衰周，先王典籍错乱无纪，而乃论百家之遗记，考正其义，祖述尧舜，宪章文武，删《诗》述《书》，定《礼》理《乐》，制作《春秋》，赞明《易》道，垂训后嗣，以为法式。其文德著矣。然凡所教诲，束脩已上，三千余人。或者天将欲与素王之乎？夫何其盛也！”

敬叔曰：“殆如吾子之言，夫物莫能两大。吾闻圣人之后，而非继世之统，其必有兴者焉。今夫子之道至矣，乃将施之无穷，虽欲辞天之祚，故未得耳。”

子贡闻之，以二子之言告孔子。子曰：“岂若是哉？乱而治之，滞而起之，自吾志也。天何与焉？”

终记解第四十

孔子蚤晨作，负手曳杖，逍遥于门，而歌曰：“泰山其颓乎！梁木其坏乎！哲人其萎乎！”既歌而入，当户而坐。

子贡闻之，曰：“泰山其颓，则吾将安仰？梁木其坏，吾将安杖？哲人其萎，吾将安放？夫子殆将病也！”遂趣而入。夫子叹而言曰：“赐，汝来何迟？予畴昔梦坐奠于两楹之间。夏后氏殡于东阶之上，则犹在阼；殷人殡于两楹之间，即与宾主夹之；周人殡于西阶之上，则犹宾之。而丘也即殷人。夫明王不兴，则天下孰能宗余？余遽将死。”遂寝病，七日而终，时年七十二矣。

哀公谏曰：“昊天不吊，不慙遗一老，俾屏余一人以在位，载戢余在疚。於乎哀哉尼父！无自律。”子贡曰：“公其不没于鲁乎！夫子有言曰：‘礼失则昏，名失则僭。’失志为昏，失所为僭。生不能用，死而谏之，非礼也；称一人，非名。君两失之矣。”

既卒，门人所以疑服夫子者。子贡曰：“昔夫子之丧颜回也，若丧其子，而无服。丧子路亦然。今请丧夫子如丧父，而无服。”于是弟子皆吊服而加麻。出有所之，则由经。子夏曰：“人宜经可居，出则不经。”子游曰：“吾闻诸夫子，丧朋友，居则经，出则否；丧所尊，虽经而出，可也。”

孔子之丧，公西掌殡葬焉。啗以疏米、三贝，衾衣十有一称，加朝服一，冠章甫之



冠。珮象环，径五寸而縿组纆。桐棺四寸，柏椁五寸。飭庙，置娶，设披，周也；设崇，殷也；绸练，设旒，夏也。兼用三王礼，所以尊师，且备古也。葬于鲁城北泗水上，藏入地。不及泉，而封为偃斧之形，高四尺，树松柏为志焉。弟子皆家于墓，行心丧之礼。既葬，有自燕来观者，舍于子夏氏。子贡谓之曰：“吾亦人之葬圣人，非圣人之葬人。子奚观焉？昔夫子言曰：‘吾见封若夏屋者，见若斧矣。’从若斧者也，马鬣封之谓也。今徒一日三斩板而以封，尚行夫子之志而已。何观乎哉？”

二三子三年丧毕，或留或去，惟子贡庐于墓六年。自后群弟子及鲁人处于墓如家者，百有余家，因名其居曰孔里焉。

正论解第四十一

孔子在齐，齐侯出田，招虞人以旌。不进，公使执之。对曰：“昔先君之田也，旌以招大夫，弓以招士，皮冠以招虞人。臣不见皮冠，故不敢进。”乃舍之。孔子闻之，曰：“善哉！守道不如守官。君子韪之。”

齐国师伐鲁，季康子使冉求率左师御之，樊迟为右。师不逾沟，樊迟曰：“非不能也，不信子。请三刻而逾之。”如之，众从之。师入齐军，齐军遁。冉有用戈，故能入焉。孔子闻之曰：“义也。”

既战，季孙谓冉有曰：“子之于战，学之乎，性达之乎？”对曰：“学之。”季孙曰：“从事孔子，恶乎学？”冉有曰：“即学之孔子也。夫孔子者，大圣，无不该，文武并用兼通。求也适闻其战法，犹未之详也。”季孙悦。樊迟以告孔子。孔子曰：“季孙于是乎可谓悦人之有能矣。”

南容说、仲孙何忌既除丧，而昭公在外，未之命也。定公即位，乃命之。辞曰：“先臣有遗命焉，曰：‘夫礼，人之干也，非礼则无以立。’囑家老，使命二臣必事孔子而学礼，以定其位。”公许之。二子学于孔子。孔子曰：“能补过者，君子也。《诗》云：‘君子是则是效。’孟僖子可则郊矣。愆之所病，以海其嗣。《大雅》所谓‘诒厥孙谋，以燕翼子’，是类也夫！”

卫孙文子得罪于献公，居戚。公卒，未葬，文子击钟焉。延陵季子适晋，过戚，闻之，曰：“异哉！夫子之在此，犹燕子巢于幕也，惧犹未也，又何乐哉？君又在殡，可乎？”文子于是终身不听琴瑟。

孔子闻之曰：“季子能以义正人，文子能克己服义，可谓善政矣。”

孔子览《晋志》：晋赵穿杀灵公，赵盾亡，未及山而还。史书：“赵盾弑君。”盾曰：“不然。”史曰：“子为正卿，亡不出境，返不讨贼，非子而谁？”盾曰：“呜呼！‘我之怀矣，自诒伊戚’，其我之谓乎？”

孔子叹曰：“董狐，古之良史也，书法不隐。赵宣子，古之良大夫也，为法受恶。惜



也，越境乃免。”

郑伐陈，入之，使子产献捷于晋。晋人问陈之罪焉。子产对曰：“陈亡周之大德，介恃楚众，冯陵弊邑，是以有往年之告。未获命，则又有东门之役。当陈隧者，井堙、木刊，弊邑大惧。天诱其衷，启弊邑心，知其罪，授首于我，用敢献公。”

晋人曰：“何故侵小？”对曰：“先王之命，惟罪所在，各致其辟。且夫天子一圻，列国一同，自是以衰，周之制也。今大国多数圻也，若无侵小，何以至焉？”晋人曰：“其辞顺。”

孔子闻之，谓子贡曰：“《志》有之：‘言以足志，文以足言。’不言，谁知其志？言之无文，行之不远。晋为伯，郑入陈，非文辞不为功。小子慎哉！”

楚灵王汰侈。右尹子革侍坐，左史倚相趋而过。王曰：“是良史也，子善视之！是能读《三坟》、《五典》、《八索》、《九丘》。”对曰：“夫良史者，记君之过，扬君之善。而此子以润辞不官，不可为良史。”曰：“臣又乃尝闻焉，昔周穆王欲肆其心，将过行天下，使皆有车辙并马迹焉。祭公谋父作《祈昭》，以止王心。王是以获殆于文官。臣问其诗焉而弗知。若问远焉，其焉能知？”王曰：“子能乎？”对曰：“能。其诗曰：‘祈昭之愔愔乎，式昭德音。思我王度，式如玉，式如金。刑民之力，而无醉饱之心。’”灵王揖而入，馈不食，寝不寐，数日，则不能固其情，以及于难。

孔子读志，曰：“古者有志：‘克己复礼为仁。’信善哉！楚灵王若能如是，岂期辱于乾溪？子革之非左史，所以风也。称诗以谏，顺哉！”

叔孙穆子避难奔齐，宿于庚宗之邑。庚宗寡妇通焉，而生牛。穆子返鲁，以牛为内竖，相家。牛馋叔孙二人，杀之。叔孙有病，牛不通其馈，不食而死。牛遂辅叔孙庶子昭而立之。昭子既立，朝其家众，曰：“竖牛祸叔孙氏，使乱大众，杀適立庶，又被其邑，以求舍罪，罪莫大焉！必速杀之！”遂杀豎牛。

孔子曰：“叔孙昭子之不劳，不可能也。周任有言曰：‘为政者不赏私劳，不罚私怨。’《诗》云：‘有觉德行，四国顺之。’昭子有焉。”

晋邢侯与雍子争田。叔鱼摄理，罪在雍子。雍子纳其女于叔鱼，叔鱼弊狱邢侯。邢侯怒，杀叔鱼与雍子于朝。韩宣子问罪于叔向，叔向曰：“三奸同坐，施生戮死，可也。雍子自知其罪而赂以置直，鲋也鬻狱，邢侯专杀，其罪一也。己恶而掠美为昏，贪以败官为默，杀人不忌为贼。《夏书》曰：‘昏、默、贼，杀。’咎陶之刑也。请从之。”乃施邢侯，而尸雍子、叔鱼于市。

孔子曰：“叔向，古之遗直也。治国制刑，不隐于亲。三数叔鱼之罪，不为末，或曰义，可谓直矣。平丘之会，数其贿也，以宽卫国，晋不为暴；归鲁季孙，称其诈也，以宽鲁国，晋不为虐；邢侯之狱，言其贪也，以正刑书，晋不为颇。三言而除三恶，加三利，杀亲益荣，由义也夫！”

郑有乡校，乡校之士非论执政。颍明欲毁乡校。子产曰：“何以毁为也？夫人朝夕退



而游焉，以议执政之善否。其所善者，吾则行之；其所否者，吾则改之。若之何其毁也？我闻忠言以损怨，不闻立威以防怨。防怨，犹防水也。大决所犯，伤人必多，吾弗可救也。不如小决使导之，不如吾所闻而药之。”

孔子闻是言也，曰：“吾以是观之，人谓子产不仁，吾不信也。”

晋平公会诸侯于平丘，齐侯及盟。郑子产贡赋之所承，曰：“昔日天子班贡，轻重以列，列尊贡重，周之制也。卑而贡重者，甸服。郑伯，南也，而使从公侯之贡，惧弗给也。敢以为请。”自日中争之，以至于昏，晋人许之。

孔子曰：“子产于是行也，足以为国基也。《诗》云：‘乐只君子，邦家之基。’子产，君子之于乐者。”且曰：“合诸侯而艺贡事，礼也。”

郑子产有疾，谓子太叔曰：“我死，子必为政。唯有德者能以宽服民，其次莫如猛。夫火烈，民望而畏之，故鲜死焉；水濡弱，民狎而玩之，则多死焉。故宽难。”子产卒，子太叔为政，不忍猛，而宽。郑国多掠盗。”太叔悔之，曰：“吾早从夫子。必不及此。”

孔子闻之，曰：“善哉！政宽则民慢，慢则乱于猛。猛则民残，民残则施之以宽。宽以济猛，猛以济宽。宽猛相济，政是以和。《诗》曰：‘民亦劳止，汔可小康。惠此中国，以绥四方。’施之以宽。‘毋纵诡随，以谨无良。式遏寇虐，惨不畏明。’乱之以猛也。‘柔远能迩，以定我王。’平之以和也。又曰：‘不竞不球，不刚不柔。布政优优，百禄是道。’和之至也。”

子产之卒也，孔子闻之，出涕，曰：“古之遗爱。”

孔子适齐，过泰山之侧，有妇女哭于野者而哀。夫子式而听之，曰：“此哀一似重有忧者。”使子贡往问之，而曰：“昔舅死于虎，吾夫又死焉，今吾子又死焉。”子贡曰：“何不去乎？”妇人曰：“无苛政。”

子贡以告孔子。孔子曰：“小子识之：苛政猛于暴虎！”

晋魏献子为政，分祁氏及羊舌氏之田，以赏诸大夫及其子成，皆以贤举也。又谓贾辛曰：“今汝有力于王室，吾是以举汝。行乎！敬之哉！毋堕乃力。”

孔子闻之，曰：“魏子之举也，近不失亲，远不失举，可谓义矣。”又闻其命贾辛，以为忠：“《诗》云‘永言配命，自求多福’，忠也。魏子之举也义，其命也忠，其长有后于晋国乎！”

赵简子赋晋国一鼓钟，以铸刑鼎，著范宣子所为刑书。孔子曰：“晋其亡乎！失其度矣。夫晋国将守唐叔之所受法度，以经纬其民者也，卿大夫以序守之，民是以能遵其道而守其业。贵贱不愆，所谓度也。文公是以作执秩之官，为被庐之法，以为盟主。今弃此度也，而为刑鼎。铭在鼎矣，何以尊贵？何业之守也？贵贱无序，何以为国？且夫宣子之刑，夷之蒐也，晋国乱制，若之何其为法乎？”

楚昭王有病，卜曰：“河神为祟。”王弗祭。大夫请祭诸郊。王曰：“三代命祀，祭不越望。江、汉、沮、漳，楚之望也。祸福之至，不是过乎？不穀虽不德，河非获罪也。”



遂不祭。

孔子曰：“楚昭王知大道矣，其不失国也宜哉！《夏书》曰：‘维彼陶唐，率彼天常，在此冀方。今失厥道，乱其纪纲，乃灭而亡。’又曰：‘允出兹在兹。’由己率常，可矣。”

卫孔文子使太叔疾出其妻，而以其女妻之。疾诱其初妻之娣，为之立宫，与文子女，如二妻之礼。文子怒，将攻之。孔子舍蘧伯玉之家，文子就而访焉。孔子曰：“簠簋之事，则尝闻学之矣；兵甲之事，未之闻也。”退而命驾而行，曰：“鸟则择木，木岂能择鸟乎？”文子遽自止之，曰：“圉也岂敢度其私哉？亦防卫国之难也。”

将止，会季康子问冉求之战。冉求既对之，又曰：“夫子播之百姓，质诸鬼神而无憾，用之则有名。”康子言于哀公，以币迎孔子，曰：“人之于冉求，信之矣，将大用之。”

齐陈恒弑其简公，孔子闻之，三日沐浴而适朝，告于哀公曰：“陈恒弑其君，请伐之。”公弗许。三请，公曰：“鲁为齐弱久矣，子之伐也，将若之何？”对曰：“陈恒弑其君，民之不与者半。以鲁之众，加齐之半，可克也。”公曰：“子告季氏。”孔子辞，退而告人曰：“以吾从大夫之后，吾不敢不告也。”

子张问曰：“《书》云高宗‘三年不言，言乃雍’。有诸？”孔子曰：“胡为其不然也？古者天子崩，则世子委政于冢宰三年。成汤既没，太甲听于伊尹；武王既丧，成王听于周公。其义一也。”

卫孙桓子侵齐，遇，败焉。齐人乘之，执。新筑大夫仲叔于奚以其众救桓子，桓子乃免。卫人以邑赏仲叔于奚，于奚辞，请曲悬之乐，繁缨以朝。许之，书在三官。子路仕卫，见其故，以访孔子。

孔子曰：“惜也！不如多与之邑。惟器与名不可以假人，君之所司。名以出信，信以守器，器以藏礼，礼以行义，义以生利，利以平民，政之大节也。若以假人，与人政也。政亡则国家从之，不可止也。”

公父文伯之母纺绩不解，文伯谏焉。其母曰：“古者王后亲织玄纁，公侯之夫人加之纁缡，卿之内子为大带，命妇成祭服，列士之妻加之以朝服。自庶士已下，各衣其夫。杜而赋事，絜而献功，男女纺绩，德则有辟，圣王之制也。今我寡也，尔又在下位，朝夕恪勤，犹恐忘先人之业，况有怠堕，其何以避辟？”

孔子闻之，曰：“弟子志之！季氏之妇可谓不过矣。”

樊迟问于孔子曰：“鲍牵事齐君，执政不挠，可谓忠矣，而君刖之，其为至暗乎？”孔子曰：“古之士者，国有道则尽忠以辅之，国无道则退身以避之。今鲍庄子食于淫乱之朝，不量主之明暗，以受大刑，是智之不如葵，葵犹能卫其足。”

季康子欲以一并出法赋焉，使访孔子。子曰：“丘弗识也。”冉有三发，卒曰：“子为国老，待子而行。若之何子之不言？”孔子不对，而私于冉有曰：“求，汝来，汝弗闻乎？先王制土，藉田以力，而底其远近；赋里以人，而量其无有；任力以夫，而议其老幼。于是鰥、寡、孤、疾、老者，军旅之出则征之，无则已。其岁收，田一并出稷禾、秉刍、缶



米，不是过，先王以为足。君子之行，必度于礼，施取其厚，事举其中，敛从其薄。若是其已，丘亦足矣。不度于礼，而贪冒无厌，则虽赋田，将有不足。且子孙若以行之而取法，则有周公之典在；若欲犯法，则苟行之，又何访焉？”

子游问于孔子曰：“夫子之极言子产之惠也，可得闻乎？”孔子曰：“惠在爱民而已矣。”子游曰：“爱民谓之德教，何翅施惠哉？”孔子曰：“夫子产犹众人之母也，能食之，弗能教也”。子游曰：“其事可言乎？”孔子曰：“子产以所乘之舆济冬涉者，是爱无教也。”

哀公问于孔子曰：“二三大夫皆劝寡人，使隆敬于高年，何也？”孔子对曰：“君之及此言，将天下始赖之，岂唯鲁哉！”公曰：“何也？其义可得闻乎？”孔子曰：“昔者，有虞氏贵德而尚齿，夏后氏贵爵而尚齿，殷人贵富而尚齿，周人贵亲而尚齿。虞、夏、殷、周，天下之盛王也，未有遗年者焉。年者，贵于天下久矣，次于事亲，是故朝廷同爵而尚齿。七十杖于朝，君问则席；八十则不仕朝，君问则就之，而悌达乎朝廷矣。其行也，肩而不并，不错则随，斑白者不以其任于道路，而悌达乎道路矣。居乡以齿，而老穷不匮，强不犯弱，众不暴寡，而悌达乎州巷矣。古之道，五十不为甸役，颁禽隆之长者，而悌达乎蒐狩矣。军旅什伍同爵则尚齿，而悌达乎军旅矣。夫圣王之教，孝悌发诸朝廷，行于道路，至于州巷，放于蒐狩，循于军旅，则众感以义，死而弗敢犯。”公曰：“善哉！寡人虽闻之，弗能成。”

哀公问之于孔子曰：“寡人闻东益不祥，信有之乎？”孔子曰：“不祥有五，而东益不与焉。夫损人自益，身之不祥；弃老而取幼，家之不祥；释贤而任不肖，国之不祥；老者不教，幼者不学，俗之不祥；圣人伏匿，愚者擅权，天下不祥。不祥有五，东益不与焉。”

孔子适季孙，季孙之宰谒曰：“君使人假于马，将与之乎？季孙未言。孔子曰：“吾闻之，君取于臣，谓之取；与于臣，谓之赐。臣取于君，谓之假；与于君，谓之献。”季孙色然悟曰：“吾诚未达此义。”遂命其宰曰：“自今已往，君有取之，一切不得复言假也。”

卷 十

曲礼子贡问第四十二

子贡问于孔子曰：“晋文公实召天子，而使诸侯朝焉。夫子作《春秋》，云‘天王狩于河阳’，何也？”孔子曰：“以臣召君，不可以训，亦书其率诸侯事天子而已。”

孔子在宋，见桓魋自为石椁，三年而不成，工匠皆病。夫子慨然曰：“若是其靡也，死不如速朽之愈。”冉子仆，曰：“礼，凶事不豫，此何谓也？”夫子曰：“既死而议谥，谥定而卜葬，既葬而立庙，皆臣子之事，非所豫属也，况自为之哉？”

南宫敬叔以富得罪于定公，奔卫。卫侯请复之，载其宝以朝。夫子闻之曰：“若是其



货也，丧不如速贫之愈。”子游侍曰：“敢问何谓如此？”孔子曰：“富而不好礼，殃也。敬叔以富丧矣，而又弗改。吾惧其将有后患也。”敬叔闻之，骤如孔子，而后循礼施散焉。

孔子在齐，齐大旱，春饥。景公问于孔子曰：“如之何？”孔子曰：“凶年则乘驲马，力役不兴，驰道不修，祈以币玉，祭礼不悬，祀以下牲。此贤君自贬以救民之礼也。”

孔子适季氏，康子昼居内寝。孔子问其所疾，康子出见之。言终，孔子退。子贡问曰：“季孙不疾，而问诸疾，礼与？”孔子曰：“夫礼，君子不有大故，则不宿于外；非致齐也，非疾也，则不昼处于内。是故夜居外，虽吊之可也；昼居于内，虽问其疾可也。”

孔子为大司寇，国廨焚。子退朝而之火所，乡人有自为火来者，则拜之，士一，大夫再。子贡曰：“敢问何也？”孔子曰：“其来者，亦相吊之道也。吾为有司，故拜之。”

子贡问曰：“管仲失于奢，晏子失于俭。与其俱失矣，二者孰贤？”孔子曰：“管仲饘簋而朱紼，旅树而反坫，山节藻梲。贤大夫也，而难为上。晏平仲祀其先祖，而豚肩不揜豆，一狐裘三十年。贤大夫也，而难为下。君子上不僭下，下不逼上。”

冉求曰：“昔文仲知鲁国之政，立言垂法，于今不亡，可谓知礼矣。”孔子曰：“昔臧文仲安知礼？夏父弗蒨逆祀而不止，燔柴于灶以祀焉。夫灶者，老妇之所祭，盛于瓮，尊于瓶，非所柴也。故曰礼也者，由体也。体不备，谓之不成人。设之不当，犹不备也。”

子路问于孔子曰：“臧武仲率师与邾人战于狐貍，遇败焉，师人多丧而无罚，古之道然与？”孔子曰：“凡谋人之军师，败则死之；谋人之国邑，危则亡之，古之正也。其君在焉者，有诏则无讨。”

晋将伐宋，使人觇之。宋阳门之介夫死，司城子罕哭之哀。觇之反，言于晋侯曰：“阳门之介夫死，而子罕哭之哀，民咸悦。宋殆未可伐也。”

孔子闻之曰：“善哉觇国乎！《诗》云：‘凡民有丧，匍匐救之。’子罕有焉。虽非晋国，其天下孰能当之？是以周任有言曰：‘民悦其爱者，弗可敌也。’”

楚伐吴，工尹商阳与陈弃疾追吴师。及之，弃疾曰：“王事也，子手弓而可。”商阳手弓。弃疾曰：“子射诸！”射之。毙一人，箠其弓。又及，弃疾谓之。又及，弃疾复谓之。毙二人，每毙一人，辄掩其目。止其御，曰：“吾朝不坐，燕不与，杀三人亦足以反命矣。”

孔子闻之曰：“杀人之中，又有礼焉。”子路佛然进曰：“人臣之节，当君大事，唯力所及，死而后已。夫子何善此？”子曰：“然，如汝言也。吾取其有不忍杀人之心而已。”

孔子在卫，司徒敬子卒，夫子吊焉。主人不哀，夫子哭不尽声而退。蘧伯玉请曰：“卫鄙俗，不习丧礼。烦吾子辱相焉。”孔子许之。掘中霤而浴，毁灶而缀足，褻于床。及葬，毁宗而躐行也，出于大门。及墓，男子西面，妇人东面，既封而归。殷道也，孔子行之。子游问曰：“君子行礼，不求变俗，夫子变之矣。”孔子曰：“非此之谓也。丧事则从其质而已矣。”

宣公八年六月辛巳，有事于太庙，而东门襄仲卒。壬午犹绎。子游见其故，以问孔子



曰：“礼与？”孔子曰：“非礼也，卿卒不绋。”

季桓子丧，康子练而袵衰。子游问于孔子曰：“既服练服，可以除衰乎？”孔子曰：“无衰衣者不以见宾，何以除焉？”

郑人以同母异父之昆弟死，将为之服，因颜克而问礼于孔子。子曰：“继父同居者，则异父昆弟从为之服；不同居，继父且犹不服，况其子乎？”

齐师侵鲁，公叔务人遇人入保，负杖而息。务人泣曰：“使之虽病，任之虽重，君子弗能谋，士弗能死，不可也。我则既言之矣，敢不勉乎？”与其邻嬖童汪錡乘往奔敌，死焉，皆殓。鲁人欲勿殓童汪錡，问于孔子。子曰：“能执干戈以卫社稷，可无殓乎。”

鲁昭公夫人吴孟子卒，不赴于诸侯。孔子既致仕，而往吊焉。适于季氏，季氏不绋，孔子投绋而不拜。子游问曰：“礼与？”孔子曰：“主人未成服，则吊者不绋焉，礼也。”

公父穆伯之丧，敬姜昼哭；文伯之丧，昼夜哭。孔子曰：“季氏之妇可谓知礼矣！爱而无私，上下有章。”

南宫适之妻，孔子兄之女。丧其姑，而海之壑，曰：“尔毋从从尔，毋扈扈尔。盖櫟以为笄，长尺，而总八寸。”

子张有父之丧，公仪仪相焉。问启颡于孔子，孔子曰：“拜而后启颡，颡乎其颡；启颡而后拜，欣乎其至也。三年之丧，吾从其至也。”

孔子在卫，卫之人有送葬者，而夫子观之，曰：“善哉为葬乎！足以法也。小子识之！”子贡问曰：“夫子何善尔？”曰：“其往也如慕，其返也如疑。”子贡曰：“岂若速返而虞哉？”子曰：“此情之至者也。小子识之！我未之能也。”

卜人有母死而孺子之泣者，孔子曰：“哀则哀矣，而难继也。夫礼，为可传也，为可继也。故哭踊有节，而变除有期。”

孟献子禔，悬而不乐，可御而处内。子游问于孔子曰：“若是则过礼也？”孔子曰：“献子可谓加于人一等矣。”

鲁人有朝祥而暮歌者，子路笑之。孔子曰：“由！尔责于人终无已。夫三年之丧，亦以久矣。”子路出，孔子曰：“又多乎哉，逾月则其善也。”

子路问于孔子曰：“伤哉贫也！生而无以供养，死则无以为礼也。”孔子曰：“啜菽饮水，尽其欢心，斯谓之孝乎。敛手足形，旋葬而无槨，称其财，为之礼。贫何伤乎？”

吴延陵季子聘于上国，适齐。于其返也，其长子死于嬴、博之间。孔子闻之，曰：“延陵季子，吴之习于礼者也。”往而观其葬焉。其敛以时服而已；其圹掩坎，深不至于泉；其葬无盟器之赠。既葬，其封广轮掩坎，其高可时隐也。既封，则季子乃左袒，右还其封，且号之者三，曰：“骨肉归于土，命也。若魂气则无所不之。”而遂行。孔子曰：“延陵季子之礼，其合矣。”

子游问丧之具，孔子曰：“称家有亡焉。”子游曰：“有亡恶于齐？”孔子曰：“有也，则无过礼。苟亡矣，则敛手足形，还葬，悬棺而封。人岂有非之者哉？故夫丧亡，与其哀



不足而礼有余，不若礼不足而哀有余也；祭祀，与其敬不足而礼有余，不若礼不足而敬有余也。”

伯高死于卫，赴于孔子。子曰：“吾恶乎哭诸？兄弟，吾哭诸庙；父之友，吾哭诸庙门之外；师，吾哭诸寝；朋友，吾哭之寝门之外；所知，吾哭之诸野。今于野则已疏，于寝则已重。夫由赐也而见我，吾哭诸赐氏。”遂命子贡为之主，曰：“为尔哭也来者，汝拜之；知伯高而来者，汝勿拜。”既哭，使子张往吊焉。未至，冉求在卫，摄束帛、乘马而以将之。孔子闻之，曰：“异哉！徒使我不成礼于伯高者，是冉求也。”

子路有姊之丧，可以除之矣，而弗除。孔子曰：“何不除也？”子路曰：“吾寡兄弟，而弗忍也。”孔子曰：“行道之人皆弗忍。先王制礼，过之者俯而就之，不至者企而及之。”子路闻之，遂除之。

伯鱼之丧母也，期而犹哭。夫子闻之曰：“谁也？”门人曰：“鲤也。”孔子曰：“嘻！其甚也，非礼也。”

卫公使其大夫求婚于季氏，桓子问礼于孔子。子曰：“同姓为宗，有合族之义，故系之以姓而弗别，缀之以食而弗殊。虽百世，婚姻不得通，周道然也。”桓子曰：“鲁、卫之先，虽寡兄弟，今已绝远矣。可乎？”孔子曰：“固非礼也。夫上治祖祢，以尊尊之；下治子孙，以亲亲之；旁治昆弟，所以教睦也。此先王不易之教也。”

有若问于孔子曰：“国君之于百姓，如之何？”孔子曰：“皆有宗道焉。故虽国君之尊，犹百世不废其亲，所以崇爱也。虽以族人之亲，而不敢威君，所以谦也。”

曲礼子夏问第四十三

子夏问于孔子曰：“居父母之仇如之何？”孔子曰：“寝苫枕干不仕，弗与共天下也。遇于朝市，不返兵而斗。”曰：“请问居昆弟之仇如之何？”孔子曰：“仕弗与同国，衔君命而使，虽遇之不斗。”曰：“请问从昆弟之仇如之何？”曰：“不为魁，主人能报之，则执兵而陪其后。”

子夏问：“三年之丧既卒哭，金革之事无避，礼与？初有司为之乎？”孔子曰：“夏后氏之丧三年，既殡而致仕，殷人既葬而致事，周人既卒哭而致事。记曰：君子不夺人之亲，亦不夺故也。”子夏曰：“金革之事无避，非与？”孔子曰：“吾闻诸老聃曰：鲁公伯禽，有为为之也。今以三年之丧从利者，吾弗知也。”

子夏问于孔子曰：“记云周公相成王，教之以世子之礼。有诸？”孔子曰：“昔者成王嗣立，幼，未能莅政。周公摄政而治，抗世子之法于伯禽，欲王之知父子、君臣之道，所以善成王也。夫知为人子者，然后可以为人父；知为人臣者，然后可以为人君；知事人者，然后可以使人。是故抗世子法于伯禽，使成王知父子、君臣、长幼之义焉。凡君之于世子，亲则父也，尊则君也。有父之亲，有君之尊，然后兼天下而有之，不可不慎也。行



一物而三善皆得，唯世子齿于学之谓也。世子齿于学，则国人观之，曰：‘此将君我，而与我齿让，何也？’曰：‘有父在，则礼然。’然而众知父子之道矣。其二曰：‘此将君我，而与我齿让，何也？’曰：‘有君在，则礼然。’然而众知君臣之义矣。其三曰：‘此将君我，而与我齿让，何也？’曰：‘长长也，则礼然。’然而众知长幼之节矣。故父在斯为子，君在斯为臣。居子与臣之位，所以尊君而亲亲也。在学，学之为父子焉，学之为君臣焉，学之为长幼焉。父子、君臣、长幼之道得，而后国治。语曰：‘乐正司业，父师司成。一有元良，万国以贞。’世子之谓也。闻之曰为人臣者，杀其身而益于君，则为之。况于其以善其君乎？周公优为也。”

子夏问于孔子曰：“居君之母与妻之丧，如之何？”孔子曰：“居处、言语、饮食衍尔，于丧所则称其服而已。”“敢问伯母之丧如之何？”孔子曰：“伯母、叔母疏衰期，而踊不绝地；姑姊妹之大功，踊绝于地。若知此者，由文矣哉！”

子夏问于夫子曰：“凡丧，小功以上，虞、祔、练、祥之祭，皆沐浴。于三年之丧，子则尽其情矣。”孔子曰：“岂徒祭而已哉！三年之丧，身有痍则浴，首有疮则沐，病则饮酒食肉。毁瘠而病，君子不为也。毁刚死者，君子为之无子。则祭之沐浴，为齐洁也，非为饰也。”

子夏问于孔子曰：“客至无所舍，而夫子曰：‘生于我乎馆。’客死无所殡矣，夫子曰：‘于我乎殓。’敢问礼与？仁者之心与？”孔子曰：“吾闻诸老聃曰：‘馆人，使若有之，恶有之而不得殓乎？’夫仁者，制礼者也，故礼者不可不省也。礼不同不异，不丰不杀，称其义以为之宜。故曰：‘我战将克，祭则受福’，盖得其道矣。”

孔子食于季氏，食祭，主人不辟。不食亦不饮而馐。子夏问曰：“礼也？”孔子曰：“非礼也，从主人也。吾食于少施氏而饱，少施氏食我以礼。吾食祭，而作辞曰：‘疏食，不足祭也。’吾馐，而作辞曰：‘疏食，不敢以伤吾子之性。’主人不以礼，客不敢尽礼；主人尽礼，则客不敢不尽礼也。”

子夏问曰：“官于大夫，既升于公，而反为之服，礼与？”孔子曰：“管仲遇盗，取二人焉，上为之公臣，曰：‘所以游解者，可人也。’公许，管仲卒，桓公使为之服。官于大夫者为之服，自管仲始也，有君命焉！”

子贡问居父母丧。孔子曰：“敬为上，哀次之，瘠为下。颜色称情，威容称服。”曰：“请问居兄弟之丧。”孔子曰：“则存乎书策已。”

子贡问于孔子曰：“殷人既窆而吊于圻，周人反哭而吊于家，如之何？”孔子曰：“反哭之吊也，丧之至也，反而亡矣，失之矣。于斯为甚，故吊之，死，人卒事也。殷以恣。吾从周。殷人既练之明日而祔于祖，周人既卒哭之明日祔于祖。祔，祭神之始事也。周以威。吾从殷。”

子贡问曰：“闻诸晏子，少连、大连善居丧，其有异称乎？”孔子曰：“父母之丧，三日不怠，三月不解，期悲哀，三年忧。东夷之子，达于礼者也。”



子游问曰：“诸侯之世子，丧慈母如母，礼与？”孔子曰：“非礼也。古者男子外有傅父，内有慈母，君命所使教子者也。何服之有？昔鲁孝公少丧其母，其慈母良。及其死也，公弗忍，欲丧之。有司曰：‘礼，国君慈母无服。今也君为之服，是逆古之礼而乱国法也。若终行之，则有司将书之，以示后世。无乃不可乎？’公曰：‘古者天子丧慈母，练冠以燕居。’遂练以丧慈母。丧慈母如母，始则鲁孝公之为也。”

孔子适卫，遇旧馆人之丧，入而哭之哀。出，使子贡脱骊以赠之。子贡曰：“所于识之丧，不能有所赠。赠于旧馆，不已多乎？”孔子曰：“吾向人哭，遇一哀而出涕。吾恶夫涕而无以将之。小子行焉！”

子路问于孔子曰：“鲁大夫练而杖，礼也？”孔子曰：“吾不知也。”子路出，谓子贡曰：“吾以为夫子无所不知，夫子亦徒有所不知也。”子贡曰：“子所问，何哉？”子路曰：“由问：‘鲁大夫练而杖，礼与？’夫子曰：‘吾不知也。’”子贡曰：“止，吾将为你问之。”遂趋而进，曰：“练而杖，礼与？”孔子曰：“非礼也。”子贡出，谓子路曰：“子谓夫子而弗知之乎？夫子徒无所不知也。子问非也。礼，居是邦，则不非其大夫。”

叔孙武叔之母死，既小敛，举尸者出户。武叔从之出户，乃袒，投其冠而括发。子路叹之。孔子曰：“是礼也。”子路问曰：“将小敛，则变服。今乃出户，而夫子以为知礼，何也？”孔子曰：“由！汝问非也。君子不举人以质士。”

齐晏桓子卒，平仲粗衰斩，直经带，杖，以菅屨，食粥，居倚庐，寝苫枕草。其老曰：“非大夫丧父之礼也。”晏子曰：“唯卿大夫。”

曾子以问孔子。孔子曰：“晏平仲可谓能远害矣。不以己之是驳人之非，愁辞以避咎，义也夫！”

季平子卒，将以君之珪璜敛，赠以珠玉。孔子初为中都宰，闻之，历阶而救焉，曰：“送而以宝玉，是犹曝尸于中原也，其示民以奸利之端，而有害于死者，安用之？且孝子不顺情以危亲，忠臣不兆奸以陷君。”乃止。

孔子之弟子琴张，与宗鲁友。卫齐豹见宗鲁于公子孟紫，孟紫以为参乘焉。及齐豹将杀孟紫，告宗鲁使行。宗鲁曰：“吾由子而事之，今闻难而逃，是僭子也。子行事乎，吾将死以周事子，而归死于公孟，可也。”齐氏用戈击公孟，宗以背蔽之，断肱，中公孟、宗鲁，皆死。

琴张闻宗鲁死，将往吊之。孔子曰：“齐豹之盗，孟紫之贼也，汝何吊焉？君子不食奸，不受乱，不为利病于回，不以回事人，不盖非义，不犯非礼。汝何吊焉？”琴张乃止。

邝人子蒲卒，哭之，呼灭。子游曰：“若是哭也，其野哉！孔子恶野哭者。”哭者闻之，遂改之。

公父文伯卒，其妻妾皆行哭失声。敬姜戒之曰：“吾闻好外者，士死之；好内者，女死之。今吾子早夭，吾恶其以好内闻也。二三妇人欲供先祀者，请无瘠色，无挥涕，无拊膺，无哀容，无加服，有降服，从礼而静，是昭吾子也。”



孔子闻之曰：“女智无若妇，男智莫若夫。公父氏之妇，智矣！剖情损礼，欲以明其子为令德也。”

子路与子羔仕于卫，卫有蒯聩之难。孔子在鲁闻之，曰：“柴也其来，由也死矣。”既而卫使至，曰：“子路死焉。”夫子哭之于中庭。有人吊者，而夫子拜之。已哭，进使者而问故，使者曰：“醢之矣。”遂令左右皆覆醢，曰：“吾何忍食此！”

季桓子死，鲁大夫朝服而吊。子游问于孔子曰：“礼乎？”夫子不答。他日，又问。子曰：“始死则矣。羔裘、玄冠者，易之而已，女何疑焉？”

孔子有母之丧，既练，阳虎吊焉。私于孔子曰：“今季氏将大殓境内之士，子闻诸？”孔子答曰：“丘弗闻也。若闻之，虽在衰经，亦欲与往。”阳虎曰：“子谓不然乎？季氏殯士，不及子也。”阳虎出，曾点问曰：“答之何谓也？”孔子曰：“已则衰服，犹应其言，示所以不非也。”

颜回死，鲁定公吊焉，使人访于孔子。孔子对曰：“凡在封内，皆臣子也。礼，君吊其臣，升自东阶，向尸而哭，其恩赐之施，不有竿也。”

原思言于曾子曰：“夏后氏之送葬也，用盟器，示民无知也；殷人用祭器，示民有知也；周人兼而用之，示民疑也。”曾子曰：“其不然矣！夫以盟器，鬼器也；祭器，人器也。古之人胡为而死其亲也？”

子游问于孔子，子曰：“之死而致死乎，不仁，不可为也；之死而致生乎，不智，不可为也。凡为盟器者，知丧道也，备物而不可用也。是故竹不成用，而瓦不膝，琴瑟张而不平，笙竽备而不和，有钟磬而无簋虞。其曰盟器，神明之也。哀哉！死者而用生者之器，不殆于用殉乎？”

子罕问于孔子曰：“始死之设重，何为？”孔子曰：“重，主道也。殷主缀重焉，周人彻重焉。”“请问丧朝。”子曰：“丧之朝也，顺死者之孝心，故至于祖考庙而后行。殷朝而后殯于祖，周朝而后遂葬。”

孔子之守狗死，谓子贡曰：“路马死，则藏之以帷，狗则藏之以盖。汝往埋之。吾闻弊帟不弃，为埋马也；弊盖不弃，为埋狗也。今吾贫无盖。于其封也，与之席，无使其首陷于土也。”

曲礼公西赤问第四十四

公西赤问于孔子曰：“大夫以罪免卒，其葬也如之何？”孔子曰：“大夫废其事，终身不仕，死则葬之以士礼。老而致仕者，死则从其列。”

公仪仲子嫡子死，而立其弟。檀弓问子服伯子曰：“何居？我未之前闻也。”子服伯子曰：“仲子亦犹行古人之道。昔者文王舍伯邑考而立武王，微子舍其孙廪，立其弟衍。”子游以闻诸孔子。子曰：“否，周制立孙。”



孔子之母既丧，将合葬焉。曰：“古者不祔葬，为不忍先死者之复见也。《诗》云：‘死则同穴。’自周公已来祔葬矣。故卫人之祔也，离之，有以闻焉。鲁人之祔也，合之，美夫！吾从鲁。”遂合葬于防。曰：“吾闻之，古墓而不坟。今丘也，东西南北之人，不可以弗识也。吾见封之若堂者矣，又见若坊者矣，又见履夏屋者矣，又见若斧形者矣。吾从斧者焉。”于是封之，崇四尺。

孔子先反虞，门人后，雨甚至，墓崩，修之而归。孔子问焉，曰：“尔来何迟？”对曰：“防墓崩。”孔子不应。三云，孔子泫然而流涕曰：“吾闻之，古不修墓。”及二十五月而大祥，五日而弹琴不成声，十日过禫而成笙歌。

子游问于孔子曰：“葬者涂车刍灵，自古有之。然今人或有偶，是无益于丧。”孔子曰：“为刍灵者善矣。为偶者不仁，不殆于用人乎？”

颜渊之丧，既祥，颜路馈祥肉于孔子。孔子自出而受之。人，弹琴以散情，而后乃食之。

孔子尝，奉荐而进，其亲也恣，其行也趋趋以数。已祭，子贡问曰：“夫子之言祭也，济济漆漆焉。今夫子之祭，无济济漆漆，何也？”孔子曰：“济济者，容也远也；漆漆者，自反。容以远若容以自反，何神明之及交？必如此，则何济济漆漆之有？反馈乐成，进则燕俎，序其礼乐，备其百官，于是君子致其济济漆漆焉。夫言岂一端而已哉？亦各有所当也。”

子路为季氏宰。季氏祭，逮昏而奠，终日不足，继以烛。虽有强力之容，肃敬之心，皆倦怠矣。有司跛倚以临，其为不敬也大矣。他日，子路与焉。室事交于户，堂事当于阶。质明而始行事，晏朝而彻。孔子闻之，曰：“以此观之，孰谓由也而不知礼？”



徐偃王志

〔清〕徐时栋 撰

卷 首

徐得国传二千年，几与夏、商、周相终始，将必有左史、右史之记焉。秦燔《诗》、《书》，诸侯史记尤甚，邦国之志，百国春秋，荡无孑遗，可胜悼哉！典午之代，有《徐偃王志》，不知作家。揆厥文义，非出周秦，而亦亡矣。爰溯偃王受姓所由来，以迄其子孙失国，经传史子采而辑之，著其系本，考其都邑、冢茔，记其祠庙之在浙东、西者，而终之以辨难之词，仍厥旧名，勒为卷帙，愧无知官之明，聊避数典之诮，作《徐偃王志》。

卷 一

记事第一上

邃古之初，有少典氏国焉。少典娶于有娇，爱产轩辕，是为黄帝，实姬姓。

黄帝元妃嫫祖，产青阳。青阳，方雷氏之甥也，厥名曰质，是为少昊，实己姓。

少昊之裔娶帝颛顼之裔女修。女修方织，玄鸟陨卵，取而吞之，生子大业。大业取少典氏，曰女华。生大费，是为伯爵，佐禹治水，海外山表，靡远不至，是著《山海经》。逮禹告成功于舜曰：“非予能成，亦大费为辅。”舜是锡之玄玉，妻之以姚。命之曰：“咨尔费，赞禹功，其赐尔皂游。尔后嗣将大出。”大费为舜虞能议百物鸟兽，咸若实，始锡为嬴姓。



大费生大廉、若木。大廉玄孙曰中衍，是鸟身而人言，是御夏帝大戊，以及蜚廉。蜚廉生恶来、季胜。恶来有后曰非子，周孝王以封之秦，是为秦祖。传至秦政，是以暴灭周。季胜之裔造父，周穆王赐以赵城，是为赵祖，是其后代晋有国。若木事夏后氏，是始封于徐，是始主淮夷，是与秦、赵同出嬴姓。若木有后曰费昌，生夏桀之世，观乎河上有二日焉。东日殆起，西日将灭，若疾雷之声。乃问冯夷曰：“曷殷曷夏？”冯夷曰：“西日夏也，东日殷也。”于是去夏归殷，是为汤御右，以败桀于鸣条。

徐国始封逮商、周，子孙相继，君徐不革，三十二世。当周穆之代，君诞即位。

初，先君宫人有娠，弥月，生而胞不坼，以为不详，弃诸水滨。独孤母有犬鹄仓，猎其所，衔而归，异焉。暖之成儿。先君命取而来，有文在手，曰：“偃”，是君徐国，号曰偃王，为政而行仁义。

穆王六年春，君朝于京师。是时徐戎方偃，天子分东方诸侯，使君主之，是始锡命为伯。君通沟陈、蔡之间，得朱弓朱矢。

徐处汉东，地方五百里。既受命天子，乃弛戈甲之备，坠城池之险，修行仁义。被服慈惠，视物如伤，以怀诸侯。诸侯贡玉帛死生之物于我者，三十有六国。是共戴君为王。

于是楚王孙厉谓楚子曰：“汉东诸侯三十六国，胥服徐矣，不伐，楚必事徐。”楚子曰：“偃王有道，好行仁义，不可伐。”王孙厉曰：“臣闻大之伐小，强之伐弱，犹石之投卵也，犹大鱼之吞小鱼也，犹虎之啖豚也，又何疑焉！且夫文不达德，武不任力，乱莫大焉。”楚子曰：“善。”

穆王三十五年，楚人伐我。君曰：“吾闻之也，君子不处危邦，贤者不顾荣禄。吾其去之。”去之彭城，民从之者数万人，居之，是为徐山。

于后君乃之越，过会稽之水，投玉几砚焉。遂老于甬东，既薨，是葬之隐学之山，群臣谥之曰隐王。君将薨，叹曰：“吾赖文德而不修武备，好行仁义之道，而不知诈人之心，以至于此。夫古之王者，其有备乎？”

初，君娶于姜氏，生宗。及灭于楚，天子闻之大怒，令毛伯迁帅师伐楚，师败之于涉而复徐。后立宗而还越。三百年当惠王之世，是始著于鲁之《春秋》，是为春秋之徐。



卷 二

记事第一下

惠王九年秋，宋人、齐人、鲁人伐我。

惠王二十年夏，取舒。

襄王七年春，楚人伐我。三月，齐桓公盟诸侯于牡丘，遂次于匡，诸侯之大夫帅师救我。秋七月，齐师、曹师伐厉。九月，诸侯归自会。冬十月，及楚师战于娄林，我师败绩。

惠之九年，我有诸侯之师。即成，以女妻齐桓公。及桓公将观兵召陵，使我取舒以通道于楚。楚人恶我之即诸夏也，寻师于我。桓公既为牡丘之盟，使大夫援之。师退而楚师至，是以有娄林之败。

襄王八年夏，齐师伐厉。冬十二月，齐侯及诸侯会于淮。

襄王九年春，君会齐侯伐英氏，以报娄林之役。

齐管夷吾以闻诸吾君者告桓公。一曰，闻之于徐伯曰：昔者有道之君，敬其山川宗庙社稷，及至先故之大臣，收聚以忠而大富之。固其武臣，宜用其力。圣人在前，卢廉在侧，竞称于义。上下皆饰，形正明察。四时不贷，民亦不忧。五谷蕃殖，外内均和，诸侯臣伏，国家安宁，不用兵革。受其币帛，以怀其德。昭受其令，以为法式。此亦可谓昔者有道之君也。二曰，闻之于徐伯曰：昔者无道之君，大其宫室，高其台榭，良臣不使，谗贼是舍。有家不治，借人为图。政令不善，墨墨若夜。辟若野兽，无所朝处。不修天道，不鉴四方。有家不治，辟若生狂，众所怨诅，希不灭亡。进其谀优，繁其钟鼓，流于博塞。戏其工瞽，诛其良臣，敖其妇女，獫狁毕弋，暴遇诸父。驰骋无度，戏乐笑语。式政既揉，刑罚则烈。内削其民，以为攻伐，辟犹漏釜，岂能无竭，此亦可谓昔者无道之君矣。三曰，闻之于徐伯曰：昔者有道之臣，委质为臣，不宾事左右。君知则仕，不知则已。若有事，必图国家，遍其发挥。循其祖德，辨其顺逆，推育贤人，谗慝不作。事君有



义，使下有礼，贵贱相亲，若兄若弟。忠于国家，上下得体，居处则思义，语言则谋谏。动作则事，居国则富，处军则克，临难据事，虽死不悔。近君为拂，远君为辅，义以与交，廉以与处。临官则治，酒食则慈，不谤其君，不毁其辞，君若有过，进谏不疑，君若有忧，则臣服之，此亦可谓昔者有道之臣矣。四曰，闻之于徐伯曰：昔者无道之臣，委质为臣，宾事左右。执说以进，不薪亡己，遂进不退，假宠鬻贵。尊其货贿，卑其爵位，进曰辅之，退曰不可，以败其君，皆曰非我，不仁群处，以攻贤者。见贤若货，见贱若过，贪于货贿，竞于酒食，不与善人，惟其所事，倨敖不恭。不友善士，谗贼与斗，不弥人争，唯趣人谄，湛溺于酒，行义不从，不修先故，变易国常。擅创为令，迷惑其君，生夺之政，保贵宠矜。迁损善士，捕援货人，人则乘等，出则党骈，货贿相入，酒食相亲，俱乱其君。君若有过，各奉其身。此亦谓昔者无道之臣。桓公善之。

襄王三十二年冬，君伐莒。

简王二年，吴人伐我。初，楚子重构怨于申公巫臣，巫臣奔晋，子重尽杀其族。巫臣自晋遗之书曰：“余必使尔罢于奔命以死。”故通吴于晋，教之叛楚，以伐楚与国。我于是乎有吴师，楚子重帅师教我。

简王十二年冬十二月，邾定公卒。君使容居往吊，舍，曰：“寡君使容居坐舍，进侯玉。其使容居以舍。”邾有司曰：“诸侯之来辱敝邑者，易则易，于则于。易于杂者，未之有也。容居对曰：“容居闻之，事君不敢忘其君，亦不敢遗其祖。昔我先君驹王西讨，济于河，无所不用斯言也。容居鲁人也，不敢忘其祖。”

景王元年，吴子以我婚于吴，故使公子季札来聘。带宝剑，君色欲之。其年君薨于楚，太子即位。季子既西聘还，过我，脱剑而致之嗣君。从者曰：“此吴国之宝，赠之何也？”季子曰：“非赠之也。昔者之来，徐君视吾剑不言。吾视其色欲之，有上国之使，是以未之献也。虽然，吾心许之矣。今死而不进，是欺心也。爱剑而欺心，廉者不为也。”遂脱剑而致之嗣君。君曰：“先君未有命焉，孤不敢受剑。”季子乃带剑于先君之墓树。御者曰：“徐君已死，谁为带乎？”季子曰：“吾心许之矣，不可以君死倍吾心。”卒带而去。徐人歌之曰：“延陵季子兮，不忘故。脱千金之剑兮，带丘墓。”

景王七年夏六月，丙午，君会楚子、蔡侯、陈侯、郑伯、许男、滕子、顿子、胡子、沈子、小邾子、宋世子佐、淮夷于申。是时，楚子始会诸侯而无礼，谓宋世子后至，君，吴出也，谓贰于吴，狎君而囚世子焉。中射士谏曰：“合诸侯不可以无礼。”不听，遂止君。既而释之。



景王八年冬，大夫会楚子、蔡侯、陈侯、许男、顿子、沈子、徐人、越人伐吴。

景王九年，君使大夫仪楚聘于楚，楚子执之。仪楚逃来。楚人惧我之即吴也，使蓬洩帅师伐我。吴人救我，楚令君子荡伐吴，师于豫章，而次于乾谿，吴人败之于房钟，获宫厩尹弃疾。

景王十五年，梦人以未得志于我也，冬十月，使荡侯、潘子、司马督、鬬尹午、陵尹喜帅师伐我，遂围之。且惧吴也，楚子次于乾谿。以为之援。

景王十六年，夏四月，楚比弑其君于乾谿，五帅解围而去，吴人败诸豫章，获之。

景王十九年春，齐侯伐我。二月丙申，至于蒲隧，及齐平，君会齐侯、邾人、莒人，盟于蒲隧，赂齐侯以甲父之鼎。鲁叔孙昭子曰：“诸侯之无伯，害哉！齐君之无道也，兴师而伐，远方会之，有成而还，莫之亢也。无怕也夫。诗曰：‘宗周既灭，靡所止戾。正大夫离居，莫知我肆。’其是之谓乎！”

景王二十二年春二月，宋公伐邾，围虫三月取之。夏五月，君及邾人、郚人、徐人会宋公。乙亥，同盟于虫。

敬王八年冬十二月，吴人伐我。敬之五年，吴子僚因楚丧，而使其母弟公子掩余、公子烛庸率师伐楚。楚师强，吴师不能退。吴公子光起而争立，享僚而使置设诸杀之。掩余来奔，烛庸奔钟吾。光既立，使我执掩余，使钟吾人执烛庸。二公子奔楚，楚子封之于养，取于城父胡田以与之。光怒，执钟吾子，而帅师伐我。防山以水我。己卯，国亡。我君章羽断其发，携夫人以逆光。光唁君而送之，使迹臣从之，遂适楚。楚沈尹戌帅师救我，弗及。乃城夷，使君处之。

周天子既复徐后，徐，小国也，邻强楚，遂服事之。泊齐桓公将有事于楚，首及与国。会鲁、宋伐徐，徐于是乎著于《春秋》。泊为昏姻，附齐者三十年。齐伯既衰，徐复入楚，终五十年。历顷、匡、定三世，徐无边遽之警。简王之初，寿梦艳巫臣之知，与楚争淮，徐于是乎被吴兵。既成徐而女之，恤其患难，为之伐楚。徐摄两大之间，未敢叛楚也。楚人不道，会弑其君，聘执其臣，徐于是乎舍楚而即吴。齐景有志，代兴慨然。念桓灵之及远，将挹楚先之威徐，是故劳师伐远，于是乎有蒲隧之役。吴人以为淮之西北，齐不足以有之，置焉弗亢。是时楚方迁阴城郛，不在诸侯。徐于是乎可以事吴而少安，而吴



卒以篡弑之故，不克殀遗孽以快其欲，而迁怒于徐，而徐亡矣。其始亡也，逮乎后亡，四百五十有余年。始为楚有，惠襄之世，齐人得之而不终。简王以后，吴楚争之，而卒为吴灭，此其大较也。

夏始封徐，迄乎周敬之世，凡四十有余君，享国千六百有余年。

徐之公族子弟，暨其子孙，散居四方，以国为氏，有徐氏，是为嬴之著姓，偃王诸子。以采邑为氏，有封贝氏、取虑氏，其支国封钟离，盖与偃王同灭于楚。鲁昭之世，是为吴有。有钟氏、离氏、钟黎氏、终犁氏。以姓为氏，有嬴氏。其本于徐者，有虫氏，李氏。

徐氏十望，其九皆本偃王。其他商人六族，周成王以之赐鲁，有徐氏。淮水之戎，常害周室，是为徐戎，有徐氏。赤狄之种，有徐国，隗姓，以国氏，有徐氏。尧之支裔，灭秦而王，为汉。汉之同姓，有徐氏。黄帝少子禺阳封于任，其裔封薛。薛灭于楚，为薛氏，子孙有徐氏，皆非偃王族类云。

卷 三

世系第二

昔周之王也，立小史之官，是定世系，以辩昭穆。秦并天下，焚弃典籍，公侯子孙，失其本系。汉兴，得《世本》，叙黄帝以来祖世所出。逮汉而有官谱。晋继之作，是有挚虞《族姓昭穆记》。宋、齐之间，谱谍滋广，掌于官府。其后乃竞行奸货，以新易故。易贱而贵，易浊而清。沈约以奏梁武，梁武乃诏儒臣甄别而改定之，是有王僧儒《百家谱》。今皆亡灭，莫可考究。

偃王子孙，散处四方。西汉之季，其裔元泊避王氏之难，是卜居会稽之太末。会稽太末，为今衢州龙游。元泊二十七世孙曰行周，在唐僖、昭之间，是迁今台州天台。宋室南渡，其十七世孙应汉，是始迁鄞。是载其家乘以至是，为北宋《徐氏谱》，以传至今。周秦源流，悉具于牒，荒远渺忽，敢以征信。

《百家谱》著录于隋唐之史，亡于赵宋。而幸徐氏之《表》，具见他书。用相比较，大略不异。乃其似续更详乎我。自偃王上溯，以至始封，夏商之代，无有阙失。夫宗祖遗牒，尚疑周秦，况溯权舆，能无感哉！今弗敢从，亦弗敢弃，是用图系厥世，迄乎先秦，以存五代之久。



右自偃王至谿，凡二十九世，三十有二人，悉本北宋《徐氏谱》，而附王氏《百家谱》于下方，明其同异，亦颇辨其得失。《唐·表》所云，时复错见；其详则具北宋《徐氏谱》疏证，兹不复赘云。

卷 四

地理第三

徐国地方五百里，是在今为江苏之徐州，安徽之凤阳，与其泗州。

泗州之北八十里，有古徐城焉。

淮水在其南。

其东南有涑水。

济水迳其北。

其西北有徐陂，历涧之水出焉，而东南流，注于淮。

其北三十二里，则徐君葬焉。是有延陵季子挂剑之台。

淮水西流，濉水自南来注之，是其地为凤阳。其东四里是钟离之故城。钟离，徐所封也。

淮水在其北。

濉水是绕其西南，东而北流入于淮。

钟离在徐城西南，其后为楚有，又其后吴取之。

徐城西北则有取虑之城，是在今徐州睢宁之西。



乌慈水自西来，迳城南又绕其东而北流注于睢水。

睢水在其北，是东流以会泗入于淮。

其东为蒲随，是有蒲如之陂。是地也，徐、齐、郯、莒之所盟也。

又东为娄林，蒲隧在其西，徐城在其西南，是有娄亭，楚人伐徐，于此战之。

徐城之北，是为徐山。是山也，偃王逃战之所栖也。徐人相与群居，是有石室，以祠先王。

徐国南至于淮水，绝淮而西南至于濠水，*东北至于泗水，北至于泗水之北，西北至于徐州，淮夷之所错也，徐戎之所接也。后世是以二而一之，而莫知其误。

徐之始亡，偃王北走徐山，后乃至越之甬东。越在今为浙江，甬东，在今定海厅。

定海之东四十里曰翁山，其上多仙人不死之药，大海环之。

偃王之所避地也，是有故城之基。

在宋乾道，耕氓获铜鼎于山下。其旁有耳，其底无足，而有墨，其量容斗。

徐之后亡楚，是城夷以处徐君章禹，是有城父故城，是在今安徽颍州之亳州东南七十里。

沔水出其北。

夏肥水迳其南，是与沔水分道，东南流而入于淮。

翁山，偃王之所避地也，居人附益之，以为古迹。

战洋在其阴。

凡定海之东，自金旗以至鼓吹，都五山四十里，皆附于偃王。



会稽之翁洲。

龙游之筑溪。

江山之押衙。

太平之古城。

好事者为之也，盖其余小者甚众，不足记云。

徐地图〔由整理者略去〕

卷 五

冢庙第四

由定海航海而西南，是为宁波之鄞，其东南四十有五里，有隐学之山，是实维僊王之墓。

一曰是其初尝居之。

唐代宗之季，王孙浩是来明州，是拓前规，以修王墓。

王之子孙以先王之墓在越，多家于越，是立庙以祀先王，浙是以多王庙。

在杭于潜之西十五里有庙，其南三十里又有之。

杭之东县曰海宁，其西十七里又有之。

嘉兴之秀水有庙，在其县西北，其西新城镇有庙，其北思贤乡又有之。

宁波隐学之山，王葬其所，是有隐学之院。



定海翁山，是偃王所居也，遺城在焉，有庙。

又其一在鼓吹之山。

衢州之龙游，徐为大姓，徐庙是甲于浙中。其南四十里有徐山，一峰卓其东，其下有溪，溪外为庙，庙曰仁惠。

昔唐开元，王孙来官斯土，修而碑之。元和之代，王孙放，是继迹重作，是有韩愈氏之碑。

在宋绍定中，袁甫守衢州，作而新之，请封于朝，是有锡命，封王为灵惠慈仁圣济英烈王，及其夫人曰协济夫人，记而碑之。

爱逮明室，相继改作。其祠礼，县令以正月二十日，用特。《龙游祠祀志》曰：元至正间，毁于火。入明，重建。嘉靖中，毁。隆庆六年，知县涂杰重建。其祀典，县官岁以正月二十日，用特性。

其东三十五里，则有龙泉之庙。

东华、湖镇、沐尘、锦溪各有支庙，暨其乡隅，亦各有支庙。《龙游祠祀志》曰：东华、湖镇、沐尘、锦溪并有祠，与灵山相埒，它则诸乡鄙并有之。土人供伏腊，咸于是。

正月二十日，衢人谓是日也王生，是饰羽旄钟鼓之盛，與其杜神，以登东华之山，以为王寿。

凡在龙游五百有余庙。

自龙游而西南为郡，又西南则有江山之县。县东二十里为渐山，有庙。是其旁有三泉焉，早则祷之。

其在台之太平，则庙于古城之东，是在其县西北三十有五里。



在寿昌县东长岭有行祠，县西六都有庙，曰大同。

立于无锡者，在其县南二十五里，近庙之山曰庙山。

他如徐杜隰之二庙，江山县之十余庙，龙游县之别庙，及在僻处者尤多，不可尽考。

卷 六

论说第五

第一，论《路史》说若木君费之妄

《史记》载舜命益之词曰：“咨尔费”，是以费为伯益之名矣。《竹书纪年》称：“费侯伯益”，是以费为伯益之国矣。两说相歧，莫能定一。罗氏哓哓辨伯益、伯爵为二人，今日伯爵封费，据《竹书》乎，则合益、爵为一，显与己说矛盾。不据《竹书》乎，则罗氏生赵宋之世，去唐虞远之又远，安从知之？然此犹依违之说，不足深诤。而伯益之子若木，则凡在《路史》以前诸书，若《百家谱》、《广韵》、《姓纂》、《唐书》之属，靡不云封徐者，而罗氏忽自立一说，曰若木事夏，袭爵之封，谁告之？则必有执《史记》以相难者。《史》曰：大费生子二人：一曰大廉，实鸟俗氏。二曰若木，实费氏。又曰若木玄孙曰费昌。是盖罗氏之所本，夫《史》固以费为名者也，罗氏方以为国，何得反据《史记》？且由《史》说观之，费为国名，将无鸟俗亦国名耶？实费氏者，是言费氏之所自出，非若木即费氏也。正如楚国半姓，史明载为周成王封熊绎之日，而《帝系》及《世本》叙陆终之子季连曰“是为半姓，亦是言半姓所自出耳。或曰费昌、费仲，若木支子之后，所谓以王父字氏者；或曰即是徐国之君，徐为国名而费为君号，若楚为国名而熊为君号者然；或曰益封费，益子若木封徐，而益他子有袭费封者，费昌、费仲其后也。然年代荒远，不可周知，费之果为国名？为人名？费昌、费仲果为徐国君？为费国君？或非国君而为氏费之人？皆莫能决，而若木袭费封，则断断乎为罗氏之臆说而无疑也。又按《墨子》云：夏后开使蜚廉折金于山。或谓蜚廉即大廉，蜚与费通，据此则即从《竹书》，以费为国，其嗣君亦当是大廉，安得漫无考索，而以若木为费君耶！

第二，论《路史》说夏王封调于徐之妄

若木封徐之说，虽始见于齐、梁以后书，然记载之笔，众口同声，则必有所由本。特



书缺有间，无从知其原始耳。今罗氏既辟众说，以若木为费国继续之君，然则安从而有徐国乎？于是特地为徐造始封之君曰调，造始封之爵曰伯，造始封之时曰夏，大书特书之曰：“其立于淮者为嬴氏。”按其文义，似所谓调，乃若木之后也者，又似非若木之后也者，又似嬴氏是始于调也者，遁辞游说，真可谓离奇而恍惚矣。而世之妄人为徐氏谱者，遂私造世系，于夏初则大书调名，以为始封之祖。故余每阅徐氏谱，凡有调名者，即弃去弗览。童时作《月湖徐氏家乘》，即已疑之，然不敢辟之，以为泌既作书，岂敢白日梦吃，创立名号？因故附载其说于下，乃积十余年而此疑始豁然解也。《水经徐县注》曰：《地理志》曰：临淮郡，汉武帝元狩五年置，治徐县。王莽更之曰淮平，县曰徐调国也。夫但曰“徐调国”，则未知其为夏封欤？商封欤？周封欤？确凿之曰：夏世有调，已为大妄。《地理志》非他，班固《汉书》之《地理志》也。泌既著书立说，据《水经注》为文，宜取其所引原书略考之。《地理志》曰：“临淮郡，武帝元狩六年置，莽曰淮平。又曰：县二十九，徐，故国，盈姓，至春秋时，徐子章禹为楚所灭。莽曰：徐调。”是正与改黎县为黎治，莒县、陈县为莒陵、陈陵，郾县、驺县为郾亭、驺亭之属同，一纷更可笑。若“调”为徐始封之君，则“治”与“陵”与“亭”，皆将为五国分茅之祖耶？泌胡不据而改正之？既考原书，复取《水经注》覆视之，则“王莽更之曰淮平”为句，“县曰徐调”为句，而“国也”二字，或误或衍，或有脱文，皆不待智而博者，始能知之，而乃略不加察，遂据讹本，自造三代典故，其卤莽若此。武英殿刻《水经注》，是改正之曰：“王莽更之曰淮平，县曰徐调，故徐国也。”注曰：近刻脱“故徐”二字。而赵氏一清校《水经注》曰《汉书·地理志》曰：徐，故国，莽曰徐调。《寰宇记》引《班志》云：故徐国也。此文“徐调”下落“故徐”字，精明详慎，真熙朝儒者之言。又按：王冰《黄帝经序》称：黄帝九子，二曰金天，封荆，三曰挈，封青。四曰青阳，封徐。夫挈者，擎之误也，金天、擎、青阳，同是一人即是。

第三，论王逸说周宣封于徐之谬

《松高》之诗曰：“亶亶申伯，王纘之事。于邑于谢，南国是式。”又曰：“申伯番番，既入于谢。”谢也，非徐也。谢为中国封内之境，宣王命召伯城谢，使居之，故曰“于邑于谢。”又曰“王命召伯，定申伯之宅。”谢者，城邑也，非封国也。《汉·地理志》：南阳郡，有县三十六，其首曰宛，故申伯国。有屈申城。而其支县曰棘阳，棘阳东北有谢城，地去徐之在淮泗间者甚远，岂得混而一之？《易林》大畜之中孚：“周公禘，谢。”“谢”字与“安宁如故”“故”字为韵；左思《魏都赋》：“慎墨而谢”，“谢”字与“神蕊形茹”“茹”字为韵，盖古者徐、谢二字音近，故有此误。齐、鲁、韩诗未亡时，或有作“既入于徐”者，然不过诗之异文，而即据为典要，王氏之疏矣。且申侯爵而姜姓，徐子爵而嬴姓，此其谬误无待深论。



第四，论偃王名号

以诞为名，据之《竹书》，无可疑者。偃王之称，周秦人无解之者。而生号当时所无，自当从王逸说，以偃为谥。特谥法无偃安。北宋《谱》称：谥之曰隐，与《人表》合，则偃、隐声近，周秦人称偃王，或即隐王之假借，后人因而传之耳。史册湮亡，年代湮远，莫能征信，姑以传疑。王厚斋《因学纪闻》以《檀弓》“驹王”，谓即偃王，盖据西讨济河，以合夫《后汉书》之至于河上，然《后汉》说，未可尽信，辨语见下。若罗氏康王之说，则又其妄也。罗氏于此既云“偃即康王”，而下叙宋事，复曰：“武王封微子为周客，三十有二世君偃不道”。自注云：偃谥康，见《吕览·国事》。宋偃谥康，既注所出，然则徐偃之为康王，何以不明厥由来乎？“三十二世”同，“君偃”同，遂为之同谥曰康，泌多妄说，不足诘也。至其称王，则亦有说。徐、楚介在蛮夷，欲统摄与国，则必崇奉其号，而于朝聘会同之往来，仍依其本爵，未尝有加礼也。犹之鲁为侯爵，于其本国则称公，鲁《春秋》书“公”，夫子不之追改也。故齐桓召陵，责包茅不责王号，晋人绝秦，且大声曰“楚三王”，绝不为讳，亦不以为嫌，此皆揆之情事，想当然者，知不免为说名谭理君子之所呵矣。

第五，论汉晋人说徐偃王作乱，周穆王命楚伐徐之谬

此千古冤狱也，倡自迁史，诸儒从而和之，毁与誉者，属和同声，岂惟曦偃，抑县诬穆。司马迁曰：一日千里以救乱，又曰：日驰千里马，攻而大破之。王符曰：一日千里以征之，谗周闻而笑曰：王者行有周卫，岂闻乱而独长驱，日行千里乎？且作乱与反，必有迹焉，寇京师乎？贼邻国乎？胡不指而陈之？乃若《后汉》之说，则更有大不可通者。夫率九夷以伐周，是反乱也，此时不图，而曰“畏其方炽”，至乎行仁义以朝诸侯，无叛迹也，而遽讨之，岂所以权胜败者，即在此骥骤之乘得与未得乎？反乱者，贼仁害义者也。伯者尊王，犹曰假仁仗义，既反乱矣，谓之行“仁义”可乎？既曰“无权”，向何以率九夷？既曰“不忍斗”，向何以伐周？骥骤之乘，不过八骏，今屏其贰车而八人者千里赴楚，昭王之不复，不其殷鉴哉？淮南王多读中秘典籍，招致宾客数千，作内外书，成帝求天下遗书，刘子政实司校讎，经传、诸子靡不览观；王仲任过目成诵，博通众流百家之言，三子者之闻见，亦足以敌子长节信，而《淮南·人间训》称：偃王行仁义，王孙厉说楚庄而灭之。《说苑·指武篇》称：偃王好行仁义，王孙厉劝楚文而残之。《论衡·非韩篇》称：偃王修行仁义，强楚灭之。安先于迁，充并于符，皆绝无徐叛周伐之说，何也？且东方朔《七谏》则亦有之曰：“偃王行其仁义兮，荆文寤而徐亡。”王逸注之曰：言徐偃修行仁义，诸侯朝之三十余国而无武备。楚文王见诸侯朝徐者众，心中觉悟，恐为所并，



因兴兵击之而灭徐也。故《司马法》曰：“国虽强，忘战必危”，盖谓此也。其说可谓详矣，而绝不言周命楚伐又何也？然而以汉难汉，尚不足钳耳食者之口而降其心，则请证之周秦之书。荀子，战国大儒也，其作《非相篇》，称徐偃王，乃冠于仲尼周公、皋陶、闾夭、传说、伊尹、禹、汤、尧、舜，若反矣，作乱矣，毋乃拟人不予伦乎？韩非《喻老篇》曰：夫治国者，则以名号为罪，徐偃王是也；则以城与池为罪，虞就是也。《五蠹篇》曰：古者文王处丰、镐之间，地方百里，行仁义而怀西戎，遂王天下。徐偃王处汉东，地方五百里，行仁义，割地而朝者三十有六国。荆文王恐其害己也，举兵伐徐，遂灭之。故文王行仁义而王天下，偃王行仁义而丧其国，是仁义用古不用于今也。虽其立论不必尽纯，而徐偃王之未尝叛周，与穆天子之未尝征徐，则已拨云雾而睹青天矣。且《穆天子传》，西周史官之书也，后世以为起居注之祖。凡谓宾西王母，得名马与造父御王事，皆详言之，而若史迁之说，绝不之及。又且史迁作《周本纪》纪穆王，凡征犬戎、作吕刑诸事，皆历言之，而若《秦本纪》及《赵世家》之说之不之载，近人有剽窃《绎史》作《尚史》者，直采无稽之说，取偃王以冠周乱臣之首，而不知《绎史》则已载汉晋说而深疑之曰：《史》称造父御王巡狩，见西王母，徐偃王反，日驰千里马攻破之。岂王之贰车，遂足以制胜？抑六师之众，咸有此捷足哉？《史》不录于《周本纪》，亦不过杂采异说以传疑。马氏读书精审若此，而李锴若未见之。虽然叛周伐楚之说，起于子长，子长岂凿空为之哉？则必有所由本，亦必有所由误。乃今读《竹书纪年》，而恍然悟也。《纪年》曰：穆王十三年，徐戎侵洛，冬十月，造父御王入于宗周。十四年，王率楚子伐徐戎，克之。夫徐戎者，徐州之戎也。成王之初，尝反乱矣。《书》所谓“淮夷徐戎并兴”者。而《纪年》载之曰：成王二年，奄人、徐人及淮人，入于郟以叛。宣王之世，尝反乱矣，《诗》所谓“率彼淮浦，省此徐土”者。而《纪年》载之曰：宣王六年，王帅师伐徐戎，皇父、休父从王伐徐戎，次于淮。乃唯穆王之伐徐戎，书缺有间，仅见于《纪年》。《纪年》晚出，两汉儒者不得见。而微闻周穆有命楚伐徐戎之事，而徐偃王之国界淮泗，适与戎居之地相近。而徐偃王之灭于楚，在周穆之世，适与戎叛之时相若，于是附而合之曰“徐偃王反”，曰“徐偃王作乱”，曰“徐率九夷伐宗周”，曰“造父御王告楚”，曰“王率楚子灭之”，故曰此千古冤狱也。而不知楚人灭徐之事，《纪年》则亦详之。《纪年》曰：穆王三十五年，荆人入徐，毛伯迁帅师败荆人于沛。三十七年，伐楚。是年，荆人来贡，是则徐戎侵洛，王率楚子伐之，一事也。徐子方受命作伯，身行仁义，而楚人灭之。王怒而伐楚，又连伐之，必来贡，谢罪而后已，又一事也。划然两事，而颠倒错乱，合之为为一，不亦过乎？

第六，论徐之不得合于徐戎

然则何以知徐偃王即非徐戎也？曰：是大有说。率楚伐徐戎，在穆之十四年；楚人伐徐，在穆之三十五年。既克之矣，越二十年而复入之乎？若谓嬴徐煽其余烬，重致干戈，则前既率楚而灭徐，后乃因徐而败楚乎？观之《竹书纪年》其证一。楚既灭徐，周穆复封



其子，真所谓蕞尔国者。而当宣之世，忽复反乱，至劳六师。既获凯旋，作诗歌颂，若胜之大不易者，有是理乎？观之《大雅》，其证二。周既复徐，至鲁昭公三十年，为吴所灭。后三十年，当鲁哀十三年，此时徐灭久矣，不闻其重兴也。而《吴语》载黄池之会，夫差闻越乱，王孙雒谓：“无会而归，越闻章矣，齐、宋、徐、夷将夹沟而彊我。”盖是时吴已通沟江淮，吴人归道必出淮水，故惧徐夷。是则嬴徐虽灭，而戎之在徐州者，固依然无恙也，观之《国语》，其证三。嬴徐之徐，国名也，徐戎之徐，地名也。汉人合二为一，遂有此误。后儒注《诗》、《书》，亦往往淆杂，故吾本之《诗》、《书》，考之《左传》，辅之《国语》，而参之《竹书》以正之。《左·昭元年》：赵孟曰：周有徐奄。杜谓徐、奄二国，皆嬴姓。又引《书序》曰：成王伐淮，遂践奄。又曰徐即淮夷。夫赵孟所言之徐，即徐戎也。谓即淮夷可也，而谓即嬴姓之徐国，则大不可。此在《正义》已驳正之。且《春秋》曰：楚子、蔡侯、陈侯、郑伯、许男、徐子、滕子、顿子、胡子、沈子、小邾子、宋世子佐、淮夷会于申。上既书“徐子”，下复书“淮夷”，可合而一之乎？杜注《左传》而不睹《春秋》，亦太疏矣！《世本》称：淮夷亦是嬴姓，而其后的淮夷氏。故《元和姓纂十四·皆》曰：淮夷氏，周有淮夷，小国，后世氏焉。杜当注明曰：徐乃徐州之戎，即淮夷也。嬴姓不当混称徐国。《郑语》曰：当成周者，北有徐、蒲。韦昭谓徐、蒲皆赤狄隗姓，是则嬴徐、戎徐而外，复有隗徐。《春秋》三徐，亦解经论史者所当知也。

第七，论毛奇龄以徐为戎之妄

甚矣，奇龄说经之妄也！夫戎则戎之，徐则徐之，岂有圣人著《春秋》忽戎忽徐之理？乃庄公二十六年，鲁伐戎于春，伐徐于秋，截然两事。而忽率合之曰：徐即戎也。则春之伐也曰戎，而秋之伐也曰徐，有是理乎？以楚为先王所封之国，实五等诸侯，而非夷狄，然则徐独非先王封国，独非五等之诸侯乎？夫子《春秋》昭四年两书“徐子”，昭三十年故书“徐子”而夷狄之乎？鲁公会戎于潜，是不得已，而俨然以子爵与夷狄，以诸侯礼相待乎？而乃申之会，竟序之于滕子、顿子、胡子、沈子、小邾子、宋世子佐之上。而且淮夷，夷也，故虽其君来会，反降而下于宋世子，以其夷也。若徐子亦夷，何以反在诸小国之上乎？又况齐桓公娶于徐，其三夫人徐嬴，班在王姬之下，蔡姬之上，而大国之女，反以为如夫人，不意齐桓公攘夷狄，而乃与夷狄为婚姻乎？又且叔孙昭子以齐景之伐徐，谓诸侯之无伯，且以兴师伐远方为无道。夫果徐为徐戎，则齐景此举，正继桓公攘夷狄之旧业，正是伯者举动，而反谓之无道，谓之无伯，可乎？又且证之他书，若《管子》之称徐伯，《檀弓》之称徐君，《新序》、《史记》诸书之记季札赠剑，其为春秋时一小国诸侯，皆显有明证，而可妄以徐戎当之乎？故曰奇龄之妄也。

第八，论韩非说楚文伐徐之未必无据



楚文在春秋这世，去周穆三百余年，安得灭徐偃乎？故遽周疑而辨之，而吾以为可存一说者：公旦，文王子也，既与父同谥，而鲁侯兴，又谥文公。晋仇既谥文侯，而重耳复谥文公。秦有文公，复有惠文王，复有孝文王。滕亦有两文公，其他鲁之孝，齐之庄，卫之成、怀，晋之武、献、成、孝、昭、靖、厉，皆一谥两见。则周庄之世，有楚文，不能必周穆之世无楚文也。韩公子去周不远，当有所据，益之以曼倩、子政之说，亦一助矣。《淮南》称楚庄，传闻异辞，今不敢以为然者，亦舍季从朔之义。

第九，论《路史》说周穆改嬴徐为姬之妄

周之初兴，既有徐国，而穆复封姬于徐，合之戎徐、隗徐，不应《春秋》有四徐耶？其自相矛盾如此。齐桓之有徐妃，罗氏安知之？于左氏知之。而《左传》则明曰徐嬴，不曰徐姬，其荒谬又如此。徐人于吴，不入于楚，凡三言而三失。而《史·齐太公世家》则曰：齐桓公之夫人三：曰王姬、徐姬、蔡姬。《索隐》曰：按《系本》徐，嬴姓。礼：妇人称国及姓。今此言徐姬者，然姬是众妾之总名，故《汉禄秩令》云“姬妾数百”。妇人亦总称姬，姬亦未必尽是姓也云云。夫史文本之《左传》，以嬴为姬，盖传写之讹。《索隐》虽辨，要为回护之说，然亦可见古来从无以徐为姬姓者，而罗氏特造此典故，岂即据史迁误说耶？

第十，论《公羊传》说徐灭杞之误

此亦误嬴徐为淮夷者也。前者为咸之会。是年城缘陵。左氏曰：会于咸，淮夷病杞。故《公羊》误以徐为淮夷，于是窃取《左氏》之说而妙变其词。不知是时，徐方为齐与国，且为婚姻。杞服于齐，徐安得违齐桓而伐之？若齐桓以婚姻之故，舍徐弗讨，而姑城缘陵以慰杞人，则齐桓何以令诸侯曰：盖徐、莒胁之？盖者，疑辞。公羊氏殆尚未坚信，而何氏哓哓不已，言之再三，亦可谓墨守无断者矣。

第十一，论《路史》说徐灭冥之妄

又造典故矣。《史记》载嬴姓之国有白冥，连读之也。而离之为二，问其始封，不能说也。漫曰：嬴国而已。问其亡国，不能详也，漫曰：白灭于楚，冥则徐灭之而已。而吾穷之于其所著之《国名记》，又不能有原本之说也。于白则又漫曰：楚平灭以封胜曰白公；于冥则窃《左传》伐郑三门而又漫曰：冀伐之者，后为虞氏邑，而于《后纪》徐灭之说，语焉若忘。夫白公之白，为楚邑。伐郑之郑，为虞邑，皆非国号，与史所记嬴国之白、



冥，风马牛不相及者，而妄言之若此。罗氏作《路史》据谶纬以说皇古，已为不经，而其属词尤多乘舛。即以徐事而论，因《水经注》之误而造徐调之名；因宋康之误，而造徐康之谥；因《史记》之误，而造徐姬之姓，而灭箕一事，又不知其误于何书，尚当详察之。

第十二，论孔子颖达说春秋后，徐复重兴之无据

此因郑考公卒在春秋后，而久灭之徐国忽通吊使，故不得已而为此说，然已削趾而就屨矣。郑康成曰：考或为定，郑岂无本而漫为此言。

第十三，论《徐偃王志》

《博物志》引《徐偃王志》一段，不知何人所撰。自《博物》外，无见引于他说者。书中说周王命楚伐徐，已袭《史记》，且云彭城武原县，则断非周秦人著作矣。《水经注·济水》条，则尝及之，曰：张华《博物志》录著作令史茅温所为送。刘成国《徐州地理志》云：徐偃王之异言，徐君官人娠而生卵云云。据其文义，似刘成国将宦徐州，而茅温作《徐州地理志》以送之者。似《博物志》说偃王一段，皆在《徐州地理志》中者，似《徐州地理志》中篇目有曰徐偃王之异者。果尔则张华《博物志》时，何以不称《徐州地理志》，而乃故造名目，曰徐偃王志耶？酈道元作《水经注》何以不直引《徐州地理志》而必辗转说《博物志》引《徐州地理志》耶？皆不可解。今余作此书，亦名之曰《徐偃王志》者，以为杂采旧闻，无当大雅，谨避子长《世家》之号，聊仍茂先《博物》之名云尔。

先三伯祖柳泉公，两上春官，即家居不复出。藏四部书六万卷，尽发而读之。耽思研精，至老弥笃。论经主先秦之书，以平众难，不蹈近人墨守之弊。论史独推史迁，班、范以下，则条举而纠之。羽经翼传，学者宗之，号为柳泉先生。生平著述，如《逸汤誓考》六卷，《山中诗学记》四卷，《四明宋元六志校勘记》三十一卷，《烟屿楼文集》四十卷，《诗集》十八卷，《读书志》十六卷，《笔记》八卷，皆已梓行。惟《鄞艺文志》录公所撰之《徐偃王志》六卷，迄未刊也。曰记事上，曰记事下，曰世系，曰地理，曰冢庙，曰论说，悉本《周书》、《戴礼》、《国语》、《世本》之属之可信者，不足则益证之以正史及汉晋人言，其他谶言、别史绝不采及，义正词确，一归至当，是信史亦才史也，可任其久湮耶？二十八年春，日寇深入，蛟门告急，公曾孙字曾检交志稿正、副两本，惟已蠹侵，亟粘补，并亟誊录，幸副本有未明者，得稽诸正稿。稿末摘录用秦汉魏人语之堪为论断者，乃厘而分附于纪事之后。纪事内有纠正史谬者，亦移归于论说之中。《世系》原无谱谱，不知何人所附，兹仍之者，资考证也。首有朱述之、姚梅伯两先生序。姚序未书岁次，惟于稿首书“应珍藏勿失”等语，则当在公歿之后。文因改窜失次，难以卒读，兹就其语气



而次第之，盖斯序姚属他人代撰而改定之也。朱序道光戊申，是岁公年三十五，今公百三十有五岁，则志于今适百哉，不可谓不久，而得勿失亦云幸矣。乃携膳录本绕道来沪，老友约园见之大喜，谓可入其《四明丛书》第八集。惟时百物腾踊，纸值高，钹板亦非易，仅录副而序之。甲申冬，复出志稿重行讎校，知尚有公所欲言而未尽者，择要补绎，别以正遼按语附注于下。有缺误者悉补正之，从新钞录未竟，而约园归道山矣。阅两月，日寇平。明年，其子星联刻八集告竣，独所刻之《徐偃王志》，较余续校之手钞本，少十之一，星联谓当补刻。因思约园校乡先哲著述，序而刻之，多至百六十种。年七十，抱痼犹自序其杂著曰：乡书之辑，十得其八，天其许我继续之，宜乎其有后也。《徐偃王志》，晋时已有之，惜亡佚，莫可考。我公阐扬圣德，博综群籍，以考定之，俾读得知所依向，不为荒妄慢诞者所淆，有裨经史，实非浅鲜，我子孙尤当珍视之也。民国三十七年十月，从孙正遼谨识。



吴越春秋

〔东汉〕赵晔 撰

卷一 吴太伯传

吴之前君太伯者，后稷这苗裔也。后稷其母台氏之女姜嫄，为帝嚳元妃。年少未孕，出游于野，见大人迹而观之，中心欢然，喜其形像，因履而践之，身动，意若为人所感。后妊娠，恐被淫佚之祸，遂祭祀以求，谓无子，履上帝之迹，天犹令有之。姜嫄怪而弃于厄狭之巷，牛马过者折易而避之；复弃于林中，适会伐木之人多；复置于泽中冰上，众鸟以羽覆之；后稷遂得不死。姜嫄以为神，收而养之。长因名弃。为儿时好种树（“树”，亦种也），禾、黍、桑、麻、五谷，相五土之宜，青、赤、黄、黑，陵水下，桑、稷、黍、禾、藁、麦、豆、稻，各得其理。尧遭洪水，人民泛滥，逐高而居。尧聘弃使教民山居，随地造区，研营种之术。三年余，行人无饥乏之色。乃拜弃为农师，封之台，号为后稷，姓姬氏。

后稷就国，为诸侯。卒。子不窋立，遭夏氏世衰，失官，奔戎、狄之间。其孙公刘刘慈仁，行不履生草，运车以避苇葦。公刘避夏桀于戎、狄，变易风俗，民化其政。

公刘卒，子庆节立。其后八世，而得古公亶甫，修公刘、后稷之业，积德行义，为狄人所慕。薰鬻、戎妒而伐之。古公事之以犬马牛羊，其伐不止；事以皮币金玉重宝，而亦伐之不止。古公问：“何所欲？”曰：“欲其土地。”古公曰：“君子不以养害。害所养，国所以亡也；而身为害，吾所不居也。”古公乃杖策去邠，逾梁山而处岐周，曰：“彼君与我何异？”邠人父子兄弟相帅负老携幼，揭釜甑而归古公。居三月，成城郭；一年，成邑；二年，成都，而民五倍其初。

古公三子，长曰太伯，次曰仲雍，雍一名吴仲，少曰季历。季历娶妻太任氏，生子昌。昌有圣瑞，古公知昌圣，欲传国以及昌，曰：“兴王业者，其在昌乎？”因更名曰季历。太伯、仲雍望风知指，曰：“历者，适也。”知古公欲以国及昌。古公病，二人托名采药于衡山，遂之荆蛮，断发文身，为夷狄之服，示不可用。古公卒，太伯、仲雍归。赴丧毕，还荆蛮，国民君而事之，自号为勾吴。吴人或问：“何据而为勾吴？”太伯曰：“吾以



伯长居国，绝嗣者也。其当有封者，吴仲也。故自号勾吴，非其方乎？”荆蛮义之，从而归之者千有余家，共立以为勾吴。数年之间，民人殷富。遭殷之末世衰，中国侯王数用兵，恐及于荆蛮，故太伯起城，周三里二百步，外郭三百余里，在西北隅，名曰故吴，人民皆耕田其中。古公病，将卒，令季历让国于太伯，而三让不受，故云：“太伯三以天下让”。于是季历莅政，修先王之业，守仁义之道。季历卒，子昌立，号曰西伯遵公刘、古公之术，业于养老，天下归之。西伯致太平，伯夷自海滨而往。西伯卒，太子发立，任周、召而伐殷。天下已安，乃称王，追谥古公为大王，追封太伯于吴。

太伯祖卒，葬于梅里平墟。仲雍立，是为吴仲雍。仲雍卒，子季简，简子叔达，达子周章，章子熊，熊子遂，遂子柯相，相子强鸠夷，夷子余乔疑吾，吾子柯庐，庐子周繇，繇子屈羽，羽子夷吾，吾子禽处，处子专，专子颇高，高子句毕立。是时晋献公灭周北虞虞公，以开晋之伐虢氏。毕子去齐，齐子寿梦立，而吴益强，称王。凡从太伯至寿梦之世，与中国时通朝会，而国斯霸焉。

卷二 吴王寿梦传

寿梦元年朝周；适楚，观诸侯礼乐。鲁成公会于钟离，深问周公礼乐。成公悉为陈前王之礼乐，因为咏歌三代之风。寿梦曰：“孤在夷蛮，徒以椎髻为俗，岂有斯之服哉？”因叹而去，曰：“于乎哉，礼也！”

二年，楚之亡大夫申公巫臣适吴，以为行人，教吴射御，导之伐楚。楚庄王怒，使子反将，败吴师。二国从斯结讎。于是吴始通中国，而与诸侯为敌。

五年，伐楚，败子反。

十六年，楚恭王怨吴为巫臣伐之也，乃举兵伐吴，至衡山而还。

十七年，寿梦以巫臣子狐庸为相，任以国政。

二十五年，寿梦病，将卒。有子四人，长曰诸樊，次曰余祭，次曰余昧，次曰季札。季札贤，寿梦欲立之，季札让曰：“礼有旧制，奈何废前王之礼，而行父子之私乎？”寿梦乃命诸樊曰：“我欲传国及札，尔无忘寡人之言！”诸樊曰：“周之太王知西伯之圣，废长立少，王之道兴。今欲授国于札，臣诚耕于野。”王曰：“昔周行之，德加于四海，今汝于区区之国，荆蛮之乡，奚能成天子之业乎？且今子不忘前人之言，必授国以次，及于季札。”诸樊曰：“敢不如命。”寿梦卒，诸樊以嫡长摄行事，当国政。

吴王诸樊元年，已除丧，让季札曰：“昔前王未薨之时，尝晨昧不安。吾望其色也，意在于季札。又复三朝，悲吟而命我曰：‘吾知公子札之贤，欲废长立少，重发言于口。’虽然，我心已许之。然前王不忍行其私计，以国付我。我敢不从命乎？今国者，子之国也。吾愿达前王之义。”季札谢曰：“夫嫡长当国，非前王之私，乃宗庙社稷之制。岂可变更乎？”诸樊曰：“苟可施于国，何先王之命有？太王改为季历，二伯来入荆蛮，遂城为国，



周道就成。前人诵之，不绝于口，而子之所习也。”札复谢曰：“曹公卒，庶存适亡，诸侯与曹人不义而立于国。子臧闻之，行吟而归。曹君惧，将立子臧，子臧去之，以成曹之道。札虽不才，愿附子臧之义。吾诚避之。”吴人固立季札。季札不受，而耕于野。吴人舍之。诸樊骄恣，轻慢鬼神，仰天求死。将死，命弟余祭曰：“必以国及季札。”乃封季札于延陵，号曰延陵季子。

余祭十二年，楚灵王会诸侯伐吴，围朱方，诛庆封。庆封数为吴伺察，故晋、楚伐之也。吴王余祭怒，曰：“庆封穷，来奔。吴封之朱方，以效不恨士也。”即举兵伐楚，取二邑而去。

十三年，楚怨吴为庆封故伐之，心恨不解，伐吴至乾谿。吴击之，楚师败走。

十七年，余祭卒。余昧立，四年，卒。欲授位季札，季札让，逃去，曰：“吾不受位，明矣！昔前君有命，已附子臧之义。洁身清行，仰高履尚，惟仁是处。富贵之于我，如秋风之过耳！”遂逃归延陵。吴人立余昧子州于，号为吴王僚也。

卷三 王僚使公子光传

二年，王僚使公子光伐楚，以报前来诛庆封也。吴师败而亡丹。光惧，因掩，复得王舟而还。光欲谋杀王僚，未有所与合议，阴求贤，乃命善相者为吴市吏。

五年，楚之亡臣伍子胥来奔吴。

伍子胥者，楚人也，名员。员父奢，兄尚。其前名曰伍举，以直谏事楚庄王。王即位三年，不听国政，沉湎于酒，淫于声色，左手拥秦姬，右手抱越女，身坐钟鼓之间，而令曰：“有敢谏者死！”于是伍举进谏曰：“有一大鸟，集楚国之庭，三年不飞，亦不鸣，此何鸟也？”于是庄王曰：“此鸟不飞，飞则冲天；不鸣，鸣则惊人。”伍举曰：“不飞不鸣，将为射者所图。弦矢卒发，岂得冲天而惊人乎？”于是庄王弃其秦姬、越女，罢钟鼓之乐，用孙叔敖，任以国政，遂霸天下，威伏诸侯。庄王卒，灵王立，建章华之台，与登焉。王曰：“台美！”伍举曰：“臣闻国君服宠以为美，安民以为乐，克听以为聪，致远以为明；不闻以土木之崇高，虫镂之刻画，金石之清音，丝竹之凄映，以之为美。前庄王为抱居之台，高不过望国氛，大不过容宴豆，木不妨守备，用不烦官府，民不败时务，官不易朝常。今君为此台七年，国人怨焉，财用尽焉，年穀败焉，百姓烦焉，诸侯忿怨，卿士讪谤，岂前王之所盛，人君之美者耶？臣诚愚，不知所谓也。”灵王即除工去饰，不游于台。由是，伍氏三世为楚忠臣。

楚平王有太子名建，平王以伍奢为太子太傅，费无忌为少傅。平王使无忌为太子娶于秦。秦女美容，无忌报平王曰：“秦女天下无双，王可自取。”王遂纳秦女为夫人，而幸爱之，生子珍，而更为太子娶齐女。无忌因去太子，而事平王，深念平王一旦卒，而太子立，当害己也，乃复谗太子建。建母蔡氏无宠，乃使太子守城父，备边兵。顷之，无忌日



夜言太子之短，曰：“太子以秦女之故，不能无怨望之心。愿王自备。太子居城父，将兵，外交诸侯，将入为乱。”平王乃召伍奢而按问之。奢知无忌之谗，因谏之曰：“王独奈何以谗贼小臣而疏骨肉乎？”无忌承宴，复言曰：“王今不制，其事成矣，王且见擒！”平王大怒，因囚伍奢，而使城父司马奋扬往杀太子。奋扬使人前告太子：“急去，不然将诛！”三月，太子奔宋，无忌复言平王曰：“伍奢有二子，皆贤。不诛，且为楚忧。可以其父为质而召之。”王使使谓奢曰：“能致二子则生；不然则死。”伍奢曰：“臣有二子，长曰尚，少曰胥。尚为人慈温仁信，若闻臣召，辄来；胥为人少好于大，长习于武，文治邦国，武定天下，执纲守戾，蒙垢受耻，虽冤不争，能成大事。此前知之士，安可致耶？”平王谓伍奢之誉二子，即遣使者驾驷马，封函印绶往，许召子尚、子胥。今日：“贺二子，父奢以忠信慈仁，去难就免。平王内惭囚系忠臣，外愧诸侯之耻，反遇奢为国相，封二子为侯。尚赐鸿都侯，胥赐盖侯，相去不远三百余里。奢久囚系，忧思二子，故遣臣来，奉进印绶。”尚曰：“父系三年，中心切怛，食不甘味，尝苦饥渴，昼夜感思，忧父不活，惟父获免，何敢贪印绶哉？”使者曰：“父囚三年，五今幸赦，无以赏赐，封二子为侯，一言当至，何所陈哉？”尚乃人报子胥，曰：“父幸免死，二子为侯，使者在门，兼封印绶，汝可见使。”子胥曰：“尚且安坐，为兄卦之。今日甲子，时加于巳，支伤日下，气不相受；君欺其臣，父欺其子，今往方死，何侯之有？”尚曰：“岂贪于侯？思见父耳！一面而别，虽死而生。”子胥曰：“尚且无往。父当我活，楚畏我勇，势不敢杀。兄若误往，必死不脱。”尚曰：“父子之爱，恩从中出。微幸相见，以自济达。”于是子胥叹曰：“与父俱诛，何明于世？冤仇不除，耻辱日大。尚从是往，我从是诀。”尚泣曰：“吾之生也，为世所笑。终老地上，而亦何之？不能报仇毕为废物。汝怀文武，勇于策谋，父兄之仇，汝可复也。吾如得返，是天祐之；其遂沉埋，亦吾所喜。”胥曰：“尚且行矣，吾去不顾！勿使临难，虽悔何追！”旋泣辞行，与使俱往。

楚得子尚，执而囚之，复遣追捕子胥。胥乃贯弓执矢去楚。楚追之，见其妻，曰：“胥亡矣，去三百里。”使者追及无人之野。胥乃张弓布矢，欲害使者，使者俯伏而走。胥曰：“报汝平王，欲国不灭，释吾父兄。若不尔者，楚为墟矣！”使返报平王。王闻之，即发大军追子胥。至江，失其所在，不获而返。子胥行至大江，仰天行，哭林泽之中，言：“楚王无道，杀吾父兄。愿吾因于诸侯，以报仇矣！”闻太子建在宋，胥欲往之。伍奢初闻子胥之亡，曰：“楚之君臣且若兵矣！”尚至楚就父，俱戮于市。伍员奔宋，遭遇申包胥，谓曰：“楚王杀吾兄父，为之奈何？”申包胥曰：“于乎！吾欲教子报楚，则为不忠；教子不报，则为无亲友也。子其行矣，吾不容言。”子胥曰：“吾闻父母之仇，不与戴天履地；兄弟之仇，不与同城接壤；朋友之仇，不与邻乡共里。今吾将复楚辜，以雪父兄之耻。”申包胥曰：“子能亡之，吾能存之；子能危之，吾能安之。”胥遂奔宋。

宋元公无信于国，国人恶之。大夫华氏谋杀元公，国人与华氏因作大乱。子胥乃与太子建俱奔郑，郑人甚礼之。太子建又适晋。晋顷公曰：“太子既在郑，郑信太子矣。太子



能为内应而灭郑，即以郑封太子。”太子还郑。郑定公与子产诛杀太子建。建有了名胜，伍员与胜奔吴。到昭关，关吏欲执之。伍员因诈曰：“上所以索我者，美珠也。今我已亡矣，将去取之。”关吏因舍之。与胜行去，追者在后，几不得脱。至江，江中有渔父，乘船从下方溯水而上。子胥呼之，谓曰：“渔父渡我！”如是者再。渔父欲渡之，适会旁有人窥之，因而歌曰：“日月昭昭乎侵已驰，与子期乎芦之漪。”子胥即止芦之漪。渔父又歌曰：“日已夕兮，子心忧悲。月已驰兮，何不渡为？事寝急兮，当奈何？”子胥入船，渔父知其意也，乃渡之千寻之津。子胥既渡，渔父乃视之，有其饥色。乃谓曰：“子俟我此树下，为子取饷。”渔父去后，子胥疑之，乃潜身于深苇之中。有顷，父来，持麦饭、鮑鱼羹、盎浆，求之树下，不见，因歌而呼之曰：“芦中人，芦中人，岂非穷士乎？”如是至再，子胥乃出芦中而应。渔父曰：“吾见子有饥色，为子取饷，子何嫌哉？”子胥曰：“性命属天，今属丈人，岂敢有嫌哉？”二人饮食毕，欲去，胥乃解百金之剑以与渔者（曰）：“此吾前君之剑，中有七星，价值百金，以此相答。”渔父曰：“吾闻楚之法令，得伍胥者赐粟五万石，爵执圭。岂图取百金之剑乎？”遂辞不受，谓子胥曰：“子急去，勿留，且为楚所得。”子胥曰：“请丈人姓字。”渔父曰：“今日凶凶，两贼相逢。吾所谓渡楚贼也。两贼相得，得形于默。何用姓字为？子为芦中人，吾为渔太人，富贵莫相忘也。”子胥曰：“诺。”既去，诫渔父曰：“掩子之盎浆，无令其露。”渔父诺。子胥行数步，顾视渔者，已覆船自沉于江水之中矣。子胥默然，遂行。

至吴，疾于中道，乞食溧阳。适会女子击绵于濑水之上，簪中有饭。子胥遇之，谓曰：“夫人，可得一餐乎？”女子曰：“妾独与母居，三十未嫁，饭不可得。”子胥曰：“夫人，赈穷途少饭，亦何嫌哉？”女子知非恒人，遂许之。发其簪簪，饭其盎浆，长跪而与之。子胥再餐而止。女子曰：“君有远逝之行，何不饱而餐之？”子胥已餐而去，又谓女子曰：“掩夫人之壶浆，无令其露。”女子叹曰：“嗟乎！妾独与母居三十年，自守贞明，不愿从适，何宜馈饭而与丈夫，越亏礼仪？妾不忍也。子行矣！”子胥行，反顾女子，已自投于濑水矣。于乎！贞明执操，其太夫女哉！

子胥之吴，乃被发佯狂，跣足涂面，行乞于市。市人观，罔有识者。翌日，吴市吏善相者见之，曰：“吾之相人多矣，未尝见斯人也。非异国之亡臣乎？”乃白吴王僚，具陈其状：“王宜召之！”王僚曰：“与之俱入。”公子光闻之，私喜曰：“吾闻楚杀忠臣伍奢。其子子胥，勇而且智。彼必复父之讎，来入于吴。”阴欲养之。市吏于是与子胥俱入见王。王僚怪其状伟，身長一丈，腰十围，眉间一尺。王僚与语三日，辞无复者。王曰：“贤人也。”子胥知王好之，每入语语，遂有勇壮之气，稍道其讎，而有切切之色。王僚知之，欲为兴师复讎。公子谋杀王僚，恐子胥前亲于王，而害其谋，因谗：“伍胥之谋伐楚者，非为吴也，但欲自复私讎耳！王无用之。”子胥知公子光欲害王僚，乃曰：“彼光有内志，未可说以外事。”人见王僚曰：“臣闻诸侯不为匹夫兴师用兵于比国。”王僚曰：“何以言之？”子胥曰：“诸侯专为政，非以意救急后兴师。今大王践国制威，为匹夫兴兵，其义非



也。臣固不敢如王之命。”吴王乃止。

子胥退耕于野，求勇士荐之公子光，欲以自媚，乃得勇士专诸。专诸者，堂邑人也。伍胥之亡楚如吴时，遇之于途。专诸方与人斗，将就敌，其怒有万人之气，甚不可当；其妻一呼即还。子胥怪而问其状：“何夫子之怒盛也，闻一女子之声而折道，宁有说乎？”专诸曰：“子视吾之仪，宁类遇者也？何言之鄙也？夫屈一人之下，必伸万人之上。”子胥因相其貌，雄颡而深目，虎膺而熊背，戾于从难，知其勇士，阴而结之，欲以为用。遭公子光之有谋也，而进之公子光。光既得专诸，而礼待之。公子光曰：“天以夫子辅孤之失根也。”专诸曰：“前王余昧卒，僚立，自其分也。公子何因而欲害之乎？”光曰：“前君寿梦有子四人，长曰诸樊则光之父也。次曰余祭，次曰余昧，次曰季札。札之贤也。将卒，传付适长，以及季札。念季札为使，亡在诸侯，未还。余昧卒，国空，有立者，适长也。适长之后，即光之身也。今僚何以当代立乎？吾力弱，无助于掌事之间，非用有力徒，能安吾志？吾虽代立，季子东还，不吾废也。”专诸曰：“何不使近臣从容言于王侧，陈前王之命，以讽其意，今知国之所归？何须私备剑士，以捐先王之德？”光曰：“僚素贪而恃力，知进之利，不睹退让。吾故求同忧之士，欲与之并力。惟夫子谗斯义也。”专诸曰：“君言甚露乎？于公子何意也？”光曰：“不也。此社稷之言也，小人不能奉行，惟委命矣。”专诸曰：“愿公子命之。”公子光曰：“时未可也。”专诸曰：“凡欲杀人君，必前求其所好。吴王何好？”光曰：“好味。”专诸曰：“何味所甘？”光曰：“好嗜鱼之炙也。”专诸乃去，从太湖学炙鱼，三月得其，安坐待公子命之。

八年，僚遣公子伐楚，大败楚师，因迎故太子建母于郑。郑君送建母珠玉簪珥。欲以解杀建之过。

九年，吴使光伐楚，拔居巢、钟离。吴所以相攻者，初楚之边邑脾梁之女与吴边邑处女蚕，争界上之桑。二家相攻，吴国不胜，遂更相伐，灭吴之边邑。吴怒，故伐楚，取二邑而去。

十二年冬，楚平王卒。伍子胥谓白公胜曰：“平王卒，吾志不悉矣。然楚国有，吾何忧矣？”白公默然不对，伍子胥坐泣于室。

十三年春，吴谷欲因楚葬而伐之，使公子盖余烛佣以兵围楚，使季札于晋，以观诸侯之变。楚发兵绝吴后，吴兵不得还，于是公子光心动。伍胥知光之见机也，乃说光曰：“今吴王伐楚，二弟将兵，未知吉凶，专诸之事，于斯急矣。时不再来，不可失也！”于是公子见专诸曰：“今二弟伐楚，季子未还。当此之时，不求何获？时不可失，且光真王嗣也！”专诸曰：“僚可杀也。母老子弱，弟伐楚，楚绝其后。方今吴外困于楚，内无骨鲠之臣，是无如我何也！”四月，公子光伏甲士于室内，具酒而请王僚。僚白其母曰：“公子光为我具酒，来请期，无变悉乎？”母曰：“光心气怏怏，常有愧恨之色，不可不慎。”王僚乃被棠铁之甲三重，使兵卫陈于道，自宫门至于光家之门。阶席左右皆王僚之亲戚，使坐立侍，皆操长戟交钋。酒酣，公子光佯为足疾，入寝室裹足，使专诸置鱼肠剑炙鱼中，



进之。既至王僚前，专诸乃擘炙鱼，因推匕首。立戟交积，倚专诸胸。胸断臆开，匕首如故，以刺王僚，贯甲达背。王僚既死，左右共杀专诸，众士扰动。公子光伏其甲士，以攻僚众，尽灭之，遂自立，是为吴王阖闾也。乃封专诸之子，拜为客卿。季札使还至吴，阖闾以位让。季札曰：“苟前君无废社稷以奉君也。吾谁怨乎？哀死待生，以俟天命，非我所乱，立者从之，是前人之道。”命，哭僚墓，复位而待。公子盖余、烛佣二人将兵遇围于楚者，阖公子光杀王僚自立，乃以兵降楚，楚封之于舒。

卷四 阖闾内传

阖闾元年，始任贤使能，施恩行惠，以仁义闻于诸侯。仁未施，恩未行，恐国人不就，诸侯不信，乃举伍子胥为行人，以客礼事之，而与谋国政。阖闾谓子胥曰：“寡人欲强国霸王，何由而可？”伍子胥膝进，垂泪顿首曰：“臣，楚国之亡虏也。父兄弃捐，骸骨不葬，魂不血食，蒙罪受辱，来归命于大王，幸不加戮，何敢与政事焉？”阖闾曰：“非夫子，寡人不免于紫御之使。今幸奉一言之教，乃至于是，何为中道生进退耶？”子胥曰：“臣闻谋议之臣，何足处于危亡之地？然忧除事定，必不为君主所亲。”阖闾曰：“不然。寡人非子，无所尽议，何得让乎？吾国僻远，顾在东南之地，险阻润湿，又有江海之害。君无守御，民无所依，仓库不设，田畴不垦，为之奈何？”子胥良久对曰：“臣闻治国之道，安君理民，是其上者。”阖闾曰：“安君治民，其术奈何？”子胥曰：“凡欲安君治民，兴霸成王，从近制远者，必先立城郭，设守备，实仓廩，治兵库。斯则其术也。”阖闾曰：“善！夫筑城郭，立仓库，因地制宜，岂有天气之数，以威邻国者乎？”子胥曰：“有。”阖闾曰：“寡人委计于子。”子胥乃使相土尝水，象天法地，造筑大城，周围四十七里。陆门八，以象天八风；水门八，以法地八聪。筑小城，周十里，陵门三。不开东面者，欲以绝越明也。立闾门者，以象天门，通闾阖风也。立蛇门者，以象地户也。阖闾欲西破楚，楚在西北，故立闾门以通天气，因复名之破楚门。欲东并大越，越在东南，故立蛇门，以制敌国。吴在辰，其位龙也，故小城南门上反羽为两蜿蜒，以象龙角。越在巳地，其位蛇也，故南大门上有木蛇，北向首内，示越属于吴也。

城郭以成，仓库以具，阖闾复使子胥、屈盖余、烛佣习术战骑射御之巧。未有所用，请干将铸作名剑二枚。干将者，吴人也，与欧冶子同师，俱能为剑。越前来献三枚，阖闾得而宝之，以故使剑匠作为二枚，一曰干将，二曰莫耶。莫耶，干将之妻也。干将作剑，采五山之铁精，六合之金英，候天伺地，阴阳同光，百神临观，天气下降，而金铁之精不销沦流。于是干将不知其由。莫耶曰：“子以善为剑闻于王。使子作剑，三月不成，其有意乎？”干将曰：“吾不知其理也。”莫耶曰：“夫神物之化，须人而成。今夫子作剑，得无得其人而后成乎？”干将曰：“昔吾师作冶，金铁之类不销，夫妻俱入冶炉中，然后成物。至今后世，即山作冶，麻经蓑服，然后敢铸金于山。今吾作剑不变化者，其若斯耶？”莫



耶曰：“师知烁身以成物，吾何难哉？”于是干将妻乃断发剪爪，投于炉中，使童女、童男三百人鼓囊装炭，金铁乃濡，遂以成剑，阳曰干将，阴曰莫耶。阳作龟文，阴作漫理。干将匿其阳，出其阴而献之，阖闾甚重。既得宝剑，适会鲁使季孙聘于吴，阖闾使掌剑大夫以莫耶献之。季孙拔剑之，锷中缺者大如黍米，叹曰：“美哉！剑也。虽上国之师，何能加之？夫剑之成也，吴霸。有缺，则亡矣！我虽好之，其可受乎？”不受而去。

阖闾既宝莫耶，复命于国中作金钩。今日：“能为善钩者，赏之百金。”吴作钩者甚众，而有人贪王之重赏也，杀其二子，以血釁金，遂成二钩，献于阖闾，诣宫门而求赏。王曰：“为钩者众，而子独求赏，何以异于众夫子之钩乎？”作钩者曰：“吾之作钩也，贪而杀二子，釁成二钩。”王乃举众钩以示之：“何者是也？”王钩甚多，形体相类，不知其所在。于是钩师向钩而呼二子之名：“吴鸿、扈稽！我在于此，王不如汝之神也！”声绝于口，两钩俱飞着父之胸。吴王大惊，曰：“嗟乎！寡人诚负于子。”乃赏百金，遂服而不离身。

六月，欲用兵，会楚之白喜来奔。吴王问子胥曰：“白喜何如人也？”子胥曰：“白喜者，楚白州犁之孙。平王诛州犁，喜因出奔，闻臣在吴而来也。”阖闾曰：“州犁何罪？”子胥曰：“白州犁，楚之左尹，号曰郤宛，事平王。平王幸之，常与终日而语，袭朝而食。费无忌望而妒之，因谓平王曰：‘王爱幸宛，一国所知。何不为酒，一至宛家，以示群臣于宛之厚？’平王曰：‘善。’乃具酒于郤宛之舍。无忌教宛曰：‘平王甚毅猛而好兵，子必前陈兵堂下门庭。’宛信其言，因而为之。及平王往而大惊，曰：‘宛何等也？’无忌曰：‘殆且有篡杀之忧。王急去之，事未可知！’平王大怒，遂诛郤宛。诸侯闻之，莫不叹息。喜闻臣在吴，故来请见之。”阖闾见白喜而问曰：“寡人国僻远，东滨海，侧闻子前人为楚荆之暴怒，费无忌之谗口，不远吾国，而来自于斯。将何以教寡人？”喜曰：“楚国之失虜，前人无罪，横被暴诛。臣闻大王收伍子胥之穷厄，不远千里，故来归命。惟大王赐其死。”阖闾伤之，以为大夫，与谋国事。吴大夫被离承宴问子胥曰：“何见而信喜？”子胥曰：“吾之怨，与喜同。子不闻《河上歌》乎？‘同病相怜，同忧相救。惊翔之鸟，相随而集。激下之水，因复俱流。’胡马望北风而立，越燕向日而熙，谁不爱其所近，悲其所思者乎？”被离曰：“君之言外也，岂有内意，以决疑乎？”子胥曰：“吾不见也。”被离曰：“吾观喜之为人，鹰视虎步，专功擅杀之性，不可亲也。”子胥不然其言，与之俱事吴王。

二年，吴王前既杀王僚，又忧厌恶之在邻国，恐合诸侯来伐。问子胥曰：“昔专诸之事于寡人厚矣。今闻公子庆忌有计于诸侯，吾食不甘味，卧不安席，以付于子。”子胥曰：“臣不忠无行，而与大王图王僚于私室之中。今复欲讨其子，恐非皇天之意。”阖闾曰：“昔武王讨纣，而后杀武庚，周人无怨色。今若斯议，何乃天乎？”子胥曰：“臣事君王，将遂吴统，又何惧焉？臣之所厚其人者，细人也，愿从于谋。”吴王曰：“吾之忧也，其敌有万人之力，岂细人之所能谋乎？”子胥曰：“其细人之谋事，而有万人之力也。”王曰：“其为何谁？子以言之。”子胥曰：“姓要，名离。臣昔尝见曾折辱壮士椒丘诹也。”王曰：



“辱之奈何？”子胥曰：“椒丘诘者，东海上人也。为齐王使于吴，过淮津，欲饮马于津。津吏曰：‘水中有神，见马即出，以害其马。君勿饮也。’诘曰：‘壮士所当，何神敢干？’乃使从者饮马于津，水神果取其马，马没。椒丘诘大怒，袒褐持剑，入水求神决战，连日乃出，眇其一目。遂之吴，会于友人之丧。诘恃其与水战之勇也，于友人之丧席而轻傲于士大夫，言辞不逊，有陵人之气。要离与之对坐，合坐不忍其溢于力也。时要离乃挫诘曰：‘吾闻勇士之斗也，与日战不移表，与神鬼战者不旋踵，与人战者不达声，生往死还，不受其辱。今子与神斗于水，亡马失御，又受眇目之病，开残名勇，勇士所耻。不即丧命于敌，而恋其生，犹傲色于我哉！’于是椒丘诘卒于诘责，恨怒并发，瞑即往攻要离。于是要离席阍至舍，诫其妻曰：‘我辱勇士椒丘诘于大家之丧，余恨郁患，瞑必来也。慎无闭吾门。’至夜，椒丘诘果往，见其门不闭，登其堂，不关；入其室，不守；放发僵卧，无所惧。诘乃手剑而猝要离曰：‘子有当死之过者三，子知之乎？’离曰：‘不知。’诘曰：“子辱我于大家之众，一死也；归不关闭，二死也；卧不守御，三死也。子有三死之过，欲无得怨！”要离曰：‘吾无三死之过，子有三不肖之愧，子知之乎？’诘曰：‘不知。’要离曰：‘吾辱子于千人之众，子无敢报，一不肖也；入门不咳，登堂无声，二不肖也；前拔子剑，手挫挫吾头，乃敢大言，三不肖也。子有三不肖，而灭于我，岂不鄙哉？’于是椒丘诘投剑而叹曰：‘吾之勇也，人莫敢曾占者，离乃加吾之上，此天下壮士也！’臣闻要离若斯，诚以闻矣！”吴王曰：“愿承宴而待焉。”

子胥乃见要离曰：“吴王闻子高义，惟一临之。”乃与子胥见吴王。王曰：“子何为者？”要离曰：“臣国东千里之人。臣细小无力，迎风则僵，负风则伏。大王有命，臣敢不尽力！”吴王心非子胥进此人，良久默然不言。要离即进曰：“大王患庆忌乎？臣能杀之。”王曰：“庆忌之勇，世所闻也。筋骨果劲，万人莫当；走追奔兽，手接飞鸟，骨腾肉飞，拊膝数百里。吾尝追之于江，驷马驰不及；射之闾接，矢不可中。今子之力不如也。”要离曰：“王有意焉，臣能杀之。”王曰：“庆忌明智之人，归穷于诸侯，不下诸侯之士。”要离曰：“臣闻‘安其妻子之乐，不尽事君之义，非忠也；怀家室之爱，而不除君之患者，非义也。’臣诈以负罪出奔，愿王戮臣妻子，断臣右手，庆忌必信臣矣。”王曰：“诺。”要离乃诈得罪，出奔。吴王乃取其妻子，焚弃于市。要离乃奔诸侯，而行怨言，以无罪闻于天下。遂如卫，求见庆忌，见曰：“阖闾无道，王子所知。今戮吾妻子，焚之于市，无罪见诛。吴国之事，吾知其情。愿因王子之勇，阖闾可得也。何不与我东之于吴？”庆忌信其谋。后三月，拣练士卒，遂之吴。将渡江于中流，要离力微，坐于上风，因风势以矛钩其冠，顺风而刺庆忌。庆忌顾而挥之，三摔其头于水中，乃加于膝上，曰：“嘻嘻哉！天下之勇士也，乃敢加兵刃于我！”左右欲杀之，庆忌止之，曰：“此是天下勇士，岂可一日而杀天下勇士二人哉？”乃诫左右曰：“可令还吴，以旌其忠。”于是庆忌死。要离渡至江陵，惘然不行。从者曰：“君何不行？”要离曰：“杀吾妻子，以事吾君，非仁也。为新君，而杀故君之子，非义也。重其死，不贵无义，今吾贪生弃行，非义也。夫人有三恶，以立



于世，吾何面目以视天下之士？”言訖，遂投身于江。未绝，从者出之。要离曰：“吾宁能不死乎？”从者曰：“君且勿死，以俟爵禄。”要离乃自断手足，伏剑而死。

三年，吴将欲伐楚，未行，伍子胥、白喜相谓曰：“吾等为王养士，画其策谋，有利于国。而王故伐楚，出其令，托而无兴师之意，奈何？”有顷，吴王问子胥、白喜曰：“寡人欲出兵，于二子何如？”子胥、白喜对曰：“臣愿用命。”吴王内计二子皆怨楚，深悉以兵往，破灭而已。登台向南风而啸，有顷而叹，群臣莫有晓王意者。子胥深知王之不定，乃荐孙子于王。孙子者，名武，吴人也。善为兵法，辟隐深居，世人莫知其能。胥乃明知鉴辨，知孙子可以折冲销敌，乃一旦与吴王论兵，七荐孙子。吴王曰：“子胥托言进士，欲以自纳。”而召孙子，问以兵法。每陈一篇，王不知口之称善，其意大悦。问曰：“兵法宁可以小试耶？”孙子曰：“可。可以小试于后宫之女。”王曰：“诺。”孙子曰：“得大王宠姬二人，以为军队长，各将一队。”令三百人皆被甲兜鍪，操剑盾而立。告以军法，随鼓进退，左右回旋，使知其禁。乃令曰：“一鼓皆振，二鼓操进，三鼓为战形。”于是宫女皆掩口而笑。孙子乃亲自操枹击鼓，三令五申，其笑如故。孙子顾视，诸女连笑不止。孙子大怒，两目忽张，声如骇虎，发上冲冠，项旁绝纓，顾谓执法曰：“取缺纓。”孙子曰：“约束不明，申令不信，将之罪也。既以约束，三令五申，卒不却行，士之过也。军法如何？”执法曰：“斩！”武乃令斩队长二人，即吴王之宠姬也。吴王登台观望，正见斩二爱姬，驰使下之令曰：“寡人已知将军用兵矣。寡人非此二姬，食不甘味，宜勿斩之！”孙子曰：“臣既已受命为将，将法：在军，君虽有令，臣不受之。”孙子复枹鼓之，当左右进退，回旋规矩，不敢瞬目。二队寂然，无敢顾者。于是乃报吴王曰：“兵已整齐，愿王观之。惟所欲用，使赴水火，犹无难矣，而可以定天下。”吴王忽然不悦，曰：“寡人知子善用兵。虽可以霸，然而无所施也。将军罢兵就舍，寡人不愿。”孙子曰：“王徒好其言，而不用其实。”子胥谏曰：“臣闻兵者凶事，不可空试。故为兵者，诛伐不行，兵道不明。今大王虔心思士，欲兴兵戈，以诛暴楚，以霸天下，而威诸侯。非孙武之将，而谁能涉难逾洒，越千里而战者乎？”于是吴王大悦，因鸣鼓会军，集而攻楚。孙子为将，拔舒，杀吴亡将二公子盖餘、烛庸。谋欲入郢，孙武曰：“民劳，未可恃也。”楚闻吴使孙子、伍子胥、白喜为将，楚国苦之。群臣皆怨，咸言费无忌谗杀伍奢、白州犁，而吴侵境不绝于寇，楚国群臣有一朝之患。于是，司马成乃谓子常曰：“太傅伍奢、左尹白州犁，邦人莫知其罪，君与王谋诛之，流谤于国，至于今日，其言不绝，诚惑之。盖闻仁者杀人以掩谤者，犹弗为也。今子杀人以兴谤于国，不亦异乎？夫费无忌，楚之谗口，民莫知其过。今无事杀三贤士，以结怨于吴。内伤忠臣之心，外为邻国所笑。且郢、伍之家出奔于吴，吴新有伍员、白喜，秉威锐志，结仇于楚，故强敌之兵日骇。楚国有事，子即危矣！夫智者除谗以自安，愚者受佞以自亡。今子受谗，国以危矣！”子常曰：“是曩之罪也。敢不图之！”九月，子常与昭王共诛费无忌，遂灭其族，国人乃谤止。

吴王有女滕玉，因谋伐楚，与夫人及女会，蒸鱼。王前尝半而与女，女怒曰：“王食



鱼，辱我，不忍久生。”乃自杀。阖闾痛之，葬于国西阊门外，凿池积土，文石为椁，题凑为中，金鼎、玉杯、银樽、珠襦之宝皆以送女。乃舞白鹤于吴市中，令万民随而观之，还使男女与鹤俱入羡门，因发机以掩之，杀生以送死。国人非之。

湛卢之剑恶阖闾之无道也，乃去而出，水行如楚。楚昭王卧而寤，得吴王湛卢之剑于床。昭王不知其故，乃召风胡子而问曰：“寡人卧，觉而得宝剑，不知其名，是何剑也？”风胡子曰：“此谓湛卢之剑。”昭王曰：“何以言之？”风胡子曰：“臣闻吴王得越所献宝剑三枚，一曰鱼肠，二曰磐郢，三曰湛卢。鱼肠之剑已用杀吴王僚也，磐郢以送其死女，今湛卢入楚也。”昭王曰：“湛卢所以去者，何也？”风胡子曰：“臣闻越王元常使欧冶子造剑五枚，以示薛烛。烛对曰：‘鱼肠剑逆理不顺，不可服也。臣以杀君，子以杀父。’故阖闾以杀王僚。一名磐郢，亦曰豪曹，不法之物，无益于人。故以送死。一名湛卢，五金之英，太阳之精，寄气托灵，出之有神，服之有威，可以折冲拒敌。然人君有逆理之谋，其剑即出。故去无道，以就有道。今吴王无道，杀君谋篡，故湛卢入楚。”昭王曰：“其直几何？”风胡子曰：“臣闻此剑在越之时，客有酬其直者，有市之乡三十，骏马千匹、万户之都二，是其一也。薛烛对曰：‘赤堇之山已合无云，若耶之溪深而莫测，群臣上天。欧冶死矣，虽倾城量金，珠玉盈河，犹不能得此宝。而况有市之乡、骏马千匹、万户之都，何足言也？’”昭王大悦，遂以为宝。阖闾闻楚得湛卢之剑，因斯发怒，遂使孙武、伍胥、白喜伐楚。子胥阴今直言于楚曰：“楚用子期为将，吾即得而杀之。子常用兵，吾即去之。”楚闻之，因用子常，退子期。吴拔六与潜二邑。

五年，吴王以越不从伐楚，南伐越。越王元常曰：“吴不信前日之盟，弃贡赐之国，而灭其交亲。”阖闾不然其言，遂伐破榜里。

六年，楚昭王使公子囊瓦伐吴，报潜、六之役。吴使伍胥、孙武击之，围于豫章。吴王曰：“吾欲乘危入楚都，而破其郢。不得入郢，二子何功？”于是围楚师于豫章，大破之。遂围巢，克之，获楚公子繁以归为质。

九年，吴王谓子胥、孙武曰：“始子言郢不可入，今果何如？”二将曰：“夫战，借胜以成其威，非常胜之道。”吴王曰：“何谓也？”二将曰：“楚之为兵，天下强敌也。今臣与之争锋，十亡一存；而王入郢者，天也。臣不敢必。”吴王曰：“吾欲复击楚，奈何而有功？”伍胥、孙武曰：“囊瓦者，贪而多过于诸侯，而唐、蔡怨之。王必伐，得唐、蔡何怨？”二将曰：“昔蔡昭公朝于楚，有美裘二枚，善珮二枚，各以一枚献之昭王。王服之以临朝，昭公自服一枚。子常欲之，昭公不与。子常三年留之，不使归国。唐成公朝楚，有二文马，子常欲之，公不与，亦三年止之。唐人相与谋，从成公从者请马以赎成公。饮从者酒，酥之窃马而献子常，常乃遣成公归国。群臣诽谤曰：‘君以一马之故，三年自囚，愿赏窃马之功。’于是成公常思报楚君臣，未尝绝口。蔡人闻之，固请献裘、珮于子常。蔡侯得归。如晋，告诉，以子元与太子质，而请伐楚。故曰得唐、蔡而可伐楚。”吴王于是使使谓唐、蔡曰：“楚为无道，虐杀忠良，侵食诸侯，困辱二君。寡人欲举兵伐楚，愿



二君有谋。”唐侯使其子乾为质于吴。三国合谋伐楚，舍舟于淮汭，自豫章与楚夹汉水为阵。子常遂济汉而阵，自小别山至于大别山。三不利，自知不可进，欲奔亡。史皇曰：“今子常无故与王共杀忠臣三人，天祸来下，王之所致。”子常不应。

十月，楚二师阵于柏举，阖闾之弟夫槩晨起，请于阖闾曰：“子常不仁，贪而少恩，其臣下莫有死志。追之，必破矣。”阖闾不许。夫槩曰：“所谓臣行其志，不待命者，其谓此也。”遂以其部五千人击子常。大败，走奔郢，楚师大乱。吴师乘之，遂破楚众。楚人未济汉，会楚人食，吴因奔而击破之雍滞。五战，径至于郢。王迫于吴冠，出固始将亡，与妹季芊出河、滩之间，楚大夫尹固与王同舟而去。吴师遂入郢，求昭王。王涉滩济江，入于云中。暮宿，群盗攻之，以戈击王头。大夫尹固隐王，以背受之，中肩。王惧，奔郢。大夫钟建负季芊以从。郢公辛得昭王，大喜，欲还之。其弟怀怒曰：“昭王是我仇也。”欲杀之，谓其兄辛曰：“昔平王杀我父，吾杀其子，不亦可乎？”辛曰：“君讨其臣，敢仇之者？夫乘人之祸，非仁也；灭宗废祀，非孝也；动无令名，非智也。”怀怒不解。辛阴与其季弟巢以王奔随。吴兵逐之，谓随君曰：“周之子孙在汉水上者，楚灭之。谓天报其祸，加罚于楚，君何保之？周室何罪，而隐其贼？能出昭王，即重惠也。”随君卜昭王与吴王不吉，乃辞吴王曰：“今随之僻小，密近于楚，楚实存我，有盟至今未改。若今有难而弃之。今且安静楚，敢不听命？”吴师多其辞，乃退。是时，大夫子期虽与昭王俱亡，阴与吴师为市，欲出昭王。王闻之，得免，即割子期心，以与随君盟而去。

吴王入郢，止留。伍胥以不得昭王，乃掘平王之墓，出其尸，鞭之三百。左足践腹，右手抉其目，诮之曰：“谁使汝用谗谀之口，杀我父兄？岂不冤哉！”即令阖闾妻昭王夫人、伍胥、孙武、白喜亦妻子常、司马成之妻，以辱楚之君臣也。遂引军击郢。

郑定公前杀太子建，而困迫子胥，自此郑定公大惧，乃令国中曰：“有能还吴军者，吾与分国而治。”渔者之子应募，曰：“臣能还之。不用尺兵斗粮，得一桡而行歌道中，即还矣。”公乃与渔者之子桡。子胥军将至，当道扣桡而歌，曰：“芦中人！”如是再。子胥闻之，愕然大惊，曰：“何等谓？”与语：“公为何谁矣？”曰：“渔父者子。吾国君惧怖，令于国有能还吴军者，与之分国而治。臣念前人与君相逢于途，今从君乞郑之国。”子胥叹曰：“悲哉！吾蒙子前人之恩，自致于此。上天苍苍，岂敢忘也？”于是乃释郑国，还军守楚，求昭王所在日急。

申包胥亡在山中，闻之，乃使人谓子胥曰：“子之报仇，其以甚乎！子故平王之臣，北面事之。今于僇尸之辱，岂道之极乎？”子胥曰：“为我谢申包胥，曰：‘日暮路远，倒行而逆施之于道孔。’”申包胥知不可，乃之于秦，求救楚。昼驰夜趋，足踵黧弊，裂裳裹膝，鹤倚哭于秦庭，七日七夜，口不绝声。秦桓公素沉湎，不恤国事。申包胥哭已，歌曰：“吴为无道，封豕长蛇，以食上国。欲有天下，政从楚起。寡君出在草泽，使来告急。”如此七日。桓公大惊：“楚有贤臣如是，吴犹欲灭之。寡人无臣若斯者，其亡无日矣。”为赋《无衣》之诗曰：“岂曰无衣，与子同袍。王于兴师，与子同仇。”包胥曰：“臣



闻戾德无厌，王不忧邻国疆场之患，逮吴之未定，王其取分焉。若楚遂亡，于秦何利？则亦亡君之土也。愿王以神灵存之，世以事王。”秦伯使辞焉，曰：“寡人闻命矣。子且就馆，将图而告。”包胥曰：“寡君今在草野，未获所伏，臣何敢即安？”复立于庭，倚墙而哭，日夜不绝声，水不入口。秦伯为之垂涕，即出师而送之。

十年，秦师未出，越王元常恨阖闾破之携里，兴兵伐吴。吴在楚，越盗掩袭之。六月，申包胥以秦师至，秦使公子子蒲、子虎率车五百乘救楚击吴。二子曰：“吾未知吴道。”使楚师前，与吴战，而即会之，大败夫槩。七月，楚司马子成、秦公子子蒲与吴王相守，私以间兵伐唐，灭之。子胥久留楚，求昭王，不去。夫槩师败，却退。九月，潜归，自立为吴王。阖闾闻之，乃释楚师，欲杀夫槩。奔楚，昭王封夫槩于棠溪。阖闾遂归。子胥、孙武、白喜留，与楚师于淮渚，秦师又败吴师。楚子期将焚吴军，子西曰：“吾国父兄身战，暴骨草野焉，不收，又焚之，其可乎？”子期曰：“亡国失众，存没所在，又何杀生以爱死？”死如有知，必将乘烟起而助我。如其无知，何惜草中之骨，而亡吴国？”遂焚而战，吴师大败。子胥等相谓曰：“彼楚虽败我馀兵，未有所损我者。”孙武曰：“吾以吴干戈西破楚，逐昭王而屠荆平王墓，割戮其尸，亦已足矣。”子胥曰：“自霸王已来，未有人臣报仇如此者也。行去矣！”吴军去后，昭王反国。

乐师扈子非荆王信谗佞，杀伍奢、白州羣，而寇不绝于境，至乃掘平王墓，戮尸奸喜，以辱楚君臣；又伤昭王困迫，几为天下大鄙，然已愧矣。乃援琴为楚作《穷劫》之曲，以伤君之迫厄之畅达也。其词曰：“王耶，王耶，何乖劣！不顾宗庙听谗孽。任用无忌多所杀，诛夷白氏族几灭。二子东奔适吴、越，吴王哀痛助切怛。垂涕举兵将西伐，伍胥、白喜、孙武决。三战破郢王奔发，留兵纵骑虏荆阙。楚荆骸骨遭发掘，鞭辱腐尸耻难雪。几危宗庙社稷灭，严王何罪国几绝。卿士凄怆民惻悷，吴军虽去怖不歇。愿王更隐抚忠节，勿为谗口能谤褒。”昭王垂涕，深知琴曲之情。扈子遂不复鼓矣。子胥等过溧阳濑水之上，乃长太息曰：“吾尝饥于此，乞食于一女子。女子饲我，遂投水而亡。”将欲报以百金，而不知其家，乃投金水中而去。有顷，一老姬行哭而来。人问曰：“何哭之悲？”姬曰：“吾有女子，守居三十不嫁。往年击绵于此，遇一穷途君子而辄饭之，而恐事泄，自投于濑水。今闻伍君来，不得其偿，自伤虚死，是故悲耳！”人曰：“子胥欲报百金，不知其家，投金水中而去矣。”姬遂取金而归。”子胥归吴，吴王闻三师将至，治鱼为鲙。将到之日，过时不至，鱼臭。须臾，子胥至，阖闾出鲙而食，不知其臭。王复重为之，其味如故。吴人作鲙者，自阖闾之造也。

诸将既从还楚，因更名闾门曰破楚门。复谋伐齐。齐子使女为质于吴，吴王因为太子波聘齐女。女少，思齐，日夜号泣，因乃为病。阖闾乃起北门，名曰望齐门，令女往游其上。女思不止，病日益甚，乃至殁落。女曰：“令死者有知，必葬我于虞山之巔，以望齐国。”阖闾伤之，正如其言，乃葬虞山之巔。是时，太子亦病而死，阖闾谋择诸公子可立者。未有定计。波太子夫差日夜告于伍胥曰：“王欲立太子，非我而谁当立？此计在君



耳。”伍子胥曰：“太子未有定。我人，则决矣。”阖闾有顷召子胥谋立太子，子胥曰：“臣闻祀废于绝后，兴于有嗣。今太子不禄，早失侍御，今王欲立太子者，莫大乎波秦之子夫差。”阖闾曰：“夫愚而不仁，恐不能奉统于吴国。”子胥曰：“夫差信以爱人，端于守节，教于礼义。父死子代，经之明文。”阖闾曰：“寡人从子。”立夫差为太子，使太子屯兵守楚留止。自治宫室，立射台于安里，华池在平昌，南城宫在长乐。阖闾出入游卧，秋冬治于城中，春夏治于城外，治姑苏之台。旦食鉅山，昼游苏台，射于欧陂，驰于游台，兴乐石城，走犬长洲。斯止阖闾之霸时。于是，太子定，因伐楚，破师拔番。楚惧吴兵复往，乃去郢，徙于茆若。当此之时，吴以子胥、白喜、孙武之谋，西破强楚，北威齐、晋，南伐于越。

卷五 夫差内传

十一年，夫差北伐齐，齐使大夫高氏谢吴师曰：“齐孤立于国，仓库空虚，民人离散。齐以吴为强辅，今未往告急，而吴见伐。清伏国人于郊，不敢陈战争之辞。惟吴哀齐之不滥也。”吴师即还。

十二年，夫差复北伐齐。越王闻之，率众以朝于吴，而以重宝厚献太宰嚭。嚭喜，受越之赂，爱信越殊甚，日夜为言于吴王，王信用嚭之计，伍胥大惧，曰：“是弃吾也。”乃进谏曰：“越在心腹之病，不前除其疾，今信浮辞伪诈而贪齐。破齐，譬由磐石之田，无立其苗也，愿王释齐而前越。不然，悔之无及！”吴王不听，使子胥使于齐，通期战之会。子胥谓其子曰：“我数谏王，王不我用，今见吴之亡矣！汝与吾俱亡，亡无也为也。”乃属其子于齐鲍氏而还。太宰嚭既与子胥有隙，因谗之曰：“子胥为强暴力谏，愿王少厚焉。”王曰：“寡人知之。”未兴师，会鲁使子贡聘于吴。

十三年，齐大夫陈成恒欲弑简公，阴惮高、国、鲍、晏，故前兴兵伐鲁。鲁君忧之，孔子患之，召门人而谓之曰：“诸侯有相伐者，丘常耻之。夫鲁，父母之国也，丘墓在焉。今齐将伐之，子无意一出耶？”子路辞出，孔子止之。子张、子石请行，孔子弗许。子贡辞出，孔子遣之。子贡北之齐，见成恒，因谓曰：“夫鲁者，难伐之国，而君伐，过矣！”成恒曰：“鲁何难伐也！”子贡曰：“其城薄以卑，其池狭以浅，其君愚而不仁，大臣无用，士恶甲兵，不可与战，君不若伐吴。夫吴，城厚而崇，池广以深，甲坚士选，器饱弩劲，又使明大夫守之，此易邦也。”成恒忿然作色曰：“子之所难，人之所易；子之所易，人之所难。而以教恒，何也？”子贡曰：“臣闻君三封而三不成者，大臣有所不听者也。今君又欲破鲁以广齐，黜鲁以自尊，而君功不与焉。是君上骄下惑群臣，而求以成大事，难矣！且夫上骄则犯，臣骄则争，此君上于王有遽，而下与大臣交争。如此，则君立于齐，危于累卵！故曰不如伐吴。且吴王刚猛而毅，能行其令，百姓习于战守，明于法禁，齐遇，为擒必矣！今君悉四境之中，出大臣以环之，人民外死，大臣内空，是君上无强敌之臣，下



无黔首之士，孤主制齐者，君也。”陈恒曰：“善！虽然，吾兵已在鲁之城下矣。吾去之吴，大臣将有疑我之心。为之奈何？”子贡曰：“君按兵无伐，请为君南见吴王，请之救鲁而伐齐。君因以兵迎之。”陈恒许诺。

子贡南见吴王，谓吴王曰：“臣闻之王者不绝世，而霸者无强敌。千钧之重，加铢而移。今万乘之齐，而私千乘之鲁，而与吴争强，臣窃为君恐焉。且夫救鲁，显名也。伐齐，大利也。义存亡鲁，害暴齐，而威强晋，则王不疑也。”吴王曰：“善！虽然，吾尝与越战，栖之会稽，入臣于吴，不即诛之，三年使归。夫越君，贤主。若身劳力，夜以接日，内饰其政，外事诸侯，必将有报我之心。子待我伐越而听子。”子贡曰：“不可。夫越之强，不过于鲁，吴之强，不过于齐。王以伐越而不听臣，齐亦已私鲁矣。且畏小越而恶强齐，不勇也；见小利而忘大害，不智也。臣闻仁人不因居以广其德，智者不弃时以举其功，王者不绝世以立其义。且夫畏越如此，臣诚东见越王，使出师以从下吏。”吴王大悦。

子贡东见越王。王闻之，陈道郊迎，身御至舍，问曰：“此僻狭之国，蛮夷之民，大夫何索然若不辱，乃至于此？”子贡曰：“君吊，故来。”越王勾践再拜稽首曰：“孤闻祸与福为邻。今大夫之吊，孤之福矣。孤敢不问其说？”子贡曰：“臣今者见吴王，告以救鲁而伐齐，其心畏越。且夫无报人之志，而使人疑之，拙也；有报人之意，而使人知之，殆也；事未发而闻之者，危也。三者举事之大忌也。”越王再拜曰：“孤少失前人，内不自量，与吴人战。军败，身辱遁逃，上栖会稽，下守海滨，唯鱼鳖见矣！今大夫辱吊而身见之，又发玉声以教孤，孤赖天之赐也。敢不承教！”子贡曰：“臣闻明主任人，不失其能；直士举贤，不容于世。故临财分利，则使仁；涉患犯难，则使勇；用智图国，则使贤；正天下，定诸侯，则使圣。兵强而不能行其威势，在上位而不能施其政，令于下者，其君几乎？难矣！臣窃自择，可与成功而至王者，惟几乎？今吴王有伐齐、晋之志，君无爱重器，以喜其心；无恶卑辞，以尽其礼。而伐齐，齐必战。不胜，君之福也；彼战而胜，必以其兵临晋。骑士锐兵弊乎齐，重宝车骑羽毛尽乎晋，则君制其余矣！”越王再拜曰：“昔者吴王分其民之众，以残吾国，杀败吾民，鄙吾百姓，夷吾宗庙，国为墟棘，身为鱼鳖。孤之怨吴，深于骨髓。而孤之事吴，如子之畏父，弟之敬兄，此孤之死言也。今大夫有赐，故孤敢以报情。孤身不安重席，口不尝厚味，目不视美色，耳不听雅音，既已三年矣。焦唇干舌，苦身劳力，上事群臣，下养百姓，愿一与吴交战于天下平原之野，正身臂而奋吴、越之士，继踵连死，肝脑涂地者，孤之愿也！思之三年，不可得也。今内量吾国，不足以伤吴；外事诸侯，而不能也。愿空国，弃群臣，变容貌，易姓名，执箕帚，养牛马以事之。孤虽知要领不属，手足异处，四支布陈，为乡邑笑，孤之意出焉。今大夫有赐，存亡国，举死人，孤赖天赐，敢不待令乎？”子贡曰：“夫吴王为人，贪功名而不知利害。”越王嗾然避位。子贡曰：“臣观吴王为数战伐，士卒不恩，大臣内引，谗人益众。夫子胥为人精诚，中廉外明而知时，不以身死隐君之过，正言以忠君，直行以为国，其身死而不听。太宰嚭为人智而愚，强而弱，巧言利辞以内其身，善为诡诈以事君，知其前而



不知其后，顺君之过以安其私，是残国伤君之佞臣也。”越王大悦。

子贡去，越王送之金百镒、宝剑一、良马二，子贡不受。至吴，谓吴王曰：“臣以下吏之言告于越王，越王太恐，曰：‘昔者孤身不幸，少失前人，内不自量，抵罪于吴，军败身辱，遁逃出走，栖于会稽，国为墟莽，身为鱼鳖。赖大王之赐，使得奉俎豆，修祭祀。死且不敢忘，何谋之敢？’其志甚恐，将使使者来谢于王。”子贡馆五日，越使果来，曰：“东海役臣勾践之使者臣种，敢修下吏，少闻于左右：‘昔孤不幸，少失前人，内不自量，抵罪上国，军败身辱，遁逃会稽。赖王赐，得奉祭祀，死且不忘。今窃闻大王兴大义，诛疆救弱，困暴齐而抚周室，故使贱臣以奉前王所藏甲二十领、屈卢之矛、步光之剑，以贺军吏。若将遂大义，弊邑虽小，请悉四方之内士卒三千人以从下吏，请躬被坚执锐以前受矢石，君臣死无所恨矣！’”吴王大悦，乃召子贡，曰：“越使果来，请出士卒三千，其君从之，与寡人伐齐，可乎？”子贡曰：“不可！夫空人之国，悉人之众，又从其君，不仁也。受币，许其师，辞其君，即可。”吴王许诺。

子贡去晋，见定公，曰：“臣闻虑不预定，不可以应卒；兵不预办，不可以胜敌。今吴、齐将战，战而不胜，越乱之必矣！与战而胜，必以其兵临晋。君为之奈何？”定公曰：“何以待之？”子贡曰：“修兵伏卒以待之。”晋君许之。

子贡返鲁，吴王果兴九郡之兵，将与齐战。道出胥门，因过姑胥之台，忽昼假寐於姑胥之台而得梦。及寤而起，其心恬然怅焉。乃命太宰嚭，告曰：“寡人昼卧有梦，觉而恬然怅焉。请占之得无所忧哉？梦入章明宫，见两飴蒸而不炊；雨黑犬噪以南，噪以北；两蜈殖吾宫墙；流水汤汤，越吾宫堂；后房鼓震篪篥，有辍工；前园横生梧桐。子为寡人占之！”太宰嚭曰：“美哉！王之兴师伐齐也。臣闻章者，德饬饬也；明者，破敌声闻，功朗明也；两飴蒸而不炊者，大王圣德，气有余也；两黑犬噪以南噪以北者，四夷已服，朝诸侯也；两蜈殖宫墙者，农夫就成，田夫耕也；汤汤越宫堂者，邻国贡献，财有余也；后房篪篥鼓震，有辍王者，宫女悦乐，琴瑟和也；前园横生梧桐者，乐府鼓声也。”吴王大悦，而其心不已，召王孙骆问曰：“寡人忽昼梦，为子陈之。”王孙骆曰：“臣鄙浅，于道不能博大。今王所梦，臣不能占。其有所知者，东掖门亭长长城公弟公孙圣。圣为人少而好游，长而好学，多见博观，知鬼神之情状。愿王问之！”王乃遣王孙骆往请公孙圣，曰：“吴王昼卧姑胥之台，忽然感梦，觉而怅然，使子占之。急诣姑胥之台！”公孙圣伏地而泣，有顷而起。其妻从旁谓圣曰：“子何性鄙！希睹人主，卒得急召，涕泣如雨！”公孙圣仰天叹曰：“悲哉！非子所知也。今日壬午，时加南方，命属上天，不得逃亡，非但自哀，诚伤吴王！”妻曰：“子以道自达于主，有道当行，上以谏王，下以约身。今闻急召，忧惑溃乱，非贤人所宜！”公孙圣曰：“愚哉！女子之言也。吾受道十年，隐身避害，欲绍寿命。不意卒得急召，中世自弃，故悲与子相离耳！”遂去，诣姑胥台。吴王曰：“寡人将北伐齐、鲁，道出胥门，过姑胥之台，忽然昼梦。子为占之，其言吉凶。”公孙圣曰：“臣不言，身名全；言之，必死百段于王前。然忠臣不顾其躯。”乃仰天叹曰：“臣闻好船者必



溺，好战者必亡。臣好直言，不顾于命，愿王图之！臣闻章者，战不胜，败走倖倖也；圻者，去昭昭，就冥冥也；人门见飴燕而不炊者，大王不得火食也；两黑犬嚙以南，嚙以北者，黑者，阴也，北者，匿也；两候殖宫墙者，越军入吴国，伐宗庙，掘社稷也；流水汤汤，越宫堂者，宫空虚也；后房鼓震篋篋者，坐太息也；前园横生梧桐者，梧桐心空，不为用器，但为甬当，与死人俱葬也。愿大王按兵修德，无伐于齐，则可销也。遣下吏太宰嚭、王孙骆解冠带，肉袒徒跣，稽首谢于勾践，国可安存也，身可不死矣。”吴王闻之，索然作怒，乃曰：“吾天之所生，神之所使。”顾力士石番，以铁鎚击杀之。圣乃仰头向天而言曰：“吁嗟！天知吾之冤乎？忠而获罪，身死无事。以葬我以为直者，不如相随为柱，提我至深山，后世相属为声响。”于是吴王乃使门人提之燕丘：“豺狼食汝肉，野火烧汝骨，东风数至，飞扬汝骸，骨肉靡烂，何能为声响哉？”太宰嚭趋进曰：“贺大王喜，灾已灭矣！因举行觞，兵可以行。”

吴王乃使太宰嚭为右校司马，王孙骆为左校，及从勾践之师伐齐。伍子胥闻之，谏曰：“臣闻兴十万之众，奉师千里，百姓之费，国家之出，日数千金。不念士民之死，而争一日之胜，臣以为危国亡身之甚。且与贼居，不知其祸，外复求怨，缴幸他国，犹治救痼疾，而弃心腹之疾，发当死矣！疥皮肤之疾，不足患也。今齐陵迟千里之外，更历楚、赵之界。齐为疾，其疥耳；越之为病，乃心腹也。不发，则伤；动，则有死。愿大王定越而后图齐。臣之言决矣，敢不尽忠！臣今年老，耳目不聪，以狂惑之心，无能益国。窃观《金匱》第八，其可伤也。”吴王曰：“何谓也？”子胥曰：“今年七月，辛亥平旦，大王以首事。辛，岁位也；亥，阴前之辰也。合壬子岁，前合也，利以行武，武决胜矣。然德在合斗击丑。丑，辛之本也。大吉为白虎而临辛，功曹为太常所临亥。大吉得辛为九丑，又与白虎并重。有人若以此首事，前虽小胜，后必大败。天地行殃，祸不久矣。”吴王不听，遂九月使太宰嚭伐齐。

军临北郊，吴王谓嚭曰：“行矣！无忘有功，无赦有罪。爱民养士，视如赤子。与智者谋，与仁者友。”太宰嚭受命，遂行。吴王召大夫被离，问曰：“汝常与子胥同心合志，并虑一谋。寡人兴师伐齐，子胥独何言焉？”被离曰：“子胥欲尽诚于前王，自谓老狂，耳目不聪，不知当世之所行，无益吴国。”王遂伐齐，齐与吴战于艾陵之上。齐师败绩。

吴王既胜，乃使行人成好于齐，曰：“吴王闻齐有没水之虑，帅军来观。而齐兴师蒲草，吴不知所安集，设阵为备，不意颇伤齐师。愿结和亲而去。”齐王曰：“寡人处此北边，无出境之谋。今吴乃济江、淮，逾千里而来我壤土，戮我众庶。赖上帝哀存，国犹不至颠陨。王今让以和亲，敢不如命？”吴、齐遂盟而去。

吴王还，乃让子胥曰：“吾前王履德，明达于上帝，垂功用力，为子西结强仇于楚。今前王譬若农夫之艾，杀四方蓬蒿，以立名于荆蛮，斯亦大夫之力。今大夫昏耄而不自安，生变起诈，怨恶而出。出则罪吾士众，乱吾法度，欲以妖孽挫削吾师。赖天降哀，齐师受服。寡人岂敢自归其功？乃前王之遗德，神灵之祐福也。若子于吴，则何力焉？”伍



子胥攘臂大怒，释剑而对曰：“昔吾前王，有不庭之臣，以能遂疑计，不陷于大难。今王播弃，所患外不忧，此孤僮之谋，非霸王之事。天所未弃，必趋其小喜，而近其大忧。王若觉寤，吴国世世存焉；若不觉寤，吴国之命斯促矣！虽不忍称疾辟易，乃见王之为擒。虽诚前死，挂吾目于门，以观吴国之丧。”吴王不听。坐于殿上，独见四人，向庭相背而倚。王怪而视之，群臣问曰：“王何所见？”王曰：“吾见四人，相背而倚。闻人言，则四分走矣。”子胥曰：“如王言，将失众矣！”吴王怒，曰：“子言不祥子！”胥曰：“非惟不祥，王亦亡矣！”后五日，吴王复坐殿上，望见两人相对，北向人杀南向人。王问群臣：“见乎？”曰：“无所见。”子胥曰：“王何见？”王曰：“前日所见四人，今日又见二人相对，北向人杀南向人。”子胥曰：“臣闻四人走，叛也；北向杀南向，臣杀君也。”王不应。

吴王置酒文台之上，群臣悉在，太宰嚭执政，越王侍坐，子胥在焉。王曰：“寡人闻之，君不贱有功之臣，父不憎有力之子。今太宰嚭为寡人有功，吾将爵之上赏。越王慈仁忠信，以孝事于寡人，吾将复增其国，以还助伐之功。于众大夫如何？”群臣贺曰：“大王躬行至德，虚心养士，群臣并进，见难争死，名号显著，威震四海，有功蒙赏，亡国复存，霸功王事，咸被群臣。”于是子胥据地垂涕，曰：“于乎哀哉！遭此默默。忠臣掩口，谗夫在侧；政败道坏，谄谀无极；邪说伪辞，以曲为直；舍谗攻忠，将灭吴国。宗庙既夷，社稷不食；城郭丘墟，殿生荆棘。”吴王大怒，曰：“老臣多诈，为吴妖孽。乃欲专权擅威，独倾吾国。寡人以前王之故，未忍行法。今退自计，无沮吴谋。”子胥曰：“今臣不忠不信，不得为前王之臣。臣不敢爱身，恐吾国之亡矣！昔者桀杀关龙逢，纣杀王子比干，今大王诛臣，参于桀、纣。大王勉之！臣请辞矣。”子胥归，谓被离曰：“吾贯弓接失于郑、楚之界，越渡江、淮，自致于斯。前王听从吾计，破楚见凌之仇。欲报前王之恩，而至于此！吾非自惜，祸将及汝。”被离曰：“未谏不听，自杀何益？何如亡乎？”子胥曰：“亡臣安往？”

吴王闻子胥之怨恨也，乃使人赐属镂之剑。子胥受剑，徒跣褰裳，下堂中庭，仰天呼怨，曰：“吾始为汝父忠臣，立吴，设谋破楚，南服劲越，威加诸侯，有霸王之功，今汝不用吾言，反赐我剑。吾今日死，吴宫为墟，庭生蔓草，越人掘汝社稷。安忘我乎？昔前王不欲立汝，我以死争之，卒得汝之愿，公子多怨于我。我徒有功于吴，今乃忘我定国之恩，反赐我死，岂不谬哉？”吴王闻之，大怒曰：“汝不忠信，为寡人使齐，托汝手于齐鲍氏，有我外之心。急令自裁，孤不使汝得有所见。”子胥把剑，仰天叹曰：“自我死后，后世必以我为忠。上配夏、殷之世，亦得与龙逢、比干为友。”遂伏剑而死。吴王乃取子胥尸，盛以鸱夷之器，投之于江中，言曰：“胥，汝一死之后，何能有知？”即断其头，置高楼上，谓之曰：“日月炙汝肉，飘风飘汝眼，炎光烧汝骨，鱼鳖食汝肉。汝骨变形灰，有何所见？”乃弃其躯，投之江中。子胥因随流扬波，依潮来往，荡激崩岸。于是吴王谓被离曰：“汝尝与子胥论寡人之短。”乃髡被离而刑之。王孙骆闻之，不朝。王召而问曰：“子何非寡人而不朝乎？”骆曰：“臣恐耳。”曰：“子以我杀子胥为重乎？”骆曰：“大王气



高，子胥位下，王诛之。臣命何异于子胥？臣以是恐也！”王曰：“非听宰嚭以杀子胥。胥图寡人也！”骆曰：“臣闻人君者，必有敢谏之臣。在上位者，必有敢言之交。夫子胥，先王的老臣也。不忠不信，不得为前王臣。”吴王中心戾然，悔杀子胥。“岂非宰嚭之谗子胥？”而欲杀之。骆曰：“不可！王若杀嚭，此为二子胥也。”于是不诛。

十四年，夫差既杀子胥，连年不熟，民多怨恨。吴王复伐齐。阙为东沟，于商、鲁之间，北属沂，西属济，欲与鲁、晋合攻于黄池之上。恐群臣复谏，乃令国中曰：“寡人伐齐，有敢谏者，死。”太子友知子胥忠而不用，太宰嚭佞而专政，欲切言之，恐罹尤也，乃以讽谏激于王。清旦怀丸持弹，从后园而来，衣沾履濡。王怪而问之，曰：“子何为沾衣濡履，体如斯也？”太子友曰：“适游后园，闻秋蝉之声，往而观之。夫秋蝉登高树，饮清露，随风拂挠，长吟悲鸣，自以为安，不知螳螂超枝缘条，曳腰耸距，而覆其形。夫螳螂翕心而进，志在有利，不知黄雀盈绿林，徘徊枝阴，颀颀微进，欲啄螳螂。夫黄雀但知伺螳螂之有味，不知臣挟弹危擲，蹭蹬飞丸而集其背。今臣但虚心志在黄雀，不知空陷其旁，暗忽埒中，陷于深井。臣故裕体濡履，几为大王取笑。”王曰：“天下之愚，莫过于斯。但贪前利，不睹后患。”太子曰：“天下之愚，复有甚者。鲁承周公之末，有孔子之教，守仁抱德，无欲于邻国。而齐举兵伐之，不爱民命，惟有所获。夫齐徒举而伐鲁，不知吴悉境内之士，尽府库之财，暴师千里而攻之。夫吴徒知逾境征伐非吾之国，不知越王将选死士，出三江之口入五湖之中，屠我吴国，灭我吴宫。天下之危，莫过于斯也！”吴王不听太子之谏，遂北伐齐。

越王闻吴王伐齐，使范蠡、洩庸率师屯海通江，以绝吴路，败太子友于姑熊夷。通江、淮，转袭吴，遂入吴国，烧姑胥台，徙其大舟。

吴败齐师于艾陵之上。还师临晋，与定公争长。未合，边候。吴王夫差大惧，合诸侯谋曰：“吾道辽远，无会前进，孰利？”王孙骆曰：“不如前进，则执诸侯之柄，以求其志。请王属士，以明其令，劝之以高位，辱之以不从，令各尽其死。”夫差昏秣马食士，服兵被甲，勒马御杖，出火于造，暗行而进。吴师皆文犀、长盾、扁诸之剑，方阵而行。中校之军皆白裳、白髦、素甲、素羽之缙，望之若荼。王亲秉钺，戴旗以阵而立。左军皆赤裳、赤髦、丹甲、朱羽之缙，望之若火。右军皆玄裳、玄舆、黑甲、乌羽之缙，望之如墨。带甲三万六千，鸡鸣而定阵，去晋军一里。天尚未明，王乃亲鸣金鼓，三军哗吟，以振其旅，其声动天徙地。晋大惊，不出，反距坚垒。乃今童褐请军，曰：“两军边兵接好，日中为期。今大国越次而造弊邑之军垒，敢请辞故？”吴王亲对曰：“天子有命，周室毕弱，约诸侯贡献，莫入王府；上帝鬼神而不可以告无，姬姓之所振惧，遣使来告，冠盖不绝于道。始周依负于晋，故忽于夷、狄。会晋今反叛如斯，吾是以蒲服就君。不肯长弟，徒以争强。孤进，不敢去，君不命长，为诸侯笑！孤之事君，决在今日。不得事君，亦在今日矣。敢烦使者往来，孤躬亲听命于藩篱之外。”童褐将还，吴王蹶左足，与褐决矣。及报，与诸侯、大夫列坐于晋定公前。既以通命，乃告赵鞅曰：“臣观吴王之色，类有大



忧，小则嬖妾、嫡子死；否则吴国有难，大则越人人，不得还也。其意有愁毒之忧，进退轻难，不可与战。主君宜许之以前期，无以争行而危国也。然不可徒许，必明其信。”赵鞅许诺，入谒定公，曰：“姬姓于周，吴为先，老可长，以尽国礼。”定公许诺，命童褐复命。于是吴王愧晋之义，乃退幕而会。二国君臣并在，吴王称公，前，晋侯次之，群臣皆盟。

吴既长晋而还，未踰于黄池，越闻吴王久留未归，乃悉士众，将踰章山，济三江而欲伐之。吴又恐齐、宋之为害，乃命王孙骆告劳于周，曰：“昔楚不承供贡，辟远兄弟之国。吾前君阖闾不忍其恶，带剑挺铍，与楚昭王相逐于中原。天舍其忠，楚师败绩。今齐不贤于楚，又不恭王命，以远辟兄弟之国。夫差不忍其恶，被甲带剑，径至艾陵。天福于吴，齐师还锋而退。夫差岂敢自多其功？是文、武之德所祐助！时归，吴不熟于岁，遂缘江湖淮，开沟深水，出于商、鲁之间，而归告于天子执事。”周王答曰：“伯父今子来乎？盟国一，人则依矣。余实嘉之！伯父若能辅余一人，则兼受永福，周室何忧焉？”乃赐弓弩王胙，以增号溢。吴王还归自池，息民散兵。

二十年，越王兴师伐吴，吴与越战于携李。吴师大败，军散，死者不可胜计。越追破吴，吴王困急，使王孙骆稽首请成，如越之来也。越王对曰：“昔天以越赐吴，吴不受也。今天以吴赐越，其可逆乎？吾请献、勾甬东之地，吾与君为二君乎？”吴王曰：“吾之在周，礼前一饭。如越王不忘周室之义，而使为附邑，亦寡人之愿也。行人请成列国之义，惟君王有意焉！”大夫种曰：“吴为无道，今幸擒之，愿王制其命。”越王曰：“吾将残汝社稷，夷汝宗庙。”吴王默然。请成七反，越王不听。

二十三年十月，越王复伐吴。吴国困，不战；士卒分散，城门不守，遂屠吴。吴王率群臣遁去，昼驰夜走，三日三夕，达于秦余杭山。胸中愁忧，目视茫茫，行步猖狂，腹馁口饥，顾得生稻而食之，伏地而饮水。顾左右曰：“此何名也？”对曰：“是生稻也。”吴王曰：“是公孙圣所言‘不得火食，走僮僮也。’”王孙骆曰：“饱食而去，前有胥山，西坂中可以匿止。”王行。有顷，因得生瓜，已熟，吴王掇而食之，谓左右曰：“何冬而生瓜？”近道，人不食，何也？”左右曰：“谓粪种之物，人不食也。”吴王曰：“何谓粪种？”左右曰：“盛夏之时，人食生瓜，起居道傍。子复生，秋霜恶之，故不食。”吴王叹曰：“子胥所谓‘旦食者也’。”谓太宰嚭曰：“吾戮公孙圣，投胥山之巔。吾以畏责天下之惭，吾兄不能进，心不能往。”太宰嚭曰：“死与生，败与成，故有避乎？”王曰：“然。曾无所知乎？子试前呼之，圣在，当即有应。”吴王止秦余杭山，呼曰：“公孙圣！”三反呼，圣从山中应曰：“公孙圣！”三呼，三应。吴王仰天呼曰：“寡人岂可返乎？寡人世世得圣也。”须臾，越兵至，三围吴。范蠡在中行，左手提鼓，右手操袍而鼓之。吴王书其矢而射种、蠡之军，辞曰：“吾闻狡兔以死，良犬就烹；敌国如灭，谋臣必亡。今吴病矣，大夫何虑乎？”大夫种、相国蠡急而攻。大夫种书矢射之，曰：“上天苍苍，若存若亡。越君勾践下臣种敢言之：‘昔天以越赐吴，吴不肯受，是天所反。勾践敬天而功，既得返国，今上天



报越之功，敬而受之，不敢忘也。且吴有大过六，以至于亡，王知之乎？有忠臣伍子胥，忠谏而身死，大过一也；公孙圣直说而无功，大过二也；太宰嚭愚而佞言，轻而谗谀，妄语恣口，听而用之，大过三也；夫齐、晋无返逆行，无僭侈之过，而吴伐二国，辱君臣，毁社稷，大过四也；且吴与越同音共律，上合星宿，下共一理，而吴侵伐，大过五也；昔越亲戕吴之前王，罪莫大焉，而幸伐之，不从天命，而弃其仇，后为大患，大过六也。越王谨上刻青天，敢不如命？”大夫种谓越君曰：“中冬气定，天将杀戮。不行天杀，反受其殃。”越王敬拜曰：“诺！今图吴王，将为何如？”大夫种曰：“君被五胜之衣，带步光之剑，仗屈卢之矛，瞋目大言以执之。”越王曰：“诺！”乃如大夫种辞。吴王曰：“诚以今日闻命。”言有顷，吴王不自杀。越王复使谓曰：“何王之忍辱厚耻也？世无万岁之君，死生一也。今子尚有遗策，何必使吾师众加刃于王？”吴王仍未肯自杀。勾践谓种、蠡曰：“二子何不诛之？”种、蠡曰：“臣，人臣之位，不敢加诛于人主。愿主急而命之！天诛当行，不可久留。”越王复瞋目怒曰：“死者，人之所恶；恶者，无罪于天，不负于人。今君抱六过之罪，不知愧辱，而欲求生，岂不鄙哉？”吴王乃太息，四顾而望，言曰：“诺！”乃引剑而伏之死。越王谓太宰嚭曰：“子为臣，不忠无信，亡国灭君。”乃诛嚭并妻子。

吴王临欲伏剑，顾谓左右曰：“吾生既惭，死亦愧矣！使死者有知，吾羞前君地下，不忍睹忠臣伍子胥及公孙圣。使其无知，吾负于生。死必连繁组以罩吾目，恐其不蔽，愿复重罗绣三幅，以为掩明。生不昭我，死勿见我形。吾何可哉？”越王乃葬吴王以礼于秦余杭山卑犹。越王使军士集于我戎之功，人一隔土以葬之。宰嚭亦葬卑犹之旁。

卷六 越王无余外传

越之前君无余者，夏禹之末封也。禹父鲧者，帝颛顼之后。鲧娶于有莘氏之女，名曰女嬉。年壮未孽，嬉于砥山，得蕙苕而吞之，意若为人所感，因而妊娠，剖肋而产高密。家于西羌，地曰石纽，石纽在蜀西川也。帝尧之时，遭洪水滔滔，天下沉渍，九州阋塞，四渎壅闭。帝乃忧中国之不康，悼黎元之罹咎，乃命四岳，乃举贤良，将任治水。自中国至于条方，莫荐人，帝靡所任。四岳乃举鲧，而荐之于尧。帝曰：“鲧负命殁族，不可。”四岳曰：“等之群臣，未有如鲧者。”尧用治水，受命九载，功不成。帝怒曰：“朕知不能也。”乃更求之，得舜，使摄行天子之政。巡狩，观鲧之治水无有形状，乃殛鲧于羽山。鲧投于水，化为黄能，因为羽渊之神。舜与四岳举鲧之子高密，四岳谓禹曰：“舜以治水无功，举尔嗣考之勋。”禹曰：“俞！小子敢悉考绩，以统天意，惟委而已。”禹伤父功不成，循江湖河，尽济暨淮，乃劳身焦思以行七年。闻乐不听，过门不入，冠挂不顾，履遗不蹶，功未及成，愁然沉思，乃案《黄帝中经历》，盖圣人所记，曰：“在于九山东南，天柱号曰宛委，赤帝在阙，其岩之巅。承以文玉，覆以磐石。其书金简，青玉为字，编以白银，皆琢其文。”禹乃东巡，登衡岳，血白马以祭，不幸所求。禹乃登山，仰天而啸，因



梦见赤绣衣男子，自称玄夷苍水使者，闻帝使文命于斯，故来候之。非厥岁月，将告以期，无为戏吟。故倚藪覆釜之山，东顾谓禹曰：“欲得我山神书者，斋于黄帝岩岳之下。三月庚子，登山发石，金简之书存矣。”禹退，又斋。三月庚子，登宛委山，发金简之书，案金简玉字，得通水理。复返归岳，乘四载以行川。始于霍山，徊集五岳。《诗》云：“信彼南山，惟禹甸之。”遂巡行四渎，与益、夔共谋。行到名山大泽，召其神而问之山川脉理，金玉所有，鸟兽昆虫之类，及八方之民俗，殊国异域土地里数，使益疏而记之，故名之曰《山海经》。

禹三十未娶，行到涂山，恐时之暮，失其度制，乃辞云：“吾娶也；必有应矣！”乃有白狐九尾造于禹。禹曰：“白者，吾之服也。其九尾者，王之证也。”涂山之歌曰：“缓缓白狐，九尾雍雍。我家嘉夷，来宾为王。成家成室，我造彼昌。”天人之际，于兹则行。明矣哉！禹因娶涂山，谓之女娇，娶辛壬癸甲。

禹行十月，女娇生子启。启生，不见父，昼夕呱呱啼泣。禹行，使大章步东西，竖亥度南北，畅八极之广，旋天地之数。禹济江，南省水理。黄龙负舟，舟中人怖骇。禹乃哑然而笑曰：“我受命于天，竭力以劳万民。生，性也；死，命也。尔何为者？”颜色不变，谓舟人曰：“此天所以为我用。”龙曳尾舍舟而去。南到计于苍梧，而见缚人，禹抚其背而哭。益曰：“斯人犯法，自合如此。哭之何也？”禹曰：“天下有道，民不罹韦；天下无道，罪及善人。吾闻一男不耕，有受其饥；一女不桑，有受其寒。吾为帝统治水土，调民安居，使得其所。今乃罹法如斯，此吾得薄，不能化民证也。故哭之悲耳！”于是周行寓内，东造绝迹，西延积石，南逾赤岸，北过寒谷，徊昆仑，察六虚，脉地理，名金石。写流沙于西隅，决弱水于北汉。柳宗元曰：水散涣无力，不能负芥，投之则委靡垫没，及底而后止，故曰弱。）青泉、赤渊分入洞穴，通江东流，至于碣石。疏九河于潞渊，开五水于东北。凿龙门，辟伊阙。平易相土，观地分州，殊方各进，有所纳贡，民去崎岖，归于中国。尧曰：“俞！以固冀于此。”乃号禹曰伯禹，官曰司空，赐姓姒氏，领统州伯，以巡十二部。

尧崩，禹服三年之丧，如丧考妣，昼哭夜泣，气不属声。尧禅位于舜，舜荐大禹，改官司徒，内辅虞位，外行九伯。舜崩，禅位命禹。禹服三年，形体枯槁，面目黎黑。让位商均，退处阳山之南，阴阿之北。万民不附商均，追就禹之所，状若惊鸟扬天，骇鱼入渊。昼歌夜吟，登高号呼曰：“禹弃我，如何所戴！”

禹三年服毕，哀民不得已，即天子之位。三载考功，五年政定，周行天下，归还大越。登茅山，以朝四方群臣，观示中州。诸侯防风后至，斩以示众，示天下悉属禹也。乃大会计治国之道，内美釜山州镇之功，外演圣德，以应天心。遂更名茅山曰会稽之山。因传国政，休养万民，国号曰夏后。封有功，爵有德，恶无细而不诛，功无微而不赏。天下喁喁，若儿思母，子归父，而留越。恐群臣不从，言曰：“吾闻食其实者，不伤其枝；饮其水者，不浊其流。吾获覆釜之书，得以除天下之灾，令民归于里闾，其德彰彰若斯，岂



可忘乎？”乃纳言听谏，安民治室。居靡山，伐木为邑，画作印，横木为门，调权衡，平斗斛，造井示民，以为法度。凤凰栖于树，鸾鸟巢于侧，麒麟步于庭，百鸟伺于泽。遂已耆艾将老，叹曰：“吾晏岁年暮，寿将尽矣，止绝斯矣！”命群臣曰：“吾百世之后，葬我会稽之山。苇椁桐棺；穿圹七尺，下无及泉；坟高三尺，土阶三等。葬之后，田无改亩。”以为居之者乐，为之者苦。禹崩之后，众瑞并去。天美禹德，而劳其功，使百鸟还为民田，大小有差，进退有行；一盛一衰，往来有常。

禹崩，传位与益。益服三年，思禹，未尝不言。丧毕，益避禹之子启于箕山之阳，诸侯去益而朝启，曰：“吾君，帝禹子也。”启遂即天子之位，治国于夏，遵禹贡之美，悉九州之土，以种五谷，累岁不绝。启使使以岁时春秋而祭禹于越，立宗庙于南山之上。禹以下六世，而得帝少康。少康恐禹祭之绝祀，乃封其庶子于越，号曰无余。余始受封，人民山居，虽有鸟田之利，租贡才给宗庙祭祀之费。乃复随陵陆而耕种，或逐禽鹿而给食。无余质朴，不设宫室之饰，从民所居，春秋祠禹墓于会稽。

无余传世十馀，末君微劣，不能自立，转从众庶为编户之民。禹祀断绝十有馀岁，有人生而言语，其语曰“鸟禽呼”，啜啜啜啜，指天向禹墓曰：“我是无余君之苗末。我方修前君祭祀，复我禹墓之祀，为民请福于天，以通鬼神之道。”众民悦喜，皆助奉禹祭，四时致贡。因共封立，以承越君之后，复夏王之祭，安集鸟田之瑞，以为百姓请命。自后，稍有君臣之义，号曰无壬。壬生无暉。暉专心守国，不失上天之命。无暉卒，或为夫暉。夫暉生允常。常立，当吴王寿梦、诸樊、阖闾之时。越之兴霸，自允常矣。

卷七 勾践入臣外传

越王勾践五年五月，与大夫种、范蠡入臣于吴，群臣皆送至浙江之上，临水祖道，军阵固陵。大夫文种前为祝，其词曰：“皇天祐助，前沉后扬。祸为德根，忧为福堂。威人者灭，服从者昌。王虽幸政，其后无殃。君臣生离，感动上皇。众夫哀悲，莫不感伤。臣请荐脯，行酒二觥。”越王仰天太息，举杯垂涕，默无所言。种复前祝，曰：“大王德寿，无疆无极。乾坤受灵，神祇辅翼。我王厚之，祉祐在侧。德销百殃，利受其福。去彼吴庭，来归越国。觞酒既升，请称万岁。”越王曰：“孤承前王馀德，守国于边。幸蒙诸大夫之谋，遂保前王丘墓。今遭辱耻，为天下笑，将孤之罪耶？诸大夫之责也？吾不知其咎，愿二三子论其意！”大夫扶同曰：“何言之鄙也？昔汤系于夏台，伊尹不离其侧。文王囚于石室，太公不弃其国。兴衰在天，存亡系于人。汤改仪而媚于桀，文王服从而幸于纣。夏、殷恃力而虐二圣，两君屈已，以得天道。故汤王不以穷自伤，周文不以困为病。”越王曰：“昔尧任舜、禹而天下治，虽有洪水之害，不为人灾。变异不及于民，岂况于人君乎？”大夫若成曰：“不如君王之言！天有历数，德有薄厚。黄帝不让，尧传天子。三王臣弑其君，五霸子弑其父。德有广狭，气有高下。今之世犹人之市，置货以设诈，抱谋以待



敌，不幸陷厄，求伸而已。大王不览于斯，而怀喜怒！”

越王曰：“任人者不辱身，自用者危其国。大夫皆前图未然之端，倾敌破仇，坐招泰山之福。今寡人守穷若斯，而云汤、文困厄，后必霸，何言之违礼仪？夫君子争寸阴而弃珠玉，今寡人冀得免于军旅之忧而复反。系敌人之手，身为佣隶，妻为仆妾，往而不返，客死敌国，若魂魄有，愧于前君；其无知，体骨弃捐。何大夫之言，不合于寡人之意？”于是大夫种、范蠡曰：“闻古人曰：‘居不幽，志不广。形不愁，思不远。圣王贤主，皆遇困厄之难，蒙不赦之耻，身拘而名尊，躯辱而声荣，处卑而不以为恶，居危而不以为薄。五帝德厚，无穷厄之恨，然尚有泛滥之忧。三守暴困之辱，不离三狱之囚，泣涕而受冤，行哭而为隶，演《易》作卦，天道祐之。时过于期，否终则泰。诸侯并救王命，见符朱鬻、玄狐。辅臣结发，拆狱破械。反国修德，遂讨其仇。摆假海内，若覆手背。天下宗之，功垂万世。大王屈厄，臣诚尽谋。夫截骨之剑，无削刺之利；钅铁之矛，无分发之便；建策之士，无暴兴之说。今臣遂天文，案坠籍，二气共萌，存亡异处。彼兴则我辱，我霸则彼亡。二国争道，未知所就。君王之危，天道之数。何必自伤哉？夫吉者，凶之门；福者，祸之根。今大王虽在危困之际，孰知其非畅达之兆哉？”大夫计倪曰：“今君王国于会稽，穷于入吴，言悲辞苦，群臣泣之。虽则恨愠之心，莫不感动。而君王何为漫辞哗说，用而相欺？臣诚不取！”越王曰：“寡人将去入吴，以国累诸侯大夫。愿各自述，吾将属焉！”大夫皋如曰：“臣闻大夫种忠而善虑，民亲其知，士乐为用。今委国一人，其道必守。何顺心佛命群臣？”大夫曳庸曰：“大夫文种者，国之梁栋，君之爪牙。夫驥不可与匹驰，日月不可并照，君王委国于种，则万纲千纪无不举者。”

越王曰：“夫国者，前王之国。孤力弱勢劣，不能遵守社稷，奉承宗庙。吾闻父死子代，君亡臣亲。今事弃诸大夫，客官于吴，委国归民，以付二三子，吾之由也，亦子之忧也！君臣同道，父子共气，天性自然。岂得以在者尽忠，亡者为不信乎？何诸大夫论事，一合一离，令孤怀心不定也？夫推国任贤，度功绩成者，君之命也。奉教顺理，不失分者，臣之职也。吾愿诸大夫以其所能，而云委质而已。于乎，悲哉！”计倪曰：“君王所陈者，固其理也。昔汤入夏，付国于文祀。西伯之殷，委国于二老。今怀夏将滞，志在于还。夫适市之妻，教鬲羹除；出亡之君，敕臣守御。子问以事，臣谋以能。今君王欲士之所志，各陈其情，举其能者，议其宜也！”

越王曰：“大夫之论是也。吾将逝矣，愿诸君之风。”大夫种曰：“夫内修封疆之役，外修耕战之备；荒无遗土，百姓亲附，臣之事也。”大夫范蠡曰：“辅危主，存亡国；不耻屈厄之难，安守被辱之地；往而必反，与君复仇者，臣之事也。”大夫苦成曰：“发君之令，明君之德；穷与俱厄，进与俱霸；统烦理乱，使民知分，臣之事也。”大夫曳庸曰：“奉令受使，结和诸侯；通命达旨，賂往遗来；解忧释患，使无所疑；出不忘命，入不被尤，臣之事也。”大夫皓进曰：“一心齐志，上与等之；下不违令，动从君命；修德履义，守信温故；临非决疑，君误臣谏；直心不挠，举过列平；不阿亲戚，不私于外；推身致



君，终始一分，臣之事也。”大夫诸稽郢曰：“望敌设阵，飞矢扬兵；履腹涉尸，血流滂滂；食进不退，二师相当；破敌攻众，威凌百邦，臣之事也。”大夫皋如曰：“修德行惠，抚慰百姓；身临忧劳，动輒躬亲；吊死存疾，救活民命；蓄陈储新，食不二味；国富民实，为君养器，臣之事也。”大夫计倪曰：“候天察地，纪历阴阳；观变参灾，分别妖祥；日月含色，五精错行；福见知吉，妖出知凶，臣之事也。”

越王曰：“孤虽入于北国，为吴穷虏，有诸大夫怀德抱术，各守一分，以保社稷，孤何忧焉？”遂别于浙江之上。群臣垂泣，莫不咸哀。越王仰天叹曰：“死者，人之所畏。若孤之闻死，其于心胸中曾无怵惕！”遂登船径去，终不返顾。越王夫人乃据船哭，顾乌鹊啄江渚之虾，飞去复来，因哭而歌之，曰：“仰飞鸟兮乌鸢，凌玄虚兮翩翩。集洲渚兮优恣，啄虾矫翮兮云间。任厥□兮往还，妾无罪兮负地，有何辜兮遭天。飘飘独兮西往，孰知返兮何年？心懊悒兮若割，泪泫泫兮双悬。”又哀吟曰：“彼飞鸟兮鸢鸟，已回翔兮翕苏。心在专兮素虾，何居食兮江湖？徊复翔兮游颺，去复返兮于乎。始事君兮去家，终我命兮君都。终来遇兮何辜？离我国兮去吴。妻衣褐兮为婢，夫去冕兮为奴。岁遥遥兮难极，冤悲痛兮心恻。肠千结兮服膺，于乎哀兮忘食。愿我身兮如鸟，身翱翔兮矫翼。去我国兮心摇，情愤惋兮谁识？”越王闻夫人怨歌，心中内恻，乃曰：“孤何忧？吾之六翮备矣。”

于是，入吴见夫差，稽首再拜称臣，曰：“东海贱臣勾践，上愧皇天，下负后土，不裁功力，污辱王之军士，抵罪边境。大王赦其深辜，裁加役臣，使执箕帚，诚蒙厚恩，得保须臾之命，不胜仰感俯愧。臣勾践叩头顿首。”吴王夫差曰：“寡人于子亦过矣。子不念先君之仇乎？”越王曰：“臣死则死矣。惟大王原之！”伍胥在旁，目若燂火，声如雷霆，乃进曰：“夫飞鸟在青云之上，尚欲缴微矢以射之，岂况近卧于华池，集于庭虎乎？今越王放于南山之中，游于不可存之地，幸来涉我壤土，入吾桎梏，此乃厨宰之成事食也。岂可失之乎？”吴王曰：“吾闻诛降杀服，祸及三世。吾非爱越而不杀也，畏皇天之咎，教而赦之。”太宰嚭谏曰：“子胥明于一时之计，不通安国之道。愿大王遂其所执，无拘群小之口。”夫差遂不诛越王，令驾车养马，秘于宫室之中。

三月，吴主召越王入见。越王伏于前，范蠡立于后。吴王谓范蠡曰：“寡人闻‘贞妇不嫁破亡之家，仁贤不官绝灭之国。’今越王无道，国已将亡，社稷坏崩，身死世绝，为天下笑。而子及主俱为奴仆，来归于吴，岂不鄙乎？吾欲赦子之罪，子能改心自新，弃越归吴乎？”范蠡对曰：“臣闻‘亡国之臣，不敢语政；败军之将，不敢语勇。’臣在越，不忠不信。今越王不奉大王命号，用兵与大王相持，至今获罪，君臣俱降。蒙大王鸿恩，得君臣相保，愿得人备扫除，出给趋走，臣之愿也。”此时，越王伏地流涕，自谓遂失范蠡矣。吴王知范蠡不可得为臣，谓曰：“子既不移其志，吾复置子于石室之中。”范蠡曰：“臣请如命。”吴王起，入宫中。越王、范蠡趋入石室。越王服饿鼻，着樵头。夫人衣无绿之裳，施左关之襦。夫斲判养马，妻给水除粪洒扫，三年不愠怒，面无恨色。



吴王登远台，望见越王及夫人、范蠡坐于马粪之旁，君臣之礼存，夫妇之仪具。王顾谓太宰嚭曰：“彼越王者，一节之人。范蠡，一介之士。虽在穷厄之地，不失君臣之礼。寡人伤之！”太宰嚭曰：“愿大王以圣人之心，哀穷孤之士。”吴王曰：“为子赦之。”后三月，乃择吉日而欲赦之。召太宰嚭谋曰：“越之与吴，同土连域。勾践愚黠，亲欲为贼。寡人承天之神灵，前王之遗德，诛讨越寇，囚之石室。寡人心不忍见，而欲赦之。于子奈何？”太宰嚭曰：“臣闻无德不复。大王垂仁，恩加越。越岂敢不报哉？愿大王卒意。”

越王闻之，召范蠡，告之曰：“孤闻于外，心独喜之，又恐其不卒也。”范蠡曰：“大王安心，事将有意，在《玉门》第一。今年十二月戊寅之日，时加日出。戊，囚日也；寅，阴后之辰也，合庚辰岁后会也。夫以戊寅日闻喜，不以其罪罚日也。时加卯而贼戍，功曹为腾蛇而临戊，谋利事在青龙。青龙在，胜先；而临酉，死气也；而剋寅，是时刻其日，用又助之。所求之事，上下有忧。此岂非天纲四张，万物尽伤者乎？王何喜焉？”果子胥谏吴王曰：“昔桀囚汤而不诛，纣囚文王而不杀，天道还反，祸转成福；故夏为汤所诛，殷为周所灭。今大王既囚越君，而不行诛，臣谓大王惑之深也。得无夏、殷之患乎？”吴王遂召越王，久之不见。

范蠡、文种忧而占之，曰：“吴王见擒也。”有顷，太宰嚭出，见大夫种、范蠡，而言越王复拘于石室。伍子胥复谏吴王曰：“臣闻王者攻敌国，克之，则加以诛。故后无报复之忧，遂免子孙之患。今越王已入石室，宜早图之；后必为吴之患。”太宰嚭曰：“昔者齐桓割燕所至之地，以赐燕公，而齐君获其美名；宋襄济河而战，春秋以多其义。功立而名称，军败而德存。今大王诚赦越王，则功冠于五霸，名越于前古。”吴王曰：“待吾疾愈，方为太宰赦之。”

后一月，越王坐石室，召范蠡曰：“吴王疾，三月不愈。吾闻人臣之道，主疾臣忧。且吴王遇孤，恩甚厚矣。疾之无瘳，惟公卜焉！”范蠡曰：“吴王不死，明矣。到己巳日当瘳。惟大王留意。”越王曰：“孤所以穷而不死者，赖公之策耳。中复犹豫，岂孤之志哉？可与不可，惟公图之。”范蠡曰：“臣窃见吴王真非人也，数言成汤之义，而不行之。愿大王请求问疾。得见，因求其羹而尝之，观其颜色，当拜贺焉，言其不死，以瘳起日期之。既言信后，则大王何忧？”越王明日谓太宰嚭曰：“囚臣欲一见问疾。”太宰嚭即入言于吴王，王召而见之。适遇吴王之便，太宰嚭奉洩恶以出，逢户中，越王因拜，请尝大王之洩，以决吉凶。即以手取其便与恶而尝之，因入曰：“下囚臣勾践贺于大王。王之疾，至己巳日有瘳。至三月壬申，病愈。”吴王曰：“何以知之？”越王曰：“下臣尝事师闻羹者，顺穀味，逆时气者死，顺时气者生。今者臣窃尝大王之羹，其恶味苦且楚酸。是味也，应春夏之气。臣以是知之。”吴王大悦，曰：“仁人也。”乃赦越王，得离其石室，去就其宫室，执牧养之事如故。

越王从尝羹恶之后，遂病口臭。范蠡乃令左右皆食岑草，以乱其气。其后，吴王如越王期日疾愈，心念其忠，临政之后，大纵酒于文台。吴王出令曰：“今日为越王陈北面之



坐，群臣以客礼事之。”伍子胥趋出，到舍上，不御坐。酒酣，太宰嚭曰：“异乎！今日坐者，各有其词，不仁者逃，其仁者留。臣闻同声相和，同心相求。今国相刚勇之人，意者内慙至仁之存也，而不御坐。其亦是乎？”吴王曰：“然。”于是，范蠡与越王俱起，为吴王寿。其辞曰：“下臣勾践，从小臣范蠡，奉觞上千岁之寿。辞曰：皇在上令，昭下四时，并心察慈仁者。大王躬承鸿恩，立义行仁。九德四塞，威服群臣。于乎休哉！传德无极。上感太阳，降瑞翼翼。大王延寿万岁，长保吴国。四海咸承，诸侯宾服。觞酒既升，永受万福。”于是吴王大悦。

明日，伍子胥入谏，曰：“昨日大王何见乎？臣闻内怀虎狼之心，外执美词之说。但为外情，以存其身。豺不可谓廉，狼不可亲。今大王好听须臾之说，不虑万岁之患；放弃忠直之言，听用谗夫之语；不灭沥血之仇，不绝怀毒之怨。犹纵毛炉炭之上，幸不焦；投卵千钧之下，望必全。岂不殆哉？臣闻桀登高，自知危，然不知所以自安也；前据白刃，自知死，而不知所以自存也。惑者知返，迷道不远。愿大王察之！”吴王曰：“寡人有疾三月，曾不闻相国一言，是相国之不慈也；又不进口之所嗜，心不相思，是相国之不仁也。夫为人臣不仁不慈，焉能知其忠信者乎？越王迷惑，弃守边之事，亲将其臣民，来归寡人，是其义也；躬亲为虏，妻亲为妾，不愠寡人。寡人有疾，亲尝寡人之洩，是其慈也；虚其府库，尽其宝币，不念旧故，是其忠信也。三者既立，以养寡人。寡人曾听相国而诛之，是寡人之不智也，而为相国快私意耶？岂不负皇天乎？”子胥曰：“何大王之言反也？夫虎之卑势，将以有击也；狸之卑身，将求所取也。雉以絃移拘于网，鱼以有悦死于饵。且大王初临政，负《玉门》之第九，诫事之败，无咎矣。今年三月甲戌，时加鸡鸣。甲戌，岁位之会将也。青龙在酉，德在土，刑在金，是日贼其德也。知父将有不顺之子，君有逆节之臣。大王以越王归吴为义，以饮洩食恶为慈，以虚府库为仁，是故为无爱于人。其不可亲，面听貌观，以存其身。今越王入臣于吴，是其谋深也；虚其府库，不见恨色，是欺我王也；下饮王之洩者，是上食王之心也；下尝王之恶者，是上食王之肝也。大哉！越王之崇吴。吴将为所擒也！惟大王留意察之。臣不敢逃死，以负前王。一旦社稷丘墟，宗庙荆棘，其悔可追乎？”吴王曰：“相国置之，勿复言矣！寡人不忍复闻。”

于是遂赦越王归国，送于蛇门之外，群臣祖道。吴王曰：“寡人赦君，使其返国，必念始终，王其勉之！”越王稽首曰：“今大王哀臣孤穷，使得生全还国，与种、蠡之徒愿死于轂下。上天苍苍，臣不敢负！”吴王曰：“于乎！吾闻君子一言不再。今已行矣，王勉之！”越王再拜跪伏。吴王乃引越王登车，范蠡执御，遂去。至三津之上，仰天叹曰：“嗟乎！孤之屯厄，谁念复生渡此津也？”谓范蠡曰：“今三月甲辰，时加日昃。孤蒙上天之命，还归故乡，得无后患乎？”范蠡曰：“大王勿疑，直砥道行。越将有福，吴当有忧。”至浙江之上，望见大越，山川重秀，天地再清。王与夫人叹曰：“吾已绝望，永辞万民。岂料再还，重复乡国！”言竟，掩面涕泣阑干。此时，万姓咸欢，群臣皆贺。



卷八 勾践归国外传

越王勾践臣吴至归越，勾践七年也。百姓拜之于道，曰：“君王独无苦臭！今王受天之福，复于越国。霸王之迹，自斯而起。”王曰：“寡人不慎天教，无德于民。今劳万姓，拥于歧路。将何德化以报国人？”顾谓范蠡曰：“今十有二月己巳之日，时加禺中，孤欲以此到国，何如？”蠡曰：“大王且留，以臣卜日。”于是范蠡进曰：“异哉！大王之择日也。王当疾趋，车驰人走。”越王策马飞舆，遂复宫阙。

吴封地百里于越，东至炭渚，西止周宗，南造于山，北薄于海。越王谓范蠡曰：“孤获辱连年，势足以死。得相国之策，再返南乡。今欲定国立城，人民不足，其功不可以兴。为之奈何？”范蠡对曰：“唐、虞卜地，夏、殷封国，古公营城，周雒威折万里，德致八极。岂直欲破强敌，收邻国乎？”越王曰：“孤不能承前君之制，修德自守。亡众棲于会稽之山，请命乞恩，受辱被耻，囚结吴宫。幸来归国，追以百里之封。将遵前君之意，复于会稽之上，而宜释吴之地。”范蠡曰：“昔公刘台邠，而德彰于夏；董父让地，而名发于岐。今大王欲国树都，并敌国之境，不处平易之都，据四达之地，将焉立霸王之业？”越王曰：“寡人之计，未有决定。欲筑城立郭，分设里闾。欲委属于相国。”

于是范蠡乃观天文，拟法于紫宫，筑作小城。周千一百二十二步，一圆三方。西北立龙飞翼之楼，以象天门；东南伏漏石窠，以象地户；陵门四达，以象八风。外郭筑城，而缺西北，示服事吴也，不敢壅塞；内在取吴，故缺西北，而吴不知也。北向称臣，委命吴国。左右易处，不得其位，明臣属也。城既成，而怪山自至。者，琅琊东武海中山也，一夕自来，故名怪山。

范蠡曰：“臣之筑城也，其应天矣。昆仑之象存焉。”越王曰：“寡人闻昆仑之山，乃地之柱，上承皇天，气吐宇内；下处后土，禀受无外，滋圣生神，呕养帝会。故帝处其阳陆，三王居其正地。吾之国也，扁天地之壤，乘东南之维，斗去极北，非粪土之城，何能与王者比隆盛哉？”范蠡曰：“君徒见外，未见于内。臣乃承天门制城，合气于后土。岳象已设，昆仑故出，越之霸也。”越王曰：“苟如相国之言，孤之命也。”范蠡曰：“天地卒号，以著其实。”名东武，起游台其上，东南为司马门。立增楼，冠其山巅，以为灵台。起离宫于淮阳，中宿台在于高平，驾台在于成丘；立苑于乐野，燕台在于石室，斋台在于襟山。

勾践之出游也，休息食室于冰厨。越王乃召相国范蠡、大夫种、大夫郢，问曰：“孤欲以今日上明堂，临国政，专恩致令，以抚百姓。何日可矣？惟三圣纪纲维持。”范蠡曰：“今日丙午日也。丙，阳将也，是日吉矣。又因良时，臣愚以为可。无始有终，得天下之中。”大夫种曰：“前车已覆，后车必戒。愿王深察！”范蠡曰：“夫子故不一二见也。吾王今以丙午复初临政，解救其本，是一宜；夫金制始，而火救其终，是二宜；蓄金之忧，转



而及水，是三宜；君臣有差，不失其理，是四宜；王相俱起，天下立矣，是五宜。臣愿急升明堂临政。”越王是日立政，翼翼小心，出不敢奢，入不敢侈。

越王念复吴仇，非一旦也。苦身劳心，夜以接日。目卧则攻之以蓼，足寒则渍之以水。冬常抱水，夏还握火。愁心苦志，悬胆于户，出入尝之，不绝于口。中夜潜泣，泣而复啸。越王曰：“吴王好服之离体，吾欲采葛，使女工织细布献之，以求吴王之心。于子何如？”群臣曰：“善！”乃使国中男女人山采葛，以作黄丝之布。欲献之，未及遣使，吴王闻越王尽心自守，食不重味，衣不重彩，虽有五台之游，未尝一日登玩，“吾欲因而赐之以书，增之以封，东至于勾、雨，西至于槐李，南至于姑末，北至于平原，纵横八百余里。”越王乃使大夫种索葛布十万、甘蜜九党、文筇七枚、狐皮五双、晋竹十度以复封礼。吴王得之，曰：“以越僻狭之国无珍，今举其贡货，而以复礼，此越小心念功，不忘吴之效也。夫越本兴国千里，吾虽封之，未尽其国。”子胥闻之，退卧于舍，谓侍者曰：“吾君失其石室之囚，纵于南林之中。今但因虎豹之野，而与荒外之草。于吾之心，其无损也。”

吴王得葛布之献，乃复增越之封，赐羽毛之饰、机杖、诸侯之服。越国大悦。采葛之妇伤越王用心之苦，乃作《苦之诗》曰：“葛不连蔓菜台台，我君心苦命更之。尝胆不苦甘如飴，令我采葛以作丝。女工织兮不敢迟，弱于国兮轻罪罪，号絺素兮将献之。越王悦兮忘罪除，吴王欢兮飞尺书。增封益地赐羽奇，机杖茵褥诸侯仪。群臣拜舞天颜舒，我王何忧能不移？”

于是，越王内修其德，外布其道。君不名教，臣不名谋，民不名使，官不名事。国中荡荡，无有政令。越王内实府库，垦其田畴。民富国强，众安道泰。越王遂师八臣，与其四友，时问政焉。大夫种曰：“爱民而已。”越王曰：“奈何？”种曰：“利之无害，成之无败，生之无杀，与之无夺。”越王曰：“愿闻。”种曰：“无夺民所好，则利也；民不失其时，则成之；省刑去罚，则生之；薄其赋敛，则与之；无多台游，则乐之；静而无苛，则喜之；民失所好，则害之；农失其时，则败之；有罪不赦，则杀之；重赋厚敛，则夺之；多作台游以罢民，则苦之；劳扰民力，则怒之。臣闻善为国者，遇民如父母之爱其子，如兄之爱其弟；闻有饥寒为之哀；见其劳苦为之悲。”越王乃缓刑薄罚，省其赋敛，于是人民殷富，皆有带甲之勇。

九年正月，越王召五大夫而告之曰：“昔者越国遁弃宗庙；身为穷虏，耻闻天下，辱流诸侯。今寡人念吴，犹瞿者不忘走，盲者不忘视。孤未知策谋，惟大夫海之！”扶同曰：“昔者亡国流民，天下莫不闻知。今欲有计，不宜前露其辞。臣闻击鸟之动，故前俯伏；猛兽将击，必弭毛帖伏；鸷鸟将搏，必卑飞戢翼；圣人将动，必顺辞和众。圣人之谋，不可见其象，不可知其情，临事而伐，故前无剿过之兵，后无伏袭之患。今大王临敌破吴，宜损少辞，无令泄也。臣闻吴王兵强于齐、晋，而怨结于楚。大王宜亲于齐，深结于晋，阴固于楚，而厚事于吴。夫吴之志，猛骄而自矜，必轻诸侯，而凌邻国。三国决权，还为敌国，必角势交争。越承其弊，因而伐之，可克也。虽五帝之兵，无以过此。”范蠡曰：



“臣闻谋国破敌，动观其符。孟津之会，诸侯曰可，武王辞之。方今吴、楚结仇，构怨不解；齐虽不亲，外为其救；晋虽不附，犹效其义。夫内臣谋而决仇其策，邻国通而不绝其援，斯正吴之兴霸，诸侯之上尊。臣闻峻高者隳，叶茂者摧。日中则移，月满则亏。四时不并盛，五行不俱驰。阴阳更倡，气有盛衰。故溢堤之水，不淹其量；燬乾之火，不复其炽。水静则无沍漚之怒，火消则无烹毛之焚。今吴乘诸侯之威，以号令于天下，不知德薄而恩浅，道狭而怨广，权愚而智衰，力竭而威折，兵挫而军退，士散而众解。臣请按师整兵，待其坏败，随而袭之，兵不血刃，士不旋踵，吴之君臣为虏矣。臣愿大王匿声，无见其动，以观其静。”大夫苦成曰：“夫水能浮草木，亦能沉之；地能生万物，亦能杀之；江海能下谿谷，亦能朝之；圣人能从众，亦能使之。今吴承阖闾之军制、子胥之典教，政平未亏，战胜未败。大夫聶者，狂佞之人，达于策虑，轻于朝事。子胥力于战伐，死于谏议。二人权，必有坏败。愿王虚心自匿，无示谋计，则吴可灭矣。”大夫浩曰：“今吴君骄臣奢，民饱军勇，外有侵境之敌，内有争臣之震，其可攻也。”大夫句如曰：“天有四时，人有五胜。昔汤、武乘四时之利，而制夏、殷，桓、缪据五胜之便，而列六国。此乘其时而胜者也。”王曰：“未有四时之利，五胜之便，愿各就职也。”

卷九 勾践阴谋外传

越王勾践十年二月，越王深念远思，侵辱于吴，蒙天祉福，得越国；群臣教诲，各画一策，辞合意同。勾践敬从，其国已富。反越五年，未闻敢死之友。或谓诸大夫爱其身，惜其躯者。乃登渐台，望观其群臣有忧与否。相国范蠡、大夫种、句如之属俨然列坐，虽怀忧患，不形颜色。越王即鸣钟警徽，而召群臣，与之盟曰：“寡人获辱受耻，上愧周王，下惭晋、楚。幸蒙诸大夫之策，得返国修政，富民养士。而五年未闻敢死之士，雪仇之臣，奈何而有功乎？”群臣默然莫对者。

越王仰天叹曰：“孤闻主忧臣辱，主辱臣死。今孤亲被俘虏之厄，受囚破之耻，不能自辅，须贤任仁，然后讨吴，重负诸臣。大夫何易见而难使也？”于是，计倪年少官卑，列坐于后，乃举手而趋，蹈席而前，进曰：“谬哉！君王之言也。非大王易见而难使，君王之不能使也。”越王曰：“何谓？”计倪曰：“夫官位、财币、金赏者，君之所轻也；操锋履刃，艾命投死者，士之所重也。今王易财之所轻，而责士之所重，何其殆哉！”于是越王默然不悦，面有愧色。即辞群臣，进计倪而问曰：“孤之所得士心者何等？”计倪对曰：“夫君子尊其仁义者，治之门也。士民者，君之根也。开门固根，莫如正身。正身之道，谨左右。左右者，君之所以盛衰者也。愿王明选左右，得贤而已。昔太公九声而足礪溪之饿人也，西伯任之而王。管仲，鲁之亡囚，有贪分之毁。齐桓得之而霸。故《传》曰：‘失士者亡，得士者昌。’愿王审于左右，何患群臣之不使也？”越王曰：“吾使贤任能，各殊其事。孤虚心高望，冀闻报复之谋。今咸匿声隐形，不闻其语，厥咎安在？”计倪曰：



“选贤实士，各有一等。远使以难，以效其诚；内告以匿，以知其信；与之论事，以观其智；饮之以酒，以视其乱；指之以使，以察其能；示之以色，以别其熊。五色以设，士尽其实，人竭其智，知其智尽实，则君臣何忧？”越王曰：“吾以谋士效实，人尽其智，而士有未尽进辞，有益寡人也。”计倪曰：“范蠡明而知内，文种远以见外。愿王请大夫种与深议，则霸王之术在矣。”

越王乃请大夫种而问曰：“吾昔日受夫子之言，自免于穷厄之地。今欲奉不羁之计，以雪吾之宿仇。何行而功乎？”大夫种曰：“臣闻高飞之鸟，死于美食；深泉之鱼，死于芳饵。今欲伐吴，必前求其所好，参其所愿，然后能得其实。”越王曰：“人之所好，虽其愿，何以定而制之死乎？”大夫种曰：“夫欲报怨复讎，破吴灭敌者，有九术。君王察焉。”越王曰：“寡人被辱怀忧，内断朝臣，外愧诸侯，中心迷惑，精神空虚。虽有九术，安能知之？”大夫种曰：“夫九术者，汤、文得之以王，桓、穆得之以霸。其攻城取邑，易于脱屣。愿大王览之。”

种曰：“一曰尊天事鬼，以求其福。二曰重财币，以遗其君；多货贿，以喜其臣。三曰贵余粟稿，以虚其国；利所欲，以疲其民。四曰遗美女，以惑其心，而乱其谋。五曰遗之巧工良材，使之起宫室，以尽其材。六曰遗之谀臣，使之易伐。七曰强其谏臣，使之自杀。八曰君王国富，而备利器。九曰利甲兵，以承其弊。凡此九术，君王闭口无传，守之以神，取天下不难，而况于吴乎？”

越王曰：“善。”乃行第一术，立东郊以祭阳，名曰东皇公；立西郊以祭阴，名曰西王母。祭陵山于会稽，祀水泽于江州。事鬼神一年，国不被灾。越王曰：“善哉！大夫之术。愿论其余。”种曰：“吴王好起宫室，用工不辍。王选名山神材，奉而献之。”越王乃使木工三千余人，入山伐木。一年，饰无所幸。作士思归，皆有怨望之心，而歌《木客之吟》。一夜，天生神木一双，大二十围，长五十寻。阳为文梓，阴为梗楠。巧工施校，制以规绳，雕治圆转，刻削磨砢。分以丹青，错画文章。要以白璧，镂以黄金。状类龙蛇，文彩生光。乃使大夫种献之于吴王，曰：“东海役臣孤勾践使臣种，敢因下吏，闻于左右；赖大王之力。窃为小殿，有余材，谨再拜献之。”吴王大悦。

子胥谏曰：“王勿受也。昔者桀起灵台，纣起鹿台，阴阳不和，寒暑不时，五谷不熟，天与其灾，民虚国变，遂取灭亡。大王受之，必为越王所戮。”吴王不听，遂受而起姑苏之台。三年聚材，五年乃成，高见二百里。行路之人，道死巷哭，不绝嗟嘻之声。民疲士苦，人不聊生。越王曰：“善哉！第二术也。”

十一年，越王深念水思，惟欲伐吴，乃请计倪问曰：“吾欲伐吴，恐不能破。早欲兴师，惟问于子。”计倪对曰：“夫兴师举兵，必且内蓄五谷，实其金银，满其府库，励其甲兵。凡此四者，必察天地之气，原于阴阳，明于孤虚，审于存亡，乃可量敌。”越王曰：“天地存亡，其要奈何？”计倪曰：“天地之气，物有死生。原阴阳者，物贵贱也；明孤虚者，知曾际也；审存亡者，别真伪也。”越王曰：“何谓死生真伪乎？”计倪曰：“春种八



谷，夏长而养，秋成而聚，冬畜而藏。夫天时有生，而不救种，是一死也；夏长无苗，二死也；秋成无聚，三死也；冬藏无畜，四死也。虽有尧、舜之德，无如之何。夫天时有生，劝者老，作者少，反气应数，不失厥理，一生也；留意省察，谨除苗秽，秽除苗盛，二生也；前时设备，物至则收，国无通税，民无失穗，三生也；仓已封涂，除陈入新，君乐臣欢，男女及信，四生也。夫阴阳者，太阴所居之岁，留息三年，贵贱见矣。夫孤虚者，谓天门地户也。存亡者，君之道德也。”越王曰：“何子之年少，于物之长也？”计倪曰：“有美之士，不拘长少。”越王曰：“善哉！子之道也。”乃仰观天文，集察纬宿，历象四时，以下者上；虚设八仓，从阴收著，望阳出粟，策其极计，三年五倍，越国炽富。勾践叹曰：“吾之霸矣！”善计倪之谋也。

十二年，越王谓大夫种曰：“孤闻吴王淫而好色，惑乱沉湎，不领政事。因此而谋，可乎？”种曰：“可破。夫吴王淫而好色，宰嚭佞以曳心，往献美女，其必受之。惟王选择美女二人而进之。”越王曰：“善！”乃使相者国中，得苕萝山鬻薪之女，曰西施、郑旦。饰以罗谷，教以容步，习于土城，临于都巷，三年学服，而献于吴。乃使相国范蠡进曰：“越王勾践窃有二遗女。越国湾下困迫，不敢稽留，谨使臣蠡献之大王。不以鄙陋寝容，愿纳以供箕帚之用。”吴王大悦，曰：“越贡二女，乃勾践之尽忠于吴之证也。”子胥谏曰：“不可，王勿受也！臣闻五色令人目盲，五音令人耳聋。昔桀易汤而灭，纣易文王而亡。大王受之，后必有殃。臣闻越王朝书不倦，晦诵竞夜，且聚敢死之士数万，是人不死，必得其愿；越王服诚行仁，听谏进贤，是人不死，必成其名；越王夏被毛裘，冬御绡绌，是人不死，必为对隙。臣闻贤士国之宝，美女国之咎。夏亡以妹喜，殷亡以妲己，周亡以褒姒。”吴王不听，遂受其女。越王曰：“善哉！第三术也。”

十三年，越王谓大夫种曰：“孤蒙子之术，所图者吉，未尝有不合也。今欲复谋吴，奈何？”种曰：“君王自陈越国微鄙，年谷不登，愿王请粟，以入其意。天若弃吴，必许王矣。”越乃使大夫种使吴，因宰嚭求见吴王，辞曰：“越国湾下，水旱不调，年谷不登，人民饥乏，道荐饥馑，愿从大王请粟，末岁即复太仓。惟大王救其穷窘。”吴王曰：“越王信诚守道，不怀二心。今穷归愬，吾岂爱惜财宝，夺其所愿？”子胥谏曰：“不可。非吴有越，越必有吴。吉往则凶来，是养生寇，而破国家者也。与之不为亲，不与未成冤。且越有圣臣范蠡，勇以善谋，将有修饰攻战，以伺吾间。观越王之使使来请粟者，非国贫民困而请粟也，以入吾国，伺吾王间也。”吴王曰：“寡人卑服越王，而有其众，怀其社稷，以愧勾践。勾践气服，为驾车却行马前，诸侯莫不闻知。今吾使之归国，奉其宗庙，复其社稷，岂敢有反吾之心乎？”子胥曰：“臣闻士穷，非难抑心下人，其后有激人之色。臣闻越王饥饿，民之困穷，可因而破也。今不用天之道，顺地之理，而反输之食，固君之命。狐雉之相戏也，夫狐卑体，而雉信之。故狐得其志，而雉必死。可不慎哉！”吴王曰：“勾践国忧，而寡人给之以粟，恩往义来，其德昭昭，亦何忧乎？”子胥曰：“臣闻狼子有野心，仇仇之人不可亲。夫虎不可饒以食，螭蛇不恣其意。今大王捐国家之福，以饶无益之仇；



弃忠臣之言，而顺敌人之欲。臣必见越之破吴，豕鹿游于姑胥之台，荆榛蔓于宫阙。愿王览武王伐纣之事也！”太宰嚭从旁对曰：“武王非纣王臣也？率诸侯以伐其君，虽胜殷，谓义乎？”子胥曰：“武王即成其名矣。”太宰嚭曰：“亲戮主以为名，吾不忍也。”子胥曰：“盗国者封侯，盗金者诛。令使武王失其理，则周何为三家之表？”太宰嚭曰：“子胥为人臣，徒欲干君之好，拂君之心，以自称满。君何不知过乎？”子胥曰：“太宰嚭固欲以求其亲，前纵石室之囚，受其宝女之遗，外交敌国，内惑于君。大王察之，无为群小所侮。今大王譬若浴婴儿，虽啼，无听宰嚭之言。”吴王曰：“宰嚭是。子无乃闻寡人言，非忠臣之道，类于佞谀之人？”太宰嚭曰：“臣闻邻国有急，千里驰救。是乃王者封亡国之后，五霸辅绝灭之末者也。”吴王乃与越粟万石，而令之曰：“寡人逆群臣之议而输于越，年丰而归寡人。”大夫种曰：“臣奉使返越，岁登，诚还吴贷。”大夫种归越，越国群臣皆称万岁。即以粟赏赐群臣，及于万民。

二年，越王粟稔，拣择精粟，而蒸还于吴。复还斗斛之数，亦使大夫种归之。吴王王得越粟，长太息，谓太宰嚭曰：“越地肥沃，其种甚嘉。可留使吾民植之。”于是吴种越粟，粟种杀而无生者，吴民大饥。越王曰：“彼以穷居，其可攻也。”大夫种曰：“未可。国始贫耳！忠臣尚在，天气未见，须俟其时。”

越王又问相国范蠡曰：“孤有报复之谋，水战则乘舟，陆行则乘舆。舆、舟之利，顿于兵弩。今子为寡人谋事，莫不谬者乎？”范蠡对曰：“臣闻古之圣君，莫不习战用兵。然行阵、队伍、军鼓之事，吉凶决在其工。今闻越有处女，出于南林，国人称善。愿王请之，立可见。”越王乃使使聘之，问以剑戟之术。处女将北见于王，道逢一翁，自称曰袁公，问于处女：“吾闻子善剑，愿一见之。”女曰：“妾不敢有所隐，惟公试之。”于是袁公即杖箴箠箴竹，竹枝上颞，桥未堕地，女即捷末。袁公则飞上树，变为白猿，遂别去。见越王，越王问曰：“夫剑之道，则如之何？”女曰：“妾生深林之中，长于无人之野，无道不习，不达诸侯。窃好击之道，诵之不休。妾非受于人也，而忽自有之。”越王曰：“其道如何？”女曰：“其道甚微而易，其意甚幽而深。道有门户，亦有阴阳。开门闭户，阴衰阳兴。凡手战之道，内实精神，外示安仪。见之似好妇，夺之似惧虎。布形候气，与神俱往。杳之若日，偏如腾兔。追形逐影，光若徘徊。呼吸往来，不及法禁。纵横逆顺，直复不闻。斯道者，一人当百，百人当万。王欲试之，其验即见。”越王即加女号，号曰越女。乃命五校之堕长高习之，教军士。当世莫能胜越女之剑。

于是，范蠡复进善射者陈音。音，楚人也。越王请音而问曰：“孤闻子善射，道何所生？”音曰：“臣，楚之鄙人。尝步于射术，未能悉知其道。”越王曰：“然。愿子一二其辞。”音曰：“臣闻弩生于弓，弓生于弹，弹起古之孝子。”越王曰：“孝子弹者奈何？”音曰：“古者，人民朴质，饥食鸟兽，渴饮雾露。死则裹以白茅，投于中野。孝子不忍见父母为禽兽所食，故作弹以守之，绝鸟兽之害。故歌曰：‘断竹续竹，飞土逐害’之谓也。于是神农、黄帝弦木为弧，剡木为矢，弧矢之利，以威四方。黄帝之后，楚有弧父。弧父



者，生于楚之荆山，生不见父母。为儿之时，习用弓矢，所射无脱。以其道传于羿，羿传逢蒙，逢蒙传于楚琴氏，琴氏以为弓矢不足以威天下。当是之时，诸侯相伐，兵刃交错，弓矢之威不能制服。琴氏乃横弓着臂，施机设枢，加之以力，然后诸侯可服。琴氏传之楚三侯，所谓句亻、鄂、章，人号麇侯、翼侯、魏侯也。自楚之三侯传至灵王，自称之楚累世，盖以桃弓棘矢而备邻国也。自灵王之后，射道分流，百家能人，用莫得其正。臣前人受之于楚，五世于臣矣。臣虽不明其道，惟王试之。”

越王曰：“弩之状何法焉？”陈音曰：“郭为方城，守臣子也，教为人君，命所起也；牙为执法，守吏卒也；牛为中将，主内裹也；关为守御，检去止也；犛为侍从，听人主也；臂为道路，通所使也；弓为将军，主重负也；弦为军师，御战士也；矢为飞客，主教使也；金为实敌，往不止也；卫为副使，正道里也；又为受教，知可否也；纛为都尉，执左右也；敌为百死，不得駭也；鸟不及飞，兽不暇走，弩之所向，无不死也。臣之愚劣，道悉如此。”越王曰：“愿闻正射之道。”音曰：“臣闻正射之道，道众而微。古之圣人，射弩未发，而前名其所中。臣未能如古之圣人。”“请悉其要。”“夫射之道，身若戴板，头若激卵。左蹠，右足横。左手若附枝，右手若抱儿。举弩望敌，翕心咽烟。与气俱发，得其和平。神定思去，去止分离。右手发机，左手不如。一身异教，岂况雄雌？此正射持弩之道也。”“愿闻望敌仪表，投分飞矢之道。”音曰：“夫射之道，从分望敌，合以参连。弩有斗石，矢有轻重。石取一两，其数乃平。远近高下，求之铢分。道要在斯，无有遗言。”越王曰：“善！尽子之道，愿子悉以教吾国人。”音曰：“道出于天，事在于人。人之所习，无有不神。”于是乃使陈音教士，习射于北郊之外。三月，军士皆能用弓弩之巧。陈音死，越王伤之，葬于国西，号其葬所曰陈音山。

卷十 勾践伐吴外传

勾践十五年，谋伐吴，谓大夫种曰：“孤用夫子之策，免于天虐之诛，还归于国。吾诚已说于国人，国人喜悦；而子昔日云有天气，即来陈之。今岂有应乎？”种曰：“吴之所以强者，为有子胥。今伍子胥忠谏而死，是天气前见，亡国之证也。愿君悉心尽意，以说国人。”越王曰：“听孤说国人之辞：寡人不知其力之不足，以大国报仇，以暴露百姓之骨于中原，此则寡人之罪也。寡人诚更其术，于是乃葬死问伤，吊有忧，贺有喜，送往迎来，除民所害；然后卑事夫差，往宦士三百人于吴。吴封孤数百里之地，因约吴国父兄昆弟，而誓之曰：‘寡人闻古之贤君，四方之民归之若水。寡人不能为政，将率二三子夫妇以为藩辅。’令壮者无娶老妻，老者无娶壮妇；女子十七未嫁，其父母有罪；丈夫二十不娶，其父母有罪。将免者，以告于孤，令医守之。生男二，赐之以壶酒、一犬；生女二，赐以壶酒、一豚。生子三人，孤以乳母；生子二人，孤与一养。长子死，三年释吾政；季子死，三月释吾政。必哭泣葬埋之，如吾子也。令孤子、寡妇、疾疹、贫病者，纳官其



子。欲仕，量其居，好其衣，饱其食，而简锐之。凡四方之士来者，必朝而礼之，载饭与羹，以游国中。国中童子，戏而遇孤，孤哺而啜之，施以爱，问其名。非孤饭不食，非夫人事不衣。七年不牧国民，家有三年之畜。男即歌乐，女即会笑。今国之父兄日请于孤，曰：‘昔夫差辱吾君王于诸侯，长为天下所耻。今越国富饶，君王节俭，请可报耻。’孤辞之，曰：‘昔者我辱也，非二三子之罪也。如寡人者，何敢劳吾国之人，以塞吾之宿仇？’父兄又复请，曰：‘诚四封之内，尽吾君子。子报父仇，臣复君隙，岂敢有不尽力者乎？臣请复战，以除君王之宿仇。’孤悦而许之。”

大夫种曰：“臣观吴王得志于齐、晋、谓当遂涉吾地，以兵临境。今疲师体卒，一年而不试，以忘于我，我不可以息。臣当卜之于天。吴民既疲于军，困于战斗，市无赤米之积，国廩空虚，其民必有移徙之心，寒就蒲赢于东海之滨。夫占兆人事，又见于卜筮。王若起师，以可会之利，犯吴之边鄙，未可往也。吴王虽无伐我之心，亦虽动之所怒，不如诮其间，以知其意。”越王曰：“孤不欲有征伐之心。国人请战者三年矣，吾不得不从民人之欲。”

今闻大夫种谏难，越父兄又谏，曰：“吴可伐，胜则灭其国，不胜则困其兵。吴国有成，王与之盟，功名闻于诸侯。”王曰：“善！”于是乃大会群臣，而令之曰：“有敢谏伐吴者，罪不赦。”蠡、种相谓曰：“吾谏已不合矣，然犹听君王之令。”越王会军列士，而大诫众，而誓之曰：“寡人闻古之贤君，不患其众不足，而患其志行之少耻也。今夫差衣水犀甲者十有三万人，不患其志行之少耻也，而患其众之不足。今寡人将助天威，吾不欲匹夫之小勇也，吾欲士卒进则思赏，退则避刑。”于是越民父勉其子，兄劝其弟，曰：“吴可伐也。”

越王复召范蠡谓曰：“吴已杀子胥，导谗者众。吾国之民，又劝孤伐吴。其可伐乎？”范蠡曰：“未可。须明年之春，然后可耳。”王曰：“何也？”范蠡曰：“臣观吴王北会诸侯于黄池，精兵从王，国中空虚，老弱在后，太子留守。兵始出境未远，闻越掩其空虚，兵还不难也。不如来春。”其夏六月丙子，勾践复问，范蠡曰：“可伐矣。”乃发习流二千人，俊士四万，君子六千，诸御千人，以乙酉与吴战。丙戌，遂虏杀太子。丁亥，入吴，焚姑胥台。吴告急于夫差，夫差方会诸侯于黄池，恐天下闻之，即密不令泄。已盟黄池，乃使人请成于越。勾践自度未能灭，乃与吴平。

二十一年七月，越王复悉国中士卒伐吴会楚使申包胥聘于越，越王乃问包胥曰：“吴可伐耶？”申包胥曰：“臣鄙于策谋，未足以卜。”越王曰：“吴为不道，残我社稷，夷吾宗庙，以为平原，使不得血食。吾欲与之微天之中。惟是舆马、兵革、卒伍既具，无以行之。诚闻于战，何以为可？”申包胥曰：“臣愚，不能知。”越王固问，包胥乃曰：“夫吴，良国也，传贤于诸侯。敢问君王之所战者何？”越王曰：“在孤之侧者，饮酒食肉，未尝不分。孤之饮食不致其味，听乐不尽其声，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战。”越王曰：“越国之中，吾博爱以子之，忠惠以养之。吾今修宽刑，欲民所欲，去



民所恶，称其善，掩其恶，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战。”王曰：“越国之中，富者吾安之，贫者吾予之。救其不足，损其有余，使贫富不失其利，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善则善矣，未可以战。”王曰：“邦国南则距楚，西则薄晋，北则望齐，春秋奉币、玉帛、子女以贡献焉，未尝敢绝，求以报吴。愿以此战。”包胥曰：“善哉！无以加斯矣。犹未可战。夫战之道，知为之始，以仁次之，以勇断之。君、将不知，即无权变之谋，以别众寡之数；不仁，则不得与三军同饥寒之节，齐苦乐之喜；不勇，则不能断去就之疑，决可否之议。”于是越王曰：“敬从命矣。”

冬十月，越王乃请八大夫曰：“昔吴为不道，残我宗庙，夷我社稷，以为平原，使不血食。吾欲徵天之中。兵革既具，无所以行之。吾问于申包胥，即已命孤矣。敢告诸大夫，如何？”大夫曳庸曰：“审赏，则可战也。审其赏，明其信，无功不及，有功必加，则士卒不怠。”王曰：“圣哉！”大夫苦成曰：“审罚，则可战。审罚，则士卒望而畏之，不敢违命。”王曰：“勇哉！”大夫文种曰：“审物，则可战。审物，则别是非。是非明察，人莫能惑。”王曰：“辨哉！”大夫范蠡曰：“审备，则可战。审备慎守，以待不虞。备设守固，必可应难。”王曰：“慎哉！”大夫皋如曰：“审声，则可战。审于声音，以别清浊。清浊者，谓吾国君名闻于周室，令诸侯不怨于外。”王曰：“得哉！”大夫扶同曰：“广恩知分，则可战。广恩以博施，知分而不外。”王曰：“神哉！”大夫计倪曰：“候天察地，参应其变，则可战。天变，地应，人道便利，三者前见，则可。”王曰：“明哉！”于是勾践乃退，斋而命国人曰：“吾将有不虞之议，自近及远，无不闻者。”乃复命有司与国人曰：“承命有赏，皆造国门之期；有不从命者，吾将有显戮。”勾践恐民不信使以征不义，闻于周室，令诸侯不怨于外，令国中曰：“五日之内，则吾良人矣。过五日之外，则非吾之民也，又将加之以诛。”

教令既行，仍人命于夫人。王背屏，夫人向屏而立。王曰：“自今日之后，内政无出，外政无人。各守其职，以尽其信。内中辱者，则是子；境外千里辱者，则是我也。吾见子于是，以为明减矣。”王出宫，夫人送王，不过屏。王因反阖其门，填之以土。夫人去笄，侧席而坐，安心无容，三月不扫。

王出则复背垣而立，大夫向垣而敬。王乃令大夫曰：“食土不均，地壤不修，使孤有辱于国，是子之罪。临敌不战，军士不死，有辱于诸侯，功贻于天下，是孤之责。自今以往，内政无出，外政无人，吾固减子。”大夫：“敬受命矣。”王乃出，大夫送出垣，反阖外宫之门，填之以土。大夫侧席而坐，不御五味，不答所劝。

勾践有命于夫人，大夫曰：“国有守御。”乃坐露坛之上，列鼓而鸣之，军行成陈，即斩有罪者三人，以徇于军，令曰：“不从吾令者，如斯矣。”明日，徒军于郊，斩有罪者三人，徇之于军，令曰：“不从吾令者，如斯矣。”王乃令国中不行者，与之诀而告之，曰：“尔安土守职。吾方往征讨我宗庙之讎，以谢于二三子。”令国人各送其子弟于郊境之上，军士各与父兄、昆弟诀。国人悲哀，皆作离别相去之词，曰：“蹶蹶摧长愿兮，摆戟驱



受。所离不降兮，以泄我王气苏。三军一飞降兮，所向皆殂。一士判死兮，而当百夫。道祐有德兮，吴卒自屠。雪我王宿耻兮，威振八都。军伍难更兮，势如貔獠。行行各努力兮，于乎！于乎！”于是观者莫不凄恻。明日，复徙军于境上，斩有罪者三人，徇之于军，曰：“有不从令者，如此。”后三日，复徙军于桃李，斩有罪者三人，以徇于军，曰：“其淫心愿行，不当敌者，如斯矣。”

勾践乃命有司大徇军，曰：“其有父母无昆弟者，来告我。我有大事，子离父母之养，亲老之爱，赴国家之急；子在军寇之中，父母昆弟有在疾病之地，吾视之如吾父母昆弟之疾病也；其有死亡者，吾葬埋殡送之，如吾父母昆弟之有死亡葬埋之矣。”明日，又徇于军，曰：“士有疾病，不能随军从兵者，吾予其医药，给其糜粥，与之同食。”明日，又徇于军，曰：“筋力不足以胜甲兵，志行不足以听王命者，吾轻其重，和其任。”明日，旋军于江南，更陈严法，复诛有罪者五人，徇曰：“吾爱士也，虽吾子不能过也。”及其犯诛，自吾子亦不能脱也。”恐军士畏法不使，自谓未能得士之死力，道见蛙张腹而怒，将有战争之气，即为之弑。”其士卒有问於王曰：“君何为敬蛙虫，而为之弑？”勾践曰：“吾思士卒之怒久矣，而未有称吾意者。今蛙虫无知之物，见敌而有怒气，故为之弑。”于是军士闻之，莫不怀心乐死，不致其命。有司、将军大徇军中，曰：“队各自令其部，部各自令其士。归而不归，处而不处，进而不进，退而不退，左而不左，右而不右，不如令者，斩。”

于是，吴悉兵屯于江北，越军于江南。越王中分其师，以为左右军，皆被兕甲。又令安广之人佩石礪之矢，张卢生之弩。躬率君子之军六千人，以为中阵。明日，将战于江，乃以黄昏令于左军，衔枚溯江而上五里，以须吴兵。复令于右军，衔枚逾江十里，复须吴兵。于夜半，使左军涉江，鸣鼓中水，以待吴发。吴师闻之，大骇，相谓曰：“今越军分为二师，将以使攻我众。”亦即以夜暗，中分其师以围越。越王阴使左、右军与吴望战，以大鼓相闻。潜伏其私卒六千人，衔枚不鼓，攻吴，吴师大败。越之左、右军乃遂伐之，大败之于圉。又败之于郊。又败之于津。如是三战三北，径至吴围吴于西城。吴王大惧，夜遁。越王追奔攻吴，兵入于江阳松陵，欲入胥门。来至六七里，望吴南城，见伍子胥头，巨若车轮，目若耀电，须发四张，射于十里。越军大惧，留兵假道，即日夜半，暴风疾雨，雷奔电激，飞石扬砂，疾于弓弩。越军坏败松陵，即退。兵士僵毙，人众分解，莫能救止。范蠡、文种乃稽顙肉袒，拜谢子胥，愿乞假道。子胥乃与种、蠡梦曰：“吾知越之必入吴矣，故求置吾头于南门，以观汝之破吴也。惟欲以穷夫差，定汝入我之国，吾心又不忍，故为风雨，以还汝军。然越之伐吴，自是天也。吴安能止哉？越如欲入，更从东门。我当为汝开道贯城，以通汝路。”于是越军明日更从江出，入海阳于三道之翟水，乃穿东南隅以达。越军遂围吴，守一年。吴师累败，遂徙吴王于姑胥之山。吴使王孙络肉袒膝行而前，请成于越王，曰：“孤臣夫差，敢布腹心。异日得罪于会稽，夫差不敢逆命，得与君王结成以归。今君王举兵而诛孤臣，孤臣惟命是听。”意者犹以今日之姑胥，曩日



之会稽也。“若微天之中，得赦其大辟，则吴愿长为臣妾。”勾践不忍其言，将许之。成。范蠡曰：“会稽之事，天以越赐吴，吴不取。今天以吴赐越，越可逆命乎？且君王早朝晏罢，切齿铭骨，谋之二十余年，岂不缘一朝之事耶？今日得而弃之，其计可乎？”天与不取，还受其咎。君何忘会稽之厄乎？”勾践曰：“吾欲听子言，不忍对其使者。”范蠡遂鸣鼓而进兵，曰：“王已属政于执事，使者急去，不时得罪。”吴使涕泣而去。勾践怜之，使令人谓吴王曰：“吾置君于甬东，给君夫妇三百余家，以没王世，可乎？”吴王辞曰：“天降祸于吴国，不在前后，正孤之身，失灭宗庙社稷者。吴之土地民臣，越既有之，孤老矣，不能臣王。”遂伏剑自杀。

勾践已灭吴，仍以兵北渡江、淮，与齐、晋诸侯会于徐州，致贡于周，周元王使人赐勾践。已受命号，去还江南，以淮上地与楚，归吴所侵宋地，与鲁泗东方百里。当是之时，越兵横行于江、淮之上，诸侯皆贺。越王还于吴，当归，而问于范蠡曰：“何子言之，其合于天？”范蠡曰：“此素女之道，一言即合大王之事。王问焉实，金匱之要，在于上下。”越王曰：“善哉！吾不称王，其可悉乎？”蠡曰：“不可。昔吴之称王，僭天子之号，天变于上，日为阴蚀。今君遂僭号不归，恐天变复见。”

越王还于吴，置酒文台，群臣为乐。乃命乐作伐吴之曲，乐师曰：“臣闻即事作操，功成作乐。君王崇德，海化有道之国，诛无义之人；复讎还耻，威加诸侯，受霸王之功。功可象于图画，德可刻于金石，声可托于弦管，名可留于竹帛。臣请引琴而鼓之。”遂作《章畅辞》，曰：“屯乎，今欲伐吴，可未耶？”大夫种、蠡曰：“吴杀忠臣伍子胥，今不伐吴又何须？”大夫种进祝酒，其辞曰：“皇天祐助，我王受福。良臣集谋，我王之德。宗庙辅政，鬼神承翼。君不忘臣，臣尽其力。上天苍苍，不可掩塞。觞酒二升，万福无极。”于是越王默然无言。大夫种曰：“我王贤仁，怀道抱德。灭讎破吴，不忘返国。赏无所憾，群邪杜塞。君臣同和，福祐千亿。觞酒二升，万岁难极。”台上群臣在悦而笑，越王面无喜色。

范蠡知勾践受壤土，不惜群臣之死，以其谋成国定，必复不须功而返国也，故面有忧色而不悦也。范蠡从吴欲去，恐勾践未返，失人臣之义，乃从人越。行谓文种曰：“子来去矣。越王必将诛子！”种不然言。蠡复为书遗种曰：“吾闻天有四时，春生冬伐；人有盛衰，泰终必否。知进退存亡，而不失其正，惟贤人乎！蠡虽不才，明知进退。高鸟已散，良弓将藏；狡兔已尽，良犬就烹。夫越王为人长颈鸟喙，鹰视狼步，可与共患难，而不可共处乐；可与履危，不可与安。子若不去，将害于子，明矣！”文种不信其言越王阴谋。范蠡议欲去微幸。

二十四年九月丁未，范蠡辞于王，曰：“世闻主忧臣劳，主辱臣死，义一也。今臣事大王，前则无灭未萌之端，原则无赦已倾之祸，虽然，臣终欲成君霸国，故不辞一死一生。臣窃自惟，乃使于吴。王之辱辱，蠡所以不死者，诚恐谗于太宰嚭，成伍子胥之事，故不敢前死，且须曳而生。夫耻辱之心不可以大，流汗之愧不可以忍。幸赖宗庙之神灵，



大王之威德，以败为成。斯汤、武克夏、商，而成王业者，定功雪耻，臣所以当席日久。臣请从斯辞矣！”越王惻然，泣下霑衣，言曰：“国之士大夫是子，国之人民是子，使孤寄身托号，以俟命矣。今子云去，欲将逝矣！是天之弃越，而丧孤也，亦无所恃者矣！孤窃有言：公住乎，分国共之；去乎，妻子受戮。”范蠡曰：“臣闻君子俟时，计不数谋，死不被疑，内不自欺。臣既逝矣，妻子何法乎？王其勉之！臣从此辞。”乃乘扁舟，出三江，入五湖，人莫知其所适。

范蠡既去，越王愀然变色，召大夫种曰：“蠡可追乎？”种曰：“不及也。”王曰：“奈何？”种曰：“蠡去时，阴画六，阳画三。日前之神，莫能制者。玄武天空威行，孰敢止者？度天关，涉天梁，后人天一。前翳神光，言之者死，视之者狂。臣愿大王勿复追也。蠡终不还矣！”越王乃收其妻子，封百里之地。“有敢侵之者，上天所殃。”于是越王乃使良工铸金，象范蠡之形，置之坐侧，朝夕论政。

自是之后，计倪佯狂。大夫曳庸、扶同、皋如之徒，日益疎远，不亲于朝。大夫种内忧，不朝。不或谗之于王，曰：“文种弃宰相之位，而令君王霸于诸侯。今官不加增，位不益封，乃怀怨望之心，愤发于内，色变于外，故不朝耳。”异日，种谏曰：“臣所以早朝而晏罢，若身疾作者，但为吴耳。今已灭之，王何忧乎？”越王默默。时鲁哀公患三桓，欲因诸侯以伐之。三桓亦患哀公之怒，以故君臣作难，哀公奔阽。三桓攻哀公，公奔卫，又奔越。鲁国空虚，国人悲之，来迎哀公，与之俱归。勾践忧文种之不图，故不为哀公伐三桓也。

二十五年丙午平旦，越王召相国大夫种而问之：“吾闻知人易，自知难。其知相国何如人也？”种曰：“哀哉！”大王知臣勇也，不知臣仁也，知臣忠也，不知臣信也。臣诚数以桢声色，灭淫乐；奇说怪论，尽言竭忠，以犯大王。逆心拂耳，必以获罪。臣非敢爱死不言，言而后死，昔子胥于吴矣。夫差之诛也，谓臣曰：‘狡兔死，良犬烹；敌国灭，谋臣亡。’范蠡亦有斯言。何大王问犯《玉门》之第八？臣见王志也。”越王默然不应。大夫亦罢，哺其耳以成人恶。其妻曰：“君贱！一国之相，少王禄乎？临食不享哺以恶何？妻子在侧，匹夫子能自致相国，尚何望哉？无乃为贪乎？何其志忽忽若斯？”种曰：“悲哉！子不知也。吾王既免于患难，雪耻于吴，我悉徙宅，自投死亡之地，尽九术之谋，于彼为佞，在君为忠。王不察也，乃曰：‘知人易，自知难。’吾答之，又无他语。是凶妖之证也。吾将复入，恐不再还。与子长诀，相求于玄冥之下。”妻曰：“何以知之？”种曰：“吾见王时，正犯《玉门》之第八也。辰剋其日，上贼于下，是为乱丑，必害其良。今日剋其辰，上贼下，止吾命须臾之间耳。”

越王复召相国，谓曰：“子有阴谋兵法，倾敌取国。九术之策，今用三，已破强吴，其六尚在于所。愿幸以余术，为孤前王于地下谋吴之前人。”于是种仰天叹曰：“嗟乎！吾闻大恩不报，大功不还，其谓斯乎？吾悔不随范蠡之谋，乃为越王所戮。吾不食善言，故哺以人恶。”越王遂赐文种属镂之剑。种得剑，又叹曰：“南阳之幸，而为越王之擒。”自



笑曰：“后百世之末，忠臣必以吾为喻矣。”遂伏剑而死。越王葬种于国之西山，楼船之卒三千余人，造鼎足之羹，或入三峰之下。葬七年，伍子胥从海上穿山协，而持种去，与之俱浮于海。故前潮水潘候者，伍子胥也；后重水者，大夫种也。

越王既已诛忠臣，霸于关东，从琅邪起观台，周七里，以望东海；死士八千人；戈船三百艘。居无几，射求贤士。孔子闻之，从弟子奉先生雅琴礼乐，奏于越。越王乃被唐夷之甲带步光之剑，杖屈卢之矛，出死士，以三百人为阵关下。孔子有顷到。越王曰：“唯唯，夫子何以教之？”孔子曰：“丘能述五帝、三王之道，故奏雅琴，以献之大王。”越王喟然叹曰：“越性脆而愚，水行山处，以船为车，以楫为马，往若飘然，去则难从，悦兵敢死，越之常也。夫从何说而欲教子？”孔子不答，因辞而去。越王使人如木客山，取元常之丧，欲徙葬琅邪。三穿元常之墓，墓中生爆风，飞砂石以射人，人莫能入。勾践曰：“吾前君其不徙乎？”遂置而去。

勾践乃使使号令齐、楚、秦、晋，皆辅周室，血盟而去。秦桓公不如越王之命勾践乃选吴越将士，西渡河以攻秦，军士苦之。会秦怖惧，逆自引咎，越乃还军。军人悦乐，遂作《河梁》之诗，曰：“渡河梁号渡河梁，举兵所伐攻秦王。孟冬十月多雪霜，隆寒道路诚难当。阵兵未济秦师降，诸侯怖惧皆恐惶。声传海内威远邦，称霸穆、桓、齐、楚庄。天下安宁寿考长，悲去归兮何无梁。”自越灭吴，中国皆畏之。

二十六年，越王以邾子无道，而执以归，立其太子何。冬，鲁哀公以三桓之逼来奔。越王欲为伐三桓，以诸侯大夫不用命，故不果耳。

二十七年冬，勾践寝疾，将卒，谓太子兴夷曰：“吾自禹之后，承元常之德，蒙天灵之祐，神祇之福，从穷越之地，籍楚之前锋，以摧吴王之干戈。跨江涉淮，从晋、齐之地。功德巍巍，自致于斯。其可不诫乎？夫霸者之后，难以久立。其慎之哉！”遂卒。兴夷即位一年，卒，子翁。翁卒，子不扬。不扬卒，子无强。强卒，子玉。玉卒，子尊。尊卒，子亲。自勾践至于亲，其历八主，皆称霸，积年二百二十四年。亲众皆失，而去琅邪，徙于吴矣。自黄帝至少康，十世。自禹受禅，至少康即位，六世，为一百四十四年。少康去颛顼即位，四百二十四年。

黄帝 昌意 颛顼 鲧 禹 启 太康 仲庐 相少康 无余 无玉去无余十世 无
皞 夫康 元常 勾践 兴夷 不寿 不扬 无强

鲁穆柳有幽公为名，王侯自称为君。

尊、亲失琅邪，为楚所灭。勾践至王亲，历八主，称霸二百二十四年。从无余越国始封至余善返，越国空灭，凡一千九百二十二年。



楚 汉 春 秋

〔汉〕陆贾 撰

《汉书·艺文志》：《楚汉春秋》九篇，汉大中大夫楚人陆贾所著也。太史公尝述之，以作《史记》。《隋志》、《唐志》并存九卷。今其书散佚，不可复得，汇刻丛书中亦未见辑本。因其书与《左传》、《国语》、《世本》、《战国策》，均为龙门作史，属稿所据，惟《世本》及陆书无传，故既辑《世本》成帙，复于此书留意焉。而又以不学，深愧掇拾之无多也。伏愿博雅君子，更增所未逮云。

道光二年夏五月，高邮茆泮林识。

《史记·索隐》曰：《楚汉春秋》云“韩王信都”，恐误也。诸书不言有韩信都。按韩初为韩司徒，后讹云申徒，因误以为韩王名。而刘知幾《史通》则谓子长述楚汉之事，往往与旧不同。韩王名信都，而辄去“都”留“信”，用使称其名姓，全与淮阴不别。菲氏复据何义门《读书记》谓“信都”之“信”与“申”同，当读为平声，与淮阴侯名异也。窃案史公作史，去汉初不远，其曰韩王信者，正欲别于淮阴耳。古人著书，具有义例，不当如刘氏所云。且《汉书》传赞亦既称之为“两韩信”，不以见韩王、淮阴同名之证乎！刘氏殆未详考，何氏尤涉穿凿，至于信都之说，似《索隐》为近也。懋之重刻是书，属余覆勘，爰举其疑。

光绪十二年十二月，华亭闵萃祥书。

楚汉春秋叙录

《汉书·艺文志》：《楚汉春秋》九篇，陆贾所记。

《前汉书·司马迁传》：汉兴，代秦定天下，有《楚汉春秋》。故司马迁据《左氏》、《国语》，采《世本》、《战国策》，述《楚汉春秋》，接其后事，讫于天汉。

《后汉书·班彪传》：汉兴、定天下。大中大夫陆贾记录时功，作《楚汉春秋》九篇。孝武之世，太史令采《左氏》、《国语》，删《世本》、《战国策》，据楚汉列国时事，作本纪、世家、列传、书表。又曰：百家之书，犹可法也。若《左氏》、《国语》、《世本》、《战



国策》、《楚汉春秋》、《太史公书》，今之所以知古，后之所由观前，圣人之耳目也。

《隋书·经籍志》：《楚汉春秋》九卷，陆贾撰。

《唐书·艺文志》：陆贾《楚汉春秋》九卷。

《史记·集解》序，裴驷曰：“班固有言曰：司马迁据《左氏》、《国语》，采《世本》、《战国策》，述《楚汉春秋》，接其后事。”

《史记·索隐》序，司马贞曰：“司马迁属稿，先据《左氏》、《国语》，系本《战国策》、《楚汉春秋》。”

《史记·索隐》，司马贞曰：“《楚汉春秋》，汉大中大夫楚人陆贾所撰。记项氏与汉高祖初起及说惠、文间事。”

《史记·正义》序，张守节曰：“司马迁包《左氏》、《国语》，采《世本》、《战国策》，据《楚汉春秋》。”

《史通》，刘知幾曰：“晏子、虞卿、吕氏、陆贾，其书篇第本无年月，而亦谓《春秋》。”又曰：“马迁《史记》，采《世本》、《国语》、《战国策》，《楚汉春秋》，故能取信一时，擅名千载。”又曰：“陆贾书《楚汉春秋》，权记当时，不终一代。”

《玉海》，王应麟曰：“《隋志》杂史：《楚汉春秋》九卷，陆贾撰。述诛锄秦、项之事。司马迁述《楚汉春秋》，接其后事。”

《容斋随笔》，洪迈曰：“陆贾书当时事多，与史不合，师古屡辨之。《楚汉春秋》，今不复见。”

楚汉春秋

项 燕

项燕为王翦所杀。

项 梁

项梁阴养士，最高者多力拔树以击地。又，项梁阴养生士九十人。参木者，所与计谋者也。木佯疾，于室中铸大钱，以具甲兵。

会稽守

会稽假守殷通，姓殷。



东阳吏

东阳狱吏陈婴。

韩 信

韩信常数从其下乡新昌亭长寄食。

夏侯婴

滕公为御。

英 布

人相我当刑而王，岂是乎？

吴广说陈涉

吴广说陈涉曰：“王引兵西击，则野无交兵。”

上过陈留

上过陈留。酈生求见，使者入通。公方洗足，问：“何如人？”曰：“状类大儒。”上曰：“吾方以天下为事，未暇见大儒也。”使者出告。酈生瞋目按剑，人言：“高阳酒徒，非大儒也！”

高祖向咸阳

高祖向咸阳，南趣宛，宛坚守不下。乃匿其旌旗，人衔枚，马束口，龙举而翼奋。鸡未鸣，围宛城三币，宛城降。

或言诛秦王

樊哙请杀之。



沛公西入武关

沛公西入武关，居于灊上。遣将军闭函谷关，无内项王。项王大将亚父至关，不得入，怒曰：“沛公欲反耶！”即令家发薪一束，欲烧关。关门乃开。

鰕生

鰕生，本姓解。解先生曰：“遵守函谷，无内项王。”

韩王信

韩王信都。

项王在鸿门

项王在鸿门，亚父曰：“吾使人望沛公，其气冲天，五采色相缪。或似龙。或似云，非人臣之气。可诛之！”高祖会项羽，范增目羽，羽不应。樊哙杖盾撞入，食豕，羽壮之。

亚父碎玉斗

沛公脱身鸿门，从间道至军。张良、韩信乃谒项王军门曰：“沛公使臣奉白璧一双，献大王足下。玉斗一只，献大将军足下。”亚父受玉斗，置地，戟撞破之。

烹说者

说者是蔡生。

董公遮说

董公，八十二岁，其名未详，秦世隐士。遮道而说，遂封为成侯。

上败彭城

上败彭城，薛人丁固追上。被发而顾曰：“丁公何相逼之甚！”乃回马而去。上即位，欲陈功。上曰：“使项氏失天下，是子也。为人臣用两心，非忠也。”使下吏笞杀之。



项王为高阁

项王为高阁，置太公于上，告汉王曰：“今不急下，吾烹太公！”汉王曰：“吾与项王约为兄弟，吾翁即汝翁。若烹汝翁，幸分我一杯羹！”

项王使武涉说淮阴侯

项王使武涉说淮阴侯。淮阴侯曰：“臣故事项王，位不过中郎，官不过执戟。及去项归汉，汉王赐臣玉案之食，巨阙之剑。臣背叛之，内愧于心。”

间道草山而望赵军

卑山。

孔将军

孔将军居左。

上欲封侯公

上欲封侯公，匿不肯复见，曰：“此天下之辨士！所居倾国。”故号平国君。

上东围项羽

上东围项羽，闻樊噲反鹿头，公孙戎明之卒不反。封戎二千户。

美人和项羽歌

歌曰：“汉兵已略地，四面楚歌声。霸王意气尽，贱妾何聊生！”

汉已定天下

汉已定天下，论群臣。破敌禽将，活死不衰，绛灌、樊噲是也。功成名立，臣为爪牙，世世相属，百世无邪，绛侯周勃是也。



高祖初封侯

高祖初，封侯者皆赐丹书铁券，曰：“使黄河如带，泰山如砺，汉有宗庙，尔无绝书。”

许 负

高祖封许负为鸣鸱亭侯。

周 緤

封周緤为凭城侯。

王 隆

清阳侯王隆。

傅 宽

阴陵侯傅宽。

陈 贲

博阳侯陈贲。

盩 达

夜侯盩达。

张 耳

南宫侯张耳。

王 疆

王疆数言事而当，上使参乘，解玉剑以佩之。天下定，以为守。有告之者，上曰：



“天下方急，汝何在？”曰：“亡。”上曰：“王疆沐浴霜露，与我从军，而汝亡，告之何也？”下廷尉劓。

北郭先生

北郭先生献带于淮阴侯。曰：“牛为人任用，力尽犹不置其革。”

淮阴舍人告信反

谢公也。

淮阴武王反

淮阴武王反。上自击之，张良居守。上体不安，卧辎车中。行三四里，留侯走东追上，簪堕被发。及辎车，排户曰：“陛下即弃天下，欲以王葬乎？以布衣葬乎？”上骂曰：“若翁天子也！何故以王及布衣葬乎？”良曰：“淮南反于东，淮阴害于西，恐陛下倚沟壑而终也！”

黥布反

黥布反。羽书至，上大怒。

又

下蔡亭长言淮南王曰：“封汝爵为千乘，东南尽日，所出尚未足黥徒群盗所耶？而反何也！”

告萧何

斩告萧何者。

叔孙通

名何。叔孙何云：“臣三谏不从，请以身当之！”抚剑将自杀。上离席曰：“吾听子计，不易太子！”



四 皓

四人冠伟冠，佩银环，衣服甚鲜。

惠帝崩

惠帝崩，吕太后欲为高坟，使从未央宫而见之。诸将谏，不许。东阳侯垂泣曰：“陛下见惠帝冢，悲哀流涕无已，是伤生也。臣窃哀之。”太后乃止。东阳侯，张相如也。

刘 泽

甲子春说张卿云：“刘泽，宗家也。”

吴太子

吴太子名贤，字德明。

赵中大夫

赵中大夫曰：“臣闻越王句践，素甲三千。”

楚汉春秋疑义

鸿鹄歌

案：《史通》云：刘氏初兴，书惟陆贾而已。子长述楚汉之事，专据此书。譬夫行不由径，出不由户，未之闻也。然观迁之所载，往往与旧不同。如酈生之初谒沛公，高祖之长歌《鸿鹄》，非惟文句有别，遂乃事理皆殊。又韩王名信都，而辄去“都”留“信”，用使称其名，全与淮阴不别。兹辑酈生及韩信都，已引见前，惟《鸿鹄歌》未载。《鸿鹄歌》，《史》述于《留侯世家》。歌曰：“鸿鹄高飞，一举千里，羽翮已就，横绝四海。横绝四海，当可奈何，虽有矰缴，尚安所施！”而《史通》云“非惟文句有别，遂乃事理皆殊，”则迁所载与旧不同，今无可考。惟《史》载项羽卒闻汉军楚歌，《索隐》案：高祖令戚夫人楚舞，自为楚歌，与《留侯世家》所述上曰：“为我楚舞，吾为楚歌”略同。但一在败楚垓下，一在欲易太子之后耳。《索隐》所按，未知据何书。倘史公移彼就此，则真



事理大殊。而文句之不同，更无从辨矣。

楚汉春秋考证

章氏宗源曰：《反汉书·班彪传》：“汉兴，大中大夫陆贾记录时功，作《楚汉春秋》九篇。”《文心雕龙·史传篇》曰：“汉灭嬴、项，武功积年。陆贾稽古，作《楚汉春秋》。”《史通·内篇》曰：“晏子、虞卿、吕氏、陆贾，其书篇第，本无年月，而亦谓之《春秋》。”又曰：“吕、陆二氏，乃子书杂记，而皆号曰《春秋》。”又《外篇》曰：“刘氏初兴，书惟陆贾而已。子长述楚汉之事，专据此书。譬夫行不同径，出不由户，未之闻也。然观迁之所载，往往与旧不同。如酈生之初谒沛公，高祖之长歌《鸿鹄》，非惟文句有别，遂乃事理皆殊。又韩王名信都，而辄去“都”留“信”，用使称其姓名，全与淮阴不别。”《史记》序《索隐》云：“《楚汉春秋》，陆贾撰。记项氏与汉高祖，及说惠、文间事。”又云：“《高祖功臣侯者年表》、《楚汉春秋》与《史记》、《汉书》不同者，陆贾记事高祖、惠帝时，《汉书》是后定功臣等列，及陈平受吕后命而定，或已改邑号，故人名亦别。”

愚按：《水经·渭水注》，项王在鸿门，亚父曰：“吾使人望沛公，其气冲天，五色采相谬。或似龙，或似云，非人臣之气。可诛之！”

《艺文类聚·地部》，沛公遣将军函固谷关，亚父至关，不得入，怒曰：“沛公欲反耶！”即令家发薪一束，欲烧关门。关门乃开。

《史记·刘敬叔孙通传·索隐》，萧何云：“臣三谏不从，请以身当之！抚剑将自杀。上离席云：“吾定计，不易太子！”

《太平御览·兵部》、《人事部》，上过陈留，酈生求见。使者入通，公方洗足，问：“何如人？”曰：“状类大儒。”上曰：“吾方以天下为事，未暇见大儒也！”使者出告。酈生瞋目按剑，曰：“人言高阳酒徒，非儒者也！”又《兵部》，高祖向咸阳，南趣宛。匿其旌旗，人衔枚，马束口，龙举而翼奋。鸡未鸣，围宛城三币，宛城降。

《人事部》，薛人丁固追上，上被发，顾曰：“丁公何相急之甚！”乃骂而去。上即位，欲陈功。上曰：“使项王失天下，是子也！为人臣，两心非忠也！”下吏笞之。又曰，项梁阴养士，最高者多力拔树以击地。又云，淮阴武王反，上自击之，张良居守。上体不安，卧辒辌车中。行三四里，留侯走东追上，簪堕被发。及辒辌车，排户曰：“陛下即弃天下，欲以王葬乎？以布衣葬乎？”骂曰：“若翁天子也！何故以王及布衣葬乎？”良曰：“淮南反于东，淮阴害于西，恐陛下倚沟壑而终也！”

《刑法部》，王疆数言事而当，上使参乘，解玉剑以佩之。天下定，以为守。有告之者，上曰：“天下方急，汝何在？”曰：“亡。”上曰：“王疆沐浴霜露，与我从事，而汝亡，告之何也？”下廷尉劓。

《服章部》，北郭先生献带于淮阴侯，曰：“牛为人任用，力尽犹不置其革。”



《资产部》，项梁阴养士九十人。参木者，所与计谋者也。木佯疾，于室中铸大钱，以具甲兵。此十一事，并引《楚汉春秋》，多班、马所不载。

亚父、酈生、丁公事，词义相殊。《困学纪闻》所引四事、项羽美人和歌，见《史记·羽纪·正义》。高祖封侯，赐丹书铁券词，见《御览·治道部》。东阳侯谏吕太后为惠帝高坟，见《艺文类聚·人部》。下蔡亭长冒淮南王，见《文选·五等论》注。惟《史通》所称高祖《鸿鹄歌》，未见征引。

《汉书》注引，“韩申”作“信都”。击项籍，孔将军居左。高祖之臣，别有绛灌舍人谢公得罪韩信。齐人田生，字子春。丁公，薛人，名固。鯁生，鯁姓也。封縗为凭城侯。叔孙通名何。会稽假守通姓殷。《史记·索隐》：“樊哙请杀秦王。”解先生云：“遣守函谷，无内项王。”项燕为王翦所杀。定侯王吸作清阳侯王隆，阳陵景侯作阴陵，南宮侯张耳。高祖封许负为鸣雌亭侯。“几是乎”作“岂是乎”。南昌亭长作新昌亭长。箬山作卑山。蒯成侯作凭成侯。吴太子名贤字德明。

又韩生说项王居关中，裴骃《集解》案：《楚汉春秋》云说者是蔡生，皆足考异。《文选·移书让太常博士》注引云：汉定天下，论群臣。破敌禽将，活死不衰，绛灌、樊哙是也。功成名立，臣为爪牙，百世无邪，世世相属，绛侯周勃是也。此可作《汉书》注“高祖臣别有绛灌”之证。《隋志》与《唐志》九卷同。

桂馥补录。

陆贾《楚汉春秋》，为龙门作史，所本犹见《唐书·艺文志》。至洪迈《容斋随笔》，则云“今不复见”，盖至宋而始佚也。高邮茆氏泮林博采诸书，辑成此卷。虽不能存其什一，亦足窥见一斑，不可谓非陆氏之功。臣以茆刻世不多觐，爰议重雕。陈君桂馥复录示章氏宗源《隋书经籍志考证》，中如引《汉书荆燕吴传》注“齐人田生字子春”，及《傅靳蒯成列传》“蒯成侯”作“凭成侯”，《季布传》“几是乎”作“岂是乎”，皆足补茆辑所未备，因附刊焉。

光绪丙子冬，吴县朱记荣识。



西京杂记

〔晋〕葛洪 撰

卷 一

汉高帝七年，萧相国营未央宫。因龙首山，制前殿，建北阙。未央宫周回二十二里九十五步五尺，街道周回七十里。台殿四十三、其三十二在外，其十一在后。宫池十三，山六。池一、山一，亦在后。宫门阙凡九十五。

武帝作昆明池，欲伐昆明夷，教习水战。因而于上游戏、养鱼，鱼给诸陵庙祭祀，余付长安市卖之。池周回四十里。

汉制：宗庙八月饮酎，用九酝太牢，皇帝侍祠。以正月旦作酒，八月成，名曰酎，一曰九酝，一名醇酎。

京师大水，祭山川以止雨。丞相、御史、二千石祷祠，如求雨法。

天子笔管，以错宝为附，毛皆以秋兔之毫，官师路扈为之。以杂宝为匣，厠以玉璧、翠羽，皆直百金。

汉制：天子玉几，冬则加绋锦其上，谓之绋几。以象牙为火笼，笼上皆散华文。后官则五色绦文。以酒为书滴，取其不冰；以玉为砚，亦取其不冰。夏设羽扇，冬设缁扇。公侯皆以竹木为几，冬则以细罽为囊以凭之，不得加绋锦。

武帝时，西域献吉光裘，人水不濡。上时服此裘以听朝。

高帝戚夫人善鼓瑟击筑，帝常拥夫人倚瑟而弦歌，毕，每泣下流涟。夫人善为翘袖折



腰之舞，歌《出塞》、《入塞》、《望归》之曲，侍婢数百皆习之。后宫齐首高唱，声入云霄。

戚姬以百链金为钗环，照见指骨。上恶之，以赐侍儿鸣玉、耀光等，各四枚。

赵王如意年幼，未能亲外傅。戚姬使旧赵王内傅赵媼傅之。号其室曰养德宫，后改为鱼藻宫。

惠帝尝与赵王同寝处，吕后欲杀之而未得。后帝早猎，王不能夙兴，吕后命力士于被中缢杀之。及死，吕后不之信。以绿囊盛之，载以小辇车，人见，乃厚赐力士。力士是东郭门外官奴，帝后知，腰斩之。后不知也。

乐游苑自生玫瑰树，下多苜蓿。苜蓿一名怀风，时人或谓之光风。风在其间，常萧萧然；日照其花，有光采，故名苜蓿为怀风。茂陵人谓之连枝草。

太液池边皆是雕胡、紫萍、绿节之类。菰之有米者，长安人谓之雕胡；葭芦之未解叶者，谓之紫萍；菰之有首者，谓之绿节。其间凫雏、雁子布满充积，又多紫龟、绿鳖。池边多平沙，沙上鸕鶿、鸂鶒、鸛、鸛，动辄成群。

终南山多离合草，叶似江离，而红绿相杂，茎皆紫色，气如萝藦。有树直上百丈，无枝，上结丛条如车盖，叶一青一赤，望之斑驳如锦绣。长安谓之丹青树，亦云华盖树。亦生熊耳山。

汉帝相传以秦王子婴所奉白玉玺、高祖斩白蛇剑。剑上七采珠、九华玉以为饰，杂厕五色琉璃为剑匣。剑在室中，光景犹照於外，与挺剑不殊。十二年一加磨莹，刃上常若霜雪。开匣拔鞘，辄有风气，光彩射人。

汉采女常以七月七日穿七孔针于开襟楼，俱以习之。

宣帝被收系郡邸狱，臂上犹带史良娣合采婉转丝绳，系身毒国宝镜一枚，大如八铢钱。旧传此镜照见妖魅，得佩之者为天神所福，故宣帝从危获济。及即大位，每持此镜，感咽移辰。常以琥珀筒盛之，絨以威里织成锦，一曰斜文锦。帝崩，不知所在。

霍光妻遗淳于衍蒲桃锦二十四疋、散花绡二十五疋。绡出巨鹿陈宝光家，宝光妻传其法。霍显召人其第，使作之。机用一百二十镊，六十日成一疋，疋直万钱。又与走珠一琲、绿绡百端、钱百万、黄金百两，为起第宅，奴婢不可胜数，衍犹怨曰：“吾为尔成何



功，而报我若是哉！”

济阴王兴居反，始举兵，大风从东来，直吹其旌旗飞上天，人云而堕城西井中。马皆悲鸣，不进。左右李廓等谏，不听。后卒自杀。

五鹿充宗受学於弘成子。成子少时，尝有人过之，授以文石，大如燕卵。成子吞之，遂大明悟，为天下通儒。成子后病，吐出此石，以授充宗。充宗又为硕学也。

始元元年，黄鹄下太液池。上为歌曰：“黄鹄飞兮下建章，羽肃肃兮行跼跼，金为衣兮菊为裳，唼喋荷荇，出入萧葭。自顾菲薄，愧尔嘉祥。”

汉帝送死皆珠襦玉匣。匣形如铠甲，连以金缕。武帝匣上皆镂为蛟龙鸾凤龟麟之象，世谓之蛟龙玉匣。

成帝设云帐、云幄、云幕於甘泉紫殿，世谓之三云殿。

汉掖庭有月影台、云光殿、九华殿、鸣鸾殿、开襟阁、临池观，不在簿籍，皆繁华窈窕之所栖宿焉。

赵飞燕女弟居昭阳殿，中庭彤朱，而殿上丹漆，砌皆铜沓，黄金涂，白玉阶，壁带往往为黄金缸，含蓝田璧，明珠翠羽饰之。上设九龙金，皆衔九子金铃，五色流苏，带以绿文紫绶、金银花钗。每好风日，幡旒光影，照耀一殿；铃钗之声，惊动左右。中设木画屏风，文如蜘蛛丝缕。玉几玉床，白色牙簟，绿熊席。席毛长二尺余，人眠而拥毛自蔽，望之不能见；坐则没膝。其中杂熏诸香，一坐此席，余香百日不歇。有四玉镇，皆达照，无琅玕。窗扉多是绿琉璃，亦皆达照，毛发不得藏焉。椽桷皆刻作龙蛇，萦绕其间，鳞甲分明，见者莫不就饌。匠人丁缓、李菊，巧为天下第一。缔构既成，向其姊子樊延年说之，而外人稀知，莫能传者。

积草池中有珊瑚树，高一丈二尺，一本三柯，上有四百六十二条。是南越王赵佗所献，号为烽火树。至夜，光景常欲然。

昆明池刻玉石为鱼，每至雷雨，鱼常鸣吼，鬣尾皆动。汉世祭之以祈雨，往往有验。

初修上林苑，群臣远方各献名果异树。亦有制为美名，以标奇丽。梨十：紫梨、青



梨、芳梨、大谷梨、细叶梨、缥叶梨、金叶梨、瀚海梨、东王梨、紫条梨。枣七：弱枝枣、玉门枣、棠枣、青华枣、枏枣、赤枣、西王枣。栗四：侯栗、榛栗、瑰栗、峰阳栗。桃十：秦桃、榠桃、绡核桃、金城桃、绮叶桃、紫文桃、霜桃、胡桃、櫻桃、含桃。李十五：紫李、绿李、朱李、黄李、青绮李、青房李、同心李、车下李、含枝李、金枝李、颜渊李、羌李、燕李、蛮李、侯李。柰三：白柰、紫柰、绿柰。查三：蛮查、羌查、猴查。棹三：青棹、赤叶棹、乌棹。棠四：赤棠、白棠、青棠、沙棠。梅七：朱梅、紫叶梅、紫花梅、同心梅、丽枝梅、燕梅、猴梅。杏二：文杏、蓬莱杏。桐三：椅桐、梧桐、荆桐。林擒十株，批把十株，橙十株，安石榴十株，椶十株，白银树十株，黄银树十株，槐六百四十株，千年长生树十株，万年长生树十株，扶老木十株，守宫槐十株，金明树二十株，摇风树十株，鸣风树十株，琉璃树七株，池离树十株，离娄树十株，白俞梅、杜梅、桂蜀漆树十株，栴四株，枳七株，栝十株，楔四株，枫四株。

余就上林令虞渊得朝臣所上草木名二千余种，邻人石琮就余求借，一皆遗弃。今以所记忆，列于篇右。

长安巧工丁缓者，为常满灯，七龙五凤，杂以芙蕖莲藕之奇。又作卧褥香炉，一名被中香炉。本出房风，其法后绝，至缓始更为之。为机环转运四周，而炉体常平，可置之被褥，故以为名。又作九层博山香炉，倣为奇禽怪兽，旁诸灵异，皆自然运动。又作七轮扇，连七轮，大皆径丈，相连续，一人运之，满堂寒颤。

赵飞燕为皇后，其女弟在昭阳殿，遣飞燕书曰：“今日嘉辰，贵姊懋膺洪册，谨上襍三十五条，以陈踊跃之心：金花紫轮帽，金花紫罗面衣，织成上襦，织成下裳，五色文绶，鸳鸯襦，鸳鸯被，鸳鸯褥，金错绣裆，七宝薰履，五色文玉环，同心七宝钗，黄金步摇，合欢圆裆，琥珀枕，龟文枕，珊瑚玦，马脑馗，云母扇，孔雀扇，翠羽扇，九华扇，五明扇，云母屏风，琉璃屏风，五层金博山香炉，回风扇，椰叶席，同心梅，含枝李，青木香，沈木香，香螺后，九真雄麝香，七枝灯。

赵后体轻腰弱，善行步进退，女弟昭仪不能及也。但昭仪弱骨丰肌，尤工笑语。二人并色如红玉，为当时第一，皆擅宠后宫。

卷 二

元帝后宫既多，不得常见，乃使画工图形，按图召幸之。诸宫人皆赂画工，多者十万，少者亦不减五万。独王嫱不肯，遂不得见，后匈奴入朝，求美人为阏氏，于是上案图，以昭君行。及去，召见，貌为后宫第一，善应对，举止闲雅。帝悔之，而名籍已定。帝重信于外国，故不复更人。乃穷案其事，画工皆弃市，籍其家，资皆巨万。画工有杜陵



毛延寿，为人形，丑好老少，必得其真。安陵陈敞，新丰刘白、龚宽，并工为牛马飞鸟众势，人形好丑，不逮延寿。下杜阳望，亦善画，尤善布色。樊育亦善布色。同日弃京。京师画工于是差稀。

武帝欲杀乳母，乳母告急于东方朔。朔曰：“帝忍而愎，旁人言之，益死之速耳。汝临去，但屡顾我，我当设奇以激之。”乳母如言，朔在帝侧曰：“汝宜速去，帝今已大，岂念汝乳哺时恩邪？”帝怆然，遂舍之。

五侯不相能，宾客不得往来。娄护丰辩，传食五侯间，各得其欢心，竞致奇膳。护乃合以为鲭，世称五侯鲭，以为奇味焉。

公孙弘起家徒步为丞相，故人高贺从之。弘食以脱粟饭，覆以布被。贺怨曰：“何用故人富贵为？脱粟、布被、我自有之。”弘大惭。贺告人曰：“公孙弘内服貂蝉，外衣麻絮；内厨五鼎，外膳一肴。岂可以示天下？”于是朝廷疑其矫焉。弘叹曰：“宁逢恶宾，无逢故人。”

文帝自代还，有良马九匹，皆天下之骏马也：一名浮云，一名赤电，一名绝群，一名逸骠，一名紫燕骝，一名绿螭骝，一名龙子，一名麟驹，一名绝尘，号为九逸。有来宜能卸，代王号为王良。俱还代邸。

武帝时，身毒国献连环珥，皆以白玉作之，玛瑙石为勒，白光琉璃为鞍。鞍在暗室中，常照十余丈如昼日。自是，长安始盛饰鞍马，竟加雕镂。或一马之饰直百金，皆以南海白氍为珂，紫金为花，以饰其上。犹以不鸣为患，或加以铃铎，饰以流苏，走则如撞钟磬，动若飞幡葆。后得武帝天马，帝以玫瑰石为鞍，镂以金银鍮石，以绿地五色锦为蔽泥，后稍以熊黑皮为之。熊黑毛有绿光，皆长二尺者，直百金。卓王孙有百余双，诏使献二十枚。

昭帝时，茂陵家人献宝剑，上铭曰：“直千金，寿万岁。”

司马相如初与卓文君还成都，居贫愁遽，以所著鹔鹕裘就市人阳昌贳酒，与文君为欢。既而文君抱颈而泣曰：“我平生富足，今乃以衣裳贳酒！”遂相与谋，于成都卖酒。相如亲着犊鼻裤涤器，以耻王孙。王孙果以为病，乃厚给文君。文君遂为富人。文君姣好，眉色如望远山，脸际常若芙蓉，肌肤柔滑如脂，十七而寡，为人放诞风流，故悦长卿之才而越礼焉。长卿素有消渴疾，及还成都，悦文君之色，遂以发痼疾。乃作《美人赋》，欲以自刺，而终不能改，卒以此疾至死。文君为诔，传于世。



庆安世，年十五为成帝侍郎。善鼓琴，能为双凤离鸾之曲。赵后悦之，白上，得出入御内，绝见爱幸。常着轻丝履，招风扇、紫绋裘，与后同居处。欲有子，而终无胤嗣。赵后自以无子，常托以祈祷，别开一室。自左右侍婢以外，莫得至者，上亦不得至焉。以耕车载轻薄少年，为女子服，入后宫者，日以十数。与之淫通，无时休息。有疲惫者，辄差代之，而卒无子。

太上皇徙长安，居深宫，凄怆不乐。高祖窃因左右问其故，以平生所好，皆屠贩少年、酤酒卖饼，斗鸡蹴鞠，以此为欢，今皆无此，故以不乐。高祖乃作新丰，移诸故人实之，太上皇乃悦。故新丰多无赖，无衣冠子弟故也。高祖少时，常祭粉榆之社。及移新丰，亦还立焉。高帝既作新丰，并移旧社，衢巷栋宇，物色惟旧，士女老幼，相携路首，各知其室；放犬羊鸡鸭於通涂，亦竞识其家，其匠人胡宽所营也。移者皆悦其似而德之。故竟加赏赠，月馀，致累百金。

汉诸陵寝，皆以竹为帘，帘皆为水纹及龙凤之像。昭阳殿织珠为帘，风至则鸣，如珩佩之声。

扬雄读书，有人语之曰：“无为自苦，玄故难传。”忽然不见。雄著《太玄经》，梦吐凤凰，集《玄》之上，顷而灭。

司马相如为《上林》、《子虚》赋，意思萧散，不复与外事相关，控引天地，错综古今，忽然如睡，跃然而兴，几百日而后成。其友人盛览，字长通，胖牯名士，尝问以作赋，相如曰：“合綦组以成文，列锦绣而为质，一经一纬，一宫一商，此赋之迹也。赋家之心，苞括宇宙，总览人物，斯乃得之于内，不可得而传。”览乃作《合组歌》、《列锦赋》而退，终身不复敢言作赋之心矣。

董仲舒梦蛟龙入怀，乃作《春秋繁露》辞。

或问杨雄为赋，雄曰：“读赋千首，乃能为之。”

匡衡字稚圭，勤学而无烛。邻舍有烛而不逮。衡乃穿壁引其光，以书映光而读之。邑人大姓文不识，家富多书，衡乃与其佣作，而不求赏，主人怪，问衡，衡曰：“愿得主人书，遍读之。”主人感叹，资给以书，遂成大学。衡能说《诗》，时人为之语曰：“无说《诗》，匡鼎来。匡说《诗》，解人颐。”鼎，衡小名也。时人畏服之如是。闻者皆解颐欢



笑。衡邑人有言《诗》者，衡从之与语、质疑，邑人挫服，倒屣而去。衡追究之曰：“先生留听，更理前论。”邑人曰：“穷矣！”遂去不返。

长安有儒生曰惠庄，闻朱云折五鹿充宗之角，乃叹息曰：“栗棘反能尔邪！吾终耻溺死沟中。”遂裹粮从云，云与言，庄不能对，逡巡而去，拊心谓人曰：“吾口不能剧谈，而此中多有。”

武帝过李夫人，就取玉簪搔头。自此后，宫人搔头皆用玉，玉价倍贵焉。

杜陵杜夫子善奕棋，为天下第一人。或讥其费日，夫子曰：“精其理者，足以大裨圣教。”

成帝好蹴鞠，群臣以蹴鞠为劳体，非至尊所宜。帝曰：“朕好之，可择似而不劳者奏之。”家君作弹棋以献，帝大悦，赐青羔裘、紫丝履，服以朝覲。

元封二年，大寒，雪深五尺，野鸟兽皆死，牛马皆蜷缩如猬，三辅人民冻死者十有二三。

武帝为七宝床，杂宝校，厕宝屏风，列宝帐，设于桂宫，时人谓之四宝宫。

瓠子河决，有蛟龙从九子自决中逆上入河，喷沫流波数十里。

文帝初，多雨，积霖至百日而止。

王凤以五月五日生，其父欲不举，曰：“俗谚：‘举五日子，长及户则自害，不则害其父母’。”其叔父曰：“昔田文以此日生，其父婴敕其母曰‘勿举’。其母窃举之。后为孟尝君，号其母为薛公大家。以古事推之，非不祥也。”遂举之。

惠帝七年，夏，雷震南山，大木数千株，皆火燃至末。其下数十亩地，草毕焦黄。其后百许日，家人就其间得龙骨一具、蛟骨二具。

高祖为泗水亭长，送徒骊山，将与故人诀去，徒卒赠高祖酒二壶，鹿肚、牛肝各一。高祖与乐从者饮酒食肉而去。后即帝位，朝哺尚食常具此二炙，并酒二壶。



梁孝王好营宫室苑囿之乐，作曜华之宫，筑兔园。园中有百灵山，山有肤寸石、落猿岩、栖龙岫。又有雁池，池间有鹤洲凫渚。其诸宫观相连，延亘数十里，奇果异树、瑰禽怪兽毕备。王日与宫人宾客弋钓其中。

鲁恭王好斗鸡鸭及鹅雁，养孔雀、鸚鵡，奉谷一年费二千石。

会稽岁时献竹簟供御，世号为流黄簟。

朱买臣为会稽太守，怀章绶还至舍亭，而国人未知也。所所钱勃，见其暴露，乃劳之曰：“得无罢乎？”遗与纨扇。买臣至郡，引为上客，寻迁为掾史。

卷 三

余所知有鞠道龙善为幻术，向余说古时事：有东海人黄公，少时为术，能制蛇御虎，佩赤金刀，以绦绶束发，立兴云雾，坐成山河。及衰老，气力羸惫，饮酒过度，不能复行其术。秦末有白虎见于东海，黄公乃以赤刀往厌之，术既不行，遂为虎所杀。三辅人俗用以为戏，汉帝亦取以为角抵之戏焉。又说：淮南王好方士，方士皆以术见，遂有画地成江河，撮土为山岩，嘘吸为寒暑，喷嗽为雨雾。王亦卒与诸方士俱去。

扬子云好事，常怀铅提槧，从诸计吏访殊方绝域四方之语，以为裨补《辑轩》所载，亦洪意也。

文帝时，邓通得赐蜀铜山，听得铸钱。文字肉好皆与天子钱同，故富侔人主。时吴王亦有铜山铸钱，故有吴钱微重，文字肉好与汉钱不异。

杨贵字王孙，京兆人也。生时厚自奉养，死卒裸葬于终南山。其子孙掘土凿石，深七尺而下尸，上复盖之以石，欲俭而反奢也。

傅介子年十四，好读书，尝弃觚而叹曰：“大丈夫当立功绝域，何能坐事散儒！”后卒斩匈奴使者，还拜中郎。复斩楼兰王首，封义阳侯。

余少时，闻平陵曹敞在吴章门下，往往好斥过，以为轻薄，世人皆以为然。章后为王莽所杀，人无有敢收葬者，弟子皆更易姓名，以从他师。敞时为司徒掾，独称吴章弟子，收葬其尸。方知亮直者不见容于冗辈中矣。平陵人生为立碑于吴章墓侧，在龙首山南幕岭



上。

文帝为太子立思贤苑，以招宾客。苑中有堂隍六所，客馆皆广庇高轩，屏风帷褥甚丽。

广陵王胥有勇力，常于别囿学格熊，后遂能空手搏之。莫不绝脰。后为兽所伤，陷脑而死。

郭威字文伟，茂陵人也。好读书，以谓《尔雅》周公所制，而《尔雅》有“张仲孝友”，张仲，宣王时人，非周公之制明矣。余尝以问扬子云，子云曰：“孔子门徒游、夏之俦所记，以解释六艺者也。”家君以为《外戚传》称“史佚教其子以《尔雅》，《尔雅》小学也。”又《记》言：“孔子教鲁哀公学《尔雅》《尔雅》之出，远矣。旧传学者，皆云周公所记也。‘张仲孝友’之类，后人所足耳。”

茂陵富人袁广汉，藏镪巨万，家僮八九百人。于北邙山下筑园，东西四里，南北五里。激流水注其内，构石为山，高十余丈，连延数里。养白鸛鹇、紫鸳鸯、牦牛、青兕，奇兽怪禽，委积其间。积沙为洲屿，激水为浪潮。其中致江鸥海鹤，孕雏产鷇，延漫林池。奇树异草，靡不具植。屋皆徘徊连属，重阁修廊，行之，移晷不能遍也。广汉后有罪诛，没人为官园，鸟兽草木皆移植上林苑中。

五柞宫有五柞树。皆连三抱。上枝荫覆数十亩。其宫西有青梧观，观前三梧桐树，树下有石麒麟二枚，刊其肋为文字，是秦始皇鄠山墓上物也。头高一丈三尺。东边者前左脚折，折处有赤如血。父老谓其有神，皆含血属筋焉。

高祖初入咸阳宫，周行库府，金玉珍宝不可称言。其尤惊异者，有青玉五枝灯，高七尺五寸，作螭螭以口衔灯，灯燃，鳞甲皆动，焕炳若列星而盈室焉。复铸铜人十二枚，坐皆高三尺，列在一筵上，琴筑笙竽，各有所执，皆缀花采，俨若生人。筵下有二铜管，上口高数尺，出筵后。其一管空，一管内有绳，大如指。指一人吹空管，一人纽绳，则众乐皆作，与真乐不异焉。有琴长六尺，安十三弦，二十六徽，皆用七宝饰之，铭曰：“璠琦之乐。”玉管长二尺三寸，二十六孔，吹之则见车马山林，隐鳞相次，吹息亦不复见，铭曰：“昭华之琯。”有方镜，广四尺，高五尺九寸，表里有明，人直来照之，影则倒见；以手扪心而来，则见肠胃五脏，历然无蔽，人有疾病在内，则掩心而照之，则知病之所在。又女子有邪心，则胆张心动。秦始皇常以照宫人，胆张心动者则杀之。高祖悉封闭以待项羽，羽并将以东，后不知所在。



尉陀献高祖鲛鱼、荔枝，高祖报以蒲桃锦四匹。

戚夫人侍儿贾佩兰，后出为扶风人段儒妻。说在宫内时，风戚夫人侍高帝，尝以赵王如意为言，而高祖思之，几半日不言，叹息凄怆而未知其术，辄使夫人击筑，高祖歌《大风诗》以和之。又说在宫内时，尝以弦管歌舞相欢娱，竞为妖服，以趣良时，十月十五日，共入灵女庙，以豚黍乐神，吹笛击筑，歌《上灵》之曲，既而相与连臂踏地为节，歌《赤凤凰来》。至七月七日，临百子池，作于闐乐。乐华，以五色缕相羁，谓为相连爱。八月四日，出雕房北户，竹下围棋，胜者终年有福，负者终年疾病。取丝缕，就北辰星求长命，乃免。九月九日佩茱萸，食蓬饵，饮菊花酒，令人长寿。菊花舒时，并采茎叶，杂黍米酿之，至来年九月九日始熟，就饮焉，故谓之菊花酒。正月上辰，出池边盥濯，食蓬饵以祓妖邪。三月上巳，张乐于流水。如此终岁焉。戚夫人死，侍儿皆复为民妻也。

何武葬北邙山溥龙坂，王嘉冢东北一里。

杜子复葬长安北四里，临终作文曰：“魏郡杜邺，立志忠款。犬马未陈，奄先草露。骨肉归於后土，气魂无所不之。何必故丘。然后即化？封於长安北郭，此焉宴息。”及死，命刊石埋於墓侧。墓前种松柏树五株，至今茂盛。

淮南王安著《鸿烈》二十一篇。鸿，大也。烈，明也。言大明礼教。号为《淮南子》。一曰《刘安子》。自云“字中皆挟风霜。”扬子云以为一出一人，字直百金。

公孙弘著《公孙子》，言刑名事，亦谓字直百金。

司马迁卿赋，时人皆称典而丽，虽诗人之作，不能加也。扬子云曰：“长卿赋不似从人间来，其神化所至邪？”子云学相如为赋而弗逮，故雅服焉。

长安有庆虬之，亦善为赋，尝为《清思赋》，时人不之贵也，乃托以相如所作，遂大见重于世。

相如将献赋，未知所为，梦一黄衣翁谓之曰：“可为《大人赋》。”遂作《大人赋》，言神仙之事，以献之。赐锦四疋。

相如将聘茂陵人女为妾，卓文君作《白头吟》以自绝，相如乃止。



樊将军咤问陆贾曰：“自古人君皆云受命于天，云有瑞应，岂有是乎？”贾应之曰：“有之。夫目眊得酒食，灯火花得钱财，乾鹊噪而行人至，蜘蛛集而百事喜。小既有征，大亦宜然。故目眊则咒之，火花则拜之，乾鹊噪则喂之，蜘蛛集则放之。况天下大宝，人君重位，非天命何以得之哉！瑞者，宝也，信也。无以宝为信，应人之德，故曰瑞应。无天命，无宝信，不可以力取也。”

霍将军妻一产二子，疑所为兄弟。或曰：“前生者为兄，后生者为弟。今虽俱日，亦宜以先生为兄。”或曰：“居上者宜为兄，居下者宜为弟。居下者前生，今宜以前生为弟。”时霍光闻之，曰：“昔殷王祖甲一产二子，曰囂，曰良。以卯日生囂，以巳日生良。则以囂为兄，以良为弟。若以在上者为兄，囂亦当为弟。昔许董庄公一产二女，曰妖，曰蔑。楚大夫唐勒一产二子，一男一女，男曰真夫，女曰琼华。皆以先生为长。近代郑昌时、文长茜并生二男，滕公一生二女，李黎生一男一女，并以前生者为长。”霍氏亦以前生为兄焉。

枚皋文章敏疾，长卿制作淹迟，皆尽一时之誉。而长卿首尾温丽，枚皋时有累句，故知疾行无善迹矣。扬子云曰：“军旅之际，戎马之间，飞书驰檄，用枚皋；廊庙之下，朝廷之中，高文典册，用相如。”

卷 四

安定皇甫嵩真、玄菟曹元理，并明算术，皆居帝时人。真尝自算其年寿七十三，真绥和元年正月二十五日晡时死，书其壁以记之。至二十四日晡时死。其妻曰：“见真算时，长下一算，欲以告之，虑脱真旨，故不敢言。今果较一日。”真又曰：“北邙青陵上孤槨之西四丈所，凿之入七尺，吾欲葬此地。”及真死，依言往掘，得古时空罇，即以葬焉。元理尝从其友人陈广汉，广汉曰：“吾有二囷米，忘其石数，子为吾计之。”元理以食筋十余转，曰：“东囷七百四十九石二升七合。”又十余转曰：“西囷六百九十七石八斗。”遂大署囷门。后出米，西囷六百九十七石七斗九升，中有一鼠，大堪一升。东囷不差圭合。元理后岁复过广汉，广汉以米数告之，元理以手击床曰：“遂不知鼠之殊米，不如剥面皮矣！”广汉为之取酒，鹿脯数片，元理复算曰：“薯蓣二十五区，应收一千五百三十六枚。蹲踞三十七亩，应收六百七十三石。千牛产二百犊，万鸡将五万雏。”羊豕鹅鸭皆道其数，果瓜肴馔，悉知其所。乃曰：“此资业之广，何供馈之褊邪？”广汉惭曰：“有苍卒客，无苍卒主人。”元理曰：“俎上蒸豕一头，厨中荔枝一样，皆可为设。”广汉再拜谢罪，自入取之，尽日为欢。其术后传南季，南季传项瑀，瑀传子陆，皆得其分数，而失玄妙焉。



卫将军青生子，或有献驺马者，乃命其子曰驺，字叔马。其后改为登，字叔升。

哀帝为董贤起大第于北阙下，重五殿，洞六门，柱壁皆画云气华花、山灵水怪，或衣以绫锦，或饰以金玉。南门三重，署曰：“南中门、南上门、南更门。东西各三门，随方面题署，亦如之。楼阁台榭，转相连注；山池玩好，穷尽雕丽。

平津侯自以布衣为宰相，乃开东阁，营客馆，以招天下之士。其一曰钦贤馆，以待大贤；次曰翘材馆，以待大才；次曰接士馆，以待国士。其有德任毗赞、佐理阴阳者，处钦贤之馆；其有才堪九列、将军二千石者，居翘材馆；其有一介之善、一方之艺，居接士之馆。而躬自菲薄，所得俸禄，以奉待之。

南越王献高帝石蜜五斛、蜜烛二百枚、白鹄黑鹄各一双。高帝大悦，厚报遣其使。

滕公驾至东都门，马鸣，局不肯前，以足路地久之。滕公使士卒掘马所踣地，入三尺所，得石椁。滕公以烛照之，有铭焉。乃以水洗写其文，文字皆古异，左右莫能知。以问叔孙通，通曰：“科斗书也。”以今文写之，曰：“佳城郁郁，三千年见白日，吁嗟滕公居此室。”滕公曰：“嗟乎，天也！”吾死其即安此乎？”死遂葬焉。

韩嫣好弹，常以金为丸，所失者日有十余。长安为之语曰：“苦饥寒，逐金丸。”京师儿童每闻嫣出弹，辄随之，望丸之所落辄拾焉。

司马迁发愤作《史记》百三十篇，先达称为良史之才。其以伯夷居《列传》之首，以为善而无报也。为《项羽本纪》，以踞高位者，非关有德也。及其序屈原、贾谊，辞旨抑扬，悲而不伤，亦近代之伟才。

梁孝王游於忘忧之馆，集诸游士，各使为赋。枚乘为《柳赋》，其辞曰：“忘忧之馆，垂条之木。枝逶迤而含紫，叶萋萋而吐绿。出入风云，去来羽族。既上下而好音，亦黄衣而绛足。蛸蛸厉响，蜘蛛叶丝。阶草漠漠，白日迟迟。于嗟细柳，流乱轻丝。君王渊穆其度，御群英而玩之。小臣瞽聵，与此陈词，于嗟乐兮！于是樽盈缥玉之酒，爵献金浆之醪，庶羞千族，盈满六庖。弱丝清管，与风霜而共雕。枪鎗啾啾，萧条寂寥。俊义英髦，列襟联袍。小臣莫效于鸿毛，空衔鲜而嗽醪。虽复河清海竭，终无增景於边櫟。路乔如为《鹤赋》，其辞曰：“白衣朱冠，鼓翼池干。举修距而跃跃，奋皓翅之戢戢。宛修颈而顾步，啄沙破而相欢。岂忘赤霄之上，忽池御而盘桓。饮清流而不举，食稻粱而未安。故知



野禽野性，未脱笼樊。赖吾王之广爱，虽禽鸟兮抱恩。方腾骧而鸣舞，凭朱槛而为欢。”公孙诡为《文鹿赋》，其词曰：“鹿鹿濯濯，来我槐庭。食我槐叶，怀我德声。质如细笋，文如素蕤。呦呦相召，《小雅》之诗。叹丘山之比岁，逢梁王于一时。邹阳为《酒赋》，其词曰：“清者为酒，浊者为醴；清者圣明，浊者顽骀。皆麴洱丘之麦，酿野田之米。仓风莫预，方金未启。嗟同物而异味，叹殊才而共侍。流光醺醺，甘滋泥泥。醪酿既成。绿瓷既启。且筐且漉，载簋载齐，庶民以为欢，君子以为礼。其品类，则沙洛淥鄯，程乡若下，高公之清。关中自薄，春渚紫停。凝醪醇酎，千日一醒。哲王临国，绰矣多暇。召幡幡之臣，秉肃肃之宾。安广坐，列雕屏，綃绮为席，犀璫为镇。曳长裾，飞广袖，奋长纓。英伟之士，莞尔而即之。君王凭玉几、倚玉屏，举手一劳，四座之士，皆若哺梁焉。乃纵酒作倡，倾碗覆觞。右曰宫申，旁亦徵扬。乐只之深，不吴不狂，于是锡名钺，祛夕醉，遣朝醒。吾君寿亿万岁，常与日月争光。”公孙乘为《月赋》，其辞曰：“月出嫩兮，君子之光。鹄鸡舞于兰渚，蟋蟀鸣于西堂。君有礼乐，我有衣裳。猗嗟明月，当心而出。隐员岩而似钩，蔽修堞而分镜。既少进以增辉，遂临庭而高睽。炎日匪明，皓壁非净。遽度运行，阴阳以正。文林辩面，小臣不佞。”羊胜为《屏风赋》，其辞曰：“屏风鞞匝，蔽我君王。重葩累绣，沓壁连璋，饰以文锦，映以流黄。画以古烈，顺顺昂昂。藩后宜之，寿考无疆。”韩安国作《几赋》不成，邹阳代作，其辞曰：“高树凌云，蟠纡烦冤，旁生附枝。王尔公输之徒，荷斧斤，援葛藤，攀乔枝，上不测之绝顶，伐之以归。眇者督直，聋者磨砢。齐贡金斧，楚人名工，遁成斯几。离奇髣髴，似龙盘马回，凤去鸾归。君王凭之，圣德日跻。”邹阳、安国罚酒三升，赐枚乘、路乔如绢、人五匹。

梁孝王入朝，与上为家人之宴，乃问王诸子，王顿首谢曰：“有五男。”即拜为列侯，赐与衣裳器服。王薨，又分梁国为五，进五侯皆为王。

河间王德筑日华宫，置客馆二十余区，以待学士。自奉养不逾宾客。

梁孝王子贾从朝，年幼，窦太后欲强冠婚之。上谓王曰：“儿堪弁矣。”王顿首谢，曰：“臣闻《礼》二十而冠，冠而字，字以表德，自非显才高行，安可强冠之哉？”帝曰：“儿堪冠矣。”余日，帝又曰：“儿堪室矣。”王顿首曰：“臣闻《礼》三十壮有室。儿年蒙悼，未有人父之端，安可强室之哉？”帝曰：“儿堪室矣。”余日，贾朝至闕而遗其舄，帝曰：“儿真幼矣。”白太后未可冠婚之。

江都王劲捷，能超七尺屏风。

元后在家，尝有白燕衔白石，大如指，坠后绩筐中。后取之，石自剖为二，其中有文



曰：“母天地。”后乃合之，遂复还合。乃宝录焉。后为皇后，常并置玺筓中，谓为天玺也。

汉朝以玉为虎子，以为便器。使侍中执之，行幸以从。

中书以武都紫泥为玺室，加绿绋其上。

茂陵文固阳，本琅琊人，善驯野雉为媒，用以射雉。每以三春之月，为茅障以自翳，用铍矢以射之，日连百数。茂陵轻薄者化之，皆以杂宝错厕翳障，以青州芦苇为弩矢，轻骑妖服，追随于道路，以为欢娱也。阳死，其子亦善其事。董司马好之，以为上客。

茂陵少年李亨，好驰骏狗，遂狡兽，或以鹰鹞逐雉兔，皆为之佳名。狗则有修毫、厘睫、白望、青曹之名，鹰则有青翅、黄眸、青冥、金距之属，鹞则有从风鹞、孤飞鹞。杨万年有猛犬，名青驳，买六百金。

成帝时，交趾、越巂献长鸣鸡，伺鸡晨，即下漏验之，晷刻无差。鸡长鸣，则一食顷不绝，长距善斗。

许博晶，安陵人也，善陆博。宴要好之，常与居处。其术曰：“方畔揭道张，张畔揭道方，张究屈玄高，高玄屈究张。”又曰：“张道揭畔方，方畔揭道张，张究出玄高，高玄屈究张。”三辅儿童皆诵之。法用六箸，或谓之究，以竹为之，长六分。或用二箸。博晶又作《大博经》一篇，今世传。

高祖与项羽战於垓下，孔将军居左，费将军居右，皆假为名。

东方生善啸，每曼声长啸，辄尘落帽。

京兆有古生者，学从横揣摩、弄矢摇丸樗蒲之术，为都掾史四十余年，善弛漫二千石，随从谐谑，皆握其权要，而得其欢心。赵广汉为京兆尹，下车而黜之，终于家。京师至今俳戏皆称古掾曹。

娄敬始因虞将军请见高祖，衣旃衣，披羊裘。虞将军脱其身上衣服以衣之，敬曰：“敬本衣帛，则衣帛见；敬本衣旃，则衣旃见。今舍旃褐、假鲜华，是矫常也。不敢脱羊裘而衣旃衣。”以见高祖。



卷 五

会稽人顾翱，少失父，事母至季。母好食雕胡饭，常师子女躬自采擷，还家导水凿川，自种供养，每有赢储。家亦近太湖，湖中后自生雕胡，无复余草，虫鸟不敢至焉，遂得以为养。郡县表其闻舍。

齐人刘道强，善弹琴，能作单鹤寡凫之弄。听者皆悲，不能自振。

赵后有宝琴曰凤凰，皆以金玉隐起为龙凤螭鸾、古贤列女之象。亦善为《归风》、《送远》之操。

公孙弘以元光五年为国士所推尚为贤良，国人邹长倩以其家贫，少自资致，乃解衣裳以衣之，释所着冠履以与之，又赠以皂一束、素丝一襪、扑满一枚，书题遗之，曰：“夫人无幽显，道在则为尊。虽生皂之贱也，不能脱落君子，故赠君生皂一束。诗人所谓‘生皂一束，其人如玉’。五丝为纆，倍纆为升，倍升为紼，倍紼为纪，倍纪为纆，倍纆为襪。此自少之多、自微至著也。士之立功勋、效名节，亦复如之。勿以小善不足修而不为也。故赠君素丝一襪。扑满者，以土为器，以蓄钱具，其有人穷而无出窍，满则扑之。土，粗物也。钱，重货也。入而不出，积而不散，故扑之。士有聚敛而不能散者，将有扑满之败，可不诫欤！故赠君扑满一枚。猗嗟盛欤！山川阴修，加以风露。次卿足下，勉作功名。窃在下风，以俟嘉誉。”弘答烂败不存。

汉朝舆贺祠甘泉、汾阴，备千乘万骑，太仆执轡，大将军陪乘，名为大贺。司马车驾四，中道。辟恶车驾四，中道。记道车驾四，中道。靖室车驾四，中道。象车鼓吹十三人，中道。式道候二人，驾一。长安都尉四人，骑。长安亭长十人，驾。长安令车驾三，中道。京兆掾史三人，驾一。京兆尹车驾四，中道。司隶部京兆从事，都部。从事别驾一车。司椽校尉驾四，中道。廷尉驾四，中道。太仆宗正引从事，驾四。太常光禄卫尉，驾四。太尉外部都督令史、贼曹属、仓曹属、户曹属、东曹掾、西曹掾，驾一。太尉驾四，中道。太尉舍人祭酒，驾一。司徒列从，如太尉王公骑。中护军骑，中道。步兵校尉、长水校尉，驾一。队百匹。骑队十。前军将军，。射声、翊军校尉，驾三。骁骑将军、游击将军，驾三。黄门前部鼓吹，左右各一部，十三人，驾四。前黄麾骑，中道。自此分为八校。护驾御史骑。御史中丞驾一，中道。谒者仆射驾四。武刚车驾四，中道。九旂车驾四，中道。云罕车驾四，中道。皮轩车驾四，中道。闾戟车驾四，中道。鸾旗车驾四，中



道。建华车驾四，中道。虎贲中郎将军驾二，中道。护驾尚书郎三人，骑。护驾尚书三，中道。相风乌车驾四，中道。自此分为十二校。殿中御史骑。兴兵中郎骑，中道。高华，中道。华罕。御马。节十六。华盖，中道。自此分为十六校。刚鼓，中道。金根车。自此分为二十校，满道。左卫将军。右卫将军。华盖。自此后糜烂不存。

元光元年，七月，京师雨雹。鲍敞问董仲舒曰：“雹何物也，何气而生之？”仲舒曰：“阴气胁阳气。天地之气，阴阳相半，和气周回，朝夕不息。阳德用事，则和气皆阳，建巳之月是也，故谓之正阳之月。阴德用事，则和气皆阴，建亥之月是也，故谓之正阴之月。十月，阴虽用事，而阴不孤立，此月纯阴，疑于无阳，故谓之阳月，诗人所谓‘日月阳，止者也。四月，阳虽用事，而阳不独存，此月纯阳，疑于无阴，故亦谓之阴月。自十月已后，阳气始生于地下，渐再流散，故言息也。阴气转收，故言消也。日夜滋生，遂至四月，纯阳用事。自四月已后，阴气始于天上，渐再流散，故言息也。阳气转收，故言消也。日夜滋生，遂至十月，纯阴用事。二月、八月，阴阳正等，无多少也。以此推移，无有差愿。运动抑扬，更相动薄，则薰蒿歆蒸，而风雨、云雾、雷电、雪雹生焉。气上薄为雨，下薄为雾。风其嘘也，云其气也，雷其相击之声也，电其相击之光也。二气之初蒸也，若有若实，若无若虚，若方若圆，攒聚相合，其体稍重，故雨乘虚而坠。风多则合速，故雨大而疏；风少则合迟，故雨细而密。其寒月则雨凝于上，体尚轻微，而因风相袭，故成雪焉。寒有高下，上暖下寒，则上合为大雨，下凝为冰霰雪是也。雹，霰之流也，阴气暴上，雨则凝结成雹焉。太平之世，则风不鸣条，开甲散萌而已；雨不破块，润叶津茎而已；雷不惊人，号令启发而已；电不眩目，宣示光耀而已；雾不寒望，浸淫被泊而已；雪不封条，凌珍毒害而已。云则五色而为庆，三色而成霁；露则结味而成甘，结润而成膏。此圣人之在上，则阴阳和、风雨时也。政多纒繆，则阴阳不调，风发屋，雨溢河，雪至牛目，雹杀驴马，此皆阴阳相荡，而为浸淫之妖也。”敞曰：“四月无阴，十月无阳，何以明阴不孤立、阳不独存邪？”仲舒曰：“阴阳虽异，而所资一气也。阳用事，此则气为阳；阴用事，此则气为阴。阴阳之时虽异，而二体常存。犹如一鼎之水，而未加火，纯阴也；加火，极热，纯阳也。纯阳则无阴，息火水寒，则更阴矣；纯阴则无阳，加火水热，则更阳矣。然则建巳之月为纯阳，不容都无复阴也，但是阳家用事，阳气之极耳，荠麦枯，由阴杀也。建亥之月为纯阴，不容都无复阳也，但是阴家用事，阴气之极耳，荠麦始生，由阳升也。其著者，蓂莢死于盛夏，款冬花于严寒，水极阴而有温泉，火至阳而有凉焰。故知阴不得无阳，阳不容都无阴也。”敞曰：“冬雨必暖，夏雨必凉，何也？”曰：“冬气多寒，阳气自上跻，故人得其暖，而上蒸成雪。夏气多暖，阴气自下降，故人得其凉，而上蒸成雨矣。”敞曰：“雨既阴阳相蒸，四月纯阳，十月纯阴，斯则无二气相薄，则不雨乎？”曰：“然则纯阳、纯阴虽在四月、十月，但月中之一日耳。”敞曰：“月中何日？”曰：“纯阳用事，未夏至一日。纯阴用事，未冬至一日。朔旦、夏至、冬至，其正气也。”



敞曰：“然则未至一日，其不雨乎？”曰：“然。颇有之，则妖也。和气之中，自生灾沴，能使阴阳改节，暖凉失度。”敞曰：“灾沴之气，其常存邪？”曰：“无也。时生耳。犹乎人四支五脏，中也有时，及其病也，四支五脏皆病也。”敞迁延负墙，俯揖而退。

武帝时，郭舍人善投壶，以竹为矢，不用棘也。古之投壶，取中而不求还，故实小豆于中，恶其矢跃而出也。郭舍人则激矢令还，一矢百余反，谓之为骁。言如博之擲梲于掌中，为骁杰也。每为武帝投壶，辄赐金帛。

武帝以象牙为簟，赐李夫人。

贾谊在长沙，鵩鸟集其承尘。长沙俗以鵩鸟至人家，主人死。谊作《鵩鸟赋》，齐死生，等荣辱，以遣尤累焉。

李广与兄弟共猎于冥山之北，见卧虎焉，射之，一矢即毙。断其髀以为枕，示服猛也。铸铜象其形，为渡器，示厌辱之也。他日复猎于冥山之阳，又见卧虎，射之，没矢饮羽。进而视之，乃石也，其形类虎。退而更射，鏃破竿折而石不伤。余尝以问扬子云，子云曰：“至诚则金石为开”。余应之曰：“昔人有游东海者，既而风恶，船漂不能制，船随风浪，莫知所之。一日一夜，得至一孤洲。共偁欢然，下石植缆，登洲煮食。食未熟，而洲没。在船者斫断其缆，船复漂荡。向者孤洲乃大鱼，怒掉扬鬣，吸波吐浪而去，疾如风云。在洲死者十余人。又，余所知陈繻，质木人也。入终南山采薪，还晚，趋舍未至，见张丞相墓前石马，谓为鹿也，即以斧挝之。斧缺柯折，石马不伤。此二者亦至诚也。卒有沉溺、缺斧之事，何金石之所感偏乎？”子云无以应余。

卷 六

鲁恭王得文木一枚，伐以为器，意甚玩之。中山王为赋曰：“丽木离披，生彼高崖。拂天河而布叶，横日路而摧枝。幼雏羸穀，单雄寡雌，纷纭翔集，嘈噉鸣啼。载重雪而稍劲风，将等岁于二仪。巧匠不识，王子见知。乃命班尔，载斧伐斯，隐若天崩，豁如地裂，花叶分披，条枝摧折。既剥既刊，见其文章。或如龙盘虎踞，复似鸾集凤翔。青绀紫绶，环璧主章。重山累嶂，连波叠浪。奔电屯云，薄雾浓雾。麇宗骥旅，鸡族雉群。螭绣毒绵，莲藻菱文。色比金而有裕，质参玉而无分。裁为用器，曲直舒卷，修竹啖池，高松植岷。制为乐器，婉转蟠纡，风将九子，龙导五驹。制为屏风，郁穹穹隆。制为杖几，极丽穷美。制为枕案，文章璀璨，彪炳涣汗。制为盘盂，采玩踟蹰。猗欤君子，其乐只且！”恭王大悦，顾盼而笑，赐骏马二匹。



广川王去疾，好聚无赖少年，游猎毕弋无度，国内冢藏，一皆发掘。余所知爱猛，说其大父为广川王中尉，每谏王不听，病免归家。说王所发掘冢墓不可胜数，其奇异者，百数焉。为余说十许事，今记之如左。

魏襄王冢，皆以文石为椁，高八尺许，广狭容四十人。以手扞椁，滑液如新。中有石床、石屏风，宛然周正。不见棺柩、明器踪迹，但床上有玉唾盂一枚、铜剑二枚。金玉杂具，皆如新物，王取服之。

哀王冢，以铁灌其上，穿凿三日乃开。有黄气如雾，触人鼻目皆辛苦，不可入。以兵守之，七日乃歇。初至一户，无扃钥，石床方四尺，床上有石几，左右各三石人立侍，皆武冠带剑。复入一户，石扉有关钥，叩开，见棺柩，黑光照人，刀斫不入，烧锯截之，乃漆杂兕革为棺，厚数寸，累积十余重，力不能开，乃止。复入一户，亦石扉，开钥得石床，方七尺。石屏风、铜帐钩一具，或在床上，或在地下，似是帐麋朽，而铜钩坠落。床上，石枕一枚；尘埃肫肫，甚高，似是衣服。床左右石妇人各二十，悉皆立侍，或有执巾栉镜镊之象，或有执盘奉食之形。无余异物，但有铁镜数百枚。

魏王子且渠冢，甚浅狭，无棺柩，但有石床，广六尺，长一丈，石屏风，床下悉是云母。床上两尸，一男一女，皆年二十许。俱东首，裸卧无衣衾，肌肤颜色如生人，鬓发齿爪亦如生人。王畏惧之，不敢侵近，还拥闭如旧焉。

袁盎冢，以瓦为棺椁，器物都无，唯有铜镜一枚。

晋灵公冢，甚瑰壮，四角皆以石为獬豸捧烛，石人男女四十余，皆立侍，棺器无复形兆。尸犹不坏，孔窍中皆有金玉。其余器物皆朽烂不可别，唯玉螭螭一枚，大如拳，腹空容五合水，光润如新，王取以为书滴。

幽王冢，甚高壮，羡门既开，皆是石堊，拨除丈余深，乃得云母，深尺余，见百余尸，踪横相枕籍，皆不朽，唯一男子，余皆女子，或坐或卧，亦犹有立者，衣服形色不异生人。

栾书冢，棺柩、明器朽烂无余。有一白狐，见人惊走，左右逐击之，不能得，伤其左脚。其夕，王梦一丈夫须眉尽白，来谓王曰：“何故伤吾左脚？”乃以杖叩王左脚，王觉，脚肿痛生疮，至死不差。

太液池中有鸣鹤舟、容与舟、清旷舟、采菱舟、越女舟。太液池西有一池，名孤树池。池中有洲，洲上黏树一株，六十馀围，望之重重如盖，故取为名。

昆明池中有戈船、楼船各数百艘。楼船上建楼橹，戈船上建戈矛，四角悉垂幡旄、旛葆麾盖，照灼涯涘。余少时犹忆见之。

韩嫣以玳瑁为床。



汉承周史官，至武帝置太史公。太史公司马谈世为太史，子迁，年十三，使乘传行天下，求古诸侯史记，续孔氏古文，序世事，作传百三十卷，五十万字。谈死，子迁以世官复为太史公。位在丞相上，天下上计，先上太史公，副上丞相。太史公序事如古《春秋》法，司马氏本古周史佚后也。作《景帝本纪》，极言其短，及武帝之过，帝怒而削去之。后坐举李陵，陵降匈奴，下迁蚕室，有怨言，下狱死。宣帝以其官为令，行太史公文书事而已，不复用其子孙。

皇太子官称家臣，动作称从。

杜陵秋胡者，能通《尚书》，善为古隶字，为翟公所礼，欲以兄女妻之。或曰：“秋胡已经娶而失礼，妻遂溺死，不可妻也。”驰象曰：“昔鲁人秋胡，娶妻三月而游，宦三年，休，还家。其妇采桑于郊，胡至郊而不识其妻也，见而悦之，乃遗黄金一镒。妻曰：‘妾有夫，游宦不返，幽闺独处，三年于兹，未有被辱如今日也。’采不顾，胡惭而退。至家，问家人妻何在，曰：‘行采桑于郊，未返。’既还，乃向所挑之妇也。夫妻并惭，妻赴沂水而死。今之秋胡，非昔之秋胡也。昔鲁有两曾参，赵有两毛遂。南曾参杀人见捕，人以告北曾参母。野人毛遂坠井而死，客以告平原君，平原君曰：‘嗟乎！天丧予矣！’既而知野人毛遂，非平原君客也。岂得以昔之秋胡失礼而绝婚今之秋胡哉？物固亦有似之而非者。玉之未理者为璞，死鼠未腊者亦为璞。月之旦为朔，车之辘亦谓之朔。名齐实异，所宜辨也。”



天禄阁外史

〔汉〕黄宪 撰

卷 一

巡 幸

天皇幸于苍梧。杨秉谏曰：“臣闻圣辟不御政而玩世，哲主不轻权而荒体，非有硕功骏烈铭诸人心，而可以观诸侯也。昔禹治水平壤，区画万国，以镇民神，故巡狩诸侯，百姓若捧太阳之余光，瞻候云之润气。故临九河而颂禹烈，蹶会稽而怀禹功。夫先王之于巡狩，亦不得已，驱驰车驾，经越山川，祀之以岁月者，岂荒于游观哉！陛下龙飞，初躬勤于政，天下想太平之风。日食则赦，地震则省，此初政之勤是矣。安、顺之朝，贵戚怙宠以卖威福于天下，延及今日，海内愁困，相寻以兵。市无商贾，陛下则以为清净之治。饥民号泣，陛下则以为鸡犬之鸣。由此观之，奸臣之壅也，亦众矣！陛下不悟其奸，而高拱无为，以听其乱。又为巡幸之举，驻蹕苍梧，轻玩万乘，涉不测之地，匮楚国之财，通奸臣之隙。而宫闱若垒，臣恐苍梧之云向陛下而增悲也！请圣驾还宫，以慰邦畿臣民之望！”天皇纳其言。

是岁，京师三辅地震。

伯曰：“危言激论，可为谏君之法。”

燕 言

征君游古息国，寄慨焉吟。有燕憩于枯榆而言曰：“息国无君，吾子奚为此游也！”征君闻而怪之，乃叩曰：“汝燕也，何以能言？”对曰：“吾乃桓、灵之鬼也，是为幽、厉。炎炎之室，其将颓乎！汝其辅诸侯！”言毕而泣，遂飞于冀州之墟。



征君语弟子曰：“其怪也若是，此亡国之象也，小子其识之哉！”乃以杯酒酹地而誓曰：“汉室不靖，奈苍黔何！燕言息国粉榆之柯，负君之灵，曰‘吾乃幽厉，炎炎者倾，汝其辅之！’宪也谓介，不敢以征。天道悠悠，物有信然，其怪也耶？其灵也耶？若天假于言，灵假于物，宪敢不唯命竭股肱之力，以报所天！”

征君既作息而归，见郭泰立于庭。郭泰问曰：“子焉适而至暮也？”曰：“甫钓于汝水之滨，乐而忘归，是以暮也。”曰：“然则子何为而有忧色耶？”曰：“不得鱼则乐，得鱼则忧。”曰：“子何以不得鱼为乐乎？”曰：“甫亦乐鱼之乐，而亦忧鱼之忧也。不得则纵，得之则烹，鱼乐于纵而忧于烹。今吾之忧，是鱼得其饵而吾得其鱼也，故忧。然则今之为士者，皆得饵之鱼乎？”郭泰笑曰：“子其纵矣！窥子之意，将王室以为壑，诸侯以为池，洋然纵之而赴于壑，是子以王室为忧乎！”曰：“微子不吾知也，子且休矣！”乃取琴而歌。郭泰喟然曰：“子之琴于斯也，其箕子《麦秀》之歌而托诸琴乎！”遂合榻，移日而去。

交 情

李膺访征君于衡门，雪甚。道遇郭泰而问曰：“子得见叔度耶？”曰：“泰也以布衣交，安得不见！子以轩冕交，亦轩冕者谒之耳，安得见！”李膺有惭色，乃税驾于野，与郭泰乘蹇驴而造焉。有樵者临溪浣足而歌曰：“衡门之雪霏霏兮，有客缁袍。寒溪澹而无声兮，木落远皋。”二子闻而凄然。

时童子候门，见二子来，振衣长啸而入。征君及阶迎之，复见郭泰而喜，谓李膺曰：“甫久不见元礼也！”

李膺再拜而道曰：“膺以羈故，不能仰挹清范，戾也。久处僻壤，每闻令音，私自畅涤。往岁发使者，渎以咫尺之书，秽以不腆之馈，亦惟是梦寐以相达也。子何辞吾以馈，而报吾以书乎！”

征君答曰：“宪也闻之，贫者不报人以币，故辞于使，犹报也。夫馈甫以币，分君禄也。以君之禄而馈人，故亦以君之禄而完也。完禄而报书，均无得焉。宪之卜庐于斯也，春秋之期，有牲醪足以供饔；一日之餐，有蔬食足以为尝。昼则杜门，有琴籍足以娱；夜则寄卧，有蒲榻足以安。岂复余乎！夫受而不报，耻也。不能报而受之，亦耻也。故君臣以全义，兄弟以全爱，夫妇以全礼，朋友以全耻，古之道也。”

李膺曰：“膺也陋，不能测子之度，若汉室结难，虽整步之儒，咸效驱驰之劳；章句之士，咸奋铅刀之力，而况子之伟乎！”

郭泰隐几而卧，征君谓曰：“林宗已卜车于梦寐中。”泰应之曰：“圣轨贤辙，一行一藏。时哉，各努力也！”

是岁，梁冀作乱。



兵法

有巨盗攻冥厄之关，一郡大恐。居民遁逃，而无所归。贼有名司马龙者，力敌三军，勇冠百万，悬千钱千百步之外，箭九发而九破，以此擅誉。时群盗将陷关，司马龙曰：“吾闻郡有黄叔度，未可攻也。”乃结营于关外。

有司闻之，匍匐诣于征君之庐，以绮舆迎之。征君辞曰：“亮，汝南鄙人也。未尝入簿书之室，游刑罚之庭，是以不谙国家大议。查访诸奉高乎！”有司诣曰：“征君，王佐才也，何足辞让！贱令不职，不能靖安土壤，使男女愁叹，父老奔走。群盗以杀掠为名，屯于冥厄，闻征君之贤，故未敢骤攻，而势已破矣。誓不往，是绝百姓以乘寇也，征君奚安乎！”遂行。

征君以纶巾玄服，乘舆至关下，谓诸将曰：“闻贼中有司马龙，其人勇而能射，所向无不残灭者。必诛之为利，若以计却之，犹开道而放熊，终为人患。夫靖一郡而貽患于他，胡可忍也，且以动王室！故以计死之者安，以计御之者半。”有司及诸将谢曰：“民之福也，敢问计安所出？”征君曰：“敌善射，则不可轻用其将。敌负勇，则不可轻用其卒。故兵家设机于虚实之间，是以决胜。夫敌之所谋者在内而不在外，吾之所谋者在外而不在内，此兵之所缘而虚实也。”诸将曰：“何谓谋在外而不在内？”征君曰：“试之。”

乃令壮士百人执戟守关，以文武四臣摄之。谕以兵情，间道而出，远近埋伏，骑卒游其间。令关吏登城举烽，关外鸟雀皆惊，使贼众不疑伏兵在外。又令关下勿击柝，示以解禁。

征君鼓琴帐中，司马龙闻之，笑曰：“此必叔度作闲态也，吾知其弱矣！”遂急攻关门。贼众曰：“关不击柝而鼓琴，此诈也，内必有伏，且勿攻！”司马龙曰：“吾闻黄君多谋，而默以《六经》为文，《六韬》为武。今吾众临关，彼悠然鼓琴而戏敌，计诚诈也，且待其畔。”

征君谓诸将曰：“贼中矣，擒之何有！”复令壮士举烽火，后队伏兵亦举火应之，大呼曰：“救至！”贼众骇，亦举火以视。延烧空舍，火光烛云。征君令关内勿举烽。烟气昏暗，壮士守关者皆寂寂不喧，成列而不敢动。司马龙曰：“救至而内不应，吾料伏兵疲矣，救必惧而不逼！”遂跃马弯弓而前击之。其后队步卒且进且退，火遥不相接。欲勒马而归营，前队伏兵鼓之而起。司马龙横戈马前，向众呼曰：“得火尚可战也！”贼众乱，步卒与骑驰其后而袭之。司马龙失火不能战，自刎而死。贼众追及，见纓污水中，哭曰：“司马将军死矣，吾辈何以生为！”皆自杀。一郡悉平。

征君之是举也，不伤一民，不匮一库，而措汝南于枕席之上，可谓奇矣。君子曰：运筹帷幄，决胜千里，其叔度之谓乎！



祝 颂

天皇封征君以慎阳之田，又以蒲轮玄纁聘之。

征君上表辞曰：“臣昧死言，向者豺豕之劳，奚补于社稷哉！以天皇之明，不察臣之非劣，而听左右之誉，赐臣以慎阳之田，宠臣以蒲轮，荣臣以玄纁，窃以为礼遇之过也。昔者许由抗志于唐尧，务光执节于殷汤，二子者，亦遭际圣世而蒙隆礼殊锡之光，竟辞而不就，以穷困其身。天下不以尧汤为弃贤也，且有令名。臣贤非许由，智非务光，而有尧汤之遇，极宠锡之荣，以嘉非臣！故草木落于待黄之秋，而衡门之蒿独茂；尘砾沸于会风之候，而寒谷之云不飞。亦以休风之宣畅，而圣情之凝郁也。臣实愿焉，是以荷日月之余辉，而流汗交襟，惕然而怖栗者，有以也。臣自揣不能从事于辅弼之列，而厕于吁咈之廷矣。臣愿天皇圣明，慎刑罚，躬节俭，礼儒臣，放佞人，以疏骨鲠忠言之路。容臣于草莽歌咏，鼓琴以扬仁风，击壤以鸣圣泽，此臣之所以仰祝于天皇也。臣北面稽顙，弥增感激，待命草间，无所逃遁。谨上表以闻。”

天皇深允其奏，然卒不能用也。是岁，命丞相以下讲《老子》于太清殿。匈奴寇雍、冀二州，南人叛。

去 恶

梁冀之诛，征君谓袁闳曰：“甫闻去恶木者易，去恶根者难。”袁闳曰：“子何不效斧斤之力而去其根乎！”征君曰：“闻者国家多故，典刑荡然。得意而迁善，虽忌忠而必赏；失意而渝怒，虽宠佞而必诛。薄赏厥忠，故厚诛之。薄诛厥佞，故厚赏之。异赏而同诛，殊劳而同辱，是贤、不肖淆也。夫淆不可以致士，淆则贤者难为清，不肖者难为浊，故贤者死于忧患，而不肖者死于安乐也。淆其臣，卒以自淆。淆主在上，则洁之在下，孰可致也！夫上林之材，非无恶木。清渭之流，非无浊波。有道之朝，非无佞臣，顾明王之取耳。是以舜诛四凶，贤类显焉。纣戮比干，佞臣用焉。此皆不淆之主也。戮贤而近不肖，其过也闻，犹可悔也。以贤，不肖而淆之，其过也辞，不可理也，故秦以淆而亡。慎到曰：‘得取者谓其驳，失取者逸其骥’。其是之谓乎！”

韩伯曰：“梁氏既诛，单超、徐璜、左悺、唐衡、具瑗等嗣乱其后，曹节、王甫之徒，恶浮于梁冀。五邪流衍朝廷，而党锢之难作。梁氏之诛，果何益于汉室哉！”

机 论

韩王见征君。征君方耕而归，望韩王之轩，弃锄而隐之。韩王返国。他日又见，亲以



币将于庭，征君乃就载以归，谋甫王室之策。征君是以不能辞于诸侯。

韩人有善奕者，以奕说徵君曰：“子知奕之道乎？”征君曰：“不知也。”奕者曰：“吾与子奕之，可乎？”曰：“夫奕以机胜，以不机败。吾不能机，何奕之为！”曰：“子恶机而不奕，不知子之机过于奕乎？”曰：“何为其然也？”曰：“奕之机，虚实是已。实而张之以虚，故能完其势。虚而击之以实，故能制其形。是机也，员而神，诡而变。故善奕者能出其机而不散，能藏其机而不贪，先机而后战，是以势完而难制。虽然，此特奕之道耳。若机之流于众妙也，肆而渊乎！羲皇得之而画其卦，神农得之而艺其穡，轩辕得之而奠其兵，勋华得之而禅其器，夏禹得之在驱其泽，殷汤得之而陈其网，周武得之而奋其钺，苍颉得之而泄其文，女娲得之而炼其石，许由得之而洗其耳，仪狄得之而制其酒，造父得之而神其御，后羿得之而精其射，伊尹得之而负其鼎，公输得之而云其梯，宁戚得之而扣其角，伯牙得之而鼓其琴，老聃得之而守其谷，孔子得之而击其磬。昔有抱瓮者，恶桔槔之机而不用，然乌知抱瓮之为机乎！由此观之，天地万物皆机也。机其运于应物之所，动于无形之源乎！今子之出也，将以仁义为机，而运诸侯于掌上，铭兆民于轨物，经之纶之，弛之张之，吹之嘘之，若嘘气之雄风，而解骇乎万窍。其机也如是，奕何有哉！夫圣人以仁义为机，贤者以礼信为机，谋士以术数为机，辩士以纵横为机。此机者，皆利于诸侯而显名者也。吾子其握圣人之机以游说诸侯，则汉室可举矣。当今之时，得机者显。得圣贤之机者，贵不可限。子翕而不张，亦何取于机也！盍奋而张之，噫仁义之气，而解众庶之郁哉！”征君曰：“吾将机乎！”

形 势

征君说韩王曰：“夫诸侯之国有为天下枢者，莫如韩。韩固战国也，宛穰襟其东，大梁峙其南，武关亘其西，成皋镇其北，韩之形势，足以扞四面之敌，通诸侯之盟，而中临天下。呼则诸侯应，招则诸侯来，若长江盘纡于中，而九派之流为之争赴而下注也。以韩之壤地视诸侯之疆，孰广焉？韩之人民视诸侯之众，孰勇焉？以诸侯之誉望视贤王之声，孰美焉？是三者皆无出于王之右矣。自大禹创业于夏，申伯受封于周，楚子设险于方城，秦人用武于南阳，故韩之国实英雄致王定霸之壤也。汉兴，凡南阳之势，远控乎西京，以为羽翼。新室翦汉，二雄割据，光武倚春陵而发迹，更始临涇水而建号，皆韩之南阳也。

贤王承九叶之运，当天下之枢，昭之以令德，修之以文武，畅之以礼乐，可以会盟诸侯，而光济王室。夫南阳，智士之所出也。贤王能折节下士，而选豪俊于南阳之众，与之谋国而靖民，以显其业，无使百里奚之事于秦，而范蠡之谋于越也。贤王据此而不图，臣恐天下之形替矣。夫拥成皋之固以为金汤，采析邑之铁以为剑戟，登鲁门之关以挥劲戈，过淮水之流以饮疲马，臣固知贤王之无功也。夫王室之盈虚系于韩，王室之强弱系于韩，王室之安危系于韩。王若不修德，则王室必虚，必危，必弱；王若修德，则王室必盈，必



强，必安，自然之势也。贤王欲辅王室而不修德，是犹大舟之济江河而焚其楫也，其不能济亦明矣。此臣所以为贤王计也。臣布韦之士，蒙贤王二顾之殷，遇臣以不次之礼，是以披素露胆于贤王之前也。王其图之！”

韩泊曰：“此篇乃征君说诸侯王第一策。忠义之气，激扬慨切，蔼然于言外。其视战国苏秦、张仪之辈，真霄壤矣乎！”

灾 异

桐柏山崩，淮水溃决，枣阳之民死者大半。韩王忧，命左右告于征君曰：“桐柏，韩之臣镇也。今崩，王室必有难，其若之何？”征君不答。左右返见韩王曰：“臣以君之命告于黄征君，傲而不应，是无礼于君也，请逐之！”韩王曰：“国有大咎而又逐士，寡人之戾益矣！是寡人不能恭，而使左右以寄命，能无傲乎！”遂命驾而见征君。

征君方鼓琴，韩王诣其馆而谓曰：“叔度其凉哉！何不吊寡人而乃鼓琴以娱也？”征君对曰：“臣闻之，国之修短吉凶卜于龟，士之兆卜于琴瑟。今臣之鼓琴也，始弹《白驹》，其声戾以杀。继而弹《关雎》，其声婉以和。臣故得礼于贤主也。请问何忧？”韩王曰：“寡人不德，不能举职于山川，遭戚王室，寡人是惧。敝邑三岁无稔，邑将为墟。今桐柏告崩，淮水溃决，以溺我人民，荡我禾黍，倾我庐舍。寡人虽象不能施号于敝邑，亦先君所封也。寡人是以邀福敝邑之山川，而天赐之以祸，何以示民！兹赖征君之明德，以庥寡人，幸毋弃也！”征君曰：“有是乎哉？宪也未之信也，请与王观焉。”

遂涉淮而登桐柏。水溢于境者，方数百里。林不露巢，城不见堞。男女之尸，矫如巨鱼，被发而浮于波澜之莽。王叹曰：“自孔子观吕梁以来，未有此水也！”征君欽容而对曰：“彼犹得蹈水之术，今之蹈者，其无术乎！不然，何伤之多也！岂惟韩国之祸，王室其必有难乎！”

是岁，匈奴寇边。黑雾三日如夜。君子曰：“幽厉之气彰矣！”

问 兵

韩王问兵于征君。征君辞曰：“臣礼乐之士也，不能以军旅对。”韩王曰：“寡人闻之，治世则用文，乱世则用武，用武之世，奚事礼乐哉！”征君对曰：“夫君子修文德于用武之世，寓阳道也，故百姓和而易霸。修武德于用文之世，寓阴道也，故王室备而易隆。今以用武之世而不修文，则诸侯皆雄，邻国无衅，何以树伯王之功哉！若以武，虽强弱殊效，而百姓之残均也。王何缓礼乐而急戎事乎！臣是以不敢对也。”

韩王曰：“昔齐桓陈师于召陵以声楚，而遂建九合之绩。秦王出兵于函谷以迎敌，而足收六鼎之形。孰非用武之明效哉！春秋战国以迄于今，谈兵者云集，角武者燿举。上则



折冲于帷幄，下则覆军而杀将。当此之时，礼乐无有也。夫制敌者非揖让之化，强国者非威仪之容，故礼乐不可治于用武之世也，明矣。征君奚隐厥术而不以诲寡人欤？是使寡人无奋也。”

征君对曰：“礼，兵之纪也。乐，兵之精也。其纪如梯，其精如醴。故礼以制其容，乐以导其气。列之以行伍，作之以金鼓，饰之以旌旗，明之以宝剑。节而后举，利而后动，故能克敌而定战。桓、文之兵昧礼乐，而犹足以节制，是以霸其身，而天下谓齐、晋能诸侯。若兼之礼乐而节制，奚翅乎霸！且贤王不闻有苗之格乎？虞廷之舞，闻其干羽矣，而未闻以其兵也。岂有苗之悍不若今之胡虏哉？亦干羽者乃有虞之所以为兵也。至春秋战国之君，以百姓为螻蛄，以刀锯为金帛，苟有匹夫高枕而寐者，天下皆以为样。其残也如此，臣愿贤王之勿效也。”

韩王曰：“昔晋文之伯，不以兵车，而为诸侯之盟主，又纳天子以示义，伐原以示信，大蒐以示礼，曹、卫、楚、宋，不劳而归服，是晋文亦礼让之主，而不黜于武，特未能乐焉。由此观之，岂惟节制之师哉！”

征君对曰：“召襄王于河阳者谁乎？臣而召君，非义也。凌诸侯之盟，非信也。以此而号诸侯，非礼也。一举而三非，《春秋》责之。若桓公，其庶乎！以韩之疆，以贤王之风馭之，伯不足图也。乘是时而懈礼乐，虽用力十年，臣固知王之止于伯而已矣，且以后于晋文。夫晋文之伯，犹节制而当之以权也。今贤王之权在天皇，于王何有！若渊默而修德，则贤王之权归矣。”

韩王曰：“善。”

宠幸

韩王有玉壶紫英二姬，宠冠千宫。二姬闻征君之贤也，求韩王聘之。

征君见韩王于黄翼之楼，二姬隐于雕屏，窥而巧笑。征君谓韩王曰：“隐屏者谁欤？”韩王曰：“此寡人宠姬也，慕征君之令名，故隐屏而窥耳。”征君曰：“笑臣者谁与？”韩王曰：“即隐屏之姬也。”征君作色而对曰：“臣虽猥士，不能笑诸侯，而乃为二姬笑，臣何以宾于王乎！”韩王曰：“征君何固之甚也，寡人之愚妾不以一笑而辱征君。夫笑，妾妇之庸态也。征君以妾妇之庸态而罪寡人之姬，何弗裕也。”征君默。

韩王乃命二姬出见征君，二姬又隐袖而笑。征君曰：“夫以王之二姬，犹能辱宪，况诸侯乎？臣敢辞矣。”二姬痛其意，乃向屏而泣。征君曰：“二姬尚弱，是笑也，不以臣累，臣于其泣而见也。”韩王解容，置醴酒以宴之，命二姬奏乐于屏，五举叠而乐不奏。韩王又命之，二姬对曰：“妾恐辱征君也。乐之音重于笑，征君之辱亦重于笑，是妾有笑罪，君不命妾之贱而又重之，妾以为征君无所报于韩矣。”

征君曰：“嗟乎！二姬之用智，臣不若也。王能馭之，则韩国必强，不然，王其荒乎，



何以能国。”韩王曰：“寡人命二妾奏乐，以征君无命，故惧而弗乐也，焉用智哉？”

征君对曰：“昔者周幽王之姬曰褒姒，美面不笑。然国之危也，卒由于笑，故诸侯之不可笑犹士也。今二姬之笑，有褒姒之所不为者，而反无周之危，故笑而知其侮，泣而知其弱，辞乐而知其智。”韩王曰：“寡人命之乐而罚之所达旦，何智之敢用也。”于是玉壶况瑟，紫英弹箜篌，以觴奉征君，酒激于地。征君曰：“臣不敢饮。”韩王曰：“何以不敢？”曰：“以贤王之尊，不能使二姬觴，反代二姬以觴臣，何王之自卑而崇宠也，臣故不饮。”韩王曰：“寡人命二姬觴，征君疑而不饮，寡人是以觴之，意者寡人取二姬之觴，征君又疑耶。取觴而饮，寡人亦唯是解疑于征君耳，岂崇宠而自卑乎？寡人得二姬，实美而贞淑，又饰之以音。寡人是密非以借乐也，而征君疑之，且以难使二姬慰寡人，是征君之捐过矣。”

征君辟席而对曰：“噫，王之二姬，臣实不知其美也。臣之所美与王不类，有名曰‘仁’，状若庆云，容若幽兰，藕若阳春。使之辅诸侯，则百姓怀之而颂，音作九夷，八蛮皆来朝。有名曰义，状若凛霜，容若青松，厉若秋宇，使之辅诸侯，则禁淫靡，诛暴乱，使盗跖可化为伯夷。此二姬者，臣之所美也。若王之姬，朝不过丝竹之奉，夜不过枕席之安，弛庶政，弃百姓，祸是以亡国。故珠玉为尘，锦炼为灰，绮幕镂床栖于浮云，宝瑟箜篌寂于烟露，富贵之乐于王，何有哉！王不宠仁义而昵冶容，臣窃以为贤王之蛊也。”韩王有惭色。征君辞酒下阶而出，韩王送于宫门，顾左右曰：“寡人今日得闻仁义之美也。”二姬怨而谗之。

智 论

征君忧二姬之谗，复说韩王曰：“夫尺蠖蜉蝣同出于阳，而不为尺蠖之鸣；黄雀青蜓同翔于空，而不为黄雀之举；鯢鱼虺蛇同潜于水，而不为鯢鱼之化。若此者，岂限于物力哉？气使然也。故蜉蝣之安于默，蜻蜓之限于飞，虺蛇之困于游者，彼亦乌知。尺蠖之鸣，黄雀之举，而鯢鱼之化也，唯不知，故以类群而不毒。是万物之淑慝，皆以无所知而能相安也。使其有所知则必慕，慕则必倾焉。惟人灵觉于物，故无大愚亦无大智，无大智故有知而不慕，有慕而不倾，有倾而不殆，有殆而不穷。穷则必复，若玄王素主之于凡庶。惟无所大知，是以贱而莫知其所以贵，贫而莫知其所以富，陋而莫知其所以扬，劳而莫知其所以逸，困而莫知其所以亨。变化若神，动静若运，凡庶惟君处，器器然以顾之尔矣。昔微、象之于重华也，无大智，故得以靖而不夷；虺、虎之于仲尼也，无大智，故得以康而不陨；项籍之于高祖也，无大智，故得以兴而不复。虽德与智合，以光耀于天下而铭伟功，亦命使之然也。岂惟玄王素主之异于凡庶哉。今有愚夫，老于田野，与子孙守十金之产，而盗贼不攘其室者，亦盗贼无大智也。况于受命之主乎！

今贤王居必伯之国，受世昌之封，膏腴之沃壤七百余里，虽周之申伯邓侯未有若贤王



之隆也。夫南阳虽封于先王，而实天之所赐，贤王欲乘而兴之甚易也。以贤王之明，而失可伯之时，是使齐桓晋文笑于前，秦孝公齐威王议于后，无乃弃天之赐而削先王之封乎。愿王恭礼天下之士，以结其心；远内嬖之谗，以清其志，则天下士必奋然乐为之用，而贤王之名尊矣。此鄙臣所以婉奕而长叹也。王其熟虑焉。”韩王曰：“善。”

谗 说

二姬以计去征君，谗于韩王曰：“妾闻诸侯皆宁，则不可畜士以养衅；百姓皆贍，则不可逞志以求危。今王室无东迁之弱，藩篱无犬吠之敌，君何虑之过也。以君之贤，而安享大国，天皇之宠赐，日盈于君身，虽河间东平之宠，不能加于君也。君之仓廩，蓄以百万；宫室之丽，积以蜀青；玩好之器，来自绝国；钟鼓箫瑟之声，毕陈于前，妾得侍于君之掌下，以供娱乐，是诸侯之安富尊荣，亦莫有加于君者也。君享千岁之禄，而为终身之乐，以昌后胤，不亦善乎。今游说之士，不顾君之后胤而取饔于目前，非忠也。不忧王室之乱而勤王，以图伯谋不测之功，非义也，而且不智，是以磨舌于诸侯以要显，誉钓空业而为贤；进而若惴，退而若忧，得齐之情而泄于楚，得楚之计而通于秦。在路则御者争之而不耻，在国则顺者揖之而不顾。吐谭纵横，乍喜乍怒，似苏秦蔡泽之流行也。以妾料之，不过假诸侯之颜色而求创于四方，岂能益人之国家哉，君速布令于國中，以屏游士之迹，且无潜于邻壤，是绝衅也。逐说而绝衅，则君与妾均是福也。幸无忽寿。”

韩王曰：“子素不昵，故说士不游于国。向者征君谒子而讽以汝二姬，故汝不忘畴昔之泣，而加恶耶。夫征君非口舌之士也，其德足以馨于天子，其才足以宾于诸侯，其志足以溥于百姓，其谋足以安于社稷，不可恶也。予共亮于是，汝二姬毋佚。”

明年，韩王游云梦之山，与征君同车。二姬怨王，作别鸾之歌，歌曰：“双鸾游兮紫庭，朝嚶嚶兮春阳。凤举兮云梦，怅寂寞兮哀鸣。”歌竟，遂缢于宫树而死。

爱 憎

韩王与征君游云梦之山，将游鹿台，韩王闻二姬死，谓征君曰：“咨乃命左右旋驾。”徵君因问韩王曰：“王之归为二姬乎，不然何返驾而罢鹿台之游也。王若归则二姬生矣，臣不能从王以归，而待王于鹿台，可乎？”韩王流涕而道曰：“寡人不敢匿所爱也，寡人处宫，二姬不疏于侧，宴则则酣，卧则忘梦，是二姬之事寡人，若影之附于形色。今寡人之出不谋，二姬以寡人是怨，遂哀歌而死，是寡人皆行阴雪中而不觉形影之离也。”征君对曰：王为云梦之游也，何不舍臣而携二姬乎？臣以为王之忍也。”韩王曰：“寡人辟暑乎丰山，二姬进清冷之泉；寡人游丹水之上，二姬进丹鱼；寡人泛于伊洛，二姬进魴鲤；寡人田于狼臯，二姬时雉羹，是寡人与二姬亦尝为此乐也。今云梦之游，寡人以征君在，二姬不得侍。二姬死，寡人虽有画眉之妾五七，卷髻之女二八，亦无以为也。”



征君对曰：“王以二姬之死，犹郁而戚，而继之以涕。今有贤者，为饭牛之歌，而不得君，死于国门之内，王闻其士之死，亦戚然而垂涕乎？”韩王曰：“然。”征君曰：“使王之游，既无从士，又无宠姬，王荒而弗返。士与姬怨，姬死于宫，士死于境，王闻之，将忧士乎，抑忧姬乎？”韩王曰：“士与姬皆寡人之腹心也，其生也偕乐，其死也偕戚，寡人奚择焉？”

征君曰：“夫从事于王者，内则姬焉，外则士焉，士必惧其谗，姬必憎其谗。由此观之，王之左右，士与姬不能并也。王命驾而游，姬在，为士者愤而死之。苟达于王，王亦能以宠士之情诉于姬而垂涕乎？王虽忧士之死，必不向素憎之姬而涕也。夫涕哀之迹也，小哀则戚，大哀则涕，不可伪也。王之于姬，臣以哀而知王之戚，以涕而知王之信，何王之宠士不如姬乎。臣今从游于云梦之山，王以臣之故而舍姬，姬亦以臣之故而怨王，是二姬为臣而死也。不然，何王向臣而涕，有悔用臣之心，臣其危乎？”

韩王默然，良久而言曰：“寡人岂以二姬之死而遂谢天下士乎？征君其无疑寡人也。”遂游鹿台而还。

论 学

韩王好淮南之学，问于征君曰：“淮南之学，其博于孔子乎？”征君曰：“臣未之敢闻也。”韩王曰：“昔有东方之客曰无闾生，七岁而髻，读书于无闾之岳，容若处女，东人皆以为玉龟也。寡人观之，问以学，其言曰：‘臣有淮南之学，而去其智则善矣。’是以寡人好之，夫无闾生学于无闾，必其以孔子为师也，而乃称淮南之学，可谓不博于孔子乎？”征君对曰：“无闾生即臣之弟子李玄也，今从臣于王之国。臣闻其以庖希之学孔子之道而宗之，若淮南则固蔑之矣。何取于博？”韩王轩然仰笑而堕冠曰：“征君果以无闾生为弟子耶？寡人亲聘之以论古学。”征君曰：“王虽得无闾生不能用也。”韩王于是益遇无闾生。无闾生谓韩王曰：“王何忘臣之言乎？”韩王曰：“何为其然也？”

无闾生曰：“昔者，王以淮南之事问臣，臣曰：‘淮南，汉之宗室也。读书三璧，文如贯虹，然卒以灭身而亡国。此非君臣之义不明也，由学博而贪生，智陋而昧时势也。若淮南之学，博而约于衰，聘而归于性，成章而润于质，则令名昭扬而可以帝汉矣。不然，亦足以延子孙而光辅乎汉室，于今犹赖焉。此臣之昔日之论也，而王忘之，非所谓善用其言者也。昔有越人行舟而遇低梁，望之乃石梁也，溢于潮梁，不没者三尺，舟不得进。越人凿其梁，力竭而毙，顷之潮涸。后有涉梁者又待潮而不进，有渔者曰：‘子何不逾梁而待潮乎？’若不逾梁而待，是使越人笑于梁，乌得为善用其舟乎？今王用臣之言，而复为越人凿梁之计，谓其贤于鸱夷，而忽渔者之论也。臣窃惑焉。”

韩王附髀叹曰：“善乎，子之讽也。寡人将委心于子矣。”无闾生曰：“臣师征君，以二姬故，而王疏之，何也？”韩王曰：“寡人何敢疏征君哉，二姬死亡实戚寡人。子事征



君，寡人亦不以子諒，又不能以子而諒征君，故寡人三陈宴而征君不享也。子幸教寡人，敢不勉矣。”

是岁，日食既，君子曰：“易明式微。”

难进

征君七日不见韩王，王谓左右曰：“征君以二姬之故，七日不临，何捐弃也？”左右告征君，征君答曰：“甫欲见王，窃恐王之心未解也。夫人之所交，其易合者必易绝，故孔子去卫。其难合者必不易绝，故宁戚曲干乎齐。而后相难易在君，士因之而洁名，以保身焉尔矣。虽然，夫贤士行一志也，亦视其所向而为之举。忧乐者，吾道之门也，故爱其士则不轻用其道，乐其士则不骤违其志。不轻用其道则士益尊，不骤违其志则士益忠。士益尊故宠有所不能移也，士益忠故谗有所不能间也。甫见王之盛于前而衰于后，是耗气徇志之端也。耗气而未绝者，必乍明而乍暗；徇志而未匿者，必乍强而乍弱。此之谓失经，失经则政事不平，刑罚不当，天下士岂复有乐为之用哉？所以鼓琴七日，而杜迹于王之庭也。夫君子虚以照物，弘以纳机，偶以出滞，公以应化，故能保其国家。今王之心度实有柅焉。召而后见，特或举二姬于心，况不召而往见，胡可畅也，得无恶乎？”

左右以其言复于韩王，王以牢享之。侍而问政，期月而韩国无冤民。有司廉，道不拾遗。楚人进罗氏之女倚风于王，王立为姬而宠之。

妖孽

征君游崆峒之山，见一老者祭一古冢，祝曰：“炎炎之室，其栋将頽，田为战场，奸雄啼。”

征君闻而怪之，命从者讯其故。时阴风南来，黄云夕暝，二老号哭，遂化为鸱，飞于岩木之颠。

从者匍匐而告，曰：“此何异也？”征君曰：“吾闻国将亡，听于神。今二老之谣，非人之言也。又化而为鸱，其怪也甚矣。夫九阳之穷也，依鸟而为鸱。鸱有利口，是倾国之象也。由是观之，王室其将乱乎？今外威盛而主柄移，羌虜黩而皇威伏，赋敛急而颂声息，灾异虐而德音乖。云扰之祸酿于朝夕，可坐而待也。诸侯之贤者，及是时布德而施惠，招贤而下士，分禄帛于无告之众，以固怀其心，窥王室之动静而阴镇之。弱则单力而扶，危则倚名而举，诛戮爱臣，翦灭污吏。攘外夷而固中原，盟诸侯而定雄业，此诚一时之策也。今以韩国之势，乘而举之，若飘云之遇风，奔流之赴壑，孰能御之哉？此二老所以号哭而寒心也。”言未卒，二鸱长鸣而逝。

征君顾从者曰：“昔子房受书于圯上之老人，而知汉赖以兴。余闻谣于崆峒之二老，而知汉因以亡，小子其识之乎。”



世子

韩王世子卒，征君哀其贤而哭之。左权周岑曰：“子哭世子也，为其贤乎？”徵君曰：“然。”曰：“子之宾于韩，世子未有重焉，又弱而好音色，日与左右斗鸡走犬以为游狎之乐。此薄德也，子奚贤之？”曰：“韩王暑而求冻饔，世子以私财作冰室，取羹饔而藏之。既冻，乃进于王。韩王说，为之赋怀冰，美世子也。及世子卒，倚风去冰室而命筑镜妆之台，甫是以悲尔。”周岑曰：“子何不谏？”曰：“玄也其在乎！玄也其在乎！”

贤妃

韩王梦二姬与之游，王惊。倚风侍寝，而抚曰：“君寐弗宁，何谓也？”王曰：“吾方与玉壶紫英游于香团，临翠华之池，二姬乘舟采荷而堕，吾是以惊。嗟乎！二姬死矣，犹与梦寐何婉嬖也。”

倚风出韩，秉烛而谏曰：“妾以为君之梦，商岩也。而君云云，是二姬既死犹不爱君，况其生乎？妾亦臣仆也，不敢以色误君，生不愿为二姬佞，死不愿为二姬游。君之明德，胡可障也？妾今得幸于君，苟不自善，则天下亦必以妾之故而笑君，犹二姬也。妾闻二姬有固宠之过，有毁善之愆，而又有怨君之戾，以怨而死，何德焉？今又蛊君于梦寐，妾以为君之思必深也。以是心而思士，其高宗乎？妾昧死谏君，君其念之。”王笑曰：“吾有汝以佐内，征君以佐外，夫奚忧乎？”

倚风曰：“妾闻《关雎》之诗，何义也？”王异之，曰：“汝闻殆及此乎？吾闻征君云：夫风始于《关雎》，基风化也。哀穷窈而不淫其色，思贤才而不伤乎善。以之风诸民而民化，以之和诸乐而乐隆，周之王业原始要终，罔非善也。是故《关雎》者，礼乐之原也。文王以懿懿之德，犹不自圣，惟后妃是求，以佐阳政。故正王宫而风天下，则文王之为也。吾诵《关雎》而思文王乎，事殷之心不渝于夫妇，而化洽中国，此所以为文王也。夫是之谓《关雎》。”倚风曰：“君奚不哀穷窈而思贤才乎？”王怒曰：“汝乌知吾之不哀而思也。”倚风顿足而言曰“二姬怨于君，而君哀之。其死也负于君，而君思之。妾是以谓君未能也。”王乃叹曰：“吾不谷，天赐以诤姬，是吾福也。”遂置酒作乐，命左右歌《关雎》之章，嚶嚶堂下，韩王与倚风抚瑟而和之。

王谓左右曰：“寡人无句践之耻，而窃有志焉。”乃酌酒于楹，左右皆觞之。谢曰：“臣不敢尽命也。”

是岁，韩国大稔。

诸侯闻韩王得懿姬，咸以千金购于四方如韩之倚风者。于是国人荐于市，农举于野，布令累月，馈美女者载乘于路。韩王闻之，笑谓左右曰：“寡人得罗氏之女，方诸二姬何如？”左右皆曰：“二姬美而未仁，若倚风则仁美兼之，岂惟倾韩之宫哉，虽吴越燕赵之产



不能匹也。故诸侯咸以千金索其姬，必欲如君之倚风而后为美。是以国鄙之女有一目一眉之丽者，悉进于宫。虽然，如倚风者，臣未之闻焉。夫倚风，天下之宝也，而君得之，诸侯流闻皆慕君之咏《关雎》也，君亦唯是仪刑于宫闾，毋荒其色，毋耽其宴，毋淹其郑声以勤树公室，不亦显乎。且征君有颜回墨翟之贤，宾于兹国，诸侯若失重负。由此观之，雌雄之形决矣。况诸侯之富皆圯王室，求如倚风者易，而求如征君者难，君勿忽焉。何以明其然也？昔者文王拘羑之时，凡迎紂之欲以释文王者，岂皆后妃之力耶，贤佐之谋不可诬也。君得倚风而委之宫，若国之大议必贤者佐于外，然后可。今君之得征君也，不能虚腹以下之，委政以隆之，坐谋以询之，使诸侯倚藩篱而观笑。此臣等所以不忘君之誓，而蹙肝胆于前也。君有其国，而无其土壤，不可谓完，有诸侯之爵，而无其人民，不可谓贵。是势不在君，君安得而守之。王室将有累卵之危，苟一日谢于天下，又何所恃乎。周公之摄，非篡也，成王弱也；桓文之兴，非逆也，周室替也。故圣人权时而体运，岂能与绳墨之士同哉，君不可不熟计也。”王不听。

是岁，楚人求睦于韩，韩王问于征君，将以辞使以楚书，有盟意也。征君谓韩王曰：“诸侯相睦，礼也。礼不可失于诸侯，失则邻国之使不入于韩之疆矣。不入则韩必孤，奈诸侯何？”韩王乃享其使而报之。

嫡庶

韩王欲以倚风为夫人。庄白谏曰：“不可。夫先王因名以定分，使尊卑贵贱无相渎也。是故内有后妃缤御以佐内政，宣阴郁也。外有公卿大夫郎官之属，以赞外务，畅阳蔚也。故天子以诸侯为级，有级而后有序，有序而后有则，和斯交焉。故天子之于后，犹诸侯之于夫人也。聘以示礼，宴以示好，居正以示位，告庙以示宗，亲蚕以示勤，故能为天下母，诸侯亦然。礼有之曰，诸侯耕助以供粢盛，夫人蚕缫以为衣服，唯齐体于君。是以光佐于内，而致享于神祇也。由此观之，嫡庶者，礼之经也，不可乱也。故嫡有庶而无降，庶有宠而无隆，宠之以色则不可逾于恩，宠之以贤则不可渎于礼，夫礼名之防也。天子以礼防兆民，诸侯以礼防国卿，大夫以礼防家士，庶人以礼防身，皆所以防乎名也。渎礼则名溃，名溃则不尊，不尊则悖，悖则淫，淫则狎侮刑罚，而为天下辱，此国家危亡之形色也。昔桓公葵丘之会，曰以妾为妻，则伐之，非私典也，所以尊王禁也。今倚风处君之宫，执庶之职，贤闻诸侯，君之明亦孚矣。倚风美而有娠，君之宠亦孚矣。夫美而贤，端也；执庶，恭也。君欲一朝而隆之，无乃不可乎。执是名也，不足以为君重；而隆是名也，亦不足以为姬重。且以玷姬之名，累姬之美，而返誉于诸侯，即臣见韩国之日卑也，君其慎之。”

王不听，乃访于征君，对曰：“臣何必言。”韩王曰：“何谓也？”曰：“臣闻庄子谏王，是也。臣故不言。”韩王曰：“然则寡人为何如也？”曰：“以王之所为，子其晋文乎？”王



悟而悔之。

夺嫡

征君见韩王，坐而论政，乃设五喻以动王。王喜而饮酒。倚风鼓琴于宫，学《关雎》之音。征君闻之，叱曰：“是琴也，始作有仁鸡之声，继而有鸛鵒捕物之声，谁其鼓之，谁其鼓之？”韩王笑曰：“此寡人之宠姬倚风也。”征君曰：“然则何为而琴《关雎》之诗乎？”曰：“此其所嗜也。”征君曰：“不可，夫《关雎》之诗咏后妃也，亦惟后妃得而琴之。若倚风虽贤妾也，妾何得而述关雎乎？下凌上，卑越尊，不可谓顺。臣闻倚风之好为《关雎》久矣，王以为贤，臣窃以为忧也。夫瑟以发音，音以昭志，志伏于内，则瑟之音平以和；志战于外，则瑟之音激以乖。今姬也有战志，王之夫人其将殆乎？以姬之淑而播衅于瑟，非祥之征也。夫衅不可长，以宠而长衅，是玩百姓而渎诸侯，且以倍盟誓，王何利焉。王若从其所誓，则四鄙之诸侯皆欲无礼于王，而天下之谋士去矣。昔周之东迁也，犹依晋鄙以为固。今王室微弱，所望而依者，诸侯也。以韩之强，王将修政之不暇，而骤以一宠驩其纪纲，则千岁后王室卒不能向韩而依矣，何韩之大国而不晋鄙也。臣不佞，寄食于诸侯，亦视王之此举以为去就，弗敢阿也。”

倚风闻之，叹曰：“事不立矣。”征君出，有嬖人谗于倚风，曰：“以夫人之贤而处卑位，虽有懿德婉行不能范于国，窃为夫人惜之。今乘君之宠幸而弗自图，恐华落不再荣，而嫉妒之怨踵矣。征君固贱士也，闻夫人之鼓琴而骤谏，彼将以二姬待夫人，耻孰孔焉。夫人欲得志于宫，必去征君而后可。”倚风曰：“君今听其计为之奈何？”嬖人曰：“夫人尚可为也。君尝与夫人宴碧华之池，夫人是时宜窥君之酣，而泣于前曰：‘妾处幽独，被日月之未光，得奉箕帚之役，举宫无闻言，妾何幸有此誉也。君亦不以妾之贱而残其宠，欲举妾有不次之恩，以为君重妾实非薄，不敢仰手而承也。侧闻征君短妾于前，而结君之左右，君信以为说，是妾罪也。然以君之明，不能照妾，而使为士者谤于道路，以伤君之明，君何以一妾而自累也。愿君赐妾以死，无使贤士旷于市朝，以为君辱，昔二姬之死，爱君也，不可谓怨。妾欲与二姬游于泉下，以观多士之集韩图也。’夫人以此说君，君必启前之心而去之，此坚宠隆爱之计也。”倚风曰：“然，计其中矣。”

明日，王果与倚风宴游碧华池，倚风如嬖人之言以诉。倚风泣，王亦泣，遂议立倚风为夫人，是岁，征君行。



卷二

辞受

征君去韩，鲁聘先诸侯而至，乃不入魏而之鲁。

宿于济阴，有盗者窃其笈。从者曰：“子穷矣。”征君曰：“是何足以穷我哉，夫君子达于内而穷于外，乐于心而困于迹，此负道者之为也，如是甫焉往而不穷。故游诸侯而不得志，是吾穷也。”

顷有韩使至，馈百金以为赒，征君不受。从者曰：“若子，其矫者也。子欲以忠信为笈，仁义为赒，则弟子之从子也，安能食子之忠信，饮子之仁义，而免其饥饿耶？吾闻君子出而不行其素，则寄口于诸侯，以为资身之策。故仲尼有绝粮之穷，孟子有受赒之义。穷则执，赒则受，礼也。子奚谓介而自困其身乎？智者不为也。”征君曰：“噫，是何言之陋也！汝不能食甫以忠信，饮甫以仁义，而欲寄口于诸侯以免死于道，是从游者皆乞人之徒也。乞人一日不得食，则饿死沟壑，是欲寄口而不可得也。汝必为乞人之计，则箪食豆羹之间，殆有甚于乞者。汝亦畏死而取之耶？充以乞人之心，则盗跖之贪为是，而伯夷之廉为非，是盗跖何智而伯夷何愚也。今有伯夷为师而盗跖为弟子，可乎？汝以仲尼之绝粮为穷，孟轲之受赒为义，而病甫也。不知仲尼获麟，出涕曰：‘吾道穷矣。’又曰：‘欲仁而得仁，又焉贪。’孟轲曰：‘万钟于我何加焉。’由是观之，仲尼亦未尝以绝粮为穷，而孟轲未尝以受赒为义也。且孟轲之受赒于宋，盖有故矣。当是时，宋之君于孟轲未疏也，在国无嬖人之谗，去国非简贤之故，是以受宋之赒而不辞也。不然何却齐之兼金，辞齐之万钟，而绰绰乎有余裕哉。今韩之遇甫也，以好色之心好士，而无惇诚。内蔽于谗，外障于佞，若之何就之。甫是以去韩而宾鲁。不幸遇盗，日中无餐，仆有饥色，车不接群，空笈而往。韩王适赒甫以金，此称义之福涂也，甫之不受，又何疑焉？夫失志于韩而受其赒，是犹鱼之失水于渊而又吞其饵也。受赒者伤于义，吞饵者伤于舌，其贪均也。汝欲甫受韩王之赒，而自同于吞饵之鱼，死则免矣，其如义何？”

韩使为之于邑，乃弃马而还。鲁人闻而馈粟，征君受之。曰：“义也。”

辟邪

天皇祀老子于宫中，自谓紫微玉真帝君。群臣上表称贺。李固谏曰：“臣闻陛下以圣德自崇而仰建玄极，此不可以为号也。昔我孝武皇帝诞求神仙，兴肆土木，六经表章而未旌，是以方游之士踵迹而进，以师事之。及其徂落，天下称武，而不称真者，以天子无远



民以自崇也。陛下即位以来，国无宁岁，匈奴诸种雁行而八寇，雨雹，日食，地震，太白荧惑。水旱之变不及奏，宫庙陵关之火不及闻；负比干之忠者或幽于请室，张如簧之巧者或卧于庙堂，臣窃思之可为寒心哉。陛下诚宜恢裕德化，振肃纲纪，以消污秽郁浊之气，朝夕儆惕，居之以恭敬无怠，然犹未能挽汉室之隆也。今又崇礼老子，表立玄号，情万几之忧，易百姓之望，非所以熙光于祖宗而垂声于后世。臣以非劣之才，忝列三朝，顾无尺寸忠直以报陛下，亦无嬖媚之行以为陛下辱。然臣隐忍于质帝之秋，而欲效忠于陛下之朝者，亦有待也。臣今吐心裂腹以觉悟陛下，陛下不以为然；老子不能为陛下忠，陛下反屈膝而师之，以重为权奸之窃笑，此微臣所以愤懣而流涕也。使老子有知，必以臣言为是，而亦不享陛下之祠矣。夫陛下疏周孔之道而亲老氏之术，臣恐天下搢绅之士翕然向风，皆舍儒而崇老以渎朝廷，此非陛下之福也。”

书奏，帝不纳。征君闻之，谓李玄曰：“嗟乎！难日至矣。”

洎曰：“李玄此疏，考之《汉书》皆无所据。若为汉之遗史，则范蔚宗失之多矣。大抵外史所载，往往不可考，陆宣公独谓此《史》疑晋人所记而述者，不未见也。然李公此疏校诸《汉书》诸议，文更雄雅。”

时 势

征君见鲁王，鲁王筑五丈之台以延宾客。宾客闻而来者扬眉洗舌，各负霸王之策，持长短之谭，而求得志于鲁。

鲁王大酺宾客，奏乐于台下。宾客以卮为鲁王寿而言曰：“今日之会，臣等何幸而厕于大王之末也，王以为天下之势，孰强孰弱；天下之国，孰大孰小；天下之士，孰智孰愚；天下之民，孰众孰寡？”鲁王默然久之，乃答曰：“寡人处蕞尔之国，不能揣天下之形情。我先君封于鲁，非周公之子孙而享其茅土。然先王之化至今赖之，寡人是以修过于四方之士，借光于藩封之列，宣扬文武以夹卫王室，无使豪杰之议，其后为天下戮笑，此寡人之愿也。今者筑台以延士，而天下士归焉，不以寡人是弃。寡人辱以五鼎之宴，而天下士乐焉，不以寡人是诽。以鲁之民人寄于不谷之一人，亦惟朝夕惧栗，而求四方之规寡人也。先王其若之何。”

客曰：“大王知食叶之虫乎？有数仞之木，其叶扶疏，油然而阴，人皆以为值寒而凋，待黄而落也。方其五六月之间，虫生其下，以枯叶绸缪而为巢。附丝于枝上，潜饮朝露，以为无伤其木也，不知旬日之内，其叶稀稀，其木濯濯，向也扶疏而成阴，今则頹然而无叶矣。其所伤者，即其所栖而为荫者也。夫虫依乎木而亦伤乎木，岂其心哉，所食在此，固不能舍木而求食也。然则一虫之微，非能伤乎数仞之木，一木之伤亦非一虫之力也。木之质不强，而所荫之叶徒足以资饿虫耳，故叶欲荣则虫益附，叶欲凋则虫益食，其势然



也，岂惟食叶之虫乎。有三寸之鱼畜乎方渚，凭依乎茂藻之间，荡漾乎回澜之际，以为是鱼之所逝而息也。不知苑囿溃于淫雨，而方渚之波通于川渎，而鱼皆掉尾而去，遐逝乎江湖，旁泛乎藪泽，而东跃乎沧海，若鲲之变化而飞翔焉。云行雨施，周流八埏，而鼓动宇内之万物，是其在渚也；安于渚而不知海，其在海也，又安于海而忘渚也，亦其势然也。

吾闻圣人观鱼虫之所静，而知其所动。故一弛一张，或柔或刚，伸缩无迹，动静无方，乱世则为鱼虫，治世则为侯王。吸而为秋阴，呼而为春阳，其变化也莫知其涯，故圣人之显烈无穷焉，王何不为圣烈之迹，而忍鱼虫之举也。

夫天下之势皆强而吾独弱，则弱者持其胜；天下之国皆大而吾独小，则小者固其患；天下之士皆智而吾独愚，则愚者保其名；天下之民皆众而吾独寡，则寡者守其要。鲁小国也，势弱而民寡，有君子而无智士，不能起衅于大国，大国方以藩屏之职是效，而无事于攻伐。乘此而修德何民不服，乘此而畜众何民不强，乘此而治旅何兵不锐，不于此时图昌后之策，阴修仁义，非乘时之雄也。大王其熟虑焉。”

鲁王曰：“昔齐桓有葵丘之会，晋文有践土之盟，彼二君者皆尊周而攘夷，遂为霸王。寡人欲修桓文之绝业，不亦可乎？”客曰：“夫以大王之贤，附天子之光，拥鲁国之地，有徐兗之饶，河济之利，龟蒙之限以为固，修德而举桓文不足为也，其奈大王何。”鲁王不能对。

征君拂缨而前曰：“何为其然也？昔周室既毕，封建之国皆为战场，商鞅范雎仪秦之徒相踵而入，弄转圜之舌以游说诸侯，天下莫当焉，彼得行其说者亦时也。今天下乌可比肩而语哉，子欲以仪、秦之术行于成康之世，犹膺隼之群而争于鸾凤之林，其不然亦明矣。且宪也闻之，识时者不先乎众，成事者不谋于家，此豪杰之用心也。以若所云不足以重鲁而适足以重衅，又何赖焉？”鲁王稽首再拜曰：“都，寡人今日得闻先生之海，敢密厥志矣。”

乐 论

鲁王享征君于南宫，陈六价之乐，鲁王问曰：“今日之宴得无欣乎。”征君谢曰：“可以娱臣之耳矣。”

征君乃命乐工舞于阶，其仪踔跄，其羽扬扬。鲁君曰：“韶舞何加焉。”

征君谢曰：“可以娱臣之目矣。夫乐至于娱心而后和，和而后化。干羽格苗，凤凰仪韶，淫鱼听瑟，孟尝泣琴，岂耳目所能感哉。今王以耳目之乐为心娱，臣是以不敢隐也。”鲁王曰：“敢问娱心之乐？”征君避席而对曰：“骏哉！王之问也。夫王人者营政。三年而作礼，积德十年而作乐。乐也者，礼之极也，形于舞蹈而合乎性，和于上下而合乎治，雍容而合乎德，无言而合乎化，使歌者忘其声，舞者忘其态，观者忘其揖让。和而不淫，怡而不纵，故礼极而乐隆。是故郊社之乐所以和神祇也，宗庙之乐所以和昭穆也，宴飨之乐



所以和诸侯而治宾旅也。和之以心，畅之以八音，如春阳之鼓萌蘖，明雨之沐万物，此之谓娱心之乐。”鲁王曰：“善。”

士 论

鲁王疑士，问于左权曰：“士之游于诸侯，利欤？否欤？”左权对曰：“得其士则利，不得其士则替。故诸侯之不可失士，犹婴儿之不可失乳也。失乳而生者有矣。未有失士而利者也。臣闻陈轸云：‘夫诸侯以士为体，故动无异形。以士为心，故谋无异虑。好士者如饮甘羹，择士者如调乱弦。’此言士之重于诸侯也。”鲁王曰：“士不同与？”曰：“虽可以利诸侯者，亦不同焉。臣闻得贤士者与，得谋士者固，得辩士者达，得勇士者强，得艺士者扬，五者可以定利诸侯之士也。昔孔子以道游诸侯，墨翟以仁游诸侯，鲁仲、季札、端木赐、孟轲、荀卿以礼义游诸侯，范文子、赵衰、晏婴、范蠡、乐毅、鲁仲连以智游诸侯，商鞅、毛遂、荆轲、蔺相如之徒以信术游诸侯，廉颇、赵奢、孙臆、吴起、司马穰苴、李牧、养由基、孙武子之徒以兵术游诸侯，苏秦、张仪、公孙衍、蒯聩、陈轸、代、厉之徒以纵横游诸侯。以道游诸侯者，诸侯师之；以纵横游诸侯者，诸侯役之。士役于诸侯，则驰辨无端策，发虑无忠谋。故曰一激之怒炎于火，三寸之舌芒于剑，是以身危而功不成，夫焉利于诸侯哉。”鲁王曰：“寡人得征君，果利于鲁乎？”曰：“征君，师也，臣不敢誉。”曰：“荀爽何如？”曰：“爽臣之甥也，使之辅贤王，可以膺一面之寄，盗贼不敢栖蒙山而窥鲁，王其聘之。”鲁王叹曰：“举不讳亲，忠也；不誉其师，敦也。子之馨足以辅寡人矣。”

是岁，鲁王田于曹南，获驱以归。

玉 论

鲁王爱玉，有楚人持玉鼎以进，曰：“此荆山之美玉也，君能爱乎？”

鲁王笑曰：“寡人闻荆山之玉，卞和得之而献楚王，其后也，秦人复得之，奚其为荆山乎？夫地不再产，胡能复得耶？”

楚人曰：“夫荆山之所生者，非特和氏之一璧也，君何以荆山为无玉乎？荆玉之鼎，楚产也，而君疑之。若夫珣出于鲁，昔有倚顿，得之以为卮杯，其妾视之，误毁诸地，是鲁珣无倚顿之杯久矣。有人持璞珣以进，君亦以为鲁无珣璧，可乎？夫地之所产不尽出，王之所藏不尽用也。岂惟荆鲁之玉为然哉，若鲁国贤士之数也。今君以为地不再产，则展禽之后鲁无孔子，孔子之后鲁无颜渊，颜渊之后鲁无闵损，闵损之后鲁无子羽，子羽之后鲁无秦非，秦非之后鲁无曾点，曾点之后鲁无子思，子思之后鲁无孟轲，孟轲之后鲁无叔孙通、威麟、高堂生、孔安国、韦贤、疏广、匡衡、曹褒之属矣。是今之生于鲁国者，皆鲁珣之沙也；游于鲁国者，皆荆山之石也，奚玉之为。臣请完鼎而返楚，使鲁庭有刖足



之刑，而荆山有泣王之士也。”

鲁王惭，乃命左右以千金价之。左右曰：“昔者燕昭王以千金致士，今君以千金致玉，臣恐天下怀宝之士皆倚昭王之台而笑矣。致玉而笑士，国何利焉。”王不听。

洎曰：“此等文章全是《战国策》，其一篇主意又绝类李斯《上秦皇书》。更出一机局，便觉文气奇逸。但内有展禽之后一段文字，颇类滑稽体。学古者当自识之。”

重 贤

鲁王得楚人之玉，谓张袞曰：“昔卞和献玉于楚王，楚王却又刖其足以示众。夫却玉不明也，刖士不仁也。今寡人好玉，楚人以荆山之玉进，寡人赏以千金，是卞和不幸而遇楚王也。由此观之，寡人其优乎？”

张袞对曰：“王不如也。”鲁王曰：何为不如？”曰：“臣以为楚王之明也，故不如。夫得玉不足以强国，王知之乎？知强国者不以玉，则楚王之却不可谓不明也；刖士而绝佞人，不可谓不仁也。当是时，使和氏进一荆山之士于楚王，则亦不待三献而三却也，况刖之乎。今鲁国之士，抱器而进于王，非特楚人之玉也，而王不赏之，独何与？王自以为遇玉之礼过于楚王，待楚人之礼过于和氏，而不知王之戮于天下士也，有甚于刖足，士之抱器而叹，亦有甚于和氏者乎！何王之明于玉而暗于士也？故曰：臣以为王不如也。”

鲁王勃然变色而言曰：“子何以寡人讪也？寡人好士，筑五丈之台而延宾客。叔度不至，寡人聘之；叔度至，寡人馆之，何谓不遇哉？”曰：“王之遇叔度，特楚人之遇耳。遇楚人，而犹宠其玉，今遇叔度，而不能宠其道，可谓遇乎哉？臣窃谓贤王不取也。”

鲁王曰：“子不诲，寡人终没没矣。”遂以楚玉赐之。

论《易》

征君将见鲁王，骤雨至，居而读《易》，周岑、左权、朱儒、孔绍祖侍坐。

朱俊曰：“俊闻之，古之豪杰不以章句而媚时，故有志者往往得奋其策而树功于天下，刊名于竹帛，此豪杰之所为也。夫子宾于鲁，鲁王师之，出不为宁戚之穷，进不为冯谖之乞，动不为子方之骄，语不为韩非之激；温裕足以率其人民，忠恕足以达其政事，贞亮足以光其社稷，而修多难之朝，遭侵蚀之世，此诚豪杰得志之秋也。今夫子疏疏然，开而若拙，默而若愚，终日端居而读《周易》，不亦钝乎？”

征君曰：“汝恶知哉。昔者吴起以兵机见魏文侯，得显其身，而卒以自毙。商鞅以刑名说秦孝公，秦国治强，封商於之地，秦是以有窥周室之心。苏秦以纵横说六国诸侯，得相其身，然二子卒蹈车裂之祸，民无思焉。至于韩非、李斯、刘淮南之徒，皆明智而通达，博文而延誉，然犹不免于显戮，此由昧《易》之道也。故知《易》者，善为巧拙愚智



之间，随时而动，缘机而流，宜柔宜刚，宜弛宜张，宜行宜藏，宜圆宜方，此之谓知《易》。故曰‘知变化之道者，其知神之所为乎’。”

朱俊出，周岑、左权、孔绍祖疑而问曰：“子之论《易》，予小子不识所谓也。敢问今何时哉？”曰“蛊”。曰：“今汉室虽乱，其子孙犹善于有商，皆据必争之国，守膏腴之壤，相与而辅佐之犹可济也。何谓蛊哉？”曰：“是则然矣，汝独不见蛛，之结网于屋梁之隅，中坐而待食，自以为安，及栋梁朽而怀倾，蛛乎虽欲寄一丝以聊适，不可获矣，当今之世何异斯夫。”

泊曰：“读此，可与论《易》理，且文思不羁。”

峰 山

峰山崩，鲁王问征君曰：“天祸敝邑，峰山崩焉，此何象也？”征君对曰：“昔者秦始皇东游邹峰，刻石颂功，意者，天恶其侈乎？”鲁王曰：“自秦以来，几百载，何及于寡人之身，峰山始崩？寡人唯是请罪于天皇，以求附庸，除颧臾之垣而栖也。”

征君对曰：“昔者伯禽之为鲁公也，有民辟于莘，鲁公不能理，周公闻之而忧，以书诫鲁公曰：‘我先王之末造也，有狄之难，去郕邑岐，履涉艰阻。及我文考宣扬令德，以受休命，作邑西土，犹共侯职。汝伯考嗣休，奄有天下，恢祖宗之烈，耿光被于民神，实汝文考伯考之绩也。嫡人曰：予辅之，自汝封于鲁邑，予夙夜忧惧，汝亦无怠厥德，以忝我先王及汝文祖伯考。汝叔父在郕，其封不遐，汝亦式之，以毋貽叔父戚。洛邑既营，遂荒镐丰，予又受汝伯考之命，至于今不复，以汝有颧志，委汝以鲁之社稷，以改其故旧人民，汝其念前言。今莘土之人不靖，舍其桑业，弛其礼让，流言于国，无乃故旧，不亲大臣，不求备于一人，以致是咎。予日念兹，若陨深渊，汝惟克勤毋怠，以镇绥莘土之人，予言不再。’鲁公因是以修其礼让，裕其桑业。故旧益亲，大臣益遇，薄刑而弛禁，信民而文俗，行之三年，而鲁国化。山不崩圯，水不溢溢。若此者，以国之政鲁公出之，国之民鲁公治之，国之官鲁公用之。以鲁公之贤，当周室之盛，而委国之责不辞，鲁焉得而不治哉！若今之诸侯，有禄而无壤，有壤而无民。政有司出也，民有司治也，臣天皇之命也，三者王不得而权之，是诸侯寄于国也，非寄于诸侯者也。寄于国，则鲁之安危，王无与焉。间者峰山之崩，岂王之有戾政于国，而欲任其责与？此臣之所未喻也。夫古者诸侯有罪，则削其壤地，以暴过于邻国，民亦怒之。今王畏汉室之必削，而求附庸之壤，苟与之以颧臾，亦汉室之自削耳，何足为贤王辱。无壤而求削，无民而恶辱，臣以为贤王之计过矣。汉室昏乱，山崩川竭之灾，无诸侯之国无之，岂惟一鲁国之峰山乎。王若请罪而求削，不可以示诸侯，王其图之。”

鲁王曰：“嗟乎！寡人小心是以请耳。”



洎曰：“此篇有周公诫伯禽书，与经之《训》、《诰》何异？然乃不见于《尚书》，岂秦火之失与？若失于秦火，则《外史》又何自而述也？窃为后学拟之。”

君 赐

鲁王以鹿羹饷征君，征君谓使者曰：“宥有疾，不能陈谢，亦不敢尝。”使者曰：“君有羹惠于子，岂辞一谢乎？”征君曰：“子知羹之为重，而恶知有重于羹者哉。夫鹿羹虽美，固兽也，鲁王烹而荐之以鼎，非士不饷，饷士而使士不及尝，奔走诣庭而谢，何王之待士不如待一兽乎！”使者出。

明日，使孔绍祖谢鲁王。鲁王曰：“子之师奚不悦寡人也？寡人饷以鹿羹之鼎，受而不报，又辱其使，是以寡人之饷为非礼也。”孔绍祖对曰：“臣之师也有疾，适过鼎饷之荣，忧欣交治，敢不拜嘉，特以疾，故令臣代诣于贤王之庭而陈谢焉。王毋以为简也。”

鲁王解容而道曰：“叔度无深恙乎？”对曰：“黧王之羹，疾瘳其十之五；尝王之羹，疾瘳其十之九，其一未瘳，是以不克履也。”

鲁王喜曰：“鼎之馨香足以瘳疾与？”对曰：“岂惟瘳疾哉。臣闻之，天子诸侯以士为鼎，以仁义为羹，其馨香足以荐之上帝，达之祖考，蒸之社稷，布之民人。夫鼎之有英也，犹士之有仁义也。鼎之馨香则王知之，何仁义之为美不如羹乎？是羹也，惟王与臣之师尝之矣，鲁国之民不闻其美也。若仁义之美，烹一心而畅百顺，调太和而育庶物，若睹渊泉之洋溢，而渴者不及饮；观五谷之丰茂，而饥者不及羹也。贤王何不御其鼎，而举其士，舍其祿味，而陶仁义之羹乎。”

鲁王叹曰：“吾闻圣人之后，必有贤者继焉，其子之谓矣。”

出 处

鲁王田于谷成。征君谓大夫韩韬曰：“鲁王二田矣，甫其归乎？”韩韬对曰：“子之游，岂为一鲁王哉。是以二田弃诸侯之望也，子其砥矣。”

征君曰：“今诸侯好田，其不为鲁王者亦寡矣。盖归乎哉？吾有先人家庐邻于势族，将以我侵乎？有桑田十亩，灾沴不时，酷政不息，将以我伤乎？衡室其幽，兰蕙扶疏，荫庭之卑杂桂与槐，蔚然而林，将以我伐乎？风雅典谟，左右陈之，以琴以瑟，左右张之，将以我毁乎？南望中山，实驰所心，盍归来乎？”

曰：“噫，子何戚之孔也？且子何莫为仲尼之游乎？畏于匡，厄于蔡，微服于宋，击磬于卫，接淅于齐，绝禄于陈，故在陈叹曰：‘归与，归与。’夫仲尼之归志必无所遇而作也。今子一就于鲁，鲁王以国士遇之，是子未有在陈之厄，而动归与之叹，非仲尼志也。子欲辞鲁而行，请复游于诸侯，可乎？苟汉室分崩，诸侯不辅，相寻以兵，肥饶之壤皆为战场。老者赴深壑，壮者流四方，当是时也，子将奚归乎？此羁戍之所为，而老马之所以



惋望而流嘶者也。吾子勉矣。”

征君曰：“不然，吾闻圣人达权，贤者执经，子徒淹予之归，勉予之游，而不知明哲者之议其后乎。昔殷将灭而微子逝，周既衰而接舆狂，秦世虐而四皓栖，新室乱而薛方遁。易曰：不事王侯，高尚其事。此之谓欤？今王室有新之渐，而无方之举，吾恐老马亦掩嘶而窃笑矣。嗟乎！东京为诸侯忧。”韩輶喟曰：“子固矣。失昔酒佣负羹而殷举，屠叟渔渭而周猎，五穀投秦而繆霸，宁子千齐而桓兴，孙卿邀游于楚赵，子舆驰骛于梁滕，范公显越而鸣夷，张郎佐汉而辟谷，此数子者岂无家庐之思、躬耕之乐哉！诚知立功为不朽也。谚曰：‘荷锄候雨，不如决渚。’言时不可缓也。”征君顾其弟子曰：“知权乎！知权乎！”

天文

徐渊游于蜀山，见苍禽集西冈之坡，顺风而交鸣。徐渊异之，归而问诸征君曰：“此何禽也？”曰：“其苍鷖乎？鷖之孕不精而感，不交而生，其感也以风，其生也以颶，此之谓气化其鸟，载于《尔雅》者也。子不闻觚竹之荒有鸟曰鷖，翼生于股，荧惑见则孕，是以禽而感于星也。嘉陵之墟有鸟曰鷖，鸢临溪而啄影则孕，吐于口而生，是感于水也。扶桑之野有鸟曰摇光，感日之精千岁一孕，其形如龟，是感于日也，此三禽者，尔雅不得而载焉。由此观之，凡海外之荒国，其不名之禽，无称之兽，恶可穷哉。是地无穷而物亦无穷也。”

曰：“然，则天地果有涯乎？”

曰：“日月之出入者，其涯也。日月之外，则吾不知焉。”

曰：“日月附于天乎？”

曰：“天，外也；日月，内也。内则以日月为涯，故躔度不易而四时成，外则以大虚为涯，其涯也不睹日月之光，不测躔度之流，不察四时之成，是无日月也，无躔度也，无四时也，同归于虚，虚则无涯。是以日月之外，圣人不能范围之而作历；日月之内，圣人不能损益之而成岁，故历者循其迹而作者也。”曰：“天之旋也，左耶右耶？”曰：“清明不动之谓天。动也者，其日月星辰之运乎？是故言天之旋，非也，规天而作历，犹非也。验诸运焉，云尔已矣。”

曰：“何谓分野？”曰：“上古之世，壤地无纪，不贡不赋，穴居而野处。后圣为之经画九州，以镇其民人，奠其山川，颁其贡赋，地于是乎有纪。由此观之，圣人别九州而纪地，所以配天之文也，非缘星而纪也。夫星辰之茫昧，亦未尝屑屑然而为之分。是故象纬者天之文也，九州者地之施也，天地异位而合化，故圣人之烈照于天。若分野之所谓，则六经之未述者，吾奚征？”曰：“渊也闻鲁王好天文，谭星之士四方辐辏而进，子何隐厥艺哉？”曰：“懈人纪而贪天文，惑孰甚！吾未之学，不敢进也。”



洎曰：此《外史》之《天文志》也。

名 器

征君将如齐，鲁王赐以黄金百斤，征君谢而不受，乃以所乘之舆赐之。

征君出鲁之疆，对鲁使而言曰：“素闻。先王辩物以章轨，光耀一世。故车服有等，爵赏有度，使诸侯士庶无相渎也。今鲁王之舆，诸侯之器也，而赐布衣之士，渎也大矣。夫礼以防渎，渎则僭，僭则淫，淫则乱，乱则灭，《春秋》之鉴固不远也。诸侯之欲亲上，岂无彝器而必以舆乎？焉可渎也？昔我汉祖翦强秦之绪，而光有天下，封建同姓，割土而诸侯之。鲁得以微福于周公，伯禽以庇其子孙，保其宗庙，而恒有其国。朝觐以怀之，宴享以亲之，锡命以荣之，此天子所以宠绥诸侯者也。然诸侯不能有其民人，食其广土，以述其职事，有封建之形业而无其权命。以鲁国之弱，不于此时躬修仁义，以怀其民神，则百岁之后鲁其为墟乎？而况渎其器以自同于徒行之旅，是失其所载，神弗祐也。夫为士者犹策驴以代劳，况于诸侯乎？今去鲁而出疆，朝历山川，夕犯霜露，士之劳也。若乘鲁王之舆而见齐王，则齐王之舆犹鲁也。齐王以为鲁不能礼而渎之以器，士不能贞而渎之以躬，是轻邻国而耻士，又何达焉。夫天子以舆载命，诸侯以舆载职，士以舆载道，今以载职者而载道，弗可行于诸侯也。子为我辞。”

鲁使返其舆而告鲁王，鲁王叹曰：“齐其得士乎？”

是岁，鲁王俘其弟妻以宠妾易之，君子是以知鲁之不能礼也。

卷 三

待 士

齐王飨征君以牢，次及李玄，为其齐国之东鄙贤士也；次及孔绍祖、鲁玓，为其鲁为齐之一壤也。

左权独耻之，乃据楹而啸，谓齐王曰：“昔者楚赵会兵之际，有按剑绝群，一言而定楚赵之盟者，王以为谁乎？”齐王笑曰：“此非平原之食客毛遂也？”曰：“毛遂为赵之长城，而王轻之，何也？”曰：“寡人闻之，丑女不能冶时盛则变，丑士不能忠恩盛则激。若毛遂者，特激于恩之所感耳，故曰：战国无默默之士，乱世无优优之臣，其是之谓乎？”曰：“噫，何王之怀抱不明也？夫口舌长短之士，使之在定国则默矣；争利怨戚之臣，使之在治世则优矣。孰谓士有不易之行哉？宜王之席臣于末光而不能激也。且夫以齐鲁之士则亲之，非齐鲁之士则疏之，是臣之后于三子宜矣。苟有士产于绝国者，闻王之风而归



之，其视臣犹臣之视齐王之士也，王将何以待之乎？臣与徐渊、张裘、失俊四臣者，皆食客之徒。无重于齐国，恐一辱之后，天下之贤俊必以臣之故而逝矣。由此观之，臣虽食客，未尝不为齐重也。”

齐王有惭色，自是宴飨，齐王独加礼焉。

齐 姬

齐有闾者通于齐王之姬，姬誉其闾者于王，乃使人代其闾职，以闾者能歌舞而美，故得昵于左右。在王之宫岁余，闾者畏诛而避于市，姬以婢索之，谋泄于宫。齐王方与姬饮酒，命姬鼓瑟，姬以目窥于庭，瑟音不和，齐王抚觥而咤曰：“汝有瑟技而宠于前，今鼓瑟而音不和，汝何为者？”

姬跪而进曰：“妾之幸于君王，犹鱼之狎于江海也。江海不为鱼而深其流，君王不为一妾而深其恩。妾之宠寄于瑟，妾之戾亦以瑟喻也。君以瑟之故而戾妾，妾自以为必诛而无悔。虽然，吾君负伯王之器，操英雄之柄，何明于鼓瑟而闾于谋国耶？今全齐之民其不为瑟者亦寡矣。苟鼓瑟可以利民，是罪戾在妾也，不和于民而和于瑟，瑟何利于国哉！和瑟之音在妾，和民之性在君。君诚以妾之宠宠于众，以瑟之和和于民，则妾虽就鼎镬之戮，而诸侯皆以明归君也。”

王曰：“汝欲吾以和民，亦犹汝之和瑟欤？吾虽为东藩，主民无责焉。治抚全齐之民，皆天子有司也。吾是以朝则耽宴，夜则寝，无忧于心，无劳于力。故饮酒而鼓瑟，无事于民。吾欲汝相谐而被于音乐，其宠禄以终吾天年，而况天下一统海内一王。礼乐虽未畅洽，而典刑尚存焉，故诸侯藉天皇以行乐。虽空其国中，而外无敌国之衅，内无大臣之争，此吾所以乐也。若齐民之弗和，固有司责也。今之诸侯朝覲则不得述其职，交邻则不得寻其盟。虽夷狄作难，而诸侯之兵不征，亦以靖诸侯也。吾何为哉？”

姬因泣于王曰：“妾闻诸侯接壤，光辅王室，千秋之后，安知不为战国乎？今亦季世也，权降于下，国无纲纪，灾异纷拏，苛网横鹭？邻国之诸侯，岂无劳心焦思而谋其国者哉？是以周室削而桓文伯，二世暴而高祖兴，故智者不失时而守默，伯者不逆民而从欲，愿君熟计而勿与俗群也。”

征君闻之曰：“吾闻智妇多淫，淫妇多藻，其齐姬之谓乎？”

将 才

有燕将亡于齐，能为云梯之术，善舞戟以好斗，杀二人于燕市，遂奔齐。齐人留之，因进于王。王曰：“寡人非用将之秋也。请却之。”次日复进于王，历试其艺。王曰：“寡人非任将之才也。请舍之。”

燕将耻不得见于齐王，乃访征君于会台。载拜而告曰：“仆，燕之鄙人也，以薄技游



于齐，一见齐王而不能用，仆是以进不得扬于国，退不得耕于野，年二十而无所成名，固薄技之累也。先生以仁义之策干诸侯，齐王礼事之以为上宾，光被邻国，而天下士趋风焉。仆以亡命之徒，不能自饰，窃欲谬附于青云之末，苟得以片时假誉于王，仆之荣也。昔鲍叔荐管仲而霸桓公，萧何进韩生而兴高祖。今先生有鲍萧之明，而仆无管韩之略，所以屡黜而不悔也。仆闻大厦之朽栋，以之削而为椽，则不知其为朽也；高冈之枯竹，以之织而为笼，则不知其为枯也；藪泽之贱士，以之汲而为臣，则不知其为贱也。仆虽抱朽栋枯竹之资，亦可以为良工之一用，愿先生其汲之。苟有小裨于国家，无忘报也。”

征君对曰：“先生之言善矣，如得用于齐，则何如哉？”燕将曰：“仆将以兵术说也，今汉祚不振，夷狄内侵，国无良辅，郡无循吏，重赋斂。十室而九空，炽刑罚，十夫而九怨，何岌岌也。得一贤王而图之，起桓文之绝业，盟会诸侯，以诛奸为名，而尊王室，安兆民，衰则扶而翼之，危则继而兴之，此霸王之权也。今为诸侯患者无他，有国而无土，有位而无民。无土则不能辟其国，无民则不能尊其位。诸侯晏然，以为百世不易姓而化也。故无事于富强其国，不知异姓之夫提剑而步，翦诸侯如决囊。当此之时，虽欲求一锥之壤以为安，亦不得已，而况举桓文之业耶。此仆所以荷戟而寒心也。昔子产图郑而晋不虑其强，范蠡谋越而吴不知其霸。弱不忘耻，小不忘畔，故能保社稷而偃诸侯。今齐国地方千里，限之以岱岳，经之以漯河。南有济兗之利，北有德景之饶。堂邑之战场足以讲武。三面而临诸侯，又多智谋之士，皆拟于盼子；机变之儒，皆侔于晏婴。昔齐王树德而怀仁，务农而讲武，委仆以攻战之任，隆先生以帷幄之责。而国之权在齐王，诛一不轨，曰天皇诛之；讨一淫国，曰天皇讨之，应运而举王。霸不足为也。”

征君喟然叹曰：“宪闻之，天下有道则英雄偃迹而高卧，天下无道则英雄吐气而齐声。由今观之，王室其将卑乎？”燕将曰：“昔我汉祖虎变于前，而创不拔之业；光武龙翔于后，而建中兴之功。刘氏之天下，二祖岂能自为哉，谋臣猛将云合而燹举，被见失策，神慑而鬼惊，故二祖一朝而成帝业。今齐王失土而求诸侯，是何异于失网而求鱼乎。夫王室将卑谓之隆，诸侯无权谓之雄，仆诚所未喻也。何则？王室隆重，而诸侯谋权者必危其身，王室卑，而诸侯无权者必绝其统。今齐王之权何有哉？仆是以知诸侯之不能扶汉也。”

征君曰：“先生有良将之才，苟得志于齐，二年而修武，五年而积粟，齐其霸乎！”

封 禅

齐王将游泰山，问于征君曰：“敞邑有封禅之山，非天子不能举也。秦始以诸侯之国而举之，非僭与？”

征君对曰：“宪也闻之，古者天子巡狩，朝诸侯于明堂，祀群神于岱岳，观民风以布王政，未闻有封禅之举也，不经孰甚矣。天子一日有万务，其勤惕也如是，岂能懈其万务，率之以臣庶，旷之以时月，而侈心于封禅，勤功德于无知之石哉。自古迄于秦，好为



封禅者七十有二，然茫昧而不可述，大抵皆侈心之主也。炎汉重离，我二祖光耀前后，丰功令德不能殚纪其盛，然亦未尝蹈前王之陋规而举封禅。文景绍厥休烈，海内几刑措之风，固盛王素主也，至于封禅则耻之。及孝武即极，玩武佳兵，倾海内之命，运府库之积，而肆伐匈奴。使百姓去家室之乐，而身显功烈之名。致符瑞求神仙，茂举封禅以建荣号，是以汉祚中替，卒不能休隆于前也。历至于今，谭封禅之事者犹昌而未熄，岂非贻谋之虑与？若秦之始皇又何道哉。今以大王之贤，而光济王室可以跨秦而登周也，诚能偃泰山之碑，摧梁父之碣，毁云梦之铭，修明堂之典，以临天皇而招八国之诸侯，是王之显功逾于桓文也。何必慕狂秦之侈心，追七十二君之陋轨哉？”

齐王曰：“先生幸教不谷，美矣，骏矣，雅矣，玄矣。”乃命左右纪之。

留 贤

齐王盍色不能恭礼贤士，征君将行。关吏闻于王，王使五臣留行。姬侍于王之前，以纨掩面而问曰：“君命五臣留行者谁耶？岂非征君为乎？”齐王曰：“然。”姬乃叩头而谏曰：“君能爱士而不能与之谋，若以妾故，是妾得戾于齐之社稷。妾虽菲薄不敢以色蔽士。夫征君，志士也，何君之爱士不如爱色耶？请赐妾以死，无使为诸侯笑。”齐王曰：“汝且休矣，吾将礼而用之。”

明日，谓左右曰：“寡人将筑台以拜士，可乎？”左右曰：“吾闻筑台以积民怨，何士之为！昔高祖拜韩信而兴汉，未闻筑台也。君今倾心于爱士，而骤为筑台之役，吾恐天下之豪杰解襟而怠也。若不得已，或宴之醴酒而宾之，未为简士也。君其宴焉。”齐王晒曰：“然已寡人其醴乎。”左右曰：“今齐民已闻筑台之命，而不闻醴酒。士闻此言，亦展心而疑君也。昔楚威王有宠姬通于闾人，楚王不知也，而庭有鸛鵒寤于王。此事虽鄙，可以喻理。故王言之出不可不密也。”

征君闻之，遗齐王曰：“夫上为天下靖纷排难，而立功于国家者，岂徒受人之爵，谋人之禄而利其子孙乎哉？患不可隐，道不可没，故去一壑之乐而羁于斯也。以士之初心，得天下之贤王，而建明之，何功之不成。然士之所以必俟贤王之礼貌而定去就者，岂饰戒于世哉？士之委身于君，犹女之结发于夫也。礼不具而求媾，则女耻之；恭不崇而求遇，则士耻之。孟子曰：‘君子岂不欲仕哉，又恶不由其道。’夫士，国之干也。木无干则根抵朽坏，而叶无所依；国无士则纲纪陵夷，政教荡然，而民无所附，故贤王之待士，不可苟也。臣闻之，圣哲之处岩穴也，讽以诗书，陶以礼乐，被短褐而不戚，甘藜藿而不悔。故四皓有采芝之歌，楚狂有凤兮之咏，彼岂乐于遗世耶，亦其所处之然也。贤王知其然，隆之以礼貌，养之以厚禄，声色不蛊于其志，谗佞不奸于其心，则天下士亦倾肝胆以报于上，效牛马之劳，履难死节而不辞也。臣虽不才，数奉谒于王之左右矣。今左右无椒兰之谗，而臣蒙不礼之辱，虽给发于贤王而朝夕以心事之，恐四方之诸侯皆以妾妇畜臣也。畜



臣以妾妇，其如贤王何？此臣所以必行而不可留也。汉室告季，王知之乎？权奸弄柄，王闻之乎？臣行之后，愿王其留意焉，无以臣言忘也。臣将游秦楚魏晋，以告诸侯陈王室之故，请诸侯戮力而辅王室，臣之愿也。王其图之。”

是岁，征君入卫。

卷 四

入 梁

征君入大梁，说魏王曰：“今天下之义士皆高贤王之名，贤王何修而致此哉？夫以王之贤，而据大梁以为固。大梁天下之冲也，地盘乎中原，势临乎四鄙；虎牢以为关，河洛以为渠，嵩山龙蟠，二嶂虎踞，名山巨川，高台丽苑，不可胜数，四民之务悉会于此。诚哉，帝王之业也！周以此营，汉以此兴，诸侯虽强，可以四面而制效，大梁之国，天下莫盛焉。今王之贤过于信陵，大梁之士优于剧孟，广武之场，足以练众，葵丘之地，足以盟诸侯，乘此而兴霸，功必倍之。夫贤王固汉室之亲王也，再传之后，必归贤王，坐享富贵之乐，以待其授，不亦美欤？臣闻，王之宴也，楚姬舞于前，吴姝歌于后，赵女鼓瑟于左，秦娥泛箏于右，贤王之乐埒于天子，而又有仁义之高名，此诸侯之所宗也。虽然，臣以为当今之势，不如中叶之盛亦明矣。夫得时者勿息，得士者勿失。故智者料于必然，仁者谋于无形。愿王先必然之料，决无形之谋，而后享富贵之乐，则汉室复隆于贤王也，王何默然而揖让于诸侯哉。”

魏王变色而言曰：“噫嘻，此寡人之所讳也。”征君对曰：“王何讳之为也。今汉室有周赧之渐，齐民有倒悬之危，老氏请于宫禁，胡马牧于王畿。赏僭而刑滥，民凋而师疲，盗贼已相呼于州郡。而英雄未奋者，亦畏吾王之贤明也，王何讳焉？宜急修守战之具，复葵丘之盟，以争雄天下，则上足以扶汉室，下足以立桓文之功，此诸侯之盛节也。今秦晋楚三国之诸侯，其树霸之心久矣，彼皆大梁之雄邻也。此时一失，至王不能掩帷而卧，虽孟门太行之险，奚足恃乎！”

魏王曰：“先生以佐皇之器，临于敝邑，幸海寡人，寡人蒙钝饰栗而不审所谓也。及兹暇日请交榻而谭，可乎？”征君对曰：“臣闻谋密者事无衅，名完者身不戮，臣愿王密焉。”魏王曰：“寡人行此谋也，苟诸侯不从，奈何？”征君对曰：“今为王计，亦不过尊王而已矣。以尊王之名而劝诸侯，何诸侯之不盟；以尊王之名而诛匪臣，何匪臣之不靖；以尊王之名而刘夷狄，何夷狄之不宾；以尊王之名而绥黔黎，何黔黎之不怀。此一动而名实归也，王盍图之。”



图 霸

魏王觞征君于平台。魏王问曰：“寡人之邑与秦晋何如？”征君对曰：“臣方游齐鲁而未及秦晋，不敢以虚辞奉王也。”魏王曰：“然则齐鲁与寡人之邑何如？”

征君对曰：“齐鲁地方千里，犹大梁之国也；齐鲁之山川，犹大梁之山川也。齐鲁以吴楚幽燕为邻，犹大梁以韩秦三楚为邻也；周召之所封，世有余泽，亦犹大梁之所造也。四者无弗均焉，然则王奚不问臣曰：‘诸侯之修德与寡人何如？’而乃以国问也？且大梁之国，贤王得而封之，贤王不得而号也；大梁之众，贤王得而安之，贤王不得而役也。何则？以有国而无权也。无权则政令不出，赋税不贡，是寄之以藩封，而实与禄食之臣一也。昔周之封诸侯不过百里，皆得以有其民神，出其政令，贡其税赋，而述职焉。今诸侯无职之述，故封国之制过于周，而实不及。否则天子之于伯子男，今皆去其壤地，而何独优裕于诸侯也？夫诸侯以禄，故国虽大而不能惠；诸侯无权，故民虽众而不能威。此诸侯之所宜恐也。诸侯宜恐而不恐，宜忧而不忧，如是，非王室之治安则不可。王室危而诸侯不忧，何也？今之为诸侯者，未有若王之贤而愈懈厥德，贤王之足以为盟主，天下士皆已决之矣。贤王诚能阴施仁义，延天下智谋之士，而充其庭。练兵于讲武，屯粟于敖山，而盟会诸侯，以靖王室，扬义声于海内，建丕业于无穷也。以王之贤岂能倚视王室之倾乎。夫贤王为宗国谋也，虽握之以权而不为畔，临之以势而不为僭，张之以形而不为逆，何则？俟其治乱而为之伸缩也。治而不顺，则诸侯之举也，必蒙天子之典刑；乱而不图，则王室之继也，必在异姓之豪杰。此时运与人谋同。而顺之者昌，逆之者殃，不可怠也。臣今得侍贤王于平台之宴，幸无以一觞之宠而忘天下计。”

遂叩头陈谢。魏王避席亦叩头而谢，酒酣，歌《鹿鸣》之章，君子是以知魏之必霸。

辞 爵

征君居大梁三月，国中弦歌而治，有司欲闻于天皇而爵之。

征君谓国人曰：“予向也举以孝廉，辞而不就，今游兹国，岂复求仕耶？苟有仕进，予恶不以孝廉就也。今朝廷之贤佐，有陈、寔、张、李之属；岩穴之洁士有郭、徐、袁、周之徒，皆予善也。吾欲进则必达其志，退则必乐其身而享其名，是进退无累于宪也，而又何眷眷乎？然所以踟桓而不就者，以朝廷之权宠盛而名干衰，宪纪弛而刑辱滥，不数年而王室之难将日至矣。吾宁蹈海避世而洁名于汉廷，以免龙逢比干之辱，不亦可乎。今宪也游谭诸侯，诸侯析节而宾之，不可谓辱也；抱伊管之志，非押非闾，非从非衡，非坚非白，非刑非名，不可谓术也；劝诸侯以奖王室，不可谓谄也。苟王室大坏，而诸侯不扶；羁名者为河阳之召，灭义者为秦政之吞，则予当结居于南山之坡，被褐鼓琴以咏先王之遗风，使诸侯鼓鼙之声无相闻也。昔者周道末，仲尼历说诸侯而不遇，伐木削迹，其困甚



矣。今予智不及仲尼，而无伐木削迹之困，是以私自揣度，而信吾志之必有亮也，若轩冕之荣，何足以警予哉。”

国人曰：“自征君之入国也，农不怠耕，女不怠织，有司刑平而不贪，征君之风一何淑也。今欲捐我而往，必有愤志，一国之众将投命于征君矣，其若之何？”征君曰：“予宪也，何以重于魏哉，国多温民故俗易化，上多靖吏故刑易平，非宪之力也。”言未终，国人为之作康歌。

是岁，魏谨，首山崩，黄河无风而波。征君叹曰：“民作康歌奈山川何，区区大梁，其无以为汉室乎？”

继立

征君人见魏王，长揖而言曰：“魏国，天下之中原也，人民以守之，山川以镇之，自先王以来国无大警，而生民之业日饶，固鼎地也。今国凶于饥谨，民无所赖；山崩而河震，民无所宁，其忧在乎？”

魏王曰：“寡人，王室之叔父也，社稷之安危，寡人共之。今天既敝国，寡人之戾也。寡人虽处中土，不能修德蹈义，微福于社稷之神明，以恐王室。然寡人亦惟是泣血之，故实无有愆于群臣百姓。天不赐寡人以刑，乃饥谨我人民，崩溃我山川，忧患我社稷，荡摇我王室，寡人之显戾不可拯也。寡人有母，结发于先君而生寡人，先君之侧室生寡人伯兄。先君曰：‘侧室之子虽长非嫡也。’寡人是命，先君之侧室亦舍长子伯兄而命寡人，告我先君曰：‘君无以妾之子为长而命以国，使妾有他衅。唯嫡子仲氏立，妾之福也。’先君曰：‘立嫡之命，出吾意也。而议未布于外内，以汝长子之故。今汝以一妇而能礼让且智，吾之内衅由汝熄矣。’遂议立寡人。先君之侍臣谓寡人曰：‘公子可以避矣，如不避必有内言，是难基也。公子其图之。’寡人对曰：‘此吾君之侧室意也，何难之为。’侍臣曰：‘公子误矣。侧室之请，恶知其不以心测君也。君若谢国于宗庙，千岁之后，彼将挟其长子而与公子争，则何如？是挟长以为名，而争公子以为衅也。若让而后受，虽有衅而附令誉焉。且公子不闻伯夷叔齐之事乎，孤竹君以爱易长而命立叔齐，国人疑之；伯夷怨慕而逃盾，国人哀之。叔齐若可以幸国者，乃逊而不与，天下称仁焉。今公子先为叔齐之举，而后伯夷之心，奚不可乎？’有嬖人曰：‘不然，伯夷叔齐皆嫡产也，故能相逊其国而有令名于后。今舍庶而立嫡，其能逊乎？夫公子有申生之贤，而君无献公之惑，侧室无骊姬之谗，公子宴然而居之，至顺也。又奚虑哉？’侍臣曰：‘不然。昔丹朱之于舜，商均之于禹，彼皆异姓也，而犹避焉。今公子虽以嫡庶固同姓也，岂必皆嫡子而后为夷齐之事乎？若骊姬以谗而祸，晋国则献公之为也。当是时，骊姬非特乱嫡也。以弟而侵其兄，而况骊姬之谗得济者，献公在也。使献公死而申生立，虽百骊姬岂能乱嫡庶之名，而致新城之难乎？今君之侧室，其子虽庶，兄也；公子虽嫡，弟也，其名不完，故有后衅。公子以嫡，



则不可避；以弟而逊人，孰不然。是公子有逊兄之名，而不失得国之利，且无衅于后，名全于叔齐，而智高于申生也。’寡人是以行。先君之侧室闻之而忧，告先君曰：‘夫人之公子行矣，君何不闻妾之子不可夺也。意者，君以妾之故而迁其前言乎？不然，何公子捐国而行也。若公子罪妾，妾将携其子而假君子所以赐妾与子也。妾与国孰重，妾与宗庙孰重，妾与公子孰重，妾在而公子行，妾安能一日求活耶？愿君亟反之，非为妾也，为公子也，为国与宗庙人民也。不然，妾虽万死而不足赎君之心，胡可明也。’先君遂返寡人于国。寡人之母不能亮先君之心，又不能以寡人之返国而亮侧室告先君之心，以为中谗也，而侧室死焉。先君有疾，寡人之兄亦不食而死。先君将薨，执寡人之手而命曰：‘汝毋悖戾，祸莫大焉，虽及黄泉，无相见也。吾子勉之。’寡人是以朝夕泣血，一目玷明，固寡人之恶也。今天之为敝国祸，小心畏忌无敢讳也。若王室讨敝国之罪，奈辱宗庙何？”

征君对曰：“王之是心也，足以察庶物而和诸侯乎？虽然，今之灾害，其王室之忧也。忧在王室，则饥馑崩溢，岂惟降于王之一国哉。臣为王道之；夫今之诸侯，朝而不贡，无壤也，故山川之崩溢不必惧焉；贵而不亲，无民也，故百姓之饥馑不必咎焉。王无是职，又何以为宗庙辱？臣故曰王室之忧也。”

魏王曰：“然则列国之壤地人民苟有饥馑崩溢之祸，亦不足以为诸侯忧乎？”曰：“四方有难，则王室忧；王室有难，则诸侯忧。由此观之，诸侯虽无职，亦安得而无忧也，唯贤王密厥志而已。谚有之曰：‘农勤于朝，女勤于宵。’宵必顾杼，朝必望雨，言得时母息也。王其图之。”

桃 林

征君以桃林之事说王曰：“臣游夸父之山，瞰桃林之野，每喟然叹息曰：武王，商之诸侯也，一举而移商命，非篡也，以有道而易无道也。及纣死，武王仗黄钺而不诛，祭以天子之礼，诸侯称仁焉。乃修文偃武，放牛于桃林之墟，归马于华山之谷，桃林者其在于兹乎？夫以武王之贤，当纣之厉，从而畜之，是犹水之赴绝壑，石之下崇冈，孰能御哉。当是时，纣虽欲为一旅而不可得，至于牛马反畜而纵之何？纣以天子而不如牛马也。”征君曰：“贤王以臣言为过乎？”魏王曰：“非也。寡人之于王室，愧不能效牛马之劳，是以不答。夫牛马之贱劳于人，而必思爱畜之。纣以天子之贵，仇于兆民，而不如牛马之畜乎？寡人而今而后知天子之劳与牛马同，故能守其贵也。”

征君曰：“王之一言，可以能图矣。夫为天子而有牛马之劳，则天子益尊；为诸侯而有牛马之劳，则诸侯益强；为大夫而有牛马之劳，则大夫益显；为庶人而有牛马之劳，则庶人益义，此臣所以有桃林之感也。昔虞舜殛鯀而诛有苗，伯禹掘壤而疏洪水，伊尹负鼎而干汤，周公吐哺而求士，宁戚饭牛而兴齐，句践卧薪而霸越，墨翟九拒而存宋，曹沫三败而复鲁，毛遂歃血而楚动，兰生完璧而秦靡。夫以圣贤而有牛马心，故勋德流于海内，



馨香覆于民神，而民至于今不替，是皆效牛马之劳者也。王其劳之。”

魏王曰：“寡人何劳？”曰：“贤王欲固诸侯而强公室，岂必独运其劳哉。尊贤而抚众，宽明而仁恕，不遗牛马。使君子劳心，小人劳力，故君子小人投肝胆于中原，而慷慨谈笑而不辞也。昔秦穆公举百里奚牛口之下，劳不坐乘，暑不张盖，是以树声于诸侯而伯其国，非牛马之力乎哉。夫君视士如腹心，故能显其德；士自视如牛马，故能尽其心。此百里奚所以劳于秦而逸于虞也。今之士岂无牛马之心乎？顾其君之任与不任耳。贤王有强公室之志，而使士无牛马之心，何哉？为贤王计，诚宜以腹心结天下英雄之士，不时举之牛口而已也。如是，则士孰不尽心而奔走于殿下哉？”魏王惭而谢曰：“于此寡人之责也。”

谏 猎

魏王猎于圃田之泽，征君闻而追之，见魏王曰：“贤王欲公室之强乎？”魏王曰：“寡人欲强公室奈诸侯何？”征君曰：“是贤王畏诸侯之张罗而猎其后也。虽然，贤王不欲公室之强则已，苟得奋其志，诸侯何畏焉。今贤王既不能强其公室，而又以微行蔽诸侯，何也？宪闻之，山林藪泽，士之与鸟兽群而栖者也。故猎士则强，猎禽则荒。惟贤王能得其士而失其禽，庸主能得其禽而失其士。夫士，国之雄也，其潜隐于藪泽之间，亦欲望贤王之猎也。今王轻千乘而为此游，将欲猎士乎？抑欲猎禽乎？猎士，则士必振羽翼而争投于王之罗；猎禽，虽鸾凤鸞虞不能益于国也。王何不念贤士之藪泽，张仁义之网罗而田猎哉？昔文王猎于渭，国人皆以文王为猎禽也，而不知惟士之猎。故一猎而得吕尚，天下称明焉。今以王之贤，而不效文王之猎，宜士之不游于国也。”

魏王乃止其田而还。

受 馈

魏王使人馈征君以桑落之酒，征君受而不拜，嬖人曰：“君以敬先生之故而馈之以醴酒，润先生之令德，且欲先生之无忘君也。今受而不拜，岂君之有简于先生而躁其馥耶？仆恐君之敬自兹弛矣，殆不可乎？夫先生，四方之英宾也，不得于兹国则之于他，然诸侯敬先生之心一也，先生事诸侯之心亦一也。苟诸侯之馈先生，亦受而不拜，是敬弛于诸侯而先生卒无所遇矣。夫诸侯之馈，士礼也；馈而不拜，是忽君也。士而忽君，不可以闻邻国，且以暴君之过于诸侯。诸侯亦以士之忽，而笑吾君，其若之何？”

征君乃鼓琴歌《简兮》之诗。嬖人不悦曰：“先生以王人之佐，不择吾君，馆诸敝国，今敝君之馈而及使先生其不能礼矣，何以行道于诸侯乎？”

征君笑曰：“居，吾语汝。夫古诸侯之待士也，宴之以太牢，崇之以师礼，故不以爵禄而浚士。昼则同席，与之肆而议；夜则合榻，与之密而谋。必行其志，无疏之以谗，无旷之以迹，故士能竭其肝胆以忠于公室。宪闻之，天子之万乘可以屈臣庶，而不可以屈



士，况于诸侯乎。周之兴也，贤才辐辏于朝，诸侯星拱于位，故周室强，则诸侯述职而觐天子。周室弱，则天子下堂而见诸侯。夫士之系于国家如是，而可以犬豕畜哉！此宪之所以受而不敢拜也。且魏王之誉于邻国者，以得士之心也，今以犬豕畜士，诸侯孰誉焉？是长衅也。无誉则孤，长衅则乱，公室其危乎？夫长衅而危公室，士孰辅之；士不辅而求霸，犹病者不用医而求愈也。以宪之猥劣不能勉事贤王，以至于简宪，何威焉。子以忽而罪宪，非所以为声也，请以宪言达于王乎。”

是岁也，魏王复猎于圃田之泽，征君去魏如秦。

卜 谏

征君去魏，魏王方田于圃田，命虞人卜之。虞人三卜其田，而告曰：“君之田也，小获而大损。”魏王曰：“既获，而损何也？”对曰：“是卜也，得《兑》之三，其辞曰：田获三狐，得黄矢。再卜得《渐》之上，其辞曰：鸿渐于逵，其羽可用为仪吉。今臣之卜田也，有获狐之功，而非羽仪之美；有渐鸿之逸，而蒙得失之名。夫黄矢，贤士之象也。鸿既举矣，何以羽仪于国；狐虽获矣，何以黄矢为功？由是言之，君之贤士失矣。将无田乎？”

左右曰：“向也，君游于圃田之泽，征君以田谏，今君复田于兹，征君不谏。是征君去矣。意者，黄矢既黄宪乎？夫宪也，以直声动于诸侯，言必符则，行必蹈素，不臣天子而宾诸侯，不求荣爵而安韦布，不谋爵禄而甘薇蕨。怀广裕之度，负清皓之风，遇于时则扬眉若飘云，不遇于时则拂衣若振叶，此许务之耿光，而颜蓬之淑节也。君幸而得之以为宾，国人私庆于市，三月而盗不欺，商旅不争价，郡无暴吏，野无啼民，此皆征君之隐绩也。而君以田故，谏而不从，臣虑其必行矣。君得禽于田，而失士于田，其利孰重？若征君未行，君犹可图也。”魏王不听。

是岁，魏王观甘露于谿，明年魏王薨。

取 谤

初，征君去魏，魏人怨王，流言道路。左右告王曰：“国人有辱君者，请诛之，可乎？”魏王曰：“何为辱寡人也？”左右曰：“辱君以远士，毁而谤者千人，怨而讥者一国。国有谤声，君何以结诸侯。”

魏王悔曰：“辱寡人之故，其黄宪乎？寡人虽无令声于国，亦诸侯爵也。失一士而辱寡人，寡人其不胜辱矣。寡人有失士之过，有惠寡人者，速谏而返之，寡人唯是嘉其能谏，赏其贤，且以绩誉于诸侯。今不谏而遂谤，以寡人是辱，无乃不可乎？寡人闻之，众口归誉不胜一夫之毁，今毁寡人者遍于国中，而又使寡人诛之。免远士之谤，而先诛谤之刑，不亦悖哉！嗟乎！寡人老矣，王室告难而诸侯不辅，非寡人之憾也。”



君子曰：“悔而遁，其无终乎！”

去 就

征君过魏国之疆，周举邂逅于道，而问曰：“自吾子之入魏也，诸侯咸倾耳以纳令声，是子有殊遇于魏王，而海内之士悉欲负策而入魏，此诚展志之秋也。今吾子出魏疆而托于一旅，衣之以敝褐，乘之以蹇驴，弟子七人，童仆二人，执御者三人，萧然于国门之外，何沦落如此哉？意者，魏王之器不足以辅飭欤？今汉祚遭季，权雄角立，贤者屏迹于草莽，以痛王室而观望诸侯。若徐稚砥节于豫章，吾子高步于汝南，周璆守操于乐安，吾子振美于汉庭。今之贤士子其卓矣，而犹皇皇不遇，况绳墨中之数子，岂能学邯郸之步耶。嗟乎！嗟乎！吾子行矣，何国之如。”

征君莞尔笑曰：“甫之所如者，子之所去；子之所去者，亦甫之所如也，又何问乎？”乃扬绥而别，周举挽其袂，怅而不言。从者曰：“夫子将如秦。”

去 魏

征君既去魏，魏人告王曰：“征君却魏而奔秦，必有无礼于魏。请行间于秦王，以疑其心。可乎，不可乎？”

魏王曰：“可。寡人欲执其所主而后间。彼宾于敝国，不告寡人而私纵之，不惟有纳赂之辜，且以导衅于邻藩，而笑同列。刑在先王之明典，不可宥也。”乃命左右执之。

馆人惧而赴秦，告征君曰：“君以夫去魏之故，不闻予君，君将戾仆以仆为夫子赂也，又导衅于邻以为诸侯笑，欲声我以罪戾，加我以典刑。仆其若之何？夫子之令德英谊日夜结于君心，若返驾于魏，陈以去故，岂惟有仆而君亦以弃贤是悔，且无恶于诸侯。夫子亦可以往来于其国，而车马之从缤纷于秦魏之郊，夫奚不可乎？吾闻之，圣哲之出将以仁诸侯而抚百姓，今以一馆人而不能使其庇，仆死之后，恐夫子无所主矣。夫贤者之于诸侯，先所主也。无所主而宾诸侯，人孰信之？”

征君答曰：“魏王之宾也，素无国士之遇，甫之馆于魏也，亦无待人之辱，可以去而不就，是吾裕也，魏王何为？虽然，诸侯之懈德，未有甚于魏王也。色荒于宫，禽荒于田，吾数谏而不听，是窃效官奇之愚，而不为百里奚之智也。幸而魏王无逐客之令，以戮天下士，亮也得以翱翔而逝焉。吾子义不辍矣，子欲吾返驾而就，吾亦何声以辞秦之聘哉？若不得已，唯是牵尺简于魏王，陈吾所以去之故，明吾所以不返之故，宜吾所以假馆无妨于子之故，子必免矣。”乃遣魏王书，馆人归魏。

是岁，魏人求盟于秦。



卷 五

遇 樵

征君入秦，倚歌于渭桥。有负薪者过而问曰：“子何人，斯倚歌于渭水之梁乎？”征君对曰：“甫汉室之征君也，吊古于秦，悲而倚歌，非汝所测也。”负薪者曰：“今游秦之士，接迹于渭桥，不徒游观以为乐也，皆挟策怀珍以干秦王，而士无遗于邻国，秦号为得士。子以汉室征君下临藩壤，使一见秦王，秦王必以子为上国之宾，富贵可立而俟也。子奚洋洋然倚渭桥而悲歌乎？”征君曰：“非甫之志也，故慷慨悲歌以自激耳。宪也岂宁戚之流乎？”

负薪者曰：“吾秦人也，以负薪为职，比秦之名山、广谷、遗基、故苑，吾皆得而樵焉。子欲吊古于秦，以释厥志，吾为子肆言可乎？”征君辄然而仰笑曰：“出于机，入于机，同游于机，浩浩乎磅礴于机，而忘于机。”负薪者曰：“吾恶知人忘于机乎，机忘于人乎，人与机相忘乎？夫机发于无极之原，智者觉之，愚者忘焉。故万物缘机而生，缘机而动，天地如之，而况于物乎。吾与子遇，机也；吾与子言，机也，子以吾为忘于机，而不知吾以子为忘于人乎？”征君不能对，既而曰：“子言秦之状也，宪也愿闻之。”负薪者曰：“吾忘于机，子忘于人，而奚不忘负薪之子乎？”征君曰：“吾始知忘于机者化于机，觉于机者忘于人乎。虽然，吾以仁义为机而得其名，子以斧斤为机而得其薪。薪者得于斧斤而不得于子，是亦忘于子也。而子亦岂忘于机者。”

负薪者曰：“噫，嗟乎！吾与子之争于机乎？钻焉凿焉，而不得其源乎！吾已矣哉，今日暮，重关渭水东流，秦岭苍然，乌愁云木，有庐在焉。请与子偕归，以薪为榻，举瓦觞餐鬼草，聊以娱子怀也。”负薪者曰：“子如不言，吾请言其略，以竦子之游。夫秦，四塞之壤也，虽偏镇于西隅，而国之形势实为天下雄固，帝霸之业也。若夫盘互而秀于南者，则终南、太乙焉；隆隆乎阴于西极而东望潼关者，则华岳焉，东注乎咸阳则泮水之所导也，其境有兰池阿房之宫。咸阳之南，周之镐京也，茫茫四陵，南北相望，秦宫所营泮其郁焉。岂惟泾水之望陵哉。西北临乎豳国，而奕奕者其梁山也。鷗组而苍苍，内有离宫别馆、昆明西陂、犂道纤曲而相属者，秦之上林也。郁然起于零之东南者，有紫阁峰焉，其周之灵台，废也久矣。横亘乎蓝田者，有秦岭焉。霸水之所出，峽关之所镇也。绝于西域，而嫫姚之所开者，其玉门之关乎？环于汉阳而微茫者，其鸟鼠乎。限于北漠之陲，匈奴倚垣而窥者，此秦之长城紫塞也。扞蔽乎朔方，而胡笳战马之所集者，其贺兰之山乎？声下龙门，景入太华而浩荡者，黄河也。积雪千里而瀑布之澎湃者，则太白焉。荆山峙于河，则大禹铸鼎之墟也。若夫太液曲江之池，乐游细柳之原，骊山之温泉，新丰之粉社，



陇山之九坂，长安之章台。又有博望西郊、芙蓉、未央、长乐、建章、甘泉之宫不可胜数。其近而罗列者，皆钟秀于雍州；其远而环带者，皆隐耀于关中也。子之游秦其已知乎？”

征君谢曰：“幸教甫矣，今王室多事，而秦晏然。一日不能藉，虽藩篱四塞，吾恐胡人整步而过蓝关之险，平于九衢太华之限，豁于战场，则秦人安得而峙乎？所以慷慨而悲歌也。”负薪者水啸而去。征君叹曰：“国有隐士，甫已知秦王之不能好贤也。”

洎曰：“此人秦第一篇，文势错综变化，不可仿佛。中兼赋体，读之令人手舞足蹈，太史公后罕见此文。”

待 樵

征君复游于渭桥，待负薪者来。左权不悦曰：“昔者夫子倚歌于渭上，遇负薪者与之鄙谈，今又俟其至，何褻身于野人而失期于诸侯哉？窃以为夫子不教也。”征君曰：“汝未之达乎。吾如秦三日矣，而秦王不闻，是左右之佞者众也。秦王招我以礼，蔽我以佞，则贤主之负薪者众也。吾欲去秦，是揣佞于左右，而忽礼于秦王。议者必曰：‘无故而骤去，非孟氏三宿之意也。’吾是以寄傲于斯乎？”

乃假为渔者，倚梁而钓于渭水之流，有汉使翟酺过而讯曰：“仆久不见叔度，何落魄如此耶？”征君对曰：“夫贫贱者，士之素也。用之则为春阳，不用则为秋阴；达则万钟而不加喜，穷则一瓢而不加忧。故仲尼圣矣，不能为夷吾之霸齐；孟轲贤矣，不能为子产之兴郑。何则？遇与不遇耳。今汉室将蔽，贤士沦落，党锢之衅方殷，权奸之谋已奋矣。有志者其忧患乎！秦以千乘之国，当世叔之季，桓文之功烈可一举而树也。然而玄谋深识之士不集于国，潜韬组策之雄卷迹于路者，岂秦之利禄不足以供天下之贤才乎，亦以左右之谗使之然也。夫秦王，帝室之同叶，而宗盟之首系。不以此时富强其国，阴结诸侯，而扶汉室之危，吾恐天之历数必授于异姓之手，以帝海内，则秦王安得以藩封之爵而传诸子孙耶。吾之游诸侯，为汉室也。使秦王宴然而不顾其后，则士亦佛尘而往矣。吾之不去，尚冀秦王之遇也。三日而无闻，吾岂咎于秦王哉。亮也不仕天子而游诸侯，亦仲尼之卫之陈之宋之所为也。终不获志，则卜居于山林以讽先王之典谟而已矣，岂自同于羁旅之徒乎。”

翟酺曰：“夫秦恃百二之固以轻贤士，其不能为汉室赖也，亦明矣。以子之才，上不臣于天子，下不交于诸侯，而犹偃仰当世，是洗巢由之耳，而负伊尹之鼎也。今汉室之难，发于钩党，此亦诸君子之激也。制群小而自制，不亦悲乎！陈仲举、窦游平、李元礼、郭林宗、范孟博之属皆子友也。今天子方高子之名，盍亦就蒲轮之聘，清朝廷之路，而解诸君子之忧乎。奚必以意气侯王譏笑，轻爵禄而若是忽也。且吾闻之，鱣鲤游于百川，不如江海之深邃；朱鸟游于山泽，不如云汉之高飞；贤俊游于诸侯，不如一王之殊



遇。子其慎所游也。”

征君答曰：“是则然矣。先生独不闻：江海之逝者，不能栖迟于芳藻；云汉之飞者，不能饮啄于清流。一王之遇者，不能诎伸于爵网。名羁之外乎，钩党之议非诸君之忧也。王道坏而重臣危，不可以济。先生其行矣乎。”遂送别于茂陵道。翟酺登车，惘然遥谓征君曰：“时哉，各努力也，于其璽矣。”

诛 赏

秦王闻征君入秦三日不得谒，诛左右之蔽者五人，令国中弦歌以逆征君。秦王侍于宫门，军武执戟，庶人执旗，车马辐辏。观者慰曰：“今日得见征君也。”征君至秦宫，秦王欲爵之，授以冠舄。

征君辞曰：“不可受也。夫先王之爵禄，自畿甸而颁于侯国，太宰掌之，天子不得而私其臣，诸侯不得而私其士。故诏爵以德，诏禄以功，皆天子之明制也。至于衰世，庸王废灭先王之法，爵禄无纪，轨物不经。挟权据宠之家，珠玉以为渊，丹青以为谷，罗绮丝竹之乐交陈于前，亘以长夜。若此者岂皆君之赐乎。卖宠幸于士庶，措威福于人主，无德者爵，无功者禄，百姓怨困于下，而国病矣。人主疑而不能悟，愍也；悟而不能振，弱也。主弱则臣强，强则侵，侵则毒。臣毒于内，则诸侯毒于外。其始强也，亦以爵禄而私士，遂至浸溢而不可救。故势合则战，势分则盟；力合则战，力分则盟；谋合则战，谋分则盟。此七雄之所以相持其胜也。而况当是时以爵禄役天下之士者，皆有国之诸侯，其权可得而爵，其地可得而役，其民可得而兵，其士可得而臣也。然帝秦而为民，鲁仲连犹耻之。是士非不欲臣于诸侯也，无道之国安得而臣哉。今诸侯有位而无国，其势又难矣。无国是无民也，而遽爵其士，士必蒙戮，况诸侯乎。夫汉室虽弱，未有周赧之穷，宜以扶汉室为名而谋其国，则诸侯之业光矣。贤王封千乘之爵，而有万乘之势。士之日夜望秦而驱驰者，亦欲以汉室之故而陈于王也。若贤王有其国，而国之人民土壤皆奉职于王，则士亦不必至矣。士至而爵之，亦不辞也，贤王惟无国，故不可爵一士而使之谋秦。何则？汉室之君臣，犹议礼于庭，而揽天下之地图，颁诸侯之爵禄，建荣号于海内，行赏罚于郡县，而一统之形未剪也，贤王欲谋秦而扶汉室，岂必爵一士乎？故曰：得民之心者不以威武，得士之心者不以爵禄，得诸侯之心者不以山川，亦自得其心而已矣。臣之入秦也，月始受魄。而臣之见王也，月已几望。贤王以为左右之蔽而诛之，求士诚急矣。奈汉室之典刑何也，诛一人犹不可，况其余者耶。夫蔽士不可以为律也，蔽而诛之，使有谗于王者则如之何？不达于王而杀其士，于秦国之境者又如之何？贤王诛左右以蔽戾，荣臣以爵禄，赏臣以冠舄，皆非典也，臣故不受。夫死五人而得一士，贤王何利焉，是以一诛赏而动汉室也。且以迫秦后不可以为盟主。王其图之。”

秦王恍然曰：“然则，寡人为之奈何？”对曰：“虽然，犹可为也。今秦之有司，天子



之臣也，王宜以为情告于天子之有司。声以私进美女之律，盖其罪与蔽均也。令有司亦以其情达于天子，则王之虐必释，而亲亲之恩坚矣。”嬖人史纲曰：“何必然则君之计宜以诛左右之威而收秦民，乘士之归秦而速伯功，倚秦国四塞之险而会诸侯，当汉室累卵之危而布文德，此一时之显名盛举也。五伯之功皆谋于速而钻于机，故名显而功集。今天下初启难也，以诛赏之小瑕而诡掩曲饰以求媚于时，臣恐天下事谢矣，何以达圣哲之权，昭鸿骏之业。窃为君不取也。”秦王笑曰：“何言之易，何言之易。寡人方与征君游礼乐中，恶及兹也！”

是岁，少微见于秦。

盟 会

韩臣将寻盟，秦王问于征君曰：“韩将与寡人盟，何谓也？”征君对曰：“夫诸侯亲睦，以宁其社稷，以怀其人民，使军旅之士不相加也，于是乎有盟之礼。夫盟，信之舆也，诸侯盟会以示好，宴享以示睦，故诸侯贵盟而贱役。大国盟而不役小国，役而不盟弗信，则盟必溃。弗盟则无以彰信也，盟以彰信，故溃盟者春秋恶之；求盟而不直者，春秋耻之。夫求盟者信诈之机也，是故诸侯未盟而战，将以养其战也。既战而盟，将以防其救也。故怠则乘之，衅则动之，窥怠而乘，是吾以盟怠也；观衅而动，是否以盟衅也。以盟怠者，敌必乘之；以盟衅者，敌必动之。故曰：‘信诈之机也，必欲盟，故树之以信；必欲溃盟，故离之以诈。盟而守信者，若葵丘之会是也；盟而守诈者，若河阳之会是已。夫天子与诸侯不言盟而河阳之会，则晋文之守诈于诸侯以侵周室。孔子曰：‘晋文公满而不正，齐桓公正而不满。’此之谓也。今王欲为葵丘之会而树信于天下，则韩之首盟不可辞也。受韩之盟，则诸侯皆响应而盟秦，齐桓之盛复转于今矣。不然，则诸侯背秦之心犹韩之盟于秦之心也。韩之土壤，秦不能过；韩之山川，秦不能过；韩之谋士，秦不能过；韩之人民，秦不能过；韩之精兵，秦不能过；韩之车马器械，秦不能过。夫以不能过之韩，而求盟于秦，固天以葵丘之烈赐贤王也。王其盟之。”

秦王悦，遂与韩人盟于锡谷。

琴 论

征君燕居，中夜鼓琴而歌《幽风》，秦王使左右伺之，通于馆人。馆人觉，私告于从者曰：“子之师也，鼓琴咏歌其声铿铿，然是歌也果无心乎？”从者对曰：“夫心以生声，声以成歌，歌以惕志。若夫子之歌也，何谓无心。”馆人曰：“然则所谓歌者，何诗也？”对曰：“《幽风》？”曰：“奚取《幽风》也？”曰：“《幽风》，王化之纪也。夫子思周室之隆治而咏歌焉。秦其望矣。”曰：“无刺乎？”曰：“鼓琴而音婉以和，歌《幽风》而声嘹以舒，又何刺焉？”馆人谓秦王之左右曰：“先生无劳，窃也请复于君，可乎？”



左右返。征君理琴顾从者而言曰：“吾鼓琴至《幽风》之乱，琴不起，必有疑者感之，其秦王乎？”从者对曰：“馆人哉！”征君曰：“馆人何为而疑也？”对曰：“馆人闻夫子鼓琴而歌，卒尔问曰：‘铿铿者歌其有心乎？’弟子应之以心。又问曰：‘何国之风？’弟子告之以幽。又问曰：‘有刺乎？’弟子告之曰：美。是以知馆人之疑也。”征君曰：“甫有心而鼓琴，君无心而疑琴，琴亦应吾以疑滞。吾以情何感而至此哉。嗟乎，夫人寄于幻化，有有心者，有无心者，有有心而无心者，有无心而有有心者。无其所无而未尝无，有其所有而未尝有，无亦疑也，有亦疑也。疑则机也，机则感于机而应于机，机之流于物也。无一无万，无巨无杪，无远无近，无阴无阳，鼓舞化育。若知其存若风之，噫嘘而物窍皆鸣日之照临，而物状皆朗。不行而赴，不疾而驰，此之谓机。故禹产于石英，契产于燕卵，颡皇悟于鸟迹，传说报于梦寐，乞人哀而感申喜，介子歌而泣文公，瓠巴鼓瑟而鱼出，鲁阳挥戈而日反。其有心乎？其无心乎？其感于机乎，其应于机乎？今吾鼓琴而馆人疑，馆人知也，吾弗知也。馆人疑而琴蹇，吾知也，馆人弗知也。吾是以有感乎物机之变易，如馆人之疑而触者亦多矣，小子识之。”

从者出告于馆人，馆人异其所言，入曰：“夫子鼓琴于堂，而有琴站，以为仆疑也，夫子殆得其疑而失其人乎？”征君曰：“此弟子之言也。”馆人曰：“否。顷有秦王之左右二人伺夫子于牖外，以犯夫子之琴，此左右之疑也，从者其误矣。”夫征君抚琴而哂曰：“左右之伺王命也，则疑在秦王也，于左右何疑？夫疑，鬼之门也，明神之庭也，吾闻君子去疑而存明，未闻汨明而畜疑也。故君子遵礼乐以昭明其心，远淫邪以昭明其性，躬政事以昭明其动，辩忠佞以昭明其志，济莠独无告之民以昭明其德，犹惧其未广也，察诽谤以昭明其过，纳谏诤以昭明其虚，修蒸尝以昭明其敬，光庇国家以格于上下神祇，是以世享其荣，子孙必兴，此后稷文王之所以光裕也。秦王以汉室之子孙贵而无辅，富而无民，恃大而不修德，疑士而不谋政，后有兴者亦始皇二世之为也。惜乎！吾不得见左右而论于王。”

馆人出，从者侍而问曰：“夫子何屑与之论大道也？”曰：“吾闻君子无傲，以傲而陵人，人亦侮之；以傲而陵君，君亦贱之；以傲而陵长，长亦击之；以傲而陵弟，弟亦狎之；以傲而陵友，友亦远之。是以替名而扞善，身必戮焉。吾知免于今矣。”

燕 居

征君燕居，与七子讲业，七子问曰：“孟轲、孙况之后，由道者可得而闻乎？”征君曰：“道，人之路也，愚夫愚妇皆由之，孔子盗跖皆由之，何谓无道？”曰：“是路也，非道也。以路而为道则可，以道而为路可乎？以道而为路则亦指仁义而为尘埃乎？”曰：“汝何以道为道，以路为路乎？吾观其由于人者云尔，夫路也者，缘仁义而名者也，非缘路而名仁义也。汝知仁义之非路，而孰知尘埃之为道乎？知尘埃之为尘埃，而孰知仁义之为尘埃乎。天地庶物皆尘埃也，则皆路也，安得不谓之道路。故君子仁义以为路，是亦仁义以为



尘埃也。仁义以为尘埃，是亦尘埃以为道也。道衰于春秋，亦隆于春秋。若孔子及颜渊、曾参、子贡、蒧蒧、季札、子产是已。道熄于战国，亦鸣于战国，若孔伋、孟轲、墨翟、列御寇、庄周、荀卿是已。其余嗷然嘘其术于当时，以立一家之言者，殆不可纪。若邹衍、虞卿、慎到、山环、关尹喜、庚桑之徒，皆显名诸侯而列儒者之林，使孔子出必取而裁之，以纳于道，虽商鞅、苏秦、张仪、公孙衍、申不害、韩非之流，其学不出于纵则由入于横，不入于刑则出于名，驰其辞辩议以颂诸侯而坑天下之民，然数子者，亦皆辩慧博闻之士，使其游于孔子之门，孔子必不拒。盖辩慧者，考业之资；博闻者，达性之涂也。如是则仪、秦无纵横，而韩、商无刑名矣。夫人之性不相远也，其质饶以懿，而文之以诗书，闲之以礼义，则性成焉。放性犹璞也，不琢则不成。今夫对藪之人多鄙，市井之人多媚，非理也，其习使然也。性固无间于藪藪市井之人也。故循其习之谓情，宰其情之谓性，因性而导之谓学。不因性而学是助傲而饰巧也，何取于学？故博学而无礼，君子以为求性之泛礼者，所以规厥性也。学而礼则令名昭焉，名昭而辱远矣。故居上而能靖，居下而能默。世有遽墨氏者，则以为陋；有慕庄生者，则以为僻；有谭荀卿者，则以为曲。噫。三子者无盗跖之行，遵仁而处，遵智而达，遵礼而动，孔子之所必取也。互乡之童子无异于市井之人，孔子犹与其进，而况于三子哉。故曰：世俗不可与论古，拘儒不可与论道，其是之谓乎？”

仙 论

秦王好仙，将筑台于宫，以望终南，征君谏曰：“不可。夫有国者，将以远欲而亲民也。故封建一国，则一国之民赖焉，不敢弃也，民亦不能弃其所牧而求治于邻。故天子远欲以亲兆民，诸侯远欲以亲百姓，百姓怀之，是以能有其国。昔者太公封于齐，而齐民颂；周公封于鲁，而鲁民说，以齐鲁之民获其所赖也。今贤王受先王之遗业，而为秦之诸侯，几二百载，而百姓日蕃，田野日闾，死难效节而无离心者，岂民性之本然哉，亦为人牧者有以扞城其民也。

臣始入秦之境，野无肥民，市无丰贾，乞者载道，仓廩不殽，臣疑以为无诸侯也。及贤王得臣，百姓欢悦，咸望臣之吐忠而谏也。臣愧不能有益于秦，而贤王亦亮臣之不能忠于前也。故欲筑台以求仙，穷观于华岳，骋望于终南，而为远民之举，以彰其欲。何贤王之勤劳若此哉，臣窃以为过矣。昔燕昭王欲致天下士，欲民力以筑千金之台，燕民犹病之，况筑台以求神仙乎。

夫仙者非臣非民，潜于山泽之间，垢衣应形，饮水食草，得山泽之精以延年保身，穷莫甚焉。黄绮曰：爵禄不及，而窃呼吸之术以自荣者，世之所谓真人也。虽卧薪不足以喻其穷，尝胆不足以喻其苦，左无吹箫之妾，右无鼓瑟之姬；珍羞异膳不得陈于前，文武侍从不得列于后；播弃父母，割绝子孙，不表于卿党宗族，此海岛之鬼群也。由此观之，绮



隐于商山以结为名，其论神仟则耻之。故当时避秦之士，往往皆明忠信、树廉耻，识君臣之分，审出处之节，如黄绮者亦良可述也。彼岂沦于神仙哉。

今贤王捐千乘之乐，而为此游，以自悴其身，孰为利乎？夫为百姓而筑其台，虽劳而不怨，弃百姓而劳民，民孰劳之，是筑怨也，社稷之神不福焉。

昔我先王建国，伯子男皆无封壤，唯诸侯是亲。今秦以如绳之国，自贤王而绝之，无乃不可乎。嗟乎！贤王特不谿云尔。崇爵丰禄亚于天子，雄藩沃壤，据四塞而谁何，贤子孙世守其业，虽值乱世而不与王室同危，且足以树霸。若王运在，又可以兴其延年也。如是何希乎乔松，何慕乎韩蔑，寂寞而枯槁哉。彼且悔之矣，贤王复希慕而为之，是使松乔韩蔑延领于穷谷，而笑贤王之不智也。臣愿王罢筑台之役，以为人民社稷计。”王不听。

是岁，秦饥，匈奴寇潼关。天王使中尉采金于秦。

党 锢

曹节乱王室，秦王问于征君曰：“王室有党锢之难，何为其然也？”征君对曰：“仁哉问乎。夫豪杰结难祸及于国家者，岂一朝之故？当其负天下之骏望，则人主倚之以社稷，孰不以为豪杰庆，而不知发难之端亦萌于兹矣。自甘陵之党兴，天下已知今日之祸。若陈蕃、李淑、李膺、窦武、张俭、郭泰、范滂之属，一时号为三君、八俊，名莫盛焉。而窦武、陈蕃以执政为朝廷重，说议合如响应，忠谋奋如疾霸，然诸相许，确如太山，其自负也如此，而竟不就。故名显而望隆，君子之幸也。小人因其名而乘之，其难愈激而不可解，以至于危国家，可畏也。

先闻之，豪杰之出，必有英毅明懿之君，以成其志，则谋裕而不激，功顺而不挫，以辑定社稷，民人以宁。故舜不遇尧，则欢兜不能放；周公不遇成王，则飞廉不能戮。今数子者无舜与周公之遇，而为此谋，不亦哀乎！夫治世则阳明闻，而小人为泥沙；乱世则阴浊滥，而君子为鱼肉。今王室无纲纪文章，使豪杰弄于群奸之手，海内涂炭者十有余年，是威福移于下，而主权不明也。故豪杰锢而为党，罪以危社稷之名，岂天道也哉。若数子不死，犹可以镇王室，不然，诸侯不能高枕于藩篱之内矣。夫彼以小忿而搆大难，钩党之变，臣其寒心。天如祚汉，锢贤者必诛，仇民者必戮，正其典刑以舒直亮忠贞之士，则王室之隆，若振翼也，何为而使其幽愤哉。自李固、李乔不得伸于前，致党议不得明于后，臣以消息之势观之，必不免矣。悲夫，以王之贤伟当千乘之国，而失高枕之安，此臣所以为贤王患也。王宜以诛节等为名，盟集诸侯，肃清王室，培植善类，善活苍生，改元以新天下。若王上不从，则周公伊尹之举在贤王也。臣窃念安帝之世，内戚用事于朝，诸羌横驰于郡国，天下咸怨。然帝有好贤之明，常以礼币征天下孝廉之士，臣亦与焉，犹以为未可仕也，故辞而不就，淹诣于今。主昧臣虐，国命大谬，善类盈朝而无尺寸之功，徒以清誉激扬。而问画者盖寡，竟罹祸难，臣实痛之。今党锢纷纭之际，犹可援也。贤王为王室



计，奋然速举以延汉祚，则臣虽不得仕汉亦足以报矣，王其图之。”

秦王感慨，泣数行下，左权剑歌，以挑秦王。歌曰：“西溟有剑，其离照之，可以熏黔黎。”秦王于邑而言曰：“寡人寤矣。征君，寡人师之；子，寡人友之，将协谋以辅王室，不敢避也。”左权对曰：“征君入秦二年，以心奉于王久矣，而王方悟耶？今天下之诸侯，皆欲以首盟为功，以靖祸为劳，以得士为强，以收民望为张，而王不闻，何也？”秦王谢曰：“系子之幸教，寡人其利普哉。”

左权出语秦人曰：“吾数讽秦王，而王不谋，虽得征君亦不足乎。”

见 几

陆续追师至秦，谒征君，而喜曰：“续也得师矣，愿终身受业焉。”征君问曰：“子见元礼乎？”陆续答曰：“嗟，与元礼去国矣。”曰：“党难解乎？”曰：“霍子之力也。”

征君叹曰：“虽然，闾寺执政，直臣必危。元礼之去其能久乎？吾尝与林宗论汉室之事，忧形于色，移榻不寐，独何心哉？是以坚不仕之，意遂山藪之乐。林宗与吾偕是心也。彼犹择交而奖训，故及于党。若宪也，无誉无毁，潜葆厥素，躬料以养妻子；鼓琴读书，以训来学。有兄伯庸，哭母失明而亡，吾独废冢三年，遭汉不靖，佞臣窃权，匈奴称命，惠政不沾子民，敛术结网于国，吾是以坚志而避世。及读孔氏《春秋》，尝曰：‘仲尼之道，至作《春秋》而尊也，知周无盛王，不可以辅，乃历说诸侯以行其道。得志则摄相事而诛正卯，不得志则权衰贬而作《春秋》。吾亦乐仲尼之道。周汉之东皆季世也，故考风于列国，闻政于诸侯，诸侯不以为贱而宾之，岂爵禄以臣而凝滞于进退哉。吾始游齐、鲁、韩、魏之诸侯也，四君皆爱士而不能谋，盟会而不能信，将如晋而国有警，乃遥涉于秦。秦王明毅而好问，分禄而养贤，积秦之粟，盟诸侯而扶汉室，疏党锢而清王涂，诛谗佞而抚黎庶，却匈奴而歆社稷，则穆公孝公之业不足为也。今闾寺执政者二世矣，党锢虽释而主疑未愈，何以熄衅？若数子不为逢梅之举，必为后忧。孔子曰：‘邦无道，危行言逊。’数子其未从事于斯乎？”

是岁，秦国地震。大雨雹。

上 林

有五色鸟集于上林，秦王喜而问曰：“寡人享西土之禄，未有功德于敝邑之百姓，而致珍禽，寡人以为风也。不然，则太液之池非无凫雁鸕鹚之鸟，上林之苑非无鸚鵡翡翠之禽，奚五章之若斯也。寡人闻之，西方之风曰鸛鹠，意者其鸛乎？若以为然，寡人将发私廩致百匠以修上林，则何如？”

征君对曰：“吾闻淮南有鸟，其名曰鸛；南越有鸟，其名曰翠，皆五色也。昔者，文王为西伯，修德行仁，泽被南海。是时也，有鸟鸣于岐，名曰凤凰。百姓陈路而歌，群臣



埋庭而颂。文王曰：‘奚为风乎？是尔臣庶饰其所闻以重予过。’夫以文王之懿，而让岐山之鸣，却臣庶之颂，慎懈德之愆，是以光昭于西土，恩怀乎诸侯，而为受命之主。世载厥休以茂，有天下则文王之为也。今王之心度不类，然臣恐指鹿为马之臣复献面于秦庭矣。夫上林苑，秦之广图也。我汉祖灭秦入关中，三望上林之苑而不入，岂复畏秦之余威哉，亦项氏以为忧也。至孝武皇帝，始凿昆明之池以习水战，民不得休息，而天下大困矣。然犹赖文景之遗泽也。及世祖迁于东京以来，上林遂为废苑，今欲兴之，非帝王之业不可。虽然，敛四海之财，发百年之粟，竭百姓之力，以修亡国之规，仁者不为也。且以供子孙盘游之乐，为二世窃笑，是秦之民又黔首也，不亦悲哉。愿王察臣之言毋忽焉。”

秦王乃止上林之役，左右因是以嫉征君。

观 雪

秦王与征君饮，观雪于庭。有姬卧貂帷，赋《白雪》之歌，起而觅瑟不得，倚帷而咏之，声绕殿阁，积雪倒飞。秦王甚异之，乃鼓缶而和，命左右以觞进征君。征君曰：“王亦止缶乎？”秦王曰：“何谓也。”曰：‘夫物不可过盛，音不可过扬。过盛则亢，过扬则淫。今王之缶淫矣，不可鼓也，臣是以请止之。’”秦王曰：“嗟乎！先生欲以寡人之姬喻，是寡人有淫姬也，于缶何有焉？”遂不悦而罢酒，左右附秦王之耳告曰：“王请烹之。”秦王曰：“烹一士而动诸侯，不可谓武。”

征君佯醉而出，秦王解白狐裘赐之以御寒。征君谓李玄曰：“秦未可去也。”

污 吏

弘农太守金垣虐，郡人怨之，讼于秦王曰：“金垣之守弘农也，残虐日甚，阳廉而阴贪。嬖者五人，嘘于左右，借威行奸，贫富有讼必以赂而后达，有未达者则以声劫于讼。幸而讼理，则曰是予力也。夫一室而树私门者百出，一守而舞文墨者千人。故民有立锥以为安，则倍其地而结讼；货殖以为贍，则隐其田而调役。贫益贫，富益富，虽积尸于囹圄，委命于沟壑，而不闻也。是以饮愤怀冤赴君之门，而愆左右以求直，如是者三矣。君之仁恕，戴之如慈父，君之明懿，仰之如日月，西土之民咸赖焉，岂惟一郡哉。我皇天命有司抚摄西土，将以裨君之劳，询民之欲，以自靖也。今虐下而仇众，素禄而养位，宠嬖而行私，夤缘而钓誉，不受君之明仁，而肆然为民牧，是蔑君也，君奄有西土，而威不加于一郡，以剪虐除残，窃恐远迹雷同，国如空舍，而君其孤矣。何以示强于邻国耶？为弘农之民而愆其父母，固罪也，然隐忍而不言者亦多矣。君其先循良之察，而后诽谤之诛，无悔也。是以朝夕待死于殿下，贱臣唯命焉。”

秦王得其讼而怜之，乃命左右按其郡太守金垣，坐赃下狱。其妻素淫，乃诈为嬖女以千金赂秦王之左右，左右有通之者，是以得入宫闱，有宠于秦王。王欲释之，不知其为太



守妻也。是时，有汉使至秦，秦不礼汉使，以其事闻于朝，罚秦王之禄二千石，事竟不释。太守及左右犯法者，皆徙于边郡无赦。

是岁，紫微山崩而移。君子曰：“汉室不久，天下其方崩乎？”

三 军

秦初作三军，征君上秦王书曰：“臣闻王之作三军，窃以为骤矣。夫诸侯抚千乘之国也，五年而修德，三年而勤政，二年而修武，故功施有渐而民不劳。今百姓未宁而遽作之。诸侯未盟而先动之，衅必壅于秦。昔者文王以百里之壤，修令德而创王业，况千乘之大国哉。夫文王之抚岐邑也，薄其赋税，弛其刑罚，矜恤鳏寡，怀保孤独，扶植声誓，宁辑离散，必兴之役不及贫弱，无赦之罪不及子孙，仕有贤嗣则禄之，山泽之利有不贡，则疏之，安则同其乐，患则同其忧。是以王业隆而颂声作，狱室空而不闭，田野密而相闻。市无啼老，道无斗民，和气昭而四时宁，诸侯归仁焉。

今贤王治秦也，分禄于宗，解裘于士，赐食于左右，威畅于弘农；罢筑台之役，纳远人之谏，慈惠而毅恭，彰彰甚矣。然仁泽未沾于四境，纪法未布于一国，能使弘农之民负坚荷锐于前，而不使举秦之民抱饥寒之困而驱驰也。是三军之作，其三衅乎？昔晋文公纳襄王于周，以示民义，伐原以示民信，大蒐于被庐以示民礼。然后作三军，伐曹卫，出谷戍，释宋围，败楚师于城濮，遂霸诸侯。今欲用其民而去礼信，何三军之作也？

贤王若修德而勤政，以保义王室，苟王室可辅，则委力以事之，而不为诎；王室之难成，则据秦以图之，而不为篡。何则？以同姓之贤王而假臂于涂人，使诸侯乘于蕃林之上，蝉饮蚕食向西枝而流慨也。当此之时，秦之三军徒足以为诸侯资耳，安能重于秦哉？

臣之在秦，无所匡益，夙夜忧惧，悬心如钟。进不得尽言以规王，退不能豫谋而越众，臣窃耻之。虽然，贤王亲草莽之疏，加不次之遇，臣敢不殚厥心以报贤王乎？夫秦之所欲盟者晋也，以晋之强而盟于秦，并力以树之，则诸侯之雄固已在秦矣。秦不盟晋，是失诸侯之雄也。臣闻之，诸侯同盟则听于士，诸侯同劳则听于民，诸侯同德则听于天。欲晋之盟，秦非臣不可也。晋警方戢，臣将说其贤王以结秦之心，王勿以臣为纵横之士也。王室凋薄，不能以德庇诸侯，诸侯亦不能以力辅王室，故历说四君而及秦晋也。秦晋能相结以信，相树以德，徼福于文武成康及我高文武宣之明烈，如是而作三军，绥百姓，制诸侯，一海内，其孰御之。愿王追伯岐之政，绍居镐之业，则汉之天下非特卜年八百而已。贤王其熟计焉。”

秦王感悟，遂罢三军。

去 秦

秦王送征君于渭桥，冠盖载陌。秦王觞而言曰：“征君之交盟于秦晋之鄙，若媒之导



于婚姻乎，晋若不礼，征君其无违寡人也。”征君曰：“臣不能以报秦，而在晋则可以报秦，在晋而不报，臣亦不能以秦而报晋，是臣之复与不复在此游耳。臣有弟子八人，皆能显诸侯而镇国家，固霸佐之才也。王如惑臣，臣弟子有陆续者，使之事王，则何如？”秦王默然久之，曰：“寡人将聘之。”对曰：“续也，今日在王之左右而又聘之，何也。”秦王笑曰：“寡人所欲者，诚在征君耳。征君不自用而进陆续，何重于晋而轻于秦耶？”

征君不悦曰：“宪也，乞食于秦，二年未尝重秦也，今又进陆续于王，亦未尝轻秦也。王必欲得臣以为秦重，则王之左右贤于臣者众矣，而王以为轻何也？臣始入秦，有负薪者观于渭之梁，臣与之议，如探九渊，其际无有。夫以一负薪之士，王不能屈而用之，而况臣不如负薪者，反欲重于秦，恐秦人之窃笑非特负薪者而已。且王不闻陆续之贤乎。续也尝以孝廉之名为诸侯重，岂轻于一秦国哉。爱士而不能用，重土地而不能谋，是徒知士之重于国，而不知国与士之均重也。士怀珍而待价，修名而待聘，不亦重乎。唯自重其器，而后可以重人之国。王必欲用臣，是不亮士之所重也。虽然，王不以士之所重者重，而士不以王之所重者轻。由此观之，士不能轻重于秦也。亦唯是信与不信耳。故伊尹在夏则轻，在商则重；百里奚在虞则轻，在秦则重。今秦之轻重在王也，臣与陆续何有战。”征君遂行。

卷 六

适 晋

征君适晋国之疆，匹驴小车四乘。征君驱驴，左权御之。七人以车，周岑、陆续后，有寇追，续谓岑曰：“前无尘，不能及矣。遇寇吾与子何？”周岑曰：“命也。”既而寇至，欲攀车而取笈。陆续告曰：“笈无赆，有夫子敝裘在也。”曰：“何谓夫子？”曰：“汝南叔度。”曰：“非黄征君与？”曰：“然。”曰：“则吾不忍俘也。”反以囊金一斤为赆以馈之，受而陈谢。寇去，周岑谓曰：“受之义乎？受而谢之，礼乎？”曰：“颠沛之间不能辨礼义也，姑受之以谢。”

暮赴于关，征君待而问曰：“来何迟？”曰：“阻寇”。曰：“无伤乎？”曰：“赖子不伤也，且有赆。寇馈不可谓赆，女受之乎？”曰：“非所殖而馈受，奚不为赆也。”曰：“然是诚非殖也。”朱俊曰：“吾闻寇以御人，未尝以馈。若寇者馈人，是不御也。虽然，充御人之心，二子其不免乎。彼以是心而犹馈，岂以为非殖也。且其所馈者，以子馈乎？以名馈乎？抑馈以义乎？馈以义，焉往而不受，馈以名，胡可受也。若以子馈而受之，子亦无报之云乎？受则必谢，子亦无揖之云乎？不报则受之心，不如馈也。不报而谢之，是感子以信而应若以伪也，殆不可与。”陆续曰：“于斯时也，彼以其馈至，亦恶测其御人之心乎？”



孔子曰：‘人洁己以进，与其洁也，焉保其往也。’今寇也不御而馈，是以馈洁，奚而不受？却馈而受其洁，无及自伤乎？受而报礼也，受馈于寇而报之，非礼也。不可报而谢之，夫奚伪？”

征君曰：“俊乎言，厉而矫可以扬乎治世；绩乎言，婉而恕可以免于乱邦。吾其试矣。”

逆 旅

征君过河曲，晋人不识为征君。有酒徒数十人偶语于市曰：“皇皇九旅，一何寒也？”左权谓晋人曰：“夫子假道于此，有司不闻，汝莫以告，偶语者何也？”晋人曰：“何夫子为？关吏猛而容人，是若之幸也，岂复闻于有司乎。有司不能待寒旅也，让我以偶语酒徒之性亦将肆矣。”左权叱曰：“汝以百夫之众，挟酒徒之名，而摇乱一市，何有司不汝戮也？”

晋人怒而捕，有解衣而求斗者数人，呼于市曰：“先捕驴上之子乎。”左权以身翼之，乃与左权斗，左权举商人之栋木二丈，横行于晋人之国，晋人皆靡，遂分道而去。

有司已闻征君至，出郭追之，征君使左权谢曰：“夫子远矣，不可淹也。以晋王有敦聘，故遥涉乎冀壤，假道于令邑，夫子欲下车而礼，以征服故，是以不敢相达，且无费明宰之腆惠也。”有司曰：“某之守是土也，无令誉于百姓，是以聚为酒党，以暴吾恶也。征君其无警乎？”乃再拜谢罪，馈黄金百斤为贳。左权辞曰：“夫子有命，请复之，权不敢专也。”遂不顾而行，以其情告于征君。征君喜曰：“才大而不仕于乱，智也；从游而忘劳，恭也；力举梁木而不闻，淑也。权乎，可以使蛮貊矣。”

伤 时

征君见晋王，王曰：“寡人扫敝国以待夫子久矣。千里而至，得无劳乎？”征君对曰：“臣闻贤王之求士也，内有侧枕之恩，则外有载质之勤；内有岌岌之忧，则外有皇皇之望，其相求之殷然也，岂惟士之劳乎？今贤王五聘臣而臣始至，是贤王之恩士甚于侧枕也。臣之在秦，闻晋鄙有强胡之难，而士不至。是贤王之忧士甚于岌岌也。王若以晋难既辑，而未有暇用士，则臣之劳又甚于王矣。虽然，晋犹未靖也。长城若颓堵，雄关若敞瓮，虽以四塞为襟，而烽烟之警，每举衽席之上，岁无暇日。且地瘠于芜莽而不知屯，兵弱于私役而不知战，马疲于驱驰而不知畜，将委于执政而不知廉，财困于空帑而不知信，武玩于俘虏而不知取，是故以晋国之强临之，以贤王之略镇之，而不能安乎？四境之外，亦以汉室有此六蠹也。夫六蠹在汉室，而独为晋忧者，亦胡虏为之冲也。其次则秦及之，秦人是以日夜登垣而窥晋。由此观之，秦晋固唇齿之国也。唇亡则齿寒，齿寒则唇压。今秦方以晋为唇也，而先有寒齿之心，故谄练巢艺之士招延于国而谋，习以备胡。秦王一夜而三起，茫如



觅遗。臣尝与秦王卧，悬烛殿中，秦王以衾拥臣而起，失其一袜，欲管其左右，及索之，二袜贯于一足，其急也如此。是皆晋之所宜用心也，而秦先之。晋又嗜然而不备，臣恐秦将取其唇而护其齿，无乃为王之愁而百世之辱乎。为晋之计，亦唯以秦之心谋于晋，则晋可鼎足而定也。而又有扶汉室之名，则晋文之功烈由此举矣。王其图之。”晋王曰：“善。”

谋 国

匈奴寇雁门，晋王忧，问策于征君曰：“晋邑荒矣，其何能扞且不可守也。先生何以教不谷？”

对曰：“臣闻大国无备，虽圣人不能树功；诸侯无权，虽谋士不能定难。今晋国之壤地，臣以为贤王未有也；晋国之人民，臣以为贤王未有也；晋国之守令，臣以为贤王未有也。此三者，王皆无之，而又为晋之诸侯，何也？如是，则贤王虽欲强国而防胡患，不可得也。夫雁门，晋国之巨关也，而王不能闭，匈奴之患则共之；三军之众战于晋之鄙也，而王不能制，匈奴之患则共之；三军之饷运于晋之边也，而王不能殫，匈奴之患则共之，是名附而实离，诚晋之所独忧也。臣何策焉？或者，其盟于秦乎？王若修政亦何盟之为，然盟亦诸侯之所赖也。王欲谋晋而亲秦者无他，尊汉室而已矣。秦晋既盟，则以身荷其国，而陈情于天皇，以塞佞臣之路，求庇民之托，乞备边之权，而陈以必然之故。然后阴惠可民，则民乐为用也；崇礼于有司，则有司乐为誉也；向士而尝胆，则士乐为谋也；临军而分士，则军乐为役也。垦其芜壤而使之耕，鉴其重池而使之溉，收其牧苑而使之畜，柔其商贾而使之业，饰其兵甲而使之震，熟其战陈而使之奋，舍其老弱而使之安，拔其锐卒而使之厉，尊其谋士而使之忠，以汉室为之倚，而谋晋国，以秦为之应，而制匈奴。比翼而治，则晋国皆王之有矣，又何忧乎？”

晋王再拜稽首曰：“寡人闻命，惜乎力不胜也。”曰：“王馁于是乎？王勿馁也。臣观天令，胡运必兴，悠悠汉室，将为墟乎？麦秀之歌，臣又闻箕子矣。”晋王怆然而泣曰：“汉移斧柯，奈寡人何？”

是岁，黄巾乱。

洎曰：“黄叔度与晋王论经国大体，虽伊、管之志不过是也。惜其生于汉季纷纷之秋，虽尝以孝廉举，而经济之学曾不少见于世，徒托诸空言。当世诸侯王皆坐视汉室之乱，亦莫能展叔度之志，悲夫！”

防 胡

晋王与征君宴于平胡楼，晋王叹曰：“茫茫胡壤，黄河其波，翔风举砾，当关者何？寡人守此敝邑，能不悲乎。”征君避席而对曰：“臣窃以为王之徒悲耳。昔太王居邠，狄人



寇之，事以皮币，犬马犹不得免。今贤王无以事敌，而欲免其患，臣见晋国之日盛也。夫胡虏入寇，寇王室也，而实有寇晋之名，贤王亦何辞焉。且王不见夫鹞之追雀乎，翔薄于霄际而下视其雀，雀仰睹其鹞之追也，而伏于岩垣之侧，鹞乃垂翼而下之，有蛛网张于岩垣，涉之而蔽，是鹞欲捕其雀也，非为其蛛网也，而网涉焉。是鹞也，实有捕蛛之名，鹞又何辞乎？由此观之，胡虏鹞也，王室雀也，晋国蛛网也，寇王室而及晋，不犹捕雀而及蛛乎？臣是以劝王之为也。”晋王不答。

顷之，晋王问曰：“国人有党锢之难，何为其然哉？”对曰：“臣闻明仁之主，国无锢忠；幽厉之主，国无锢佞。今主昏于上，忠锢于下，外则乌孙之种骄而入寇，内则黄巾之属叛而不宁，又甚于窦宪、梁冀之世矣。自西京以来，未有此难也。天下之侯王皆南面，而待蔽于藩屏之内，臣痛心焉。愿王审处而熟计可也。”

晋王酒酣击剑而歌，命征君之和之。对曰：“臣不能和。臣有左权者善剑，有陆续者善歌，有周岑者善辩，有张袭者善策，有孔绍祖者善艺，有朱俊者善守，有徐渊者善矢，有李玄者善天文，王能用数子以谋国，其庶矣乎。”晋王曰：“寡人将谋诸父兄伯叔父，而从夫子之明诲，可乎？”对曰：“不可。谋出于臣，故臣亦与焉；若是谋不出于臣，则臣亦不可用也。今屏左右而与王谋者，岂不善于王乎。吾闻，古之豪杰议天下事也，机密而谋独，故能奋其功。谋未定于心而先卜于口，是召衅也。故曰谋难尽者设其喻，机难达者张其形。今日之宴，臣之谋不能尽于王也，王其密之。”晋王曰“善”。

一 难

征君设五难说晋王。一难曰：“今有谷生于千仞之冈，其叶如云，其干如虹，荫于春夏，不知秋冬，沐之以芳雨，畅之以薰风，受天泽之宠，而根蒙茸乎一壑。其青松朱桂之树，不得雨露而槁悴者三匝。下有万草凋零在阴，其孤兰与众英皆不得被乎阳春，有牧者顿足于北陵之坡而盼之，欲系则无修绳，欲伐则无斧斤，使山之草木离披偃蹇，垂荣而待于幽，焦萌而听于谷。当是之时，臣不知收者之何所解也？”

晋王曰：“是谷也，必凋于岁寒，奈春夏何？意者，其伐之乎，牧者无斧柯，请谋于樵苏。”

泊曰：“第一难喻汉室党锢之祸，以牧者讽晋王也。”

二 难

“今有宗族巨室子孙，保之西畴千亩。百农耕之，以门为阙，以堤堰为垣，以沟浚为池，溉彼千亩，深耕获而望菑畲，若无患也。一夕，北风拂尘，骤雨冲界，侵犯我疆场，崩溃我堤堰，播荡我藩篱，浸淫我沟浚，污浊我妻孥，倾覆我庐舍。此巨室之忧也，出守



者可寒心哉。当是之时，农夫荷锄而流叹，结笠而增哀，如欲修其疆，杆其灾，以镇抚其巨室，阜丰其民财，培沃其土膏，疏导其津埃，使西畴苍然允茂，嘉禾，优游于乐岁，恬淡于康涂，领巨室之托者，得无策乎？”

晋王曰：“风雨之虐，固灾沴之厉农也。御则巨室安。玩则巨室危，虽出守之责而为巨室者，其亦不能豫患哉。”

洎曰：“第二难言汉封晋王以为西北宗藩，每岁受胡虏之患，汉室重寄，何以副之？晋王又归咎巨室，此亦汉诚失计。”

三 难

“今有妖狐成群，游于大苑之中，憩于金穴之内。其容足以媚太阳之光，其氛足以侵雷霆之声。贪如鼯鼠，矫若雄鹰，状如狒狒，巧若猩猩。其突如玃，其蛊如廉，倏忽万态，莫知厥机。足蟠乎魑魅之域，迹风乎魍魉之墟，饰之以冶容，桀之以文皮，能礼北而弗惠乎黔黎，何以为党，其名曰狸，此皆兽苑之所不畜者也。今肆然而驰据以要路，使麒麟不游于郊，骆虞不履于圃，群獭凭威以噬人肉，而人苑者不可胜数。肝脑积丘陵，膏脂致洲藪，诚欲弯弓而射狐，设网而驱獭，以廓清其苑囿，豢畜其骆虞。若此者果何术以制哉？”

晋王曰：“狐也养祸于苑，藏富于穴，何忍肆也，欲亟制之，子其问诸虞人。”

洎曰：“第三难语意较显。”

四 难

“今有探不死之药者，五游方岳，十涉滨洲，穷合灵之壑，掘产秀之兵，披羽服而履赤珥，谭真诀而炼丹砂。或呼吸而漱精，或偃仰而餐霞，自以为安期、羡门之伦，松子、王乔之属。天子不能爵，诸侯不能禄，寝迹于草野，寄傲于流俗，与浮图并轨，老子同谷，趋而事之者，若攀轩辕之逸驾，徵彭聃之遐福也，其名孰美焉。然周穆驰而犬戎叛，秦始游而二世亡，此二主者，宁无利于民，而忧身之不寿于羲黄，宁无利于子孙，而耻国之不延于陶唐。卒有替羲黄之忧，后陶唐之耻。意者，力之不逮乎，或虚词诡术无征于世，无裨于身国乎？何嗜之而不疲也。”

晋王曰：“夫周之鉴，秦所观也，而始皇不寤；秦之鉴，汉所观也，而武王又不寤。是以海内淫于方术，而弃力穡者三十余年。然则玄奚益于国哉！”

洎曰：“第四难意显而辞激。是时，桓帝好浮图、老子之学，故此篇专讽汉室，而实



欲感悟晋王。”

五 难

“今有酒徒十人，群居而饮。有客请曰：‘今日之宴，毋隐厥技以为剧，可乎？’其一人进曰：‘吾善于箫。’有二人曰：‘吾善于歌。’又有二人曰：‘吾善于舞。’二人善于奕，二人善于壶。’客曰：‘若之艺咸听于酒。’谓箫者曰：‘吾忽焉举觞，而箫不应者罚？忽焉投觞，而箫不节者，罚。’顷之，箫者醉而不能罚矣。又谓歌者曰：‘吾忽焉举觞，而歌不应者罚？忽焉投觞，而歌不节者，罚。’顷之，歌者又醉而不能罚矣。至于舞者亦然，奕者壶者亦然。客笑而喜曰：‘吾一觞而困九人，其亦善罚矣乎，何取于艺也。’九人曰：‘何子之能忽于罚而不能忽于赏也，无亦罚吾以酒，而罚子以名乎。夫酒，可以罚可以赏，是酒不为厉也，人犹恶醉而辱之。今有司罚人以钱谷，刑人以刀锯，是犹箠既罚而断其指，歌不赏而钳其唇，不亦甚乎。若是而讼于诸侯，以昭汉室之典刑则何如？”

晋王敛容而长叹曰：“嗟乎！岂惟敝国为然，若不出敝邑之境，亦无待寡人治之。寡人欲告于天皇。则畿内之有司亦是罚也，布于同列则邻国之有司亦是罚也。寡人毫矣，先生其辅寡人之子，以兴汉室，无为社稷忧。”

是岁，有蝮蛇数千自参井而出，坠于潞城。黄巾破南郡，杀方伯及令。

洎曰：“第五难发论甚怪。”

修 德

征君游于吕梁，左权从之。征君喟然曰：“壮哉！大禹之治也。治于唐，崩于春秋，坏禹之功亦晋邑之戾也。今晋无大衅，诸侯不役。然而有晋之忧者，其汉室乎？夫诸侯之传国也，山不崩，水不涸，是谓载德之国；山不再崩，水不再涸，是谓修德之国；水涸山崩而继焉，是谓载厉之国；山始崩，水始涸，是谓替德之国，此山川之征也。晋王明惠而爱士，可以兴业，然短于筹略，拙于弘毅，故天下之士不能尽心于晋，吾又后矣。虽然，吾岂求辱于晋王乎。夫晋，天下之强国也。以晋王之明而国尚俭，无郑之宠族，故士亦乐为之用也。苟晋王不于此时奋剑于丛台之上，以谋晋，则虽有恒山大河之阻，并陘雁门之固，亦乌足以强罢敝之晋哉。夫明而不能筹者，难以料远；惠而不能毅者，难以举大，是吾所以忧晋王也。吾尝五难晋王，晋王五对而无沮，以此而筹，则晋必为盟主，而王室亦有利焉。利王室而主盟七国之诸侯，其晋文之业乎？是载德之国由今而始，由晋而兴。东制齐鲁，西威秦蜀，南服三楚，中绥韩魏，诸侯其谁不盟？是吾之所以望晋王也。”

左权问曰：“黄巾之乱，孰能制之？”曰：“古之得天下而帝者，其谋于草莽之初，犹盗也。及其得一郡，拔一邑，倾一城，秋毫无所攘，美女无所淫，从善而纳策，顺如崩



石，疾如厥流，然后知其为帝王之器也。今黄巾之众淫毒海内，残虐生民，天下共逐之，此特犬彘之雄耳，孰不能制哉！权也，有乌获、田詹之勇，是三军之任也；有孙武、穰苴之略，是三军之帅也。必五倍之敌而后御之，若黄巾者，敢当于子乎！”曰：“陆续何如？”曰：“续也，使游于孔氏之门，其闵子骞之俦乎。吾使之仕，则黄巾之乱，吾知免夫。”

董 卓

董卓谋篡，晋人告王曰：“汉室将授于董氏矣，为之奈何？”晋王闻之惧，谓征君曰：“董卓造乱，将倾我王室，弑其大臣，芥其百姓，襮其天子。意者，董氏之乱其浮于黄巾乎？”对曰：“党锢之去国，臣已知汉室之无臣矣，董氏之乱不亦宜乎？”曰：“王允执政，安谓无臣？”曰：“允也，名起于布衣，而业堕于钟鼎，是以执政而无权。苟容于朝，与群小浮沉。其子卖爵于市，日累千金，是允也积毁于家，养祸于国，而民失望焉。故董氏乘而窃之，谋篡汉室，允为丕戾，其何能辅相耶？若党锢而死，奈汉室何？”

晋王出涕曰：“嗟乎！以乱臣一人，天皇不能讨，大臣不能扞，寡人亦何有于敝邑，将赴王室而抱祭器，藏于原陵，是寡人之愿也。天祐王室，则天皇讨之，天假敝邑，则寡人讨之，是讨乱在天也。寡人敢不勤于王室”曰：“汉祚若替，则诸侯不能骤复，诸侯弗盟，则一晋不能独举。王何疏诸侯而懈德业乎？及时也，修德而饰政，树盟而固援，必靖厥难。夫以王之贤而弃诸侯之盟，春殆失时乎？”晋王不答。

征君出谓弟子曰：“晋其殆哉！非天远于晋王，唯王远于百姓；非天弃于晋邑，唯晋弃于诸侯，晋其殆哉！”

蟾 台

晋人筑蟾台以居征君，周岑进曰：“蟾台非晋王之所筑也，而子居之，何乃自简若是哉？”征君曰：“是台也，晋人得而筑之，若诸侯者，岂能下交于士乎。诸侯而下交，则失其势，故诸侯以势交者也，非交以德也。士无势，亦安得而交诸侯乎？”

曰：“昔者，朱俊之行也，问临民之道于子，子告之曰：‘守而无智，不可以保身；威而匪仁，不可以临民。’陆续之行也，问临民之道于子，子告之曰：‘续乎，孝可以劝百辟，智可以安诸侯，仁可以怀百姓。’张袞之行也，问临民之道于子，子告之曰：‘汝盍医乎？’曰‘何谓也？’曰：‘世将无道，则天子有虚眩之疾，诸侯有怠荒之疾，百姓有饥馑之疾，大臣有贪蔽之疾，有司有贪侵侵渔之疾，受黜之臣有要君附权沽举之疾，夫国家如寄也，而有上下之险疾，扰而效之，国焉不危。子欲临民，医是而已矣。’曰：‘何以医也？’曰：‘子能以仁义为药，以政教为汤，先瘳乎主疾，而后瘳乎诸侯臣庶，不亦善乎。’曰：‘此夫子之医也，弟子何敢逮。’曰：‘畏党吾将医诸侯，若诸侯瘳，国亦不危。诸侯不瘳，岂惟藩篱之祸，亦国之灾也。’由此观之，士之交乎诸侯，犹医者之交乎疾，不能



离也。而夫子云云，无欲以晋人之故而自释与？”

曰：“子何以为士交于诸侯乎？昔郑人有膏肓之疾，三年而不出户。或告之曰：子之疾危矣，求良医以瘳之，可乎？曰：市无良医，何以求为？曰：有良医者，在于楚，子以百金致之，彼必不远千里而赴。郑人果得楚之良医以瘳其疾。是医者未尝求疾而治也，医在而疾者求之耳。然则为士者，亦诸侯之求之也，岂求诸侯而交与。吾受晋王之聘，犹楚医受郑人之金也。郑人得之而瘳疾，晋王得之而不瘳，吾岂不若楚人之医乎？亦信与不信也。今党锢又告难于朝，王室之疾殆甚于晋，吾已矣哉。”

贻书

陆续归吴，贻征君书曰：“续也佩先生之训，窃荣一职，私激所心，欲试于当时，而效犬马之劳也。不图汉室罢敝，诸贤黜戮，董氏造乱，肆谋不轨，海内器喟有新室之风，此豪杰之所以怨慕而盘桓也。续赖先范，得奉诸贤之清尘，每与元礼接论，称先生以王佐之才，续实望焉。若内难不复，诸贤盈朝，济济戮力，以树中兴之功，挽孟世之威，则先生奚舍蒲轮而就衡榻，去王国而宾藩篱乎。续尝负笈从游，观风壤以志之，蹈山川以纪之，八驰孔轍，九游禹川，续之愿也。及馆于秦邑，将执酒扫，辱主上以孝廉之举，先生命续曰仕，遂许身于汉室，亦唯先生是赖。

嗟乎！汉室已矣，自窦宪、梁冀之徒制其命，侯览、单超、左悺、唐衡、王甫、曹节、赵忠、张让之属玩其权，南单于、西羌、北匈奴之群削其势，黄巾张角之众残其民，而又劫之以董氏，祸乱相仍，国家涂炭，内无比干之忠，外有箕子之叹，天地灾沴，宗庙社稷宫闱之祸，惨于春秋。夫汉室之敝也，若是何能辅之。续是以逃禄避难，家于吴中，与鸱夷子游濯纓五湖之滨，流憩长洲之野，渔钓而歌，以卑吾志，是亦先生之训也。

续去国以来，寒暑二谢，每念汉室多故，未尝不慷慨而赴之以泣也。先生在晋，令德日彰，垂声于九夷八蛮，诸侯宾之，百姓怀之，此隐功于汉者也，其奈国家何哉。

夫先生之出为汉室也，而汉室不能自为，杀戮豪杰，分立钩党，而国无社稷之臣，则先生亦卷道而弛志，可乎？以先生之明哲，固已亮矣。而又淹驱驰之踵，理必亡之绪，劝诸侯而持汉室，诛奸雄而安海内，屏左道而正朝廷，皆欲望诸侯而为之。虽檀纓复兴亦不获已，然而先王之淹于此游者，无亦以负鼎为心而置其利钝耶？然则仲尼栖栖于宋卫，子与濡迟于齐梁，信乎大贤之为也。

续也，复欲从事于未，竭菲薄之躯而不敢以吴晋为远。朝夕讲德，恭敬无怠，此续之所以事先生之心也。奈婚姻未毕，疾病久作，又无余粟以养老母，躬耕薄畴聊以卒日。

迩来东南告匮，而吏不加恤，税役繁兴而民不加供，盗贼充路，关市唯识，是吴之危甚于晋，续又安能舍父母之邦而游也。往岁归吴，假道于汝南，庐家有司守之，春秋有司祀之，义阳之出耕而不赋，麒麟之台藏琴而不毁。雀巢于衡，慎阳之人皆不弋；草荒于



径，慎阳之人皆不樵，此耕桑之所揖让也。是以元礼竭忠，林宗洁身，公伟不渝节，蔚乡不辱命。其仲举、游平、子干、孟博、公孝、元节、光有皆附德音而兴者也。续不敏，进无毛焦之谏而忠于主，退无陈蔡之从而信于师。不自砥砺以远令名，而厚为天下戮笑。所以中夜感激，长叹而不寐也。道里辽阻，朔风其寒。行者歌授衣，居者歌蟋蟀。时云暮矣，君子悠悠，悠悠无期。抗情于辞，不尽种种。”

征君以书示李玄曰：“伤哉，中原之书达矣。”

是岁，征君去晋。

洎曰：“此篇文气慷慨，情意恳恻。”

卷 七

至 关

征君如蜀，逾棧道至关，关吏讥而不纳。从者愠，征君曰：“国有禁，是也。”乃馆于国门之外，子高私与之赆，征君觉而佯卧，关吏请入。子高喜以告。征君曰：“国无禁，吾不入矣。”子高曰：“先生未至蜀之关，驱驰于道路，将以赴也。既至将以入也，关吏讥，则曰：‘有禁。’关吏请入，则曰：‘无禁。’岑也惑焉。”

征君笑曰：“子恶知哉！夫先王之设关也，以戒不虞，故负关击柝皆以其职而事于王。四民非关不由，非讥不入，此先王之明禁也。今吏曰不可入则止，吏曰请入则行，是由吏也，非由禁也。吾闻先王以禁为阙，未闻以吏为关也。出入于吏之口，乞人犹恶之，况贤士乎。夫贤士，国家之巨关也，扞不轨而遏佞人，驱旷民而制淫族，镇百姓而宁诸侯，不倚爵而贵，不恃禄而富，其尊庄而显厚也。如是，汝徒见诸侯之关而不见贤士之关乎？”

子高曰：“夫贤士之显于时也，必先由诸侯之关，而后使诸侯由其关。不然，虽厉敬义之禁，击仁智之柝，诸侯不闻焉。不闻于诸侯，何关之为。昔仲尼以仁义为关，周流列国，然犹绝粮于陈，削迹于宋，而不能扼诸侯之关，故退而设关于六经，以防名教。老子以道德为关，犹骑青牛而过函谷，以避周乱。史之文曰：周太史耳，西出函谷关，遇关令尹喜，曰：周将亡乎。苏秦、张仪以纵横为关，而显诸侯，诸侯役之如妾妇。商鞅、申不害以刑名为关，而制黔首，诸侯待之如鸡豚。夫苏、张、申、商之徒皆干谒于诸侯，而后能聘其术也。系先生之道术，陋苏张而黜申商，诸侯慕之若酷火之求济于水，危疾之求瘳于扁鹊也。使先生不由诸侯之关，而资左右以流誉，则虽欲效苏张之扬眉，而谈笑于倾盖之际，不可得也。今士庶之远涉者皆拥于关，关吏拒之以待先生，恭亦甚矣。先生以为憊而不入，何弗恕也？抑且以为固。弟子不远千里而从游，为道计也。今遇国不入，宿于关



外，是轻身而贱道也。贱道则曲，轻身则戮，先生其若之何？”

征君曰：“是则然矣，使为士者怀道而见诸侯，诸侯拒而不见，士将去诸侯，又求之于斯时也，士亦复见耶。吾之游于诸侯，非无交也。鲁招以玉，齐聘以玄纁，魏招以骏马，韩招以方圭，秦聘以币及旌，晋聘以白貂，其交也殷矣。故去岩穴之乐，而与诸侯游也，今蜀招我以宝剑，其文曰利用之器。吾入蜀之疆，与羈旅群，蜀使过而不识，故不得返命，韩王遂不出郭而逆吾，亦唯是好游而不相闻，恐扰其土地，走其耆老。是以潜至于蜀国之关，而关吏辱我以不纳，渎我以无信，迹其所为，诸侯闻之必罪焉。后有治关者，必以吾一人之故而怠其讥，无乃乱禁乎，所以待而不入也。”子高不能对。

征君曰：“吾将就驾，栖于太白之岗，以观蜀国之政，待汉室之清，不亦可乎？汝爱其师而不爱义，吾其没身已哉。”

馆人以其情通于关吏，关吏匍匐叩头而告曰：“仆，贱吏也。不能旌大贤之履，实以不恭，久淹高驾，且获戾于左右，贱吏唯命。蜀王若闻之，以为小人蔽扞贤者于外，罪无宥，贱吏亦唯命。若夫子忘贱吏则生，不忘则死，是贱吏之祸福在夫子也。”征君笑而不应，关吏知从者之私赂也，出谓子高曰：“仆命寄旦夕，不敢荷子之惠以重罪戾。”乃反之。

时蜀王将田出关，遇征君之馆，征君鼓琴而歌。蜀王闻之曰：“吾国有贤者至乎？”遂获征君以归。

招 贤

征君疾，使徐洲说蜀王曰：“今天下之王，蜀为雄矣，而士不至于国者，岂贤王有遗行与？”

蜀王佛然曰：“蜀国有名山广川，贤豪明智之士悉产于兹，奚待天下士乎？”

徐洲曰：“贤王欲以蜀之士为士乎哉？此秦始皇逐客之意，而李斯所以强谏而难者也。夫蜀之士，其贤于洲者或众矣，然天下士岂无有贤于蜀者乎？以洲之不长才而弃天下士，何贤王之待蜀重而待天下轻乎。此言非所以安蜀壤而匡汉室也。贤王为宗室之首，禄倍于三公，爵贰于天子，势埒于诸王，据蜀之雄藩以为固，而不能当天下之一面，扶汉室之危弱，其故何与。董氏以陶厕之夫，登庙堂之上，陵劫天子，号令臣庶，污浊社稷，轻蔑王侯。汉室之形譬如垂瓦，扶则暂安，不扶则速危，不告难于诸侯，传檄于天下，坐使汉贼阴谋以窃神器，是以农不暇耕，女不暇织，皆拱手以听董氏之命。若此时倚望而不举，臣窃谓贤王无辅汉之日矣。夫汉室之于贤王，不可谓薄也。宜以此时传檄天下，告难诸侯，发私廩之财，收英雄之士，先诛汉贼之党，以靖东南，则西北之陲不劳而定矣。然后洗甲于二川，流凯于三峡，倒戈于栈道，功孰逾焉。汉室之安可倚庸而待也，王其图之。”



问 疾

蜀王得征君而喜，闻有疾，忽焉而蹙，乃以单车造其门。征君知蜀王至，掩帷而卧，命李玄侯于阶。蜀王见李玄而问曰：“征君不能出与？”曰：“不能。”曰：“寡人入以见，可乎？”曰：“既卧矣。俟寤然后请人。”曰：“征君得无瘕乎？”曰：“瘕不为疾也。”曰：“然则何为？”

曰：“玄闻之，天以薄蚀为疾，地以崩溢为疾，天子以幽厉为疾，王侯以骄泰为疾，士以贫蹇为疾，大夫以酷候为疾，庶人以饥寒为疾。今征君之疾，蹇也。国不举贤，使士有蹇疾，羁于道路。轩冕者多豺狼之群，膏粱者多犬豕之辈，由此观之，士安得而无疾也。夫疾以薄蚀崩溢；故天地以圣人为医；疾以幽厉骄泰，故天子王侯以贤士为医；疾以贫蹇，故士以梦此为医；疾以酷候，故大夫以明主为医；疾以饥寒，故庶人以循吏为医，然则征君之疾，药石有所不制，鬼神有所不虐，寒暑有所不侵，微于色而不见其槁，动于声而不见其戚，歌于鼓琴而不见其乐，叹于临川而不见其忧，此征君之所以为疾也。”

蜀王顿足而嗟曰：“寡人处西海之僻壤，奚敢当征君乎？得子足以安矣。”曰：“得臣，蜀可以霸；得征君，蜀可以王。汉室其隆乎。王若欲安蜀，则贤有司职也，奚必得臣哉。”

蜀王惭，顾谓左右曰：“寡人得征君，若桓公得夷吾也。寡人得仲默，若桓公得宁戚也。周末而齐霸，其二子之功乎。”

尊 王

蜀王问兴国之策，李玄曰：“昔我光武皇帝之中造也，以天下封诸侯，功臣皆固守藩镇之地，而宁社稷。是故其功臣之先戮力草莽之际，驱驰险阻以立百战之功，而定大业。子孙嗣武，世守丕基，进可以辅汉，退可以全国，何谋而不成，何功而不立哉。迩来国步多艰，内变陈而外衅作，谋将戮而谏臣刑，左道倡而王政熄，百姓离散有思乱之心。此诚明侯效忠翰辔之秋也。今天下同姓之诸侯，皆欲抗愤以报汉室，修会盟之典，征君是宾，此其志不末矣。明侯此时不以诤告诸侯，靖宁国步，以为功首，至于肝脑涂函谷，麋鹿栖铜驼，乘舆蒙沙，而中原流于左衽，然后图之，是犹火既及薪，而后觅井以救，不亦钝乎。臣不敢以诡术说明侯也，亦以汉室无必亡之势，而明侯有可为之资耳。昔者西京乱于王莽，当是时，非特诸侯弱也，虽异姓之功臣亦莫有效忠而输餽者，岂背汉哉，由高帝以杀戮为武，而不留功臣于子孙，故王莽之乱不待云扰而新室立矣，此皆养乱之祸也。使当时有藩封之臣皆韩彭之后，必能感激功臣之心以忠于社稷，则西京至于今而延也。我光武皇帝以宽仁易杀戮，故二十八将皆裂土而封，世守而不替者，亦愤西京之覆辙，刷新室之祸鉴，是以全功臣之名，与诸侯并翊皇汉而永业也。今汉室纷纷，权臣荷鼎，威炙苍生。王察而好戮，使谏臣结舌而不敢言，危亡之祸固已形矣。而功臣之救不至，抑何与。明侯



自以为宗室之疏而土壤之僻，无效于汉室也，独不念先皇之恩乎？今主上之遇明侯未疏也，宗室之诸侯王莫加焉。巴蜀之地，以秦楚为羽翼，而栈道达于中原，未僻也，诸侯之土壤莫加焉乎，因富贵之乐而忘社稷计耶。”蜀王曰“善”。

洎曰：“蜀侯以兴国之策问李玄，而玄之对无一言及于所问者。其经纶天下之志，又隐然于事辞之外。故全篇要意大抵述西京之故事，反覆论之，而引讽当时，以尊汉室，□诸侯为要，又假功臣以激发当时之诸侯。此《外史》传心之法也，唐之藩镇其未识此义者乎？”

自 强

蜀王以太牢飨征君。征君问曰：“巴蜀之国接壤于关中者也，而民不知战；巴蜀之民齐风于中原者也，而国不知礼，岂有司之过与？抑贤侯之不逮于斯也？”蜀王避席而对曰：“夫爵，寡人受之；邑，有司载之，不敢董也。”征君曰：“然夫有司，所以导礼而教战也。今之为有司者，论酷不廉而急于名，故不能导民以礼。循苟简而乐安佚，故不能教民以战。夫今之成都，古之蚕丛也，贤侯以成都为幕、山川之固雄于秦晋，而守无民之爵，礼也。然有司不能靖其土壤，训其民人，以弱西藩之势，贤侯坐而不告，何为其然也。”蜀王不能对。

征君曰：“今王室弱矣，王室弱则藩镇亦弱，因其弱而强者谓之勇毅之杰，因其强而弱者谓之柔恭之臣。弱而不强非毅也，强而不弱非恭也。今王室既弱，诸侯又守之以恭，而待其敝，民何赖焉？臣闻之，牛牧于农而役于农，故效并耕之劳；马畜于人而乘于人，故收并战之绩。诸侯爵禄于国而不能捍于国，何欤？今天下诸侯之富者莫如贤侯，积累成林，委珠成洲，有数百万之余业。若养兵而待战，赈民而待劳，可以供十年之费。则江南之赋不尽敛，百姓之脂不尽剥，山泽之利不尽出也。且以茂贤侯之功而长享其爵禄，不亦善乎哉。易曰：利用为大作。愿贤侯作之无怠焉。”

蜀王曰：“先生其社稷之士乎？寡人将倾心以事，而幸教之。蜀之民唯先生所用，蜀之士唯先生所举，寡人远谗以安贤士，无使为诸侯笑。是先生与寡人百执事咸有锡也。”

是岁，天皇帝郎中令采丹青于蜀。

平 刑

蜀王问征君曰：“今廷尉平乎？”征君对曰：“夫平刑者，必先平其心，是以刑清而人说。今之为廷尉者，刑不当其罪，罚不当其过，以货为权衡而折刑于民，民以轻过而受重刑，微罪而得厚罚。故笞者多桎梏，不赦者多无刑禁弛，而暴者多纵逸。图圈成市，强弱相欺。暇则群酗淫戏以为乐，濫则垢衣秽面而乞怜，累之以日月，沦之以年岁，而终莫之



平也。自廷尉不平，而郡县之有司皆效其刑罚，亦以货为权衡，是故刑之不平以贪致也。贪则挠而谄，廉则刚而直，故贪者若明，廉者若愚，此刑之所缘而疑晰也。是故郡县之失刑于民者，其起于廷尉之不平乎？虽然，廷尉之不平，亦视乎国之诛赏黜陟焉尔矣。今无罪者诛，无功者赏，无过者黜，有过者陟。由此观之，廷尉安得而平哉？龚胜曰：‘人主正而廷尉平，廷尉平而郡县理，郡县理而万民治，刑措之风其庶矣乎。’”

蜀王曰“善”。

洎曰：“此《外史·刑法志》也。

黜 陟

蜀王问征君曰：“今有司寡廉而多贪，将诛之乎，抑黜之乎？”

征君对曰：“黜而不诛，则贪者希进而忘其耻；诛而不黜，则贪者希退而忘其忠。既黜而赏非以劝廉也，既陟而诛非以劝能也，宜黜者黜，宜陟者陟，宜赏者赏，宜诛者诛，然后贪鄙化而廉能功。典刑明于上，政教畅于下，则黎民又安而优于唯正之供。故农者乐为农，工者乐为工，商贾者乐为商贾。无流徙之患，无鬻贷之忧，无怨黜之悖，而信让行焉。夫君者，大臣之表也。故明主有击壤之歌，则大臣有与人之诵，上有画一之谚，则下有五袴之谣，此表树而影必从者也。楚人有言曰：大臣无貂裘则有司寒，大臣无甘饍则有司瘠，大臣无私门则有司廉。今之大臣，好画一之谚，而恶闻楚人之言，宪也其惑乎！”

蜀王曰：“功臣与大臣异与？”曰：“内则大臣，外则功臣。大臣在内犹在外也，功臣在外犹在内也。近君则荣，近民则泰，其势均也。虽诸侯亦然。王请无泰可乎？”蜀王有恶色。

征君出谓鲁犹曰：“蜀王毫而富，弛而亢，民其玩矣哉。”

洎曰：“此《外史·百官志》也。

请 金

蜀民赴幕请金，蜀王发五十万缗，蜀民请倍。蜀王命左右告曰：“勿以为货，尔众其克勤于利，越蜀之境若博而狎以播吾财者，刑罚之，尔众毋情哉。”蜀民皆唯唯而去。左右问曰：“向也，发库禀以赈蜀民，君皆倍之，今何以无倍。”蜀王笑曰：“邑有贤者，吾方式之，不敢以争于民，故赈而不倍，所以修吾誉也。”左右曰：“君所谓贤者，其征君乎？夫征君，叔度一羈士耳，其寓蜀也亦欲乞馈于幕，与蜀民群也，岂足为贤者与？”蜀王曰：“不然。吾闻士非孝廉不征，非贤良不举，其高蹈而不为臣者，夫是之谓征君。今天下公侯者什伯，而征君者奇，不亦尊乎？怀王室而激诸侯，不亦贤乎。故贤者有无爵而



爵，无禄而禄，不恃轩冕而贵，不待钟鼎而富，不以国存而安，不以国亡而危，其征君之谓乎？吾幕无士，一获而歸诸侯师，惜乎吾耄矣。吾将让爵于征君，以利巴蜀，王室亦赖焉。吾虽不恭，亦世载厥誉，知吾之能侯而好贤也。征君避爵而往，吾又有令名于时。今将季世也，王室尝混时无靖宁，则诸侯犹不忍侵蜀，是吾一举而安，全蜀之民不亦可乎。”

左右曰：“臣蜀之鄙人，不识征君之贤若是。虽然，为诸侯师，其志必悖君，安得而淹之。宜厚为之礼以谢征君，天下高君之义者亦多矣，岂必让爵乎？夫弃先皇之泽，以替其业，不可谓仁；以爵而廉贤，不可谓义；悖明典以自殖，不可谓恭。征君诚贤者，则君之所举洵矣。宾贤以干名，臣窃惑焉。”

辞 爵

蜀王薨，蜀人迎征君于幕。征君避青城，左权曰：“子以万言说诸侯，孰若享益州之富哉？今蜀之父老，皆杖策而迎，民心归矣。子固辞之，智者不为也。”

征君曰：“吾闻之，行一不义，君子所忧。况天皇之爵禄，所以宠诸侯者，而士受之，不义孰甚焉！昔介推辞禄，仲连避爵，是皆诸侯之赐，犹未至于让国也。而二子却而不受，吾以不命之爵受之。是便介推仲连攘臂而笑于地下，诚不能一朝摄也，且有不次之戮。夫士不遇于时，而佯狂以自乐，则蔬食饮水甘于八珍，敝裘麻屨逸于五乘。何则？义与不义也。易曰：舍车而徒，信乎徒不为耻已。”

左权曰：“奈蜀人之望何哉？”曰：“汝不闻莒人有狗人而忘身者乎？以千金游于天下，必求其悦己者，有不悦者，则分金而惠之，悦己者不盈千人而金竭，遂憾而死。今吾洁其躬，而失蜀人之望，非固也。窃虑莒人之金不足以胜悦己之众耳。故曰：愚者不谋，群聚若立，智者决策，朝不得食。以此观之，蜀人之望易成，而群易合也，何足眷眷哉。”

左权曰：“权也陋，微子启之，弗章。”

火 灾

李玄观象于轩辕之台，有星数丈流于冀州，其光如旦。李玄喟然曰：“胡运其兴乎？又有宫闱之灾，内外树难，汉室其将为周之东乎？”

越明年，夷人寇玉垒之关，洛阳玄真宫灾，天皇与太乙真人方祠浮图老子，火围宫苑，烟焰蔽空，宫女悲泣，相枕而焚，天皇几不得脱。太乙真人犹以符咒祝之，火迫亦奔，而出见百官拥列于铜驼陌，惶惧掩面。京师为之语曰：“玄宫火，不得出。”太乙真人焦头烂额，又讹言董氏以兵权劫天皇。天皇忧懣，问于相国王允，允对曰：“臣闻老子善用兵，虽有匪臣，老子必为陛下却之矣。陛下益宜躬修玄默，勿以为忧。”又问曰：“朕之敬神，可谓露心矣，何以致灾？”允对曰：“宫闱之火，实陛下辉光之德所致，况圣泽以德王，此中兴之象也。”天皇大悦。



王允少有雅望，善属文，时辈皆以允有国士之风。及为相，举动狠陋，唯与时浮沉。外饰体貌，而内怀奸妒，又交通宦官以固宠禄。百官有司进士皆倚其门，有称允为父，令妻妾问寝馈养一如家人礼，以此树富，凡考绩所去者，皆夤缘而进。天下士大夫始坏廉耻，而鼓舞于声利矣。故一时宠渥者，若太乙真人，次及董氏，其次及相国王允，仅势党类分为三穴，播闻夷蛮。是以豪杰益解体而议汉室，匈奴累岁纷扰边境，以诛一邪二佞为名。东南虚匱，海内罢敝，虽桓帝荒于游畋，国步多艰，未有极于此者也。是岁，太子驩疾，中外颇疑，天皇乃杀阉宦七人，以塞其咎。

洎曰：“此篇如史臣记事之体，其所述汉廷时政，考之《汉书》往往不合。至于所云太乙真人，又《汉书》所不载者。故《外史》疑晋时文云。”

避 难

益州守徐嵩坐赃系狱，有武阳令文龟龄亦坐赃于狱中，乃相国王允门人，以孝廉举高第。时御史按狱以死论，益州守搗额乞怜密以千金赂之，乃免刑，遂问成云中。武阳令以中倚之故，独扬声抗辞于前，其狱竟释。蜀人为之语曰：“益州太守徐仲高，坐赃论死克嫖姚；武阳令尹文寿伯，坐赃譚笑挟相国。”

后龟龄迁为左冯翊，又与相国王允之子横掠良家女妇百人，克于阉室，为郑卫之声，以奉相国。京师丑之，虽耆童辈皆呼为粪中郎，以其污浊士林为清论所鄙。

及董卓暴虐，相国王允亦俯仰其门，每与卓论国家机务，必以袖帟口侍侧供唯诺，无敢疑者。文龟龄亦耻相国奴于董氏，私谓相国之子曰：“董氏怀赵盾之谋久矣，若一举而败，必及令公，吾属安所附乎？”曰：“何为其然也？”曰：“令公以相国之尊，负海内之望，权侔天子，富埒王公，此人臣之满者也，又奚枉迹于董氏之门乎？董氏弄柄，淫恶日彰，其祸可抱足而待。令公宜洁名于庙堂之上，效李、杜之忠，而密之以谋，鉴陈、窦之祸，而济之以才，使国家无虞，而同享封禄，不亦可乎？”曰：“吾翁必有见，汝勿复言。”

文龟龄还家谓妻子曰：“吾受相国之恩，无及报矣。”遂谢病免爵，敛金玉斗乘以归，客于荆州。董氏果作难。君子曰：“《传》云：‘至贪者明，至佞者杀。’其文龟龄之谓乎。”

洎曰：“此亦记事之体也，其文绝类《史记》。”

岷 山

征君登岷山，望汶江，思禹之绩，而叹曰：“浩乎汶江，岷山镇之，茫茫禹功，险于梁岐。”

孔绍祖曰：“吾闻王国有难，则诸侯告于山川。今汉室难矣，而诸侯不告，何以徵



福？”

征君曰：“夫诸侯修德，则告于山川社稷之灵，以肃其民人。民人于是乎怵恩而不敢侮，可以勤事而捍难，其山川社稷之灵亦庇焉。故旱溢之沴不侵，崩竭之灾不虐，瘡厉之戾不淫，嘉谷丰而民人洽。故君子入其国也，观风于山川，而料民人之丰阜凋悴，以回革其政，观氛于社稷，而知土壤之望郁昭明以节制。其宜是以民无争心，俗无悖志，王道成焉，然后知先王之报勋德于社稷之神也。故生则爵禄以荣之，车服以锡之，宴飨以亲之，赏赉以劳之。死则褒之以嘉谥，祀之以五鼎，养之以世禄，纪之以文章，其耿光懿节，昭乎上下，配乎山川，以主其阴职，而降休咎于民也。是以骏显之烈与江汉同流。诗云：‘荷天之祜，德音振振，垂厥景福，君子神明。’此之谓也。”

岷 山

征君游岷山，道遇猛虎。征君倚磐而坐，谓左权、徐洲曰：“猛虎当道，吾死矣夫。”

顷之，虎近于磐，左权以臂当之，虎悬尾叫啸，左权执其尾而倒驰，逾岷山之冈。徐洲挟弓矢追之，见巨壑中群虎食一樵者，徐洲临穴而发矢，弦绝，徐洲以弓击虎，伤臂趋伏于藁林。左权负虎皮以救。徐洲曰：“征君安在？”曰：“鼓琴于磐。”“吾子搏一虎而群虎皆出，吾以矢射之，其弓不扬，为虎所啣，而伤其臂。子虽勇不能制群虎之猛也。”左权莞尔而笑曰：“制之何者，昔者与客涉瞿塘之峡，即征君欢之楚游道也。舟覆得楫而渡，有猛虎群饮于峡，一搏而获毙者二。客曰：‘吾与子将赴于峡下之流，得一楫而俱免。’又搏群虎于峡上，如制婴儿。是渡二峡也，虎不制则后涉者或免于峡，而乌能免峡上之虎乎？若子之勇可以倒峡而西矣，今之所遇奚足悲哉？”遂历岷山之壑而援之，群虎皆毙。

征君顾谓二子曰：“汝其奋于岷山乎？夫猛虎凭威于山，犹猛臣凭威于国，不可逸也。故猛虎在山，勇者制之；猛臣在国，仁者制之。昔虞有猛臣曰驩兜，虞舜驱之；周有猛臣曰飞廉，周公戮之；鲁有猛臣曰少正卯，孔子诛之。此皆制于仁者也。嗟乎，今国之猛虎逸矣，而仁者不制，岂无仁者与，抑仁者在下位而不能制与？吾是以鼓琴，于磐而悲歌也。小子其勉乎哉！”

左权曰：“岷山之虎苟无以制，夫子尚能倚磐而鼓琴乎？”

曰：“仁，可恃也；勇，则敌不可以恃。故曰：柔能制刚，弱能制强。故不善勇者制于勇，善勇者制于仁，遇虎而倚磐鼓琴，汝徒见吾弱也，而不知仁者有无声之威，有无形之兵乎？”左权曰：“唯唯，吾今而知善勇之术也。”

去 蜀

汉纲范滂、李膺、陈蕃、窦武、刘叔弑之，征君叹曰：“汉室死难之士有五人焉！”李玄曰：“昔者三仁戮而殷灭，今五仁纲而汉存犹，未若紂之当罪也。意者，尚有待于继



乎？”

征君曰：“何以测其然也？”曰：“执命之臣虐而未播，畏主察也；残民之臣贪而未弛，希主禄也。畏察者谋必疑，希禄者志必弱。弱者怀荣恩，疑者怀刑戮。是以张角黄巾之众，提剑于郡邑，而卒无全踵以怀刑，戮者之未附也。故汉室之形必继续而后亡，《诗》云：‘虽无老成人，尚有典刑。’其是之谓乎？吾闻过盛之期，灾沴不消，以忧其过也；临亡之国，灾沴亦熄，以无庸于警也。故灾沴之象，恒集于过盛将亡之际。由此观之，汉室其邻于亡乎？”

征君曰：“诚哉，是言也。夫矾将溃，则不可与网罟之；夫谋国将亡，则不可与章句之徒议。今汉室之形危矣，而章句之徒犹执简以从事，掩牖而呻吟，弄文墨以求一帛之赏，而饰誉于流俗，机巧惊愚，志意骇众，自以为儒林之雅蹈也，距知测危睹形之士，已慷慨于岩壑；怀鹰扬之具，蓄洲默之谋，而天下调如也。”

李玄问曰：“自党锢既戮，汉室无主，董氏乘之，总百官而制朝廷，弹徭赋以荼毒天下，谏者辄诛而陈展于市朝，卢子干以八尺之躯而任社稷之重，夫岂守章句者哉！然而不能制董氏之柄，是以抗议于汉廷，而无所建白，何谓也？”

征君曰：“子干欲以抔土而塞浊泾，以握石而补崩山，其不戮也。幸矣。使子干有林宗之风，则翻然而去，谁不善之。自桓帝不君，荒怠无度，政移中官，天下贡献者先入私窟，而后以羨余贡于廷。天子为涂旅，犀象麋鹿栖于乘舆。是以宗室不靖，江汉云扰，咸以图汉室为名。然而未亡者，刑未及于谏臣，而忠愤者鳞次而出，犹不能起涂炭之祸，以滥觞于今，济之以杀戮，困之以征轮，匈奴暗于雍冀之境，而内外之势成。故汉室虚弊而天下无纲纪文章，甚矣。所以豪杰奋庸之士，宁没齿于沟壑，而不忍尽言也。今以一子干而欲挽汉室之危，不可得已。”

是岁，征君去蜀。

卷八

去就

征君之楚，桂阳守逆于云门，拜而道曰：“仆守桂阳土壤，日旷三载匪绩。窃闻征君之风，鄙心浹畅，沐披拂之余馨，遂尔弛簿书，辍钱谷，洗讼庭，以曹溪之波洁陋室，以韵山之石为征君淹也。仁驾义轨，轨得无暂税乎？仆从长者之后而行矣。”征君曰：“伊囁与？瘳瘳与？时不可以止与？甫是以征也，将南谢楚王以归来与？”

曰：“征君何郁伊而弗□也。愚闻圣人之规曲世，若火之规曲竹，治其节而削其枝，颐其干而裁其根，然后商贩而为利，工斲而为器。今汉室之形若曲竹，何不简而规之，以



匡辅其倾乎，坐而策之，以宜裕其业乎，为之礼乐以顺导其民乎？夫物曲则弃，人曲则弊，世曲则倾，唯智者睹形而知影。是以规其所曲而全其所直，游乎自然之原，此仲尼之志度而管孟之为也。征君方效乎孔孟，而有捐时之怒，既信于诸侯而流归与之叹。是征君之奋草莽而就采聘，意者，欲扬空名而不顾其实耶，何落落而不群也如此。”

曰：“子徒知曲竹之可规，而乌知曲栋不可以使之直乎；知曲世之可规，而不知曲主不可使之庭乎。鹰隼为凤，狐狸为麟，蓂莢为蓂，蒺藜为兰，故贤士之处世，明主求焉，常主忽焉。是故放勋以之让，后羿以之弃；高宗以之梦，帝华以之剖；周公以之握，穆公以之殉；句践以之谋，祖龙以之坑。由此观之，贤士之显戮，时也。故负鼎而干汤，伊尹不知其为显，及授之以阿衡而伐夏，则显矣。历说十二诸侯，孔子不知其为戮，及绝粮而削迹，行不税冕，则戮矣。若甫之所遇，不可谓不戮也。惟楚聘就而未报，故为此游以待其戮，胡可淹也。亮也，非敢傲子之命，实惟不怙苟处而淹吾攀誉也，亦何功之为。”遂不入桂阳郡，南邮于长沙。

时 势

征君见楚王，楚王曰：“今王室卑而诸侯弱，何策以待之。”对曰：“天下势也，合策者顺，合谋者成，合意者固。以纵横之策合者，事成而名败；以纵横诡诈之意合者，机固而业颓。是以齐桓之霸，策于信义而已矣。守信而文于礼，执义而通于智，守信以盟，执义以声，故能尊周室而雄诸侯，道路无怨旅，中原无靡尘。当是时，桓公为五伯首功，而号令可以一海内者也。然犹以服事周得显永厥业而不替，终桓公之身而齐无有干戈于境上者，故诸侯称义焉。夫信义者，王伯之门也。求策术而弃信义，不可以为诸侯。”

楚王欣然而言曰：“征君，不谷之管仲也，唯幸教而辅相之。”征君回难曰：“楚之山河与楚之人民孰固？”楚王曰：“不谷闻之，国以山河城郭为固，家以垣篱根闾为固，未闻以人民也。”曰：“山河之固孰与守之？”曰：“信义哉。”曰：“守信义者，王欲委诸山河乎？抑委诸人民乎？”楚王无以对。曰：“王何以山河为固也，苟无人民之众，则楚之山河其为猿雁之栖乎！”

楚王问曰：“昔者齐桓公陈师于召陵以伐楚，屈完谏曰：‘君若以德绥诸侯，谁敢不服？君若以力，楚国方城以为城，汉水以为池，虽众无所用之。’然则楚之所以为固者，方城、汉水也，是以能轻齐之众，可为固国之势，非山河矣乎？”征君对曰：“夫齐之陈召陵之师也，岂不闻楚有方城、汉水之险者。当观兵之际，屈完以德动桓公，而又及诸侯会盟以示信，故全齐之众遂卷师以旋，而不欲耀武于南海之陆，岂方城汉水足以却齐而存楚乎？使屈完不盟，则齐楚之得失，未可知也。”楚王有惭色。

征君曰：“贤王以宗室之英，而楚国之民不怀，又靖安而无外患，宜贤王之以山河为固也，王亦不熟虑乎？今天下举贡者一室，漕运者一渠，皇图之藉尚负于畿甸，征讨之命



尚系于天皇，故诸侯未为战，国而得以靖安无虞也。虽然，诸侯将劳矣，诚宜布信而宣义，以怀楚国之民，而告王室之难于诸侯。结之以盟誓，饫之以宴享，使四邻亲睦而同姓密于婚姻。然后告诸天皇，代其诛罚驱遏戎骑，翦灭奸雄，烹炙贪虐，显岩穴之士与之谋国。虽无会稽之耻，而有尝胆之心；无报吴之举，而有霸越之绩，是谋策之徽声，而文武之烈光也。王其图之。”

田 猎

楚王问征君以田，曰：“古之诸侯，好田何为也？”征君对曰：“臣闻，诸侯之田，所以靖民，非以禽荒也。故社以示之礼，振旅以示之威，文章以示之武。蒐于春，宣阳气也；苗于夏，耘嘉萌也；猕于秋，顺休令也；狩于冬，导阴滞也。四时之田猎，皆所以广仁也。礼曰：诸侯既田，则齐明盛服告于宗庙，惴惴翼翼，若有临鉴而不敢淫纵其身。有获狐者，则命之曰制尔以媚；有获虎豹者，则命之曰制尔以猛；有获麋者，则命之曰制尔以逆。使百官皆惧而奉职不懈，然后论其田功。虞人箠而多获者赏之，获而失其鼯者罚之，私养而不献于廷者杖之，玩田而伤鞠，相格而厉弱者刑之。又为之谏以劳其考，为之揖让周旋之礼以平其志，为之歌咏舞蹈之乐以和其气。于是乎知先王讲武之有纪也。至于春秋战国之诸侯，淫荒倾于酒色，杀戮极于臣民，以田之心，行田之事，布田之政，畋游而无厌，纵欲而不武，搜狩而失时，出不治兵，人不振旅，是焉取于田哉。如是而为诸侯者，国必亡。夫先王以杀一不辜之心而田猎，故仁昭而业显，后世之君以田猎之心而驱百姓，故身戮而国亡。此无他，敬逸之涂异也。今王欲田，亦举先王之心而已矣。”

耻 辱

楚王问曰：“贤士之处贫贱也，富贵者可以辱乎？”

征君对曰：“昔者仲尼之钓于沂也，季孙过其车，耕者皆遁，男女不得。有从者引仲尼之衣而叱之，仲尼扬竿而行。从者抚其竿曰：‘勿扬。’仲尼乃负竿而歌，从者裂竿而击之。鲁人曰：‘此孔丘也。’从者曰：‘吾知孔丘，故击之耳。以鲁国之众，辱一贱士，奚足道哉。’及孔丘摄相于鲁，鲁人与其从者斗。从者将死，季孙闻而怒，遂捕从者百人，桎梏以见孔子。当是时，鲁人皆相率而往，以观孔子之政，为从者之有怨，季氏之执鲁命也。既而从者死，孔子曰：‘吾闻讼之窒者，折于天刑，君子之幸也。罪未成而桎梏，小人之幸也。’由此观之，贫贱者奚辱于富贵哉。夫贫贱而不辱，则进而无党，出而无求，独行其志而尽天者乎。故舜不以耕稼为辱，禹不以诛鲧为辱，文王不以拘羑为辱，周公不以流言为辱，仲尼不以裂竿为辱。圣人之心，尽于天而奚迹之为。”楚王曰：“善！”



渔 论

征君自以不得志于诸侯，燕居而叹。客有讽征君曰：“以子之智，何不知楚矶之渔乎？”征君曰：“奚为不若哉？”客曰：“夫楚矶之渔也，击竿而歌，隐笠而卧，自谓无怀子。栖于洞庭之渚，矶于七泽之畔，吞云吸霞，浩浩乎与太虚同流。羡鱼而无心于钩，倚矶而无迹于物，临洞庭而望潇湘，窥九溪而瞰七泽。旁瞩乎武陵之源，和饮乎沧浪之水，终日坐而得鱼，大钓无空网，小钓无空钩。虽五溪三澧之鱼皆慕饵而投其钩，故能为鱼之司命。今汉之七国犹楚之七泽也，七国之封建乎诸侯，犹七泽之栖息乎鱼也。七泽倚洞庭而为固，不犹七国倚汉室而为藩离乎？子何不以洞庭之渚为栖，以七泽之畔为机，坐而得诸侯以显其业，使国家又安，海内殷庶，九夷八蛮不毛之类皆慕义而宾乎？何必远汉室而栖藩离，辞王命而就侯聘，濡七国之路而终为匹夫之群乎？”

征君抚琴而释，讽曰：“甫闻圣人达权，贤者完节，故士欲奋而无君，则造夷狄而替诸夏；时既晦而怀忠，则释耒耜而负鼎俎，是以旁择乎诸侯，历聘乎四方，譚笑而策功烈，布韦而归故乡，此士夙夜之愿也。昔务光遁而伊尹干，伯夷隐而吕尚出，接舆狂而孔子游，介推蹈而狐偃俚，庄周疏而孟轲毅，四皓栖而毛焦激，此皆得志于诸侯者也。子徒见无怀子渔傲于楚矶，而乌知有心氏击磬于卫国，是犹睹山鸡之垂翰于樊笼，而乌睹凤凰之翱翔于霄汉乎！何所规之不广也！”

客曰：“夫知兴者疏其津，知亡者闭其名，知亡知兴与时偕行，知兴知仁与时偕藏。故圣人不能背时而达权，贤者不能失时而完节。今汉室芜秽，王运涸涸，贤士蹇蹇，佞臣煎煎，国之顽民胜。我历数以归所天怀琛之儒，屠钓而栖岩，贞亮明哲之臣，佯狂而去国，是伊尹为务光而吕尚为伯夷也。故太史出函谷以避周，鲁连蹈东海以避秦，彼一圣一贤者岂不能辅衰周之诸侯，理亡秦之乱政，而树功业于无穷哉，亦时不可处也。且子不闻乎，国将兴，听于民；国将亡，听于神。今之时又替于周秦矣。子顾眷伊尹之干，而忽太史之出，不亦戮乎！”

征君曰：“然，是或一道也。子又不闻郢人之歌乎，其辞曰：‘故忧将类兮，奈良工何？榱题媛兮，斲而为窝。’昔周室颠而榱题媛者，齐晋也；斲齐晋之榱题而治公室者，则管仲、鲍叔牙、宁戚、狐偃、赵衰、叔向，皆良工也，是以能伯诸侯而强公室。夫齐晋不以周衰而失其伯，管狐不以时危而失其材。故贤士之嫁也，非刑戮之国则就之，非篡杀之朝则就之。若是而蹇，必内有谗姬，外有谗臣。二网张国，仁者洁身不待尘面举，不待逐而行，引之不浮，垂之不沈，君子时屯，一经一纶，补前觉之明职，驰玄同之令轨，故晋儒之名翁翥焉。子何泥圣贤之寓迹而病厥心乎？”客惭而谢。



色 荒

楚王田于云梦，俘野女为姬。征君追而谏曰：“臣闻国有六慎者兴，有六荒者亡。今王日载其荒，国焉不亡？”楚王曰：“咨，何言之厉也。”征君曰：“臣不能佞，是以厉于王乎？”楚王曰：“何谓六荒？”曰：“兽而无度则荒，色而无度则荒，味而无度则荒，役而无度则荒，音而无度则荒，弃贤而事鬼则荒，慎此六者，国其不亡。”

楚王曰：“寡人兼乎？”曰：“兼。夫王轻身游于云梦之藪，春不振旅而蒐，秋不治兵而狝，九月不返国，荒于兽也。王之宫，蔡姬盆幕融如阳春，今又得野女而狎之。荒于色也。酬以香茅之醴，饱以湘波之鱼，文羞珍饌郁乎穰穰，日夜沉湎而不知疲，荒于味也。歌姬倚瑟，舞姝临薰，钟鼓铿锵，管箫嘤嘤，长夜不辍，荒于音也。筑倒景之台而眺衡岳，望祝融，台高九垒，犹以为望而茫也，又袭其土木，标其栋宇，渥其丹青，雕其锦石，悬十年之康，一朝而虚之，荒于役也。景台之下，绘以浮图，列仙师事游方乞食之徒，采药以炼之，巫覡以淫之，而无变楚之俗，荒于鬼也。此六者，皆诸侯之败德也，而王兼之，其何以存国？昔后羿荒于田而有穷亡，太康荒于酒而不返国，孔甲荒于鬼而诸侯畔，纣荒于靡靡之乐而殷亡，幽王荒于褒姒而周亡，始皇荒于土木兵革之役而秦亡。夫帝有天下者以荒而亡国，况诸侯哉！有一其荒，亦不免于乱亡之祸，况其兼哉。臣不敢谤王也。俘女于云梦，楚国之民皆以王为色荒，而又见襄王之故事矣。臣今日谏而王不听，则王之追游于田罪也。臣欲解佩而行，诸侯方以臣为得志于楚，故至不命臣，而王追之，使无以云梦之游为诸侯笑，是亦臣之劳于楚也。王毋恶焉。”

楚王悔而言曰：“此不谷之失也。”乃命左右刖其女。

征君谏曰：“不可。夫云梦之女不求于王，而王宠之，不愆于王，而王刖之，是以臣之谏而寄戮于色也。王欲刖一女以示远，则王之宫有歌舞之姬百人，王亦岂能尽刖乎？王不能刖，则云梦之女刖之何为？”楚王乃逐云梦之女，而作《田誓》。

洎曰：“楚王淫荒于田，因征君之谏而作《田誓》，此亦诸侯之贤者也。惜其不克奋厥志，以匡扶汉室，而《田誓》一作之后竟无闻焉，且《田誓》不载其文，岂文不如其誓，抑《外史》失之欤？”

晋 使

晋使如楚聘征君也，抱关者告楚王。楚王问曰：“非间乎。”曰：“非也。”曰：“征君闻乎？”曰：“贱臣不察君意，未敢以闻也。”楚王喜而劳之。乃密令左右醉晋使以酒，与之卧，窃晋王书进于楚王。

其文曰：“征君履下，不谷处北海之侧，日麻令音。昔者蒙以黼黻临照敝邑，不谷无



戚于征君，戮以亚宾之礼。凡我同列以为不谷跻，咸逾藩而吊之。征君是以播弃，不谷益烦愆志，至于今是咎。征君其税前之愆，以返我敝邑，偕我宴好，使不谷徼福于敝邑之社稷，而新誉于诸侯，不亦善乎。自征君之别，塞树五霜，朝聘将继，不谷每南望楚甸，悠悠我心，继以梦寐，弥不自仰。敝邑之民若荷束望时雨，有司赋怀征而咏之，一何悃也。征君其亮哉。昔闻征君自蜀之楚，楚人凿岭以平其道路，作锦绣之流盖三十余里，坐以雕乘，宾于阳春之宫。时峒蛮称乱，征君与李玄、左权之徒殫智陈力，有五段大夫之劳，而功之举犹遑，是征君固楚望也。夫楚以微难，其劳也若是；敝邑犹楚也，匈奴之警甚于峒蛮，土壤之饶不及荆楚，而又有巡狩之遗烈，征君何重楚而轻敝邑哉？敝邑若替，虽为不谷辟，征君无亦忍敝邑之民人而置诸沟壑，且以瞻望于邻国，仁者能无愆惕乎？今胡马秋劲寇我井陘，又寇我雁门，又寇我郎岭，郎岭战却，折我锐儿五千。又寇我钺关，余种皆起，遂寇我云中，据获妇女数十余万而淫。我边境师愤空冀而战，又折我锐儿万余，仅获黄犍二千。又寇我上党，破马陵之关，猎火通九京。敝邑之危若垂石，其势莫当。是以藉征君之怒而剿灭之，则名垂汾沁，功铭恒霍，义显于介山，风高于首阳，此不世之休烈也。头征君就余驾，毋惮千里，不谷率敝邑之有司候于境上，命使以符拘于邻国之壤而达其关，使毋有讥者，发壮士三百获乘于道，使毋有妨者。若征君与不谷均是心度勉抚敝邑，肃扬仁风，以化狼戾，荐社稷之馨香，不谷唯是剖心而索报及兹，臣庶无忘德也。征君其深惟无忽焉。”

楚王既得书，命左右曰：“有泄之者诛。”晋使席，检而不获，其旅十人与馆人斗。楚王闻而囚之，晋使遣征君告以晋难。征君曰：“奚为不书。”曰：“馆人盗哉。闻于王，王不罪馆而戮其邻，仆非以修睦也。意者其王之计乎？”征君谓李玄曰：“楚与晋隙矣。”翌日，谒王。王料征君以晋使之故而谒也。讲至日昃，征君不及晋故。楚王疑之，问于征君曰：“先生知晋之聘乎？”对曰：“聘而不书，晋难必遑，臣将赴矣。若聘臣以书，是饰难也，臣何就焉，是以忧其无书也。”楚王有惭色，谓：“信乎晋之饰难也，聘以书，晋使失酒，误投于寡人。寡人诵之，有不利于王室，故囚其使不敢以闻征君。寡人隘宇得无疑乎？”对曰：“晋果不利于王室而有使于楚，虽不犯王，亦楚之累也。岂惟臣之罪祸。王其释晋之使而归之。夫晋之谋寄于臣，臣不就聘则晋之谋谢矣，又何囚乎？”楚王乃释晋使，征君因难曰：“王释晋使而归之，楚必有衅。”楚王曰：“何哉？”曰：“邻国之使不可戮也，既戮而归，晋人必报之，臣是知其衅也。”楚王曰：“然则为之奈何？”曰：“晋之聘，殷矣。王若修戮于晋使，而臣不就，亦衅也。臣请为王聘晋，可以替晋使之谗，而臣亦无辱于晋，且以善楚。王其虞之。”楚王曰：“戮使而客士，衅在敝邑。如晋而淹，衅亦在晋，是邻国交衅，胡可盟也。若不得已，则徐渊亦足以当晋，征君其命之行。”曰：“王不可以轻邻也。徐渊亦义，岂能就不聘之国哉？夫晋无衅于楚，则臣之行为晋也；晋与楚衅，则臣之行为楚，非为晋也。宪也闻之，难而不援不可谓仁，援难而解衅又爽信于贤王，不可谓义，故臣援晋之难，必以王为归矣。不然，衅其登乎。”



征君遂行，与晋使出楚之关，左权、李玄、孔绍祖、鲁狷从之。楚王使二壮士要境，执晋使以质。征君喟然曰：“宪也，韩国之士，楚王若疑，是在韩人也，何以晋人是执？宪有徐渊、周岑二子佐王之侧，是有二质于楚，夫奚患乎？”乃以书报楚王。楚人返命，征君是以得诸侯之心。

龟丘

初，征君宿于龟丘，李玄曰：“有李南流犯客星甚迫，其在楚分乎？难将至矣。”及晋人与蜀人盟，练刺士以报楚王，假为谒者以进。楚王据床而问曰：“汝何国之陪臣也。”谒者曰：“吾闻邻国之交，不可辱以陪臣；诸侯之交，不可疏以床下，今君处雕牙之床，而疏诸侯之交，擢陪臣之礼，而辱诸侯之命，君何不疑臣为刺客而固如此也。”楚王惧而避席，命左右搏之，以验其匕首，谒者疾驰而上，将短刀刺之，梦王伤其面，左右护王。遂搏谒者，曳于殿下，知其为晋人计也。于是楚王始疑晋人之仇楚。

顷之，征君书至。楚王怒曰：“此必黄宪设刺客计也，不然，书奚值哉？”遂杀其谒者及二壮士，又收徐渊、周岑于狱，亦大招刺客以报晋。征君闻之，谓从者曰：“嗟乎！玄之言征矣，将未及晋而晋为之诡，谋不足以复晋，耻而又导衅于楚，其无已乎。若汉室既替，则晋楚二国不能为盟主矣。夫报楚王而值晋衅，命之阨也甚。甫将避难以归故邦，岂复就晋耶。”鲁狷曰：“子之归善矣，其如岑渊何？晋难载，莫若返楚以调二国之衅，而又释楚王之疑，如是而归，至完也，子若畏于楚，则狷也能死之，而左生之武又足以耀楚于掌上，夫何患焉？”征君曰：“汝不见出穴之蚁，上垣篱而扛百足之虫。有稚子临穴而憎蚁，以泥覆其上，虽欲返穴而安之，亦不得已。今楚之疑非特稚子之憎也，疑覆于国而距后至之士，非特覆穴之泥也，而欲返楚以求鸣，是何丘蚁之弗若乎。汝又不见游鱼之逝千仞之数，而无患者，以其能与水相信也，故浮沉得扬其意，出入得畅其情，是水益深则鱼益逝，君益信则士益归，而况士之于诸侯哉。使游鱼遇无水之壑，则偃蹇而困于泥，求咫尺之游亦不可得已。今楚无水之壑也，欲以数泽之鱼而游之必蹇矣。故鱼不厌深，士不厌信，或止或行，其知几乎！”

鲁狷曰：“楚不可返，以疑故也。无疑于晋，奚为而不就哉？”征君曰：“晋国不待士而忿谋，又以培衅，虽士至其国，亦何所奋也？夫疑志者难与决策，忿谋者难与定交，楚疑而晋忿二难也。士焉得而就乎？昔赵杀鸣犊而孔子去楚，其似矣。南望郢关，长虹蔽之，痛乎！苍天其斯人与。”

遇渔

徐渊狱中上书，暴楚王之过，楚王焚其书而杀之。周岑放浮于湘江，有渔者并揖而问曰：“子何方上国之士，而浮于斯乎？”周岑曰：“吾叔度氏之徒也，寄客于楚，潇潇是浮，



以濯以渔，棹彼中流，怀我君子，湘水悠悠。”渔者曰：“子奚不追师而为此游也？”周岑喟然叹曰：“师安所追乎！汉道其亡，王业其茫，奸雄攘臂，贤者无庐，流于四方。之晋者浮河，之楚者浮湘。吾将逝洞庭而憩云梦，窥九疑而望衡阳，抚雄剑以啸荆门，濯长缨以歌沧浪，吾进与子而偕钓，退与子而偕狂。幽吾于鸥凫之渚，栖吾于兰社之乡，羌邂逅而猜予，迷圣贤之弛张，信不可乎？”

渔者曰：“吾闻无巢之林，其下必庐；无渔之藪，其上必矶。子乃洋洋然悲歌慷慨，浮而不归，敝褐垢体，为时所疑，之楚游者能不怀噫。是子之智不如鱼之远矶而虚其藪，鸟之畏庐而废其巢乎，何子之不能广也？”

周岑曰：“昔者箕子仁而蒙难，文王顺而拘美，展禽和而鲁黜，子胥毅而吴谗，仲尼能而陈厄，墨翟智而宋囚，史鱼直而晋辱，屈平忠而楚流。古之圣哲贤彦之士，岂不欲避忧患而洁身哉？心有所激则潏而不缓，心有所愤则矫而不难，心有所忤则慨而不畅，心有所惕则郁而不旷，其逸乐足以育其众庶，其忧患足以哀其民人。溼以钟鼎之禄，而不为富，拥以环堵之室而不为贫。其群也迹化，其独也道荣，一毁一耀，而天下蒙如也。子徒见夫鱼不潜缘矶之藪以为能逝也，而时遇渔人之罟，又逆鳞而入；鸟不巢覆庐之林以为能举也，而时遇猎者之网又解翅而投乎。”

渔者仰笠而歌曰：“潇湘秋水水沄沄，芙蓉落兮雁南宾。期美人兮江渚，岁暮兮苍梧。”云如是者三阙。周岑凭而听之，曰：“噫嘻乎！噫嘻乎！何楚声之婉变也。”

是岁，楚王索征君于晋。征君奔秦，秦人纳之。

阳山

阳山崩，楚王问于左右曰：“晋人有衅于楚，国夙夜忧惴。况征君不复，徐渊因而死，周岑乞食于楚市，乘桴于湘江，不知其所矣。是以海内贤士皆弃楚而实邻，国无以南捍，寡人奈何？今阳山告崩，楚国无所镇，是寡人之祸彰矣。无亦诡于晋者，或不得求与，聊王室之故也。”左右对曰：“君以晋衅，而日夜求征君，用心疑之，是君之劳过矣。夫征君游诸侯，诸侯皆信之，而楚独疑，使楚国不能为盟主，以光耀王室。阳山之崩不其疑乎？”

楚王长息而言曰：“寡人将修好于晋，而聘征君，则楚之祸庶乎？尔众为寡人画之。”左右对曰：“邻国之好可以修也，若征君之聘夫奚就乎。死其弟子而困其师，露其诡计而饰，其聘不可为也。”

楚王遂修好于晋，晋人杀楚使，悬其首于关门之木。

楚王闻晋人无礼于楚，谋诸左右曰：“秦邻不睦，贼我使臣，何以报之？”左右稽首而谢曰：“衅其分矣，又何报焉。愿君毋忘仇于晋也。”楚王怒，宠姬阳华谏曰：“不可。妾闻之，寤口之言若羹，寤心之言若冰。今左右之谏虽不甘君之口，其亦寒心哉。夫寤口者求誉而养祸，寤心者忍耻而奋功。是以明君乐闻寤心之言而去其寤口之士，故功施昭明



而令闻广誉也。君若诛左右而拥其心，无乃嗜其之疾乎。楚之使晋人戮之罪也，君诚怒矣。君独不思晋之使犹楚也，不告于天皇而私戮之，亦与晋均也。而君则欲晋之不怒，何君之远恕耶？”楚王惭而释之，遂田于四望。

明年，楚王饮毒而卒。

归 韩

征君归韩，张俭策杖而访，征君饫之。张俭问曰：“子之誉溥矣，而功不白汉室诸侯，一何拙也！”征君对曰：“宪闻之，智失则求之巧，信失则求之拙，巧者乱，拙者矩。今诸侯虽蔑智而寡信，亦足以国。若汉室不替，诸侯其无战乎。”张俭曰：“俭也，闻晋楚有衅，予何以靖之？”征君曰：“晋之为诸侯也，诡楚之为诸侯也，暴其世子又淫如是，而衅不可靖也。甫是以浣褐而归，得与子饫。惜乎元礼、林宗逝也，哲人不作，王室其凶，吾道之寄，微子谁与？”乃临风鼓琴而吊之。

张俭曰：“夫道欲行寄于人，道欲废寄于天。当三代之盛王，是道也，寄于君臣而偕畅之，若舜之于禹、稷，汤之于伊尹，文武之于周公、箕子，君臣一德，其道流行，身履休烈，是以能永厥治。三代既没，春秋纷拏，是道也寄于臣而不寄于君。若孔仲尼历于诸侯而不遇，乃述经于泗水之滨，身不履盛而世载其烈，故春秋乱而不治，是亦寄于天者也。及春秋毁，战国嗣乱，以纵横为贤，是道也亦寄于臣而不寄于君。若孟轲、荀况，谭王道济之以辩，游说于梁楚之间，而无所合，故战国乱而不治，其犹寄于天乎！夫周东之后，寄于人者何穷，而寄于天者何啬也。西京而来，若董子亦寄之矣。今天下左道乱厥内，夷狄乱厥外；大臣贪，小臣谄，民无庐，士无襦，名器淆混，荡之以纲纪，陨之以文章，诸侯骄侈而无戮于王室。由此观之，道何所寄哉！俭也，从荐绅之末，不能辅导以至于纲，为国玷焉。天之戮民又不能死，而苟淹于草莽沟壑之中。若吾子者，名隆而志高，道完形超，固天之所厚者耶。而子之道又若有寄于天者然。悲夫！《北门》之诗，昔人所哀。世道交倾，天其鉴乎！”

是岁，恒山崩。君子曰：“其幽、厉哉！”

感 时

初，征君将归韩，出疆，哭林宗于野。鲁翊问曰：“翊也闻之，圣人不私，故应物而能化，智者不累，故抑情而能达。子是之哭，其有私乎，其无私乎？”

征君曰：“甫之游也，不觉暮矣。远托七国，倏返南甸，彦人凋殒，谁与扶植？是以感而歆也。”

鲁翊曰：“汉室其终卑乎？”曰：“今逝者七人，惟尔与甫犹路也。黄巾乱，朱儁死之，陆续隐于长洲，李玄隐于华岳，张裘隐于天台，周岑隐于云梦，左权蹈海，徐渊死于楚，



孔绍祖俘于秦。狷乎！甫与尔归矣。”

乃据地而歌《薤露》，鲁狷和之。既而曰：“吴越之聘子，弗报乎？”曰：“昔者，林宗与甫言曰：‘今诸侯王敖惰而不知礼，大夫污浊而不知义，有司贪残而不知仁，士虚滥而不知耻，民巧诈而不知信。’吴越之士民、有司殆甚焉，又多淫疾，胡可革也？夫圣人不易素习之性，不化至顽之俗。诗云：‘匪我则顽，匪我则端。’此之谓欤？”

鲁狷遂从征君于韩而返鲁。征君曰：“嗟乎！礼乐东矣。”



献帝春秋

〔东汉〕阙名 撰

初，黄巾贼起。灵帝建九重华盖，自称无上将军，身被介冑谋兵。京城先是造作角钱，犹五铢而有四道，连于边轮，百姓各有。识者以为夭徵，窃言新钱有四道，京城将坏。而此钱四出，散於四方之外乎，遂皆如其言。

孝灵皇帝何皇后生太子辩。帝数失子，不敢正名，养于道人史子眇家，号曰史佚。

袁绍将兵入宫，诛诸黄门。张让等逼迫以尺一诏开大夏门，将帝及陈留王出，不知所知。

献帝都许，守位而已，宿卫近侍，莫非曹氏党旧恩戚。议郎赵彦尝为帝陈言时策，曹操恶而杀之。其余内外多见诛。操后以事入见殿中，帝不任其忿，因曰：“君能相辅则厚，不尔，幸垂恩相舍。”操失色俛仰求出。旧仪，三公入庙，令虎贲执刃挟之。操顾左右，汗流浹背，自后不敢复朝请。

自诛黄门后，侍中、侍郎出入禁中，机事颇露。由是王允乃奏侍中黄门不得出入。不通宾客，自此始也。

张辽问吴降人曰：“紫髯将军，长上短下，谁也？”答曰：“是孙会稽。”

扬州刺史刘馥上言荆州牧刘表与会稽太守孙权，谋袭京城。遂玺许，设鹿角砮。

董卓未诛，有书三尺布幅上，作两口相衔之字，负之於道，歌曰：“布平”。及吕布杀董卓，负布者不复见。

越骑校尉汝南伍孚忿董卓无道，欲身自杀之，挟佩刀诣卓。孚语毕，辞出，卓至阁执手，孚引刀刺卓，卓多力，却，不中，即杀孚。



三 国 杂 事

〔宋〕唐庚 撰

上自司马迁《史记》，下至《五代史》，其间数千百年，正统偏霸与夫僭窃乱贼，甚微至弱之国，外至蛮夷戎狄之邦，史家未有不书其国号者，而《三国志》独不然。刘备父子相继四十余年，始终号汉，未尝一称蜀；其称蜀，俗流之语耳。陈寿黜其正号，从其俗称，循魏晋之私意，废史家之公法。用意如此，则其所书善恶褒贬予夺，尚可信乎！魏晋之世，称备为蜀，犹五代称李璟为吴，称刘崇为晋矣。今《五代史》作南唐、东汉世家，未尝以吴、晋称之，独陈寿如此，初无义例。直徇好恶耳。往时欧阳文忠公作《五代史》，王荆公曰：五代之事无足采者，此何足烦公？三国可喜事甚多，悉为陈寿所坏。可更为之。公然其言，竟不暇作也，惜哉！

诸葛丞相为后主写申韩管子六韬各一道。

学者责孔明不以经术辅导少主，乃用《六韬》、《管子》、《申》、《韩》之书。吾谓不然。人君不论拨乱守文，要以知略为先。后主宽厚仁义，襟量有余而权略智调是其所短，当时识者咸以为忧。《六韬》述兵权奇计，《管子》贵轻重权衡，《申子》核名实，《韩子》引绳墨，切事情施之，后主正中其病矣。药无善恶，要以对病为妙，万金良药与病不相值，亦复何有补哉！

法正为蜀郡太守、扬武将军，一饭之德、睚眦之怨，无不报复。或言其太横，亮曰：“主公之在公安也，进退狼跋，赖孝直为辅翼。今翻然翱翔，不可复制，如何禁止，使不得行其意耶？”孙盛评曰：“威福自下，亡国之道，安可以功臣而极其凌肆？诸葛氏之言于是失政刑矣。”

秦昭王以范雎之故至质平原君，移书赵王，以购魏齐之首。李广诛霸陵尉，上书自劾，武帝诏曰：“报恩复仇，朕之所望于将军也。复何疑哉！”国初郭进为山西巡检，民诉进掠夺其女，太祖怒曰：“汝小民也，配女当得小民。今得吾贵臣，顾不可耶！”驱出之。而三人者，卒皆有以报国。古之英主，所以役使豪杰，彼自有意义，孙盛所见者少矣。



董昭建议曹公宜进爵国公、九锡各物，以彰殊勋。荀彧称曹公兴师，本为朝廷君子，爱人以德，不宜如此。曹公由是不平，彧以忧卒。论者曰，彧叶规曹氏，以倾汉祚，晚节立异，无救运移。

管仲相桓公伐山戎、伐陈蔡、伐楚、伐晋，其意欲尊周尔，而桓公遂有封禅之志。文若依曹公，平青徐、平许洛、平河朔、平汉南，其志欲尊汉耳，而曹公遂有九锡之议。管仲知封禅之不可许也。故设词以拒之；文若知九锡之不可长也，故逊词以却之。管仲幸，故桓公从其说以全勤王之功；文若不幸，故曹公不用其语以成窃国之祸。究其终始，幸不幸异耳，用心岂不同耶！论者何得非之！

华歆、邴原、管宁相善，时人号为一龙，歆为首，原为腹，宁为尾。

《魏略》云：邴原、管宁皆盛德之士，而歆为之首，则歆之为人可知矣。然《汉书》称伏后之废，操使歆勒兵入宫收后，后闭户匿壁中，歆破户发壁而入，此岂盛德之士哉！操虽奸雄，然用人各当其理。方是之时，魏氏群臣如董昭、夏侯惇、贾诩、郑昱、郭嘉之流为不少，足以办此，何独使歆为之？歆果贤耶，操决不敢以此使之。以此事操，则歆不得为贤者。陈寿作原传，称少与管宁俱以操尚称，初不及歆，至作宁传，寿又称与原、歆相友，岂三人相友而歆独无操尚乎？朋友出处不齐，理宜有之，操尚不同，则非所以为友矣。此予之所未解也夫。

建兴五年，丞相亮出屯汉中。

是岁丁未，魏之太和元年，吴之黄武六年也。魏明帝即位，既已逾年，君臣无间。前此吴入攻夏口，围石阳，不克。是岁保境不动。初，孔明说先主以保有荆益，西和诸戎，南抚夷越，外交孙权，内修政理，天下有变，则遣上将向宛洛，而将军身出秦川，则霸业可成，汉室可兴矣。孔明始议如此。至是天下宁有变耶，而遽有此举，何哉？

曹公征乌丸，遣使辟田畴，畴戒门下趣严州。人问曰：“昔袁公礼命五至而君不屈，今曹公使一来而君若恐弗及，何也？”畴笑曰：“此非尔所知也。”即随使者到军。

或曰，田畴辞聘于袁氏，从辟于曹公，门人怪之，畴笑而不答。何也？曰，难言也。昔汉明帝问于吴良曰：“先帝召卿不至，反从骠骑游耶？”良曰：“先帝以礼待下，故臣得以礼进退。骠骑以法检下，故臣为法屈尔。”畴之用意，盖亦如此。是时袁氏政宽，故畴可得不至；曹氏刻急，故畴不敢不来。来非慕义，故终身不受封爵。畴虽不言，言在其中矣。

曹公定邳，祠袁绍墓，哭之流涕。孙盛评曰：“先王诛赏，将以惩劝。而尽哀于逆臣之家，为政之道顾矣。匿怨友人，前哲所耻，说谗旧馆，义无虚涕。道乖好绝，何哭之



有！汉祖失之于项氏，曹公遽谬于此举，百虑之一失也。

禹见刑人于市，下车而哭之，况刘、项受命怀王，约为兄弟，而绍与操少相友善，同起事而绍又盟主乎？虽道乖好绝，至于相倾，然吾以公义讨之，以私恩哭之，不以恩掩义，亦不以义废恩，是古之道也，何名为失哉！孙氏之论，非但僻学也，盖亦可谓小人矣。

章武三年四月，先主崩于永安宫。五月，后主袭位于成都，改元建兴。

人君继体，逾年改元。而章武三年五月改为建兴，此陈寿所以短孔明也。以吾观之，似不为过。古者人君虽立，尚未即位也。明年正月，行即位之礼，然后书即位而称元年。后世承袭之。初固已即位矣，称元不亦可乎！故曰不为过也。古者人君袭位，未逾年不称君，故子猛不书王，子般子赤不书公，后世承袭之。初固已称君矣，称元不亦可乎！故曰不为过也。春秋之时，未有一年而二名者，如隐公之末年，既名之为十一年矣，不可复名为桓公元。自纪元以来，有一岁而再易者矣，有一岁而三四易者也，岂复以二名为嫌而曰不可乎哉？故曰不为过也。非特此也，今之所谓元年与古异矣。古之所谓元年者，某君之一年也，故必逾年而后称之，如前所云。后世所谓元年者，某号之一年耳，嗣位而称之可也，逾年而后称之亦可也。

建安十三年，曹公自江陵征备。至赤壁，与备战，不利，退保南郡。

世之为将者，务多其兵，而不知兵至三十万难用哉！前代以六十万胜楚，以四十万胜秦，惟王翦、项籍二人而多多益辨者，独韩信能之，其众兵至三十万未有得志者。赵括以四十五万败于长平，汉初合五诸侯兵五十六万败于彭城，以三十万困于白登，王恢引三十二万伏马邑无功，王邑以百万败于昆阳，黄巾以百万败于寿张，苻坚以八十万败于合肥，随以九十万败于辽东。其众愈多，其败愈毒，然犹有可委者曰“将不善”。若曹公，可谓善将矣，复以水军六十万，号称八十万而败于乌林。是岁战舰相接，故为敌人所烧，大众屯聚，故疫死者几半。此兵多为累之明验也。以高祖之才，不过能将十万众，则水军六十万，当得如高祖者六人乃能将之。高祖岂易得哉，其败也固宜！

曹公征下邳，擒关羽以归，礼之甚厚，而察其心神无久留之意，使张辽以情问之，羽叹曰：极知曹公待我厚，然吾受刘将军恩，终不可留。要当立效报曹公而去。及羽破颜良，曹公知其必去，厚加赏赐，羽悉封还，拜书告辞，归先主于袁军。左右请追之，公曰：彼各为其主，勿追也。

羽为曹公所厚而终不忘其君，可谓贤矣。然战国之士亦能之。曹公得羽不杀，厚待而用其力，可谓贤矣，然战国之君亦能之。至羽必欲立效以报公，然后封还所赐，拜书告辞而去，进退去就，雍容可观，殆非战国之士矣。曹公知羽必去，重赏以贐其归，戒左右勿



追，曰彼各为其主也，内能平其气，不以彼我为心；外能成羽之忠，不私其力于己，是犹有先王之遗风焉。吾尝论曹公曰：是人能为善而不能不为恶，能为善，是以能享国；不能不为恶，是以不能取天下。

黄初三年八月，魏遣太常邢正持节策权为吴王、加九锡，权受之。

是岁吴蜀相攻，大战于夷陵，吴人卑词事魏，受其封爵，恐魏之议其后耳。而《魏略》以为权有愠意，而自顾位轻，故先卑而后倨之。先卑者，规得封爵以成僭窃之基；后倨者，冀见讨伐以激怒其众。且吴至权三世矣，其势足以自立，尚何以封爵为哉！受封爵则君臣矣，供职贡矣，除边关矣，国有警急以事闻，无得擅兴兵攻击矣。羽书至，则悉甲士从征矣，非身入朝则遣子入宿卫矣。彼藩国固然无足怪者，一不从命，则王师致讨有词矣，然后发兵拒战，是抗上矣，尚安能激怒其众也哉。既而魏责侍子，权不能堪，卒叛之，为天下笑。方其危急之时，群臣无鲁仲连之识，出一切之计以宽目前之急，而陈寿以句践奇之。句践事吴则尝闻之矣，受吴封爵则未之闻也。

魏明帝问黄权曰：“三国鼎立，何者为正？”权对曰：“当以天文为正。往岁荧惑守心，文皇帝崩，吴蜀平安，此其证也。”

权推魏为正统，未必不然。然权初无他说，一以天文决之，此非予之所敢知也。黄初四年三月癸卯，月犯心大星，占曰心为天王位，王者恶之。四月癸巳，蜀先主殁于永安宫，而二国皆自如天道，岂易言哉！晋《天文志》称二石虽僭号，其强弱常占昴宿，不关太微紫宫，然以记载考之，流星入紫宫而刘聪殒，彗星扫太微而苻坚败，荧惑守帝座而吕隆破，故知推理正统，固自有理也。晋庚翼与兄冰书曰：岁星犯天关，江东无故，而季龙频年闭关，此复是天公愤愤无皂白之证也。噫，人之责天亦太详矣，为天者不亦难哉！

先主攻刘璋，所至辄克，置酒大会于涪，谓庞统曰：“今日之会乐矣。”统曰：“伐人之国以为欢，非仁者之兵也。”先主曰：“武王胜商，前歌后舞，非仁者耶！”

涪之役陋矣，何足论哉！至于乐与不乐之义，则有可得而言者。《传》曰：师有功则奏凯歌，又曰战胜以丧礼居之。二义孰是？吾闻圣人无心，以百姓为心。其战也，本所以忧民之忧；其胜也，不得不乐民之乐。故师有功则奏凯歌，此无足怪者。然道失而后德，德失而后仁，仁失而后义，义失而后礼。道至于礼，其去本远矣，而况于兵乎！故战胜以丧礼居之，亦无足怪者。言乐与不乐，皆未之尽也。古之处此者，外则歌舞而内以丧礼居之。

黄初四年，司徒华歆、司空王朗、尚书令陈群、太史许芝、谒者左仆射诸葛诞各有书与诸葛亮，陈天命人事，欲使举国称藩。不服。



魏之群臣可谓不学无术而昧于识虑矣！使于学术识虑如汉萧望之者，当不为此举动也。汉宣帝时，呼韩款塞称藩，望之议以客礼待之，使佗日遁去，于汉不为叛臣。宣帝从之。盖方是时，匈奴虽衰，然素号敌国，非东瓯南粤比也。名分一正，遂不可易，他日叛去，何以处之？发兵诛之则势有所未能，置之不问则无以令天下，故方其柔顺之时，待以不臣之礼，非独示以谦德，盖将为后日久远之虑也。魏之自视何如宣帝？吴蜀虽弱，不至如呼韩之时。彼来称藩，犹当待以弗臣，况未服而强之耶？前此加权封爵而为权所戏侮，今复喻蜀称藩，为亮所不答。自西自东，自南自北，无思不服者，不如是之劳也。

兴平二年，袁术僭号于九江，置南北郊。是时荆州牧刘表亦郊祀天地，汉不能制。

惟天子祀天地于郊，惟鲁得用郊。郊祀之礼，圣人之所甚重，而后之乱人；欲为大盗于天下，未尝不先盗其所甚重者，此庄老之徒所以有圣人不死、大盗不止之说也。至杨子之论，则又不然。秦人祠西畴，周不即禁，卒举天下而与之，名分所在，不得不重。夫庄老之说，儒者固已非之，而杨子之论，亦复有所未尽。杨子惟知严名分以临天下，而不知能保天下者然后能守名分。秦人之祠西畴，周非不欲禁之，力有所不能也。然则欲守名分者，先勉其所以保天下者哉。

诸葛孔明说先主以跨有荆益，保其岩阻，天下有变，则命一上将以荆州之军向宛雒，而身率益州之众以攻秦川。先主称善。

高祖既破陈稀，还至雒阳，叹曰：代居常山北，而赵从山南有之。远乃立子，常为代王，以代郡雁门属焉。地固有封境虽接而形势非便者矣。荆州在山前，距蜀五千余里，而蜀从山后有之，其势实难。非独不能有荆州也，虽得秦川，亦不能守。何者？梁益险绝，盖自守之国，而不可以兼并。凡物之在山外者，尺寸不能有，此高祖所以弃汉中而取三秦也。

权欲令太子登读书，习知近代之事。以张昭有法，重烦劳之，乃令张休从昭受读，还以授登。

刘备教禅以《汉书》，而权亦令张昭以《汉书》授其子登，世以权、备之智不足以知二帝三王，故其所以贻谋者，止于如此。是大不然。伊尹之训太甲也，称有夏先后而不及唐虞，周公之戒成王也，称商三宗而不及唐虞，岂伊尹周公之智不足以知尧舜禹哉？亦取其近于时，切于事者而已。权、备之知识不足拟伊尹、周公，至其教子，不忽近而慕远，不贵名而贱实，此亦伊尹、周公之遗法也。

《晋阳秋》曰：孙皓闻羊陆和交以诘于抗，抗曰：臣不如是，正足以彰其德耳，于祐无伤也。或以祐、抗为失臣节，两讥之。



亲仁善邻者，国家之事；出奇克敌者，将帅之职。羊陆以将帅之职而修国家之事，此论者所以讥其失御也。窃谓不然。兵固多术矣，有以力相倾者，有以智相倾者，有以德相倾者。秦汉以来，惟知诈力，一有为德，则是非为之纷然，而不知所谓以德相倾者，是亦出奇而已矣。何名为失节哉。然《晋阳秋》以为羊陆推侨札之好，兹又过矣。兵家诡道，何侨札之有？就如所云，乃不足贵，何则？非吴郑之使而敦侨札之分，处方面之任而私境外之交，此非所以称羊陆之美也。

权征柳城，备功表褒许，表不能用。

挟天子令诸侯，其事始于齐桓、晋文，而齐桓晋文未尝迁惠王、襄王子齐、晋也。除难定乱，兴灭继绝，功效既著，诸侯自服矣。董卓以献帝居长安，李茂贞以昭宗幸凤翔，发号施令，动以制诏为名，然而天下诸侯群起而攻之，何也？无尺寸之功以取信于天下，而有劫主之名以负谤于诸侯，则天下诸侯群起而攻之，固其理也。使表能勤王如桓文耶，虽不褒许，何害其为令诸侯哉？如其不然，虽褒许，适足以致诸侯之师而已，董卓、李茂贞是也。

亮出祁山，南安、天水、安定三郡响应。会马谡败，三郡不守，亮拔西县千余家还汉中。

汉全盛时，日月所照，横日之民，皆汉赤子。其后德薄不能保有黎庶，则举江以东而投之吴，割渭以北而捐之魏，则民不弃汉而汉弃其民。亮出祁山，三郡望风响应，而亮不能守，则亮负于民而民不负亮。方是之时，固当集其所获之众，痛自引咎而谢遣之，使崤陇之民晓然皆知吾心，则后日之举，不患其不至。如其不然，在彼犹在此也。而亮拔西县千余家迁之汉中，既不足以伤敌，而使无辜之民流离转徙，违其宗族，去其坟墓，岂三郡所以响应之意哉！此虽边鄙之常，然于孔明则有不应尔者。此吾所以为之惜也。

孙亮太平二年，宗室孙基盗乘御马，付狱。侍中刁元奏曰：基法应死。然鲁王早终，惟陛下哀原之。亮曰：法者，天下所共，奈何以情相迫耶！当思可以释此者。元曰：赦有大小，或天下，或千里，或五百里，随意所及。及赦宫中，基得以免。

吴之君臣可谓上下皆失其分矣。汉世诸侯王有罪当诛，丞相、御史、典客、宗正、廷尉奏请论如法制。曰：朕不忍致法，其与列侯二千石议之！于是丞相、御史等又奏：臣等谨与列侯二千石议，皆曰宜论如法制。曰：“朕不忍致法，其废勿王，或削地若干。夫请论如法者，有司以法守，不忍致法者，人主以道揆今。亮，人主也，而论法；元有司也而论情，故以吴之君臣上下，可谓皆失其分矣。

鲁肃劝权以荆州借备，周瑜言备枭雄，不宜以土地资业之。



汉时荆州之地为郡者七，刘表之歿，南阳人于中原，而荆州独有南郡、江夏、武陵、长沙、桂阳、零陵。备之南奔，刘琦以江夏从之，其后四郡相继归附，于是备有武陵、长沙、桂阳、零陵之地。曹仁既退，关羽、周瑜错处南郡，而备领荆州牧，居公安，则六郡之地，备已悉据之矣。其所以云借者，犹韩信之言假也，虽欲不与，得乎？鲁肃之议，正合良平蹶足之几，而周瑜独以为不然。屡胜之家，果不可与料敌哉。

建安二十年，先主居公安，使关羽争荆州。会曹公征汉中，先主恐失益州，与吴连和，分荆州引军还蜀。

曹公征汉中，先主闻之，与吴连和，分荆州是矣，引军还蜀，非也。是时蜀有南郡之地，而先主以蜀兵五万居公安，若进据襄阳，而羽师五万之众以袭许，卷甲疾趋，五日而可至，事成则天下未可量，不成则汉中之师不攻而自退。此兵法所谓攻其所必救者。初曹公征柳城，备劝表以袭许，及备据荆州，亦不能辨此，信天命有在焉。

孙权尊称，议者以为交之无益而名礼弗顺，宜遂绝之，孔明以为未可。

或曰孔明之不绝吴，权耶？正耶？曰正也，非权也。六国之时，诸侯皆僭矣，孟子以为有王者作，不皆比而诛之，必教之不改而后诛之。然则未教之罪，王者有所不诛。孔明之势既未能有以教吴，则吴之僭拟，未可以遽责，此王者之法也，非权也。

吴欲以兵万人讨樊樞，权问潘濬，濬言五千兵足以擒樞，因论樞可破状。权奇其言，遣将五千，斩平之。

权克荆州，将吏悉降，而潘濬独坚卧不屈。权舆致之，濬伏床而泣悲不自胜，其于所事，何其厚也！既而樊樞欲以武陵自拔归蜀，濬为权画策，自将讨平之，其于所厚又何薄也！意在君为君，有不得不然者乎！吾闻乐毅去燕适赵，赵欲与之伐燕，毅泣曰：昔之事燕，犹今之事赵也。毅若获戾，放在他国，终身不敢谋赵之徒隶，况其国乎。便乐毅愚人也可，乐毅少知则潘不得为无罪矣。

晋侍中荀勖、中书令和峤奏，使著作郎陈寿定故蜀丞相诸葛亮故事，为二十四篇，号《诸葛亮集》，上之。

魏文帝即位，求孔融之文，以为不减班杨。晋武帝践祚，诏定诸葛故事而比之周浩。融既魏文之仇恨而亮亦晋宣之仇敌，二人之言，宜非当时之所欲闻，而并见收录，惟恐其坠失荡然无忌，犹有先王大公至正之道存焉。此吾所以特有取于魏晋也。

魏明帝即位，抚军大将军司马懿、镇军大将军陈群、征东大将军曹休、中军大将军曹真并开府。



汉初置丞相、御史府，后置三公府，将帅出征，置幕府，军罢即废，不常置也。今魏既置三公而懿等并为大将军开府京师，此何理耶？公室之卑，盖自此始矣。蜀将李平闻懿等开府辟召以说孔明，孔明鄙之，是时中原人物推陈长文为第一，今长文亦为此，余无足道矣。

建安十八年，汉帝诏并十四州，复为九州。

三桓讥鲁作三军合周礼矣，其意乃欲卑公室而夺之。权曹操讥复九州合禹贡矣，其志乃欲广冀州而益其地。夫引经术称古谊者，固未必皆奸人，而奸人之欲济其邪谋者，亦未尝不引经术而称古谊。既不可以尽信，亦不可以皆疑。要在乎察之而已。

庞统说先主取益州，先主曰：“今与吾为水火者”曹操也。操以急，吾以宽；操以暴，吾以仁；操以谄，吾以忠。每事相反，乃可成尔。以小故而失信义于天下，吾不为也。”

宽胜急，仁胜暴，忠胜谄。然操强而备弱，宜胜而反不如者，何也？操稊稂也，备五穀之不熟者也。五穀之熟，固不如稊稂，非谓宽仁、忠信不能胜急暴、谄诈也。备不能胜操耳，故曰苟非其人，道不虚行。

青龙三年，张掖出石图，广一丈六尺，高一丈七尺一寸，围五丈八尺。苍质而白理，有若麟者、凤者，有若虎者，有若牛者，有若人马者，有若八卦、列宿、李膺者，其字可读而不可晓。时人以为魏晋之符。

河图、洛书之说，欧阳永叔攻之甚力。今观此图，与河图洛书亦何以异！惜乎时无伏羲神禹，故莫能通其义，而陋者以为魏晋之符。彼魏晋何足道，安知其非八卦九畴之类也！造化之所为，犹有幸不幸焉，而况于人乎。可胜叹哉。

苏则为金成守，闻魏氏代汉，发服悲吴。孙盛评曰：“士不非其所事，不事其所非。既已策名新朝，复怀贰志，岂大雅君子出处之分哉。”

魏氏受禅，汉帝尚存，缙素衰哀，诚为轻脱。然盛谓贰志，兹又过矣。箕子过故商墟，感宫室毁坏伤，之欲哭，以方朝而不敢。季札哭王僚而事阖闾，晏子哭庄公而事景公。哀死事生，以待天命，此人臣之分也，何得谓之非其所事而事其所非乎！孙盛泉音，使人闻而恶之。

诸葛亮闻张温败，未知其故，思之数日，曰：“吾得之矣。是人清浊善恶太分明也。”

善恶太明，诚取败之道。然人之祸败，有以其道得之者，有不以其道得之者。若张温之败，可谓不以其道者矣，尚可以推求其故哉。



魏文帝赐群臣没入生口，惟散出而嫁之，帝叹息。孙盛评曰：“子路私馈仲尼，毁其食器；田氏盗施春秋，著以为讥；觊觎之家国，刑所肃纵在哀矜，理无偏宥。散居股肱之任，当公言于朝，而默受嘉赐，独为君子，可谓匹夫之仁，蹈道则未也。”

孙盛以刻薄之资，承学于草窃乱贼之世，性习皆恶，故其论议类皆如此。夫见牛未见羊，孟子所谓仁术也，何名为偏有哉！使盛为廷尉，于魏文之时，则散当以私馈盗施诛矣，东晋之不用盛，不为过也。

陈寿曰：“蜀不置史，注记无官，以故行事多遗，灾异靡书。诸葛亮虽达于为政，若此之数，犹未周焉。”

《礼记》人，君言则左史书之，动则右史书之。《周礼》建官备矣，独不闻有所谓左右史者。虽有太史，然不以注记为职。是时诸侯皆有史，岂天子独阙乎？春秋之时，卜田宅者、占云日者，皆称太史，则太史殆阴阳家流。然书赵盾者、书崔杼者，亦称太史，则太史又似掌注记者。盖方是时，学者通知天卜，而卜兴废者亦不甚用蓍龟。太史伯以祝融之功而推楚国之必兴，太史赵以虞舜之德而占陈氏之未亡。其论议证据有绝人者，故阴阳注记得兼掌之。汉司马谈父子为太史令，以论著为己任，而又掌天官，则兼掌之效于兹可见。魏晋之际，始署著作郎，自是太史之职分而为二。孔明之时未也。按后主景耀元年，史官奏景星见，于是大赦改元，而曰蜀不置史，妄矣。

景初元年，有司奏魏得地统，宜以建丑为正，遂改是年三月为孟夏四月。

世言夏得人统，以建寅为正；商得地统，以建丑为正；周得天统，以建子为正。其说非也。以尧典羲和舜典巡狩观之，唐虞之世，固以建寅为正矣。至夏后之时，其法尤备，其书传于后世，谓之夏小正。孔子得之于己，以为可用，非谓建寅之正，自夏后氏始也。至成周时，始用建子为正，然犹不废夏时，谓之正岁。后之学者，以为夏以建寅为正，周以建子为正，商居其间，不应无所变更，因以意推之，曰商以建丑为正。而三统之说兴焉。夫夏后氏以建寅为正，吾于《论语》见之矣，《论语》曰：行夏之时。周以建子为正，吾于《春秋》见之矣，《春秋》书十月霜降杀菽，三月无冰。商人以建丑为正，于经既无所见，于理亦复不通。夫以建子为正者，取二十四气之首也，以建寅为正者，取四时之首也，以建丑为正，其取义安在哉？是以知其不然。

建安十八年，先主进军图雒县，庞统为流矢所中，卒。先主言则流涕。

庞德公以孔明为卧龙，以士元为凤雏，则士元之齿当少于孔明。孔明卒时年五十四，而士元先卒二十有二年，则士元物故尚未三十也，岂不惜哉！建安二十四年，先主始王汉中，是岁关羽卒，明年黄忠法正卒，又明年张飞卒，又明年马超、马良卒。基业未就而一时功臣相继沦谢，如有物夺之者。明年后主践祚，而旧人独有孔明、赵云。后七年云卒，



又五年孔明卒，而勋旧于是乎尽。正卒时四十五，超四十七，良三十五，自余不著其年。飞传称少与羽俱事先主，羽年长数岁，飞兄事之，则飞卒年才五十许。霍峻年四十。此数杰者，皆以高才早世，而谯周至七十余而终，天不祚汉，明矣。



汉末英雄记

〔魏〕王粲 撰

曹 操

曹操与刘备密言，备泄之於袁绍，绍知操有图已之意。操自咋其舌流血，以失言戒后世。

建安中，曹操於南皮攻袁谭，斩之。操作鼓吹，自称万岁，於马上舞。十二年，攻乌桓、蹋顿，一战斩蹋顿首，系马鞍於马扑舞。

曹操进军至江上，欲从赤壁渡江。无船，作竹排，使部曲乘之，从汉水来下大江，注浦口。未即渡，周瑜又夜密使轻舸百艘烧排，操乃夜走。

曹公赤壁之败，至云梦大泽，遇大雾，迷道。

建安七年，郾中大饥，米一斛二万钱。

曹 纯

纯字子和，年十四而丧父，与同产兄别居。承父业，富於财，僮仆人客以百数。纯纲纪督御，不失其理，乡里咸以为能。好学问，敬爱学士，学士多归焉，由是为远近所称。年十八，为黄门侍郎。二十，从太祖到襄邑募兵，遂常从征战。

周 嵩 伍 琮

嵩字仲远，武威人。琮字德瑜，汝南人。

桥 瑁

瑁字元伟，玄族子。先为兖州刺史，甚有恩惠。



董 卓

卓父君雅，由微官为颍川纶氏尉。有三子：长子擢，字孟高，早卒；次即卓；卓弟旻，字叔颖。

卓数讨羌胡，前后百余战。

河南中部掾闵贡扶帝及陈留王上至雒舍止。帝独乘一马，陈留王与贡共乘一马，从雒舍南行。公卿百官奉迎於北芒阪下，故太尉崔烈在前导。卓将步骑数千来迎，烈呵使避，卓骂烈曰：“昼夜三百里来，何云避，我不能断卿头邪？”前见帝曰：“陛下令常侍小黄门作乱乃尔，以取祸败，为负不小邪？”又趋陈留王曰：“我，董卓也，从我抱来。”乃於贡抱中取王。

董卓谓王允曰：“欲得一快司隶校尉，谁可作者。”允曰：“唯有盖勋元周京兆耳。”卓曰：“此明智有余，不可假以雄职。”

董卓攻得李昊、张安毕，生范中生烹之。二人临入鼎，相谓曰：“不同日生，乃同日烹。”

董卓在显阳苑，请官僚共议，欲有废立，谓袁绍曰：“刘氏之种，不足复遗。”袁绍曰：“汉家君天下四百许年，恩泽深溷，兆民戴之，恐众不从公议。”卓曰：“天下之事，岂不在我，我令为之，谁敢不从。”绍曰：“天下健者不唯董公，绍请立观之。”横刀长揖而去。坐中皆惊愕。时卓新至，见绍大家，故不敢害之。卓於是遂策废皇太后，迁之永安吉，其夜崩。废皇帝史侯为宏农王，立陈留王为皇帝。卓闻东方州郡谋欲举兵，恐其以宏农王为主，乃置王阁上，荐之以棘。召王太傅责问之曰：“宏农王病困，何故不白。”遂遣兵迫守大医致药。即日，宏农王及妃唐氏皆薨。

卓侍妾怀抱中子皆封侯，弄以金紫。孙女名白，时尚未笄，封为渭阳君。於郿城东起坛，从广二丈余，高五六尺，使白乘轩金华青盖车。都尉、中郎将、刺史二千石在郿者，各令乘轩簪笔，为白导从，之坛上，使兄子璜为使者授印绶。

郿去长安二百六十里。

时有谣言曰：“千里草，何青青，十日卜，犹不生。”又作“董逃”之歌。又有道士书布为“吕”字以示卓，卓不知其为吕布也。卓当入会，陈列步骑，自营至宫，朝服导引其中。马蹶不前，卓心怪欲止，布劝使行，乃衷甲而入。卓既死，当时日月清净，微风不起。旻、璜等及宗族老弱悉在郿，皆还，为其群下所斫射。卓母年九十，走至坞门曰：“乞脱我死。”即斩首。袁氏门生故吏，改疾诸袁死於郿者，敛聚董氏尸於其侧而焚之。暴卓尸於市，卓素肥，膏流浸地，草为之丹。守尸吏暝以为大炷，致卓脐中以为灯，光明达旦，如是积日。后卓故部曲收所烧者灰，并以一棺棺之，葬於郿。卓坞中金有二三万斤，银八九万斤，珠玉、锦绮、奇玩、杂物皆山崇阜积，不可知数。



昔，大人见临洮而铜人铸，临洮生卓而铜人毁；世有卓而大乱作，大乱作而卓身灭，抑有以也。

京师谣歌咸言“河腊丛进”，献帝腊日生也。风俗通曰：“乌腊乌腊。”案：逆臣董卓滔天虐民，穷凶极恶，关东举兵，欲共诛之，转相顾望，莫肯先进，处处停兵数十万，若乌腊虫，相随横取之矣。

太祖作《董卓歌》，辞云：“德行不亏缺，变故自难常。郑康成行酒伏地，郭景图命尽於园桑。”

何 苗

苗，太后之同母兄，先嫁朱氏之子。语有脱误进，步曲将吴匡，素怨苗不与进同心，又疑其与宦官同谋，乃令军中曰：“杀大将军者，车骑也。”遂引兵与卓弟旻共攻杀苗於朱爵阙下。

卓欲震威，侍御史□龙宗诣卓白事不解剑，立挝杀之，京师震动。发何苗棺，出其尸，肢解弃於道边。又收苗母舞阳君杀之，弃尸於苑枳落中，不复收敛。

李傕郭汜

傕，北地人。汜，张掖人，一名多。

李傕等相攻战长安中，盗贼不禁，白日虏掠。是时，谷一斛五十万，豆麦二万。人相食啖，白骨委积，尸秽满路。

杨奉韩暹

备诱奉与相见，因於坐上执之。暹失奉势孤，时欲走还并州，为杼秋屯帅张宣所邀杀。

丁 原

原字建阳。本出自寒家，为人粗略，有武勇，善骑射。为南县吏，受使不辞难，有警急，追寇虏，辄在其前。裁知书，少有吏用。

吕 布

郭汜在城北。布开城门，将兵就汜，言：“且却兵，但身决胜负。”汜、布乃独共对战，布以矛刺中汜，汜后骑遂前救汜，汜、布遂各两罢。



诸书布以四月二十三日杀卓，六月一日败走，时又无闰，不及六旬。

吕布刺杀董卓，与李傕战，败。乃将数百骑，以卓头系马鞍，走出武关。

王允诛董卓。卓部将李傕、郭汜不自安，遂合谋攻围长安，城陷，吕布奔走。布驻马青楼门，外招允曰：“公可以去乎？”允曰：“若国家社稷之灵，上安国家，吾之愿也，如其不获，则奉身以死之。”

布自以有功於袁氏，轻傲绍下诸将，以为擅相署置，不足贵也。布求还洛，绍假布司隶校尉，外言当遣，内欲杀布。明日当发，绍遣甲士三十人，辞以送布，布使止于帐侧，伪使人于帐中鼓箏。绍兵卧，无何，出帐去，而兵不觉。夜半兵起，乱砍布床被，谓为已死。明日，绍讯问，知布尚在，乃闭城门，布遂引去。

吕布诣袁绍，绍患布，欲杀之。遣三十六兵被铠迎布，使著帐边卧。布知之，使於帐中鼓箏。诸兵卧，布出帐去，兵不觉也。

吕布诣袁绍，绍患之。布不自安，因求还洛阳，绍听之，承制使领校尉。遣壮士送布而阴杀之。布疑其图己，乃使人鼓箏於帐中，潜自遁去。夜中兵起，而布已亡。绍闻，惧为患，募追之，皆莫敢近，遂复归。

布见备，甚敬之，谓备曰：“我与卿同边地人。布见关东起兵，欲诛董卓。布杀卓东出，关东诸将无安布者，皆欲杀布耳。”请备於帐中坐妇床上，令妇向拜，酌酒饮食，名备为弟。备见布语言无常，外然之而内不悦。

布初入徐州，书与袁术。术报书曰：“昔董卓作乱，破坏王室，祸害术门户。术举兵关东，未能屠裂卓。将军诛卓，送其头首，为术扫灭讎耻，使术明目於当世，死生不愧，其功一也。昔将金元休向兖州，甫诣封部，为曹操逆所拒破，流离进走，几至灭亡。将军破兖州，术复明目於遐迹，其功二也。术生年以来，不闻天下有刘备，备乃举兵与术对战，凭将军威灵，得以破备，其功三也。将军有三大功在术，术虽不敏，奉以生死。将军连年攻战，军粮苦少，今送米二十万斛，迎逢道路。非直此止，当骆驿复致；若兵器战具，佗所乏少，大小唯命。”布得书大喜，遂造下邳。

布水陆东下，军到下邳西四十里。备中郎将丹阳许耽夜遣司马章班来诣布，言“张益德与下邳相曹豹共争，益德杀豹，城中大乱，不相信。丹阳兵有千人屯西白城北内，闻将军来东，大小踊跃，如复更生。将军兵向城西门，丹阳军便开门内将军矣”。布遂夜进，晨到城下。天明，丹阳兵悉开门内布兵。布於门上坐，步骑放火，大破益德兵，获备妻、子、军资及部曲将吏士家口。

建安元年六月夜半时，布将河内郝萌反，将兵入布所治下邳府，诣厅事阁外，同声大呼攻阁，阁坚不得入。布不知反者为谁，直牵妇，科头袒衣，相将从阃上排壁出，诣都督高顺营，直排顺门入。顺问：“将军有所隐不？”布言“河内儿声”。顺言“此郝萌也”。顺即严兵入府，弓弩并射萌众，萌众乱走，天明还故营。萌将曹性反萌，与对战，萌刺伤性，性砍萌一臂。顺砍萌首，床舆性，送诣布。布问性，言萌受袁术谋。“谋者悉谁？”性



言“陈宫同谋”。时宫在坐上，面赤，旁人悉觉之。布以宫大将，不问也。性言：“萌常以此问，性言吕将军大将有神，不可击也，不意萌狂惑不止。”布谓性曰：“卿健儿也！”善养视之。创愈，使安抚萌故营，领其众。

初，天子在河东，有手笔版书召布来迎。布军无畜积，不能自致，遣使上书。朝廷以布为平东将军，封平陶侯。使人於山阳界亡失文字，太祖又手书厚加慰劳布，说起迎天子，当平定天下意，并诏书购捕公孙瓒、袁术、韩暹、杨奉等。布大喜，复遣使上书於天子曰：“臣本当迎大驾，知曹操忠孝，奉迎都许。臣前与操交兵，今操保傅陛下，臣为外将，欲以兵自随，恐有嫌疑，是以待罪徐州，进退未敢自宁。”答太祖曰：“布，获罪之人，分为诛首，手命慰劳，厚见褒奖。重见购捕袁术等诏书，布当以命为效。”太祖更遣奉车都尉王则为使，赍诏书，又封平东将军来拜布。太祖又手书与布曰：“山阳屯送将军所失大封，国家无好金，孤自取家好金更相为作印，国家无紫绶，自取所带紫绶以藉心。将军所使不良。袁术称天子，将军止之，而使不通章。朝廷信将军，使复重上，以相明忠诚。”布乃遣登奉章谢恩，并以一好绶答太祖。

布令韩暹、杨奉取刘备地麦，以为军资。

袁术遣将纪灵率步骑三万攻刘备。吕布遣人招备，并请灵等筵饮，谓灵曰：“布性不喜合斗，但喜解斗耳。”乃令植戟於营门，弯弓曰：“诸君观布射戟，小支中者当解兵，不中留决斗。”布一发中戟支，遂罢兵。

布后又与暹、奉二军向寿春，水陆并进，所过虏略。到钟离，大获而还。既渡淮北，留书与术曰：“足下恃军强盛，常言猛将武士，欲相吞灭，每抑止之耳。布虽无勇，虎步淮南，一时之间，足下鼠窜寿春，无出头者。猛将武士，为悉何在？足下喜为大言以诬天下，天下之言安可尽诬？古者兵交，使在其间，造策者非布先唱也，相去不远可复相闻。”布渡毕，术自将步骑五千扬兵淮上，布骑皆於水北大嘲笑之而还。时有东海萧建为琅邪相，治莒，保城自守，不与布通。布与建书曰：“天下举兵，本以诛董卓耳。布杀卓，来诣关东，欲求兵西迎大驾，光复洛京，诸将自还相攻，莫肯念国。布，五原人也，去徐州五千余里，乃在天西北角，今不来共争天东南之地。莒与下邳相去不远，宜当共通。君如自遂以为郡郡作帝，县县自王也！昔乐毅攻齐，呼吸下齐七十余城，唯莒、即墨二城不下，有田单故也。布虽非乐毅，君亦非田单，可取布书与智者详共议之。”建得书，即遣主簿赍上礼，贡良马五匹。建寻为臧霸所攻破，得建资实。布闻之，自将步骑向莒。高顺谏曰：“将军躬杀董卓，威震夷狄，端坐顾盼，远近自然畏服，不宜轻自出军，如或不捷，损名非小。”布不从。霸畏布引还抄暴，果登城拒守。布不能拔，引还下邳。霸后复与布和。

吕布将兵向莒。臧霸等畏布，登城上以药箭乱射，中人马。布不能拔，引还下邳。

吕布使陈登诣曹操，求徐州牧，不得。登还，布怒，拔戟斫机曰：“吾所求无获，但为卿父子所卖耳。”登不为动容。徐对曰：“登见曹公，言养将军譬如养虎，当饱其肉，不



饱则将嗜人。公曰不如卿言，譬如养鹰，饥则为用，饱则随去。其言如此。”布意乃解。

布遣许汜、王楷告急于术。术曰：“布不与我女，理当自败，何为复来相闻邪？”汜、楷曰：“明上今不救布，为自败耳！布破，明上亦破也。”术时僭号，故呼为明上。术乃严兵为布作声援。布恐术为女不至故不遣兵救也，以绵缠女身，缚着马上，夜自送女出与术，与太祖守兵相触，格射不得过，复还城。布欲令陈宫、高顺守城，自将骑断太祖粮道。布妻谓曰：“将军自出断曹公粮道是也。宫、顺素不和，将军一出，宫、顺必不同心共守城也，如有蹉跌，将军当於何自立乎？愿将军谛计之，无为宫等所误也。妾昔在长安，已为将军所弃，赖得庞舒私藏妾身，今不须顾妾也。”布得妻言，愁闷不能自决。

曹公擒吕布。布顾刘备曰：“玄德，卿为上坐客，我为降虏，绳缚我急，独不可一言耶？”操曰：“缚虎不得不急。”曹公欲缓之，备曰：“不可。公不见布事丁建阳、董太师乎？”布目备曰：“大耳儿最叵信。”

布谓太祖曰：“布待诸将厚也，诸将临急皆叛布耳。”太祖曰：“卿背妻，爱诸将妇，何以为厚？”布默然。

李叔节

李叔节与弟进先共在乘氏城中。吕布诣乘氏城下，叔节从城中出诣布，进先不肯出，为叔节杀数头肥牛，提数十石酒，作万枚胡饼，先持劳客。

张 杨

杨及部曲诸将，皆受催、汜购募，共图布。布闻之，谓杨曰：“布，卿州里也，卿杀布，於卿弱。不如卖布，可极得汜、催爵宠。”杨於是外许汜、催，内实保护布。汜、催患之，更下大封诏书，以布为颍州太守。

杨性仁和，无威刑。下人谋反，发觉，对之涕泣，辄原不问。

高 顺

顺为人清白，有威严，不饮酒，不受馈。所将七百余兵，号为千人，铠甲、斗具皆精练齐整，每所攻击，无不破者，名为陷阵营。顺每谏布言：“凡破家亡国，非无忠臣明智者也，但患不见用耳。将军举动不肯详思，辄喜言误，误不可数也。”布知其忠，然不能用。布从郝萌反，后更疏顺，以魏续有外内之亲，悉夺顺所将兵以与续。及当攻战，故令顺将续所领兵，顺亦终无恨意。



臧洪

袁绍以臧洪为东都太守。时曹操围张超於雍邱，洪始闻超被围，乃徒跣号泣，并勒所领将赴其难。从绍请兵，而绍竟不听之，超城遂陷，张氏族灭，洪由是怨绍，绝不与通。绍增兵急攻，洪城中粮尽，厨米三升，使为薄糜，遍颁众。又杀其爱妾以食。兵将咸流涕，无能仰视，男女七八千相枕而死，莫有离叛。城陷，生执洪，绍谓曰：“臧洪，何相负若是，今日服未？”洪据地瞋目曰：“诸袁事汉，四世五公，可谓受恩。今王室衰弱，无辅翼之意，而欲因际会觐望非冀，惜洪力劣，不能推刃为天下报仇，何为服乎？”绍乃命杀之。洪邑人陈容在坐，见洪当死，起谓绍曰：“将军今举大事，欲为天下除暴，而先诛忠义，岂合天意？”绍惭，遣人牵出，谓曰：“汝非臧洪传欤？空复尔为？”容顾曰：“夫仁义岂有常，所蹈之则君子，背之则小人。今日宁与臧洪同日死，不与将军同日生。”遂复见杀。在绍坐者无不叹息。

公孙瓒

公孙瓒字伯珪，为上计吏。郡太守刘基为事被徵，伯珪御车到洛阳，身执徒养。基将徙日南，伯珪具豚米於北邙，上祭先人。觞醕，视曰：“昔为人子，今为人臣，当诣日南，多瘴气，恐或不还，与先人辞於此。”再拜慷慨而起，观者莫不歎敬。在道得赦俱还。

公孙伯圭追讨叛胡邱力居等於管子城。伯圭力战乏食，马尽，煮弩楯，啖食之。

公孙瓒与诸属郡县，每至节会，屠牛作脯，每酒一觞，致脯一豆。

公孙瓒与破虏校尉邹靖俱追胡，靖为所围，瓒回师奔救，胡即破散，解靖之围，乘势穷追，日入之后，把炬逐北。

瓒每与虏战，常乘白马，追不虚发，数获戎捷，虏相告云：“当避白马。”因虏所忌，简其白马数千匹，选骑射之士，号为“白马义从”。一日胡夷健者常乘白马，瓒有健骑数千匹乘白马，故以号焉。

公孙瓒每闻边惊，辄厉色作气，如赴仇。尝乘白马，又白马数十匹，选骑射之士，号为“白马义从”，以为左右翼，胡甚畏之，相告曰：“当避白马长史。”

公孙瓒除辽东属国长史，连接边寇，每有惊，辄厉色愤怒，如赴雠，敌望尘奔。继之夜战，虏识瓒声，惮其勇，莫敢犯之。

幽州岁岁不登，人相食，有蝗旱之灾，人始知采稻，以枣椹为粮，谷一石十万钱。公孙伯圭开置屯田，稍稍得自供给。

瓒统内外，衣冠子弟有才秀者，必抑死在穷苦之地，或问其故，答曰：“今取衣冠家子弟及善士富贵之，皆自以为职当得之，不谢人善也。”所宠遇骄恣者，类多庸儿，若故卜数师刘纬台、贩缗李移子、贾人乐何当等三人，与之定兄弟之誓，自号为伯，三人者为



仲、叔、李，富皆巨亿，或取其女以配己子，常称古者曲周、灌婴之属以譬也。

公孙瓒击青州黄巾贼，大破之，还屯广宗，改易守令，冀州长吏无不望风向应，开门受之。绍自往征瓒，合战於界桥南二十里。瓒步兵二万余人为方阵，骑为两翼，左右各五千余匹，白马义从为中坚，亦分作两校，左射右，右射左，旌旗铠甲，光照天地。绍令麴义以八百兵为先登，强弩千张夹承之，绍自以步兵数万结阵於后。义久在凉州，晓习羌斗，兵皆锐晓。瓒见其兵少，便放骑欲陵陷之。义兵皆伏楯下不动，未至数十步，乃同时俱起，扬尘大叫，直前冲突，强弩雷发，所中必倒，临阵斩瓒所署冀州刺史严纲甲首千余级，瓒军败绩，步骑奔走，不复还营。义追至界桥，瓒殿兵还战桥上，义复破之，遂到瓒营，拔其牙门，营中余众皆复散走。绍在后，未到桥数十里，下马发鞍，见瓒已破，不为设备，惟帐下强弩数十张，大戟士百余人自随。瓒部进骑二千余匹卒至，便围绍数重，弓矢雨下，别驾从事田丰扶绍欲却入空垣，绍以兜鍪扑地曰：“大丈夫当前斗死，而入墙间，岂可得活乎？”强弩乃乱发，多所杀伤。瓒骑不知是绍，亦稍引却，麴义来迎，乃散去。

初平四年，天子使太傅马日磾、太仆赵岐和解关东。岐别诣河北，绍出迎於百里上，拜奉帝命。岐住绍营，移书告瓒。瓒遣使具与绍书曰：“赵太仆以周召之德，衔命来征，宣扬朝恩，示以和睦，旷若开云见日，何喜如之？昔贾复、寇恂亦争士卒，欲相危害，遇光武之宽，亲俱陛见，同舆共出，人以为荣。自省边鄙，得与将军共同此福，此诚将军之眷，而瓒之幸也。”

先是，有童谣曰：“燕南垂，赵北际，中央不合大如砺，惟有此中可避世。”瓒以易当之，乃筑京固守。瓒别将有为敌所围，义不救也。其言曰：“救一人，后将待救不力战，今不救此，后将当念在自勉。”是以袁绍始北击之时，瓒南界上别营自度守则不能自固，又知必不见救，是以或自杀其将帅，或为绍兵所破，遂令绍军径至其门。

瓒诸将家家各有高楼，楼以千计。瓒作铁门，居楼上，屏去左右，婢妾侍侧，汲上文书

袁绍分部攻者掘地为道，穿穴其楼下，稍稍施木柱之，度足达半，便烧所施之柱，楼辄倾倒。

关 靖

关靖字士起，太原人。本酷吏也，谄而无大谋，特为瓒所信幸。

袁 绍

袁绍父成，字文开，名壮健。贵戚权豪自大将军梁冀以下皆与交结恩好，言无不从，故京师谚曰：“事不谐，诣文开。”

绍生而父死，二公爱之。幼使为郎，弱冠除濮阳长，有清名。遭母丧，服竟，又追行



父服，凡在家庐六年。礼毕，隐居洛阳，不妄通宾客，非海内知名，不得相见。又好游侠，与张孟卓、何伯求、吴子卿、许子远、伍德瑜等皆为奔走之友。不应辟命。中常侍赵忠谓诸黄门曰：“袁本初坐作声价，不应呼召而养死士，不知此儿欲何所为乎？”绍叔父陶闻之，责数绍曰：“汝且破我家！”绍於是乃起应大将军之命。

袁绍生而孤，幼为郎，容貌端正，威仪进止，动见仿效。弱冠除服，长有清能名。

袁绍有姿貌、威容，爱士养名。既累世台司，宾客所归，加以倾心折节，莫不争赴其庭，士无贵贱，与之抗礼。

袁绍辟大将军府，不得已起从命，举高第，迁侍御史。弟术为尚书诏，不欲为台下，告疾求退。

董卓谓袁绍曰：“皇帝冲暗，非万机之主。陈留王犹胜，今欲立之。”绍勃然曰：“天下健者岂惟董公？”横刀长揖径出，悬节於东门而奔冀州。

是时年号初平，绍字本初，自以为年与字合，必能克平祸乱。

绍既破瓚，引军南到薄落津，方与宾客诸将共会，闻魏郡兵反，与黑山贼于毒共覆邺城，遂杀太守栗成。贼千余部数万人聚会邺中，坐上诸客有家在邺者皆忧怖失色，或以啼泣，绍容貌不变，自若也。贼陶升者，故内黄小吏也，有善心，独将部众逾西城入，闭守州门，不内他贼，以车载绍家及诸衣冠在州内者，身自扞卫，送到斥邱乃还。绍到，遂屯斥邱，以陶升为建义中郎将，乃引车入朝歌鹿场山苍岩谷讨于毒，围攻五日，破之，斩毒及长安所署冀州牧壹寿。遂寻山北行，薄击诸贼，左发丈八等皆斩之。又击刘石、青牛角、黄龙、左校、郭大贤、李大目、于氏根等，皆屠其屯壁，奔走得脱，斩首数万级。绍复还屯邺。

绍遣使即拜乌丸三王为单于，皆安车、华盖、羽旄、黄屋、左纛。版文曰：“使持节大将军督幽、青、并，领冀州牧阮乡侯绍，承制诏辽东属国率众王颁下、乌丸辽西率众王蹋顿、右北平率众王汗卢：维乃相募义迁善，款塞内附，北捍豺豸，东拒涉貊，世守北陲，为百姓保鄣，虽时侵犯王略，命将徂征厥罪，率不施时，悔愆更改，方之外夷，最又聪惠者也。始有千夫长、百夫长以相统领，用能悉乃心，克有助力於国家，稍受王侯之命。自我王室多故，公孙瓚作难，残夷厥土之君，以侮天慢主，是以四海之内，并执干戈以卫社稷。三王奋气裔土，忿奸忧国，控弦与汉兵为表里，诚甚忠孝，朝所嘉焉。然而虎兕长蛇，相随塞路，王官阙位，否而无闻。夫有助不赏，俾勤者息。今遣行谒者杨林，赍单于玺绶、车服，以对尔劳。其各绥静部落，教以谨慎，无使作凶作恶，世复尔祀位，长为百蛮长。既有咎有不臧者，混於尔禄，而丧於乃庸，可不勉乎！乌丸单于都护部众，左右单于受其节度，他如故事。”

袁 遗

袁遗字伯业。



绍后用遣为扬州刺史，为袁术所败。太祖称长大而能勤学者，唯吾与袁伯业耳。”

袁 术

绍从弟术，字公路，汝南汝阳人也。

麴 义

袁绍讨公孙瓒，先令麴义领精兵八百、强弩千张，以为前登。瓒轻其兵少，纵骑腾之。义兵伏楯下，一时同发，瓒军大败。

麴义后恃功而骄恣，绍乃杀之。

逢 纪

逢纪说绍曰：“将军举大事而仰人资给，不据一州，无以自全。”绍答云：“冀州兵强，吾十饥乏，设不能辨，无所容立。”纪曰：“可与公孙瓒相闻，导使来南，击取冀州。公孙必至而馥惧矣，因说利利害，为陈祸福，馥必逊让，於此之际，可据其位。”绍从其言而瓒果来。

纪字元图。初，绍去董卓出奔，与许攸及纪俱诣冀州，绍以纪聪达有计策，甚亲信之，与共举事。后审配任用，与纪不睦。或有谗配於绍者，绍问纪，纪称配天性烈直，古人之节，不宜疑之。绍曰：“君不恶之邪？”答曰：“先日所争者私情，今所陈者国事。”绍善之，卒不废配。配由是更与纪为亲善。

审 配

审配任用，与纪不睦，辛评、郭图皆比於谭。

袁尚使审配守邺。曹操进军攻邺，审配将冯礼为内应，开突门内操兵三百余人。配觉之，从城上以大石击门，门闭，入者皆死。操乃凿堑围回四十里，初令浅，示若可越，配望见笑而不出。操令一夜浚之，广深二丈，决漳水灌之，自五月至八月，城中饿死者过半。尚闻邺急，将兵万余人还救，操逆击破之。尚走依沮漳为营，操复围之，尚惧，遣阴夔、陈球请降不听，尚还走蓝田，操复进击围之。尚将马迎等临阵降，众大溃，尚奔，中人尽收其辎重，得尚印绶、节钺及衣物以示城中，城中崩溃。审配命士卒曰：“坚守使战，操军疲矣。幽州方至，何忧无主。”以其兄子荣为东门校尉，荣夜开门内操兵，配犹拒战，城陷，生获配。操意活之，配意气壮烈，终无挠辞，见者莫不叹息，遂斩之。

袁尚使审配守邺，曹操攻之。操出行围配，伏弩射之，几中。及城陷，生获配，操谓曰：“吾近行围，弩何多也？”配曰：“犹恨其少！”操曰：“即忠於袁氏，不得不尔。”志欲



活之，配意气壮烈，终无挠辞，遂斩之。

郭 图

谭、尚战於外门，谭军败奔北。郭图说谭曰：“今将军国小兵少，粮匱执弱，显甫之来，久则不敌。愚以为可呼曹公来击显甫。曹公必至，先攻鄆，显甫还救。将军引兵而西，自鄆以北皆可虏得。若显甫军破，其兵奔亡，又可敛取以拒曹公。曹公远侨而来，粮饷不继，必自逃去。比此之际，赵国以北皆我之有，亦足与曹公为对矣。不然，不谐。”谭始不纳，后遂从之。问图谁可使，图答辛佐治可。谭遂遣毗诣太祖。

韩 珩

袁谭既死，弟熙、尚为其将焦触、张南所攻，奔辽西乌桓。触自号幽州刺史，陈兵数万，杀白马盟曰：“违命者斩。”各以次献，至别驾代郡韩珩，曰：“吾受袁公子厚恩，今其破亡，智不能救，勇不能死，北面曹氏，所不能为也。”一坐为珩失色。触曰：“举大事，当立大义，事之济否，不待一人。可卒珩志，以厉事君。”曹操闻珩节，甚高之，屡辟不至。

陈 瑀

陈温字元悌，汝南人。先为扬州刺史，自病死。袁绍遣袁遗领州，败散，奔沛国，为兵所杀。袁术更用陈瑀为扬州。瑀字公玮，下邳人。瑀既领州，而术败於封邱，南向寿春，瑀拒术不纳。术退保阴陵，更合军攻瑀，瑀惧走归下邳。

韩 馥

馥字文节，颍川人。为御史中丞。董卓举为冀州牧。于时冀州民人殷盛，兵粮优足。袁绍之在渤海，馥恐其兴兵，遣数部从事守之，不得动摇。东郡太守乔瑁诈作京师三公移书与州郡，陈卓罪恶，云见逼迫，无以自救，企望义兵，解国患难。馥得移，诸诸从事问曰：“今当助袁氏邪？助董卓邪？”治中从事刘子惠曰：“今兴兵为国，何谓袁、董！”馥自知言短而有惭色。子惠复言：“兵者，凶事，不可为首。今宜往视他州，有发动者，然后和之。冀州於他州不为弱也，他人功未有在冀州之右者也。”馥然之，乃作书与绍，道卓之恶，听其举兵。

冀州刺史韩馥问诸从事曰：“馥有何长何短！”治中刘子曰：“前劳赐有余肉百筋，卖之，一州调度，奢侈不复在。是犹可劳赐勤劳吏士，卖之示狄。”



袁绍使张景明、郭公则、高元才等说韩馥，使让冀州。

刘子惠

刘子惠，中山人。兖州刺史刘岱与其书，道：“卓无道，天下所共攻，死在旦暮，不足为忧。但卓死之后，当复回师讨文节。拥强兵，何凶逆，宁可得置。”封书与馥，馥得此大惧，归咎子惠，欲斩之。别驾从事耿武等排阎伏子惠上，愿并见斩，得不死，作徒，被赭衣，扫除宫门外。

赵 浮

绍在朝歌清水口，浮等从后来，船数百艘，众万余人，整兵骇鼓过绍营。绍甚恶之，浮等到，谓馥曰：“袁本初军无斗粮，各欲离散，旬日之间，必土崩瓦解。将军但闭户高枕，何忧何惧？”

耿武 闵纯

耿武字文成。闵纯字伯典。后袁绍至，馥从事千余人弃馥去，唯恐在后，独武、纯杖刀拒，兵不能禁。绍后令田丰杀此二人。

朱 汉

绍以河内朱汉为都官从事。汉先时为馥所不礼，内怀怨恨，且欲邀迎绍意，擅发城郭兵围守馥第，拔刃登屋，馥走上楼，收得馥大儿，捶折两脚。绍亦立收汉，杀之。馥犹有忧怖，故报绍索去。

王 匡

匡字公节，泰山人。轻财好施，以任侠闻。辟大将军何进府进符使，匡於徐州发强弩五百，西诣京师。会进攻，匡还州里，起家，拜河内太守。

孔 伋

伋字公绪，陈留人。



刘 虞

虞为博平令，治正推平，高尚纯朴，境内无盗贼，灾害不生。时郡县接壤，蝗虫为害，至博平界，飞过不入。

虞让太尉，因荐卫尉赵谡、益州牧刘焉、豫州牧黄琬、南阳太守羊续，并任为公。

幽州刺史刘虞，食不重肴，蓝缕绳履。

虞之见杀，故常山相孙瑾、椽张逸、张瓚等忠义奋发，相与就虞，骂瓚极口，然后同死。

刘 岱

岱孝悌仁恕，以虚己受人。

刘 翊

刘翊字子相，颍川人。迁陈留太守，出关数百里，见士大夫病亡道次，翊以马易棺，脱衣殓之；又逢知故困饿於路，不忍委去，因杀所驾牛以救之。众人止之，翊曰：“视死不救，非志士。”遂俱饿死。

刘 表

州界群寇既尽，表乃开立学官，博求儒士，使蒯母闾、宋忠等撰定《五经章句》，谓之《后定》。

张 羨

张羨，南阳人。先作零陵、桂阳长，甚得江湖间心，然性屈强不顺。表薄其为人，不甚礼也。羨由是怀恨，遂叛表焉。

刘 焉

刘焉起兵，不与天下讨董卓，保州自守。键为太守任岐自称将军，与从事陈超举兵击焉，焉击破之。董卓使司徒赵谦将军向州，说校尉贾龙，引兵还击焉，焉出青羌与战，故能破杀岐、龙等，皆蜀郡人。



范闻父焉为益州牧，董卓所徵发，皆不至。收范兄弟三人，繫械於郡坞，为阴狱以系之。

范从长安亡之马腾营，从焉求兵，焉使校尉孙肇将兵往助之，败於长安。

刘 璋

焉死。子璋代为刺史。会长安拜颍川扈瑁为刺史，入汉中。荆州别驾刘懔、璋将沈弥、姜发、甘宁反，击璋不胜，走入荆州。璋使赵越进攻荆州，屯胸陂。

先是，南阳、三辅人流入益州数万家，收以为兵，名曰“东州兵”。璋性宽柔，无威略，东州人侵暴旧民，璋不能禁，政令多阙，益州颇怨。赵越素得人心，璋委任之。越因民怨谋叛，乃厚赂荆州请和，阴结州中大姓，与俱起兵，还击璋。蜀郡、广汉、犍为皆应越。璋驰入成都城守，东州人畏威，咸同心并力助璋，皆殊死战，遂破反者，进攻越於江州。越将庞乐、李异反杀越军，斩越。

庞 羲

庞羲与璋有旧，又免璋诸子於难，故璋厚德羲，以羲为巴西太守，遂专权势。

刘 备

灵帝末年，备尝在京师，复与曹公俱还沛国，募召合众。会灵帝崩，天下大乱，备亦起军，从讨董卓。

备留张飞守下邳，引兵与袁术战於淮阴石亭，更有胜负。陶谦故将曹豹在下邳，张飞欲杀之。豹众坚营自守，招吕布。布取下邳，张飞败走。备间之，引兵还，北至下邳，兵溃。收散卒东取广陵，与袁术战，又败。

备军在广陵，饥饿困败，吏士大小自相啖食，穷饿侵逼，欲还小沛，遂使吏请降布。布令备还州，并势击术。具刺史车马、童仆，发遣备妻子、部曲、家属於泗水上，祖道张乐。

建安三年春，布使人资金，欲诣河内买马，为备兵所钞。布由是遣中郎将高顺、北地太守张辽等攻备。九月，遂破沛，备单身走，获其妻息。十月，曹公自征布。备於梁国界中与曹公相遇，遂随公俱东征。

表病，上备领荆州刺史。

孙 坚

刘表将吕公将兵缘山向坚，坚轻骑寻山讨公。公兵下石，中坚头，应时脑出物故。



坚以初平四年正月七日死。

胡 轸

初，坚讨董卓，到梁县的阳人也。卓亦遣兵步骑五千迎之，陈郡太守胡轸为大督护，吕布为骑督，其余步骑将校都督者甚众。轸字文才，性急，预宣言曰：“今此行也，要当斩一青绶，乃整齐耳。”诸将闻而恶之。军到广成，去阳人城数里。日暮，士马疲极当止宿，又本受卓节度宿广成，称马饮食，以夜进兵，投晓攻城。诸将恶惮轸，欲贼败其事，布等宣言“阳人城中贼已走，当追寻之，不然失之矣”，便夜进军。城中守备甚设，不可掩袭。於是吏士饥渴，人马甚疲，且夜至，又无堙垒。释甲休息，而布又宣言相惊，云“城中贼出来”。军众扰乱奔走，皆弃甲，失鞍马。行十余里，定无贼，天明，便还，拾取兵器，欲进攻城。城守已固，穿堙已深，轸等不能攻而还。

张 咨

咨子子仪，颍川人，亦知名。

周 瑜

周瑜镇江夏。曹操欲从赤壁渡江南，无船，乘牌从汉水下，住浦口。未即渡，瑜夜密使轻船走舳百数艘，艘有五十人移棹，人持炬火，火然则回，船走去，去复还烧者，须臾烧数千艘。火大起，光上照天，操夜走。

孔文举

孔文举为东莱贼所攻，城欲破。其治中左承祖以官枣赋与战士。

向 栩

向栩字甫兴，性卓诡不伦。恒读老子，状如学道；又似狂生，好被发著褌头。常於灶北坐板床上，如是积久，板乃有膝踝足指之处。（《御览》七百三十九）

向栩为性卓诡不凡。好读老子，状如学道，又复似狂。居尝北坐，被发，喜长啸。人客从就，辄伏不视人，有於栩前独拜，栩不答。

尚子平

尚栩先人尚子平有道术，为县功曹。休归，自入山担薪，卖以饮食。



阎 忠

凉州贼王国等起兵，共劫忠为主，统三十六部，号车骑将军。忠感慨发病而死。

凉 茂

茂名在八友中。

张 俭

先是，张俭等相与作衣冠纆弹，弹中人相。调言：我弹中，诚有八后，八义，犹古之八元、八凯也。”

又《后汉书郡国志》会稽郡鄞乌伤下注引《英雄交争记》云：“初平三年，分县南乡为长山县。”按所引疑即《汉末英雄记》。又《御览》十六引“在尊者前宜各具一手巾，不宜借人巾用。”此条不知何属，并附录於末。



九州春秋

〔西晋〕司马彪 撰

崔 烈

崔烈，廷尉卿。灵帝时开鸿都门榜卖官爵，烈时入钱五百万，得为司徒。及拜日，天子临轩，百僚毕会。帝顾谓倖者曰：“恨不小靳，可至千万。”程夫人於傍应曰：“崔公，冀州名士，岂肯买官，赖我得是，反不知姝邪？”烈问其子钩曰：“吾居三公，於议者何如？”钩曰：“大人少有英称，历位卿守，论者不谓当为三公。而今登其位，天下失望。”烈曰：“何为然也？”钩者：“论者嫌其铜臭耳。”烈怒举杖击之，钩走。烈骂曰：“死卒！父挝而走，孝乎？”钩曰：“舜之事父，小杖则受，大杖则走，非不孝也。”烈惭而止。

王 芬

于是陈蕃子逸与术士平原襄楷会于芬坐，楷曰：“天交不利宦者，黄门、常侍真族灭矣。”逸喜。芬曰：“若然者，芬愿驱除。”于是与攸等结谋。灵帝欲北巡河间旧宅，芬等谋因此作难，上书言黑山贼攻劫郡县，求得起兵。会北方有赤气，东西竟天，太史上言“当有阴谋，不宜北行”。帝乃止。敕芬罢兵，俄而徵之，芬惧自杀。

杨 凤

张角之反也，黑山、白波、黄龙、左棱、牛角、五鹿、甝根、苦嗜、刘石、平汉、大洪、司隶、缘城、罗市、雷公、浮云、飞燕、白爵、杨凤、千毒等各起兵，大者二多万，小者不减数千。灵帝不能讨，乃遣使拜杨凤为黑山校尉，领诸山贼，得举孝廉计吏。后遂弥漫，不可复数。

张 燕

燕本姓褚。黄巾贼起，燕聚少年为群盗，博陵张牛角亦起与燕合。燕推牛角为帅，俱



攻療瘵。牛角为飞矢所中，被创且死，大会其众，告曰：“必以燕为帅”。牛角死，众奉燕，故改姓张。性剽悍捷速，故军中号曰“飞燕”。其后人众浸广，常山、赵郡、中山、上党、河内诸山谷皆相通，号曰“黑山”也。

大洪缘城苦蜥

《后汉书·朱隽传》：“自黄巾贼后，复有黑山、黄龙、白波、左校、郭大贤、于氏根、青牛角、张白骑、刘石、左髭丈八、平汉、大计、司隶、掾哉、雷公、浮云、飞燕、白雀、杨凤、于毒、五鹿、李大目、白绕、畦固、苦晒之徒，并起山谷间，不可胜数。注：九州春秋“大计”作“大洪”，“掾哉”作“缘城”，“晒”作“蜥”，音才由反。

閻忠

中平元年，车骑将军皇甫嵩既破黄巾，威震天下。閻忠时罢信都令，说嵩曰：“夫难得而易失者，时也；时至而不旋踵者，机也，故圣人常顺时而动，智者必因机而发。今将军遭难得之运，蹈易解之机，而践运不抚，临机不发，将何以享大名乎？”嵩曰：“何谓也？”忠曰：“天道无亲，百姓与能，故有高人之功者，不受庸主之赏。今将军受钺于初春，收功于末冬，兵动若神，谋不再计，旬月之间，神兵电扫，攻坚易于折枯，摧敌甚于汤雪，七州席卷，屠二十六万方，夷黄巾之师，除邪害之患，或封户刻石，南面以报德，威震本朝，风驰海外。是以群雄回首，百姓企踵，虽汤武之举，未有高于将军者。身建高人之功，北面以事庸主，将何以图安？”嵩曰：“心不忘忠，何为不安？”忠曰：“不然。昔韩信不忍一殍之遇，而弃三分之利，拒蒯通之忠，忽鼎峙之势，利剑已揣其喉，乃叹息而悔，所以见烹于儿女也。今主势弱于刘、项，将军权重于淮阴；指麾可以振风云，叱咤足以兴雷电，赫然奋发，因危抵颠，崇恩以绥前附，振武以临后服；徵冀方之士，动七州之众，朋微先驰于前，大军震响于后，蹈迹漳河，饮马孟津，举天网以为网罗京都，诛闾宦之罪，除群怨之积忿，解久危之倒悬。如此则攻守无坚城，不招必影从，虽儿童可使奋空拳以致力，女子可使其褰裳以用命，况厉智能之士，因迅风之势，则大功不足合，八方不足同也。功业已就，天下已顺，乃燎于上帝，告以天命，混齐六合，南面以制，移神器于己家，推亡汉以定祚，实神机之至决，风发之良时也。夫木朽不彫，世衰难制，将军虽欲委忠难佐之朝，彫画朽败之木，犹逆坂而走丸，必不可也。方今权宦群居，同恶如市，主上不自自由，诏命出左右。如有至聪不察，机事不先，必要后悔，亦无及矣。”嵩不从，忠乃亡去。

董卓

卓初入洛阳，步骑不过三千，自嫌兵少，不为远近所服；率四五日，辄夜遣兵出四城



门，明日陈金鼓而入，宣言云“西兵复入至洛中”，人不觉，谓卓兵不可胜数。

胡 轸

卓以东郡太守胡轸为大都督，吕布为骑督。轸性急，豫宣言“今此行也，要当斩一青绶，乃整齐耳”。布等恶之，宣言相警云“贼至”，军众大乱，奔走。

吕 布

布素使秦谊、陈卫、李黑等伪作宫门卫士，持长戟。卓到宫门，黑等以长戟挟叉卓车，或叉其马。卓惊呼布，布素施铠于衣中，持矛，即应声刺卓，坠于车。

布与暹、奉书曰：“二将军拔大驾来东，有元功于国，当书勋竹帛，万世不朽。今袁术造逆，当共诛讨，奈何与贼臣还共伐布？布有杀董卓之功，与二将军俱为功臣，可因今共击破术，建功于天下，此时不可失也。”暹、奉得书，即回计从布。布进军去勋等营百步，暹、奉兵同时并发，斩十将首，杀伤坠水死者不可胜数。

田 景

《后汉书·董卓传》：主簿田仪及卓苍头前赴其尸，布又杀之。

焦 和

初平中，焦和为青州刺史。是时英雄并起，黄巾寇暴，和务及同盟，俱入京师，不暇为民保障，引军逾河而西。未久而袁、曹二公与卓将战于荥阳，败绩。黄巾遂广，屠裂城邑。和不能御，然军器尚利，战士尚众，而耳目侦逻不设，恐动之言妄至，望寇奔走，未尝接风尘交旗鼓也。欲作陷冰丸沉河，令贼不得渡，祷祈群神，求用兵必利，蓍筮常陈于前，巫祝不去于侧。人见其清谈千云，出则浑乱，命不可知。州遂萧条，悉为邱墟也。

胡文才 杨整修

催等在陕，皆恐怖，急拥兵自守。胡文才、杨整修皆凉州大人，而王允素所不善也。及李催之叛，乃呼文才、整修使东解释之，不假借以温颜，谓曰：“关东鼠子欲何为耶？卿往呼之。”于是二人往，实召兵而还。

樊 稠

马腾、韩遂之败，樊稠迫至陈仓。遂语稠曰：“天地反覆，未可知也。本所争者非私



怨，王家事耳。与足下州里人，今虽小违，要当大同，欲相与善语以别。邂逅万一不如意，后可复相见乎！”俱郤骑前接马，交臂共语，良久而别。惟兄子利随稠，利还告惟，韩、樊交马语，不知所道，意爱甚密。惟以是疑稠与韩遂私和而有异心。稠欲将兵东出关从惟，索益兵。因请稠会议，便于坐杀稠。

刘 虞

绍、馥使故乐浪太守甘陵张岐赍议诣虞，使即尊号。虞厉声呵岐曰：“卿敢出此言乎！忠孝之道，既不能济；孤受国恩，天下扰乱，未能竭命以除国耻，望诸州郡烈义之士戮力西面，援迎幼主，而乃妄造逆谋，涂污忠臣邪。”

韩 暹

暹失率，孤，特与千余骑欲归并州，为张宣所杀。

韩 馥

馥遣都督从事赵浮、程奂将强弩万张屯河阳。浮等闻馥欲以冀州与绍，自孟津驰东下。时绍尚在朝歌清水口，浮等从后来，船数百艘，众万余人，整旗鼓夜过绍营，绍甚恶之。浮等到，谓馥曰：“袁本初军无斗粮，各已离散，虽有张杨于浮罗新附，未肯为用，不足敌也。小从事等请自以见兵拒之，旬日之间，必上崩瓦解。明将军但当开阖高枕，何忧何惧。”馥不从，乃避位，出居赵忠故舍。遣子赍冀州印绶于黎阳与绍。

五厠因以书刀自杀。

张 纯

纯自号弥天将军、安定王。

公孙瓒

还屯广宗界桥。

公孙瓒曰：“始天下兵起，我谓唾掌而决；至于今日，兵革方始，观此非我所决，不如休兵力耕，以救凶年。兵法百楼不攻，今吾诸营楼橹千里，积谷三百万斛，食此足以待天下变也。”



侯 成

初，布骑将侯成遣客牧马十五匹，客悉驱马去，向沛城，欲归刘备。成自将骑逐之，悉得马还。诸将合礼贺成，成酿五六斛酒，猎得十余头猪，未饮食，先持半猪、五斗酒自入诣布前，跪言：“间蒙将军恩，逐得所失马，诸将来相贺，自酿少酒，猎得猪，未敢饮食，先奉上微意。”布大怒曰：“布禁酒，卿酿酒，诸将共饮作兄弟，共谋杀布邪？”成大惧而去，弃所酿酒，还诸将礼。由是自疑，会太祖围下邳，成遂领众降。

朱 灵

初，清河季雍以郾叛袁绍而降公孙瓒，瓒遣兵卫之，绍遣灵攻之。灵家在城中，瓒将灵母弟置城上，诱呼灵。灵望城涕泣曰：“丈夫一出身与人，岂复顾家邪？”遂力战拔之，生禽雍而灵家皆死。

袁 绍

初，绍说进曰：“黄门，常侍累世太盛，威服海内，前窦武欲诛之而反为所害，但坐言语漏泄，以五营士为兵故耳。五营士生长京师，服畏中人，而窦氏反用其锋，遂果叛走归黄门，是以自取破灭。今将军以元舅之尊，二府并领劲兵，其部曲将吏，皆英雄名士，乐尽死力，事在掌握，天赞其时也。今为天下诛除贪秽，功勋显著，垂名后世，虽周之申伯，何足道哉。今大行在前殿，将军以诏书领兵卫守，可勿入宫。”进纳其言，后更狐疑。绍惧进之改变，胁迫进曰：“今交搆已成，形势已露，将军何为不早决之？”事留变生，后机祸至。进不从，遂败。

授谏辞曰：“世称一兔走衢，万人逐之，一人获之，贪者悉止，分定故也。且年均以贤，德均则下，古之制也。愿上惟先代成败之戒，下思逐兔分定之义。”绍曰：“孤欲令四儿各据一州，以观其能。”授出曰：“祸其始此乎！”

袁 谭

谭始至青州，为都督，未为刺史，后太祖拜为刺史。其土自河而西，盖不过平原而已。遂北排田楷，东攻孔融，曜兵海隅，是时百姓无主，欣戴之矣。然信用群小，好受近言，肆志奢淫，不知稼穡之艰难。华彦、孔顺皆奸佞人也，信以为腹心，王修等备官而已。然能接待宾客，慕名敬士。使妇弟领兵在内，至令草窃，市井而外，虏掠田野。别使两将募兵下县，有赂者见免，无者见取，贫弱者多，乃至于窜伏邱野之中，放兵捕索，如猎鸟兽，邑有万户者，著籍不盈数百，收赋纳税，参分不入一。招命贤士，不就；不趋赴



军期，安居族党，亦不能罪也。

袁 术

司隶冯方女，国色也。避乱扬州，术登城见而悦之，遂纳焉，甚爱幸。诸妇害其宠，语之曰：“将军贵人，有志节，当时时涕泣忧悲，必长见敬重。”冯氏以为然，后见术辄垂涕，术以有心志，益哀之。诸妇人因其绞杀，悬之厕梁，术诚以为不得志而死，乃厚加殡斂。

郭 图

图字公则。

陈 瑀

初平三年，扬州刺史陈祗死，袁术使瑀领扬州牧。后术为曹公所败于封邱，南人叛瑀，瑀拒之。术走阴陵，好辞以下瑀，瑀不知权，而又怯，不即攻术，术于淮北集兵向寿春，瑀惧，使其弟公琰请和于术，术执之而进，瑀走归下邳。

杜 袭

建安六年，刘表攻西鄂，西鄂长杜子绪帅县男女婴城而守。时南阳功曹柏孝长亦在城中，闻兵攻声，入室闭户，牵被覆头。相攻半日，稍敢出面；其明，侧立而听；一日，往出户问消息；至四五日，乃更负楯亲斗，语子绪曰：“勇可习也。”

臧 洪

臧洪为青州刺史，被袁绍所围。粮食已尽，初尚掘鼠煮筋角，后无可复食者。主簿启内厨米三斗，请中分，稍以为糜粥，洪叹曰：“独食此何为？”使作薄粥，众分歆之。杀其爱妾以食将士，将士咸流涕，无能仰视者。

孔 融

融住北海，自以智能优赡，溢才命世，当时豪俊皆不能及。亦自许大志，且欲举军曜甲，与群贤要功。自于海岱结植根本，不肯碌碌如平居郡守，事方伯、赴期会而已。然其所任用，好奇取异，皆轻剿之才。至于稽古之士，谬为恭敬，礼之虽备，不与论国事也。



高密郑玄，称之郑公，执子孙礼。及高谈教令，盈溢官曹，辞气温雅，可玩而诵；论事实，难可悉行。但能张罗网罗，其自理甚疏，租赋少稽，一朝杀五部督邮。奸民污吏，猾乱朝市，亦不能治。幽州精兵乱，至徐州，卒到城下，举国皆恐，融直出说之，令无异志，遂与别校谋夜覆幽州，幽州军败，悉有其众。无几时，还复叛亡。黄巾将至，融大饮醇酒，躬自上马，御之涑水之上。寇令上部与融相拒，两翼径涉水，直到所治城。城溃，融不得入，转至南县，左右稍叛。连年倾覆，事无所济，遂不能保鄆四境，弃郡而去。后徙徐州，以北海相自还领青州刺史，治郡北陲。欲附山东，外接辽东，得戎马之利，建树根本，孤立一隅，不与其也。于时曹、袁、公孙共相首尾，战士不满数百，谷不至万斛。王子法、刘孔慈凶辨小才，信为腹心；左承祖、刘义逊清雋之士，备在坐席而已，言此民望，不可失也。承祖劝融自托强国，融不听而杀之，义逊弃去。遂为袁谭所攻，自春至夏，城小寇众，流矢雨集。然融凭几安坐，读书论议自若。城坏众亡，身奔山东，室家为谭所虏。

曹公制酒禁，而孔融书嘲之曰：“夫天有酒旗之星，地列酒泉之郡，人有旨酒之德，故尧不千钟无以成其圣。且桀纣以色亡国，今令不禁婚姻也。”太祖外虽宽容之，内不能平。御史大夫郗虑知旨，以免融官。

孙 策

策闻曹公北征柳城，悉起江南之众，自号大司马，将北袭许，恃其勇，行不设备，故及于难。

郭 嘉

曹公征乌桓，诸将曰：“深入远征，万一刘表使刘备袭许，悔无及也。”郭嘉曰：“刘表坐谈客耳，自知才不足以御备，重用之则恐不能制，轻之则备不为用。虽违国远征，无忧矣。公遂征之。”

贾 诩

曹公与袁绍相距，遣人招张绣。绣欲归绍，贾诩劝绣归曹公。绣曰：“绍强，又曹公与吾有讎，不可。”诩曰：“此乃所以宜从之也。夫有霸王之志者，固将释大怨，明德于四海也。”绣从之，归曹公。曹公见之喜，执诩手曰：“使我信重于天下者，君也。”

刘 备

刘备奔荆州，刘表甚敬礼之。备作上客数年，尝于坐中起至厕，见髀里肉生，流涕还



坐。表问备，备曰：“昔年尝身不离鞍，髀肉皆消。今不复骑，髀里生肉，日月若驰，老将至矣，而功业不立，是以悲耳。”

傅 干

参军傅干谏曰：“治天下之大具有二，文与武也；用武则先威，用文则先德，威德足以相济，而后王道备矣。往者天下大乱，上下失序，明公用武攘之，上平其九。今未承王命者，吴与蜀也，吴有长江之险，蜀有崇山之阻，难以威服，易以德怀。愚以为可且按甲寝兵，息军养士，分土定封，论功行赏，若此则内外之心固，有功者劝，而天下知制矣。然后渐兴学校，以导其善性而长其义节。公神武震于四海，若修文以济之，则普天之下，无思不服矣。今举十万之众，顿之长江之滨，若贼负固深藏，则士马不能逞其能，奇变无所用其权，则大威有屈而敌心未能服矣。惟明公思虞舜舞干戚之义，全威养德，以道制胜。”公不从，军遂无功。干字彦材，北地人，终于丞相仓曹属。有子曰玄。

鲁 肃

曹公征荆州，孙权大惧，鲁肃欲劝权拒曹公，乃激说权曰：“彼曹公者，实严敌也，新并袁绍，兵马甚精，乘战胜之威，伐丧乱之国，克可必也。不如遣兵助之，且送将军家诣郿；不然，将危。”权大怒，欲斩肃，肃因曰：“今事已急，即有他图，何不遣兵助刘备，而欲斩我乎？”权然之，即遣周瑜助备。

庞 统

统说备曰：“荆州荒残，人物殚尽，东有吴孙，北有曹氏，鼎足之计，难以得志。今益州国富民强，户口百万，四部兵马，所出必具，宝货无求于外，今可权借以定大事。”备曰：“今指与吾为水火者，曹操也。操以急，吾以宽；操以暴，吾以仁；操以险，吾以忠，每与操反，事乃可成耳。今以小故而失信义于天下，吾所不取也。”统曰：“权变之时，固非一道所能定也。兼弱攻昧，五霸之事，逆取顺守，报之以义，事定之后，封以大国，何负于信？今日不取，终为人利耳。”备遂行。

杨 修

夏侯渊为刘备所杀于平阳。曹公自长安出斜谷，至阳平，备拒险守峡。王欲还，出令曰：“鸡肋。”官属不知所谓，杨修便曰：“夫鸡肋，弃之可惜，食之。无所得，以比汉中，王欲还也。”遂引还。



晋 后 略

〔西晋〕荀綽 撰

晋武帝

世祖自平吴之后，天下无事，不能复孜孜于事物。始宠用后党，由此祖祚采择嬖嬖，不拘拘华门。父兄以之罪臺，非正形之谓，局禁以之攢聚，实耽秽之甚。昔武王伐纣，归倾宫之女，助纣为虐。而世祖平皓，纳吴姬五千，是同皓之弊也。

贾 后

贾后既杀杨庶人于金墉城，又信妖巫谓“后既死，必诉怨于先帝”，乃覆而瘞之，施诸厌劾、符书、药物以含瘞之。

贾后以鹿车出承明东掖东门，诣金墉城，食金屑而死。

成都王

成都王围京邑，城中鱼肉无出，巷巷卖死驴马肉，杂死人肉卖之。

成都王围京邑，城中无菜，采陈韭芥以为膳菜。

张 方

张方兵入洛，诸官府大劫掠，御宝织成流苏皆分割为马幘。

张方围京邑，决千金堰，千沟渠枯竭，并多无泉。

荀 勖

钟律之器，自周之末废，而汉成哀之间，诸儒修而治之。至后汉末，复隳矣。魏氏使协律知音者杜夔造之，不能考之典礼，徒依于时丝管之声，时之尺寸而制之，甚乖失礼



度。于是世祖命中书监荀勖依典制定钟律。既铸律管，募求古器，得周时玉律数枚，比之不差。又诸郡舍仓库，或有汉时故钟，以律命之，皆不叩而应，声音韵合，又若俱成。

刘 漠

漠少以清识为名，与王夷甫友善，并好以人伦为意，故世人许以才知之名。自相国右长史出为襄州刺史，以贵简称。

冯 播

播字友声，长乐人。位至太宗正，生祚。

武 含

武含字景纬，官历中庶子，迁散骑常侍。以母在日海云“汝修其意，仕当为尚书郎”，惧进叙有违前言，乃辞常侍，为吏部郎。



汉 晋 春 秋

〔东晋〕习凿齿 撰

卷 一

晋宜越魏继汉，不应以魏后为三恪论

或问：“魏武帝功盖中夏，文帝受禅于汉，而吾子谓汉终有晋，岂实理乎？且魏之见废，晋道亦病，晋之臣子宁可以同此言哉！”答曰：“此乃所以尊晋也。但绝节赴曲，非常耳所悲，见殊心异，虽奇莫察，请为子言焉。”

“昔汉氏失御，九州残隔，三国乘间，鼎峙数世，干戈日寻，流血百载。虽各有偏平，而其实乱也。宣皇帝势逼当年，力制魏氏，螭屈从时，遂羁戎役，晦明掩耀，龙潜下位，俯首重足，鞠躬屏息，道有不容之难，躬蹈履霜之险，可谓危矣！魏武既亡，大难获免，始南擒孟达，东荡海隅，西抑劲蜀，旋抚诸夏，摧吴人入侵之锋，扫曹爽见忌之党，植灵根以跨中州，树群材以翼子弟，命世之志既恢，非常之业亦固。景文继之，灵武冠世，克伐违贰，以定厥庸，席卷梁益，奄征西极，功格皇天，勋侔古烈，丰规显祚，故以灼如也。至于武皇，遂并强吴，混一宇宙，又清四海，同轨二汉。除三国之大害，静汉末之交争，廓九域之蒙晦，定千载之盛功者，皆司马氏也。而推魏继汉，以晋承魏，比义唐虞，自托纯臣，岂不惜哉！”

“今若以魏有代王之德，则其道不足；有静乱之功，则孙刘鼎立。道不足则不可谓制当年，当年不制于魏，则魏未曾为天下之主；王道不足于曹，则曹未始为一日之王矣。昔共工伯有九州，秦政奄平区夏，鞭撻华戎，专总六合，犹不见序于帝王，沦没于战国，何况暂制数州之众哉！威行境内而已，便可推为一代者乎？”

“若以晋常事魏，惧伤皇德，拘惜禅名，谓不可割，则惑之甚者也。何者？隗嚣据陇，公孙帝蜀，蜀陇之人虽服其役，取之大义，于彼何有！且吴楚僭号，周室未亡，子文、延陵不见贬绝。宣皇帝官魏，逼于性命，举非择木，何亏德美，禅代之义，不同尧舜，校实



定名，必彰于后，人各有心，事胡可掩！定空虚之魏，以屈于己，孰若杖义而以贬魏哉！夫命世之人，正情遇物，假之际会，必兼义勇。宣皇祖考立功于汉，世笃尔劳，思报亦深。魏武超越，志在倾主，德不素积，义险冰薄，宣帝与之，情将何重！虽形屈当年，意申百世，降心全己，愤慨于下，非道服北面，有纯臣之节，毕命曹氏，忘济世之功者也。

“夫成业者系于所为，不系所籍；立功者言其所济，不言所起。是故汉高祖命于怀王，刘氏乘毙于亡秦，超二伪以远嗣，不论近而计功，考五德于帝典，不疑道于力政，季无承楚之号，汉有继周之业，取之既美，而已德亦重故也。且汉有系周之业，则晋无所承魏之迹矣。凡天下事，有可借喻于世古以晓于今，定之往昔而足为来证者。当阳秋之时，吴楚二国皆僭号之王也，若使楚推郢郢以尊有德，阖闾举三江以奉命世，命世之君、有德之主或藉之以应天，或抚之而光宅，彼必自系于周室，不推吴楚以为代明矣。况积勋累功，静乱宁众，数之所录，众之所与，不资于燕谗之授，不赖于因藉之力，长警庙堂，吴蜀两毙，运奇二纪而平定天下，服魏武之所不能服，荡累叶之所不能除者哉。

“自汉末鼎沸五六十年，吴魏犯顺而强，蜀人杖正而弱，三家不能相一，万姓旷而无主。夫有定天下之大功，为天下之所推，孰如见推于阉人，受尊于微弱？配天而为帝，方驾于三代，岂比侔首于曹氏，侧足于不正？即情而恒实，取之而无惭，何与诡事而托伪，开乱于将来者乎？是故故旧之封恩可封魏后，三恪之数不宜见列。以晋承汉，功实显然，正名当事，情体亦厌，又何为虚尊不正之魏而亏我道于大通哉！

“昔周人咏祖宗之德，追述翦商之功；仲尼明大孝之道，高称配天之义。然后稷勤于所职，丰来未以翦商，异于司马氏仕乎曹族，三祖之寓于魏世矣。且夫魏自君之道不正，则三祖臣魏之义未尽。义未尽，故假涂以运高略；道不正，则君臣之节有殊。然则宠道不以辅魏而无逆取之嫌，高拱不劳汗马而有静乱之功者，盖勋足以王四海，义可以登天位，虽我德断于有周，而彼道异于殷商故也。

“今子不疑共工之不得列于帝王，不嫌汉之系周而不系秦，何至于一魏犹疑滞而不化哉！夫欲尊其君而不知推之于尧舜之道，欲重其国而反厝之于不胜之地，岂君子之高义！若犹未悟，请于是止矣。”

临终上前论疏

臣每谓皇晋宜越魏继汉，不应以魏后为三恪。而身微官卑，无由上达，怀抱愚情三十余年。今沉沦重疾，性命难保，遂尝怀此，当与之朽烂，区区之情，切所悼惜，谨力疾著论一篇，写上如左。愿陛下考寻古义，求经常之表，超然远览，不以臣微贱，废其所言。

别周鲁、通诸葛亮

客问曰：“周瑜、鲁肃何人也？”主人曰：“小人也。”客曰：“周瑜奇孙策于总角，定



大好于一面，摧魏武百胜之锋，开孙氏偏王之业，威震天下，名驰四海。鲁肃一见孙权，建东帝之略。子谓之小人，何也？”主人曰：“此乃真所以为小人也。夫君子之道，故将竭其直忠，佐扶帝室，尊主宁时，远崇名教。若乃力不能合，事与志违，躬耕南亩，遁迹当年，何由尽臣礼于孙氏于汉室未亡之日邪？”客曰：“诸葛武侯翼戴玄德，与瑜、肃何异？而子重诸葛，毁瑜、肃，何其偏也？”主人曰：“夫论古今者，故宜先定其所为之本，迹其致用之源。诸葛武侯龙蟠江南，托好管乐，有匡汉之望，是有宗本之心也。今玄德，汉高之正胄也，信义著于当年，将使汉室亡而更立，宗庙绝而复继，谁云不可哉？”

卷 二

明 帝

明帝勤于吏事，苛察逾甚，或于殿前鞭杀尚书郎。

钟离意相鲁，见仲尼庙颓毁，会诸生于庙中，慨然叹曰：“蔽芾甘棠，勿剪勿伐，况见圣人庙乎？”遂躬留治之。周观舆服之在焉，自仲尼以来，莫之开也。意发视之，得古文策书曰：“乱吾书，董仲舒；治吾堂，钟离意。”壁有七，张伯盗一。意寻案未了而卒。张伯者，治中庭，治地得六壁，上之，意曰：“此有七，何以不遂？”伯惧，探壁怀中，鲁咸以为神。

永平十五年祠仲尼。帝时升庙立，群臣中庭北面，再拜，帝进爵而后坐。

章 帝

元和二年，幸鲁，祀孔子于阙里。阙里者，仲尼之故宅也，在鲁城。中帝升庙西面，群臣中庭北面，皆再拜，帝进爵而后坐。祠礼毕，命儒者论难。

质 帝

质帝年幼小，闻梁冀专权于天下，每朝出辄目之曰：“此跋扈将军。”冀闻而大惧，遂阴行鸩毒。始病，呼太尉李固入。固前问病，帝曰：“食煮饼令腹中闷，得水尚可活。”冀曰：“不可。”语未绝而崩。

恒 帝

延熹元年，梁皇后崩。桓帝独呼小黄门唐衡，至北户如厕，问左右梁冀不相得者为



谁。衡对曰：“单超。左馆前诣河南，尹不疑礼敬小简，不疑收其兄弟，送洛阳狱。”于是帝与人室定谋，啖超臂出血以为盟，乃诛梁冀。

延熹七年，南巡狩。桓帝幸樊城，百姓莫不观之，有一老父独耕不辍，议郎张温使问焉，父嘯而不答。

献 帝

初平二年，公孙瓒以刘玄德领平原相。初，先主篱上有桑如车盖。涿人李定云“此家必出贵人。”

建安元年，迁都许。献帝都许，守位而已，宿卫近侍莫非曹氏党旧恩戚。议郎赵彦堂为帝陈言时策，曹操恶而杀之。其余内外多见诛。操后以事入见殿中，帝不任其忿，因曰：“君能相辅则厚，不尔，幸垂恩相舍。”操失色，俯仰求出。旧仪三公辅兵入庙，令虎贲执刃挟之。操顾左右，汗流浹背，自后不敢复朝请。

天子都许，刘表虽贡献而与袁绍相结。郭义谏，表答义曰：“内不失贡职，外不背盟主，此天下之大义也。治中独何怪乎？”

孙策之始得王朗也，遽让之，使张昭私问朗，朗誓不屈，策忿而不敢害也，留置曲阿。建安三年，太祖表征朗。策遣之，太祖问曰：“孙策何以得至此邪？”朗曰：“策勇冠一世，有隼才大志；张子布，民之望也，北面而相之；周公瑾，江淮之杰，攘臂而为其将。谋而有成，所规不细，终为天下大贼，非徒狗盗而已。”

公孙瓒频为绍所败，乃筑京以自固。袁绍与瓒书曰：“孤与足下，既有前盟旧要，申之以讨乱之誓，受过夷、叔，分著丹青，谓为旅力同仇，足踵齐、晋，故解印释绂，以北带南，分割膏腴，以奉执事，此非孤赤情之明验邪？岂庸足下弃烈士之高义，寻祸亡之险踪，辄而改虑，以好易怨，盗遣士马，犯暴豫州。始闻甲卒在南，亲临战阵，惧于飞矢迸流，狂刀横集，以重足下之祸，徒增孤子之咎衅也，故为荐书恳恻，冀可改悔。而足下超然自逸，矜其威诈，谓天网可吞，豪雄可灭，果令贵弟陨于锋刃之端。斯言犹在于耳，而足下曾不寻讨祸源，克心罪己，苟欲逞其无疆之怒，不顾逆顺之律，匿怨害民，骋于余躬，遂跃马控弦，处我疆土，毒徧生民，辜延白骨。孤辞不获已，以登界桥之役。是时足下兵气霆震，骏马电发，仆师徒肇合，机械不严，强弱殊科，众寡异论，假天之助，小战大克，遂陵蹶奔背，因垒馆谷，此非天威棐谏，福丰有礼之符表乎？足下志犹未厌，乃反复糾合余烬，率我蚩蚩，以焚燕渤海。孤又不获宁，用及龙河之师。羸兵前诱，大军未济，而足下胆破众散，不鼓而败，兵众扰乱，君臣并奔。此又足下之为，非孤之咎也。自此之后，祸隙弥深，孤之师旅，不胜其忿，遂至积尸为京，头颅满野，愍彼无辜，未尝不慨然失涕也。后比得足下书，辞意婉约，有改往修来之言。仆既欣于旧好克复，且愍兆民之不宁，每辄引师南驾，以顺简书。弗盈一时，而北边羽檄之文，未尝不至。孤是用痛心疾



首，靡所错情。夫处三军之帅，当列将之任，宜合怒如严霜，喜如时雨，臧否好恶，坦然可观。而足下二三其德，强弱易谋，急则曲躬，缓则放逸，行无定端，言无质要，为壮士者固若此乎！既乃残杀老弱，幽土愤怨，众叛亲离，孑然无党。又乌丸、秽貊，皆与足下同州，仆与之殊俗，各奋迅激怒，争为锋锐；又东西鲜卑，举踵来附。此非孤德所能招，乃足下驱而致之也。夫当荒危之世，处干戈之险，内违同盟之誓，外失戎狄之心，兵兴州壤，祸发萧墙，将以定霸，不亦难乎！前以西山陆梁，出兵平讨，会麹义余残，畏诛逃命，故遂住大军，分兵扑荡，此兵孤之前行，乃界桥褫旗拔垒，先登制敌者也。始闻足下鍪金纁紫，命以元帅，谓当因兹奋发，以报孟明之耻，是故战夫引领，竦望旌旆，怪遂含光匿影，寂尔无闻，卒屠屠灭，相为惜之。夫有平天下之怒，希长世之功，权御师徒，带养戎马，叛者无讨，服者不收，威怀并丧，何以立名？今旧京克复，天罔云补，罪人斯亡，忠干翼化，华夏俨然，望于穆之作，将戢干戈，放散牛马，足下独何守区区之土，保军内之广，甘恶名以速朽，亡令德之久长？壮而筹之，非良策也。宜释憾除嫌，敦我旧好。若斯言之玷，皇天是闻。”瓚不答，而增修戎备。谓关靖曰：“当今四方虎争，无有能坐吾城下相守经年者明矣。袁本初其若我何！”

建安四年，绍攻瓚于易京。瓚自杀。关靖曰：“吾闻君子陷人于危，必同其难，岂可独生乎！”乃策马赴绍军而死。绍悉送其首于许。

建安五年，许攸说绍曰：“公无与操相攻也。急分诸军持之，而径从他道迎天子，则事立济矣。”绍不从，曰：“吾当先围取之。”攸怒。

绍攻操于官渡。张郃说绍曰：“公虽连胜，然勿与曹公战也。密遣轻骑抄绝其南侧，兵自败矣。”绍不从之。

建安七年，袁绍薨。审配献书于谭曰：“春秋之义，国君死社稷，忠臣死王命。苟有图危宗庙，败乱国家，王纲典律，亲疏一也。是以周公垂泣而蔽管蔡之狱，季友骈胁而行鍼叔之雉。何则？义重人轻，事不得已也。昔卫灵公废蒯聩而立，辄蒯聩为不道，人威以篡，卫师伐之。春秋传曰：‘以石曼姑之义，为可以拒之。’是以蒯聩终获叛逆之罪，而曼姑永享忠臣之名。父子犹然，岂况兄弟乎！昔先公废绌将军以续贤兄，立我将军以为适嗣，上告祖灵，下书谱牒，先公谓将军为兄子，将军谓先公为叔父，海内远近，谁不备闻？且先公即世之日，我将军斩衰居庐，而将军斋于室，出入之分于斯益明。是时凶臣逢纪，妄画蛇足，曲辞谄媚，交乱懿亲，将军奋赫然之怒，诛不旋时，将军亦奉命承旨，加以淫刑。自是之后，痍疽破溃，骨肉无丝发之嫌，自疑之臣，皆保生全之福。故愁遣强胡，简命名将，料整器械，选择战士，殫府库之财，竭食土之实，其所以供奉将军，何求而不备？君臣相率，共卫旌麾，战为雁行，赋为币主，虽倾仓覆库，翦剥民物，上下欣戴，莫敢告劳。何则？推恋恋忠赤之情，尽家家肝脑之计，唇齿辅车，不相为赐。谓为将军心合同意，混齐一体，必当并威偶势，御寇宁家。何图凶险谗慝之人，造饰无端，诱导奸利，至令将军翻然改图，忘孝友之仁，听豺狼之谋，诬先公废立之言，违近者在丧之



位，悖纲纪之理，不顾逆顺之节，横易冀州之主，欲当先公之继。遂放兵钞掠，屠城杀吏，交尸盈原，裸民满野，或有髡鬚发肤，割截支体，冤魂痛于幽冥，创痍号于草棘。又乃图获郾城，许赐秦、胡，财物妇女，豫有分界。或闻告令吏士云：‘孤虽有老母，辄使身体完具而已。’闻此言者，莫不惊愕失气，悼心挥涕，使太夫人忧愤横于堂室，我州君臣士友假寐悲叹，无所措手足，念欲静师拱默以听执事之图，则惧违春秋死命之节，貽太夫人不测之患，陨先公高世之业。三军愤慨，人怀私怒，我将军辞不获已，以及馆陶之役。是时外为御寇，内实乞罪，既不见赦，而屠辱各二三其心，临阵败戾。我将军进退无功，首尾受敌，司军奔避，不敢告辞。亦谓将军当少垂亲亲之仁，貽以缓追之惠，而乃寻踪蹶轨，无所逃命。困兽必斗，以干严行，而将军师旅土崩瓦解，此非人力，乃天意也。是后又望将军改往修来，克己复礼，追还孔怀如初之爱；而纵情肆怒，趣破家门，企踵鹤立，连结外仇，散锋放火，插增毒螫，烽烟相望，涉血千里，遗城厄民，引领悲怨，虽欲勿救，恶得已哉！故遂引军东轍，保正疆场，虽近郊垒，未侵境域，然望旌麾，能不永叹？配等备先公家臣，奉废立之命，而图等干国乱家，礼有常刑，故查敝州之赋，以除将军之疾，若乃天启于心，早行其诛，则我将军匍匐悲号于将军股掌之上，配等亦袒躬布体以待斧钺之刑。若必不悛，有以国毙，图头不悬，军不旋踵。愿将军详度事宜，锡以环玦。”

建安十二年，操破乌桓于柳城。太祖之始征柳城，刘备说表使袭许，表不从。及太祖还，表谓备曰：“不用君言，故为失此大会也。”备曰：“今天下分裂，日寻干戈，事会之来，岂有终极乎？若能应之于后者，则此未足为恨也。”

先主见诸葛亮于隆中。亮家于南阳之邓县，在襄阳城西二十里，号曰“隆中”。

建安十三年，操征刘表。表卒，子琮迎降。魏武平荆州，分南郡，枝江以西为临江郡。

先主走，将保江陵，操追之。王威说刘琮曰：“曹操得将军既降，刘豫州已走，必懈弛无备，轻行单进；若给威奇兵数千，徼之于险，操可获也。获操，则威震天下，坐而虎步，中夏虽广，可传檄而定，非徒收一胜之功，保守今日而已。此难遇之机，不可失也。”琮不纳。

先主败当阳，因人多归之，拥众不进也。

习凿齿曰：“刘玄德虽颠沛险难而信义愈明，势逼事危而言不失道。追景升之顾，则情感三军；恋赴义之士，则甘与同败。观其所以结物情者，岂徒投醪抚寒含蓼问疾而已哉！其终济大业，不亦宜乎！”

时操已定荆州。张松见曹公，曹公方自矜伐，不存录松。松归，乃劝璋自绝。

习凿齿曰：昔齐桓公一矜其功而叛者九国，曹操暂自骄伐而天下三分，皆勤之于数十年之内而弃之于俯仰之顷，岂不惜乎！是以君子劳谦日昃，虑以下人，功高而居之以上，势尊而守之以卑。情近于物，故虽贵而人不厌其重；德洽群生，故业广而天下愈欣其庆。



夫然，故能有其富贵，保其功业，隆显当时，传福百世，何骄矜之有哉！君子是以知曹操之不能遂兼天下者也。

建安十四年，权表备荆州牧。吕范劝刘备，肃曰：“不可。将军虽神武命世，然曹公威力实重，初临荆州，恩信未洽，宜以戒备，使抚安之。多操之敌，而自为树党，计之上也。”权即从之。

建安十五年，刘备改分南郡为宜都。

向成都所过辄克，于涪大会作乐，庞统以为非仁者之兵。习凿齿曰：夫霸王者，必体仁义以为本，杖信顺以为宗，一物不具，则其道乖矣。今刘备袭夺璋土，权以济业，负信违情，德义俱愆，虽功由是隆，宜大伤其败，譬断手全躯，何乐之有？庞统惧斯言之泄宜，知其主之必悟，故众中匡其失，而不修常谦之道，矫然太当，尽其蹇滞之风。夫上失而能正，是有臣也，纳胜而无执，是从理也；有臣则陛隆堂高，从理则群策毕举；一言而三善兼明，暂谏而义彰百代，可谓达乎大体矣。若惜其小失而废大益，矜此过言，自绝远说，能成业济务者，未之有也。

建安十九年，玄德破刘璋。先主入益州，吴遣迎孙夫人。夫人欲将太子归吴，诸葛亮使赵云勒兵断江刘太子，乃得止。

法正劝先主纳刘焉子瑁妻吴氏。习凿齿曰：“夫婚姻，人伦之始，王化之本，匹夫犹不可以无补，而况人君乎？晋文度礼行权以济其业，故子犯曰：‘有求于人，必先从之，将夺其国，何有于妻，非无故而违礼教者也。’今先主无权事之逼，而引前失以为譬，非导其君以尧、舜之道者。先主从之，过矣。”

建安二十年，张鲁降操。

习凿齿曰：鲁欲称王，而阎圃谏止之，今封圃为列侯。夫赏罚者，所以惩恶劝善也，苟其可以明轨训于物，无远近幽深矣。今阎圃谏鲁勿王，而太祖追封之，将来之人孰不思顺！塞其本源而末流自止，其此之谓与！若乃不明于此而重燬烂之功。丰爵厚赏止于死战之士，则民利于有乱，俗竞于杀伐，阻兵仗力，干戈不戢矣。太祖之此封，可谓知赏罚之本，虽汤武居之，无以加也。

先主

章武元年，群欲推先主即皇帝位，费诗上疏，忤旨左迁。习凿齿曰：夫创本之君，须大定而后正己，纂统之主，必速建以系众心。是故惠公朝秦而子圉以立，更始犹存而光武举号，夫岂忘主微利，社稷之故也。今先主纠合义兵，将以讨贼。贼强祸大，主没国丧，二祖之庙，绝而不祀，苟非亲贤，孰能绍此？嗣祖配天，非咸阳之譬，杖正讨逆，何推让之有？于此时也，不如速尊有德，以奉大统，使民欣欣，世睹旧物，杖顺者齐心，附逆者同惧，时可谓暗感矣。其黜降也，宜哉！



后主

先主卒，刘禅即位。未葬，亦未逾月而改元为建兴，此言之不从也。习凿齿曰：“礼，国君即位逾年而后改元者，缘臣子之心不忍一年而有二君也。今可谓亟而不知礼矣！君子是以知蜀之不能东迁也。”

建兴三年，亮在南中，所在战捷。闻孟获者，为夷、汉并所服，募生致之。既得，使观于营阵之间，问曰：“此军何如？”获对曰：“向者不知虚实，故败。今蒙赐观看营陈，若只如此，既定易胜耳。”亮笑，纵使更战，七纵七擒，而亮犹遣获。获止不去，曰：“公，天威也，南人不复反矣。”遂至滇池。南中平，皆即其渠率而用之。或以谏亮，亮曰：“若留外人，则当留兵，兵留则无所食，一不易也；加夷新伤破，父兄死丧，留外人而无兵者，必成祸患，二不易也；又吏累有废杀之罪，自嫌衅重，若留外人，终不相信，三不易也；今吾欲使不留兵，不运粮，而纲纪粗定，夷汉粗安，故耳。”

建兴六年，街亭之败，马谡下狱物故。习凿齿曰：诸葛亮之不能兼上国也，岂不宜哉！夫晋人规林父之后济，故废法而收功；楚成暗得臣之益已，故杀之以重败。今蜀僻陋一方，才少上国，而杀其俊杰，退收弩下之用，明法胜才，不师三败之道，将以成业，不亦难乎！且先主减谡之才不可大用，岂不谓其非才也？亮受减而不获奉承，明谡之难度也。为天下宰匠，欲大收物之力，而不量才节任，随器付业；知之太过，则违明主之诫，裁之失中，即杀有益之人，难乎其可与言智者也。

或劝亮更增兵者，亮曰：“大军在祁山，箕谷，皆多于贼，而不能破贼为贼所破者，则此病不在兵少也，在一人耳。今欲灭兵损将，明罚思过，校变通之道于将来；若不能然者，虽兵多何益！自今以后，诸有忠虑于国，但勤攻吾之阙，则事可定，贼可死，功可卧足而待矣。”于是考微劳，甄烈壮，引咎责躬，布所失于天下，厉兵讲武，以为后图，戎兵简练，民忘其败矣。亮闻孙权破曹休，魏兵东下，关中虚弱。十一月，上言曰：“先帝虑汉、贼不两立，王业不偏安，故托臣以讨贼也。以先帝之明，量臣之才，故知臣伐贼才弱敌强也；然不伐贼，王业亦亡，惟坐待亡，孰与伐之？是故托臣而弗疑也。臣受命之日，寝不安席，食不甘味，思惟北伐，宜先入南，故五月渡泸，深入不毛，并日而食。臣非不自惜也，顾王业不可得偏全于蜀都，故冒危难以奉先帝之遗意也，而议者谓为非计。今贼适疲于西，又务于东，兵法乘劳，此进趋之时也。谨陈其事如左：高帝明并日月，谋臣渊深，然涉险被创，危然后安。今陛下未及高帝，谋臣不如良、平，而欲以长计取胜，坐定天下，此臣之未解一也；刘繇、王朗各据州郡，论安言计，动引圣人，群疑满腹，众难塞胸，今岁不战，明年不征，使孙策坐大，遂并江东，此臣之未解二也；曹操智计殊绝于人，其用兵也，仿佛孙、吴，然困于南阳，险于乌巢，危于祁连，逼于黎阳，几败北山，殆死潼关，然后能定一时耳，况臣才弱，而欲以不危而定之，此臣之未解三也；曹操



五攻昌霸不下，四越巢湖不成，任用李服而李服图之，委夏侯而夏侯败亡，先帝每称操为能，犹有此失，况臣弩下，何能必胜？此臣之未解四也；自臣到汉中，中闲期年耳，然丧赵云、阳群、马玉、阎芝、丁立、白寿、刘郃、邓铜等及部曲屯将七十余人，突将无前。賁叟、青羌散骑、武骑一千余人，此皆数十年之内所纠合四方之精锐，非一州之所有，若复数年，则损三分之二也，当何以图敌？此臣之未解五也；今民穷兵疲，而事不可息，事不可息，则住与行劳费正等，而不及虚图之，欲以一州之地与贼持久，此臣之未解六也。夫难平者，事也。昔先帝败军于楚，当此时，曹操拊手谓天下已定。然后先帝东连吴、越，西取巴、蜀，举兵北征，夏侯授首，此操之失计而汉事将成也。然后吴更违盟，关羽毁败，秭归蹉跌，曹丕称帝。凡事如是，难可逆见。臣鞠躬尽力，死而后已。至于成败利钝，非臣之明所能逆睹也。”于是有散关之役。

曹休与吴战，败，贾逵救之，乃振。初，逵与休不善，休犹欲以后期罪之。习凿齿曰：“夫贤人者，外身虚已，内以下物，嫌忌之名，何由而生乎？有嫌忌之名者，必与物为对，存胜负于己身者也。若以其私憾败国殄民，彼虽倾覆，于我何利？我苟无利，乘之曷为？以是为说，臧获之心耳。今忍其私忿而急彼之忧，冒难犯危而免之于害，使功显于明君，惠施于百姓，身登于君子之涂，义愧于敌人之心，虽豺虎犹将不觉所复，而况于曹休乎？然则济彼之危，所以成我之胜，不计宿憾，所以服彼之心。公义既成，私利亦弘，可谓善争矣。在于未能忘胜之流，不由于此而能济胜者，未之有也。”

建兴七年，是岁，孙权称尊号，其群臣以并尊二帝来告。议者咸以为交之无益，而名体弗顺，宜显明正义，绝其盟好。亮曰：“权有僭逆之心久矣，国家所以略其衅情者，求犄角之援也。今若加显绝，仇我必深，便当移兵东戍，与之角力，须并其士，乃议中原。彼贤才尚多，将相缙縻，未可一朝定也。顿兵相持，坐而须老，使北贼得计，非算之上者。昔孝文卑辞匈奴，先帝优与吴盟，皆应权通变，宏思远益，非匹夫之为分者比。今议者咸以权利在鼎足，不能并力，且志望以满，无上进之情，推此皆似是而非也。何者？其智力不侔，故限江自保，权之不能越江，犹魏贼之不能渡汉，非力有余而利不取也。若大军致讨，彼上当分裂其地，以为后规，下当略民广境，示武于内，非端坐者也。若就其不动而睦于我，我之北伐无东顾之忧，河南之众不得尽西，此之为利亦已深矣。权僭之罪，未宜明也。乃遣卫尉陈震庆权正号。

建兴九年二月伐魏。亮围祁山，招鲜卑轲比能，比能等至故北地石城以应亮。于是魏大司马曹真真有疾。司马宣王自荆州入朝，魏明帝曰：“西方事重，非君若可付者。”乃使西屯长安，都督张郃、费曜、戴陵、郭淮等。宣王使曜、陵留精兵四千守上邽，余众悉出西救祁山。郃欲分兵驻雍、郿，宣王曰：“料前军能独当之者，将军言是也；若不能当而分为前后，此楚之三军所以为黥布禽也。”遂追。亮分兵留攻，自逆宣王于上邽。郭淮、费曜等微亮，亮破之，因大芟刈其麦，与宣王遇于上邽之东，敛兵依险，军不得交，亮引兵而还，宣王寻亮至于卤城。张郃曰：“彼远来逆我，我请战不得，谓我利在不战，欲以长计



制之也。且祁山知大军以在近，人情自固，可止屯于此，分为奇兵，示出其后，不宜进前而不敢逼，坐失良机也。今亮悬军食少，亦行去矣。”宣王不从，故寻亮。既至，又登山掘营，不肯战。贾诩、魏平数请战，因曰：“公畏蜀如畏虎，奈天下笑何！”宣王病之。诸将咸请战。五月辛巳，乃使张郃攻无当监何平于南围。自案中道向亮。亮使魏延、高翔、吴班赴拒，大破之。获甲首三千级，衣铠五千领，角弩三千一百张，宣王还保营。

建兴九年冬十月，江阳至江州有鸟从江南飞渡江北，不能达，堕水死者以千数。

建兴十一年，吴拜公孙渊为燕王，张昭谏，不从，因不朝，后屡谢，昭不起，乃烧门以恐之，昭更闭户。习凿齿曰：“张昭于是乎不臣矣！夫臣人者，三谏不从，则奉身而退；身苟不绝，何忿忿之有？且秦穆违谏，卒霸西戎，晋文暂怒，终成大业，遗誓以悔过见录，狐偃无怨绝之辞，君臣道泰，上下俱荣。今权悔往之非而求昭，后益回虑降心，不远而复，是其善也。昭为人臣，不度权得道，匡其后失，夙夜匪懈，以延来誉，乃追忿不用，归罪于君，闭户拒命，坐待焚灭。岂不悖哉！”

建兴十二年二月伐魏，亮自至，数挑战。宣王亦表固请战，使辛毗持节以制之。姜维谓亮曰：“辛佐治仗节而至，贼不复出矣。”亮曰：“彼本无战情，所以固请战者，以示武于其众耳。将在军，君命有所不受，苟能制吾，岂千里而请战邪！”

秋八月，亮卒于郭氏坞。杨仪等整军而出，百姓奔告宣王，宣王追焉。姜维令仪反旗鸣鼓，若向宣王者，宣王不敢逼。于是仪结阵而去，入谷然后发表。宣王之退也，百姓为之谚曰：“死诸葛，走生仲达。”或以告宣王，宣王曰：“吾能料生，不能料死也。”

魏延作乱，杨仪击斩之。初，董恢字休绪，襄阳人。入蜀，以宣信中郎副费祎使吴。孙权尝大醉问祎曰：“杨仪、魏延，牧竖小人也，虽尝有鸣吠之益，于时务，然既已任之，势不得轻，若一朝无诸葛亮，必为祸乱矣。诸君愤愤，曾不知防虑于此，岂所谓貽厥孙谋乎？”祎怆然四顾视，不能即答。恢目祎曰：“仪、延之不协起于私忿耳，而无黷、韩难御之心也。方今扫除强贼，混一区夏。功以才成，业由才广，若舍此不任，防其后患，是犹备有风波而逆度舟楫，非长计也。”权大笑乐。诸葛亮闻之，以为知言。还未满三日，辟为丞相府属，迁巴郡太守。

初，廖立以怨谤废。及亮薨，垂泣曰：“吾终为左衽矣！”又李平前以罪废，冀复收己，闻之，亦发病卒。习凿齿曰：昔管仲夺伯氏骈邑三百，没齿而无怨言，圣人以为难。诸葛亮之使廖立垂泣，李严致死，岂徒无怨言而已哉！夫水至平而邪者取法，鉴至明而丑者忘怒，水镜之所以能穷物而无怨者，以其无私也。水镜无私，犹以免谤，况大人君子怀乐生之心，流矜恕之德，法行于不可用，刑加乎自犯之罪，爵之而非私，诛之而不怒，天下有不服者乎！诸葛亮于是可谓能用刑矣！自秦汉以来未之有也。

建兴十三年，魏青龙三年，郭后崩。初，甄后之诛，由郭后之宠。及殁，令被发覆面，以糠塞口，遂立郭后，使养明帝。帝知之，心尝怀忿，数泣问甄后死状。郭后曰：“先帝自杀，何以责问我？且汝为人子，可追仇死父，为前母枉杀后母邪？”明帝怒，遂逼



杀之，勅殡者使如甄后故事。

氏池县大柳谷日夜激波涌溢，其声如雷，晓而有苍石立水中，长一丈六尺，高八尺，白石画之，为十三马，一牛，一鸟，八卦玉玦之象，皆隆起，其文曰：“大讨曹，适水中，甲寅。”帝恶其“讨”也，使凿去为“计”。以苍石室之，宿昔而白石满焉。至晋初，其文愈明，马象皆焕彻如玉焉。

青龙三年七月，曹叡崇华殿灾。时郡国有龙，九见，故改曰九龙殿。

建兴十五年，魏景初元年，魏帝徙盘，盘折，声闻数十里。金狄或泣，因留于霸城。

高堂隆卒。习凿齿曰：“高堂隆，可谓忠臣矣。君侈每思谏其恶，将死不忘忧社稷，正辞动于昏主，明戒验于身后，蹇谿足以励物，德音没而彰彰，可不谓忠且智乎！诗云：‘听用我谋，庶无大悔。’又曰：‘曾是莫听，大命以倾。’其高堂隆之谓也。”

延熙元年，魏景初二年，公孙渊自立，称绍汉元年。闻魏人将讨，复称臣于吴，乞兵北伐以自救。吴人欲戮其使，羊衔曰：“不可，是肆匹夫之怒而捐霸王之计也。不如因而厚之，遣奇兵潜往以要其成。若魏伐渊不克，而我军远赴，是恩结遐夷，义盖万里；若兵连不解，首尾离隔，则我虏其旁郡，驱民而归，亦足以致天之罚，报雪曩事矣。”欢曰：“善”，乃勒兵大出。谓渊使曰：“请俟后问，当从简书，必与弟同休戚，共存亡，虽陨于中原，吾所甘心也。”又曰：“司马懿所向无前，深为弟忧也。”

帝问蒋济：“孙权其救辽东乎？”济曰：“彼知官备以固，利不可得，深入则非力所能，浅入则劳而无获。权虽子弟在危，犹将不动，况以异域之人，兼以往者之辱乎！今所以外扬此声者，谲其行人疑于我，我之不克，冀折后事已耳。然查渚之间，去渊尚远，若大军相持，事不速决，则权之浅规，或能轻兵掩袭，未可测也。”

秋有彗星见张宿。史官言于帝曰：“此周之分野也，洛邑恶之。”于是大修禳祷之术以厌焉。

十二月，帝以燕王宇为大将军，使与领军将军夏侯献、武卫将军曹爽，屯骑校尉曹肇、骁骑将军秦朗等对辅政，中书监刘放、令孙资久专权宠，为朗等素所不善，惧有后害，因图间之，而宇常在帝侧，故未得有言。甲申，帝气微，宇下殿呼曹肇有所议，未还，而帝少闲，惟曹爽独在。放知之，呼资与谋。资曰：“不可动也。”放曰：“俱入鼎镬，何不可之有？”乃突前见帝，垂泣曰：“陛下气微，若有不讳，将以天下付谁？”帝曰：“卿不闻用燕王邪？”放曰：“陛下忘先帝诏敕，藩王不得辅政。且陛下方病，而曹肇、秦朗等便与才人侍疾者言戏。燕王拥兵南面，不听臣等人，此即竖刁、赵高也。今皇太子幼弱，未能统政，外有强暴之寇，内有劳怨之民，陛下不远虑存亡，而近系恩旧。委祖宗之业，付二三阉寺，寝疾数日，内外壅隔，社稷危殆，而已不知，此臣等所以痛心也。”帝得放言，大怒曰：“谁可任者？”放、资乃举爽代宇，又白“宜诏司马宣王使相参”，帝从之。放、资出，曹肇入，涕泣固谏，帝使肇敕停，肇出户，放、资趋而往，复说止帝，帝又从其言。放曰：“宜为手诏。”帝曰：“我困笃，不能。”放即上床，执帝手强作之，遂奏出，



大言曰：“有诏免燕王宇等官，不得停省中。”于是宇、肇、献、朗相与泣而归第。

延熙四年，魏正始二年，吴赤乌四年，零陵太守殷礼言于权曰：“今天弃曹氏，丧诛累见。虎争之际而幼童莅事。陛下身自御戎，取乱侮亡，宜涤荆、杨之地，举强羸之数，使强者执戟，羸者转运，西命益州军于陇右，授诸葛瑾、朱然大众，指事襄阳，陆逊、朱桓别征寿春，大驾入淮阳，历青、徐。襄阳、寿春困于受敌，长安以西务对蜀军，许、洛之众势必分离；犄角瓦解，民必内应，将帅对向，或失便益；一军败绩，则三军离心，便当秣马脂车，陵陷城邑，乘胜逐北，以定华夏。若不悉军动众，循前轻举，则不足大用，易于屡退。民疲威消，时往力竭，非出兵之策也。”权弗能用之。

延熙七年，魏正始五年，曹爽至长安，与夏侯玄入汉中。司马宣王谓夏侯玄曰：“春秋责大德重，昔武皇帝再入汉中，几至大败，君所知也。今兴平路势至险，蜀已先据；若进不获战，退见微绝，覆军必矣。将何以任其责！”玄惧，言于爽，引军退。费祎进兵据三岭以截爽，爽争险苦战，仅乃得过。所发牛马运转者，死失略尽，羌、胡怨叹，而关右悉虚耗矣。

玄名知人。陈蹇兄丕有名于世，与夏侯玄亲交，玄拜其母。蹇时为中领军，闻玄曾于其家，悦而归，既入户，玄曰：“相与未至于此。”蹇当户立，良久曰：“如君言。”乃趋而出，意气自若，玄大以此知之。

延熙九年，魏正始七年，吴赤乌九年，是年，吴将朱然入柵中，斩获数千；柵中民吏万余家渡沔。司马宣王谓曹爽曰：“若便令还，必复致寇，宜权留之。”爽曰：“今不修守沔南，留民沔北，非长策也。”宣王曰：“不然。凡物置之安地则安，危地则危，故兵书云，成败，形也；安危，势也，形势御众之要，不可不审。设令贼二万人断沔水，三万人于沔南诸军相持，万人陆钞柵中，君将何以救之？爽不听，卒令还。然后袭破之。袁淮言于爽曰：“吴楚之民脆弱寡能，英贤大才不出其地，比技量力，不足与中国相抗，然自上古以来尝为中国患者，盖以江汉为池，舟楫为用，利则陆钞，不利则入水，攻之道远，中国之长技无所用之也。孙权自十数年以来，大攻江北，缮治甲兵，精其守御，数出盗窃，敢远其水，陆次平土，此中国所愿闻也。夫用兵者，贵以饱待饥，以逸击劳，师不欲久，行不欲远，守少则固，力专则强，当今宜捐淮、汉以南，退却避之。若贼能入居中央，来侵边境，则随其所短，中国之长技得用矣。若不敢来，则边境得安，无钞盗之忧矣。使我国富兵强，政修民一，陵其国不足为远矣。今襄阳孤在汉南，贼循汉而上，则断而不通，一战而胜，则不攻而自服，故置之无益于国，亡之不足为辱。自江夏已东，淮南诸郡，三后已来，其所亡几何，非以近贼疆界易钞掠之故哉！若徙之淮北，远绝其间，则民人安乐，何鸣吠之惊呼？”遂不徙。

延熙十二年，魏嘉平元年，曹芳谒曹睿墓于大石山，曹爽兄弟皆从。于是司马懿闭四城，遂与太尉蒋济俱屯洛水南浮桥，奏罢爽兄弟。不知所为，芳还，宿伊水南，发屯田数千人，树鹿角为营。



懿收爽等诛之。安定皇甫谧以九年冬梦至洛阳，自庙出，见车骑甚众，以物呈庙云：“诛大将军曹爽。”寤而以告其邑人，邑人曰：“君欲作曹人之梦乎！朝无公孙强何如？且爽兄弟典重兵，又权尚书事，谁敢谋之？”谧曰：“爽无叔振铎之请，苟失天机则离矣，何恃于强？昔汉之阎显，倚母后之尊，权国威命，可谓至重矣，阉人十九人一旦尸之，况爽兄弟乎？”

延熙十二年，姜维出西平，不克，每欲大举。费祎谓维曰：“吾等不如丞相亦已远矣，丞相犹不能定中夏，况吾等乎！且不如保国治民，敬守社稷，如其功业，以俟能者，无以为希冀微幸而决成败于一举，若不如志，悔之无及。”

延熙十四年，懿杀王凌及曹彪。初，凌、愚谋，以帝幼制于强臣，不堪为主，楚王彪长而才，欲迎立之，以兴曹氏。凌使人告（其子）广，广曰：“凡举大事，应本人情。今曹爽以骄奢失民，何平叔虚而不治，丁、毕、桓、邓虽并有宿望，皆专竞于世。加变易朝典，政令数改，所存虽高而事不下接，民习于旧，众莫之从。故虽势倾四海，声震天下，同日斩戮，名士减半，而百姓安之，莫或之哀，失民故也。今懿情虽难量，事未有逆，而擢用贤能，广树声色，修先朝之政令，副众心之所求。爽之所以为恶者，彼莫不必改，夙夜匪懈，以恤民为先。父子兄弟，并握兵要，未易亡也。”凌不从。

延熙十五年，魏嘉平四年，吴建兴元年，吴修东兴堤。初，孙权筑东兴堤以遏巢湖。后征淮南，壤不复修。是岁诸葛恪率军吏更于堤左右结山挟筑两城，使全端、留略守之，引军而还。诸葛诞言于司马景王曰：“致人而不致于人者，此之谓也。今因其内侵，使文舒逼江陵，仲恭向武昌，以羁吴之上流，然后简精卒攻两城，比敕至，可大获也。”景王从之。

帅使王昶攻南郡，毋丘俭向武昌，胡遵、诸葛诞攻东兴，恪救东兴，使丁奉等为前部，奉遂据徐塘，破遵，大获而归。毋丘俭、王昶闻乐军败，各烧屯走。朝议欲贬黜诸将，景王曰：“我不听公休，以至于此。此我过也，诸将何罪？”悉原之。时司马文王为监军，统诸军，唯削文王爵而已。是岁，雍州刺史陈泰奉敕并州并力讨胡，景王从之。未集而雁门、新兴二郡以为将远役，遂惊反。景王又谢朝士曰：“此我过也，非元伯之责。”于是魏人愧悦，人思其报。

习凿齿曰：司马大将军引二败以为己过，过消而业隆，可谓智矣，夫民忘其败，而下思其报，虽欲不康，其可得邪？若乃讳败推过，归咎万物，常执其功而隐其丧，则上下离心，贤愚解体，是楚再败而晋再克也，谬之甚矣！君人者，苟统斯理而以御国，则朝无秕政，身靡留愆，行失而名扬，兵挫而战胜，虽百败可也，况于再乎！

延熙十六年春，诸葛恪使司马李衡往蜀说姜维，令同举，曰：“古人有言，圣人不能为时，时至亦不可失也。今敌政在私门，外内猜隔，兵挫于外，而民怨于内，自曹操以来，彼之亡形未有如今者也。若大举伐之，使吴攻其东，汉入其西，彼救西则东虚，重东则西轻，以练实之军，乘虚轻之敌，破之必矣。”维从之。



呈诸葛恪围新城。是时，姜维亦出围狄道。司马景王问虞松曰：“今东西有事，二方皆急，而诸将意沮，若之何？”松曰：“昔周亚夫坚壁昌邑而吴楚自败，事有似弱而强，或似强而弱，不可不察也。今恪悉其锐众，足以肆暴，而坐守新城，欲以致一战耳。若攻城不拔，请战不得，师老众疲，势将自走，诸将之不径进，乃公之利也。姜维有重兵而悬军应恪，投食我麦，非深根之寇也。且谓我并力于东，西方必虚，是以径进。今若使关中诸军倍道急赴，出其不意，殆将走矣。”景王曰：“善！”乃使郭淮、陈泰悉关中之众，解狄道之围；敕母丘俭等案兵自守，以新城委吴。姜维闻淮进兵，军食少，乃退屯陇西界。

延熙十八年，魏正元二年，母丘俭反。傅嘏劝景王行，景王未从。嘏重言曰：“淮、楚兵劲而俭等负力远斗，其锋未易当也。若诸将战有利钝，大势一失，则公事败矣。”是时景王新割目瘤，创甚，闻嘏言，蹶然而起曰：“我请舆疾而东。”

俭败被诛。习凿齿曰：母丘俭感明帝之顾命，故为此役。君子谓母丘俭事虽不成，可谓忠臣矣！夫竭节而赴义者，我也，成之与败，时也。我苟无时，成何必乎？忘我而不自必，乃所以为忠也。古人有言：‘死者复生，生者不愧。’若母丘俭可谓能不愧也。

延熙二十年，魏甘露二年，诸葛诞起兵。蒋班、焦彝言于诸葛诞曰：“朱异等以大众来而不能进，孙琳杀异而归江东，外以发兵为名，而内实坐须成败，其归可见矣。今宜及众心尚固，士卒思用，并力决死，攻其一面，虽不能尽克，犹有可全者。”文钦曰：“江东乘战胜之威久矣，未有难北方者也。况公今举十余万之众内附，而钦与全端等皆同居死地，父兄子弟尽在江表，就孙琳不欲，主上及其亲戚岂肯听乎？且中国无岁无事，军民并疲，今守我一年，势力已困，异图生心，变故将起，以往准今，可计日而望也。”班、彝固劝之，钦怒，而诞欲杀班。二人惧，且知诞之必败也，十一月，乃相携而降。

景耀元年，魏甘露三年，昭拔寿春，杀诞。文钦曰：“蒋班、焦彝谓我不能出而走，全端、全怱又率众逆降，此敌无备之时也，可以战矣。”诞及唐咨等皆以为然，遂共悉众出攻。

三叛既平，听收葬钦。习凿齿曰：自是天下畏威怀德矣。君子谓司马大将军于是役也，可谓能以德怀矣。夫建业者异矣，各有所尚，而不能兼并也。故穷武之雄毙于不仁，存义之国丧于懦弱，今一征而禽三叛，大虏吴众，席卷淮浦，俘馘十万，可谓壮矣。而未及安坐，丧王基之功，种惠吴人，结异类之情，宠鸯葬钦，忘畴昔之隙，不咎诞众，使扬士怀愧，功高而人乐其成，业广而敌怀其德，武昭既敷，文算又洽，推此道也，天下其孰能当之哉。

八月，髦养老于大学。帝乞言于王祥，祥对曰：“昔者明王礼乐既备，加之以忠诚，忠诚之发，形于言行。夫大人者，行动乎天地，天且弗违，况于人乎？”

九月，吴孙琳废其主亮，桓彝弗肯署名，琳杀之。彝，魏尚书令阶之弟。

景耀二年，魏甘露四年，正月，先是魏地井中屡有龙见。是时龙仍见，咸以为吉祥。帝曰：“龙者，君德也。上不在天，下不在田，而数屈于井，非嘉兆也。乃作潜龙之诗以



自讽，司马文王见而恶之。

景耀三年，魏景元元年，昭杀其主髦及王经。自曹芳事后，魏人省彻宿卫，无复铠甲，诸门戎兵老弱而已。曹髦见威权日去，不胜其忿。乃召侍中王沈、尚书王经、常侍王业，谓曰：“司马昭之心，路人所知也。吾不能坐受废辱，今日当与卿自出讨之。”王经谏曰：“昔鲁昭公不忍季氏，败走失国，为天下笑。今权在其门，为日久矣。朝廷四方皆为之死，不顾顺逆之理，非一日也。且宿卫空阙，兵甲寡弱，陛下何所资用，而一旦如此，无乃欲除疾而更深之邪？祸殆不测，宜见重详。”帝不听，乃出怀中板令投地，曰：“行之决矣！正使死，何所恨？况不必死邪！”于是入白太后。沈、业奔走告文王，文王为之备。髦遂帅僮仆数百，鼓噪而出，昭弟屯骑校尉孙资，遇髦于东正车门，左右河之，孙资奔走。中获军贾充又逆髦，战于南阙下，髦自用剑，挥众欲退，太子舍人成济问充曰：“事急矣，当云何？”充曰：“公畜养汝等，正为今日。今日之事，无所问也。”济即抽戈犯跃，前刺髦，刃出于背。文王闻之大惊，自投于地，曰：“天下其谓我何！”太傅孚奔往，枕帝股而哭，哀甚曰：“杀陛下者，臣之罪也。”

于是召百官议其事。昭垂涕问陈泰曰：“何以居我？”泰曰：“公光辅数世，功盖天下，谓当并迹古人，垂美于后。一旦有弑君之事，不亦惜乎！速斩贾充，犹可以自明也。”昭曰：“公间不可得杀也，卿更思余计。”泰厉声曰：“意唯有进于此耳，余无足委者也。”归而自杀。

丁卯，葬高贵乡公于洛阳西北三十里漙涧之滨。下车数乘，不设旌旄，百姓相聚而观之，曰：“是前日所杀天子也。”或掩面而泣，悲不自胜。

初，曹髦将自讨司马昭。王经谏曰：“昔鲁昭公不忍季氏，败走失国，为天下笑。今权在其门，为日久矣，朝廷四方皆为之死，不顾顺逆之理，非一日也。且宿卫空阙，寸刃无有，陛下何所资用，而一旦如此，无乃欲除疾而更深之邪！祸殆不测，宜见重详。”髦不听，后杀经并及其母。经被收，将死，垂泣谢母。母颜色不变，笑而谓曰：“人谁不死？往所以不止汝者，恐不得其所也。以此并命，何恨之有哉？”

孙休时，薛瑛为五官中郎将，遣至蜀求马。及还，休问蜀政得失，对曰：“主暗而不知其过，臣下容身以求免罪，入其朝不闻正言，经其野民皆菜色。臣闻燕雀处堂，子母相乐，自以为安也，突决栋焚，而燕雀怡然不知祸之将及，其是之谓乎！”

景耀五年，姜维率众出狄道，廖化曰：“‘兵不戢，必自焚’，伯约之谓也。知不出敌，而力少于寇，用之无厌，何以能立？诗云‘不自我先，不自我后’，今日之事也。”

炎兴元年，魏景元四年，吴永安六年，魏入寇关口。蒋舒将出降，乃诡谓傅金曰：“今贼至不击而闭城自守，非良图也。”金曰：“受命保城，惟全为功，今违命出战，若丧师负国，死无益矣。”舒曰：“子以保城获全为功，我以出战克敌为功，请各行其志。”遂率众出。金谓其战也，至阴平，以降胡烈。烈乘虚袭城，金格斗而死，魏人义之。

后主将从谗周之策，北地王谡怒曰：“若理穷力屈，祸败必及，便当父子君臣背城一



战，同死社稷，以见先帝可也。”后主不纳，遂送玺绶。是日，谶哭于昭烈之庙，先杀妻子，而后自杀，左右无不为之泣者。

初，夏侯霸降蜀。姜维问之曰：“司马懿既得彼政，当复有征伐之意不？”霸曰：“彼方营立家门，未遑外事。有钟士季者，其人虽少，终为吴蜀之忧。然非非常之人亦不能用也。”后十五年，而会果灭蜀。

甲申，魏咸熙元年，以樞车征邓艾，钟会谋反伏诛。钟会阴怀异图，姜维见而知其心，谓可构成扰乱以图克复也。乃诡说会曰：“闻君自淮南以来，算无遗策，晋道克昌，皆君之力。今复定蜀，威德振世，民高其功，而主畏其谋，欲以此安归乎！夫韩信不肯汉于扰攘，以见疑于既平，大夫种不从范蠡于五湖，卒伏剑而安死，彼岂暗主愚臣哉？利害使之然也。今君大功既立，大德已著，何不效陶朱泛舟绝迹，全功保身，登峨嵋之岭，而从赤松游乎？”会曰：“君言远矣，我不能行，且为今之道，或未尽于此也。”维曰：“其他则君智力之所能尽，无烦于老夫矣。”由是情好欢甚。

初，钟毓密启会不可专任。文王嘉其忠亮，笑答毓曰：“若如卿言，必不及宗矣。”

卫瑾遣田续袭邓艾，杀之。初，艾之下江由也，以续不进，欲斩，既而舍之，及瑾遣续，谓曰：“可以报江由之辱矣。”杜预言于众曰：“伯玉其不免乎！身为名士，位望已高，既无德音，又不御下以正，是小人而乘君子之器，将何以堪其责乎？”瑾闻之，不俟驾而谢。

向雄字茂伯，河内人。为镇西将军功曹。钟会既诛，雄收而葬之。文王闻雄之收葬会也，召而责之，曰：“往者王经之死，卿哭于东市而我不问，今钟会躬为叛逆而又辄收葬，若复相容，其如王法何？”雄曰：“昔先王掩骼埋胔，仁流朽骨，当时岂先卜其功罪而后收葬哉？今王诛既加，于法已备，雄感义收葬，教亦无阙，法立于上，教宏于下，以此训物，雄曰可矣！何必使雄背死违生，以立于时。殿下仇对枯骨，捐之中野，百岁之后，为臧获所笑，岂仁贤所掩哉？”王悦，与宴谈而遣之。

习凿齿曰：向伯茂可谓勇于蹈义也，哭王经而哀感市人，葬钟会而义动明主，彼皆忠烈奋劲，知死而往，非存生也。况使经、会处世，或身在急难，而有不赴者乎？故寻其率死之心，可以见事生之情，览其忠贞之节，足以愧背义之士矣。王知礼而遣，可谓明达也。

三月，晋公既进爵为王，太尉王祥、司徒何曾、司空荀顗并诣王。顗曰：“相王尊重，何侯与一朝之臣皆已尽敬，今日便当相率而拜，无所疑也。”祥曰：“相国位势，诚为尊贵，然要是魏之宰相，吾等魏之三公，公、王相去，一阶而已，班列大同，安有天子三公可辄拜人者！损魏朝之望，亏晋王之德，君子爱人以礼，吾不为也。”及入，顗遂拜，而祥独长揖。王谓祥曰：“今日然后知君见顾之重！”

禅举家迁洛阳，霍弋降。初，霍弋闻魏军来，弋欲赴成都，后主以备敌既定，不听。及成都不守，素服号哭，大临三日。诸将咸劝宜速降，弋曰：“今道路隔塞，未详主之安



危，大故去就，不可苟也。若主上与魏和，见遇以礼，则保境而降，不晚也。若万一危辱，吾将以死拒之，何论迟速邪！”得后主东迁之问，始率六郡将守上表曰：“臣闻人生于三，事之如一，惟难所在，则致其命。今臣国败主附，守死无所，是以委质，不敢有贰。”晋文王善之，拜南中都督，委以本任。

封禅为安乐公。司马文王与禅宴，为之作故蜀技，旁人皆为之感怆，而禅喜笑自若。王谓贾充曰：“人之无情，乃可至于是乎！虽使诸葛亮在，不能辅之久全，而况姜维邪？”充曰：“不如是，殿下何由并之。”他日，王问禅曰：“颇思蜀否？”禅曰：“此间乐，不思蜀。”郤正闻之，求见禅曰：“若王后问，宜泣而答曰：‘先人坟墓远在陇西，乃心西悲，无日不思’，因闭其目。”会王复问，对如前，王曰：“何乃似郤正语邪！”禅惊视曰：“诚如尊命。”左右皆笑。

魏以蜀宫人赐谄将之无妻者，李昭仪曰：“我不能二三屈辱。”乃自杀。

吴孙皓立。晋文王与皓书曰：“圣人称有君臣然后有上下礼义，是故大必字小，小必事大，然后上下安服，群生获所。逮至末涂，纯德既毁，剿民之命，以争强于天下，违礼顺之至理，则仁者弗由也。方今主上圣明，覆帔无外，仆各位宰辅，属当国重。惟华夏乖殊，方隅圯裂，六十余载，金革亟动，无年不战，暴骸丧元，困悴罔定，每用悼心，坐以待旦。将欲止戈兴仁，为百姓请命，故今命偏师，平定蜀汉，役未几年，全军独克。于时猛将谋夫，朝臣庶士，咸以奉天时之宜，就既征之军。藉吞敌之势，宜遂回旗东指，以临吴境。舟师泛江，顺流而下，陆军南辕，取径四郡，兼成都之械，漕巴汉之粟，然后以中军整旅，三方云会，未及浹辰，可使江表底平，南夏顺轨。然国朝深惟伐蜀之举，虽有静难之功，亦悼蜀民独罹其害，战于绵竹者，自元帥以下并受斩戮，伏尸蔽地，血流丹野。一之于前，犹追恨不忍，况重之于后乎？是故旋师按甲，思与南邦共全百姓之命。夫料力付势，度资量险，远考古昔废兴之理，近鉴西蜀安危之效，隆德保祚，去危即顺，屈己以宁四海者，仁哲之高致也。履危偷安，陨德履祚，而不称于后世者，非智者之所居也。今朝廷遣徐绍、孙资献书喻怀，若书御于前，必少留意，回虑革算，结欢弭兵，共为一家，惠矜吴会，施及中土，岂不泰哉！此昭心之大愿也，敢不承受。若不获命，则普天率土，期于大同，虽重干戈，固不获已也。”

卷 三

武 帝

乙酉泰始元年。

泰始二年八月，谒崇阳陵，诏以衰经行，不果。初，文帝之崩也，羊祜谓傅玄曰：



“三年之丧，虽贵遂服。自天子达而汉文除之，毁礼伤义，常以为欢。今上天纵至孝，有曾闵之性，虽夺其服而实行丧礼，丧礼实行，除服何为耶？若因此革魏之薄而守先王之法，以敦厚风俗，垂之百代，不亦美乎！”玄曰：“汉文以来，世乃浅薄，不能复行国君之丧，故因而除之数百年，一旦复古，恐难行也。”祐曰：“就不能使天下如体，且使主上遂服，不犹为善乎？”玄曰：“若主上不除而臣下除，此为但有父子，无复君臣，三纲之道亏矣。”君子曰：“傅玄知无君臣之伤教，而不知兼无父子之为重，岂不蔽惑哉！废君臣之丧，不降父子之服，故四海黎庶，莫不尽情于其亲，三纲之道，二服恒用于私室，而王者独尽废之，岂所以孝治天下乎！诗云‘犹之未远’，其傅玄之谓也。”

十二月，吴讨山贼，施但还都建业。初，望气者云荆州有王气破扬州而建业宫不利，故徙徙武昌，遣使者发民掘荆州界大臣名家冢与山冈相连者以厌之。既闻但反，自以为徙土得计也。使数百人鼓噪入建业，杀但妻子，云天子使荆州兵来破扬州贼，以厌前气。

泰始七年，吴复取交趾，初，霍弋使杨稷、毛晃等戍交趾，与之誓曰：“若贼围城，未百日而降者，家属诛；若过百日而城没者，刺史受其罪。”及吴陶璜围之，稷等日未满而粮尽，乞降于璜。璜不许，而给粮使守。吴人并谏，璜曰：“霍弋已死，无能来者，可须其粮尽，然后乃受，使彼来无罪，而我取有义，内训吾民，外怀邻国，不亦可乎！”稷、晃粮尽，救不至，乃纳之。

泰始八年，吴陆抗拔西陵，羊祜救，不及。羊祜既归，增修德信，以怀吴人。陆抗每告其边戍曰：“彼专为德，我专为暴，是不战而自服也。各保分界，无求细益而已。”于是吴、晋之间，余粮栖亩而不犯，牛马逸而入境，可宣告而取也。沔上猎，吴获晋人先伤者，皆送而相还。抗尝疾，求药于祜，祜以成合与之，曰：“此上药也，近始自作，未及服，以君疾急，故相致。”抗得而服之，诸将或谏，抗不答。孙皓闻二境交和，以诘于抗，抗曰：“夫一邑一乡，不可以无信义于人，而况大国乎？臣不如是，正足以彰其德耳，于祜无伤也。”或以祜、抗为失臣节，两讥之。习凿齿曰：夫理胜者天下之所保，信顺者万人之所宗。虽大猷既丧，义声久渝，狙诈驰于当涂，权略周乎急务，负力从横之人，臧获牧竖之智，未有不凭此以创功，舍兹而独立者也。是故晋文退舍，而原城请命；穆子围鼓，训之以力；冶夫献策，而费人斯归；乐毅缓攻，而风烈长流。观其所以服物制胜者，岂徒威力相诈而已哉！自今三家鼎足四十有余年矣，吴人不能越淮、沔而进取中国，中国不能陵长江以争利者，力均而智俾，道不足以相倾也。夫残彼而利我，未若利我而无残；振武以惧物，未若德广而民怀。匹夫犹不可以力服，而况一国乎？力服犹不如以德来，而况不制乎？是以羊祜恢大同之略，思五兵之则，齐其民人，均其施泽，振义纲以罗强吴，明兼爱以革暴俗，易生民之视听，驰不战乎江表。故能德音悦畅，而襁负云集，殊邻异哉，义让交弘，自吴之遇敌，未有若此者也。抗见国小主暴，而晋德弥昌，人积兼己之善，而已无固本之规，百姓怀严敌之德，阖境有弃主之虑，思所以镇定民心，缉宁外内，奋其危弱，抗权上国者，莫若亲行斯道，以倖其胜。使彼德靡加吾，而此善流闻，归重邦



国，弘明远风，折冲于枕席之上，校胜于帷幄之内，倾敌而不以甲兵之力，保国而不浚沟池之固，信义感于寇仇，丹怀体于先日。岂设狙诈以危贤，徇己身之私名，贪外物之重我，暗服之而不备者哉！由是论之，苟守局而保疆，一卒之所能；协数以相危，小人之近事；积诈以防物，臧获之余虑，威胜以求安，明哲之所贱。贤人君子所以拯世垂范，舍此而取彼者，其道良弘故也。

泰始九年，理邓艾，以其孙朗为郎中。时樊建为给事中，晋武帝问诸葛亮之治国，建对曰：“闻恶必改，而不矜过，赏罚之信，足感神明。”帝曰：“善哉！使我得此人以自辅，岂有今日之劳乎！”建稽首曰：“臣窃闻天下之论，皆谓邓艾见枉，陛下知而不理，此岂冯唐之所谓虽得颇、牧而不能用者乎？”帝笑曰：“吾方欲明之，卿言起我意。”于是发诏治艾焉。

泰始十年，以嵇绍为秘书丞。

王裒与济南刘兆字延世，俱以不仕显名。裒以父仪为文王所滥杀，终身不应征聘，未尝西向坐，以示不臣于晋也。

咸宁四年，羊祜卒，初，羊祜攻江陵，以军法欲斩王戎。夷甫又忿祜，言其必败，不相贵重。天下为之语曰：“二王当朝，世人莫敢称羊公之有德。”

咸宁五年，吴天纪三年夏，郭马反。先是，吴有说识者曰：“吴之败，兵起南裔，亡吴者公孙也。”皓闻之，文武职位至于卒伍有姓公孙者，皆徙于广州，不令停江边。及闻马反，大惧曰：“此天亡也。”

太康六年，刘毅卒。毅尝上疏论宜罢中正，除九品，未能改。初，陈群为吏部尚书，制九格，登用皆由于中正，考之簿世，然后授任。

太康八年，太庙殿陷，改营之。武帝改营太庙，南致荆山之木，西采华山之石，铸铜柱十二，涂以黄金，镂以百物，填以丹青，缀以珠玉，以丽之也。

惠 帝

永康七年，以王戎为司徒。是时，王夷甫为尚书令，乐广为河南尹。王夷甫、乐广俱以宅心事外，名重于时，故天下之言风流者称王、乐焉。

永宁元年，齐王冏辅政，齐王冏之方盛也，有妇人诣大司马门求寄产，吏乃诘之，妇人曰：“待我截齐罢便去耳。”言讫不见。有识者闻而恶其言，至二年，而冏被诛。

怀 帝

永嘉五年，琅琊王睿击华轶，斩之。初，刘琨知轶必败，谓其自取之也。



愍 帝

建兴三年，丞相睿加王敦都督江扬等州军，而敦潜畜异志矣。初，王夷甫言东海王越转王敦为扬州，潘滔初为太傅长史，言于太傅曰：“王处仲蜂目已露，豺声未发，今树之江外，肆其豪强之心，是贼之也。”

建兴三年，愍帝在长安，为刘粲所攻。粮尽，太仓有曲数十饼，屑之为粥，以供奉帝，曲屑尽，遂降。

康 帝

翼风仪美劭，才能丰赡，少有经纬大略。及继兄亮居方州之任，有匡维内外，扫荡群凶之志。是时杜乂，殷浩诸人，盛名冠世，翼未之贵也。常曰：“此辈宜束之高阁，俟天下清定，然后议其所仕耳。”其意气如此。唯与桓温友善，相期以宁济宇宙之事。初，翼辄发所部奴及车马万数，率大军入沔，将谋伐狄，遂次于襄阳。



南北朝杂记

〔宋〕刘敞 撰

庾 诜

齐新野庾诜，少孤，以读书自业。元象算数，皆所妙绝。武献公萧颖胄，疾笃，谓诜曰：“推某历数，当无辜否？”答曰：“镇星在襄阳，荆州自少福。明府归终于乱代，齐名伊霍，足贵子孙，有何恨哉！”公曰：“君得之矣。但昏主狂虐，人思尧舜，恨不见清廓天下，息马华山也。”歔歔而终，果如其言。颖胄，赤斧之子。

张 畅

宋张畅常奉持观音。南谗之构逆也，畅不从。王欲害之，夜梦观世音曰：“汝不可杀畅。”遂不敢害。及王败，畅系狱，诵观世音经千遍，锁寸寸断。狱司易之，复断。吏白，释之。

萧献明

齐松滋令兰陵萧献明，母患病积年。献明昼夜祈祷。时寒冻，献明下泪，凝结如箸，额上叩血，成冰不溜。忽有一人以石函授之，曰：“此能治太夫人病。”献明跪而受之。忽然不见。以函奉母，中惟三寸绢，丹书为日月字。母病即愈。

解叔谦

齐雁门解叔谦，征为朝请，不赴。母疾，叔谦夜于庭中稽顙祈福，闻空中云：“得丁公藤为酒。”便差访医，及本草，无识者。乃崎岖求访。至宜都境，遥见山中老翁伐木，问其所用。答曰：“此丁公藤，治风尤验。”叔谦再拜流涕，具款行求之意。此翁怆然，以藤与之，并示其渍酒之法。叔谦受领。此人不复知处。依法为酒，母疾便愈。



宗元卿

齐南阳宗元卿，有至行。早孤，为母所养。母病，元卿在远辄心痛，大病则大痛，小病则小痛，以此为常。乡里宗敬，率号宗曾子。

匡 昕

齐庐陵匡昕，隐金华山，服食，不与俗人交。母亡已经数日，昕奔还号叫，母便苏。孝感致也。

曾康祖

齐扶风曾康祖，母患乳痛，诸医不能疗。康祖乃跪，以两手捧乳，大悲泣。母病即愈。

斛斯丰乐

北齐高祖尝宴群臣。酒酣，各令歌乐。武卫斛斯丰乐歌曰：“朝亦饮酒醉，暮亦饮酒醉，日日饮酒醉，国计无取次。”上曰：“丰乐不谄，是好人也！”

齐明帝

齐明帝尝饮食，捉竹箸，谓卫尉应昭光曰：“卿解我用竹箸意否？”答曰：“昔夏禹衣恶，往诰流言，象箸象腴，先哲唾诫。今睿情冲素，还风反古，太平之迹，唯竹箸而已。”

甄 彬

齐有甄彬者，有器业。尝以一束苙于荆州长沙西库质钱。后赎苙，於束中得金五两，以手巾裹之。彬得金，送还西库。道人大惊，曰：“近有人以金质钱，时忽遽不记录檀越，乃能见归，恐古今未之有也。”辄以金之半仰酬，往复十餘，坚然不受。因咏曰：“五月披羊裘，负薪岂拾遗金也。”彬后为郢令，将行，辞太祖。时同列五人，上诫以廉慎。至于彬，独曰：“卿昔有还金之美，故不复以此诫也。”

高 允

后魏高允字伯恭，燕太尉中郎谡之子。早有奇度，博通经史。神嘉中，与范阳卢元、



赵郡李灵、博陵崔鉴等，以贤俊之胄，同被诏征拜中书侍郎，领著作。与崔浩同撰书，及浩遇害，以允忠直不苟，特见原有。性清俭，虽累居显贵，而志同贫贱。高宗幸其宅，惟草庐数间，布被缁袍，厨中盐菜而已。帝叹息曰：“古之清贫，岂有此乎！”赐之粟帛。

长孙道生

司空上党王长孙道生，代人。性忠谨俭素，虽为三公而居处卑陋。出镇之后，子颇加修葺。及还，叹曰：“吾为宰相，无以报国，负乘是惧。昔霍去病以匈奴未灭，无用宅为。今强寇尚游魂汉北，吾岂可安坐华美乎！”乃令毁之。时人比之晏婴焉。

李 崇

北齐顿丘李崇，陈留公诞之子。高祖时为兖州刺史。兖州比多劫盗，崇乃村置一楼，楼悬一鼓。盗发之处，槌鼓乱击，四面诸村，始闻者挝鼓一通，次闻者复挝，以为节。俄顷之间，声布百里，伏其险要，无不擒获。诸州置鼓自此始也。世宗时除扬州刺史。崇明察审奸，奸邪惮之，号曰卧虎。

范百年

宋梁州范百年，因事谒明帝。帝言次及广州贪泉，因问之曰：“卿州复有此水否？”百年答曰：“梁州惟有文川武乡，廉泉让水。”又问：“卿宅在何处？”曰：“臣居在廉让之间。”上称善。后除梁州刺史。

张 融

吴郡张融，字思光，长史畅之子，郎中纬之孙。融神明俊爽，机辩如流。尝谒太祖于太极西堂，弥时方登。上笑曰：“卿至何迟？”答曰：“自地升天，理不得速。”融为中书郎，尝叹曰：“不恨我不见古人，恨古人不见我。”融善草隶，太祖尝语曰：“卿书殊有骨力，但恨无二王法。”答曰：“非恨臣无二王法，亦恨二王无臣法。”

庾杲之

齐武帝尝谓群臣曰：“我后当何谥？”莫有对者。王俭因目庾杲之对。杲之曰：“陛下寿比南山，与日月齐明。千载之后，岂是臣之所度量。”时人称其辩答。



王 俭

齐王俭字仲宝，金紫僧绰之子，侍中昱首之孙。少孤。幼有珪璋器，四五岁与凡童有异。尝为五言诗曰：“稷契匡虞夏，伊吕翼商周。抚已愧前哲，敛衽归山丘。”故论者以宰相许之。后为吏部尚书，有客姓谭，诣俭求官。俭曰：“齐桓灭谭，那得有汝。”答曰：“谭子奔莒，所以有仆。”俭赏之。帝常幸乐游宴，群臣奏乐。帝曰：“好音乐孰与朕同？”对曰：“沐浴皇风并沾比屋，亦既在齐不知肉味。”帝称善。俭尝集才学之士，累物而丽之，谓之丽事。丽事自此始也。诸客皆穷，惟庐江何宪为胜，乃赏以五色花簾、白团扇。宪坐簾执扇，意气自得。秣陵令王潜后至，操笔便成。事既焕美，词复华丽。潜乃命左右抽簾制扇，登车而去。俭笑曰：“所谓大力负之而趋。”

周 骥

汝南周骥，隐居钟山，长斋蔬食。王俭谓之曰：“卿在山中，何所啖食？”答曰：“赤米白盐，绿葵紫蓼。”又曰：“菜何者最美？”骥曰：“春初早韭，秋暮晚菘。”骥历中书侍郎。

王 融

魏使宋弁至。敕王融兼主客郎中。融问弁曰：“秦西、冀北，实多骏骥。而彼所献，乃驽骀之不若。求名检事，殊为未知。且将信誓，有时而爽。而驷驎牧马，或未能嗣。”弁曰：“不容虚为之名，当是不习水土。”融曰：“周穆马迹遍周天下，若骐驎之性，因地而迁，则造父之策，有时而蹶。”弁曰：“卿何勤勤于千里。”融曰：“卿国既名其优劣，聊以相访。若于千里必至，圣主将驾之鼓车。”弁不能答。

李 膺

梁李膺有才辨。武帝谓之曰：“今之李膺，何如昔时李膺？”答曰：“臣以为胜。昔时李膺仕桓灵之朝，今之李膺奉唐虞之主。”众皆悦服。

商 铤

东郡商铤，名子为外臣，外臣作为廷尉评。铤入谢恩。武帝问：“卿名子外臣，何为令其入仕？”铤答曰：“外臣生于齐季，故人思匿迹。今幸遭圣代，草泽无复遗人。”上大悦。



萧 琛

武帝尝以枣掷兰陵萧琛，琛仍取栗掷帝，正中面，曰：“陛下投臣以赤心，臣敢战栗于陛下。”琛尝于御座饮酒于北使员外常侍李道固，不受，曰：“公庭无私礼，不容受卿劝。”众皆失色，恐无以酬。琛徐曰：“《诗》所谓‘雨我公田，遂及我私。’”道固乃屈伏受酒。琛历尚书左丞。

崔 光

后魏高祖名子曰恂、愉、悦、恹。崔光名子曰勔、勰、勉。高祖谓光曰：“我儿名旁皆有心，卿儿名旁皆有力。”答曰：“所谓君子劳心，小人劳力。”上大悦。

陈元康

北齐河阳陈元康，刀笔吏也。善暗书。尝雪夜太祖命作军书，顷尔数十纸，笔不暇冻。太祖喜曰：“此人何如孔子。”自此信任焉。故时人谓之语曰：“三崔两张，不如一陈元康。”三崔，暹、季舒、昂也。两张，德微、纂也。

李 谐

北齐顿丘李谐，鼓城王嶷之孙，吏部尚书平之子。少俊爽，有才辨。为黄门侍郎，除名。作《述身赋》，其略曰：独浩然而任己，同虚舟而不系。既未识其所以来，岂知其所以往。于是得丧同道，忘怀自深。遇物栖息，触地山林。虽类西浮之迹，何异东都之心。除散骑常侍，为聘梁使。至梁，遣主客范胥迎接。胥问曰：“今犹可暖，北间当少寒于此。”谐答：“地居阴阳之正，寒暑适时，不知多少。”胥曰：“所访邺下，岂是测影之地。”谐曰：“是皇居帝里，相去不远，可得统而言之。”胥曰：“洛阳既称盛美，何事迁邺？”谐曰：“不常厥邑，于兹五迁，王者无外。所在关河，复何怪？”胥曰：“殷人殷厄，故迁相圯耿。贵朝何为而迁？”谐曰：“圣人藏往知来，相时而动，何必候于隆替。”胥曰：“金陵王气，肇于先代。黄旗紫盖，本出东南。君临万邦，故宜在此。”谐曰：“帝王符命，岂得与中国比隆？紫盖黄旗，终于入洛。”胥默而无答。江南士子莫不嗟服。事毕，江浦赋诗曰：帝献二仪合，王华千里清。边笳城上响，寒月浦中明。

卢 恺

礼部尚书范阳卢恺，兼吏部，选达野客师为兰州总管。客师辞曰：“客师何罪，遣与



突厥隔墙。”恺曰：“突厥何处得有墙？”客师曰：“肉为酥，水为浆，穹庐为帐，毡为墙。”恺，中书监子刚之子也。

卢思道

武阳太守卢思道，常晓醉於省门，见从侄贲，贲曰：“阿父何处饮来，凌晨嵬峨？”思道曰：“长安酒二百价不嵬峨，何嵬峨！”贲，燕郡公景仁之子，中书侍郎景裕之犹子，位历太常卿。

王元景

王元景尝大醉。杨遵彦谓之曰：“何太低昂？”元景曰：“黍熟头低，麦熟头昂。黍麦俱有，所以低昂矣！”

阳玠

南京兆杜公瞻，卫尉台卿犹子也。尝邀阳玠过宅，酒酣，因而嘲谑。公瞻谓：“兄既姓阳，阳货实辱孔子。”玠曰：“弟既姓杜，杜伯尝射宣王。”殿内将军陇西牛子充寮友，推其机辩。尝谓玠曰：“君阳有玠，恐不任厨。”玠曰：“君牛既充，正可烹宰。”又见玠食芥菹，曰：“君身名玠，何得复啖芥菹！”对曰：“君既姓牛，何得不断牛肉！”而太令张策者，在云龙门与玠议，理屈，谏玠曰：“卿本无德量，忽共叔宝同名。”玠抗声曰：“尔既非英雄，敢与伯符连讳。”太子洗马兰陵萧诩，爽俊有才辩，尝谓玠曰：“流共工于幽州，易北恐非乐土。”玠曰：“放欢兜于崇山，江南岂是胜地。”录尚书晋昌王唐邕问诸省官曰：“卿等宜道本州宝物。”定州人以绡绮为宝，徐州人以鱼盐为宝。及至玠，邕曰：“卿幽州人，以何物为宝？”答曰：“刺史严明，文武奉法，此幽州之宝也。”邕有愧色。

薛道衡

隋吏部侍郎薛道衡，尝游钟山开善寺，谓小僧曰：“金刚何为弩目，菩萨何为低眉？”小僧答曰：“金刚弩目，所以降伏四魔。菩萨低眉，所以慈悲六道。”道衡恍然不能对。

陆瑒

后魏东平王陆俟，代人也，聪悟有才略。子馥，有父风。高崇文见而赏之，谓朝臣曰：“吾尝叹其父知过其躯，此逾于父矣。”为相州刺史，迁太仆。馥子瑒，年九岁，馥谓曰：“汝祖东平王有十二子，我为嫡长，承袭家业。吾今年老，属汝幼童，讵堪为陆氏宗



首乎？”琇对曰：“苟非斗力，何患童稚。”馥奇之，立为嫡。

萧遥欣

南齐曲江公萧遥欣，少有神采干局。为童子时，有一小儿左右弹飞鸟，未尝不应弦而下。遥欣谓之曰：“凡戏多端，何忽弹！此鸟自云中翔，何关人事。”小儿感之，终身不复从弹尔。时年十一。土庶多竞此戏，遥欣一说，旬月播之远近，闻者不复为之。

谢 庄

宋谢庄字希逸，侍中微之子，黄门思之孙。美仪容，善谈论，工书，属文，好言玄理。少为文帝所赏，帝一见之，辄叹曰：“蓝田生美玉，岂虚也哉！”庄代颜竣为吏部尚书。峻容貌严毅，常有不可犯之色。庄风姿温美，人有喧诉，常欢笑答之。故时人语曰：“颜吏部瞋而与人官，谢吏部笑而不与人官。”庄迁中书令、侍中，谥曰宪庄。家世无年五十者，庄年四十二，祖四十七，曾祖四十三，高祖三十。子朏、沦，并知名。

杨大眼

后魏杨大眼，武都氏难当之孙。少有胆气，跳走如飞。高祖南伐，李冲典选。征官，大眼求焉。冲不许，大眼曰：“尚书不见知，为尚书出一技。”便以绳长三丈，系髻而走。绳直如矢，马驰不及。见者莫不惊叹。冲曰：“千载已来，未有逸材若此者。”遂用为军主。稍迁辅国将军。王肃初归国也，谓大眼曰：“在南闻君之名，以为眼如车轮，今见乃不异人眼。”大眼曰：“若旗鼓相望，瞋眸奋发，足使君亡魂丧胆，何必大如车轮！”当代推其骁果，以为关张不过也。

谢 朓

梁高祖重陈郡谢朓诗，常曰：“不读谢诗，三日觉口臭。”

沈 约

梁奉朝请吴均，有才器，常为《剑骑诗》云：“何当见天子，画地取关西。”高祖谓曰：“天子今见，关西安在焉！”均默然无答。均又为诗曰：“秋风淅白水，雁足印黄沙。”沈隐侯约语之曰：“印黄沙语太险。”均曰：“亦见公诗，云山樱发欲然。”约曰：“我始欲然，即已印讫。”



王 勃

唐王勃每为碑颂，先磨墨数升，引被覆面而卧，忽起一笔书之，初不点窜。人谓之腹藁。

高 昂

北齐高昂，字敖曹，胆力过人，姿彩殊异。其父次同，为求严师训。昂不遵师训，专事驰骋。每言男儿当横行天下，自取富贵，谁能端坐读书，作老博士也。其父以其昂藏敖曹，故名字之。东魏末，齐神武起义，昂倾意附之，因成霸业。除侍中、司徒，兼西南道大都督。而敖曹酷好为诗，雅有情致，时人称焉。常从军，与相州刺史孙腾作《行路难》曰：“卷甲长驱不可息，六日六夜三度食。初时言作虎牢停，更被处置河桥北。回首绝望便萧条，悲来雪涕还自抑。”又有征行诗，曰：“陇种千口羊，泉连百壶酒。朝朝围山猎，夜夜迎新妇。”顷之，其弟季式为齐州刺史，敖曹发驿。以劝酒，乃赠诗曰：“怜君忆君停欲死，天上人间无可比。走马海边射游鹿，偏坐石上弹鸣雉。昔时方伯愿三公，今日司徒羨刺史。”余篇甚多，此不复载。

刘献之

后魏刘献之，少好学，尤精诗传。泛观子史，见名法之言，掩卷而笑，曰：“若使杨墨之流不为此书，千载谁知少也。”又谓所亲曰：“观屈原离骚之作，自是狂人，死何足惜！”时人有从之学者，献之曰：“立身虽百行殊途，准之四科，要以德行为首。子若能入孝出悌，忠信仁让，不待出户，天下自知。倘不能然，虽复下帷针股，蹶履从师，止可博闻强识，不过为土龙乞雨，眩惑将来。其于立身之道，何益乎！孔门之徒，初亦未悟。见吾丘之叹，方乃归而养亲。呜呼！先达之人，何自觉之晚也！”由是四方学者慕之。叹曰：“吾不如庄周、穆容远矣！”因以疾辞。

卢景裕

范阳卢景裕，太常静之子，司空同之犹子。少好简默，驰骋经史，守道恭素，不以荣利居心。时号居士焉。初，头生一丛白毛，数之四十九茎。故偏好老、易，为注解至四十九而卒。小字白头，性端谨，虽在暗室，必矜庄自持。盛暑之月，初不露袒。妻子相对，有若严宾。历位中书侍郎。



沈 约

梁琅瑯王筠，幼而清颖，文采逸艳，为沈约所赏。及沈为尚书令，筠为郎。谓筠曰：“仆昔与王、谢诸贤为文会之赏，自零落以来，朽疾相继，平生玩好，殆欲都绝。而一文一咏，此事不衰。不意疲暮复遇盛德。昔伯喈见王仲宣，叹曰：‘此王公之孙，吾家书籍万卷，必当相与。’仆虽不敏，请慕斯言。”每商榷书史，评阅篇章，毕夜阑景，以为得志之赏。筠历位司徒左长史、度支尚书。

孔稚圭

齐会稽孔稚圭，光禄灵产之子，侍中道隆之孙，张融之内弟。稚圭富学，与陆慧晓、谢朓为君子之交。圭不乐世务，宅中草没人，南有山池，春日蛙鸣。仆射王晏尝鸣笳鼓造之，闻群蛙鸣。晏曰：“此殊聒人耳！”答曰：“我听卿鼓吹，殆不及此。”晏有愧色。历位太子詹事。赠光禄大夫。

李元诚

北齐赵郡李元诚，钜鹿贞公恢之孙，钜鹿简公灵之曾孙。性故诞，不好世务，以饮酒为务。为太常卿，太祖欲以为仆射，而疑其多酒。子骥谏之，元诚曰：“我言作仆射不如饮酒乐耳！爱仆射宜勿饮酒。”行台尚书司马子如及孙腾，尝诣元诚。其庭宇芜旷，环堵积圯。在树下以被自拥，独对一壶，陶然乐矣。因见其妻，衣不曳地。撤所坐布褥质酒肉以尽欢意焉。二公嗟叹，各置饔饩，受之而不辞，散之亲故。元诚一名元忠，拜仪同，领卫尉，封晋阳公。卒，赠司徒，谥曰文宣。

陶宏景

丹阳陶宏景，幼而慧，博通经史。睹葛洪《神仙传》，便有志于养生。每言仰视青云白日，不以为远。初为宜都王侍读，后迁奉朝请。永平中，谢职隐茅山。山是金陵洞穴，周回一百五十里，名曰华阳洞天。有三茅司命之府，故时号茅山。由是自称华阳，隐居人间。书疏皆以此代名，亦士安之元晏，稚川之抱朴也。雅爱林泉，尤好著述。缙绅士庶，裹道服膺，承流向风，千里而至。先生尝曰：“我读外书，未满万卷。以内书兼之，乃当小出耳。”齐高祖问之曰：“山中何所有？”宏景赋诗以答之，词曰：“山中何所有？岭上多白云。只可自怡悦，不堪持寄君。”高祖赏之。



王僧虔

琅琊王僧虔，博通经史，兼善草隶。太祖谓虔曰：“我书何如卿？”曰：“臣正书第一，草书第三。陛下草书第二，正书第三。臣无第二，陛下无第一。”上大笑着曰：“卿善为词也。然天下有道丘，不与易也。”虔历左仆射、尚书令，谥简穆公。僧虔长子慈，年七岁，外祖江夏王刘义恭迎之人中斋施，设宝物恣其所取。慈惟取素琴一张、孝子图而已。年十岁，共时辈蔡约入寺礼佛。正见沙门等忏悔，约戏之曰：“众僧今日何乾乾。”慈应声答曰：“卿如此不知礼，何以兴蔡氏之宗。”约，兴宗之子也。谢超宗见慈学书，谓之曰：“卿书何如虔公？”答云：“慈书与大人，如鸡之比凤。”超宗，凤之子。慈，历侍中，赠太常卿。约，历太子詹事。

萧 特

海盐令兰陵萧特，善草隶。高祖赏之，曰：“子敬之书不如逸少，萧特之迹遂过其父。”

徐文伯

宋徐文伯尝与宋少帝出乐游苑门，逢妇人有娠。帝亦善诊候，诊之曰：“是女也。”问文伯，文伯曰：“一男一女，男在左边，青黑色，形小于女。”帝性急，令剖之。文伯恻然曰：“臣请针之必落。”便针足太阴，补手阳明，胎应针而落，果效如言。文伯有学行，不屈公卿，不以医自业，为张融所善。历位泰山太守。文伯祖熙，好黄老，隐于秦望山。有道士过，乞饮。留一葫芦子，曰：“君子孙宜以此道术救世，当得二千石。”熙开视之，乃扁鹊《医经》一卷。因精学之，遂名振海内。仕至濮阳太守。子秋夫为射阳令，尝有鬼呻吟，声甚凄苦。秋夫问曰：“汝是鬼也，何所须？”鬼曰：“我姓斛斯，家在东阳，患腰痛而死。虽为鬼，疼痛犹不可忍。闻君善术，愿见救济。”秋夫曰：“汝是鬼，无形，云何措治？”鬼曰：“君但缚当作人，按孔定针之。”秋夫如其言，为针四处，又针肩胛三处，设祭而埋之。明日，见一人来谢曰：“蒙君疗疾，复为设祭，除饥解疾，感惠实多。”忽然不见。当代服其通灵。又宋明帝宫人患腰疼牵心，发即气绝。众医以为肉症。徐文伯视之，曰：“此发痼也。”以油灌之，则吐物如发。稍稍引之，长三尺，头已成蛇，能动。悬柱上，水滴尽，一发而已。病即愈。

羊元保

宋文帝善奕棋，尝与太平羊元保棋。元保戏赌，得宣城太守。当敕除，以为虚受。



孙伯翳

齐太原孙伯翳，家贫，常映雪读书，放情物外，栖志丘壑。与王令君亮、范将军云为莫逆之交。王范既相二朝，欲以吏职相处。伯翳曰：“人生百年，有如风烛。宜怡神养性，琴酒寄情，安能栖栖役役！若此，嵇康所以不堪，予亦未能也。”

湘东王绎

梁湘东王绎，博览群书，才辨冠世，不好声色，爱重名贤。与河东裴子野、兰陵萧子云为布衣之交。

张融

宋张融尝乞假。还，帝问所居。答曰：“臣陆居非屋，舟居非水。”上未解，问张绪。绪曰：“融近东下，未有居止。权牵小船上岸，住在其间。”上大笑。太祖尝面许融为司徒长史，敕竟不出。融乘一马甚瘦，太祖曰：“卿马何瘦，给粟多少？”融曰：“日给一石。”帝曰：“何瘦如此？”融曰：“臣许而不与。”明日即除司徒长史。融与弟宝积俱谒太祖，融于御前放气。宝积起谢曰：“臣兄触忤宸扆。”上笑而不问。须臾食至，融排宝积不与众食。上曰：“何不与众弟同食？”融曰：“臣不能与谢气之口同盘。”上大笑。

何承天

宋东海何承天，徐广之甥也。除著作佐郎，年已迈。诸佐郎并名家少年，颍川荀伯子嘲之，尝呼为姝母。承天曰：“卿当知凤凰将九子，姝母何言耶！”

刘绘

齐刘绘为南康郡，郡人邹类所居名秽里。绘戏之曰：“君有何秽，而居秽里？”答曰：“未审孔某何阙，而居阙里。”绘叹其辞答。

徐孝嗣

齐仆射东海徐孝嗣，修辑高座寺，多在彼宴息。时法云师在萧寺，日夕各游。二寺邻接，而不相往来。孝嗣尝谓法云曰：“法师常在高座，而不游高座寺。”答曰：“檀越既事萧门，何不至萧寺！”



沈文季

齐太祖之为齐王也，置酒为乐。清河崔思侍宴，谓侍中沈文季曰：“羹脍为南北所推。”文季答曰：“羹脍中乃是吴食，非卿所知。”思祖曰：“羹脍脍鲤，似非句吴之诗。”文季曰：“千里莼羹，岂关鲁卫之士。”帝称美，曰：“莼羹颇须归沈。”

沈昭略

齐黄门郎吴兴沈昭略，侍中文叔之子。性狂俊，使酒任气，朝士常惮而容之。尝醉，负杖至芜湖，遇琅琊王约，张目视之，曰：“汝王约耶？何肥而痴。”约曰：“汝是沈昭略耶？何瘦而狂。昭略抚掌大笑，曰：“瘦已胜肥，狂又胜痴。”约，景文之子。

胡谐之

齐豫章胡谐之，初为江州治中。太祖委任之，以其家人语俚语，音不正，乃遣宫内数人至谐之家，教其子女。二年，上问谐之：“卿家语音正未？”答曰：“宫人少，巨家人多。非惟不能正音，遂使官人顿俚语。”上大笑，遣向朝臣说之。谐之，历位度支尚书，豫州刺史。

梁武

梁高祖尝作五字叠韵，曰：“后牖有榴柳。”会朝士并作。刘孝绰曰：梁王长康强。沈约曰：偏眠船舷边。庾肩吾曰：载吴每碍埭。徐摘曰：臣昨祭禹庙，残六斛熟鹿肉。何逊用曹瞞故事，曰：叹苏姑枯卢。吴均沈思良久，竟无所言。高祖愀然不悦。俄有诏曰：“吴均不均，何逊不逊，宜付廷尉。”

徐摘

梁侍中东海徐摘，散骑常侍超之子也。博学多才，好为新变，不拘旧体。常体一人病痢，曰：“朱血夜流，黄脓昼泻，斜看紫肺，正视红肝。”又曰：“户上悬帘，明知是箔。鱼游畏网，判是见罟。”又曰：“状非快马，蹄脚相连。席异儒生，带经长卧。”摘子陵，通直散骑常侍，聘魏。魏主客魏收曰：“今日之热，当由徐常侍来。”陵答曰：“昔王萧至此，为魏始制礼仪。今我来聘，使卿复知寒暑。”收不能对。



徐陵

北齐使来聘梁，访东海徐陵春秋。陵曰：“小如来五岁，大孔子三年。”谓七十五也。

李谐

梁陆晏子聘魏，魏遣李谐郊劳。过朝歌城，晏子曰：“殷之馀人，正应在此。”谐曰：“永嘉南渡，尽在江外。”

周捨

梁汝南周捨，少好学，有才辩。顾谐被使高丽，以海路艰，问于捨。捨曰：“昼则拔日而行，夜则考星而泊。海大便是安流，从风不足为远。”河东裴子野在宴筵，谓宾僚曰：“后事未尝姜食。”捨曰：“孔称不彻，裴曰未尝。”一座皆笑。捨学通内外，兼有口才。谓沙门法云师曰：“孔子不饮盗泉之水，师何以捉鑪石香炉。”答曰：“檀越既能戴纛，贫道何不为不执鑪？”

穆子客

魏使穆子客聘梁，主客范胥谓之曰：“卿名子客，思归之传何其太速！”客曰：“吾名子客者，所以将命四方，礼成告返，那得言速。”

僧重公

魏使主客郎李恕聘梁，沙门重公接恕曰：“向来全无菹□□□。”恕父名谐，以为犯讳，曰：“短发粗疏。”重公曰：“贫道如发，□□门种类，以君交聘二国，不辨朕谐。”重公尝谒高祖，问曰：“□子闻在外有四声，何者为是？”重公应声答曰：“天保寺刹。”既出，逢刘孝绰，说以为能。绰曰：“何如道天子万福。”

陆义

北齐散骑常侍河南陆义，黄门郎印之子也。印字云驹，而又患风，多所遗忘。尝与人马，曰云驹。有神符者，尝带符与人渡漳水。至，失符。又笑曰：“刘君渡水失神符。”其人答曰：“陆义名马作云驹。”



刑子才

北齐中书侍郎河东裴裘。裘字敬宪，患耳。新构山池，与宾客宴集，谓河间邢子才曰：“山池始就，愿为一名。”子才曰：“海中有蓬莱山，仙人之所居，宜名蓬莱。”蓬莱，裴聋也。故以戏之。敬宪初不悟，于后始觉，忻然谓子才曰：“长忌反户，高则无害。公但大语，裘亦何嫌。”

北齐王晞

齐北海王晞，字叔朗，为大丞相府司马。尝共相府祭酒卢思道楔饮晋湖，晞赋诗曰：“日暮应归去，鱼鸟见留连。”时有中使召晞，驰马而去。明旦，思道问晞：“昨被召以朱颜，得无以鱼鸟致责？”晞曰：“昨晚陶然，颇以酒浆被责。卿等亦是留连之一物，何独鱼鸟而已！”晞好文酒，乐山水，府寮呼为方外司马焉。及孝昭立，待遇弥隆，而晞每自疏，退谓人曰：“非不爱热官，但思之烂熟耳！”

李驹骅

陈使聘齐，见朝廷有赤鬣者，顾谓散骑常侍赵郡李驹骅曰：“亦也何如？”驹骅曰：“束带立于朝，可使与宾客言。”驹骅时接客。

卢思道

北齐卢思道聘陈，陈主令朝贵设酒食与思道宴会，联句作诗。有一人先唱，方便讥刺北人，云：“榆生欲饱汉，草长正肥驴。”为北人食榆，兼吴地无驴，故有此句。思道援笔即续之，曰：“共甌分炊水，同铛各煮鱼。”为南人无情义，同饮异饌也，故思道有此句。吴人甚愧之。又卫尉卿京兆杜台卿，共中兵参军清河崔儵握麈，曰：“十子成都，止赌一雉。”卢思道曰：“翳成都不过一雉。”儵又谓思道曰：“昨夜大雷，吾睡不觉。”思道曰：“如此震雷，不能动蛰。”太子詹事范阳卢叔虎，有子十人，大者字畜生，最有才思。思道谓人曰：“从叔有十子，皆不及畜生。”叔虎，主客郎中泽之孙也。散骑常侍陇西辛德源谓思道曰：“昨作羌姬诗，惟得五字，云卓陂垂肩并，苦无其对。”思道寻声曰：“何不道黄物插脑门。”思道常谓通直郎渤海封孝骞曰：“卿既姓封，是封豕之后。”骞应声曰：“公既姓卢，是卢令之裔。”

徐之才

齐西阳王高平徐之才，博识有口辩。父雄，祖成伯，并善术，世传其业。纳言祖孝徵



戏之，呼为师公。之才曰：“既为汝师，复为汝公，在三之义，须居其雨。”孝微，仆射莹之子。之才尝以剧谈调仆射魏收，收熟视之，曰：“面似小方相。”之才答曰：“若尔便是卿之葬具。”

陆 操

隋屯兵尚书河间陆操，无姿貌，有口辩。尝新婚，太子少保赵郡李□谓之曰：“屡逢射雉，几度启颜。”操曰：“息妨二子，不言不笑。”

薛道衡

隋前内史侍郎薛道衡，以醴和麦，粥食之。谓卢思道曰：“礼之用和为贵，先王之道斯为美。”思道答曰：“知和而和，不以礼节之，亦不可行也。”

高 爽

高爽，辩博多才。时刘蒨为晋陵令，爽经途诣之，了不相接，爽甚衔之。俄而爽代蒨为县，蒨追迎，赠遗甚厚，悉受之。答书云：“高晋陵自答。”或问其故，曰：“刘蒨迎晋陵令耳，何关爽事。”稍迁国子助教。孙挹为兰陵县，爽又诣之，挹了无故人之怀。爽出，从阁下过，取笔题数面云：“身有八尺围，腹无一寸肠，面皮如许厚，被打未遽央。”挹体肥壮，腰带十围，故以此激之。

刘 祥

东莞刘祥，恃才傲物。尝谓一驴曰：“汝努力。如汝辈，已为人仆矣！”复作连珠，讥讽朝廷。寻被诛。

宋幼帝

明帝崩，昱嗣位，是为幼帝。狂暴，恣行诛戮，出入无度。从者并执铤矛锥锯自随。有忤意，击脑椎阴，刺心剖腹之诛，日有数十。孝武帝二十八子，明帝杀其十六，余皆帝杀之。子孙无在朝者。

高 洋

北齐高洋，以光武中兴，为诛刘氏不尽。於是大诛诸元，死者千馀，弃之漳水。有捕



鱼者得爪甲，为之元郎，渔人不忍食之。唯元峦、元长春、元景安三家免诛。峦以其女为常山王妃，春、安等以其多力得射故也。景安兄景皓曰：“宁为玉碎，不作瓦全。”景安奏其言，帝复杀之。自是元氏子孙，老幼贵贱无遗矣。

罗织人

周来俊臣，罗织人罪，皆先进状，敕依奏，即籍没。徐有功出死囚，亦先进状，某人罪合免，敕依然后断雪。有功好出罪，皆先奉进止，非是自专。张汤探人主之情，盖为此也。

徐孝嗣

徐孝嗣字始昌，曾在率府，昼卧北壁下。梦两童子，遽云：“移公床。”孝嗣惊起，壁有声，行数步而壁倒压床。

萧惠达

北齐平原太守兰陵萧惠达，腰带为鼠啮。杨遵彦以俗事戏之，曰：“当迁官。”未几，除家令。寻失职，鼠复啮其靴。遵彦曰：“当复得官职。”惠达曰：“鼠便为吏部尚书，何关人事。”

北齐后主

北齐后主武平中，朔州府门无故有小儿脚迹。及掘土，为城雉之状。察之，乃狐媚。是岁安南正起兵于北朔。



五代新说

〔唐〕徐炫 撰

原 序

余咸亨之始著作东观，以三餘之暇，阅五代之书。后与好事者谈，或以叙存录目，余掇管随记疏之，因而詮次，遂加题目，名曰五代新说，三十篇，分为两卷。

梁高祖武皇帝（姓萧，讳衍，字叔達），初为雍州刺史，举义兵。齐东昏侯立和帝，封梁王。受齐禅。魏叛臣侯景来降，以为河南王，领寿阳。景与弟犹子临贺王正德。及围台城，城陷，孙永安侯入见帝。帝曰：“可一战否？”曰：“不可。”叹曰：“得既自我，失亦在命，不豫子孙，夫复何恨！”景幽帝于宴居殿，绝膳而崩。立太子为简文帝（讳纳，字世縡）。景幽帝于永福省。少帝引笔自叙曰：“有梁王兰陵萧纲，立身行己，终始如一。风雨如晦，鸡鸣不已。数至于此，命也何如。”作五言诗曰：“天道何茫昧，方途那可相。风飞蓬鸟弋，龙行会鱼网。”又曰：“宝剑还藏狱，神龙逐陆居。有意聊思勿，无情堪著书。”景燕帝，帝知不免，因大酣醉。后以土囊加之而崩。景立豫章王栋为太子，俄而篡位。湘东王命太守王僧辨、司空陈霸先击景，破之。诛景，即位为元皇帝，都荊州。魏军围城，帝登城楼观战，为诗曰：“落星依远戍，斜月半平林。徵兵资琰玉，垒鼓□□金，单騣投百米，芳饵下千寻。从军所以□，□王有赤心。”俄而城陷，被杀。将奔，为诗曰：“长夜无岁月，安知秋与春。原陵五杏树，空得动耕人。”又曰：“南风且绝唱，西陵最可悲。今日还嵩里，终非封禅时。”太尉与司空定议，以帝第九子承制，迎还京师，为皇太子。太尉与北齐通好，司空惧其有变，袭杀之。太子是为敬帝（讳方智，小字法真）。帝即位，封司空为陈王。陈王受禅，以弟为江阴王。

陈高祖武皇帝（姓陈，讳霸先）。即位三年，崩。兄子临川王嗣位，是为文帝（讳旧，字子华）。七年，崩。是为废帝（讳绍宗）。二年，废。文帝弟安成王立，是为先帝（讳赞）。十四年，崩。太子立，是为后主（讳叔宝）。六年，隋灭陈，以后主饭，封长城王。



后主惑于张贵妃，常居内游宴，不关政事。故隋师至而莫察。济江陵诗曰：故乡一水隔，风烟两岸通。望极青波里，思尽白云中。

北齐高祖神武皇帝（姓高，讳欢，字贺六浑，渤海人）归魏，拜晋州刺史，进渤海王，位相国。崩。赠齐王，谥献武。嫡子嗣位，是为文襄帝。文襄帝立，追尊高祖为神武皇帝。文襄帝（讳澄，字子惠）嗣位，进位相国。齐王将受禅，为食奴兰荆因进毒食，次崩。谥文襄。太原公嗣位，是为文宣。文宣进位，追尊曰文襄皇帝。显祖皇帝（讳洋，字子进）嗣位相国、齐王，受魏禅。十年，崩。太子立，是为废帝（讳殷，字正道）。即位，从父常山王废帝自立，是为昭帝（讳演，字延安）。一年，崩。微弟长广王立，是为武成帝（讳湛）。四年，传位太子，自称太上皇帝。崩。太子立，是为后主（讳纬，字仁纲）。十二年，周灭齐，以后主归长安，封温公。为诗曰：

龙楼绝行迹，凤阙永无因。独知明夜月，遥想邠城人。

周太祖文皇帝（姓宇文，讳泰，字黑獭），魏进位太师。崩。谥曰文公。嫡子嗣位，是为闵帝，后追尊为文帝。闵帝（讳觉，字陀罗尼）。嗣位大冢宰，封周。寻受魏禅。依周制摄天王。先帝犹子为冢宰（名护，即晋阳公），执政。以帝受禅。至是，废帝，立帝兄宁都公为天王，是为明帝（讳毓，字法突）。三年，冢宰鸩帝，崩。立帝弟鲁公，是为武帝（讳邕，字妙罗突）。诛冢宰。十八年，崩。太子立，是为宣帝（讳赟，字乾伯），称天元皇帝。二年，崩。太子立，是为静帝（讳衍）。以清公辅政，进为清王。二年，禅位隋王。

隋高祖文皇帝（姓杨，名坚，本姓普六茹氏），受周禅。二十四年，崩。太子立，是为炀帝（讳广，小字阿陵）。十二年，幸江都。字文化及弑帝于温室。大唐平江南，谥曰炀。

梁武帝两髀骈骨，项上隆起，右手有文曰武。帝所居之室，常有云气。人或遇者，体辄肃然。梁元帝背有黑子，相者曰：“此大贵之兆也。”

梁武帝张太后忽见庭前菖蒲花，左右无见者。取吞之而孕焉。

齐神武少时，梦履众星而行。曾与同志数人猎于迴泽，泽中茅屋有犬出，噬杀鹰。帝射犬。有三人出，将辱帝。有老母，两目盲，匍匐而出，曰：“何敢与太家争！”三子乃止。母言善相暗相。诸人皆云：“卿相而已。”至帝，曰：“贵不可道。”去数百步，还顾，无所见。齐文宣帝鳞身鱼腮，曾见天开。晋阳有沙门，乍愚乍智，呼为阿秃师。帝与诸童



儿见之，历问禄位。至帝，无言，而指天。

周文帝母王氏孕，梦抱子升天，才上至天而坠。故帝未受禅而崩。背有黑子，宛转若龙覆之形。手垂过膝，而有紫光。陈武帝初梦天开数丈，有四朱衣人捧日令上吞之。及觉，腹中犹热。

隋文帝生于冯翊般若寺。有尼曰：“此儿所从来甚异，不可以俗间处之。”乃自抚养。皇妣曾见帝头生角，身有鳞。起，骇而堕地。尼自外至，曰：“已惊我儿。”帝额有五柱入项，目光外射，有文在手曰王。

梁太子在，率更徐公猜侍太子。侯景入永福省，众皆奔散。猜巍然曰：“侯公当以礼见，何得如此！”景乃下拜。梁吴兴太守张公，乘侯景使人说之，乃斩之。连击景，景益兵攻城。城陷，戎服坐厅事，临之以刃，终不为屈而死。

梁沈中丞俊见侯景，景怒，横刃于膝，瞋目叱之。俊正色谓景曰：“举兵向阙，赦过结盟，血未乾而又翻背。死生有命，岂畏逆臣之刀乎！”不顾而去。景后竟杀之。

北齐东雍州刺史傅公复，周武帝破齐，遣其子招慰之。答曰：“此儿为臣不忠，为子不孝，愿斩之号令天下。”及至，高河郡公问至尊所在。曰：“已被执入周公。”乃大哭，入厅事，前，北面哀号。然后出降。周帝执其手曰：“朕平齐，惟见公一人。”

梁袁光禄昂，母忧，将柩过江，而遇风骇。乃缚衣着柩，誓同沉溺。余舟皆沉，唯独获全。梁孔金紫体源至孝，每见父手所写，必哀恸流涕。梁刘洗马邑，七岁时，见诸州即泣。母以其畏惧，怒之。答曰：“儿早孤，不及识父。闻诸州相似，以故中悲。”因而歔歔，母亦悲恸。

梁陶黄门季直，五岁丧母。母在时，染衣于外。后赎归，抱之号泣。闻者酸感。

北齐赵郡公高献，生三旬而失父。及数岁，读《孝经》至资于事父，则流泣。及丧母，举声则绝，遂长斋骨立。

周幽公文广，患疾经年。母李氏亦以成疾而歿。公居丧，委愒而终。时为谏：母为子殂，子为母死，孝慈之道，极于一门。



北齐李中散岳弟庶为临漳令，以讼魏吏不平，文宣帝怒，杖之三百，死临漳狱中。中散痛之，终身不经临漳。居弟丧，不许婢入室，而令妻伴弟妻袁氏。

北齐王侍中琳，败于寿春，为陈所杀。故吏仓曹朱瑒与陈徐仆射书，曰：“庶孤坟既筑，或非负王之燕。丰碑式树，时留堕泪之人。不使寿春城下，唯传报葛之夫，沧洲岛上，独有悲田之客。”徐义之，领琳首葬之于八公山侧。

北齐王侍中纥侍宴，文宣帝饮酒，曰：“快哉，大乐！”侍中曰：“亦有大苦。”帝云：“何？”曰：“长夜荒饮，亡国灭身，所谓大苦。”帝默然。

隋大将军贺公若弼，会突厥来，赐射，一发中的。文帝曰：“非弼，无能当之。”命公，公拜而祝曰：“若赤心奉国，当一发破之。如其不然，发不中也。”一发破的，帝不悦，曰：“此天赐我也。”

陈博士长议，论议温雅。后主于东宫造玉柄麈尾。初成，曰：“虽多士如林，堪捉者，独长议耳！”便以授之。令讲老庄文于钟山开善寺。命讲，索麈尾。麈尾未至。敕取松枝以属议，曰：“可代麈尾。”即后之一故事耳。

隋二刘生（大刘名焯，河间人；小刘名炫，信都人），结盟为友，好学不倦。虽衣食不继，澹如也。著《五经义疏》，诸论古今滞义，前贤不通者，大刘生皆明之。明人伏其精博。小刘亦亚之，故称二刘。

陈徐仆射陵，文变旧体，多有新意，九锡尤美，为一代文宗。初使于齐，齐人留之。致书杨仆射信曰：“晨看旅历，心起江淮，昏望牵中，情驰杨越。朝千悲而掩□，□□□而回肠。向必走赵魏之黄尘，加幽并之白骨，遂使东平拱树，长怀向汉之悲，西路孤坟，恒表乡思之梦。”仆射言而得还。

隋国子房博士时远，炀帝曾问：“天子有女，乐否？”朝臣不对。远乃进曰：“窈窕淑女，钟鼓乐之。此即王者房中乐，著于雅颂。”帝悦。

梁王丹阳昕，侍宴，高祖问曰：“朕有无？”答曰：“陛下应万物为有，体至理为无。”上称善。

梁柳吴兴恽，少时，高祖问：“读何书？”答曰：“《尚书》。”又问：“有何美句？”应曰：“德惟善政，政在养民。”高祖称善，诏尚公主。

周韩大将军梁，有勇略。破稽胡，胡惮其劲捷，号为著翅人。太祖曰：“著翅之名，



宁减飞将？”

周蔡少保祐，与齐转战。齐人有厚衣长刀者，直进。其十步一发，殪之，后有战，被明光甲，所向无敌。齐人谓之铠虎。

隋右屯卫麦将军铁杖，初在陈，以骁勇闻。日行百□里，走及奔马。以为盗，被俘，为官户，配执金。每罢朝，往南随州行劫，明旦及牙阵。帝知而不罪。入隋，屡有军功。及征辽，谓医人曰：“丈夫性命，自有所在。岂能艾叶灸颈，瓜蒂喷鼻，疗黄不差死儿女手乎？”遂死于辽东。

北齐将军彭乐，从神武帝与周文帝战于沙苑。入深被刺，肠出不尽，截去复战。

隋折冲郎将沈光，被仕陈，入隋。骁捷绝伦。禅定寺幡竿高十丈，适悬绝断非力所及。光日衔绳拍竿而上，直至龙头。系绳毕，手足皆叉，透空而下，以掌抠地，倒行十数步。观者惊骇。征辽东，上冲梯十五丈。城上竞系之而坠。未及地，得过垂绠，接而复上者数四。帝召下，大悦，即为折冲都尉。

梁左率侃，有客失火，烧十馀物，并金宝。闻之，初不佳意。客惧走，追而慰之。

北齐兰陵王长恭，朝退而出。仆从尽散，惟有一人与之独还，无所质问。

梁昭明太子统，性爱山水。游圃汎舟，数请奏女乐，久而不答，徐而咏大中诗曰：何必丝与竹，山水有清音。惭而止。

梁徐仆射勉，曾有乘夜求官，正色曰：“今夕正好谈风月，不宜及公事也。”

梁江会稽革，代还，唯乘一舸，偏欹不得安卧。或曰：“舸偏济险，宜以重物均之。”既无物，及于西陵岸，取石十馀段以实之。

隋房司隶彦谦，清介。曾谓其子曰：“人人皆以禄富，我独以官贫。所遗子孙，在于清白。”

梁吏部郎奉，幼时祖母集诸孙，散枣栗于床上，皆争之，而独不取。问之，答曰：“不敢自取，当待赐。”中表异之。



周綏德陆公通，祿散之亲故，家无餘財。常曰：“凡人患贫而不贵，不患贵而贫也。”

梁陶黄门季直，叹曰：“仕至三千石，始愿毕矣，无为久预人间事。”病归。

陈孔晋陵英，单舸临郡，俸祿恤孤。郡中大悦，号曰神君。

隋齐周赵别驾轨，代还。父老泣曰：“公清若水，请酌一杯奉饯。”受而饮之。

北齐陆法和，初隐于江陵。及侯景反，将任约攻江陵。梁元帝时镇江陵，令兵随法和拒之。至赤沙湖，法和介胄，沿流而下。乃曰：“彼龙正睡，吾军之龙甚跃。”即命攻之，约大败，逃窜，不知其处。法和曰：“吾先于此洲建一刹，虽名为刹，其实贼标。当往取之。”约果抱刹仰头出鼻。就而擒之。

侯景既破蜀贼，当至，俄而武陵王起兵于襄阳。城北大树下掘得一龟，长尺半。以杖叩之，曰：“汝出入不能已数百年。不逢我者，岂见天日！”后文帝疑其为人，遂还京，白垩涂门，著粗布衣，大绳束腰，危坐终日。天保中归国。死后屋壁破落，其下有书，曰：“十年天子为尚可，百日天子急如火，周年天子递代坐。”又曰：“一母生三天，两天共五年。”说者谓娄太后生文宣帝、昭帝、武陵帝。文宣十年，其子废帝百日，昭帝一年。武陵传位后主，共五年焉。

隋安平公宇文恺，迁东西两都，皆云经始。以炀帝北巡，欲夸戎狄，作观风殿。殿上容侍卫数百人，离合为之，施轮轴推移，忽若神功。戎狄见之莫不惊骇。炀帝大悦。

梁曹江州景宗，乘车按部。谓左右曰：“我昔在乡里，骑马快如龙，拓弓劈历声，箭如饿鸡叫。平泽逐鹿，耳后生风，鼻头出火，不知老之将至。今来作贵人，闭置车中，如三日新妇，悒悒使人无气。”

梁陶隐居弘景，少时得葛洪神仙传，尽夜研寻，便有养生之志。谓人曰：“仰青天见白日，不觉为远。”遂居句容之句曲山，云是第八洞天，名金陵华阳之天。自号华阳隐居。性爱松风，每闻其响，欣然为乐。先，隐居母梦青龙自怀而出，并见两天人执香炉诣之。已而娠，生隐居，遂贞隐。与齐宜都王善，王被诛，梦来告别。因访幽中事，遂著梦记。

陈徐仆射陵母臧氏，梦五色云化作凤，集在肩。已而诞之。实志师摩其顶曰天上石麒麟也。及长，才学过人，目有青睛，时人以为聪明之相。



沈麟士幼俊敏，七岁听叔父岳言玄，宾散，言无所遗。岳拊其背曰：“斯文不坠，其在尔乎！”张永为吴兴守，请麟士入郡。沈闻郡后有佳山水，乃往。停数月。



十六国春秋别本

〔北魏〕崔鸿 撰

卷一 前赵录

刘 渊

刘渊字元海，新兴匈奴人。其先夏后氏之苗裔，曰淳维，世居北狄。千有余岁至冒顿，袭破东胡，西走月氏，服丁零，内侵燕代，控弦四十万。汉祖患之，使刘敬奉公主以妻冒顿，约为兄弟，故子孙遂冒姓为刘氏。建武初，人居西河美稷。后汉中平中，单于羌渠使子于扶罗将兵助汉讨平黄巾，会羌渠为国人所杀，于扶罗以其众留汉，自立为单于。属董卓之乱，寇掠太原、河东，屯于河内。于扶罗死，弟呼厨泉立，以于扶罗子豹为左贤王，即元海之父也。魏武分其众为五部，以左贤王豹为左部帅，其余部师皆以刘氏为之。太康中，改置都尉，虽分属五部，皆家于晋阳汾涧之滨。豹妻呼延氏，魏嘉平中祈子于龙门，有一白鱼，顶有二角，轩髻跃鳞，而至祭所，久之乃去。巫覡皆异之，曰：“此嘉祥也。”其夜梦所见鱼变为人，左手把一物，大如鸡子，光景非常，授呼延氏，曰：“此是日精，服之生贵子。”寤以告豹。豹曰：“吉征也。”自是十五月而生渊。渊生左手有文曰：“渊海。”遂以为名。幼而好学，不舍昼夜。尝谓同门生朱纪、范隆等曰：“吾每观书传，常鄙随、陆之无武，绛、灌之无文。一物之不知，固君子耻之也。二生遇高皇，不能建封侯之业；两公属太宗，不能开庠序之美。惜哉！”于是文学、武事并皆妙绝。猿臂善射，膂力过人，身八尺四寸，须长三尺余，当心有赤毫毛三根，长三尺六寸。太原王浑虚襟友之，命子济拜焉。咸熙中，为侍子在洛阳，晋文帝深待之，时东莱王弥等皆凭结。浑又屡言之武帝，帝召见与言，大悦之。后谓王济曰：“刘元海容貌风仪，机谈鉴智，虽金日磾无以加也。会父豹卒，帝以渊代为左部帅，转宁朔将军，监五部军事。

大安中，惠帝失政，诸王迭相残废，州郡奸豪所在蜂起。从祖北部都尉左贤王刘宣等议曰：“今司马氏骨肉相残，兴复在此时矣。左贤王渊，姿器绝人，干宇超世。天若不恢



崇单于，终不虚生此人也。”于是共推刘渊为大单于。刘渊曰：“当为崇罔峻阜，何能为培娄。夫帝王岂有常哉？大禹生于西戎，文王生于东夷，顾惟德所授耳。今见众十余万，皆一当晋十，鼓行推乱晋，犹拉枯耳。上可成汉高之业，下不失为魏武，何呼邪韩足道哉！”宣等称善。

元熙元年，迁于左国城，晋人东附者数万。宣等上尊号，渊曰：“今晋氏犹在，四方未定，可仰遵高祖法，且称汉王，权停皇帝之号。待宇宙混一，当更议之。”十月，为坛南郊，即汉王位，改晋永兴元年为元熙元年，大赦天下。追尊刘禅为孝怀皇帝，立高祖以下三祖五宗之神主而祭之。置百官，以刘宣为丞相，拜授各有差。四部之东莱王举起兵青徐，遣使来降，拜镇东大将军、青州刺史、东莱郡公。四月，汲桑叛，自称赵王，选置州郡。十一月，石勒及胡部等帅众来降。永凤元年七月，凤凰集于蒲子。丞相刘宣等六十四人上尊号。十月，僭即皇帝位于南郊，大赦改元，以卫军和为大将军，抚军聪为车骑大将军，建武曜为龙骧大将军。河瑞元年，迁都平阳，汾水得玉玺，大赦改元。二年，以大司马梁王和为皇太子。八月，渊寝疾，以刘洋为太尉，延平为太宰，司徒聪为大司马大单于，并录尚书事。置单于台于平阳西。薨于光极殿。太子和即位。聪自西明门攻斩和于西室。九月，葬渊于永光陵，谥曰：光文皇帝，庙号高祖。

刘 聪

刘聪字玄明，一名载，渊第四子。母张夫人孕，梦日入怀，寤而告渊。渊曰：“吉征也。”自是十五日而生聪，夜有日光之异。左耳有一白毫，长二尺余。幼而聪悟，究通经史，兼综百家之言，孙吴兵法，靡不诵之。猿臂善射，弯弓三百斤，膂力骁捷，冠绝一时。

永嘉四年，僭即帝位于光极前殿，大赦，改元光兴元年。以卫尉呼延晏为使持节、前鋒大都督，配禁兵二万七千，自宜阳入洛川。命东莱王弥，刘曜及镇军石勒进军会之。晏比及河南，十二败晋帅，长驱围洛阳，陷之。纵兵大掠，幽晋帝于端门，害太子及百官已下三万余人于洛水北，筑为京观。迁帝及太后侍中庾珉等于平阳。大赦，改元嘉平元年。二月，内晋帝，进号仪同三司会稽郡公。聪引帝入宴，谓曰：“卿为豫章王时，朕曾与王武子相造，武子示朕于卿，卿言：‘闻其名久矣。’以卿所作乐府歌文示朕，谓朕曰：‘闻君善为辞赋，试为看之。’朕时与武子俱为《盛德颂》，卿称善久之。又引朕射于皇堂，朕得十二筹，卿与武子俱得九筹。卿赠朕柘弓、银砚，颇忆否？”帝曰：“臣安敢忘之，但恨尔日不早识龙颜耳。”聪曰：“卿家骨肉相残，何其甚也。”帝曰：“此殆非人事，皇天之意也。大汉将应乾受历，故为陛下自相驱除耳。且臣家若能奉武皇之业，九族敦睦，陛下何由得之？”三年，春正月，宴于光极前殿，逼晋帝行酒，庾珉、王隽等起而大哭，聪恶之。二月丁未，怀帝崩于平阳，于是诛珉等。三月，立贵嫔刘氏为皇后。四月，愍帝即位于长



安，车骑曜等攻长安。河东地震，雨血于平阳。建元元年正月，黑雾四塞，著人如墨，五日而止。辛酉夜时，日落地，三日相承，出于西方。东行平阳地震，崇明观陷为池，水赤如血，赤气至天。有赤龙奋迅而去。流星起于牵牛，入紫微，龙行逶迤，其光照地，落于平阳北十里，视之则肉，臭闻于平阳。长三十步，广二十七步，肉旁常有哭声，昼夜不止。聪甚恶之。癸未，刘氏产一蛇一虎，各害人而走，寻之不得，顷之见在阨肉之旁。己丑，刘氏卒，乃失此肉，哭声亦止。十一月，以晋王粲为相国、大单于，总百揆。十二月，宣光陵石人皆行数步，宫中鬼哭。

麟嘉元年，武库陷，入地一丈五尺。聪自去冬至是遂不复受朝贺，军国之事，一决于粲。立市于后庭，与宫人宴戏，或三日不醒。秋七月，河大蝗，唯不食粟豆。司隶靳准率部民收而埋之，哭声闻于十余里，后乃钻土飞出，复食黍豆。大司马曜攻陷长安外城。九月，犬与豕交于宫门。有豕著进贤冠，升聪御座，犬冠武冠带绶，与豕并升，俄而斗死殿上，宿卫莫有见其人者。长安饥甚，死过半，麴允为粥以供帝膳。帝泣曰：“今窘厄如此，外无救援，势不自知。”乃使侍中宋敞奉笺降曜，敞随使者至，帝肉袒牵羊，舆棹銜壁，出降东门。曜受壁焚桎，迁愍帝及司徒梁汾、驃骑麴允等诸臣百余人至于平阳。聪临光极殿，帝稽顙，与麴允伏地大哭，扶不能起。聪大怒，允自杀。以帝为光禄大夫、怀安侯。以大司马曜假黄钺、大都督陕西诸军事、太宰、秦王。二年正月，东平王约卒。十一月，聪校猎上林，以晋帝行车骑大将军，戎服执戟前导，行三驱之礼。观者皆指帝曰：“此故长安天子。”聚而观之，故老亦有悲泣者。十二月，大殓于光极前殿，聪欲观晋臣之意，使帝行酒，洗爵更衣，使帝执盖，多有涕泣，或有失声者。尚书郎辛宾起而抱帝大哭，引出斩之。戊戌，愍帝崩于平阳。

三年，聪所居螽斯则百堂灾，焚其子会稽王衷已下二十有一人。聪闻哀塞气绝。自此鬼哭宫中，至于九月，夜声不绝。四月，尚书令王鉴、崔懿之等极谏，聪大怒，收鉴等杀之。秋七月，鬼哭于光极殿，聪昼见东平王约，甚恶之。征秦王曜为丞相，录尚书事，固辞，仍以丞相领雍州牧。靳准为大司空，领司隶校尉。癸亥，薨于建始殿。甲子，粲即位，大赦，改元汉昌。葬宣光陵，谥曰武皇，庙号烈宗。八月，以丞相曜为相国、大都督。司空靳准为大将军，领尚书。粲荒耽酒色，游宴后庭，军国之事，一决于准。准遂勒兵入宫，执粲，数而杀之，追谥灵帝，刘氏无所存，男子尽刑于市，发掘二陵，焚烧宗庙，鬼大哭，声闻百里。准自号汉大王，置百官，遣使称藩于晋。相国曜自长安赴难。永嘉元年十二月，大将军东平王约卒，一指犹暖，遂不殒殒，至甲戌，乃苏。言见渊于不周山，经五日，遂复从昆仑山三日，而复反于不周，见诸王公卿将相死者悉在，大有人民，宫室壮丽，号曰蒙珠离国。渊谓约曰：“东北遮须夷国，无主，久待汝父为之。汝父后三年当来，来后国中大乱相杀害，吾家死亡略尽，但可永明辈十数人在耳，汝但还，后年当来，见汝不迟！”不久，约拜辞而归，道过一国，曰猗尼渠余国，引入入宫，与皮囊一枚，曰：“为吾遗汉皇帝。”约辞而归，谓约曰：“刘郎后年来，必见过，当以女相妻。”约归置



皮囊于机下，俄而苏，谓左右曰：“机上取囊来，”左右取得，开，有一方白玉，题文曰：“猗尼乘余国王敬信遮须夷国天王，岁在摄提，当相见。”驰使奏呈，聪曰：“若当如此，吾不惧死也。”及聪以戊寅岁薨，与此玉并葬焉。

刘 曜

刘曜字永明，渊之族子，少孤，见养于渊。幼而聪慧，性拓落高亮，与众不同。铁厚一寸，射而洞之。身長九尺三寸，手垂过膝，生而眉白，目有赤光，须不过百余根，皆长三尺。

光初元年十月，太保呼延宴等自平阳来奔，上尊号于曜，僭即皇帝位。十二月，靳准左右军骑乔太、王腾等杀准，奉六玺来降。二年，夏四月，徙都长安。立子熙为皇太子。六月，缮宗庙、社稷、南北郊于长安。令曰：“盖王者之兴，必帝始祖。我皇家之先，出自夏后，居于北夷，世跨燕朔，光文以汉有天下、岁久，恩德结于庶民，故立汉祖宗之庙，以怀民望。昭武因循，遂未浚革。今欲除宗庙，改国号，复以大单于为太祖，其议以闻。于是，太保呼延宴等议曰：“今宜承晋母氏传号，以光文本封卢奴，中山之属城。陛下勋功茂于平洛，终于中山，中山分野属大梁，赵也。宜革称大赵，遵以水行。”曜从之，于是以冒顿配天，渊配上帝。

三年五月，西明门内大树风吹折，经一宿，树拔变为人形，头发一尺，须眉三寸，皆黄白色，有敛手之状，亦有两脚着履之形。唯无目鼻，每夜有声，十日而生柯条，遂为大树，枝叶甚茂。四年，将于霸陵西南营寿陵，侍中乔豫、和苞上疏谏曰：“臣等伏闻敕旨将营建寿陵，周围四里，下深二十五丈，以铜为棺槨，黄金饰之。臣闻尧葬穀林，市不改肆。颍颺葬高阳，下不及泉。圣王之于终事如是。秦始皇下锢三泉，周轮七里，身亡之后，毁不旋踵，暗王之于终也如此。从丧乱以来，汉帝诸陵，咸见贱辱，唯霸陵独全。此虽太宗之达至然，抑亦释之之功。兴亡奢俭，炯然于前，唯陛下览之。”曜大悦。终南山崩，所得白玉方尺，有字曰：“皇亡皇亡，败赵昌。”以为己瑞，群臣咸贺。中书监刘均曰：“山崩石坏，国倾民乱。”‘皇亡皇亡败赵昌’者，此言皇室将为赵所败，赵因之而昌。大赵都于秦雍，而勒跨全赵。赵昌之应，当在石勒，不在我也。”曜悦然改容。

五年，曜后羊氏卒。故晋惠后也，洛阳之陷纳之。六年正月，天裂，广一丈余，长五十丈。十一年七月，石虎率众四万人寇扰河东，进蒲坂，曜选中外精锐自潼关北济，虎惧，引师而还。曜追而败之，枕尸一百余里，虎奔朝歌，遂攻石生于金墉，分遣诸将攻讨，及于河内。十二月，勒自帅众拒之，阵于洛西，曜性少而酗酒，末年尤甚，将战，饮数斗，常乘赤马无故蹶顿，乃乘小马北出，复饮斗余，至西阳门，挥阵就平。勒将石堪因而乘之，帅遂大溃，曜昏醉奔退，而马陷石渠，坠于冰上，为堪所执。勒将还襄国，喻曜使与太子毗书，令速降。曜但敕毗与诸臣匡维社稷，勿以吾易意。建平末，为勒所杀。十



二年正月，太子毗、大司马南阳王胤等议，欲西保秦州，遂相率奔上邽。石虎乘胜追战，枕尸千里，上邽溃，虎执毗及王公已下三千余人皆杀之。

自刘渊建号西河，至是二十有六载。

卷二 后赵录

石勒

石勒字世龙，上党武乡羯人。父周曷朱，勒生时赤光满室，白气自天属于庭中。长而壮健，有胆力，雄武好骑射。幼而力耕，每闻铙铎之声，或在前后，归以告其母，母以作劳耳鸣，非不祥也。会并州刺史司马腾执诸胡山东，卖充军实，将诣冀州，两胡一枷，勒亦在中，东至平原卖与茌平人师欢为奴，每夜于野，尝闻鼓角之声，诸奴亦闻，归以白讎，欢讎而免之。讎家邻于马牧率汲桑，往来，勒以能相马，自托于桑，而佣于武安，临水为游军所囚，会有群鹿旁过，军人竞逐之，勒乃获免。俄而见一老父，谓勒曰：“向群鹿者，我也。君应为中州主，故相救耳。”勒拜而受命，遂招集王阳、夔安等十八骑，复东如赤龙诸苑中，乘苑马、远掠缯宝，以赂汲桑。永兴元年，关东所在盗起。

二年，阳平人公师蕃等自称将军，起兵赵魏，众至数万，勒与汲桑率牧人乘苑马数百骑以赴之，桑始命勒以石为姓，以勒为名。永嘉元年，勒归刘渊，拜为辅汉将军、平晋王。渊薨，聪袭位，刘曜、王弥围洛阳，勒帅精骑二万会之。王弥既平洛阳，将先诛勒，勒请弥燕于已营，手斩弥而并其众。将军郭默获沙门竺浮图澄，以其有道术，进之于勒，试之有效，甚尊重之。

前赵嘉平二年，张宾说勒曰：“邯鄲、襄国，赵之旧都，依山凭险，形势之固，可择此二邑而都，然后命将四出，授以奇略，王业可图。”石勒于是进据襄国，聪授勒都督幽、冀、并、营四州诸军事，冀州牧，进封本郡公，邑万户。三年，以征虏将军为魏郡太守，镇鄧三台。篡夺之谋，兆于此矣。前赵嘉麟元年，刘琨遣姚襄帅众来讨，勒与战，襄军大败，琨长史李弘以并州来降。七月，刘聪疾甚，以勒为大将军，录尚书事，受遗辅政。勒固辞，乃止。刘曜称尊号，将授勒太宰、大将军，加九锡，增封十郡，并前二十郡，出人警蹕，如曹公辅汉故事。曜闻平乐之言，停太宰之授。勒大怒，曰：“赵王、赵帝，孤自取之，名号大小，岂尔所呼耶。”征虏虎与左右长史张敬、张宾等上号曰：“大司马虽位冠九台，非伯者之号，请改称大将军、大单于、领冀州牧、赵王。依魏王在邺故事，以二十四郡户二十九万为赵国。”十一月，勒即位，改元，称为赵王元年，始建社稷，立宗庙，主书司典胡人出入，重其禁法，不得侮易衣冠华族。号胡为国人。二年令曰国人不听报嫂，及在丧婚娶、至于烧葬，令如本俗。八月，始置轩悬之乐，八佾之舞，作金银大格，



黄屋左纛。天子礼乐，于斯备矣。三年，黎阳民陈武妻产三男一女，上书自陈。令曰：“昔周之兴也，四乳八子，今武妻一乳四子，可谓度过姬祥，美如曩日。其赐乳妇一人谷百石，杂缯四疋，庶以肃迎嘉祥。”冬十月，勒亲与乡老齿坐，欢饮，语及平生。勒曰：“李阳，壮士也。孤方取之，何以不来？父老归语，令速来，浞麻池之忿，是布衣之恨，孤方崇信于天下，宁讎匹夫乎？”令曰：“武乡，吾之丰沛也，其复之三世。”十一月，李阳至，勒与酣谑，引阳臂笑谓之曰：“卿虽老，臂中犹有力，颇复与人斗。孤往日厌卿老拳，卿亦饱孤毒手。”因赐里第一区，拜为都尉。阳与勒邻居岁，常争浞麻池，迭相殴击。

四年二月，拜子弘为世子。勒雅好文学，虽在军旅之中，常令儒生读《春秋》、《史》、《汉》诸传而听之，闻鄢食其劝立六国后，大惊曰：“此法当失，何以得成天下？”至留侯谏，乃曰：“赖有此侯耳！”其天资英达如此。八年八月，修三台。十月，以世子卫将军弘镇邺。大和十年，刘曜围洛阳，襄国大震。勒统步骑四万赴金墉，济自大塌。先是，流渐风猛，军至，冰泮清和。济毕，流渐大至。勒以为神灵之助，命曰灵昌津。战于西门，曜军大溃，石堪执曜送之。二年，曜子熙等去长安，奔于上邽。车骑虎克上邽，遣主簿赵封奉传国玉玺送之。秦陇悉平。

建平元年二月，车骑石虎等上尊号，勒不许，固请，勒号赵天王，行皇帝事，大赦。八月，郡臣又固请，以名位不正，宜即尊号。九月，僭即皇帝位，大赦改年。二年，正月，勒南郊，有白气自坛属天，勒大悦。四月，勒如邺，议营新宫。延尉续咸谏曰：“臣闻唐虞之治，采椽茅茨，土阶三尺，美彰于《诗》、《书》。汉文惜百金，不营露台，称之于千古。迨夏商之琼台瑶陛，楚章华、秦阿房，资财内竭，华夷外叛。”勒诏曰：“且敕停作，以申吾直臣之气。”九月，以太尉中山王虎为大司马，程遐开府仪同。是月，大霖雨，中山西北暴雨漂流巨木万余根，集于堂阳。勒大悦，谓公卿曰：“此非为灾，天意欲吾营邺都耳。”于是营之。

勒以成周汉、晋旧京，欲有移都之意，乃命洛阳为南都，置行台、治书侍御史于洛阳。三年正月，大飨于建德殿，酒酣，勒谓徐光曰：“朕方自古开基，何等上也？”光对曰：“陛下神武，筹略迈于高皇，雄艺卓萃，超绝魏武，三五以来，无可比也。其轩辕之亚乎！”勒笑曰：“人岂不自知，卿言亦已太过。朕若逢高皇，当北面而事之，然犹与韩、彭竞健而争先耳。倘遇光武，当并驱于中原，未知鹿死谁手。大丈夫行事当磊磊落落，如日月皎然，终不能如曹孟德、司马仲达，欺他孤儿寡妇，狐媚以取天下也。朕在二刘之间耳，轩辕岂所拟乎？”群臣皆称万岁。四年，雍州刺史石生上言，西乡有蛇鼠相斗于安定府间，二日蛇死。临经马生角，长安城中鸡鸣，音皆曰基慈。安定厅事前闻诵书声，求之不得，七日乃止。陨石于肥乡。六月，勒寝疾，召中山王虎、太子弘、中常侍严震等侍疾禁中。七月，薨于西阁，伪谥明皇帝，号高祖。



石 弘

石弘字大雅，勒第三子。母程夫人，右光禄遐之妹。建平元年，立为太子，虚衿爱士，好为文咏，其所亲昵，莫非儒素。勒谓徐光曰：“大雅悒悒，殊不似将家子。”光曰：“汉祖以马上得天下，孝文以玄默守之。圣人之后，必世胜残，天之道也。”勒大悦。程遐言于勒曰：“中山怏怏，不可以辅少主，乞早除之，以便大计。”勒不从。勒薨，虎执政，临轩召子冀州刺史遂统兵入禁，宿卫文武无不奔散。弘大惧，策拜中山王虎为丞相，以十三郡封为魏王，又加九锡。虎伪让，后乃受之。延熙元年七月，改熙丘为魏国，沿魏郡至黎阳。十月，弘赍玺绶亲请魏公，喻禅意。虎曰：“弘昏昧愚暗，处丧无礼，不可以君临万国，奉承宗庙，便当废之，云何禅让？”十一月，废弘为海阳王，弘就车，容色自若，幽弘及程后、南阳王恢于崇训宫，寻杀之，时年二十二。

石 虎

石虎字季龙，勒之从子。勒父朱幼而子之，故或谓之勒弟。晋永兴中，与勒相失。嘉平元年，刘琨送勒母王及虎于葛陂，时年十七。性残忍，好驰猎，喧游无纪度，尤善弹，数弹人，军中每患之。勒白王曰：“此是凶暴，无使军人杀之，声名可惜，宜自除也。”王曰：“快牛犊子小时多能破车，汝当小忍，勿怯之。”至十八，检摄恭谨，严重爱士，弓马迅捷，勇冠当时，勒深喜焉，拜征虏将军。性酷虐无道，军中勇于策略与已侔者，辄因事害之。至于降城陷垒，坑斩士女，鲜有遗类，勒屡加责诲，而行意自若。然御众严而不烦，莫敢犯者，指授攻讨，所向无前。故勒宠信弥隆，仗以专征之任。既废杀弘，称居摄赵天王。

建武元年正月，大赦改元。虎荒游废政，外耽营缮，使太子还省者，以书奏事，选守牧，祀郊庙，惟征伐刑断，乃亲览之。三月，南游，临江而旋，京师大震。是日，观省台城，赐匠有差。九月，迁都鄴宫。三年，徙洛阳钟簏、九龙、翁仲等于鄴。是岁，太武殿东西宫皆就，太武殿基二丈八尺，下穿伏室，置卫士五百人于其中。东西七十五步，南北六十五步，皆漆瓦、金铛、银楹、金柱、珠帘、玉璧，穷极伎巧。起灵风台、九殿于显阳殿后，选召百官、州郡民女以充之。后庭服绮谷，玩珍奇者万余人。内置女官十八等，教宫人星占及马步射，置女太史于灵台，仰观灾祥，以考外太史之虚实。禁郡国不得私学星讖。左校令成公段造庭燎于崇杠之末，高十余丈，上盘置燎，下盘置人，缙缴上下，虎试而悦之。三年，太保夔安等文武五百九人，上皇帝尊号，安等方入，而庭燎油灌下盘，死者七人。虎大怒，腰斩成公段于阊阖门。即天王位南郊，大赦。亲王贬为郡公，藩王为县侯，太子遂总百揆。其后荒酒淫色，骄恣无道，或盘游于田，悬管而入，或夜百骑宿于官臣家，淫其妻妾。装饰宫人美淑者，斩首洗血，置于盘上，传共视之。又纳诸比丘尼有姿



色者，与其交衰而杀之，合牛羊肉煮而食之，亦赐左右，欲以识其味也。虎荒耽内游，威刑失度。遂以事为可，或呈之虎，怒曰：“小事何足呈也！”时有所不闻，复怒曰：“何以不呈？”诘责杖捶，月至再三。遂甚愠，私谓中庶子李颜等曰：“官家难称，吾欲行冒顿之事，卿从我乎？”颜等伏不敢对，事发，幽遂于东宫，杀之，及妃张氏并男女二十六人，尽赐死，合一棺埋之。诛其官臣友党二百余人，立河间公宣为太子。建武六年，追尊号考乐平敬公为太宗孝皇帝。八年，六月，上党、孟门上有神人之像，坐天山上，三日而去。虎遣使以太牢祀之。九年十二月，武乡有雄虎变为雌，产一狼子，七日噬虎脑而杀之。后三日，狼子亦死。佛图澄闻之流涕。十年，虎起河桥于灵昌津，采石为中济，石无大小，辄随流，用工五百余万不成。虎如灵昌津，沉璧告诚，璧滚于渚上，水波上腾津所，殿观莫不倾坏，压死者百余人。虎患甚，斩工匠而还。十一年，发雍梁十六万人成长安未央宫，又发司、豫、荆、兖二十六万人成洛阳宫。十三年二月，虎亲耕籍田于桑梓苑。十四年三月，虎梦龙飞西南，自天落地，旦而问澄公。公曰：“祸将至矣，陛下宜父慈子和，深以慎之。”四月，秦公韬起宣光殿于太尉府，梁长九丈。太子宣视而恶之，斩匠截梁而去。韬怒，增之十丈。宣闻之，患甚，谓杨枏、牟成等曰：“韬凶竖悖逆，敢违我如是，汝等能杀之者，吾入宫，尽以韬之国分封汝等。韬既死，主上必亲临丧，因行大事，无不济矣。”杨枏等许诺。八月，杀韬，宣奏之，虎哀绝久之乃苏。召太子宣锁之于郊北，火焚杀之。别立太子于东堂。虎曰：“吾欲以纯灰三斛，洗吾肠秽恶，故生凶儿子，年二十便欲杀父。今世乃十岁，比其二十，吾已老矣。”齐公世为皇世子，立昭仪刘氏为皇后。十一月，享群臣于太武殿前，佛图澄殿上褰衣而行，吟曰：“棘子成林，将坏人衣。”虎发石而视之，有棘子生焉。冉闵小字棘奴也。十二月辛巳，雷，大霖雨。虎问佛图澄，澄曰：“其为我乎？”至戊子而澄卒。

大宁元年正月，虎僭即皇帝位于郊，大赦改年。二月，有沙门从雍州来，称见佛图澄西入关，虎掘之无尸，唯一石。虎恶之曰：“石者朕也，葬我而去，吾将死矣。”因而寝疾，四月薨于金华殿。（《晋书》曰：“季龙始咸康元年，僭位立，此太和六年，计在位十五年。”）

世子即位，尊刘后为太后，彭城王遵先镇关右，至是勤兵而还，戎卒九万，次于荡阴。石闵为前锋都督，太后授遵丞相，加九锡，增封十郡。己丑，遵至安阳亭赏甲曜兵，入自凤阳门，升太武前殿，尽哀，退如东阁。群臣敦劝即位，大赦，封世为谯王，邑万户。废太后刘氏为昭仪，寻皆杀之。世立凡三十三日。尊其母郑氏为皇太后，立妃张氏为皇后，大司马义阳王鉴为太傅，沛王冲为太保，石闵为都督中外诸军事、录尚书事。甲午，太武殿灾，诸门观阁荡然。其乘御服，烧者大半，光焰照天，月余乃灭。己未，雨血，周遍邺城。六月，葬虎显原陵，伪谥武皇帝，庙号太祖。十一月，石闵劫司空李农及右卫王基，密谋其废遵。闵使将军苏彦、周成帅甲士三十八人，执遵于南台如意观。遵时方与妇人弹棋，问周成等曰：“反者谁也。”成曰：“义阳王鉴当立。”遵曰：“我尚如是，



汝等立鉴，复能几时？”遂杀之于琨华殿，诛郑太后、张皇后。遵字大祗，虎第九子，凡在位者百八十三日。鉴即位，大赦，以石闵为将军，封武德王。李农为大司马。鉴使中书令李松、殿中将军张才等夜诛闵、农等于琨华殿，不克，禁中扰乱。鉴伪不知，夜斩松等于西中华门。龙骧将军孙伏都、刘铢等结羯士三千人，伏于胡天，亦欲诛闵等。时鉴在中台，伏都帅三十余人，将升台挟鉴以攻之。鉴见而问其故，伏都曰：“闵、农等反，已在东掖门，臣严卫士，谨先启知。”鉴曰：“卿好陈力，勿忧无报也。”伏都等攻闵，不克。闵、农攻斩伏都等，自凤阳门至琨华，横尸相枕，诸胡羯无少长皆斩之，死者二十余万。于时高鼻多须，至有滥死者。初，青龙元年正月，石闵欲灭二石之号，议曰：“孔子曰：‘易姓而王七月者，七十有三国，继赵李。’”讎书炳然，且德星镇卫，宜改号大魏，易姓李氏。又大赦，闰月，改元。废鉴杀之，诛虎孙三十八人，尽殒石氏。鉴在位一百三日，鉴字大郎，虎第三子也。

石 闵

石闵字永曾，虎之养孙也。父瞻，字弘武。本姓冉，名良，魏郡内黄人。其先汉黎阳骑都督，累世牙门，勒破陈午于河内，获瞻，时年十二。长而勇悍，便弓马，临阵不顾。勒奇之，曰：“此儿壮健可嘉”，命虎子之。历位左积射将军，封西华侯。闵幼而果锐，虎抚之如孙。及长，身長八尺，善谋，勇力绝人。虎即位，封为修武侯，历位北中郎将。虎之败于昌黎，闵军独全，由此功名大显。

永兴元年闰月，司徒申钟、司空郎闳等四十八人上尊号于闵，僭皇帝位于南郊。大赦改元，号称大魏，复姓冉氏。追尊祖隆元皇帝，考瞻烈祖高皇帝。尊母王氏为太后，妻董氏为皇后，子智为皇太子。以司马李农为太宰，诸子皆封为县公。新兴王祗闻石鉴之死，称尊号于襄国，改元永宁。石祗遣相国汝阴王石琨帅众十万伐邺。六月，进据邯郸。闵尽众拒之，琨军大败。二年三月，闵攻襄国百余日，祗怯，乃去皇帝之号，改称赵王。遣太尉张奉乞师于慕容儁。中军张春请救于姚弋仲。三月，祗相国汝阴王琨自冀州救祗，弋仲复遣子襄帅骑三万八千，隗遣将军悦绍帅甲士三万，劲卒十三万，四方攻之，祗冲其后，闵帅大败。闵与十余骑奔还邺，祗使刘显帅众十万，追奔伐邺，闵尽众出战，大败之，追奔至于阳平。显惧，密使请降，求杀石祗为效。四月，刘显杀祗，及其丞相乐安王炳、太保张举等。遣拜显上大将军、大单于、冀州牧。祗、炳皆虎之庶子也。七月，刘显称尊号襄国。三年二月，刘显帅众伐常山，太守苏彦告难，闵师八千救彦，败显于常山，追奔及于襄国。显大将军曹伏驹开门为应，遂入襄国，诛显及其公卿以下百余人，焚襄国宫室，迁其民于邺。

三月，慕容儁已克幽蓟，略地至于冀州。闵帅骑击之，与慕容恪遇于魏昌城，恪方阵而前，闵众寡不敌，所乘赤马曰朱龙，日行千里，溃围东奔，行二十余里，马无故而死，



遂为恪所擒，送之于蓟。僞立闵而问之曰：“汝奴仆下才，何敢妄称天子？”闵曰：“当此天下大乱，尔曹人面兽心，尚欲篡逆，我一时英雄，何为不可作帝王耶？”僞怒，鞭之三百，遣慕容评帅众围邺。五月，送闵于龙城，告虜就庙而杀之。邺中饥，人相食，虎时宫人被食略尽。冉智尚幼，蒋干遣詹事刘猗，奉表降僞。八月，长水校尉马愿、龙骧将军田香、开门降评。蒋干悬缢而下，奔于仓垣。评送闵后董氏、太子智、大尉申铨及诸王公卿于蓟。初、慕容僞斩闵于遏陁山，山左右七里木悉枯，蝗虫大起。自五月不雨至于十二月。僞遣使者祀之，谥曰武悼天王，其日大雨雹，是岁太和八年也。

卷三 前燕录

慕容廆

慕容廆，字奕落瓌，昌黎棘城人。昔高辛氏游于海滨，留少子厌越以君北夷，世居辽左，号曰东胡。秦汉之际，为匈奴所败，分保鲜卑山，因复以为号。曾祖莫护跋，魏初率其诸部人居辽西，从司马宣王讨公孙渊有功，拜率义王，始建国于棘城之北。见燕代少年多冠步摇，跋意甚好之，遂敛发袭冠，诸部因呼之为步摇，其后音讹遂为慕容焉。祖木延，左贤王，从母丘俭征高丽有功，加号大都督父涉归，以全柳城之功，进拜单于，迁邑辽东。于是渐变土风，自云慕二仪之德，继三光之容，遂以慕容为姓。廆身长八尺，有大度，晋安北将军张华一见奇之，谓曰：“君后必为命世之器，匡难济时者也。”涉归卒，弟耐立，将谋杀廆，廆亡，潜于辽东徐郁家。太康元年，国人杀耐，迎廆立之。太康十年，又迁于徒河之青山。元康四年，定都大棘城，所谓紫蒙之邑也。永嘉六年，王浚承制以廆为散骑常侍、冠军将军、前锋大都督、大单于，皆让不受。擢举贤才，官方授仕。鲁国孔慕，宿德清望，请为宾友。平原刘讚，儒学该通，引为东庠祭酒，其世子就率国青受业焉。大兴四年，晋遣谒者拜廆使持节，督幽、平、东夷诸军事，车骑将军，平州牧，封辽东郡公。丹书铁券，承制海东。咸和元年，加侍中，位特进。八年夏五月，薨于文德殿，年六十五。葬于青山，晋遣使者赠车骑大将军，开府仪同三司，谥襄公。就为燕王，追谥武宣王。僞称尊，追尊武宣帝，庙号高祖。

慕容皝

慕容皝字元真，廆第二子，小字万年。长七尺八寸，雄毅善权略，博学多材艺。晋建武元年，振武将军。永昌初，拜左贤王。太宁末，拜平北将军、朝鲜公。咸和八年六月，即辽东公位，行平州刺史，督摄部内。九年八月，晋遣谒者拜皝镇军大将军、平州刺史、



大单于、辽东公，承制一如庖故事。七年七月，立子儁为世了。四年，以左司马封奕为长史。九月，奕等以就任重位轻，宜称燕王。于是上议。

十月，僭即燕王位于文德殿，大赦境内，改备群司，以封奕为相国，追尊先公为武宣王，先妣为王后。起文昌殿，出入警蹕，立夫人段氏为王后，世子儁为太子。是岁，棘城黑石谷有大石自立而行。八年七月，晋使鸿胪郭忱持节拜就侍中、大都督、河北诸军事、大将军、燕王，其余官皆如故。封诸功臣百余人。九月，迁都龙城。十二年四月，有黑龙一、白龙一见于龙山。就率群寮观之，去龙二百步，祭以太牢二，龙交首嬉翔，解角而去。就大悦，赦境内，号新宫曰和龙。立龙翔佛寺于山。就雅好文籍，亲造《太上章》以代《急就》，又著《典诫》十五篇，并以教胄子。十四年，就亲临东庠，考试学生，其通经秀异者，擢充近侍。十月，飧群僚于承乾殿，右长史宋彥性贪，赐布百疋，令自负而归，以愧其心。十五年八月，就因见白兔，驰射之，马倒被伤，辇而还宫。引太子儁，嘱以后事。谓曰：“今中原未平，方建大事，委贤任哲，此其时也。恪智勇无侔，力堪任重，汝其委之，以成吾志。”九月，薨于承乾殿，年五十二。冬十二月，葬龙山。谥文明王。儁称尊，追尊曰：“文明皇帝，庙号太祖，陵曰龙平。”

慕容儁

慕容儁字宣英，就第二子，小字贺赖跋。十三月而生，有神光之异，身長八尺一寸。善为文，雅好辞赋，至于器物车室，皆著潜以为劝戒。就之八年，晋遣使者拜就燕王，以儁为安北将军、东夷校尉。十一年，进拜使持节镇东将军。就薨，即燕王位，赦其境内，依春秋列国故事，称元年正月。闻赵魏大乱，乃严兵，将为进取之计。七月，晋使谒者陈沈拜儁都督河北诸军事，幽、冀、并、平四州牧、大将军、燕王，承制封拜，一如庖、就故事。元玺元年正月，司南车成，儁大悦，告于就庙。四月，遣辅国恪、相国奕讨冉闵，战于魏昌廉台，闵师大败，擒送之。闵大将军蒋干捕闵子智，固守郾城，遣辅弼评等帅骑一万以讨之。郾北郡县悉降。辅国奕等二百一十人劝称尊号、令曰：“非常之事，匪寡德所宜闻也。”八月，克郾，辅弼评等送闵后董氏、太子智、太尉申钟，并乘輿服物及六玺送于中山。传国玺，蒋干先以送晋。儁欲神其事业。言历运在己，乃诈云：“得之。”赐闵妻号奉玺君，封冉智为海滨侯，以辅弼评为司州刺史，镇郾。

十月，辅国恪等五百五人奉皇帝玺。十一月，僭即皇帝位于正阳前殿，大赦改年，时晋遣使诣儁，谓之曰：“还白汝天子，我承人乏，为中国所推，已为帝矣。”庚午，书曰：“追崇祖考，古人之令典。”尊武宣王为高祖武宣皇帝，文明王为太祖文明皇帝。二年正月，立后可足浑氏为皇后。升平元年正月，复立中山王暕为皇太子，赦其境内，改年曰光寿。初，庖有骏马曰赭白，有奇相逸力。石虎之伐棘城，就将出避难，欲乘之，马悲鸣啼齿，人莫能近。就曰：“此马见异先朝，孤尝仗之济难，今不欲出者，盖先君之旨也。”乃



止。虎寻奔退，姚益奇之，至是年四十九岁，而骏逸不亏。偶比之鲍氏骢，命铸铜以图其像，亲为铭赞。偶勒其旁，置之薊城东掖门，是像成而马死。十一月，自薊迁邺。三月，入邺宫，大赦。缮殿宫，复铜雀台。以吴王垂为东夷校尉、平州刺史，镇辽东。

二年三月，常山寺大树自拔，根出，得璧二十七，圭七十三，光色精奇，有异常玉，偶以为岳神之命，遣尚书郎段勤以太牢祀之。五月，辽西获黑兔。三年三月，偶夜梦石虎齿其臂，寤而恶之，命发其墓，部棺出尸，踏而骂之曰：“死人安敢梦生天子！”遣御史中尉杨约数其残酷之罪，鞭而投之漳水。十二月，偶寝疾，谓大司马恪曰：“吾患慨然，恐不济，修短命也，复何所恨。但二寇未除，景茂冲幼，虑其未堪。家国多难，吾欲远追宋宣，以社稷属汝。”恪曰：“太子虽幼，天纵聪圣，必能胜残去暴，不可以乱正统。”偶怒曰：“兄弟之间，岂虚饰乎？”恪曰：“陛下若以臣堪荷天下之任者，宁不能辅少主也？”偶曰：“若汝行周公之事，吾复何忧。”四年正月，偶薨于应福前殿，年五十三，伪谥景昭皇帝，庙号烈祖，葬龙陵。偶雅好文籍，性严重，未曾以慢临朝。虽闲居宴处，亦无懈怠之色。

慕容暉

慕容暉字景茂，偶之第三子。元玺三年、封中山王，寻立为皇太子。光寿四年，僭即帝位，大赦，改元建熙元年。以太原王恪为太宰，录尚书，行周公事，专百揆。上庸王评为太傅，赞朝政。司空阳骛为太保，王垂为河南大都督，十州诸军事、兖州牧，镇梁国。四年正月，暉南郊。十月，太尉奕迎神于和龙。初，暉委政太宰恪，专受经于博士王勖、助教尚锋、秘书郎杜铨，并以明经，讲论左右。至是通诸经，祀孔子于东堂，以劝为国子祭酒，锋国子博士，铨散骑侍郎。其执经侍讲，皆有拜授。八年，太宰恪卒。九年十二月，有神降于邺，自称湘女，有声，与人相接，数日而去。十年四月，立贵妃可朱浑氏为皇后。六月，晋大司马桓温率众五万来伐，遂至枋头，吴王垂大败之，斩获三万余级，温奔还淮南。垂既败温，威德弥振，太傅评大不平之，太后遂与评谋杀垂。十二月，垂出奔秦。

十一年六月，秦辅国将军王猛、镇南将军杨安，率众六万来伐，以太傅评、下邳王历等帅精兵三十万拒秦帅于潞川。州郡盗贼大起，邺中怪异非常。十月，评及猛战于潞川，评师败绩，单骑遁还。猛乘胜追奔，长驱至邺。十月，苻坚帅众会猛来攻拔邺，城外乱，散骑侍郎徐蔚等率扶余、高句丽及上党质民子弟五百人，夜开城门引纳秦师。暉与太傅评、左卫将军孟高等数十骑出奔昌黎。坚遣将军郭庆帅骑五千追之，及暉于高阳。秦将巨武执暉，将缚之。暉曰：“汝何小人，而敢缚天子？”武曰：“我梁山巨武，受诏缚贼，何谓天子耶？”执暉送邺，坚问其奔状。暉曰：“狐死首丘，欲归死于先人陵墓耳。”坚哀而释之，令还官，率文武出降。坚入邺宫，升正阳殿，徙暉及王公已下并诸鲜卑四万余户于



长安。封隗新兴郡侯，邑五千户，寻拜尚书。坚征台城，为平南将军别部都督。淮南之败，随坚还长安。既而吴王垂攻苻丕于邺，中山王冲起兵关中，隗谋杀坚，事发，为坚所诛，年三十五岁。及德僭称尊号，伪谥幽皇帝。

卷四 前秦录

苻 洪

苻洪字广世，略阳临渭氏人。其先有扈氏之苗裔，子孙强盛，世为氏酋。其后家池生蒲，长五丈，节如竹形，时咸异之，谓之蒲家，因以为氏焉。父怀归，为部落小帅。母姜氏，寝产洪。先是，陇右大雨霖，百姓苦之。谣曰：“雨若不止，洪水必起”，故名之曰洪。年十二，父卒，代为部帅，好学，多权略，善骑射，属刘氏之乱，乃散千金，招延俊杰之士，襁负奔之，推为盟主。刘聪遣使拜平远将军，不受。自称护氏校尉、秦州刺史、略阳公。群氏推为首，刘曜以洪为氏王。及曜败于洛阳，洪率部人西保陇山。石虎将军攻上邽，洪诣虎降，虎亲出迎之。拜冠军将军，监六夷诸军，委以西方之事。石虎灭石生也，洪说虎宜徙关中豪杰及羌戎内实京师，虎从之。以洪为龙骧将军、流人都督，处于枋头。累有战功，封西平郡公。其部曲赐爵关内侯者二千余人，以洪为关内领侯将。冉闵言于虎曰：“苻洪雄果，其诸子并非常才，宜密除之。”虎待之愈厚。及石遵即位，闵又以言，遵乃去洪都督，洪怨之，乃遣使降晋。后石鉴杀遵，所在兵起，洪有众十余万。

永和六年，帝以洪为征北大将军、都督河北诸军事、冀州刺史、广州郡公，时有说洪称尊号者，洪亦以谶文有“草付应王”；又其孙坚背有草付字，遂改姓苻氏，自称大将军、大单于、三秦王。洪谓博士胡文曰：“孤率众十万，居形胜之地，冉闵、慕容儁可指辰而殄。姚襄父子，克之在吾数中。孤取天下，有易于汉祖矣。”军师将军麻秋说洪西都长安，洪深然之。已而秋因宴鸩洪，将并将其众。世子健收斩秋。洪将死，谓健曰：“所以未入关者，言中州可指辰而定。今见困豎子，中原非汝兄弟所能办。关中形胜，吾亡后，便可鼓行而西。”言终而死，年六十六，健僭位，伪谥惠武帝。

苻 健

苻健字建业，洪第三子也。初、母姜氏梦大黑而孕健。及长，勇果便弓马，好施善事人，甚为石虎父子所亲爱。虎虽外礼苻氏，心实忌之，乃阴杀其诸兄，而不害健。及洪死，健嗣位，去秦王之号，称晋征西大将军、都督关西诸军事、雍州刺史。于是尽众西行至盟津，起浮桥以济，济讫焚桥，三辅堡壁悉降。十一月，入都长安。于是长史贾玄硕等



依诸葛亮、刘备故事，表健为秦王。玄硕等为上尊号，健伪让再三，乃从之。皇始元年正月，僭即天王位于南郊，大赦，改晋永和七年为皇始元年。追尊父洪为太祖武惠皇帝，缮宗庙社稷于长安。立姜强氏为天王皇后，子萇为天王太子，萇为平原公，生为淮南公，弟雄为丞相，东海公。其余封授各有差。是年，野蚕成茧，野禾被原，百姓采野茧而衣，野粟而食，关西家给人足。

二年正月，丞相雄等固请宜依汉晋兼皇王之美，不可过自谦冲，同赵之初号，健从之，僭即皇帝位于太极殿，大赦，诸公进爵为王，立五等之封，以次进之。二年正月，下书曰：“其自公卿已下，岁举贤良、方正、孝廉、清才、多略、博学、秀才、异行各一人，或献书规谏，或面陈朕过，其悉以闻。勿惧贵贱。”四年，丞相东海王雄卒，赠相国，进封魏王，谥敬武王。雄字元才，洪之季子也。建武中，拜龙骧将军。雄头大足短，故军中称为大头龙骧。健甚重之，曰：“元才，吾之姬旦。”是年四月，立淮南王生为皇太子。六月，健寝疾，引太师鱼遵、丞相雷弱儿、太傅毛贵、司空王堕等，嘱以后事，受遗辅政。乙酉，薨于太极前殿，年四十九。葬原陵，伪谥明皇帝，庙号世宗。永兴初，追尊曰景明皇帝，号高祖。

苻生

苻生字长生，健第三子。幼而粗暴，昏醉无赖。祖洪甚恶之，无一目，七岁，洪戏之，问侍者曰：“吾闻瞎儿一泪，信乎？”侍者曰：“然。”生怒，引佩刀自刺出血，曰：“此亦一泪耶！”洪大惊，鞭之。生曰：“性耐刀槊，不堪鞭捶。”洪曰：“汝为尔不已，吾将以汝为奴。”生曰：“可不如石勒也。”及长，力举千钧，走及奔马。皇始五年，僭即皇帝位，大赦改年。群臣奏：“先帝晏驾甫尔，不宜改号。”生怒不从，穷推议主。寿光元年七月，杀右仆射段纯，以太子门大夫赵韶为仆射，太子舍人赵海为中护军，著作郎佐董荣为尚书，并以佞幸进也。九月，中书监胡文、中书令王鱼言于生曰：“比频有客星孛于大角，荧惑入于东井。大角为帝座，东井秦之分野。不出三年，国有大丧，大臣戮死。愿陛下遂遵周文，修德以禳之。”生曰：“皇后与朕对临天下，亦足以塞大丧之变。”于是杀皇后梁氏。诛太傅录尚书毛贵、车骑尚书令梁楞、左仆射梁安。后，安之女孙。又诛丞相雷弱儿，诸羌悉叛。弱儿，南安羌酋也。生虽在谅闇，游饮荒淫，杀戮无道，弯弓露刀，以见朝臣，锤锯锯凿，备置左右。未几，后妃公卿已下至于仆隶、诛五百余人。二年正月，嬖臣右仆射董荣言于生曰：“日蚀之灾，宜以贵臣应之。”生曰：“唯有大司马，国之懿戚，不可。”“其在王司空。”生从之，诛司空王堕壬戌，殍群臣于太极前殿，饮酒、乐奏，生歌以和之。命尚书令辛采典劝，既而怒曰：“何不强酒？犹有坐者。”引弓矢射采，杀之。于是百僚大惧，无不引满，昏醉污服，失冠蓬头僵仆，生以为乐。

三年四月，姚襄遣姚兰等帅众二万七千进据黄洛，生遣兵苻黄眉、东海王坚、建节将



军邓羌等，步骑万五千以讨之。羌伪不胜，引骑而退，襄追之，至于三原，羌回骑拒襄，大战获襄。襄有骏马日行千里，是战也，马倒而擒之。眉等振旅而归。初，长安谣曰：“东海大鱼化为龙，男便为王女为公。问在何所洛门东。”东海，苻坚封也，时为龙骧将军，第在洛门之东。生荒暴日滋，残虐弥甚。群臣朔望，漏尽诣见，生曰：“日尽午，须待宴讫。”或日暮而不出，百僚饥弊，或至申酉间方出。临朝辄怒色厉，惟行杀戮。或连月昏醉，弗堪省览。或使宫人与男子裸交于殿前，引群臣临而观之。或生剥牛羊驴马，活阉鸡鸭，三五十为群，放之殿中。或生剥死囚面皮，令其歌舞，观以为乐。宗室旧勋，亲戚忠良，杀害略尽，朝士奔走草野，皆曰：“从虎口出。”左右得度一日，如过十年。至于截脰剖胎，拉肋锯头，杀者动有千数。生夜对待婢曰：“阿法兄弟亦不可信，当除之。”是夜，清河王苻法梦神告曰：“且将祸巢汝门，惟先觉者可以免之。”寤而心悸，会侍婢来告，乃与特进梁平老、强汪等帅壮士数百人，潜入云龙门，东海王坚与吕婆楼师麾下三百余人鼓噪继进，宿卫将士皆舍杖归坚。生犹昏寝不寤，坚众既至，生惊问左右曰：“此辈何等人？”引生置别室，废为越王，俄而杀之。时年二十三。伪谥厉王，封子璿为越侯。

苻 坚

苻坚字永固，健弟雄之子。赵建武中，母苟氏祈子于西门豹祠，归而夜梦神交，遂孕，十二月而生坚，有神光之异，自天烛庭，背有赤文隐起，成字曰：“草付，臣又土，王咸阳”秘录而莫之传也。姿貌魁杰，臂垂过膝，目有紫光。祖洪奇而爱之，名坚头。因而谓健曰：“此儿头大重身长任大，足短安下，非常相。”赵右光禄大夫、司隶校尉高平徐统有知人之鉴，遇坚于路，异之，执其手曰：“苻郎，此官之御街，小儿敢戏于此，不畏司隶缚耶？”坚曰：“司隶缚罪人，不缚小儿戏也。”统顾左右曰：“此儿有霸王之相。”后遇之，统下车谓曰：“苻郎当大贵，但仆不及见，如何。坚曰：“若如公言，不敢忘德。”八岁，请就师学。洪曰：“尚小，未可。吾年十三，方欲求师，时人犹以为速成。”健之入关也，次于曲沃，梦天神遣使者朱衣赤冠，命拜坚为龙骧将军。旦而为坛于曲沃，健泣谓坚曰：“先王昔受此号，汝父曾为之，今若复为神明所授，可不勉之。”性至孝，有器度，博学多才艺。年十一，便有经略大志。

坚既杀苻生，永光元年六月，去皇帝之号，僭称大秦天王，即位太极殿。诛董龙等二十余人，改寿光三年为永兴元年。追尊父为文桓皇帝。世子宏为皇太子。兄清河王法为丞相，录尚书事。永安公苻侯为太尉，诸王皆贬爵为公。苻柳为尚书令。封弟融为阳平公，双河南公，子丕为长乐公，暉为平原公，熙为广平公。李威为左仆射，梁平老为右仆射，席宝为丞相长史，王猛为中书令，侍郎权翼为黄门郎，诸公卿为生所诛者，悉复本官。十月，丞相东海公法以疑忌赐死，苟太后之意也。坚性友爱，与法诀于东堂，恸哭呕血。二年四月，坚如龙门五畴。六月，如河东，祀后土。八月，自临晋登龙门，顾谓群臣曰：



“美哉，山河之固。”权翼对曰：“吴起有言，在德不在险，深愿陛下追踪唐虞，怀远以德。山河之固，不足恃也。”坚大悦，至韩原，观晋魏颗鬼结草抗秦军之处，赋诗而归。

甘露元年正月，起明堂，禅南北郊。六月，甘露降，乃大赦改年。八月，坚下书曰：“咸阳内史猛言彰出纳，所在著绩，有卧龙之才，宜人赞百揆，丝纶王言。可徵拜侍中、中书令、领京兆尹。”中丞邓羌，性鲠直，与猛协规齐志，于是百僚肃整，豪右屏风，风化大行。坚叹曰：“吾令始知天下之有法也。”以猛为吏部尚书，迁太子詹事。十一月，以猛为司隶，侍中、领迁如故。猛上疏曰：“伏见阳平公融，明德懿亲。光禄西河任群！忠贞淑慎。处士朱彤，博识聪辨。并宜左右弥纶，晖赞九棘。愚臣庸鄙，请避贤路。”坚曰：“机务俟才，允属明哲。朝野所望，岂容致辞。所举融等，寻别铨授。”于是以融为侍中中书监兼右仆射。任群为光禄大夫，领太子家令。朱彤为中书侍郎，领太子庶子。三年九月，凤凰集于东阙，大赦其境内。初，将为赦，与左仆射猛、右仆射融密议于露堂，悉屏左右，坚自为赦文，猛、融进纸笔。有一大苍绳，入自牖间，鸣声甚大，集于笔端，驱而复来，坚所听之，久而乃去，俄而长安街巷市里民相告曰：“官令大赦。”有司以闻，坚惊谓融、猛曰：“事何从而泄？”于是敕外推穷之，咸言有一小人，衣黑大呼于市，曰：“官令大赦。”须臾不见。坚叹曰：“其向苍绳乎！声状非常，吾固恶之。”四年七月，黄龙见于成纪，梁山崩。五年，白虎见天水。

六年，遣鸿胪拜张天锡为大将军、凉州牧、西平公。

建元元年正月，雍州秀才段铿对策上第，拜吏部郎中。孝廉通经者十余人，皆拜令长。五年六月，晋大司马桓温伐燕，次于枋头，燕师屡败，遣散骑侍郎药嵩来乞于坚，请割武牢以西之地。八月，遣将军苟池、洛州刺史邵羌帅步骑救燕，温败归。是月京兆尹王攸上书，献十略：一曰尹道宜明；二曰臣尚忠敬；三曰子贵孝养；四曰民生在勤；五曰教无偏党；六曰养民在惠；七曰延聘耆贤；八曰惩恶显善；九曰伐叛讨逆；十曰易简弘大。坚纳之，以攸为谏议大夫。

十一月，燕车骑吴王垂奔秦。桓温既走，慕容暕悔割河、沧之地以赂秦，乃曰：“行人失辞，分灾救患，理之常也。”坚大怒。六年，令辅国王猛，帅镇南阳安、虎牙将军张蚝、建节邓羌等步骑六万讨平燕冀。八月，猛攻克壶关，暕遣太傅上庸王评等帅四十万屯于潞川。猛觐知评卖水鬻薪，不抚将士，有可乘之会，大笑，谓杨安等曰：“慕容评真奴才，虽亿兆之众，尚不足为虑，况十万乎？今破之必矣。”甲戌，陈于渭原，猛誓众曰：“王景略受国厚恩，任兼内外，今与诸君深入贼地，宜各勉进，不可退也。受爵明君之朝，庆觴父母之室，不亦美乎”。众皆勇奋，破釜弃粮，大呼克进，猛望评师之众，恶之，谓邓羌曰：“今日之事，非将军莫可以捷也。成败之机，在斯一举也。将军其勉之。”羌曰：“若以司隶见与者，公无以为忧。”猛曰：“此非吾所及也。必以安定太守、万户侯相处。”羌不悦而退。俄而兵交，猛召羌，寝而不应。猛乃驰就，许之。于是大饮帐中，与张蚝、徐成等跨马运矛，驰入评军，出入数四，傍若无人，攀旗斩将，杀伤甚重，战及日中，燕



师败绩。进师围郾。七日，坚至于安阳故宅，引诸耆老语及祖父旧事，泫然流涕，乃停信宿。猛潜如安阳迎坚，坚谓之曰：“昔亚夫不出军迎汉文，将军何以临敌而背众乎？”猛曰：“臣每览亚夫之事，常谓前却人主，以此而为名将，窃未多之。臣奉陛下神算，出垂亡之虏，若摧枯拉朽，何足忧也。”戊寅，克郾，慕容暉出奔，将军郭庆执暉于高阳，送之。辛巳，坚入郾宫，大赦，阅其图籍，凡郡百五十七，县一千五百七十九，户二百四十五万八千九百六十九，口九百九十八万七千九百三十五。以王猛为使持节都督关东六州诸军事、车骑大将军、开府仪同三司、冀州牧，镇郾，封清河郡侯。以燕太宰恪、太傅评之第、尽赐之。加美妾五人，上女妓十人，中妓三十八人。猛辞，坚曰：“昔魏绛和戎，犹有金石丝竹之赏，山甫翼周，实受四牡之锡。卿功超二子，任过管、葛，安得辞也。其敬受之。无逆朕命。”以邓羌为散骑常侍、安定太守、真定郡侯，邑三千户，赏潞川之功。

七月七日，坚如洛阳，下书曰：“士死知己，犹来格模。故乔公一言，魏祖追衄。赵司隶高平徐统往在郾都，识朕于童稚，每思其殷勤之言，勿敢忘也。可召其子孙诣行所。”八年五月，以高平徐攀为琅琊太尉。攀，统之少子，以旧恩拔之也。六月，冀州牧猛入为丞相、中书监、司隶校尉。猛固辞丞相，改授司徒，又固辞不拜。乃停司徒之授。四月，天鼓鸣，晝出于箕尾，长十余丈，或名蚩尤旗，经太微，扫东井，自夏及秋冬不灭。太史令张猛言于坚曰：“尾，燕之分野，而扫东井。东井，秦之分。灾深祸大，十年之后，燕灭秦之象。二十年之后，燕当为代所灭。慕容暉父子兄弟，亡虏也，而布列朝廷，贵盛莫二，宜除渠帅，以宁皇秦。若旦诛鲜卑，不夕灭慕容者，臣请就妖言之戮。”坚不纳，更以暉为尚书，垂为京兆尹，冲为平阳太守。

十年三月，侍中太尉李威卒。威字伯龙，汉阳人，苟太后姑子。少与苻雄结刎劬之交，苻生屡欲诛坚，赖威以免，坚深德之，事威如父。诛苻生及法，皆威与太后潜决大谋，遂有辟阳之宠。雅重王猛，劝坚以国事任之。坚常谓猛曰：“李公知卿，犹鲍叔之于夷吾，罕虎之于子产。”猛兄事之。夏四月，坚下书曰：“巴夷险逆，寇乱益州，招引吴军，为唇齿之势。特进、镇军将军、护羌校尉邓羌，可帅甲士五万，星夜赴讨。”五月，蜀人张育、杨光等起兵二万，以应巴獠。晋威远将军桓石虔帅众二万人据垫江，张育自号蜀王，称藩于晋。八月，邓羌败晋师于涪西，击张育、杨光，屯于绵竹，皆斩之，益州平，羌勒铭于岷山而还。十二月，羌至自成都，坚引见东堂，谓之曰：“将军之先仲华，遇汉世祖于前；将军复逢朕于后，何邓氏之多幸。”羌曰：“臣常谓光武之遇仲华，非独仲华遭光武。”坚笑曰：“将军盖以自况，非直将军之幸，亦朕之遇贤。”十一年正月，以安车蒲轮征隐士陵康王劝为国子祭酒。坚雅好文学，英儒毕集，纯博之精，莫如劝也。终于太子少傅。

五月，猛寝疾，坚亲祈南北郊、宗庙、社稷，分遣侍臣祷河岳诸神，无不周备。以猛少廖，赦殊死。七月，坚临省疾，问以后事。猛曰：“晋僻陋吴越，乃正朔相承。臣歿之后，愿不以晋为图。鲜卑、羌虏，我之仇讎，终为大患，宜渐除之，以便社稷。”言终而



卒，时年五十一。坚哭之恸。谓太子宏曰：“天不欲使吾平一六合，何夺吾景略之速也。”赠侍中、丞相，余如故，谥武襄。朝野巷哭三日。

十二年正月癸巳，高陆民穿井得龟，大三尺六寸，背有八卦文，命太卜池养之，食之以粟。四月，坚下书曰：“凉州刺史张天锡，虽称藩受位，而臣道未纯，可遣步兵校尉姚萇等自石城津伐天锡。”天锡率劲勇五万来拒，战于赤岸，凉军大溃。天锡率骑数千，奔还姑臧，致笺请降于萇。甲午，大军至姑臧，天锡乘素车白马面缚异襟，降于军门。萇释缚焚襟，送之长安。诸郡县悉降，凉州平。九月，以梁熙为持节、西中郎将、凉州刺史，镇姑臧。徙豪右七千余户于关中。封天锡重光县之东宁乡二百户，号归义侯，拜北部尚书，迁右仆射。初，萇等将征天锡，坚为其立第于长安，至是而居之。

十三年，太史奏有星见于外国之分，当有圣人之辅，中国得之者昌。坚闻西域有鸠摩罗什，襄阳有释道安，并遣求之。

十七年，正月不雨至于六月。彻乐减膳，出宫女以迎和气。八月，坚收起居注及著作所录而观之，见苟太后、李威之事，惭怒，乃焚其书。著作郎董忠虽更书时事，然干不留一。八年三月，徙鄯铜驼、铜马、飞廉、翁仲于长安。十月，坚引群臣于太极殿，议曰：“东南一隅，未宾王化。今欲起天下兵讨之，计其精卒九十七万，吾将先启行，薄伐南裔。此行也，朕与阳平公之任，非诸将之事。左右仆射权翼、沙门道安、阳平公融、尚书石越等上书固谏，前后数十，坚不纳。十九年，晋车骑桓冲率众十万寇襄阳，遣其前将军刘波攻沔北。坚大怒，遣其子征南钜鹿公睿、冠军慕容垂、左卫毛当等将步卒五万救襄阳。坚下书曰：“吴人敢恃江山，屡寇王境，宜时进讨，以清宇内。便可戒严，速修戎备，发州民，则十丁遣一，兵居门在灼然者，为崇文义从。朕将登会稽，复禹绩，伐国存君，义同三王。其以司马昌明为左仆射，谢安为吏部尚书，桓冲为侍郎，势还不远，可并为起第。”八月戊午，遣征南大将军阳平公融、骑从张蚝、抚军大将军高阳公苻方、卫军梁成、平南慕容暕、冠军慕容垂，步骑二十五万为前锋。甲子，坚发长安，戎卒六十余万，骑二十七万，前后千里。九月，坚至项城，凉州之兵始达咸阳。蜀汉之军，顺流而下。幽冀之众，至于彭城，东西万里，水陆齐进。融等攻寿春，晋遣都督谢石、徐州刺史谢玄、豫州刺史桓伊、水陆七万，败坚于淝水。坚为流矢所中，单骑遁还于淮北，顾谓夫人张氏曰：“朕若用朝臣之言，岂见今日之事邪，当何面目复临天下乎！”潸然流涕。

坚诸军悉溃，惟慕容垂一军独全。比至洛阳，百官威仪、军容粗备。未及关而垂有二志，说坚请巡抚燕岱，并求拜墓，坚许之。权翼固谏以为不可，坚不从。坚至自淮南，次于长安东之行宫，入告罪于太庙。丁零翟斌反于河南，长乐公苻丕遣慕容垂及苻飞龙讨之。垂南结丁零，杀飞龙，尽坑其众。垂引丁零、乌丸之众二十余万，为飞梯地道以攻鄆城。慕容暕弟泓先为北城长史，闻垂攻鄆，亡命奔关东，收诸马牧鲜卑，众至数千，还屯华阴。苻乃潜使诸弟及宗人起兵于外，坚遣将军强永率骑击之，为泓所败，泓众遂盛，自称大都督、雍州牧、济北王，推叔父垂为丞相、大司马、冀州牧、吴王。坚谓权翼曰：



“吾不从卿言，鲜卑至是。关东之地，吾不复与之争，若将泓何？”翼曰：“寇不可长，慕容垂正可据山东为乱，不暇近逼，今雋及宗族种类，尽在京师，鲜卑之众，布于畿甸，实社稷之忧，宜遣重将讨之。”坚乃以广平公熙镇蒲坂。苻睿为都督，配兵五万，姚萇为司马，讨泓于华泽。平阳太守慕容冲起兵河东，有众二万，进攻蒲坂，命窦冲讨之。苻睿勇果敌敌，至华泽，败绩，被杀。坚大怒，萇惧诛，遂叛。窦冲击慕容冲于河东，大破之，冲奔于泓。泓至十万余，遣使谓坚曰：“秦师倾败，将兴复大燕，吴王以定关东，可速资备大驾，奉送家兄皇帝返邺都，与秦以虎牢为界，分王天下。”坚怒，召苻晖责之，苻叩头流血陈谢。坚久之曰：“此自三竖之罪，非卿之过。”复其位，待之如初。命苻以书招谕垂及泓、冲，使息兵还长安，恕其反叛之罪。而苻遣使谓泓曰：“今秦数已终，当不复能久立，吾既笼中之人，必无还理，勉建大业，以兴复为务。”泓于是进向长安，改年曰燕兴。坚率步骑二万讨姚萇于北地，姚萇率众七万来攻，坚为萇所败，闻慕容冲去长安一百余里，引师而归，使苻方成骊山，拜苻晖都督中外诸军事，配兵五万，拒冲。晖师败绩。坚人，以尚书姜宇与苻琳率众三万击冲于灊上，为冲所败，宇死之，琳中流矢，冲遂据阿房城，进逼长安。坚登城观之，叹曰：“此虏从何出也，吾不用王景略、阳平公之言，使白虏敢至于此。”长乐公苻丕在邺，粮竭、马又无草，削松木而食之。会丁零叛，慕容垂引师去邺，始具西问，知长安危逼，乃遣从弟求救于谢玄。

二十一年，慕容冲僭称尊号于阿房，改年更始。冲率众登城，坚身贯甲胄，督战拒之，飞矢满身，流血被体。时虽兵寇逼，冯翊诸堡壁，犹有负粮冒难而至者，多为贼所杀。先是，每夜有人周城大呼曰：“杨定健儿应属我，宫殿台观应坐我，父子同出不共汝。”旦寻而不见人迹。城中有书曰：“《古符传贾录》载‘帝出五将久长得’。”又谣曰：“坚入五将山长得。”坚大信之，告其太子宏曰：“脱如此言，天或导予。今留汝兼总戎政，勿与贼争利，吾当出陇，收兵运粮以给汝。”自将张夫人及中山公诜率骑数百出如五将山。六月，太子宏寻将母妻宗室男女数千骑出奔，冲入据长安。坚至五将山，姚萇遣将军吴忠围之，坚众奔散，独待御十数人而已，神色自若，坐而待之，召宰人进食。俄而忠至，执坚以归新平县，幽之别室。萇求国玺于坚曰：“萇次膺篆可以为惠。”坚瞋目叱之曰：“小羌乃敢于逼天子，岂以传国玺授汝羌乎！五胡次序，无汝羌名，违天不祥，其能久乎！玺已送晋，不可得也。”萇又遣右仆射尹纬说坚，求为尧舜禅代之事。坚曰：“姚萇叛贼，奈何拟之古人？”因问纬曰：“卿于朕朝作何官？”对曰：“尚书令史。”坚叹曰：“卿宰相才，王景略之流，而朕不知卿，亡也不亦宜乎。”八月，缢于新平佛寺中，时年四十八。张夫人、中山公诜等皆自杀。三军莫不哀悼。萇欲匿杀之名，乃谥为庄烈天王。长乐称号，伪谥坚为世祖宣昭皇帝。初，太子之奔也，假道归晋，历位辅国将军，桓玄篡位，以为梁州刺史。



苻丕

苻丕字永叙，坚之长庶子。少而聪慧好学，坚与之言将略，嘉之。才干亚于苻融，为将善收士卒。时出镇于鄯，东夏安之。坚败归长安，为慕容垂所逼，自鄯奔于枋头。坚之死也，建元二十一年，丕复入鄯城，将收兵赵魏，西赴长安。会平州刺史苻冲帅幽并人众击慕容垂，颇为垂将带方等所败，乃率众三万进屯壶关，使招丕。丕乃去鄯，帅兵六万进潞州，驃骑将军张蚝、并州刺史王腾迎之人据晋阳。始知长安不守，坚为姚萇所杀，乃举哀晋阳，僭即皇帝于晋阳南，立坚行庙，大赦，改建元二十一年为太平元年。九月，置百官。是月，安西吕光自西域还师。

二年正月，慕容垂僭称尊号。二月，慕容冲左将军韩延杀冲，立段随为燕王，改年昌平。正月，丕以吕光为车骑将军、梁州牧、酒泉公。是月，姚萇僭称尊号，氏有啖青者谓诸将曰：“狄道长苻登，虽王室属疏，而志略雄明，请共立之以赴大驾。”于是推登为使持节都督陇右、雍、河二州牧，率众五万，东下陇右，据南安，驰使请命。八月，丕以登为征南大将军、开府仪同、南安王，持节、雍州牧，因其所称而受之。九月，丕下书：“鲜卑慕容永，我之骑将，首乱京畿，祸倾社稷。其遣丞相王永帅禁卫虎旅覆而取之。”十月，与慕容永战于襄陵，王师大败。丕惧，率其众数千奔东垣，晋扬威将军冯该自陕要击斩之，送丕首于江东。苻登称尊号，谥为哀平皇帝。

苻登

苻登字文高，丕之族子。父敞，太尉司马。登少勇有壮气。建元元年，初拜殿中将军，迁羽林监、长安令，坐事黜为狄道长。太平二年，与姚萇战于格奴坂，大破之。十一月，丕子渤海王懿自吉城奔登，登乃具丕死闻，于是为丕发丧行服，为坛于陇东，僭即皇帝位，改太平二年为太初元年。

十二月，立坚神主于军中，引师而告坚神主曰：“今收合义旅，众余五万，星夜电迈，直造贼庭，庶上报皇帝酷怨，下雪人民大耻。”二年，登次于瓦亭。九月，进据胡空堡，戎夏归之者十有余万。姚萇掘坚尸，鞭挞无数，裸剥衣裳，附之以棘，坎土埋之。三年，登次朝那，姚萇据武都，相持累战，互有胜负。以登战胜，谓坚神将所助，亦于军中立坚神主，谓曰：“往年新平之祸，非萇之罪。陛下假臣龙骧，曰：‘朕以龙骧建业，卿其勉之！’明诏昭然，言犹在耳。岂假手苻登而图臣，忘前征时言耶？今为陛下立神像，可归休于此，勿计臣过，听臣至诚。”四年正月，登升楼谓萇曰：“自古安有杀君及立神像？”大呼曰：“杀君贼姚萇，出来与汝决之，何为枉害无辜？”萇悼而不应。萇自立坚神像，战未有利，军每夜惊，乃斩像首送登。六年三月，登自雍攻长安。七月，登攻新安，姚萇救之，登引退。



八年十二月，姚萇薨。九年，登闻萇死，喜曰：“姚兴小儿，吾将折杖以笞之。”于是大赦，尽众而东。四月，登从六陌趣废桥，与将尹纬据桥以待之。登与纬大战，为纬所败。登单马奔雍。初、登之东也，留太子崇守胡空堡，崇闻登败，弃城出奔，登至无归，乃奔平凉。收集遗兵入马毛山。七月，兴攻登于马毛，登遣子崇质于陇西鲜卑乞伏乾归，结婚请援。乾归遣骑二万救登，登引军出迎，与兴战于山南，为兴所败，死之。时年五十二。子崇奔于湟中，僭称尊号，改年延初，谥登为高皇帝。十月，崇为乾归所逐，奔于杨定，与崇帅众二万攻乾归，为乾归所败，崇、定皆死之。

自苻健皇始元年，岁在辛亥，晋永和七年。是岁，岁在甲午，四十四年，晋大元十九年也。

卷五 后秦录

姚弋仲

姚弋仲，南安赤亭羌人也。其先有虞氏之苗裔。昔夏禹封舜少子于西戎，世为羌长，其后烧当，雄于洮、罕之间。当七世孙填虞，虞九世孙迁斛，率种人内附，汉朝嘉之，假冠军将军西羌校尉、归顺王，处之于赤亭。斛玄孙柯为魏征西将军、绥戎校尉、西羌都督。柯生弋仲，少而聪猛，英果雄毅。永嘉之乱，戎夏羸负随之者数万，自称雍州刺史，护羌校尉，扶风公。刘曜以弋仲为平西将军。石虎废石弘自立，弋仲称疾不贺，虎累召之，乃赴。太宁元年，拜侍中征西大将军。石祗称尊号于襄国，以仲为右丞相。石祗为刘显所弑，仲乃与燕连和。有子四十二人，常诫诸子曰：“我死之后，汝归晋家，竭尽臣节。”乃使使降晋。晋永和七年，拜仲使持节六夷大都督、督江淮诸军事、仪同三司、大单于，封高陵郡公。八年薨，时年七十三。后仲尸柩为苻生所得，生以王礼葬之于天水。萇称尊号追谥景元皇帝，庙号始祖，陵曰高陵。

姚襄

姚襄字景国，弋仲第五子，雄武多才艺，能明察，善抚纳，士民爱敬之，咸请为嗣。仲以襄非嫡，不许。石祗僭号，以襄为使持节骠骑将军、护乌丸校尉。晋遣使拜襄持节平北将军、并州刺史、即丘县公。弋仲薨，率户八万，南至荥阳。晋处襄于谯城。遣五弟为任，单骑渡淮，见豫州刺史谢尚，一面交款，便若平生。扬州刺史殷浩惮其威名，遣谢万讨，襄逆击破之，鼓行济淮，屯于盱眙。朝廷大震，襄方轨引北，自称大将军、大单于，据许昌。自许遂攻洛阳，逾月不克。晋征西大将军桓温，自江陵伐襄，温至伊水，襄彻围



之，为温所败。襄奔还洛阳，率数千骑奔于北山，百姓随襄者四千余户。襄寻从北山，将图关中，进屯杏城，遣辅国将军姚兰略地郿城，苻生遣苻飞龙拒战，率众西引，与苻坚战于三原，为坚所杀。时年二十七，苻僭尊号，追谥魏武王。

姚 苻

姚苻字子茂，戈仲之第二十四子，少聪哲，多权略，不修行业。兄襄为苻坚所杀，苻率诸弟降于苻生。坚以苻为扬武将军、步兵校尉。潞川之战，累有殊功，迁左卫将军，累授幽州刺史。苻坚伐晋，以苻为龙骧将军，督益、梁二州诸军事。谓苻曰：“朕本以龙骧建业，龙骧之号，未曾假人。今特以相授。山南之事，一以委卿。”坚左将军窦冲进曰：“王者无戏言，此将不祥之征也。”坚默然。

白雀元年，慕容泓起兵叛坚，坚遣子睿讨之，以苻为司马。既而为泓所败，睿死之。苻遣参军姜协谢罪，坚怒杀之。苻惧，奔于渭北，归者五万余家，咸推苻为盟主，自称大将军、大单于、万年秦王。大赦改元，称制行事。二年六月，慕容冲入长安，司隶崔翼、尚书赵迁等数百人来奔。苻闻苻坚在五将山，遣骁骑吴忠率骑围之，苻自故县如新平，吴忠执坚送之。苻将求禅代，坚不许。慕容冲遣车骑大将军尚书令高盖来战于新平，大破之，盖率麾下数千人来降。

建初元年，僭即皇帝位于长安，大赦改年，国号大秦，改长安为常安。追尊考戈仲为景元皇帝，妣曰德皇后。子兴为皇太子。秋七月，苻如安定。二年，徙秦州三万户于安定。八月，以太子兴镇长安。四年十月，立社稷于长安。六年，大败苻登于长安。七年三月，苻寝疾，遣镇东姚欣德守长安，召太子兴诣行在所。八年十月，苻如长安，至于新支堡，疾笃，舆疾而进。十二月，至长安，召太尉姚晃、仆射尹纬等受遗诏辅政。苻曰：“吾气力转微，将不能复临天下，卿等善相吾子。”谓兴曰：“有毁此诸人者，慎勿受之。抚骨肉以仁，接大臣以礼，待物以信，遇民以恩，四者既备，吾无恨矣。”庚子，薨于永安宫，年六十四。谥武昭皇帝，葬原陵，庙号太祖。

姚 兴

姚兴字子略，苻之少子。苻薨，秘不发丧。皇初元年，乃发丧行服，即位于槐里，大赦改元。七月，如泾阳，与苻登战于山南。徙阴密三万户于长安。二年，以叔父绪为晋王，征西将军硕德为陇西王，弟崇为齐公，显为常山公。三年，以绪为并、冀二州牧，镇蒲坂。四年二月，遣齐公崇伐洛阳。弘始元年九月，大赦改元。冬十月，克洛阳，以东平公绍为都督山东诸军事、豫州牧，镇洛阳。四年五月，遣大将军陇西王硕德率步骑六万伐吕隆于凉州。先是，吐蕃僭据西平，沮渠蒙逊据张掖，李嵩据敦煌，各制方域共相侵伐。硕德从金城济河，直趣广武，迺苍松至隆城下。隆遣弟辅国超、龙骧超等率众拒



德，硕德大破之，生擒邈。傅擅、蒙逊、李嵩等各修表奉献。九月，隆奉表请降，兴答报嘉美，以隆为镇西将军、凉州刺史、建康公。十一月，鸠摩罗什至长安。七年正月，兴如逍遥园，引诸沙门听什说佛经。九年，以太子泓录尚书事。燕王慕容超遣使称藩。十年，与魏通和，贡马千匹。十一年，蜀譙纵遣使称藩。十六年五月，兴寝疾于内，太子泓以兵屯东华门，侍疾于谡议堂。尚书广平公弼潜谋为乱，招集数千人，持兵于第，兴疾损，升前殿，百官咸会。征虜刘羌泣曰：“陛下寝疾数旬，奈何忽有斯事。”兴曰：“朕过庭无训，使诸子不穆，愧于四海”兴以弼文武兼才，未忍致法，免其尚书令，以公就第。十七年十二月，兴疾重，广平公弼告病不朝，集兵于第。兴怒，乃收弼囚之。十二月，兴疾甚，遣收广平公弼第中甲杖，纳之武库。于是弼党率甲士攻端门，殿中上将军斂曼高勒兵拒战，不得入，遂烧端门。兴力疾临前殿，赐弼死。丁未，薨于殿。年五十三。谥文桓皇帝，庙号高祖，墓曰偶陵。

姚 泓

姚泓字元子，兴长子也。孝友宽和，而无经世之用，又多疾病。兴将以为嗣而疑焉，久之，乃立为太子。泓尝受经博士淳于岐，岐病，泓亲省疾，拜于床下。自是公侯见师傅，皆拜焉。兴如平凉，留泓总后事，冯翊人刘厥聚众据万年以叛，泓遣镇军彭白狼率东宫禁兵讨之，斩厥，赦其余党。

兴薨，泓即位，大赦，改元为永和元年，庐于谡议堂。既葬，乃亲庶政，内外百寮，增位一级。令文武各尽直言，勿有所讳。仇池公杨盛攻陷祁山，遂逼秦川，泓遣姚平救之。盛引退，姚嵩与平追盛，及于竹岭，姚讚率陇西太守姚秦都、略阳太守王煥以禁兵赴之。讚为盛所败，秦都、王煥皆战死。讚至秦州，退还仇池。先是，天水冀县石鼓鸣，声闻数百里，野鸡皆雊。秦州地震者三十二，殷殷有声者八，山崩舍坏，咸以为不祥。及嵩将出，群僚固谏，不听。识者以为：秦州泓之故乡，将灭之征也。赫连勃勃攻陷阴密，执秦州刺史姚军都，坑将士五千余人，进兵侵雍，遂据抄掠郿城。姚绍及征虜尹昭、镇军姚治等率步骑五万讨之，战于马鞍坂，勃勃兵败，走还秦。而晋相刘裕总大军伐泓，次于彭城，遣檀道济、王镇恶入自淮肥，攻漆丘、项城。沈林子自汴入河，攻仓垣。泓将王苟生以漆丘降镇恶。徐州刺史姚掌以项城降道济。晋师遂入颍口，所至多降服。

姚绍闻晋师之至也，驰还长安，言于泓曰：“晋师已过许昌、豫州，安定孤远，卒难救卫。宜迁诸镇户，内实京畿，可得精兵十万，足以横行天下。假使二寇交侵，无能为也。如其不尔，晋侵豫州，勃勃寇安定者，将若之何？”吏部郎懿横又以齐公姚恢有忠勋于国家，未有殊赏，今致之死地，安定人人自危恐，必生变，宜征还朝廷，以慰其心。”泓并不从，晋师至成皋，征南姚洸时镇洛阳，部将赵玄说洸曰：“今寇逼已深，百姓惊惧，众寡势殊，难以应敌。宜摄诸戍兵士，固守金墉，以待京师之援。不可出战，如战不捷，



大事去矣。金墉既固，师无损败，吴寇终不敢越金墉而西，困之于坚城之下，可以坐制其弊。”洸用姚禹、闾恢之策，卒遣玄出战，会阳城、成皋、荥阳、虎牢诸城，悉皆降于道济。玄战败，死于百谷。道济进至洛阳，洸惧出降。

泓母弟懿险薄，用其司马孙畅谋，欲袭长安，诛姚绍，废泓而自立。遂举兵僭号，传檄州郡，时征北姚恢说率安定镇户三万八千焚烧室宇，以车为方阵，自北雍州趋长安，自称大都督、建义大将军，移檄欲除君侧之恶，军势甚盛。泓见内外离叛，晋师渐逼，岁旦朝群臣于前殿，凄然流涕，群臣皆泣。姚绍率轻骑先赴难，姚讚亦率诸军还长安，遂击杀恢及其三子。泓乃进绍太宰、大将军、大都督、中外诸军事，假黄钺，改封鲁公。率武卫姚鸾等距晋师于潼关，道济固垒不战，绍遣左长史姚洽等屯于河北，欲绝道济租输，为沈林子所败，众皆没焉。绍忿患发病，呕血而死。泓遣使乞师于魏，魏遣司徒南平公拔，拔等进据河内，为泓声援。刘裕次于陕城，泓使姚裕率步骑八千距之，泓躬将大众继发。裕为沈田子所败，泓退次于灊上，姚讚距晋师于关西，姚难屯于杏城。时大霖雨，渭水汎溢，王镇恶水陆兼进，追及姚难。泓自灊上还军，次于石桥以援之。晋师进据郑城，泓使姚裕、尚书庞统屯兵宫中，姚洸屯于泮西，尚书姚白瓜徙四军杂户入长安，姚丕守渭桥，胡翼度屯石积，姚赞屯灊东，泓军于逍遥园。镇恶夹渭进兵，破姚丕于渭桥，泓自赴之，逼水地狭，因丕之败，遂相见而退。姚湛、姚烈、姚宝等皆死于阵。泓单马还宫，镇恶入自平朔门，泓与姚裕数百骑出奔于石桥。

讚闻泓败，召将士告之，皆以戈击地，攘袂大哭。胡翼度弃众奔晋。讚夜率诸军会泓于石桥，晋师已固诸门，讚军不得入，众皆惊散。泓计无所出，谋欲降晋，其子佛念年十二，谓泓曰：“陛下今虽降晋，刘裕待人无礼，终必不全。愿自我决。”恍然不答，遂登宫墙自投而死。平原公璞、并州刺史尹昭，以蒲坂降晋。东平公讚率宗室子弟百余人亦降于裕，裕尽杀之。九月，裕至长安，送泓于建康市而戮之，时年三十。建康百里之内，草木焦死。

自姚萇白雀元年岁在甲申至于是岁在丙辰，三十有三岁。

卷六 蜀录

李 特

李特字玄休，巴西宕渠人。其先康君之苗裔，秦并天下，以为黔中郡，薄赋敛之，口岁出钱四十。巴人谓赋为资，因谓之资人焉。及高祖为汉王，始募资人，平定三秦，既而不愿出关，求还乡里。高祖以其功，复同丰沛，更名其地为巴郡。土有盐铁丹漆之利，民用敦阜，俗性剽勇，善歌舞。高祖爱其舞，诏乐府习之，今巴渝舞是也。其后繁昌，分为



数十姓。及魏武克汉中，特祖父虎将五百家归魏，魏武嘉之，迁略阳（一云洛阳），拜虎等为将军。徙内者亦万余家，散居陇右诸郡及三辅、弘农，所在号巴氏。虎子慕为东羌猎将，慕生有五子，辅、特、庠、流、骧。特身長八尺，雄武善骑射，沉毅有大度。元康中，氐齐万年反，关西扰乱，天水、略阳、扶风、始平诸郡皆被兵，频岁大饥，流移就谷，相与入汉川者数万家。特至剑阁，顾盼险阻，曰：“刘禅有如此之地而面缚于人，岂非庸才耶！”同移者閼氏等咸叹异之。初、流民既至汉中，上书求寄食巴蜀，朝廷从之。由是散在梁、益，不可禁止。

永康元年，诏征益州刺史赵廋为大长秋，以成都内史耿滕代廋。廋遂谋叛，潜有刘氏割据之志。滕率众人内，廋遣众迎之，战于西门，滕败走，廋获杀之。廋自称大将军、益州牧。特弟李庠与兄弟及妹夫李含、任回等以四千骑归广廋，廋以庠为灭寇将军，使断北道。庠素东羌之良将，晓兵法，部阵肃然。廋恶其齐整，杀之。复以特为督将，特兄弟既怨廋，引兵归绵竹。廋恐朝廷疑己，遣长史费远等督万余人断北道，次绵竹之石亭，密收合得七千余人，夜袭远军，远军大溃，因放火烧之，死者十八九。进攻成都，廋闻兵至，惊怕不知所为。李廋等夜斩关走，文武尽散。廋独与妻子乘小船走至广都，为其下人朱竺所杀。先是，梁州刺史罗尚闻廋叛，上表称廋非雄才，又蜀人不愿为乱，事终无成，愿欲征之。惠帝遣尚为平西将军、益州刺史，率七千余人入蜀。特等闻尚来，甚惧，使其弟骧于道奉迎，并贡宝物，尚甚悦。

冬十月，六郡流人推特行镇北将军，承制封拜。其弟流行镇东将军，弟骧骁骑将军，少子雄为前将军，以相统领，进兵攻尚于成都，颇为特所败，乃阻长围，缘水作营，自都安至犍为七百里，与特相拒。大安二年，部下推特为大将军，大赦，改元为建初元年。益州从事任回说尚曰：“特既凶逆，侵暴百姓，今又分散人众，在诸村堡，骄怠无备，是天亡之时也。可告诸村，密刻期日，内外击之，破之必矣。”尚从之，遣大众奄袭特营。尚出逆战，到官桑，特军败绩，死之。雄称成都王，追谥景王，及称尊号，追尊曰景皇帝。庙号始祖。

李 流

李流字玄通，特第四子也。少好学，便弓马，东羌校尉何攀称流有贲、育之勇，举为东羌校尉，平赵廋于成都。晋朝论功，拜奋威将军，封武阳侯。建初元年，特既见杀，流自大将军、益州牧。九月，流疾笃，谓诸将曰：“骁骑高明仁爱，识量多奇，固足以济大事，然前军英武，殆天所相，可共受事于前军，以为成都王也。”遂薨，年五十六。诸将共立雄为主，雄称尊，追谥流秦文王，子龙嗣。

李 雄

李雄字仲隼，特第三子，母罗氏，梦双虹自门升天，一虹中断，既而生荡。后罗氏汲



水，忽然如寐，梦大蛇，绕其身，遂有孕，十四月而生雄。常言二子若有先亡，在者必大贵。荡以李流世卒。雄长八尺三寸，美容貌，相工相之曰：“此君将贵，其相有四目如重云，鼻如龟龙，口方如器，耳如相望，法为大贵，位过三公不疑。”雄少有烈气，有识者皆器重之。特称益州牧，以雄镇梓潼，又拜前将军。流薨，雄称大将军、益州牧，治郫城。以西山范长生岩居穴处，求道养志之士，雄欲迎为君而臣之。长生固辞曰：“惟步大元，五行大会甲子，祚钟于李，非吾节也。”

建兴元年十月，雄即成都王位于南郊，大赦改元，约法七章。以叔父骧为太傅，兄虎威为太保。晏平元年三月，范长生乘素舆诣成都，雄迎于大门，执版延坐。长生请雄对坐，即拜丞相，尊曰范贤。生长劝雄称尊号。

夏六月，僭即帝位，大赦改元，国号大成。追尊父特为景帝，母罗氏为太皇后。十月，加丞相范长生为天地大师之号，封西山侯。玉衡五年正月，立妻任氏为皇后。八年四月，范长生卒，以其子侍中贲为丞相。长生善天文，有术数，民奉之如神。十四年，立兄子班为太子。二十四年五月，雄寝疾。六月丁卯薨，年六十一。谥武皇帝，庙号太宗。十月，葬安都陵，太子班袭位。

李 期

李期字世运，雄第四子。聪慧好学，弱冠能属文。雄薨，班即位，雄子车骑将军越自江阳奔丧，以期与班非雄所生而嗣位，心不平，十月因夜哭临，越杀班于殡宫。班字世文，雄兄荡第四子，雄妻任氏无子，养班为子。越既杀班，于是矫太后令，罪状，谥厉太子。立期为主。甲子，期僭即皇帝位，玉恒元年正月，大赦改元，立妻阎氏为后。四月，大将军汉王寿率步骑一万自涪向成都，期不虞至，预不设备，至即克城，屯兵宫门，杀相国建宁王越、尚书令景寿、尚书田襄等，废期为郫都县公，幽之别宫。期自杀，年二十五，谥曰幽公。

李 寿

李寿字武考，特季弟骧之少子。少尚礼容，敏而好学。雄奇其才器，以为足荷重任，封为建宁王。雄薨，期立，改封汉王，领梁州刺史，治涪城。寿见期兄弟十余人并有强兵，惧不自全，阴谋据成都称藩于晋，乃誓文武，得数千人，袭成都，克之。纵兵塘掠，数日乃定。僭即皇帝位于南郊，大赦，改咸康四年为汉兴元年。追尊父骧为献皇帝。三年六月，寿下书曰：“吴会遗烬，久通天诛，今将大兴百万，躬行罚。九月，大阅军士七万余人，舟师溯江而上，过成都，鼓噪盈江，寿登城观之。群臣曰：“国小众寡，吴会险远，图之未易。”叩头泣谏，乃止。兵人咸称万岁。十月，讲礼于太学，举明经者，封好学者。四年，以太子势领大将军，录尚书事。六年，分宁州乾右、永昌、云南、朱提、越隽、河



阳六郡为汉州。四月，寿寝疾，常见李期为祟。八月薨，年四十，谥昭文皇帝，庙号中宗，葬安昌陵。

李 势

李势字子仁，寿之长子。身長七尺九寸，腰带十四围，善于俯仰，时人异之。寿既薨，僭即帝位，大赦改元。太和元年正月，尊母阎氏为皇太后，妻季氏为皇后。嘉宁二年，晋征西将军荆州刺史桓温来伐，势大发军御之。镇东李位都逆往降。温达成都之十里陌，势众自溃。三月，温至城下，纵火烧其大城诸门。势众惶惧，无复固志，势乃夜开东门，走九百里，至晋寿，然后送降文于温。势寻與梓面缚军门，温解缚焚桎，送势及叔父福（《载云》云：及弟福。）等十余人于建康。晋封为归义侯。升平五年，卒。常璩字道将，蜀成都人，少好学，著《华阳国志》十篇，序开辟以来，迄于李势，皆有条理云。宕渠，古賁国，今有賁城。秦始皇时有长人，长五丈，见宕渠。秦史胡毋敬曰：“五百年，其地必有异人为大人者。”及雄之称尊号，祖先出自宕渠，有识者皆以为应之。谯周云：“我死后三十年，当有异人人蜀。”又著谶云：“广汉城北有大贼曰流特攻难得，岁在玄宫自相克。”又惠帝之世，蜀童谣曰：“江桥头，阙下市，成都北门十八子。”至是而应焉。

李特以晋永宁元年岁在辛酉起兵，至势嘉宁二年晋永和三年岁在壬戌而降晋，合四十七年。

卷七 前凉录

张 轨

张轨字士彦，安定乌氏人，汉常山王耳十七世孙。祖烈，魏外黄令，父温，太官令。母陇西辛氏。轨少好学明经与同郡皇甫士安友善，拜太子舍人，与京兆杜预善，以所注《易》遗之。太康中，为尚书郎、太子洗马、中庶子，迁散骑常侍，征西将军司马。轨以晋室多难，阴图保据河西，追窦融故事。筮之，遇泰之观，轨喜曰：“霸者之兆。”乃求为凉州。公卿亦举轨，拜凉州刺史，课农桑，拔贤才，置崇文祭酒，征九郡胄子五百人，立学校以教之。永兴二年，拜安西将军封乐乡侯。惠帝崩，遣长史北宫纯、司马纂、别驾阴监奉表哀京师。是岁，大城姑臧，其城本匈奴所筑也，南北七里，东西三里，地有龙形，故名卧龙城。永嘉四年十一月，黄龙出于临羌河，发水升天，身長十余丈。五年，帝遣使拜车骑大将军、开府仪同三司。荣命未至，而刘曜攻陷长安，迁晋帝于平阳。建兴元年，晋愍帝即位于长安，遣使者拜轨镇西大将军、开府仪同三司、加侍中，封西平郡公，固让不



受。三年，进拜太尉、凉州牧。以轨年老多疾，拜子寔行抚军，副凉州刺史。五月，轨寝疾，立子寔为世子。己丑，薨于正寝，年六十。葬建陵，册赠侍中、太尉，谥武穆，张祚僭号，追尊武王，庙号太宗。

张寔

张寔字安逊，轨之世子也。学尚明察，敬贤爱士，晋举秀才，除尚书郎。永嘉元年，固辞骁骑将军，请还凉州，帝许之。改授议郎、西中郎将。建兴元年，长史张玺等表寔嗣位。十月，帝遣使授西中郎将凉州刺史西平公。二年十一月，帝将降刘曜，进寔侍中、司空、凉州牧。三年，始知刘曜逼迁天子平阳，大临三日。五年，南阳王宝闻愍帝崩，自称晋王，年号建康，置百官，遣使拜寔征西大将军、开府仪同三司，增邑三千户。六年六月，京兆人刘弘挟左道以眩惑百姓，密与寔左右十余人谋杀寔，怀刀入内，斩寔于外寝，时年五十。葬宁陵，晋王宝册赠寔大司马，凉州牧，谥曰元公。张祚僭号，追尊曰明王，庙号高祖。母弟茂嗣、以寔子幼嗣。茂字成逊，实之母弟，虚靖好学，不以势利为心。建兴元年，相国南阳王宝辟从事中郎，又荐为给事黄门侍郎，皆不就。二年，征为侍中，又以疾固辞。四年，拜秦州刺史，加散骑常侍；领雍州，皆不受。寔左司马阴元等以寔既被害，子骏冲幼，宜立长君，乃推茂为大都督、太尉、凉州牧。茂不从，以平西将军行都督凉州诸军事、护羌校尉、凉州牧、西平公，大赦境内。九月，立寔子骏为世子。三年，刘曜遣鸿胪拜茂太师、凉王。四年，茂寝疾，执骏手泣曰：“吾先人以孝友见称，自汉以来，世执忠顺，汝谨守忠节，毋或失堕。”薨于正寝，年四十八。刘曜遣使赠太宰，谥成烈王。张祚僭号，追尊曰成王，庙号太宗。

张骏

张骏字公庭，寔之世子。永嘉元年生，幼而奇伟，十岁能属文。茂之四年，拜使持节大都督、大将军、凉州牧、西平公，大赦境内。刘曜遣使拜大将军、凉州牧。元年正月，亲耕藉田。二月，始承晋元帝崩问，大临三日。四年十二月，刘曜为勒索擒，曜太子毗及刘胤等率众奔上邽。六年二月，石勒称天王。遣使拜骏征西大将军、凉州牧，加五锡之礼。八年，群僚劝骏称凉王，置百官。骏曰：“此非人臣所言，敢有此言，罪在不赦。”又请立世子，乃立重华为世子。十二月，鄯善王元礼献女姝好，号曰美人，立宾遐观以处之。十四年五月，雨雪降霜，骏避正殿，素服，命群寮极言得失。十五年，以右长史任处领国子祭酒，立辟雍、明堂而行礼焉。命西曹掾集阁内外事付索綯，以著《凉春秋》。十一月以世子重华行凉州事。十九年田于建西，逾玉石县。九月，改玉石县为金泽县。二十一年，始置百官，官号皆拟天朝，车服旌旗一如王者。酒泉太守马岌上言：“酒泉南山既昆仑之体，周穆王见西王母，乐而忘归，即谓此山。有石室、玉堂、珠玑镂饰，焕若神



宫。《禹贡》：“昆仑在临江之西，即此明矣。宜立西王母祠，以裨朝廷无疆之福。”骏从之。二十二年六月，薨于正德前殿，年四十。晋遣策赠大司马，谥忠成公。七月，葬大陵，张祚僭号，追尊文王，庙号世祖。

张重华

张重华字泰临，骏第二子，宽和懿重，沉毅少言。骏薨，右长史任处上华为使持节、大都督、太尉、凉州牧、护羌校尉、西平公、假凉王，大赦境内。三年九月，晋遣使者拜侍中大都督陇右诸军事、大将军、凉州刺史、领护羌校尉、西平公。重华以位号未称，怒不受诏。群寮上重华为丞相、凉王、雍秦凉三州牧。五年重华宴群寮于间豫庭，论讲经义。顾问索綽曰：“孔子妇谁家女？老聃父字为何？四皓既安太子，住乎？还山乎？”綽曰：“孔子妇姓亓官氏。老聃父名乾，字元果，胎前无耳，一目不明，孤单，年七十二无妻，与邻人益寿氏老女野合，怀胎八十年乃生老子。四皓还否，臣尚未悉。”重华曰：“卿不知乎四皓死于长安，有四皓冢，为不还山也。”七年十月，重华寝疾临春坊，遣左长史马岌荣拜子灵曜为世子，大赦境内。十一月薨于平章殿，年二十七。葬显陵。张祚僭号，追谥桓王，庙号世祖。

张祚

张祚字太伯，骏之长庶子，博学雄武，有政治之才。骏之二十一年，拜延兴太守，封宁侯。重华薨，子灵曜嗣。七年十一月，右长史赵长等矫称遗令，以祚为使持节、都督中外诸军事、抚军大将军、辅政。十二月，赵长等议以灵曜冲幼，世难未夷，宜立长君，废曜为宁凉侯，立祚为大将军、护羌校尉、凉州牧。赵长等议僭即王位于谦光殿，大赦，改元为和平元年。立妻辛氏为皇后，子太和为太子，封弟天锡为长宁侯，重华少子玄靖为凉武侯，置百官。二月尊祖父，郊祀天地。二年，有神降于玄武殿，自称玄宴，与人交语。祚日夜祈之，神言与之福利，祚甚信之。征东张璠遣兵传檄，废祚还第，复立灵曜。八月，祚收璠弟琚及其子嵩等。骁骑将军宋混兄修，素与祚有隙，大惧。祚疑之，混西奔，招合夷晋，众至万余人，还向姑臧。祚遣阳秋胡将灵曜于苑，拉其腰而杀之，埋于沙坑。九月，宋混次于武始大泽，为灵曜发哀。闰月，混至姑臧。祚登神雀观，张琚、张嵩杀祚守卒，死者四百余人，斩西门关纳混，领军赵长开宫门以应琚，长驰入殿中，大呼称万岁。祚以长败贼，下观劳之，长奋槊刺祚中额，奔入万秋阁，为厨士徐里所杀。以庶人礼葬之。天赐即位，备礼改葬于愍陵，追谥威王，封子延坚为金泽侯。

张玄靖

张玄靖字元安，重华少子，母郭夫人。和平二年，宋混、张琚等上玄靖为大将军、凉



州牧、护羌校尉、西平公，时年七岁。张璠至姑臧，推玄靖为大将军、凉王。自为使持节都督中外诸军事、尚书令、凉州牧、张掖郡公。四年五月，东苑大家上忽有灾，池东天泽地燃，广袤数丈。执法御史杜逸言于璠曰：“此皆变之大者，可就禳之。”璠征兵数万，集于姑臧，谋讨宋氏。混与弟澄及左右壮士杨和等四十余骑奔入南门外，令诸营曰：“张璠得罪，被太后诏诛之。”俄而众至二千，拥璠率众出战，混击败之，众悉去，璠自杀。混人见玄靖，以混为使持节中外都督诸军事、骠骑大将军、酒泉郡侯，辅政。五年六月，大旱，令诸祈雨之官咏《云汉》诗。儒林祭酒索綝曰：“《云汉》陈周宣之美，非旱之文。昔神鼎之出汉，虞丘不贺。今辞与事违，恐非致泽之意也。”綝字士艾，敦煌人，父戢为司徒。綝家贫好学，举孝廉，为记室祭酒，母丧去职。后举秀才，著《凉春秋》五十卷。又作《六夷颂》符命、传十余篇，以著述之功封平乐亭侯。六年，宋混卒。天锡以使持节都督诸军辅政。八月，右将军齐南等议，以靖多难，务须立长君。劝天锡自立。闰月，天锡遣肃等夜害玄靖，时年十四，葬平陵，谥冲王。

张天锡

张天锡字纯嘏，骏之少子。母曰刘美人，玄靖即位，年十八。谒于太庙，尊母刘氏为太后。元年四月，秦遣鸿胪回国拜天锡大将军、凉州牧、西平公。三年姑臧北山杨树生松叶，西苑苑鹿生角，东苑铜佛生毛，延兴地震，陷裂水出。天锡避正殿，引咎责谢。晋遣使拜陇右关中诸军大将军、凉州牧、西平公。八年，郡国火，燃于泥中、三十所。苻坚复有兼并之规，天锡大惧，遣从事中郎韩博奉表于晋人，与桓温书，克其年大举，都会上邽。十年，以世子怀为使持节、镇西将军、高昌郡公，次子大豫为世子。豫母焦氏为左夫人。七月，大水，地震西平五十，日中地十动，土楼崩。天锡疾，美人阎姬、薛姬皆自杀。二姬因色并有殊宠，天锡每谓之曰：“汝二人将何以报我，我死之后，岂可更为人妻？”皆曰：“尊若不讳，妾请效死于前，洒扫于地下，无他志。”十月，天锡疾瘳，大赦境内，追悼二姬，葬以夫人礼。十三年五月，苻坚遣武卫将军句长等率众来伐，天锡遣中卫将军史景等拒战赤岸，为秦所败。在锡纳左长马芮之言，面缚降秦，东徙长安，拜归义侯、北部尚书，迁右仆射。随苻坚败于淮南。又入晋为员外散骑常侍，复本封。薨，赠镇西将军，谥悼公。

张轨以晋永宁九月辛巳岁牧凉州，至天锡败亡之岁，岁在丙午，八主，七十六年。



卷八 西凉录

李 暠

李暠字玄盛，陇西狄道人也。汉前将军广十六世孙，广子侍中敢之后。李氏世为西州著姓，祖父弇，前凉武卫将军，天水郡太守、安世亭侯。父昶，字中坚，幼有令名，世子侍讲，年十八卒。暠，昶之遗腹子，少而好学，沈敏有器度。后凉龙飞二年，建康太守段业自称凉州牧，号神玺元年，拜暠效穀令。二年，敦煌索仙等以暠温毅有惠政，推暠为敦煌太守。段业复暠镇西将军，领护西夷校尉。庚子元年十一月，晋昌太守唐瑶移檄六郡，推暠为大将军、凉公，领秦凉二州牧，大赦改年，追尊祖弇凉景公，父昶凉简公，以瑶为征东将军。二年正月，于南门起静恭堂，以议朝政。图赞自古圣帝、明王、忠臣、孝子、烈士、贞女，亲为序颂，以作鉴戒。五年正月，立泮宫，增高门学生四百人。四月，敦煌有葛缘木而生，作黄鸟之形。世子谭卒。九月，立第二子歆为世子。正月，大赦改年为建初元年。三月，宴于曲水，命群寮赋诗，暠亲为之叙文，写诸葛亮《训厉》以戒诸子。十三年正月，寝疾，顾命长史宋繇曰：“吾终之后，嗣子犹卿子也，善相辅导。”二月，薨于恭德殿，年六十。葬建世陵，谥昭武王，庙号太祖。初，暠为群雄所推，定千里之地，谓张氏之业不足成，河西十郡，岁月而一。既而傅檀人姑臧，蒙逊基宇稍广，于是慨然著《述志赋》。初，河右不生橄榄。张骏之世，取秦陇植之，皆死，至是而酒泉言西北有槐生焉，乃作《槐树赋》，又作《妇辛氏谏》自余赋数十篇。

李 歆

李歆字士业，暠第二子。暠薨，左长史宋繇等上为大将军凉公，领凉州牧、护羌校尉。大赦，改年为嘉兴元年。七月，歆闻蒙逊南伐西秦，中外戒严，将攻张掖。尹太后以为不可，宋繇亦谏，歆怒不从，遂率步骑三万东伐，次于都渎涧，蒙逊自浩亶来，战于怀城，歆败，左右劝还。歆曰：“吾违太后明诲，远取败辱，不杀此胡，复何面目以见母也。”勒众复战，败于蓼泉，为逊所杀。歆弟骠骑将军翻、击虏将军豫等西奔敦煌，蒙逊遂入酒泉。翻及敦煌太守恂兴诸子等奔敦煌，奔于北山，郡人宋承、张弘等以恂在郡有惠，密信招恂，恂率千骑入于敦煌，宋承、张弘等推恂为凉州刺史。逊率众二万攻恂，宋承等开门出降，恂自杀。恂，暠之第六子也。逊获翻子宝徙于姑臧，岁余，北奔伊吾，后二十余年，至魏太平三年，宝至伊吾，率流人及虏骑南袭敦煌，据之，遣使降魏。魏以宝为使持节、侍中、都督西垂诸军事、镇西大将军、开府仪同三司、领护戎校尉、沙州牧。



敦煌公，承制玉门以西。宝宽雅有度量，甚著威惠于西土。在敦煌三年，徙并州刺史，薨谥宣公。

自龔元年在庚子，至为蒙逊所灭，二十一年。

卷九 北凉录

沮渠蒙逊

沮渠蒙逊，临松卢水胡人。其先世为匈奴左沮渠，遂以官为氏。逊好学，涉群史，雄烈有英略。后凉龙飞二年，逊伯父罗仇、麹粥从吕光征河南，光前军大败，皆为光所杀，宗部会葬者万余人，逊哭谓众曰：“昔汉祚中微，吾之乃祖，翼奖宴融，保宁河右，吕王毫荒，虐民无道，岂可坐观成败，不上继先祖安民之志，下使二父有恨黄泉？”众咸称万岁，遂立盟约，旬之间，众至万余，与从兄男成推光建康太守段业为凉州牧，建康公，改龙飞二年为神玺元年。业以逊为张掖太守，男成为辅国大将军，委以军国之任。永安元年三月，逊以为业所惮，内不自安，请为安西太守。四月，业收男成赐死。逊闻男成死，泣告众曰：“男成忠于段公，往见屠杀，诸军能为报仇乎！”成素有恩信，众皆愤泣而从之，北至氐池，众逾一万。业遣右将军田昂、武卫将军梁中庸等攻侯坞，逊自氐池救之，昂率骑五百归逊，军遂大溃，中庸来奔。五月，逊至张掖，田昂兄子承爱斩关纳逊，业左右散走。逊大呼曰：“镇西何在？”军人曰：“在此。”业曰：“孤单飘一己，为贵门所推，可见乞余命，投身岭南，庶得东还与妻子相见。”逊遂斩之。六月，右长史梁中庸等推逊为大将军、凉州牧，大赦改元。永安四年，秦鸿、梁斐拜逊镇西大将军、开府仪同三司、沙州牧、西海公。

九年二月，两月并出。正始元年冬十月，迁都姑臧。十月，僭即河西王位于谦光殿，大赦改元，置百官，始如吕光为三河王故事。三年四月，立子德政为世子。三年二月，与西秦通和，逊西巡，遂循海至盐池，祀西王母寺。寺中有玄石图，命中书侍郎张穆为赋铭于寺前。十四年，起游林堂于内苑，图列古圣贤之像。九月，堂成，遂宴群臣，论谈经传，顾谓郎中刘炳曰：“仲尼何如人也！”炳曰：“圣人也。”逊曰：“圣人者不凝滞于物，而能与事推移。畏于匡，辱于陈，伐树削树削迹，圣人固若是乎？”炳不能对。逊曰：“卿知其外，未知其内。昔鲁人有浮海而失津者，至于亶州，仲尼及七十二子游于海中，与鲁人木杖，令闭目乘之，使归告鲁侯，筑城以备寇。鲁人出海，投杖水中，乃龙也。其以状告，鲁侯不信，俄而有群雁数万，衔土培城，鲁侯信之，大城曲阜。訖而齐寇至，攻鲁不克而还。此其所以称圣也。”义和元年十二月，魏遣太常李慎拜逊太傅、凉州牧、凉王，加九锡之礼。三年夏四月，逊寝疾，立子茂虔为世子，薨于路寝。五月，葬元陵。谥武宣



王，庙号太祖。

沮渠茂虔，逊第三子，聪颖好学，和雅有度。义和三年，立为世子，加中外都督、大将军、录尚书。逊薨，僭即河西王位，大赦，改年为永和元年，立子封疆为世子，加抚军大将军，录尚书事。三年五月，西中郎将敦煌太守沮渠唐儿上言曰：“十五日，有一老父见于郡城东门，投书，忽然不见。其书一纸，八字满之。文曰：‘凉王三十年，若七年’。”虔访于奉常张慎，慎曰：“昔虢将亡，神降于莘。深愿陛下克念修政，以副三十年之庆。若盘于游田，荒于酒色，臣恐七年将有大变。虔不悦。”七年正月，朝群臣于谦光殿，有狐在于东序，门者不见其人，左右以告，搜之不获。二月，端门崩。初、虔为酒泉太守，起浮屠于中街，有石象在焉。是月，目流血。五月，太庙基陷。六月，当阳门崩。魏常山王赤坚率众至姑臧，虔婴城拒守。九月，面缚出降。魏释其缚，徙虔及宗室士民十万户于平城，拜虔征西大将军，王如故。八年。死。赐谥哀王。

自逊永安元年岁在辛丑至是岁庚寅，三十九载。

卷十 后凉录

吕光

吕光字世明，略阳人，其先自沛迁略阳，因家焉。世为氐酋。父婆楼，字广平，佐命前秦，官至太尉。光以赵建武中生于枋头，夜有神光之异，故名焉。年十岁，与诸儿童游戏邑里，为战阵之法，儿童咸推为主，而身長八尺四寸，目重瞳子，左肘有肉印，毅凝沈重，宽简有大量。人莫之知，唯王猛异之，曰：“此非常人。”言之苻坚，举贤良，除美阳令，民夷惮爱，邻境肃清，迁鹰扬将军，以功赐爵关内侯。

建元十九年，以光为使持节、都督西讨诸军事，率将军姜飞、彭晃、杜进、康隆等率步骑七万讨西域。十二月至龟兹，龟兹王帛纯捍命不降。光军其城南，五里为一营，深渠高垒，广设疑兵，为木人，被甲罗之垒上，以为持久之计。二十年五月，帛纯乃倾国财宝，请救于阗胡，阗胡王遣弟呐龙侯将檀率骑二十余万救之。胡便弓马，善矛槊，铠如连锁，射不可入，乃以草索为纲，策马掷人，多有中者。众甚惮之。姑默、宿尉头等国及诸胡内外七十万人，光迁营相接阵，为勾锁之法，精骑为游军弥缝其阙。秋七月，战于城西，大败之，帛纯逃奔，王侯降者三十余国。光入其城，城有三重，广轮与长安城等。城中塔庙千数，帛纯宫室壮丽，焕若神居。胡人奢侈，富于生养，家有蒲桃酒，至千斛，经十年不败。士卒沦没酒藏者相继。诸国贡款属路，立帛纯弟震为王以安之。光抚宁西域，感恩甚著，秦以光为使持节、散骑常侍、都督玉门已西诸军事、安西将军、西域校尉，进封顺乡侯。二十一年正月，大飧文武，博议进止，众咸请还。光从之。三月，引还，以驼



二万余头致外国珍异千余品，骏马万余匹而还。九月，光入姑臧，自领凉州刺史、护羌校尉。太安元年，苻丕以光为车骑大将军、凉州牧，领护西域大都督、酒泉公。

光始闻苻坚为姚萇所害，奋袂哀怒，三军缟素，大临天城南，传檄诸州，期孟冬大举。苻坚为文昭皇帝。十月，大赦境内，改建元为太安。十一月，群寮劝进曰：“长蛇未殄，方扫国难，宜进位元台。十二月，上光为侍中、中外都督、陇右诸军、大将军、梁州牧、酒泉公。三年八月，甘露降逍遥园，白燕翔于酒泉，众燕成列而从之。麟嘉元年正月，麟见金泽县，百兽从之。于是群寮奉表请崇进名号。二月，僭即王位于南郊，大赦改元，置官司、丞郎以下犹摄州县事。三年九月，大庙新成，追尊父为景昭王，祖为宜公，曾祖为恭公，高祖为敬公。龙飞元年，五龙见于浩亶，群臣咸贺，劝光称号，六月，僭即天王位于南郊，大赦改年，备置群司，立世子绍为太子。四年九月，光寝疾。十二月，疾甚，立太子绍为天王，光自号太上皇帝，以子纂为太尉，弘为司徒。诏曰：“吾疾病不济，吾终之后，使纂统六军，弘管朝政，汝恭已无为，委重二兄，庶可以济。今外有强寇，民心未宁，汝兄弟辑睦，貽厥万世，若内相图，则祸不旋踵。纂、弘泣曰：“不敢有二心。”薨，葬高陵。谥武皇帝，庙号太祖。

吕纂

吕纂字永绪，光之长庶子，母赵淑媛。少便弓马，不好书。太安元年，至于姑臧。光临薨，执手戒之曰：“汝性粗武，深为吾忧。开基既难，守成不易。善辅永业，勿听谗言。”光薨，绍秘不发丧，纂排阁入，哭尽哀而出。绍惧，以位让之，曰：“兄功高年长，宜承大统。”纂曰：“臣虽长，陛下国家之嫡，不可以私爱而乱大伦。”骠骑吕超谓绍曰：“纂临丧不哀，步高视远，观其举止，恐成大变，宜早除之。”纂闻超谋，遂率壮士数百逾北城，攻广夏门，入自青角门，升谦光殿，绍登紫阁自杀。吕超出奔广武。纂遂僭即天王位，改龙飞四年为咸宁元年，谥绍隐王。纂游出无度，荒耽酒色。常与左右因醉驰猎于坑涧之间。殿中侍御史王回扣马谏，不纳，番乐太守吕超，擅伐鲜卑思盘，思盘诉超于纂，纂召超入朝，怒曰：“卿恃兄弟桓桓，欲欺吾也。要当杀卿，然后天下可定。”超顿首曰：“不敢。”纂引诸臣宴于内殿，吕隆屡劝纂酒，已至昏醉，乘步挽车，将超等游于内，至琨华堂东阁，超起剑击纂，纂下车擒超。超刺纂洞胸，奔于宣德堂。将军魏盖入斩纂首以徇，隆既篡位，谥灵帝，葬白石陵。

吕隆

吕隆字永基，光弟宝之子，既杀纂，遂僭即王位。大赦，改咸宁三年为神鼎元年。二月，追尊父宝为文皇帝。超有佐命之勋，拜为侍中、都督中外诸军事、辅国大将军、录尚书，封安定公。二年，秦遣鸿胪恒敬拜隆征北大将军、都督河西诸军、凉州牧、建康公。



三年，隆以二凉之逼，遣超赉珍宝，请迎、于秦，遣尚书左仆射齐难，率步骑四万来迎。隆率户一万随难东迁。既至长安，秦以隆为散骑常侍，尚书、公如故。超为安定太守，其后坐与姚兴少子广川公弼谋反，诛。

自光以乙酉岁据凉州，至于是岁，岁在癸卯，凡一十九年。

卷十一 后燕录

慕容垂

慕容垂字道明，就第五子，小字阿六敦。母兰淑仪。垂少有器度，长七尺七寸，手垂过膝。就甚宠之，常曰：“此儿阔达好奇，终能破人家，或能成人家。故名霸，字道业。因堕马伤前二齿，慕容偶即王位，因改名敍，外以慕容皝为名，内恶而改之。寻以灏记之文，去夫，以垂为名。及僭僭称尊号，封吴王。

建熙十年以车骑大将军败桓温于枋头，威名大震，太傅上庸王评深忌之，垂遂出奔秦。苻坚闻垂至，大悦，郊迎，执手，礼之甚重。王猛恶垂雄略，劝坚杀之，坚不从。以为冠军将军，封宾都侯，历京兆尹。苻坚败于淮南，垂军独全，坚以千余骑奔之。世子宝言于垂曰：“国家倾丧，皇纲废弛，当隆中兴之业，建少康之功。宜恭承皇天之意，因而取之。”垂曰：“彼悉心投命，若何害之。”乃以兵属坚。垂至浞池，言于坚曰：“王师不利，北境之民，或因此轻重，请奉诏辑宁朔裔。且龙、鄆旧都，陵庙所在，乞过展拜，以申罔极。坚许之。权翼谏曰：“垂爪牙名将，今之韩、白，且世豪东夏，志不为天下，顷以避祸归诚，非慕德而至也。恐冠军之号，不饱其志，列地百里，未满足其心。且垂犹鹰也，饥则附人，饱便高扬，遇风尘之会，必有凌霄之志。”坚曰：“卿言是也，但朕已许之。匹夫犹重信，况万乘之主乎。”翼曰：“陛下重小信而轻忽社稷，臣见往不见其还，关东之变，垂其首乎。”自凉马台结草筏而渡，至安阳，修筑于长乐公丕，馆之于鄆西。会苻晖告丁零翟斌聚众四千，谋逼洛阳。丕于是配垂兵三千，遣广武将军苻飞龙率氏骑一千为垂之副。丕戒飞龙曰：“垂为三军之统，卿为垂谋之主。”苻晖告急，简书相寻，垂方图飞龙，停河内不进，悉诛氏兵，命左右杀飞龙，济河焚桥，众三万，至洛阳。苻晖闭关拒守，不与交通。翟斌率众会垂，劝称尊号。垂曰：“新兴侯国之正统，孤之君也。若以诸军之力，得平关东，当以大义喻秦，奉迎反正，诬上自尊，非孤心也。”乃自称大将军、燕王承制行事。翟斌为建议将军，封河南王。弟德为范阳王。众至二十万，济自石门，长驱攻郢。

元年正月，朝群僚于清阳宫，以晔在长安，依晋愍帝在平阳，中宗称王，改年建武故事，改秦建元为燕元元年，立太子宝为燕太子。攻拔鄆郭，丕固守中城。垂壅而围之。



于魏郡肥乡筑新兴以置輜重，进师攻邺，开其西奔之路。二年三月，丕弃邺奔并州，以鲁阳王和为南中郎将，镇邺。十三年，垂定都中山。

建兴元年正月，群僚劝垂自尊号。辛卯，僭即皇帝位于南郊，大赦，改元建兴，立子宝为皇太子。十年五月，太子宝率众八万伐魏，范阳王德为之后继，魏闻宝将至，徙于河西，宝临河不敢济，引师还，次于参合，俄而魏军大至，三军奔溃，宝与德等数千骑奔免。十一年三月，垂大众出参合，太子宝出天门，垂至参合，见积骸如山，设祭吊之，死者父兄各皆号哭，军哀恻，垂斯愤呕血，因而寝疾，筑燕昌城而还。宝等至云中，闻垂疾，皆引归，及垂于平城。夏四月，薨于上谷之沮阳，年七十二，谥武成皇帝。庙号世祖。

慕容宝

慕容宝字道祐，垂第四子，元玺四年生于信都，少轻果，无志操，好人从己。段后谏垂曰：“太子资质雍容，柔而不断，非济世之雄。辽西、高阳陛下嗣之贤者，宜择一树之。”垂不纳，谓曰：“汝谓我为晋献公乎。”

建兴十一年四月，僭即皇帝位，大赦，改元为永康元年。宝遣将军赵王麟逼段后曰：“常谓主上不能嗣守大统，今竟能不？宜早自裁，以全段氏。”后怒曰：“汝兄弟尚逼杀母，岂复能保守社稷？吾岂惜死，念国灭不久。”遂自杀。八月，立妃段氏为皇后，濮阳公荣为皇太子。二年正月，魏使修和，宝不许。二月，魏攻中山，其夜，尚书慕容皓谋杀宝立赵王麟，宝与太子荣等万骑就清河王会于蓟，以开封公慕容详守中山。五月详遂僭称尊号。九月，麟率众入中山，杀详。麟复僭尊号。中山饥，麟出据新市，与魏师战于义台，败绩，南奔。魏入中山。宝遣御史中丞兼鸿胪鲁遂持节授司空范阳王德丞相、冀州牧，承制南夏，封公封侯牧守。三年二月，宝发龙城，以抚军慕容滕为前军，步骑三万，将南伐，次于乙连，长上段速骨、宋赤眉因民之惮远役，杀司空乐浪王宙。众既幸乱，投仗奔走。宝驰还龙城，又与长乐王盛等南奔。尚书兰汗杀速骨等十余人，奉太子荣，承制大赦，遣印宝还于蓟。宝欲北还，盛等咸以汗忠款虚实未明，宜就范阳王德，宝从之。乃自蓟而南。四月，宝至邺郛中遗民固请留之，宝不从，南至黎阳城，西闻范阳王德称制，惧而退，乃还龙城，次于广都。兰汗又遣左将军苏超迎宝，具申款诚，忠节无差。宝于是命发，汗遣弟难率五百骑迎宝至龙城，汗引宝入于外邸，杀之，年四十四。杀太子荣及王公卿士百余人。汗自称大将军、大单于、昌黎王，年号青龙。七月，长乐公盛袭诛汗。盛即位，伪谥宝惠愍皇帝，庙号烈祖。

慕容盛

慕容盛字道运，宝之庶长子。秦建元十年，生于长安。二十年，苻坚诛慕容氏，盛东



奔，既至，垂问以西事，画地成图。垂笑谓之曰：“昔魏武抚明帝之首，遂乃侯之。祖之爱孙，有由来矣。于是封长乐公。建兴六年，领北中郎，镇蓟，进爵为王。及宝为兰难所杀，盛驰赴哀，因潜结大众，谋讨难及汗等，斩之。建平元年七月，告成宗庙，大赦，改元青龙。谦揖自卑，不称尊号，以长乐王称制，诸王贬爵为公。东阳公慕容根等九十八人上尊号，盛不许。十月，根等又请，盛许之。丙子，僭即皇帝位。正月，朝群臣于承乾殿，大赦，改建平元年为长乐元年。二年正月，大赦，盛去皇帝之号，称庶民天王。三年八月，右将军慕容国谋率禁兵袭盛，前将军段机等因众心阻动，潜于禁中，鼓噪大呼。盛闻变，率左右出战，众皆披溃。俄有一贼从暗中击伤足，遂取辇升前殿，召叔河间公熙，嘱以后事。熙未至而薨，年二十九。伪谥昭武皇帝，庙号中宗。

慕容熙

慕容熙字道文，一名长生，垂之少子。燕元二年生于常山。建兴八年封河间王。永康初，随宝奔龙城，拜司隶校尉。长乐元年，迁仆射、中外都督，领昌黎尹。盛薨，僭即皇帝位，大赦，改长乐三年为光始元年。二年正月，熙引见州郡耆旧于东宫，与言，问以民间疾苦。司隶部民刘瓚对问称旨，拜带方太守。是春，大治宫室，至四月，立苻贵人为昭仪。五月，筑龙腾苑，广十里余，役徒二万。起景云山于苑内，又起逍遥宫、甘露殿，连房数百，观阁相交，凿天河渠，引水入宫。又为苻昭仪凿曲光海、青凉池，季夏暑热，士卒不得休息，渴死者大半。四年二月，昭仪苻氏卒，立苻贵嫔为皇后。九月，苻后游畋，熙从之，北登白鹿山，东过青岭，南临沧海。冬十一月，乃还。百姓苦之，士卒为狼虎所害及冻死者五千余人。五年十月，拟鄆之风阳作弘光门，累级三层。建始元年正月，大赦天下。三月，太史丞梁延年梦月化为五白龙，梦中占之曰：“月臣也，龙君也，月化为龙，当有臣为君。”寤而告人曰：“国祚其将尽乎？是月苻后起太华殿，高承光一倍，负土于北门，土与谷同价。典军杜静载棺诣阙上书谏，熙大怒，斩之。后尝季夏思冻鱼鲙，冬须生地黄，皆下有司切责，不得，加以大辟。四月，苻后崩，熙悲号蹙踊，若丧考妣，拥其尸而抚之曰：“体已就冷，命遂断矣。”于是僵仆绝息，久而乃苏。服斩辘，食粥。百僚于宫内设位哭临，使有司按校，哭者有泪，以为忠孝；无泪则加罪。群臣震惧，莫不舍辛以为泪。高阳王妃张氏，熙之嫂也，美姿容，熙欲以为殉。乃毁其襦裤，中有弊毡，遂赐死。三女叩头求哀，熙弗许。营陵周轮数里，下濶三泉，内图画尚书八座之像。熙曰：“善为之，朕将随后入此陵。”辒辂高大，毁北门而出。中卫将军冯跋、左卫将军张兴安皆坐事亡奔，以熙政之虐也。与跋从兄万泥等三十二人结盟，推夕阳公慕容云为主，发尚方徒五千人，分屯四门，入宫授甲，闭门拒守。中黄门赵洛生奔告熙，熙曰：“此鼠盗耳，朕还当诛之。乃收发贯甲，驰还赴难，夜至龙城，攻北门不克，遂入龙腾苑，左右溃散。熙微服逃于林中，为人执送，云等杀之。年三十二，葬徽平陵，谥曰昭文皇帝。



慕容云

慕容云字子雨，宝之养子，祖父高和，句丽之支庶，自云高阳氏之苗裔，故以高为氏。宝之为太子，云以武艺给事东宫。永康初，拜侍御郎，以疾去官。及熙葬后，冯跋诣之，告以大谋，云惧，跋等强之。四月，即天王位，复姓高氏，大赦，改建始元年为正始元年。国仍号大燕。以冯跋为侍中、都督中外诸军、录尚书事，武邑公。慕容归为辽东公，立燕之宗社。三年冬十月，云临东堂，幸臣离班、桃仁怀剑执纸而入，称有所启，抽剑击云。云以几拒班，桃仁进而杀之。立冯跋为主。跋即位，伪谥为惠懿皇帝。

始垂以丙戌之岁建号中山，至冯跋之岁，岁在己酉，二十四年。

卷十二 南凉录

秃发乌孤

秃发乌孤，河鲜卑人也。八世祖正孤，率其部自塞北迁于河西。孤子寿阗立，寿阗卒，孙树机能立。壮果多谋略。泰始中杀秦州刺史胡烈于万斛堆败凉州刺史苏榆于金山，又杀凉州刺史杨欣于丹岭，尽有凉州之地。武帝为之吁食。能死，从弟务儿代立。凡死，孙推斤立。斤死，子思复鞬立，部众转盛，遂据凉土，鞬卒，子乌孤袭位，养民务农修结邻好。吕光封乌孤广武郡公、益州牧、左贤王。太初元年正月，改元，自称大将军、大单于、西平王。以弟鹿孤为骠骑将军，傅檀为车骑将军。二年，改称武威王。三年正月，徙于乐都。八月，孤因酒走马，马倒伤胁。笑曰：“几使吕光父子大喜。”俄而患甚，顾谓群臣曰：“方难未靖，宜立长君。”言终而薨。在王位三年，伪谥武王，庙号烈祖。

利鹿孤

利鹿孤，乌孤弟。太初三年八月即位，大赦，改治西平。建和元年正月，大赦改年。延耆老，访政治。二年群臣固请即尊号，不许。九月，僭称河西王。三年三月，寝疾，令曰：“昔我诸兄弟传位非子者，盖以泰伯三让，周道以兴故也。武王创践宝历，垂诸樊之试，终能克昌家业者，其在车骑乎。吾寝疾辍顿，是将不济。内外多虞，国机务广，且令车骑经总百揆，以成先王之志。”薨，谥康王，葬西平陵。

傅檀

傅檀，利鹿孤弟也。少机警，有才略。建和三年袭位，僭号凉王，迁于乐都，改为弘



昌元年。秦遣使拜车骑将军、广武公。四年六月，秦遣授河右诸军事、凉州刺史，镇姑臧。七月宴群臣于宣德堂，仰视而叹曰：“古人言，作者不居，居者不居。信矣！”前昌松太守孟祗进曰：“张文王筑城苑、缮宗庙，构此堂，为貽厥之资，万世之业。秦师济河，遽然瓦解。此堂之建，年垂百载，十有二主。唯信顺可以久安，仁义可以永固。愿大王勉之！”檀曰：“非子无以闻说言也。”八月，以镇南大将军文支镇姑臧，檀迁于乐都，虽受制于秦，车服礼制，一如王也。十一月，迁于姑臧。

嘉平元年十一月，僭即凉王位于南郊，大赦，改年嘉平。置百官，立世子虎台为太子。二年正月，以子明德归为南中郎将，领昌松太守。归隼爽聪悟，檀甚宠之，年始十三，命为《高昌殿赋》，援笔即成，影不移漏，檀览而喜之，拟之曹子建。七年，傅檀欲西征乙弗，孟恺谏曰：“连年不收，上下饥弊，南逼炽盘，北迫蒙逊，今远征虽克，后患必深。”傅檀曰：“孤将略地，卿无阻众。”谓其太子虎台曰：“今不种多年，内外俱窘，事宜西行，以拯此弊。蒙逊近去，不能卒来，旦夕所虑，唯在炽盘。彼名微众寡，易以讨御。吾不过一月自足周旋，汝谨守乐都，无使失坠。”傅檀乃率骑数千，西袭乙弗，大破之，获牛马羊四十余万。炽盘乘虚来袭，一旦而城溃，安西樊尼自西平奔告傅檀，傅檀谓众曰：“今乐都为炽盘所陷，卿等能与吾籍乙弗之资，取契汗以赎妻子者，是所望也。遂引师而西，众多逃返，遣征北段苟追之，苟亦不还。于是将士皆散。傅檀曰：“蒙逊、炽盘皆委质于吾，今而归之，不亦鄙乎！四海之广，匹夫无所容其身，何其痛哉！吾老矣，宁见妻子而死，遂归炽盘。六月，至西平，盘遣使郊迎，以上宾之礼。岁余，为炽盘所烧。谥景王，时年五十一。虎台亦为炽盘所害。少子保周归魏，魏以为张掖王。

自马孤太初元年岁在丁酉至檀薨之岁，十有八岁。

卷十三 南燕录

慕容德

慕容德字玄明，皝之少子。皝每对诸宫人言，妇人妊娠梦日入怀，必生天子。公孙夫人方妊。梦日入脐中，独喜而不敢言。晋咸康二年昼寝，生德，左右以告，方寤而起。皝曰：“此儿易生，似郑庄公，长必有大德。”遂以德为名。年十二而皝薨，哀毁过礼。年十八，长八尺二寸，额上有日角偃月重文。元玺初，封梁公。建熙初，进号安北将军，封范阳王。入为魏尹。秦灭燕，徙于长安。秦伐凉，德请征自效，后为张掖太守。

苻坚伐晋，垂请德为副，坚败，德乃随垂如邽。垂称燕王，复封范阳王。建兴元年，为司隶校尉。八年，拜司徒。垂临薨，谓太子宝曰：“邽是旧都，宜委范阳王。永康元年，以德镇邽。及宝失中山，自龙城奔邽，以德为丞相，领冀州牧，承制南夏。德兄子麟自义



台来奔，因说德曰：“中山既没，魏必乘胜攻邺，虽粮储素积，而城大难固。且人情沮动，不可以战。及魏军未至，拥众南渡，就鲁阳王和，据滑台而聚兵积谷，伺隙而动，计之上也。魏虽拔中山，势不久留，不过驱掠而返。人不乐从，理自生变。然后振威以援之，魏则内外受敌，使恋旧之士，有所依凭。广开恩信，招集遗黎，可一举而取之。”先是慕容和亦劝德南徙，于是许之。隆安元年正月，德率户四万三千，车二万七千乘，自邺徙滑台。黎阳魏军垂至，三军危惧，欲堡据黎阳，昏日流渐水合，是夜济汴，冰亦寻消。德大悦，改黎阳津为天子津。

德入滑台，赵王麟等九十八人上言：“今中士倾陷，龙都萧条，赵魏遗黎，鹄企皇泽，伏愿仰承俯顺，以承宗庙，谨上皇帝尊号。”德许之，令曰：“假顺来议，且以燕元故事，统符行帝制奏诏而已。”改永康三年为元年，大赦殊死已下，置百官，封进有差。宝自龙城南奔至黎阳城西数里，伏于河西，遣中黄门赵思告北地王钟曰：“上去二月得丞相表，即自南征，段速骨作逆于乙连，今失据来此，呼丞相奉迎。”钟驰使白状，宝遣思之后，见采樵者，知德称帝，惧而北奔。初、苻登既灭、登弟广率所部二千来降，拜冠军，处之乞活堡。至是复叛，称秦王。德留抚军鲁阳王和守滑台，德率众攻广，斩之。和长史季辨杀和，以滑台降魏。德曰：“苻广虽平，抚军失据，进有强敌，退无所托，计将安出。”尚书潘曜曰：“滑台四通八达，非帝王之居，青齐沃壤，号曰东秦。地方二千里，户余十万，四塞之固，可谓用武之国。”德犹预未决，于是遣牙门苏抚问沙门朗公，报曰：“山栖绝俗之士，不应预闻朝议，但有待之累，非有托无以立。陛下今来，即朗之檀越。敬览潘尚书之议，可谓兴邦之术矣。”抚又问以年世，朗以《周易》筮之曰：“燕衰庚戌。”抚曰：“几何？”曰：“年则一纪世则及子。”抚曰：“何其促乎？”朗曰：“卦兆然也，岂关人哉。”抚秘不敢言。德大悦。三月，德引师而南，五月，次薛城，八月入广固，即皇帝位于南郊，大赦，改元为建平元年。又曰：“汉宣悯吏民犯讳，故改名。朕今增一备字，以为复名，庶开臣子避讳之路。”于是叙赏有差，新旧咸悦。十月，太极殿门并就，以公匠张刚为材官将军、上方令。二年十月，徐州刺史潘聰、青州刺史鞠仲来朝，宴于延贤堂。酒酣，德笑谓群臣曰：“朕虽寡薄，恭己南面，在上不骄，夕惕于位，可称自古何等王也？”仲曰：“陛下中兴之圣后，少康、光武之侔也。”顾命左右赐仲帛千匹。仲疑多陈让。德曰：“卿知调朕，朕不知戏卿乎？卿饰对非实，故亦虚言相赏，赏不谬加，何足谢也。”韩范进曰：“臣闻天子无戏言，忠臣无妄对，今日之论可谓君臣俱失。”德大悦，赐范绢五十匹。三年三月，德如齐城，登营丘，望见晏婴冢，顾左右曰：“礼，大夫不逼城葬，平仲古之一贤人，达者而生安近市，死葬近城，岂有意乎？”青州秀才晏谟对曰：“孔子称臣先人平仲贤矣，岂不知高其梁，丰其礼，盖政在家门，故俭以矫世。存居湫隘，卒岂择地而葬乎？所以不远门者，犹冀悟平生意也。”德悦之。三月，以太牢祀汉城阳景王庙，遂北登社首山，东望鼎足，因目牛山，问谟以齐之山川、贤哲故事。谟历对详辨，画地成图，德深嘉之，拜尚书郎。



五年二月，夜，地震，在栖之鸡皆惊搅飞散。三月，德疾动经旬，几于不振。会前尚书右丞曹默自冀州来奔，以白酒解之，乃廖。以默为御史中丞，封永熙侯。五年正月，兄子超自秦还。九月，汝水竭。十一月，德疾笃，梦觥曰：“汝既无子，何不早立超为太子，不尔，恶人生心。”戊午，引见群臣于东阳殿，议立超为太子。俄而震起，百寮惊越，德亦不安，还宫疾甚，呼段后、公主及超，申以后事。执超手曰：“德若至晓，更见公卿，顾托以汝，死无所恨。”数目视公主，欲有所言，竟遂不能。段后大言：“今召中书作诏立超，可乎？”备德开目领之，是夕薨于显安宫，年七十，为十余棺，夜分出四门，潜瘞山谷，莫知其尸所在。虚葬于东陵，谥献武皇帝，庙号世宗，在位五年。

慕容超

慕容超字祖明，德兄北海王纳之子，秦灭燕，以纳为广武太守。数岁，去官，与母公孙太妃就弟德家于张掖。德从苻坚南征，留金刀辞母而去。及垂起兵山东，张掖太守苻昌诛纳及德之诸子，公孙太妃以毫不合刑。纳妻段氏以怀妊未决，执于郡狱，狱掾呼延平，德之故吏也，将公孙及段氏逃于羌中，而生超焉。公孙氏临卒，授超金刀，曰：“闻汝伯已兴于邺都，吾朽病将没，相见理绝，汝脱得东归，可以此刀还汝叔也。”后因吕隆归秦，徙凉州民于长安。超因而东归，母谓超曰：“母子得全济者，呼延氏之力也，惠而不报，天不祐人乎。今虽死，吾欲为汝纳其女以答厚惠。”于是纳之。超至长安，佯狂行乞，由是往来无禁。济阴人宗正谦善卜相，西至长安，卖术于路。超行而遇之。因就谦相，谦奇其姿貌，超乃内断于心，不告母妻。辞母诣霸上，乃与谦俱归，至诸关禁，自称张伏生。二十日达梁父。建平六年四月，至广固，呈以金刀，且宣祖母临终之言，德抚之号恸。超身長八尺，腰九围，姿器魁杰，有类于德。德爱之，名之曰超，封北海王，拜侍中、骠骑大将军、司隶校尉、开府置佐。十一年，立为太子。己未，僭即皇帝位，太赦，改建平六年为太上元年。三年七月，遣中书令韩范聘秦，姚兴许还超母妻。八月，秦使兼员外散骑常侍韦宗还聘，赠以千金。超复遣右仆射张华、给事中宗正元聘秦，送太乐伎一百二十人。姚兴大悦。还超母妻。十月，华发长安，宗正元驰先反命，超悦，遣征虏公孙五楼率骑二千迎于境上，超亲率六宫迎于马耳关。四年正月，大赦，尊父北海穆王为穆皇帝，母段氏为皇太后，居长乐宫。妻呼延氏为皇后。五年二月，晋相刘裕率众来伐。三月，晋师渡淮，超闻晋军之盛，自率众四万拒战，大败，奔还广固，徙郭内民入保小城，晋攻陷大城，长围列守。超请为藩臣，以大岬为界，裕不许。六年正月，超登天门，朝群臣于城上，杀马以飨将士，文武皆有迁授。二月，尚书悦寿开门纳晋师，超出奔，为晋师所执，送建康市斩之，时年二十六。杀鲜卑王公以下三千余人，以男女万余口为军赏。

始建平元年岁在己亥僭号，居齐，至为刘裕所灭，在己酉，凡二十一年。



卷十四 西秦录

乞伏国仁

乞伏国仁，陇西鲜卑人，其先自漠北南出太阴山。五世有祐邻者，晋太始初，率户五万，迁居高平川。邻卒，子结权立，迁于牵屯。结权卒，子利那立。利那卒，弟祁埏立。祁埏卒，利那子术延立，迁于苑川。术延卒，祁埏子傅太寒立。石勒之灭刘曜也。惧而迁于麦田元孤山。太寒卒，子司繁立，秦皇始中，迁于度坚山。建元七年，秦将王统来伐，繁率骑三万拒统于苑川，统潜袭度坚山，部民五万余落，悉降于统。司繁乃诣统归降，苻坚拜南单于，留之长安。后以为镇西将军，镇勇士川。甚有威惠之称，司繁卒，国仁即位，闻坚征晋奔败，国仁收众至十余万。又闻坚为姚萇所杀，于是自称大都督、大将军、大单于、领秦河二州牧，改秦建元二十一年为建义元年，置武陵、苑川等十一郡，筑勇士都城以都之。三年，苻登遣使拜仁大将军、苑川王。四年六月，薨，伪谥曰烈王，庙号烈祖。

乞伏乾归

乞伏乾归，国仁弟。雄武有度略。仁薨，群寮以仁子公府幼稚，乃立乾归为将军、大单于、河南王。大赦，改四年为太初元年，立边氏为后，以南川侯出连乞都为丞相。九月，迁于金城。二年正月，苻登遣使拜为大将军、金城王。六年，立子炽盘为太子。七年，登遣使授左丞相、河南王、假黄钺，加九锡之礼。十月，氏王杨定步骑四万来伐，乾归勒众而进，大败定军，斩定及首级万有七千，于是尽有陇西之地。

十二月，僭称秦王，大赦。八年，吕光来伐，归乃称蕃，遣子勃勃为质，既而悔之。十三年，秦征西大将军姚硕德率众来伐，入自南安峡，归次于陇西，以拒硕德。兴潜师继发，乾归闻兴将至，率轻骑数千候兴，俄与中军相失，为兴追骑所逼，战败，遁归苑川，乃率骑数百驰至允吾。秃发利鹿孤逆归，处之于晋兴。乾归将叛，谋泄，惧为利鹿孤所害，谓其子炽盘曰：“姚兴方盛，吾将归之。今送汝兄弟及汝母为质，于是送炽盘兄弟于西平，乾归遂奔长安。姚兴大悦，拜持节都督河南诸军事、河州刺史、归义侯。十四年，遣乾归还镇苑川，尽以部民配之。十八年正月，乾归至自长安。十九年五月，苑川地震裂。十一月，又朝于长安。二十年，姚兴虑乾归终为西州之患，留拜主客尚书，以其子炽盘为西夷校尉，行河州刺史。二十一年，炽盘以长安乱将始，乃招结诸部，筑城于崦嵫山以据之。更始元年，乾归随姚兴如平凉，炽盘攻枹罕，克之，遂遣使来告乾归。乾归奔还



苑川，遂如枹罕，留炽盘镇之。乾归将众二万。迁于度坚山，诸将劝称王。七月，僭补秦王，大赦，改年，置百官。公卿以下，皆复本位。四年五月，乾归败于五鸡山，有枭集于其手，朝归恶之。六月，为兄子公府所杀，公府出奔。炽盘迁于枹罕，遣弟广武将军智达追擒公府于岷山南，辘裂之。八月，葬乾归于枹罕陵，仍伪谥武元王，庙号高祖。

乞伏炽盘

乞伏炽盘，乾归长子。乾归薨，自称大将军、河南王，改元为永康元年。以尚书令翟勔为相国，封拜各有差。二年，炽盘讨吐谷浑别统支旁于长柳川，掘达于渴泽川，大破之，俘获男女二万三千。五年正月，有五色云起于南山，盘大悦，谓群臣曰：“吾今年应有所定，王业成矣。”于是缮甲整兵，以伺四方之隙。五月，闻檀檀西征，率步骑二万袭乐都。檀檀降，遂并南凉，兵强地广。十月，僭即秦王位，置百官，立妻秃发氏为王后。四年，炽盘子元基自长安逃归，拜尚书左仆射。建弘元年，立第二子慕末为太子，领抚军大将军，都督中外诸军事。改元大赦。炽盘寝疾，顾命太子慕末，乃薨于外寝。六月，葬武平陵，谥文昭王，庙号太祖。

乞伏慕末

乞伏慕末字安石，炽盘之第二子。幼而好学，有文才。建弘元年，立为太子。炽盘薨，僭即秦王位。大赦改年为永弘元年。二月，立万载为太子。三年九月，部民多叛，慕末焚城邑，毁宝器，率户五千，东如上卦为赫连定所拒，遂国南安。十一月，魏遣尚书库结率骑五千迎慕末，卫军吉毗固谏，以为不宜，遂下令止之。库结引还。四年，赫连定遣其叔北平公韦代率众一万攻南安，城内大饥，人相食。传侍中乞伏延祚、吏部尚书乞伏跋跋逾城奔代，末乃衔璧出降，送于上卦，及宗族五百余人，悉为赫连所诛。

自国仁建义元年乙酉岁，至辛未，四十七年。

卷十五 北燕录

冯跋

冯跋字文起，长乐信都人，其先毕万之后也，子孙食采冯乡，因以氏焉。晋永嘉之乱，祖父和避地上党。父安，雄武有器量，为慕容永将，永灭，跋东徙和龙，家长谷中。跋夜梦天门开，神光赫然，烛于庭中。永康末，拜中卫将军。建始元年，与二弟结谋袭杀慕容熙，立高云为主。正始元年，以跋为中外都督、开府仪同三司、录尚书事，封武邑



公。太平元年，云为其幸臣离班、桃仁所杀，帐下督张泰、李桑诛班及仁，群臣推跋为主，僭即天王位。大赦，令曰：“义贵适时，不必改作，故陈氏作姜，不徙齐号，即号燕国。改为太平元年。”追尊祖和为元皇帝，父安为宣帝，子永为太子。三年七月，以太子永领大单于，内置四辅。七年，建太学，以长乐刘轩、营丘张炽、成周翟崇、为博士，简二千石以下子弟，年十五以上，教之。十四年，宿渚地燃，一旬乃灭。十七年二月，北部人赵寿女既嫁化为男，娶妻而无子。跋问诸群臣曰：“此何祥？”尚书左丞傅权对曰：“汉世雌鸡为雄，阴变为阳，君替臣僭之象。卒有妇人专宠，王莽篡位。今女为男，臣将为君之征。”跋曰：“将何以禳之！”权曰：“桑谷生朝，太戊修德，而殷道中兴。荧惑守心，宋景责躬，延龄二纪。唯修身崇善，可以转祸为福。”十八年八月，立子翼为太子，跋戒之曰：“吾闻君人以学为本，不学无以立，尊敬师傅，人伦之始，汝其夙夜虔虔，钦承明训。”二十二年八月，跋寝疾，召中书监申秀、侍中杨哲于内寝，谓之曰：“吾患当不济，卿等善相吾子，参决万几。”九月，跋疾甚，辇而临轩，命太子翼勒兵听政，以备非常。宋夫人规立其子受，恶翼听政，谓之曰：“上疾将廖，奈何便欲代父临天下乎？”翼性仁弱，遂还东宫，一日三省疾。宋夫人矫绝内外，遣阁寺传问而已。翼及大臣皆不得见。跋弟弘于是与壮士数十人，裹甲入禁中宿卫，皆不战而散。宋夫人命闭东阁，弘家僮库斗头劲捷有勇力，逾阁而入，至于皇堂，射杀御女一人。跋惊惧而薨。弘遣修城告曰：“天降凶祸。大行崩背，太子不侍疾，群公不奔丧，疑有逆谋，图危社稷。吾备太弟之亲，遂摄大位，以宁国家。”百官叩门入者，进阶二等。太子翼率东宫兵出战，败退，兵皆奔散。弘遣使赐死。命宗正冯哲、黄门卢招典葬事于东宫。葬跋于长谷陵，伪谥文成皇帝，庙号太祖。

冯弘

冯弘字文通，跋之季弟，高云篡位，拜中领军，封汲郡公。太平元年，拜尚书右仆射，改封中山公，迁尚书令、司徒、录尚书事。弘即天王位，大兴元年正月壬午朔，大赦，改年。二月，立夫人慕容氏为皇后。二年正月，立少子王仁为太子。六月有鼠集城西，盈数里地中，西行至水，前者衔马尾，后者迭相衔尾而渡，识者以为民迁之象。七月，魏师来伐神高。八月，石城、辽东、营丘、城周四郡并降魏。九月，魏师还。徙民四万余户而西。三年六月，魏永昌王来伐。五年四月，遣右卫孙德乞师于宋。十二月，又遣尚书阳伊请迎于句丽。六年三月，端门崩。四月，魏又遣侍中建兴公虞贺、东平公鹅青来攻，克白狼。句丽将葛居、孟光率众数万随阳伊来迎，屯于临川。尚书令郭生因民之惮迁，开门而引魏军。魏军疑而不赴，生遂勒众攻弘，弘引句丽兵入自东门，与生战于阙下，生中流矢卒。句丽军既入城，取武库甲以给其众，城内美女皆句丽军人所掠。五月乙卯，弘率龙城见户东徙，焚烧宫殿，火一旬不绝。令妇人被甲居中，阳伊等勒精兵于外，



而居光率骑后殿，方轨而进，前后八十余里，魏兵追至辽水，不击而还，遣使征弘于句丽。后二年，为句丽所杀，伪谥昭成皇帝。

自冯跋太平元年岁在乙酉，至弘灭亡之岁丙子，二十八载。

卷十六 夏录

赫连勃勃

赫连勃勃，朔方人，匈奴左贤王去卑之后，刘元海之族也。曾祖名武，前赵嘉平中，以宗室封楼烦公，拜安北将军，丁零中郎将。祖父豹子，后赵建武中，拜平北将军、左贤王。父卫辰，苻坚以为西单于，督摄河西诸虏，屯于代来城。因秦末兵乱，遂有朔方之地，控弦之士三万八千。姚萇拜辰大将军、河西王、大单于。魏师来伐，辰遣子力俟提率骑二万拒战河东，为魏所败，遂乘胜济河，攻克钱来，执辰杀之。勃勃，辰第三子，奔秦高平公没奕干，奕干妻之以女。姚兴以勃勃为持节安北将军、五原公，配以三交五部鲜卑及杂虏二万余落，镇朔方。时河西鲜卑杜仑献马八千匹于秦，济河至大城，勃勃留之，召其众二万袭杀高平公没奕干而并其众，众至数万，自称天王大单于。大赦，改弘始十年为龙升元年，置百官。以匈奴夏后氏之苗裔，僭称大厦。以大兄右地代为丞相，代公，发岭北民夷十万，于朔方黑渠之界，营起京城。大赦，改龙升七年为凤翔元年。令曰：“朕之皇祖，北迁幽朔，改姓姁氏，后从母为刘氏。从母姓，非礼也。古之氏族无常，王者系天为子，是为徽。赫实与天连，今改姓曰赫连氏，庶协皇天之意。支庶非正统者，以铁伐为氏。庶朕宗族子孙刚锐如铁，皆堪伐人。二年，立夫人梁氏为后，立子瓌为太子。四年九月，刘裕灭秦人于长安。十二月，裕留子义真镇长安而还。勃勃大悦，遂图进取之计，遣太子瓌率骑二万南伐长安。五年，义真遣龙骧将军沈田子率众逆战，瓌击败之，退屯刘回堡。八月，勃勃进据咸阳，刘裕大惧，乃召义真东镇洛阳，勃勃入长安。

正月，群臣劝勃勃称皇帝。三月筑坛于霸上，即皇帝位，大赦，改凤翔六年为昌武元年。冬十月以太子瓌领大将军、雍州牧，录南台尚书事，镇长安。十一月，勃勃还统万（统万，勃勃所都之城名也）。以宫殿大成，赦其境内殊死以下，改昌武二年为真兴元年，刻石都南，颂纪功德。四月，追尊父卫辰曰桓皇帝，庙号太祖，母苻氏为皇太后。祖父豹曰宣皇帝，曾祖武曰景皇帝，高祖训儿曰元皇帝。五月，雨鱼于统万。二年十月，起冲天台于统万年南山，欲登之以望长安。六年，勃勃将废太子瓌为秦王，以酒泉公伦为太子。瓌闻将废已，率众七万北伐伦，伦率骑三万拒之，战于平城为瓌所败，伦死之。太原公昌



率骑一万袭杀瓚，率众八万五千归于统万。勃勃大悦，立昌为太子。七月，勃勃寝疾甚，辇升永安殿，召群臣囑以后事，薨于永安殿，年四十五。谥武烈皇帝，葬嘉平陵，庙号世祖。

赫连昌

赫连昌一名折，勃勃之第三子。身長八尺，魁岸美姿貌。勃勃薨，即位于永安台，大赦，改真兴七年为永光元年。七月，杏城刘睹川有青石大如马头，浮在水上，逆流而行，人见而送之。十月，魏乘虚来伐。三年五月，战于黑渠，为魏所败。昌与数千骑奔还，魏追骑亦至，昌留河内公费连乌提守高平徙诸城民七万户于安定以都之。四年二月，魏军至安定，攻城。三月，城溃，昌奔秦州，魏东平公鹅青追擒之，送于魏。魏封昌秦王，尚始平公主，为魏所杀。

赫连定

赫连定，勃勃第五子。凤翔二年，封平原公，雍州牧，镇长安，率众赴安定，进封平原王、大将军、领司徒。昌为魏所擒，定遂率遗众数万，据平凉，僭称皇帝，大赦，改承光四年为胜光元年。进征南大将军白兰王吐谷浑莫璆为开府仪同三司、河南王。十月，败于阴盘，登苛蓝山而望统万城，泣曰：“先帝以朕承大业者，岂有今日乎。使天假朕年，当与诸卿建王季之业。”既而有狐群百数鸣于定傍，令射之，无所获，定恶之。曰：“此大不善，咄咄天道，复何言哉。”三年，秋，魏军来袭。十月，克安定，进攻平原。十一月，定遂掠民五万户，西奔上邽。四年，河南王莫璆因戎狄之众，东面以争天下。魏遣益州刺史没利延、宁州刺史拾虎率骑三万来伐，遂擒定，送于魏。

勃勃初号龙升元年，岁在丁未，至是，岁在辛未，二十五年也。



魏 晋 世 语

〔晋〕郭颁 撰

刘放、孙资，共典枢要。夏侯献、曹肇，心内不平。殿中有鸡栖树，二人相谓：“此亦久矣，其能复几！”指谓中书监刘放，中书令孙资。

司马景王命中书郎虞松作表，再呈，不可意，令松更定之，经时竭思不能改，心有形色。中书郎钟会察有忧色，问松，松以实对。会取草视，为定五字，松悦服，以呈景王。景王曰：“不当，尔耶？”松曰：“钟会也。”王曰：“如此，可大用，真王佐才也。”卞伯玉赴中书，诗曰：跃鳞龙凤池，挥翰紫宸里。

杜夷字行齐，为儒林祭酒。皇太子凡三至夷舍，执经问义。

刁协迁尚书令，诏曰：尚书令协，抗志高亮，才鉴博朗，朕甚喜之。

范宁字武子，少好学，多所通览。拜中书郎，专掌西省。居职，多所献替，有益政道。

孔演字元舒，晋国建，与庾亮俱补中书侍郎。于时中兴肇建，庶事草创，演经学博通，又练旧典，朝仪轨制，多取正焉。由是元、明二帝亲爱之。

刘超字世逾，迁中书舍人。时台省初建，内外多事，超出纳书命，以忠慎称。理身清苦，衣不重帛。

徐邈字景山，以儒素坐好学，尤善经传。烈宗始览典籍，招延礼学之士。后将军谢安举邈应选，补中书舍人，专在西省，撰正五经音训，学者宗之。每预顾问，辄有献替，多所补益。烈宗甚爱之。

孙盛字安国，为秘书监，加给事中。笃尚好学，自少至长，常手不释卷。既居史官，乃著《三国阳秋》。

郭璞，太兴元年奏《南郊赋》。中宗嘉其才，以为著作佐郎。

殷浩北伐，江遁为长史，遁取数百鸡，以长绳连脚，皆系火，一时驱放，飞过雉，集于羌营，火皆燃。



世说新语

〔南朝·宋〕刘义庆 撰

上卷 上

德行第一

陈仲举言为士则，行为世范，登车揽辔，有澄清天下之志。为豫章太守，至，便问徐孺子所在，欲先看之。主簿曰：“群情欲府君先入廨。”陈曰：“武王式商容之闾，席不暇暖。吾之礼贤，有何不可！”

周子居常云：“吾时月不见黄叔度，则鄙吝之心已复生矣。”

郭林宗至汝南，造袁奉高，车不停轨，鸾不辍轭；诣黄叔度，乃弥日信宿。人问其故，林宗曰：“叔度汪汪如万顷之陂，澄之不清，扰之不浊，其器深广，难测量也。”

李元礼风格秀整，高自标持，欲以天下名教是非为己任。后进之士有升其堂者，皆以为登龙门。

李元礼尝叹荀淑、钟皓曰：“荀君清识难尚，钟君至德可师。”

陈太丘诣荀朗陵，贫俭无仆役，乃使元方将车，季方持杖后从，长文尚小，载著车中。既至，荀使叔慈应门，慈明行酒，余六龙下食，文若亦小，坐著膝前。于时太史奏：“真人东行。”

客有问陈季方：“足下家君太丘，有何功德，而荷天下重名？”季方曰：“吾家君譬如桂树生泰山之阿，上有万仞之高，下有不测之深；上为甘露所沾，下为渊泉所润。当斯之时，桂树焉知泰山之高，渊泉之深？不知有功德与无也。”

陈元方子长文有英才，与季方子孝先，各论其父功德，争之不能决。咨于太丘，太丘曰：“元方难为兄，季方难为弟。”

荀巨伯远看友人疾，值胡贼攻郡，友人语巨伯曰：“吾今死矣，子可去！”巨伯曰：“远来相视，子令吾去，败以求生，岂荀巨伯所行邪！”贼既至，谓巨伯曰：“大军至，一



郡尽空，汝何男子，而敢独止？”巨伯曰：“友人有疾，不忍委之，宁以我身代友人命。”贼相谓曰：“我辈无义之人，而人有义之国。”遂班军而还，一郡并获全。

华歆遇子弟甚整，虽闲室之内，严若朝典。陈元方兄弟恣柔爱之道，而二门之里，两不失雍熙之轨焉。

管宁、华歆共园中锄菜，见地有片金，管挥锄与瓦石不异，华捉而掷去之。又尝同席读书，有乘轩冕过门者，宁读如故，歆废书出看。宁割席分坐，曰：“子非吾友也！”

王朗每以识度推华歆。歆蜡日尝集子侄燕饮，王亦学之。有人向张华说此事，张曰：“王之学华，皆是形骸之外，去之所以更远。”

华歆、王朗俱乘船避难，有一人欲依附，歆辄难之。朗曰：“幸尚宽，何为不可？”后贼追至，王欲舍所携人。歆曰：“本所以疑，正为此耳。”既已纳其自托，宁可以急相弃邪？”遂携拯如初。世以此定华、王之优劣。

王祥事后母朱夫人甚谨。家有一李树，结子殊好，母恒使守子。时风雨忽至，祥抱树而泣。祥尝在别床眠，母自往暗斫之。值祥私起，空斫得被。既还，知母憾之不已，因跪前请死。母于是感悟，爱之如己子。

晋文王称阮嗣宗至慎，每与之言，言皆玄远，未尝臧否人物。

王戎云：“与嵇康居二十年，未尝见其喜愠之色。”

王戎、和峤同时遭大丧，具以孝称。王鸡骨支床，和哭泣备礼。武帝谓刘仲雄曰：“卿数省王、和不？闻和哀苦过礼，使人忧之。”仲雄曰：“和峤虽备礼，神气不损；王戎虽不备礼，而哀毁骨立。臣以和峤生孝，王戎死孝。陛下不应忧峤，而应忧戎。”

梁王、赵王，国之近属，贵重当时。裴令公岁请二国租钱数百万，以恤中表之贫者。或讥之曰：“何以乞物行惠？”裴曰：“损有余，补不足，天之道也。”

王戎云：“太保居在正始中，不在能言之流。及与之言，理中清远，将无以德掩其言。”

王安丰遭艰，至性过人。裴令往吊之，曰：“若使一桡果能伤人，浚冲必不免灭性之讥。”王戎父浑，有令名，官至凉州刺史。浑薨，所历九郡义故，怀其德惠，相率致赙数百万，戎悉不受。

刘道真尝为徒，扶风王骏以五百疋布赎之，既而用为从事中郎。当时以为美事。

王平子、胡毋彦国诸人，皆以任放为达，或有裸体者。乐广笑曰：“名教中自有乐地，何为乃尔也？”

郗公值永嘉丧乱，在乡里，甚穷馁。乡人以公名德，传其飧之。公常携兄子迈及外生周翼二小儿往食，乡人曰：“各自饥困，以君之贤，欲共济君耳，恐不能兼有所存。”公于是独往食，辄含饭著两颊边，还，吐与二儿。后并得存，同过江。郗公亡，翼为剡县，解职归，席苦于公灵床头，心丧终三年。

顾荣在洛阳，尝应人请，觉行炙人有欲炙之色，因辍已施焉，同坐嗤之。荣曰：“岂



有终日执之，而不知其味者乎？”后遭乱渡江，每经危急，常有一人左右己。问其所以，乃受炙人也。

祖光禄少孤贫，性至孝，常自为母炊爨作食。王平北闻其佳名，以两婢饷之，因取为中郎。有人戏之者曰：“奴价倍婢。”祖云：“百里奚亦何必轻于五段之皮邪？”

周镇罢临川郡还都，未及上住，泊青溪渚，王丞相往看之。时夏月，暴雨卒至，舫至狭小，而又大漏，殆无复坐处。王曰：“胡威之清，何以过此！”即启用为吴兴郡。

邓攸始避难，于道中弃己子，全弟子。既过江，取一妾，甚宠爱。历年后，讯其所由，妾具说是北人遭乱，忆父母姓名，乃攸之甥也。攸素有德业，言行无玷，闻之哀恨终身，遂不复畜妾。

王长豫为人谨顺，事亲尽色养之孝。丞相见长豫辄喜，见敬豫辄嗔。长豫与丞相语，恒以慎密为端。丞相还台，及未行，尝不送至车后。恒与曹夫人并当箱篋。长豫亡后，丞相还台，登车后，哭至台门；曹夫人作箴，封而不忍开。

恒常侍闻人道深公者，辄曰：“此公既有宿名，加先达知称，又与先人至交，不宜说之。”

庾公乘马有的卢，或语令卖去，庾云：“卖之必有买者，即复害其主，宁可不安己而移于他人哉？昔孙叔敖杀两头蛇以为后人，古之美谈。效之，不亦达乎？”

阮光禄在剡，曾有好车，借者无不皆给。有人葬母，意欲借而不敢言。阮后闻之，叹曰：“吾有车，而使人不敢借，何以车为？”遂焚之。

谢奕作剡令，有一老翁犯法。谢以醇酒罚之，乃至过醉，而尤未已。太傅时年七八岁，著青布袴，在兄膝边坐，谏曰：“阿兄，老翁可念，何可作此！”奕于是改容曰：“阿奴欲放去邪？”遂遣之。

谢太傅绝重褚公，常称“褚季野虽不言，而四时之气亦备。”

刘尹在郡，临终绵惛，闻阁下祠神鼓舞，正色曰：“莫得淫祀！”外请杀车中牛祭神，真长答曰：“丘之祷久矣，勿复为烦！”

谢公夫人教儿，问太傅：“那得初不见君教儿？”答曰：“我常自教儿。”

晋简文为抚军时，所坐床上，尘不听拂，见鼠行迹，视以为佳。有参军见鼠白日行，以手板批杀之，抚军意色不说。门下起弹，教曰：“鼠被害，尚不能忘怀，今复以鼠损人，无乃不可乎？”

范宣年八岁，后园挑菜，误伤指，大啼。人问：“痛邪？”答曰：“非为痛，身体发肤，不敢毁伤，是以啼耳。”宣洁行廉约，韩豫章遗绢百匹，不受；减五十匹，复不受。如是减半，遂至一匹，既终不受。韩后与范同载，就车中裂二丈与范，云：“人宁可使妇无裨邪？”范笑而受之。

王子敬病笃，道家上章应首过，问子敬：“由来有何异同得失？”子敬云：“不觉有余事，惟忆与郗家离婚。”



殷仲堪既为荆州，值水俭，食常五碗盘，外无余肴，饭粒脱落盘席间，辄拾以啖之。虽欲率物，亦缘其性真素。每语子弟云：“勿以我受任方州，云我豁平昔时意，今吾处之不易。贫者，士之常，焉得登枝而捐其本？尔曹其存之。”

初，桓南郡、扬广共说殷荆州，宜守殷覬南蛮以自树。覬亦即晓其旨。尝因行散，率尔去下舍，便不复还，内外无预知者。意色萧然，远同斗生之无愠。时论以此多之。

王仆射在江州，为殷、桓所逐，奔窜豫章，存亡未测。王绥在都，既忧戚在貌，居处饮食，每事有降。时人谓为“试守孝子”。

桓南郡既破殷荆州，收殷将佐十许人，咨议罗企生亦在焉。桓素待企生厚，将有所戮，先遣人语云：“若谢我，当释罪。”企生答曰：“为殷荆州吏，今荆州奔亡，存亡未判，我何颜谢桓公？”既出市，桓又遣人问：“欲何言？”答曰：“昔晋文王杀嵇康，而嵇绍为晋忠臣。从公乞一弟，以养老母。”桓亦如言宥之。桓先曾以一羔裘与企生母胡。胡时在豫章，企生问至，即日焚裘。

王恭从会稽还，王大看之。见其坐六尺簟，因语恭：“卿东来，故应有此物，可以一领及我。”恭无言。大去后，既举所坐者送之。既无余席，便坐荐上。后大闻之，甚惊，曰：“吾本谓卿多，故求耳。”对曰：“丈人不悉恭，恭作人无长物。”

吴郡陈遗，家至孝。母好食铛底焦饭，遗作郡主簿，恒装一囊，每煮食，辄贮录焦饭，归以遗母。后值孙恩贼出吴郡，袁府郡即日便征。遗已聚敛得数斗焦饭，未展归家，遂带以从军。战于沪渎，败。军人溃散，逃走山泽，皆多饥死，遗独以焦饭得活。时人以为纯孝之报也。

孔仆射为孝武侍中，豫蒙眷接烈宗山陵。孔时为太常，形素羸瘦，著重服，竟日涕泗流涟，见者以为真孝子。

吴道助、附子兄弟居在丹阳郡，后遭母童夫人艰，朝夕哭临。及思至，宾客吊省，号踊哀绝，路人为之落泪。韩康伯时为丹阳尹，母殷在郡，每闻二吴之哭，辄为凄恻，语康伯曰：“汝若为选官，当好料理此人。”康伯亦甚相知。韩后果为吏部尚书。大吴不免哀制，小吴遂大贵达。

言语第二

边文礼见袁奉高，失次序。奉高曰：“昔尧聘许由，面无忤色。先生何为颠倒衣裳？”文礼答曰：“明府初临，尧德未彰，是以贱民颠倒衣裳耳。”

徐孺子年九岁，尝月下戏。人语之曰：“若令月中无物，当极明邪？”徐曰：“不然。譬如人眼中有瞳子，无此必不明。”

孔文举年十岁，随父到洛。时李元礼有盛名，为司隶校尉。诣门者，皆俊才清称及中表亲戚乃通。文举至门，谓吏曰：“我是李府君亲。”既通，前坐。元礼问曰：“君与仆有



何亲？”对曰：“昔先君仲尼与君先人伯阳有师资之尊，是仆与君奕世为通好也。”元礼及宾客莫不奇之。太中大夫陈韪后至，人以其语语之，韪曰：“小时了了，大未必佳。”文举曰：“想君小时必当了了。”韪大踉跄。

孔文举有二子，大者六岁，小者五岁。昼日父眠，小者床头盗酒饮之，大儿谓曰：“何以不拜？”答曰：“偷，那得行礼！”

孔融被收，中外惶怖。时融儿大者九岁，小者八岁，二儿故琢钉戏，了无遽容。融谓使者曰：“冀罪止于身，二儿可得全不？”儿徐进曰：“大人岂见覆巢之下，复有完卵乎？”寻亦所至。

颍川太守髡陈仲弓。客有问元方：“府君何如？”元方曰：“高明之君也。”“足下家君何如？”曰：“忠臣孝子也。”客曰：“易称：‘二人同心，其利断金；同心之言，其臭如兰。’何有高明之君，而刑忠臣孝子者乎？”元方曰：“足下言何其谬也！故不相答。”客曰：“足下但因伧为恭而不能答。”元方曰：“昔高宗放孝子孝己，尹吉甫放孝子伯奇，董仲舒放孝子符起。唯此三君，高明之君；唯此三子，忠臣孝子。”客惭而退。

荀慈明与汝南袁闾相见，问颍川人士，慈明先及诸兄。闾笑曰：“士但可因亲旧而已乎？”慈明曰：“足下相难，依据者何经？”闾曰：“方问国士，而及诸兄，是以尤之耳。”慈明曰：“昔者祁奚内举不失其子，外举不失其仇，以为至公。公旦文王之诗，不论尧、舜之德而颂文、武者，亲亲之义也。春秋之义，内其国而外诸夏。且不爱其亲而爱他人者，不为悖德乎？”

祢衡被魏武谪为鼓吏。正月半试鼓，衡扬枹为渔阳掺挝，渊渊有金石声，四坐为之改容。孔融曰：“祢衡罪同胥靡，不能发明王之梦。”魏武惭而赦之。

南郡庞士元闻司马德操在颍川，故二千里候之。至，遇德操采桑，士元从车中谓曰：“吾闻丈夫处世，当带金佩紫，焉有曲洪流之量，而执丝妇之事？”德操曰：“子且下车。子适知邪径之速，不虑失道之迷。昔伯成耦耕，不慕诸侯之荣；原宪桑枢，不易有官之宅。何有坐则华屋，行则肥马，侍女数十，然后为奇？此乃许、父所以慷慨，夷、齐所以长叹。虽有窃秦之爵，千驷之富，不足贵也。”士元曰：“仆生出边垂，寡见大义，若不一叩洪钟，伐雷鼓，则不识其音响也！”

刘公干以失敬罹罪。文帝问曰：“卿何以不谨于文宪？”桢答曰：“臣诚庸短，亦由陛下纲目不疏。”

钟毓、钟会少有令誉。年十三，魏文帝闻之，语其父钟繇曰：“可令二子来。”于是敕见。毓面有汗，帝曰：“卿面何以汗？”毓对曰：“战战惶惶，汗出如浆。”复问会：“卿何以不汗？”对曰：“战战栗栗，汗不敢出。”

钟毓兄弟小时，值父昼寝，因共偷服药酒。其父时觉，且托寐以观之。毓拜而后饮，会饮而不拜。既而问毓何以拜，毓曰：“酒以成礼，不敢不拜。”又问会何以不拜，会曰：“偷本非礼，所以不拜。”



魏明帝为外祖母筑馆于甄氏。既成，自行视，谓左右曰：“馆当以何为名？”侍中缪袭曰：“陛下圣思齐于哲王，闳极过于曾、闵。此馆之兴，情钟舅氏，宜以‘渭阳’为名。”

何平叔云：“服五石散，非唯治病，亦觉神明开朗。”

嵇中散语赵景真：“卿瞳子白黑分明，有白起之风，恨量小狭。”赵云：“尺表能审玑衡之度，寸管能测往复之气。何必在大，但问识如何耳。”

司马景王东征，取上党李喜以为从事中郎。因问喜曰：“昔先公辟君不就，今孤召君，何以来？”喜对曰：“先公以礼见待，故得以礼进退；明公以法见绳，喜畏法而至耳。”

邓艾口吃，语称“艾艾”。晋文王戏之曰：“卿云‘艾艾’，定是几艾？”对曰：“‘风兮风兮’，故是一风。”

嵇中散既被诛，向子期举郡计入洛。文王引进，问曰：“闻君有箕山之志，何以在此？”对曰：“巢、许狷介之士，不足多慕。”王大咨嗟。

晋武帝始登阼，探策得“一”。王者世数，系此多少。帝既不说，群臣失色，莫能有言者。侍中裴楷进曰：“臣闻天得一以清，地得一以宁，侯王得一以为天下贞。”帝说，群臣叹服。

满奋畏风。在晋武帝坐，北窗作琉璃屏，实密似疏，奋有难色。帝笑之，奋答曰：“臣犹吴牛，见月而喘。”

诸葛靓在吴，于朝堂大会。孙皓问：“卿字仲思，为何所思？”对曰：“在家思孝，事君思忠，朋友思信，如斯而已。”

蔡洪赴洛，洛中人问曰：“幕府初开，群公辟命，求英奇于仄陋，采贤俊于岩穴。君吴、楚之士，亡国之余，有何异才而应斯举？”蔡答曰：“夜光之珠，不必出于孟津之河；盈握之璧，不必采于昆仑之山。大禹生于东夷，文王生于西羌。圣贤所出，何必常处。昔武王伐纣，迁顽民于洛邑，得无诸君是其苗裔乎？”

诸名士共至洛水戏。还，乐令问王夷甫曰：“今日戏乐乎？”王曰：“裴仆射善谈名理，混混有雅致；张茂先论《史》、《汉》，靡靡可听；我与王安丰说延陵、子房，亦超超玄著。”

王武子、孙子荆各言其土地人物之美。王云：“其地坦而平，其水淡而清，其人廉且贞。”孙云：“其山嵒巍以嵯峨，其水湍激而扬波，其人磊砢而英多。”

乐令女适大将军成都王颖。王兄长沙王执权于洛，遂构兵相图。长沙王亲近小人，远外君子，凡在朝者，人怀危惧。乐令既允朝望，加有婚亲，群小谗于长沙。长沙尝问乐令，乐令神色自若，徐答曰：“岂以五男易一女。”由是释然，无复疑虑。

陆机诣王武子，武子前置数斛羊酪，指以示陆曰：“卿江东何以故此？”陆云：“有千里蓴羹，但未下盐豉耳。”

中朝有小儿，父病，行乞药。主人问病，曰：“患疟也。”主人曰：“尊侯明德君子，何以病疟？”答曰：“来病君子，所以为疟耳。”



崔正熊诣都郡，都郡将姓陈，问正熊：“君去崔杼几世？”答曰：“民去崔杼，如明府之去陈恒。”

元帝始过江，谓顾骠骑曰：“寄人国土，心常怀惭。”荣跪对曰：“臣闻王者以天下为家，是以耿、亳无定处，九鼎迁洛邑。愿陛下勿以迁都为念。”

庾公造周伯仁，伯仁曰：“君何所欣说而忽肥？”庾曰：“君复何所忧惨而忽瘦？”伯仁曰：“吾无所忧，直是清虚日来，滓秽日去耳。”

过江诸人，每至美日，辄相邀新亭，藉卉饮宴。周侯中坐而叹曰：“风景不殊，正自有山河之异！”皆相视流泪。唯王丞相愀然变色曰：“当共戮力王室，克复神州，何至作楚囚相对！”

卫洗马初欲渡江，形神惨悴，语左右云：“见此茫茫，不觉百端交集。苟未免有情，亦复谁能遣此！”

顾司空未知名，诣王丞相。丞相小极，对之疲睡。顾思所以叩会之，因谓同坐曰：“昔每闻元公道公协赞中宗，保全江表。体小不安，令人喘息。”丞相因觉，谓顾曰：“此子珪璋特达，机警有锋。”

会稽贺生，体识清远，言行以礼。不徒东南之美，实为海内之秀。

刘琨虽隔阂寇戎，志存本朝。谓温峤曰：“班彪识刘氏之复兴，马援知汉光之可辅。今晋阼虽衰，天命未改，吾欲立功于河北，使卿延誉于江南，子其行乎？”温曰：“峤虽不敏，才非昔人，明公以桓、文之姿，建匡立之功，岂敢辞命！”

温峤初为刘琨使来过江。于时，江左营建始尔，纲纪未举。温新至，深有诸虑。既诣王丞相，陈主上幽越、社稷焚灭、山陵夷毁之酷，有黍离之痛。温忠慨深烈，言与泪俱；丞相亦与之对泣。叙情既毕，便深自陈结，丞相亦厚相酬纳。既出，欢然言曰：“江左自有管夷吾，此复何忧！”

王敦兄含，为光禄勋。敦既逆谋，屯据南州，含委职奔姑孰。王丞相诣阙谢。司徒、丞相、扬州官僚问讯，仓卒不知何辞。顾司空时为扬州别驾，援翰曰：“王光禄远避流言，明公蒙尘路次，群下不宁，不审尊体起居何如？”

都太尉拜司空，语同坐曰：“平生意不在多，值世故纷纭，遂至台鼎。朱博翰音，实愧于怀。”

高坐道人作汉语。或问此意，简文曰：“以简应对之烦。”

周仆射雍容好仪形。诣王公，初下车，隐数人，王公含笑看之。既坐，傲然啸咏。王公曰：“卿欲希嵇、阮邪？”答曰：“何敢近舍明公，远希嵇、阮！”

庾公尝入佛图，见卧佛，曰：“此子疲于津梁。”于时以为名言。

挚瞻曾作四郡太守、大将军户曹参军，复出作内史，年始二十九。尝别王敦，敦谓瞻曰：“卿年未三十，已为万石，亦太早。”瞻曰：“方于将军，少为太早；比之甘罗，已为太老。”



梁国杨氏子九岁，甚聪惠。孔君平诣其父，父不在，乃呼儿出。为设果，果有杨梅。孔指以示儿曰：“此是君家果。”儿应声答曰：“未闻孔雀是夫子家禽。”

孔廷尉以裘与从弟沈，沈辞不受。廷尉曰：“晏平仲之俭，祠其先人，豚肩不掩豆，犹狐裘数十年，卿复何辞此！”于是受而服之。

佛图澄与诸石游，林公曰：“澄以石虎为海鸥鸟。”

谢仁祖年八岁，谢豫章将送客。尔时语已神悟，自参上流。诸人咸共叹之曰：“年少，一坐之颜回。”仁祖曰：“坐无尼父，焉别颜回？”

陶公疾笃，都无献替之言，朝士以为恨。仁祖闻之，曰：“时无竖刁，故不貽陶公话言。”时贤以为德音。

竺法深在简文坐，刘尹问：“道人何以游朱门？”答曰：“君自见其朱门，贫道如游蓬户。”或云下令。

孙盛为庾公记室参军，从猎，将其二儿俱行。庾公不知，忽于猎场见齐庄，时年七八岁，庾谓曰：“君亦复来邪？”应声答曰：“所谓‘无小无大，从公于迈’。”

孙齐由、齐庄二人，小时诣庾公。公问齐由何字，答曰：“字齐由。”公曰：“欲何齐邪？”曰：“齐许由。”齐庄何字，答曰：“字齐庄。”公曰：“欲何齐？”曰：“齐庄周。”公曰：“何不慕仲尼而慕庄周？”对曰：“圣人生知，故难企慕。”庾公大喜小儿对。

张玄之、顾敷是顾和中外孙，皆少而聪惠，和并知之，而常谓顾胜。亲重偏至，张颇不悦。于时张年九岁，顾年七岁，和与俱至寺中，见佛般泥洹像，弟子有泣者，有不泣者。和以问二孙。玄谓：“被亲故泣，不被亲故不泣。”敷曰：“不然。当由忘情故不泣，不能忘情故泣。”

庾法畅造庾太尉，握麈尾至佳。公曰：“此至佳，那得在？”法畅曰：“廉者不求，贪者不与，故得在耳。”

庾稚恭为荆州，以毛扇上武帝。武帝疑是故物。侍中刘劭曰：“柏梁云构，工匠先居其下；管弦繁奏，钟、夔先听其音。稚恭上扇，以好不以新。”庾后闻之，曰：“此人宜在帝左右。”

何骧骑亡后，征褚公人。既至石头，王长史、刘尹同诣褚。褚曰：“真长何以处我？”真长顾王曰：“此子能言。”褚因视王，王曰：“国自有周公。”

桓公北征，经金城，见前为琅邪时种柳，皆已十围，慨然曰：“木犹如此，人何以堪！”攀枝执条，泫然流泪。

简文作抚军时，尝与桓宣武俱入朝。更相让在前，宣武不得已而先之，因曰：“伯也执殳，为王前驱。”简文曰：“所谓‘无小无大，从公于迈’。”

顾悦与简文同年，而发早白。简文曰：“卿何以先白？”对曰：“蒲柳之姿，望秋而落；松柏之质，经霜弥茂。”

桓公入峡，绝壁天悬，腾波迅急，乃叹曰：“既为忠臣，不得为孝子，如何？”



初，荧惑入太微，寻废海西，简文登阼，复入太微，帝恶之。时郗超为中书，在直。引超入曰：“天命修短，故非所计。政当无复近日事不？”超曰：“大司马方将外固封疆，内镇社稷，必无若此之虑。臣为陛下以百口保之。”帝因诵庾仲初诗曰：“志士痛朝危，忠臣哀主辱。”声甚凄厉。郗受假还东，帝曰：致意尊公，家国之事，遂至于此。由是身不能以道匡卫，思患预防。愧叹之深，言何能喻？”因泣下流襟。

简文在暗室中坐，召宣武，宣武至，问上何在。简文曰：“某在斯。”时人以为能。

简文入华林园，顾谓左右曰：“会心处不必在远，翳然林水，便自有濠、濮间想也，觉鸟兽禽鱼自来亲人。”

谢太傅语王右军曰：“中年丧于哀乐，与亲友别，辄作数日恶。”王曰：“年在桑榆，自然至此，正赖丝竹陶写，恒恐儿辈觉，损欢乐之趣。”

支道林常养数匹马。或言：“道人畜马不韵。”支曰：“贫道重其神骏。”

刘尹与桓宣武共听讲《礼记》。桓云：“时有入心处，便觉咫尺玄门。”刘曰：“此未关至极，自是金华殿之语。”

羊秉为抚军参军，少亡，有令誉。夏侯孝若为之叙，极相赞悼。羊权为黄门侍郎，侍简文坐。帝问曰：“夏侯湛作羊秉叙，绝可想。是卿何物？有后不？”权潸然对曰：“亡伯令问夙彰，而无有继嗣；虽名播天听，然胤绝于世。”帝嗟慨久之。

王长史与刘真长别后相见，王谓刘曰：“卿更长进。”答曰：“此若天之自高耳。”

刘尹云：“人想王荆产佳，此想长松下当有清风耳。”

王仲祖闻蛮语不解，茫然曰：“若使介葛卢来朝，故当不昧此语。”

刘真长为丹阳尹，许玄度出都，就刘宿，床帷新丽，饮食丰甘。许曰：“若保全此处，殊胜东山。”刘曰：“卿若知吉凶由人，吾安得不保此！”王逸少在坐，曰：“令巢、许遇稷、契，当无此言。”二人并有愧色。

王右军与谢太傅共登冶城，谢悠然远想，有高世之志。王谓谢曰：“夏禹勤王，手足胼胝；文王旰食，日不暇给。今四郊多垒，宜人人自效；而虚谈废务，浮文妨要，恐非当今所宜。”谢答曰：“秦任商鞅，二世而亡，岂清言致患邪？”

谢太傅寒雪日内集，与儿女讲论文义。俄而雪骤，公欣然曰：“白雪纷纷何所似？”兄子胡儿曰：“撒盐空中差可拟。”兄女曰：“未若柳絮因风起。”公大笑乐。即公大兄无奕女，左将军王凝之妻也。

王中郎令伏玄度、习凿齿论青、楚人物。临成，以示韩康伯，康伯都无言。王曰：“何故不言？”韩曰：“无可无不可。”

刘尹云：“清风朗月，辄思玄度。”

荀中郎在京口，登北固望海云：“虽未睹三山，便自使人有凌云意。若秦汉之君，必当褰裳濡足。”

谢公云：“贤圣去人，其间亦远。”子侄未之许，公叹曰：“若郗超闻此语，必不至河



汉。”

支公好鹤，住剡东岵山。有人遗其双鹤，少时，翅长欲飞，支意惜之，乃铍其翮。鹤轩翥不复能飞，乃反顾翅，垂头视之，如有懊丧意。林曰：“既有陵霄之姿，何肯为人作耳目近玩！”养令翮成，置使飞去。

谢中郎经曲阿后湖，问左右：“此是何水？”答曰：“曲阿湖。”谢曰：“故当渊注渟渟，纳而不流。”

晋武帝每饷山涛恒少，谢太傅以问子弟，车骑答曰：“当由欲者不多，而使与者忘少。”

谢胡儿语庾道季：“诸人莫当就卿谈，可坚城垒。”庾曰：“若文度来，我以偏师待之；康伯来，济河焚舟。”

李弘度常叹不被遇。殷扬州知其家贫，问：“君能屈志百里不？”李答曰：“北门之叹，久已上闻；穷猿奔林，岂暇择木？”遂授剡县。

王司州至吴兴印渚中看，叹曰：“非唯使人情开涤，亦觉日月清明。”

谢万作豫州都督，新拜，当西之都邑，相送累日，谢疲顿。于是高侍中往，径就谢坐，因问：“卿今仗节方州，当疆理西蕃，何以为政？”谢粗道其意。高便为谢道形势，作数百语。谢遂起坐。高去后，谢追曰：“阿鄴故粗有才具。”谢因此得终坐。

袁彦伯为谢安南司马，都下诸人送至濂乡。将别，既自凄惻，叹曰：“江山辽落，居然有万里之势！”

孙绰赋《遂初》，筑室剡川，自言见止足之分。斋前种一株松，恒自手壅治之。高世远时亦邻居，语孙曰：“松树子非不楚楚可怜，但永无栋梁用耳！”孙曰：“枫柳虽合抱，亦何所施？”

桓征西治江陵城甚丽，会宾客出江津望之，云：“若能目此城者，有赏。”顾长康时为客，在坐，目曰：“遥望层城，丹楼如霞。”桓即赏以二婢。

王子敬语王孝伯曰：“羊叔子自复佳耳，然亦何与人事。故不如铜雀台上妓。”

林公见东阳长山曰：“何其坦迤！”

顾长康从会稽还，人问山川之美，顾云：“千岩竞秀，万壑争流，草木蒙笼其上，若云兴霞蔚。”

简文崩，孝武年十余岁立，至暝不临。左右启：“依常应临。”帝曰：“哀至则哭，何常之有？”

孝武将讲《孝经》，谢公兄弟与诸人私庭讲习。车武子难苦问谢，谓袁羊曰：“不问则德音有遗，多问则重劳二谢。”袁曰：“必无此嫌。”车曰：“何以知尔？”袁曰：“何尝见明镜疲于屡照，清流惮于惠风？”

王子敬云：“从山阴道上行，山川自相映发，使人应接不暇。若秋冬之际，尤难为怀。”



谢太傅问诸子侄：“子弟亦何预人事，而正欲使其佳？”诸人莫有言者，车骑答曰：“譬如芝兰玉树，欲使其生于阶庭耳。”

道壹道人好整饰音辞，从都下还东山，经吴中。已而会雪下，未甚寒，诸道人问在道所经。壹公曰：“风霜固所不论，乃先集其惨澹；郊邑正自飘瞥，林岫便已浩然。”

张天锡为凉州刺史，称制四隅。既为苻坚所禽，用为侍中。后于寿阳俱败，至都，为孝武所器。每人言论，无不竟日。颇有嫉己者，于坐问张：“北方何物可贵？”张曰：“桑椹甘香，鸱鸦革响，淳酪养性，人无嫉心。”

顾长康拜桓宣武墓，作诗云：“山崩溟海竭，鱼鸟将何依！”人问之曰：“卿凭重桓乃尔，哭之状其可见乎？”顾曰：“鼻如广莫长风，眼如悬河决溜。”或曰：“声如震雷破山，泪如倾河注海。”

毛伯成既负其才气，常称：“宁为兰摧玉折，不作萧敷艾荣。”

范宁作豫章，八日请佛有板，众僧疑，或欲作答。有小沙弥在坐末，曰：“世尊默然，则为许可。”众从其义。

司马太傅斋中夜坐，于时天月明净，都无纤翳。太傅叹以为佳。谢景重在坐，答曰：“意谓乃不如微云点缀。”太傅因戏谢曰：“卿居心不静，乃复强欲淬秽太清邪？”

王中郎甚爱张天锡，问之曰：“卿观过江诸人，经纬江左轨辙，有何伟异？后来之彦，复何如中原？”张曰：“研求幽邃，自王、何以还；因时修制，荀、乐之风。”王曰：“卿知见有余，何故为苻坚所制？”答曰：“阳消阴息，故天步屯蹇，否剥成象，岂足多讥？”

谢景重女适王孝伯儿，二门公甚相爱美。谢为太傅长史，被弹；王即取作长史，带晋陵郡。太傅已构嫌孝伯，不欲使其得谢，还取作咨议，外示繁维，而实以乖间之。及孝伯败后，太傅绕东府城行散，僚属悉在南门，要望候拜。时谓谢曰：“王宁异谋，云是卿为其计。”谢曾无惧色，敛笏对曰：“乐彦辅有言：‘岂以五男易一女？’”太傅善其对，因举酒劝之曰：“故自佳，故自佳。”

桓玄义兴还后，见司马太傅，太傅已醉，坐上多客。问人云：“桓温来欲作贼，如何？”桓玄伏不得起。谢景重时为长史，举板答曰：“故宣武公黜昏暗，登圣明，功超伊、霍。纷纭此议，裁之圣鉴。”太傅曰：“我知，我知。”即举酒云：“桓义兴，劝卿酒！”桓出谢过。

宣武移镇南州，制街衢平直。人谓王东亭曰：“丞相初营建康，无所因承，而制置纡曲，方此为劣。”东亭曰：“此丞相乃所以为巧。江左地促，不如中国。若使阡陌条畅，则一览而尽，故纡余委曲，若不可测。”

桓玄诣殷荆州。殷在妾房昼眠，左右辞不之通。桓后言及此事，殷云：“初不眠，纵有此，岂不有‘贤贤易色’也！”

桓玄问羊孚：“何以共重吴声？”羊曰：“当以其妖而浮。”

谢混问羊孚：“何以器举珊瑚？”羊曰：“故当以为接神之器。”



桓玄既篡位，后御床微陷，群臣失色。侍中殷仲文进曰：“当由圣德渊重，厚地所以不能载。”时人善之。

桓玄既篡位，将改置直馆，问左右：“虎贲中郎省应在何处？”有人答曰：“无省。”当时殊忤旨。问：“何以知无？”答曰：“潘岳《秋兴赋》叙曰：‘余兼虎贲中郎将，寓直散骑之省。’”玄咨嗟称善。

谢灵运好戴曲柄笠，孔隐士谓曰：“卿欲希心高远，何不能遗曲盖之貌？”谢答曰：“将不畏影者未能忘怀。”

上卷 下

政事第三

陈仲弓为太丘长，时吏有诈称母病求假。事觉，收之，令吏杀焉。主簿请付狱考众奸，仲弓曰：“欺君不忠，病母不孝，不忠不孝，其罪莫大。考求众奸，岂复过此？”

陈仲弓为太丘长，有劫贼杀财主，主者捕之。未至发所，道闻民有在草不起子者，回车往治之。主簿曰：“贼大，宜先按讨。”仲弓曰：“盗杀财主，何如骨肉相残？”

陈元方年十一时，候袁公。袁公问曰：“贤家君在太丘，远近称之，何所履行？”元方曰：“老父在太丘，强者绥之以德，弱者抚之以仁，恣其所安，久而益敬。”袁公曰：“孤往者尝为邺令，正行此事。不知卿家君法孤，孤法卿父？”元方曰：“周公、孔子，异世而出，周旋动静，万里如一。周公不师孔子，孔子亦不师周公。”

贺太傅作吴郡，初不出门，吴中诸强族轻之，乃题府门云：“会稽鸡，不能啼。”贺闻，故出行，至门反顾，索笔足之曰：“不可啼，杀吴儿。”于是至诸屯邸，检校诸顷、陆役使官兵及藏逋亡，悉以事言上，罪者甚众。陆抗时为江陵都督，故下请孙皓，然后得释。

山公以器重朝望，年逾七十，犹知管时任。贵胜年少，若和、裴、王之徒，并共言咏。有署阁柱曰：“阁东，有大牛，和、裴、王、王之徒，并共言咏。王济、裴、王、王之徒，并共言咏。”或云潘尼作之。

贾充初定律令，与羊祜共咨太傅郑冲，冲曰：“皋陶严明之旨，非仆暗懦所探。”羊曰：“上意欲令小加弘润。”冲乃粗下意。

山司徒前后选，殆周遍百官，举无失才，凡所题目，皆如其言。唯用陆亮，是诏所用，与公意异，争之不从。亮亦寻为贿败。

嵇康被诛后，山公举康子绍为秘书丞。绍咨公出处，公曰：“为君思之久矣。天地四时，犹有消息，而况人乎？”



王安期为东海郡。小吏盗池中鱼，纲纪推之。王曰：“文王之圃，与众共之。池鱼复何足惜！”

王安期作东海郡，吏录一犯夜人来。王问：“何处来？”云：“从师家受书还，不觉日晚。”王曰：“鞭挞宁越以立威名，恐非致理之本。”使吏送令归家。

成帝在石头，任让在帝前戮侍中钟雅、右卫将军刘超。帝泣曰：“还我侍中。”让不奉诏，遂斩超、雅。事平之后，陶公与让有旧，欲宥之。许柳儿思妣者至佳，诸公欲全之；若全思妣，则不得不为陶全让。于是欲并宥之。事奏，帝曰：“让是杀我侍中者，不可宥！”诸公以少主不可违，并斩二人。

王丞相拜扬州，宾客数百人并加沾接，人人有说色。唯有临海一客姓任及数胡人为未洽。公因便还到过任边，云：“君出，临海便无复人。”任大喜说。因过胡人前，弹指云：“兰闾，兰闾”群胡同笑，四坐并欢。

陆太尉诣王丞相咨事，过后辄翻异，王公怪其如此。后以问陆，陆曰：“公长民短，临时不知所言，既后觉其不可耳。”

丞相尝夏月至石头看庾公，庾公正料事。丞相云：“暑，可小简之。”庾公曰：“公之遗事，天下亦未以为允。”

丞相末年，略复不省事，正封策诺之。自叹曰：“人言我愤愤，后人当思此愤愤。”

陶公性检厉，勤于事。作荆州时，敕船官悉录锯木屑，不限多少。咸不解此意。后正会，值积雪始晴，听事前除雪后犹湿，于是悉用木屑覆之，都无所妨。官用竹，皆令录厚头，积之如山。后桓宣武伐蜀，装船，悉以作钉。又云，尝发所在竹篙，有一官长连根取之，仍当足。乃超两阶用之。

何骠骑作会稽，虞存弟饴作郡主簿，以何见客劳损，欲白断常客，使家人节量择可通者。作白事成，以见存。存时为何上佐，正与饴共食，语云：“白事甚好，待我食毕作教。”食竟，取笔题白事后云：“若得门庭长如郭林宗者，当如所白。汝何处得此人？”饴于是止。

王、刘与林公共看何骠骑，骠骑看文书，不顾之。王谓何曰：“我今故与林公来相看，望卿摆拨常务，应对玄言，那得方低头看此邪？”何对曰：“我不看此，卿等何以得存？”诸人以为佳。

桓公在荆州，全欲以德被江、汉，耻以威刑肃物。令史受杖，正从朱衣上过。桓式年少，从外来，云：“向从阁下过，见令史受杖，上捎云根，下拂地足。”意讥不著。桓公云：“我犹患其重。”

简文为相，事动经年，然后得过。桓公甚患其迟，常加劝勉。太宗曰：“一日万机，那得速！”

山遐去东阳，王长史就简文索东阳云：“承藉猛政，故可以和静致治。”

殷浩始作扬州，刘尹行，日小欲晚，便使左右取襖。人问其故，答曰：“刺史严，不



敢夜行。”

谢公时，兵厮逃亡，多近南塘，下诸舫中。或欲求一时搜索，谢公不许，云：“若不容置此辈，何以为京都？”

王大为吏部郎，尝作选草，临当奏，王僧弥来，聊出示之。僧弥得便以己意改易所选者近半，王大甚以为佳，更写即奏。

王东亭与张冠军善。王既作吴郡，人问小令曰：“东亭作郡，风政何似？”答曰：“不知治化何如，唯与张祖希情好日隆耳。”

殷仲堪当之荆州，王东亭问曰：“德以居全为称，仁以不害物为名。方今幸牧华夏，处杀戮之职，与本操将不乖乎？”殷答曰：“皋陶造刑辟之制，不为不贤；孔丘居司寇之任，未为不仁。”

文学第四

郑玄在马融门下，三年不得相见，高足弟子传授而已。尝算浑天不合，诸弟子莫能解；或言玄能者，融召令算，一转便决，众咸骇服。及玄业成辞归，既而融有“礼乐皆东”之叹，恐玄擅名而心忌焉。玄亦疑有追，乃坐桥下，在水上据屐。融果转式逐之，告左右曰：“玄在土下水上而据木，此必死矣。”遂罢追。玄竟以得免。

郑玄欲注《春秋传》，尚未成时，行与服子慎遇，宿客舍。先未相识，服在外车上与人说已注《传》意，玄听之良久，多与己同。玄就车与语曰：“吾久欲注，尚未了。听君向言，多与我同，今当尽以所注与君。”遂为服氏注。

郑玄家奴婢皆读书。尝使一婢，不称旨。将挞之，方自陈说，玄怒，使人曳著泥中。须臾，复有一婢来，问曰：“胡为乎泥中？”答曰：“薄言往愬，逢彼之怒。”

服虔既善《春秋》，将为注，欲参考同异。闻崔烈集门生讲传，遂匿姓名，为烈门人赁作食。每当至讲时，辄窃听户壁间。既知不能逾己，稍共诸生叙其短长。烈闻，不测何人。然素闻虔名，意疑之。明早往，及未寐，便呼：“子慎！子慎！”虔不觉惊应，遂相与友善。

钟会撰《四本论》。始毕，甚欲使嵇公一见。置怀中，既定，畏其难，怀不敢出，于户外遥掷，便回急走。

何宴为吏部尚书，有位望，时谈客盈坐。王弼未弱冠，往见之。宴闻弼名，因条向者胜理语弼曰：“此理仆以为极，可得复难不？”弼便作难，一坐人便以为屈。于是弼自为客主数番，皆一坐所不及。

何平叔注《老子》，始成，诣王辅嗣。见王注精奇，乃神伏，曰：“若斯人，可与论天人之际矣！”因以所注为《道德二论》。

王辅嗣弱冠诣裴徽，徽问曰：“夫无者，诚万物之所资，圣人莫肯致言，而老子申之



无已，何邪？”弼曰：“圣人体无，无又不可以训，故言必及有；老、庄未免于有，恒训其所不足。”

傅嘏善言虚胜，荀粲谈尚玄远，每至共语，有争而不相喻。裴冀州释二家之义，通彼我之怀，常使两情皆得，彼此俱畅。

何宴注《老子》未毕，见王弼自说注《老子》旨，何意多所短，不复得作声，但应诺诺，遂不复注，因作《道德论》。

中朝时，有怀道之流，有诣王夷甫咨疑者。值王昨已语多，小极，不复相酬答，乃谓客曰：“身今少恶，裴逸民亦近在此，君可往问。”

裴成公作《崇有论》，时人攻难之，莫能折，唯王夷甫来，如小屈。时人即以王理难裴，理还复申。

诸葛玄年少不肯学问，始与王夷甫谈，便已超诣。王叹曰：“卿天才卓出，若复小加研寻，一无所愧。”玄后看庄、老，更与王语，便足相抗衡。

卫玠总角时，问乐令“梦”，乐云“是想。”卫曰：“形神所不接而梦，岂是想邪？”乐云：“因也。未尝梦乘车入鼠穴、捣齏啖铁杵，皆无想无因故也。”卫思“因”，经日不得，遂成病。乐闻，故命驾为剖析之，卫即小差。乐叹曰：“此儿胸中当必无膏肓之疾！”

庾子嵩读《庄子》，开卷一尺便放去，曰：“了不异人意。”

客问乐令“旨不至”者，乐亦不复剖析文句，直以麈尾柄确几曰：“至不？”客曰：“至。”乐因又举麈尾曰：“若至者，那得去？”于是客乃悟服。乐辞约而旨达，皆此类。

初，注《庄子》者数十家，莫能究其旨要。向秀于旧注外为解义，妙析奇致，大畅玄风，唯《秋水》、《至乐》二篇未竟而秀卒。秀子幼，义遂零落，然犹有别本。郭象者，为人薄行，有俊才，见秀义不传于世，遂窃为己注，乃自注《秋水》、《至乐》二篇，又易《马蹄》一篇，其余众篇，或定点文句而已。后秀义别本出，故今有向、郭二《庄》，其义一也。

阮宣子有令闻。太尉王夷甫见而问曰：“老庄与圣教同异？”对曰：“将无同？”太尉善其言，辟之为掾。世谓“三语掾”。卫玠嘲之曰：“一言可辟，何假于三！”宣子曰：“苟是天下人望，亦可无言而辟，复何假于一！”遂相与为友。

裴散骑娶王太尉女，婚后三日，诸婿大会，当时名士、王、裴子弟悉集。郭子玄在坐，挑与裴炎。子玄才甚丰赡，始数交，未快。郭陈张甚盛，裴徐理前语，理致甚微，四坐咨嗟称快，王亦以为奇，谓语诸人曰：“君辈勿为尔，将受困寡人女婿。”

卫玠始度江，见王大将军，因夜坐，大将军命谢幼舆。玠见谢，甚说之，都不复顾王，遂达旦微言，王永夕不得豫。玠体素羸，恒为母所禁。尔昔忽极，于此病笃，遂不起。

旧云：王丞相过江左，止道《声无哀乐》、《养生》、《言尽意》，三理而已，然宛转关生，无所不入。



殷中军为庾公长史，下都，王丞相为之集，桓公、王长史、王蓝田、谢镇西并在。丞相自起解帐带麈尾，语殷曰：“身今日当与君共谈析理。”既共清言，遂达三更。”丞相与殷共相往反，其余诸贤略无所关。既彼我相尽，丞相乃叹曰：“向来语，乃竟未知理源所归。至于辞喻不相负，正始之音，正当尔耳。”明旦，桓宣武语人曰：“昨夜听殷、王清言，甚佳。仁祖亦不寂寞，我亦时复造心；顾看两王掾，辄譬如生母狗馨。”

殷中军见佛经，云：“理亦应在阿堵上。”

谢安年少时，请阮光禄道《白马论》，为论以示谢。于时谢不解阮语，重相咨尽。阮乃叹曰：“非但能言人不可得，正索解人亦不可得！”

褚季野语孙安国云：“北人学问，渊综广博。孙答曰：“南人学问，清通简要。”支道林闻之，曰：“圣贤故所忘言。自中人以还，北人看书，如显处视月，南人学问，如牖中窥日。”

刘真长与殷渊源谈，刘理如小屈，殷曰：“恶卿不欲作将善云梯仰攻。”

殷中军云：“康伯未得我牙后慧。”

谢镇西少时，闻殷浩能清言，故往造之。殷未过有所通，为谢标榜诸义，作数百语。既有佳致，兼辞条丰蔚，甚足以动心骇听。谢注神倾意，不觉流汗交面。殷徐语左右：“取手巾与谢郎拭面。”

宣武集诸名胜讲《易》，日说一卦。简文欲听，闻此便还，曰：“义自当有难易，其以一卦为限邪？”

有北来道人好才理，与林公相遇于瓦官寺，讲《小品》。于时竺法深、孙兴公悉共听。此道人语，屡设疑难，林公辩答清析，辞气俱爽。此道人每辄摧屈。孙问深公：“上人当是逆风家，向来何以都不言？”深公笑而不答。林公曰：“白旗檀非不馥，焉能逆风？”深公得此义，夷然不屑。

孙安国往殷中军许共论，往反精苦，客主无间。左右进食，冷而复暖者数四。彼我奋掷麈尾，悉脱落，满餐饭中。宾主遂至莫忘食。殷乃语孙曰：“卿莫作强口马，我当穿卿鼻！”孙曰：“卿不见决鼻牛，人当穿卿颊！”

《庄子·逍遥篇》，旧是难处，诸名贤所可钻味，而不能拔理于郭、向之外。支道林在白马寺中，将冯太常共语，因及《逍遥》。支卓然标新理于二家之表，立异义于众贤之外，皆是诸名贤寻味之所不得。后遂用支理。

殷中军尝至刘尹所清言。良久，殷理小屈，游辞不已，刘亦不复答。殷去后，乃云：“田舍儿，强学人作尔馨语！”

殷中军虽思虑通长，然于《才性》偏精。忽言及《四本》，便若汤池铁城，无可攻之势。

支道林造《即色论》，论成，示王中郎，中郎都无言。支曰：“默而识之乎？”王曰：“既无文殊，谁能见赏？”



王逸少作会稽，初至，支道林在焉。孙兴公谓王曰：“支道林拔新领异，胸怀所及乃自佳，卿欲见不？”王本自有一往隼气，殊自轻之。后孙与支共载往王许，王都领域，不与交言。须臾支退。后正值王当行，车已在门，支语王曰：“君未可去，贫道与君小语。”因论《庄子·逍遥游》。支作数千言，才藻新奇，花烂映发。王遂披襟解带，留连不能已。

三乘佛家滞义，支道林分判，使三乘炳然。诸人在下坐听，皆云可通。支下坐，自共说，正当得两，入三便乱。今义弟子虽传，犹不尽得。

许掾年少时，人以比王荀子，许大不平。时诸人士及与法师并在会稽西寺讲，王亦在焉。许意甚忿，便往西寺与王论理，共绝优劣，苦相折挫，王遂大屈。许复执王理，王执许理，更相覆疏，王复屈。许谓支法师曰：“弟子向语何似？”支从容曰：“君语佳则佳矣，何至相苦邪？”岂是求理中之谈哉！”

林道人诣谢公，东阳时始总角，新病起，体未堪劳。与林公讲论，遂至相苦。母王夫人在壁后听之，再遣信令还，而太傅留之。王夫人因自云，云：“新妇少遭家难，一生所寄，唯在此儿。”因流涕抱儿以归。谢公语同坐曰：“家嫂辞情慷慨，致可传述，恨不使朝士见！”

支道林、许掾诸人共在会稽王斋头。支为法师，许为都讲。支通一义，四坐莫不厌心。许送一难，众人莫不忤舞。但共嗟咏二家之美，不辩其理之所在。

谢车骑在安西艰中，林道人往就语，将夕乃退。有人道上见者，问云：“公何处来？”答云：“今日与谢孝剧谈一出来。”

支道林初从东山，住东安寺中。王长史宿构情理，并撰其才藻，往与支语，不大当对。王叙致数百语，自谓是名理奇藻。支徐徐谓曰：“身与君别多年，君义言了不长进。”王大惭而退。

殷中军读《小品》，下二百签，皆是精微，世之幽滞。尝欲与支道林辩之，竟不得。今《小品》犹存。

佛经以为祛练神明，则圣人可致。简文云：“不知便可登峰造极不？然陶练之功，尚不可诬。”

于法开始与支公争名，后精渐归支，意甚不忿，遂通迹刺下。遣弟子出都，语使过会稽。于时支公正讲《小品》。开戒弟子：“道林讲，比汝至，当在某品中。”因示语攻难数十番，云：“旧此中不可复通。”弟子如言诣支公。正值讲，因谨述开意，往反多时，林公遂屈。厉声曰：“君何足复受人寄载来！”

殷中军问：“自然无心于禀受，何以正善人少，恶人多？”诸人莫有言者。刘尹答曰：“譬如写水著地，正自纵横流漫，略无正方圆者。”一时绝叹，以为名通。

康僧渊初过江，未有知者，恒周旋市肆，乞索以自营。忽往殷渊源许，值盛有宾客，殷使坐，粗与寒温，遂及义理。语言辞旨，曾无愧色。领略祖举，一往参诣。由是知之。

殷、谢诸人共集。谢因问殷：“眼往属万形，万形来入眼不？”



人有问殷中军：“何以将得位而梦棺器，将得财而梦矢秽？”殷曰：“官本是臭腐，所以将得而梦棺尸；财本是粪土，所以将得而梦秽污。”时人以为名通。

殷中军被废东阳，始看佛经。初视《维摩诘》，疑般若波罗密太多；后见《小品》，恨此语少。

支道林、殷渊源俱在相王许。相王谓二人：“可试一交言。而《才性》殆是渊源峭、函之固，君其慎焉！”支初作，改辄远之；数四交，不觉入其玄中。相王抚肩笑曰：“此自是其胜场，安可争锋！”

谢公因子弟集聚，问：“《毛诗》何句最佳？”遏称曰：“‘昔我往矣，杨柳依依；今我来思，雨雪霏霏。’”公曰：“‘汙蔑定命，远猷辰告。’”谓：“此句偏有雅人深致。”

张凭举孝廉，出都，负其才气，谓必参时彦。欲诣刘尹，乡里及同举者共笑之。张遂诣刘，刘洗濯料事，处之下坐，唯通寒暑，神意不接。张欲自发无端。顷之，长史诸贤来清言，客主有不通处，张乃遥于末坐判之，言约旨远，足畅彼我之怀，一坐皆惊。真长延之上坐，清言弥日，因留宿至晓。张退，刘曰：“卿且去，正当取卿共诣抚军。”张还船，同侣问何处宿，张笑而不答。须臾，真长遣传教覓张孝廉船，同侣愧愕。即同载诣抚军。至门，刘前进谓抚军曰：“下官今日为公得一太常博士妙选。”既前，抚军与之话言，咨嗟称善，曰：“张凭勃宰为理窟。”即用为太常博士。

汰法师云：“‘六通’、‘三明’同归，正异名耳。”

支道林、许、谢盛德，共集王家，谢顾诸人曰：“今日可谓彦会，时既不可留，此集固亦难常，当共言咏，以写其怀。”许便问主人：“有《庄子》不？”正得《渔父》一篇。谢看题，便各使四坐通。支道林先通，作七百许语，叙致精丽，才藻奇拔，众咸称善。于是四坐各言怀毕。谢问曰：“卿等尽不？”皆曰：“今日之言，少不自竭。”谢后粗难，因自叙其意，作万余语，才峰秀逸，既自难干，加意气拟托，萧然自得，四坐莫不不厌心。支谓谢曰：“君一往奔诣，故复自佳耳。”

殷中军、孙安国、王、谢能言诸贤，悉在会稽王许。殷与孙共论《易》象，妙于见形。孙语道合，意气干云，一坐咸不安孙理，而辞不能屈。会稽王慨然叹曰：“使真长来，故应有以制彼。”即迎真长，孙意已不如。真长既至，先令孙自叙本理，孙粗说已语，亦觉殊不及向。刘便作二百许语，辞难简切，孙理遂屈。一坐同时抚掌而笑，称美良久。

僧意在瓦官寺中，王荀子来，与共语，便使其唱理。意谓王曰：“圣人有情不？”王曰：“无。”重问曰：“圣人如柱邪？”王曰：“如筹算，虽无情，运之者有情。”僧意云：“谁运圣人邪？”荀子不得答而去。

司马太傅问谢车骑：“惠子其书五车，何以无一言入玄？”谢曰：“故当是其妙处不传。”

殷中军被废，徙东阳，大读佛经，皆精解。唯至“事数”处不解。遇见一道人，问所签，便释然。



殷仲堪精核玄论，人谓莫不研究。殷乃叹曰：“使我解《四本》，谈不翅尔。”

殷荆州曾问远公：“《易》以何为体？”答曰：“《易》以感为体。”殷曰：“铜山西崩，灵钟东应，便是《易》耶？”远公笑而不答。

羊孚弟娶王永言女，及王家见婿，孚送弟俱往。时永言父东阳尚在，殷仲堪是东阳女婿，亦在坐。孚雅善理义，乃与仲堪道《齐物》，殷难之。羊云：“君四番后，当得见同。”殷笑曰：“乃可得尽，何必相同。”乃至四番后一通。殷咨嗟曰：“仆便无以相异。”叹为新拔者久之。

殷仲堪云：“三日不读《道德经》，便觉舌本间强。”

提婆初至，为东亭第讲《阿毗昙》。始发讲，坐裁半，僧弥便云：“都已晓。”即于坐分数四有意道人，更就余屋自讲。提婆讲竟，东亭问法冈道人曰：“弟子都未解，阿弥那得已解？所得云何？”曰：“大略全是，故当小未精核耳。”

桓南郡与殷荆州共谈，每相攻难。年余后，但一两番。桓自叹才思转退，殷云：“此乃是君转解。”

文帝尝令东阿王七步中作诗，不成者行大法。应声便为诗曰：“煮豆持作羹，漉菽以为汁。萁在釜下然，豆在釜中泣。本是同根生，相煎何太急？”帝深有惭色。

魏朝封晋王为公，备礼九锡，文王固让不受。公卿将校当诣府敦喻。司空郑冲驰遣信就阮籍求文。籍时在袁孝尼家。宿醉扶起，书札为之，无所点定，乃写付使。时人以为神笔。

左太冲作《三都赋》初成，时人互有讥訾，思意不惬。后示张公，张曰：“此二京可三。然君文未重于世，宜以经高名之士。”思乃询求于皇甫谧。谧见之嗟叹，遂为作叙。于是先相非貳者，莫不敛衽赞述焉。

刘伶著《酒德颂》，意气所寄。

乐令善于清言，而不长于手笔。将让河南尹，请潘岳为表。潘云：“可作耳，要当得君意。”乐为述己所以为让，标位二百许语。潘直取错简，便成名笔。时人咸云：“若乐不假潘之文，潘不取乐之旨，则无以成斯矣。”

夏侯湛作《周诗》成，示潘安仁，安仁曰：“此非徒温雅，乃别见孝悌之性。”潘因此遂作《家风诗》。

孙子荆除妇服，作诗以示王武子。王曰：“未知文生于情，情生于文？览之凄然，增伉俪之重。”

太叔广甚辩给，而挚仲治长于翰墨，俱为列卿。每至公坐，广谈，仲治不能对。退，著笔难广，广又不能答。

江左殷太常父子，并能言理，亦有辩讷之异。扬州口谈至剧，太常辄云：“汝更思吾论。”

庾子嵩作《意赋》成，从子文康见，问曰：“若有意邪，非赋之所尽；若无意邪，复



何所赋？”答曰：“正在有意无意之间。”

郭景纯诗云：“林无静树，川无停流。”阮孚云：“泓峥萧瑟，实不可言。每读此文，辄觉神超形越。”

庾阐始作《扬都赋》，道温、庾云：“温挺义之标，庾作民之望。方响则金声，比德则玉亮。”庾公闻赋成，求看，兼赠贶之。阐更改“望”为“俊”，以“亮”为“润”云。

孙兴公作《庾公诔》，袁羊曰：“见此张缓。”于时以为名赏。

庾仲初作《扬都赋》成，以呈庾亮。亮以亲族之怀，大为其名价云：“可三《二京》、四《三都》。”于此人人竞写，都下纸为之贵。谢太傅云：“不得尔。此是屋下架屋耳，事事拟学，而不免俭狭。”

习凿齿史才不常，宣武甚器之，未三十，便用为荆州治中。凿齿谢筵亦云：“不遇明公，荆州老从事耳！”后至都见简文，返命，宣武问：“见相王何如？”答云：“一生不曾见此人。”从此忤旨，出为衡阳郡，性理遂错。于病中犹作《汉晋春秋》，品评卓逸。

孙兴公云：“《三都》、《二京》，五经鼓吹。”

谢太傅问主簿陆退：“张凭何以作母诔，而不作父诔？”退答曰：“故当是丈夫之德，表于事行；妇人之美，非诔不显。”

王敬仁年十三作《贤人论》。长史送示真长，真长答云：“见敬仁所作论，便足参微言。”

孙兴公云：“潘文烂若披锦，无处不善；陆文若排沙简金，往往见宝。”

简文称许掾云：“玄度五言诗，可谓妙绝时人。”

孙兴公作《天台赋》成，以示范荣期，云：“卿试掷地，要作金石声。”范曰：“恐子之金石，非宫商中声。”然每至佳句，辄云：“应是我辈语。”

桓公见谢安石作简文谥议，看竟，掷与坐上诸客曰：“此是安石碎金。”

袁虎少贫，尝为人佣载运租。谢镇西经船行，其夜清风朗月，闻江渚间估客船上有咏诗声，甚有情致；所咏五言，又其所未尝闻，叹美不能已。即遣委曲讯问，乃是袁自咏其所作《咏史诗》。因此相要，大相赏得。

孙兴公云：“潘文浅而净，陆文深而芜。”

裴郎作《语林》，始出，大为远近所传。时流年少，无不传写，各有一通。载王东亭作《经王公酒垆下赋》，甚有才情。

谢万作《八贤论》，与孙兴公往反，小有利钝。谢后出以示顾君齐，顾曰：“我亦作，知卿当无所名。”

桓宣武命袁彦伯作《北征赋》，既成，公与时贤共看，咸嗟叹之。时王珣在坐，云：“恨少一句。得‘写’字足韵，当佳。”袁即于坐揽笔益云：“感不绝于余心，溯流风而独写。”公谓王曰：“当今不得不以此事推袁。”

孙兴公道：“曹辅佐才如白地明光锦，裁为负版绔，非无文采，酷无裁制。”



袁彦伯作《名士传》成，见谢公，公笑曰：“我尝与诸人道江北事，特作狡狴耳，彦伯遂以著书。”

王东亭到桓公吏，既伏阁下，桓令人窃取其白事。东亭即于阁下另作，无复向一字。

桓宣武北征，袁虎时从，被责免官。会须露布文，唤袁倚马前令作。手不辍笔，俄得七纸，殊可观。东亭在侧，极叹其才。袁虎云：“当令齿舌间得利。”

袁宏始作《东征赋》，都不道陶公。胡奴诱之狭室中，临以白刃，曰：“行公勋业如是！君作《东征赋》，云何相忽略？”宏窘蹙无计，便答：“我大道公，何以云无？”有诵曰：“精金百炼，在割能断。功则治人，职思靖乱。长沙之勋，为史所赞。”

或问顾长康：“君《筝赋》何如嵇康《琴赋》？”顾曰：“不赏者，作后出相遗。深识者，亦以高奇见贵。”

殷仲文天才宏赡，而读书不甚广博，亮叹曰：“若使殷仲文读书半袁豹，才不减班固。”

羊孚作《雪赞》云：“资清以化，乘气以霏。”遇象能鲜，即洁成辉。”桓胤遂以书扇。

王孝伯在京行散，至其弟王睹户前，问：“古诗中何句为最？”睹思未答。孝伯咏“‘所遇无故物，焉得不速老？’此句为佳。”

桓玄尝登江陵城南楼云：“我今欲为王孝伯作诔。”因吟啸良久，随而下笔。一坐之间，诔以之成。

桓玄初并西夏，领荆、江二州、二府、一国。于时始雪，五处俱贺，五版并入。玄在听事上，版至，即答版后，皆粲然成章，不相揉杂。

桓玄下都，羊孚时为兖州别驾，从京来诣门，笺曰：“自顷世故睽离，心事沦蕴。明公启晨光于积晦，澄百流以—源。”桓见笺，驰唤前，云：“子道，子道，来何迟！”即用为记室参军。孟昶为刘牢之主簿，诣门谢，见云：“羊侯，羊侯，百口赖卿。”

中卷 上

方正第五

陈太丘与友期行，期日中。过中不至，太丘舍去。去后乃至。元方时年七岁，门外戏。客问元方：“尊君在不？”答曰：“待君久不至，已去。”友人便怒曰：“非人哉！与人期行，相委而去。”元方曰：“君与家君期日中。日中不至，则是无信；对子骂父，则是无礼。”友人惭，下车引之。元方入门不顾。

南阳宗世林，魏武同时，而甚薄其为人，不与之交。及魏武作司空，总朝政，从容问宗曰：“可以交未？”答曰：“松柏之志犹存。”世林既以忤旨见疏，位不配德。文帝兄弟每



造其门，皆独拜床下。其见礼如此。

魏文帝受禅，陈群有戚容。帝问曰：“朕应天受命，卿何以不乐？”群臣：“臣与华歆服膺先朝，今虽欣圣化，犹义形于色。”

郭淮作关中都督，甚得民情，亦屡有战庸。淮妻，太尉王凌之妹，坐凌事，当并诛，使者征摄甚急。淮使戎装，克日当发。州府文武及百姓劝淮举兵，淮不许。至期遣妻，百姓号泣追呼者数万人。行数十里，淮乃命左右追夫人还，于是文武奔驰，如徇身首之急。既至，淮与宣帝书曰：“五子哀恋，思念其母。其母既亡；五子若殒，亦复无淮。”宣帝乃表，特原淮妻。

诸葛亮之次渭滨，关中震动。魏明帝深惧晋宣王战，乃遣辛毗为军司马。宣王既与亮对渭而陈，亮设诱满万方，宣王果大忿，将欲应之以重兵。亮遣间谍视之，还曰：“有一老夫，毅然仗黄钺，当军门立，军不得出。”亮曰：“此必辛佐治也。”

夏侯玄既被桎梏，时钟毓为廷尉，钟会先不与玄相知，因便狎之。玄曰：“虽复刑余之人，未敢闻命。”考掠初无一言，临刑东市，颜色不异。

夏侯泰初与广陵陈本善，本与玄在本母前宴饮，本弟骞行还，径入，至堂户。泰初因起曰：“可得同，不可得而杂。”

高贵乡公薨，内外喧嘩。司马文王问侍中陈泰曰：“何以静之？”泰云：“唯杀贾充以谢天下。”文王曰：“可复下此不？”对曰：“但见其上，未见其下。”

和峤为武帝所亲重，语峤曰：“东宫顷似更成进，卿试往看。”还。问：“何如？”答曰：“皇太子圣质如初。”

诸葛靓后入晋，除大司马，召不起。以与晋室有仇，常背洛水而坐。与武帝有旧，帝欲见之而无由，乃请诸葛妃呼靓。既来，帝就太妃间相见。礼毕，酒酣，帝曰：“卿故回忆竹马之好不？”靓曰：“臣不能吞炭漆身，今日复睹圣颜。”因涕泗百行。帝于是惭悔而出。

武帝语和峤曰：“我欲先痛骂王武子，然后爵之。”峤曰：“武子俊爽，恐不可屈。”帝遂召武子，苦责之，因曰：“知愧不？”武子曰：“‘尺布斗粟’之谣，常为陛下耻之！它人能令疏亲，臣不能使亲疏。以此愧陛下。”

杜预之荆州，顿七里桥，朝士悉祖。预少贱，好豪侠，不为物所许。杨济既名氏，雄俊不堪，不坐而去。须臾，和长舆来，问：“杨右卫何在？”客曰：“向来，不坐而去。”长舆曰：“必大夏门下盘马。”往大夏门，果大阅骑，长舆抱内车，共载归，坐如初。

杜预拜镇南将军，朝士悉至，皆在连榻坐，时亦有裴叔则。羊稚舒后至，曰：“杜元凯乃复连榻坐客！”不坐便去。杜请裴追之，羊去数里住马，既而俱还杜许。

晋武帝时，荀勖为中书监，和峤为令。故事，监、令由来共车。峤性雅正，常疾勖谄谀。后公车来，峤便登，正向前坐，不复容勖。勖方更觅车，然后得去。监、令各给车，自此始。



山公大儿著短舡，车中倚。武帝欲见之，山公不敢辞，问儿，儿不肯行。时论乃云胜山公。

向雄为河内主簿，有公事不及雄，而太守刘淮横怒，遂与杖遣之。雄后为黄门郎，刘为侍中，初不交言。武帝闻之，敕雄复君臣之好。雄不得已，诣刘，再拜曰：“向受诏而来，而君臣之义绝，何如？”于是即去。武帝闻尚不和，乃怒问雄曰：“我令卿复君臣之好，何以犹绝？”雄曰：“古之君子，进人以礼，退人以礼；今之君子，进人若将加诸膝，退人若将坠诸渊。臣于刘河内，不为戎首，亦已幸甚，安复为君臣之好？”武帝从之。

齐王冏为大司马，辅政，嵇绍为侍中，诣冏咨事。冏设宰会，召葛旂董艾等共论时宜。旂等白冏：“嵇侍中善于丝竹，公可令操之。”遂送乐器。绍推却不受，冏曰：“今日共为欢，卿何却邪？”绍曰：“公协辅皇室，令作事可法。绍虽官卑，职备常伯。操丝比竹，盖乐官之事，不可以先王法服，为伶人之业。今逼高命，不敢苟辞，当释冠冕，袭私服，此绍之心也。”旂等不自得而退。

卢志于众坐，问陆士衡：“陆逊、陆抗是君何物？”答曰：“如卿于卢毓、卢珽。”士龙失色，既出户，谓兄曰：“何至如此，彼容不相知也？”士衡正色曰：“我父、祖名播海内，宁有不知，鬼子敢尔！”议者疑二陆优劣，谢公以此定之。

羊忱性甚贞烈，赵王伦为相国，忱为太傅长史，乃版以参相国军事。使者卒至，忱深惧豫祸，不暇被马，于是帖骑而避。使者追之，忱善射，矢左右发，使者不敢进，遂得免。

王太尉不与庾子嵩交，庾卿之不置。王曰：“君不得为尔。”庾曰：“卿自君我，我自卿卿；我自用我法，卿自用卿法。”

阮宣子伐社树，有人止之，宣子曰：“社而为树，伐树则社亡，树而为社，伐树则社移矣。”

阮宣子论鬼神有无者。或以人死有鬼，宣子独以为无，曰：“今见鬼者，云著生时衣服，若人死有鬼，衣服复有鬼邪？”

元皇帝既登阼，以郑后之宠，欲舍明帝而立简文。时议者咸谓：“舍长立少，既于理非伦，且明帝以聪明英断，益宜为储副。”周、王诸公并苦争肯切，唯刁玄亮独欲奉少主以阿帝旨。元帝便欲施行，虑诸公不奉诏，于是先唤周侯、丞相入，然后欲出诏付刁。周、王既入，始至阶头，帝逆遣传诏，逼使就东厢。周侯未悟，即却略下阶。丞相拔按传诏，径至御床前，曰：“不审陛下何以见臣？”帝默然无言，乃探怀中黄纸诏裂掷之。由此皇储始定。周侯方慨然愧叹曰：“我常自言胜茂弘，今始知不如也！”

王丞相初在江左，欲结援吴人，请婚陆太尉。对曰：“培塿无松柏，薰莸不同器。玩虽不才，义不为乱伦之始。”

诸葛恢大女儿适太尉庾亮儿，次女适徐州刺史羊忱儿。亮子被苏峻害，改适江彪。恢儿娶邓攸女。于时谢尚书求其小女婚，恢乃云：“羊、邓是世婚，江家我顾伊，庾家伊顾



我，不能复与谢袁儿婚。”及恢亡，遂婚。于是王右军往谢家看新妇，犹有恢之遗法；威仪端详，容服光整。王叹曰：“我在遣女裁得尔耳！”

周叔治作晋陵太守，周侯、仲治往别，叔治以将别，涕泗不止。仲治悲之曰：“斯人乃妇女，与人别，唯啼泣！”便舍去。周侯独留，与饮酒言话，临别流涕，抚其背曰：“奴好自爱。”

周伯仁为吏部尚书，在省内夜疾危急，时刁玄亮为尚书令，营救备亲好之至，良久小损。明旦，报仲智，仲智狼狽来。始入户，刁下床对之大泣，说伯仁昨危急之状。仲智手批之，刁为辟易于户侧。既前，都不问病，直云：“君在中朝，与和长舆齐名，那与佞人刁协有情？”迺使出。

王含作庐江郡，贪浊狼藉。王敦护其兄，故于众坐称：“家兄在郡定佳，庐江人士咸称之！”时何充为敦主簿，在坐，正色曰：“充即庐江人，所闻异于此！”敦默然。旁人为之反侧，充晏然，神意自若。

顾孟著常以酒劝周伯仁，伯仁不受。顾因移劝柱，而语柱曰：“诿可便作栋梁自遇。”周得之欣然，遂为衿契。

明帝在西堂，会诸公饮酒，未大醉，帝问：“今名臣共集，何如尧、舜？”时周伯仁为仆射，因厉声曰：“今虽同人主，复那得等于圣治！”帝大怒，还内，作手诏满一黄纸，遂付廷尉令收，因欲杀之。后数日，诏出周，群臣往省之。周曰：“近知当不死，罪不足至此。”

王大将军当下，时咸谓无缘尔。伯仁曰：“今主非尧、舜，何能无过？且人臣安得称兵以向朝廷？处仲狼抗刚愎，王平子何在？”

王敦既下，住船石头，欲有废明帝意。宾客盈坐，敦知帝聪明，欲以不孝废之。每言帝不孝之状，而皆云：“温太真所说。温尝为东宫率，后为吾司马，甚悉之。”须臾，温来，敦便奋其威容，问温曰：“皇太子作人何似？”温曰：“小人无以测君子。”敦声色并厉，欲以威力使从己，乃重问温：“太子何以称佳？”温曰：“钩深致远，盖非浅识所测。然以礼侍亲，可称为孝。”

王大将军既反，至石头，周伯仁往见之。谓周曰：“卿何以相负？”对曰：“公戎车犯正，下官忝率六军，而王师不振，以此负公。”

苏峻既至石头，百僚奔散，唯侍中钟雅独在帝侧。或谓钟曰：“见可而进，知难而退，古之道也。君性亮直，必不容于寇仇，何不用随时之宜，而坐待其弊邪？”钟曰：“国乱不能匡，君危不能济，而各逊避以求免，吾惧董狐将执简而进矣！”

庾公临去，顾语钟后事，深以相委。钟曰：“栋折榱崩，谁之责邪？”庾曰：“今日之事，不容复言，卿当期克复之效耳！”钟曰：“想足下不愧荀林父耳。”

苏峻时，孔群在横塘，为匡术所逼。王丞相保存术，因众坐戏语，令术劝群酒，以释横塘之憾。群答曰：“德非孔子，厄同匡人。虽阳和布气，鹰化为鸠，至于识者，犹憎其



眼。”

苏子高事平，王、庾诸公欲用孔廷尉为丹阳。乱离之后，百姓凋弊。孔慨然曰：“昔肃祖临崩，诸君亲临御床，并蒙眷识，共奉遗诏。孔坦疏贱，不在顾命之列。既有艰难，则以微臣为先，今犹俎上腐肉，任人脍截耳！”于是拂衣而去，诸公亦止。

孔车骑与中丞共行，在御道逢匡术，宾从甚盛。因往与车骑共语。中丞初不视，直云：“鹰化为鸠，众鸟犹恶其眼。”术大怒，便欲刃之。车骑下车，抱术曰：“族弟发狂，卿为我宥之！”始得全首领。

梅颐尝有惠于陶公，后为豫章太守，有事，王丞相遣收之。侃曰：“天子富于春秋，万机自诸侯出，王公既得录，陶公何为不可放！”乃遣人于江口夺之。颐见陶公，拜，陶公止之。颐曰：“梅仲真膝，明日岂可复屈邪？”

王丞相作女伎，施設床席。蔡公先在坐，不说而去，王亦不留。

何次道、庾季坚二人并为元辅。成帝初崩，于时嗣君未定。何欲立嗣子，庾及朝议以外寇方强，嗣子冲幼，乃立康帝。康帝登阼，会群臣，谓何曰：“朕今所以承大业，为谁之议？”何答曰：“陛下龙飞，此上庾冰之功，非臣之力。于时用微臣之议，今不睹盛明之世。”帝有惭色。

江仆射年少，王丞相呼与共棋。王手尝不如两道许，而欲敌道戏，试以观之。江不即下。王曰：“君何以不行？”江曰：“恐不得尔。”傍有客曰：“此年少戏乃不恶。”王徐举首曰：“此年少，非唯围棋见胜。”

孔君平疾笃，庾司空为会稽，省之，相问讯甚至，为之流涕。庾既下床，孔慨然曰：“大丈夫将终，不问安国宁家之术，乃作儿女子相问！”庾闻，回谢之，请其话言。

桓大司马诣刘尹，卧不起。桓弯弹弹刘枕，丸迸碎床褥间。刘作色而起曰：“使君如馨地，宁可斗战求胜？”桓甚有恨容。

后来年少，多有道深公者。深公谓曰：“黄吻年少，勿为评论宿士。昔尝与元明二帝、王庾二公周旋。”

王中郎年少时，江彪为仆射，领选，欲拟之为尚书郎。有语王者，王曰：“自过江来，尚书郎正用第二人，何得拟我！”江闻而止。

王述转尚书令，事行便拜。文度曰：“故应让杜许。”蓝田云：“汝谓我堪此不？”文度曰：“何为不堪，但克让自是美事，恐不可阙。”蓝田慨然曰：“既云堪，何为复让？人言汝胜我，定不如我。”

孙兴公作庾公诔，文多托寄之辞。既成，示庾道恩，庾见，慨然送还之，曰：“先君与君，自不至于此。”

王长史求东阳，抚军不用。后疾笃，临终，抚军哀叹曰：“吾将负仲祖于此。”命用之。长史曰：“人言会稽王痴，真痴。”

刘简作桓宣武别驾，后为东曹参军，颇以刚直见疏。尝听闻，简都无言。宣武问：



“刘东曹何以不下意？”答曰：“会不能用。”宣武亦无怪色。

刘真长、王仲祖共行，日旰夜食。有相识小人贻其餐，肴案甚盛，真长辞焉。仲祖曰：“聊以充虚，何苦辞？”真长曰：“小人都不可与作缘。”

王修龄尝在东山，甚贫乏。陶胡奴为乌程令，送一船米遗之，却不肯取。直答语“王修龄若饥，自当就谢仁祖索食，不须陶胡奴米。”

阮光禄赴山陵，至都，不往殷、刘许，过事便还。诸人相与追之。阮亦知时流必当逐己，乃遄疾而去，至方山不相及。刘尹时为会稽，乃叹曰：“我人，当泊安石渚下耳，不敢复近思旷傍。伊便能捉杖打人，不易。”

王、刘与桓公共至覆舟去看。酒酣后，刘牵脚加桓公颈，桓公甚不堪，举手拨去。既还，王长史语刘曰：“伊讵可以形色加人不？”

桓公问桓子野：“谢安石料万石必败，何以不谏？”子野答曰：“故当出于难犯耳。”桓作色曰：“万石挠弱凡才，有何严颜难犯！”

罗君章曾在人家，主人令与坐上客共语，答曰：“相识已多，不烦复尔。”

韩康伯病，拄杖前庭消摇。见诸谢皆富贵，衰隐交路，叹曰：“此复何异王莽时？”

王文度为桓公长史时，桓为儿求王女，王许咨蓝田。既还，蓝田爱念文度，虽长大，犹抱著膝上。文度因言桓求己女婚。蓝田大怒，排文度下膝，曰：“恶见文度已复痴，畏桓温面？兵，那可嫁女与之！”文度还报温云：“下官家中先得婚处。”桓公曰：“吾知矣，此尊府君不肯耳。”后桓女遂嫁文度儿。

王子敬数岁时，尝看诸门生搏蒲，见有胜负，因曰：“南风不竞。”门生辈轻其小儿，乃曰：“此郎亦管中窥豹，时见一斑。”子敬曰：“远惭荀奉倩，近愧刘真长！”遂拂衣而去。

谢公闻羊绥佳，致意令来，终不肯诣。后绥为太学博士，因事见谢公，公即取以为主簿。

王右军与谢公诣阮公，至门，语谢：“故当共推主人。”谢曰：“推人正自难。”

太极殿始成，王子敬时为谢公长史，谢送版，使王题之。王有不平色，语信云：“可掷著门外。”谢后见王，曰：“题之上殿何若？昔魏朝韦诞诸人，亦自为也。”王曰：“魏阼所以不长。”谢以为名言。

王恭欲请江庐奴为长史，晨往诣江，江犹在帐中。王坐，不敢即言。良久乃得及。江不应，直唤人取酒，自饮一碗，又不与王。王且笑且言：“那得独饮？”江曰：“卿亦复须邪？”更使酌与王。王饮酒毕，因得自解去。未出户，江叹曰：“人自量，固为难！”

孝武问王爽：“卿何如卿兄？”王答曰：“风流秀出，臣不如恭，忠孝亦何可以假人！”

王爽与司马太傅饮酒，太傅醉，呼王为“小子”。王曰：“亡祖长史，与简文皇帝为布衣之交；亡姑、亡姊，伉偻二宫。何小子之有？”

张玄与王建武先不相识，后遇于范豫章许，范令二人共语。张因正坐敛衽，王孰视良



久，不对。张大失望，便去，范苦譬留之，遂不肯往。范是王之舅，乃让王曰：“张玄，吴士之秀，亦见遇于时，而使至于此，深不可解。”王笑曰：“张祖希若欲相识，自应见诣。”范驰报张，张便束带造之。遂举觞对语，宾主无愧色。

雅量第六

豫章太守顾劭，是雍之子。劭在郡卒。雍盛集僚属，自围棋，外启信至，而无儿子，虽神气不变，而心了其故，以爪掐掌，血流沾褥。宾客既散，方叹曰：“已无延陵之高，岂可有丧明之责！”于是豁情散哀，颜色自若。

嵇中散临刑东市，神气不变。索琴弹之，奏《广陵散》。曲终，曰：“袁孝尼尝请学此散，吾靳固不与，《广陵散》于今绝矣！”太学生三千人上书，请以为师，不许。文王亦寻悔焉。

夏侯太初尝倚柱作书，时大雨，霹雳破所倚柱，衣服焦然，神色不变，书亦如故。宾客左右，皆跌落不得住。

王戎七岁，尝与诸小儿游。看道边李树多子折枝，诸儿竞走取之，唯戎不动。人问之，答曰：“树在道边而多子，此必苦李。”取之，信然。

魏明帝于宣武场上断虎爪牙，纵百姓观之。王戎七岁，亦往看。虎承间攀栏而吼，其声震地，观者无不辟易颠仆，戎湛然不动，了无恐色。

王戎为侍中，南郡太守刘肇遗筒中笺布五端，戎虽不受，厚报其书。

裴叔则被收，神气无变，举止自若。求纸笔作书，书成，赦者多，乃得免。后位仪同三司。

王夷甫尝属族人事，经时未行。遇于一处饮燕，因语之曰：“近属尊事，那得不行？”族人大怒，便举杓掷其面。夷甫都无言，盥洗毕，牵王丞相臂，与共载去。在车中照镜，语丞相曰：“汝看我眼光，乃出牛背上。”

裴遐在周馥所，馥设主人。遐与人围棋。馥司马行酒。遐正戏，不时为饮，司马恚，因曳遐坠地。遐还坐，举止如常，颜色不变，复戏如故。王夷甫问遐：“当时何得颜色不异？”答曰：“直是暗当故耳。”

刘庆孙在太傅府，于时人士多为所构，唯庾子嵩纵心事外，无迹可间。后以其性俭家富，说太傅令换千万，冀其有吝，于此可乘。太傅于众坐中间庾，庾时颓然已醉，帻堕几上，以头就穿取。徐答云：“下官家故可有两婆千万，随公所取。”于是乃服。后有人向庾道此，庾曰：“可谓以小人之心，度君子之心。”

王夷甫与裴景声志好不同，景声恶欲取之，卒不能回。乃故诣王，肆言极骂，要王答己，欲以分谤。王不为动色，徐曰：“白眼儿遂作。”

王夷甫长裴公四岁，不与相知。时共集一处，皆当时名士，谓王曰：“裴令令望何足



计!”王便卿裴，裴曰：“自可全君雅志。”

有往来者云，庾公有东下意。或谓王公：“可潜稍严，以备不虞。”王公曰：“我与元规虽俱王臣，本怀布衣之好。若其欲来，吾角巾径还乌衣，何所稍严。”

王丞相主簿欲检校帐下，公语主簿：“欲与主簿周旋，无为知人几案闲事。”

祖士少好财，阮遥集好展，并恒自经营。同是一累，而未判其得失。人有诣祖，见料视财物。客至，屏当未尽，余两小簏，著背后，倾身障之，意未能平。或有诣阮，见自吹火蜡屐，因叹曰：“未知一生当著几量屐!”神色闲畅。于是胜负始分。

许侍中、顾司空俱作丞相从事，尔时已被遇，游宴集聚，略无不同。尝夜至丞相许戏，二人欢极，丞相便命使人已帐眠。顾至晓回转，不得快孰。许上床便哈台大鼾。丞相顾诸客曰：“此中亦难得眠处。”

庾太尉风仪伟长，不轻举止，时人皆以为假。亮有大儿数岁，雅重之质，便自如此，人知是天性。温太真尝隐幔恒之，此儿神色恬然，乃徐跪曰：“君侯何以为此?”论者谓不減亮。”苏峻时遇害。或云：“见阿恭，知元规非假。”

褚公于章安令迁太尉记室参军，名字已显而位微，人未多识。公东出，乘估客船，送故吏数人投钱唐亭住。尔时，吴兴沈充为县令，当送客过浙江，客出，亭吏驱公移牛屋下。潮水至，沈令起彷徨，问：“牛屋下是何物?”吏云：“昨有一枪父来寄亭中，有尊贵客，权移之。”令有酒色，有遥问：“枪父欲食饼不?姓何等?可共语。”褚因举手答曰：“河南褚季野。”远近久承公名，令于是大遽，不敢移公，便于牛屋下修刺诣公，更宰杀为饌，具于公前，鞭挞亭吏，欲以谢惭。公与之酌宴，言色无异，状如不觉。令送公至界。

郗太傅在京口，遣门生与王丞相书，求女婿。丞相语郗信：“君往东厢，任意选之。”门生归，白郗曰：“王家诸郎亦皆可嘉，闻来觅婿，咸自矜持。唯有一郎在东床上坦腹卧，如不闻。”郗公云：“正此好!”访之，乃是逸少，因嫁女与焉。

过江初，拜官，舆饰供饌。羊曼拜丹阳尹，客来早者，并得佳设，日晏渐罄，不复及精，随客早晚，不问贵贱。羊固拜临海，竟日皆美供，虽晚至，亦获盛饌。时论以固之丰华，不如曼之真率。

周仲智饮酒醉，瞋目还面谓伯仁曰：“君才不如弟，而横得重名!”须臾，举蜡烛火掷伯仁，伯仁笑曰：“阿奴火攻，固出下策耳!”

顾和始为扬州从事，月旦当朝，未入顷，停车州门外。周侯诣丞相，历和车边，和觅虱，夷然不动。周既过，反还，指顾心曰：“此中何所有?”顾搏虱如故，徐应曰：“此中最是难测地。”周侯既入，语丞相曰：“卿州吏中有一令仆才。”

庾太尉与苏峻战，败，率左右十余人乘小船西奔。乱兵相剽掠，射，误中桅工，应弦而倒，举船上咸失色分散。亮不动容，徐曰：“此手那可使著贼!”众乃安。

庾小征西尝出未还，妇母阮是刘万安妻，与女上安陵城楼上。俄顷，翼归，策良马，盛舆卫。阮语女：“闻庾郎能骑，我何由得见?”妇告翼，翼便为于道开卤簿盘马，始两



转，坠马堕地，意色自若。

宣武与简文、太宰共载，密令人在舆前后鸣鼓大叫。鹵簿中惊扰，太宰惶怖，求下舆。顾看简文，穆然清恬。宣武语人曰：“朝廷间故复有此贤。”

王劭、王荟共诣宣武，正值收庾希家。荟不自安，逡巡欲去；劭坚坐不动，待收信还，得不定，乃出。论者以劭为优。

桓宣武与郗超议芟夷朝臣，条牒既定，其夜同宿。明晨起，呼谢安、王坦之入，掷疏示之。郗犹在帐内。谢都无言，王直掷还，云：“多！”宣武取笔欲除，郗不觉窃从帐中与宣武言。谢含笑曰：“郗生可谓入幕宾也。”

谢太傅盘桓东山时，与孙兴公诸人泛海戏。风起浪涌，孙、王诸人色并遽，便唱使还。太傅神情方王，吟啸不言。舟人以公貌闲意说，犹去不止。既风转急，浪猛，诸人皆喧动不坐。公徐云：“如此，将无归！”众人即承响而回。于是审其量，足以镇安朝野。

桓公伏甲设饕，广延朝士，因此欲诛谢安、王坦之。王甚遽，问谢曰：“当作何计？”谢神意不变，谓文度曰：“晋祚存亡，在此一行。”相与俱前。王之恐状，转见于色。谢之宽容，愈表于貌。望阶趋席，方作洛生咏，讽“浩浩洪流”。桓惮其旷远，乃趣解兵。王、谢旧齐名，于此始判优劣。

谢太傅与王文度共诣郗超，日阡未得前。王便欲去，谢曰：“不能为性命忍俄顷？”

支道林还东，时贤并送于征虏亭。蔡子叔前至，坐近林公；谢万石后来，坐小远。蔡暂起，谢移就其处。蔡还，见谢在焉，因合褥举谢掷地，自复坐。谢冠帻倾脱，乃徐起，振衣就席，神意甚平，不觉瞋沮。坐定，谓蔡曰：“卿奇人，殆坏我面。”蔡答曰：“我不为卿面作计。”其后，二人俱不介意。

郗嘉宾钦崇释道安德问，侑米千斛，修书累纸，意寄殷勤。道安答，直云：“损米。”愈觉有待之为烦。

谢安南免吏部尚书，还东；谢太傅赴桓公司马，出西，相遇破冈。既当远别，遂停三日共语。太傅欲慰其失官，安南辄引以它端。遂信宿中途，竟不言及此事。太傅深恨在心未尽，谓同舟曰：“谢奉故是奇士。”

戴公从东出，谢太傅往看之。谢本轻戴，见，但与论琴书，戴既无吝色，而谈琴书愈妙。谢悠然知其量。

谢公与人围棋，俄而谢玄淮上信至。看书竟，默然无言，徐向局。客问淮上利害，答曰：“小儿辈大破贼。”意色举止，不异于常。

王子猷、子敬曾俱坐一室，上忽发火，子猷遽走避，不惶取屐；子敬神色恬然，徐唤左右，扶凭而出，不异平常。世以此定二王神宇。

苻坚游魂近境，谢太傅谓子敬曰：“可将当轴，了其此处。”

王僧弥、谢车骑共王小奴许集。僧弥举酒劝谢云：“奉使君一觞。”谢曰：“可尔。”僧弥勃然起，作色曰：“汝故是吴兴溪中钓碣耳！何敢谤张！”谢徐抚掌而笑曰：“卫军，僧



弥殊不肃省，乃侵陵上国也。”

王东亭为桓宣武主簿，既承藉，有美誉，公甚欲其人地为一府之望。初，见谢失仪，而神色自若。坐上宾客即相贬笑，公曰：“不然。观其情貌，必自不凡，吾当试之。”后因月朝阁下伏，公于内走马直出突之，左右皆宕仆，而王不动。名价于是大重，咸云：“是公辅器也。”

太元末，长星见，孝武心甚恶之。夜，华林园中饮酒，举杯属星云：“长星！劝尔一杯酒，自古何时会有万岁天子！”

殷荆州有所识，作赋，是东晋慢戏之流。殷甚以为有才，语王恭：“适见新文，甚可观。”便于手巾函中出之。王读，殷笑之不自胜；王看竟，亦不言好恶，但以如意帖之而已。殷怅然自失。

羊绥第二子孚，少有俊才，与谢益寿相好。尝早往谢许，未食。俄而王齐、王睹来。既先不相识，王向席有不悦色，欲使羊去。羊了不眄，唯脚委几上，咏赋自若。谢与王叙寒温数语毕，还与羊谈赏，王方悟其奇，乃合共语。须臾食下，二王都不得餐，唯属羊不暇。羊不大应对之，而盛进食，食毕便退。遂苦相留，羊义不住，直云：“向者不得从命，中国尚虚。”二王是孝伯两弟。

识鉴第七

曹公少时见乔玄，玄谓曰：“天下方乱，群雄虎争，拨而理之，非君乎？然君实是乱世之英雄，治世之奸贼。恨吾老矣，不见君富贵，当以子孙相累。”

曹公问裴潜曰：“卿昔与刘备共在荆州，卿以备才如何？”潜曰：“使居中国，能乱人，不能为治；若乘边守险，足为一方之主。”

何晏、邓飏、夏侯玄并求傅嘏交，而嘏终不许。诸人乃因荀粲说合之，谓嘏曰：“夏侯太初一时之杰士，虚心于子，而卿意怀不可交。合则好成，不合则致隙。二贤若穆，则国之休。此蔺相如所以下廉颇也。”傅曰：“夏侯太初志大心劳，能合虚誉，诚可谓利口覆国之人。何晏、邓飏有为而躁，博而寡要，外好利而内无关雠，贵同恶异，多言而妒前。多言多衅，妒前无亲。以吾观之，此三贤者，皆败德之人尔，远之犹恐罹祸，况可亲之邪？”后皆如其言。

晋宣武讲武于宣武场，帝欲偃武修文，亲自临幸，悉召群臣。山公谓不宜尔，因与诸尚书言孙、吴用兵本意。遂究论，举坐无不咨嗟，皆曰：“山少傅乃天下名言。”后诸王骄汰，轻遭祸难。于是寇盗处处蚁合，郡国多以无备，不能制服，遂渐炽盛，皆如公言。时人以谓“山涛不学孙、吴，而暗与之理会”。王夷甫亦叹云：“公暗与道合。”

王夷甫父义，为平北将军，有公事，使行人论，不得。时夷甫在京师，命驾见仆射羊祜、尚书山涛。夷甫时总角，姿才秀异，叙致既快，事加有理，涛甚奇之。既退，看之不



辄，乃叹曰：“生儿不当如王夷甫邪？”羊祜曰：“乱天下者，必此子也！”

潘阳仲见王敦小时，谓曰：“君蜂目已露，但豺声未振耳。必能食人，亦当为人所食。”

石勒不知书，使人读《汉书》。闻郿食其劝立六国后，刻印将授之，大惊曰：“此法当失，云何得遂有天下？”至留侯谏，乃曰：“赖有此耳！”

卫玠年五岁，神衿可爱。祖太保曰：“此儿有异，顾我老，不见其大耳！”

刘越石云：“华彦夏识能不足，强果有余。”

张季鹰辟齐王东曹掾，在洛，见秋风起，因思吴中菰菜羹、鲈鱼脍，曰：“人生贵得适意尔，何能羁宦数千里以要名爵？”遂命驾便归。俄而齐王败，时人皆谓见机。

诸葛道明初过江左，自名道明，名亚王、庾之下。先为临沂令，丞相谓曰：“明府当为黑头公。”

王子平素不知眉子，曰：“志大其量，终当死坞壁间。”

王大将军始下，杨朗苦谏不从，遂为王致力。乘中鸣云露车逢前，曰：“听下官鼓音，一进而捷。”王先把手曰：“事克，当相用为荆州。”既而忘之。以为南郡。王败后，明帝收朗，欲杀之。帝寻崩，得免。后兼三公，署数十人为官属。此诸人当时并无名，后皆被知遇。于时称其知人。

周伯仁母冬至举酒赐三子曰：“吾本谓度江托足无所，尔家有相，尔等并罗列吾前，复何忧？”周嵩起，长跪而泣曰：“不如阿母言。伯仁为人志大而才短，名重而识暗，好乘人之弊，此非自全之道；嵩性狼抗，亦不容于世；唯阿奴碌碌，当在阿母目下耳。”

王大将军既亡，王应欲投世儒，世儒为江州；王含欲投王舒，舒为荆州。含语应曰：“大将军平素与江州云何，而汝欲归之？”应曰：“此乃所以宜往也。江州当人强盛时，能抗同异，此非常人所行。及睹衰厄，必兴愍恻。荆州守文，岂能作意表行事？”含不从，遂共投舒。舒果沉含父子于江。彬闻应当来，密具船以待之。竟不得来，深以为恨。

武昌孟嘉作庾太尉州从事，已知名。褚太傅有知人鉴，罢豫章，还过武昌，问庾曰：“闻孟从事佳，今在此不？”庾曰：“卿自求之。”褚矚眄良久，指嘉曰：“此君小异，得无是乎？”庾大笑曰：“然。”于时既叹褚之默识，又欣嘉之见赏。

戴安道年十余岁，在瓦官寺画。王长史见之，曰：“此童非徒能画，亦终当致名。恨吾老，不见其盛时耳！”

王仲祖、谢仁祖、刘真长俱至丹阳县所省殷扬州，殊有确然之志。既反，王、谢相谓曰：“渊源不起，当如苍生何？”深为忧叹。刘曰：“卿诸人真忧渊源不起邪？”

小庾临终，自表以子园客为代。朝廷虑其不从命，未知所遣，乃共议用桓温。刘尹曰：“使伊去，必能克定西楚，然恐不可复制。”

桓公将伐蜀，在事诸贤咸以李势在蜀既久，承藉累叶，且形据上流，三峡未易可克。唯刘尹云：“伊必能克蜀。观其蒲博，不必得，则不为。”



谢公在东山蓄妓，简文曰：“安石必出，既与人同乐，亦不得不与人同忧。”

郝超与谢玄不善。苻坚将问晋鼎，既已狼噬梁、岐，又虎视淮阴矣。于时朝议遣玄北讨，人间颇有异同之论。唯超曰：“是必济事。吾昔尝与共在桓宣武府，见使才皆尽，虽履屐之间，亦得其任。以此推之，容必能立勋。”元功既举，时人咸叹超之先觉，又重其不以爱憎匿善。

韩康伯与谢玄亦无深好。玄北征后，巷议疑其不振。康伯曰：“此人好名，必能战。”玄闻之甚忿，常于众中厉色曰：“丈夫提千兵入死地，此事君亲故发，不得复云为名！”

褚期生少时，谢公甚知之，恒公：“褚期生若不佳者，仆不复相士。”

郝超与傅璠周旋。璠见其二子，并总发，超观之良久，谓璠曰：“小者才名皆胜，然保卿家者，终当在兄。”即傅亮兄弟也。

王恭随父在会稽，王大自都来拜墓，恭暂往墓下看之。二人素善，遂十余日方还。父问恭：“何故多日？”对曰：“与阿大语，蝉连不得归。”因语之曰：“恐阿大非尔之友，终乖爱好。”果如其言。

车胤父作南平郡功曹，太守王胡之避司马无忌之难，置郡于鄢阴。是时胤十余岁，胡之每出，尝于篱中见而异焉。谓胤父曰：“此儿当致高名。”后游集，恒命之。胤长，又为桓宣武所知。清通于多士之世，官至选曹尚书。

王忱死，西镇未定，朝贵人人有望。时殷仲堪在门下，虽局机要，资名轻小，人情未以方岳相许。晋孝武欲拔亲近腹心，遂以殷为荆州。事定，诏未出，王珣问殷曰：“陕西何故未有处分？”殷曰：“已有人。”王历问公卿，咸云：“非。”王自计才地，必应任己。复问：“非我邪？”殷曰：“亦似非。”其夜，诏出用殷。王语所亲曰：“岂有黄门郎而受如此任！仲堪此举，乃是国之亡征。”

中卷 下

赏誉第八上

陈仲举尝叹曰：“若周子居者，真治国之器。譬诸宝剑，则世之干将。”

世目李元礼“谡谡如劲松下风。”

谢子微见许子将兄弟，曰：“平舆之渊，有二龙焉。”见许子政弱冠之时，叹曰：“若许子政者，有干国之器。正色忠蹇，则陈仲举之匹；伐恶退不肖，范滂博之风。”

公孙度目郗原：“所谓云中白鹤，非燕雀之网所能罗也。”

钟士季目王安丰“阿戎之了解人意”。谓“裴公之谈，经日不竭”。吏部郎郗，文帝问其人于钟会，会曰：“裴楷清通，王戎简要，皆其选也。”于是用裴。



王浚冲、裴叔则二人，总角诣钟士季，须臾去。后客问钟曰：“向二童何如？”钟曰：“裴楷清通，王戎简要。后二十年，此二贤当为吏部尚书，冀尔时天下无滞才。”

谚曰：“后来领袖有裴秀。”

裴令公目夏侯太初：“肃肃如入廊庙中，不修敬而人自敬。”一曰：“如入宗庙，琅琅但见礼乐器。见钟士季，如观武库，但睹矛戟。见傅兰硕，江詹靡所不有。见山巨源，如登山临下，幽然深远。”

羊公还洛，郭奕为野王令。羊至界，遣人要之。郭便自往。既见，叹曰：“羊叔子何必减郭太业！”复往羊许，小悉还，又叹曰：“羊叔子去人远矣！”羊既去，郭送之弥日，一举数百里，遂以出境免官。复叹曰：“羊叔子何必减颜子！”

王戎目山巨源：“如璞玉浑金，人皆钦其宝，莫知名其器。”

羊长和父繇与太傅枯同堂相善，仕至车骑掾。早卒。长和兄弟五人，幼孤。枯来哭，见长和哀容举止，宛若成人，乃叹曰：“从兄不亡矣！”

山公举阮咸为吏部郎，目曰：“清真寡欲，万物不能移也。”

王戎目阮文业：“清伦有鉴识，汉元以来未有此人。”

武元夏目裴、王曰：“戎尚约，措清通。”

庾子嵩目和峤：“森森如千丈松，虽磊砢有节目，施之大厦，有栋梁之用。”

王戎曰：“太尉神姿高彻，如瑶林琼树，自然是风尘外物。”

王汝南既除所生服，遂停墓所。兄子济每来拜墓，略不过叔，叔亦不候。济脱时过，止寒温而已。后聊试问近事，答对甚有音辞，出济意外，济极愧得；仍有语，转造精微。济先略无子侄之敬，既闻其言，不觉慊然，心形俱肃。遂留共语，弥日累夜。济虽俊爽，自视缺然，乃喟然叹曰：“家有名士，三十年而不知！”济去，叔送至门。济从骑有一马绝难乘，少能骑者。济聊问叔：“好骑乘不？”曰：“亦好尔。”济又使骑难乘马，叔姿形既妙，回策如萦，名骑无以过之。济益叹其难测，非复一事。既还，浑问济：“何以暂行累日？”济曰：“始得一叔。”浑问其故，济具叹述如此。浑曰：“何如我？”济曰：“济以上人。”武帝每见济，辄以湛调之，曰：“卿家痴叔死未？”济常无以答。既而得叔，后武帝又问如前，济曰：“臣叔不痴。”称其实美。帝曰：“谁比？”济曰：“山涛以下，魏舒以上。”于是显名，年二十八始宦。

裴仆射，时人谓为“言谈之林薮”。

张华见褚陶，语陆平原曰：“君兄弟龙跃云津，顾彦先凤鸣朝阳。谓东南之宝已尽，不意复见诸生。”陆曰：“公未睹不鸣不跃者耳！”

有问秀才：“吴旧姓如何？”答曰：“吴府君圣王之老成，明时之俊乂。朱永长理物之至德，清选之高望。严仲弼九皋之鸣鹤，空谷之白驹。顾彦先八音之琴瑟，五色之龙章。张威伯岁寒之茂松，幽夜之逸光。陆士衡、士龙，鸿鹄之裴回，悬鼓之待随。凡此诸君：以洪笔为钅来，以纸札为良田。以玄默为稼穡，以义理为丰年。以谈论为英华，以忠恕为



珍宝。著文章为锦绣，蕴五经为绾帛。坐谦虚为席荐，张义让为帷幕。行仁义为室宇，修道德为广宅。”

人问王夷甫：“山巨源义理何如？是谁辈？”王曰：“此人初不肯以谈自居，然不读《老》、《庄》，时间其咏，往往与其旨合。”

洛中雅雅有三赧：刘粹字纯嘏，宏字终嘏，漠字冲嘏，是亲兄弟，王安丰甥，并是王安丰女婿。宏，真长祖也。洛中铮铮冯惠卿，名荪，是播子。荪与邢乔俱司徒李胤外孙，及胤子顺并知名。时称：“冯才清，李才明，纯粹邢。”

卫伯玉为尚书令，见乐广与中朝名士谈议，奇之曰：“自昔诸人没已来，常恐微言将绝。今乃复闻斯言于君矣！”命子弟造之，曰：“此人，人之水镜也，见之若披云雾睹青天。”

王太尉曰：“见裴令公精明朗然，笼盖人上，非凡识也。若死而可作，当与之同归。”或云王戎语。

王夷甫自叹：“我与乐令谈，未尝不觉我言为烦。”

郭子玄有俊才，能言老庄，庾颖尝称之，每曰：“郭子玄何必减庾子嵩！”

王平子目太尉：“阿兄形似道，而神锋太俊。”太尉答曰：“诚不如卿落落穆穆。”

太傅府有三才：刘庆孙长才，潘阳仲大才，裴景声清才。

赏誉第八下

林下诸贤，各有俊才子：藉子浑，器量弘旷；康子绍，清高雅正；涛子简，疏通高素；咸子瞻，虚夷有远志，瞻弟孚，爽朗多所遗；秀子纯、悌，并令淑有清流；戎子万子，有大成之风，苗而不秀；唯伶子无闻。凡此诸子，唯瞻为冠，绍、简亦见重当世。

庾子躬有废疾，甚知名，家在城西，号曰“城西公府。”

王夷甫语乐令：“名士无多人，故当容平子知。”

王太尉云：“郭子玄语议如悬河写水，注而不竭。”

司马太傅府多名士，一时俊异。庾文康云：“见子嵩在其中，常自神王。”

太傅东海王镇许昌，以王安期为记事参军，雅相知重。敕世子毗曰：“夫学之所益者浅，体之所安者深。闲习礼度，不如式瞻仪形；讽味遗言，不如亲承音旨。王参军人伦之表，汝其师之。”或曰：“王、赵、邓三参军，人伦之表，汝其师之。”谓安期、邓伯道、赵穆也。袁宏作《名士传》，直云王参军。或云赵家先犹有此本。

庾太尉少为王眉子所知，庾过江，叹王曰：“庇其宇下，使人忘寒暑。”

谢幼舆曰：“友人王眉子清通简畅，嵇延祖弘雅劭长，董仲道卓犖有致度。”

王公目太尉：“岩岩清峙，壁立千仞。”

庾太尉在洛下，问讯中郎，中郎留之云：“诸人当来。”寻温元甫、刘王乔、裴叔则俱



至，酬酢终日。庾公犹忆刘、裴之才俊，元甫之清中。

蔡司徒在洛，见陆机兄弟在参佐廨中，三间瓦屋，士龙住东头，士衡住西头。士龙为人文弱可爱，士衡长七尺余，声作钟声，言多慷慨。

王长史是庾子躬之外孙，丞相目子躬云：“人理泓然，我已上人。”

庾太尉目庾中郎：“家从谈谈之许。”

庾公目中郎：“神气融散，差如得上。”

刘琨称祖车骑为朗诣，曰：“少为王敦所叹。”

时人目庾中郎：“善于托大，长于自藏。”

王平子迈世有俊才，少所推服。每闻卫玠言，辄叹息绝倒。

王大将军与元皇“表”云：“舒风概简正，允作雅人，自多于遽，最是臣少所知拔。中间夷甫、澄见语：‘卿知处明、茂弘。茂弘已有令名，真副卿清论；处明亲疏无知之者。吾常以卿言为意，殊未有得，恐已悔之？’臣慨然曰：‘君以此试。顷来始乃有称之者。’言常人正自患知之使过，不知使负实。”

周侯于荆州败绩，还，未得用。王丞相与人书曰：“雅流弘器，何可得遗？”

时人欲题目高坐而未能，桓廷尉以问周侯，周侯曰：“可谓卓朗。”桓公曰：“精神渊著。”

王大将军称其儿云：“其神候似欲可。”

卞令目叔向：“朗朗如百间屋。”

王敦为大将军，镇豫章，卫玠避乱，从洛投敦，相见欣然，谈话弥日。于时谢鲲为长史，敦谓鲲曰：“不意永嘉之中，复闻正始之音。阿平若在，当复绝倒。”

王平子与人书，称其儿“风气日上，足散人怀”。

胡毋彦国吐佳言如屑，后进领袖。

王丞相云：“刁亮之察察，戴若思之岩岩，卞望之峰距。”

大将军语右军：“汝是我佳子弟，当不减阮主簿。”

世目周侯“嵒如断山。”

王丞相召祖约夜语，至晓不眠。明旦有客，公头鬓未理，亦小倦。客曰：“公昨如是，似失眠。”公曰：“昨与士少语，遂使人忘疲。”

王大将军与丞相书，称杨朗曰：“世彦识器理政，才隐明断。既为国器，且是杨侯淮之子。位望殊为陵迟，卿亦足与之处。”

何次道往丞相许，丞相以麈尾指坐，呼何共坐曰：“来，来，此是君坐。”

丞相治扬州廨舍，按行而言曰：“我正为次道治此尔！”何少为王公所重，故屡发此叹。

王丞相拜司徒而叹曰：“刘王乔若过江，我不独拜公。”

王蓝田为人晚成，时人乃谓之痴。王丞相以其东海子，辟为掾。常集聚，王公每发



言，众人竞赞之；述于末坐曰：“主非尧、舜，何得事事皆是？”丞相甚相叹赏。

世目杨朗：“沉审经断。”蔡司徒云：“若使中朝不乱，杨氏作公方未已。”谢公云：“朗是大才。”

刘万安，即道真从子，庾公所谓“灼然玉举”。又云：“千人亦见，百人亦见。”

庾公为护军，属桓廷尉觅一佳吏，乃经年。桓后遇见徐宁而知之，遂致于庾公，曰：“人所应有，其不必有；人所应无，己不必无，真海岱清士。”

桓茂伦云：“褚季野皮里阳秋。”谓其裁中也。

何次道尝送东人，瞻望见贾宁在后轮中，曰：“此人不死，终为诸侯上客。”

杜弘治墓崩，哀容不称。庾公顾谓诸客曰：“弘治至羸，不可以致哀。”又曰：“弘治哭不可哀。”

世称“庾文康为丰年玉，稚恭为荒年谷”。庾家论云是文康称“恭为荒年谷，庾长仁为丰年玉”。

世目“杜弘治标鲜，季野穆少”。

有人目杜弘治“标鲜清令，盛德之风，可乐咏也”。

庾公云：“逸少国举。”故庾悦为碑文云：“拔萃国举。”

庾稚恭与桓温书称：“刘道生日夕在事，大小殊快。义怀通乐，既佳，且足作友，正实良器，推此与君，同济艰不者也。”

王蓝田拜扬州，主簿请讳，教云：“亡祖、先君，名播海内，远近所知。内讳不出于外，余无所讳。”

萧中郎，孙承公妇父。刘尹在抚军坐，时拟为太常。刘尹云：“萧祖周不知便可作三公不？自此以还，无所不堪。”

谢太傅未冠，始出西，诣王长史，清言良久。去后，荀子问曰：“向客何如尊？”长史曰：“向客臺臺，为来逼人。”

王右军语刘尹：“故当共推安石。”刘尹曰：“若安石东山志立，当与天下共推之。”

谢公称蓝田：“掇皮皆真。”

桓温行经王敦墓边时，望之云：“可儿！可儿！”

殷中军道王右军云：“逸少清贵人，吾于之甚至，一时无所后。”

王仲祖称殷渊源：“非以长胜人，处长亦胜人。”

王司州与殷中军语，叹云：“己之府奥，早已倾写而见；殷陈势浩汗，众源未可得测。”

王长史谓林公：“真长可谓金玉满堂。林公曰：“金玉满堂，复何为简选？”王曰：“非为简选，直致言处自寡耳。”

王长史道江道群：“人可应有，乃不必有；人可应无，己必无。”

会稽孔沈、魏颢、虞球、虞存、谢奉并是四族之俊，于时之杰。孙兴公目之曰：“沈



为孔家金，顾为魏家玉，虞为长、琳宗，谢为弘道伏。”

王仲祖、刘真长造殷中军谈，谈竟，俱载去。刘谓王曰：“渊源真可。”王曰：“卿故随其云雾中。”

刘尹每称王长史云：“性至通而自然有节。”

王右军道谢万石“在风林中，为自道上”，叹林公“器朗神俊”，道祖士少“风领毛骨，恐没世不复见如此人”，道刘真长“标云柯而不扶疏”。

简文目庾赤玉“省率治除”，谢仁祖云：“庾赤玉胸中无宿物。”

庾中军道韩太常曰：“康伯少自标置，居然是出群器；及其发言遣辞，往往有情致。”

简文道王怀祖：“才既不长，于荣利又不淡；直以真率少许，便足对人多多许。”

林公谓王右军云：“长史作数百语，无非德音，如恨不苦。”王曰：“长史自不欲苦物。”

殷中军与人书，道谢万“文理转道，成殊不易”。

王长史云：“江思俊思怀所通，不翅儒域。”

许玄度送母，始出都，人问刘尹：“玄度定称所闻不？”刘曰：“才情过于所闻。”

阮光禄云：“王家有三年少：右军、安期、长豫。”

谢公道豫章：“若遇七贤，必自把臂入林。”

王长史叹林公：“寻微之功，不减辅嗣。”

殷渊源在墓所几十年。于时朝野以拟管、葛，起不起，以卜江左兴亡。

殷中军道右军“清鉴贵要”。

谢太傅为桓公司马。桓诣谢，值谢梳头，遽取衣帻。桓公云：“何烦此。”因下共语至暝。既去，谓左右曰：“颇曾见如此人不？”

谢公作宣武司马，属门生数十人于田曹中郎赵悦子。悦子以告宣武，宣武云：“且为用半。”赵俄而悉用之，曰：“昔安石在东山，缙绅敦逼，恐不豫人事。况今自乡选，反违之邪？”

桓宣武“表”云：“谢尚神怀挺率，少致民誉。”

世目谢尚为“令达”。阮遥集云：“清畅似达。”或云：“尚自然令上。”

桓大司马病。谢公往省病，从东门入。桓公遥望，叹曰：“吾门中久不见如此人！”

简文目敬豫为“朗豫”。

孙兴公为庾公参军，共游白石山，卫君长在坐。孙曰：“此子神情都不关山水，而能作文。”庾公曰：“卫风韵虽不及卿诸人，倾倒处亦不近。”孙遂沐浴此言。

王右军目陈玄伯：“垒块有正骨”。

王长史云：“刘尹知我，胜我自知。”

王、刘听林公讲，王语刘曰：“向高坐者，故是凶物。”复更听，王又曰“自是钵钁后王、何人也。”



许玄度言：“《琴赋》所谓‘非至精者，不能与之析理’，刘尹其人；‘非渊静者，不能与之罔止’，简文其人。”

魏隐兄弟少有学义，总角诣谢奉。奉与语，大说之，曰：“大宗虽衰，魏氏已复有人。”

简文云：“渊源语不超诣简至，然经纶思寻处，故有局陈。”

初，法汰北来，未知名，王领军供养之。每与周旋，行来往名胜许，辄与俱。不得汰，便停车不行。因此名遂重。

王长史与大司马书，道渊源“识致安处，足副时谈。”

谢公云：“刘尹语审细。”

桓公语嘉宾：“阿源有德有言，向使作令仆，足以仪行百揆。朝廷用违其才耳。”

简文语嘉宾：“刘尹语末后亦小异，回复其言，亦乃无过。”

孙兴公、许玄度共在白楼亭，共商略先往名达。林公既非所关，听訖，云：“二贤故自有才情。”

王右军道东阳。“我家阿林，章清太出。”

王长史与刘尹书，道渊源“触事长易”。

谢中郎云：“王修载乐托之性，出自门风。”

林公云：“王敬仁是超悟人。”

刘尹先推谢镇西，谢后雅重刘，曰：“昔尝北面。”

谢太傅称王修龄曰：“司州可与林泽游。”

谚曰：“扬州独步王文度，后来出人郗嘉宾。”

人问王长史江彪兄弟群从。王答曰：“诸江皆复足自生活。”

谢太傅道安北：“见之乃不使人厌，然出户去，不复使人思。”

谢公云：“司州造胜遍决。”

刘尹云：“见何次道饮酒，使人欲倾家酿。”

谢太傅语真长：“阿龄于此事故欲太厉。”刘曰：“亦名士之高操者。”

王子猷说：“世目士少为朗，我家亦以为彻朗。”

谢公云：“长史语甚不多，可谓有令音。”

谢镇西道敬仁：“文学铤铤，无能不新。”

刘尹道江道群“不能言而能不言”。

林公云：“见司州警悟交至，使人不得住，亦终日忘疲。”

世称“荀子秀出，阿兴清和。”

简文云：“刘尹茗柯有实理。”

谢胡儿作著作郎，尝作《王堪传》，不谄堪是何似人，咨谢公。谢公答曰：“世胄亦被遇。堪，烈之子。阮千里姨兄弟，潘安仁中外。安仁诗所谓‘子亲伊姑，我父唯舅’。是



许允婿。”

谢太傅重邓仆射，常言：“天道无知，使怕道无儿。”

谢公与王右军书曰：“敬和栖托好佳。”

吴四姓旧目云：“张文，朱武，陆忠，顾厚。”

谢公语王孝伯：“君家蓝田，举体无常人事。”

许掾尝诣简文，尔时风恬月朗，乃共作曲室中语。襟情之咏，偏是许之所长。辞寄清婉，有逾平日。简文虽契素，此遇尤相咨嗟，不觉造膝，共叉手语，达于将旦。既而曰：“玄度才情，故未易多有许。”

殷允出西，郗超与袁虎书云：“子思求良朋，托好足下，勿以开美求之。”世目袁为“开美”，故子敬诗曰：“袁生开美度。”

谢车骑问谢公：“真长性至峭，何足乃重？”答曰：“是不见耳！阿见子敬，尚使人不能已。”

谢公领中书监，王东亭有事应同上省。王后至，坐促，王、谢虽不通，太傅犹敛膝容之。王神意闲畅，谢公倾目。还谓刘夫人曰：“向见阿瓜，故自未易有。虽不相关，正是使人不能已已。”

王子敬语谢公：“公故萧洒。”谢曰：“身不萧洒，君道身最得，身正身调畅。”

谢车骑初见王文度，曰：“见文度，虽萧洒相遇，其复惜惜竟夕。”

范豫章谓王荆州：“卿风流俊望，真后来之秀。”王曰：“不有此舅，焉有此甥？”

子敬与子献书，道“兄伯萧索寡会，遇酒则酣畅忘反，乃自可矜。”

张天锡世雄凉州，以力弱诣京师，虽远方殊类，亦边人之桀也。闻皇京多才，钦羨弥至。犹在渚住，司马著作往诣之。言容鄙陋，无可观听。天锡心甚悔来，以退外可以自固。王弥有俊才美誉，当时闻而造焉。既至，天锡见其风神清令，言话如流，陈说古今，无不贯悉。又谕人物氏族中来，皆有证据。天锡讶服。

王恭始与王建武甚有情，后遇袁悦之间，遂至疑隙。然每至兴会，故有相思。时恭尝行散至京口射堂，于时清露晨流，新桐初引，恭目之曰：“王大故自濯濯。”

司马太傅为二王目曰：“孝伯亭亭直上，阿大罗罗清疏。”

王恭有清辞简旨，能叙说而读书少，颇有重出。有人道孝伯“常有新意，不觉为烦。”

殷仲堪丧后，桓玄问仲文：“卿家仲堪，定是何似人？”仲文曰：“虽不能休明一世，足以映彻九泉。”

品藻第九

汝南陈仲举，颍川李元礼二人，共论其功德，不能定先后。蔡伯喈评之曰：“陈仲举强于犯上，李元礼严于摄下，犯上难，摄下易。”仲举遂在“三君”之下，元礼居“八俊”



之上。

庞士元至吴，吴人并友之。见陆绩、顾劭、全琮，而为之目曰：“陆子所谓弩马有逸足之用，顾子所谓弩牛可以负重致远。”或问：“如所目，陆为胜邪？”曰：“弩马虽精速，能致一人耳。弩牛一日行百里，所致岂一人哉？”吴人无以难。“全子好声名，似汝南樊子昭。”

顾劭尝与庞士元宿语，问曰：“闻子名知人，吾与足下孰愈？”曰：“陶冶世俗，与时浮沉，吾不如子；论王霸之余策，览倚仗之要害，吾似有一日之长。”劭亦安其言。

诸葛瑾，弟亮，及从弟诞，并有盛名，各在一国。于时以为“蜀得其龙，吴得其虎，魏得其狗”。诞在魏与夏侯玄齐名；瑾在吴，吴朝服其弘量。

司马文王问武陟：“陈玄伯何如其父司空？”陟曰：“通雅博畅，能以天下声教为己任者，不如也；明练简至，立功立事，过之。”

正始中，人士比论，以五荀方五陈：荀淑方陈寔，荀靖方陈湛，荀爽方陈纪，荀彧方陈群，荀颀方陈泰。又以八裴方八王：裴徽方王祥，裴楷方王夷甫，裴康方王绥，裴绰方王澄，裴瓌方王敦，裴遐方王导，裴頠方陈王戎，裴邈方王玄。

冀州刺史杨准二子乔与髦，俱总角为成器。准与裴頠、乐广友善，遣见之。頠性弘方，爱乔之有高韵，谓准曰：“乔当及卿，髦小减也。”广性清淳，爱髦之有神检，谓准曰：“乔自及卿，然髦尤精出。”准笑曰：“我二儿之优劣，乃裴、乐之优劣。”论者评之，以为乔虽高韵，而检不匝；乐言为得。然并为后出之俊。

刘令言始入洛，见诸名士而叹曰：“王夷甫太解明，乐彦辅我所敬，张茂先我所不解，周弘武巧于用短，杜方叔拙于用长。”

王夷甫云：“闻氏冲优于满奋、郝隆。此三人并是高才，冲最先达。”

王夷甫以王东海比乐令，故王中郎作碑云：“当时标榜，为乐广之偏。”

庾中郎为王平子雁行。

王大将军在西朝时，见周侯，辄扇障面不得住。后度江左，不能复尔，王叹曰：“不知我进，伯仁退？”

会稽虞骥，元皇时与桓宣武同侠，其人有才理胜望。王丞相尝谓骥曰：“孔愉有公才而无公望，丁潭有公望而无公才，兼之者其在卿乎？”骥未达而丧。

明帝问周伯仁：“卿自谓何如郗鉴？”周曰：“鉴方臣，如有功夫。”复问郗，郗曰：“周顾比臣，有国士门风。”

王大将军下，庾公问：“闻卿有四友，何者是？”答曰：“君家中郎、我家太尉、阿平、胡毋彦国。阿平故当最劣。”庾曰：“似未肯劣。”庾又问：“何者居其右？”王曰：“自有入。”又问：“何者是？”王曰：“噫！其自有公论。”左右蹶公，公乃止。

人问丞相：“周侯何如和峤？”答曰：“长舆嵯峨。”

明帝问谢鲲：“君自谓何如庾亮？”答曰：“端委庙堂，使百僚准则，臣不如亮。一丘



一壑，自谓过之。”

王丞相二弟不过江，曰颢、曰敞。时论以颢比邓伯道，敞比温忠武，议郎、祭酒者也。

明帝问周侯：“论者以卿比郗鉴，云何？”周曰：“陛下不须牵颢比。”

王丞相云：“顷下论以我比安期、千里。亦推此二人；唯共推太尉，此君特秀。”

宋祚曾为王大将军妾，后属谢镇西。镇西问祚：“我何如王？”答曰：“王比使君，田舍、贵人耳。”镇西妖冶故也。

明帝问周伯仁：“卿自谓何如庾元规？”对曰：“萧条方外，亮不如臣；从容廊庙，臣不如亮。”

王丞相辟王蓝田为掾，庾公问丞相：“蓝田何似？”王曰：“真独简贵，不减父祖，然旷澹处，故当不如尔。”

卞望之云：“郗公体中有三反，方于事上，好下佞己，一反；治身清贞，大修计校，二反；自好读书，憎人学问，三反。”

世论温太真是过江第二流之高者。时名辈共说人物，第一将尽人间，温常失色。

王丞相云：“见谢仁祖，恒令人得上。”与何次道语，唯举手指地曰：“正自尔馨。”

何次道为宰相，人有讥其信任不得其人。阮思旷慨然曰：“次道自不至此。但布衣超居宰相之位，可恨唯此一条而已。”

王右军少时，丞相云：“逸少何缘复减万安邪？”

郗司空家有伧奴，知及文章，事事有意。王右军向刘尹称之。刘问：“何如方回？”问曰：“此正小人有意向耳，何得便比方回？”刘曰：“若不如方回，故是常奴耳。”

时人道阮思旷：“骨气不及右军，简秀不如真长，韶润不如仲祖，思致不如渊源，而兼有诸人之美。”

简文云：“何平叔巧累于理，嵇叔夜俊伤其道。”

时人共论晋武帝出齐王之与立惠帝，其失孰多？多谓立惠帝为重。桓温曰：“不然，使子继父业，弟承家祀，有何不可？”

人问殷渊源：“当世王公以卿比裴叔道，云何？”殷曰：“故当以识通暗处。”

抚军问殷浩：“卿定何如裴逸民？”良久答曰：“故当胜耳。”

桓公少于殷侯齐名，常有竞心。桓问殷：“卿何如我？”殷云：“我与周某旋久，宁作我。”

抚军问孙兴公：“刘真长何如？”曰：“清蔚简令。”“王仲祖何如？”曰：“温润恬和。”“桓温何如？”曰：“高爽迈出。”“谢仁祖何如？”曰：“清易令达。”“阮思旷何如？”曰：“弘润通长。”“袁羊何如？”曰：“洮洮清便。”“殷洪远何如？”曰：“远有致思。”“卿自谓何如？”曰：“下官才能所经，悉不如诸贤；至于斟酌时宜，笼罩当世，亦多所不及。然以不才，时复托怀玄胜，远咏《老》、《庄》，萧条高寄，不与时务经怀，自谓此心无所与让。



也。”

桓大司马下都，问真长曰：“闻会稽王语奇进，尔邪？”刘曰：“极进，然故是第二流中人耳。”桓曰：“第一流复是谁？”刘曰：“正是我辈耳！”

殷侯既废，桓公语诸人曰：“少时与渊源共骑竹马，我弃去，已辄取之，故当出我下。”

人问抚军：“殷浩谈竟何如？”答曰：“不能胜人，差可献酬群心。”

简文云：“谢安南清令不如其弟，学义不及孔岩，居然自胜。”

未废海西时，王元琳问桓元子：“箕子、比干迹异心同，不审明公孰是孰非？”曰：“仁称不异，宁为管仲。”

刘丹阳、王长史在瓦官寺集，桓护军亦在坐，共商略西朝及江左人物。或问：“杜弘治何如卫虎？”桓答曰：“弘治肤清，卫虎奕奕神令。”王、刘善其言。

刘尹抚王长史背曰：“阿奴比丞相，但有都长。”

刘尹、王长史同坐，长史酒酣起舞。刘尹曰：“阿奴今日不复减向子期。”

桓公问孔西阳：“安石何如仲文？”孔思未对，反问公曰：“何如？”答曰：“安石居然不可陵践其处，故乃胜也。”

谢公与时贤共赏说，遏、胡儿并在坐，公问李弘度曰：“卿家平阳何如乐令？”于是李潜然流涕曰：“赵王篡逆，乐令亲授玺绶。亡伯雅正，耻处乱朝，遂至仰药，恐难以相比！此自显于事实，非私亲之言。”谢公语胡儿曰：“有识者果不异人意。”

王修龄问王长史：“我家临川，何如卿家宛陵？”长史未答，修龄曰：“临川誉贵。”长史曰：“宛陵未为不贵。”

刘尹至王长史许清言，时荀子年十三，倚床边听。既去，问父曰：“刘尹语何如尊？”长史曰：“韶音令辞，不如我，往辄破的，胜我。”

谢万寿春败后，简文问郗超：“万自可败，那得乃尔失士卒情？”超曰：“伊以率任之性，欲区别智勇。”

刘尹谓谢仁祖曰：“自吾有四友，门人加亲。”谓许玄度曰：“自吾有由，恶言不及于耳。”二人皆受而不恨。

世目殷中军：“思纬淹通，比羊叔子。”

有人问谢安石、王坦之优劣于桓公。桓公停欲言，中悔，曰：“卿喜传人语，不能复语卿。”

王中郎尝问刘长沙曰：“我何如荀子？”刘答曰：“卿才乃当不胜荀子，然会名处多。”王笑曰：“痴！”

支道林问孙兴公：“君何如许掾？”孙曰：“高情远致，弟子早已服膺；一吟一咏，许将北面。”

王右军问许玄度：“卿自言何如安石？”许未答，王因曰：“安石故相为雄，阿万当裂



眼争邪？”

刘尹云：“人言江彭田舍，江乃自田宅屯。”

谢公云：“金谷中苏绍最胜。”绍是石崇姊夫，苏则孙，愉子也。

刘尹目庾中郎：“虽言不悖悖似道，突兀差可以拟道。”

孙承公云：“谢公清于无奕，润于林道。”

或问林公：“司州何如二谢？”林公曰：“故当攀安提万。”

孙兴公、许玄度皆一时名流。或重许高情，则鄙孙秽行，或爱孙才藻，而无取于许。

郗嘉宾道谢公：“造膝虽不深彻，而缠绵纶至。”又曰：“右军诣嘉宾。”嘉宾闻之云：“不得称诣，政得谓之朋耳。”谢公以嘉宾言为得。

庾道季公：“思理伦和，吾愧康伯；志力强正，吾愧文度。自此已还，吾皆百之。”

王僧恩轻林公，蓝田曰：“勿学汝兄，汝兄自不如伊。”

简文问孙兴公：“袁羊何似？”答曰：“不知者不负其才，知之者无取其体。”

蔡叔子云：“韩康伯虽无骨干，然亦肤立。”

郗嘉宾问谢太傅曰：“林公谈何如嵇公？”谢云：“嵇公勤著脚，裁可得去耳。”又问：“殷何如支？”谢曰：“正尔有超拔，支乃过殷；然臺壹论辩，恐口欲制支。”

庾道季云：“廉颇、蔺相如虽千载上死人，慷慨恒如有生气；曹蜍、李志虽见在，厌厌如九泉下人。人皆如此，便可结绳而治，但恐狐狸猫貉啖尽。”

卫君长是萧祖周妇兄，谢公问孙僧奴：“君家道卫君长云何？”孙曰：“云是世业人。”谢曰：“殊不尔，卫自是理义人。”于时以比殷洪远。

王子敬问谢公：“林公何如庾公？”谢殊不受，答曰：“先辈初无论，庾公自足没林公。”

谢遏诸人共道“竹林”优劣，谢公曰：“先辈初不臧贬‘七贤’。”

有人以王中郎比车骑，车骑闻之曰：“伊窟窟成就。”

谢太傅谓王孝伯：“刘尹亦奇自知，然不言胜长史。”

王黄门兄弟三人俱诣谢公，子猷、子重多说俗事，子敬寒温而已。既出，坐客问谢公：“向三贤孰愈？”谢公曰：“小者最胜。”客曰：“何以知之？”谢公曰：“吉人之辞寡，躁人之辞多。推此知之。”

谢公问王子敬：“君书何如君家尊？”答曰：“固当不同。”公曰：“外人论殊不尔。”王曰：“外人那得知。”

王孝伯问谢太傅：“林公何如长史？”太傅曰：“长史韶兴。”问：“何如刘尹？”谢曰：“噫！刘尹秀。”王曰：“若如公言，并不如此二人邪？”谢云：“身意正尔也。”

人有问太傅：“子敬可是先辈谁比？”谢曰：“阿敬近撮王、刘之标。”

谢公语孝伯：“君祖比刘尹，故为得逮。”孝伯云：“刘尹非不能逮，直不逮。”

袁彦伯为吏部郎，子敬与郗嘉宾书曰：“彦伯已入，殊足顿兴往之气。故知捶挞自难



为人，冀小却，当复差耳。”

王子猷、子敬兄弟共赏《高士传》人及“赞”，子敬赏并丹高洁。子猷云：“未若长卿慢世。”

有人问袁侍中曰：“殷中堪何如韩康伯？”答曰：“理义所得，优劣乃复未辨；然门庭萧寂，居然有名士风流，殷不及韩。”故殷作谑云：“荆门昼掩，闲庭晏然。”

王子敬问谢公：“嘉宾何如道季？”答曰：“道季减复钞撮清悟，嘉宾故自上。”

王珣疾，临困，问王武冈曰：“世论以我家领军比谁？”武冈曰：“世以比王北中郎。”东亭转卧向壁，叹曰：“人固不可以无年！”

王孝伯道谢公“浓至”。又曰：“长史虚，刘尹秀，谢公融。”

王孝伯问谢公：“林公何如右军？”谢曰：“右军胜林公，林公在司州前亦贵彻。”

桓玄为太傅，大会，朝臣毕集，坐裁竟，问王桢之曰：“我何如卿第七叔？”于时宾客为之咽气。王徐徐答曰：“亡叔是一时之标，公是千载之英。”一坐欢然。

桓玄问刘太常曰：“我何如谢太傅？”刘答曰：“公高，太傅深。”又曰：“何如贤舅子敬？”答曰：“楂、梨、橘、柚，各有其美。”

旧以桓谦比殷仲文。桓玄时，仲文人，桓于庭中望见之，谓同坐曰：“我家中军那得及此也！”

规箴第十

汉武帝乳母尝于外犯事，帝欲申宪，乳母求救东方朔。朔曰：“此非唇舌所争，尔必望济者，将去时，但当屡顾帝，慎勿言！此或可万一冀耳。”乳母既至，朔亦侍侧，因谓曰：“汝痴耳！帝岂复忆汝乳哺时恩邪！”帝虽才雄心忍，亦深有情恋，乃凄然悯之，即赦免罪。

京房与汉元帝共论，因问帝：“幽、厉之君何以亡？所任何人？”答曰：“其任人不忠。”房曰：“知不忠而任之，何邪？”曰：“亡国之君各贤其臣，岂知不忠而任之？”房稽首曰：“将恐今之视古，亦犹后之视今也。”

陈元方遭父丧，哭泣哀恸，躯体骨立。其母悯之，窃以锦被蒙上。郭林宗吊而见之，谓曰：“卿海内之俊才，四方是则，如何当丧，锦被蒙上？孔子曰：‘衣夫锦也，食夫稻也，于汝安乎？’吾不取也！”奋衣而去。自后宾客绝百所日。

孙休好射雉，至其时，则晨去夕反。群臣莫不上谏曰：“此为小物，何足甚耽？”休曰：“虽为小物，耿介过人，朕所以好之。”

孙皓问丞相陆凯曰：“卿一宗在朝有人几？”陆曰：“二相、五侯、将军十余人。”皓曰：“盛哉！”陆曰：“君贤臣忠，国之盛也；父慈子孝，家之盛也。今政荒民弊，覆亡是惧，臣何敢言盛！”



何晏、邓颺令管辌作卦，云：“不知位至三公不？”卦成，辌称引古义，深以戒之。颺曰：“此老生之常谈。”晏曰：“知几其神乎，古人以为难，交疏吐诚，今人以为难。今君一面，尽二难之道，可谓‘明德惟馨’。《诗》不云乎，‘中心藏之，何日忘之！’”

晋武帝既不悟太子之愚，必有传后意，诸名臣亦多献直言。帝尝在陵云台上坐，卫瑾在侧，欲申其怀，因如醉跪帝前，以手抚床曰：“此坐可惜！”帝虽悟，因笑曰：“公醉邪？”

王夷甫妇，郭泰宁女，才拙而性刚，聚敛无厌，干预人事。夷甫患之而不能禁。时其乡人幽州刺史李阳，京都大侠，犹汉之楼护，郭氏惮之。夷甫骤谏之，乃曰：“非但我言卿不可，李阳亦谓卿不可。”郭氏小为之损。

王夷甫雅尚玄远，常疾其妇贪浊，口未尝言“钱”。妇欲试之，令婢以钱绕床，不得行。夷甫晨起，见钱闾行，令婢：“举却阿堵物！”

王平子年十四五，见王夷甫妻郭氏贪欲，令婢路上儻粪。平子谏之，并言不可。郭大怒，谓平子曰：“昔夫人临终，以小郎嘱新妇，不以新妇嘱小郎。”急捉衣裾，将与杖。平子饶力，争得脱，逾窗而走。

元帝过江犹好酒，王茂弘与帝有旧，常流涕谏，帝许之，命酌酒，一酣，从是遂断。

谢鲲为豫章太守，从大将军下至石头。敦谓鲲曰：“余不得复为盛德之事矣！”鲲曰：“何为其然？但使自今以后，日亡日去耳。”敦又称疾不朝，鲲谏敦曰：“近者，明公之举，虽欲大存社稷，然四海之内，实怀未达。若能朝天子，使群臣释然，万物之心，于是乃服。仗民望以从众怀，尽冲退以奉主上，如斯则勋侔一匡，名垂千载。”时人以为名言。

元皇帝时，廷尉张闾在小市居，私作都门，早闭晚开。群小患之，诣州府诉，不得理；遂至挝登闻鼓，犹不被判。闻贺司空出，至破冈，连名诣贺诉。贺曰：“身被征作礼官，不关此事。”群小叩头曰：“若府君复不见治，便无所诉。”贺未语，令：“且去，见张廷尉当为及之。”张闻，即毁门，自至方山迎贺，贺出辞见之，曰：“此不必见关，但与君门情，相为惜之。”张愧谢曰：“小人有如此，始不即知。早已毁坏。”

郗太尉晚节好谈，既雅非所经，而甚矜之。后朝觐，以王丞相末年多可恨，每见，必欲苦相规诫。王公知其意，每引作他言。临还镇，故命驾诣丞相。丞相翘鬓厉色，上坐便言：“方当乖别，必欲言其所见。”意满口重，辞殊不流。王公摄其次曰：“后面未期，亦欲尽所怀，愿公勿复谈。”郗遂大瞋，冰矜而出，不得一言。

王丞相为扬州，遣八部从事之职，顾和时为下传还，同时俱见，诸从事各奏二千石官长得失，至和独无言。王问顾曰：“卿何所闻？”答曰：“明公作辅，宁使网漏吞舟，何缘采听风闻，以为察察之政？”丞相咨嗟称佳，诸从事自视缺然也。

苏峻东征沈充，请吏部郎陆迈与俱。将至吴，密敕左右，令人开门放火以示威。陆知其意，谓峻曰：“吴治平未久，必将有乱。若为乱阶，可从我家始。”峻遂止。

陆玩拜司空，有人诣之，索美酒，得，便自起，泻著梁柱间地，祝曰：“当今乏才，



以尔为柱石之用，莫倾人栋梁。”玩笑曰：“戢卿良箴。”

小庾在荆州，公朝大会，问诸僚佐曰：“我欲为汉高、魏武，何如？”一坐莫答。长史江彪曰：“愿明公为桓、文之事，不愿作汉高、魏武也。”

罗君章为桓宣武从事，谢镇西作江夏，往检校之。罗既至，初不问郡事，径就谢数日，饮酒而还。桓公问有何事？君章云：“不审公谓谢尚是何似人？”桓公曰：“仁祖是胜我许人。”君章云：“岂有胜公人而行非者，故一无所问。”桓公奇其意而不责也。

王右军与王敬仁、许玄度并善，二人亡后，右军为论议更克。孔岩戒之曰：“明府昔与王、许周旋有情，及逝没之后，无慎终之好，民所不取。”右军甚愧。

谢中郎在寿春败，临奔走，犹求玉帖镫。太傅在军，前后初无损益之言。尔日犹云：“当今岂须烦此！”

王大语东亭：“卿乃复论成不恶，那得与僧弥戏！”

殷顗病困，看人政见半面。殷荆州兴晋阳之甲，往与颉别，涕零，属以消息所患。顗答曰：“我病自当差，正忧汝患耳！”

远公在庐山中，虽老，讲论不辍。弟子中或有惰者，袁公曰：“桑榆之光，理无远照，但愿朝阳之晖，与时并明耳。”执经登坐，讽咏朗畅，词色甚苦，高足之徒，皆肃然增敬。

桓南郡好猎，每田狩，车骑甚盛，五六十里中，旌旗蔽隔。骋良马，驰击若飞，双甄所指，不避陵壑。或行陈不整，麋兔腾逸，参佐无不被系束。桓道恭，玄之族也，时为贼曹参军，颇敢直言。常自带绵绌绳著腰中，玄问：“用此何为？”答曰：“公猎，好缚人士，会当被缚，手不能堪芒也。”玄自此小差。

王绪、王国宝相为唇齿，并上下权要。王大不平其如此，乃谓绪曰：“汝为此款款，曾不虑狱吏之为贵乎？”

桓玄欲以谢太傅宅为营，谢混曰：“召伯之仁，犹惠及甘棠；文靖之德，更不保五亩之宅。”玄惭而止。

捷悟第十一

杨德祖为魏公主簿，时作相国门，始构榱桷，魏武自出看，使人题门作“活”字，便去。杨见，即令坏之。既竟，曰：“‘门’中‘活’，‘阔’字，王正嫌门大也。”

人餽魏武一杯酪，魏武啖少许，盖头上提“合”字以示众，众莫能解。次至杨修，修便啖，曰：“公教人啖一口也，复何疑？”

魏武尝过曹娥碑下，杨修从。碑背上见题作“黄绢幼妇，外孙縉白”八字，魏武谓修曰：“卿解不？”答曰：“解。”魏武曰：“卿未可言，待我思之。”行三十里，魏武乃曰：“吾已得。”令修别记所知。修曰：“黄绢，色丝也，于字为‘绝’；幼妇，少女也，于字为‘妙’；外孙，女子也，于字为‘好’；縉白，受辛也，于字为‘辞’；所谓‘绝妙好辞’



也。”魏武亦记之，与修同，乃叹曰：“我才不及卿，乃觉三十里。”

魏武征袁本初，治装，余有数十斛竹片，咸长数寸，众并谓不堪用，正令烧除。太祖甚惜，思所以用之，谓可为竹桺楯，而未显其言，驰使问主簿杨德祖。应声答之，与帝心同。众伏其辩悟。

王敦引军至大桁，明帝自出中堂。温峤为丹阳尹，帝令断大桁，故未断，帝大怒瞋目，左右莫不悚惧。召诸公来。峤至，不谢，但求酒炙。王导须臾至，徒跣下地，谢曰：“天威在颜，遂使温峤不容得谢。”峤于是下谢，帝乃释然。诸公共叹王机悟名言。

郗司空在北府，桓宣武恶其居兵权。郗于事机素暗，遣笺诣桓：“方欲共奖王室，修复园陵。”世子嘉宾出行，于道上闻信至，急取笺，视竟，寸寸毁裂，便回。还更作笺，自陈老病，不堪人间，欲乞闲地自养。宣武得笺大喜，即诏转公督五郡，会稽太守。

王东亭作宣武主簿，尝春月与石头兄弟乘马出郊。时彦同游者，连轳俱进，唯东亭一人常在前，觉数十步，诸人莫之解。石头等既疲倦，俄而乘舆回，诸人皆似从官，唯东亭奕奕在前，其悟摄如此。

夙慧第十二

宾客诣陈太丘宿，太丘使元方、季方炊。客与太丘论议，二人进火，俱委而窃听。炊忘著箒，饭落釜中。太丘问：“炊何不馏？”元方、季方长跪曰：“大人与客语，乃俱窃听，炊忘著箒，饭今成糜。”太丘曰：“尔颇有所识不？”对曰：“仿佛志之。”二子长跪俱说，更相易夺，言无遗失。太丘曰：“如此但糜自可，何必饭也？”

何晏七岁，明慧若神，魏武奇爱之，因晏在宫内，因欲以为子。晏乃画地令方，自处其中。人问其故，答曰：“何氏之庐也。”魏武知之，即遣还。

晋明帝数岁，坐元帝膝上。有人从长安来，元帝问洛下消息，潸然流涕。明帝问何以致泣，具以东度意告之。因问明帝：“汝意长安何如日远？”答曰：“日远。不闻人从日边来，居然可知。”元帝异之。明日，集群臣宴会，告以此意，更重问之。乃答曰：“日近。”元帝失色，曰：“尔何故异昨日之言邪？”答曰：“举目见日，不见长安。”

司空顾和与时贤共清言。张玄之、顾敷是中外孙，年并七岁，在床边戏。于时闻语，神情如不相属。暝于灯下，二小儿共叙客主之言，都无遗失。顾公越席而提其耳曰：“不意袁宗复生此宝。”

韩康伯数岁，家酷贫，至大寒，止得襦。母殷夫人自成之，令康伯捉熨斗，谓康伯曰：“且著襦，寻作复裈。”儿云：“已足，不须复裈也。”母问其故，答曰：“火在熨斗中而柄热，今既著襦，下亦当暖，故不须耳。”母甚异之，知为国器。

晋孝武年十二，时冬天，昼日不著复衣，但著单练衫五六重；夜则累茵褥。谢公谏曰：“圣体宜令有常。陛下昼过冷，夜过热，恐非摄养之术。”帝曰：“昼动夜静。”谢公



出，叹曰：“上理不减先帝。”

桓宣武薨，桓南郡年五岁，服始除，桓车骑与送故文武别，因指语南郡：“此皆汝家故吏佐。”玄应声泣恸，酸感傍人。车骑每自目己坐曰：“灵宝成人，当以此坐还之。”

豪爽第十三

王大将军年少时，旧有田舍名，语音亦楚。武帝唤时贤共言伎艺事，人人皆多有所知，唯王都无所关，意色殊恶，自言知打鼓吹，帝即令取鼓与之。于坐振袖而起，扬槌奋击，音节谐捷，神气豪上，傍若无人，举坐叹其雄爽。

王处仲，世许高尚之目。常荒恣于色，体为之弊，左右谏之，处仲曰：“吾乃不觉尔。如此者甚易耳！”乃开后阁，驱诸婢妾数十人出路，任其所之，时人叹焉。

王大将军自目：“高朗疏率，学通《左氏》。”

王处仲每酒后，辄咏“老骥伏枥，志在千里。烈士暮年，壮心不已”。以如意打唾壶，壶口尽缺。

晋明帝欲起池台，元帝不许。帝时为太子，好养武士，一夕中作池，比晓便成。今太子西池是也。

王大将军始欲下都处分树置，先遣参军告朝廷，讽旨时贤。祖车骑尚未镇寿春，瞋目厉声语使人曰：“卿语阿黑！何敢不逊！摧攘而去，须臾不尔，我将三千兵，槩脚令上！”王闻之而止。

庾稚恭既有中原之志，文康时，权重未在自己。及济坚作相，忌兵畏祸，与稚恭历同异者久之，乃果行。倾荆、汉之力，穷舟车之势，师次于襄阳，大会寮佐，陈其旌甲，亲援弧矢曰：“我之此行，若此射矣！”遂三起三叠。徒众属目，其气十倍。

桓宣武平蜀，集参僚置酒于李势殿，巴蜀缙绅莫不悉萃。桓既素有雄情爽气，加尔日音调英发，叙古今成败由人，存亡系才，奇拔磊落，一坐叹赏。既散，诸人追味余言。于时寻阳周覆曰：“恨卿辈不见王大将军。”

桓公读《高士传》，至於陵仲子，便掷去，曰：“谁能作此溪刻自处！”

桓石虔，司空豁之长庶也，小字镇恶，年七八，未被举，而童隶已呼为镇恶郎。尝住宣武斋头。从征枋头。车骑冲没陈，左右莫能先救。宣武谓曰：“汝叔落贼，汝知不？”石虔闻之，气甚奋，命朱辟为副，策马于数万众中，莫有抗者，遂致冲还，三军叹服。河朔后以其名断疟。

陈林道在西岸，都下诸人共要至牛渚会。陈理甚佳，人欲共言折，陈以如意拄颊，望鸡笼山叹曰：“孙伯符志业不遂！”于是竟坐不得谈。

王司州在谢公坐，咏“人不言兮出不辞，乘回风兮载云旗”，语人云：“当时，觉一无人。”



桓玄西下，入石头，外白：“司马梁王奔叛。”玄时事形已济，在平乘上簫鼓并作，直高咏云：“箫管有遗音，梁王安在哉？”

下卷 上

容止第十四

魏武将见匈奴使，自以形陋，不足雄远国，使崔季珪代，帝自捉刀立床头。既毕，令间谍问曰：“魏王何如？”匈奴使答曰：“魏王雅望非常；然床头捉刀人，此乃英雄也。”魏武闻之，追杀此使。

何平叔美姿仪，面至白。魏明帝疑其傅粉，正夏月，与热汤饼。既啖，大汗出，以朱衣自拭，色转皎然。

魏明帝使后弟毛曾与夏侯玄共坐，时人谓“蒹葭倚玉树”。

时人目夏侯太初“朗朗如日月之入怀”，李安国“颓唐如玉山之将崩。”

嵇康身长七尺八寸，风姿特秀。见者叹曰：“萧萧肃肃，爽朗清举。”或云：“肃肃如松下风，高而徐引。”山公曰：“嵇叔夜之为人也，岩岩若孤松之独立；其醉也，傀俄若玉山之将崩。”

裴令公目王安丰：“眼烂烂如岩下电。”

潘岳妙有姿容，好神情。少时挟弹出洛阳道，妇人遇者，莫不连手共萦之。左太冲绝丑，亦复效岳游遨，于是群姬齐共乱唾之，委顿而返。

王夷甫容貌整丽，妙于谈玄。恒捉玉柄麈尾与，手都无分别。

潘安仁、夏侯湛并有美容，喜同行，时人谓之“连璧”。

裴令公有俊容姿，一旦有疾至困，惠帝使王夷甫往看。裴方向壁卧，闻王使至，强回视之。王出，语人曰：“双眸闪闪若岩下电，精神挺动，体中故小恶。”

有人语王戎曰：“嵇延祖卓卓如野鹤之在鸡群。”答曰：“君未见其父耳。”

裴令公有俊容仪，脱冠冕，粗服乱头皆好，时人以为“玉人”。见者曰：“见裴叔则，如玉山上行，光映照人。”

刘伶身长六尺，貌其丑陋，而悠悠忽忽，土木形骸。

骠骑王武子是卫玠之舅，俊爽有风姿。见玠，辄叹曰：“珠玉在侧，觉我形秽。”

有人诣王太尉，遇安丰、大将军、丞相在坐。往别屋，见季胤、平子。还，语人曰：“今日之行，触目见琳琅珠玉。”

王丞相见卫洗马，曰：“居然有羸形，虽复终日调畅，若不堪罗绮。”

王大将军称太尉：“处众人中，似珠玉在瓦石间。”



庾子嵩长不满七尺，腰带十围，颓然自放。

卫玠从豫章至下都，人闻其名，观者如堵墙。玠先有羸疾，体不堪劳，遂成病而死，时人谓“看杀卫玠”。

周伯仁道桓茂伦：“嵒崎历落，可笑人。”或云谢幼舆言。

周侯说王长史父：“形貌既伟，雅怀有槩，保而用之，可作诸许物也。”

祖士少见卫君长云：“此人有旄杖下形。”

石头事故，朝廷倾覆，温忠武与庾文康投陶公求救。陶公云：“肃祖顾命不见及。且苏峻作乱，衅由诸庾，诛其兄弟，不足以谢天下。”于时庾在温船后，闻之，忧怖无计。别日，温劝庾见陶，庾犹豫未能往。温曰：“溪狗我所悉，卿但见之，必无忧也。”庾风姿神貌，陶一见便改观，谈宴竟日，爱重顿至。

庾太尉在武昌，秋夜气佳景清，使吏殷浩、王胡之之徒登南楼理咏，音调始道，闻函道中有履声甚厉，定是庾公。俄而率左右十许人步来，诸贤欲起避之，公徐云：“诸君少住，老子于此处兴复不浅。”因便据胡床，与诸人咏谑，竟坐甚得任乐。后王逸少下，与丞相言及此事，丞相曰：“元规尔时风范，不得不小颓。”右军答曰：“唯丘壑独存。”

王敬豫有美形，问讯王公。王公抚其肩曰：“阿奴，恨才不称！”又云：“敬豫事事似王公。”

王右军见杜弘治，叹曰：“面如凝脂，眼如点漆，此神仙中人。”时人有称王长史形者，蔡公曰：“恨诸人不见杜弘治耳！”

刘尹道桓公：“鬓如反猬皮，眉如紫石棱，自是孙仲谋、司马宣王一流人。”

王敬伦风姿似父。作侍中，加授桓公公服，从大门入。桓公望之曰：“大奴固自有凤毛。”

林公道王长史：“敝衿作一来，何其轩轩韶举！”

时人目王右军“飘如游云，矫如惊龙。”

王长史尝病，亲疏不通。林公来，守门人遽启之曰：“一异人在门，不敢不启。”王笑曰：“此必林公。”

或以方谢仁祖不乃重者，桓大司马曰：“诸君莫轻道，仁祖企脚北窗下弹琵琶，故自有天际真人想。”

王长史为中书郎，往敬和许。尔时积雪，长史从门外下车，步入尚书，著公服。敬和遥望，叹曰：“此不复似世中人！”

简文作相王时，与谢公共诣桓宣武。王珣先在内，桓语王：“卿尝欲见相王，可住帐里。”二客既去。桓谓王曰：“定如何？”王曰：“相王作辅，自然湛若神君。公亦万夫之望，不然，仆射何得自没？”

海西时，诸公每朝，朝堂犹暗；唯会稽王来，轩轩如朝霞举。

谢车骑道谢公：“游肆复无乃高唱，但恭坐捻鼻顾睐，便自有寝处山泽间仪。”



谢公云：“见林公双眼黯黯明黑。”孙奥公见林公：“棱棱露其爽。”

庾长人与诸弟入吴，欲住亭中宿。诸弟先上，见群小满屋，都无相避意。长仁曰：“我试观之。”乃策杖将一小儿，始入门，诸客望其神姿，一时退匿。

有人叹王恭形茂者，云：“濯濯如春月柳。”

自新第十五

周处年少时，凶强侠气，为乡里所患。又义兴水中有蛟，山中有遯迹虎，并皆暴犯百姓，义兴人谓为“三横”，而处尤剧。或说处杀虎斩蛟，实冀三横唯余其一。处即刺杀虎，又入水击蛟，蛟或浮或没，行数十里，处与之俱，经三日三夜，乡里皆谓已死，更相庆。竟杀蛟而出。闻里人相庆，始知为人情所患，有自改意。乃自吴寻二陆，平原不在，正见清河，具以情告，并云：“欲自修改而年已蹉跎，终无所成。”清河曰：“古人贵朝闻夕死，况君前途尚可。且人患志之不立，亦何忧令名不彰邪？”处遂改励，终为忠臣孝子。

戴渊少时，游侠不治行检，尝在江、淮间攻掠商旅。陆机赴假还洛，轻重甚盛。渊使少年掠劫，渊在岸上，据胡床指麾左右，皆得其宜。渊既神姿峰颖，虽处鄙事，神气犹异。机于船屋上遥谓之曰：“卿才如此，亦复作劫邪？”渊便泣涕，投剑归机，辞厉非常。机弥重之，定交，作笔荐焉。过江，仕至征西将军。

企羨第十六

王丞相拜司空，桓廷尉作两鬓，葛裙、策杖，路边窥之，叹曰：“人言阿龙超，阿龙故自超！”不觉至台门。

王丞相过江，自说昔在洛水边，数与裴成公、阮千里诸贤共谈道。羊曼曰：“人久以此许君，何须复尔？”王曰：“亦不言我须此，但欲尔时不可得耳！”

王右军得人以《兰亭集序》方《金谷诗序》，又以己敌石崇，甚有欣色。

王司州先为庾公记室参军，后取殷浩为长史，始到，庾公欲遣王使下都，王自启求住曰：“下官希见盛德，渊源始至，犹贪与少日周旋。”

郗嘉宾得人以己比苻坚，大喜。

孟昶未达时，家在京口。尝见王恭乘高舆，被鹤氅裘。于时微雪，昶于篱间窥之，叹曰：“此真神仙中人！”

伤逝第十七

王仲宣好驴鸣。既葬，文帝临其丧，顾语同游曰：“王好驴鸣，可各作一声以送之。”赴客皆一作驴鸣。



王浚冲为尚书令，著公服，乘辚车，经黄公酒垆下过。顾谓后车客：“吾昔与嵇叔夜、阮嗣宗共酣饮于此垆。竹林之游，亦预其末。自嵇生夭、阮公亡以来，便为时所羁绁。今日视此虽近，邈若山河。”

孙子荆以有才，少所推服，唯雅敬王武子。武子丧时，名士无不至者。子荆后来，临尸恸哭，宾客莫不垂涕。哭毕，向床曰：“卿常好我作驴鸣，今我为卿作。”体似真声，宾客皆笑。孙举头曰：“使君辈存，令此人死！”

王戎丧儿万子，山简往省之，王悲不自胜。简曰：“孩抱中物，何至于此？”王曰：“圣人忘情，最下不及情。情之所钟，正在我辈。”简服其言，更为之恻。

有人哭和长舆曰：“峨峨若千丈松崩。”

卫洗马以永嘉六年丧，谢鲲哭之，感动路人。咸和中，丞相王公教曰：“卫洗马当改葬。此君风流名士，海内所瞻，可修薄祭，以敦旧好。”

顾彦先平生好琴，及丧，家人常以琴置灵床上。张季鹰往哭之，不胜其恸，遂径上床，鼓琴作数曲，竟，抚琴曰：“顾彦先颇复赏此不？”因又大恸，遂不执孝子手而出。

庾亮儿遭苏峻难遇害。诸葛道明女为庾儿妇，既寡，将改适，与亮书及之。亮答曰：“贤女尚少，故其宜也。感念亡儿，若在初没。”

庾文康亡，何扬州临葬，云：“埋玉树著土中，使人情何能已已！”

王长史病笃，寝卧灯下，转麈尾视之，叹曰：“如此人，曾不得四十！”及亡，刘尹临殡，以犀柄麈尾著柩中，因恸绝。

支道林丧法度之后，精神实丧，风味转坠。常谓人曰：“昔匠石废斤于郢人，牙生辍弦于钟子，推已外求，良不虚也。冥契既逝，发言莫赏，中心蕴结，余其亡矣！”却后一年，支遂殒。

郗嘉宾丧，左右白郗公：“郎丧。”既闻不悲，因语左右：“殡时可道。”公往临殡，一恸几绝。

戴公见林法师墓，曰：“德音未远，而拱木已积。冀神理绵绵，不与气运俱尽耳！”

王子敬与羊绥善。绥清淳简贵，为中书郎，少亡。王深相痛悼，语东亭云：“是国家可惜人。”

王东亭与谢公交恶。王在东闻谢丧，便出都诣子敬道：“欲哭谢公。”子敬始卧，闻其言，便惊起曰：“所望于法护。”王于是往哭。督帅刁约不听前，曰：“官平生在时，不见此客。”王亦不与语，直前哭，甚恸，不执末婢手而退。

王子猷、子敬俱病笃，而子敬先亡。子猷问左右：“何以都不闻消息？此已丧矣！”语时了不悲。便索舆奔丧，都不哭。子敬素好琴，便径入坐灵床上，取子敬琴弹，弦既不调，掷地云：“子敬！子敬！人琴俱亡。”因恸绝良久，月余亦卒。

孝武山陵夕，王孝伯入临，告其诸弟曰：“虽榱桷惟新，便自有《黍离》之哀！”

羊孚年三十一卒，桓玄与羊欣书曰：“贤从情所信寄，暴疾而殒，祝予之叹，如何可



言!”

桓玄当篡位，语卞鞠云：“昔羊子道恒禁吾此意。今腹心丧羊孚，爪牙失索元，而匆匆作此诋突，诂允天心？”

栖逸第十八

阮步兵啸，闻数百步。苏门山中，忽有真人，樵伐者咸共传说。阮籍往观，见其人据膝岩侧，籍登岭就之，箕踞相对。籍商略终古，上陈黄、农玄寂之道，下考三代盛德之美，以问之，屹然不应。复叙有为之教、栖神道气之术以观之，彼犹如前，凝矚不转。籍因对之长啸。良久，乃笑曰：“可更作。”籍复啸。意尽，退，还半岭许，闻上啾然有声，如数部鼓吹，林谷传响。顾看，乃向人啸也。

嵇康游于汲郡山中，遇道士孙登，遂与之游。康临去，登曰：“君才则高矣，保身之道不足。”

山公将去选曹，欲举嵇康；康与书告绝。

李廌是茂曾第五子，清贞有远操，而少羸病，不肯婚宦。居在临海，住兄侍中墓下。既有高名，王丞相欲招礼之，故辟为府掾。廌得笺命，笑曰：“茂弘乃复以一爵假人。”

何骧骑弟以高情避世，而骧劝之令仕，答曰：“予第五之名，何必减骧骑？”

阮光禄在东山，萧然无事，常内足于怀。有人以问王右军，右军曰：“此君近不惊宠辱，遂古之沉冥，何以过此？”

孔车骑少有嘉遁意，年四十余，始应安东命。未仕宦时，常独寝，歌吹自箴海。自称孔郎，游散名山。百姓谓有道士，为生立庙。今犹有孔郎庙。

南阳刘驎之，高率善史传，隐于阳岐。于时苻坚临江，荆州刺史桓冲将尽讨谿之益，征为长史，遣人船往迎，赠赆甚厚。驎之闻命，便升舟，悉不受所饷，缘道以乞穷乏，比至上明亦尽。一见冲，因陈无用，倏然而退。居阳岐积年，衣食有无常与村人共，值已匮乏，村人亦如之。甚厚为乡闾所安。

南阳翟道渊与汝南周子南少相友，共隐于寻阳。庾太尉说周以当世之务，周遂仕。翟秉志弥固。其后周诣翟，翟不与语。

孟万年及弟少孤，居武昌阳新县。万年游宦，有盛名当世。少孤未尝出，京邑人士思欲见之，乃遣信报少孤，云：“兄病笃。”狼狽至都，时贤见之者，莫不嗟重。因相谓曰：“少孤如此，万年可死。”

康僧渊在豫章，去郭数十里立精舍，旁连岭，带长川，芳林列于轩亭，清流激于堂宇。乃闲居研讲，希心理味。庾公诸人多往看之。观其运用吐纳，风流转佳，加已处之怡然，亦有以自得，声名乃兴。后不堪，遂出。

戴安道既厉操东山，而其兄欲建式遏之功。谢太傅曰：“卿兄弟志业，何其太殊？”戴



曰：“下官不堪其忧，家弟不改其乐。”

许玄度隐在永兴南幽穴中，每致四方诸侯之遗。或谓许曰：“尝闻箕山人似不尔耳。”许曰：“筐篚苞苴，故当轻于天下之宝耳！”

范宣未尝入公门。韩康伯与同载，遂诱俱入郡，范便于车后趋下。

郗超每闻欲高尚隐退者，辄为办百万资，并为造立居宇。在剡，为戴公起宅，甚精整。戴始往旧居，与所亲书曰：“近至剡，如官舍。”郗为傅约亦办百万资，傅隐事差互，故不果遣。

许掾好游山水，而体便登陟。时人云：“许非徒有胜情，实有济胜之具。”

郗尚书与谢居士善，常称：“谢庆绪识见虽不绝人，可以累心处都尽。”

贤媛第十九

陈婴者，东阳人。少修德行，著称乡党。秦末大乱，东阳人欲奉婴为主，母曰：“不可。自我为汝家妇，少见贫贱，一旦富贵，不祥。不如以兵属人，事成，少受其利；不成，祸有所归。”

汉元帝宫人既多，乃令画工图之，欲有呼者，辄披图召之。其中常者，皆行货赂。王明君姿容甚丽，志不苟求，工遂毁为其状。后匈奴来和，求美女于汉帝，帝以明君充行。既召，见而惜之，但名字已去，不欲中改，于是遂行。

汉成帝幸赵飞燕，飞燕谗班婕妤祝诅，于是考问。辞曰：“妾闻死生有命，富贵在天。修善尚不蒙福，为邪欲以何望？若鬼神有知，不受邪佞之诉；若其无知，诉之何益？故不为也。”

魏武帝崩，文帝悉取武帝宫人自侍。及帝病困，卞后出看疾。太后入户，见直侍并是昔日所爱幸者。太后问：“何时来邪？”云：“正伏魄时过。”因不复前而叹曰：“狗鼠不食汝余，死故应尔！”至山陵，亦竟不临。

赵母嫁女，女临去，敕之曰：“慎勿为好！”女曰：“不为好，可为恶邪？”母曰：“好尚不可为，其况恶乎！”

许允妇是阮卫尉女，德如妹，奇丑。交礼竟，允无复入理，家人深以为忧。会允有客至，妇令婢视之，还答曰：“是桓郎。”桓郎者，桓范也。妇云：“无忧，桓必劝入。”桓果语许云：“阮家既嫁丑女与卿，故当有意，卿宜查之。”许便回入内，既见妇，即欲出。妇料其此出，无复入理，便捉裾停之。许因谓曰：“妇有四德，卿有其几？”妇曰：“新妇所乏唯容尔。然士有百行，君有几？”许云：“皆备。”妇曰：“夫百行以德为首。君好色不好德，何谓皆备？”允有惭色，遂相敬重。

许允为吏部郎，多用其乡里，魏明帝遣虎贲收之。其妇出戒允曰：“明主可以理夺，难以情求。”既至，帝核问之，允对曰：“‘举尔所知’，臣之乡人，臣所知也。陛下检校，



为称职与不？如不称职，臣受其罪。”既检校，皆官得其人，于是乃释。允衣服败坏，诏赐新衣。初允被收，举家号哭。阮新妇自若，云：“勿忧，寻还。”作粟粥待。倾之，允至。

许允为晋景王所诛，门生走入告其妇。妇正在机中，神色不变，曰：“早知尔耳！”门人欲藏其儿，妇曰：“无豫诸儿事。”后徙居墓所，景王遣钟会看之，若才流及父，当收。儿以咨母，母曰：“汝等虽佳，才具不多，率胸怀与语，便无所忧；不须极哀，会止便止；又可少问朝事。”儿从之。会反，以状对，卒免。

王公渊娶诸葛诞女。入室，言语始交，王谓妇曰：“新妇神色卑下，殊不似公休。”妇曰：“大丈夫不能仿佛彦云，而令妇人比踪英杰！”

王经少贫苦，仕至二千石，母语之曰：“汝本寒家子，仕至二千石，此可以止乎！”经不能用。为尚书，助魏，不忠于晋，被收，涕泣辞母曰：“不从母教，以至今日”母都无戚容，语之曰：“为子则孝，为臣则忠，有孝有忠，何负吾邪？”

山公与嵇、阮一面，契若金兰。山妻韩氏，觉公与二人异于常交，问公，公曰：“我当年可以为友者，唯此二生耳。”妻曰：“负羁之妻亦亲观狐、赵，意欲窥之，可乎？”他日，二人来，妻劝公止之宿，具酒肉。夜穿墙以视之，达旦忘反。公入曰：“二人何如？”妻曰：“君才致殊不如，正当以识度相友耳。”公曰：“伊辈亦常以我度为胜。”

王浑妻钟氏生女令淑，武子为妹求简美对而未得。有兵家子，有俊才，欲以妹妻之，乃白母，曰：“减是才者，其地可遣，然要令我见。”武子乃令兵家儿与群小杂处，使母暗中察之。既而母谓武子曰：“如此衣形者，是汝所拟者非邪？”武子曰：“是也。”母曰：“此才足以拔萃；然地寒，不有长年，不得申其才用。观其形骨，必不寿，不可与婚。”武子从之。兵儿数年果亡。

贾充前妇，是李豐女。豐被诛，离婚徙边。后遇赦得还，充先已娶郭配女，武帝特听置左右夫人。李氏别往外，不肯还充舍。郭氏语充，欲就省李，充曰：“彼刚介有才气，卿往不如不去。”郭氏于是盛威仪，多将侍婢。既至，入户，李氏起迎，郭不觉脚自屈，因跪再拜。既反，语充。充曰：“语卿道何物？”

贾充妻李氏作《女训》，行于世。李氏女，齐献王妃；郭氏女，惠帝后。充卒，李、郭女各欲令其母合葬，经年不决。贾后废，李氏乃附，葬遂定。

王汝南少无婚，自求郝普女。司空以其痴，会无婚处，任其意，便许之。既婚，果有令姿淑德，生东海，遂为王氏母仪。或问汝南：“何以知之？”曰：“尝见井上取水，举动容止不失常，未尝忤观，以此知之。”

王司徒妇，钟氏女，太傅曾孙，亦有俊才女德。钟、郝为婣，雅相亲重：钟不以贵陵郝，郝亦不以贱下钟。东海家内，则郝夫人法。京陵家内，范钟夫人之礼。

李平阳，秦州子，中夏名士，于时以比王夷甫。孙秀初欲立威权，咸云：“乐令民望，不可杀，减李重者又不足杀。”遂逼重自裁。初，重在家，有人走从门入，出髻中疏示重，



重看之色动。入内示其女，女直叫“绝”，了其意，出则自裁。此女甚高明，重每咨焉。

周浚作安东时，行猎，值暴雨，过汝南李氏。李氏富足，而男子不在。有女名络秀，闻外有贵人，与一婢于内宰猪羊，作数十人饮食，事事精办，不闻有人声。密视之，独见一女子，状貌非常，浚因求为妾。父兄不许。络秀曰：“门户殄瘁，何惜一女？若联姻贵族，将来或大益。”父兄从之。遂生伯仁兄弟。络秀语伯仁等：“我所以屈节为汝家作妾，门户计耳！汝若不与吾家作亲亲者，吾亦不惜余年！”伯仁等悉从命。由此李氏在世，得方幅齿遇。

陶公少有大志，家酷贫，与母湛氏同居。同郡范逵素知名，举孝廉，投侃宿。于时冰雪积日，侃室如悬磬，而逵马仆甚多。侃母湛氏语侃曰：“汝但出外留客，吾自为计。”湛头发委地，下为二髻。卖得数斛米，斫诸屋柱，悉割半为薪，剉诸荐以为马草。日夕，遂设精食，从者无所乏。逵既叹其才辩，又深愧其厚意。明旦去，侃追送不已，且百里许。逵曰：“路已远，君宜还。”侃犹不返。逵曰：“卿可去矣。至洛阳，当相为美谈。”侃乃返。逵及洛，遂称之于羊晷、顾荣诸人，大获美誉。

陶公少时，作鱼梁吏，尝以坩鲊饷母。母封鲊付使，反书责侃曰：“汝为吏，以官物见饷，非唯不益，乃增吾忧也。”

桓宣武平蜀，以李势妹为妾，甚有宠，常著斋后。主始不知，既闻，与数十婢拔白刃袭之。正值李梳头，发委藉地，肤色玉曜，不为动容，徐曰：“国破家亡，无心至此，今日若能见杀，乃是本怀。”主惭而退。

庾玉台，希之弟也。希诛，将戮玉台。玉台子妇，宣武弟桓豁女也，徒跪求进。阖禁不内。女厉声曰：“是何小人！我伯父门，不听我前！”因突入，号泣请曰：“庾玉台常因人，脚短三寸，当复能作贼不？”宣武笑曰：“婿故自急。”遂原玉台一门。

谢公夫人韩诸婢，使在前作伎，使太傅暂见，便下韩。太傅索更开，夫人云：“恐伤盛德。”

桓车骑不好著新衣，浴后，妇故送新衣与。车骑大怒，摧使持去。妇更持还，传语云：“衣不经新，何由而故？”桓公大笑，著之。

王右军郗夫人谓二弟司空、中郎曰：“王家见二谢，倾筐倒屣；见汝辈来，平平尔。汝可无烦复往。”

王凝之谢夫人既往王氏，大薄凝之。既还谢家，意大不说。太傅尉繚曰：“王郎，逸少之子，人才亦不恶，汝何以恨乃尔？”答曰：“一门叔父，则有阿大、中郎；群从兄弟，则有封、胡、遏、末。不意天壤之中，乃有王郎！”

韩康伯母，隐古几毁坏。卞鞠见几恶，欲易之。答曰：“我若不隐此，汝何以得见古物？”

王江州夫人语谢遏曰：“汝何以都不复进？为是尘务经心，天分有限？”

郗嘉宾丧，妇兄弟欲迎妹归，终不肯归。曰：“生纵不得与郗郎同室，死宁不同穴！”



谢遏绝重其姊，张玄常称其妹，欲以敌之。有济尼者，并游张、谢二家，人问其优劣，答曰：“王夫人神情散朗，故有林下风气；顾家妇清心玉映，自是闺房之秀。”

王尚书惠尝看王右军夫人，问：“眼耳未觉恶不？”答曰：“发白齿落，属乎形骸；至于眼耳，关于神明，那可便与人隔？”

韩康伯母殷，随孙绘之之衡阳，于闾庐州中逢桓南郡。卞鞠是其外孙，时来问讯。谓鞠曰：“我不死，见此竖二世作贼！”在衡阳数年，绘之遇桓景真之难也。殷抚尸哭曰：“汝父昔罢豫章，征书朝至夕发。汝去郡邑数年，为物不得动，遂及于难，夫复何言！”

术解第二十

荀勖善解音声，时论谓之“暗解”，遂调律吕，正雅乐。每至正会，殿庭作乐，自调宫商，无不谐韵。阮咸妙赏，时谓“神解”。每公会作乐，而心谓之不调。既无一言直勔，意忌之，遂出阮为始平太守。后有一田父耕于野，得周时玉尺，便是天下正尺，荀试以校己所治钟鼓、金石、丝竹，皆觉短一黍，于是伏阮神识。

荀勖在晋武帝坐食笋进饭，谓在坐人曰：“此是劳薪炊也。”坐者未信，密遣问之，实用故车脚。

人有相羊枯父墓，后应出受命君。枯恶其言，遂偃断墓后，以坏其势。相者立视之，曰：“犹应出折臂三公。”俄而枯坠马折臂，位果至公。

王武子善解马性。尝乘一马，著连钱障泥，前有水，终日不肯渡。王云：“此必是惜障泥。”使人解去，便径渡。

陈述为大将军掾，甚见爱重。及亡，郭璞往哭之，甚哀，乃呼曰：“嗣祖，焉知非福！”俄而大将军作乱，如其所言。

晋明帝解占冢宅，闻郭璞为人葬，帝微服往看。因问主人：“何以葬龙角？此法当灭族！”主人曰：“郭云：‘此葬龙耳，不出三年，当致天子。’”帝问：“为是出天子邪？”答曰：“非出天子，能致天子问耳。”

郭景纯过江，居于暨阳，墓去水不盈百步，时人以为近水。景纯曰：“将当为陆。”今沙涨，去墓数十里皆为桑田。其诗曰：“北阜烈烈，巨海混混；磊磊三坟，唯母与昆。”

王丞相令郭璞试作一卦。卦成，郭意色甚恶，云：“公有震厄！”王问：“有可消伏理不？”郭曰：“命驾西出数里，得一柏树，截断如公长，置床上常寝处，灾可消矣。”王从其语，数日中，果震柏粉碎。子弟皆称庆。大将军云：“君乃复委罪于树木。”

桓公有主簿善别酒，有酒辄令先尝，好者谓“青州从事”，恶者谓“平原督邮”。青州有齐郡，平原有鬲县；“从事”言“到脐”，“督邮”言在“鬲上住”。

郗愔信道甚精勤，常患腹内恶，诸医不可疗，闻于法开有名，往迎之。既来，便脉，云：“君侯所患，正是精进太过所致耳。”合一剂汤与之。一服，即大下，去数段许纸，如



拳大，剖看，乃先所服符也。

殿中军妙解经脉，中年都废。有常所给使，忽叩头流血。诘问其故，云：“有死事，终不可说。”诘问良久，乃云：“小人母年垂百岁，抱疾来久，若蒙官一脉，便有活理。讫就屠戮无恨。”浩感其至性，遂令昇来，为诊脉处方。始服一剂汤，便愈。于是悉焚经方。

巧艺第二十一

弹棋始自魏宫内，用妆奁戏。文帝于此戏特妙，用手巾角拂之，无不中。有客自云能，帝使为之。客著葛巾角，低头拂棋，妙逾于帝。

陵云台楼观精巧，先称平众木轻重，然后造构，乃无锱铢相负揭。台虽高峻，常随风摇动，而终无倾倒之理。魏明帝登台，惧其势危，别以大材扶持之，楼即颓坏。论者谓轻重力偏故也。

韦仲将能书。魏明帝起殿，欲安榜，使仲将登梯题之。既下，头鬓皓然，因敕儿孙：“勿复学书。”

钟会是荀济北从舅，二人情好不协。荀有宝剑，可直百万，常在母钟夫人许。会善书，学荀手迹，作书与母取剑，仍窃去不还。荀勖知是钟而无由得也，思所以报之。后钟兄弟以千万起一宅，始成，甚精丽，未得移住。荀极善画，乃潜往画钟门堂，作太傅形象，衣冠状貌如平生。二钟入门，便大感恼，宅遂空废。

羊长和博学工书，能骑射，善围棋。诸羊后多知书，而射、奕余艺莫逮。

戴安道就范宣学，视范所为：范读书亦读书，范抄书亦抄书。唯独好画，范以为无用，不宜劳思于此。戴乃画《南都赋》图，范看毕咨嗟，甚以为有益，始重画。

谢太傅云：“顾长康画，有苍生来所无。”

戴安道中年画行像甚精妙。庾道季看之，语戴云：“神明太俗，由卿世情未尽。”戴云：“唯务光当免卿此语耳。”

顾长康画裴叔则，颊上益三毛。人问其故，顾曰：“裴楷俊朗有识具，正此是其识具。”看画者寻之，定觉益三毛如有神明，殊胜未安时。

王中郎以围棋是坐隐，支公以围棋为手谈。

顾长康好写起人形，欲图殷荆州，殷曰：“我形恶，不烦耳。”顾曰：“明府正为眼尔。但明点童子，飞白拂其上，使如轻云之蔽日。”

顾长康画谢幼舆在岩石里。人问其所以，顾曰：“谢云：‘一丘一壑，自谓过之。’此子宜置丘壑中。”

顾长康画人，或数年不点目睛。人问其故，顾曰：“四体妍蚩，本无关于妙处，传神写照，正在阿堵中。”

顾长康道：“手挥五弦易，目送归鸿难。”



宠礼第二十二

元帝正会，引王丞相登御床，王公固辞，中宗引之弥苦。王公曰：“使太阳与万物同晖，臣何以瞻仰？”

桓宣武尝与参佐入宿，袁宏、伏滔相次而至。莅名，府中复有袁参军，彦伯疑焉，令传教更质。传教曰：“参军是袁、伏之袁，复何所疑？”

王珣、郗超并有奇才，为大司马所眷。拔珣为主簿，超为记室参军。超为人多须，状短小，于时荆州为之语曰：“髯参军，短主簿，能令公喜，能令公怒。”

许玄度停都一月，刘尹无日不往，乃叹曰：“卿复少时不去，我成轻薄京尹！”

孝武在西堂会，伏滔预坐。还，下车呼其儿，语之曰：“百人高会，临坐未得他语，先问：‘伏滔何在？在此不？’此故未易得。为人作父如此，何如？”

卞范之为丹阳尹。羊孚南州暂还，往卞许，云：“下官疾动，不堪坐。”卞便开帐拂褥，羊径上大床，入被须枕。卞回坐倾睐，移晨达莫。羊去，卞语曰：“我以第一期卿，卿莫负我。”

任诞第二十三

陈留阮籍、谯国嵇康、河内山涛，三人年皆相比，康年少亚之。预此契者，沛国刘伶、陈留阮咸、河内向秀、琅邪王戎。七人常集于竹林之下，肆意酣畅，故世谓“竹林七贤”。

阮籍遭母丧，在晋文王坐进酒肉。司隶何曾亦在坐，曰：“明公方以孝治天下，而阮籍以重丧显于公坐，饮酒食肉，宜流之海外，以正风教。”文王曰：“嗣宗毁顿如此，君不能共忧之，何谓？且有疾而饮酒食肉，固丧礼也！”籍饮啖不辍，神色自若。

刘伶病酒，渴甚，从归求酒。妇捐酒毁器，涕泣谏曰：“君饮太过，非摄生之道，必宜断之！”伶曰：“甚善。我不能自禁，唯当祝鬼神自誓断之耳！便可具酒肉。”妇曰：“敬闻命。”供酒肉于神前，请伶祝示。伶跪而祝曰：“天生刘伶，以酒为名，一饮一斛，五斗解醒。妇人之言，慎不可听！”便引酒进肉，隗然已醉矣。

刘公容与人饮酒，杂秽非类。人或讥之，答曰：“胜公容者，不可不与饮；不如公容者，亦不可不与饮；是公容辈者，又不可不与饮。”故终日共饮而醉。

步兵校尉缺，厨中有贮酒数百斛，阮籍乃求为步兵校尉。

刘伶恒纵酒放达，或脱衣裸形在屋中。人见讥之，伶曰：“我以天地为栋宇，屋室为裋衣，诸君何人为我裋中！”

阮籍嫂尝回家，籍见与别。或讥之，籍曰：“礼岂为我辈设也？”

阮公临家妇，有美色，当垆酤酒。阮与王安丰常从妇饮酒。阮醉，便眠其妇侧。夫始



殊疑之，伺察，终无他意。

阮籍当葬母，蒸一肥豚，饮酒二斗，然后临诀，直言：“穷矣！”都得一号，因吐血，废顿良久。

阮仲容、步兵居道南，诸阮居道北。北阮皆富，南阮贫。七月七日，北阮盛晒衣，皆纱罗锦绣。仲容以竿挂大布犊鼻褌于中庭。人或怪之，答曰：“未能免俗，聊复尔耳。”

阮步兵丧母，裴令公往吊之。阮方醉，散发坐床，箕踞不哭。裴至，下席于地，哭，吊唁毕便去。或问裴：“凡吊，主人哭，客乃为礼。阮既不哭，君何为哭？”裴曰：“阮方外之人，故不崇礼制。我辈俗中人，故以仪轨自居。”时人叹为两得其中。

诸阮皆能饮酒，仲容至宗人间共集，不复用常杯斟酌，以大瓮盛酒，围坐，相向大酌。时有群猪来饮，直接去上，便共饮之。

阮浑长成，风气韵度似父，亦欲作达。步兵曰：“仲容已预之，卿不得复尔。”

裴成公妇，王戎女。王戎晨往裴许，不通径前。裴从床南下，女从北下，相对作宾主，了无异色。

阮仲容先幸姑家鲜卑婢。及居母丧，姑当远移，初云当留婢，既发，定将去。仲容借客驴，著重服自追之，累骑而返，曰：“人种不可失！”即遥集母也。

任恺既失权势，不复自检括。或谓和峤曰：“卿何以坐视元衰败而不救？”和曰：“元衰如北夏门，拉掇自欲坏，非一木所能支。”

刘道真少时，常鱼草泽，善歌啸，闻者莫不留连。有一老姬，识其非常人，甚乐其歌啸，乃杀豚进之。道真食豚尽，了不谢。姬见不饱，又进一豚。食半余半，乃还之。后为使部郎，姬儿为小令史，道真超用之，不知所由，问母，母告之，于是赍牛酒诣道真。道真曰：“去，去！无可复用相报。”

阮宣子常步行，以百钱挂杖头，至酒店，便独酣畅。虽当世贵盛，不肯诣也。

山季伦为荆州，时出酣畅。人为之歌曰：“山公时一醉，径造高阳池，日莫倒载归，茗芋无所知。复能乘骏马，倒著白接篱，举手问葛强，何如并州儿？”高阳池在襄阳。强是其爱将，并州人也。

张季鹰纵任不拘，时人号为“江东步兵”。或谓之曰：“卿乃可纵适一时，独不为身后名邪？”答曰：“使我有身后名，不如即时一杯酒！”

毕茂世云：“一手持蟹螯，一手持酒杯，拍浮酒池中，便足了一生。”

贺司空入洛赴命，为太孙舍人，经吴国门，在船中弹琴。张季鹰本不相识，先在金阊亭，闻弦甚清，下船就贺，因共语，便大相知说。问贺：“卿欲何之？”贺曰：“入洛赴命，正尔进路。”张曰：“吾亦有事北京，因路寄载。”便与贺同发。初不告家，家追问，乃知。

祖车骑过江时，公私俭薄，无好服玩。王、庾诸公共就祖，忽见裘袍重叠，珍饰盈列。诸公怪问之，祖曰：“昨夜复南塘一出。”祖于时恒自使健儿鼓行劫钞，在事之人，亦容而不问。



鸿胪卿孔群好饮酒，王丞相语云：“卿何为恒饮酒？不见酒家覆瓿布，日月糜烂？”群曰：“不尔，不见糟肉，乃更堪久？”群尝书与亲旧：“今年得七百斛秫米，不了麴蘖事。”

有人讥周仆射：“与亲友言戏，秽杂无检节。”周曰：“吾若万里长江，何能不千里一曲！”

温太真位未高时，屡与扬州、淮中估客樗蒲，与辄不竞。尝一过，大输物，戏屈，无因得反。与庾亮善，于舫中大唤亮曰：“卿可赎我！”庾即送值，然后得还。经此数四。

温公喜慢语，下令礼法自居。至庾公许，大相剖击，温发口鄙秽，庾公徐曰：“太真终日无鄙言。”

周伯仁风德雅重，深达危乱。过江积年，恒大饮酒，尝经三日不醒。时人谓之“三日仆射”。

卫君长为温公长史，温公甚善之。每率尔提酒脯就卫，箕踞相对弥日。卫往温许亦尔。

苏峻乱，诸庾逃散。庾冰时为吴郡，单身奔亡。民吏皆去，唯郡卒独以小船载冰出钱塘口，篷篠覆之。时峻赏募觅冰，属所在搜检甚急。卒舍船市渚，因饮酒醉还，舞棹向船曰：“何处觅庾吴郡，此中便是！”冰大惶怖，然不敢动。监司见船小装狭，谓卒狂醉，都不复疑。自送过湖江，寄山阴魏家。得免。后事平，冰欲报卒，适其所愿。卒曰：“出自厮下，不愿名器。少苦执鞭，恒患不得快饮酒；使其酒足余年毕矣。无所复须。”冰为起大舍，市奴婢，使门内有百斛酒，终其身。时谓此卒非唯有智，且亦达生。

殷洪乔作豫章郡，临去，都下人因附百许函书。既至石头，悉掷水中，因祝曰：“沉者自沉，浮者自浮，殷洪乔不能作致书邮。”

王长史、谢仁祖同为王公掾，长史云：“谢掾能作异舞。”谢便起舞，神意甚暇。王公熟视，谓客曰：“使人思安丰。”

王、刘共在杭南，酣宴于桓子野家。谢镇西往尚书墓还，葬后三日反哭。诸人欲要之，初遣一信，犹未许，然已停车；重要，便回驾。诸人门外迎之，把臂便下。裁得脱帻著帽。酣宴半坐，乃觉未脱袞。

桓宣武少家贫，戏大输，债主教求甚切，思自振之方，莫知所出。陈郡袁耽，俊迈多能。宣武欲求救于耽。耽时居艰，恐致疑，试以告焉。应声便许，略无吝吝。遂交服怀布帽随温去，与债主戏。耽素有艺名，债主就局，曰：“汝故当不办作袁彦道邪？”遂共戏。十万一掷，直上百万数，投马绝叫，傍若无人，探布帽掷对人曰：“汝竟识袁彦道不？”

王光禄云：“酒，正使人人自远。”

刘尹云：“孙承公狂士，每至一处，赏玩累日，或回至半路却返。”

袁彦道有二妹：一适殷渊源，一适谢仁祖。语桓宣武云：“恨不更有一人配卿！”

桓车骑在荆州，张玄为侍中，使至江陵，路经阳岐村。俄见一人持半小笼生鱼，径来造船，云：“有鱼，欲寄作脍。”张云乃维舟而纳之，问其姓字，称是刘遗民。张素闻其



名，大相折待。刘既知张衔命，问：“谢安、王文度并佳不？”张甚欲话言，刘了无停意。既进脍，便去，云：“向得此鱼，观君船上当有脍具，是故来耳。”于是便去，张乃追至刘家，为设酒，殊不清旨。张高其人，不得已而饮之。方共对饮，刘便先起，云：“今正伐获，不宜久废。”张亦无以留之。

王子猷诣郗雍州，雍州在内，见有氍毹，云：“阿乞那得此物！”令左右送还家。郗出觅之，王曰：“向有大力者负之而趋。”郗无忤色。

谢安始出西戏，失车牛，便杖策步归。道逢刘尹，语曰：“安石将无伤？”谢乃同载而归。

襄阳罗友有大韵，少时多谓之痴。尝伺人祠，欲乞食，往太早，门未开。主人迎神出见，问以非时，何得在此？答曰：“闻卿祠，欲乞一顿食耳。”遂隐门侧，至晓，得食便退，了无作容。为人有记功，从桓宣武平蜀，按行蜀城阙观宇，内外道陌广狭，植种果竹多少，皆默记之。后宣武漂洲与简文集，友亦预焉。共道蜀中事，亦有所遗忘，友皆名列，曾无错漏。宣武验以蜀城阙簿，皆如其言。坐者叹服。谢公云：“罗友诎减魏阳元。”后为广州刺史，当之镇，刺史桓豁语令莫来宿，答曰：“民已有前期，主人贫，或有酒饌之费，见与甚有旧。请别日奉命。”征西密遣人察之。至日，乃往荆州门下书佐家，处之怡然，不异胜达。在益州语儿云：“我有五百人食器。”家中大惊，其由来清，而忽有此物，定是二百五十沓乌椽。

恒子野每闻清歌，辄唤：“奈何！”谢公闻之，曰：“子野可谓一往有深情。”

张湛好于斋前种松柏。时袁山松出游，每好令左右作挽歌。时人谓：“张屋下陈尸，袁道上行殡。”

罗友作荆州从事，桓宣武为王车骑集别，友进，坐良久，辞出，宣武曰：“卿向欲咨事，何以便去？”答曰：“友闻白羊肉美，一生未曾得吃，故冒求前耳，无事可咨。今已饱，不复须驻。”了无惭色。

张骞酒后，挽歌甚凄苦。桓车骑曰：“卿非田横门人，何乃顿尔至致？”

王子猷尝暂寄人空宅住，便令种竹。或问：“暂住何烦尔？”王啸咏良久，直指竹曰：“何可一日无此君？”

王子猷居山阴，夜大雪，眠觉，开室命酌酒，四望皎然。因起彷徨，咏左思《招隐诗》。忽忆戴安道。时戴在剡，即便夜乘小舟就之。经宿方至，造门不前而返。人问其故，王曰：“吾本乘兴而行，兴尽而返，何必见戴？”

王卫军云：“酒正引人著胜地。”

王子猷出都，尚在渚下。旧闻桓子野善吹笛，而不相识。遇桓于岸上过，王在船中，客有识之者云：“是桓子野。”王便令人与相闻，云：“闻君善吹笛，试为我一奏。”桓时已贵显，素闻王名，即便回下车，踞胡床，为作三调。弄毕，便上车去。客主不交一言。

桓南郡被召作太子洗马，船泊获渚，王大服散后已小醉，往看桓。桓为设酒，不能冷



饮，频语左右：“令温酒来！”桓乃流涕呜咽，王便欲去。桓以手巾掩泪，因谓王曰：“犯我家讳，何预卿事！”王叹曰：“灵宝故自达。”

王孝伯问王大：“阮籍何如司马相如？”王大曰：“阮籍胸中垒块，胡须酒浇之。”

王佛大叹言：“三日不饮酒，觉形神不复相亲。”

王孝伯言：“名士不必须奇才，但使常得无事，痛饮酒，熟读《离骚》，便可称名士。”

王长史登茅山，大恸，哭曰：“琅邪王伯舆，终当为情死！”

简傲第二十四

晋文王功德盛大，坐席严敬，拟于王者，唯阮籍在坐，箕踞啸歌，酣放自若。

王戎弱冠诣阮籍，时刘公荣在坐，阮谓王曰：“偶有二斗美酒，当与君共饮，彼公荣者无预焉。”二人交觞酬酢，公荣遂不得一杯，而言语谈戏，三人无异。或有问之者，阮答曰：“胜公荣者，不可不与饮酒；不如公荣者，不可不与饮酒；唯公荣，可不与饮酒。”

钟士季精有才理，先不识嵇康，钟要于时贤俊者之士，俱往寻康。康方大树下锻，向子期为佐鼓排。康扬槌不辍，傍若无人，移时不交以言。钟起去，康曰：“何所闻而来？何所见而去？”钟曰：“闻所闻而来，见所见而去。”

嵇康与吕安善，每一相思，千里命驾。安后来，值康不在，喜出户延之，不入，题门上作“凤”字而去。喜不觉，犹以为欣，故作“凤”字，凡鸟也。

陆士衡初入洛，咨张公所宜诣；刘道公是其一。陆既往，刘尚在哀制中。性嗜酒，礼毕，初无他言，唯问：“东吴有长柄壶卢，卿得种来不？”陆兄弟殊失望，乃悔往。

王平子出为荆州，王太尉及时贤送者倾路。时庭中有大树，上有鹊巢，平子脱衣巾，径上树取鹊子，凉衣拘囷树枝，便复脱去。得鹊子还下，弄，神色自若，傍若无人。

高坐道人于丞相坐，恒偃卧其侧。见下令，肃然改容云：“彼是礼法人。”

桓宣武作徐州，时谢奕为晋陵，先粗经虚怀，而乃无异常。及桓还荆州，将西之间，意气甚笃，奕弗之疑。唯谢虎子妇王悟其旨，每曰：“桓荆州用意殊异，必与晋陵俱西矣。”俄而引奕为司马。奕既上，犹推布衣交。在温坐，岸幘啸咏，无异常日。宣武每曰：“我方外司马。”遂因酒，转无朝夕礼。桓舍入内，奕辄复随去。后至奕醉，温往主许避之。主曰：“君无狂司马，我何由得相见？”

谢万在兄前，欲起索便器。于时阮思旷在坐，曰：“新出门户，笃而无礼。”

谢中郎是王蓝田女婿。尝著白纶巾，肩舆径至扬州听事见王，直言曰：“人言君侯痴，君侯信自痴。”蓝田曰：“非无此论，但晚令耳。”

王子猷作桓车骑骑兵参军。桓问曰：“卿何署？”答曰：“不知何署，时见牵马来，似是马曹。”桓又问：“官有几马？”答曰：“不问马，何由知其数？”又问：“马比死多少？”答曰：“未知生，焉知死。”



谢公尝与谢万共出西，过吴郡，阿万欲相与共萃王恬许，太傅云：“恐伊不必酬汝，意不足尔。”万犹苦要，太傅坚不回，万乃独往。坐少时，王便入内门，谢殊有欣色，以为厚待己。良久，乃沐头散发而出，亦不坐，仍据胡床，在中庭晒头，神气傲迈，了无相酬对意。谢于是乃还，未至船，逆呼太傅。安曰：“阿甥不作尔。”

王子猷作桓车骑参军。桓谓王曰：“卿在府久，比当相料理。”初不答，直高视，以手版拄颊云：“西山朝来，致有爽气。”

谢万北征，常以啸咏自高，未尝抚慰众士。谢公甚器爱万，而审其必败，乃俱行，从容谓万曰：“汝为元帅，宜数唤诸将宴会，以说众心。”万从之。因召集诸将，都无所说，直以如意指四坐云：“诸君皆是劲卒。”诸将甚愤恨之。谢公欲深著恩信，自队主将帅以下，无不身造，厚相逊谢。及万事败，军中因欲除之。复云：“当为隐士。”故幸而得免。

王子敬兄弟见郗公，屣履问讯，甚修外生礼。及嘉宾死，皆著高屐，仪容轻慢。命坐，皆云：“有事，不暇坐。”既去，郗公慨然曰：“使嘉宾不死，鼠辈敢尔！”

王子猷尝行过吴中，见一士大夫家极有好竹，主已知子猷当往，乃洒埽施設，在听事坐相待。王肩舆径造竹下，讽咏良久，主已失望，犹冀还当通。遂直欲出门。主人大不堪，便令左右闭门，不听出。王更以此赏主人，乃留坐，尽欢而去。

王子敬自会稽经吴，闻顾辟疆有名园。先不识主人，径往其家。值顾方集宾友酣燕，而王游历既毕，指麾好恶，傍若无人。顾勃然不堪曰：“傲主人，非礼也；以贵骄人，非道也。失此二者，不足齿人，佗耳！”便驱其左右出门。王独在舆上，回转顾望左右，移时不至，然后令送著门外，怡然不屑。

下卷 下

排调第二十五

诸葛瑾为豫州，遣别驾到台，语云：“小儿知谈，卿可与语。”连往诣恪，恪不与相见。后于张辅吴坐中相遇，别驾唤恪：“咄咄郎君！”恪因嘲之曰：“豫州乱矣，何咄咄之有？”答曰：“君明臣贤，未闻其乱。”恪曰：“昔唐尧在上，四凶在下。”答曰：“非唯四凶，亦有丹朱。”于是一坐大笑。

晋文帝与二陈共车，过唤钟会同载，即驱车委去。比出，已远。既至，因嘲之曰：“与人期行，何以迟迟？望卿遥遥不至。”会答曰：“矫然懿实，何必同群。”帝复问会：“皋繇何如人？”答曰：“上不及尧、舜，下不逮周、孔，亦一时之懿士。”

钟毓为黄门郎，有机警，在景王坐燕饮。时陈群子玄伯、武周子元夏同在坐，共嘲毓。景王曰：“皋繇何如人？”对曰：“古之懿士。”顾谓玄伯、元夏曰：“君子周而不比，



群而不党。”

嵇、阮、山、刘在竹林酣饮，王戎后往。步兵曰：“俗物已复来败人意！”王笑曰：“卿辈意，亦复可败邪？”

晋武帝问孙皓：“闻南人好作《尔汝歌》，颇能为不？”皓正饮酒，因举觞劝帝而言曰：“昔与汝为邻，今与汝为臣。上汝一杯酒，令汝寿万春！”帝悔之。

孙子荆年少时欲隐，语王武子“当枕石漱流”，误曰“漱石枕流”。王曰：“流可枕，石可漱乎？”孙曰：“所以枕流，欲洗其耳；所以漱石，欲砺其齿。”

头责秦子羽云：“子曾不如太原温顺，颍川荀寓，范阳张华，士卿刘许，义阳邹湛，河南郑邠。此数子者，或善吃无官商，或贬陋希言语，或淹伊多姿态，或欢哗少智谓，或口如含胶怡，或头如巾薰杵。而犹以文采可观，意思详序，攀龙附凤，并登天府。

王浑与妇钟氏共坐，见武子从庭过，浑欣然谓妇曰：“生儿如此，足慰人意。”妇笑曰：“若使新妇得配参军，生儿故可不啻如此！”

荀鸣鹤、陆士龙二人未相识，俱会张茂先坐。张令共语。以其并有才，可勿作常语。陆举手曰：“云间陆士龙。”荀答曰：“日下荀鸣鹤。”陆曰：“既开青云睹白雉，何不张尔弓，布尔矢？”荀答曰：“本谓云龙骖骖，定是山鹿野麋，兽弱弓强，是以发迟。”张乃抚掌大笑。

陆太尉诣王丞相。王公食以酪。陆还，遂病。明日，与王笺云：“昨食酪小过，通夜委顿。民虽吴人，几为伧鬼。”

元帝皇子生，普赐群臣。殷洪乔谢曰：“皇子诞育，普天同庆。臣无勋焉，而猥颁厚赉。”中宗笑曰：“此事岂可使卿有勋邪？”

诸葛令、王丞相共争姓族先后。王曰：“何不言葛、王，而云王、葛？”令曰：“譬言驺马，不言马驺，驺宁胜马邪？”

刘真长始见王丞相，时盛暑之月，丞相以腹熨弹棋局，曰：“何乃濇？”刘既出，人问见王公云何，刘曰：“未见他异，唯闻作吴语耳。”

王公与朝士共饮酒，举琉璃碗谓伯仁曰：“此碗腹殊空，谓之宝器，何邪？”答曰：“此碗英英，诚为清澈，所以为宝耳。”

谢幼舆谓周侯曰：“卿类社树，远望之，峨峨拂青天；就而视之，其根则群狐所托，下聚溷而已！”答曰：“枝条拂青天，不以为高；群狐乱其下，不以为浊。聚溷之秽，卿之所保，何足自称？”

王长豫幼便和令，丞相爱恋甚笃。每共围棋，丞相欲举行，长豫按指不听。丞相曰：“诤得尔？相与似有瓜葛。”

明帝问周伯仁：“真长何如人？”答曰：“故是千斤犗特。”王公笑其言。伯仁曰：“不如卷角犗，有盘辟之好。”

王丞相枕周伯仁膝，指其腹曰：“卿此中何所有？”答曰：“此中空洞无物，然容卿辈



数百人。”

干宝向刘真长叙其《搜神记》，刘曰：“卿可谓鬼之董狐。”

许思文往顾和许，顾先在帐中眠，许至，便径就床角枕共语。既而唤顾共行，顾乃命左右取枕上新衣，易己体上所著。许笑曰：“卿乃复有行来衣乎？”

康僧渊目深而鼻高，王丞相每调之，僧渊曰：“鼻者，面之山；目者，面之渊。山不高则不灵，渊不深则不清。”

何次道往瓦官寺礼拜甚勤，阮思旷语之曰：“卿志大宇宙，勇迈终古。”何曰：“卿今日何故忽见推？”阮曰：“我图数千户郡，尚不能得；卿乃图作佛，不亦大乎？”

庾征西大举征胡，既成行，止镇襄阳。殷豫章与书，送一折角如意以调之。庾答书曰：“得所致，虽是败物，犹欲理而用之。”

桓大司马乘雪欲猎，先过王、刘诸人许。真长见其装束单急，问：“老贼欲持此何作？”桓曰：“我若不为此，卿辈亦那得坐谈？”

褚季野问孙盛：“卿国史何当成？”孙云：“久应竟，在公无暇，故至今日。”褚曰：“古人‘述而不作’，何必在蚕室中？”

谢公在东山，朝命屡降而不动。后出为桓宣武司马，将发新亭，朝士咸出瞻送。高灵时为中丞，亦往相祖。先时，多所饮酒，因倚如醉，戏曰：“卿屡违朝旨，高卧东山，诸人每相与言：‘安石不肯出，将如苍生何！’今亦苍生将如卿何？”谢笑而不答。

初，谢安在东山居，布衣，时兄弟已有富贵者，翕集家门，倾动人物。刘夫人戏谓安曰：“大丈夫不当如此乎？”谢乃捉鼻曰：“但恐不免耳！”

支道林因人就深公买印山，深公答曰：“未闻巢、由买山而隐。”

王、刘每不重蔡公。二人尝诣蔡，语良久，乃问蔡曰：“公自言何如夷甫？”答曰：“身不如夷甫。”王、刘相目而笑曰：“公何处不如？”答曰：“夷甫无君辈客。”

张吴兴年八岁，亏齿，先达知其不常，故戏之曰：“君口中何为开狗窦？”张应声答曰：“正使君辈从此出入！”

郝隆七月七日出日中仰卧。人问其故，答曰：“我晒书。”

谢公始有东山之志，后严命屡臻，势不获已，始就桓公司马。于时人有饷桓公药草，中有“远志”。公取以问谢：“此药又名‘小草’，何一物而有二称？”谢未即答。时郝隆在坐，应声答曰：“此甚易解：处则为远志，出则为小草。”谢甚有愧色。桓公目谢而笑曰：“郝参军此过乃不恶，亦极有会。”

庾园客诣孙监，值行，见齐庄在外，尚幼，而有神意。庾试之曰：“孙安国何在？”即答曰：“庾稚恭家。”庾大笑曰：“诸孙大盛，有儿如此！”又答曰：“未若诸庾之翼翼。”还，语人曰：“我故胜，得重唤奴父名。”

范玄平在简文坐，谈欲屈，引王长史曰：“卿助我！”王曰：“此非拔山力所能助！”

郝隆为桓公南蛮参军。三月三日会，作诗。不能者，罚酒三升。隆初以不能受罚，既



饮，揽笔便作一句云：“颯颯跃清池。”桓问：“颯颯是何物？”答曰：“鲋名鱼为颯颯。”桓公曰：“作诗何以作鲋语？”隆曰：“千里投公，始得鲋府参军，那得不作鲋语也？”

袁羊尝诣刘恢，恢在内眠未起。袁因作诗调之曰：“角枕粲文茵，锦衾烂长筵。”刘尚晋明帝女，主见诗不平，曰：“袁羊，古之遗狂！”

殷洪远答孙兴公诗云：“聊复放一曲。”刘真长笑其语拙，问曰：“君欲云那放？”殷曰：“檣腊亦放，何必其铨铃邪？”

桓公既废海西，立简文。侍中谢公见桓公，拜，桓惊笑曰：“安石，卿何事至尔？”谢曰：“未有君拜于前，臣立于后！”

郗重熙与谢公书，道：“王敬仁闻一年少怀问鼎，不知桓公德衰？为复后生可畏？”

张苍梧是张凭之祖，尝语凭父曰：“我不如汝。”凭父未解所以，苍梧曰：“汝有佳儿。”凭时年数岁，敛手曰：“阿翁，诟宜以子戏父？”

习凿齿、孙兴公未相识，同在桓公坐。桓语孙：“可与习参军共语。”孙云：“‘蠢尔蛮荆’，敢与大邦为仇！”习云：“‘薄伐玁狁’，至于太原。”

桓豹奴是王丹阳外生，形似其舅，桓甚讳之。宣武云：“不恒相似，时似耳。恒似是形，时似是神。”桓逾不说。

王子猷诣谢万，林公先在坐，瞻瞩甚高。王曰：“若林公须发并全，神情当复胜此不？”谢曰：“唇齿相须，不可以偏亡。须发何关于神明！”林公意甚恶，曰：“七尺之躯，今日委君二贤。”

郗司空拜北府，王黄门诣郗门拜，云：“应变将略，非其所长。”骤咏之不已。郗仓谓嘉宾曰：“公今日拜，子猷言语殊不逊，深不可容！”嘉宾曰：“此是陈寿作诸葛评，人以汝家比武侯，复何所言？”

王子猷诣谢公，谢曰：“云何七言诗？”子猷承问，答曰：“昂昂若千里之驹，泛泛若水中之凫。”

王文度、范荣期俱为简文所要。范年大而位小，王年小而位大。将前，更相推在前，既移久，王遂在范后。王因谓曰：“簸之扬之，糠粃在前。”范曰：“洮之汰之，砂砾在后。”

刘遵祖少为殷中军所知，称之于庾公。庾公甚忻然，便取为佐。既见，坐之独榻上与语。刘尔日殊不称，庾小失望，遂名之为“羊公鹤”。昔羊叔子有鹤善舞，尝向客称之，客试使趋来，氍毹而不肯舞，故称比之。

魏长高雅有体量，而才学非所经。初宦当出，虞存嘲之曰：“与卿约法三章：谈者死，文笔者刑，商略抵罪。”魏怡然而笑，无忤于色。

郗嘉宾书与袁虎，道戴安道、谢居士云：“恒任之风，当有所弘耳。”以袁无恒，故以此激之。

范启与郗嘉宾书曰：“子敬举体无饶，纵掇皮无余润。”郗答曰：“举体无余润，何如



举体非真者？”范性矜假多烦，故嘲之。

二郗奉道，二何奉佛，皆以财贿。谢中郎云：“二郗谄于道，二何佞于佛。”

王文度在西州，与林法师讲，韩、孙诸人并在坐，林公理每欲小屈。孙兴公曰：“法师今日如著弊絮在荆棘中，触地挂阙。”

范容期见郗超俗情不淡，戏之曰：“夷、齐、巢、许，一诣垂名。何必劳神苦形，支策据梧邪？”郗未答，韩康伯曰：“何不使游刃皆虚？”

简文在殿上行，右军与孙兴公在后。右军指简文语孙曰：“此啖名客！”简文顾曰：“天下自有利齿儿。”后王光禄作会稽，谢车骑出曲阿祖之，王孝伯罢秘书丞，在坐，谢言及此事，因视孝伯曰：“王丞齿似不钝。”王曰：“不钝，颇亦验。”

谢遏夏月尝仰卧，谢公清晨卒来，不暇著衣，跳出屋外，方蹶履问讯。公曰：“汝可谓‘前倨而后恭’。”

顾长康作殷荆州佐，请假还东。尔时例不给布帆，顾苦求之，乃得发。至破冢，遭风大败。作笺与殷云：“地名破冢，真破冢而出。行人安稳，布帆无恙。”

符朗初过江，王咨议大好事，问中国人物及风土所生，终无极已。朗大患之。次复问奴婢贵贱，朗曰：“谨厚有识，中者，乃至十万；无意为奴婢，问者，止数千耳。”

东府客馆是版屋。谢景重诣太傅，时宾客满中，初不交言，直仰视云：“王乃复西戎其屋。”

顾长康啖甘蔗，先食尾。问所以，云：“渐至佳境。”

孝武属王珣求女婿，曰：“王敦、桓温，磊砢之流，既不可复得；且小如意，亦好豫人家事，酷非所须。正如真长、子敬比，最佳。”珣举谢混。后袁山松欲拟谢婚，王曰：“卿莫近禁裔！”

桓南郡与殷荆州语次，因共作了语。顾恺之曰：“火烧平原无遗燎。”桓曰：“白布缠棺竖旒旌。”殷曰：“投鱼深渊放飞鸟。”次作危语。桓曰：“矛头渐米剑头炊。”殷曰：“百岁老翁攀枯枝。”顾曰：“井上辘轳卧婴儿。”殷有一参军在坐，云：“盲人骑瞎马，夜半临深池。”殷曰：“咄咄逼人！”仲堪眇目故也。

桓玄出射，有一刘参军与周参军朋赌，垂成，唯少一破。刘谓周曰：“卿此起不破，我当拈卿。”周曰：“何至受卿拈？”刘曰：“伯禽之贵，尚不免拈，而况于卿！”周殊无忤色。桓语庾伯鸾曰：“刘参军宜停读书，周参军且勤学问。”

桓南郡与道曜讲老子，王侍中为主簿，在坐。桓曰：“王主簿，可顾名思义。”王未答，且大笑。桓曰：“王思道能作大家儿笑。”

祖广行恒缩头。诣桓南君，始下车，桓曰：“天甚晴朗，祖参军如从屋漏中来。”

桓玄素轻桓崖，崖在京下有好桃，玄连就求之，遂不得佳者。玄与殷仲文书，以为嗤笑曰：“德之休明，肃慎贡其桔矢；如其不尔，篱壁间物，亦不可得也。”



轻诋第二十六

王太尉问眉子：“汝叔名士，何以不相推重？”眉子曰：“何有名士终日妄语？”

庾元规语周伯仁：“诸人皆以君方乐。”周曰：“何乐？谓乐毅邪？”庾曰：“不尔，乐令耳。”周曰：“何乃刻画无盐，以唐突西子也。”

深公元：“人谓庾元规名士，胸中柴棘三斗许。”

庾公权重，足倾王公。庾在石头，王在冶城坐，大风扬尘，王以扇拂尘曰：“元规尘污人！”

王右军少时甚湿讷。在大将军许，王、庾二公后来，右军便起欲去，大将军留之，曰：“尔家司空、元规，复何所难？”

王丞相轻蔡公，曰：“我与安期、千里共游洛水边，何处闻有蔡充儿？”

褚太傅初渡江，尝入东，至金昌亭，吴中豪右，燕集亭中。褚公虽素有重名，于时造次不相识别。敕左右多与茗汁，少著粽，汁尽辄益，使终不得食。褚公饮讫，徐举手共语云：“褚季野。”于是四坐惊散，无不狼狽。

王右军在南，丞相与书，每叹子侄不令，云：“虎狔、虎犊，还其所如。”

褚太傅南下，孙长乐于船中视之。言次，及刘真长死，孙流涕，因讽咏曰：“人之云亡，邦国殄瘁。”褚大怒，曰：“真长平生，何尝相比数，而卿今日作此面向人！”孙回泣向褚曰：“卿当念我！”时咸笑其才而性鄙。

谢镇西书与殷扬州，为真长求会稽，殷答曰：“真长标同伐异，侠之大者。常谓使君降阶为甚，乃复为之驱驰邪？”

桓公入洛，过淮、泗，践北境，与诸僚属登平乘楼，眺瞩中原，慨然曰：“遂使神州陆沈，百年丘墟，王夷甫诸人，不得不任其责！”袁虎率尔对曰：“运自有废兴，岂必诸人之过？”桓公凜然作色，顾谓四坐曰：“诸君颇闻刘景升不？有大牛重千斤，啖刍豆十倍于常牛，负重致远，曾不若一羸犢。魏武入荆州，烹以飧士卒，于时莫不称快。”意以况袁。四坐既骇，袁亦失色。

袁虎、伏滔同在桓公府，桓公每游燕，辄命袁、伏。袁甚耻之，恒叹曰：“公之厚意，未足以荣国士，与伏滔比肩，亦何辱如之？”

高柔在东，甚为谢仁祖所重。既出，不为王、刘所知。仁祖曰：“近见高柔，大自敷奏，然未有所得。”真长云：“故不可在偏地居，轻在角觝中，为人作议论。”高柔闻之，云：“我就伊无所求。”人有向真长学此言者，真长曰：“我实亦无可与伊者。”然游燕犹与诸人书：“可要安固。”安固者，高柔也。

刘尹、江彪、王叔虎、孙兴公同坐，江、王有相轻色。彪以手歛叔虎云：“酷吏！”词色甚强。刘尹顾谓：“此是瞋邪？非特是丑言声，拙视瞻。”



孙绰作《列仙·商丘子赞》曰：“所牧何物？殊非真猪。倘遇风云，为我龙掇。”时人多以为能。王蓝田语人云：“近见孙家儿作文，道‘何物真猪’也。”

桓公欲迁都，以张拓定之业。孙长乐上表，谏此议，甚有理。桓见表心服，而忿其为异。令人致意孙云：“君何不寻《遂初赋》，而强知人家国事？”

孙长乐兄弟就谢公宿，言至款杂。刘夫人在壁后听之，具闻其语。谢公明日还，问昨客何似，刘对曰：“亡兄门，未有如此宾客！”谢深有愧色。

简文与许玄度共语，许云：“举君、亲以为难。”简文便不复答，许去后而言曰：“玄度故可不至于此！”

谢万寿春败后，还，书与王右军云：“惭负宿顾。”右军推书曰：“此禹、汤之戒。”

蔡伯喈踏踈笛椽，孙兴公听妓，振且摆折。王右军闻，大嗔曰：“三祖寿乐器，虺瓦吊，孙家儿打折。”

王中郎与林公绝不相得。王谓林公诡辩，林公道王云：“著赭颜帟，缁布单衣，挟《左传》，逐郑康成车后，问是何物尘垢囊！”

孙长乐作王长史谏云：“余与夫子，交非势利，心犹澄水，同此玄昧。”王孝伯见曰：“才士不逊，亡祖何至与此人周旋！”

谢太傅谓子侄曰：“中郎始是独有千载！”车骑曰：“中郎衿抱未虚，复那得独有？”

庾道季论谢公曰：“裴郎云‘谢安谓裴郎乃可不恶，何得为复饮酒！’裴郎又云：‘谢安目支道林如九方皋之相马，略其玄黄，取其俊逸。’”谢公云：“都无此二语，裴自为此辞耳！”庾意甚不以为好，因陈东亭《经酒垆下赋》。读毕，都不下赏裁，直云：“君乃复作裴氏学！”于此《语林》遂废。今时有者，皆是先写，无复谢语。

王北中郎不为林公所知，乃著论《沙门不得为高士论》，大略云：“高士必在于纵心调畅。沙门虽云俗外，反更束于教，非情性自得之谓也。”

人问顾长康：“何以不作洛生咏？”答曰：“何至作老婢声！”

殷颢、庾恒皆是谢镇西外孙。殷少而率悟，庾每不推。尝俱诣谢公，谢公熟视殷，曰：“阿巢故似镇西。”于是庾下声语曰：“定何似？”谢公续复云：“巢颇似镇西。”庾复云：“颇似，足作健不？”

旧目韩康伯：将肘无风骨。

苻宏叛来归国，谢太傅每加接引。宏自以有才，多好上人，坐上无折之者。适王子猷来，太傅使共语。子猷直孰视良久，回语太傅云：“亦复竟不异人。”宏大惭而退。

支道林入东，见王子猷兄弟，还，人问：“见诸王何如？”答曰：“见一群白颈乌，但闻啾啾哑声。”

王中郎举许玄度为吏部郎，郗重熙曰：“相王好事，不可使阿谄在坐。”

王兴道谓：谢望蔡霍霍如失鹰师。

桓南郡每见人不快，辄嗔云：“君得袁家梨，当复不蒸食不？”



假谲第二十七

魏武少时，尝与袁绍好为游侠。观人新婚，因潜入主人园中，夜叫呼云：“有偷儿贼！”青庐中人皆出观，魏武乃入，抽刃劫新妇，与绍还出。失道，坠积棘中，绍不能得动。复大叫云：“偷儿在此！”绍追迫自掷出，遂以俱免。

魏武行役，失汲道，军皆渴，乃令曰：“前有大梅林，饶子，甘酸可以解渴。”士卒闻之，口皆出水，乘此得及前源。

魏武常言：“人欲危己，己辄心动。”因语所亲小人曰：“汝怀刃密来我侧，我必说‘心动’，执汝使行刑，汝但勿言其使，无他，当厚相报。”执者信焉，不以为惧，遂斩之。此人至死不知也。左右以为实，谋逆者挫气矣。

魏武常云：“我眠中不可妄近，近便斫人，亦不自觉。左右宜深慎此！”后阳眠，所幸一人，窃以被覆之，因便斫杀。自尔每眠，左右莫敢近者。

袁绍年少时，曾遣人以剑掷魏武，少下，不著。魏武揆之，其后来必高。因帖卧床上，剑至果高。

王大将军既为逆，顿军姑孰。晋明帝以英武之才，犹相猜惮，乃著戎服，骑巴滇马，赍一金马鞭，阴察军形势。未至十余里，有一客姥，居店卖食，帝过谒之，谓姥曰：“王敦举兵图逆，猜害忠良，朝廷骇惧，社稷是忧。故劬劳晨夕，用相观察。恐行迹危露，或致狼狈。追迫之日，姥其匿之。”便与客姥马鞭而去，行敦营匝而出。军士觉，曰：“此非常人也！”敦卧心动，曰：“此必黄须鲜卑奴来！”命骑追之。已觉多许里，追士因问向姥：“不见一黄须人骑马度此邪？”姥曰：“去已久矣，不可复及。”于是骑人息意而反。

王右军年减十岁时，大将军甚爱之，恒值帐中眠。大将军尝先出，右军犹未起，须臾钱凤入，屏人论事，都忘右军在帐中，便言逆节之谋。右军觉，既闻所论，知无活理，乃剔吐污头面被褥，诈孰眠。敦论事造半，方忆右军未起，相与大惊曰：“不得不除之！”及开帐，乃见吐唾纵横，信其实孰眠，于是得全。于时称其有智。

陶公自上流来，赴苏峻之难，令诛庾公。谓必戮庾，可以谢峻。庾欲奔窜，则不可；欲会，恐见执，进退无计。温公劝庾诣陶，曰：“卿但遥拜，必无它。我为卿保之。”庾从温言诣陶。至，便拜。陶自起止之，曰：“庾元规何缘拜陶士衡？”毕，又降就下坐。陶又自要起同坐。坐定，庾乃引咎责躬，深相逊谢。陶不觉释然。

温公丧妇。从姑刘氏，家值乱离散，唯有一女，甚有姿慧。姑以属公觅婚，公密有自婚意，答云：“佳婿难得，但如峤比，云何？”姑云：“丧败之余，乞粗存活，便足慰吾余年，何敢希汝比？”却后少日，公报姑云：“已觅得婚处，门地粗可，婿身名宦，尽不减峤。”因下玉镜台一枚。姑大喜。既婚，交礼，女以手披纱扇，抚掌大笑曰：“我固疑是老奴，果如所卜！”玉镜台，是公为刘越石长史，北征刘聪所得。



诸葛令女，庾氏妇，既寡，誓云：“不复重出！”此女性甚正强，无有登车理。恢既许江思玄婚，乃移家近之。初班女云：“宜徙。”于是家人一时去，独留女在后。比其觉，已不复得出。江郎莫来，女哭誓弥甚，积日渐歇。江彪眠入宿，恒在对床上。后观其意转帖，彪乃诈厌，良久不悟，声气转急。女乃呼婢云：“唤江郎觉！”江于是跃来就之，曰：“我自是天下男子，厌，何预卿事而见唤邪？既尔相关，不得不与人语。”女默然而惭，情义遂笃。

愍度道人始欲过江，与一伦道人为侣，谋曰：“用旧义在江东，恐不办得食。”便共立“心无义”。既而此道人不成渡。愍度果讲义积年。后有伦人来，先道人寄语云：“为我致意愍度，无义那可立？治此计，权救饥尔！无为遂负如来也。”

王文度弟阿智，恶乃不翅，当年长而无人与婚。孙兴公有一女，亦僻错，又无嫁娶理。因诣文度，求见阿智。既见，便阳言：“此定可，殊不如人所传，那得至今未有婚处？我有一女，乃不恶，但吾寒士，不宜与卿计，欲令阿智娶之。”文度欣然而启蓝田云：“兴公向来，忽言欲与阿智婚。”蓝田惊喜。既成婚，女之顽嚣，欲过阿智。方知兴公之诈。

范玄平为人，好用智数，而有时以多数失会。尝失官居东阳，桓大司马在南州，故往投之。桓时方欲招起屈滞，以倾朝廷，且玄平在京，素亦有誉。桓谓远来投己，喜跃非常。比人至庭，倾身引望，语笑欢甚。顾谓袁虎曰：“范公且可作太常卿。”范裁坐，桓便谢其远来意。范虽实投桓，而恐以趋时损名，乃曰：“虽怀朝宗，会有亡儿瘞在此，故来省视。”桓怅然失望，向之虚仁，一时都尽。

谢遏年少时，好著紫罗香囊，垂覆手，太傅患之，而不欲伤其意。乃谲与赌，得即烧之。

黜免第二十八

诸葛玄在西朝，少有清誉，为王夷甫所重。时论亦以拟王。后为继母族党所谗，诬之为狂逆。将远徙，友人王夷甫之徒，诣槛车与别。玄问：“朝廷何以徙我？”王曰：“言卿狂逆。”玄曰：“逆则应杀，狂何所徙。”

桓公入蜀，至三峡中，部伍中有得猿子者。其母缘岸哀号，行百余里不去，遂跳上船，至便即绝。破其腹中，肠皆寸寸断。公闻之怒，命黜其人。

殷中军被废，在信安，终日恒书空作字。扬州吏民寻义逐之，窃视，唯作“咄咄怪事”四字而已。

桓公坐有参军椅蒸蕤不时解；共食者又不助，而椅终不放。举坐皆笑。桓公曰：“同盘尚不相助，况复危难乎？”敕令免官。

殷中军废后，恨简文曰：“上人著百尺楼上，僮梯将去。”

邓竟陵免官后赴山陵，过见大司马桓公，公问之曰：“卿何以更瘦？”邓曰：“有愧于



叔达，不能不恨于破甑！”

桓宣武既废太宰父子，仍上表曰：“应割近情，以存远计。若除太宰父子，可无后忧。”简文手答表曰：“所不忍言，况过于言？”宣武又重表，辞转苦切。简文更答曰：“若晋室灵长，明公便宜奉行此诏；如大运去矣，请避贤路！”桓公读诏，手战流汗，于此乃止。太宰父子远徙新安。

桓玄败后，殷仲文还为大司马咨议，意似二三，非复往日。大司马府厅前有一老槐，甚扶疏。殷因月朔，与众在厅，视槐良久，叹曰：“槐树婆娑，无复生意！”

殷仲文既素有名望，自谓必当阿衡朝政。忽作东阳太守，意甚不平，及之郡，至富阳，慨然叹曰：“看此山川形势，当复出一孙伯符！”

俭吝第二十九

和峤性至俭，家有好李，王武子求之，与不过数十。王武子因其上直，率将少年能食之者，持斧诣园，饱共啖毕，伐之。送一车枝与和公，问曰：“何如君李？”和既得，唯笑而已。

王戎俭吝，其从子婚，与一单衣，后更责之。

司徒王戎既贵且富，区宅、僮牧、膏田、水碓之属，洛下无比。契书鞅掌，每与夫人烛下散筹算计。

王戎有好李，卖之，恐人得其种，恒钻其核。

王戎女适裴頠，贷钱数万。女归，戎色不说，女遽还钱，乃释然。

卫江州在寻阳，有知旧人投之，都不料理，唯饷“王不留行”一斤，此人得饷，便命驾。李弘范闻之，曰：“家舅刻薄，乃复趋使草木。”

王丞相俭节，帐下甘果盈溢不散。涉春烂败，都督白之，公令舍去，曰：“慎不可令大郎知。”

苏峻之乱，庾太尉南奔见陶公。陶公雅相赏重。陶性俭吝。及食，啖菹，庾因留白。陶问：“用此何为？”庾云：“故可种。”于是大叹庾非唯风流，兼有治实。

郗公大聚敛，有钱千万。嘉宾意甚不同，常朝旦问讯。郗家法：子弟不坐。因倚语移时，遂及财货事。郗公曰：“汝正当欲得吾钱耳！”乃开库一日，令任意用。郗公始正谓损数百万许，嘉宾遂一日乞与亲友、周旋略尽。郗公闻之，惊怪不能已已。

汰侈第三十

石崇每要客燕集，常令美人行酒；客饮酒不尽者，使黄门交斩美人。王丞相与大将军尝共诣崇。丞相素不善饮，辄自勉强，至于沈醉。每至大将军，固不饮以观其变，已斩三人，颜色如故，尚不肯饮。丞相让之，大将军曰：“自杀伊家人，何预卿事！”



石崇厕常有十余婢侍列，皆丽服藻饰，置甲煎粉、沈香之属，无不毕备。又与新衣著令出。客多羞不能如厕。王大将军往，脱故衣，著新衣，神色傲然。群婢相谓曰：“此客必能作贼。”

武帝尝降王武子家，武子供饌，并用琉璃器。婢子百余人，皆绫罗绮縠，以手擎饮食。蒸豚肥美，异于常味。帝怪而问之。答曰：“以人乳饮豚。”帝甚不平，食未毕，便去。王、石所未知作。

王君夫以蜡糒澳釜，石季伦用蜡烛作炊。君夫作紫丝布步障碧绫褰四十里，石崇作锦步障五十里以敌之。石以椒为泥，王以赤石脂泥壁。

石崇为客作豆粥，咄嗟便办。恒冬天得韭蓱虀。又牛形状气力不胜王恺牛，而与恺出游，极晚发，争入洛城，崇牛数十步后，迅若飞禽，恺牛绝走不能及。每以此三事搯腕。乃密货崇帐下都督及御车人，问所以。都督曰：“豆至难煮，唯豫作熟末，客至，作白粥以投之。韭蓱虀是捣韭根，杂以麦苗尔。”复问驭人牛所以驶。驭人云：“牛本不迟，由将车人不及制之尔。急时听偏轡，则驶矣。”恺悉从之，遂争长。石崇后闻，皆杀告者。

王君夫有牛名“八百里驳”，常堂其蹄角。王武子语君夫：“我射不如卿，今指赌卿牛，以千万对之。”君夫既恃手快，且谓骏物无有杀理，便相然可，令武子先射。武子一起便破的，却据胡床，叱左右：“速探牛心来！”须臾，炙至，一脔便去。

王君夫尝责一人无服余帑，因直内著曲阁重阁里，不听人将出。遂饥经日，迷不知何处去。后因缘相为垂死，乃得出。

石崇与王恺争豪，并穷绮丽，以饰舆服。武帝，恺之甥也，每助恺。尝以一珊瑚树——高二尺许——赐恺。枝柯扶疏，世罕其比。恺以示崇；崇视訖，以铁如意击之，应手而碎。恺既惋惜，又以为疾己之宝，声色甚厉。崇曰：“不足恨，今还卿。”乃命左右悉取珊瑚树，有三尺、四尺，条干绝世，光彩溢目者六七枚，如恺许比甚众。恺惘然自失。

王武子被责，移第北邨下。于时人多地贵，济好马射，买地作埽，编钱匝地竟埽。时人号曰“金沟”。

石崇每与王敦学戏，见颜、原象而叹曰：“若与同升孔堂，去人何必有间！”王曰：“不知余人云何，子贡去卿差近。”石正色云：“士当令身名俱泰，何至以瓮牖语人！”

彭城王有快牛，至爱惜之。王太尉与射，赌得之。彭城王曰：“君欲自乘，则不论；若欲啖者，当以二十肥者代之。既不废啖，又存所爱。”王遂杀啖。

王右军少时，在周侯末坐，割牛心啖之，于此改观。

忿狷第三十一

魏武有一妓，声最清高，而情性酷恶。欲杀则爱才，欲置则不堪。于是选百人，一时俱教。少时，还有一人声及之，便杀恶性者。



王蓝田性急。尝食鸡子，以箸刺之，不得，便大怒，举以掷地。鸡子于地圆转未止，仍下地以屐齿碾之，又不得。瞋甚，复于地取内口中，嚼破即吐之。王右军闻而大笑曰：“使安期有此性，犹当无一豪可论，况蓝田邪？”

王司州尝乘雪往王螭许。司州言气少有悖逆于螭，便作色不爽。司州觉恶，便舆床就之，持其臂曰：“汝诟复足与老兄计？”螭拨其手曰：“冷如鬼子手，强来捉人臂！”

桓宣武与袁彦道樗蒲。袁彦道齿不合，遂厉色掷去五木。温太真云：“见袁生迁怒，知颜子为贵。”

谢无奕性粗强，以事不相得，自往数王蓝田，肆言极骂。王正色面壁不敢动。半日谢去，良久，转头问左右小吏曰：“去未？”答云：“已去。”然后复坐。时人叹其性急而能有所容。

王令诣谢公，值习凿齿已在坐，当与并榻。王徙倚不坐，公引之与对榻。去后，语胡儿曰：“子敬实自清立，但人为尔多吟咏，殊足损其自然。”

王大、王恭尝俱在何仆射坐。恭时为丹阳尹，大始拜荆州。讫将乖之际，大劝恭酒，恭不为饮，大逼强之，转苦。便各以裙带绕手。恭府近千人，悉呼入斋；大左右虽少，亦命前，意便欲相杀。何仆射无计，因起排坐二人之间，方得分散。所谓势利之交，古人羞之。

桓南郡小儿时，与诸从兄弟各养鹅共斗。南郡鹅每不如，甚以为忿。乃夜往鹅栏间，取诸兄弟鹅悉杀之。既晓，家人咸以惊骇，云是变怪，以白车骑。车骑曰：“无所致怪，当是南郡戏耳！”问，果如之。

谗险第三十二

王平子形甚散朗，内实劲侠。

袁悦有口才，能短长说，亦有精理。始作谢玄参军，颇被礼遇。后丁艰，服除还都，唯贲《战国策》而已。语人曰：“少年时读《论语》、《老子》，又看《庄》、《易》，此皆是病痛事，当何所益邪？天下要物，正有《战国策》。”既下，说司马孝文王，大见亲待，几乱机轴。俄而见诛。

孝武甚亲敬王国宝、王雅。雅荐王珣于帝，帝欲见之。尝夜与国宝及雅相对，帝微有酒色，令唤珣，垂至，已闻卒传声。国宝自知才出珣下，恐倾夺其宠，因曰：“王珣当今名流，陛下不宜有酒色见之，自可别诏召也。”帝然其言，心以为忠，遂不见珣。

王绪数谗殷荆州于王国宝，殷甚患之，求术于王东亭。曰：“卿但数诣王绪，往辄屏人，因论其事。如此，则二王之好离矣。”殷从之。国宝见王绪，问曰：“比与仲堪屏人何所道？”绪云：“故是常往来，无它所论。”国宝谓绪于己有隐，果情好日疏，谗言以息。



尤悔第三十三

魏文帝忌弟任城王骁壮。因在下太后阁共围棋，并啖枣，文帝以毒置诸枣蒂中。自选可食者而进，王弗悟，遂杂进之。既中毒，太后索水救之。帝预敕左右毁瓶罐。太后徒跣趋井，无以汲。须臾，遂卒。复欲害东阿，太后曰：“汝已杀我任城，不得复杀我东阿。”

王浑后妻，琅邪颜氏女。王时为徐州刺史，交礼拜讫，王将答拜，观者咸曰：“王侯州将，新妇州民，恐无由答拜。”王乃止。武子以其父不答拜，不成礼，恐非夫妇，不为之拜，谓为颜妾。颜氏耻之，以其门贵，终不敢离。

陆平原河桥败，为卢志所谗，被诛。临刑叹曰：“欲闻华亭鹤唳，可复得乎！”

刘琨善能招延，而拙于抚御。一日虽有数千人归投，其逃散而去亦复如此。所以卒无所建。

王平子始下，丞相语大将军：“不可复使羌人东行。”平子面似羌。

王大将军起事，丞相兄弟诣阙谢。周侯深忧诸王，始入，甚有忧色。丞相呼周侯曰：“百口委卿！”周直过不应。既入，苦相存救。既释，周大说，饮酒。及出，诸王故在门。周曰：“今年杀诸贼奴，当取金印如斗大系肘后。”大将军至石头，问丞相曰：“周侯可为三公不？”丞相不答。又问：“可为尚书令不？”又不应。因云：“如此，唯当杀之耳！”复默然。逮周侯被害，丞相后知周侯救己，叹曰：“我不杀周侯，周侯由我而死。幽冥中负此人！”

王导、温峤俱见明帝，帝问温前世所以得天下之由。温未答。顷，王曰：“温峤年少未谙，臣为陛下陈之。”王乃具叙宣王创业之始，诛夷名族，宠树同己，及文王之末，高贵乡公事。明帝闻之，复面著床曰：“若如公言，阼安得长！”

王大将军于众坐中曰：“诸周由来未有作三公者。”有人答曰：“唯周侯邑五马领头而不克。”大将军曰：“我与周，洛下相遇，一面顿尽。值世纷纭，遂至于死！”因为流涕。

温公初受刘司空使劝进，母崔氏固驻之，峤绝裾而去。迄于崇贵，乡品犹不过也。每爵皆发诏。

庾公欲起周子南，子南执辞愈固。庾每诣周，庾从南门入，周从后门出。庾尝一往奄至，周不及去，相对终日。庾从周索食，周出蔬食，庾亦强饭，极欢；并语世故，约相推引，同佐世之任。既仕，至将军二千石，而不称意。中宵慨然曰：“大丈夫乃为庾元规所卖！”一叹，遂发背而卒。

阮思旷奉大法，敬信甚至。大儿年未弱冠，忽被笃疾。儿既是偏所爱重，为之祈祷三宝，昼夜不懈。谓至诚有感者，必当蒙佑。而儿遂不济。于是结恨释氏，宿命都除。

桓宣武对简文帝，不甚得语。废海西后，宜自申叙，乃豫撰数百语，陈废立之意。既见简文，简文便泣下数十行。宣武矜愧，不得一言。



桓公卧语曰：“作此寂寂，将为文、景所笑！”既而屈起坐曰：“既不能流芳后世，亦不足复遗臭万载邪？”

谢太傅于东船行，小人引船，或迟或速，或停或待，又放船从横，撞人触岸。公初不呵谴。人谓公常无嗔喜。曾送兄征西葬还，日暮雨驶，小人皆醉，不可处分。公乃于车中，手取车柱撞驭人，声色甚厉。夫以水性沉柔，人隘奔激。方之人情，固知道迫隘之地，无得保其夷粹。

简文见田稻不识，问是何草？左右答是稻。简文还，三日不出，云：“宁有赖其末而不识其本？”

桓车骑在上明畋猎。东信至，传淮上大捷。语左右云：“群谢年少，大破贼。”因发病薨。谈者以为此死，贤于让扬之荆。

桓公初报破殷荆州，曾讲《论语》，至“富与贵是人之所欲，不以其道得之不复”。玄意色甚恶。

纰漏第三十四

王敦初尚主，如厕。见漆箱盛干枣，本以塞鼻，王谓厕上亦下果，食遂至尽。既还，婢擎金澡盘盛水，琉璃碗盛澡豆，因倒著水中而饮之，谓是干饭。群婢莫不掩口而笑之。

元皇初见贺司空，言及吴时事，问：“孙皓烧锯截一贺头，是谁？”司空未得言，元皇自忆曰：“是贺劭。”司空流涕曰：“臣父遭遇无道，创巨痛深，无以仰答明诏。”元皇愧惭，三日不出。

蔡司徒渡江，见彭蜺，大喜曰：“蟹有八足，加以二螯。”令烹之。既食，吐下委顿，方知非蟹。后向谢仁祖说此事，谢曰：“卿读《尔雅》不熟，几为《劝学》死。”

任育长年少时，甚有令名。武帝崩，选百二十挽郎，一时之秀彦，育长亦在其中。王安丰选女婿，从挽郎搜其胜者，且择取四人，任犹在其中。童少时神明可爱，时人谓育长影亦好。自过江，便失志。王丞相请先度时贤共至石头迎之，犹作畴日相待，一见便觉有异。坐席竟，下饮，便问人云：“此为茶？为茗？”觉有异色，乃自申明云：“向问饮为热为冷耳。”尝行从棺邸下度，流涕悲哀。王丞相闻之曰：“此是有情痴。”

谢虎子尝上屋熏鼠，胡儿既无由知父为此事。闻人道“痴人有作此者”。戏笑之。时道此非复一过。太傅既了己之不知，因其言次，语胡儿曰：“世人以此谤中郎，亦言我共作此。”胡儿懊热，一月闭斋不出。太傅虚托引己之过，一相开悟，可谓德教。

殷仲堪父病虚悸，闻床下蚁动，谓是牛斗。孝武不知是殷公，问仲堪：“有一般病如此不？”仲堪流涕而起曰：“臣进退维谷。”

虞啸父为孝武侍中，帝从容问曰：“卿在门下，初不闻有所献替。”虞家富春，近海，谓帝望其意气，对曰：“天时尚暖，蟹鱼虾鲑未可致，寻当有所上献。”帝抚掌大笑。



王大丧后，朝论或云：“国宝应作荆州。”国宝主簿夜函白事，云：“荆州事已行。”国宝大喜，而夜开阁，唤纲纪话势，虽不及作荆州，而意色甚恬。晓遣参问，都无此事。即唤主簿数之曰：“卿何以误人事邪？”

惑溺第三十五

魏甄后惠而有色，先为袁熙妻，甚获宠。曹公之屠邳也，令疾召甄，左右白：“五官中郎已将去。”公曰：“今年破贼，正为奴。”

荀奉倩与妇至笃，冬月妇病热，乃出中庭自取冷，还以身熨之。妇亡，奉倩后少时亦卒。以是获讥于世。奉倩曰：“妇人德不足称，当以色为主。”裴令闻之，曰：“此乃是兴到之事，非盛德言，冀后人未昧此语。”

贾公闾后妻郭氏酷妒。有男儿名黎民，生载周，充自外还，乳母抱儿在中庭，儿见充喜踊，充就乳母手中鸣之。郭遥望见，谓充爱乳母，即杀之。儿悲思啼泣，不饮它乳，遂死。郭后终无子。

孙秀降晋，晋武帝厚存宠之，妻以姨妹蒯氏，室家甚笃。妻尝妒，乃骂秀为“貉子”，秀大不平，遂不复入。蒯氏大自悔责，请教于帝。时大赦，群臣咸见。既出，帝独留秀，从容谓曰：“天下旷荡，蒯夫人可得从其例不？”秀免冠而谢，遂为夫妇如初。

韩寿美姿容，贾充辟以为掾。充每聚会，贾女于青璅中看，见寿，说之，恒怀存想，发于吟咏。后婢往寿家，具述如此，并言女光丽。寿闻之心动，遂请婢潜修音问，及期往宿。寿既捷绝人，逾墙而入，家中莫知。自是充觉女盛自拂拭，说畅有异于常。后会诸吏，闻寿有奇香之气，是外国所贡，一著人则历月不歇。充计武帝唯赐已及陈寿，余家无此香，疑寿与女通，而垣墙重密，门阁急峻，何由得尔？乃托言有盗，令人修墙。使反，曰：“其余无异，唯东北角如有人迹，而墙高非人所逾。”充乃取女左右婢考问。即以状对。充秘之，以女妻寿。

王安丰妇，常卿安丰。安丰曰：“妇人卿婿，于礼为不敬，后勿复尔。”妇曰：“亲卿爱卿，是以卿卿；我不卿卿，谁当卿卿？”遂恒听之。

王丞相有幸妾姓雷，颇预政事纳货。蔡公谓之“雷尚书”。

仇隙第三十六

孙秀既恨石崇不与绿珠，又憾潘岳昔遇之不以礼。后秀为中书令。岳省内见之，因唤曰：“孙令，忆畴昔周旋不？”秀曰：“中心藏之，何日忘之？”岳于是始知必不免。后收石崇、欧阳坚石，同日收岳。石先送市，亦不相知。潘后至，石谓潘曰：“安仁，卿亦复尔邪？”潘曰：“可谓‘白首同所归’。”潘金谷集诗云：“投分寄石友，白首同所归。”乃成其讎。



刘琦兄弟少时为王恺所憎，尝召二人宿，欲默除之。令作阮，阮毕，垂加害矣。石崇素与琦、琨善，闻就恺宿，知当有变，便夜往诣恺，问二刘所在？恺卒迫不得讳，答云：“在后斋中眠。”石便径入，自牵出，同车而去。语曰：“少年，何以轻就入宿？”

王大将军执司马懿王，夜遣世将载王于车而杀之。当时不尽知也。虽懿王家亦未之皆悉，而无忌兄弟皆稚。王胡之与无忌，长甚相昵。胡之尝共游，无忌入告母，请为饌。母流涕曰：“王敦昔肆酷汝父，假手世将。吾所以积年不告汝者，王氏门强，汝兄弟尚幼，不欲使此声著，盖以避祸耳！”无忌惊号，抽刀而出，胡之去已远。

应镇南作荆州，王修载、谯王子无忌同至新亭与别。坐上宾甚多，不悟二人俱到。有一客道：“谯王丞致祸，非大将军意，正是平南所为耳。”无忌因夺直兵参军刀，便欲斫，修载走投水，舸上人接取，得免。

王右军素轻蓝田。蓝田晚节论誉转重，右军尤不平。蓝田于会稽丁艰，停山阴治丧。右军代为郡，屡言出吊，连日不果。后诣门自通，主人既哭，不前而去，以陵辱之。于是彼此嫌隙大构。后蓝田临扬州，右军尚在郡。初得消息，遣一参军诣朝廷，求分会稽为越州。使人受意失旨，大为时贤所笑。蓝田密令从事数其郡诸不法，以先有隙，令自为其宜。右军遂称疾去郡，以愤慨至终。

王东亭与孝伯语，后渐异。孝伯谓东亭曰：“卿便不可复测！”答曰：“王陵廷争，陈平从默，但问克终云何耳。”

王孝伯死，悬其首于大桁。司马太傅命驾出，至标所，孰视首，曰：“卿何故趣，欲杀我邪？”

桓玄将篡，桓修欲因玄在修母许袭之。庾夫人云：“汝等近，过我余年，我养之，不忍见行此事。”



博物志

〔西晋〕张华 撰

卷 一

余视《山海经》及《禹贡》、《尔雅》、《说文》、《地志》，虽曰悉备，各有所不载者。作略说，出所不见，籀言远方。陈山川位象吉凶有征。诸国境界，犬牙相入，春秋之后，并相侵伐，其土地不可具详，其山川地泽略而言之，正国十二。博物之士，览而鉴焉。

地理略，自魏氏日已前，夏禹治四方而制之。

《河图括地象》曰，地南北三亿三万五千五百里。地部之位起形高大者，有昆仑山，广万里，高万一千里，神物之所生，圣人、仙人之所集也。出五色云气、五色流水，其泉南流入中国，名曰河也。其山中应于天，最居中，八十城布绕之，中国东南隅居其一分，是偏域也。

中国之域，左滨海，右通流沙。方而言之，万五千里。东至蓬莱，西至陇右，后跨京北，前及衡岳。尧舜时万里，三代时七千里，亦无常，随德优劣也。

尧别九州，舜为十二。

秦前有蓝田之镇，后有胡苑之塞，左崤函，右陇蜀，西通流沙，险阻之国也。

蜀汉之士，与秦同城，南跨邛笮，北阻褒斜，西即限碍，隔以剑阁。穷险极峻，独守之国也。

周在中区，西阻崤谷，东望荆山，南面少室，北背太岳。三河之分，雷风所起，四险之国也。

魏前枕黄河。背漳水，瞻王屋，望梁山。有蓝田之宝，浮池之渊也。

赵东临九州，西瞻恒岳。有沃瀑之流，飞狐井陉之险，至于潞阳涿鹿之野。

燕却背沙漠，进临易水，西至军都，东至于辽。长蛇带塞，险陆相乘也。

齐南有长城，巨防阳关之险；北有河济，足以为固；越海而东，通于九夷；西界岱岳，配林之坂。险固之国也。

鲁前有淮水，后有岱岳，蒙羽之向，洙泗之流，大野广土，曲阜尼丘。



宋北有泗水，南迄睢谿，有孟渚之泽。殽山之塞也。

楚后背方城，前阨衡岳，左则彭蠡，右则九疑，有江汉之流。实验阻之国也。

南越之国，与楚为邻，五岭已前至于南海。负海之邦，交趾之土，谓之南裔。

吴左洞庭，右彭蠡。后滨长江，南至豫章。水戒险阻之国也。

东越通海，处南北尾间之间，三江流入南海，通东瓠。山高海深，险绝之国也。

卫南跨于河，北得洪水，南过汉上，左通鲁泽，右指黎山。

赞曰：地理广大，四海八方。遐遗别域，略以难详。侯王设险，守国保疆。远遮川塞，近备城隍。司察奸非，禁御不良。勿恃危厄，恣其淫荒。无德则败，有德则昌。安屋犹惧，乃可不亡。进用忠良，社稷永康。教民以孝，舜化以彰。

地

天地初不足，故女娲氏炼五色石以补其阙，断鳌足以立四极。其后共工氏与颧项争帝，而怒触不周之山，折天柱，绝地维，故天后倾西北，日月星辰就焉；地不满东南，故百川水注焉。

昆仑山北，地转下三千六百里。有八玄幽都，方二十万里。地下有四柱，四柱广十万里。地有二千六百轴，犬牙相举。

泰山一曰天孙，言为天帝孙也。主召人魂魄。东方万物始成，知人生命之长短。

《考灵曜》曰：地有四游，冬至地上北而西三万里，夏至地下南而东三万里，春秋二分其中矣。地常动不止，譬如人在舟而坐，舟行而人不觉。七戎、六蛮、九夷、八狄，经总而言之，谓之四海，言皆近海；海之言晦昏，无所睹也。

地以名山为辅佐，石为之骨，川为之脉，草木为之毛，土为之肉。三尺以上为粪，三尺以下为地。

山

五岳，华、岱、恒、衡、嵩。

按：北太行山，而北去不知山所限极处，亦如东海不知所穷尽也。

石者，金之根甲。石流精以生水，水生木，木含火。

水

漠北广远，中国人鲜有至北海者。汉使骠骑将军霍去病北伐单于，至瀚海而还，有北海明矣。

汉使张骞渡西海，至大秦。西海之滨有小昆仑，高万仞，方八百里。东海广漫，未闻



有渡者。

南海短，狄未及。西南夷以穷，携家渡南海、至交趾者，不绝也。

《史记·封禅书》云，威宣燕昭遣人乘舟入海，有蓬莱、方丈、瀛州三神山，神人所集，欲采仙药。盖言先有至之者。其鸟兽皆白，金银为宫阙，悉在渤海中，去人不远。

四渎，河出昆仑墟，江出岷山，济出王屋，淮出桐柏。

八流亦出名山。渭出鸟鼠，汉出蟠冢，洛出熊耳，淫出少室，汝出燕泉，泗出陪尾，沔出月台，汶出泰山。水有五色，有浊有清。汝南有黄水，华山有黑水、汧水。渊或生明珠而岸不枯。山泽通气以兴雷，云气触石，肤寸而合，不崇朝以雨。

江河水赤，名曰泣血，道路惊骇，山河为墟也。

山水总论

五岳视三公，四渎视诸侯。诸侯赏封内名山者，通灵助化，位相亚也，故地动臣叛。名山崩，王道訖，川竭神去，国随以亡。海投九仞之鱼，流水涸，国之大减也。泽浮舟、川水溢，臣盛君衰。百川沸腾，山冢毕崩，高岸为谷，深谷为陵，小人握命，君子陵迟。白黑不别，大乱之征也。

《援神契》曰：五岳之神圣，四渎之精仁，河者水之伯，上应天汉。太山，天帝孙也，主召人魂魄。东方万物始成，故知人生命之长短。

五方人民

东方少阳，日月所出，山谷清，其人佼好。

西方少阴，日月所入，其土窈冥，其人高鼻、深目、多毛。

南方太阳，土下水浅，其人大口多傲。

北方太阴，土平广深，其人广面缩颈。

中央四析，风雨交，山谷峻，其人端正。

南越巢居，北朔穴居，避寒暑也。

东南之人食水产，西北之人食陆畜。食水产者，龟蚌螺蛤以为珍味，不觉其腥也；食陆畜者，狸兔鼠雀以为珍味，不觉其膻也。

有山者采，有水者渔。山气多男，泽气多女。平衍气仁，高陵气犯，丛林气壁。故择其所居，居在高中之平，下中之高，则产好人。

居无近绝溪。群豕、狐虫之所，近此则死，气阴匿之处也。

山居之民多癭肿疾，癭由于饮泉之不流者。今荆南诸山郡东多此疾肿，由于践土之无卤者。今江外诸山县，偏多此病也。



物 产

地性含水土山泉者引地气也。山有沙者生金，有谷者生玉。名山生神芝不死之草，上芝为车马，中芝为人形，下芝为六畜。土山多云，铁山多石。五土所宜，黄白宜种禾，黑坟宜麦黍，苍赤宜菽芋，下泉宜稻。得其宜则利百倍。

和气相感则生朱草，山出象车，泽出神马，陵出黑丹，阜出土怪，江出大贝，海出明珠。人主寿昌，民延寿命，天下太平。

名山大川，孔穴相纳。和气所出，则生石脂、玉膏，食之不死。神龙灵龟行于穴中矣。

神宫在高石沼，中有神人，多麒麟、灵芝、神草，有英泉，饮之，眠三百岁乃觉，不死。去琅琊四万五千里。

三株树生赤水之上。

员丘山上有不死树，食之乃寿。有赤泉，饮之不老。多大蛇，为人害，不得居也。

卷 二

外 国

西海内西北有轩辕国，在穷山之际，其不寿者八百岁。渚沃之野，鸾自舞，民食凤卵，饮甘露。

白民国，有乘黄，状如狐，背上有角，乘之寿三千岁。

君子国人，衣冠带剑，使两虎。民衣野丝，好礼让，不争。土千里，多薰华之草。民多疾风气，故人不蕃息；好让，故为君子国。

三苗国。昔唐尧以天下让于虞，三苗之民非之。帝征之，有苗之民叛，浮入南海，为三苗国。

驩兜国，其民尽似仙人。帝尧司徒驩兜之后民，常捕海岛中，人面鸟口。去南国万六千里，尽似仙人也。

大人国，其人孕三十六年生，白头，其儿则长大，能乘云而不能走，盖龙类。去会稽四万六千里。

灰光国民，光出口中，形尽似猿猴，黑色。

结胸国，有灭蒙岛。奇肱民善为拭，扛以杀百禽，能为飞车，从风远行。汤时西风至，吹其车至豫州，汤破其车，不以视民。十年，东风至，乃复作车遣返，而其国去玉门



关四万里。

羽民国，民有翼，飞不远。多鸾鸟，民食其卵。去九嶷四万三千里。

穿胸国。昔禹平天下，会诸侯会稽之野，防风氏后至，杀之。夏德之盛，二龙降庭，禹使范成光御之行域外，既周而还。至南海，经防风，防风之神二臣以涂山之戮，见禹，便怒而射之，迅风雪雨，二龙升去。二臣恐，以刃自贯其心而死。禹哀之，乃拔其刃，疗以不死之草，是为穿胸民。

交趾民在穿胸东。

孟舒国民，人首鸟身。其先主为雪氏，驯百禽。夏后之世，始食卵，孟舒去之，凤凰随焉。

异人

《河图玉板》云：龙伯国人长三十丈，生万八千岁而死。大秦国人长十丈，中秦国人长一丈，临洮人长二丈五尺。

禹致群臣于会稽，防风氏后至，戮而杀之。其骨专车长狄侨如，身横九亩，长五丈四尺，或长十丈。

秦始皇二十六年，有大人十二见于临洮，长五丈，足迹六尺。东海之外、大荒之中有大人国僬侥氏，长三丈。

《时含神雾》曰：东北极人长九丈。

东方有螭螂沃焦防风氏，长三丈，短人身九寸。远夷之民，雕题黑齿穿胸儋耳大足歧首。

于利国人，一手二足，拳反曲。

无启民，居穴食土。无男女，死埋之，其心不朽，百年还化为人。细民国，其肝不朽，百年而化为人。皆穴居处，二国同类也。

蒙双民。昔高阳氏有同产而为夫妇，帝放之北野，相抱而死。神鸟以不死草覆之。七年，男女皆活，同颈、二头、四手，是为蒙双民。

有一国亦在海中，纯女无男。又说得一布衣，从海浮出，其身如中国人，衣两袖，长二丈。又得一破船随波出，在海岸边，有一人，项中复有面。生得与语，不相通，不食而死。其地皆在沃沮东大海中。

南海外有鲛人，水居如鱼，不废织绩，其眼能泣珠。

呕丝之野，其女子端跪据树而呕丝，北海外也。

江陵有猛人，能化为虎。俗又云虎化为人。好着紫葛衣，足无踵。

日南有野女，群行若丈夫，状畧目，裸袒无衣襖。



异俗

越之东有骇沐之国。其长子生，则解而食之，谓之宜弟。父死则负其母而弃之，言鬼妻不可与同居。

楚之南有啖人之国。其亲戚死，朽其肉而弃之，然后埋其骨，乃为孝也。

秦之西有义渠国。其亲戚死，聚柴积而焚之，熏之即烟上，谓之登遐，然后为孝。此上以为政，下以为俗，中国未足为非也。此事见《墨子》。

荆州极西南界至蜀，诸民曰獠子。妇人妊娠七月而产，临水生儿，便置水中，浮则取养之，沉便弃之，然千百多浮。既长，皆拔去上齿牙各一，以为身饰。

毋丘俭遣王领追高句丽王宫，尽沃沮东界。问其耆老，言国人常乘船捕鱼，遭风吹数十日，东得一岛，上有人言，语不相晓，其俗常以七夕取童女沉海。

交州夷名曰俚子。俚子弓长数尺，箭长尺余，以煨铜为镞，涂毒药于镞锋，中人即死，不时敛藏，即腹胀沸烂，须臾肌肉都尽，唯骨耳。其俗：誓不以此药法语人。治之：饮妇人月水及粪汁，时有差者。唯射猪犬则无恙，以其食粪故也。煨铜者，故烧器，其长老唯别煨铜声，以物杵之，徐听其声，得煨毒者，便凿取以为箭镞。

景初中，苍梧吏到京，云广州西南接交州数郡，桂林、晋兴、宁浦间，人有病将死，便有飞虫大如小麦。或云有甲在舍上，人气绝，来食亡者。虽复扑杀有斗斛，而来者如风雨，前后相寻，续不可断，截肌肉都尽，唯余骨在便去尽。贫家无相缠者，或疾殒不时，皆受此弊。有物力者，则以衣服布帛五六重裹亡者。此虫恶梓木气，即以板郭防左右，并以作器，此虫便不敢近也。入交界便无，邻近郡亦有，但微少耳。

异产

汉武帝时，弱水西国有人乘毛车以渡弱水来献香者，帝谓是常香，非中国之所乏，不礼其使，留久之。帝幸上林苑，西使至乘舆间，并奏其香。帝取之看，大如鸾卵，三枚与枣相似。帝不悦，以付外库。后长安中大疫，宫中皆疫病，帝不举乐。西使乞见，请烧所贡香一枚，以辟疫气。帝不得已听之，宫中病者即日并差，长安中百里咸闻香气，芳积九十余日，香犹不歇。帝乃厚礼发遣饯送。一说汉制献香不满斤，西使临去，乃发香物如大豆者，拭著宫门，香气闻长安数十里，经数月乃歇。

汉武帝时，西海国有献胶五两者，帝以付外库，余胶半两，西使佩以自随。后从武帝射于甘泉宫，帝弓弦断，从者欲更张弦，西使乃进，乞以所送余胶续之。上左右莫不怪，西使乃以口濡胶为水，注断弦两头相连注，弦遂相著。帝乃使力士各引其一头，终不相离。西使曰：可以射，终日不断。帝大怪，左右称奇，因名曰续弦胶。

《周书》曰：西域献火浣布，昆吾氏献切玉刀。火浣布污，则烧之即洁，刀切玉如脂。



布，汉世有献者，刀则未闻。

魏文帝黄初三年，武都西都尉王褒献石胆二十斤，四年献三斤。

临邛火井一所，从广五尺，深二三丈。井在县南百里，昔时人以竹木投以取火。诸葛亮丞相往视之。后火转盛热，盆盖井上，煮盐得盐，入于家火即灭，迄今不复燃也。酒泉延寿县南山名火泉，火出如炬。

徐公曰：西域使王畅说石流黄出足弥山，去高昌八百里，有石流黄数十丈，从广五十亩。有取流黄昼视孔中上状如烟而高数尺，夜视皆如灯光明，高尺余。畅所亲见之也。言时气不和，皆往保此山。

卷 三

异 兽

汉武帝时，大宛之北，胡人有献一物，大如狗，然声能惊人，鸡犬闻之皆走，名曰猛兽。帝见之，怪其细小，及出苑中，欲使虎狼食之。虎见此兽即低头著地，帝为反观，见虎如此，谓欲下头作势，起搏杀之。而此兽见虎甚喜，舐唇摇尾，径往虎头上立，因搥虎面，虎乃闭目低头，匍匐不敢动；搥鼻下去，下去之后，虎尾下头起。此兽顾之，虎辄闭目。

后魏武帝伐冒顿，经白狼山，逢师子，使人格之，杀伤甚众。王乃自率尝从军数百击之，师子哮吼奋起，左右咸惊。王忽见一物从林中出，如狸，起上帝车轳。师子将至，此兽便跳起，上师子头上，师子即伏不敢起。于是遂杀之，得师子一还。来至洛阳，三千里鸡犬皆无鸣吠。

九真有神牛，乃生谿上。黑山时共斗，即海沸黄。或出斗岸上，家牛皆怖。人或遮，则霹雳，号曰神牛。

昔日南贡四象，各有雌雄。其一雄死于九真，及至南海百有余日，其雌涂土著身，不饮食莖草。长史问其所以，闻之辄流涕矣。

越雋国有牛，稍割取肉，牛不死，经日肉生如故。

大宛国有汗血焉，天马种。汉魏西域时有献者。

文马，赤鼠，身色似若黄金，即古之乘黄，今谓之露犬也，能飞食虎豹。

蜀山南高山上，有物如猕猴，长七尺，能人行健走，名曰猿獼。一名化，或曰猿獼同行道妇女有好者，辄盗之以去，人不得知。行者或每过其旁，皆以长绳相引，乃得免。此得男子气，自死，故取女也。取去为室家。其年少者终身不得还，十年之后，形皆类之。意亦迷惑，不复思归。有子者，辄俱送还其家，产子皆如人，有不食养者，其母辄死，故



无敢不养也。及长，与人无异。皆以杨为姓，故今蜀中西界多谓杨，率皆玃獠化之子孙，大约皆有獃爪者也。

小山有兽，其形如鼓，一足如鼈。泽有委蛇，状如轂，长如辕，见之者霸。猩猩若黄狗，人面能言。

异 鸟

崇丘山有鸟，一足、一翼、一目，相得而飞，名曰蜃。见则吉良，乘之寿千岁。

比翼鸟，一青一赤，在参嵎山。

有鸟如乌，文首、白喙、赤足，曰精卫，故精卫常取西山之木石，以填东海。

越地深山有鸟如鸠，青色，名曰冶鸟。穿大树作巢，如升器。其户口径数寸，周饰以土垩，赤白相次，状如射侯。伐木见此树，即避之去。或夜冥，人不见鸟，鸟亦知人不见已也。鸣曰：咄咄上去，明日便宜，急上树去；咄咄下去，明日便宜，急下树去。若使去，但言笑而不已者，可往伐也。若有秽恶，乃犯其树者，则虎通夕来守，人不知者即害人，此鸟白日见其形，鸟也；夜听其鸣，人也。时欢乐，便作人悲喜，形长三尺。洞中取石蟹，就人火间炙之，不可犯也。越人谓此鸟为越祝之祖。

异 虫

南方有落头虫，其头能飞。其种人常有所祭祀，其虫即至，故因取之焉。其飞因晚便去，以耳为异，将晓还，复著体。吴时往往得此虫也。

江南山谿水中射工虫，甲类也。长一二寸，口中有弩，形气射人影，随所著处发疮，不治则杀人。今螻蛄虫溺人影，亦随所著处生疮。

蝮蛇秋月毒盛，无所螫螫，嗜草木以泄其气，草木即死。人樵采，设为草木所伤刺者，亦杀人。毒甚于蝮螫，谓之蛇迹也。

华山有蛇名肥遗，六足四翼，见则天下大旱。

常山之蛇名率然，有两头。触其一头，头至；触其中，则两头俱至。孙武以喻善用兵者。

异 鱼

南海有鳄鱼，状似鼉，斩其头而乾之，去齿而更生。如此者三，乃止。

东海中有牛体鱼，其形状如牛。剥其皮悬之，潮水至则毛起，潮水去则毛伏。

东海鲛鳍鱼生子，子惊，还入母肠，寻复出。

吴王江行食脰有余，弃于中流，化为鱼。今鱼中有名吴王鲙余者，长数寸，大者如



箸，犹有鲙形。

广陵陈登食鲙作病，华佗之下，脰头皆成虫，尾犹是脰。

东海有物，状如凝血，从广数尺方员，名曰鲧鱼，无头目处所，内无脏，众虾附之，随其东西，人煮食之。

异草木

太原晋阳以北生屏风草。

海上有草焉，名茈，其实食之如大麦。七月稔，俗名曰然穀，或曰禹余粮。

尧时有屈轶草，生于庭。佞人入朝则屈而指之，又名指佞草。

右詹山草，帝女所化。其叶郁茂，其华黄，实如豆，服者媚于人。

止些山多竹，长千仞，凤食其实，去九疑万八千里。江南诸山郡中大树断倒者，经春夏生菌，谓之榘。食之有味而每毒杀人，云此物往往自生毒。或云蛇所著之物。枫树生者啖之，令人笑不得止，治之，饮土浆即愈。

卷 四

物 性

九窍者，胎化；八窍者，卵生。龟鳖皆此类，咸卵生影伏。

白鹇，雄雌相视则孕。或曰雄鸣上风，则雌孕。

兔舐毫望月而孕，口中吐子。旧有此说，余目所未见也。

大腰无雄，龟鼃类也。无雄与蛇通气则孕。细腰无雌，蜂类也。无雌则负别虫于空木中，七日而化，盖取桑蚕，即阜螽子咒而成子。《诗》云：“螟蛉有子，蜾蠃负之”是也。

蚕三化，先孕而后交，不交者亦产子。子后为蚕，皆无眉目，易伤，收采亦薄。

鸟雌雄不可别，翼右掩左，雄；左掩右雌。二足而翼，谓之禽；四足而毛，谓之兽。

鹊巢门户背太岁，向太乙，智也。

鸛雉长毛，雨雪，惜其尾，栖高树杪，不敢下食，往往饿死。闻魏景初中时人所说。

鸛，水鸟也。伏卵时则不鸣。卵冷，取矾石。用绕卵，以时助爆气。

山鸡有美毛，自爱其色，终日映水，目眩则溺死。

龟三千岁游于莲叶，巢于卷耳之上。

屠龟，解其肌肉，唯肠连其头，而经日不死，犹能啗物。鸟往食之，则为所得。渔者或以取鸟，遇神蛇复续。



蛭蟾以背行，快于用足。

《周官》云：“貉不渡汶水，鸛鹄不渡济水，鲁国无鸛鹄来巢。记异也。

橘渡江北化为枳，今之江东甚有枳橘。

百足，一名马蚺，中断成两段，各行而去。

物 理

凡月晕，随灰画之，随所画而阙。

麒麟斗而日蚀，鯨鱼死而彗星出，婴儿号而母乳出，蚕吐丝而商弦绝。

《庄子》云：地三年种蜀黍，其后七年多蛇。

积艾草三年后烧，津液下流成铅锡。已试有验。

煎麻油，水气尽、无烟，不复沸则还冷，可以手搅之。得水，则焰起，散卒不灭。此亦试之，有验。

庭州瀟水，以金银铁器盛之皆漏，唯瓠叶则不漏。

龙肉以醢渍之，则文章生。

积油满万石，则自然生火。武帝泰始中，武库火，积油所致也。

物 类

烧铅锡成胡粉，犹类也；烧丹朱成水银，则不类。物同类异用者。

石 魏文帝所记诸物相似乱真者：碯砮怪石以美玉；蛇床乱靡芜；茺萆乱人参；杜衡乱细辛；雄黄似石流黄；鳊鱼相乱，以有大小相异；敌木乱门冬；百部似门冬；房葵似狼毒；钩吻草与苕华相似。拔楔与草薺相似，一名狗脊。

药 物

乌头、天雄、附子，一物，春秋冬夏采，各异也。

远志苗曰小草，根曰远志。

芎藭苗曰江蓠，根曰芎藭。

菊有二种，苗花如一，唯味小异，苦者不中食。

野葛食之杀人，家葛种之三年不收，后旅生亦不可食。

《神仙传》云：松柏脂入地千年化为茯苓，茯苓化为琥珀。琥珀一名江珠。今泰山出茯苓而无琥珀，益州永昌出琥珀而无茯苓。或云烧蜂巢所作。未详此二说。

地黄、蓝首、断心，分根复种，皆生。女萝寄生兔丝，兔丝寄生木上，生根不着地。槿花朝生夕死。



药 论

《神农经》曰：上药养命，谓五石之练形，六芝之延年也；中药养性，合欢蠲忿、萱草忘忧；下药治病，谓大黄除实、当归止痛。夫命之所以延，性之所以利，病之所以止，当其药应以病也。违其药、失其应，即怨天尤人，说鬼神矣。

《神农经》曰：药物有大毒，不可入口鼻耳目者，即杀人，凡六物焉。

《神农经》曰：药种有五毒，一曰狼毒，占斯解之；二曰巴豆，霍汁解之；三曰黎芦，汤解之；四曰天雄，乌头大豆解之；五曰斑猫，戎盐解之。毒菜害小儿，乳汗解，多食饮二升。

食 忌

人啖豆三年，则身重，行止难。

啖榆则眠，不欲觉。

啖麦稼，令人有力健行。

饮真茶，令人少眠。

人常食小豆，令人肌肥粗燥。

食燕麦，令人骨节断解。

人食燕肉，不可入水，为蛟龙所吞。

人食冬葵，为狗所嗜，疮不差，或致死。

马食谷，则足重不能行。

雁食栗，则翼重不能飞。

药 术

胡粉、白石灰等，以水和之，涂鬓须，不白。涂讫，着油单裹，令温暖，候欲燥未燥间洗之；汤则不得着晚，晚则多折。用暖汤洗讫，泽涂之。欲染，当热洗，鬓须有腻不着药，临染时亦当拭须燥温之。

陈葵子微火炒，令爆吃，散著熟地，遍踢之，朝种暮生，远不过经宿耳。

陈葵子秋种覆盖，令经冬不死，春有子也。

烧马蹄、羊角成灰，春夏散着湿地，生罗勒。

蟹漆相合，成为神仙药服食方云。



戏 术

削冰令圆，举以向日，以艾于后承其影则得火。

取火法，如用珠取火，多有说者，此未试。

《神农本草》云：鸡卵可作琥珀。其法，取伏卵鹅黄白浑杂者，煮及尚软，随意刻作物件，以苦酒渍数宿。既坚，内着粉中。佳者乃乱真矣。此世所恒用，作无不成者。

烧白石作白灰既讫，积著地，经日都冷，遇雨及水浇，即更燃，烟焰起。

五月五日埋蜥蜴头于西向户下，埋至三日不蚀，则化成青真珠。又云，埋于正中门。

蜥蜴或名蜥蜴，以器养之，食以朱砂，体尽赤。所食满七斤，治捣万杵，点女人肢体，终身不灭，唯房室事则灭，故号守宫。传云，东方朔奏汉武帝试之，有验。

取鳖，挫令如棋子大，捣赤苋汁和合厚，以茅苞，五六月中作，投地中，经旬，离离尽成鳖也。

卷 五

方 士

魏武帝好养性法，亦解方药。招引四方之术士，如左元放、华佗之徒，无不毕至。

魏王所集方士名

上党王真、陇西封君达、甘陵甘始、鲁女生、谯国华佗字元化、东郭延年、唐雪、冷寿光、河南卜式、张韶、蓟子训、汝南费长房、鲜奴亭、魏国军吏河南赵圣卿、阳城郗俭字孟节、卢江左慈字元放。右十六人，魏文帝、东阿、王仲长统所说，皆能断谷不食，分形隐没，出入不由门户。左慈能变形、幻人视听、厌胜鬼魅，皆此类也。《周礼》所谓怪民，《王制》称挟左道者也。

魏时方士，甘陵甘始，卢江有左慈，阳城有郗俭。始能行气导引，慈晓房中之术，善辟谷不食，悉号二百岁人。凡如此之徒，武帝皆集之于魏，不使游散。甘始老而少容，曹子建密问其所行，始言本师姓韩、字世雄，尝与师于南海作金，投数万斤于海，又取鲤一双，一鲤傅药游釜中，若处渊；其无药者，已熟而食。言此药去此逾远万里，已不可行，人不能得也。

皇甫隆遇青牛道士，姓封名君达，其与养性法，皆可仿用。大略云：体欲常少，劳无过虚，食去肥浓，节酸咸、减思虑、损喜怒、除驰逐、慎房室，春夏泄泻、秋冬闭藏。详



别篇。武帝行之有效。

文帝《典论》曰：陈思王曹植《辩道论》云，世有方士，悉招至之，甘陵有甘始，卢江有左慈，阳城有郗俭。始能行气，俭善辟谷，悉号二百岁人。自王与太子及余之兄弟咸以为调笑，不全信之。然尝试郗俭辟谷百日，同与寝处，行步起居自若也。夫人不食七日则死，而俭乃能如是。左慈脩房中之术，可以善终命，然非有至情，莫能行也。甘始老而少容。自诸术士，咸共归之，王使郗孟节主领诸人。

近魏明帝时，河东有焦生者，裸而不衣，处火不焦，入水不冻。杜恕为太守，亲所闻见，皆有实事。

颍川陈元方、韩元长，时之通才也。所以并信有仙者，其儿时所传闻，河南密县有成公，其人出行，不知所至，复来还，语其家云：“我得仙。”因与家人辞诀而去，其步渐高，良久乃没而不见。至今密县传其仙去。二君并信有仙，盖由此也。

桓谭《新论》说：方士有董仲君，罪系狱，佯死，臭自户出，既而复生。

黄帝问天老曰：“天地所生，岂有食之令人不死者乎？”天老曰：“太阳之草，名曰黄精，饵而食之，可以长生。太阴之草，名曰钩吻，不可食，入口立死。人信钩吻之杀人，不信黄精之益寿，不亦惑乎！”

服 食

左元放荒年法：择大豆粗细调匀，必煮熟，按之令有光焰，气彻豆心内。先不食一日，以冷水顿服訖，其鱼肉菜果不得复经口，渴即饮水，慎不可暖饮。初小困数十日，后体力壮健，不复思食。

一法：服三升为剂，亦当随人，先食多少，增损之。丰年欲复食者，煮葵子及脂苏服肉羹，渐渐饮之，须豆下乃可食。豆未尽而以实物塞肠，则杀人矣。此未试，或可以然。

《孔子家语》曰：“食水者乃耐寒而善浮，食土者无心而不息，食木者多力而不治，食石者肥泽而不老，食草者善走而愚，食桑者有绪而蛾，食肉者勇毅而悍，食气者神明而寿，食谷者智慧而夭，不食者不死而神。”《仙传》曰：“杂食者百病，妖邪之所钟焉。”

西域有蒲萄酒，积年不败，彼俗云可十年，饮之，醉弥月乃解。所食逾少，心逾开；所食逾多，心逾塞年逾损焉。

辨方士

汉淮南王谋反被诛，亦云得道轻举。

钩弋夫人被杀于云阳，而言尸解柩空。

文帝《典论》云：议郎李覃学郗俭辟谷，服茯苓，饮水，中寒泄痢，殆至殒命。军祭酒弘农董芬学甘始醵视狼顾，呼吸吐纳，为之过差，气闭不通，良久乃苏。寺人严峻就左



慈学补导之术，阖竖真无事于斯，而逐声若此。

又云：王仲统云，甘始、左元放、东郭延年、行容成御妇人法，并为丞相所录，间行其术，亦得其验。降道士刘景受云母九子，元方年三百岁，莫知所在。武帝恒御此药，亦云有验。刘德治淮南王狱，得《枕中鸿宝秘书》。及子向臧而奇之，信黄白之术可成，谓神仙之道可致，卒亦无验，乃以罹罪也。

刘根不觉饥渴，或谓能忍盈虚。王仲都当盛夏之月，十炉火炙之不热，当严冬之时，裸之而不寒。恒山君以为性耐寒暑，恒山以为无仙道，好奇者为之。前者已述焉。

司马迁云，无尧以天下让许由事。扬雄亦云夸大者为之。扬雄又云无仙道，桓谭亦同。

卷 六

人名考

昔彼高阳，是生伯鯀，职典水土，取帝之息壤，以堙洪水。

殷三仁：微子、箕子、比干。

文王四友：南宫括、散宜生、闢天、太颠。

仲尼四友：颜渊、子贡、子路、子张。

瞿参字敬伯。

蔡伯喈母，袁公妹，曜卿姑也。

古之善射者甘蝇，蝇之弟子曰飞卫。

平原管辂善卜筮、解鸟语。

蔡邕有书万卷，汉末年载数车与王粲。粲亡后，相国掾魏讽谋反，蔡子与焉。既被诛，邕所与蔡书悉入蔡族子叶，字长绪，即正宗父，正宗即辅嗣兄也。初，蔡与族兄凯避地荆州，依刘表。表有女。表爱蔡才，欲以妻之，嫌其形陋，乃谓之曰：“君才过人而体陋，非女婿才也。”凯有风貌，乃妻凯，生叶，即女所生。

太丘长陈寔，寔子鸿胪卿纪，纪子司空群，群子泰。四世于汉魏二朝有重名，而其德渐少减，故时人为之语曰：“公惭卿，卿惭长。”

文籍考

圣人制作曰经，贤者著述曰传。郑玄注《毛诗》曰笺，不解此意，或云毛公尝为北海郡守，玄是此郡，人故以为敬。



何休注《公羊传》，云何氏学有不能解者。或答云：“休谦词。受学于师，乃宣此义不出于已。”此言为允。

太古书今见存有《神农经》、《山海经》。或云大禹作《周易》。蔡邕云《礼记·月令》，周公作。

《谥法》、《司马法》，周公所作。

余友下邳陈德龙谓余言曰：“《灵光殿赋》传为宜城王子山所作。子山尝之泰山，从鲍子真学算，过鲁国，见都殿赋之。还归本州，溺死湘水，时年二十余也。”

地理考

周自后稷至于文武，皆都关中，号为宗周。秦为阿房殿，在长安西南二十里，殿东西千步，南北三百步，上可以坐万人，庭中受十万人。二世为赵高所杀于宜春宫，在杜城南三里，葬于旁。

周时德泽盛，蒿大以为宫柱，名曰蒿宫。

姜嫄祠在雍城，长安西南三十里。

盗跖冢在太阳县西。

赵鞅冢在临水县西。

始皇陵在骊山之北，高数十丈，周回六七里，今在阴盘县界北。陵虽高大，不足以销六十万入积年之功，其功力或隐不见，如骊山水泉本北流，障使东西流；又此土无石，于渭北诸山运取大石，故歌曰：“运石甘泉口，渭水为不流。千人唱，万人钩，今陵余石大如覆土屋。”其余功力皆如此类。

旧洛阳字作水边各，火行也，忌水，故去水而加佳。又魏于行次为土，水得土而流，土得水而柔，故复去佳加水，变雒为洛焉。

洞庭君山，帝之二女居之，曰湘夫人。又《荆州图经》曰，湘君所游，故曰君山。

《南荆赋》，江陵有台甚大而有一柱，众木皆拱之。

典礼考

三让：一曰礼辞，二曰固辞，三曰终辞。

汉承秦，群臣上书，皆曰“昧死言。”

王葬盗位，慕古法，昧死曰稽首，光武因而不改。

肉刑，明王之制，荀卿每论之。至汉文帝，感太仓公女之言而废之。班固著论宜复。迄汉末魏初，陈纪又论宜申古制，孔融亦云可复，欲申之。钟繇、王朗不同，遂寝。夏侯玄、李胜、曹义、丁谧建私议，各有彼此，多云时未可复，故遂寝焉。

上公备物九锡：一，大辂各一，玄牡二驷；二，衮冕之服，赤舄副之；三，轩悬之



乐，六佾之舞；四，朱户以居；五，纳陛以登；六，虎贲之士三百人；七，铁钺各一；八，彤弓一，彤矢百，旅弓十，旅矢千；九，衽黻一，卤珪瓊副之。

乐 考

汉末丧乱，无金石之乐。魏武帝至汉中，得杜夔旧法，始复设轩悬钟磬，至于今用之，依夔也。

服饰考

汉末丧乱，绝无玉佩，始复作之。今之玉佩，受于王粲。

古者男子皆丝衣，有故乃素服。又有冠无幘，故虽凶事皆著冠也。

汉中兴，士人皆冠葛巾。建安中，魏武帝造白帟，于是遂废，唯二学书生犹著也。

器名考

宝剑名纯钩、湛卢、豪曹、鱼肠、巨阙五剑，皆欧冶子所作。龙泉、太阿、工市三剑，皆楚王所问者。

风胡子因吴请干将，欧冶子作。干将，阳龙文；莫邪，阴漫理。此二剑，吴王使干将作；莫邪，干将妻作也（夫妻甚喜作剑也）。

赤刀周之宝器也。

物名考

古骏马有飞兔、腰褭。

周穆王八骏：赤骠、飞黄、白蛟、华骝、骅耳、騊駼、渠黄、盗骊。

唐公有驪驪。

项羽有骓。

周穆王有犬名羆毛白。

晋灵公有畜犬名羹。

韩国黑犬名卢。

宋有骏犬曰黠。

犬四尺为羹。

张骞使西域还，乃得胡桃种。徐州人谓尘土为蓬块，吴人谓跋跌。



卷七

异闻

昔夏禹观河，见长人鱼身出，曰：“吾河精。”岂河伯耶？

冯夷，华阴潼乡人也。得仙道，化为河伯，岂道同哉！

仙夷乘龙虎，水神乘鱼龙，其行恍惚，万里如室。

夏桀之时，为长夜宫于深谷之中，男女杂处，十旬不出听政，天乃大风扬沙，一夕填此宫谷。又为石室瑶台关，龙逢谏桀言曰：“吾之有民，如天之有日。日亡我则亡。”以龙逢为妖言而杀之。其后复于山谷下作宫，在上耆老相与谏，桀又以为妖言而杀之。

夏桀之时，费昌之河上，见二日，在东者烂烂将起，在西者沈沈将灭，若疾雷之声。昌问于冯夷曰：“何者为殷？何者为夏？”冯夷曰：“西夏东殷。”于是费昌徙族归殷。

武王伐纣，至盟津渡河，大风波。武王操戈乘麾麾之，风波立霁。

鲁阳公与韩战酣而日暮，援戈麾之，日返三舍。

太公为灌坛令。武王梦妇人当道夜哭，问之，曰：“吾是东海神女，嫁于西海神童。今灌坛令当道，废我行。我行必有大风雨，而太公有德，吾不敢以暴风雨过，以毁君德。”武王明日召太公，三日三夜，果有疾风暴雨从太公邑外过。

晋文公出，大蛇当道如拱。文公反修德，使吏守蛇。吏梦天杀蛇，曰：“何故当圣君道！”觉而视蛇，则自死也。

齐景公伐宋，过泰山，梦二人怒。公谓太公之神，晏子谓宋祖汤与伊尹也。为言其状，汤皙容多发，伊尹黑而短，即所梦也。景公进军，不听，军鼓毁乃散师，不果伐。

徐偃，《王志》云：徐君，宫人娠而生卵，以为不祥，弃之水滨。独孤母有犬，名鹄苍，猎于水滨，得所弃卵，衔以东归。独孤母以为异，覆暖之，遂沸成儿。生时正偃，故以为名徐君。宫中闻之，乃更录取。长而仁智，袭君徐国。后鹄苍临死，生角而九尾，实黄龙也。偃王乃葬之徐界中，今见云狗垄。偃王既主其国，仁义著闻。欲舟行三国，乃通沟陈蔡之间，得朱弓矢，以已得天瑞，遂因名为弓，自称徐偃王。江淮诸侯皆服从偃，从者三十六国。周王闻之，遣使乘驿，一日至楚，使伐之。偃王仁，不忍斗害其民，为楚所败，逃走彭城武原县东山下，百姓随之者以万数，后遂名其山为徐山，山上立石室，有神灵，民人祈祷。今皆见存。

昔夸父与日相逐走，渴饮于河谓，不足，北饮大泽。未至，渴而死，弃其策杖化为邓林。

澹台子羽渡河，赍千金之璧。河伯欲之。至中流，阳侯波起，两蛟挟船。子羽左操



壁，右操剑击蛟，皆死既渡，三投壁于河伯，河伯跃而归之，子羽毁而去。

荆轲字次非。渡河，蛟夹船，次非不走，断其头而风波静。除。

东阿王勇士有蕃丘訢，过神渊，使饮马。马沈，訢朝服拔剑入水二日一夜，杀二蛟一龙而出，雷随击之，七日夜眇其左目。

汉滕公薨，出葬东都门外。公聊送丧，驷马不行，跼地悲鸣。跑蹄下地，得后室，有铭曰：“佳城郁郁，三千年见白日。吁嗟滕公，居此室。”遂葬焉。

卫灵公葬，得石槨，铭曰：“不逢箕子，灵公夺我里。”

汉西都时，南宫寝殿内有醇儒王史威长，死，葬铭曰：“明明哲士，知存知亡，崇陇高原，非宁非康，不封不树，作灵乘光，厥铭何依，王史威长。”

元始元年，中谒者沛郡史岑上书，讼王宏夺董贤墼壁之功。

灵帝和光元年，辽西太守黄翻上言：海边有流尸，露冠绛衣，体貌完全。后翻感梦云，我伯夷之弟孤竹君也，海水坏吾棺槨，求见掩藏。民有襁褓视者，无疾而卒。

汉末关中太乱，有发前汉时冢者，宫人犹活，既出，平复如旧。魏郭后爱念之，录著宫内，常置左右。问汉时宫中事，说之了了，皆有次序。后崩，哭泣过礼，遂死焉。（见述异记）

汉末发范明友冢，奴犹活。朋友，霍光女睪，说光家事，废立之际，多与《汉书》相似。此奴常游走于民间，无止住处，今不知所在，或云尚在。余闻之于人，可信而目不可见也。

大司马曹休所统中郎谢璋部曲义兵奚依息女，年四岁病疫故，埋葬，五日复生。太和三年，诏令休使父母同时送女来视。其年四月三日复病死，四日埋葬，至八日向墟邑采桑，闻儿生活，今能饮食如常。

京兆都张潜客居辽东还，后为骠马都尉关内侯，表言：故为诸生，太学时，闻故太尉常山张颢为梁相，天新雨后，有鸟如山雉，飞翔近地。市人掷之，稍下堕。民争取之，即为一员石，言县府。颢令槌破之，得一金印，文曰“忠孝侯印”颢表上之，藏于官库。后议郎汝南樊行夷校书东观，表上言，尧舜之时，旧有此官，今天降印，宜可复置。

孝武建元四年，天雨粟。孝元竟宁元年，南阳郡中雨谷，小者如黍粟，而青黑味苦；大者如大豆，赤黄，味如麦。下三日，生根叶，状如大豆初生时也。

代城始筑，立板干，一旦亡西南四五十板于泽中，自立结草为外门，因就营筑焉，故其城直周三十七里为九门，故城处为东城。



卷八

史补

黄帝登仙，其臣左彻者削木象黄帝，帅诸侯以朝之。七年不还，左彻乃立顺项，左彻亦仙去也。

尧之二女，舜之二妃，曰湘夫人。舜崩，二妃啼，以涕挥竹，竹尽斑。

处士东鬼槐责禹乱天下事，禹退，作三章，强者攻、弱者守，攻城围郭，盖禹始也。

太姒梦见商之庭产棘，乃小子，发取周庭梓树树之于阙间，梓化为松柏槭柞。觉，惊以告文王。文王曰：慎勿言。冬日之阳、夏日之阴，不召而万物自来。天道尚左，日月西移；地道尚右，水潦东流。天不享于殷，自发之生于今十年，夷羊在牧，水潦东流，天下飞蝗满野，命之在周，其信然乎。

武王伐殷，舍于畿，逢大雨焉。革輿三百乘，甲三千，一日一夜行三百里，以战于牧野。

成王冠，周公使祝雍曰：“辞达而勿多也。”祝雍曰：“近于民，远于佞；近于义，啬于时；惠于财，任贤使能。”

陛下离显，先帝光耀，以奉皇天之嘉祿，钦顺仲夏之吉日。遵并大道，郊域康阜，万国之休灵，始加元服。推远童稚之幼志，弘积文武之宠德，肃勤高祖之清庙。六合之内，靡不蒙德，岁岁与天无极。右孝昭周成王冠辞。

止雨祝曰：天生五谷以养人民。今天雨不止，用伤五谷，如何、如何。灵而不幸，杀牲以赛神灵。雨则不止，鸣鼓攻之，朱绿绳紫而胁之。

请雨曰：皇皇上天，照临下土。集地之灵，神降甘雨。庶物群生，咸得其所。

《礼记》曰：孔子少孤，不知其父墓。母亡，问于邹曼父之母，乃合葬于防。防墓又崩，门人后至，孔子问来何迟，门人实对，孔子不应。如是者三，乃潸然流涕而止曰，古不修墓，将济。何晏、夏侯玄、王肃皆云无此事，注记者谬。时贤咸从之。

孔子东游，见二小儿辩斗，问其故，一小儿曰：“我以日始出时去，人近，而日中时远也。”一小儿曰：“我以日出时远而日中时近。”一小儿曰：“日初出时大如车盖，及日中时，如盘盂。此不为远者小而近者大乎！”一小儿曰：“日初出，沧沧凉凉；及其中，如探汤。此不为近者热而远者凉乎！”孔子不能决，两小儿笑曰：“孰谓汝多知乎！”亦出《列子》。

子路与子贡过郑，神社社树有鸟神牵率子路，子贡说之乃止。

《春秋》哀公十有四年春，西狩获麟。《公羊传》曰：有以告者。孔子曰，孰为来哉，



孰为来哉。

《左传》曰：叔孙氏之车子鉏商获麟，以为不祥。

燕太子丹质于秦，秦王遇之无礼，不得意，思欲归，请于秦王，王不听。谿言曰：“令乌头白、马生角，乃可。”丹仰而叹，乌即头白，俯而嗟，马生角。秦王不得已而遣之，为机发之桥，欲陷丹，丹驱驰过之，而桥不发。遁到关，关门不开，丹为鸡鸣，于是众鸡悉鸣，遂归。

詹何以独茧丝为纶，芒针为钩，荆条为竿，剖粒为饵，引盈车之鱼于百仞之渊、汨流之中，纶不绝、钩不申、竿不挠。

薛谭学讴于秦青，未穷青之旨，于一日遂辞归。秦青乃饯于郊衢，抚节悲歌，声震林木，响遏行云。薛谭乃谢求返，终身不敢言归。秦青顾谓其友曰：昔韩娥东之齐，匿粮过雍门，鬻歌假食而去，余响绕梁三日不绝，左右叹其神妙。去过逆旅，凡人辱之，韩娥因曼声哀哭，一里老幼喜欢忭舞，弗能自禁，乃厚赂而遣之，故雍门人至今善歌哭，效娥之遗声也。

赵襄子率徒十万狩于中山，籍茅燔林，焯赫百里。有人从石壁中出，随烟上下，若无所经涉者。襄子以为鬼物，徐察之，乃人也。问其奚道而处石，奚道而入火。其人曰：“奚物为石火。”襄子曰：“而向之所出者石也，所入者火也。”其人曰：“不知也。”魏文侯闻之，问于子夏，曰：“彼何人哉？”子夏曰：“以商所闻于夫子。和者同于物，物无得而伤闕者，游金石之间，及蹈于水火，皆可也。”文侯曰：“吾子奚不为之？”子夏曰：“剖心去智，商未能也。虽然，试语之有暇矣。”文侯曰：“夫子奚不为之？”子夏曰：“夫子能而不为之也。”文侯大悦。

更羸谓魏王曰：“臣能射，为虚发而下鸟。”王曰：“然，可试于此乎？”适闻有鸟从东来，羸虚发而下之也。

澹台子羽子溺水死，欲葬之。灭明曰：“此命也。与蝼蚁何亲，与鱼鳖何仇？”遂使勿葬。

《列传》云：聂政刺韩相，白虹为之贯日。要离刺庆忌，彗星袭月。专诸刺吴王僚，鹰击殿上。

齐桓公出，因与管仲故道，自敦煌西涉流沙往外国。沙石千余里，中无水，时则有沃流处，人莫能知。皆乘骆驼，骆驼知水脉，遇其处辄停，不肯行，以足踢地，人于其踢处掘之，辄得水。

楚熊渠子夜行，射寝石以为虎伏，矢为没羽。

汉武帝好仙道，祭祀名山大泽以求神仙之道。时西王母遣使乘白鹿告帝当来，乃供帐九华殿以待之。七月七日夜漏七刻，王母乘紫云车而至于殿西，南面向东，头上太华髻，青气郁郁如云。有三青鸟如鸟大，立侍母旁。时设九微灯。帝东面西向，王母索七桃，大如弹丸，以五枚与，帝母食二枚。帝食桃，辄以核著膝前，母曰：“取此核将何为！”帝



曰：“此桃甘美，欲种之。”母笑曰：“此桃三千年一生实。”唯帝与母对坐，其从者皆不得进。时东方朔窃从殿南厢朱鸟牖中窥母，母顾之，谓帝曰：“此窥牖小儿尝三来盗吾此桃。”帝乃大怪之。由此，世人谓方朔神仙也。

君山有道与吴包山潜通，上有美酒数斗，得饮者不死。汉武帝斋七日，遣男女数十人至君山，得酒，欲饮之，东方朔曰：“臣识此酒，请视之。”因一饮至尽。帝欲杀之，朔乃曰：“杀朔若死，此为不验。以其有验，杀亦不死。”乃赦之。

卷 九

杂说上

老子云：万民皆付西王母，唯王者、圣人、真人、仙人、道人之命上属九天君耳。

黄帝治天下，百年而死。民畏其神百年，以其数百年，故曰黄帝三百年。

上古男子三十而妻，女二十而嫁。曾子曰：“弟子不学古知之矣。贫者不胜其忧，富者不胜其乐。”

昔西夏仁而去兵，城郭不脩，武士无位。唐伐之，西夏亡。昔者玄都贤鬼神道，废人事，其谋臣不用，龟策是从，忠臣无禄，神巫用国。

榆罔氏之君孤而无徒，曲沃进伐之，以亡。

昔有巢氏有臣而贵，任之，专国主断。已而夺之，臣怒而生变，有巢氏以亡。昔者清阳强力，贵美女不治国而亡。

昔有洛氏宫室无常，囿池广大，人民因匿。商伐之，有洛以亡。

《神仙传》曰：上说据箕尾为宿，岁星降为东方朔。传说死后有此宿，东方生，无岁星。

曾子曰：好吾者知吾美矣，恶我者知吾恶矣。

思士不妻而感，思女不夫而孕，后稷生乎巨迹，伊尹生乎空桑。

箕子居朝鲜，其后伐燕，复之朝鲜，亡入海，为鲜国。师两妻黑色洱两青蛇，盖勾芒也。

汉兴多瑞应，至武帝之世特甚，麟凤数见。王莽时，郡国多称瑞应，岁岁相寻，皆由顺时之欲，承旨求媚，多无实应，乃使人猜疑。

子胥伐楚，燔其府库，破其九龙之钟。

蓍一千岁而三百茎，其本以老，故知吉凶。蓍末大于本为上吉。筮必沐浴，斋洁焚香，每月望浴蓍，必五浴之，浴龟亦然。明夷曰，昔夏后桀，乘飞龙而登于天，而使华陶占之，陶曰：“吉”。昔夏启桀，徙九鼎，启果徙之。



昔舜篚登天为神，占之有黄龙神，曰不吉。武王伐殷而占于蓍老，蓍老曰吉。桀篚伐唐而占于荧惑，曰不吉。昔蜚篚注洪水，而占于大明，曰不吉，有初无后。

蓍末大于本，为上吉，次蒿，次荆，皆如是。龟蓍，皆月望浴之。

水之怪为龙罔象，木石之怪为夔魍魎，土之怪为坟羊，火之怪为宋无忌。

斗战死亡之处，其人马血积年化为磷。磷著地及草木如露，略不可见。行人或有触者，著人体便有光，拂拭便分散无数。愈甚，有细咤声如炒豆，唯静住良久乃灭。后其人忽忽如失魂，经日乃差。今人梳头著髻时，有随梳解结有光者，亦有咤声。

风山之首方高三百里，风穴如电，突深三十里，春风自此而出也。何以知还风也？假令东风，云反从西来，洗洗而疾，此不旋踵，立西风矣。所以然者，诸风皆从上而下，或薄于云，云行疾下，虽有微风不能胜上，上风来则反矣。

春秋书鼯鼠食郊牛，牛死，鼯鼠类最小者，食物当时不觉痛。世传云，亦食人项肥厚皮处，亦不觉。或名甘鼠。俗人讳此所啮，衰病之征。

鼠食巴豆，三年重三十斤。

卷十

杂说下

妇人妊娠未滿三月，着婿衣冠，平旦，左绕井三匝，膜祥影而去。勿反顾，勿令人知见，必生男。

妇人妊身，不欲令见丑恶物、异类鸟兽，食当避其异常味。不欲令见熊黑虎豹并及射鸟、射雉、食牛心白犬肉、鲤鱼头。席不正不坐，割不正不食，听诵诗书讽咏之音，不听淫声、不视邪色。以此产子，必贤明端正寿考，所谓父母胎教之法。故古者妇人妊娠，必慎所感，感于善则善，感于恶则恶矣。妊娠者，不可啖兔肉，又不可见兔，令儿唇缺。又不可啖生姜，令儿多指。

《异说》云：瞽瞍夫妇凶顽而生舜，叔梁纥淫夫也，征在失行也，加又野合，而生仲尼焉。安在有胎教也。

豫章郡衣冠人有数妇暴面于道，寻道争分铢以给其夫舆马衣资。及举孝廉，更取富者一切皆给先者。虽有数年之勤，妇子满堂室，犹放黜以避后人。

诸远方山郡幽僻处，出蜜蜡，人往往以桶聚蜂，每年一取。

远方诸山蜜蜡处，以木为器，中开小孔，以蜜蜡涂器内外令遍。春月蜂将生育时，捕取三两头著器中，蜂飞去寻将伴来，经日渐益，遂持器归。

人藉带眠者则梦蛇。



鸟衔人之发梦飞。

王余、张衡、马均皆冒重雾行，一人无恙，一人病，一人死。问其故，无恙人曰：“我饮酒，病者食，死者空腹。”

人以冷水自渍至膝，可顿啖数十枚瓜；渍至腰，啖转多；至颈，可啖百余枚。所渍水皆作瓜气味。此事未试。人中酒不解，治之以汤自渍即愈，汤亦作酒气味也。

昔刘玄石于中山酒家沽酒，酒家与千日酒，忘言其节度。归至家当醉，而家人不知，以为死也。权葬之，酒家计千日满，乃忆玄石前来酤酒，醉当醒耳。往视之，云玄石亡来三年，已葬。于是开棺。醉始醒。俗云“玄石饮酒，一醉千日。”

旧说云，天河与海通。近世有人居海滨者，年年八月有浮槎去来不失期。人有奇志，立飞阁于槎上，多赍粮，乘槎而去。十余日中，犹观星月日辰，自后芒芒忽忽，亦不觉昼夜。去十余日，奄至一处，有城郭状，屋舍甚严，遥望宫中多织妇。见一丈夫牵牛渚次饮之，牵牛人乃惊问曰：“何由至此！”此人具说来意，并问此是何处。答曰：“君还至蜀郡，访严君平则知之。”竟不上岸，因还。如期后至蜀，问君平，曰：“某年月日有客星犯牵牛宿，计年月，正是此人到天河时也。”

人有山行堕深涧者，无出路，饥饿欲死。左右见龟蛇甚多，朝暮引颈向东方，人因伏地学之，遂不饥，体殊轻便，能登岩岸。经数年后，竦身举臂，遂超出涧上，即得还家。颜色悦泽，颇更黠慧胜故。还食谷，啖滋味，百余日中复本质。

天门郡有幽山峻谷，而其土人有从下经过者，忽然踊出林表，状如飞仙，遂绝迹谷中。如此甚数，遂名此处为仙谷。有乐道好事者入此谷中洗沐，以求飞仙，往往得去。有长生意思人，疑恐是妖怪，乃以大石自坠，牵一犬入谷中，犬复飞去。其人还告乡里，募数十人执杖揭山草伐木至山顶观之，遥见一物长数十丈，其高隐人，耳如簪箕。格肘刺杀之，所吞人骨积此左右已成封。其鳞开口广丈余，前后夫人皆此鳞气所嘘上，于是此地遂安稳无患。



搜神记

〔晋〕干宝 撰

序

虽考先志于载籍，收逸逸于当时，盖非一耳一日之所亲闻睹也，又安敢谓无失实者哉。卫朔失国，二传互其所闻；吕望事周，子长存其两说。若此比类，往往有焉。从此观之，闻见之难一，由来尚矣。夫书赴告之定辞，据国史之方册，犹尚如此，况仰述千载之前，记殊俗之表，缀片言于残阙，访行事于故老，将使事不二迹，言无异途，然后为信者，固亦前史之所病。然而国家不废注记之官，学士不绝诵览之业，岂不以其所失者小，所存者大乎。今之所集，设有承于前载者，则非余之罪也。若使采访近世之事，苟有虚错，愿与先贤前儒分其讥谤。及其著述，亦足以发明神道之不诬也。群言百家，不可胜览，耳目所受，不可胜载。今粗取足以演八略之旨，成其微说而已。幸将来好事之士录其根体，有以游心寓目而无尤焉。干宝令升。

卷一

神农以赭鞭鞭百草，尽知其平毒寒温之性，臭味所主，以播百谷，故天下号神农也。

赤松子者，神农时雨师也。服冰玉散，以教神农，能入火不烧。至昆仑山，常入西王母石室中，随风雨上下。炎帝少女追之，亦得仙俱去。至高辛时，复为雨师，游人间。今之雨师本是焉。

赤将子舆者，黄帝时人也。不食五谷，而啖百草华。至尧时，为木工，能随风雨上下。时于市门中卖缴，故亦谓之“缴父”。

宁封子，黄帝时人也，世传为黄帝陶正。有异人过之，为其掌火，能出五色烟，久则以教封子。封子积火自烧，而随烟气上下。视其灰烬，犹有其骨。时人共葬之宁北山中，故谓之“宁封子”。



偃佺者，槐山采药父也。好食松实，形体生毛，长七寸，两目更方，能飞行，逐走马。以松子遗尧，尧不暇服。松者，简松也。时受服者，皆三百岁。

彭祖者，殷时大夫也，姓钱，名铿，帝颡项之孙，陆终氏之中子。历夏而至商末，号七百岁。常食桂芝。历阳有彭祖仙室，前世云：祷请风雨，莫不辄应。常有两虎，在祠左右。今日祠之讫，地则有两虎迹。

师门者，啸父弟子也。能使火，食桃葩，为孔甲龙师。孔甲不能修其心意，杀而埋之外野。一旦，风雨迎之，山木皆燔。孔甲祠而祷之，未还而死。

前周葛由，蜀羌人也。周成王时，好刻木作羊卖之。一旦，乘木羊入蜀中。蜀中王侯贵人追之，上绥山。绥山多桃，在峨嵋山西南，高无极也。随之者不复还，皆得仙道。故里谚曰：“得绥山一桃，虽不能仙，亦足以豪。”山下立祠数十处。

崔文子者，泰山人也。学仙于王子乔。子乔化为白蜺，而持药与文子。文子惊怪，引戈击蜺，中之，因堕其药。俯而视之，王子乔之尸也。置之室中，覆以敝筐。须臾，化为大鸟。开而视之，翻然飞去。

冠先，宋人也。钓鱼为业，居睢水旁百余年。得鱼，或放，或卖，或自食之。常冠带。好种荔，食其葩实焉。宋景公问其道，不告，即杀之。后数十年，踞宋城门上，鼓琴数十日乃去。宋人家家奉祠之。

琴高，赵人也，能鼓琴，为宋康王舍人。行涓、彭之术，浮游冀州涿郡间，二百余年。后辞入涿水中取龙子，与诸弟子期之曰：“明日皆洁斋，候于水旁，设祠屋。”果乘赤鲤鱼出，来坐祠中。且有万人观之。留一月，乃复入水中去。

陶安公者，六安铸冶师也。数行火，火一朝散上，紫色冲天，公伏冶下求哀。须臾，朱雀止冶上曰：“安公安公，冶与天通。七月七日，迎汝以赤龙。”至时，安公骑之，从东南去。城邑数万人，豫祖安送之，皆辞诀。

有人入焦山七年，老君与之木钻，使穿一盘石，石厚五尺。曰：“此石穿，当得道。”积四十年，石穿，遂得神仙丹诀。

鲁少千者，山阳人也。汉文帝尝微服怀金过之，欲问其道。少千拄金杖，执象牙扇，出应门。

淮南王安好道术，设厨宰以候宾客。正月上旬，有八老公诣门求见。门吏白王，王使吏自以意难之曰：“吾王好长生，先生无驻衰之术，未敢以闻。”公知不见，乃更形为八童子，色如桃花。王便见之，盛礼设乐，以享八公。援琴而弦歌曰：“明明上天，照下土兮；知我好道，公来下兮；公将与余，生毛羽兮，升腾青云，蹈梁甫兮。观见三光，遇北斗兮。驱乘风云，使玉女兮。”今所谓《淮南操》是也。

刘根，字君安，京兆长安人也。汉成帝时，入嵩山学道，遇异人，授以秘诀，遂得仙，能召鬼。颍川太守史祈以为妖，遣人召根，欲戮之。至府，语曰：“君能使人见鬼，可使形见，不者，加戮。”根曰：“甚易，借府君前笔砚书符。”因以叩几。须臾，忽见五



六鬼，缚二囚于祈前。祈熟视，乃父母也。向根叩头曰：“小儿无状，分当万死。”叱祈曰：“汝子孙不能光荣先祖，何得罪神仙，乃累亲如此！”祈哀惊悲泣，顿首请罪。根默然忽去，不知所之。

汉明帝时，尚书郎河东王乔为郾令。乔有神术，每月朔，尝自县诣台。帝怪其来数而不见车骑，密令太史候望之。言其临至时，辄有双凫从东南飞来。因伏伺，见凫，举罗张之，但得一双鸟。使尚书识视，四年中所赐尚书官属履也。

蓟子训，不知所从来。东汉时，到洛阳见公卿数十处，皆持斗酒片脯候之曰：“远来无所有，示致微意。”坐上数百人，饮啖终日不尽。去后皆见白云起，从旦至暮。时有百岁公说：“小儿时见训卖药会稽市，颜色如此。”训不乐住洛，遂遁去。正始中，有人于长安霸城，见与一老公共摩娑铜人，相谓曰：“适见铸此，已近五百岁矣。”见者呼之曰：“蓟先生小住并行。”应之，视若迟徐，而走马不及。

汉阴生者，长安渭桥下乞小儿也。常于市中丐，市中厌苦，以粪洒之。旋复在市中乞，衣不见污如故。长吏知之，械收系，著桎梏，而续在市乞。又械欲杀之，乃去。洒之者家，屋室自坏，杀十数人。长安中谣言曰：“见乞儿，与美酒，以免破屋之咎。”

穀城乡平常生，不知何所人也。数死而复生，时人为不然。后大水出，所害非一。而平辄在缺门山上大呼，言“平常生在此。”云：“复雨，水五日必止。”止则上山求祠之，但见平衣杖革带。后数十年，复为华阴市门卒。

左慈，字元放，庐江人也。少有神通。尝在曹公座，公笑顾众宾曰：“今日高会，珍馐略备。所少者，吴松江鲈鱼为脍。”放云：“此易得耳。”因求铜盘贮水，以竹竿饵钓于盘中。须臾，引一鲈鱼出。公大拊掌，会者皆惊。公曰：“一鱼不周坐席，得两为佳。”放乃复饵钓之。须臾引出，皆三尺余，生鲜可爱。公便自前脍之，周赐座席。公曰：“今既得鲈，恨无蜀中生姜耳。”放曰：“亦可得也。”公恐其近道买，因曰：“吾昔使人至蜀买锦，可敕人告吾使，使增市二端。”人去，须臾还，得生姜。又云：“于锦肆下见公使，已敕增市二端。”后经岁余，公使还，果增二端。问之，云：“昔某月某日，见人于肆下，以公敕敕之。”后公出近郊，士人从者百数。放乃赍酒一罍、脯一斤，手自倾罍，行酒百官，百官莫不醉饱。公怪，使寻其故。行视沽酒家，昨悉亡其酒、脯矣。公怒，阴欲杀放。放在公座，将收之，却入壁中，霍然不见。乃募取之。或见于市，欲捕之，而市人皆放同形，莫知谁是。后人遇放于阳城山头，因复逐之，遂走入羊群。公知不可得，乃令就羊中告之曰：“曹公不复相杀，本试君术耳。今既验，但欲与相见。”忽有一老羝，屈前两膝，人立而言曰：“遽如许。”人即云：“此羊是。”竞往赴之，而群羊数百，皆变为羝，并屈前膝，人立云：“遽如许。”于是遂莫知所取焉。老子曰：“吾之所以为大患者，以吾有身也。及吾无身，吾有何患哉！”若老子之俦，可谓能无身矣，岂不远也哉！

孙策欲渡江袭许，与于吉俱行。时大旱，所在燄厉。策催诸将士，使速引船。或身自早出督切，见将吏多在吉所。策因此激怒，言：“我为不如吉耶？而先趋附之！”便使收吉



至，呵问之曰：“天旱不雨，道路艰涩，不时得过，故自早出。而卿不同忧戚，安坐船中作鬼物态，败吾部伍。今当相除。”令人缚置地上，暴之使请雨。若能感天，日中雨者，当原赦，不尔，行诛。俄而云气上蒸，肤寸而合。比至日中，大雨总至，溪涧盈溢。将士喜悦，以为吉必见原，并往庆慰。策遂杀之。将士哀惜，藏其尸。天夜忽更兴云覆之。明旦往视，不知所在。策既杀吉，每独坐，仿佛见吉在左右。意深恶之，颇有失常。后治疮方差，而引镜自照，见吉在镜中，顾而弗见。如是再三，扑镜大叫，疮皆崩裂，须臾而死（吉，琅邪人，道士）。

介狹者，不知何许人也，住建安方山。从其师白羊公杜受玄一无为之道，能变化隐形。尝往来东海，暂过秣陵，与吴主相闻。吴主留琰，乃为琰架宫庙。一日之中，数遣人往问起居。琰或为童子，或为老翁，无所食啖，不受饷遗。吴主欲学其术，琰以吴主多内御，积月不教。吴主怒敕缚琰，著甲士引弩射之。弩发而绳缚犹存，不知琰之所之。

吴时，有徐光者，尝行术于市里。从人乞瓜，其主勿与，便从索瓣，杖地种之。俄而瓜生蔓延，生花成实，乃取食之，因赐观者。鬻者反视所出实，皆亡耗矣。凡言水旱，甚验。过大将军孙琳门，褰衣而趋，左右唾践。或问其故，答曰：“流血臭腥，不可耐。”琳闻，恶而杀之。斩其首，无血。及琳废幼帝，更立景帝，将拜陵，上车，有大风荡琳车，车为之倾。见光在松树上，拊手指指挥，嗤笑之。琳问侍从，皆无见者。俄而景帝诛琳。

葛玄，字孝先，从左元放受《九丹液仙经》。与客对食，言及变化之事，客曰：“事毕，先生作一事特戏者。”玄曰：“君得无即欲有所见乎？”乃嗽口中饭，尽变大蜂数百，皆集客身，亦不螫人。久之，玄乃张口，蜂皆飞入。玄嚼食之，是故饭也。又指虾蟆及诸行虫燕雀之属使舞，应节如人。冬为客设生瓜枣，夏致冰雪。又以数十钱，使人散投井中，玄以一器于井上呼之，钱一一飞从井出。为客设酒，无人传杯，杯自至前，如或不尽，杯不去也。尝与吴主坐楼上，见作请雨土人。帝曰：“百姓思雨，宁可得乎？”玄曰：“雨易得耳。”乃书符著社中。顷刻间，天地晦冥，大雨流淹。帝曰：“水中有鱼乎？”玄复书符掷水中。须臾，有大鱼数百头。使人治之。

吴猛，濮阳人。仕吴，为西安令，因家分宁。性至孝。遇至人丁义，授以神方。又得秘法神符，道术大行。尝见大风，书符掷屋上，有青鸟衔去，风即止。或问其故。曰：“南湖有舟，遇此风，道士求救。”验之果然。西安令于庆死已三日，猛曰：“数未尽，当诉之于天。”遂卧尸旁数日，与令俱起。后将弟子回豫章，江水大急，人不得渡。猛乃以手中白羽扇划江水，横流，遂成陆路，徐行而过。过谿水复，观者骇异。尝守浔阳参军周家，有狂风暴起，猛即书符掷屋上，须臾风静。

园客者，济阴人也，貌美，邑人多欲妻之，客终不娶。尝种五色香草，积数十年，服食其实。忽有五色神蛾止香草之上，客收而荐之以布，生桑蚕焉。至蚕时，有神女夜至，助客养蚕，亦以香草食蚕。得茧百二十头，大如瓮，每一茧缲六七日乃尽。缲讫，女与客俱仙去，莫知所如。



汉董永，千乘人，少偏孤，与父居，肆力田亩，鹿车载自随。父亡，无以葬，乃自卖为奴，以供丧事。主人知其贤，与钱一万，遣之。永行三年丧毕，欲还主人，供其奴职。道逢一妇人曰：“愿为子妻。”遂与之俱。主人谓永曰：“以钱与君矣。”永曰：“蒙君之惠，父丧收藏。永虽小人，必欲服勤致力，以报厚德。”主曰：“妇人何能？”永曰：“能织。”主曰：“必尔者，但令君妇为我织缣百匹。”于是，永妻为主人家织，十日而毕。女出门谓永曰：“我天之织女也。缘如至孝，天帝令我助君偿债耳。”语毕，凌空而去，不知所在。

初，钩弋夫人有罪，以谴死。既殡，尸不臭，而香闻十余里，因葬云陵。上哀悼之，又疑其非常人，乃发冢开视。棺空无尸，惟双履存。一云昭帝即位，改葬之，棺空无尸，独丝履存焉。

汉时有杜兰香者，自称南康人氏。以建业四年春，数诣张傅。傅年十七。望见其车在门外，婢通言：“阿母所生，遣授配君，可不敬从？”傅先名改硕。硕呼女前视，可十六七，说事邈然久远。有婢子二人，大者萱支，小者松支。铜车青牛，上饮食皆备。作诗曰：“阿母处灵岳，时游云霄际；众女侍羽仪，不出墉宫外；飘轮送我来，岂复耻尘秽；从我与福俱，嫌我与祸会。”至其年八月旦。复来。作诗曰：“逍遥云汉间，呼吸发九嶷，流汝不糟路，弱水何不之？”出薯蕷子三枚，大如鸡子，云：“食此，令君不畏风波，辟寒温。”硕食二枚，欲留一。不肯，令硕食尽，言：“本为君作妻，情无旷远。以年命未合，其小乖。大岁东方卯，当还求君。”兰香降时，硕问：“祷祀何如？”香曰：“消魔自可愈疾，淫祀无益。”香以药为消魔。

魏济北郡从事掾弦超，字义起。以嘉平中夜独宿，梦有神女来从之。自称天上玉女，东郡人，姓成公，字知琼。早失父母，天帝哀其孤苦，遣令下嫁从夫。超当其梦也，精爽感悟，嘉其美异，非常人之容。觉寤欬想，若存若亡，如此三四夕。一旦，显然来游，驾輶辎车，从八婢，服绛罗绮绣之衣，姿颜容体，状若飞仙。自言年七十，视之如十五六女。车上有壶、榼、青白琉璃五具。饮啖奇异，饌具醴酒，与超共饮食。谓超曰：“我，天上玉女。见遣下嫁，故来从君。不谓君德，宿时感运，宜为夫妇。不能有益，亦不能为损。然往来常可得驾轻车、乘肥马，饮食常可得远味异膳，缙素常可得充用不乏。然我神人，不为君生子，亦无妒忌之性，不害君婚姻之义。”遂为夫妇。赠诗一篇，其文曰：“飘浮勃逢，敖曹云石溢；芝一英不须润，至德与时期；神仙岂虚感，应运来相之；纳我荣五族，逆我致祸灾。”此其诗之大较。其文二百余言，不能悉录。兼注《易》七卷，有卦有象，以彖为属。故其文言，既有义理，又可以占吉凶，犹扬子之《太玄》，薛氏之《中经》也。超皆能通其旨意，用之占候。作夫妇经七八年，父母为超娶妇之后，分日而燕，分夕而寝，夜来晨去，倏忽若飞，唯超见之，他人不见。虽居暗室，辄闻人声，常见踪迹，然不睹其形。后人怪问，漏泄其事。玉女遂求去，云：“我，神人也。虽与君交，不愿人知。而君性疏漏。我今本末已露，不复与通接。积年交结，恩义不轻，一旦分别，岂不怆恨。势不得不尔，各自努力！”又呼侍御，下酒饮啖。发篋，取织成裙衫两副遗超，又赠诗一



首。把臂告辞，涕泣游离，肃然升车，去若飞迅。超忧感积日，殆至委顿。去后五年，超奉郡使至洛，到济北鱼山下陌上，西行遥望，曲道头有一车马，似知琼。驱驰前至，果是也。遂披帷相见，悲喜交切。控左绥援，同乘至洛，遂为室家，克复旧好。至太康中犹在，但不日日往来，每于三月三日、五月五日、七月七日、九月九日、旦、十五日，辄下往来，经宿而去。张茂先为之作《神女赋》。

卷 二

寿光侯者，汉章帝时人也。能劾百鬼众魅，令自缚见形。其乡人有妇为魅所病，侯为劾之，得大蛇数丈，死于门外，妇因以安。又有大树，树有精，人止其下者死，鸟过之亦坠。侯劾之，树盛夏枯落，有大蛇长七八丈，悬死树间。章帝闻之，征问。对曰：“有之。”帝曰：“殿下有怪，夜半后常有数人，绛衣披发，持火相随，岂能劾之。”侯曰：“此小怪，易消耳。”帝伪使三人为之。侯乃设法，三人登时仆没无气。帝惊曰：“非魅也，朕相试耳。”即使解之。或云汉武帝时，殿下有怪，常见朱衣披发相随，持烛而走。帝谓刘凭曰：“卿可除此否？”凭曰：“可。”乃以青符掷之，见数鬼倾地。帝惊曰：“以相试耳！”解之而苏。

樊英隐于壶山，尝有暴风从西南起，英谓学者曰：“成都市火甚盛。”因含水嗽之，乃命计十时日。后有从蜀来者云：“是日大火，有云从东起，须臾大雨，火遂灭。”

闽中有徐登者，女子化为丈夫，与东阳赵昶并善方术。时遭兵乱，相遇于溪，各矜其所能。登先禁溪水为不流，两次禁杨柳为生穉。二人相视而笑。登年长，昶师事之。后登身故，昶东入长安，百姓未知。昶乃升茅屋，梧鼎而爨。主人惊怪，昶笑而不应，屋亦不损。

赵昶尝临水求渡，船人不许。昶乃张帷盖，坐其中，长啸呼风，乱流而济。于是百姓敬服，从者如归。长安令恶其惑众。收杀之。民为立祠于永康，至今蚊蚋不能入。

徐登、赵昶贵尚清俭，祀神以东流水，削桑皮以为脯。

陈节访诸神，东海君以织成青襦一领遗之。

宣城边洪为广阳领校，母丧归家，韩友往投之。时日已暮，出告从者：“速装束，吾当夜去。”从者曰：“今日已暝，数十里草行，何急复去？”友曰：“此间血覆地，宁可复住？”苦留之，不得。其夜，洪欺发狂，绞杀两子，并杀妇；又斫父婢二人，皆被创。因走亡。数日乃于宅前林中得之，已自经死。

鞠道龙善为幻术。尝云：“东海人黄公，善为幻，制蛇御虎，常佩赤金刀。及衰老，饮酒过度。秦末，有白虎见于东海，诏遣黄公以赤刀往厌之。术既不行，遂为虎所杀。”

谢紉尝食客，以朱书符投井中，有一双鲤鱼跳出。即命作脍，一坐皆得遍。

晋永嘉中，有天竺胡人来渡江南。其人有数术，能断舌复续，吐火。所在人士聚观。



将断时，先以舌吐示宾客。然后刀截，血流覆地。乃取置器中，传以示人。视之，舌头半舌犹在。既而还取，含续之。坐有顷，坐人见舌则如故，不知其实断否。其续断，取绢布，与人各执一头，对剪，中断之。已而，取两断合视，绢布还连线，无异故体。时人多疑以为幻，阴乃试之，真断绢也。其吐火，先有药在器中，取火一片，与黍糖合之，再三吹呼。已而张口，火满口中，因就蒸取以炊，则火也。又取书纸及绳缕之属，投火中，众共视之，见其烧燃了尽。乃拨灰中，举而出之，故向物也。

扶南王范寻养虎于山，有犯罪者，投于虎，不噬，乃宥之。故山名大虫，亦名大灵。又养鳄鱼十头，若犯罪者投与鳄鱼，不噬，乃赦之。无罪者皆不噬，故有鳄鱼池。又尝煮水令沸，以金指环投汤中，然后以手探汤。其直者，手不烂；有罪者，入汤即焦。

戚夫人侍儿贾佩兰，后出为扶风人段儒妻。说在宫内时，尝以弦管歌舞相欢娱，竞为妖服，以趋良时。十月十五日，共人灵女庙，以豚黍乐神，吹笛击筑，歌《上灵之曲》。既而相与连臂，踏地为节，歌《赤凤皇来》。乃巫俗也。至七月七日，临百子池，作于阗乐。乐毕，以五色缕相羁，谓之相连绶。八月四日，出雕房北户，竹下围棋，胜者终年有福；负者终年疾病，取丝缕，就北辰星求长命，乃免。九月九日，佩茱萸，食蓬饵，饮菊花酒，令人长命。菊花舒时，并采茎叶，杂黍米酿之，至来年九月九日始熟，就饮焉，故谓之菊花酒。正月上辰，出池边盥濯，食蓬饵，以祓妖邪。三月上巳，张乐于流水。如此终岁焉。

汉武帝时，幸李夫人。夫人卒后，帝思念不已，方士齐人李少翁言能致其神。乃夜施帷帐、明灯烛，而令帝居他帐，遥望之。见美女居帐中，如李夫人之状，还幄坐而步，又不得就视。帝愈益悲感，为作诗曰：“是耶？非耶？立而望之，偏姗姗，何冉冉其来迟！”令乐府诸音家弦歌之。

汉北海营陵有道人，能令人与已死人相见。其同郡人妇死已数年，闻而往见之，曰：“愿令我一亡妇，死不恨矣。”道人曰：“卿可往可之。若闻鼓声，即出勿留。”乃语其相见之术。俄而得见之。于是与妇言语，悲喜恩情如生。良久，闻鼓声恨恨，不能得住。当出户时，忽掩其衣裾户间，掣绝而去。至后岁余，此人身亡。家葬之，开冢，见妇棺盖下有衣裾。

吴孙休有疾，求覘视者，得一人，欲试之。乃杀鹅而埋于苑中，架小屋，施床几，以妇人履服物著其上，使覘视之，告曰：“若能说此冢中鬼妇人形状者，当加厚赏，而即信矣。”竟日无言。帝推问之急，乃曰：“实不见有鬼，但见一白头鹅立墓上。所以不即白之，疑是鬼神变化作此相。当候其真形，而定不复移易，不知何故。敢以实上。”

吴孙峻杀朱主，埋于石子冈。归命即位，将欲改葬之。冢墓相亚，不可识别，而宫人颇识主亡时所著衣服。乃使两巫各住一处，以伺其灵，使察鉴之，不得相近。久时，二人俱白：“见一女人，年可三十余，上著青锦束头，紫白袷裳，丹绋丝履，从石子冈上。半冈而以手抑膝，长大息。小住须臾，更进一冢上便止，徘徊良久，奄然不见。”二人之言，



不谋而合。于是开冢，衣服如之。

夏侯弘自云见鬼，与其言语。镇西谢尚所乘马忽死，忧恼甚至。谢曰：“卿若能令此马生者，卿真为见鬼也。”弘去，良久还，曰：“庙神乐君马，故取之。今当活。”尚对死马坐。须臾，马忽自门外走还，至马尸间便灭，应时能动，起行。谢曰：“我无嗣，是我一身之罚。”弘经时无所告。曰：“顷所见，小鬼耳，必不能辨此源由。”后忽逢一鬼，乘新车，从十许人，著青丝布袍。弘前提牛鼻，车中人谓弘曰：“何以见阻？”弘曰：“欲有所问。镇西将军谢尚无儿，此君风流令望，不可使之绝祀。”车中人动容曰：“君所道，正是仆儿。年少时，与家中婢通，誓曰不再婚而违约。今此婢死，在天诉之，是故无儿。”弘具以告。谢曰：“吾少时诚有此事。”弘于江陵见一大鬼，提矛戟，有随从小鬼数人。弘畏惧，下路避之。大鬼过后，捉得一小鬼，问：“此何物？”曰：“杀人以此矛戟。若中心腹者，无不辄死。”弘曰：“治此病有方否？”鬼曰：“以乌鸡薄之，即差。”弘曰：“今欲何行？”鬼曰：“当至荆、扬二州。”尔时比日行心腹病者，无有不死者。弘乃教人杀乌鸡以薄之，十不失八九。今治中恶，辄用乌鸡薄之者，弘之由也。

卷 三

汉永平中，会稽钟离意，字子阿，为鲁相。到官，出私钱万三千文，付户曹孔诜修夫子车。身入庙，拭几席剑履。男子张伯，除堂下草，土中得玉璧七枚。伯怀其一，以六枚白意，意令主簿安置几前。孔子教授堂下床首有悬瓮，意召孔诜问：“此何瓮也？”对曰：“夫子瓮也，背有丹书，人莫敢发也。”意曰：“夫子圣人，所以遭瓮，欲以悬示后贤。”因发之，中得素书，文曰：“后世修吾书，董仲舒。护吾车，拭吾履，发吾筥，会稽钟离意。璧有七，张伯藏其一。”意即召问：“璧有七，何藏一耶？”伯叩头出之。

段翳，字元章，广汉新都人也。习《易经》，明风角。有一生来学积年，自谓略究要术，辞归乡里。翳为合膏药，并以简书封于筒中，告生曰：“有急，发视之。”生到蓊萌，与吏争度，津吏挝破从者头。生开筒得书，言：“到蓊萌，与吏斗，头破者，以此膏裹之。”生用其言，创者即愈。

右扶风臧仲英，为侍御史。家人作食设案，有不清尘土投污之。炊临熟，不知釜处，兵弩自行。火从簋簠中起，衣物尽烧，而簋簠故完。妇女婢使，一旦尽失其镜，数日，从堂下掷庭中，有人声言：“还汝镜。”女孙年三四岁，亡之，求不知处。两三日，乃于圜中粪下啼。若此非一。汝南许季山者，素善卜卦，卜之曰：“家当有老青狗物，内中侍御者名益喜，与共为之。诚欲绝，杀此狗，遣益喜归乡里。”仲英从之，怪遂绝。后徙为太尉长史，迁鲁相。

太尉乔玄，字公祖，梁国人也。初为司徒长史。五月末，于中门卧。夜半后，见东壁正白，如开门明。呼问左右，左右莫见。因起自往，手扪摸之，壁自如故。还床复见，心



大怖恐。其友应劭适往候之，语次相告。劭曰：“乡人有董彦兴者，即许季山外孙也。其探赜索引，穷神知化，虽眭孟、京房，无以过也。然天性褊狭。羞于卜筮者。”间来候师王叔茂请往迎之，须臾便与俱来。公祖虚礼盛饌，下席行觞。彦兴自陈：“下土诸生，无他异分，币重言甘，诚有踟蹰。颇能别者，愿得从事。”公祖辞让再三，尔乃听之。曰：“府君当有怪，白光如门明者，然不害也。六月上旬鸡鸣时，闻南家哭，即吉。到秋节，迁北行郡，以金为名。位至将军三公。”公祖曰：“怪异如此，教族不暇，何能致望于所不图？此相饶耳。”至六月九日未明，太尉杨秉暴薨。七月七日，拜钜鹿太守，“钜”边有“金”。后为度辽将军，历登三事。

管辂，字公明，平原人也。善《易》卜。安平太守东莱王基，字伯舆，家数有怪，使辂筮之。卦成，辂曰：“君之卦，当有贱妇人生一男，堕地便走，入灶中死。又床上当有一大蛇衔笔，大小共视，须臾便去。又乌来入室中，与燕共斗，燕死乌去。有此三卦。”基大惊曰：“精义之致。乃至于此。幸为占其吉凶。”辂曰：“非有他祸，直客（一作官）舍久远，魑魅罔两，共为怪耳。儿生便走，非能自走，直宋无忌之妖，将其入灶也。大蛇衔笔者，直老书佐耳。乌与燕斗者，直老铃下耳。夫神明之正，非妖能害也。万物之变，非道所止也。久远之浮精，必能之定数也。今卦中见象而不见其凶，故知假托之数，非妖咎之征，自无所忧也。昔高宗之鼎，非雉所雉；太戊之阶，非桑所生。然而野鸟一雉，武丁为高宗；桑谷暂生，太戊以兴。焉知三事不为吉祥？愿府君安身养德，从容光大，勿以神奸污累天真。”后卒无他，迁安南督军。后辂乡里乃太原问辂：“君往者为王府君论怪，云‘老书佐为蛇，老铃下为乌’。此本皆人，何化之微贱乎？为见于爻象，出君意乎？”辂言：“苟非性与天道，何由背爻象而任心胸者乎？夫万物之化，无有常形；人之变异，无有定体。或大为小，或小为大，固无优劣。万物之化，一例之道也。是以夏鲧，天子之父；赵王如意，汉高之子。而鲧为黄能。意为苍狗，斯亦至尊之位，而为黔喙之类也。况蛇者协辰巳之位，乌者栖太阳之精，此乃腾黑之明象，白日之流景。如书佐、铃下，各以微躯化为蛇乌，不亦过乎。”

管辂至平原，见颜超貌主夭亡，颜父乃求辂延命。辂曰：“子归，觅清酒一榼，鹿脯一斤。卯日，刈麦地南大桑树下，有二人围棋次。但酌酒置脯，饮尽更斟，以尽为度。若问汝，汝但拜之，勿言。必合有人救汝。”颜依言而往，果见二人围棋。颜置脯斟酒于前。其人贪戏，但饮酒食脯不顾。数巡，北边坐者勿见颜在，叱曰：“何故在此！”颜惟拜之。南面坐者语曰：“适来饮他酒脯，宁无情乎？”北坐者曰：“文书已定。”南坐者曰：“借文书看之。”见超寿止可十九岁。乃取笔挑上，语曰：“救汝至九十活。”颜拜而回。管辂语曰：“大助子且喜得增寿。北边坐人是北斗，南边坐人是南斗。南斗注生，北斗注死。凡人受胎，皆从南斗过北斗。所有祈求，皆向北斗。”

信都令家，妇女惊恐，更互疾病，使辂筮之。辂曰：“君北堂西头有两死男子：一男持矛，一男持弓箭；头在壁内，脚在壁外。持矛者主刺头，故头重痛，不得举也；持弓箭



者主射胸腹，故心中悬痛，不得饮食也。昼则浮游，夜来病人，故使惊恐也。”于是掘其室中，入地八尺，果得二棺。一棺中有矛，一棺中有角弓及箭。箭久远，木皆消烂，但有铁及角完耳。及徙骸骨，去城二十里埋之。无复疾病。

利漕民郭恩，字义博。兄弟三人，皆得壁疾。使辂筮其所由。辂曰：“卦中有君本墓，墓中有女鬼，非君伯母，当叔母也。昔饥荒之世，当有利其数升米者，排著井中，啧啧有声，推一大石下，破其头。孤魂冤痛，自诉于天耳。”

淳于智字叔平，济北庐人也。性深沉，有思义。少为书生，能《易》筮，善厌胜之术。高平刘柔夜卧，鼠啮其左手中指，意甚恶之。以问智，智为筮之，曰：“鼠本欲杀君而不能，当为使其反死。”乃以朱书手腕横文后三寸，为田字，可方一寸二分。使夜露手以卧，有大鼠伏死于前。

上党鲍瑗，家多丧病，贫苦。淳于智卜之，曰：“君安宅失宜，故令君困尔。君舍东北有大桑树。君径至市，入门数十步，当有一人卖新鞭者，便就买还，以悬此树。三年，当暴得财。”瑗承言诣市，果得马鞭。悬之三年，浚井，得钱数十万，铜铁器复二万余。于是业用既展，病者亦无恙。

谯人夏侯藻，母病困，将诣智卜。忽有一狐，当门向之嗥叫。藻大愕惧，遂驰诣智。智曰：“其祸甚急。君速归，在狐嗥处拊心啼哭，令家人惊怪，大小毕出。一人不出，啼哭勿休。然其祸仅可免也。”藻还，如其言，母亦扶病而出。家人既集，堂屋五间，拉然而崩。

护军张劭，母病笃。智筮之，便西出市沐猴，系母臂，令傍人槌拍，恒使作声，三日放去。劭从之。其猴出门，即为犬所咋死。母病遂差。

郭璞字景纯，行至庐江，劝太守胡孟康急回南渡。康不从。璞将促装去之，爱其婢，无由得，乃取小豆三斗，绕主人宅散之。主人晨起，见赤衣人数千围其家，就视则灭，甚恶之。请璞为卦。璞曰：“君家不宜畜此婢，可于东南二十里卖之，慎勿争价，则此妖可除也。”璞阴令人贱买此婢。复为投符于井中。数千赤衣人一一自投于井。主人大悦。璞携婢去。后数旬而庐江陷。

赵固所乘马忽死，甚悲惜之。以问郭璞，璞曰：“可遣数十人持竹竿，东行三十里，有山林陵树，便搅打之，当有一物出，急宜持归。”于是如言，果得一物，似猿。持归，入门见死马，跳梁走往死马头。嘘吸其鼻。顷之，马即能起，奋迅嘶鸣，饮食如常，亦不复见向物。固奇之，厚加资给。

扬州别驾顾球姊，生十年便病。至年五十余，令郭璞筮。得“大过”之“升”。其辞曰：“大过卦者义不嘉，冢墓枯杨无英华。振动游魂见龙车，身被重累婴妖邪。法由斩祀杀灵蛇，非己之咎先人瑕。案卦论之可奈何。”球乃述访其家事，先世曾伐大树，得大蛇杀之，女便病。病后，有群鸟数千，回翔屋上。人皆怪之，不知何故。有县农行过舍边，仰视，见龙牵车。五色晃烂，其大非常。有顷遂灭。



义兴方叔保得伤寒，垂死，令璞占之，不吉。今求白牛厌之。求之不得。唯羊子玄有一白牛，不肯借。璞为致之，即日有大白牛从西来，径往临。叔保惊惶，病即愈。

西川费孝先，善轨革，世皆知名。有大若人王旻，因货殖至成都，求为卦。孝先曰：“教住莫住，教洗莫洗。”一石谷捣得三斗米。遇明即活，遇暗即死。”再三戒之，令诵此言足矣。旻志之。及行，途中遇大雨，憩一屋下，路人盈塞。乃思曰：“教住莫住，得非此耶？”遂冒雨行。未几，屋遂颠覆，独得免焉。旻之妻已私邻比，欲媼终身之好，俟旋归，将致毒谋。旻既至，妻约其私人曰：“今夕新沐者，乃夫也。”将哺，呼旻洗沐，重易师。旻悟曰：“教洗莫洗，得非此也。”坚不从。妻怒，不省，自沐，夜半反被害。既觉，惊呼，邻里共视，皆莫测其由。遂被囚击系讯。狱就，不能自辨。郡守录状，旻泣言：“死即死矣。但孝先所言，终无验耳。”左右以是语上达。郡守命未得行法，呼旻问曰：“汝邻比何人也？”曰：“康七”。遂遣人捕之。“杀汝妻者，必此人也。”已而果然。因谓僚佐曰：“一石谷捣得三斗米，非康七乎？”由是辨雪。诚遇明即活之效。

隗炤，汝阴鸿寿亭民也。善《易》。临终书板，授其妻曰：“吾亡后，当大荒。虽尔，而慎莫卖宅也。到后五年春，当有诏使来顿此亭，姓龚。此人负吾金，即以此板往责之，勿负言也。”亡后，果大困，欲卖宅者数矣，忆夫言，辄止。至期，有龚使者果止亭中。妻遂责板责之。使者执板，不知所言，曰：“我平生不负钱，此何缘尔邪？”妻曰：“夫临亡，手书板，见命如此，不敢妄也。”使者沉吟，良久而悟。乃命取著筮之。卦成，抵掌叹曰：“妙哉隗生！含明隐迹而莫之闻，可谓镜穷达而洞吉凶者也。”于是告其妻曰：“吾不负金。贤夫自有金，及知亡后当暂穷，故藏金以待太平。所以不告儿妇者，恐金尽而困无已也。知吾善《易》，故书板以寄意耳。金五百斤，盛以青罍，覆以铜梓，埋在堂屋东头，去地一丈，入地九尺。”妻还掘之，果得金，皆如所卜。

韩友字景先，庐江舒人也。善占卜，亦行京、费厌胜之术。刘世则女病魅积年，巫为攻禳，伐空冢故城间，得狸鼯数十，病犹不差。友筮之，命作布囊，俟女发时，张囊著窗牖间。友闭户作气，若有所驱。须臾间，见囊大胀，如吹，因决败之。女仍大发。友乃更作皮囊二枚，沓张之，施张如前，囊复胀满。因急缚囊口，悬著树，二十许日，渐消。开视，有二斤狐毛。女病遂差。

会稽严卿，善卜筮。乡人魏序欲东行，荒年多抄盗，令卿筮之。卿曰：“君慎不可东行，必遭暴害，而非劫也。”序不信。卿曰：“既必不停，宜有以攘之。可索西郭外独母家白雄狗，系著船前。”求索止得驳狗，无白者。卿曰：“驳者亦足。然犹恨其色不纯，当余小毒，止及六畜辈耳。无所复忧。”序行半路，狗忽然作声甚急，有如人打之者。比视已死，吐黑血斗余。其夕，序壁上白鹅数头，无故自死，序家无恙。

沛国华佗，字元化，一名尊。琅邪刘勋为河内太守，有女年几二十，苦脚左膝里有疮，痒而不痛。疮愈，数十日复发。如此七八年。迎佗使视，佗曰：“是易治之。当得稻糠黄色犬一头，好马二匹。”以绳系犬头，使走马牵犬，马辄辄易。计马走三十余里，犬



不能行。复令步人拖曳，计向五十里。乃以药饮女，女即安卧，不知人。因取大刀，断犬腹近右脚之前。以所断之处向疮口，令去二三寸停之。须臾，有若蛇者从疮中出，便以铁椎横贯蛇头。蛇在皮中动摇良久，须臾不动，乃牵出，长三尺许，纯是蛇，但有眼处，而无瞳子，又逆鳞耳。以膏散著疮中，七日愈。

佗尝行道，见一人病咽，嗜食不得下。家人车载，欲往就医。佗闻其呻吟声，驻车往视，语之曰：“向来道边，有卖饼家蒜齑大酢，从取三升饮之，病自当去。”即如佗言，立吐蛇一枚。

卷 四

风伯、雨师，星也。风伯者，箕星也；雨师者，毕星也。郑玄谓司中、司命，文昌第四、第五星也。雨师一曰屏翳，一曰号屏，一曰玄冥。

蜀郡张宽，字叔文，汉武帝时为侍中。从祀甘泉，至渭桥，有女子浴于渭水，乳长七尺。上怪其异，遣问之。女曰：“帝后第七车者，知我所来。”时宽在第七车，对曰：“天星主祭祀者。斋戒不洁，则女人见。”

文王以太公望为灌坛令。期年，风不鸣条。文王梦一妇人，甚丽，当道而哭。问其故，曰：“吾泰山之女，嫁为东海妇。欲归，今为灌坛令当道有德，废我行。我行必有大风疾雨。大风疾雨，是毁其德也。”文王觉，召太公问之。是日果有疾雨暴风，从太公邑外而过。文王乃拜太公为大司马。

胡母班，字季友，泰山人也。曾至泰山之侧，忽于树间逢一绛衣驹，呼班云：“泰山府君召。”班惊愕，逡巡未答。复有一驹出，呼之。遂随行数十步，驹请班暂瞑。少顷，便见宫室，威仪甚严。班乃入阁拜谒。主为设食，语班曰：“欲见君，无他，欲附书与女婿耳。”班问：“女郎何在？”曰：“女为河伯妇。”班曰：“辄当奉书，不知缘何得达？”答曰：“今适河中流，便扣舟呼‘青衣’，当自有取书者。”班乃辞出。昔驹复令闭目，有顷，忽如故道。遂西行，如神言而呼‘青衣’。须臾，果有一女仆出，取书而没。少顷复出，云：“河伯欲暂见君。”婢亦请瞑目。遂拜谒河伯。河伯乃大设酒食，词旨殷勤。临去，谓班曰：“感君远为致书，无物相奉。”于是命左右：“取吾青丝履来。”以贻班。班出，默然，忽得还舟。遂于长安经年而还。至泰山侧，不敢潜过。遂扣树，自称姓名：“从长安还，欲启消息。”须臾，昔驹出，引班如向法而进。因致书焉。府君请曰：“当别再报。”班语讫，如厕。忽见其父著械徒作，此辈数百人。班进拜流涕，问：“大人何因及此？”父云：“吾死不幸，见遣三年，今已二年矣，困苦不可处。知汝今为明府所识，可为吾陈之，乞免此役，便欲得社公耳。”班乃依教，叩头陈乞。府君曰：“生死异路，不可相近，身无所惜。”班苦请，方许之。于是辞出，还家。岁余，儿子死亡略尽。班惶惧，复诣泰山，扣树求见。昔驹遂迎之而见。班乃自说：“昔辞旷拙，及还家，儿死亡至尽，今恐祸故未



已，辄来启白，幸蒙哀救。”府君拊掌大笑曰：“昔语君‘死生异路，不可相近’故也。”即敕外召班父。须臾，至庭中，问之：“昔求还里社，当为门户作福，而孙息死亡至尽，何也？”答云：“久别乡里，自欣得还，又遇酒食充足，实念诸孙，召之。”于是代之。父涕泣而出。班遂还。后有儿皆无恙。

宋时，弘农冯夷，华阴潼乡隄首人也。以八月上庚日渡河，溺死。天帝署为河伯。又《五行书》曰：“河伯以庚辰日死。不可治船远行，溺没不返。”

吴余杭县南有上湖，湖中央作塘。有一人乘马看戏，将三四人至岑村饮酒，小醉，暮还。时炎热，因下马入水中，枕石眠。马断走归，从人悉追马，至暮不返。眠觉，日已向晡，不见人。见一妇来，年可十六七，云：“女郎再拜。日既向暮，此间大可畏。君作何计？”因问：“女郎何姓？那得忽相闻？”复有一少年，年十三四，甚了了，乘新车，车后二十人，至，呼上车。云：“大人暂欲相见。”因回车而去。道中绎络把火，见城郭邑居。既入城，进厅事上，有信幡，题云“河伯信”。俄见一人，年三十许，颜色如画，侍卫繁多。相对欣然。敕行酒，笑云：“仆有小女，颇聪明，欲以给君箕帚。”此人知神，不敢拒逆。便敕备办，会就郎中婚。承白已办。遂以丝布单衣及纱衫、绢裙、纱衫裤、履屐，皆精好。又给十小吏，青衣数十人。妇年可十八九，姿容婉媚。便成。三日，经大会客拜谒。四日，云：“礼既有限，发遣去。”妇以金匳、麝香囊与婿别，涕泣而分。又与钱十万，药方三卷，云：“可以施功布德。”复云：“十年当相迎。”此人归家，遂不肯别婚；辞亲，出家作道人。所得三卷方：一卷脉经，一卷汤方，一卷丸方。周行救疗，皆致神验。后母老兄丧，因还婚宦。

秦始皇三十六年，使者郑容从关东来，将入函关。西至华阴，望见素车白马，从华山上下。疑其非人，道住，止而待之。遂至。问郑容曰：“安之？”答曰：“之咸阳。”车上人曰：“吾华山使也。愿托一牍书，致镐池君所。子之咸阳，道过镐池，见一大梓，下有文石，取以款梓，当有应者，即以书与之。”容如其言，以石款梓树，果有人来取书。明年，祖龙死。

张璠字公直，不知何许人也。为吴郡太守。征还，道由庐山。子女观于祠室，婢使指像人以戏曰：“以此配汝。”其夜，璠妻梦庐君致聘曰：“鄙男不肖，感垂采择，用致微意。”妻觉，怪之。婢言其情。于是妻惧，催璠速发。中流，舟不为行。阖船震恐。乃皆投物于水，船犹不行。或曰：“投女则船为进。”皆曰：“神意已可知也，以一女而灭一门，奈何？”璠曰：“吾不忍见之。”乃上飞庐卧，使妻沉女于水。妻因以璠亡兄孤女代之。置席水中，女坐其上，船乃得去。璠见女之在也，怒曰：“吾何面目于当世也！”乃复投己女。及得渡，遥见二女在下。有吏立于岸侧，曰：“吾庐君主簿也。庐君谢君。知鬼神非匹，又敬君之义，故悉还二女。”后问女，言：“但见好屋、吏卒，不觉在水中。”

建康小吏曹著，为庐山使所迎，配以女婉。著形意不安，屡屡求请退。婉潸然垂涕，赋诗序别。并赠织成襌衫。



官亭湖孤石庙，尝有估客至都，经其庙下，见二女子，云：“可为买两量丝履，自相厚报。”估客至都，市好丝履，并箱盛之。自市书刀亦内箱中。既还，以箱及香置庙中而去。忘取书刀。至河中流，忽有鲤鱼跳入船内。破鱼腹，得书刀焉。

南州人有遣吏献犀簪于孙权者，舟过官亭庙而乞灵焉。神忽下教曰：“须汝犀簪。”吏惶遽，不敢应。俄而犀簪已前列矣。神复下教曰：“俟汝至石头城，返汝簪。”吏不得已，遂行。自分失簪，且得死罪。比达石头，忽有大鲤鱼，长三尺，跃入舟。剖之得簪。

郭璞过江，宣城太守殷祐引为参军。时有一物，大如水牛，灰色，卑脚，脚类象，胸前尾上皆白，大力而迟钝，来到城下。众咸怪焉。祐使人伏而取之。令璞作卦，遇“遁”之“蛊”，名曰“驴鼠”。卜适了，伏者以戟刺，深尺余。郡纪纲上祠请杀之。巫云：“庙神不悦。此是却亭驴山君使，至荆山，暂来过我。不须触之。”遂去，不复见。

庐陵欧明，从贾客，道经彭泽湖。每以舟中所有，多少投湖中，云：“以为礼。”积数年。后复过，忽见湖中有大道，上多风尘。有数吏，乘车马来候明，云：“是青洪君使要。”须臾达，见有府舍，门下吏卒。明甚怖。吏曰：“无可怖。青洪君感君前后有礼，故要君。必有重遗君者。君勿取，独求如愿耳。”明既见青洪君，乃求如愿。使逐明去。如愿者，青洪君婢也。明将归，所愿辄得，数年，大富。

益州之西，云南之东，有神祠。克山石为室，下有神奉祠之。自称黄公。因言此神，张良所受黄石公之灵也。清静不宰杀。诸祈祷者，持一百钱，一双笔，一丸墨，置石室中。前请乞。先闻石室中有声，须臾，问来人何欲。既言，便具语言凶，不见其形。至今如此。

永嘉中，有神见兖州，自称樊道基。有姬，号成夫人。夫人好音乐，能弹箜篌。闻人弦歌，辄便起舞。

沛国戴文谋，隐居阳城山中。曾于客堂食际，忽闻有神呼曰：“我天帝使者。欲下凭君，可乎？”文闻甚惊。又曰：“君疑我也？”文乃跪曰：“居贫，恐不足降下耳。”既而洒扫设位，朝夕进食甚谨。后于室内窃言之。妇曰：“此恐是妖魅凭依耳。”文曰：“我亦疑之。”及祠飨之时，神乃言曰：“吾相从，方欲相利。不意有疑心异议。”文辞谢之际，忽堂上如数十人呼声。出视之，见一大鸟五色，白鸠数十随之，东北入云而去，遂不见。

麋竺字子仲，东海朐人也。祖世货殖，家货巨万。常从洛归，未至家数十里，见路次有一好新妇，从竺求寄载。行可二十余里，新妇谢去，谓竺曰：“我天使也。当往烧东海麋竺家。感君见载，故以相语。”竺因私请之。妇曰：“不可不得不烧。如此，君可快去，我当缓行。日中必火发。”竺乃急行归，达家，便移出财物。日中而火大发。

汉宣帝时，南阳阴子方者，性至孝，积恩好施，喜祀灶。腊日晨炊，而灶神形见。子方再拜受庆。家有黄羊，因以祀之。自是已后，暴至巨富，田七百余顷，舆马仆隶，比于邦君。子方尝言：“我子孙必将强大。”至识三世，而遂繁昌。家凡四侯，牧守数十。故后子孙尝以腊日祀灶，而荐黄羊焉。



吴县张成，夜起，忽见一妇人立于宅南角。举手招成曰：“此是君家之蚕室，我即此地之神。明年正月十五，宜作白粥，泛膏于上。”以后年年大得蚕。今之作青麋像此。

豫章有戴氏女，久病不差。见一小石，形像偶人。女谓曰：“尔有人形，岂神？能差我宿疾者，吾将重汝。”其夜，梦有人告之：“吾将佑汝。”自后疾渐差。遂为立祠山下。戴氏为巫，故名戴侯祠。

汉阳美长刘祀，尝言：“我死当为神。”一夕饮醉，无病而卒。风雨失其柩，夜闻荆山有数千人噉声。乡民往视之，则棺已成冢。遂改为君山，因立祠祀之。

卷五

蒋子文者，广陵人也。嗜酒好色，佻达无度。常自谓己骨清，死当为神。汉末为秣陵尉，逐贼至钟山下，贼击伤额，因解缚缚之，有顷遂死。及吴先主之初，其故吏见文于道，乘白马，执白羽，侍从如平生。见者惊走。文追之，谓曰：“我当为此土地神，以福尔下民。尔可宣告百姓，为我立祠。不尔，将有大咎。”是岁夏，大疫，百姓窃相恐动，颇有窃祠之者矣。文又下巫祝：“吾将大启祐孙氏，宜为我立祠。不尔，将使虫人人耳为灾。”俄而小虫如尘蚋，入耳皆死，医不能治。百姓愈恐。孙主未之信也。又下巫祝：“若不祀我，将又以大火为灾。”是岁，火灾大发，一日数十处。火及公宫。议者以为鬼有所归，乃不为厉，宜有以抚之。于是使使者封子文为中都侯，次弟子绪为长水校尉，皆加印绶。为立庙堂。转号钟山为蒋山，今建康东北蒋山是也。自是灾厉止息，百姓遂大事之。

刘赤父者，梦蒋侯召为主簿。期日促，乃往庙陈请：“母老子弱，情事过切，乞蒙放恕。会稽魏过，多材艺，善事神，请举过自代。”因叩头流血。庙祝曰：“特愿相屈。魏过何人，而有斯举？”赤父固请，终不许。寻而赤父死焉。

咸宁中，太常卿韩伯子某、会稽内史王蕴子某、光禄大夫刘耽子某，同游蒋山庙。庙有数妇人像，甚端正。某等醉，各指像以戏，自相配匹。即以其夕，三人同梦蒋侯遣传教相闻，曰：“家子女并丑陋，而猥垂荣顾。辄刻某日，悉相奉迎。”某等以其梦指适异常，试往相问，而果各得此梦，符协如一。于是大惧。备三牲，诣庙谢罪乞哀。又俱梦蒋侯新来降己，曰：“君等既已顾之，实贪会对。克期垂及，岂容方更中悔。”经少时并亡。

会稽鄞县东野，有女子，姓吴，字望子，年十六，姿容可爱。其乡里有解鼓舞神者，要之便往。缘塘行，半路，忽见一贵人，端正非常。贵人乘船，挺力十余，整顿。令人问望子：“欲何之？”具以事对。贵人云：“今正欲往彼，便可入船共去。”望子辞不敢。忽然不见。望子既拜神座，见向船中贵人，俨然端坐，即蒋侯像也。问望子：“来何迟？”因掷两橘与之。数数形见，遂隆情好。心有所欲，辄空中下之。尝思啖鲤，一双鲜鲤随心而至。望子芳香，流闻数里，颇有神验，一邑共事奉。经三年，望子忽生外意，神便绝往来。



陈郡谢玉为琅邪内史，在京城。所在虎暴，杀人甚众。有一人，以小船载年少妇，以大刀插著船，挟暮来至逆所。将出语云：“此间顷来甚多草秽，君载细小，作此轻行，大为不易。可止逆宿也。”相问讯既毕，逆将适还去。其妇上岸，便为虎将去。其夫拔刀大唤，欲逐之。先奉事蒋侯，乃唤求助。如此当行十里，忽如有一黑衣人为之导。其人随之，当复二十里，见大树。既至一穴，虎子闻行声，谓其母至，皆走出。其人即其所杀之。便拔刀隐树侧。住良久，虎方至。便下妇著地，倒牵入穴。其人以刀当腰斫断之。虎既死，其妇故活，向晓能语。问之，云：“虎初取，便负著背上。临至而后下之。四体无他，止为草木伤耳。”扶归还船。明夜，梦一人语之曰：“蒋侯使助汝，知否？”至家，杀猪祠焉。

淮南全椒县有丁新归者，本丹阳丁氏女。年十六，适全椒谢家。其姑严酷，使役有程，不如限者，仍便笞捶，不可堪。九月九日，乃自经死。遂有灵响，闻于民间。发言于巫祝曰：“念人家妇女，作息不倦，使避九月九日，勿用作事。”见形，著缥衣，戴青盖，从一婢，至牛渚津，求渡。有两男子，共乘船捕鱼，仍呼求载。两男子笑，共调弄之，言：“听我为妇，当相渡也。”丁姬曰：“谓汝是佳人，而无所知。汝是人，当使汝入泥死。是鬼，使汝入水。”便却入草中。须臾，有一老翁乘船载苇，姬从索渡。翁曰：“船上无装，岂可露渡。恐不中载耳。”姬言无苦，翁因出苇半许，安处不著船中，径渡之，至南岸。临去，语翁曰：“吾是鬼神，非人也，自能得过。然宜使民间粗相闻知。翁之厚意，出苇相渡，深有惭感，当有以相谢者。若翁速还去，必有所见，亦当有所得也。”翁曰：“恐燥湿不至，何敢蒙谢？”翁还西岸，见两男子覆水中。进前数里，有鱼千数，跳跃水边，风吹至岸上。翁遂弃苇，载鱼以归。于是丁姬遂还丹阳。江南人皆呼为丁姑。九月九日，不用作事，咸以为息日也。今所在祠之。

散骑侍郎王祐，疾困，与母辞诀。既而闻有通宾者，曰：“某郡某里某人。”尝为别驾，祐亦雅闻其姓名。有顷，奄然来至，曰：“与卿士类，有自然之分，又州里，情便款然。今年国家有大事，出三将军，分布征发。吾等十余人，为赵公明府参佐。至此仓卒，见卿有高门大屋，故来投。与卿相得，大不可言。”祐知其鬼神，曰：“不幸疾笃，殆在旦夕。遭卿，以性命相托。”答曰：“人生有死，此必然之事。死者不系生时贵贱。吾今见领兵三千，须卿，得度簿相付。如此地难得，不宜辞之。”祐曰：“老母年高，兄弟无有，一旦死亡，前无供养。”遂歔歔不能自胜。其人怆然曰：“卿位为常伯，而家无余财。向闻与尊夫人辞诀，言辞哀苦，然则卿国土也，如何可令死。吾当相为。”因起去：“明日更来。”其明日又来。祐曰：“卿许活吾，当卒恩否？”答曰：“大老子业已许卿，当复相欺耶！”见其从者数百人，皆长二尺许，乌衣军服，赤油为志。祐家击鼓祷祀。诸鬼闻鼓声，皆应节起舞，振袖，飒飒有声。祐将为设酒食，辞曰：“不须。”因复起去，谓祐曰：“病在人体中，如火，当以水解之。”因取一杯水，发被灌之。又曰：“为卿留赤笔十余枝，在荐下，可与人，使簪之。出入辟恶灾，举事皆无恙。”因道曰：“王甲李乙，吾皆与之。”遂执祐



手，与辞。时祐得安眠，夜中忽觉，乃呼左右，令开被：“神以水灌我，将大沾濡。”开被而信，有水在上被之下，下被之上，不浸，如露之在荷。量之，得三升七合。于是疾三分愈二，数日大除。凡其所道当取者，皆死亡；唯王文英，半年后乃亡。所道与赤笔人，皆经疾病及兵乱，皆亦无恙。初有妖书云：“上帝以三将军赵公明、钟士季，各督数鬼下取人。”莫知所在。祐病差，见此书，与所道赵公明合焉。

汉下邳周式，尝至东海，道逢一吏，持一卷书，求寄载。行十余里，谓式曰：“吾暂有所过，留书寄君船中，慎勿发之。”去后，式盗发视书，皆诸死人录。下条有式名。须臾，吏还，式犹视书。吏怒曰：“故以相告，而忽视之。”式叩头流血。良久，吏曰：“感卿远相载，此书不可除卿名。今日已去，还家，三年勿出门，可得度也。勿道见吾书。”式还不出，已二年余，家皆怪之。邻人卒亡，父怒，使往吊之。式不得已，适出门，便见此吏。吏曰：“吾令汝三年勿出，而今出门，知复奈何。吾求不见，连累为鞭杖。今已见汝，无可奈何。后三日日中，当相取也。”式还，涕泣具道如此。父故不信，母昼夜与相守。至三日日中时，果见来取，便死。

南顿张助，于田中种禾，见李核，欲持去。顾见空桑中有土，因植种，以余浆灌溉。后人见桑中反复生李，转相告语。有病目痛者，息阴下，言：“李君令我目愈，谢以一豚。”目痛小疾，亦行自愈。众犬吠声，盲者得视，远近翕赫。其下车骑常数千百，酒肉滂沱。间一岁余，张助远出来还，见之惊云：“此有何神，乃我所种耳。”因就斫之。

王莽居摄，刘京上言：“齐郡临淄县昌兴亭长辛当，数梦人谓曰：‘吾天使也，摄皇帝当为真。即不信我，此亭中当有新井出。’亭长起视，亭中果有新井，入地百尺。”

卷六

妖怪者，盖精气之依物者也。气乱于中，物变于外。形神气质，表里之用也。本于五行，通于五事。虽消息升降，化动万端，其于休咎之征，皆可得域而论矣。

夏桀之时，厉山亡。秦始皇之时，三山亡。周显王三十二年，宋大丘社亡。汉昭帝之末，陈留昌邑社亡。京房《易传》曰：“山默然自移，天下兵乱，社稷亡也。”故会稽山阴琅邪中有怪山，世传本琅邪东武海中山也。时天夜，风雨晦冥，旦而见武山在焉。百姓怪之，因名曰怪山。时东武县山，亦一夕自亡去。识其形者，乃知其移来。今怪山下见有东武里，盖记山所自来，以为名也。又交州臈州山移至青州。凡山徙，皆不极之异也。此二事，未详其世。《尚书·金縢》曰：“山徙者，人君不用道士，贤者不兴。或禄去公室，赏罚不由君，私门成群，不救。当为易世变号。”说曰：“善言天者，必质于人；善言人者，必本于天。故天有四时，日月相推，寒暑迭代。其转运也，和而为雨，怒而为风，散而为露，乱而为雾，凝而为霜雪，立而为虹霓。此天之常数也。人有四肢五脏，一觉一寐，呼吸吐纳，精气往来；流而为荣卫，彰而为气色，发而为声音。此亦人之常数也。若四时失



运，寒暑乖违，则五纬盈缩，星辰错行，日月薄蚀，彗孛流飞，此天地之危诊也；寒暑不时，此天地之蒸否也；石立土踊，此天地之瘤赘也；山崩地陷，此天地之痈疽也；冲风暴雨，此天地之奔气也；雨泽不降，川渎涸竭，此天地之焦枯也。”

商纣之时，大龟生毛，兔生角。兵甲将兴之象也。

周宣王三十三年，幽王生。是岁有马化为狐。

晋献公二年，周惠王居于郑。郑人入王府，多脱化为蜮，射人。

周隐王二年四月，齐地暴长，长丈余，高一尺五寸。京房《易妖》曰：“地四时暴长。占春夏多吉，秋冬多凶。”厉阳之郡，一夕沦入地中而为水泽，今历湖是也。不知何时。《运斗枢》曰：“邑之沦，阴吞阳，下相屠焉。”

周哀王八年，郑有一妇人，生四十子。其二十人为人，二十人死。其九年，晋有豕生人。吴赤乌七年，有妇人，一生三子。

周烈王六年，林碧阳君之御人产二龙。

鲁庄公八年，齐襄公田于贝丘，见豕，从者曰：“公子彭生也。”公怒，射之。豕人立而啼。公惧，坠车伤足，丧屦。刘向以为近豕祸也。

鲁严公时，有内蛇与外蛇斗郑南门中，内蛇死，刘向以为近蛇孽也。京房《易传》曰：“立嗣子疑，厥妖蛇居国门斗。”

鲁昭公十九年，龙斗于郑时门之外洧渊。刘向以为近龙孽也。京房《易传》曰：“众心不安，厥妖龙斗其邑中也。”

鲁定公元年，有九蛇绕柱。占以为九世庙不祀。乃立炀宫。

秦孝公二十一年，有马生人。昭王二十年，牡马生子而死。刘向以为皆马祸也。京房《易传》曰：“方伯分威，厥妖牡马生子。上无天子，诸侯相伐，厥妖马生人。”

魏襄王十三年，有女子化为丈夫。与妻，生子。京房《易传》曰：“女子化为丈夫，兹谓阴昌，贱人为王；丈夫化为女子，兹谓阴胜阳，厥咎亡。”一曰：“男化为女，宫刑滥；女化为男，妇政行也。”

秦孝文王五年，游胸衍，有献五足牛。时秦世大用民力，天下叛之。京房《易传》曰：“兴繇役，夺民时，厥妖牛生五足。”

秦始皇二十六年，有大人，长五丈，足履六尺。凡十二人，见于临洮。乃作金人十二，以象之。

汉惠帝二年，正月癸酉旦，有雨，龙现于兰陵廷东里温陵井中，至乙亥夜去。京房《易传》曰：“有德遭害，厥妖龙见井中。”又曰：“行刑暴恶，黑龙从井出。”

汉文帝十二年，吴地有马生角，在耳前，上向。右角长三寸，左角长二寸，皆大二寸。刘向以为马不当生角，犹吴不当举兵向上也，吴将反之变云。京房《易传》曰：“臣易上，政不顺，厥妖马生角，兹谓贤士不足。”又曰：“天子亲伐，马生角。”

文帝后元五年六月，齐雍城门外有狗生角。京房《易传》曰：“执政失，下将害之，



厥妖狗生角。”

汉景帝元年九月，胶七下密人年七十余，生角。角有毛。京房《易传》曰：“豕宰专政，厥妖人生角。”《五行志》以为人不当生角，犹诸侯不敢举兵以向京师也。其后遂有七国之难。至晋武帝泰始五年，元城人年七十，生角。殆赵王伦篡乱之应也。

汉景帝三年，邯郸有狗与豕交。是时赵王悖乱，遂与六国反。京房《易传》曰：“夫妇不严，厥妖狗与豕交，兹谓反德，国有兵革。”

景帝三年十一月，有白颈乌与黑乌群斗楚国吕县。白颈不胜，堕泗水中，死者数千。刘向以为近白黑祥也。时楚王戊暴逆无道，刑辱申公，与吴谋反。乌群斗者，师战之象也。白颈者小，明小者败也。堕于水者，将死水地。王戊不悟，遂举兵应吴，与汉大战，兵败而走，至于丹徒，为越人所斩。堕泗水之效也。京房《易传》曰：“逆亲亲，厥妖白黑乌斗于国中。”燕王旦之谋反也，又有一乌一鹊，斗于燕宫中池上，乌堕池死。《五行志》以为楚、燕皆骨肉藩臣，骄恣而谋不义，俱有乌鹊斗死之祥。行同而占合，此天人之明表也。燕阴谋未发，独王自杀于宫，故一乌而水色者死。楚亢阳举兵，军师大败于野，故乌众而金色者死。天道精微之效也。京房《易传》曰：“颢征劫杀，厥妖乌鹊斗。”

景帝十六年，梁孝王田北山，有献牛足上出背上者。刘向以为近牛祸。内则思虑霜乱，外则土功过制，故牛祸作。足而出于背，下奸上之象也。

汉武帝太始四年七月，赵有蛇从郭外人，与邑中蛇斗孝文庙下，邑中蛇死。后二年秋，有卫太子事，自赵人江充起。

汉昭帝元凤元年九月，燕有黄鼠衔其尾，舞王宫端门中。王往视之，鼠舞如故。王使吏以酒脯祠。鼠舞不休，一日一夜死。时燕王旦谋反，将死之象也。京房《易传》曰：“诛不原情，厥妖鼠舞门。”

昭帝元凤三年正月，泰山芜莱山南，汹汹有数千人声。民往视之，有大石自立。高丈五尺，大四十八围，入地深八尺，三石为足。石立处，有白乌数千集其旁。宣帝中兴之瑞也。

昭帝时，上林苑中大柳树断，仆地。一朝起立，生枝叶。有虫食其叶，成文字，曰“公孙病已立”。

昭帝时，昌邑王贺见大白狗冠方山冠而无尾。至熹平中，省内冠狗带绶，以为笑乐。有一狗突出，走入司空府门。或见之者，莫不惊怪。京房《易传》曰：“君不正，臣欲篡，厥妖狗冠出朝门。”

汉宣帝黄龙元年，未央殿辂铃中雌鸡化为雄，毛衣变化，而不鸣不将，无距。元帝初元元年，丞相府史家，雌鸡伏子，渐化为雄，冠距鸣将。至永光中，有献雄鸡生角者。《五行志》以为王氏之应。京房《易传》曰：“贤者居明夷之世，知时而伤，或众在位，厥妖鸡生角。”又曰：“妇人专政，国不静；牝鸡雄鸣，主不荣。”

宣帝之世，燕、岱之间，有三男共取一妇，生四子。及至将分妻子而不可均，乃致争



讼。廷尉范延寿断之曰：“此非人类，当以禽兽，从母不从父也。请戮三男，以儿还母。”宣帝嗟叹曰：“事何必古？若此，则可谓当于理而顺人情也。”延寿盖见人事而知用刑矣，未知论人妖将来之验也。

汉元帝永光二年八月，天雨草而叶相缪结，大如弹丸。至平帝元始三年正月，天雨草，状如永光时。京房《易传》曰：“君吝于禄，信衰贤去，厥妖天雨草。”

元帝建昭五年，兖州刺史浩赏，禁民私所自立社。山阳襄茅乡社，有大槐树，吏伐断之。其夜，树复立故处。说曰：“凡枯断复起，皆废而复兴之象也。是世祖之应耳。”

汉成帝建始四年九月，长安城南，有鼠衔黄蘗、柏叶，上民冢柏及榆树上为巢。桐柏为多。巢中无子，皆有干鼠矢数十。时议臣以为恐有炎水灾。鼠盗窃小虫，夜出昼匿。今正昼去穴而登木，象贱人将居贵显之占。桐柏，卫思后园所在也。其后赵后自微贱登至尊，与卫后同类。赵后终无子而有害。明年，有鸢焚巢杀子之象云。京房《易传》曰：“臣私禄罔干，厥妖鼠巢。”

成帝河平元年，长安男子石良、刘音相与同居。有如人状在其室中，击之，为狗，走出。去后，有数人披甲持弓弩至良家。良等格击，或死或伤，皆狗也。自二月至六月乃止。其于《洪范》，皆犬祸，言不从之咎也。

成帝河平元年二月庚子，泰山山桑谷，有载焚其巢。男子孙通等，闻山中群鸟载鹤声，往视之，见巢燃，尽堕池中，有三载穀烧死。树大四围，巢去地五丈五尺。《易》曰：“鸟焚其巢，旅人先笑后号咷。”后卒成易世之祸云。

成帝鸿嘉四年秋，雨鱼于信都，长五寸以下。至永始元年春，北海出大鱼，长六丈，高一丈，四枚。哀帝建平三年，东莱平度出大鱼，长八丈，高一丈一尺，七枚，皆死。灵帝熹平二年，东莱海出大鱼二枚，长八九丈，高二丈余。京房《易传》曰：“海数见巨鱼，邪人进，贤人疏。”

成帝永始元年二月，河南街郎樗树生枝如人头，眉目须皆具，亡发耳。至哀帝建平三年十月，汝南西平遂阳乡有材仆地，生枝如人形，身青黄色，面白，头有髭发，稍长大，凡长六寸一分。京房《易传》曰：“王德衰，下人将起，则有木生为人状。”其后有王莽之篡。

成帝绥和二年二月，大厩马生角，在左耳前，围长各二寸。是时王莽为大司马，害上之萌，自此始矣。

成帝绥和二年三月，天水平襄，有燕生雀，哺食至大，俱飞去。京房《易传》曰：“贼臣在国，厥咎燕生雀，诸侯销。”又曰：“生非其类，子不嗣世。”

汉哀帝建平三年，定襄有牡马生驹，三足，随群饮食。《五行志》以为：马，国之武用；三足，不任用之象也。

哀帝建平三年，零陵有树僵地，围一丈六尺，长十丈七尺。木断其本，长九尺余，皆枯。三月，树卒自立故处。京房《易传》曰：“弃正作淫，厥妖木断自属。妃后有颡，木



仆反立，断枯复生。”

哀帝建平四年四月，山阳方与女子田无啬生子。未生二月前，儿啼腹中。及生，不举，葬之陌上。后三日，有人过，闻儿啼声，母因掘收养之。

哀帝建平四年夏，京师郡国民，聚会里巷陌阡，设张博具歌舞，祠西王母。又传书曰：“母告百姓，佩此书者不死。不信我言，视门枢下，当有白发。”至秋乃止。

哀帝建平中，豫章有男子化为女子，嫁为人妇，生一子。长安陈凤曰：“阳变为阴，将亡继嗣，自相生之象。”一曰：“嫁为人妇，生一子者，将复一世乃绝。”故后哀帝崩，平帝没，而王莽篡焉。

汉平帝元始元年二月，朔方广牧女子赵春病死，既棺殓，积七日，出在棺外。自言见夫死父，曰：“年二十七，汝不当死。”太守谭以闻。说曰：“至阴为阳，下人为上，厥妖人死复生。”其后王莽篡位。

汉平帝元始元年六月，长安有女子生儿，两头异颈，面俱相向，四臂共胸，俱前向，尻上有目，长二寸所。京房《易传》曰：“‘睽孤，见豕负涂。’厥妖人生两头。下相攘臂，妖亦同。人若六畜首目在下，兹谓亡上，政将变更。厥妖之作，以谴失正。各象其类。两颈，下不一也；手多，所任邪也；足少，下不胜任，或不任下也。凡下体生于上，不敬也；上体生于下，媿湊出；生非其类，淫乱也；人生而大，上速成也；生而能言，好虚也。群妖推此类。不改，乃成凶也。”

汉章帝元和元年，代郡高柳乌生子，三足，大如鸡，色赤，头有角，长寸余。

汉桓帝即位，有大蛇见德阳殿上。洛阳市令淳于翼曰：“蛇有鳞，甲兵之象也。见于省中，将有椒房大臣受甲兵之象也。”乃弃官遁去。到延熹二年，诛大将军梁冀，捕治家属，扬兵京师也。

汉桓帝建和三年秋七月，北地廉县雨肉，似羊肋，或大如手。是时，梁太后摄政，梁冀专权，擅杀诛太尉李固、杜乔，天下冤之。其后梁氏诛灭。

汉桓帝元嘉中，京都妇女作愁眉、啼妆、堕马髻、折腰步、龔齿笑。愁眉者，细而曲折。啼妆者，薄拭目下，若啼处。堕马髻者，作一边。折腰步者，足不在下体。龔齿笑者，若齿痛，乐不欣欣。始自大将军梁冀妻孙寿所为，京都翕然，诸夏效之。天戒若曰：“兵马将往收捕，妇女忧愁，蹙眉啼哭；吏卒掣顿，折其腰脊，令髻邪倾；虽强语笑，无复气味也。”到延熹二年，冀举宗合诛。

桓帝延熹五年，临沅县有牛生鸡，两头四足。

汉灵帝数游戏于西园中，令后官采女为客舍主人，身为估服。行至舍间，采女下酒食，因共饮食，以为戏乐。是天子将欲失位，降在皂隶之谣也。其后天下大乱。古志有曰：“赤厄三七。”三七者，经二百一十载，当有外戚之篡，丹眉之妖。篡盗短祚，极于三六，当有飞龙之秀，兴复祖宗。又历三七，当复有黄首之妖，天下大乱矣。自高祖建业，至于平帝之末，二百一十年，而王莽篡。盖因母后之亲。十八年而山东贼樊子都等起，实



丹其眉，故天下号曰“赤眉”。于是光武以兴祚，其名曰秀。至于灵帝中平元年而张角起，自称黄天，有众三十六万，皆是黄巾，故天下号曰：“黄巾贼”。至今道服由此而兴。初起于邳，会于真定，诳惑百姓曰：“苍天已死，黄天立。岁名甲子年，天下大吉。”起于邳者，天下始业也；会于真定也。小民相向跪拜趋信，荆扬尤甚。乃弃财产，流沉道路，死者无数。角等初以二月起兵，其冬十二月悉破。自光武中兴，至黄巾之起，未盈二百一十年，而天下大乱，汉祚废绝。实应三七之运。

灵帝建宁中，男子之衣，好为长服，而下甚短。女子好为长裙，而上甚短。是阳无下而阴无上，天下未欲平也。后遂大乱。

灵帝建宁三年春，河内有妇食夫，河南有夫食妇。夫妇阴阳二仪，有情之深者也。今反相食，阴阳相侵，岂特日月之眚哉。灵帝既没，天下大乱，君有妄诛之暴，臣有劫弑之逆，兵革相残，骨肉为仇，生民之祸极矣，故人妖为之先作。恨而不遭辛有、屠乘之论，以测其情也。

灵帝熹平二年六月，洛阳民讹言：虎贲寺东壁中有黄人，形容须眉良是。观者数万，省内悉出，道路断绝。到中平元年二月，张角兄弟起兵冀州，自号“黄天”。三十六方，四面出和，将帅星布，吏士外属。因其疲憊，牵而胜之。

灵帝熹平三年，右校别作中，有两樗树，皆高四尺许。其一枝，宿昔暴长，长一丈余，粗大一围，作人状，头目鬚发俱具。其五年十月壬午，正殿侧有槐树，皆六七围，自拔倒竖，根上枝下。又中平中，长安城西北六七里，空树中，有人面，生鬚。其于《洪范》，皆为木不曲直。

灵帝光和元年，南宮侍中寺，雌鸡欲化为雄，一身毛皆似雄，但头冠尚未变。

灵帝光和二年，洛阳上西门外女子生儿，两头，异肩共胸，俱前向。以为不祥，墮地弃之。自是之后，朝廷羣乱，政在私门，上下无别，二头之象。后董卓戮太后，被以不孝之名。放废天子，后复害之。汉元以来，祸莫逾此。

光和四年，南宮中黄门寺，有一男子，长九尺，服白衣。中黄门解步呵问：“汝何等人！白衣妄入宫掖！”曰：“我，梁伯夏后。天使我为天子。”步欲前收之，因忽不见。

光和七年，陈留济阳、长垣，济阴，东郡，冤句、离狐界中，路边生草，悉作人状，操持兵弩。牛马龙蛇鸟兽之形，白黑各如其色，羽毛、头目、足翅皆备，非但仿佛，像之尤纯。旧说曰：“近草妖也。”是岁有黄巾贼起，汉遂微弱。

灵帝中平元年六月壬申，洛阳男子刘仓，居上西门外。妻生男，两头共身。至建安中，女子生男，亦两头共身。

中平三年八月中，怀陵上有万余雀，先极悲鸣，已因乱斗相杀，皆断头，悬著树枝荆棘。到六年，灵帝崩。陵者，高大之象也。雀者，爵也。天戒若曰：“诸怀爵禄而尊厚者，还自相害，至灭亡也。”

汉时，京师宾婚嘉会，皆作魁桀，酒酣之后，续以挽歌。魁桀，丧家之乐；挽歌，执



佛相偶和之者。天戒若曰：“国家当急殄悴，诸贵乐皆死亡也。”自灵帝崩后，京师坏灭，户有兼尸虫而相食者。魁桀、挽歌，斯之效乎？

灵帝之末，京师谣言曰：“侯非侯，王非王，千乘万骑上北邙。”到中平六年，史侯登踞至尊，献帝未有爵号，为中常侍段珪等所执，公卿百僚，皆随其后，到河上，乃得还。

汉献帝初平中，长沙有人姓桓氏，死，棺敛月余，其母闻棺中有声，发之，遂生。占曰：“至阴为阳，下人为上。”其后曹公由庶士起。

献帝建安七年，越巂有男子化为女子。时周群上言：“衰帝时亦有此变，将有易代之事。”至二十五年，献帝封山阳公。

建安初，荆州童谣曰：“八九年间始欲衰，至十三年无子遗。”言自中兴以来，荆州独全，及刘表为牧，民又丰乐，至建安九年当始衰。始衰者，谓刘表妻死，诸将并零落也。十三年无子遗者，表又当死，因以丧败也。是时华容有女子，忽啼呼曰：“将有大大丧。”言语过差，县以为妖言，系狱。月余，忽于狱中哭曰：“刘荆州今日死。”华容去州数百里，即遣马里验视，而刘表果死。县乃出之。续又歌吟曰：“不意李立为贵人。”后无几，曹公平荆州，以涿郡李立字建贤为荆州刺史。

建安二十五年正月，魏武在洛阳起建始殿，伐濯龙树而血出。又掘徙梨，根伤而血出。魏武恶之，遂寝疾，是月崩。是岁为魏文黄初元年。

魏黄初元年，未央宫中，有鹰生燕巢中，口爪俱赤。至青龙中，明帝为凌霄阁，始构，有鹊巢其上。帝以问高堂隆，对曰：“《诗》云：‘惟鹊有巢，惟鸠居之。’今兴起宫室，而鹊来巢，此宫室未成，身不得居之象也。”

魏齐王嘉平初，白马河出妖马，夜过官牧边鸣呼，众马皆应。明日，见其迹大如斛，行数里，还入河。

魏景初元年，有燕生巨椹于卫国李盖家，形若鹰，吻似燕。高堂隆曰：“此魏室之大异，宜防鹰扬之臣于萧墙之内。”其后宣帝起，诛曹爽，遂有魏室。

蜀景耀五年，宫中大树无故自折。谯周深忧之，无所与言，乃书柱曰：“众而大，期之会；具而授，若何复。”言曹者，大也。众而大，天下其当会也。具而授，如何复有立者乎？蜀既亡，咸以周言为验。

吴孙权太元元年八月朔，大风。江海涌溢，平地水深八尺。拔高陵树二千株，石碑差动，吴城两门飞落。明年，权死。

吴孙亮五凤元年六月，交趾稗草化为稻。昔三苗将亡，五谷变种。此草妖也。其后亮废。

吴孙亮五凤二年五月，阳羡县离里山大石自立。是时，孙皓承废故之家，得复其位之应也。

吴孙休永安四年，安吴民陈焦，死七日复生，穿冢出。乌程孙皓承废故之家，得位之祥也。



孙休后，衣服之制，上长下短。又积领五六，而裳居一二。盖上饶奢，下俭逼；上有余，下不足之象也。

卷 七

初，汉元、成之世，先识之士有言曰：“魏年有和，当有开石于西三千余里，击五马，文曰：‘大讨曹’。”及魏之初兴也，张掖之柳谷有开石焉。始见于建安，形成于黄初，文备于太和。周围七寻，中高一切。苍质素章，龙马、麟鹿、凤凰、仙人之象，粲然咸著。此一事者，魏、晋代兴之符也。至晋泰始三年，张掖太守焦胜上言：“以留郡本国图校今石文，文字多少不同，谨具图上。”案其文有五马象：其一有人平上轸，执戟而乘之；其一有若马形不成。其字有“金”，有“中”，有“大司马”，有“王”，有“大吉”，有“正”，有“开寿”；其一成行，曰“金当取之”。

晋武帝泰始初，衣服上俭下丰，著衣者皆厌腰。此君衰弱臣放纵之象也。至元康末，妇人出两裆，加乎交领之上，此内出外也。为车乘者，苟贵轻细，又数变易其形，皆以白篋为纯，盖古丧车之遗象。晋之祸征也。

胡床、貂裘，翟之器也；羌煮、貊炙，翟之食也。自太始以来，中国尚之。贵人富室，必畜其器，吉享嘉宾，皆以为先兆也。

晋太康四年，会稽郡螭蜃及蟹，皆化为鼠，甚众覆野，大食稻为灾。始成，有毛肉而无骨，其行不能过田塍。数日之后，则皆为牝。

太康五年正月，二龙见武库井中。武库者，帝王威御之器所宝藏也。屋宇邃密，非龙所居。是后七年，藩王相害。二十八年，果有刘、石僭窃神器，皆字曰“龙”。

晋武帝太康六年，南阳获两足虎。虎者，阴精而居乎阳，金兽也。南阳，火名也。金精入火而失其形，王室乱之妖也。其七年十一月景辰，四角兽见于河间。天戒若曰：“角，兵象也；四者，四方之象。当有兵革起于四方。”后河间王遂连四方之兵，作为乱阶。

太康九年，幽州塞北有死牛头语。时帝多疾病，深以后事为念，而付托不以至公，思昏乱之应也。

太康中，有鲤鱼二枚现武库屋上。武库，兵府，鱼有鳞甲，亦是兵之类也。鱼既极阴，屋上太阳，鱼现屋上，象至阴以兵革之祸干太阳也。及惠帝初，诛皇后父杨骏，矢交宫阙。废后为庶人，死于幽宫。元康之末，而贾后专制，谤杀太子，寻亦诛废。十年之间，母后之难再兴，是其应也。自是祸乱构矣。京房《易妖》曰：“鱼去水，飞入道路，兵且作。”

初作履者，妇人圆头，男子方头。盖作意欲别男女也。至太康中，妇人皆方头履，与男无异。此贾后专妒之征也。

晋时，妇人结发者，既成，以绶急束其环，名曰鬓子髻。始自宫中，天下翕然化之。



也。其末年，遂有怀、惠之事。

太康中，天下为《晋世宁》之舞。其舞，抑手以执杯盘而反覆之。歌曰：“晋世宁，舞杯盘。”反覆，至危也；杯盘，酒器也。而名曰“晋世宁”者，言时人苟且饮食之间，而其智不可及远，如器在手也。

太康中，天下以毡为绍头及络带、袴口，于是百姓咸相戏曰：“中国其必为胡所破也。”夫毡，胡之所产者也。而天下以为绍头、带身、袴口，胡既三制之矣，能无败乎！

太康末，京洛为《折杨柳》之歌，其曲始有兵革苦辛之辞，终以擒获斩截之事。自后杨骏被诛，太后幽死，杨柳之应也。

晋武帝太熙元年，辽东有马生角，在两耳下，长三寸。及帝晏驾，王室毒于兵祸。

晋惠帝元康中，妇人之饰有五佩兵。又以金、银、象角、玳瑁之属，为斧、钺、戈、戟而戴之，以当笄。男妇之别，国之大节，故服食异等。今妇人而以兵器为饰，盖妖之甚者也。于是遂有贾后之事。

晋元康三年闰二月，殿前六钟皆出涕，五刻乃止。前年，贾后杀杨太后于金墉城，而贾后为恶不悛，故钟出涕，犹伤之也。

惠帝之世，京洛有人，一身而男女二体，亦能两用人道。而性尤好淫。天下兵乱，由男妇气乱而妖形作也。

惠帝元康中，安豐有女子曰周世宁，年八岁，渐化为男。至十七八，而气性成。女体化而不尽，男体成而不彻，畜妻而无子。

元康五年三月，临淄有大蛇，长十许丈，负二小蛇，入城北门，逐从市入汉阳城景王祠中，不见。

元康五年三月，吕县有流血，东西百余步。其后八载，而封云乱徐州，杀伤数万人。

元康七年，霹雳破城南高谋石。高谋，宫中求子祠也。贾后妒忌，将杀怀、愍，故天怒。贾后将诛之应也。

元康中，天下始相效为乌杖，以柱掖。其后稍施其微，住则植之。及怀、愍之世，王室多故，而中都丧败。元帝以藩臣树德东方，维持天下，柱掖之应也。

元康中，贵游子弟相与为散发裸身之饮，对弄婢妾。逆之者伤好，非之者负讥，希世之十，耻不与焉。其后遂有刘、石之乱。

惠帝太安元年，丹阳湖熟县夏架湖，有大石，浮二百步而登岸。百姓惊叹，相告曰：“石来！”寻而石冰入建鄴。

太安元年四月，有人自云龙门入殿前，北面再拜曰：“我当作中书监。”即收斩之。禁庭尊秘之处，今贱人竟入，而门卫不觉者，宫室将虚，下人逾上之妖也。是后帝迁长安，宫阙遂空焉。

太安中，江夏功曹张聘所乘牛忽言曰：“天下方乱，吾甚极为。乘我何之？”聘及从者数人皆惊怖，因给之曰：“令汝还，勿复言。”乃中道还。至家，未释驾，犬又言曰：“归



何早也？”骑益忧惧，秘而不言。安陆县有善卜者，骑从之卜。卜者曰：“大凶。非一家之祸，天下将有兵起，一郡之内，皆破亡乎！”骑还家，牛又人立而行。百姓聚观。其秋，张昌贼起，先略江夏，逛曜百姓，以汉祚复兴，有凤凰之瑞，圣人当世。从军者皆绛抹头，以彰火德之祥。百姓波荡，从乱如归，骑兄弟并并为将军都尉，未几而败。于是一郡破残，死伤过半，而骑家族矣。京房《易妖》曰：“牛能言，如其言，占吉凶。”

元康、太安之间，江淮之域，有败屨自聚于道，多者至四五十量。人或散去之，投林草中。明日视之，悉复如故。或云见狸衔而聚之。世之所说：“屨者，人之贱服，而当劳辱，下民之象也。败者，疲弊之象也。道者，地里，四方所以交通，王命所由往来也。今败屨于道者，象下民疲病，将相聚为乱，绝四方而壅王命也。”

晋惠帝永兴元年，成都王之攻长沙也，反军于郾，内外陈兵。是夜，戟锋皆有火光，遥望如悬烛，就视则亡焉。其后终以败亡。

晋怀帝永嘉元年，吴郡吴县万详婢生一子，鸟头，两足，马蹄，一手，无毛，尾黄色，大如碗。

永嘉五年，抱罕令严根婢产一龙、一女、一鹅。京房《易妖》曰：“人生他物，非人所见者，皆为天下大兵。”时帝承惠帝之后，四海沸腾，寻而陷于平阳，为逆曜所害。

永嘉五年，吴郡嘉兴张林家，有狗忽作人言云：“天下人俱饿死。”于是果有刘、石之乱，天下饥荒焉。

永嘉五年十一月，有蜺鼠出延陵。郭璞筮之，遇“临”之“益”，曰：“此郡之东县，当有妖人欲称制者，寻亦自死矣。”

永嘉六年正月，无锡县欽有四株茱萸树，相樛而生，状若连理。先是，郭璞筮延陵蜺鼠，遇“临”之“益”，曰：“后当复有妖树生，若瑞而非，辛螫之木也。倘有此，东西数百里，必有作逆者。”及此生木。其后吴兴徐馥作乱，杀太守袁瑒。

永嘉中，寿春城内有豕生人，两头，而不活。周馥取而观之。识者云：“豕，北方畜，两头者，无上也。生而死，不遂也。”天戒若曰：“易生专利之谋，将自致倾覆也。”俄为元帝所败。

永嘉中，士大夫竞服生笄单衣。识者怪之，曰：“此古练缢之布，诸侯所以服天子也。今无故服之，殆有应乎？”其后怀、愍晏驾。

昔魏武军中，无故作白帧。此缢素凶丧之征也。初，横缝其前以别后，名之曰“颜帧”，传行之。至永嘉之间，稍去其缝，名“无颜帧”。而妇人束发，其缓弥甚，紒之坚不能自立，发被于额，目出而已。无颜者，愧之言也。覆额者，惭之貌也。其缓弥甚者，言天下亡礼与义，放纵情性，及其终极，至于大耻也。其后二年，永嘉之乱，四海分崩，下人悲难，无颜以生焉。

晋愍帝建兴四年，西都倾覆，元皇帝始为晋王，四海宅心。其年十月二十二日，新蔡县吏任乔妻胡氏，年二十五，产二女，相向，腹心合，自腰以上，脐以下，各分。盖天下



未一之妖也。时内史吕会上言：“按《瑞应图》云：‘异根同体，谓之连理；异亩同颖，谓之嘉禾。’草木之属，犹以为瑞，今二人同心，天垂灵象，故《易》云：‘二人同心，其利断金。’休显见生于陈东之国，盖四海同心之瑞。不胜喜跃，谨画图呈。”时有识者晒之。君子曰：“知之难也。以臧文仲之才，犹祀爰居焉。布在方册，千载不忘。故士不可以不学。古人有言：‘木无枝，谓之瓠，人不学，谓之瞽。’当其所蔽，盖阙如也。可不勉乎！”

晋元帝建武元年六月，扬州大旱。十二月，河东地震。去年十二月，斩督运令史淳于伯，血逆流，上柱二丈三尺，旋复下流四尺五寸。是时淳于伯冤死，遂频旱三年。刑罚妄加，群阴不附，则阳气胜之，罚又冤气之应也。

晋元帝建武元年七月，晋陵东门有牛生子，一体两头。京房《易传》曰：“牛生子，二首一身，天下将分之象也。”

元帝太兴元年四月，西平地震，涌水出。十二月，庐陵、豫章、武昌、西陵地震，涌水出，出崩。此王敦陵上之应也。

太兴元年三月，武昌太守王谅有牛生子，两头八足，两尾共一腹。不能自生，十余人以绳引之。子死，母活。其三年，后苑中有牛生子，一足三尾，生而即死。

太兴二年，丹阳郡吏濮阳演马生驹，两头，自项前别。生而死。此政在私门，二头之象也。其后王敦陵上。

太兴初，有女子，其阴在腹，当脐下。自中国来至江东。其性淫而不产。又有女子，阴在首，居在扬州，亦性好淫。京房《易传》曰：“人生子：阴在首，则天下大乱；若在腹，则天下有事；若在背，则天下无后。”

太兴中，王敦镇武昌，武昌灾，火起，兴众救之，救于此而发于彼，东西南北数十处俱应，数日不绝。旧说所谓“滥灾妄起，虽兴师不能救之”之谓也。此臣而行君，亢阳失节。是时王敦陵上，有无君之心，故灾也。

太兴中，兵士以绛囊缚绞。识者曰：“绞在首为乾，君道也。囊者为坤，臣道也。今以朱囊缚绞，臣道侵君之象也。”为衣者，上带短，才至于掖；著帽者，又以带缚项；下逼上，上无地也。为袴者，直幅无口、无杀，下大之象也。寻而王敦谋逆，再攻京师。

太兴四年，王敦在武昌，铃下仪仗生花，如莲花，五六日而萎落。说曰：“《易》说：‘枯杨生花，何可久也？’今狂花生枯木，又在铃阁之间，言威仪之富，荣华之盛，皆如狂花之发，不可久也。”其后王敦终以逆命，加戮其尸。

旧为羽扇柄者，刻木象其骨形，列羽用十，取全数也。初，王敦南征，始改为长柄，下出可捉，而减其羽，用八。识者尤之曰：“夫羽扇，翼之名也。创为长柄，将执其柄，以制其羽翼也；改十为八，将未备夺已备也。此殆敦之擅权，以制朝廷之柄，又将以无德之材，欲窃非据也。”

晋明帝太宁初，武昌有大蛇，常居故神祠空树中。每出头，从人受食。京房《易传》曰：“蛇见于邑，不出三年，有大兵，国有大忧。”寻有王敦之逆。



卷八

虞舜耕于历山，得玉历于河际之岩。舜知天命在己，体道不倦。舜龙颜大口，手握褒。宋均注曰：“握褒，手中有‘褒’字。喻从劳苦，受褒飭，致大祚也。”

汤既克夏，大旱七年。洛川竭。汤乃以身祷于桑林，剪其爪发，自以为牺牲，祈福于上帝。于是大雨即至，治于四海。

吕望钓于渭阳，文王出游猎。占曰：“今日猎得一兽，非龙非虺，非熊非黑。合得帝王师。”果是太公于渭之阳。与语，大悦，同车载而还。

武王伐纣，至河上。雨甚，疾雷，晦冥，扬波于河。众甚惧，武王曰：“余在，天下谁敢干余者！”风波立济。

鲁哀公十四年，孔子夜梦三槐之间，丰、沛之邦，有赤氤气起，乃呼颀回、子夏同往观之。驱车到楚西北范氏衙，见舄儿打麟，伤其左前足，束薪而覆之。孔子曰：“儿来！汝姓为谁？”儿曰：“吾姓为赤松，名时乔，字受纪。”孔子曰：“汝岂有所见乎？”儿曰：“吾所见一禽，如麇，羊头，头上有角，其末有肉。方以是西走。”孔子曰：“天下已有主也，为赤刘，陈、项为辅。五星入井，从岁星。”儿发薪下麟，示孔子。孔子趋而往。麟向孔子，蒙其耳，吐三卷图，广三寸，长八寸，每卷二十四字。其言：“赤刘当起日周亡。赤气起，火耀兴，玄丘制命，帝卯金。”

孔子修《春秋》，制《孝经》，既成，斋戒，向北辰而拜，告备于天。天乃洪郁，起白雾摩地。白虹自上而下，化为黄玉，长三尺，上有刻文。孔子跪受而读之，曰：“宝文出，刘季握。卯金刀，在轸北。字禾子，天下服。”

秦穆公时，陈仓人掘地得物，若羊非羊，若猪非猪。牵以献穆公，道逢二童子。童子曰：“此名为媼，常在地食死人脑。若欲杀之，以柏插其首。”媼曰：“彼二童子名为陈宝，得雄者王，得雌者伯。”陈仓人舍媼，逐二童子，童子化为雉，飞入平林。陈仓人告穆公，穆公发徒大猎，果得其雌。又化为石，置之汧、渭之间。至文公时，为立祠陈宝。其雄者飞至南阳，今南阳雒县是其地也。秦欲表其符，故以名县。每陈仓祠时，有赤光长十余丈，从雒县来，入陈仓祠中，有声殷殷如雄雉。其后光武起于南阳。

宋大夫邢史子臣明于天道。周敬王之三十七年，景公问曰：“天道其何祥？”对曰：“后五十年五月丁亥，臣将死。死后五年，五月丁卯，吴将亡。亡后五年，君将终。终后四百年，邾王天下。”俄而皆如其言。所云“邾王天下”者，谓魏之兴也。邾，曹姓，魏亦曹姓，皆邾之后。其年数则错，未知邢史失其数耶？将年代久远，注记者传而有谬也？

吴以草创之国，信不坚固，边屯守将，皆质其妻子，名曰“保质”。童子少年，以类相与娱游者，日有十数。孙休永安三年三月，有一异儿，长四尺余，年可六七岁，衣青衣，忽来从群儿戏。诸儿莫之识也，皆问曰：“尔谁家小儿，今日忽来？”答曰：“见尔群



戏乐，故来耳。”详而视之，眼有光芒，爚爚外射。诸儿畏之，重问其故，儿乃答曰：“尔恐我乎？我非人也，乃荧惑星也。将有以告尔：三公归于司马。”诸儿大惊，或走告大人。大人驰往观之，儿曰：“舍尔去乎！”耸身而跃，即以化矣。仰而视之，若曳一疋练以登天。大人来者，犹及见焉。飘飘渐高，有顷而没。时吴政峻急，莫敢宣也。后四年而蜀亡，六年而魏废，二十一年而吴平，是归于司马也。

都水马武举戴洋为都水令史。洋请急还乡。将赴洛，梦神人谓之曰：“洛中当败，人尽南渡。后五年，扬州必有天子。”洋信之，遂不去。既而皆如其梦。

卷九

后汉中兴初，汝南有应枢者，生四子而尽。见神光照社。枢见光，以问卜人。卜人曰：“此天祥也。子孙其兴乎？”乃探得黄金。自是子孙宦学，并有才名。至瑒，七世通显。

车骑将军巴郡冯緄，字鸿卿，初为议郎，发绶笥，有二赤蛇，可长二尺，分南北走。大用忧怖。许季山孙宪，字宁方，得其先人秘要。緄请使卜。云：“此吉祥也。君后三岁，当为边将，东北四五里，官以东为名。”后五年，从大将军南征。居无何，拜尚书郎、辽东太守、南征将军。

常山张颢，为梁州牧。天新雨后，有鸟如山鹊，飞翔入市，忽然坠地，人争取之，化为圆石。颢椎破之，得一金印，文曰：“忠孝侯印。”颢以上闻，藏之秘符。后议郎汝南樊衡夷上言：“尧舜时旧有此官，今天降印，宜可复置。”颢后官至太尉。

京兆长安，有张氏，独处一室，有鸠自外人，止于床。张氏祝曰：“鸠来，为我祸也，飞上承尘；为我福也，即入我怀。”鸠飞入怀。以手探之，则不知鸠之所在，而得一金钩。遂宝之。自是子孙渐富，资财万倍。蜀贾至长安，闻之，乃厚赂婢，婢窃钩与贾。张氏既失钩，渐渐衰耗。而蜀贾亦数罹穷厄，不为己利。或告之曰：“天命也，不可力求。”于是贾钩以反张氏，张氏复昌。故关西称“张氏传钩”云。

汉征和三年三月，天大雨。何比干在家，日中，梦贵客车骑满门。觉以语妻，语未已，而门有老妪，可八十余，头白，求寄宿雨。雨甚而衣不沾濡。雨止，送至门。乃谓比干曰：“公有功德，今天锡君策，以广公之子孙。”因出怀中符策，状如简，长九寸，凡九百九十枚，以授比干，曰：“子孙佩印绶者，当如此算。”

魏舒字阳元，任城樊人也，少孤。尝诣野王，主人妻夜产，俄而闻车马之声，相问曰：“男也？女也？”曰：“男。”“书之，十五以兵死。”复问：“寝者为谁？”曰：“魏公。”舒后十五载，诣主人，问所生儿何在，曰：“因条桑，为斧伤而死。”舒自知当为公矣。

贾谊为长沙王太傅，四月庚子日，有鸛鸟飞入其舍，止于坐隅，良久乃去。谊发书占之，曰：“野鸟入室，主人将去。”谊忌之，故作《鸛鸟赋》，齐死生而等祸福，以致命定



志焉。

王莽居摄，东郡太守翟义知其将篡汉，谋举义兵。兄宣，教授，诸生满堂。群鹅雁数十，在中庭，有狗从外入，啖之，皆死。惊救之，皆断头。狗走出门，求不知处。宣大恶之。数日，莽夷其三族。

魏司马太傅懿平公孙渊，斩渊父子。先时，渊家数有怪：一犬著冠帻绛衣上屋，歔小儿蒸死甑中。襄平北市生肉，长围各数尺，有头目口喙，无手足而动摇。占者曰：“有形不成，有体无声，其国灭亡。”

吴诸葛恪征淮南归，将朝会之夜，精爽扰动，通夕不寐。严毕趋出，犬衔引其衣。恪曰：“犬不欲我行耶。”出仍入坐。少顷复起，犬又衔衣，恪令从者逐之。及入，果被杀。其妻在室，语使婢曰：“尔何故血臭？”婢曰：“不也。”有顷，愈剧。又问婢曰：“汝眼目瞻视，何以不常？”婢赧然起跃，头至于栋，攘臂切齿而言曰：“诸葛公乃为孙峻所杀。”于是大小知恪死矣。而吏兵寻至。

吴戍将郑喜，杀猪祠神，治毕悬之。忽见一人头，往食肉。喜引弓射，中之，咋咋作声。绕屋三日。后人白喜谋叛，合门被诛。

贾充伐吴时，常屯项城，军中忽失充所在。充帐下都督周勰，时昼寝，梦见百余人录充，引入一径。勰惊觉，闻失充，乃出寻索，忽睹所梦之道，遂往求之，果见充。行至一府舍，侍卫甚盛，府公南面坐，声色甚厉，谓充曰：“将乱吾家事者，必尔与荀勗。既惑吾子，又乱吾孙。间使任恺黜汝而不去，又使庾纯罢汝而不改。今吴寇当平，汝方表斩张华。汝之暗黷，皆此类也。若不悛慎，当旦夕加诛。”充因叩头流血。府公曰：“汝所以延日月而名器若此者，是卫府之助耳。终当使系嗣死于钟虞之间，大子毙于金酒之中，小子困于枯木之下。荀勗亦宜同，然其先德小浓，故在汝后。数世之外，国嗣亦替。”言毕命去。充忽然得还营，颜色憔悴，性理昏错，经日乃复。至后，谿死于钟下，贾后服金酒而死，贾午考竟，用大杖终。皆如所言。

庾亮字文康，鄱陵人。镇荆州。登厕，忽见厕中一物，如方相，两眼尽赤，身有光耀，渐渐从土中出。乃攘臂以拳击之，应手有声，缩入地。因而寝疾。术士戴洋曰：“昔苏峻事，公于白石祠中祈福，许赛其牛，从来未解，故为此鬼所考，不可救也。”明年，亮果亡。

东阳刘宠，字道弘，居于湖熟。每夜，门庭自有血数升，不知所从来。如此三四。后宠为折冲将军，见遣北征。将行，而炊饭尽变为虫。其家人蒸炒，亦变为虫。其火愈猛，其虫愈壮。宠遂北征。军败于坛丘，为徐龛所杀。

卷十

汉和熹邓皇后，尝梦登梯以扞天，体荡荡正清滑，有若钟乳状，乃仰啖饮之。以讯诸



占梦，言：“尧梦攀天而上，汤梦及天祗之，斯皆圣王之前占也。吉不可言。”

孙坚夫人吴氏，孕而梦月入怀，已而生策。及权在孕，又梦日入怀。以告坚曰：“妾昔怀策，梦月入怀；今又梦日，何也？”坚曰：“日月者，阴阳之精，极贵之象。吾子孙其兴乎？”

汉蔡茂字子礼，河内怀人也。初在广汉，梦坐大殿，极上有禾三穗，茂取之，得其中穗，辄复失之。以问主簿郭贺，贺曰：“大殿者，官府之形象也；极而有禾，人臣之上禄也；取中穗，是中台之象也。于字，禾失为秩，虽曰失之，乃所以禄也。袞职有阙，君其补之。”旬月而茂征焉。

周肇者，贫而好道。夫妇夜耕，困息卧，梦天公过而哀之，敕外有以给与。司命按籍籍，云：“此人相贫，限不过此。唯有张车子应赐钱千万，车子未生，请以借之。”天公曰：“善。”曙觉，言之。于是夫妇戮力，昼夜治生，所为辄得，货至千万。先时有张姬者，尝往周家庸赁，野合有身，月满当孕，便遣出外，驻车屋下，产得儿。主人往视，哀其孤寒，作粥糜食之。问：“当名汝儿作何？”姬曰：“今在车屋下而生，梦天告之，名为车子。”周乃悟曰：“吾昔梦从天换钱，外白以张车子钱贷我，必是子也。财当归之矣。”自是居日衰减。车子长大，富于周家。

夏阳卢汾，字士济，梦入蚁穴，见堂宇三间，势甚危豁。题其额曰“审雨堂”。

吴选曹令史刘卓，病笃，梦见一人，以白越单衫与之，言曰：“汝著衫污，火烧便洁也。”卓觉，果有衫在侧。污辄火浣之。

淮南书佐刘雅，梦见青蜥蜴从屋落其腹内。因苦腹痛病。

后汉张奂为武威太守。其妻梦帝与印绶，登楼而歌，觉以告奂，奂令占之，曰：“夫人方生男，后临此郡，命终此楼。”后生子猛。建安中，果为武威太守，杀刺史邯郸商，州兵围急，猛耻见擒，乃登楼自焚而死。

汉灵帝梦见桓帝怒曰：“宋皇后有何罪过，而听用邪孽，使绝其命！渤海王悝既已自贬，又受诛谿。今宋氏及悝自诉于天，上帝震怒，罪在难赦。”梦殊明察。帝既觉而恐，寻亦崩。

吴时，嘉兴徐伯始病，使道士吕石安神座。石有弟子戴本、王思二人，居住海盐，伯始迎之，以助。石昼卧，梦上天北斗门下，见外鞍马三匹，云：“明日当以一迎石，一迎本，一迎思。”石梦觉，语本、思云：“死期。可急还，与家别。”不卒事而去。伯始怪而留之。曰：“惧不得见家也。”间一日，三人同时死。

会稽谢奉与永嘉太守郭伯猷善。谢忽梦郭与人于浙江上争搏蒲钱，因为水神所责，堕水而死，已营理郭凶事。及觉，即往郭许，共围棋。良久，谢云：“卿知吾来意否？”因说所梦。郭闻之怅然，云：“吾昨夜亦梦与人争钱，如卿所梦，何期太的也！”须臾如厕，便倒气绝。谢为凶具，一如其梦。

嘉兴徐泰，幼丧父母，叔父魏养之，甚于所生。魏病，泰营侍甚勤。是夜三更中，梦



二人乘船持箱，上泰床头，发箱，出簿书示曰：“汝叔应死。”泰即于梦中叩头祈请。良久，二人曰：“汝县有同姓名人否？”泰思得，语二人云：“张醜。不姓徐。”二人云：“亦可强逼。念汝能事叔父，当为汝活之。”遂不复见。泰觉，叔病乃差。

卷十一

楚熊渠子夜行，见寝石，以为伏虎，弯弓射之，没金镞羽。下视，知其石也。因复射之，矢摧无迹。汉世复有李广，为右北平太守，射虎得石，亦如之。刘向曰：“诚之至也，而金石为之开，况于人乎！夫唱而不和，动而不随，中必有不全者也。夫不降席而匡天下者，求之己也。”

楚王游于苑，白猿在焉。王令善射者射之。矢数发，猿搏矢而笑。乃命由基。由基抚弓，猿即抱木而号。及六国时，更赢谓魏王曰：“臣能为虚发而下鸟。”魏王曰：“然则射可至于此乎？”赢曰：“可。”有顷，闻鸟从东方来，更赢虚发而鸟下焉。

齐景公渡于江沅之河，鼋衔左骖，没之。众皆惊惕。古冶子于是拔剑从之。邪行五里，逆行三里，至于砥柱之下。杀之，乃鼋也。左手持鼋头，右手拔左骖，燕跃鸿涌而出。仰天大呼，水为逆流三百步。观者皆以为河伯也。

楚干将、莫邪为楚王作剑，三年乃成。王怒，欲杀之。剑有雌雄，其妻重身当产，夫语妻曰：“吾为王作剑，三年乃成。王怒，往必杀我。汝若生子是男，大，告之曰：‘出户望南山，松生石上，剑在其背。’”于是即将雌剑，往见楚王。王大怒，使相之：“剑有二，一雄一雌。雌来，雄不来。”王怒，即杀之。莫邪子名赤，比后壮，乃问其母曰：“吾父所在？”母曰：“汝父为楚王作剑，三年乃成。王怒，杀之。去时嘱我：‘语汝子：出户望南山，松生石上，剑在其背。’”于是子出户南望，不见有山，但睹堂前松柱下，石砌之上，即以斧破其背，得剑。日夜思欲报楚王。王梦见一儿，眉间广尺，言：“欲报仇。”王即购之千金。儿闻之，亡去。入山行歌。客有逢者，谓：“子年少，何哭之甚悲耶？”曰：“吾干将、莫邪子也。楚王杀吾父，吾欲报之！”客曰：“闻王购子头千金，将子头与剑来，为子报之。”儿曰：“幸甚！”即自刎，两手捧头及剑奉之，立僵。客曰：“不负子也。”于是尸乃仆。客持头往见楚王，王大喜。客曰：“此乃勇士头也。当于汤镬煮之。”王如其言。煮头三日三夕，不烂。头踔出汤中，瞋目大怒。客曰：“此儿头不烂，原王自往临视之，是必烂也。”王即临之。客以剑拟王，王头随堕汤中。客亦自拟己头，头复堕汤中。三首俱烂，不可识别。乃分其汤肉葬之，故通名“三王墓”，今在汝南北宜春县界。

汉武帝时，苍梧贾雍为豫章太守，有神术。出界讨贼，为贼所杀，失头，上马回，营中咸走来视雍。雍胸中语曰：“战不利，为贼所伤。诸君视有头佳乎？无头佳乎？”吏涕泣曰：“有头佳。”雍曰：“不然，无头亦佳。”言毕，遂死。

渤海太守史良好一女子，许嫁而不果。良怒，杀之，断其头而归，投于灶下，曰：



“当令火葬。”头语曰：“使君，我相从，何图当尔！”后梦见曰：“还君物。”觉而得昔所与香纓、金钗之属。

后灵王时，苾宏见杀。蜀人因藏其血，三年乃化而为碧。

汉武帝东游，未出函谷关，有物当道，身長数丈，其状象牛，青眼而瞳睛，四足入土，动而不徙。百官惊骇。东方朔乃请以酒灌之，灌之数十斛而物消。帝问其故。答曰：“此名为患，忧气之所生也。此必是秦之狱地。不然，则罪人徒作之所聚。夫酒忘忧，故能消之也。”帝曰：“吁！博物之士，至于此乎！”

后汉凉辅，字汉儒，广汉新都人。少给佐吏，浆水不交。为从事，大小毕举，郡县敛手。时夏枯旱，太守自曝中庭，而雨不降。辅以五官掾，出祷山川，自誓曰：“辅为郡股肱，不能进谏纳忠，荐贤退恶，调和阴阳，至令天地否隔，万物枯焦，百姓喁喁，无所控诉，咎尽在辅。今郡太守内省责己，自曝中庭，使辅谢罪，为民祈福，精诚恳到，未有感彻。辅今敢自誓，若至日中无雨，请以身塞无状。”乃积薪柴，将自焚焉。至日中时，山气转黑，起雷，雨大作，一郡沾润。世以此称其至诚。

何敞，吴郡人。少好道艺，隐居。里以大旱，民物憔悴，太守庆洪遣户曹掾致谒，奉印绶，烦守无锡。敞不受。退，叹而言曰：“郡界有灾，安能得怀道。”因跋涉之县，驻明屋屋中。蝗蜚消死，敞即遁去。后举方正、博士，皆不就。卒于家。

后汉徐栩，字敬卿，吴由拳人。少为狱吏，执法详平。为小黄令时，属县大蝗，野无生草，过小黄界，飞逝不集。刺史行部，责栩不治。栩弃官，蝗应声而至。刺史谢，令还寺舍。蝗即飞去。

王业字子香，汉和帝时，为荆州刺史。每出行部，沐浴斋素，以祈于天地：“当启佐愚心，无使有枉百姓。”在州七年，惠风大行，苛虐不作，山无豺狼。卒于湘江。有二白虎，低头曳尾，宿卫其侧。及丧去，虎逾州境，忽然不见。民共为立碑，号曰：“湘江白虎墓”。

吴时，葛祚为衡阳太守。郡境有大槎横水，能为妖怪。百姓为立庙。行旅祷祀，槎乃沉没；不者槎浮，则船为之破坏。祚将去官，乃大具斧斤，将去民累。明日当至。其夜，闻江中汹汹有人声，往视之，槎乃移去，沿流下数里，驻湾中。自此行者无复沉覆之患。衡阳人为祚立碑，曰：“正德祈禳，神木为移。”

曾子从仲尼在楚而心动，辞归问母。母曰：“思尔啮指。”孔子曰：“曾参之孝，精感万里。”

周畅，性仁慈，少至孝，独与母居。每出入，母欲呼之，常自啮其手，畅即觉手痛而至。治中从事朱之信，候畅在田，使母啮手，而畅即归。元初二年，为河南尹，时夏大旱，久祷无应。畅收葬洛阳城旁客死骸骨万余，为立义冢，应时澍雨。

王祥字休征，琅邪人。性至孝。早丧新，继母朱氏不慈，数谮之。由是失爱于父，每使扫除牛下。父母有疾，衣不解带。母常欲生鱼，时天寒冰冻，祥解衣，将剖冰求之。冰



忽自解，双鲤跃出，持之而归。母又思黄雀炙，复有黄雀数十入其幕，复以供母。乡里惊叹，以为孝感所致。

王延，性至孝。继母卜氏，尝盛冬思生鱼，敕延求而不获，杖之流血。延寻涕，叩凌而哭。忽有一鱼，长五尺，跃出冰上。延取以进母。卜氏食之，积日不尽。于是心悟，抚延如己子。

楚僚早失母，事后母至孝。母患痈肿，形容日悴，僚自徐徐吮之，血出，迨夜即得安寝。乃梦一小儿语母曰：“若得鲤鱼食之，其病即差，可以延寿。不然，不久死矣。”母觉而告僚。时十二月冰冻，僚乃仰天叹泣，脱衣上冰卧之。有一童子，决僚卧处，冰忽自开，一双鲤鱼跃出。僚将归奉其母，病即愈，寿至一百三十三岁。盖至孝感天神，昭应如此。此与王祥、王延事同。

盛彦字翁子，广陵人。母王氏，因疾失明，彦躬自侍养。母食，必自哺之。母疾既久，至于婢使，数见捶挞。婢忿恨，闻彦暂行，取蛭蟪炙饴之。母食，以为美，然疑是异物，密藏以示彦。彦见之，抱母恸哭，绝而复苏。母目豁然即开，于此遂愈。

颜含字宏都，次嫂樊氏，因疾失明。医人疏方，须蛇蝎胆，而寻求备至，无由得之。含忧叹累时。尝昼独坐，忽有一青衣童子，年可十三四，持一青囊授含。含开视，乃蛇胆也。童子逡巡出户，化成青鸟飞去。得胆药成，嫂病即愈。

郭巨，隆虑人也，一云河内温人。兄弟三人，早丧父。礼毕，二弟求分。以钱二十万，二弟各取千万。巨独与母居客舍，夫妇佣赁，以给公养。居有顷，妻产男。巨念与儿妨事亲，一也；老人得食，喜分儿孙，减饷，二也。乃于野凿地，欲埋儿，得石盖，下有黄金一釜，中有丹书，曰：“孝子郭巨，黄金一釜，以用赐汝。”于是名振天下。

新兴刘殷，字长盛，七岁丧父，哀毁过礼，服丧三年，未尝见齿。事曾祖母王氏。尝夜梦人谓之曰：“西篱下有粟。”寤而掘之，得粟十五钟。铭曰：“七年粟百石，以赐孝子刘殷。”自是食之，七岁方尽。及王氏卒，夫妇毁瘠，几至灭性。时柩在殡而西邻失火，风势甚猛，殷夫妇叩殡号哭，火遂灭。后有二白鸠来，巢其树庭。

杨公伯雍，洛阳人也。本以佺卖为业。性笃孝。父母亡，葬无终山，遂家焉。山高八十里，上无水，公汲水，作义浆于坂头，行者皆饮之。三年，有一人就饮，以一斗石子与之，使至高平好地有石处种之，云：“玉当生其中。”杨公未娶，又语云：“汝后当得好归。”语毕不见。乃种其石。数岁，时时往视，见玉子生石上，人莫知也。有徐氏者，右北平著姓，女甚有行，时人求，多不许。公乃试求徐氏。徐氏笑以为狂，因戏云：“得白璧一双来，当听为婚。”公至所种玉田中，得白璧五双，以聘。徐氏大惊，遂以女妻公。天子闻而异之，拜为大夫。乃于种玉处，四角作大石柱，各一丈，中央一顷地，名曰“玉田”。

衡衣字剡卿，东平人也。少孤，事继母至孝。常宿于他舍，值雷风，频梦虎啖其足。农呼妻相出于庭，叩头三下，屋忽然而坏，压死者三十余人，唯农夫妻犹免。



罗威字德仁，八岁丧父，事母性至孝。母年七十。天大寒，常以身自温席，而后授其处。

王哀字伟元，城阳营陵人也。父仪，为文帝所杀。哀庐于墓侧，旦夕常至墓所拜跪，攀柏悲号。涕泣著树，树为之枯。母性畏雷，母没，每雷，辄到墓曰：“哀在此。”

郑弘迁临淮太守。郡民徐宪，在丧致哀，有白鸠巢户侧。弘举为孝谦，朝廷称为“白鸠郎”。

汉时，东海孝妇，养姑甚谨。姑曰：“妇养我勤苦。我已老，何惜余年，久累年少。”遂自缢死。其女告官云：“妇杀我母。”官收系之，拷掠毒治。孝妇不堪苦楚，自诬服之。时于公为狱吏，曰：“此妇养姑十余年，以孝闻彻，必不杀也。”太守不听。于公争不得理，抱其狱词，哭于府而去。自后郡中枯旱，三年不雨。后太守至，于公曰：“孝妇不当死，前太守枉杀之，咎当在此。”太守即时身祭孝妇冢，因表其墓。天立雨，岁大熟。长老传云：“孝妇名周青。青将死，车载十丈竹竿，以悬五幡。立誓于众曰：‘青若有罪，愿杀，血当顺下；青若枉死，血当逆流。’既行刑已，其血青黄，缘幡竹而上级标，又缘幡而下云。”

键为叔先泥和，其女名雄。永建三年，泥和为县功曹。县长赵祉，遣泥和拜檄谒巴郡太守。以十月乘船，于城湍堕水死，尸丧不得。雄哀恸号咷，命不图存，告弟贤及夫人，令勤觅父尸，若求不得，吾欲自沉觅之。时雄年二十七，有子男贡，年五岁；黄，年三岁。乃各作绣香囊一枚，盛以金珠环，预娶二子。哀号之声，不绝于口，昆族私忧。至十二月十五日，父丧不得。雄乘小船，于父堕处，哭泣数声，竟自投水中，旋流没底。见梦告弟云：“至二十一日，与父俱出。”至期，如梦，与父相持，并浮出江。县长表言，郡太守肃登承上尚书。乃遣户曹掾为雄立碑，图象其形，令知至孝。

河南乐羊子之妻者，不知何氏之女也。躬勤养姑。尝有他舍鸡谬入园中，姑盗杀而食之。妻对鸡不食而泣。姑怪问其故，妻曰：“自伤居贫，使食有他肉。”姑竟弃之。后盗有欲犯之者，乃先劫其姑，妻闻，操刀而出。盗曰：“释汝刀。从我者可全；不从我者，则杀汝姑。”妻仰天而叹，刎颈而死。盗亦不杀姑。太守闻之，捕杀盗贼，赐妻缣帛，以礼葬之。

庾袞字叔褒，咸宁中，大疫，二兄俱亡，次兄毗复殆。病气方盛，父母诸弟，皆出次于外，袞独留不去。诸父兄强之，乃曰：“袞性不畏病。”遂亲自扶持，昼夜不眠；间复抚柩，哀临不辍。如此十余旬。疫势既退，家人乃返。毗病得差，袞亦无恙。

宋康王舍人韩凭，娶妻何氏，美，康王夺之。凭怨，王囚之，论为城旦。妻密遗凭书，缪其辞曰：“其雨淫淫，河大水深，日出当心。”既而王得其书，以示左右，左右莫解其意。臣苏贺对曰：“其雨淫淫，言愁且思也；河大水深，不得往来也；日出当心，心有死志也。”俄而凭乃自杀。其妻乃阴腐其衣。王与之登台，妻遂自投台，左右揽之，衣不中手而死。遗书于带曰：“王利其生，妾利其死。愿以尸骨，赐凭合葬。”王怒，弗听。使



里人埋之，冢相望也。王曰：“尔夫妇相爱不已，若能使冢合，则吾弗阻也。”宿昔之间，便有大梓木生于二冢之端，旬日而大盈抱，屈体相就，根交于下，枝错于上。又有鸳鸯，雌雄各一，恒栖树上，晨夕不去，交颈悲鸣，音声感人。宋人哀之，遂号其木曰“相思树”。相思之名，起于此也。南人谓此禽即韩凭夫妇之精魂。今睢阳有韩凭城，其歌谣至今犹存。

汉末，零阳郡太守史满有女，悦门下书佐，乃密使侍婢，取书佐盥手残水饮之，遂有妊。已而生子。至能行，太守令抱儿出，使求其父。儿匍匐直入书佐怀中，书佐推之，仆地化为水。穷问之，具省前事。遂以女妻书佐。

鄱阳西有望夫冈。昔县人陈明，与梅氏为婚，未成而妖魅诈迎妇去。明诣卜者，决云：“行西北五十里求之。”明如言，见一大穴，深邃无底。以绳悬人，遂得其妇。乃令妇先出。而明所将邻人秦文，遂不取明。其妇乃自誓执志，登此冈首而望其夫，因以名焉。

后汉南康邓元义，父伯考，为尚书仆射。元义还乡里，妻留事姑，甚谨。姑憎之，幽闭空室，节其饮食。羸露日困，终无怨言。时伯考怪而问之。元义子朗，时方数岁，言：“母不病，但苦饥耳。”伯考流涕曰：“何意亲姑，反为此祸。”遣归家，更嫁为华仲妻。仲为将作大匠，妻乘朝车出。元义于路旁观之，谓人曰：“此我故妇，非有他过，家天人遇之实酷。本自相贵。”其子朗，时为郎，母与书，皆不答，与衣裳，辄以烧之。母不以介意。母欲见之，乃至亲家李氏堂上，令人以他词请朗。朗至见母，再拜涕泣，因起出。母追谓之曰：“我几死。自为汝家所弃，我何罪过，乃如此耶？”因此遂绝。

严遵为扬州刺史，行部，闻道傍女子哭声不衰。问所哭者谁，对云：“夫遭烧死。”遵敕吏舁尸到，与语讫，语吏云：“死人自道不烧死。”乃撮女，令人守尸，云：“当有枉。”吏曰：“有蝇聚头所。”遵令披视，得铁锥贯顶。考问，以淫杀夫。

汉范式，字巨卿，山阳金乡人也。一名汜。与汝南张劭为友，劭字元伯，二人并游太学。后告归乡里，式谓元伯曰：“后二年当还，将过拜尊亲，见孺子焉。”乃共克期日。后期方至，元伯具以白母，请设饌以候之。母曰：“二年之别，千里结言，尔何相信之审耶？”曰：“巨卿信士，必不乖违。”母曰：“若然，当为尔酝酒。”至期果到。升堂拜饮，尽欢而别。后元伯寝疾甚笃，同郡郅君章、殷子征晨夜省视之。元伯临终，叹曰：“恨不见我死友。”子征曰：“吾与君章，尽心于子，是非死友，复欲谁求？”元伯曰：“若二子者，吾生友耳；山阳范巨卿，所谓死友也。”寻而卒。式忽梦见元伯，玄冕乘纁，屣履而呼曰：“巨卿，吾以某日死，当以尔时葬，永归黄泉。子未忘我，岂能相及？”式恍然觉悟，悲叹泣下，便服朋友之服，投其葬日，驰往赴之。未及到而丧已发引。既至圻，将窆，而柩不肯进。其母抚之曰：“元伯，岂有望耶？”遂停柩。移时，乃见素车白马，号哭而来。其母望之曰：“是必范巨卿也。”既至，叩丧言曰：“行矣元伯，死生异路，永从此辞。”会葬者千人，咸为挥涕。式因执绋而引，柩于是乃前。式遂留止冢次，为修坟树，然后乃去。



卷十二

天有五气，万物化成。木清则仁，火清则礼，金清则义，水清则智，土清则思，五气尽纯，圣德备也。木浊则弱，火浊则淫，金浊则暴，水浊则贪，土浊则顽，五气尽浊，民之下也。中土多圣人，和气所交也；绝域多怪物，异气所产也。苟禀此气，必有所形；苟有此形，必生此性。故食谷者智慧而文，食草者多力而愚，食桑者有丝而蛾，食肉者勇傲而悍，食土者无心而不息，食气者神明而长寿，不食者不死而神。大腰无雄，细腰无雌。无雄外接，无雌外育。三化之虫，先孕后交；兼爱之兽，自为牝牡。寄生因夫高木，女萝托乎茯苓。木株于土，萍植于水。鸟排虚而飞，兽蹠实而走，虫土闭而蛰，鱼渊潜而处。本乎天者亲上，本乎地者亲下，本乎时者亲旁——各从其类也。千岁之雉，入海为蜃；百年之雀，入海为蛤；千岁龟鼈，能与入语；千岁之狐，起为美女；千岁之蛇，断而复续；百年之鼠，而能相卜——数之至也。春分之日，鹰变为鸠；秋分之日，鸠变为鹰——时之化也。故腐草之为萤也，朽苇之为蜚也，稻之为蜚也，麦之为蝴蝶也——羽异生焉，眼目成焉，心智在焉，此自无知化为有知而气易也。雀之为獐也，蜚之为虾也——不失其血气而形性变也。若此之类，不可胜论。应变而动，是为顺常；苟错其方，则为妖眚。故下体生于上，上体生于下，气之反者也；人生兽，兽生人，气之乱者也；男化为女，女化为男，气之贸者也。鲁牛哀得疾，七日化而为虎，形体变易，爪牙施张，其兄启户而入，搏而食之。方其为人，不知其将为虎也；方其为虎，不知其常为人也。故晋太康中，陈留阮士瑀伤于鼯，不忍其痛，数嗅其疮，已而双虺成于鼻中。元康中，历阳纪元载，客食道龟，已而成瘕。医以药攻之，下龟子数升，大如小钱，头足咸备，文甲皆具，惟中药已死。夫妻非化育之气，鼻非胎孕之所，享道非下物之具。从此观之，万物之生死也，与其变化也，非通神之思，虽求诸己，恶识所自来。然朽草之为蜚，由乎腐也；麦之为蝴蝶，由乎湿也。尔则万物之变，皆有由也。农夫止麦之化者，沤之以灰；圣人理万物之化者，济之以道。其与不然乎？

季桓子穿井，获如土缶，其中有羊焉。使问之仲尼曰：“吾穿井而获狗，何耶？”仲尼曰：“以丘所闻，羊也。丘闻之，木石之怪，夔、魍魎；水中之怪，龙、罔象；土中之怪，曰黄羊。”《文选》曰：“罔象，如三岁儿。赤目，黑色，大耳，长臂，赤爪，索缚则可得食。”王子曰：“木精为游光，金精为清明也。”

晋惠帝元康中，吴郡娄县怀瑶家，忽闻地中有犬声隐隐。视声发处，上有小窍，大如蟪穴。瑶以杖刺之，入数尺，觉有物。乃掘视之，得犬子，雌雄各一，目犹未开，形大于常犬。哺之而食。左右咸往观焉。长老或云：“此名犀犬，得之者，令家富昌。宜当养之。”以目未开，还置窍中，覆以磨石。宿昔发视，左右无孔，遂失所在。瑶家积年无他祸福。至太兴中，吴郡太守张懋，闻斋内床下犬声，求而不得。既而地坼，有二犬子。取



而养之，皆死。其后黠为吴兴兵沈充所杀。《尸子》曰：“地中有犬，名曰地狼；有人，名曰无伤。”《夏鼎志》曰：“掘地而得狗，名曰贾；掘地而得豚，名曰邪；掘地而得人，名曰聚。聚，无伤也。此物之自然，无谓鬼神而怪之。然则贾与地狼，名异其实一物也。”《淮南毕万》曰：“千岁羊肝，化为地宰；蟾蜍得苴，卒时为鹑。”此皆因气化以相感而成也。

吴诸葛恪为丹阳太守，尝出猎，两山之间，有物如小儿，伸手欲引人。恪令伸之，乃引去故地。去故地即死。既而参佐闻其故，以为神明。恪曰：“此事在《白泽图》内，曰：‘两山之间，其精如小儿，见人则伸手欲引人，名曰傥囊。引去故地则死。’无谓神明而异之，诸君偶未见耳。”

王莽建国四年，池阳有小人景，长一尺余，或乘车，或步行，操持万物，大小各自相称，三日乃止。莽甚恶之。自后盗贼日甚，莽竟被杀。《管子》曰：“涸泽数百岁，谷之不徙，水之不绝者，生庆忌。庆忌者，其状若人，其长四寸，衣黄衣，冠黄冠，戴黄盖，乘小马，好疾驰。以其名呼之，可使千里外一日反报。”然池阳之景者，或庆忌也乎？又曰：“涸小水精，生蜺。蜺者，一头而两身，其状若蛇，长八尺。以其名呼之，可使取鱼鳖。”

晋扶风杨道和，夏于田中值雨，至桑树下，霹雳下击之。道和以锄格，折其股，遂落地，不得去。唇如丹，目如镜，毛角长三寸许，状似六畜，头似猕猴。

秦时，南方有落头民，其头能飞。其种人都有祭祀，号曰“虫落”，故因取名焉。吴时，将军朱桓得一婢，每夜卧后，头辄飞去，或从狗窦，或从天窗中出入，以耳为翼。将晓复还。数数如此，傍人怪之。夜中照视，唯有身无头，其体微冷，气息戢戢。乃蒙之以被。至晓头还，碍被，不得安，两三度堕地，啼咤甚愁，体气甚急，状若将死。乃去被，头复起，搏颈。有顷和平。桓以为大怪，畏不敢畜，乃放遣之。既而详之，乃知天性也。时南征大将，亦往往得之。又尝有覆以铜盘者，头不得进，遂死。

江汉之域，有魍人。其先，稟君之苗裔也，能化为虎。长沙所属蛮县东高居民，曾作檻捕虎。檻发，明日，众人共往格之，见一亭长，赤帻大冠，在檻中坐。因问：“君何以入此中？”亭长大怒曰：“昨忽被县召，夜避雨，遂误入此中。急出我。”曰：“君见召，不当有文书耶？”即出怀中召文书。于是即出之。寻视，乃化为虎，上山走。或云：“魍虎化为人，好著紫葛衣，其足无踵。虎有五指者，皆是魍。”

蜀中西南高山之上，有物，与猴相类，长七尺，能作人行。善走逐人，名曰“猢国”，一名“马化”，或曰“獼猴”。伺道行妇女有美者，辄盗取将去，人不得知。若有行人经过其旁，皆以长绳相引，犹或不免。此物能别男女气臭，故取女，男不取也。若取得人女，则为家室。其无子者，终身不得还。十年之后，形皆类之，意亦迷惑，不复思归。若有子者，辄抱送还其家。产子皆如人形。有不养者，其母辄死，故惧怕之，无敢不养。及长，与人无异，皆以杨为姓。故今蜀中西南多诸杨，率皆是猢国马化之子孙也。

临川间诸山，有妖物，来常因大风雨，有声如啸，能射人。其所著者，有顷便肿，大



毒。有雌雄，雄急而雌缓。急者不过半日间，缓者经宿。其旁人常有以救之，救之少迟则死。俗名曰“刀劳鬼”。故外书云：“鬼神者，其祸福发扬之验于世者也。”《老子》曰：“昔之得一者：天得一以清；地得一以宁；神得一以灵；谷得一以盈；侯王得一，以为天下贞。”然则天地鬼神，与我共生者也。气分则性异，域别则形殊，莫能相兼也。生者主阳，死者主阴，性之所托，各安其生。太阴之中，怪物存焉。

越地深山中有鸟，大如鸠，青色，名曰“冶鸟”。穿大树作巢，如五六升器，户口径数寸，周饰以土埴，赤白相分，状如射侯。伐木者见此树，即避之去。或夜冥不见鸟，鸟亦知人不见，便鸣唤曰：“咄，咄，上去。”明日便宜急上。“咄，咄，下去。”明日便宜急下。若不使去，但言笑而巳者，人可止伐也。若有秽恶及犯其止者，则有虎通夕来守，人不去，便伤害人。此鸟白日见其形，是鸟也；夜听其鸣，亦鸟也；时有观乐者，便作人形，长三尺，至涧中取石蟹，就火炙之，人不可犯也。越人谓此鸟是越祝之祖也。

南海之外，有蛟人，水居如鱼，不废织绩。其眼泣则能出珠。

庐江朐、枞阳二县境上，有大青、小青黑居。山野之中，时闻哭声，多者至数十人，男女大小，如始丧者。邻人惊骇，至彼奔赴，常不见人。然于哭地必有死丧。率声若多则为大家，声若小则为小家。

庐江大山之间，有山都，似人，裸身，见人便走。有男女，可长四五丈，能啸相唤，常在幽昧之中，似魑魅鬼物。

汉光武中平中，有物处于江水，其名曰“蜮”，一曰：“短狐”，能含沙射人。所中者，则身体筋急，头痛发热，剧者至死。江人以术方抑之，则得沙石于肉中。诗所谓“为鬼为蜮，则不可测”也。今俗谓之溪毒。先儒以为男女同川而浴，淫女为主，乱气所生也。

汉永昌郡不连县有禁水，水有毒气，唯十一月、十二月差可渡涉。自正月至十月，不可渡，渡辄病，杀人。其气中有恶物，不见其形，其似有声，如有所投击。内中木则折，中人则害，土俗号为“鬼弹”。故郡有罪人，徙之禁防，不过十日，皆死。

余外妇姊夫蒋士，有佣客，得疾下血。医以中蛊，乃密以藁荷根布席下，不使知。乃狂言曰：“食我蛊者，乃张小小也。”乃呼小小亡云。今世攻蛊，多用藁荷根，往往验。藁荷或谓嘉草。

鄱阳赵寿，有犬蛊。时陈岑诣寿，忽有大黄犬六七，群出吠岑。后余伯伯归与寿妇食，吐血几死，乃屑桔梗以饮之而愈。蛊有怪物，若鬼，其妖形变化，杂类殊种，或为狗豕，或为虫蛇，其人不自知其形状。行之于百姓，所中皆死。

荣阳郡有一家，姓廖，累世为蛊，以此致富。后娶新妇，不以此语之。遇家人咸出，唯此妇守舍，忽见屋中有大缸，妇试发之，见有大蛇，妇乃作汤，灌杀之。及家人归，妇具白其事，举家惊惋。未几，其家疾疫，死亡略尽。



卷十三

泰山之东，有灋泉，其形如井，本体是石也。欲取饮者，皆洗心志，跪而挹之，则泉出如飞，多少足用。若或污漫，则泉止焉。盖神明之尝志者也。

二华之山，本一山也。当河，河水过之而曲行。河神巨灵，以手擘开其上，以足蹈离其下，中分为两，以利河流。今观手迹于华岳上，指掌之形具在。脚迹在首阳山下，至今犹存。故张衡作《西京赋》所称“巨灵赑屃，高掌远蹠，以流河曲”，是也。

汉武徙南岳之祭于庐江灈县霍山之上，无水。庙有四饌，可受四十斛。至祭时，水辄自满，用之足了，事毕即空。尘土树叶，莫之污也。积五十岁，岁作四祭。后但作三祭，一饌自败。

樊东之口，有樊山。若天旱，以火烧山，即至大雨。今往往有验。

空乘之地，今名为孔宝，在鲁南山之穴。外有双石，如桓楹起立，高数丈。鲁人弦歌祭祀。穴中无水，每当祭时，洒扫以告，辄有清泉自石间出，足以周事。既已，泉亦止。其验至今存焉。

湘穴中有黑土，岁大旱，人则共壅水以塞此穴，穴淹则大雨立至。

秦惠王二十七年，使张仪筑成都城，屡頽。忽有大龟浮于江，至东子城南隅而毙。仪以问巫。巫曰：“依龟筑之。”便就。故名“龟化城”。

由拳县，秦时长水县也。始皇时，童谣曰：“城门有血，城当陷没为湖。”有姬闻之，朝朝往窥。门将欲缚之，姬言其故。后门将以犬血涂门，姬见血，便走去。忽有大水欲没县，主簿令千人白令，令曰：“何忽作鱼？”干曰：“明府亦作鱼。”遂沦为湖。

秦时筑城于武周塞内，以备胡。城将成而崩者数焉。有马驰走，周旋反复。父老异之，因依马迹以筑城，城乃不崩，遂名“马邑”。其故城今在朔州。

汉武帝凿昆明池，极深，悉是灰墨，无复土。举朝不解，以问东方朔。朔曰：“臣愚，不足以知之。”曰：“试问西域人。”帝以朔不知，难以移问。至后汉明帝时，西域道人人来洛阳。时有忆方朔言者，乃试以武帝时灰墨问之。道人云：“经云：‘天地大劫将尽则劫烧。’此劫烧之余也。”乃知朔言有旨。

临邛县有廖氏，世老寿。后移居，子孙辄残折。他人居其故宅，复累世寿。乃知是宅所为，不知何故。疑井水赤，乃掘井左右，得古人埋丹砂数十斛。丹汁入井，是以饮水而得寿。

江东名“馀腹”者，昔吴王阖闾江行，食脰有余，因弃中流，悉化为鱼，今鱼中有名“吴王脰脰”者，长数寸，大者如箸，犹有脰形。

蜚蜃，蟹也。尝通梦于人，自称“长卿”。今临海人多以“长卿”呼之。

南方有虫，名蜚蜃，一名蜚蜃，又名青蚨。形似蝉而稍大。味辛美，可食。生子必依



草叶，大如蚕子。取其子，母即飞来，不以远近。虽潜取其子，母必知处。以母血涂钱八十一文，以子血涂钱八十一文，每市物，或先用母钱，或先用子钱，皆复飞归，轮转无已。故《淮南子》以之还钱，名曰“青蚨”。

土蜂名曰蜾蠃，今世谓蜾蠃，细腰之类。其为物，雄而无雌，不交不产。常取桑虫或阜螽子育之，则皆化成己子。亦或谓之“螟蛉”。《诗》曰：“螟蛉有子，果蠃负之。”是也。

木蠹生虫，羽化为蝶。

猬多刺，故不使超逾杨柳。

昆仑之墟，地首也。是惟帝之下都，故其外绝以弱水之深，又环以炎火之山。山上有鸟兽草木，皆生育滋长于炎火之中，故有火浣布。非此山草木之皮帛，则其鸟兽之毛也。汉世，西域旧献此布，中间久绝。至魏初时，人疑其无有。文帝以为火性酷裂，无含生之气，著之《典论》，明其不然之事，绝智者之听。及明帝立，诏三公曰：“先帝昔著《典论》，不朽之格言。其刊石于庙门之外及太学，与石经并，以永示来世。”至是西域使人献火浣布袈裟，于是刊灭此论，而天下笑之。

夫金之性一也，以五月丙午日中铸，为阳燧；以十一月壬子夜半铸，为阴燧。

汉灵帝时，陈留蔡邕，以数上书陈奏，忤上旨意，又内宠恶之，虑不免，乃亡命江海，远迹吴会。至吴，吴人有烧桐以爨者，邕闻火烈声，曰：“此良材也。”因请之，削以为琴，果有美音。而其尾焦，因名“焦尾琴”。

蔡邕尝至柯亭，以竹为椽。邕仰盼之，曰：“良竹也。”取以为笛，发声辽亮。一云邕告吴人曰：“吾昔尝经会稽高迁亭，见屋东间第十六竹椽，可为笛。”取用，果有异声。

卷十四

昔高阳氏，有同产而为夫妇，帝放之于崦嵫之野，相抱而死。神鸟以不死草覆之，七年，男女同体而生，二头，四手足，是为蒙双氏。

高辛氏，有老妇人居于王宫，得耳疾历时。医为挑治，出顶虫，大如茧。妇人去后，置以瓠中，覆之以盘，俄尔顶虫乃化为犬，其文五色，因名“盘瓠”，遂畜之。时戎吴强盛，数侵边境。遣将征讨，不能擒胜。乃募天下有能得戎吴将军首者，购金千斤，封邑万户，又赐以少女。后盘瓠衔得一头，将造王阙。王诊视之，即是戎吴。为之奈何？群臣皆曰：“盘瓠是畜，不可官秩，又不可妻。虽有功，无施也。”少女闻之，启王曰：“大王既以我许天下矣。盘瓠衔首而来，为国除害，此天命使然，岂狗之智力哉。王者重言，霸者重信，不可以女子微躯，而负明约于天下，国之祸也。”王惧而从之。令少女从盘瓠。盘瓠将女上南山，草木茂盛，无人行迹。于是女解去衣裳，为仆竖之结，著独力之衣，随盘瓠升山入谷，止于石室之中。王悲思之，遣往视觅，天辄风雨，岭震云晦，往者莫至。盖



经三年，产六男六女。盘瓠死后，自相配偶，因为夫妇。织绩木皮，染以草实，好五色衣服，裁制皆有尾形。后母归，以语王，王遣使迎诸男女，天不复雨。衣服褊褊，言语侏离，饮食蹲踞，好山恶都。王顺其意，赐以名山广泽，号曰“蛮夷”。蛮夷者，外痴内黠，安土重旧，以其受异气于天命，故待以不常之律。田作贾贩，无关繻符传租税之赋。有邑君长，皆赐印绶。冠用獬皮，取其游食于水。今即梁、汉、巴、蜀、武陵、长沙、庐江郡夷是也。用糝杂鱼肉，叩槽而号，以祭盘瓠，其俗至今。故世称“赤髀横裙，盘瓠子孙”。

乘离国王侍婢有娠，王欲杀之，婢曰：“有气如鸡子，从天来下，故我有娠。”后生子，捐之猪圈中，猪以喙嘘之，徙至马枥中，马复以气嘘之，故得不死。王疑以为天子也，乃令其母收畜之，名曰“东明”。常令牧马。东明善射，王恐其夺己国也，欲杀之。东明走，南至施掩冰，以弓击水，鱼鳖浮为桥，东明得渡。鱼鳖解散，追兵不得渡。因都王夫余。

古徐国宫人，娠而生卵，以为不祥，弃之水滨。有犬名“鹄苍”，衔卵以归，遂生儿，为徐嗣君。后鹄苍临死，生角而九尾，实黄龙也。葬之徐里中。见有狗堊在焉。

斗伯比父早亡，随母归，在舅姑之家。后长大，乃奸妘子之女，生子文。其妘子妻，耻女不嫁而生子，乃弃于山中。妘子游猎，见虎乳一小儿，归与妻言。妻曰：“此是我女与伯比私通，生此小儿。我耻之，送于山中。”妘子乃迎归养之，配其女与伯比。楚人因呼子文为“谷乌菟”。仕至楚相也。

齐惠公之妾萧同叔子，见御有身。以其贱，不敢言也。取薪而生顷公于野，又不敢举也。有狸乳而鸛覆之，人见而收，因名曰“无野”。是为顷公。

袁剑者，羌豪也。秦时，拘执为奴隶，后得亡去。秦人追之急迫，藏于穴中。秦人焚之，有景象如虎，来为蔽，故得不死。诸羌神之，推以为君。其后种落炽盛。

后汉定襄太守窦奉妻，生子武，并生一蛇。奉送蛇于野中。及武长大，有海内俊名。母死将葬，未窆，宾客聚集。有大蛇从林草中出，径来棺下，委地俯仰，以头击棺，血涕并流，状若哀恸，有顷而去。时人知为窦氏之祥。

晋怀帝永嘉中，有韩媪者，于野中见巨卵，持归育之，得婴儿，字曰“獬儿”。方四岁，刘渊筑平阳城不就，募能城者。獬儿应募。因变为蛇，令媪遗灰志其后。谓媪曰：“凭灰筑城，城可立就。”竟如所言。渊怪之，遂投入山穴间，露尾数寸，使者斩之，忽有泉出穴中，汇为池，因名“金龙池”。

元帝永昌中，暨阳人任谷，因耕息于树下。忽有一人，著羽衣，就淫之。既而不如所在，谷遂有妊。积月将产，羽衣人复来，以刀穿其阴下，出一蛇子，便去。谷遂成宦者，诣阙自陈，留于宫中。

旧说，太古之时，有大人远征，家无余人，唯有一女。牡马一匹，女亲养之。穷居幽处，思念其父，乃戏马曰：“尔能为我迎得父还，吾将嫁汝。”马既承此言，乃绝疆而去，径至父所。父见马惊喜，因取而乘之。马望所自来，悲鸣不已。父曰：“此马无事如此，



我家得无有故乎？”亟乘以归。为畜生有非常之情，故厚加刍养。马不肯食。每见女出入，辄喜怒奋击。如此非一。父怪之，密以问女，女具以告父，必为是故。父曰：“勿言，恐辱家门。且莫出入。”于是伏弩射杀之，暴皮于庭。父行，女与邻女于皮所戏，以足蹙之曰：“汝是畜生，而欲取人为妇耶？即招此屠剥，如何自苦？”言未及竟，马皮蹶然而起，卷女以行。邻女忙迫，不敢救之，走告其父。父还，求索，已失之。后经数日，得于大树枝间，女及马皮，尽化为蚕，而绩于树上。其蚕纶理厚大，异于常蚕。邻妇取而养之，其收数倍。因名其树曰“桑”。桑者，丧也。由斯百姓竞种之，今世所养是也。言桑蚕者，是古蚕之余类也。案《天官》，辰为马星。《蚕书》曰：“月当大火，则浴其种。”是蚕与马同气也。《周礼·夏官·马质》“禁原蚕者”注云：“物莫能两大。禁原蚕者，为其伤马也。”汉礼，皇后亲采桑，祀蚕神，曰：“菀窋妇人，寓氏公主。”公主者，女之尊称也；菀窋妇人，先蚕者也。故今世或谓蚕为女儿者，是古之遗言也。

羿请不死之药于西王母，嫦娥窃之以奔月。将往，枚筮之于有黄。有黄占之曰：“吉。翩翩归妹，独将西行。逢天晦芒，毋恐毋惊，后且大昌。”嫦娥遂托身于月，是为蟾蜍。

舌堙山，帝之女死，化为怪草，其叶郁茂，其华黄色，其实如兔丝。故服怪草者，恒媚于人焉。

荣阳县南百余里，有兰岩山，峭拔千丈。常有双鹤，素羽皦然，日夕偶影翔集。相传云：“昔有夫妇，隐此山数百年，化为双鹤，不绝往来。忽一旦，一鹤为人所害，其一鹤，岁常哀鸣。至今响动岩谷，莫知其年岁也。”

豫章新喻县男子，见田中有六七女，皆衣毛衣。不知是鸟。匍匐往，得其一女所解毛衣，取藏之。即往就诸鸟，诸鸟各飞去，一鸟独不得去，男子取以为妇，生三女。其母后使女问父，知衣在积稻下，得之，衣而飞去。后复以迎三女，女亦得飞去。

汉灵帝时，江夏黄氏之母，浴盆水中，久而不起，变为鼃矣。婢惊走告。比家人来，鼃转入深渊。其后时时出现。初浴簪一银钗，犹在其首。于是黄氏累世不敢食鼃肉。

魏黄初中，清河宋士宗母，夏天于浴室里浴，遣家中大小悉出，独在室中良久。家人不解其意，于壁穿中窥之，不见人体，见盆水中有一大鳖。遂开户，大小悉入，了不与人相承。尝先著银钗，犹在头上。相与守之啼泣，无可奈何。意欲求去，永不可留。视之积日，转懈，自捉出户外，其去甚驶，逐之不及，遂便入水。后数日，忽还。巡行宅舍，如平生，了无所言而去。时人谓士宗应行丧治服。士宗以母形虽变，而生理尚存，竟不治丧。此与江夏黄母相似。

吴孙皓宝鼎元年六月晦，丹阳宣慰母，年八十矣，亦因洗浴，化为鼃。其状如黄氏。寡兄弟四人，闭户卫之。掘堂上作大坎，泻水其中。鼃入坎游戏，一二日间，恒延颈外望。伺户小开，便轮转自跃，入于深渊。遂不复还。

汉献帝建安中，东郡民家有怪。无故瓮器自发，訇訇作声，若有人击。盘案在前，忽然便失。鸡生子，辄失去。如是数岁，人甚恶之。乃多作美食，覆盖，若一室中。阴藏户



间，窥伺之。果复重来，发声如前。闻便闭户，周旋室中，了无所见。乃暗以杖挝之，良久，于室隅间有所中。便闻呻吟之声曰：“哺，哺，宜死。”开户视之，得一老翁，可百余岁，言语了不相当，貌状颇类于兽。遂行推问，乃于数里外得其家，云：“失来十余年。”得之哀喜。后岁余，复失之。闻陈留界复有怪如此，时人咸以为此翁。

卷十五

秦始皇时，有王道平，长安人也。少时，与同村人唐叔偕女，小名父喻，容色俱美，誓为夫妇。寻王道平被差征伐，落堕南国，九年不归。父母见女长成，即聘与刘祥为妻。女与道平言誓甚重，不肯改事。父母逼迫不免，出嫁刘祥。经三年，忽忽不乐，常思道平，忿怨之深，悒悒而死。死经三年，平还家，乃诘邻人：“此女安在？”邻人云：“此女意在于君，被父母凌逼，嫁与刘祥。今已死矣。”平问：“墓在何处？”邻人引往墓所。平悲号哽咽，三呼女名，绕墓悲苦，不能自止。平乃祝曰：“我与汝立誓天地，保其终身。岂料官有牵缠，致令乖隔，使汝父母与刘祥；既不契于初心，生死永诀。然汝有灵圣，使我见汝生平之面。若无神灵，从兹而别。”言讫，又复哀泣。逡巡，其女魂自墓出，问平：“何处而来？良久契阔。与君誓为夫妇，以结终身，父母强逼，乃出聘刘祥，已经三年，日夕忆君，结恨致死，乖隔幽途。然念君宿念不忘，再求相慰，妾身未损，可以再生，还为夫妇。且速开冢破棺，出我即活。”平审言，乃启墓门，扣看其女，果活。乃结束随平还家。其夫刘祥，闻之惊怪，上诉于州县。检律断之，无条，乃录状奏王。王断归道平为妻。寿一百三十岁。实谓精诚贯于天地，而获感应如此。

晋武帝世，河间郡有男女私悦，许相配适。寻而男从军，积年不归。女家更欲适之。女不愿行，父母逼之，不得已而去。寻病死。其男戍还，问女所在。其家具说之，乃至冢，欲哭之叙哀，而不胜其情。遂发冢开棺，女即苏活，因负还家。将养数日，平复如初。后夫闻，乃往求之。其人不还，曰：“卿妇已死，天下岂闻死人可复活耶？此天赐我，非卿妇也。”于是相讼。郡县不能决，以谳廷尉。秘书郎王导奏：“以精诚之至，感于天地，故死而更生。此非常事，不得以常礼断之。请还开冢者。”朝廷从其议。

汉献帝建安中，南阳贾偶，字文合，得病而亡。时有吏将诣太山，司命阅簿，谓吏曰：“当召某郡文合，何以召此人，可速遣之。”时日暮，遂至郭外树下宿。见一少女独行，文合问曰：“子类衣冠，何乃徒步？姓氏为谁？”女曰：“某三河人，父见为弋阳令，昨被召来，今却得还。遇日暮，惧获瓜田李下之讥。望君之容，必是贤者，是以停留，依凭左右。”文合曰：“悦子之心，愿交欢于今夕。”女曰：“闻之诸姑，女子以贞专为德，洁白为称。”文合反复与言，终无动志，天明各去。文合卒已再宿，停丧将殓，视其面有色，扣心下稍温，少顷却苏。后文合欲验其实，遂至弋阳，修刺谒令，因问曰：“君女宁卒而却苏耶？”具说女子资质服色、言语相反复本末。令人问女，所言皆同。乃大惊叹，竟以



此女配文合焉。

汉建安四年二月，武陵充县妇人李娥，年六十岁，病卒，埋于城外，已十四日。娥比舍有蔡仲，闻娥富，谓蔡仲当有金宝，乃盗发冢求金。以斧剖棺。斧数下，娥于棺中言曰：“蔡仲，汝护我头！”仲惊遽，便出走。会为县吏所见，遂收治，依法，当弃市。娥儿闻母活，来迎出，将母回去。武陵太守闻娥死复生，召见，问事状，娥对曰：“闻谬为司命所召，到时得遣出。过西门外，适见外兄刘文，惊相劳问，涕泣悲哀。娥语曰：‘刘文，我一日误为所召，今得遣归，既不知道，不能独行，为我得一伴否？又我见召，在此已十余日，形体又为家人所葬埋，归当那得自出？’刘文曰：‘当为问之。’即遣门卒与尸曹相问：‘司命一日误召武陵女子李娥，今得遣还。娥在此积日，尸，丧又当殡殓，当作何等得出？又女弱独行，岂当有伴耶？是吾外妹，幸为便安之。’答曰：‘今武陵西界，有男子李黑，亦得遣还，便可为伴。兼敕黑过娥比舍蔡仲，发出娥也。’于是娥遂得出，与刘文别。刘文曰：‘书一封，以与儿佗。’娥遂与黑俱归。事状如此。”太守闻之，慨然叹曰：“天下事真不可知也。”乃表以为：“蔡仲虽发冢，为鬼神所使，虽欲无发，势不得已，宜加宽宥。”诏书报可。太守欲验语虚实，即遣马吏于西界推问李黑，得之，与黑语协。乃致伯文书与佗。佗识其纸，乃是父亡时送箱中文书也。表文字犹在也，而书不可晓。乃请费长房读之，曰：“告佗，我当从府君出案行部，当以八月八日辰中时，武陵城南沟水畔顿，汝是时必往。”到期，悉将大小于城南待之。须臾果至。但闻人马隐隐之声，诣沟水，便闻有呼声曰：“佗来，汝得我所寄李娥书不耶？”曰：“即得之，故来至此。”伯文以次呼家中大小，久之，悲伤断绝，曰：“死生异路，不能数得汝消息。吾亡后，儿孙乃尔许大。”良久，谓佗曰：“来春大病，与此一九药，以涂门户，则辟来年妖病矣。”言訖忽去，竟不得见其形。至来春，武陵果大病，白日皆见鬼，唯伯文之家，鬼不敢问。费长房视药丸曰：“此方相脑也。”

汉陈留考城史均，字威明，年少时，尝病，临死，谓母曰：“我死当复生。埋我，以竹杖柱于瘞上，若杖折，掘出我。”及死，埋之，柱如其言。七日往视，杖果折，即掘出之。已活，走至井上浴，平复如故。后与邻船至下邳卖锄，不时售，云：“欲归。”人不信之，曰：“何有千里暂得归耶？”答曰：“一宿便还。”即书取报，以为验实。一宿便还，果得报。考城令江夏郾贾和姊病在邻里，欲急知消息，请往省之，路遥三千，再宿还报。

会稽贺瑀字彦瑜，曾得疾，不知人，惟心下温，死三日，复苏。云：“吏人将上天，见官府。入曲房，房中有层架。其上层有印，中层有剑，使瑀惟意所取，而短不及上层，取剑以出。门吏问何得，云：‘得剑。’曰：‘恨不得印，可策百神。剑，惟得使社公耳。’”疾愈，果有鬼来，称社公。

戴洋字国流，吴兴长城人。年十二，病死，五日而苏，说：“死时，天使其酒藏吏，授符笈，给吏从幡麾，将上蓬萊、昆仑、积石、太室、庐、衡等山。既而遣归。”妙解占候，知吴将亡，托病不仕，还乡里。行至濊乡，经老子祠，皆是洋昔死时所见使处，但不



复见昔物耳。因问守藏应凤曰：“去二十余年，尝有人乘马东行，经老君祠而不下马，未达桥，坠马死者否？”凤言有之。所问之事，多与洋同。

吴临海松阳人柳荣，从吴相张悌至扬州。荣病死船中二日，军士已上岸，无有埋之者。忽然大叫言：“人缚军师！人缚军师！”声甚激扬，遂活。人问之。荣曰：“上天北斗门下，卒见人缚张悌，意中大愕，不觉大叫言：‘何以缚军师！’门下人怒荣，叱逐使去。荣便怖惧，口余声发扬耳。”其日悌即战死。荣至晋元帝时犹存。

吴国富阳人马势妇，姓蒋。村人应病死者，蒋辄忧惚熟眠经日，见病人死，然后省觉。觉则具说，家中人不信之。语人云：“某中病，我欲杀之，怒强魂难杀，未即死。我入其家内，架上有白米饭，几种鲑。我暂过灶下戏，婢无故犯我，我打其脊，使婢当时闷绝，久之乃苏。”其兄病，有乌衣人令杀之，向其请乞，终不下手。醒乃语兄云：“当活。”

晋咸宁二年十二月，琅邪颜畿字世都，得病，就医张遂自治，死于张家。棺敛已久。家人迎丧，施每绕树木而不可解。人咸为之感伤。引丧者忽颠仆，称畿言曰：“我寿命未应死，但服药太多，伤我五脏耳。今当复活，慎无葬也。”其父拊而祝之曰：“若尔有命，当复更生，岂非骨肉所愿？今但欲还家，不尔葬也。”施乃解。及还家，其妇梦之曰：“吾当复生，可急开棺。”妇便说之。其夕，母及家人又梦之。即欲开棺，而父不听。其弟舍，时尚少，乃慨然曰：“非常之事，自古有之。今灵异至此，开棺之痛，孰与不开相负。”父母从之，乃共发棺，果有生验，以手刮棺，指爪尽伤，然气息甚微，存亡不分矣。于是急以绵饮沥口，能咽，遂与出之。将护累月，饮食稍多，能开目视瞻，屈伸手足，不与人相当。不能言语，饮食所须，托之以梦。如此者十余年，家人疲于供护，不复得操事。舍乃弃绝人事，躬亲侍养，以知名州党。后更衰劣，卒复还死焉。

羊祜年五岁时，令乳母取所弄金钁。乳母曰：“汝先无此物。”祜即诣邻人李氏东垣桑树中，探得之。主人惊曰：“此吾亡儿所失物也。云何持去！”乳母具言之。李氏悲惋。时人异之。

汉末，关中大乱，有发前汉宫人冢者，宫人犹活。既出，平复如旧。魏郭后爱念之，录置宫内，常置左右，问汉时宫中事，说之了了，皆有次绪。郭后崩，哭泣过哀，遂死。

魏时，太原发冢破棺，棺中有一生妇人。将出与语，生人也。送之京师。问其本事，不知也。视其冢上树木，可三十岁。不知此妇人，三十岁常生于地中耶？将一朝欻生，偶与发冢者会也？

晋世杜锡，字世猷，家葬而婢误不得出。后十余年，开冢附葬，而婢尚生。云：“其始如瞑目，有顷渐觉。”问之，自谓当一再宿耳。初婢埋时，年十五六。及开冢后，姿质如故。更生十五六年，嫁之有子。

汉恒帝冯贵人病亡。灵帝时，有盗贼发冢，七十余年，颜色如故，但肉小冷。群贼共奸通之，至斗争相杀，然后事觉。后窦太后家被诛，欲以冯贵人配食。下邳陈公达议：“以贵人虽是先帝所幸，尸体秽污，不宜配至尊。”乃以窦太后配食。



吴孙休时，成将于广陵掘诸冢，取版以治城，所坏甚多。复发一大冢，内有重阁，户扇皆枢转，可开闭，四周为徽道，通车，其高可以乘马。又铸铜人数十，长五尺，皆大冠朱衣，执剑，侍列灵坐。皆刻铜人，背后石壁，言殿中将军，或言侍郎、常侍，似公侯之冢。破其棺，棺中有人，发已斑白，衣冠鲜明，面体如生人。棺中云母厚尺许，以白玉璧三十枚藉尸。兵人辈共举出死人，以倚冢壁。有一玉，长尺许，形似冬瓜，从死人怀中透出，堕地。两耳及孔鼻中，皆有黄金，如枣许大。

汉广川王好发冢。发索书冢，其棺枢明器，悉毁烂无余。唯有一白狐，见人惊走。左右逐之，不得，戟伤其左足。是夕，王梦一丈夫，须眉尽白，来谓王曰：“何故伤吾左足？”乃以杖叩王左足，王觉肿痛，即生疮。至死不差。

卷十六

昔颍项氏有三子，死而为疫鬼：一居江水，为虐鬼；一居若水，为魍魉鬼；一居人宫室，善惊小儿，为小鬼。于是正岁命方相氏，帅肆帷以驱疫鬼。

挽歌者，丧家之乐，执紼者相和之声也。挽歌辞有《薤露》、《蒿里》二章，汉田横门人作。横自杀，门人伤之，悲歌。言人如薤上露，易稀灭。亦谓人死精魂归于蒿里。故有二章。

阮瞻字千里，素执无鬼论，物莫能难。每自谓此理足以辨正幽明。忽有客通名诣瞻，寒温毕，聊谈名理。客甚有才辨。瞻与之言良久，及鬼神之事，反复甚苦。客遂屈，乃作色曰：“鬼神古今圣贤所共传，君何得独言无？即仆便是鬼。”于是变为异形，须臾消灭。瞻默然，意色太恶。岁余，病卒。

吴兴施续为寻阳督，能言论。有门生，亦有理意，常乘无鬼论。忽有一黑衣白袷客来，与共语，遂及鬼神。移日，客辞屈，乃曰：“君辞巧，理不足。仆即是鬼，何以云无？”问：“鬼何以来？”答曰：“受使来取君，期尽明日食时。”门生请乞酸苦。鬼问：“有人似君者否？”门生云：“施续帐下都督，与仆相似。”便与俱往，与都督对坐。鬼手中出一铁凿，可尺余，安著都督头，便举椎打之。都督云：“头觉微痛。”向来转剧，食顷便亡。

蒋济字子通，楚国平阿人也。仕魏，为领军将军。其妇梦见亡儿，涕泣曰：“死生异路。我生时为卿相子孙，今在地下为泰山伍伯，憔悴困苦，不可复言。今太庙西巫士孙阿，见召为泰山令，愿母为白侯，属阿，令转我得乐处。”言訖，母忽然惊寤。明日以白济。济曰：“梦为虚耳，不足怪也。”日暮，复梦曰：“我来迎新君，止在庙下。未发之顷，暂得来归。新君明日日中当发，临发多事，不复得归。永辞于此。侯气强，难感悟，故自诉于母。愿重启侯，何惜不一试验之。”遂道阿之形状，言甚备悉。天明，母重启济：“虽云梦不足怪，此何太适适。亦何惜不一验之。”济乃遣人诣太庙下，推问孙阿，果得之，



形状证验，悉如儿言。济涕泣曰：“几负吾儿。”于是乃见孙阿，具语其事。阿不惧当死，而喜得为泰山令，惟恐济言不信也，曰：“若如节下言，阿之愿也。不知贤子欲得何职？”济曰：“随地下乐者与之。”阿曰：“辄当奉教。”乃厚赏之。言訖，遣还。济欲速知其验，从领军门至庙下，十步安一人，以传消息。辰时传阿心痛，巳时传阿剧，日中传阿亡。济曰：“虽哀吾儿之不幸。且喜亡者有知。”后月余，儿复来，语母曰：“已得转为录事矣。”

汉不其县有孤竹城，古孤竹君之国也。灵帝光和元年，辽西人见辽水中有浮棺，欲斫破之，棺中人语曰：“我是伯夷之弟，孤竹君也。海水坏我棺槨，是以漂流。汝斫我何为？”人惧，不敢斫，因为立庙祠祀。吏民有欲发现者，皆无病而死。

温序字公次，太原祈人也，任护军校尉，行部至陇西，为隗嚣将所劫，欲生降之。序大怒，以节挝杀人。贼趋欲杀序，荀宇止之曰：“义士欲死节。”赐剑，令自裁。序受剑，衔须著口中，叹曰：“无令须污土。”遂伏剑死。更始怜之，送葬到洛阳城旁，为筑冢。长子寿，为印平侯，梦序告之曰：“久客思乡。”寿即弃官，上书乞骸骨归葬，帝许之。

汉南阳文颖，字叔长，建安中为甘陵府丞。过界止宿，夜三鼓时，梦见一人跪前曰：“昔我先人，葬我于此，水来湍墓，棺木溺，渍水处半，然无以自温。闻君在此，故来相依。欲屈明日暂住须臾，幸为相迁高燥处。”鬼披衣示颖，而皆沾湿。颖心怆然，即寤，语诸左右，曰：“梦为虚耳，亦何足怪。”颖乃还眠。向寐复梦见，谓颖曰：“我以穷苦告君，奈何不相憖悼乎？”颖梦中问曰：“子为谁？”对曰：“吾本赵人，今属汪芒氏之神。”颖曰：“子棺今何所在？”对曰：“近在君帐北十数步，水侧枯杨树下，即是吾也。天将明，不复得见，君必念之。”颖答曰：“喏。”忽然便寤。天明可发，颖曰：“虽云梦不足怪，此何太适。”左右曰：“亦何惜须臾，不验之耶？”颖即起，率十数人，将导顺水上，果得一枯杨，曰：“是矣。”掘其下，未几，果得棺。棺甚朽坏，没半水中。颖谓左右曰：“向闻于人，谓之虚矣。世俗所传，不可无验。”为移其棺，葬之而去。

汉九江何敞，为交州刺史，行部到苍梧郡高安县，暮宿鹄奔亭。夜犹未半，有一女从楼下出，呼曰：“妾姓苏，名娥，字始珠，本居广信县，修里人。早失父母，又无兄弟，嫁与同县施氏。薄命夫死，有杂缗帛百二十疋，及婢一人，名致富。妾孤穷羸弱，不能自振，欲之旁县卖缗，从同县男子王伯，赁车牛一乘，直钱万二千，载妾并缗，令致富执轡，乃以前年四月十日，到此亭外。于时日已向暮，行人断绝，不敢复进，因即留止。致富暴得腹痛，妾之亭长舍，乞浆取火。亭长龚寿，操戈持戟，来至车旁，问妾曰：‘夫人从何所来？车上所载何物？丈夫安在？何故独行？’妾应曰：‘何劳问之。’寿因持妾臂曰：‘少年爱有色，冀可也。’妾惧怖不从。寿即持刀刺肋下，一创立死。又刺致富，亦死。寿掘楼下，合埋妾在下，婢在上。取财物去。杀牛烧车，车缸及牛骨，贮亭东空井中。妾既冤死，痛感皇天，无所告诉，故来自归于明使君。”敞曰：“今欲发出汝尸，以何为验？”女曰：“妾上下著白衣，青丝履，犹未朽也。愿访乡里，以骸骨归死夫。”掘之果然。敞乃驰还，遣吏捕捉，拷问具服。下广信县验问。与娥语合。寿父母兄弟，悉捕系狱。敞表



寿：“常律杀人，不至族诛。然寿为恶首，隐密数年，王法自所不免。令鬼神诉者，千载无一。请皆斩之，以明鬼神，以助阴诛。”上报听之。

濡须口有大船，船覆在水中，水小时，便出见。长老云：“是曹公船。”尝有渔人，夜宿其旁，以船系之，但闻竿笛弦歌之音，又香气非常。渔人始得眠，梦人驱遣云：“勿近官妓。”相传云曹公载妓船覆于此，至今在焉。

夏侯惇字万仁，因病死。宗人儿荀奴，素见鬼。见惇数归，欲取马，并病其妻，著平上帻，单衣，入坐生时西壁大床，就人觅茶饮。

诸仲务一女显姨，嫁为米元宗妻，产亡于家。俗闻产亡者，以墨点画。其母不忍，仲务密自点之，无人见者。元宗为始新县丞，梦其妻来上床，分明见新白妆面上有黑点。

晋世新蔡王昭，平轸车在厅事上，夜，无故自入斋室中，触壁而出。后又数闻呼噪攻击之声，四面而来。昭乃聚众，设弓弩战斗之备，指声弓弩俱发，而鬼应声接矢数枚，皆倒入土中。

吴赤乌三年，句章民杨度至余姚。夜行，有一年少，持琵琶，求寄载。度受之。鼓琵琶数十曲，曲毕，乃吐舌擘目，以怖度而去。复行二十里许，又见一老父。自云姓王名戒。因复载之。谓曰：“鬼工鼓琵琶，甚哀。”戒曰：“我亦能鼓。”即是向鬼。复擘眼吐舌，度怖几死。

琅琊秦巨伯，年六十，尝夜行饮酒，道经蓬山庙。忽见其两孙迎之，扶持百余步，便促伯颈著地，骂：“老奴，汝某日捶我，我今当杀汝。”伯思惟某时信捶此孙。伯乃佯死，乃置伯去。伯归家，欲治两孙。两孙惊惋，叩头言：“为子孙，宁可有此。恐是鬼魅，乞更试之。”伯意悟。数日，乃诈醉，行此庙间。复见两孙来，扶持伯。伯乃急持，鬼动作不得。达家，乃是两人也。伯著火炙之，腹背俱焦拆。出著庭中，夜皆亡去。伯恨不得杀之。后月余，又伴酒醉夜行，怀刃以去。家不知也。极夜不还，其孙恐又为此鬼所困，乃俱往迎伯，伯竟刺杀之。

汉武建元元年，东莱人姓池，家常作酒。一日见三奇客，共持面饭至，索其酒饮，饮竟而去。顷之，有人来，云见三鬼酣醉于林中。

吴先主杀卫兵钱小小，形见大街，顾借赁人吴永，使永送书与街南庙，借木马二匹，以酒喂之，皆成好马，鞍勒俱全。

南阳宋定伯，年少时，夜行逢鬼。问之，鬼言：“我是鬼。”鬼问：“汝复谁？”定伯诳之，言：“我亦鬼。”鬼问：“欲至何所？”答曰：“欲至宛市。”鬼言：“我亦欲至宛市。”遂行数里。鬼言：“步行太迟，可共递相担，何如？”定伯曰：“大善。”鬼便先担定伯数里。鬼言：“卿太重，将非鬼也？”定伯言：“我新鬼，故身重耳。”定伯因复担鬼，鬼略无重。如是再三。定伯复言：“我新鬼，不知有何所畏忌？”鬼答言：“惟不喜人唾。”于是共行，道遇水，定伯令鬼先渡，听之，了然无声音。定伯自渡，漉漉作声。鬼复言：“何以有声？”定伯曰：“新死，不习渡水故耳。勿怪吾也。”行欲至宛市，定伯便担鬼着肩上，急



执之，鬼大呼，声咋咋然，索下，不复听之。径至宛市中，下著地，化为一羊，便卖之。恐其变化，唾之。得钱千五百乃去。当时石崇有言：“定伯卖鬼，得钱千五。”

吴王夫差小女，名曰紫玉，年十八，才貌俱美。童子韩重，年十九，有道术。女悦之，私交信问，许为之妻。重学于齐鲁之间，临去，属其父母，使求婚。王怒，不与女。玉结气死，葬阊门之外。三年重归，诘其父母，父母曰：“王大怒，玉结气死，已葬矣。”重哭泣哀恻，具牲币，往吊于墓前。玉魂从墓出，见重，流涕谓曰：“昔尔行之后，令二亲从王相求，度必克从大愿。不图别后，遭命奈何！”玉乃左顾宛颈而歌曰：“南山有乌，北山张罗。乌既高飞，罗将奈何！意欲从君，谗言孔多。悲结生疾，没命黄垆。命之不造，冤如之何！羽族之长，名为凤凰。一日失雄，三年感伤。虽有众鸟，不为匹双。故见鄙姿，逢君辉光。身远心近，何当暂忘。”歌毕，歔歔流涕，要重还家。重曰：“死生异路。惧有尤愆，不敢承命。”玉曰：“死生异路，吾亦知之。然今一别，永无后期。子将畏我为鬼而祸子乎？欲诚所奉，宁不相信。”重感其言，送之还家。玉与之饮宴，留三日三夜，尽夫妇之礼。临出，取径寸明珠以送重，曰：“既毁其名，又绝其愿，复何言哉！时节自爱。若至吾家，致敬大王。”重既出，遂诣王，自说其事。王大怒曰：“吾女既死，而重造讹言，以玷秽亡灵。此不过发冢取物，托以鬼神。”趣收重。重走脱，至玉墓所诉之。玉曰：“无忧。今归白王。”王妆梳，忽见玉，惊愕悲喜，问曰：“尔缘何生？”玉跪而言曰：“昔诸生韩重，来求玉，大王不许，玉名毁义绝，自致身亡。重从远还，闻玉已死，故赍牲币，诸家吊唁。感其笃终，辄与相见，因以珠遗之。不为发冢，愿勿推治。”夫人闻之，出而抱之，玉如烟然。

陇西辛道度者，游学至雍州城四五里，比见一大宅，有青衣女子在门。度诣门下求餐。女子入告秦女，女命召入。度趋入阁中，秦女于西榻而坐。度称姓名，叙起居，既毕，命东榻而坐。即治饮饌。食讫，女谓度曰：“我秦闵王女，出聘曹国，不幸无夫而亡。亡来已二十三年，独居此宅。今日君来，愿为夫妇。”经三宿三日后，女即自言曰：“君是生人，我鬼也。共君宿契，此会可三宵，不可久居，当有祸矣。然兹信宿，未悉绸缪，既已分飞，将何表信于郎？”即命取床后盒子开之，取金枕一枚，与度为信。乃分袂泣别，即遣青衣送出门外。未逾数步，不见舍宇，惟有一冢。度当时慌忙出走，视其金枕在怀，乃无异变。寻至秦国，以枕于市货之。恰遇秦妃东游，亲见度卖金枕，疑而索看，诘度何处得来？度具以告。妃闻，悲泣不能自胜。然尚疑耳。乃遣人发冢，启柩视之，原葬悉在，唯不见枕。解体看之，交情宛若，秦妃始信之。叹曰：“我女大圣，死经二十三年，犹能与生人交往，此是我真女婿也。”遂封度为驸马都尉，赐金帛车马，令还本国。因此以来，后人名女婿为“驸马”。今之国婿，亦为驸马矣。

汉谈生者，年四十，无妇，常感激读《诗经》。夜半，有女子年可十五六，姿颜服饰，天下无双，来就生，为夫妇。之言曰：“我与人不同，勿以火照我也。三年之后，方可照耳。”与为夫妇，生一儿，已二岁，不能忍，夜伺其寝后，盗照视之。其腰已上，生肉如



人，腰已下，但有枯骨。妇觉，遂言曰：“君负我。我垂生矣，何不能忍一岁而竟相照也？”生辞谢。涕泣不可复止，云：“与君虽大义永离，然顾念我儿，若贫不能自偕活者，暂随我去，方遣君物。”生随之去，入华堂室宇，器物不凡，以一珠袍与之，曰：“可以自给。”裂取生衣裾，留之而去。后生持袍诣市，睢阳王家买之，得钱千万。王识之曰：“是我女袍，那得在市？此必发冢。乃取拷之。生具以实对，王犹不信。乃视女冢，冢完如故。发视之，棺盖下果得衣裾，呼其儿视，正类王女。王乃信之。即召谈生，复赐遗之，以为女婿。表其儿为郎中。

卢充者，范阳人。家西三十里，有崔少府墓。充年二十，先冬至一日，出宅西猎戏。见一獐，举弓而射，中之。獐倒复起，充因逐之，不觉远。忽见道北一里许，高门瓦屋，四周有如府舍。不复见獐。门中一铃下唱：“客前。”充问：“此何府也？”答曰：“少府府也。”充曰：“我衣恶，那得见少府？”即有一人，提一襖新衣，曰：“府君以此遗郎。”充便著讫，进见少府，展姓名。酒炙数行，谓充曰：“尊府君不以仆门鄙陋，近得书，为君索小女婚，故相迎耳。”便以书示充。充父亡时虽小，然已识父手迹，即歛歔，无复辞免。便敕内：“卢郎已来，可令女郎妆严。”且语充云：“君可就东廊。”及至黄昏，内白：“女郎妆严已毕。”充既至东廊，女已下车，立席头，却共拜。时为三日，给食。三日毕，崔谓充曰：“君可归矣。女有娠相，若生男，当以相还，无相疑；生女，当留自养。”敕外严车送客。充便辞出。崔送至中门，执手涕零。出门，见一犊车，驾青衣，又见本所著衣及弓箭，故在门外。寻传教将一人，提襖衣与充，相问曰：“姻缘始尔，别甚怅恨，今复致衣一袭，被褥自副。”充上车，去如电逝。须臾至家，家人相见悲喜。推问，知崔是亡人而入其墓，追以懊惋。别后四年，三月三日，充临水戏，忽见水旁有二犊车，乍沉乍浮。既而近岸，同坐皆见。而充往开车后户，见崔氏女与三岁男共载。充见之忻然，欲捉其手。女举手指后车曰：“府君见人。”即见少府。充往问讯。女抱儿还充，又与金碗，并赠诗曰：“煌煌灵芝质，光丽何猗猗。华艳当时显，嘉异表神奇。含英未及秀，中夏罹霜萎。荣耀长幽灭，世路永无施。不悟阴阳运，哲人忽来仪。会浅离别速，皆由灵与祇。何以赠余亲？金碗可顾儿。恩爱从此别，断肠伤肝脾。”充取儿、碗及诗，忽然不见二车处。充将儿还，四坐谓是鬼魅，金遥唾之，形如故。问儿：“谁是汝父？”儿径就充怀。众初怪恶，传省其诗，慨然叹死生之玄通也。充后乘车入市卖碗。高举其价，不欲速售，冀有识。款有一老婢识此，还白大家曰：“市中见一人乘车，卖崔氏女郎棺中碗。”大家即崔氏亲姨母也。遣儿视之，果如其婢言。上车，叙姓名。语充曰：“昔我姨嫁少府，生女，未出而亡。家亲痛之，赠一金碗，著棺中。可说得碗本末。”充以事对。此儿亦为之悲咽。资还白母。母即令诣充家，迎儿视之。诸亲悉集。儿有崔氏之状，又复似充貌。儿、碗俱验，姨母曰：“我外甥三月末间产。父曰：‘春暖温也。愿休强也。’即字温休。温休者，盖幽婚也。其兆先彰矣。”儿遂成令器，历郡守二千石。子孙冠盖，相承至今。其后植，字子干，有名天下。



后汉时，汝南汝阳西门亭，有鬼魅。宾客止宿，辄有死亡。其厉厌者，皆亡发失精。寻问其故，云：“先时颇有怪物。其后郡侍奉掾宜禄郑奇来，去亭六七里，有一端正妇人，乞寄载。奇初难之，然后上车。入亭，趋至楼下。亭卒白：‘楼不可上。’奇云：‘吾不恐也。’时亦昏冥，遂上楼，与妇人栖宿。未明发去。亭卒上楼扫除，见一死妇，大惊。走白亭长。亭长击鼓，会诸庐吏，共集诊之。乃亭西北八里吴氏妇，新亡，夜临疾火灭，及火至，失之。其家即持去。奇发行数里，腹痛，到南顿利阳亭加剧，物故。楼遂无敢复上。”

颍川钟繇，字元常，尝数月不朝会，意性异常。或问其故，云：“常有好妇来，美丽非凡。”问者曰：“必是鬼物，可杀之。”妇人后往，不即前，止户外。繇问：“何以？”曰：“公有相杀意。”繇曰：“无此。”勤勤呼之，乃人。繇意恨，有不忍之心，然犹斫之，伤髀。妇人即出，以新绵拭血竟路。明日，使人寻迹之。至一大冢，木中有好妇人，形体如生人。著白练衫，丹绣襦裆。伤左髀，以襦裆中绵拭血。

卷十七

陈国张汉直，到南阳，从京兆尹延叔坚学《左氏传》。行后数月，鬼物持其妹，为之扬言曰：“我病死，丧在陌上，常苦饥寒。操二三量不借，挂屋后楮上；傅子方送我五百钱，在北塘下，皆亡取之。又买李幼一头牛，本券在书篋中。”往索取之，悉如其言。妇尚不知有此。妹新从婿家来，非其所及。家人哀伤，益以为审。父母诸弟，衰经到来迎丧，去舍数里，遇汉直与诸生十余人相追。汉直顾见家人，怪其如此。家见汉直，谓其鬼也，恠恠良久。汉直乃前为父拜。说其本末，且悲且喜。凡所闻见，若此非一，得知妖物为之。

汉陈留外黄范丹，字史云，少为尉从佐使，微谒督邮。丹有志节，自悲为厮役小吏。乃于陈留大泽中，杀所乘马，捐弃官帻，诈逢劫者。有神下其家曰：“我，史云也。为劫人所杀。疾取我衣于陈留大泽中。”家取得一帻。丹遂之南郡，转入三辅，从英贤游学。十三年乃归，家人不复识焉。陈留人高其志行，及没，号曰贞节先生。

吴人费季，久客于楚。时道多劫，妻常忧之。季与同辈旅宿庐山下，各相问出家几时。季曰：“吾去家已数年矣。临来，与妻别，就求金钗以行，欲观其志当与吾否耳。得钗，乃以著户楣上。临发，失与道。此钗故当在户上也。”尔夕，其妻梦季曰：“吾行遇盗，死已二年。若不信吾言，吾行时取汝钗，遂不以行，留在户楣上。可往取之。”妻觉，揣钗得之，家遂发丧。后一年余，季乃归还。

余姚虞定国，有好仪容。同县苏氏女，亦有美色。定国常见，悦之。后见定国来，主人留宿，中夜，告苏公曰：“贤女令色，意甚钦之。此夕能令暂出否？”主人以其乡里贵人，便令女出从之。往来渐数，语苏公云：“无以相报。若有官事，某为君任之。”主人



喜。自尔后，有役召事，往造定国。定国大惊，曰：“都未尝面命，何由便尔？此必有异。”具说之。定国曰：“仆宁肯请人之父而淫人之女。若复见来，便当斫之。”后果得怪。

吴孙皓世，淮南内史朱诞，字永长，为建安太守。诞给使妻有鬼病，其夫疑之为奸。后出行，密穿壁隙窥之。正见妻在机中织，遥瞻桑树上，向之言笑。给使仰视树上，有一年少人，可十四五，衣青衿袖，青幪头。给使以为信人也，张弩射之。化为鸣蝉，其大如箕，翔然飞去。妻亦应声惊曰：“噫！人射汝。”给使怪其故。后久时，给使见二小儿在陌上共语。曰：“何以不复见汝？”其一即树上小儿也，答曰：“前不遇，为人所射，病疮积时。”彼儿曰：“今何如？”曰：“赖朱府君梁上膏以傅之，得愈。”给使白诞曰：“人盗君膏药，颇知之否？”诞曰：“吾膏久致梁上，人安得盗之？”给使曰：“不然。府君视之。”诞殊不信。试为视之，封题如故。诞曰：“小人故妄言，膏自如故。”给使曰：“试开之。”则膏去半。为刮刮，见有趾迹。诞因大惊。乃详问之，具道本末。

吴时，嘉兴倪彦思，居县西埭里。忽见鬼魅入其家，与人语，饮食如人，惟不见形。彦思奴婢有窃骂大家者，云：“今当以语。”彦思治之，无敢言之者。彦思有小妻，魅从求之，彦思乃迎道士逐之。酒肴既设，魅乃取厕中草粪，布著其上。道士便盛击鼓，召请诸神。魅乃取虎，伏于神座上吹作角声音。有顷，道士忽觉背上冷，惊起解衣，乃伏虎也。于是道士罢去。彦思夜于被中窃与姬语，共患此魅。魅即屋梁上谓彦思曰：“汝与妇道吾，吾今当截汝屋梁。”即隆隆有声。彦思惧梁断，取火照视，魅即灭火。截梁声愈急，彦思惧屋坏，大小悉遣出，更取火视，梁如故。魅大笑，问彦思：“复道吾否？”郡中典农闻之曰：“此神正当是狸物耳。”魅即往谓典农曰：“汝取官司若干百斛谷，藏著某处。为吏污秽，而敢论吾。今当白于宫，将人取汝所盗谷。”典农大怖而谢之。自后无敢道者。三年后去，不知所去。

魏黄初中，顿丘界有人骑马夜行，见道中有一物，大如兔，两眼如镜，跳跃马前，令不得前。人遂惊惧，堕马。魅便就地捉之，惊怖暴死。良久得苏，苏已失魅，不知所去。乃更上马，前行数里，逢一人，相问讯已，因说：“向者事变如此，今相得为伴，甚欢。”人曰：“我独行，得君为伴，快不可言。君马行疾，且前，我在后相随也。”遂共行。语曰：“向者物何如？乃令君怖惧耶？”对曰：“其身如兔，两眼如镜，形甚可恶。”伴曰：“试顾视我耶？”人顾视之，犹复是也。魅便跳上马，人遂堕地，怖死。家人怪马独归，即行推索，乃于道边得之。宿昔乃苏，说状如是。

袁绍字本初，在冀州，有神出河东，号度朔君，百姓共为立庙。庙有主簿，大福。陈留蔡庸为清河太守，过谒庙。有子名道，亡已三十年。度朔君为庸设酒，曰：“贵子昔来，欲相见。”须臾，子来。度朔君自云父祖昔作兖州。有一士姓苏，母病往祷。主簿云：“君逢天士，留待。”闻西北有鼓声而君至。须臾，一客来，著皂角单衣，头上五色毛，长数寸。去后，复一人，著白布单衣，高冠，冠似鱼头，谓君曰：“昔临庐山共食白李，忆之未久，已三千岁。日月易得，使人怅然。”去后，君为士曰：“先来南海君也。”士是书生，



君明通五经，善《礼记》，与士论礼，士不如也。士乞救母病，君曰：“卿所居东有故桥，人坏之。此桥所行，卿母犯之。能复桥，便差。”曹公讨袁谭，使人从庙换千疋绢。群不与。曹公遣张郃毁庙。未至百里，君遣兵数万，方道而来。郃未达二里，云雾绕郃军，不知庙处。君语主簿：“曹公气盛，宜避之。”后苏并邻家有神下，识君声，云：“昔移入湖，阔绝三年。”乃遣人与曹公相闻：“欲修故庙，地衰不中居，欲寄往。”公曰：“甚善。”治城北楼以居之。数日，曹公猎，得物，大如麕，大足，色白如雪，毛软滑可爱，公以摩面，莫能名也。夜闻楼上哭云：“小儿出行不还。”公拊掌曰：“此子言真衰也。”晨将数百犬，绕楼下。犬得气，冲突内外，见有物大如驴，自投楼下，犬杀之，庙神乃绝。

临川陈臣家大富。永初元年，臣在斋中坐，其宅内有一町筋竹，白日忽见一人，长丈余，面如方相，从竹中出，诮语陈臣：“我在家多年，汝不知，今辞汝去，当令汝知之。”去一月许日，家大失火，奴婢顿死。一年中，便大贫。

东莱有一家，姓陈，家百余口。朝炊，釜不沸。举甑看之，忽有一白头公，从釜中出。便诣师卜。卜云：“此大怪，应灭门。便归，大作械。械成，使置门壁下，坚闭门在内，有马骑庵盖来扣门者，慎勿应。”乃归，合手伐得百余械，置门屋下。果有人至，呼不应。主帅大怒，令缘门入。从人窥门内，见大小械百余。出门还说如此。帅大惶愧，语左右云：“教速来，不速来，遂无一人当去，何以解罪也？从此北行，可八十里，有一百三口，取以当之。”后十日，此家死亡都尽。此家亦姓陈云。

晋惠帝永康元年，京师得异鸟，莫能名。赵王伦使人持出，周旋城邑市以问人。即日，宫西有一小儿见之，遂自言曰：“服留鸟。”持者还白伦。伦使更求，又见之，乃将入宫，密笼鸟，并闭小儿于户中。明日往视，悉不复见。

南康郡南东望山，有三人入山，见山顶有果树，众果毕植，行列整齐，如人行。甘子正熟，三人共食，致饱，乃怀二枚，欲出示人。闻空中语云：“催放双甘，乃听汝去。”

秦瞻居曲阿彭皇野，忽有如蛇，突入其脑中。蛇来，先闻臭气，便于鼻中入，盘其头中，觉哄哄，仅闻其脑间食声啞啞，数日而出。寻复来，取手巾缚鼻口，亦被入。积年无他病，唯患头痛。

卷十八

魏景初中，咸阳县吏王臣家，有怪，无故闻拍手相呼，伺无所见。其母夜作倦，就枕寢息，有顷，复闻灶下有呼声曰：“文约，何以不来？”头下枕应曰：“我见枕，不能往。汝可来就我饮。”至明，乃饭缶也。即聚烧之，其怪遂绝。

魏郡张奋者，家本巨富，忽衰老财散，遂卖宅与程应。应入居，举家病疾，转卖邻人何文。文先独持大刀，暮入北堂中梁上。至三更竟，忽有一人，长丈余，高冠黄衣，升堂呼曰：“细腰。”细腰应喏。曰：“舍中何以有生人气也？”答曰：“无之。”便去。须臾，有



一高冠青衣者，次之，又有高冠白衣者。问答并如前。及将曙，文乃下堂中，如向法呼之，问曰：“黄衣者为谁？”曰：“金也。在堂西壁下。”“青衣者为谁？”曰：“钱也，在堂前井边五步。”“白衣者为谁？”曰：“银也。在墙东北角柱下。”“汝复为谁？”曰：“我，杵也。今在灶下。”及晓，文按次掘之，得金银五百斤，钱千万贯，仍取杵焚之。由此大富，宅遂清宁。

秦时，武都故道有怒特祠，祠上生梓树。秦文公二十七年，使人伐之，辄有大风雨。树创随合，经日不断。文公乃益发卒，持斧者至四十人，犹不断。士疲还息，其一人伤足，不能行，卧树下，闻鬼语树神曰：“劳乎攻哉？”其一人曰：“何足为劳。”又曰：“秦公将必不休，如之何？”答曰：“秦公其如予何。”又曰：“秦若使三百人被发，以朱丝绕树，赭衣灰塗伐汝，汝得不困耶？”神寂无言。明日，病人语所闻。公于是令人皆衣赭，随斫创，塗以灰。树断，中有一青牛出，走入豐水中。其后青牛出豐水中，使骑击之，不胜。有骑堕地复上，髻解被发，牛畏之，乃入水，不敢出。故秦自是置旄头骑。

庐江龙舒县陆亭，流水边有一大树，高数十丈，常有黄鸟数千枚巢其上。时久旱，長老共相谓曰：“彼树常有黄气，或有神灵，可以祈雨。”因以酒脯往。亭中有寡妇李宪者，夜起，室中忽见一妇人，著绣衣，自称曰：“我，树神黄祖也，能兴云雨，以汝性洁，佐汝为生。朝来父老皆欲祈雨，吾已求之于帝，明日日中大雨。”至期果雨。遂为立祠。宪曰：“诸卿在此。吾居近水，当致少鲤鱼。”言讫，有鲤鱼数十头，飞集堂下。坐者莫不惊悚。如此岁余，神曰：“将有大兵，今辞汝去。”留一玉环，曰：“持此可以避难。”后刘表、袁术相攻，龙舒之民皆徙去，唯宪里不被兵。

魏桂阳太守江夏张辽，字叔高，去鄢陵，家居买田。田中有大树十余围，枝叶扶疏，盖地数亩，不生谷，遣客伐之。斧数下，有赤汁六七斗出。客惊怖，归白叔高。叔高大怒曰：“树老汁赤，如何得怪！”因自严行，复斫之，血大流洒。叔高使先斫其枝，上有一空处，见白头公，可长四五尺，突出，往赴叔高，高以刀逆格之。如此凡杀四五头，并死。左右皆惊怖伏地，叔高神虑怡然如旧。徐熟视，非人非兽。遂伐其木。此所谓“木石之怪，夔、魍魎”者乎？是岁，应司空辟侍御史、兖州刺史。以二千石之尊，过乡里，荐祝祖考，白日绣衣荣蒺，竟无他怪。

吴先主时，陆敬叔为建安太守，使人伐大樟树，不数斧，忽有血出。树断，有物人面狗身，从树中出。敬叔曰：“此名‘彭侯’。”乃烹食之，其味如狗。《白泽图》曰：“木之精名‘彭侯’，状如黑狗，无尾，可烹食之。”

吴时，有梓树巨围，叶广丈余，垂柯数亩。吴王伐树作船，使童男女三十人牵挽之。船自飞下水，男女皆溺死。至今潭中时有唱唤督进之音也。

董仲舒下帷讲诵，有客来诣。舒知其非常。客又云：“欲雨。”舒戏之曰：“巢居知风，穴居知雨。卿非狐狸，则是鼯鼠。”客遂化为老狸。

张华字茂先，晋惠帝时为司空。于时燕昭王墓前，有一斑狐，积年能为变幻。乃变作



一书生，欲诣张公。过问墓前华表曰：“以我才貌，可得见张司空否？”华表曰：“子之妙解，无为不可。但张公智度，恐难笼络，出必遇辱，殆不得返。非但丧子千岁之质，亦当深误老表。”狐不从，乃持刺谒华。华见其总角风流，洁白如玉，举动容止，顾盼生姿，雅重之。于是论及文章，辨校声实，华未尝胜。比复商略三史，探贖百家，谈老、庄之奥区，披风、雅之绝旨，包十圣，贯三才，箴八儒，摘五礼，华无不声屈屈。乃叹曰：“天下岂有此年少。若非鬼魅，则是狐狸。”乃扫榻延留，留人防护。此生乃曰：“明公当尊贤容众，嘉善而矜不能。奈何憎人学问！墨子兼爱，其若是耶？”言卒，便求退。华已使人防门，不得出。既而又谓华曰：“公门置甲兵栏骑，当是致疑于仆也。将恐天下之人，卷舌而不言，智谋之士，望门而不进。深为明公惜之。”华不应，而使人防御甚严。时豐城令雷焕，字孔章，博物士也，来访华，华以书生白之。孔章曰：“若疑之，何不呼猎犬试之？”乃命犬以试，竟无惮色。狐曰：“我天生才智，反以为妖，以犬试我，迹莫千试万虑，其能为患乎？”华闻益怒曰：“此必真妖也。闻魅魅忌狗，所别者数百年物耳，千年老精，不能复别。惟得千年枯木照之，则形立见。”孔章曰：“千年神木，何由可得？”华曰：“世传燕昭王墓前华表木，已经千年。”乃遣人伐华表。使人欲至木所，忽空中有一青衣小儿来，问使曰：“君何来也？”使曰：“张司空有一年少来谒，多才巧辞，疑是妖魅。使我取华表照之。”青衣曰：“老狐不智，不听我言，今日祸已及我，其可逃乎！”乃发声而泣，倏然不见。使乃伐其木，血流。便将木归，燃之以照书生，乃一斑狐。华曰：“此二物不值我，千年不可复得。”乃烹之。

晋时，吴兴有一人，有二男，田中作时，尝见父来骂詈赶打之。儿以告母。母问其父，父大惊，知是鬼魅，便令儿斫之。鬼便寂不复往。父忧恐儿为鬼所困，便自往看。儿谓是鬼，杀而埋之。鬼便遂归，作其父形，且语其家：“二儿已杀妖矣。”儿暮归，共相庆贺；积年不觉。后有一法师过其家，语二儿云：“君尊侯有大邪气。”儿以白父，父大怒。儿出，以语师，令速去。师遂作声入，父即成大老狸，入床下，遂擒杀之。向所杀者，乃真父也。改殡治服。一儿遂自杀；一儿忿懊，亦死。

句容县麋村民黄审，于田中耕。有一妇人过其田，自畦上度，从东适下而复还。初谓是人，日日如此，意甚怪之。审因问曰：“妇数从何来也？”妇人少住，但笑而不言，便去。审愈疑之。预以长镰，伺其还，未敢斫妇，但斫所随婢。妇化为狸，走去。视婢，乃狸尾耳。审追之不及。后人见此狸出坑头，掘之，无复尾焉。

博陵刘伯祖为河东太守，所止承尘上有神，能语，常呼伯祖与语，及京师诏书诰下消息，辄預告伯祖。伯祖问其所食啖，欲得羊肝。乃买羊肝，于前切之，齑随刀不见，尽两羊肝。忽有一老狸，眇眇在案前，持刀者欲举刀斫之，伯祖呵止。自著承尘上，须臾大笑曰：“向者啖羊肝，醉忽失形，与府君相见，大惭愧。”后伯祖当为司隶，神复先语伯祖曰：“某月某日，诏书当到。”至期如言。及入司隶府，神随逐在承尘上，辄言省内事。伯祖大恐怖，谓神曰：“今职在刺举。若左右贵人，闻神在此，因以相害。”神答曰：“诚如



府君所虑，当相舍去。”遂即无声。

后汉建安中，沛国郡陈羨为西海都尉。其部曲王灵孝无故逃去，羨欲杀之。居无何，孝复逃走。羨久不见，囚其妇，妇以实对。羨曰：“是必魅将去，当求之。”因将步骑数十，领猎犬，周旋于城外求索，果见孝于空冢中。闻人犬声，怪遂避去。羨使人扶孝以归，其形颇象狐矣，略不复与人相应，但啼呼“阿紫”。阿紫，狐字也。后十余日，乃稍稍了悟。云：“狐始来时，于屋曲角鸡栖间，作好妇形，自称‘阿紫’。招我。如此非一。忽然便随去，即为妻，暮辄与共还其家。遇狗不觉。”云乐无比也。道士云：“此山魅也。”《名山记》曰：“狐者，先古之淫妇也，其名曰‘阿紫’，化而为狐。故其怪多自称‘阿紫’。”

南阳西郊有一亭，人不可止，止则有祸。邑人宋大贤，以正道自处，尝宿亭楼，夜坐鼓琴，不设兵仗。至夜半时，忽有鬼来，登梯与大贤语，眦目噬齿，形貌可恶。大贤鼓琴如故，鬼乃去。于市中取死人头来，还语大贤曰：“宁可少睡耶？”因以死人头投大贤前。大贤曰：“甚佳。吾暮卧无枕，正欲得此。”鬼复去。良久乃还，曰：“宁可共手搏耶？”大贤曰：“善。”语未竟，鬼在前，大贤便逆捉其腰。鬼但急言：“死。”大贤遂杀之。明日视之，乃老狐也。自是亭舍更无妖怪。

北部督邮西平到伯夷，年三十许，大有才决，长沙太守到若章孙也。日晡时到亭，敕前导入且止。录事掾白：“今尚早，可至前亭。”曰：“欲作文书，便留。”吏卒惶怖，言当解去。传云：“督邮欲于楼上观望，亟扫除。”须臾便上。未暝，楼檐阶下复有火。敕云：“我思道，不可见火，灭去。”吏知必有变，当用赴照，但藏置壶中。日既暝，整服坐，诵《六甲》、《孝经》、《易》本讫，卧有顷，更转东首，以擎巾结两足，幘冠之，密拔剑解带。夜时，有正黑者四五尺，稍高，走至柱屋，因覆伯夷。伯夷持被掩之，足跣脱，几失再三。以剑带击魅脚，呼下火上照，视之，老狐正赤，略无衣毛。持下烧杀。明旦，发楼屋，得所毙人髻百余。因此遂绝。

吴中有一书生，皓首，称胡博士，教授诸生。忽复不见。九月初九日，士人相与登山游观，闻讲书声，命仆寻之。见空冢中群狐罗列，见人即走。老狐独不去，乃是皓首书生。

陈郡谢鲲，谢病去职，避地于豫章。尝行经空亭中，夜宿。此亭旧每杀人。夜四更，有一黄衣人，呼鲲字云：“幼舆，可开户。”鲲澹然无惧色，令申臂于窗中。于是授腕，鲲即极力而牵之，其臂遂脱，乃还去。明日看，乃鹿臂也。寻血取获。尔后此亭无复妖怪。

晋有一士人，姓王，家在吴郡。还至曲阿，日暮，引船上当大埭。见埭上有一女子，年十七八，便呼之留宿。至晓，解金铃系其臂。使人随至家，都无女人，因逼猪栏中，见母猪臂有金铃。

汉齐人梁文，好道。其家有神祠，建室三四间，座上施皂帐，常在其中。积数十年。后因祀事，帐中忽有人语，自呼“高山君”。大能饮食，治病有验。文奉事甚肃。积数年，



得进其帐中。神醉，文乃乞得奉见颜色。谓文曰：“授手来。”文纳手，得持其颐，髻须甚长。文渐绕手，卒然引之，而闻作羊声。座中惊起，助文引之，乃袁公路家羊也。失之七八年，不知所在。杀之，乃绝。

北平田琰，居母丧，恒处庐。向一暮，夜忽入妇室。密怪之，曰：“君在毁灭之地，幸可不甘。”琰不听而合。后琰暂入，不与妇语，妇怪无言，并以前事责之。琰知鬼魅。临暮竟未眠，衰服挂庐。须臾，见一白狗，攫庐衔衰服，因变为人，著而入。琰随后逐之，见犬将升妇床，便打杀之。妇羞愧而死。

司空南阳来季德，停丧在殡，忽然见形，坐祭床上，颜色服饰声气，熟是也。孙儿妇女，以次教戒，事有条贯。鞭仆奴婢，皆得其过。饮食既绝，辞诀而去。家人大小，哀割断绝。如是数年，家益厌苦。其后饮酒过多，醉而形露，但得老狗，便共打杀。因推问之，“则里中沽酒家狗也。”

山阳王瑚，字孟琰，为东海兰陵尉。夜半时，辄有黑幘白单衣吏，诣县叩阁，迎之则忽然不见。如是数年。后伺之，见一老狗，白躯犹故，至阁便为人。以白孟琰，杀之乃绝。

桂阳太守李叔坚，为从事。家有犬，人行，家人言：“当杀之。”叔坚曰：“犬马喻君子，犬见人行，效之，何伤？”顷之，狗戴叔坚冠走，家大惊。叔坚云：“误触冠，纓挂之耳。”狗又于灶前蓄火，家益怪营。叔坚复云：“儿婢皆在田中，狗助蓄火，幸可不烦邻里。此有何恶。”数日，狗自暴死，卒无纤芥之异。

吴郡无锡，有上湖大陂。陂吏丁初，天每大雨，辄循堤防。春盛雨，初出行塘。日暮回，顾有一妇人，上下青衣，戴青伞，追后呼：“初掾待我。”初时怅然，意欲留俟之，复疑：“本不见此，今忽有妇人冒阴雨行，恐必鬼物。”初便疾走，顾视妇人，追之亦急。初因急行，走之转远，顾视妇人，乃自投陂中，汨然作声，衣盖飞散，视之是大苍黧，衣散皆荷叶也。此黧化为人形，数媚年少者也。

魏齐王芳正始中，中山王周南为襄邑长。忽有鼠从穴出，在厅事上，语曰：“王周南，尔以某月某日当死。”周南急往，不应。鼠还穴。后至期复出，更冠幘皂衣而语曰：“周南，尔日中当死。”亦不应。鼠复入穴。须臾复出，出复人，转行数语如前。日适中，鼠复曰：“周南，尔不应死，我复何道。”言訖，颠蹶而死，即失衣冠所在。就视之，与常鼠无异。

安阳城南有一亭，夜不可宿，宿辄杀人。书生明术数，乃过宿之。亭民曰：“此不可宿，前后宿此，未有活者。”书生曰：“无苦也。吾自能谐。”遂住廊舍，乃端坐诵书，良久乃休。夜半后，有一人著皂单衣，来往户外，呼亭主，亭主应诺。“见亭中有人耶？”答曰：“向者有一书生，在此读书。适休，似未寝。”乃暗嗟而去。须臾，复有一人，冠赤幘者，呼亭主，问答如前，复暗嗟而去。既去寂然。书生知无来者，即起诣向者呼处，效呼亭主。亭主亦应诺。复云：“亭中有人耶？”亭主答如前。乃问曰：“向黑衣来者谁？”曰：



“北舍母猪也。”又曰：“冠赤幘来者谁？”曰：“西舍老雄鸡父也。”曰：“汝复谁耶？”曰：“我是老蝎也。”于是书生密便诵书至明，不敢寐。天明，亭民来视，惊曰：“君何得独活？”书生曰：“促索剑来。吾与卿取魅。”乃握剑至昨夜应处，果得老蝎，大如琵琶，毒长数尺。西舍得老雄鸡父。北舍得老母猪。凡杀三物，亭毒遂静，永无灾横。

吴时，庐陵郡都亭重屋中，常有鬼魅，宿者辄死。自后使官，莫敢入亭止宿。时丹阳人汤应者，大有胆武，使至庐陵，便止亭宿。吏启不可，应不听。进从者还外，惟持一大刀，独处亭中。至三更竟，忽闻有叩阁者。应遥问：“是谁？”答云：“部郡相闻。”应使进，致词而去。顷间，复有叩阁者如前，曰：“府君相闻。”应复使进，身著皂衣。去后，应谓是人，了无疑也。旋又有叩阁者，云：“部郡、府君相诣。”应乃疑曰：“此夜非时，又部郡、府君，不应同行。”知是鬼魅。因持刀迎之。见二人，皆盛衣服，俱进。坐毕，府君者便与应谈。谈未竟，而部郡忽起至应背后。应乃回顾，以刀逆击，中之。府君下坐走出，应急追，至亭后墙下，及之。斫伤数下，应乃还卧。达曙，将人往寻，见有血迹，皆得之。云称府君者，是一老獐也；部郡者，是一老狸也。自是遂绝。

卷十九

东越闽中有庸岭，高数十里。其西北隙中有大蛇，长七八丈，大十余围，土俗常惧。东治都尉及属城长吏，多有死者。祭以牛羊，故不得富。或与人梦，或下谕巫祝，欲得啖童女年十二三者。都尉令长，并共患之。然气厉不息，共请求人家生婢子，兼有罪家女养之。至八月朝祭，送蛇穴口。蛇出吞啖之。累年如此。已用九女。尔时预复募索，未得其女。将乐县李诞家，有六女，无男，其小女名寄，应募欲行，父母不听。寄曰：“父母无相，惟生六女，无有一男，虽有如无。女无缁素济父母之功，既不能供养，徒费衣食，生无所益，不如早死。卖寄之身，可得少钱，以供父母，岂不善耶？”父母慈怜，终不听去。寄自潜行，不可禁止。寄乃告请好剑及咋蛇犬。至八月朝，便诣庙中坐。怀剑，将犬。先将数石米簋，用蜜炒灌之，以置穴口。蛇便出，头大如囷，目如二尺镜。闻簋香气，先啖食之。寄便放犬，犬就嗜咋，寄从后斫得数创。疮痛急，蛇因踊出，至庭而死。寄入视穴，得其九女髑髅，举出，咤言曰：“汝曹怯弱，为蛇所食，甚可哀愍。”于是寄女缓步而归。越王闻之，聘寄女为后，拜其父为将乐令，母及姊皆有赏赐。自是东治无复妖邪之物。其歌谣至今存焉。

晋武帝咸宁中，魏舒为司徒。府中有二大蛇，长十许丈，居厅事平椽上。止之数年，而人不知，但怪府中数失小儿及鸡犬之属。后有一蛇夜出，经柱侧，伤于刃，病不能登，于是觉之。发徒数百，攻击移时，然后杀之。视所居，骨骼盈宇之间。于是毁府舍，更立之。

汉武帝时，张宽为扬州刺史。先是有二老翁争山地，诣州讼疆界，连年不决。宽视



事，复来。宽窥二翁形状非人，令卒持杖戟将入，问：“汝等何精？”翁走，宽呵格之，化为二蛇。

茌阳人张福，船行还野水边。夜有一女子，容色甚美，自乘小船，来投福，云：“日暮畏虎，不敢夜行。”福曰：“汝何姓？作此轻行。无笠，雨驶，可入船就避雨。”因共相调，遂入就福船寝。以所乘小舟，系福船边。三更许，雨晴月照，福视妇人，乃是一大鼯，枕臂而卧。福惊起，欲执之。遽走入水。向小舟，是一枯槎段，长丈余。

丹阳道士谢非，往石城买冶釜。还，日暮，不及至家。山中庙舍于溪水上，入中宿。大声语曰：“吾是天帝使者，停此宿。”犹畏人劫夺其釜，意苦搔搔不安。二更中，有来至庙门者，呼曰：“何铜。”铜应喏。曰：“庙中有人气，是谁？”铜云：“有人，言是天帝使者。”少顷便还。须臾，又有来者，呼铜，问之如前，铜答如故，复叹息而去。非惊扰不得眠，遂起，呼铜问之：“先来者谁？”答言：“是水边穴中白鼯。汝是何等物？”答言：“是庙北岩嵌中龟也。”非皆阴识之。天明，便告居人，言：“此庙中无神。但是龟、鼯之辈，徒费酒食祀之，急具镬来，共往伐之。”诸人亦颇疑之。于是并会伐掘，皆杀之。遂坏庙绝祀，自后安静。

孔子厄于陈，弦歌于馆中。夜有一人，长九尺余，著皂衣高冠，大咤，声动左右。子贡进，问：“何人耶？”便提子贡而挟之。子路引出，与战于庭。有顷，未胜。孔子察之，见其甲车间时时开如掌。孔子曰：“何不探其甲车，引而奋登？”子路引之，没手仆于地，乃是大鲛鱼也，长九尺余。孔子曰：“此物也，何为来哉？吾闻物老则群精依之，因衰而至。此其来也，岂以吾遇厄绝粮，从者病乎？夫六畜之物，及龟、蛇、鱼、鳖、草、木之属，久者神皆凭依，能为妖怪，故谓之‘五酉’。五酉者，五行之方，皆有其物。酉者老也，物老则为怪，杀之则已，夫何患焉。或者天之未丧斯文，以是系予之命乎？不然，何为至于斯也？”弦歌不辍。子路烹之，其味滋，病者兴。明日，遂行。

豫章有一家，婢在灶下，忽有人长数寸，来灶间壁，婢误以履践之，杀一人。须臾，遂有数百人，著衰麻服，持棺迎丧，凶仪皆备。出东门，入园中覆船下。视之，皆是鼠妇。婢作汤灌杀，遂绝。

狄希，中山人也。能造“千日酒”，饮之千日醉。时有州人姓刘，名玄石，好饮酒，往求之。希曰：“我酒发来未定，不敢饮君。”石曰：“纵未熟，且与一杯，得否？”希闻此语，不免饮之。复索曰：“美哉！可更与之。”希曰：“且归，别日当来，只此一杯，可眠千日也。”石别，似有忤色。至家，醉死。家人不之疑，哭而葬之。经三年，希曰：“玄石必应酒醒，宜往问之。”既往石家。语曰：“石在家否？”家人皆怪之，曰：“玄石亡来，服以闋矣。”希惊曰：“酒之美矣，而致醉眠千日，今合醒矣。”乃命其家人凿冢破棺看之，冢上汗气彻天，遂命发冢。方见开目张口，引声而言曰：“快哉！醉我也。”因问希曰：“尔作何物也，令我一杯大醉，今日方醒？日高几许？”墓上人皆笑之，被石酒气冲入鼻中，亦各醉卧三月。



陈仲举微时，常宿黄申家。申妇方产，有扣申门者，家人咸不知。久久，方闻屋里有入言：“宾堂下有人，不可进。”扣门者相告曰：“今当从后门往。”其人便往。有顷，还。留者问之：“是何等？名为何？当与几岁？”往者曰：“男也，名为‘奴’。当与十五岁。”“后应以何死？”答曰：“应以兵死。”仲举告其家曰：“吾能相。此儿当以兵死。”父母惊之，寸刃不使得执也。至年十五，有置凿于梁上者，其末出，奴以为木也，自下钩之，凿从梁落，陷脑而死。后仲举为豫章太守，故遣吏往饷之申家，并问奴所在。其家以此具告。仲举闻之，叹曰：“此谓命也。”

卷二十

晋魏郡亢阳，农夫祷于龙洞，得雨，将祭谢之。孙登见曰：“此病龙雨，安能苏禾稼乎？如弗信，请嗅之。”水果腥秽。龙时背生大疽，闻登言，变为一翁，求治，曰：“疾痊，当有报。”数日，果大雨。见大石中裂开一井，其水湛然。龙盖穿此井以报也。

苏易者，庐陵妇人，善看产，夜忽为虎所取。行六七里，至大圻，厝易置地，蹲而守。见有牝虎当产，不得解，匍匐欲死，辄仰视。易怪之，乃为探出之，有三子。生毕，牝虎负易还。再三送野肉于门内。

唵参，养母至孝。曾有玄鹤，为弋人所射，穷而归参。参收养，疗治其疮，愈而放之。后鹤夜到门外，参执烛视之，见鹤雌雄双至，各衔明珠，以报参焉。

汉时弘农杨宝，年九岁时，至华阴山北，见一黄雀，为鸢泉所搏，坠于树下，为蝼蚁所困。宝见愍之，取归，置巾箱中，食以黄死。百余日，毛羽成，朝去暮还。一夕三更，宝读书未卧，有黄衣童子，向宝再拜曰：“我西王母使者，使蓬莱，不慎为鸢泉所搏。君仁爱见拯，实感盛德。”乃以白环四枚与宝，曰：“令君子孙洁白，位登三事，当如此环。”

隋县澧水侧，有断蛇丘。隋侯出行，见大蛇被伤中断，疑其灵异，使人以药封之。蛇乃能走。因号其处“断蛇丘”。岁余，蛇衔明珠以报之。珠盈径寸，纯白，而夜有光明，如月之照，可以烛室。故谓之“隋侯珠”，亦曰“灵蛇珠”，又曰“明月珠”。丘南有隋季良大夫池。

孔愉字敬康，会稽山阴人。元帝时，以讨华轺功封侯。愉少时，尝经行余不亭。见鳢龟于路者，恻买之，放于余不溪中。龟中流，左顾者数过。及后以功封余不亭侯。铸印而龟钮左顾，三铸如初。印工以闻。愉乃悟其为龟之报，遂取佩焉。累迁尚书左仆射，赠车骑将军。

古巢，一日江水暴涨，寻复故道。港有巨鱼，重万斤，三日乃死。合郡皆食之。一老姥独不食。忽有老叟曰：“此吾子也，不幸罹此祸。汝独不食，吾厚报汝。若东门石龟目赤，城当陷。”姥日往视。有稚子讶之，姥以实告。稚子欺之，以朱傅龟目。姥见，急出城。有青衣童子曰：“吾龙之子。”乃引姥登山，而城陷为湖。



吴富阳县董昭之，尝乘船过钱塘江，中央见有一蚊，著一短芦，走一头回，复向一头，甚惶遽。昭之曰：“此畏死也。”欲取著船。船中人骂：“此是毒螫物，不可长。我当踰杀之。”昭意甚怜此蚊，因以绳系芦著船。船至岸，蚊得出。其夜，梦一人乌衣，从百许人来谢云：“仆是蚊中之王，不慎堕江，惭君济活。若有急难，当见告语。”历十余年，时所在劫盗，昭之被横录为劫主，系狱余杭。昭之忽思：“蚊王梦，缓急当告。今何处告之？”结念之际，同被禁者问之，昭之具以实告。其人曰：“但取两三蚊著掌中，语之。”昭之如其言。夜果梦乌衣人云：“可急投余杭山中。天下既乱，赦令不久也。”于是便觉。蚊啖械已尽，因得出狱。过江，投余杭山。旋遇赦，得免。

孙权时，李信纯，襄阳纪南人也。家养一狗，字曰“黑龙”，爱之尤甚，行坐相随，饮饌之间，皆分与食。忽一日，于城外饮酒大醉，归家不及，卧于草中，遇太守郑瑁出猎，见田草深，遣人纵火熏之。信纯卧处，恰当顺风。犬见火来，乃以口拽纯衣，纯亦不动。卧处比有一溪，相去三五十步，犬即奔往，入水湿身，走来卧处。周回以身洒之，获免主人大难。犬运水困乏，致毙于侧。俄尔信纯醒来，见犬已死，遍身毛湿。甚訝其事。睹火踪迹，因尔恸哭。闻于太守，太守悯之曰：“犬之报恩甚于人。人不知恩，岂如犬乎！”即命具棺椁衣衾葬之。今纪南有义犬冢，高十余丈。

太兴中，吴民华隆养一快犬，号“的尾”，常将自随。隆后至江边伐获，为大蛇盘绕，犬奋咋蛇，蛇死。隆僵仆无知，犬彷徨涕泣，走还舟，复反草中。徒伴怪之，随往，见隆闷绝，将归家。犬为不食，比隆复苏，始食。隆愈爱惜，同于亲戚。

庐陵太守太原庞参，字子及。自言其远祖不知几何世也，坐事系狱而非其罪，不堪拷掠，自诬服之。及狱将上，有蜈蚣虫行其左右，乃谓之曰：“使尔有神，能活我死，不亦善乎？”因投饭与之。蜈蚣食饭尽去，顷复来，形体稍大，意每异之，乃复与食。如此去来，至数十日间，其大如豚。及竟报，当行刑。蜈蚣夜掘壁根为大孔，乃破械，从之出去。久时遇赦得活。于是庞氏世世常以四节祠祀之于都衢处。后世稍息，不能复特为饌，乃投祭祀之余以祀之。至今犹然。

临川东兴，有人入山得猿子，便将归。猿母自后逐至家。此人缚猿子于庭中树上，以示之。其母便搏颊向人，欲乞哀状，直谓口不能言耳。此人既不能放，竟击杀之。猿母悲唤，自掷而死。此人破肠视之，寸寸断裂。未半年，其家疫死，灭门。

冯乘虞荡，夜猎，见一大麋，射之。麋便云：“虞荡，汝射杀我耶！”明晨，得一麋而入，即时荡死。

吴郡海盐县北乡亭里，有士人陈甲，本下邳人。晋元帝时，寓居华亭，猎于东野大藪。欸见大蛇，长六七丈，形如百斛船，玄黄五色，卧冈下。陈即射杀之，不敢说。三年，与乡人共猎，至故见蛇处。语同行曰：“昔在此杀大蛇。”其夜，梦见一人，乌衣黑幘，来至其家，问曰：“我昔昏醉，汝无状杀我。我昔醉，不识汝面，故三年不相知。今日来就死。”其人即惊觉，明日，腹痛而卒。



邛都县下，有一老姥，家贫孤独，每食，辄有小蛇，头上戴角，在床间，姥怜而饴之食。后稍长大，遂长丈余，令有骏马，蛇遂吸杀之。令因大忿恨，责姥出蛇。姥云：“在床下。”令即掘地，愈深愈大，而无所见。令又迁怒，杀姥。蛇乃感人以灵，言：“瞋令，何杀我母？当为母报仇。”此后每夜，辄闻若雷若风，四十许日。百姓相见，咸惊语：“汝头那忽戴鱼？”是夜，方四十里，与城一时俱陷为湖。土人谓之为“陷湖”。唯姥宅无恙，迄今犹存。渔人采捕，必依止宿。每有风浪，辄居宅侧，恬静无他。风静水清，犹见城郭楼櫓轮戛然。今水浅时，彼土人没水，取得旧木，坚贞光黑如漆。今好事人以为枕，相赠。

建业有妇人，背生一瘤，大如数斗囊，中有物如茧栗，甚众，行即有声。恒乞于市。自言村妇也。常与姊姒辈分养蚕，已独频年损耗。因窃其姒一囊茧焚之。顷之，背患此疮，渐成此瘤。以衣覆之，即气闭闷，常露之乃可，而重如负囊。



搜神后记

〔晋〕陶潜 撰

卷 一

丁令威，本辽东人，学道于灵虚山。后化鹤归辽，集城门华表柱。时有少年，举弓欲射之。鹤乃飞，徘徊空中而言曰：“有鸟有鸟丁令威，去家千年今始归。城郭如故人民非，何不学仙家垒垒。”遂高上冲天。今辽东诸丁云其先世有升仙者，但不知名字耳。

嵩高山北有大穴，莫测其深，百姓岁时游戏。晋初，尝有一人误堕穴中。同辈冀其悦不死，投食于穴中。坠者得之，为寻穴而行。计可十余日，忽然见明。又有草屋，中有二人，对坐围棋。局下有一杯白饮。坠者告以饥渴，棋者曰：“可饮此。”遂饮之，气力十倍。棋者曰：“汝欲停此否？”坠者不愿停。棋者曰：“从此西行，有天井，其中多蛟龙。但投身入井，自当出。若饿，取井中物食。”坠者如言，半年许，乃出蜀中。归洛下，问张华，华曰：“此仙馆大夫。所饮者，玉浆也；所食者，龙穴石髓也。”

会稽剡县民袁相、根硕二人猎，经深山重岭甚多，见一群山羊六七头，逐之。经一石桥，甚狭而峻。羊去，根等亦随渡，向绝崖。崖正赤，壁立，名曰赤城。上有水流下，广狭如匹布，剡人谓之瀑布。羊径有山穴如门，豁然而过。既入，内甚平敞，草木皆香。有一小屋，二女子住其中，年皆十五六，容色甚美，著青衣。一名莹珠，一名洁玉。见二人至，忻然云：“早望汝来。”遂为室家。忽二女出行，云复有得婿者，往庆之。曳履于绝岩上行，琅琅然。二人思归，潜去归路。二女已知，追还，乃谓曰：“自可去。”乃以一腕囊与根等，语曰：“慎勿开也。”于是乃归。后出行，家人开视其囊，囊如莲花，一重去，一重复，至五盖，中有小青鸟，飞去。根还知此，怅然而已。后根于田中耕，家依常饷之，见在田中不动，就视，但有壳如蝉蛻也。

蒙阳人，姓何，忘其名。有名闻士也。荆州辟为别驾，不就，隐遁养志。常至田舍，人收获在场上。忽有一人，长丈余，萧疏单衣，角巾，来诣之。翩翩举其两手，并舞而来，语何云：“君曾见‘韶舞’不？此是‘韶舞’。”且舞且去。何寻逐，径向一山，山有穴，才容一人。其人即入穴，何亦随之入。初甚急，前辄闲旷，便失人，见有良田数十



顷。何遂呈作，以为世业。子孙至今赖之。

晋太元中，武陵人捕鱼为业。缘溪行，忘路之远近，忽逢桃花林，夹岸数百步，中无杂树，芳华鲜美，落英缤纷。渔人甚异之（渔人姓黄名道真）。复前行，欲穷其林。林尽水源，便得一山。山有小口，仿佛若有光。便舍舟，从口入。初极狭，才通人。复行数十步，豁然开朗，土地旷空，屋舍俨然。有良田、美池、桑竹之属。阡陌交通，鸡犬相闻。男女衣著，悉如外人。黄发垂髫，并怡然自乐。见渔人，大惊，问所从来，具答之。便要还家，为设酒杀鸡作食。村中人闻有此人，咸来问讯。自云先世避秦难，率妻子邑人至此绝境，不复出焉，遂与外隔。问今是何世，乃不知有汉，无论魏晋。此人一一具言所闻，皆为叹惋。余人各复延至其家，皆出酒食。停数日，辞去。此中人语云：“不足为外人道也。”既出，得其船，便扶向路，处处志之。及郡，乃诣太守，说如此。太守刘歆，即遣人随之往，寻向所志，不复得也。

南阳刘麟之，字子骥，好游山水。尝采药至衡山，深入忘反。见有一涧水，水南有二石园，一闭一开。水深广，不得渡。欲还，失道，遇伐薪人，问径，仅得还家。或说园中皆仙方、灵药及诸杂物。麟之欲更寻索，不复知处矣。

长沙醴陵县有小水，有二人乘船取樵，见岸下土穴中水逐流出，有新砍木片逐流下，深山中有人迹，异之。乃相谓曰：“可试如水中看何由尔？”一人便以笠自障，入穴，穴才容人。行数十步，便开明朗，然不异世间。

平乐县有山临水，岩间有两目，如人眼，极大，瞳子白黑分明，名为“目岩”。

始兴机山东有两岩，相向如鸱尾。石室数十所。经过皆闻有金石、丝竹之响。

中宿县有贞女峡。峡西岸水际有石如人影，状似女子。是曰“贞女”。父老相传，秦世有女数人，取螺于此，遇风雨昼昏，而一女化为此石。

临城县南四十里有盖山，百许步有姑舒泉。昔有舒女，与父析薪于此泉。女因坐，牵挽不动，乃还告家。比还，唯见清泉湛然。女母曰：“吾女好音乐。”乃作弦歌，泉涌涸流，有朱鲤一双，令人作乐嬉戏，泉故涌出。

卷二

吴舍人名猛，字世云，有道术。同县邹惠政迎猛，夜于家中庭烧香。忽有虎抱政儿超篱去。猛语云：“无所苦，须臾当还。”虎去数十步，忽然复送儿归。政遂精进，乞为好道士。猛性至孝，小儿时，在父母傍卧，时夏日多蚊虫，而终不摇扇。同宿人觉，问其故，答云：“惧蚊虫去啃我父母尔。”及父母终，行伏墓次。蜀贼纵暴，焚烧邑屋，发掘坟垅。民人进窜。猛在墓侧，号恸不去。贼为之感怆，遂不犯。

谢允从武当山还，在桓宣武座，有言及左元放为曹公致鲈鱼者，允便云：“此可得尔。”求大瓮盛水，朱书符投水中。俄有一鲤鱼鼓鳍水中。



钱塘杜子恭，有秘术。尝就人借瓜刀，其主求子，子恭曰：“当即相还耳。”既而刀主行至嘉兴，有鱼跃入船中。破鱼腹，得瓜刀。

太兴中，衡阳区纯作鼠市：四方丈余，开四门，门有一木人。纵四五鼠于中，欲出门，木人辄以手推之。

晋大司马桓温，字元子。末年，忽有一比丘尼，失其名，来自远方，投温为檀越。尼才行不恒，愠其敬待，居之门内。尼每浴，必至移时。温疑而窥之。见尼裸身挥刀，破腹出脏，断截首身，支分齑切。温怪骇而还。及至尼出浴室，身形如常。温以实问，尼答曰：“若逐凌君上，形当如之。”时温方谋问鼎，闻之怅然。故以戒惧，终守臣节。尼后辞去，不知所在。

沛国有一士人，姓周，同生三子，年将弱冠，皆有声无言。忽有一客从门过，因乞饮，闻其儿声，问之曰：“此是何声？”答曰：“是仆之子，皆不能言。”客曰：“君可还内省过，何以至此？”主人异其言，知非常人。良久出云：“都不忆有罪过。”客曰：“试更思幼时事。”入内，食顷，出语客曰：“记小儿时，当床上有燕巢，中有三子，其母从外得食哺，三子皆出口受之，积日如此。试以指内巢中，燕雏亦出口承受。因取三蓂蒿，各与食之。既而皆死。母还，不见子，悲鸣而去。昔有此事，今实悔之。”客闻言，遂变为道人之容，曰：“君既自知悔，罪今除矣。”言讫，便闻其子言语。周亦忽不见此道人。

天竺人佛图澄，永嘉四年来洛阳，善诵神咒，役使鬼神。腹傍有孔，常以絮塞之。每夜读书，则拔絮，孔中出光，照于一室。平旦，至流水侧，从孔中引出五脏六腑洗之，訖，还内腹中。

石虎郛中有一胡道人，知咒术。乘驴作估客，于外国深山中行。下有绝涧，窅然无底。忽有恶鬼，偷牵此道人驴，下入绝涧。道人寻迹咒誓，呼诸鬼王。须臾，即驴、物如故。

昙游道人，清苦沙门也。剡县有一家事蛊，人啖其食饮，无不吐血死。游尝诣之。主人下食，游依常咒愿。双蜈蚣，长尺余，便于盘中跳走。游便饱食而归，安然无他。

高悝家有鬼怪，言词呵叱，投掷内外，不见人形。或器物自行再三发火。巫祝厌劾而不能绝。适值幸灵，乃要之。至门，见符索甚多，并取焚之。惟据轩小坐而去。其夕鬼怪即绝。

赵固常乘一匹赤马以战征，甚所爱重。常系所住斋前，忽腹胀，少时死。郭璞从北过，因往诣之。门吏云：“将军好马，甚爱惜。今死，甚懊恼。”璞便语门吏云：“可入通，道吾能活此马，则必见我。”门吏闻之惊喜，即启固。固踊跃，令门吏走往迎之。始交寒温，便问：“卿能活我马乎？”璞曰：“我可活尔。”固欣喜，即问：“须何方术？”璞云：“得卿同心健儿二三十人，皆令持竹竿，于此东行三十里，当有邱陵林树，状若社庙。有此者，便当以竹竿搅扰拍打之。当得一物，便急持归。既得此物，马便活矣。”于是左右骁勇之士五十人使去。果如璞言，得大丛林，有一物似猴而飞走。众勇共逐得，便抱持



归。此物遥见死马，便跳梁欲往。璞令放之。此物便自走往马头间，嘘吸其鼻。良久，马起，喷奋奔迅，便不见此物。固厚货给，璞得过江左。

王文献曾令郭璞筮己一年吉凶，璞曰：“当有小不吉利。可取广州二大罍，盛水，置床张二角，名曰‘镜好’，以厌之。至某时，撤罍去水。如此其灾可消。”至日忘之。寻失铜镜，不知所在。后撤去水，乃见所失镜在于罍中。罍口数寸，镜大尺余。王公复令璞筮镜罍之意。璞云：“撤罍违期，故致此妖。邪魅所为，无他故也。”使烧车辖，而镜立出。

中兴初，郭璞每自为卦，知其凶终。尝行经建康柵塘，逢一趋步少年，甚寒，便牵住，脱丝布袍与之。其人辞不受，璞曰：“但取，后自当知。”其人受而去。及当死，果此人行刑。旁人皆为求属，璞曰：“我托之久矣。”此人为之歔歔哽咽。行刑既毕，此人乃说。

高平郗超，字嘉宾，年二十余，得重病。庐江杜不愆，少就外祖郭璞学易卜，颇有经验。超令试占之。卦成，不愆曰：“案卦言之，卿所恙寻愈。然宜于东北三十里上官姓家，索其所养雄雉，笼而缚之，置东檐下，却后九日景午日午时，必当有野雌雉飞来，与交合。既毕，双飞去。若如此，不出二十日，病都除。又是休应，年将八十，位极人臣。若但雌逝雄留者，病一周方差。年半八十，名位亦失。”超时正羸笃，虑命在旦夕，笑而答曰：“若保八十之半，便有余矣。一周病差，何足为淹。”然未之信。或劝依其言索雄，果得。至景午日，超卧南轩之下观之。至日晏，果有雄雉飞入笼，与雌雉交而去。雌雉不动。超叹息曰：“管、郭之奇，何以尚此！”超病逾年乃起，至四十，卒于中书郎。

卷 三

程咸字咸休。其母始怀咸，梦老公投药与之：“服此当生贵子。”晋武帝时，历位至侍中，有名于世。

袁真在豫州，遣女妓纪陵送阿薛、阿郭、阿马三妓与桓宣武。既至经时，三人半夜共出庭前月下观望，有铜瓮水在其侧。忽见一流星，夜从天直堕瓮中。惊喜共视，忽如二寸火珠，流于水底，炯然明净，乃相谓曰：“此吉祥也，当谁应之。”于是薛郭二人更以瓢杓接取，并不得。阿马最后取，星正入瓢中，便饮之。既而若有感焉，俄而怀桓玄。玄虽篡位不终，而数年之中，荣贵极矣。

临淮荀序，字休玄。母华夫人，怜爱过常。年十岁，从南临归，经青草湖，时正帆风驶，序出塞郭，忽落水。比得下帆，已行数十里，洪波淼漫，母抚膺远望。少顷，见一掘头船，渔父以楫棹船如飞，载序还之，云：“送府君还。”荀后位至常伯、长沙相，故云府君也。

庐陵巴邱人文晁者，世以田作为业。年常田数十顷，家渐富。晋太元初，秋收已过，刈获都毕，明旦至田，禾悉复满，湛然如初。即便更获，所获盈仓。于此遂为巨富。



上虞魏全，家在县北。忽有一人，著孝子服，皂笠，手巾掩口，来诣全家，诣曰：“君有钱一千万，铜器亦如之，大柳树钱在其下，取钱当得尔。于君家大不吉。仆寻为君取此。”便去。自尔出三十年，遂不复来。全家亦不取钱。

元嘉元年，建安郡山贼百余人破郡治，抄掠百姓资产、子女，遂入佛图，搜掠财宝。先是，诸供养具别封置一室。贼破户，忽有蜜蜂数万头，从衣簏出，同时噬螫。群贼身首肿痛，眼皆盲合，先诸所掠，皆弃而走。

蔡裔有勇气，声若雷震。尝有二偷儿入室，裔拊床一呼，二盗俱陨。

昔有一人，与奴同时得腹痼病，治不能愈。奴既死，乃剖腹视之，得一白鳖，赤眼，甚鲜明。乃试以诸毒药浇灌之，并内药于鳖口，悉无损动，乃系鳖于床脚。忽有一客来看之，乘一白马。既而马尿溅鳖，鳖乃惶骇，欲疾走避尿，因系之不得去，乃缩藏头颈足焉。病者察之，谓其子曰：“吾病或可以救矣。”乃试取白马尿以灌鳖上，须臾便消成数升水。病者乃顿服升余白马尿，病豁然愈。

太尉郗鉴，字道徽，镇丹徒。曾出猎，时二月中，蕨始生。有一甲士，折食一茎，即觉心中淡淡欲吐。因归，乃成心腹疼痛。经半年许，忽大吐，吐出一赤蛇，长尺余，尚活动摇。乃挂著屋檐前，汁稍稍出，蛇渐焦小。经一宿视之，乃是一茎蕨，犹昔之所食。病遂除差。

桓宣武时，有一督将，因时行病后虚热，更能饮复茗，必一斛二斗乃饱。才减升合，便以为不足。非复一日。家贫。后有客造之，正遇其饮复茗，亦先闻世有此病，仍令更进五升，乃大吐，有一物出，如升大，有口，形质缩绉，状如牛肚。客乃令置之于盆中，以一斛二斗复茗浇之。此物歛之都尽，而止觉小胀。又加五升，便悉混然从口中涌出。既吐此物，其病遂差。或问之：“此何病？”答云：“此病名斛二腹。”

桓哲字明期，居豫章时，梅元龙为太守，先已病矣，哲往省之。语梅云：“吾昨夜忽梦见作卒，迎卿来作泰山府君。”梅闻之愕然，曰：“吾亦梦见卿为卒，著丧衣，来迎我。”经数日。复同梦如前，云“二十八日当拜”。至二十七日晡时，桓忽中恶腹满，就梅家磨香丸。梅闻，便令作凶具。二十七日，桓便亡；二十八日而梅卒。

平原华歆，字子鱼，为诸生时，常宿人门外。主人妇夜产。有顷，两吏来诣其门，便相向辟易，欲退，却相谓曰：“公在此。”因踟蹰良久。一吏曰：“籍当定，奈何得住？”乃前向子鱼拜，相将入。出，并行共语曰：“当与几岁？”一人云：“当与三岁。”天明，子鱼去。后欲验其事，至三岁，故往视儿消息，果三岁已死。乃自喜曰：“我固当公。后果为太尉。”

宋时有一人，忘其姓氏，与妇同寝。天晓，妇起出。后其夫寻亦出外。妇还，见其夫犹在被中眠。须臾，奴子自外来，云：“郎求镜。”妇以奴诈，乃指床上以示奴。奴云：“适从郎间来。”于是驰白其夫。夫大愕，便入。与妇共视，被中人高枕安寝，正是其形，了无一异。虑是其神魂，不敢惊动。乃共以手徐徐抚床，遂冉冉入席而灭。夫妇心怖不



已。少时，夫忽得疾，性理乖错，终身不愈。

董寿之被诛，其家尚未知。妻夜坐，忽见寿之居其侧，叹息不已。妻问：“夜间何得而归？”寿之都不应答。有顷，出门绕鸡笼而行，笼中鸡惊叫。妻疑有异，持火出户视之，见血数升，而寿之失所在。遂以告姑，因与大小号哭，知有变，及晨，果得凶问。

宋时有诸生远学。其父母燃火夜作，儿忽至前，叹息曰：“今我但魂尔，非复生人。”父母问之，儿曰：“此月初病，以今日某时亡。今在琅邪任子成家，明日当殓。来迎父母。”父母曰：“去此千里，虽复颠倒，那得及汝？”儿曰：“外有车乘，但乘之，自得至矣。”父母从之，上车若睡，比鸡鸣，已至所在。视其驾乘，但柴车木马。遂与主人相见，临儿悲哀。问其疾消息，如言。

卷 四

晋时，东平冯孝将将为广州太守。儿名马子，年二十余，独卧廐中，夜梦见一女子，年十八九，言：“我是前太守北海徐玄方女，不幸早亡。亡来今已四年，为鬼所枉杀。案生录，当八十余，听我更生，要当有依马子乃得生活，又应为君妻。能从所委，见赦活不？”马子答曰：“可尔。”乃与马子克期当出。至期日，床前地，头发正与地平，令人扫去，则愈分明，始悟是所梦见者。遂屏除左右，人便渐渐额出，次头面出，又次肩项形体顿出。马子便令坐对榻上，陈设语言，奇妙非常。遂与马子寝息。每诫云：“我尚虚尔。”即问何时得出，答曰：“出当得本命生日，尚未至。”遂往廐中，言语声音，人皆闻之。女计生日至，乃具教马子出已养之方法，语毕辞去。马子从其言，至日，以丹雄鸡一只，黍饭一盘，清酒一升，酹其丧前，去廐十余步。祭讫，掘棺出，开视，女身体貌全如故。徐徐抱出，著毡帐中，唯心下微暖，口有气息。令婢四人守养护之。常以青羊乳汁沥其两眼，渐渐能开，口能咽粥，既能能语。二百日中，持杖起行，一期之后，颜色肌肤气力悉复如常，乃遣报徐氏，上下尽来。选吉日下礼，聘为夫妇。生二儿一女：长男字元庆，永嘉初，为秘书郎中；小男字敬度，作太傅掾；女适济南刘子彦，征士延世之孙云。

干宝字令升，其先新蔡人。父莹，有嬖妾。母至妒，宝父葬时，因生推婢著藏中。宝兄弟年小，不之审也。经十年而母丧，开墓，见其妾伏棺上，衣服如生。就视犹暖，渐渐有气息。舆还家，终日而苏。云宝父常致饮食，与之寝接，恩情如生。家中吉凶，辄语之，校之悉验。平复数年后，方卒。宝兄尝病气绝，积日不冷。后遂寤，云见天地间鬼神事，如梦觉，不自知死。

晋太元中，北地人陈良与沛国刘舒友善，又与同郡李焉共为商贾。后大得利，焉杀良取物。死十许日，良忽苏活，得归家。说死时，见友人刘舒，舒久已亡，谓良曰：“去年春社日祠祀，家中斗争，吾实忿之，作一咒于庭前，卿归，岂能为我说此耶？”良故往报舒家，其怪亦绝。乃诣官疏李焉而伏罪。



襄阳李除，中时气死。其父守尸。至于三更，幡然起坐，持妇臂上金钏甚遽。父因助脱，既手执之，还死。妇伺察之，至晓，心中更暖，渐渐得苏。既活，云：“为吏将去，比伴甚多，见有行货得免者，乃许吏金钏。吏令还，故归取以与吏。吏得钏，便放令还。见吏取钏去。”后数日，不知犹在妇衣内。妇不敢复著，依事咒埋。

郑茂病亡，殡殓讫，未得葬，忽然妇及家人梦茂云：“己未应死，偶闷绝尔，可开棺出我，烧车缸以熨头顶。”如言乃活。

晋时，武都太守李仲文在都丧女，年十八，权假葬郡城北。有张世之代为郡。世之男字子长，年二十，侍从在厩中，夜梦一女，年可十七八，颜色不常，自言：“前府君女，不幸早亡。会今当更生。心相爱乐，故来相就。”如此五六夕。忽然昼见，衣服薰春殊绝，遂为夫妻，寢息衣皆有污，如处女焉。后仲文遣婢视女墓，因过世之妇相闻。入厩中，见此女一只履在子长床下。取之啼泣，呼言发冢。持履归，以示仲文。仲文惊愕，遣问世之：“君儿可由得亡女履耶？”世之呼问，儿具道本末。李、张并谓可怪。发棺视之，女体已生肉，姿颜如故，右脚有履，左脚无也。自尔之后遂死，肉烂不得生矣。“万恨之心，当复何言！”涕泣而别。

魏时，寻阳县北山中蛮人有术，能使人化作虎。毛色爪牙，悉如真虎。乡人周珍有一奴，使人山伐薪。奴有妇及妹，亦与俱行。既至山，奴语二人云：“汝且上高树，视我所为。”如其言。既而入草，须臾，见一大黄斑虎从草中出，奋迅吼唤，甚可畏怖。二人大骇。良久还草中，少时，复还为人，语二人云：“归家慎勿道。”后遂向等辈说之。周寻得知，乃以醇酒饮之，令熟醉。使人解其衣服及身体，事事详悉，了无他异。唯于髻发中得一纸，画作大虎，虎边有符，周密取录之。奴既醒，唤问之。见事已露，遂具说本末云：“先尝于蛮中告余，有蛮师云有此术，乃以三尺布，数升米糒，一赤雄鸡，一升酒，授得此法。”

卷 五

晋安帝时，侯官人谢端，少丧父母，无有亲属，为邻人所养。至年十七八，恭谨自守，不履非法。始出居，未有妻，邻人共愍念之，规为娶妇，未得。端夜卧早起，躬耕力作，不舍昼夜。后于邑下得一大螺，如三升壶。以为异物，取以归，贮瓮中。畜之数日。端每早至野还，见其户中有饭饮汤火，如有人为者。端谓邻人为之惠也。数日如此，便往谢邻人。邻人曰：“吾初不为是，何见谢也。”端又以邻人不喻其意，然数尔如此。后更实问，邻人笑曰：“卿已自取妇，密著室中炊爨，而言吾为之炊耶？”端默然心疑，不知其故。后以鸡鸣出去，平早潜归，于篱外窃窥其家中，见一少女，从瓮中出，至灶下燃火。端便入门，径至瓮所视螺，但见女。乃到灶下问之曰：“新妇从何所来，而相为炊？”女大惶惑，欲还瓮中，不能得去，答曰：“我天汉中白水素女也。天帝哀卿少孤，恭慎自守，



故使我权为守舍炊烹。十年之中，使卿居富得妇，自当还去。而卿无故窃相窥掩，吾形已见，不宜复留，当相委去。虽然，尔后自当少差。勤于田作，渔采治生。留此壳去，以贮米谷，常不可乏。”端请留，终不肯。时天忽风雨，翕然而去。端为立神座，时节祭祀。居常饷足，不致大富耳。于是乡人以女妻之。后任至令长。云今道中素女祠是也。

晋太康中，谢家沙门竺昙遂，年二十余，白皙端正，流俗沙门。常行经清溪庙前过，因入庙中看。暮归，梦一妇人来，语云：“君当来作我庙中神，不复入。”昙遂梦问：“妇人是谁？”妇人云：“我是清溪庙中姑。”如此一月许，便病。临死，谓同学年少曰：“我无福，亦无大罪，死乃当作清溪庙神。诸君行过，当看之。”既死后，诸年少道人诣其庙。既至，便灵语相劳问，声音如昔时。临去云：“久不闻呗声，思一闻之。”其伴慧观便为作呗讫。其神犹唱赞。语云：“岐路之诀，尚有凄怆。况此之怪，形神分散。窃冥之叹，情何可言。”既而歎歎不自胜，诸道人等皆为涕泣。

王导子悦为中书郎，导梦人以百万钱买悦，导潜为祈祷者备矣。寻掘地，得钱百万，意甚恶之，一一皆藏闭。及悦疾笃，导忧念时至，积日不食。忽见一人，形状甚伟，被甲持刀。问是何人。曰：“仆，蒋侯也。公儿不佳，欲为请命，故来尔。公勿复忧。”导因与之食，遂至数升。食毕，勃然谓导曰：“中书命尽，非可救也。”言讫不见。悦亦陨绝。

会稽郡县东野有女子姓吴，字望子，路忽见一贵人，俨然端坐，即蒋侯像也。因掷两橘与之。数数形见，遂隆情好。望子心有所欲，辄空中得之。常思脍，一双鲤自空而至。

孙恩作逆时，吴兴分乱，一男子忽急突入蒋侯庙。始入门，木像弯弓射之，即卒。行人及守庙者，无不皆见。

晋太元中，乐安高衡为魏郡太守，戍石头。其孙雅之在厩中，云有神来降。自称白头公，拄杖，光辉照屋。与雅之轻举宵行，暮至京口来还。后雅之父子为桓玄杀。

永和中，义兴人姓周，出都，乘马，从两人。行未至村，日暮。道边有一新草小屋，一女子出门，年可十六七，姿容端正，衣服鲜洁。望见周过，谓曰：“日已向暮，前村尚远，临贺诤得至？”周便求寄宿。此女为燃火作食。向一更中，闻外有小儿唤阿香声，女应诺。寻云：“官唤汝推雷车。”女乃辞行，云：“今有事当去。”夜遂大雷雨。向晓，女还。周既上马，看昨所宿处，止见一新冢，冢口有马尿及余草。周甚惊惋。后五年，果作临贺太守。

豫章人刘广，年少未婚。至田舍，见一女子，云：“我是何参军女，年十四而夭，为西王母所养，使与下土人交。”广与之缠绵。其日，于席下得手巾，裹鸡舌香。其母取巾烧之，乃是火浣布。

桓大司马从南州还，拜简文皇帝陵，左右觉其有异说。登车，谓从者曰：“先帝向遂灵见。”既不述帝所言，故众莫之知。但见将拜时，频言“臣不敢”而已。又问左右殷涓形貌。有人答：“涓为人肥短，黑色，甚丑。”桓云：“向亦见在帝侧，形亦如此。”意恶之，遂遇疾，未几而薨。



卷 六

汉时，会稽句章人至东野还，暮，不及至家，见路旁小屋燃火，因投宿止。有一少女，不欲与丈人共宿，呼邻人家女自伴，夜共弹空篴。问其姓名，女不答，弹弦而歌曰：“连绵葛上藤，一缓复一维。欲知我姓名，姓陈名阿登。”明至东郭外，有卖食母在肆中，此人寄坐，因说昨所见。母闻阿登，惊曰：“此是我女，近亡，葬于郭外。”

汉时诸暨县吏吴详者，惮役委顿，将投窜深山。行至一溪，日欲暮，见年少女子来，衣甚端正。女曰：“我一身独居，又无邻里，唯一孤姬。相去十余步尔。”详闻甚悦，便即随去。行一里余，即至女家，家甚贫陋。为详设食。至一更竟，忽闻一姬唤云：“张姑子。”女应曰：“诺。”详问是谁，答云：“向所道孤独姬也。”二人共寝息。至晓鸡鸣，详去，二情相恋，女以紫手巾赠详，详以布手巾报之。行至昨所应处，过溪。其夜大水暴溢，深不可涉。乃回向女家，都不见昨处，但有一冢尔。

庐江箏笛浦，浦有大舶，覆在水中，云是曹公船舶。尝有渔人，夜宿其旁，以船系之，但闻箏笛弦节之声及香气氤氲。渔人又梦人驱遣云：“勿近官船。”此人惊觉，即移船去。相传云曹公载数妓，船覆于此，今犹存焉。

卢充猎，见獐便射，中之。随逐，不觉远。忽见一里门如府舍，问铃下，铃下对曰：“崔少府府也。”进见少府，少府语充曰：“尊府君为索小女婚，故相迎耳。”三日婚毕，以车送充至家。母问之，具以状对。既与崔别后，四年之三月三日，充临水戏。遥见水边有轺车，乃往开车户。见崔女与三岁儿共载，情意如初。抱儿还充，水与金镜而别。

王伯阳家在京口，宅东有大家，相传云是鲁肃墓。伯阳妇，郗鉴兄女也，丧亡，王平其冢以葬。后数年，伯阳白日在厅事，忽见一贵人，乘平肩舆，与侍从数百人，马皆浴铁。径来坐，谓伯阳曰：“我是鲁子敬，安冢在此二百许年。君何故毁坏吾家？”因顾左右：“何不举手！”左右牵伯阳下床，乃以刀环击之数百而去。登时绝死。良久复苏，被击处皆发疽溃，寻便死。一说王伯阳亡，其子营墓，得一漆棺，移至南冈。夜梦鲁肃云：“当杀汝父。”寻，复梦见伯阳云：“鲁肃与吾争墓，若不如我，不复得还。”后于灵座褥上见血数，疑鲁肃之故也。墓今在长广桥东一里。

承俭者，东莞人。病亡，葬本县界，后十年，忽夜与其县令梦云：“没故民承俭，人今见劫，明府急见救。”令便敕内外装束，作百人仗，便令驰马往冢上。日已向出，天忽大雾，对面不相见，但闻冢中破棺声。有二人坟上望，雾暝不见人往。令既至，百人同声大叫，收得冢中三人。坟上二人遂得逃走。棺未坏，令即使人修复之。其夜，令又梦俭云：“二人虽得走，民悉志之：一人面上有青志，如藿叶；一人断其前两齿折。明府但案此寻觅，自得也。”令从其言追捕，并擒获。

荆州刺史殷仲堪，布衣时，在丹徒，忽梦见一人，自说己“是上虞人，死亡，浮丧飘



流江中，明日当至。君有济物之仁，岂能见移？著高燥处，则恩及枯骨矣”。殷明日与诸人共江上，看见一棺，逐水流下飘，飘至殷坐处。即令人牵取，题如所梦。即移著冈上，酌以酒饭。是夕，又梦此人来谢恩。

晋升平中，徐州刺史索逊乘船往晋陵。会暗发，回河行数里，有人求索寄载，云：“我家在韩冢，脚痛不能行，寄君船去。”四更时至韩冢，此人便去。逊遣人牵船，过一渡，施力殊不便，骂此人曰：“我数里载汝来，径去，不与人牵船。”欲与痛手。此人便还与牵，不觉用力而得渡。人便径入诸冢间。逊疑非人，使窃寻看。此人经冢间，便不复见。须臾复出，至一冢呼曰：“载公。”有出应者。此人云：“我向载人船来，不与其牵，奴便欲打我。今当往报之，欲暂借甘罗来。”载公曰：“坏我甘罗，不可得。”此人云：“无所苦，我试之耳。”逊闻此，即还船。须臾，岸上有物来，赤如百斛龠，长二丈许，径来向船，逊便大呼：“奴载我船，不与我牵，不得痛手！方便载公，甘罗今欲击我。今日即打坏奴甘罗。”言讫，忽然便失，于是遂进。

晋元熙中，上党冯述为相府吏，将假归虎牢。忽逢四人，各持绳及杖，来赴述。述策马避，马不肯进。四人各捉马一足，倏然便到河上。问述：“欲渡否？”述曰：“水深不测，既无舟楫，如何得渡？君正欲见杀尔。”四人云：“不相杀，当持君赴官。”遂复捉马脚涉河而北。述但闻波浪声，而不觉水。垂至岸，四人相谓曰：“此人不净，那得将去。”时述有弟夜服，深恐鬼离之，便当溺水死，乃鞭马作势，径得登岸。述辞谢曰：“既蒙恩德，何敢复烦劳。”

安丰侯王戎，字浚冲，琅邪临沂人也。尝赴人家殡殓。主人治棺未竟，送者悉入厅事上。安丰作车中卧。忽见空中有一异物，如鸟。熟视，转大渐近，见一乘赤马车，一人在中，著幘，赤衣，手持一斧，至地下车，径入王车中。回几容之，谓王曰：“君神明清照，物无隐情。亦有事，故来相从。然当为君一言：凡人家殡殓葬送，苟非至亲，不可急往，良不获已，可乘赤车，令髡奴御之，及乘白马，则可褻之。”因谓戎：“君当致位三公。”语良久。主人内棺当殡，众客悉入，此鬼亦入。既入户，鬼便持斧行棺墙上。有一亲趋棺，欲与亡人诀。鬼便以斧正打其额，即倒地。左右扶出。鬼于棺上，视戎而笑。众悉见鬼持斧而出。

李子豫，少善医方，当代称其通灵。许永为豫州刺史，镇历阳。其弟得病，心腹疼痛十余年，殆死。忽一夜，闻屏风后有鬼谓腹中鬼曰：“何不速杀之。不然，李子豫当从此过。以赤丸打汝，汝其死矣。”腹中鬼对曰：“吾不畏之。”及旦，许永遂使人候子豫，果来。未入门，病者自闻中有呻吟声。及子豫入视，曰：“鬼病也。”遂于巾箱中出八毒赤丸子与服之。须臾，腹中雷鸣鼓转，大利数行，遂差。今八毒丸方是也。

宋元嘉十四年，广陵盛道儿亡，托孤女于妇弟申翼之。服阙，翼之以其女嫁北乡严齐息，寒门也，丰其礼赂，始成婚。道儿忽空中怒曰：“吾喘唾之气，举门户相托。如何昧利忘义，结婚微族。”翼之乃大惶愧。



晋淮南胡茂回，能见鬼。虽不喜见，而不可止。后行至扬州，还历阳。城东有神祠，中正值民将巫祝视之。至须臾顷，有群鬼相叱曰：“上官来。”各迸走出祠去。回顾，见二沙门来入祠中。诸鬼两两三三相抱持，在祠边草中伺望。望见沙门，皆有怖惧。须臾，二沙门去后，诸鬼皆还祠中。回于是信佛，遂精诚奉事。

有一伧小儿，放牛野中，伴辈数人。见一鬼依诸丛草间，处处设网，欲以捕人。设网后未竟，伧小儿窃取前网，仍以罨捕，即缚得鬼。

庐江杜谦为诸暨令。县西山下一鬼，长三丈，著赭衣裤穿褶，在草中拍张。又脱褶掷草上，作“懊恼歌”。百姓皆看之。

会稽朱弼为国郎中令，营立第舍，未成而卒。同郡谢子木代其事，以弼死亡，乃簿书多张功赏，长百余万，以其赃诬弼。而实自入。子木夜寝，忽闻有人道弼姓字者。俄顷而到子木堂前，谓之曰：“卿以枯骨腐专可得诬，当以某日夜更与对证。”言终，忽然不见。

夏侯综为安西参军，常见鬼骑马满道，与人无异。尝与人载行，忽牵人语，指道上有一小儿云：“此儿正须大病。”须臾，此儿果病，殆死。其母闻之，诘综。综云：“无他，此儿向于道中掷涂，误中一鬼脚。鬼怒，故病汝儿尔。得以酒饭遣鬼，即差。”母如言而愈。

顺阳范启，母丧当葬。前母墓在顺阳，往视之，既至而坟垓杂沓，难可识别，不知何所。袁彦仁时为豫州，往看之，因云：“闻有一人见鬼。”范即如言，令物色觅之。比至，云：“墓中一人衣服颜状如此。”即开墓，棺物皆烂，冢中灰壤深尺余。意甚疑之。试令人以足拨灰中土，冀得旧物，果得一砖，铭云“范坚之妻”。然后信之。

沙门竺法师，会稽人也，与北中郎王坦之周旋甚厚。每共论死生罪福报应之事茫昧难明，因便共要，若有先死者，当相报。语后经年，王于庙中忽见法师来，曰：“贫道以某月日命故，罪福皆不虚，应若影响。檀越惟当勤修道德，以升跻神明耳。先与君要，先死者相报，故来相语。”言讫，忽然不见。坦之寻亦卒。

乐安刘池苟，家在夏口，忽有一鬼来住刘家。初因暗仿佛见形如人，著白布裤。自尔后，数日一来，不复隐形。便不去，喜偷食。不以为患，然且难之。初不敢呵骂。吉翼子者，强梁不信鬼，至刘家，谓主人曰：“卿家鬼何在？唤来，今为卿骂之。”即闻屋梁作声。时大有客，共仰视，便纷纭掷一物下，正著翼子面，视之，乃主人家妇女褰衣，恶犹著焉。众共大笑为乐。吉大惭，洗面而去。有人语刘：“此鬼偷食，乃食尽，必有形之物，可以毒药中之。”刘即于他家煮冶葛，取二升汁，密资还家。向夜，举家作粥糜，食余一瓿，因泻葛汁著中，置于几上，以盆覆之。人定后，闻鬼从外来，发盆啖糜。既讫，便掷破瓿走去。须臾间，在屋头吐，嗔怒非常，便捧打窗户。刘先已防备，与斗。亦不敢入。至四更，然后遂绝。



卷七

庐陵巴邱人陈济者，作州吏，其妇秦，独在家。常有一丈夫，长丈余，仪容端正，著绛碧袍，采色炫耀，来从之。后常相期于一山涧间。至于寝处，不觉有人道相感接。如是数年。比邻入观其所至，辄有虹见。秦至水侧，丈夫以金瓶引水共饮。后遂有身，生而如人，多肉。济假还，秦惧见之，乃纳儿著瓮中。此丈夫以金瓶与之，令覆儿，云：“小儿，未可得将去。不须作衣，我自衣之。”即与绛囊以裹之，令可时出与乳。于时风雨暝晦，邻人见虹下其庭，化为丈夫，复少时，将儿去，亦风雨暝晦。人见二虹出其家。数年来省母。后秦适田，见二虹于涧，畏之。须臾见丈夫，云：“是我，无所畏也。”从此乃绝。

宋元嘉初，富阳人姓王，于穷溪中作蟹断。旦往观之，见一材长二尺许，在断中。而断裂开，蟹出都尽。乃修治断，出材岸上。明往视之，材复在断中，断败如前。王又治断出材。明晨视，所见如初。王疑此材妖异，乃取内蟹笼中，牵头担归，云：“至家，当斧砍燃之。”未至家二三里，闻笼中倅倅动。转头顾视，见向材头变成一物，人面猴身，一身一足。语王曰：“我性嗜蟹，比日实入水破君蟹断，人断食蟹。相负已尔，望君见恕，开笼出我。我是山神，当相佑助，并令断得大蟹。”王曰：“如此暴人，前后非一，罪自应死。”此物恳告，苦请乞放。王回顾不应。物曰：“君何姓字，我欲知之。”频问不已，王遂不答。去家转近，物曰：“既不放我，又不告我姓字，当复何计，但应就死。”王至家，炽火焚之。后寂然无复声。土俗谓之山獠，云知人姓名，则能中伤人。所以勤勤问王，欲害人自免。

刘聪伪建元元年正月，平阳地震，其崇明观陷为池，水赤如血，赤气至天，有赤龙奋迅而去。流星起于牵牛，入紫微，龙形委蛇，其光照地，落于平阳北十里。视之则肉，臭闻于平阳，长三十步，广二十七步。肉旁尝有哭声，昼夜不止。数日聪后刘氏，产一蛇一兽，各害人而走。寻之不得。顷之，见于阙肉之旁。俄而刘氏死，哭声自绝。

晋中兴后，谯郡周子文，家在晋陵。少时喜射猎，常入山，忽山岫间有一人，长五六丈，手捉弓矢，矢镞头广二尺许，白如霜雪，忽出声唤曰：“阿鼠。”子文不觉应曰：“诺。”此人便牵弓满镞向子文，子文便失魂厌伏。

晋孝武世，宣城人秦精，常入武昌山中采茗。忽遇一人，身长丈余，遍体皆毛，从山北来。精见之，大怖，自谓必死。毛人径牵其臂，将至山曲，入大丛茗处，放之便去。精因采茗。须臾复来，乃探怀中二十枚橘与精，甘美异常。精甚怪，负茗而归。

会稽盛逸，常晨兴，路未有行人，见门外柳树上有一人，长二尺，衣朱衣朱冠，俯以舌舐叶上露。良久，忽见逸，神意惊遽，即隐不见。

宋永初三年，谢南康家婢，行逢一黑狗，语婢云：“汝看我背后。”婢举头，见一人长三尺，有两头。婢惊怕返走，人、狗亦随婢后，至家庭中，举家避走。婢问狗：“汝来何



为?”狗云:“欲吃食尔。”于是婢为设食。并食食讫,两头人出。婢因谓狗曰:“人已去矣。”狗曰:“正已复来。”良久乃没。不知所在。后家人死丧殆尽。

宋襄城李颐,其父为人不信妖邪。有一宅,由来凶不可居,居者辄死。父便买居之。多年安居,子孙昌炽。为二千石,当徙家之官,临去,请会内外亲戚。酒食既行,父乃言曰:“天下竟有吉凶否?此宅由来言凶,自吾居之,多年安吉,乃得迁官,鬼为何在?自今已后,便为吉宅。居者住止,心无所嫌也。”语讫如厕,须臾,见壁中有一物,如卷席大,高五尺许,正白。便还取刀中之,中断,化为两人。复横斫之,又成四人。便夺取,反斫杀李。持至坐上,斫杀其子弟。凡姓李者必死,惟异姓无他。颐尚幼,在抱。家内知变,乳母抱出后门,藏他家,止其一身获免。颐字景真,位至湘东太守。

宋王仲文为河南郡主簿,居缙氏县北。得休,因晚行泽中。见车后有白狗,仲文甚爱之。欲取之,忽变形如人,状似方相,目赤如火,磋牙吐舌,甚可憎恶。仲文大怖,与奴共击之,不胜而走。告家人,合十余人,持刀捉火,自来视之,不知所在。月余,仲文忽复见之。与奴并走,未到家,伏地俱死。

卷八

王机为广州刺史,人厕,忽见二人著乌衣,与机相捍。良久擒之,得二物如乌鸦。以问鲍靓,靓曰:“此物不祥。”机焚之,径飞上天。寻诛死。

晋义熙中,乌伤葛辉夫,在妇家宿。三更后,有两人把火至阶前。疑是凶人,往打之。欲下杖。悉变成蝴蝶,缤纷飞散,有冲辉夫腋下。便倒地,少时死。

诸葛长民富贵后,常一月中,辄十数夜眠中惊起跳踉,如与人相打。毛修之尝与同宿,见之惊愕,问其故,答曰:“正见一物,甚黑而有毛,脚不分明,奇健,非我无以制之也。”后来转数屋中柱及椽桷间,悉见有蛇头。令人以刃悬斫,应刃隐藏。去辄复出。又搗衣杵相与语,如人声,不可解。于壁见有巨手,长七八尺,臂大数围。令斫之,忽然不见。未几伏诛。

新野庾谧,母病,兄弟三人,悉在侍疾。白日常燃火,忽见帐带自卷自舒,如此数四。须臾间,床前闻狗声异常。举家共视,了不见狗,见一死人头在地,头犹有发,两眼尚动,甚可憎恶。其家怖惧。乃不持出门,即于后园中瘞之。明日往视,乃出土上,两眼犹尔,即又埋之。后日复出,乃以砖头合理之,遂不复出。他日,其母便亡。

王绥字彦猷,其家夜中,梁上无故有人头堕于床,而流血滂沱。俄拜荆州刺史,坐父愉之谋,与弟纳并被诛。

晋永嘉五年,张荣为高平戍逻主。时曹魏贼寇离乱,人民皆坞垒自保固。见山中火起,飞埃绝焰十余丈,树颠火炎,响动山谷。又闻人马铠甲声,谓魏贼上,人皆惶恐,并戒严出,将欲击之。乃引骑到山下,无有人,但见碎火来晒人,袍铠马毛鬣皆烧。于是军



人走还。明日往视，山中无烟火处，见髑髅百头，布散山中。

新野赵贞家，园中种葱，未经摘拔。忽一日，尽缩入地。后经岁余，贞之兄弟相次分散。

吴聂友，字文梯，豫章新淦人。少时贫贱，常好射猎。夜照见一白鹿，射中之。明寻踪，血既尽，不知所在。且已饥困，便卧一梓树下。仰见射箭著树枝上，视之，乃是昨所射箭。怪其如此，于是还家，赍粮，率子弟，持斧以伐之。树微有血，遂截为板二枚，牵著陂塘中。板常沉没，然时复浮出。出，家辄有吉庆。每欲迎宾客，常乘此板。忽于中流欲没，客大惧，友呵之，还复浮出。仕宦大如愿，位至丹阳太守。在郡经年，板忽随至石头。外司白云：“涛中板入石头来。”友惊曰：“板来，必有意。”即解职归家。下船便闭户，二板挟两边，一日即至豫章。尔后板出，便反为凶祸，家大辄辄。今新淦北二十里余，曰封溪，有聂友截梓树板，涛泮柯处。有梓树，今犹存。乃聂友向日所截，枝叶皆向下生。

卷 九

钱塘人姓杜，船行时大雪日暮，有女子素衣来岸上。杜曰：“何不入船？”遂相调戏。杜合船载之。后成白鹭，飞去。杜恶之，便病死。

丹阳人沈宗，在县治下，以卜为业。义熙中，左将军檀侯镇姑孰，好猎，以格虎为事。忽有一人，著皮衣裤，乘马，从一人，亦著皮裤，以纸裹十余钱，来诣宗卜，云：“西去觅食好，东去觅食好？”宗为作卦，卦成，告之：“东向吉，西向不利。”因就宗乞饮，内口著瓠中，状如牛饮。既出，东行百余步，从者及马皆化为虎。自此以后，虎暴非常。

晋升平中，有人入山射鹿，忽堕一坎，窅然深绝。内有数头熊子。须臾，有一大熊来，瞪视此人。人谓必以害己。良久，出藏果，分与诸子。末后作一分，置此人前。此人饥甚，于是冒死取啖之。既而转相狎习。熊母每旦出，觅果食还，辄分此人。赖以延命。熊子后大，其母一一负之而出。子既尽，人分死坎中，穷无出路。熊母寻复还人，坐人边。人解其意，便抱熊足，于是跃出。竟得无他。

淮南陈氏，于田中种豆，忽见二女子，姿色甚美，著紫纈襦，青裙，天雨而衣不湿。其壁先挂一铜镜，镜中见二鹿，遂以刀斫获之，以为脯。

晋太元中，丁零王翟昭后官养一猕猴，在妓女房前。前后妓女，同时怀妊，各产子三头，出便跳跃。昭方知是猴所为，乃杀猴及子。妓女同时号哭。昭问之，云：“初见一年少，著黄练单衣，白纱帽，甚可爱，笑语如人。”

会稽句章民张然，滞役在都，经年不得归。家有少妇，无子，惟与一奴守舍，妇遂与奴私通。然在都养一狗，甚快，名曰“乌龙”，常以自随。后假归，妇与奴谋，欲得杀然。



然及妇作饭食，共坐下食。妇语然：“与君当大别离，君可强笑。”然未得啖，奴已张弓矢当户，须臾食毕。然涕泣不食，乃以盘中肉及饭掷狗，祝曰：“养汝数年，吾当将死，汝能救我否？”狗得食不啖，惟注目舐唇视奴。然亦觉之。奴催食转急。然决计，拍膝大呼曰：“乌龙与手！”狗应声伤奴。奴失刀仆地；狗咋其阴，然因取刀杀奴。以妇付县，杀之。

晋太和中，广陵人杨生，养一狗，甚爱怜之，行止与俱。后生饮酒醉，行大泽草中，眠不能动。时方冬月燎原，风势极盛。狗乃周章号唤，生醉不觉。前有一坑水，狗便走往水中，还以身洒生左右草上。如此数次，周旋跬步，草皆沾湿，火至免焚。生醒，方见之。尔后生因暗行，墮于枯井中，狗呻吟彻晓。有人经过，怪此狗向井号，往视，见生。生曰：“君可出我，当有厚报。”人曰：“以此狗见与，便当相出。生曰：“此狗曾活我已死，不得相与。余即无惜。”人曰：“若尔，便不相出。”狗因下头目井。生知其意，乃语路人云：“以狗相与。”人即出之，系之而去。却后五日，狗夜走归。

晋穆、哀之世，领军司马济阳蔡咏家狗，夜辄群众相吠，往视便伏。后日，使人夜伺，有一狗，著黄衣，白帽，长五六尺，众狗共吠之。寻迹，定是咏家老黄狗，即打杀之。吠乃止。

代郡张平者，苻坚时为贼帅，自号并州刺史。养一狗，名曰“飞獒”，形若小驴。忽夜上厅事，狗上行，行声如平常。未经年，果为鲜卑所逐，败走，降苻坚，未几便死。

太叔王氏，后娶庚氏女，年少色美。王年六十，常宿外，妇深无忻。后忽一夕见王还，燕婉兼常。昼坐，因共食。奴从外来，见之大惊，以白王。王遽入，伪者亦出。二人交会中庭，俱著白帽，衣服形貌如一。真者便先举杖打伪者，伪者亦报打之。二人各教子弟，令与手。王儿乃突前痛打，是一黄狗，遂打杀之。王时为会稽府佐，门士云：“恒见一老黄狗，自东而来。”其妇大耻，病死。

林虑山下有一亭，人每过此，宿者辄病死。云尝有十余人，男女杂合，衣或白或黄，辄蒲博相戏。时有郢伯夷，宿于此亭，明烛而坐诵经。至中夜，忽有十余人来，与伯夷并坐蒲博。伯夷密以烛照之，乃是群犬。因执烛起，阳误以烛烧其衣，作燃毛气。伯夷怀刀，捉一人刺之，初作人唤，遂死成犬。余悉走去。

顾雍者，吴之豪士也。曾送客于升平亭。时有一沙门在座，是流俗道人。主人欲杀一羊，羊绝绳便走，来投入此道人膝中，穿头向袈裟下。道人不能救，即将去杀之。既行炙，主人便先割以啖道人。道人食炙下喉，觉炙行走皮中，毒痛不可忍。呼医来针之，以数针贯其炙，炙犹动摇。乃破出视之，故是一肉耳。道人于此得疾，遂作羊鸣，吐沫。还寺，少时卒。

吴郡顾旃，猎至一岗，忽闻人语声云：“咄！咄！今年衰。”乃与众寻觅。岗顶有一阱，是古时冢。见一老狐蹲冢中，前有一卷簿书，老狐对书屈指，有所计校。乃放太咋杀之。取视簿书，悉是奸人名。已经奸者，乃以朱钩头。所疏名有百数，旃女正在簿次。



襄阳刁凿齿，字彦威，为荆州主簿。从桓宣武出猎，时大雪，于江陵城西，见草上雪气出。伺观，见一黄物，射之，应箭死。往取，乃一老雄狐，脚上带绛绫香囊。

宋酒泉郡，每太守到官，无几辄死。后有渤海陈斐见授此郡，忧恐不乐，就卜者占其吉凶。卜者曰：“远诸侯，放伯裘。能解此，则无忧。”斐不解此语，答曰：“君去，自当解之。”斐既到官，侍医有张侯，直医有王侯，卒有史侯、董侯等，斐心悟曰：“此谓诸侯。”乃远之。即卧，思“放伯裘”之义，不知何谓。至夜半后，有物来斐被上。斐觉，以被冒取之，物遂跳踉，匍匐作声。外人闻，持火入，欲杀之。魅乃言曰：“我实无恶意，但欲试府君耳。能一相赦，当深报君恩。”斐曰：“汝为何物，而忽干犯太守。”魅曰：“我本千岁狐也。今变为魅，垂化为神，而正触府君威怒，甚遭困厄。我字伯裘，若府君有急难，但呼我字，便当自解。”斐乃喜曰：“真‘放伯裘’之义也。”即便放之。小开被，忽然有光，赤如电，从户出。明夜有敲门者，斐问是谁，答曰：“伯裘。”问：“来何为？”答曰：“白事。”问曰：“何事？”答曰：“北界有贼奴发也。”斐按发则验。每事先以语斐。于是境界无毫发之奸，而咸曰圣府君。后经月余，主簿李音共斐侍婢私通。既而惧为伯裘所白，遂与诸侯谋杀斐。伺傍无人，便与诸侯持杖直入，欲格杀之。斐惶怖，即呼“伯裘救我！”即有物如伸一匹绛，割然作声。音、侯伏地失魂，乃以次缚取。考询皆服，云：“斐未到官，音已惧失权，与诸侯谋杀斐。会诸侯见斥，事不成。”斐即杀音等。伯裘乃谢斐曰：“未及白音奸情，乃为府君所召。虽效微力，犹用惭惶。”后月余，与斐辞曰：“今后当上天去，不得复与府君相往来也。”遂去不见。

卷十

长沙有人，忘其姓名，家住江边。有女子渚次浣衣，觉身中有异，后不以为患，遂妊身。生三物，皆如鲛鱼。女以己所生，甚怜异之。乃著澡盘中养之。经三月，此物遂大，乃是蛟子。各有字，大者为“当洪”，次者为“破阻”，小者为“扑岸”。天暴雨水，三蛟一时俱去，遂失所在。后天欲雨，此物辄来。女亦知其当来，便出望之。蛟子亦举头望母，良久方去。经年后，女亡，三蛟子一时俱至墓所哭之，经日乃去。闻其哭声，状如狗噪。

安城平都县尹氏，居在郡东十里日黄村，尹佃舍在焉。元嘉二十三年六月中，尹儿年十三，守舍，见一人年可二十许，骑白马，张伞，及从者四人，衣并黄色，从东方而来。至门，呼尹儿：“来暂寄息。”因入舍中庭下，坐床，一人捉伞覆之。尹儿看其衣，悉无缝，马五色斑，似鳞甲而无毛。有顷，雨气至。此人上马去，回顾尹儿曰：“明日当更来。”尹儿观其去，西行，蹶虚而渐升，须臾，云气四合。白昼为之晦冥。明日，大水暴出，山谷沸涌，丘壑森漫。将淹尹舍，忽见大蛟长三丈余，盘屈庇其舍焉。

武昌虬山有龙穴，居人每见虬飞翔出入。岁旱祷之，即雨。后人筑塘其下，曰“虬



塘”。

吴兴人章苟者，五月中，于田中耕，以饭置蔬里，每晚取食，饭亦已尽。如此非一。后伺之，见一大蛇偷食。苟遂以铍斫之，蛇便走去。苟逐之，至一坂，有穴，便入穴。但闻啼声云：“斫伤我某甲。”或言：“何如？”或云：“付雷公，令霹雳杀奴。”须臾，云雨冥合，霹雳覆苟上。苟乃跳梁大骂曰：“天使！我贫穷，展力耕息。蛇来偷食，罪当在蛇，反更霹雳我耶？乃无知雷公也。雷公若来，吾当以铍斫汝腹。”须臾，云雨渐散，转霹雳向蛇穴中，蛇死者数十。

吴末，临海人入山射猎，为舍住。夜中，有一人，长一丈，著黄衣，白带，径来谓射人曰：“我有仇，克明日当战。君可见助，当厚相报。”射人曰：“自可助君耳，何用谢为。”答曰：“明日食时，君可出溪边。敌从北来，我南往应。白带者我，黄带者彼。”射人许之。明出，果闻岸北有声，状如风雨，草木四靡。视南亦尔。唯见二大蛇，长十余丈，于溪中相遇，便相盘绕。”白蛇势弱。射人因引弩射之，黄蛇即死。日将暮，复见昨人来，辞谢云：“住此一年猎，明年以去，慎勿复来，来必为祸。”射人曰：“善。”遂停一年猎，所获甚多，骤至巨富。数年后，忽忆先所获多，乃忘前言，复更往猎。见先白带人告曰：“我语君勿复更来，不能见用。仇子已大，今必报君。非我所知。射人闻之，甚怖，便欲走。乃见三乌衣人，皆长八尺，俱张口向之，射人即死。

元嘉中，广州有三人，共入山中伐木。忽见石窠中有二卵，大如升，取煮之，汤始热，便闻林中如风雨声。须臾，有一蛇，大十围，长四五丈，径来，于汤中衔卵去。三人无几皆死。

晋太元中，有士人嫁女于近村者，至时，夫家遣人来迎。女家好遣发，又令乳母送之。既至，重车累阁，拟于王侯。廊柱下，有灯火，一婢子严妆直守。后房帷帐甚美。至夜，女抱乳母涕泣，而口不得言。乳母密于帐中以手潜摸之，得一蛇，如数围柱，缠其女，从足至头。乳母惊走出外。柱下守灯婢子，悉是小蛇，灯火乃是蛇眼。

晋咸康中，豫州刺史毛宝戍郗城。有一军人于武昌市，见人卖一白龟子，长四五寸，洁白可爱，便买取持归，著瓮中养之。七日渐大，近欲尺许。其人怜之，持至江边，放江水中，视其去。后郗城遭石季龙攻陷，毛宝弃豫州，赴江者莫不沉溺。于时所养龟人，被铠持刀，亦同自入。既入水中，觉如堕一石上，水裁至腰。须臾，游出，中流视之，乃是先所放白龟，甲六七尺。既抵东岸，出头视此人，徐游而去。中江，犹回首视此人而没。



拾遗记

〔晋〕王嘉 撰

春皇庖牺

春皇者，庖牺之别号。所都之国，有华胥之洲。神母游其上，有青虹绕神母，久而方灭，即觉有娠。历十二年而生庖牺。长头修目，龟齿龙唇，眉有白毫，须垂委地。或人曰：岁星十二年一周天，今叶以天时，且闻圣人生皆有祥瑞。昔者人皇蛇身九首，肇自开辟，于时日月重轮，山明海静。自尔以来，为陵成谷，世历推移，难可纪算。比于圣德，有逾前皇。礼义文物，于兹始作。去巢穴之居，变茹腥之食，立礼教以导文，造干戈以饰武，丝桑为瑟，均土为埴，礼乐于是兴矣。调和八风以画八卦，分六位以正六宗。于时未有书契，规天为图，矩地取法，视五星之文，分晷景之度，使鬼神以致群祠，审地势以定川岳，始嫁取以修人道。庖者包也，言包含万象。以牺牲登荐于百神，民服其圣，故曰庖牺，亦谓伏羲。变混沌之质，文宓其教，故曰宓牺。布至德于天下，元元之类莫不尊焉。以木德称王，故曰春皇。其明睿照于八区，是谓太昊。昊者明也，位居东方，以含养蠢化，叶于木德，其音附角，号曰木星。

炎帝神农

炎帝始教民耒耜，躬勤畋亩之事，百谷滋阜。圣德所感，无不著焉。神芝发其异色，灵苗擢其嘉颖，陆地丹雘，骈生如盖，香露滴沥，下流成池，因为蒙龙之圃。朱草蔓衍于街衢，卿云蔚萋于丛薄，筑圆邱以视朝日，饰瑤阶以揖夜光。奏九天之和乐，百兽率舞，八音克谐，木石润泽，时有流云洒液，是谓霞浆。服之得道，后天而老。有石磷之玉，号曰夜明。以暗投水，浮而不灭。当斯之时，渐革庖牺之朴，辨文物之用。时有丹雀衔九穗禾，其坠地者，帝乃拾之，以植于田，食者老而不死。采峻谿之铜以为器，峻谿，山名也。下有金井，白气冠其上。人升于其间，雷霆之声在于地下。井中之金，柔弱可以鍼膝也。

录曰：谨按《周易》云，伏羲为上古，观文于天，察理于地，俯仰二仪，经纶万象，



至德备于冥昧，神化通于精粹。是以图书著其迹，河洛表其文，变太素之质，改淳远之化。三才之位既立，四维之义乃张，礼乐文物，自兹而始。降于下代，渐相移袭。《八索》载其遐轨，《九邱》纪其淳化，各昭籍篆，编列柱史。考验先经，刊详往诂，事列方典，取征群籍，博采百家，求详可证。按《山海经》云，棠帝之山，出浮水玉，巫閼之地，其木多文。自非道真俗朴，理会冥旨，与四时齐其契，精灵协其德，祲祥之异，胡可致哉。故使迹感诚著，幽祗不藏其宝，祗心剪害，殊性之类必驯也。以降露成池，蓄龙为圃。及乎夏代，世载绵绝，时有蒙龙之官。考诸遐籍，由斯立矣。

轩辕黄帝

轩辕出自有熊之国。母曰吴枢，以戊己之日生，故以土德称王也。时有黄星之祥。考定历纪，始造书契。服冕垂衣，故有袞龙之颂。变乘桴以造舟楫，水物为之祥瑞，沧海为之恬波。泛河沈璧，有泽马群鸣，山车满野。吹玉律，正璇衡，置四史以主图籍，使九行之士以统万国。九行者，孝、慈、文、信、言、忠、恭、勇、义。以观天地，以祠万灵，亦为九德之臣。薰风至，真人集，乃默世于昆山之上，留其冠剑佩舄焉。昆山者，鼎湖之极峻处也，立馆于其下。帝乘云龙而游，殊乡绝域，至今望而祭焉。帝以神金铸器，皆铭题。及升遐后，群臣观其铭，皆上古之字，多磨灭缺落。凡所造建，咸刊记其年时，辞迹皆质。诏使百辟群臣受德教者，先列珪玉于兰蒲席上，燃沈榆之香，春杂宝为屑，以沈榆之胶和之为泥，以涂地，分别尊卑华戎之位也。帝使风后负书，常伯荷剑，旦游涓流，夕归阴浦，行万里而一息。涓流如沙尘，足践则陷，其深难测。大风吹沙如雾，中多神龙鱼鳖，皆能飞翔。有石萆青色，坚而甚轻，从风靡靡，覆其波上，一茎百叶，千年一花。其地一名沙澜，言沙涌起而成波澜也。仙人甯封，食飞鱼而死，二百年更生。故甯先生游沙海七言颂云：“青萆灼烁千载舒，百龄暂死饵飞鱼。”则此花此鱼也。

少昊

少昊以金德王。母曰皇娥，处璇宫而夜织，或乘桴木而昼游，经历穷桑沧茫之浦。时有神童，容貌绝俗，称为白帝之子，即太白之精，降乎水际，与皇娥嬉戏，奏便娟之乐，游漾忘归。穷桑者，四海之滨，有孤桑之树，直上千寻，叶红槿紫，万岁一实，食之后天而老。帝子与皇娥泛于海上，以桂枝为表，结薰茅为旌，刻玉为鸂，置于表端，言鸂知四时之候，故《春秋传》曰“司至”是也。今之相风，北之遗象也。帝子与皇娥并坐，抚桐峰梓瑟。皇娥倚瑟而清歌曰：“天清地旷浩茫茫，万象回薄化无方。冷天荡荡望沧沧，乘桴轻漾著日傍。当其何所至穷桑，心知和乐悦未央。”俗谓游乐之处为桑中也。《诗》中《卫风》云“期我乎桑中”，盖类此也。白帝子答歌：“四维八埏眇难极，驱光逐影穷水域。璇宫夜静当轩织，桐峰文梓千寻直，伐梓作器成琴瑟。清歌流畅乐难极，沧溟海浦来栖



息。”

及皇娥生少昊，号曰穷桑氏，亦曰桑丘氏。至六国时，桑丘子著阴阳书，即其余裔也。少昊以主西方，一号金天氏，亦曰金穷氏。时有五凤，随方之色，集于帝庭，因曰凤鸟氏。金鸣于山，银涌于地；或如龟蛇之类，乍似人鬼之形；有水屈曲，亦如龙凤之状；有山盘紆，亦如屈龙之势；故有龙山、龟山、风水之目也。亦因以为姓，末代为龙丘氏，出班固《艺文志》；蛇丘氏，出《西王母神异传》。

颛 顼

帝颛顼高阳氏，黄帝孙昌意之子。昌意出河滨，遇黑龙负玄玉图。时有一老叟谓昌意云：“生子必叶水德而王。”至十年，颛顼生，手有文如龙，亦有玉图之象。其夜昌意仰视天，北辰下化为老叟。及颛顼居位，奇祥众祉，莫不总集。不稟正朔者，越山航海而皆至也。帝乃揖四方之灵，群后执珪以礼，百辟各有班序。受文德者锡以钟磬，受武德者锡以干戈。有浮金之钟，沈明之磬，以羽毛拂之，则声振百里。石浮于水上，如萍藻之轻，取以为磬，不加磨琢。及朝万国之时，乃奏含英之乐，其音清密，落云间之羽，鲸鲵游泳，海水恬波。有曳影之剑，腾空而舒，若四方有兵，此剑则飞起，指其方则克伐。未用之时，常于匣里如龙虎之吟。

溟海之北，有鞞鞞之国。人皆衣羽毛，无翼而飞，日中无影，寿千岁。食以黑河水藻，饮以阴山桂脂。凭风而翔，乘波而至。中国气暄，羽毛之衣，稍稍自落。帝乃更以文豹为饰。献黑玉之环，色如淳漆。贡玄驹千疋，帝以驾铁轮，骋劳殊乡绝域。其人依风泛黑河，以旋其国也。

暗河之北，有紫桂成林，其实如枣，群仙饵焉。韩终采药四言诗曰：“暗河之桂，实大如枣。得而食之，后天不老。”

高 辛

帝喾之妃，邹屠氏之女也。轩辕去蚩尤之凶，迁其民善者于邹屠之地，迁恶者于有北之乡。其先以地命族，后分为邹氏、屠氏。女行不践地，常履风云，游于伊洛。帝乃期焉，纳以为妃。妃常梦吞日，则生一子，凡经八梦，则生八子。世谓为八神，亦谓八翌，翌，明也，亦谓八英，亦谓八力，言其神力英明，翌成万象，亿兆流其神睿焉。

有丹丘之国，献玛瑙瓮，以盛甘露。帝德所洽，被于殊方，以露充于厨也。玛瑙石类也，南方者为之胜。今善别马者，死则破其脑视之，其色如血者，则日行万里，能腾空飞。脑色黄，日行千里。脑色青者，嘶闻数百里。脑色黑者，入水毛鬣不濡，日行五百里。脑色白者，多力而怒。今为器多用赤色，若是人工所制者，多不成器，亦殊朴拙。其国人听马鸣，则别其脑色。丹邱之地，有夜叉驹跋之鬼，能以赤马脑为瓶盃及乐器，皆精



妙轻丽。中国人有用者，则魑魅不能逢之。一说云马脑者，言是恶鬼之血，凝成此物。昔黄帝除蚩尤及四方群凶，并诸妖魅，填川满谷，积血成渊，聚骨如岳。数年中血凝如石，骨白如灰，膏流成泉。故南方有肥泉之水，有白垩之山，望之峨峨如霜雪矣。又有丹丘千年一烧，黄河千年一清，至圣之君，以为大瑞。丹丘之野多鬼血，化为丹石，则玛瑙矣。不可斫削雕琢，乃可铸以为器也。当黄帝时，玛瑙瓮至，尧时犹存，甘露在其中，盈而不竭，谓之宝露，以班赐群臣，至舜时，露已渐减。随帝世之污隆，时淳则露满，时浇则露竭，及乎三代，减于陶唐之庭。舜迁宝瓮于衡山之上，故衡山之岳有宝露坛。舜于坛下起月馆，以望夕月。舜南巡至衡山，百辟群后皆得露泉之赐。时有云气生于露坛，又迁宝瓮于零陵之上。舜崩，瓮沦于地下；至秦始皇通汨罗之流为小溪，迳从长沙至零陵，掘地得赤玉瓮，可容八斗，以应八方之数，在舜崩之堂前。后人得之，不知年月。至后汉东方朔识之，朔乃作《宝瓮铭》曰：“宝云生于露坛，祥风起于月馆，望三壶如盈尺，视八鸿如紫带。”三壶则海中三山也。一曰方壶，则方丈也。二曰蓬壶，则蓬莱也。三曰瀛壶，则瀛洲也。形如壶器。此三山上广、中狭、下方，皆如工制，犹华山之似削成。八鸿者，八方之名。鸿，大也。登月馆以望四海三山，皆如粟米紫带者矣。

唐 尧

帝尧在位，盛德光治。河洛之滨，得玉版方尺，图天地之形。又获金壁之瑞，文字炳列，记天地造化之始。四凶既除，善人来服，分职设官，彝伦攸叙。乃命大禹，疏川濬泽。有吴之乡，有北之地，无有妖灾。沈翔之类，自相驯扰。幽州之墟，羽山之北，有善鸣之禽，人面鸟喙，八翼一足，毛色如雉，行不践地，名曰青鸛，其声似钟磬笙竿也。《世语》曰：“青鸛鸣，时太平。”故盛明之世，翔鸣藪泽，音中律吕，飞而不行。至禹平水土，栖于川岳，所集之地，必有圣人出焉。自上古铸诸鼎器，皆图像其形，铭赞至今不绝。

尧登位三十年，有巨查浮于西海，查上有光，夜明昼灭。海人望其光，乍大乍小，若星月之出入矣。查常浮绕四海，十二年一周天，周而复始，名曰贯月查，亦谓挂星查，羽人栖息其上。群仙含露以漱，日月之光则如暝矣。虞夏之季，不复记其出没。游海之人，犹传其神仙也。西海之西，有浮玉山，山下有巨穴，穴中有水，其色若火，昼则通晓不明，夜则照耀穴外，虽波涛汹涌，其光不灭，是谓阴火。当尧世，其光烂起，化为赤云，丹辉炳映，百川恬澈，游海者铭曰沈燃，以应火德之运也。

尧在位七十年，有鸾雏岁岁来集，麒麟游于藪泽，象鸱逃于绝漠。有祗支之国，献重明之鸟，一名双睛，言双睛在目，状如鸡，鸣似凤。时解落毛羽，肉翮而飞，能搏逐猛兽虎狼，使妖灾群恶不能为害。饴以琼膏。或一岁数来，或数岁不至，国人莫不扫洒门户，以望重明之集。其未至之时，国人或刻木，或铸金，为此鸟之状，置于门户之间，则魑魅



丑类，自然退伏。今人每岁元日，或刻木铸金，或图画为鸡于牖上，此其遗像也。

虞舜

虞舜在位十年，有五老游于国都，舜以师道尊之，言则及造化之始。舜禅于禹，五老去不知所从。舜乃置五星之祠以祭之。其夜有五长星出，薰风四起，连珠合璧，祥应备焉。万国重译而至。有大频之国，其民来朝，乃问其灾祥之数。对曰：“昔北极之外，有瀟海之水，渤溟高隐于日中。有巨鱼大蛟，莫测其形也，吐气则八极皆暗，振鬣则五岳波荡。当唐尧时，怀山为害，大蛟紫天，紫天则三河俱溢，海渚同流。三河者，天河、地河、中河是也。此三水有时通壅，至圣之治，水色俱澄，无有流沫。及帝之商均，暴乱天下，则巨鱼吸日，蛟绕于天，故诬妄也。此言吸日而星雨皆坠，抑亦似是而非也。故使后来为之回惑，托以无稽之言，特取其爱博多奇之间，录其广异宏丽之靡矣。

舜葬苍梧之野，有鸟如雀，丹州而来，吐五色之气，氤氲如云，名曰凭虚雀。能群飞衔土成丘坟。此鸟能反形变色，集于峻林之上，在木则为禽，行地则为兽，变化无常，常游丹海之际。时来苍梧之野，衔青砂珠积成垄阜，名曰珠邱。其珠轻细，风吹如尘起，名曰珠尘。今苍梧之外，山人采药，时有得青石，圆洁如珠，服之不死，带者身轻，故仙人方回游南岳七言赞曰：“珠尘圆洁轻且明，有道服者得长生。”

冀州之西二万里，有孝养之国，其俗人年三百岁，而织茅为衣，即《尚书》“岛夷卉服”之类也。死，葬之中野，百鸟衔土为坟，群兽为之掘穴，不封不树。有亲死者，克木为影，事之如生。其俗骁勇，能吃金石，其舌杪方而本小。手搏千钧。以爪画地，则洪泉涌流。善养禽兽，入海取虬龙，育于圃室，以充祭祀。昔黄帝伐蚩尤，除诸凶害，独表此处为孝养之乡，万国莫不钦仰，故舜封为孝让之国。舜受尧禅，其国执玉帛来朝，特加宾礼，异于余戎狄也。爰及鸟兽昆虫，以应阴阳。至亿万之年，山一轮，海一竭，鱼蛟陆居，有赤乌如鹏，以翼覆蛟鱼之上。蛟以尾叩天求雨，鱼吸日之光，冥然则暗如薄蚀矣，众星与雨偕坠。舜乃祷海岳之灵，万国称圣。德之所治，群祥咸至矣。

南得之国，有洞穴阴源，其下通地脉。中有毛龙，时脱骨于旷泽之中。鱼龙同穴而处。其国献毛龙，一雌一雄，放置蒙龙之宫，至夏代养龙不绝，因以命族。至禹导川乘此龙，及四海攸同，反放河汭。

寻曰：按《春秋传》云“星陨如雨，而夜犹明。”《淮南子》曰：“麒麟斗而日月蚀，鲸鱼死而彗星见。”夫盈虚薄蚀，未详于圣典。字彖妖沴，著灾异于图册。麒麟斗，鲸鱼死，靡闻于前经。求诸正诰，殆将昧焉。

录曰：自稽考群籍，伏羲至于轩辕、少昊、高辛、唐、虞之君，禅业相袭，符表名类，未若尧之盛也。按《易纬》云：尧为阳精，叶德乾道，粤若稽古，是谓上圣，惟天为大，惟尧则之。禅业有虞，所谓契叶符同，明象日月。盖其载历遐旷，算纪绵远，德业异



纪，神迹各殊。考传闻于前古，求金言于中世，而道教参差，祥瑞递起，指明群说，能无髣髴。精灵冥昧，至圣之所不语，安以浅末贬其有无者哉。刘子政曰：“凡传闻不如亲闻，亲闻不如亲见。”何则？神化歟忽，出隐难常，非肤受之所考算，恒情之所思测。至如龙火鸟水之异，云凤麟虫之属，魍魉百怪之形，歟忽之像，凭风云而自生，因金玉而相化，未祥备于夏鼎，信莫记于山经。贯月查之诞，重明桂实之说，阳燧出于冰木，阴虫生于炎山，易肠倒舌之民，脱骨龙肉之景，凭风云而托生，含雨露而蠢育，已表怪于众图，方见伟于群记。茫茫遐迹，眇眇流文，百家迂阔，各尚斯异，吁！非守文于一说者矣。

夏 禹

尧命夏鲧治水，九载无绩。鲧自沈于羽渊，化为玄鱼，时扬须振鳞，横修波之上，见者谓为河精。羽渊与河海通源也。海民于羽山之中，修立鲧庙，四时以致祭祀，常见玄鱼与蛟龙跳跃而出，观者惊而畏矣。至舜命禹疏川奠岳，济巨海则鼃鼃而为梁，逾翠岑则神龙而为馭，行遍日月之墟，惟不践羽山之地，皆圣德感鲧之灵化，其事互说，神变犹一，而色状不同。玄鱼黄熊，四音相乱，传写流文，鲧字或鱼边玄也。群疑众说，并略记焉。

录曰：书契之作，肇迹轩轸，道朴风淳，文用尚质。降及唐、虞，爰迄三代，世祀遐绝，载历绵远。列圣通儒，忧乎道缺。故使玉牒金绳之书，虫章鸟篆之记，或秘诸岩藪，藏于屋壁。或逢丧乱，经籍事寝，前史旧章，或流散异域。故字体与俗讹移，其音旨随方互改。历商、周之世，又经嬴、汉，简帛焚裂，遗文残泯。详其朽蠹之余，采摭传闻之说。是以己亥正于前疑，三豕析于后谬。子年所述，涉乎万古，与圣叶同，摭文求理，斯言如或可据。《尚书》云：“尧殛鲧于羽山。”《春秋传》曰：“其神化为黄熊，以入羽渊。”是在山变为熊，入水化为鱼也。兽之依山，鱼之附水，各因其性而变化焉。详之正典，采访杂说，若真若似，并略录焉。

禹铸九鼎，五者以应阳法，四者以象阴数。使工师以雌金为阴鼎，以雄金为阳鼎。鼎中常满，以占气象之休否。当夏桀之世，鼎水忽沸。及周将末，九鼎咸震，皆应灭亡之兆。后世圣人，因禹之迹，代代铸鼎焉。禹尽力沟洫，导川夷岳，黄龙曳尾于前，玄龟负青泥于后。玄龟，河精之使者也。龟颌下有印文，皆古篆字，作“九州山川”之字。禹所穿凿之处，皆以青泥封记其所，使玄龟印其上。今人聚土为界，此其遗象也。

禹凿龙关之山，亦谓之龙门。至一空岩，深数十里，幽暗不可复行，禹乃负火而进。有兽状如豕，衔夜明之珠，其光如烛。又有青犬，行吠于前。禹计可十里，迷于昼夜，既觉渐明，见向来豕犬变为人形，皆著玄衣。又见一神，蛇身人面。禹因与语，神即示禹八卦之图，列于金版之上。又有八神侍侧。禹曰：“华胥生圣子，是汝耶？”答曰：“华胥是九河神女，以生余也。”乃探玉简授禹，长一尺二寸，以合十二时之数，使量度天地。禹即执持此简，以平定水土。蛇身之神，即羲皇也。



录曰：夫神迹难求，幽暗罔辨，希夷仿佛之间，闻见以之銜惑。若测诸冥理，先坟有所指明。是以彭生假见于贝邱，赵王示形于苍犬，皆文备鲁册，验表齐汉。远古旷代，事异神同。衔珠吐烛之怪，精灵一其均矣。若夫茫茫禹迹，杳漠神源，非末俗所能推辨矣。观伏羲至于夏禹，岁历悠旷，载祀绵邈，故能与日月共辉，阴阳齐契。万代百王，情异迹至，参机会道，视万龄如旦暮，促累劫于寸阴。何嗟鬼神之可已，而疑羲、禹之相遇乎。

殷 汤

商之始也，有神女简狄，游于桑野，见黑鸟遗卵于地，有五色文，作“八百”字，简狄拾之，贮以玉筐，覆以朱紱。夜梦神母谓之曰：“尔怀此卵，即生圣子，以继金德。”狄乃怀卵，一年而有娠，经十四月而生契。祚以八百，叶卵之文也。虽遭旱厄，后嗣兴焉。

传说胙为赭衣者，春于深岩以自给。梦乘云绕日而行，筮得“利建侯”之卦。岁余，汤以玉帛聘为阿衡也。

纣之昏乱，欲讨诸侯，使飞廉、恶来，诛戮贤良，取其宝器，埋于琼台之下。使飞廉等，惑所近之国，侯服之内，使烽燧相续。纣登台以望火之所在，乃兴师往伐其国，杀其君，囚其民，收其女乐，肆其淫虐，神人愤怒。时有朱鸟衔火，如星之照耀，乱以烽燧之光。纣乃回惑，使诸侯灭其烽燧。于是，亿兆夷民乃欢，万国已静。及武王伐纣，樵夫牧竖，探高鸟之巢，得玉玺，文曰：“水德将灭，木祚方盛。”文皆大篆，纪殷之世历已尽，而姬圣之德方隆。是以三分天下，而其二归周。故蚩蚩之类，嗟殷亡之晚，望周来之迟矣。

师延者，殷之乐人也。设乐以来，世遵此职。至师延精述阴阳，晓明象纬，莫测其为人。世载辽绝，而或出或隐。在轩辕之世，为司乐之官。及殷时，总修三皇五帝之乐。拊一弦琴，则地祇皆升；吹玉律，则天神俱降。当轩辕之时，年已数百岁，听众国乐声，以审兴亡之兆。至夏末，抱乐器以奔殷。而纣淫于声色，乃拘师延于阴宫，欲极刑戮。师延既被囚系，奏清音、流徵、涤角之音。司狱者以闻于纣，纣犹嫌曰：“此乃淳古远乐，非余可听说也”，犹不释。师延乃更奏迷魂淫魄之曲，以欢修夜之娱，乃得免炮烙之害。周武王兴师，乃越濮流而逝，或云死于水府。故晋、卫之人，铸石铸金以像其形，立祀不絕矣。

录曰：《三坟》、《五典》，及诸纬候杂说，皆言简狄吞燕卵而生契。《诗》云：“天命玄鸟，降而生商。”斯文正矣。此说怀感而生，众言各异，故记其殊别也。传说去其春筑，释彼偁赁，应翹旌而来相，可谓知几其神矣。同磻溪之归周，异殷相之负鼎，龙蛇遇命，道会则通。斯则往贤之明教，通人之至规。乐天知命，信之经言也。死且不朽，是谓名也。乌无声誉于后裔，扬风烈于万祀。譬诸金玉，烟埃不能埋其坚贞。比之泾渭，淄渭不能混其澄澈。师延当纣之虐，矫步求存，因权取济，观时殉主，全身获免。所谓因能而



通，卒以智免。故影被丹青，形刊金石，爱其和乐之功，贵其神迹之远矣。至如越思计然之利，铸金以旌其德，方斯蔑矣。

周

周武王东伐纣，夜济河。时云明如昼，八百之族，皆齐而歌。有大蜂状如丹鸟，飞集王舟，因以鸟画其旗。翌日而巢纣，名其船曰蜂舟。鲁哀公二年，郑人击赵简子，得其蜂旗，则其类也。武王使画其像于幡旗，以为吉兆。今人幡信，皆为鸟画，则遗象也。

成王即政三年，有泥离之国来朝，其人称：自发其国，常从云里而行，闻雷霆之声在下，或入潜穴，又闻波瀾之声在上。视日月以知方国所向，计寒暑以知年月。考国之正朔，则序历与中国相符。王接以外宾礼也。

四年，旃涂国献凤雏，载以瑶华之车，饰以五色之玉，驾以赤象，至于京师，育于灵禽之苑，饮以琼浆，饴以云实，二物皆出上元仙方。凤初至之时，毛色文彩彪发。及成王封泰山、禅社首之后，文彩炳耀中国，飞走之类，不复喧鸣，咸服神禽之远至也。及成王崩，冲飞而去。孔子相鲁之时，有神凤游集。至哀公之末，不复来翔。故云：凤鸟不至，可为悲矣。

五年，有因祗之国，去王都九万里，献女工一人，体貌轻洁，被纤罗杂绣之衣，长袖修裾，风至则结其袿带，恐飘飘不能自止也。其人善织，以五色丝内于口中，手引而结之，则成文锦。其国人来献，有云昆锦，文似云从山岳中出。有列堞锦，文似云覆城雉楼堞。杂珠锦，文似贯珠佩也。有篆文锦，文似大篆之文也。有列明锦，文似列灯烛也。幅皆广三尺。其国丈夫勤于耕稼，一日锄十顷之地。又贡嘉禾，一茎盈车。故时俗四言诗曰：“力勤十顷，能致嘉禾。”

六年，燃邱之国献比翼鸟，雌雄各一，以玉为樊。其国使者，皆拳头尖鼻，衣云霞之布。如今朝霞也。经历百有余国，方至京师。其中路山川不可记，越铁峴，泛沸海、蛇洲、峰岑。铁峴峭砺，车轮刚金为辋，比至京师，轮皆锐几尽。又沸海汹涌如煎，鱼鳖皮骨坚强如石，可以为铠。泛沸海之时，以铜薄舟底，蛟龙不能近也。又经蛇洲，则以豹皮为屋，于屋内推车。又经峰岑，燃胡苏之木，此木烟能杀百虫。经途十五余年，乃至洛邑。成王封泰山，禅社首。使发其国之时并童稚，至京师须皆白。及还至燃邱，容貌还复少壮。比翼鸟多力，状如鹄，衔南海之丹泥，巢昆岑之玄木，遇圣则来集，以表周公辅圣之祥异也。

七年，南陲之南，有扶娄之国。其人善能机巧变化，异形改服，大则兴云起雾，小则入于纤毫之中。缀金玉毛羽为衣裳，吐云喷火，鼓腹则如雷霆之声。或化为群犀、象、狮子、龙蛇、火鸟之状，或变为虎兕，口中生人，备百戏之乐，宛转屈曲于指掌间。人形或长数分，或复数寸，神怪欻忽，銜丽于时。乐府皆传此伎，至末代犹学焉，得粗亡精，代



代不绝，故俗谓之婆猴伎，则扶萎之音，讹替至今。

昭王即位二十年，王坐祗明之室，昼而假寐。忽梦白云蔚蔚而起，有人衣服并皆毛羽，因名羽人。梦中与语，问以上仙之术。羽人曰：“大王精智未开，欲求长生久视，不可得也。”王跪而请受绝欲之教，羽人乃以指画王心，应手即裂。王乃惊寤，而血湿衿席，因患心疾，即却膳辍乐。移于旬日，忽见所梦者复来，语王曰：“先欲易王之心。”乃出方寸绿囊，中有续脉明丸、补血精散，以手摩王之臆，俄而即愈。王即请此药，贮以玉缶，缄以金绳。王以涂足，则飞天地万里之外，如游咫尺之内。有得服之，后天而死。

二十四年，涂修国献青凤、丹鹊，各一雌一雄。孟夏之时，凤、鹊皆脱易毛羽，聚鹊翅以为扇，缉凤羽以饰车盖也。扇一名游飘，二名条翩，三名亏光，四名仄影。时东函献二女，一名延娟，二名延嫫。使二人更摇此扇，侍于王侧，轻风四散，冷然自凉。此二人辩口丽辞，巧善歌笑，步尘上无迹，行日中无影。及昭王沦于汉水，二女与王乘舟，夹拥王身，同溺于水。故江汉之人，到今思之，立祀于江湄。数十年间，人于江汉之上，犹见王与二女。乘舟戏于水际。至暮春上巳之日，楔集祠间。或以时鲜甘味，采兰杜包裹，以沈水中。或结五色纱囊盛食，或用金铁之器，并沈水中，以惊蛟龙水虫，使畏之而不侵此食也。其水傍号曰招祗之祠。缀青凤之毛为二裘，一名煖质，二名暄肌，服之可以却寒。至厉王流于彘，彘人得而奇之，分裂此裘，遍于彘土。罪人大辟者，抽裘一毫以赎其死，则价值万金。

录曰：武王资圣智而克伐，观天命以行诛，不驱熊黑之师，不劳三战之旅，一戎衣而定王业，凭神力而协符瑞。至于成王，制礼崇乐，姬德方盛，营洛邑而居九鼎，寝刑庙而万国来宾。虽大禹之隆夏绩，帝乙之兴殷道，未足方焉。故能继后稷之先基，绍公刘之盛德，文武之迹不坠。故《大雅》称为“令德”。播声教于八荒之外，流仁惠于九围之表，神智之所绥化，遐迩之所来服，靡不越岳航海，交尽于辽险之路。瑰宝珠怪之物，充于王庭。灵禽神兽之类，游集林御。诡丽殊用之物，饒斫异于人功。方册未之或载，篆素或所不纪，及乎王人风举之使，直指逾于日月之隆，穷昏明之际，觐风星以望路，凭云波而远逝。所谓道通幽微，德被冥昧者也。成、康以降，世祀陵衰。昭王不能宏远业，垂声教，南游荆楚，义乖巡狩，溯精灵于江汉，且极于幸田。水滨所以招问，《春秋》以为深贬。嗟二姬之殉死，三良之贞节，精诚一至，视殒若生。格之正道，不如强谏。楚人怜之，失其死矣。

周穆王

穆王即位三十二年，巡行天下，驭黄金碧玉之车，傍气乘风，起朝阳之岳，自明及晦，穷宇县之表。有书史十人，记其所行之地。又副以瑶华之轮十乘，随王之后以载其书也。王驭八龙之骏：一名绝地，足不践土，二名翻羽，行越飞禽；三名奔霄，夜行万里；



四名超影，逐日而行；五名逾辉，毛色炳耀；六名超光，一形十影；七名腾雾，乘云而奔；八名挟翼，身有肉翅。递而驾马，按轡徐行，以匝天地之域。王神智远谋，使迹轂遍于四海，故绝异之物，不期而自服焉。

录曰：夫因气含生，罕不以形相别。至于比德方事，龙马则同类焉。是以蔡县观其智，忌卫相其才，抑亦昭发于图纬，而刊载于宝牒，章皇王之符瑞，叶河洛之祯祥，故以丹青列其形，铜玉传其象。至如驺耳、骅骝、赤骥、白骥之绝，黄渠、山子、逾轮之异，不可得而比也。故能遥碣石而辄倒晷，排闾阖而軼姑徐，非夫归风弥尘之迹，超虚送日之步，安能若是哉。望绛宫而骧首，指琼台而一息，繫可得而齐影矣。至于《诗》、《书》所记，名色实多，駉騊丽乎垌野，皎质耀乎空谷，或表形鬃紫，被乎青玄，难可尽言矣。其有龙文、骥象之伦，取其电逝而飏逸，骥、骠、驂、騊之俦，亦腾骧以称骏，莫不待盛明而皆出，历代之神宝矣。次有蒲梢、啮膝、鱼文、骊驹之类，或擅名于汉右，或珍生于冀北，备饰于涓正，填列于帝帑，进则充服于上襄，而骖驱于瑶格，退则羈弃于下圉，思取于帝闲，俟吴班、秦公之见识，仰天门弥远，窥云路而可难哉。使乎韩哀、孙阳之复执靶，岂伤吻敝策伏匿而不进焉。自非神彻幽遐，体照冥远，驱驾群龙，穷观天域，详搜迥古，靡得俦焉。

三十六年，王东巡大骑之谷，指春宵宫，集诸方士仙术之要，而螭、鹄、龙、蛇之类，奇种凭空而出。时已将夜，王设长生之灯以自照，一名恒辉。又列璠膏之烛，遍于宫内。又有凤脑之灯。又有冰荷者，出冰壑之中，取此花以覆灯七八尺，不欲使光明远也。西王母乘翠凤之辇而来，前导以文虎、文豹，后列雕麟、紫麋。曳丹王之履，敷碧蒲之席，黄莞之荐，共玉帐高会，荐清澄瑰瑛之膏以为酒。又进洞渊红花，崑州甜雪，昆流素莲，阴岐黑枣，万岁冰桃，千常碧藕，青花白橘。素莲者，一房百子，凌冬而茂。黑枣者，其树百寻，实长二尺，核细而柔，百年一熟。

扶桑东五万里，有磅礴山。上有桃树百围，其花青黑，万岁一实。郁水在磅礴山东，其水小流，在大陂之下，所谓沈流，亦名重泉。生碧藕，长千常，七尺为常也。条阳山出神蓬如蒿，长十丈。周初，国人献之，周以为宫柱，所谓蒿宫也。中有白橘，花色翠而实白大如瓜，香闻数里，奏环天之和乐，列以重霄之宝器。器则有岑华镂管，睥泽雕钟，员山静瑟，浮瀛羽磬，抚节按歌，万灵皆聚。环天者，钧天也。和，广也。岑华，名也，在西海，山有象竹，截为管吹之，为群风之鸣。睥泽出精铜，可为钟铎。员山，其形员也，有大林，虽疾风震地，而林木不动，以其木为琴瑟，故曰静瑟。浮瀛，即瀛洲也，上有青石可为磬，磬者长一丈，轻若鸿毛，因轻而鸣。西王母与穆王欢歌既毕，乃命驾升云而去。

鲁僖公

僖公十四年，晋文公焚林以求介之推，有白鹤绕烟而噪，或集之推之侧，火不能焚。



诬百姓，文、武、周公之所不取也。”王乃疏莠弘而求正谏之士。时异方贡玉人、石镜，此石色白如月，照面如雪，谓之月镜。有玉人，机戾自能转动。莠弘言于王曰：“圣德所招也。”故周人以莠弘幸媚而杀之，流血成石，或言成碧，不见其尸矣。

有韩房者，自渠胥国来，献玉驼，高五丈，虎魄凤凰，高六尺，火齐镜，广三尺，暗中视物如昼，向镜语，则镜中影应声而答。韩房身長一丈，垂发至膝，以丹砂画左右手，如日月盈缺之势，可照百余步。周人见之如神明矣。灵王末年，亦不知所在。

录曰：夫诱于可欲，而正德亏矣，惑于闻见，志用迁矣，周灵之谓乎。尔乃受制于奢，玩神于乱，波荡正教，为之偷薄，淫湎因斯而滋焉。何则？溯此仙道，弃彼儒教，观乎异俗，万代之神绝者也。及其化流遐俗，风被边隅，非正朔之所被服，四气之所含养，而使鬼物随方而竞至，奇精自远而来臻，穷天区而尽地域，反五常而移四序，恍惚形象之间，希夷明昧之际，难可言也。穷幽极旨，伟哉伟哉。凡事君尽礼，忠为令德。有违则规谏以竭言，弗从则奉身以求退。甚能剖身碎首，莫顾其生，排户触轮，知死不去。如手足卫头目，舟楫济巨川，君臣之义，斯为至矣。而弘违“有犯无隐”之诫，行求媚以取容身，卒见于夷戮，可为哀也。容成、莠弘不并语矣。

师旷者，或出于晋灵之世，以主乐官，妙辨音律，撰兵书万篇。时人莫知其原裔，出没难详也。晋平公之时，以阴阳之学显于当世。黥目为瞽人，以绝塞众虑，专心于星算音律之中，考钟吕以定四时，无毫厘之异。《春秋》不记师旷出何帝之时。旷知命欲终，乃述《宝符》百卷。晋战国时，其书灭绝矣。

老聃在周之末，居反景日室之山，与世人绝迹。惟有黄发老叟五人，或乘鸿鹤，或衣羽毛，耳出于顶，瞳子皆方，面色玉洁，手握青筠之杖，与聃共谈天地之数。及聃退迹为柱下史，求天下服道之术，四海名士，莫不争至，五老即五方之精也。

浮提之国，献神通善书二人，乍老乍少，隐形则出影，闻声则藏形。出肘间金壶四寸，上有五龙之检，封以青泥。壶中有黑汁如淳漆，洒地及石，皆成篆隶科斗之字。记造化人伦之始，佐老子撰《道德经》，垂十万言。写以玉牒，编以金绳，贮以玉函。昼夜精勤，形劳神倦。及金壶汁尽，二人刳心沥血，以代墨焉。递钻脑骨，取髓代为膏烛。及髓血皆竭，探怀中玉管，中有丹药之屑，以涂其身，骨乃如故。老子曰：“更除其繁素，存五千言。”及至经成工毕，二人亦不知所往。

录曰：庄周云：“德配天地，犹假至言。”观乎老氏，崇谦柔以为要，挹虚寂以归真，知大朴之既漓，发玄文以示世。孰能辨其虚无，究斯深寂？是以仲尼贵其德，叶以神灵，极譬其人以为龙矣。师旷设数千间，卒具春秋之末。《抱朴子》谓为“知音之圣”也。虽容成之妙，大挠之推历，夔、襄之理乐，延州之听，故未之能过也。

师涓出于卫灵公之世，写列代之乐，造新曲以代古乐，故有四时之乐。春有离鸿去雁应蒹之歌，夏有明晨焦泉芝华流金之调，秋有商风白云落叶吹蓬之曲，冬有凝河流阴沈云之操。以此四时之声，奏于灵公。灵公情恹心惑，忘于政事。蓬伯玉趋阶而谏曰：“此



虽以发扬气律，终为沈湎淫漫之音，无合于风雅，非下臣宜荐于君也。”灵公乃去其声而亲政务，故卫人化其美焉。师涓悔其乖于《雅》、《颂》，失为臣之道，乃退而隐迹。蓬伯玉焚其乐器于九达之衢，恐后世传造焉。

录曰：夫体国以质直为先，导政以谦约为本。故三风十愆，《尚书》以之昭誓。无荒无怠，《唐风》贵其遵俭。灵公违诗人之明讽，惟奢纵惑心，虽追悔于初失，能革情于后谏，日月之蚀，无损明焉。伯玉志存规主，秉亮为心。师涓识进退之道，观过知仁。一君二臣，斯可称美。

宋景公之世，有善星文者，许以上大夫之位，处于层楼延阁之上，以望气象。设以珍食，施以宝衣。其食则有渠沔之鳧，煎以桂髓；丛庭之鹑，蒸以蜜沫；淇漳之鲤，脯以青茄；九江珠璣，羹以兰苏；华清夏洁，洒以纤縠。华清，并之澄华也。饗人视时而叩钟，伺食以击盘，言每食而辄击钟磬也。悬四时之衣，春夏金玉为饰，秋冬以翡翠为温，烧异香于台上。忽有野人被草负笈，扣门而进，曰：“闻国君爱阴阳之术，好象纬之秘，请见。”景公乃延之崇堂。语则及未来之兆，次及已往之事，万不失一。夜则观星望气，昼则执算披图，不服宝衣，不甘奇食。景公谢曰：“今国丧乱，微君何以辅之？”曰：“德之不均，乱将及矣。修德以来人，则天应之祥，人美其化”。景公曰：“善。”遂赐姓曰子氏，名之曰韦，即子韦也。

录曰：宋子韦世司天部，妙观星纬，抑亦梓慎、裨灶之俦。景公待之若神，礼以上列，服以绝世之衣，膳以殊方之味，虽谓大禽之旨，华蕤龙衮之服，及斯固陋矣。《春秋》因生以赐姓，亦缘事以显名，号司星氏，至六国之末，著阴阳之书。

越谋灭吴，蓄天下奇宝、美人、异味进于吴。杀三牲以祈天地，杀龙蛇以祠川岳。矫以江南亿万户民，输吴为佣兵，越又有美女二人，一名夷光，一名修明，以贡于吴。吴处民以椒华之房，贯细珠为帘幌，朝下以蔽景，夕卷以待月。二人当轩并坐，理镜靓妆于珠幌之内。窃窥者莫不动心惊魂，谓之神人。吴王妖惑忘政。及越兵入国，乃抱二女以逃吴苑。越军乱入，见二女在树下，皆言神女，望而不敢侵。今吴城蛇门内有朽株，尚为祠神女之处。初，越王入国，有丹乌夹王而飞，故句践入国，起望乌台，言丹乌之异也。范蠡相越，日致千金。家僮闲术者万人，收四海难得之货，盈积于越都以为器。铜铁之类，积如山之阜，或藏之井甃，谓之宝井。奇容丽色，溢于闾房，谓之游宫。历古以来，未有也。

录曰：《易》尚谦益，《书》著明谟，人臣之体，以斯为上。《传》曰：“知无不为，忠也。”范蠡陈工术之本，而句践乃霸，卒王百越，称为富强，斯其力矣。故能佯狂以晦迹，浮海以避世，因三徙以别名，功遂身退，斯其义也。至如宝井、游宫，虽奢不惑。夫兴亡之道，匪推之历数，亦由才力而致也。观越之灭吴，屈柔之礼尽焉，荐非世之绝姬，收历代之神宝，斯皆迹殊而事同矣。博识君子，验斯言焉。



燕昭王

王即位二年，广延国来献善舞者二人：一名旋娟，一名提嫫，并玉质凝肤，体轻气馥，绰约而窈窕，绝古无伦。或行无迹影，或积年不饥。昭王处以单绡华幄，饮以瑤琨之膏，饴以丹泉之粟。王登崇霞之台，乃召二人，徘徊翔舞，殆不自支。王以纓缕拂之，二人皆舞。容冶妖丽，靡于鸾翔，而歌声轻扬。乃使女伶代唱其曲，清响流韵，虽飘梁动木，未足嘉也。其舞一名紫尘，言其体轻与尘相乱。次曰集羽，言其婉转若羽毛之从风。末曲曰旋怀，言其支体缠蔓，若人怀袖也。乃设麟文之席，散茱萸之香，香出波弋国，浸地则土石皆香，著朽木腐草，莫不郁茂，以熏枯骨，则肌肉皆生。以屑喷地，厚四五寸，使二女舞其上，弥日无迹，体轻故也。时有白鸾翔翔，衔干茎槩，槩于空中自生花实，落地则生根叶。一岁百获，一茎满车，故曰盈车嘉槩。麟文者，错杂宝以饰席也，皆为云霞麟凤之状。昭王复以衣袖麾之，舞者皆止。昭王知其神异，处于崇霞之台，设枕席以寝，遣侍人以卫之。王好神仙之术，玄天之女，托形作此二人。昭王之末，莫知所在，或云游于汉江，或伊洛之滨。

四年，王居正寝，召其臣甘需曰：“寡人志于仙道，欲学长生久视之法，可得遂乎？”需曰：“臣游昆台之山，见有垂白之叟，宛若少童，貌若冰雪，行如处子，血清骨劲，肤实肠轻，乃历蓬、瀛而超碧海，经涉升降，游往无穷，此为上仙之人也。盖能去滞欲而离嗜爱，洗神灭念，常游于太极之门。今大王以妖容惑目，美味爽口，列女成群，迷心动虑，所爱之容，恐不及玉，纤腰皓齿，患不如神。而欲却老云游，何异操圭鬲以量沧海，执毫厘而回日月，其可得乎？”昭王乃彻色灭味，居乎正寝，赐甘需羽衣一袭，表其墟为明真里也。

七年，沐胥之国来朝，则申毒国之一名也。有道术人名尸罗，问其年，云百三十岁。荷锡持瓶，云发其国五年乃至燕都。善炫惑之术。于其指端，出浮屠十层，高三尺，乃诸天神仙，巧丽特绝。人皆长五六分，列幢盖鼓舞，绕塔而行，歌唱之音，如真人矣。尸罗喷水为雾，暗数里间。俄而复吹为疾风，雾皆止。又吹指上浮屠，渐入云里。又如左右耳出青龙，右耳出白虎。始出之时，才一二寸，稍至八九尺。俄而风至云起，即以一手挥之，即龙虎皆入耳中。又张口向日，则见人乘羽盖，驾螭、鹄直入于口内。复以手抑胸上，而闻怀袖之中，轰轰雷声。更张口，则见羽盖、螭、鹄，相随从口中而出。尸罗常坐日中，渐渐觉其形小，或化为老叟，或为婴儿，倏忽而死，香气盈室，时有清风来，吹之更生，如向之形。咒术炫惑，神怪无穷。

八年，卢扶国来朝，渡河万国方至。云其国中山川，无恶禽兽，水不扬波，风不折木。人皆寿三百岁，结草为衣，是谓卉服，至死不老，咸知孝让。寿登百岁以上，相敬如至亲之礼。死葬于野外，以香木灵草，瘞掩其尸。间里助送，号泣之音，动于林谷，河源



为之流止，春木为之改色。居丧，水浆不入于口，至死者骨为尘埃，然后乃食。昔大禹随山导川，乃旌其地为无老纯孝之国。

录曰：夫含灵禀气，取象二仪。受命因生，包乎五德。故守淳明以修身，资施以为本。义缘天属，生尽爱敬之容。体自心慈，死结追终之慕。盖处物之常情，有识之常道。是以忠谏一至，则会理以通幽，神义由心洞，祇灵为之昭感。迹显神著，表降群祥，行道不违，远迹旌德。美乎异国之人，隔绝王化，阍闻大道，语其国法，华戎有殊，观其政教，颇令殊俗。礼在四夷，事存诸诰。孝让之风，万不尚也。

九年，昭王思诸神异。有谷将子，学道之人也，言于王曰：“西王母将来游，必语虚无之术。”不逾一年，王母果至，与昭王游于燧林之下，说炎帝钻火之术。取绿桂之膏，燃以照夜。忽有飞蛾衔火，状如丹雀，来拂于桂膏之上。此蛾出于员丘之穴，穴洞达九天，中有细珠如流沙，可穿而结，因用为佩，此是神蛾之火也。蛾凭气饮露，飞不集下，群仙杀此蛾合丹药。西王母与群仙游员邱之上，聚神蛾以琼筐盛之，使王童负筐，以游四极，来降燕庭，出此蛾以示昭王，王曰：“今乞此蛾，以合九转神丹。”王母弗与。

昭王坐握日之台，参云，上可扞日，时有黑鸟白头，集王之所，衔洞光之珠，圆径一尺。此珠色黑如漆，悬照于室内，百神不能隐其精灵。此珠出阴泉之底，阳泉在寒山之北，员水之中，言水波常圆转而流也。有黑蚌飞翔来去如五岳之上。昔黄帝时，蓐成子游寒山之岭，得黑蚌在高崖之上，故知黑蚌能飞矣。至燕昭王时，有国献于昭王，王取瑤漳之水，洗其泥沙，乃嗟叹曰：“自悬日月以来，见黑蚌生珠，已八九十遇，此蚌千岁一生珠也”，珠渐轻细。昭王常怀此珠，当隆暑之月，体自轻凉，号曰“销暑招凉之珠”也。

秦始皇

始皇元年，骊霄国献刻玉善画工名裔。使含丹青以渍地，即成魍魉及诡怪群物之象。刻玉为百兽之形，毛发宛若真矣。皆铭其臆前，记以日月。工人以指画地，长百丈，直如绳墨。方寸之内，画以四渎五岳列国之图。又画为龙虎，翬翬若飞，皆不可点睛，或点之，必飞走也。始皇嗟曰：“刻画之形，何得飞走。”使以淳漆各点两玉虎一眼睛，旬日则失之，不知所在。山泽之人云：“见二白虎各无一目，相随而行，毛色相似，异于常见者。”至明年，西方献两白虎，各无一目。始皇发槛视之，疑是先所失者，乃刺杀之，检其胸前，果是元年所刻玉虎。迄胡亥之灭，宝剑神物，随时散乱也。

始皇好神仙之事。有宛渠之民，乘螺舟而至，舟形似螺，沉行海底，而水不浸人，一名沦波舟。其国人长十丈，编鸟兽之毛以蔽形。始皇与之语，及天地初开之时，了如亲睹。曰：“臣少时蹶虚却行，日游万里。及其老朽也，坐见天地之外事。臣国在咸池日没之所九万里，以万岁为一日。俗多阴雾，遇其晴日，则天豁然云裂，耿若江汉，则有玄龙黑凤，翻翔而下。及夜，燃石以继日光。此石出燃山，其土石皆自光澈，扣之则碎，状如



粟，一粒辉映一堂。昔炎帝始变生食，用此火也。国人今献此石，或有投其石于溪涧中，则沸沫流于数十里，名其水为焦渊。臣国去轩辕之邱十万里，少典之子采首山之铜，铸为大鼎。臣先望其国，其金火气动，奔而往视之，三鼎已成。又见冀州有异气，应有圣人生，果有庆都生尧。又见赤云入于鄆镐，走而往视，果有丹雀瑞昌之符。”始皇曰：“此神人也！”弥信仙术焉。

始皇起云明台，穷四方之珍木，搜天下之巧工。南得烟邱碧树，酈水燃沙，赧都朱泥，云岗素竹；东得葱峦锦柏，漂槎龙松，寒河星柘，玩云之梓；西得漏海浮金，狼渊羽屋，漆漳霞桑，沈塘员筹；北得冥阜乾漆，阴坂文梓，襄流黑魄，暗海香琼，珍异是集。二人腾虚缘木，挥斤斧于空中，子时起工，午时已毕。秦人谓之子午台，亦言于子午之地，各起一台，二说疑也。

张仪、苏秦二人，同志好学，迭剪发而鬻之以相养。或佣力写书，非圣人之言不读。遇见《坟》、《典》，行途无所题记，以墨书掌及股里，夜还而写之，析竹为筒。二人每假食于路，剥树皮编以为书帙，以盛天下良书，尝息大树之下，假息而寐。有一先生问：“二子何勤苦也？”仪、秦又问之：“子何国人？”答曰：“吾生于归谷。”亦云鬼谷，鬼者归也。又云归者，谷名也。乃谓其术，教以干世出俗之辩，即探胸内得二卷说书，言辅时之事。《古史考》云：“鬼谷子也，鬼归相近也。”

秦王子婴立，凡百日，郎中赵高谋杀之。子婴寝于望夷之宫，夜梦有人身长十丈，须鬓绝青，纳玉舄而乘丹车，驾朱马而至宫门，云欲见秦王子婴，阍者许进焉。子婴乃与言，谓子婴曰：“余是天使也。从沙邱来。天下将乱，当有同姓名欲相诛暴。”翌日乃起，子婴则疑赵高，囚高于咸阳狱，悬于井中，七日不死。更以镬汤煮，七日不沸，乃戮之。子婴问狱吏曰：“高其神乎？”狱吏曰：“初囚高之时，见高怀有一青丸，大如雀卵。”时方士说云：“赵高先世受韩终丹法，冬月坐于坚冰。”夏日卧于炉上，不觉寒热。”及高死，子婴弃高尸于九达之路，泣送者千家，或见一青雀，从高尸中出，直入云。九转之验，信于是乎！子婴所梦，即始皇之灵。所著玉舄，则安期先生所遗也。鬼昧之理，万世一时。

录曰：夫含灵挺质，罕不羨乎久视，祈以长生。苟乖才性，企之弥远。何者？夫层宫峻宇肆其奢，绰约柔曼纵其惑，《九韵》、《六英》悦其耳，喜怒刑赏示其威，精灵溺于常滞，志意疲于驰策，销竭神虑，翦刻天和。秦政自以功高三皇，世逾五帝，取惑徐市，身殒沙邱。燕昭能延礼群神，百灵响集。并欲弃机事以游真极，去尘垢而望云飞，譬犹等沟浍于天河，齐朝菌于椿木，超二仪于昆崙，升一匱而扳重汉。何则望之与无阶矣。《抱朴子》曰：“学若牛毛，得如麟角。”至如秦皇、燕昭之知，虽微鉴仙体，而未入玄真。盖由褊惑尚多，滞情未尽。至于神通玄化，说变万端，故曰徐行云垂之俦，驾影乘霞之侣，可得齐肩比步焉，与之栖息也。穷神绝异，随方而来；炫绝殊形，越境而至。托神以尽变，因变以穷神，触象难名，灵怪莫测。《淮南子》云：“含雷吐火之术，出于万毕之家。”方纛羽于洪炉，炎烟火于冰水，漏海螺船之属，飞珠沈霞之类，千途万品，书籍之所未详。



自神化以来，神奇莫与为例，岂末代浮诬，所能窥仰，天龄修短之所效哉。今观子年之纪，苏、张二人，异辞同迹，或以字音相类，或以土俗为殊，验诸坟史，岂惟秦、仪之见异者哉！

前汉上

汉太上皇微时，佩一刀，长三尺，上有铭，其字难识，疑是殷高宗伐鬼方之时所作也。上皇游鄠沛山中，寓居穷谷里，有人欧冶铸，上皇息其傍，问曰：“此铸何器？”工者笑而答曰：“为天子铸剑，慎勿泄言。”上皇谓为戏言而无疑色。工人曰：“今所铸铁，铜锡难成，若得公腰间佩刀，杂而冶之，即成神器，可以克定天下，星精为辅佐，以歼三猾。木衰火盛，此为异兆也。”上皇曰：“余此物名为匕首，其利难俦，水断虬龙，陆斩虎兕，魑魅罔两，莫能逢之，斫玉鏤金，其刃不卷。”工人曰：“若不得此匕首以和铸，虽欧冶专精，越砥敛锷，终为鄙器。”上皇则解匕首投于炉中，俄而烟焰冲天，日为之昼晦，及乎剑成，杀三牲以衅祭之。铸工问上皇何时得此匕首，上皇曰：“秦昭襄王时，余行逢一野人于陌上授余，云是殷时灵物，世世相传，上有古字，记其年月。”及成剑，工人视之，其铭尚存，叶前疑也。工人即持剑授上皇。上皇以赐高祖，高祖常佩于身，以歼三猾。及天下已定，吕后藏于宝库。库中守藏者，见白气如云，出于户外，状如龙蛇。吕后改库名曰“灵金藏”。及诸吕擅权，白气亦灭。及惠帝即位，以此宝库贮禁兵器，名曰“灵金内府也”。

录曰：夫精灵变化，其途非一，冥会之感，理故难常。至如坟讖所载，咸取验于已往，谣歌里说，皆求征于未来，考图披籍，往往而编列矣。观乎工人之说，谅妖言之远效焉。三尺之剑，以应天地之数，故三为阳数，亦应天地之德。按《钩命诀》曰：“萧何为昂星精，项羽、陈胜、胡亥为三猾。”国为木德，汉叶火位，此其征也。

孝惠帝二年，四方咸称车书同文轨，天下太平，干戈偃息，远国殊乡，重译来贡。时有道士姓韩名稚，则韩终之嗣也。越海而来，云是东海神使，闻圣德治乎区宇，故悦服而来庭。时有东极出扶桑之外，有泥离之国来朝。其人长四尺，两角如玺，牙出于唇，自乳已来，有灵毛自蔽，居于深穴，其寿不可测也。帝云：“方士韩稚解绝国人言，令问人寿几何，经见几代之事。”答曰：“五运相承，迭生迭死，如飞尘细雨，存没不可论算。”问：“女娲以前可闻乎？”对曰：“蛇身已上，八风均，四时序，不以威悦揽乎精运。”又问燧人以前，答曰：“自钻火变腥以来，父老而慈，子寿而孝。自轩皇以来，屑屑焉以相诛灭，浮靡嚣动，淫于礼，乱于乐，世德浇讹，淳风坠矣。”稚以答闻于帝，帝曰：“悠哉杳昧，非通神达理者，难可语乎斯远矣。”稚于斯而退，莫知其所之。帝使诸方士立仙坛于长安城北，名曰“祠韩馆。”俗云：“司寒之神，祀于城阴。”按《春秋传》曰：“以享司寒”，其音相乱也，定是“祠韩馆。”至二年，诏宫女百人，文锦万疋，楼船十艘，以送泥离之



使，大赦天下。

汉武帝思怀往者李夫人，不可复得，时始穿昆灵之池，泛翔禽之舟。帝自造歌曲，使女伶歌之。时日已西倾，凉风激水，女伶歌声甚道，因赋《落叶哀蝉》之曲，曰：“罗袂兮无声，玉墀兮生尘，虚房冷而寂寞，落叶依于重扃。望彼美之女兮，安得感余心之未宁。”帝闻唱动心，闷闷不自支持，命龙膏之灯以照舟内，悲不自止。亲侍者觉帝容色愁怨，乃进洪梁之酒，酌以文螺之卮。卮出波祗之国，酒出洪梁之县，此属右扶风，至哀帝废此邑，南人受此酿法。今言云阳出美酒，两声相乱矣。帝饮三爵，色悦心欢，乃诏女伶出侍。帝息于延凉室，卧梦李夫人授帝薝苢之香。帝惊起，而香气犹著衣枕，历月不歇。帝弥思求，终不复见，涕泣浹席，遂改延凉室为遗芳梦室。初，帝深嬖李夫人，死后常思梦之，或欲见夫人。帝貌憔悴，嫔御不宁。诏李少君与之语曰：“朕思李夫人，其可得乎？”少君曰：“可遥见，不可同于帷幄。暗海有潜英之石，其色青，轻如羽毛，寒盛则石温，暑盛则石冷。刻之为人像，神悟不异真人。使此石像往，则夫人至矣。此石人能传译人言语，有声无气，故知神异也。”帝曰：“此石像可得否？”少君曰：“愿得楼船，巨力千人，能浮水登木，皆使明于道术，赍不死之药。”乃至暗海，经十年而还。昔之去人，或升云不归，或托形假死，获反者四五人。得此石，即命工人依先图，刻作夫人形。刻成置于轻纱幙里，宛若生时。帝大悦，问少君曰：“可得近乎？”少君曰：“譬如中宵忽梦，而昼可得近观乎？且此石毒，宜远望，不可逼也。勿轻万乘之尊，惑此精魅之物。”帝乃从其谏，见夫人毕，少君乃使春此石人为丸，服之，不复思梦。乃筑灵梦台，岁时祀之。

元封元年，浮析国贡兰金之泥。此金出汤泉，盛夏之时，水常沸涌，有若汤火，飞鸟不能过。国人常见水边有人治此金为器。金状混混若泥，如紫磨之色。百铸，其色变白，有光如银，即银烛是也。常以此泥封诸函匣及诸宫门，鬼魅不敢干。当汉世，上将出征，及使绝国，多以此泥为玺封。卫青、张骞、苏武、傅介子之使，皆受金泥之玺封也。武帝崩后，此泥乃绝焉。

日南之南，有淫泉之浦。言其水浸淫从地而出成渊，故曰淫泉。或言此水甘软，男女饮之则淫。其水小处可滥觞蹇涉，大处可方舟沿溯，随流屈直。其水激石之声，似人之歌笑，闻者令人淫动，故俗谓之“淫泉”。时有凫雁，色如金，群飞戏于沙滩，罗者得之，乃真金凫也。昔秦破骊山之坟，行野者见金凫，向南而飞，至淫泉。后宝鼎元年，张善为日南太守，郡民有得金凫以献。张善该博多通，考其年月，即秦始皇墓之金凫也。昔始皇为冢，斂天下环异，生殉工人，倾远方奇宝于冢中，为江汉川渚及列山岳之形。以沙紫沈檀为舟楫，金银为凫雁，以琉璃杂宝为龟鱼。又于海中作玉象鲸鱼，衔火珠为星，以代膏烛，光出墓中，精灵之伟也。昔生埋工人于冢内，至被开时皆不死。工人于冢内琢石，为龙凤仙人之像，及作碑文辞赞。汉初发此冢，验诸史传，皆无列仙龙凤之制，则知生埋匠人之所作也。后人更写此碑文，而辞多怨酷之言，乃谓为“怨碑”。《史记》略而不录。

董偃常卧延清之室，以画石为床，文如锦也。石体甚轻，出郅支国。上设紫琉璃帐，



火齐屏风，列灵麻之烛，以紫玉为盘，如屈龙，皆用杂宝饰之。侍者于户外扇偃，偃曰：“玉石岂须扇而后凉耶？”侍者乃却扇，以手摸，方知有屏风。又以玉精为盘，贮冰于膝前，玉精与水同其洁澈。侍者谓冰之无盘，必融湿席，乃合玉盘拂之，落阶下，冰玉俱碎，偃以为乐。此玉精，千涂国所贡也，武帝以此赐偃。哀平之世，民家犹有此器，而多残破。及王莽之世，不复知其所在。

太初二年，大月氏国贡双头鸡，四足一心，鸣则俱鸣。武帝置于甘泉故馆，更以余鸡混之，得其种类而不能鸣。谏者曰：“《诗》云：‘牝鸡无晨’，一云：‘牝鸡之晨，惟家之索’。今雄鸡不鸣，非吉祥也。”帝乃送还西域，行至西关，鸡反顾望汉宫而哀鸣。故谣言曰：“三七末世，鸡不鸣，犬不吠，宫中荆棘乱相系，当有九虎争为帝。”至王莽篡位，将军有九虎之号。其后丧乱弥多，宫掖中生蒿棘，家无鸡鸣犬吠。此鸡未至月支国，乃飞于天汉，声似鸱鸡，翱翔云里。一名暄鸡，昆、暄之音相类。

天汉二年，渠搜国之西，有析沦之国。其俗淳和，人寿三百岁。有寿木之林，一树千寻，日月为之隐蔽。若经憩此木下，皆不死不病。或有泛海越山，来会其国，归怀其叶者，则终身不老。其国人缀草茅为绳，结网为衣，似今之罗纨也。至元狩六年，渠搜国献网衣一裘。帝焚于九达之道，恐后人征求，以物奢费。烧之烟如金石之气。

太始二年，西方有因霄之国，人皆善啸，丈夫啸闻百里，妇人啸闻五十里，如笙簧之音，秋冬则声清亮，春夏则声沈下。人舌尖处，倒向喉内，亦曰两舌重舌，以爪徐刮之，则啸声逾远。故《吕氏春秋》云“反舌殊乡之国，”即此谓也。有至圣之君，则来服其化。

录曰：汉兴，继六国之遗弊，天下思于圣德，是以黔黎嗟秦亡之晚，恨汉来之迟。高祖肇基帝业，恢张区宇。孝惠务宽刑辟，以成无为之治，德侔三王，教通四海。至于武帝，世载愈光，省方巡岳，标元崇号，闻礼乐以恢风，广文义以饰俗，改律历而封建禅，祀百神以昭群瑞。虽钦明茂于《唐书》，文思称于《虞典》，岂尚兹焉。观乎周、孔之教，不贵虚无之学。武帝修黄老，治却老之方，求报无福之祀。是以张敞切言，使远斥仙术，指以蒺藜、楚襄怀、秦皇、徐福之事，故新垣之徒，卒见夷戮。夫仙者尚冲静以忘形体，守寂寞而祛器务。武帝好微行而尚克伐，恢宫宇而广苑囿，永垂长生久视之法，失玄一守道之要，悔少翁之先诛，惑栾大之诡说。至如李夫人缁心昵爱，专媚兰闱，思沈魂之更生，饬新宫以延伫，盖由嬖惑之宠过炽，累心之结未祛，欲鍊身云霓之表，与天地而齐毕，由系风晷，其可阶乎？虽未及玄真，颇参神邃，是以幽明不能藏其殊妙，万象无所隐其精灵。考诸仙部，验以众说，未有异于斯乎。夫五运递兴，数之常理，金土之兆，魏晋当焉。董偃起自贩珠之徒，因庖宰而升宠，窃幸一时，富倾海宇，内蓄神异之珍，銜非世之宝。一朝绝爱，信盛衰之有兆乎。夫为棺槨者，以防蝼蚁之患，为敛骨之具，圣人使合其正礼，恶其逾费，疾其过薄。至如滹台灭明之俭，盛姬、秦皇之奢，皆失于节用。嗟乎！形销神灭，歟为一棺之土，为陵成谷，琼珎美宝，奄为烬尘，斯则费生加死，无益身名也。冥然长往，何忆曩时之盛？仲尼云：“不如速朽”。敛手足形，圣人以斯昭诚，岂不



尚哉。

前汉下

昭帝元始元年，穿淋池，广千步，中植分枝荷，一茎四叶，状如骈盖，日照则叶低荫根茎，若葵之卫足，名曰低光荷。实如玄珠，可以饰佩。花叶葳蕤，芬馥之气，彻十余里。食之令人口气常香，益脉理病。宫人贵之，每游宴出入，必皆含嚼。或剪以为衣，或折以蔽日，以为戏弄。《楚辞》所谓“折茝荷以为衣”，意在斯也。亦有倒生菱，茎如乱丝，一花千叶，根浮水上，实沈泥中，名紫菱，食之不老。帝时命水嬉，游宴永日。土人进一豆槽，帝曰：“桂楫松舟，其犹重朴。况乎此槽，可得而乘也？”乃命以文梓为船，木兰为舵，刻飞鸾翔鹖，饰于船首，随风轻漾，毕景忘归，乃至通夜。使宫人歌曰：“秋素景兮泛洪波，挥纤手兮折茝荷，凉风凄凄扬棹歌，云光开曜月低何，万岁为乐岂云多。”帝乃大悦。起商台于池上。及乎末岁，进谏者多，遂省薄游幸，堙毁池台，鸾舟荷菱，随时废灭。今台无遗址，沟池已平。

宣帝地节元年，乐浪之东，有背明之国，来贡其方物。言其乡在扶桑之东，见日出于西方。其国昏昏常暗，宜种百谷，名曰融泽，方三千里。五谷皆良，食之后天而死。有浹日之稻，种之十旬而熟；有翻形稻，言食者死而更生，夭而有寿；有明清稻，食者延年也；清肠稻，食一粒历年不饥。有摇枝粟，其枝长而弱，无风常摇，食之益髓；有凤冠粟，似凤鸟之冠，食者多力；有游龙粟，叶屈曲似游龙也；有琼膏粟，白如银，食此二粟，令人骨轻。有绕明豆，其茎弱，自相紫缠；有挟剑豆，其荚形似人挟剑，横斜而生；有倾离豆，言其豆见日，叶垂覆地，食者不老不疾。有延精麦，延寿益气；有昆和麦，调畅六府；有轻心麦，食者体轻；有醇和麦，为曲以酿酒，一醉累月，食之凌冬可袒；有含露麦，穗中有露，味甘如饴。有紫沈麻，其实不浮；有云冰麻，实冷而有光，宜为油泽；有通明麻，食者夜行不持烛，是苕藤也，食之延寿，后天而老。其北有草，名红草，枝长一丈，叶如车轮，根大如毂，花似朝虹之色。昔齐桓公伐山戎，国人献其种，乃植于庭，云霸者之瑞也。有宵明草，夜视如列烛，昼则无光，自消灭也。有紫菊，谓之日精，一茎一蔓，延及数亩，味甘，食者至死不饥渴。有焦茅，高五丈，燃之成灰，以水灌之，复成茅也，谓之灵茅。有黄梁草，映日如火，其坚韧若金，食者焚身不热；有梦草，叶如蒲，茎如蓍，采之以占吉凶，万不遗一；又有闻遐草，服者耳聪，香如桂，茎如兰。其国献之，多不生实，叶多萎黄，诏并除焉。

元凤二年，于淋池之南起桂台，以望远气。东引太液之水，有一连理桂树，上枝跨于渠水，下枝隔岸而南生，与上枝同一株。帝常以季秋之月，泛蘅兰云鹖之舟，穷晷星夜，钓于台下，以香金为钩，繙丝为纶，丹鲤为饵，钓得白蛟，长三丈，若大蛇，无鳞甲。帝曰：“非祥也。”命太官为鮓，肉紫骨青，味甚香美，班赐群臣。帝思其美，渔者不能复



得，知为神异之物。

二年，含涂国贡其珍怪，其使云：“去王都七万里，鸟兽皆能言语，鸡犬死者，埋之不朽。经历数世，其家人游于山阿海滨，地中闻鸡犬鸣吠，主乃掘取，还家养之，毛羽虽秃落更生，久乃悦泽。”

张掖郡有郅族之盛，因以名也。郅奇字君珍，居丧尽礼。所居去墓百里，每夜行，常有飞鸟衔火夹之，登山济水，号泣不寐，未尝以险难为忧，虽夜如昼之明也。以泪洒石则成痕，著朽木枯草，必皆重茂。以泪浸地即醢，俗谓之醢乡。至昭帝嘉其孝异，表铭其邑曰“孝感乡”，四时祭祀，立庙焉。

录曰：夫心迹所至，无幽不彻，理著于微，冥昧自显。玄曦回鲁阳之戈，严霜感匹夫之叹，在于凡伦，尚昭神迹。况求之精爽，以会蒸蒸之心，木石为之玄感，鸟兽为之驯集。元纬哀号，春花以之改叶；叔通晨兴，朝流欵生横石；辛缢表迹于栖鸾，卫农示德于梦虎，郅氏之行，类斯道焉。按汉昭帝时，有黄鹄下太液池，今云淋池，盖一水二名也。宣帝之世，有嘉谷玄稷之祥，亦不说今之所生，岂由神农、后稷播厥之功，抑亦王子所称，非近俗所食。詮其名，华而不实。及乎飞走之类，神木怪草，见奇而说，万世之瑰伟也。

汉成帝好微行，于太液池傍起宵游宫，以漆为柱，铺黑绋之幕，器服乘舆，皆尚黑色。既悦于暗行，憎灯烛之照。宫中美御，皆服皂衣，自班婕妤已下，咸带玄绶，簪佩虽如锦绣，更以木兰纱绡罩之。至宵游宫，乃秉烛宴幸，既罢，静鼓自舞，而步不扬尘。好夕出游。造飞行殿，方一丈，如今之辇，选羽林之士，负之以趋。帝于辇上，觉其行快疾，闻其中若风雷之声，言其行疾也，名曰云雷宫。所幸之宫，咸以毡绋藉地，恶车辙马迹之喧。虽惑于微行昵宴，在民无劳无怨。每乘舆返驾，以爱幸之姬，宝衣珍食，舍于道傍，国人之穷老者，皆歌万岁。是以鸿嘉、永始之间，国富家丰，兵戈长戢。故刘向、谷永，指言切谏。于是焚宵游宫及飞行殿，罢宴逸之乐。所谓从绳则正，如转圜焉。

帝常以三秋闲日，与飞燕戏于太液池，以沙棠木为舟，贵其不沈没也。以云母饰于鹢首，一名云舟。又刻大桐木为虬龙，雕饰如真，以夹云舟而行。以紫桂为桡。及观云掉水，玩撷菱藕，帝每忧轻荡，以惊飞燕，命饮飞之士，以金锁揽云舟于波上。每轻风时至，飞燕殆欲随风入水。帝以翠缕结飞燕之裙，常怨曰：“妾微贱，何复得预缕裙之游？”今太液池尚避风台，即飞燕结裙之处。

录曰：夫言端履拱嘿者，人君之尊也。是故兴居有节，进退有度，出则太师奏登车之礼，入则少师荐升堂之仪，列旌门以周卫，修清宫以宴息。成帝轻南面之位，微游嬉幸，好感神仙之事，谷永因而抗谏。《书》不云乎：“弗矜细行，终累大德”，斯之谓矣。

哀帝尚淫奢，多进谄佞。幸爱之臣，竞以妆饰妖丽，巧言取容。董贤以雾销单衣，飘若蝉翼。帝入宴息之房，命贤更易轻衣小袖，不用奢带修裙，故使宛转便易也，宫人皆效其断袖。又曰，割袖恐惊其眠。



后 汉

明帝因贵人梦食瓜甚美，帝使求诸方国。时敦煌献异瓜种，恒山献巨桃核。瓜名穹隆，长三尺，而形屈曲，味美如饴。父老云：“昔道士从蓬莱山得此瓜，云是崆峒灵瓜，四劫一实，西王母遗于此地，世代遐绝，其实颇在。”又说巨桃霜下结花，隆暑方熟，亦云仙人所食。帝使植于霜林园。园皆植寒果，积冰之节，百果方盛，俗谓之相陵，与霜林之声讹也。后曰：“王母之桃，王公之瓜，可得而食，吾万岁矣，安可植乎？”后崩，内侍者见镜奁中有瓜桃之核，视之涕零，疑非其类耳。

章帝永宁元年，条支国来贡异瑞。有鸟名鵀鵀，形高七尺，解人语。其国太平，则鵀鵀群翔。昔汉武时，四夷宾服，有献驯鵀，若有喜乐事，则鼓翼翔鸣。按庄周云“雕陵之鵀”，盖其类也。《淮南子》云：“鵀知人喜”。今之所记，大小虽殊，远近为异，故略举焉。

安帝好微行，于郊垆，或露宿起帷宫，皆用锦罽文绣。至永初二年，国用不足，令吏民入钱者得为官。有琅琊王溥，即王吉之后。吉先为昌邑中尉，奕世衰凌，及安帝时，家贫不得仕，乃挟竹筒插笔，于洛阳市佣书。美于形貌，又多文辞。来僦其书者，丈夫赠其衣冠，妇人遗其珠玉，一日之中，衣宝盈车而归。积粟于廩，九族宗亲，莫不仰其衣食。洛阳称为善笔而得富。溥先时，家贫，穿井得铁印，铭曰：“佣力得富，钱至亿庾，一土三田，军门主簿。”后以一亿钱输官，得中垒校尉。三田一土，垒字也。中垒校尉，掌北军垒门，故曰军门主簿。积善降福，明神报焉。

灵帝初平三年，游于西园，起裸游馆千间，采绿苔而被阶，引渠水以绕砌，周流澄彻。乘船以游漾，使宫人乘之，选玉色轻体，以执篙楫，摇漾于渠中。其水清澄，以盛暑之时，使舟覆没，视宫人玉色者，以奏招商之歌，以来凉气也。歌曰：“凉风起今日照渠，青荷昼偃叶夜舒，惟日不足乐有余，清丝流管歌玉帛，千年万岁喜难逾。”渠中植莲大如盖，长一丈，南国所献。其叶夜舒昼卷，一茎有四莲丛生，名曰夜舒荷。亦云月出则舒也，故曰望舒荷。帝盛夏避暑于裸游馆，长夜饮食。帝嗟曰：“使万岁如此，则上仙也。”宫人年二七已上，三六已下，皆靓妆解其上衣，惟着内服，或共裸浴。西城所献茵舞香，煮以为汤，宫人以之浴浣，使以余汁入渠，名曰流香渠。又使内竖为鲈鸣。于馆北又作鸡鸣堂，多畜鸡，每醉迷于天晓，内侍竞作鸡鸣，以乱真声也。乃以炬烛投于殿前，帝乃惊悟。及董卓破京师，散其美人，焚其宫室。至魏咸熙中，先所投烛处，夕夕有光如星。后人以为神光，于此地立小屋，名曰余光祠，以祈福。至魏明末，稍扫除矣。

录曰：明、章两主，丕承前业，风被四海，威行八区，殊边异服，祥瑞辐辏。安、灵二帝，同为败德。夫悦目快心，罕不沦乎情欲，自非远鉴兴亡，孰能移隔下俗。佣才缘心，缅乎嗜欲，塞谏任邪，没情于淫靡。至如列代亡主，莫不凭威猛以丧家国，肆奢丽以



覆宗祀，询考先坟，往往而载，金求历古，所记非一。贩爵鬻官，乖分职之本，露宿郊居，违省方之义。成、安二帝，载世虽远，而乱政攸同。验之史牒，讯诸前记，迷情狗马，爱好龙鹤，非明王之所闻示于后也。内穷淫酷，外尽禽荒，取悦耳目，流败万世。是以牝妖告祸，汉灵以巷伯倾宗。酒池裸逐之丑，鸣鸡长夜之惑，事由商乙，远仿燕丹，异代一时，可为悲矣。

献帝伏皇后，聪惠仁明，有闻于内则。及乘舆为李傕所败，昼夜逃走，宫人奔窜，万无一生。至河无舟楫，后乃负帝以济河，河流迅急，惟觉脚下如有乘践，则神物之助焉。兵戈逼岸，后乃以身拥遏于帝。帝伤趾，后以绣绂拭血，刮玉钗以覆于疮，应手则愈。以泪滴帝衣及面，洁静如浣。车人叹服，虽乱犹有明智妇人。精诚之至，幽祇之所感矣。

录曰：夫丹石可磨，而不可夺其坚色。兰桂可折，而不可掩其贞芳。伏后履纯明之姿，怀忠亮之质，临危受命，壮夫未能加焉，知死不吝，冯媛之侔也，求之千古，亦所罕闻。

汉兴，至于哀、平、元、成，尚以宫室，崇苑囿，而西京始有弘侈，东都继其繁奢，既违采椽不斫之制，尤异灵沼遵俭之风。考之皇图，求诸志灵，千家万户之书，台卫城隍之广，自重门构宇以来，未有若斯之费溢也。孝哀广四时之房，灵帝修裸游之馆，妖惑为之则神怨，工巧为之则人虐，夷国沦家，可为恸矣。及夫灵瑞、嘉禽、艳卉、殊木，生非其壤，诡色讹音，不禀正朔之地，无涉图书所记，或缘德业以来仪，由时俗以具质，咸得而备祥矣。历览群经，披求方册，未若斯之宏丽矣。

郭况，光武皇后之弟也。累金数亿，家僮四百余人，以黄金为器，工冶之声，震于都鄙。时人谓：“郭氏之室，不雨而雷。”言其铸锻之声盛也。庭中起高阁长庑，置衡石于其上，以称量珠玉也。阁下有藏金窟，列武士以卫之。错杂宝以饰台榭，悬明珠于四垂，昼视之如星，夜望之如月。里语曰：“洛阳多钱郭氏室，夜月昼星富无匹。”其宠者皆以玉器盛食，故东京谓郭家为“琼厨金穴”。况小心畏慎，虽居富势，闭门优游，未曾干世事，为一时之智也。

录曰：夫后族之盛，专挟内主之威，皆以党嬖强盛，肆器于天下，妖幸侵政，擅椒房之亲。在昔魏冉，富倾嬴国；汉世王凤，同拜五侯。馆第僭于京都，嬖姬丽于宫掖，瑰赂南金，弥玩于王府，缣绣雕文，被饰于土木，高廓洞门，极夏屋之盛，文马朱轩，穷车服之靡，自古擅骄，未有如斯之例。虽三归移于管室，八伯陈于季庭，方之为劣矣。郭况内凭姻宠，外专声厉，远采山丹之穴，积陶朱、程郑之产，未足称其盛欤。曾不恃其威里，矜其财势，秉温恭之正，守道持盈，而自兢慎足，可谓知几其神乎。

刘向于成帝之末，校书天禄阁，专精覃思。夜有老人，着黄衣，植青藜杖，登阁而进，见向暗中独坐诵书，老父乃吹杖端烟燃，因以见向，说开辟已前。向因受五行洪范之文，悉辞说繁广忘之，乃裂裳及绅，以记其言。至曙而去，向请问姓名，云：“我是太乙之精，天帝闻金卯之子有博学者，下而观焉。”乃出怀中竹牒，有天文地图之书，“余略授



子焉。”至向子歆，从向授其术，向亦不悟此人焉。

贾逵年五岁，明慧过人。其姊韩瑶之妇，嫁瑶无嗣而归居焉，亦以贞明见称。闻邻中读书，旦夕抱逵隔篱而听之。逵静听不言，姊以为喜。至年十岁，乃暗诵六经。姊谓逵曰：“吾家贫困，未尝有教者入门，汝安知天下有《三坟》、《五典》，而诵无遗句耶？”逵曰：“忆昔姊抱逵于篱间，听邻家读书，今万不遗一。”乃剥庭中桑皮以为牒，或题于扉屏，且诵且记。期年，经文通遍。于闾里每有观者，称云振古无伦。门徒来学，不远万里，或襁负子孙，舍于门侧，皆口授经文，赠献者积粟盈仓。或云：“贾逵非力耕所得，诵经口倦，世所谓舌耕也。”

何休木讷多智，《三坟》、《五典》，阴阳算术，河洛谶纬，及远年古谚，历代图籍，莫不咸诵也。门徒有问者，则为注记，而口不能说。作《左氏膏肓》、《公羊废疾》、《谷梁墨守》，谓之“三阙”。言理幽微，非知机藏往，不可通焉。及郑康成蜂起而攻之，求学者不远千里，羸粮而至，如细流之赴巨海。京师谓康成为“经神”，何休为“学海”。

任末年十四时，学无常师，负笈不远险阻。每言：“人而不学，则何以成？”或依林木之下，编茅为菴，削荆为笔，克树汁为墨。夜则映星望月，暗则缚麻蒿以自照。观书有合意者，题其衣裳，以记其事。门徒悦其勤学，更以静衣易之。非圣人之言不视。临终诫曰：“夫人好学，虽死若存。不学者虽存，谓之行尸走肉耳。”河洛秘奥，非正典籍所载，皆注记于柱壁及园林树木，慕好学者，来辄写之。时人谓任氏为“经苑”。

曹曾，鲁人也。本名平，慕曾参之行，改名为曾。家财巨亿，事亲尽礼，日用三牲之养，一味不亏于是，不先亲而食新味也。为客于人家，得新味则含怀而归。不畜鸡犬，言喧嚣惊动于亲老。时亢旱，井池皆竭，母思甘清之水，曾跪而操瓶，则甘泉自涌，清美于常。学徒有贫者，皆给食。天下名书，上古以来，文篆讹落者，曾皆刊正，垂万余卷。及国难既夷，收天下遗书于曾家，连车继轨，输于王府。诸弟子于门外立祠，谓曰曹师祠。及世乱，家家焚庐，曾虑先文湮没，乃积石为仓以藏书，故谓氏为“书仓”。

录曰：观乎刘向显学于汉成时，才包三古，艺该九圣，悬日月以来，其类少矣。逮乎后汉，贾、任、曹之学，并为圣神，通生民到今，盖斯而已。若颜渊之殆庶几，关美、张霸，何足显大儒哉。至如五君之徒，孔门之外未有也。方之入室，彼有惭焉。贾氏之姊，所谓知识妇人鉴乎圣也。

魏

文帝所爱美人，姓薛名灵芸，常山人也。父名郗，为鄆乡亭长，母陈氏，随郗舍于亭傍。居生穷贱，至夜，每聚邻妇夜绩，以麻蒿自照。灵芸年至十五，容貌绝世，邻中少年夜来窃窥，终不得见。咸熙元年，谷习出守常山郡，闻亭长有美女而家甚贫，时文帝选良家子女以入六宫，习以金宝赂聘之。既得，乃以献文帝。灵芸闻别父母，歔歔累日，泪



下沾衣。至升车就路之时，以玉唾壶承泪，壶则红色。既发常山，及至京师，壶中泪凝如血。帝以文车十乘迎之，车皆缕金为轮辋，丹画其轂轳，前有杂宝为龙凤，衔百子铃，锵锵和鸣，响于林野。驾青色之牛，日行三百里。此牛尸涂国所献，足如马蹄也。道侧烧石叶之香，此石重叠，状如云母，其光气辟恶厉之疾。此香腹题国所进也。灵芸未至京师数十里，膏烛之光，相续不灭，车徒咽路，尘起蔽于星月，时人谓为尘宵。又筑土为台，基高三十丈，列烛于台下，名曰烛台，远望如列星之坠地。又于大道之傍，一里一铜表，高五尺，以记里数。故行者歌曰：“青槐夹道多尘埃，龙楼凤阙望崔嵬。清风细雨杂香来，土上出金火照台。”此七字是妖辞也。为铜表记里数于道侧，是土上出金之义。以烛置台下，则火在土下之义。汉火德王，魏土德王，火伏而土兴，土上出金，是魏灭而晋兴也。灵芸未至京师十里，帝乘雕玉之辇，以望车徒之盛，嗟曰：“昔者言‘朝为行云，暮为行雨’，今非云非雨，非朝非暮。”改灵芸之名曰夜来，入宫后居宠爱。外国献火珠龙鸾之钗，帝曰：“明珠翡翠尚不能胜，况乎龙鸾之重”，乃止不进。夜来妙于针工，虽处于深帷之内，不用灯烛之光，裁制立成。非夜来缝制，帝则不服。宫中号为“针神”也。

录曰：五帝之运，迭相生死，起伏因循，显于言端。童谣信于春秋，谶辞烦于汉末，或著明先典，或托见图记。金详《河》、《洛》，应运不同。唐尧以炎正禅虞，大汉以火德授魏，世历沿袭，得其宜矣。夫升名藉璧，因事而来。既而柔曼之质见进，亦以裁缝之妙要宠，媚斯婉约，荣非世载，取或一朝，去彼疑贱，延此华轩。

魏明帝起凌云台，躬自掘土，群臣皆负畚插，天阴冻寒，死者相枕。洛、邳诸鼎，皆夜震自移。又闻宫中地下有怨叹之声。高堂隆等上表谏曰：“王者宜静以养民，令嗟叹之声，形于人鬼，愿省薄奢费，以敦俭朴。”帝犹不止，广求瑰异，珍赂是聚，饰台树累年而毕。谏者尤多，帝乃去烦归俭，死者收而葬之。人神致感，众祥皆应。太山下有连理文石，高十二丈，状如柏树，其文彪发，似人雕镂，自下及上皆合，而中开广六尺，望若真树也。父老云：“当秦末，二石相去百余步，芜没无有蹊径。及魏帝之始，稍觉相近，如双阙。”土王阴类，魏为土德，斯为灵征。苑囿及民家草树，皆生连理。有合欢草，状如蓍，一株百茎，昼则众条扶疏，夜则合为一茎，万不遗一，谓之神草。沛国有黄麟见于戊己之地，皆土德之嘉瑞。乃修戊己之坛，黄星炳夜。又起昴毕之台，祭祀此星，魏之分野，岁时修祀焉。

任成王彰，武帝之子也，少而刚毅，学阴阳纬候之术，诵《六经》、《洪范》之书数千言。武帝谋伐吴、蜀，问彰取便利行师之决。王善左右射，学击剑，百步中髀发。时乐浪献虎，文如锦斑，以铁为檻，象殷之徒，莫敢视。彰曳虎尾以绕臂，虎弭耳无声。莫不服其神勇。时南越献白象子在帝前，彰手顿其鼻，象伏不动。文帝铸万斤钟，置崇华殿，欲徙之，力士百人不能动。彰乃负之而趋。四方闻其神勇，皆寝兵自固。帝曰：“以王之雄武，吞并巴蜀，如鸱衔腐鼠耳。”彰薨，如汉东平王葬礼。及丧出，空中闻数百人泣声。送者皆言，昔乱军相伤害杀者，皆无棺槨，王之仁惠，取其朽骨，死者欢于地，精灵知感，



故人美王之德。国史撰《任城王旧事》三卷，晋初藏于秘阁。

建安三年，胥徒国献沉明石鸡，色如丹，大如燕，常在地中，应时而鸣，声能远彻。其国闻鸣，乃杀牲以祀之，当鸣处掘地，则得此鸡。若天下太平，翔飞颀颀，以为嘉瑞，亦产宝鸡。其国无鸡犬，听地中候暮刻。道家云：“昔仙人桐君采石，入穴数里，得丹石鸡，舂碎为药，服之者令人有声气，后天而死。”昔汉武帝宝鼎元年，西方贡珍怪，有琥珀燕，置之静室，自于室中鸣翔，盖此类也。《洛书》云：“皇图之宝，土德之征，大魏之嘉瑞。”

明帝即位二年，起灵禽之园，远方国所献异鸟珍兽，皆兽此园也。昆明国贡嗽金鸟，人云：“其地去燃州九千里，出此鸟，形如雀而色黄，羽毛柔密，常翱翔海上，罗者得之，以为至祥。闻大魏之德，被于荒远，故越山航海，来献大国。”帝得此鸟，蓄于灵禽之园，怡以珍珠，饮以龟脑。鸟常吐金屑如粟，铸之可以为器。昔汉武帝时，人有献神雀，盖此类也。此鸟畏霜雪，乃起小屋处之，名曰辟寒台，皆用水精为户牖，使内外通光。宫人争以鸟吐之金，用饰钗佩，谓之辟寒金。故宫人相嘲曰：“不服辟寒金，那得帝王心？”于是，媚惑者力争此宝金为身饰，及行卧皆怀挟以要宠幸也。魏氏丧灭，池台鞠为煨烬，嗽金之鸟，亦自翱翔。

咸熙二年，宫中夜有异兽，白色光洁，绕宫而行，闾宦见之，以闻于帝。帝曰：“宫闾幽密，若有异兽，皆非祥也。”使宦者伺之，果见一白虎子，遍房而走。候者以戈投之，即中左目。比往取视，惟见血在地，不复见虎。搜检宫内及诸池井，不见有物，次检宝库中，得一玉虎头枕，眼有伤，血痕尚湿。帝该古博闻，云：“汉诛梁冀，得一玉虎头枕，云单池国所献，检其颌下，有篆书字，云是帝辛之枕，尝与姐已同枕之，是殷时遗宝也。”又按《五帝本纪》云，帝辛殷代之末。至咸熙多历年所，代代相传。凡珍宝久则生精灵，必神物凭之也。

魏禅晋之岁，北阙下有白光，如鸟雀之状，时飞翔来去。有司闻奏，帝所罗之，得一白燕，以为神物，于是以金为樊，置于宫中。旬日不知所在。论者云：“金德之瑞。昔师旷时，有白燕来巢。”检《瑞应图》，果如所论。白色叶于金德，师旷昔时人也，古今之义相符焉。

薛夏，天水人也，博学绝伦。母孕夏时，梦人遗之一篋衣，云：“夫人必产贤明之子也，为帝王之所崇。”母记所梦之日。及生夏之年，以弱冠才辩过人。魏文帝与之讲论，终日不息，应对如流，无有凝滞。帝曰：“昔公孙龙称为辩捷，而迂诞诬妄。今子所说，非圣人之言不谈，子游、子夏之俦，不能过也。若仲尼在魏，复为入室焉。”帝手制书与夏，题云“入室生”，位至秘书丞。居生甚贫，帝解御衣以赐之，果符元所梦。名冠当时，为一代高士。

田畴，北平人也。刘虞为公孙瓒所害，畴追慕无已，往虞墓设鸡酒之礼，恸哭之音，动于林野，翔鸟为之凄鸣，走兽为之吟伏。畴卧于草间，忽有人通云：“刘幽州来，欲与



田子泰言平生之事。”畴神悟远识，知是刘虞之魂，既近而拜，畴泣不自支，因相与进鸡酒。畴醉，虞曰：“公孙瓒求子甚急，宜窜伏以避害。”畴拜曰：“闻君臣之义，生则尽礼，今见君之灵，愿得同归九地，死且不朽，安可逃乎？”虞曰：“子万古之贞士也，深慎尔仪。”奄然不见，畴亦醉醒。

曹洪，武帝从弟，家盈产业，骏马成群。武帝讨董卓，夜行失马，洪以其所乘马让帝，其马号曰“白鹄”。此马走时，惟觉耳中风声，足似不践地。至汴水，洪不能渡，帝引洪上马共济，行数百里，瞬息而至，马足毛不湿。时人谓乘风而行，亦一代神骏也。谚曰：“凭空虚跃，曹家白鹄。”

录曰：王者廓万字以为邦家，因海岳以为城池，固是安民养德，垂拱而治焉。去乎游历之费，导于敦教之道，无崇宫室，有薄林园。采椽不斫，陶唐如斯昭俭。卑宫菲食，伯禹以之戒奢。迄今三代之王，失斯道矣。伤财殫力，以骄丽相夸，琼室之侈，璧台之富，穷神工之奇妙，人力勤苦。至于春秋。王室凌废，城者作讴，疲于勤劳。晋筑廐析之宫，为功动于民怨，宋兴泽门之役，劳者以为深嗟。姑苏积费于前，阿房奢竭于后，自以业固河山，名超万世，覆灭宗祀，由斯哀哀。窃观明帝，践中区之沃盛，威灵所慑，比强列代，祚祥神宝，史不绝书，殊方珍贡，府无虚月，鼎据三方，称雄四海。而圣教微于尧、禹，列代劣于姬、汉，东颍闽、吴，西病邛蜀，师旅岁兴，财力日费，不能遵养黎元，远瞻前朴，宫室穷丽，池榭肆其宏广，终取夷灭，数其然哉。任城渊谋神勇，智周祥艺，虽来舟、逢蒙剑射之好，不能加也。田畴事死如生，守以真节，精诚之至，通于神明。曹洪忠烈为心，爱亲忧国。此穆满之骏，方之白鹄，可谓齐足者也。

吴

孙坚母妊坚之时，梦肠出绕腰，有一童女负之，绕吴阊门外，又授以芳茅一茎，童女语曰：“此吉祥也，必生才雄之子。今赐母以土，王于翼、轸之地，鼎足于天下，百年中应于异宝授于人也。”语毕而觉，日起筮之。筮者曰：“所梦童女负母绕阊门，是太白之精，感化来梦。”夫帝王之兴，必有神迹自表，白气者，金色。及吴灭而践晋祚，梦之征焉。

录曰：按《吴书》，云：“孙坚母怀坚之时，梦肠出绕阊门，与王子之说为异。夫西方金位，以叶晋德，兴亡之兆，后而效焉，盖表吴亡而授晋也。夫六梦八征，著明《周易》，授兰怀日，事类而非。及吴氏之兴，年嘉禾之号，芳茅之征信矣。至晋太康元年，孙皓送六金玺，云：“时无玉工，故以金为印玺。”夫孙氏擅割江东，包卷百越，吞席汉阳，威惕中夏，富强之业，三雄比盛。时有未宾，而兵戈岁起，每梗心于邛蜀，愤慨于燕魏，四方未夷，有事征伐，因之以师旅，遵之以俭素，去以游侈之费，塞兹雕靡之涂，不欲使四方民劳，非无玉工也。固能轻彼池山，贱斯棘实，汉鄙盈车之屑，燕弃璞于衡庐，沈河底



谷，义昭攸古，务崇简约，岂非高欤。及乎吴亡时，以六代金玺归晋，坚母之梦验矣。

吴主赵夫人，丞相达之妹。善画，巧妙无双，能于指间以采丝织云霞龙蛇之锦，大则盈尺，小则方寸，宫中谓之“机绝”。孙权常叹魏、蜀未夷，军旅之隙，思得善画者，使图山川地势军阵之像，达乃进其妹。权使写九州江湖方岳之势，夫人曰：“丹青之色，甚易歇灭，不可久宝。妾能刺绣，作列国方帛之上，写以五岳河海城邑行阵之形。”既成，乃进于吴主，时人谓之“针绝”。虽棘刺木猴，云梯飞鸢，无过此丽也。权居昭阳宫倦暑，乃褰紫绡之帷，夫人曰：“此不贵足也。”权使夫人指其意思焉，答曰：“妾欲穷虑尽思，能使下绡帷而清风自入，视外无有蔽碍，列侍者飘然自凉，若驭风而行也。”权称善。夫人乃拊发以神胶续之，神胶出郁夷国，接弓弩之断弦，百断百续也。乃织为罗縠，累月而成，裁为幔，内外视之，飘飘如烟气轻动，而房内自凉。时权常在军旅，每以此幔自随，以为征幙，舒之则广纵一丈，卷之则可内于枕中，时人谓之“丝绝”。故吴有三绝，四海无俦其妙。后有贪宠求媚者，言夫人幻耀于人主，因而致退黜。虽见疑坠，犹存录其巧工。吴亡，不知所在。

吴主潘夫人，父坐法，夫人输入织室，容态少俦，为江东绝色。同幽者百余人，谓夫人为神女，敬而远之。有司闻于吴主，使图其容貌。夫人忧戚不食，减瘦改形。工人写其真状以进，吴主见而喜悦，以琥珀如意抚按即折，嗟曰：“此神女也，愁貌尚能惑人，况在欢乐。”乃命雕轮就织室，纳于后宫，果以姿色见宠。每以夫人游昭宣之台，志意幸偃，既足酣醉，唾于玉壶中，使侍婢泻于台下，得火齐指环，即挂石榴枝上，因其处起台，名曰环榴台。时有谏者云：“今吴、蜀争雄，还刘之名，将为妖矣。”权乃翻其名曰榴环台。又与夫人游钓台，得大鱼，王大喜，夫人云：“昔闻泣鱼，今乃为喜，有喜必忧，以为深戒。”至于末年，渐相溺毁，稍见离退。时人谓夫人知几其神。吴主于是罢宴，夫人果见弃逐。钓台基今尚存焉。

录曰：赵、潘二夫人，妍明伎艺，婉变通神，抑亦汉游洛妃之侍，荆巫云雨之类，而能避妖幸之嬖，睹进退之机。夫盈则有亏，道有崇替，居盛必衰，理故明矣。语乎荣悴，譬诸草木，华落张弛，势之必然。巧言萋萋，前王之所信惑，是以申、褒见列于前周，班、赵载详于往汉。异代同闻，可为叹也。

黄龙元年，始都武昌。时越嶲之南，献背明鸟，形如鹤，止不向明，巢常对北，多肉少毛，声音百变，闻钟磬笙竽之声，则奋翅摇头，时人以为吉祥。是岁迁都建业，殊方多贡珍奇。吴人语讹，呼背明为背亡鸟，国中以为大妖，不及百年，当有丧乱背叛灭亡之事，散逸奔逃，墟无烟火。果如斯言。后此鸟不知所在。

张承之母孙氏，怀承之时，乘轻舟游于江浦之际，忽有白蛇长三尺，腾入舟中，母祝曰：“若为吉祥，勿毒噬我。”紫而将还，置诸房内，一宿视之，不复见蛇，嗟而惜之。邻中相谓曰：“昨见张家有一白鹤，耸翻入云。”以告承母，母使筮之，筮者曰：“此吉祥也。蛇、鹤延年之物，从室入云，自下升高之象也。昔吴王阖闾葬其妹，殉以美女、珍宝、异



剑，穷江南之富。未及十年，雕云覆于溪谷，美女游于冢上，白鹤翔于林中，白虎啸于山侧，皆昔时之精灵，今出于世，当使子孙位超臣极，擅名江表。若生子，可以名曰白鹤。”及承生，位至丞相、辅吴将军，年逾九十，蛇鹤之祥也。

录曰：国之将亡，其兆先见。《传》曰：“明神降之，观其德也。”及归命面缚来降，斯为效矣。蛇、鹤者，虫禽之最灵，张氏以为嘉瑞。《吴越春秋》、百家杂说云：吴王阖闾、崇饰厚葬，生埋美人，多藏宝物。数百年后，灵鹤翔于林壑，神虎啸于山邱，湛卢之剑，飞入于楚。收魂聚怪，富丽已极，而诡异失中，不如速朽。昔宋桓、盛姬，前史讥其骄惑，嬴博杨孙，君子贵其合礼。观夫远古，恒详中代，求诸事迹，俭泰相悬。至如末世，渐相夸矫，生惑淫湎，死则同殉，委积珍宝，埃尘灭身，乖于同穴，可为叹欷。

吕蒙入吴，吴主劝其学业，蒙乃博览群籍，以《易》为宗。尝在孙策座上，酣醉忽卧，于梦中诵《周易》一部，俄而惊起。众人皆问之，蒙曰：“向梦见伏羲、周公、文王，与我论世祚兴亡之事，日月贞明之道，莫不精穷极妙。未该玄旨，故空诵其文耳。”众座皆云：“吕蒙吃语通《周易》。”

录曰：夫精诚之至，于幽冥，与日月均其明，与四时齐契，故能德会三古，道合神微。若郑君之感先圣，周盘之梦东里，迹同事异，光被遐荣，索隐钩深，妙于玄旨。孔门群说，未若吕生之学焉。

孙和悦邓夫人，常置膝上。和于月下舞水精如意，误伤夫人颊，血流污裤，娇姹弥苦。自舐其疮，命太医合药，医曰：“得白獭髓杂玉与琥珀屑，当灭此痕。”即购致百金，能得白獭髓者厚赏之。有富春渔人云：“此物知人欲取，则逃入石穴。伺其祭鱼之时，獭有斗死者，穴中应有枯骨，虽无髓，其骨可合玉春为粉，喷于疮上，其痕则灭。”和乃命合此膏，琥珀太多，及差而有赤点如朱，逼而视之，更益其妍。诸嬖人欲要宠，皆以丹脂点颊而后进幸。妖惑相动，遂成淫俗。

孙亮作琉璃屏风，甚薄而莹澈，每于月下清夜舒之。常与爱姬四人，皆振古绝色：一名朝姝，二名丽居，三名洛珍，四名洁华。使四人坐屏风内，而外望之如无隔，惟香气不通于外。为四人合四气香，殊方异国所出，凡经践履宴息之处，香气沾衣，历年弥盛，百浣不歇，因名曰：“百濯香。”或以人名香，故有朝姝香，丽居香，洛珍香，洁华香。亮每游，此四人皆同舆席，来侍皆以香名前后为次，不得乱之。所居室名为“思香媚寝”。

蜀

先主甘后，沛人也，生于贱微，里中相者云：“此女后贵，位极宫掖。”及后长而体貌特异，至十八，玉质柔肌，态媚容冶。先主召入绡帐中，于户外望者，如月下聚雪。河南献玉人高三尺，乃取玉人置后侧，昼则讲说军谋，夕则拥后而玩玉人。常称玉之所贵，德比君子，况为人形而不可玩乎。后与玉人洁白齐润，观者殆相乱惑。嬖宠者非惟嫉于甘



后，亦妬于玉人也。后常欲琢毁坏之，乃诫先主曰：“昔子罕不以玉为宝，《春秋》美之。今吴、魏未灭，安以妖玩继怀。凡淫惑生疑，勿复进焉。”先主乃撤玉人像，嬖者皆退。当斯之时，君子议以甘后为神智妇人焉。

糜竺用陶朱计术，日益亿万之利，货拟王家，有宝库千间。竺惟能赈生恤死，家内马厩厩厩有古墓，有伏尸，夜闻涕泣声。竺乃寻其泣声之处，忽见一妇人袒背而来，诉云：“昔汉末妾为赤眉所害，叩棺见剥。今袒在地，羞昼见人，垂二百年，今就将军乞深埋，并弊衣以掩形体。”竺许之，即命之为棺槨，以青布为衣衫，置于冢中，设祭既毕。历一年，行于路西，忽见前妇，人所着衣皆是青布，语竺曰：“君财宝可支一世，合遭火厄，今以青芦杖一枚，长九尺，报君棺槨衣服之惠。”竺挟杖而归。所住邻中，常见竺家有青气如龙蛇之形，或有人谓竺曰：“将非怪也？”竺也疑此异，问其家僮，云：“时见青芦杖自出门间，疑其神，不敢言也。”竺为性多忌，信厌术之事，有言中忤，即加刑戮，故家僮不敢言。竺货财如出，不可算计，内以方诸盆瓶，设大珠如卵，散满于庭，谓之宝庭，而外人不得窥。数日，忽青衣童子数十人来，云：“糜竺家当有火厄，万不遗一，赖君能恤斂枯骨，天道不辜君德，故来攘却此火，当使财物不尽。自今以后，亦宜防卫。”竺乃掘沟渠围绕其库。旬日，火从库内起，烧其珠玉十分之一，皆是阳燧旱燥自能烧物。火盛之时，见数十青衣童子来扑火，有青气如云，覆于火上即灭。童子又云：“多乘鸛鸟之类，以攘火灾，鸛能水于巢上也。”家人乃收鸛数千头，养于池渠中，以厌火。竺叹曰：“人生财运有限，不得盈溢，惧为身之患者。”时三国交锋，军用万倍，乃输其宝物车服以助先主，黄金一亿斤，锦綉毡罽积如丘垤，骏马万疋。及蜀破后，无复所有，饮恨而终。

周群妙闲算术谶说，游峨山采药，见一白猿从绝峰而下，对群而立。群抽所佩书刀投猿，猿化为一老翁，握中有玉版长八寸，以授群，群问曰：“公是何年生？”答曰：“已衰迈也，忘其年月，犹忆轩辕之时，始学历数，风后、容成，皆黄帝之史，就余授历术。至顓頊时，考定日月星辰之运，尤多差异。及春秋时，有子韦、子野、裨灶之徒，权略虽验，未得其门。迨来世代兴亡，不复可记，因以相袭。至大汉时，有洛下閤，颇得其旨。”群服其言，更精勘算术，及考校年历之运，验于图纬，知蜀应灭。及明年，归命奔吴。皆云：“周群详阴阳之精妙也”。蜀人谓之“后圣”。白猿之异，有似越人所记，而事皆迂诞，似是而非。

录曰：孙和、孙亮、刘备，并惑于淫宠之玩，忘于军旅之略，犹比强大魏，克伐无功，可为嗟矣。周群之学，通于神明，白猿之祥，有类越人问剑之言，其是迂诞，若是而非也。夫阴阳递升，五常迭用，由水火相生，亦以相灭。《淮南子》云：“方诸向月，津为水，以厌火灾。”夫糜氏富于珍奇，削方诸为鸟兽之状，犹土龙以祈雨也。鸛鹤之音与方诸相类，盖声之讹矣。羽毛之类，非可御烈火，于义则为乖，于事则违类，先《坟》旧《典》，说以其详焉。



晋时事

武帝为抚军时，府内后堂砌下，忽生草三株，茎黄叶绿，若总金抽翠，花条苒弱，状似金荃。时人未知是何祥草，故隐蔽不听外人窥视。有一羌人，姓姚名馥，字世芬，充厩养马，妙解阴阳之术，云：“此草以应金德之瑞。”馥年九十八，姚襄是其祖也。馥好读书，嗜酒，每醉时，好言帝王兴亡之事。善戏笑，滑稽无穷，常叹云：“九河之水不足以清曲蘖，八藪之木不足以作薪蒸，七泽之靡不足以充庖俎。凡人禀天地之精灵，不知饮酒者，动肉含气耳，何必木偶于心识乎？”好啜浊糟，常言渴于醇酒。群辈尝弄狎之，呼为“渴羌”。及晋武践位，忽思见馥立于阶下，帝奇其倜傥，擢为朝歌邑宰。馥醉曰：“老羌异域之人，远隔山川，得游中华，已为殊幸，请辞朝歌之县，长充养马之役，时赐美酒，以乐余年。”帝曰：“朝歌紂之故都，地有美酒，故使老羌不复呼渴。”馥于阶下高声而对曰：“马圈老羌，渐染皇化，溥天夷貊，皆为王臣，今若欢酒池之乐，更为殷紂之民乎？”帝抚玉几大悦，即迁酒泉太守。地有清泉，其味若酒。馥乘醉而拜受之，遂为善政，民为立生祠。后以府地赐张华，犹有草在，故茂先《金荃赋》云：“擢九茎于汉庭，美三株于兹馆，贵表祥乎金德，比名类乎相乱。”至惠帝元熙元年，三株草化为三树，枝叶似杨树，高五尺，以应“三杨”擅权之事，时有杨骏、杨瑤、杨济三弟兄，号曰“三杨”。马圈醉羌所说之验。

录曰：不得中行，狂狷可也。淳于、优孟之俦，因俳说以进谏。至如姚馥，才性容貌，不与华同，片言窃讽，媚足规范。及其俳谐诡譎，推辞指谏，因物而刺，言之者无罪，抑亦东方曼倩之俦欤。夫心胃之逸朽，故有腐肠烂肠之嗜，是以“五味令人口爽”，老氏以为深诫。未若甘并桂石，美斯松草，含吐烟霞，咀食沆瀣，迅千灵于一朝，方尘劫于俄顷，何可淫此酣乐，忘彼久视者乎？夫物有事异而名同者，自非穷神达理，莫能遍照。岂可假于诡辞，专求于邪说。天命有兆，历运攸归，何可妄信于讹说，指怪于纤草？将溺所闻，信诸厥术，可为嗟乎。

咸宁四年，立芳藟园于金墉城东，多种异菜。有菜名曰芸薇，类有三种，紫色者最繁，味辛，其根烂熳，春夏叶密，秋萎冬馥，其实若珠，五色，随时而盛，一名芸芝。其色紫为上蔬，其味辛。色黄为中蔬，其味甘；色青者为下蔬，其味咸。常以三蔬充御膳，其叶可以藉饮食，以供宗庙祭祀，亦止人渴饥。宫人采带其茎叶，香气历日不散。

录曰：《大雅》云“言采其薇”，此之类也。《草木蔬》云“其实如豆”。昔孤竹二子，避世不食周粟，于首阳山采薇而食，疑是卉。或云神类非一，弥相惑乱。可以疗饥，其色必紫，百家杂说，意旨相符。论其形品，详其香色，虽移植芳圃，芬美莫俦，故薰兰有质，物性无改，产乖本地，逾见芬烈，譬诸姜桂，岂因地而辛矣。当此一代，是谓仙蔬，实为神异。



张华为九酝酒，以三薇清曲麴，麴出西羌，曲出北胡。胡中有指星麦，四月火星出，麦熟而获之。麴用水渍麦，三夕而萌芽，平旦鸡鸣而用之，俗人呼为“鸡鸣麦”。以之酿酒，醇美，久含令人齿动。若大醉，不叫笑摇荡，令人肝肠消烂，俗人谓为“消肠酒”。或云醇酒可为长宵之乐，两说同而事异也。闻里歌曰：“宁得醇酒消肠，不与日月齐光。”言耽此美酒，以悦一时，何用保守灵而取长久。至怀帝末，民间园圃皆生蒿棘，狐兔游聚。至元熙元年，太史令高堂忠奏荧惑犯紫薇，若不早避，当无洛阳。乃诏内外四方，及京邑诸宫观林卫之内，及民间园圃，皆植紫薇，以为厌胜。至刘、石、姚、苻之末，此蒿棘不除自绝也。

晋太康元年，白云起于灊水，三日而灭。有司奏云：“天下应太平。”帝问其故，曰：“昔舜时黄云兴于郊野，夏代白云蔽于郿邑，殷代玄云覆于林藪，斯皆应世之休征，殊乡绝域，应有贡其方物也。”果有羽山之民，献火浣布万疋。其国人称：羽山之山，有文石生火，烟色以随四时可见，名为净火。有不洁之衣，投于火石之上，虽污渍渍，皆如新浣。当虞舜时，其国献黄布，汉末献赤布，梁冀制为衣，谓之丹衣。史家云：“单衣今缝掖也。”字异声同，未知孰是。

录曰：帝王之兴，叶休祥之应，天无隐祥，地无蓄宝，是以因神物以表运，见星云以观德。按《周官》有冯相氏，以观祥录之数。晋以金德，故白云起于灊水。《山海经》及《异物志》云：“燃州之兽，生于火中，以毛织为布，虽有垢腻，投火则洁净也。”两说不同，故借录焉。

因暹国献五足兽，状如狮子，玉钱不缙，其形如环，环重十两，上有“天寿永吉”之字。问其使者，五足兽是何变化，对曰：“东方有解形之民，使头飞于南海，右手飞于东山，左手飞于西泽，自脐已下，两足孤立。至暮，头还肩上，两手遇疾风飘于海外，落玄州之上，化为五足兽，则一指为一足也。其人既失两手，使旁人割里肉以为两臂，宛然如旧也。”因暹国在西域之北，送使者以铁为车轮，十年方至晋。及还，轮皆绝锐，莫知其远近也。

太始元年，魏帝为陈留王之时，有频斯国人来朝，以五色玉为衣，如今之铠。其使不食中国滋味，自资金壶，壶中有浆，凝如脂，尝一滴则寿千岁。其国有大枫木成林，高六七十里，善算者以里计之，雷电常出树之半。其枝交荫于上，蔽不见日月之光。其下平净扫洒，雨雾不能入焉。树东有大石室，可容万人坐，壁上刻为三皇之像：天皇十三头，地皇十一头，人皇九头，皆龙身。亦有膏烛之处。缉石为床，床上有漆痕深三寸。床上有竹筒长尺二寸，书大篆之文，皆言开辟以来事，人莫能识。或言是伏羲画卦之时有此书，或言是苍颉造书之处。傍有丹石井，非人之所凿，下有漏泉，水常沸涌，诸仙欲饮之时，以长绠引汲也。其国人皆多力，不食五谷，日中无影，饮桂浆云雾。羽毛为衣，发大如缕，坚切如触，伸之几至一丈，置之自缩如蠶。续人发以为绳，汲丹井之水，久久方得升之水。水中有白蛙两翅，常来去井上，仙者食之。至周，王子晋临井而窥，有青雀衔玉杓以



授子晋，子晋取而食之，乃有云起雪飞。子晋以衣袖挥云，则云雪自止。白蛙化为双白鸠入云，望之遂灭。皆频斯国之所记，盖其人年不可测也。使图其国山川地势瑰异之属，以示张华。华云：“此神异之国，难可验信。”以车马珍服送之出关。

张华字茂先，挺生聪慧之德，好观秘异图纬之部，摺采天下遗逸，自书契之始，考验神怪，及世间闻里所说，造《博物志》四百卷，奏于武帝。帝诏诘问：“卿才综万代，博识无伦，远冠羲皇，近次夫子，然记事采言，亦多浮妄，宜更删翦，无以冗长成文。昔仲尼删《诗》、《书》，不及鬼神幽昧之事，以言怪力乱神。今卿《博物志》，惊所未闻，异所未见，将恐惑乱于后生，繁芜于耳目，可更芟截浮疑，分为十卷。”即于御前赐青铁砚，此铁是于阗国所出，献而铸为砚也。赐麟角笔，以麟角为笔管，此辽西国所献，侧理纸万番，此南越所献。后人言眇里，与侧理相乱，南人以海苔为纸，其理纵横邪侧，因以为名。帝常以《博物志》十卷置于函中，暇日览焉。

惠帝元熙二年，改为永平元年，常山郡献伤魂鸟，状如鸡，毛色似凤。帝恶其名，弃而不纳，复爱其毛羽。当时博物者云：“黄帝杀蚩尤，有魼、虎误噬一妇人，七日气不绝，黄帝哀之，葬以重棺石椁。有鸟翔其冢上，其声自呼为伤魂，则此妇人之灵也。”后人不得其令终者，此鸟来集其国园林之中。至汉哀、平之末，王莽多杀伐贤良，其鸟亟来哀鸣。时人疾此鸟名，使常山郡国弹射驱之。至晋初，干戈始戢，四海收归，山野间时见此鸟。憎其名，改伤魂为相弘。及封孙皓为归命侯，相弘之义，叶于此矣。永平之末，死伤多故，门嗟巷哭，常山有献，遂放逐之。

太始十年，有浮支国献望舒草，其色红，叶如荷，近望则如卷荷，远望则如舒荷，团团似盖。亦云月出则叶舒，月没则叶卷。植于宫中，因穿池广百步，名曰望舒荷池。愍帝之末，移入胡，胡人将种还胡中，至今绝矣，池亦填塞。

祖梁国献蔓金苔，色如黄金，若紫聚之，大如鸡卵，投于水中，蔓延于波澜之上，光出照日，皆如火生水上也。乃于宫中穿池，广百步，时观此苔以乐宫人。宫人有幸者，以金苔赐之，置漆盘中，照耀满室，名曰夜明苔，著衣襟则如火光。帝虑外人得之，有感百姓，诏使除苔塞池。及皇家丧乱，犹有此物，皆在胡中。

石季伦爱婢名翔风，魏末于胡中得之。年始十岁，使房内养之，至十五，无有比其容貌，特以姿态见美。妙别玉声，巧观金色。石氏之富，方比王家，骄侈当世，珍宝奇异，视如瓦砾，积如粪土，皆殊方异国所得，莫有辩识其出处者。乃使翔风剔其声色，悉知其处。言西方北方，玉声沈重，而性温润，佩服者益人性灵。东方南方，玉声轻洁，而性清凉，佩服者利人精神。石氏侍人美艳者数千人，翔风最以文辞擅爱。石崇尝语之曰：“吾百年之后，当指白日，以汝为殉。”答曰：“生爱死离，不如无爱，妾得为殉，身其何朽。”于是弥见宠爱。崇常择美容姿相类者十人，装饰衣服，大小一等，使忽视不相分别，常侍于侧。使翔风调玉以付工人，为倒龙之珮，紫金为凤冠之钗，言刻玉为倒龙之势，铸金钗象凤皇之冠。结袖绕檐而舞，昼夜相接，谓之恒舞。欲所有召，不呼姓名，悉听珮声。视



钗色，玉声轻者居前，金色艳者居后，以为行次而进也。使数十人各含异香，行而语笑，则口气从风而扬。又屑沈水之香如尘末，布象床上，使所爱者践之，无形者赐以真珠百珠，有迹者节其饮食，令身轻弱。故闺中相戏曰：“尔非细骨轻躯，那得百珠真珠？”及翔凤年三十，妙年者争嫉之，或云“胡女不可为群”，竞相排毁。石崇受潘润之言，即退翔凤为房老，使主群少，乃怀怨而作五言诗曰：“春华谁不美，卒伤秋落时，突烟还自低，鄙退岂所期。桂芳徒自蠹，失爱在蛾眉。坐见芳时歇，憔悴空自嗤。”石氏房中，并歌此为乐曲，至晋末乃止。

石虎于太极殿前起楼，高四十丈，结珠为帘，垂五色玉珮，风至铿锵，和鸣清雅。盛夏之时，登高楼以望四极，奏金石丝竹之乐，以日继夜。于楼下开马埒射场，周围四百步，皆文石丹沙及彩画。于埒傍聚金玉钱贝之宝，以赏百戏之人。四厢置锦幔，屋柱皆隐起为龙凤百兽之形，雕斫众宝，以饰楹柱，夜往往有光明。集诸羌氏于楼上。时亢旱，春杂宝异香为屑，使数百人于楼上吹散之，名曰芳尘。台上有铜龙，腹容数百斛酒，使胡人于楼上嗽酒，风至望之如露，名曰粘雨台，用以洒尘。楼上戏笑之声，音震空中。又为四时浴室，用输石碯砮为堤岸，或以琥珀为瓶杓。夏则引渠水以为池，池中皆以纱縠为囊，盛百杂香，清于水中。严冰之时，作铜屈龙数千枚，各重数十斤，烧如火色，投于水中，则池水恒温，名曰焦龙温池。引凤文锦步障紫蔽浴所，共宫人宠嬖者解裸服宴戏，弥于日夜，名曰清嬉浴室。浴罢泄水于宫外，水流之所，名温香渠。渠外之人争来汲取，得升合以归，其家人莫不怡悦。至石氏破灭，焦龙犹在郾城，今池夷塞矣。

录曰：居室见妒，故亦奸巧之恒情，因娇酒嬖，而非锦之辞人。至于惑听邪谄，岂能隔于求媚。凭欢藉幸，缘和媚而相容。是以先宠未退，盛衰之蒙兆矣。一朝爱退，皎日之暂忽焉。清奏薄言，怨刻之辞乃作。石崇功擅时资，财业倾世，遂乃歌拟房中，乐称恒舞，季庭管室，岂独古之貶乎。石虎席卷西京，崇丽妖虐，外僭和鸾文物之仪，内修三英九华之号，灵祥远贡，光耀旧都，珠玑丹紫，饰备于土木。自古以来，四夷侵掠，骄奢僭暴，擅位偷安，富有之业，莫此比焉。

昆仑山

昆仑山，有昆陵之地，其高出日月之上。山有九层，每层相去万里。有云色，从下望之，如城阙之象。四面有风，群仙常驾龙乘鹤，游戏其间。四面风者，言东南西北一时俱起也。又有祛尘之风，若衣服尘污者，风至吹之，衣则净如浣濯。甘露濛濛似雾，著草木则滴沥如珠。亦有朱露，望之色如丹，著木石赭然，如朱雪洒焉，以瑶器乘之如饴。昆仑山者，西方曰须弥山，对七星之下，出碧海之中，上有九层，第六层有五色玉树，荫翳五百里，夜至水上，其光如烛。第三层有禾穗，一株满车。有瓜如桂，有奈冬生如碧色，以玉井水洗，食之骨轻柔能腾虚也。第五层有神龟，长一尺九寸，有四翼，万岁则升木而



居，亦能言。第九层山形渐小狭，下有芝田蕙圃，皆数百顷，群仙种耨焉。傍有瑶台十二，各广千步，皆五色玉为台基。最下层有流精霄间，直上四十丈。东有风云雨师闻。南有丹密云，望之如丹色，丹云四垂周密。西有蜺潭，多龙蜺，皆白色，千岁一蜕其五脏。此潭左侧有五色石，皆云是白蜺肠化成此石。有琅环璆琳之玉，煎可以为脂。北有珍林别出，折枝相扣，音声和韵。九河分流。南有赤陂红波，千劫一竭，千劫水乃更生也。

蓬莱山

蓬莱山，亦名防邱，亦名云来，高二万里，广七万里。水浅，有细石如金玉，得之不加陶冶，自然光净，仙者服之。东有郁夷国，时有金雾。诸仙说此上常浮转低昂，有如山上架楼，室常向明以开户牖，及雾灭歇，户皆向北。其西有含明之国，缀鸟毛以为衣，承露而饮，终天登高取水，亦以金、银、苍环、水精、火藻为阶。有冰水、沸水，饮者千岁。有大蜺名躁步，负其壳露行，冷则复入其壳。生卵著石则软，取之则坚，明王出世，则浮于海际焉。有腹红色，可编为席，温柔如麝毳焉。有鸟名鸿鹄，色似鸿，形如秃鹫，腹内无肠，羽翮附骨而生，无皮肉也，雄雌相配则生产。南有鸟名鸯鸳，形似雁，徘徊云间，栖息高岫，足不践地，生于石穴中，万岁一交则生雏，千岁衔毛学飞，以千万为群，推其毛长者，高翥万里。圣君之世，来入国郊。有浮筠之竿，叶青茎紫，子大如珠，有青鸾集其上。下有沙砾，细如粉，柔风至，叶条翻起，拂细沙如云雾。仙者来观而戏焉，吹风竹叶，声如钟磬之音。

方丈山

方丈之山，一名岱雉。东方龙场，地方千里，玉瑤为林，云色皆紫。有龙，皮骨如山阜，散百顷，遇其蜕骨之时，如生龙。如云：“龙常斗此处，膏血如水流。”膏色黑者，著草木及诸物，如淳漆也。膏色紫者，著地凝坚可为宝器。燕昭王二年，海人乘霞舟，以雕壶盛数斗膏以献昭王。王坐通云之台，亦曰通霞台，以龙膏为灯，光耀百里，烟色丹紫，国人望之，咸言瑞光，世人遥拜之。灯以火浣布为缠。山西有照石，去石十里，视人物之影如镜焉。碎石片片皆能照人，而质方一丈则重一两。昭王春此石为泥，泥通霞之台，与西王母常游居此台上。常有众鸾凤鼓舞，如琴瑟和鸣，神光照耀，如日月之出。台左右种恒春之树，叶如莲花，芬芳如桂，花随四时之色。昭王之末，仙人贡焉，列国咸贺。王曰：“寡人得恒春矣，何忧太清不至。”恒春一名沈生，如今之沈香也。有草名濡奸，叶色如紺，茎色如漆，细软可紫，海人织以为席荐，卷之不盈一手，舒之则列坐方国之宾。莎萝为经。莎萝草细大如发，一茎百寻，柔软香滑，群仙以为龙骨之髻。有池方百里，水浅可涉，泥色若金而味辛，以泥为器，可作舟矣。百炼可为金，色青，照鬼魅犹如石镜，魑魅不能藏形矣。



瀛洲

瀛洲一名魂洲，亦名环洲。东有瀛洞，有鱼长千丈，色斑，鼻端有角，时鼓舞群戏。远望水间有五色云，就视，乃此鱼喷水为云，如庆云之丽，无以加也。有树名影木，日中视之如列星，万岁一实，实如瓜，青皮黑瓤，食之骨轻。上如华盖，群仙以避风雨。有金峦之观，饰以重环，直上千云。中有青瑤为，覆以云纨之素，刻碧玉为倒龙之状，悬火精为日，刻黑玉为鸟，以水精为月，青瑤为蟾兔。于地下为机梭，以测昏明，不亏弦望。时有香风冷然而至，张袖受之，则历年不歇。有兽名嗅石，其状如麒麟，不食生卉，不饮浊水，嗅石则知有金玉，吹石则开，金沙宝璞，粲然而可用。有草名芸苗，状如菖蒲，食叶则醉，饵根则醒。有鸟如凤，身绀翼丹，名曰藏珠，每鸣翔而吐珠累斛，仙人常以其珠饰仙裳，盖轻而耀于日月也。

员峤山

员峤山，一名环邱。上有方湖，周回千里。多大鹄，高一丈，衔不周之粟，粟穗高三丈，粒皎如玉。鹄衔粟飞于中国，故世俗间往往有之。其粟食之历月不饥，故《吕氏春秋》云：“粟之美者，有不周之粟焉。”东有云石，广五百里，驶骆如锦，扣之片片则蔚然云出。有木名猗桑，煎樗以为蜜。有冰蚕长七寸，黑色，有角有鳞，以霜雪覆之，然后作茧，长一尺，其色五彩，织为文锦，入水不濡，以之投火，经宿不燎。唐尧之世，海人献之，尧以为醢醢。西有星池千里，池中有神龟，八足六眼，背负七星日月八方之图，腹有五岳四渎之象，时出石上，望之煌煌如列星矣。有草名芸蓬，色白如雪，一枝二丈，夜视有白光，可以为杖。南有移池国，人长三尺，寿万岁，以茅为衣服，皆长裾大袖，因风以升烟霞，若鸟用羽毛也。人皆双瞳，修眉长耳，餐九天之正气，死而复生，于亿劫之内，见五岳再成尘。扶桑万岁一枯，其人视之如旦暮也。北有浣肠之国，甜水绕之，味甜如蜜，而水强流迅急，千钧投之，久久乃没。其国人常行于水上，逍遥于绝岳之岭，度天下广狭，绕八柱为一息，经四轴而暂寝，拾尘吐雾，以算历劫之数，而成丘阜，亦不尽也。

岱舆山

岱舆山，有员渊千里，常沸腾，以金石投之，则烂如土矣。孟冬水涸，中有黄烟从地出，起数丈，烟色万变。山人掘之，入数尺，得焦石如炭，灭有碎火，以蒸烛投之，则然而青色，深掘则火转盛。有草名莽煌，叶圆如荷，去之十步，炙人衣则焦，刈之为席，方冬弥温，以枝相摩则火出矣。南有平沙千里，色如金，若粉屑，靡靡常流，鸟兽行则没足。风吹沙起若雾，亦名金雾，亦曰金尘。沙著树粲然，如黄金涂矣。和之以泥，涂仙



宫，则晃显明粲也。西有□玉山，其石五色而轻，或似履舄之状，光泽可爱，有类人工。其黑色者为胜，众仙所用焉。北有玉梁千丈，驾玄流之上，紫苔漫漫，味甘而柔滑，食者千岁不饥。玉梁之侧，有斑斓自然云霞龙凤之状，梁去玄流千余丈，云气生其下。傍有丹桂、紫桂、白桂，皆直上百寻，可为舟航，谓之文桂之舟。亦有沙棠豫章之木，长千寻，细枝为舟，犹长十丈。有七色芝生梁下，其色青光辉耀，谓之苍芝。萤火大如蜂，声如雀，八翅六足。梁有五色蝙蝠，黄者无肠，倒飞腹向天。白者脑重，头垂自挂。黑者如鸟，至千岁形变如小燕。青者毫毛长二寸，色如翠。赤者止于石穴，穴上入天，视日出入恒在其上。有兽名嗽月，形似豹，饮金泉之液，食银石之髓。此兽夜喷白气，其光如月，可照数十亩，轩辕之世获焉。有遥香草，其花如丹，光耀入月，叶细长而白，如忘忧之草，其花叶俱香，扇馥数里，故名遥香草。其子如蕙，中实，甘香，食之累月不饥渴，体如草之香，久食延龄万岁，仙人常采食之。

昆吾山

昆吾山，其下多赤金，色如火。昔黄帝伐蚩尤，陈兵于此地，掘深百丈，犹未及泉，惟见火光如星。地中多丹，炼石为铜，铜色青而利。泉色赤。山草木皆剑利，土亦钢而精。至越王勾践，使工人以白马白牛祠昆吾之神，采金铸之以成八剑之精：一名掩日，以之指日，则光昼暗。金阴也，阴盛则阳灭。二名断，水以之划水，开即不合。三名转魄，以之指月，蟾兔为之倒转。四名悬翦，飞鸟游过，触其刃如斩截焉。五名惊蛰，以之泛海，鲸鲵为之深入。六名灭魂，挟之夜行，不逢魑魅。七名却邪，有妖魅者，见之则伏。八名真刚，以切玉断金，如削土木矣。以应八方之气铸之也。其山有兽，大如兔，毛色如金，食土下之丹石，深穴地以为窟，亦食铜铁，胆肾皆如铁。其雄者色白如银。昔吴国武库之中，兵刃铁器，俱被食尽，而封署依然。王令检其库穴，猎得双兔，一白一黄，杀之，开其腹而有铁胆肾，方知兵刃之铁为兔所食。王乃召其剑工，令铸其胆肾以为剑，一雌一雄，号干将者雄，号镞者雌。其剑可以切玉断犀，王深宝之，遂霸其国。后以石匣埋藏。及晋之中兴，夜有紫色冲斗牛。张华使刘焕为丰城县令，掘而得之，华与焕各宝其一。拭以华阴之土，光耀射人。后华遇害，失剑所在，焕子佩其一剑，过延平津，剑鸣飞入水，及入水寻之，但见双龙缠屈于潭下，目光如电，遂不敢前取矣。

洞庭山

洞庭山，浮于水上，其下有金堂数百间，玉女居之。四时闻金石丝竹之声，彻于山顶。楚怀王之时，举群才赋诗于水湄，故云潇湘洞庭之乐，听者令人忘老，虽《咸池》、《九韶》，不得比焉。每四仲之节，王常绕山以游宴，举四仲之气以为乐章。仲春律中夹钟，乃作轻风流水之诗，宴于山南。时中蕤宾，乃作皓露秋霜之曲。后怀王好进奸雄，群



贤逃越。屈原以忠见斥，隐于沅湘，披蓠茹草，混同禽兽，不交世务，采柏实以和桂膏，用养心神。被王逼迫，乃赴清冷之水。楚人思慕，谓之水仙。其神游于天河，精灵时降湘浦。楚人为之立祠，汉末犹在。其山又有灵洞，入中常如有烛于前。中有异香芬馥，泉石明朗。采药石之人入中如行十里，迥然天清霞耀，花芳柳暗，丹楼琼宇，宫观异常，乃见众女霓裳，冰颜艳质，与世人殊别。来邀采药之人，饮以琼浆金液，延入璇室，秦以萧管丝桐，饯令还家，赠之凡醴之诀。虽怀慕恋，且思其子息，却还洞穴，还若灯烛导前，便绝饥渴而达旧乡。已见邑里人户，各非故乡邻，唯寻得九代孙。问之，云：“远祖入洞庭山采药不还，今经三百年矣。”其人说于邻里，亦失所之。

录曰：按《禹贡》山海，正史说名山大泽，或不列书图，著于编杂之部。或有乍无，或同乍异，故使览者回惑而疑焉。至如《列子》所说员峤、岱舆，瑰奇是禀，先《坟》莫记。蓬菜、瀛洲、方丈，各有别名。昆吾神异，张騫亦云焉。睹华戎不同寒暑，律人羯禽，至其异气，云水草木，怪丽殊形，考之载籍，同其生类。非夫贵远体大，则笑其虚诞。俟诸宏博，验斯灵异焉。



书断列传

〔唐〕张怀瓘 撰

卷 一

古 文

按古文者，黄帝史苍颉所造也。颉首有四目，通于神明，仰观奎星圜曲之势，俯察龟文鸟迹之象，博采众美，合而为字，是曰古文。《孝经》援神契云：“奎主文章，苍颉仿象”是也。

大 篆

按大篆者，周宣王太史史籀所作也。或曰柱下史，始变古文，或同或异，谓之篆。篆者，传也，传其物理，施之无穷。甄鄠定六书，三曰：“篆书”。八体书法，一曰“大篆”。又《汉书·艺文志》：“史籀十五篇”并此也。以史官制之，用以教授，谓之“史书”，凡九千字。

籀 文

周太史史籀所作也，与古文大篆小异，后人以名称书，谓之籀文。《七略》曰：史籀者，周时史官教学童书也。与孔氏壁中古文体异。甄鄠定六书，二曰“奇字”是也。

小 篆

小篆者，秦丞相李斯所作也。增损大篆，异同籀文，谓之小篆，亦曰秦篆。



八 分

按八分者，秦羽人上谷王次仲所作也。王愔云：“王次仲始以古书方广少波势。建初中，以隶草作楷法，字为八分，言有模楷，始皇得次仲文，简略赴急疾之用，甚喜。遣召之，三征不至，始皇大怒。制槛车送之，于道化为大鸟飞去。”

隶 书

按隶书者，秦下邳人程邈所作也。邈字元岑，始为县吏，得罪始皇，幽系云阳狱中。覃思十年，益小篆方圆而为隶书三千字。奏之，始皇善之，用以御史。以奏事烦多，篆字难在，乃用隶字以为隶人佐书，故曰隶书。

章 草

按章草，汉黄门令史史游所作也。卫恒、李诞并云：“汉初而有草法，不知其谁。”萧子良云：“章草者，汉齐相杜操始变篆法，非也。”王愔云：“汉元帝时史游作《急就章》，解散隶体，粗书之。汉俗简，隋渐以行之是也。”

行 书

按行书者，后汉颍川刘德升所造也。行书即正书之小伪。务从简易，相间流行，故谓之行书。王愔云：“晋世以来，工书者多以行书著名。钟元常善行书是也。后王羲之、献之并造其极焉。”

飞 白

按飞白书者，后汉左中郎蔡邕所作也。王隐、王愔并云：“飞白，变楷制也。本是宫殿题署，势既劲。文字宜轻微不满，名为飞白。”王僧虔云：“飞白，八分之轻者。邕在鸿都门，见匠人施垆帚，遂创意焉。”

草 书

按草书者，后汉征士张伯英所造也。梁武帝草书状曰：“蔡邕云，昔秦之时，诸侯争长，羽檄相传，望烽走马，以篆隶难，不能救急，遂作赴急之书。今之草书也。”



汲冢书

汲冢书，盖魏安釐王时，卫郡汲县耕人于古冢中得之。竹简漆书，科斗文字，杂写经史，与今本校验多有异同。耕人姓不。

李 斯

秦丞相李斯曰：“自上古作大篆，颇行于世，但为古远，人多不详。今删略繁者，取其合体，参为小篆。”斯善书，自赵高已下，咸见伏焉。刻诸名山碑玺铜人，并斯之笔书。《秦望纪功石》乃曰：“吾死后五百三十年，当有一人，替吾迹焉。”（出《蒙恬笔经》）斯妙篆，始省改之。为小篆者《苍颉篇》七章。虽帝王质文，世有损益，终以文代质，渐就浇醺。则三皇结绳，五帝画象，三王肉刑，斯可况也。古文可为上古，大篆为中古，小篆为下古。三古谓实。草隶谓华。妙极于华者，义献。精穷其实者，籀斯。始皇以和氏之璧琢而为玺，令斯书其文。今泰山、峄山及秦望等碑并其遗迹。亦谓传国之伟宝，百世之法式。斯小篆入神，大篆入妙。

李斯书，如为冠盖，不易施手。

萧 何

前汉萧何善篆籀，为前殿成，覃思三月，以题其额。观者如流，何使秃笔书。

蔡 邕

后汉蔡邕，字伯喈，陈留人。仪容奇伟，笃孝博学。能画善音，明天文术数。工书，篆隶绝世，尤得八分之精微。体法百变，穷灵尽妙，独步今古。又创造飞白，妙有绝伦。喈八分飞白入神，大篆、小篆、隶书入妙。女琰甚贤明，亦工书。伯喈入嵩山学书，于石室内得一素书。八角垂芒，篆写李斯并史籀用笔势。伯喈得之，不食三日，乃大叫喜欢，若对数十人。喈因读诵三年，便妙达其旨。伯喈自书五经于太学，观者如市。

“蔡邕书，骨气洞达。爽爽为神。”

崔 瑗

崔瑗字子玉，安平人。曾祖蒙，父骃，子玉。官至济北相，文章盖世。善章草，书师于杜度，媚趣过之。点画精微，神变无碍，利金百炼，美玉天姿，可谓冰寒于水也。袁昂云：“如危峰阻日，孤松一枝。”王隐谓之“草贤”，章草入神，小篆入妙。



张 芝

张芝，字伯英。性好书，凡家之衣帛，皆画而后练。尤善章草，又善隶书。韦仲将谓之“草圣”。又云：“崔氏之肉，张氏之骨。其章草《急就章》，字皆笔而成。作英草行入神。隶书入妙。”

“伯英书，如汉武爱道，凭虚欲仙。”

张 昶

张昶，字文舒，伯英季弟，为黄门侍郎。尤善章草，书类伯英。时人谓之“亚圣”。文舒章草入神，八分入妙，隶入能。

刘德升

刘德升，字君嗣。颍川人，桓、灵之世，以造行书擅名。既以草创，亦甚妍美，风流婉约，独步当时。胡昭、钟繇并师其法。世谓钟繇善行狎书是也。而胡书体肥，钟书体瘦，亦各有君嗣之美也。

师宜官

师宜官，南阳人。灵帝好书，征天下工书于鸿都门，至数百人。八分称宜官为最。大则一字径丈，小则方寸千言。甚矜能，而性嗜酒。或时空至酒家，因书其壁以售之，观者云集，酤酒多售。则铲灭之，后为袁术将。钜鹿耿球碑，术所立，宜官书也。

“宜官书，如雕羽未息，翩翩自逝。”

梁 鹄

梁鹄，字孟皇，安定乌氏人。少好书，受法于师宜官。以善八分书知名。举孝廉为郎，亦在鸿都门下。迁选部郎，灵帝重之，魏武甚爱其书，帝悬帐中，又以钉壁，以为胜宜官也。于时邯郸淳亦得次仲法，淳宜为小字，鹄宜为大字，不如鹄之用笔尽势也。

左 伯

左伯，字子邑，东莱人。特工八分，名与毛弘等列。小异于邯郸淳，亦擅名汉末。又甚能作纸。汉兴，有纸代简，至和帝时，蔡伦工为之，而子邑尤行其妙。故萧子良答王僧



虔书云：“子邑之纸，研妙晖光。仲将之墨，一点如漆。伯英之笔，穷神尽思，妙物远矣，邈不可追。”

胡 昭

胡昭，字孔明，颍川人。少而博学，不慕荣利，有夷皓之节。甚能楷书，真行又妙。卫恒云：“胡昭与钟繇并师于刘德升，俱善草行，而胡肥钟瘦。尺牍之迹，动见模楷。”羊欣云：“胡昭得张芝骨，索靖得其肉，韦诞得其筋。”张华云：“胡昭善隶书，茂先与荀勗共整理记籍，又立书博士置弟子教习，以钟胡为法，可谓宿士矣。”

钟 繇

魏钟繇，字元常。繇少随刘胜入抱犊山学书。三年遂。与魏太祖、邯郸淳、韦诞等议用笔。繇乃问蔡伯喈笔法于韦诞，诞惜不与，乃自掇胸呕血。太祖以五灵丹救之，得活。及诞死，繇令人盗掘其墓，遂得，由是繇笔更妙。繇精思学书，卧画被穿过表，如厕终日忘归。每见万类，皆书象之。繇善三色书，最妙者八分（出羊欣《笔阵图》）。繇尤善书于曹喜、蔡邕、刘德升，真书绝世，刚柔备焉。点画之间，多有异趣。可谓幽深无际，古雅有余。秦汉以来，一人而已。虽古之善政遗爱结于人心，未足多也，尚德哉。若其行书，则羲之、献之之亚。草书，则卫索之下。八分，则有魏《受禅碑》，称此为最也。太和四年薨，迨八十矣。元常隶行人神，草、八分入妙。钟书有十二种，意外巧妙，绝伦多奇。

钟 会

钟会，字士季，元常少子。善书，有父风。稍备筋骨。美兼行草，尤工隶书。遂逸致飘然，有凌云之志。亦所谓剑则干将、镆铘焉。会尝作为荀勗书，就舅母钟夫人，取宝剑。会兄弟以千万造宅未移居，勗乃潜画元常形像。会兄弟人见，便大感恻，勗书亦会之类也。会隶、行草、章草并入妙。

韦 诞

魏韦诞，字仲将，京兆人。太仆端之子，官至侍中。伏膺于张伯英，兼邯郸淳之法。诸书并善，题署尤精。明帝凌云台初成，令仲将题榜，高下异好，宜就点正之。因危惧，以戒子孙，无为大字楷法，袁昂云：“如龙拏虎据，剑拔弩张。”张茂先云：“京兆韦诞、诞子熊、颍川钟繇、繇子会，并善隶书。”初青龙中，洛阳、许、鄆三都宫观始就，诏令仲将大为题署，以为永制。给御笔墨，皆不任用，因奏：“蔡邕。自矜能书，兼斯喜之法，非纨素不妄下笔。夫欲善其事，必利其器。若用张芝笔、左伯纸及臣墨，兼比三具，又得



臣手，然后可以逞径丈之势。方寸千言，然草迹之妙，亚乎索靖也。”嘉平五年卒，年七十五。仲将八分、隶书、章草、飞白入妙，小篆入能。兄康，字元将，工书。子熊，字少季，亦善书。时人云：“名父之子。”克有二事，世所美焉。

又云：“魏明帝凌云台成，误先钉榜，未题署。以笼盛涎，辘轳长绠引上，使就榜题。去地二十五丈，涎危惧，戒子孙，绝此楷法。

卷 二

王羲之

晋王羲之，字逸少，旷子也。七岁善书，十二见前代《笔说》于其父枕中，窃而读之。父曰：“尔何来窃吾所秘？”羲之笑而不答。母曰：“尔看《用笔法》，父见其小，恐不能秘之。”语羲之曰：“待尔成人，吾授也。”羲之拜请，今而用之，使待成人，恐蔽儿之幼令也。父喜，遂与之。不盈期月，书便大进。卫夫人见，语太常王策曰：“此儿必见《用笔诀》，近见其书，便有老成之智。”流涕曰：“此子必蔽吾名。”晋帝时祭北郊，更祝版，工人削之，笔入木三分。三十三书《兰亭序》。三十七书《黄庭经》。书讫，空中有语：“卿书感我而况人乎！吾是天台丈人”。自言真胜钟繇。羲之书多不一体。（出羊欣《笔阵图》）

逸少善草、隶、八分、飞白、章、行，备精诸体，自成一家法。千变万化，得之神功。逸少隶、行、草、章草、飞白，五体俱入神，八分入妙。妻郗氏甚工书，有七子。献之最知名，玄之、凝之、徽之、操之并工草。

又

羲之尝以章草答庾亮，亮示翼，翼见乃叹伏，因与羲之书云：“吾昔有伯英章草十纸，过江颠沛，遂乃亡，尝叹妙迹永绝。忽见足下答家兄书，焕若神明，顿还旧观。”

旧说羲之罢会稽，住戴山下，旦见一老姥，把十许六角竹扇出市。王聊问：“此欲货耶？一枚几钱。”答云：“二十许。”右军取笔书扇，扇五字。姥大怅，惋云：“老举家朝飧，唯仰于此，云何书坏？”王答云：“无所损，但道是王右军书，字请一百。”既入市，人竞市之。后数日，复以数十扇来诣请更书，王笑而不答。

又云羲之曾自书表与穆帝，专精任意。帝乃令索纸，色类、长短、阔狭与王表相似，使张翼写效，一毫不异，乃题后答之。羲之初不觉，后更详看，乃叹曰：“小人乱真乃玺！”



羲之性好鹅，山阴县璩村有一道士，养好者十余。王清旦乘小船故往看之，意大愿乐。乃告求市易，道士不与，百方譬说不能得之。道士言：“性好道，久欲写河上公老子，缣素早办，而无人能书。府君若能自屈，书《道德经》各两章，使合群以奉。”羲之停半日，为写毕，笼鹅而归，大以为乐。又尝诣一门生家，设佳饌供给，意甚感之，欲以书相报。见有一新稚儿至滑净，王便书之，草正相半。门生送王归郡，比还家，其父已刮削都尽，儿还失书，惊懊累日。

又

晋穆帝永和九年，暮春三月三日，常游山阴。与太原孙统承公、孙绰兴公、广汉王彬之、道生、陈郡谢安石、高平郗昙、重熙、太原王蕴、叔仁、释支遁、道林，并逸少子凝、徽、操之等四十有一人，脩褻褻之礼，挥毫制序。兴乐而书，用蚕茧纸、鼠须笔，道媚劲健，绝代更无。凡二十八行，三百二十四字。有重者皆构别体，就中之字最多。

王献之

王献之，字子敬，尤善草隶。幼学于父，次习于张芝。尔后改变制度，别创其法。率尔师心，冥合天矩。初，谢安请为长史。太元中，新造太极殿。安欲使子敬题榜，以为万代宝，而难言之。乃说韦仲将题凌云台之事。子敬知其旨，乃正色曰：“仲将，魏之大臣，宁有此事。使其若此，知魏德之不长。”安遂不之逼。子敬年五六岁时，学书，右军从后潜制其笔不脱。乃叹曰：“此儿当有大名”遂书《乐毅论》与之。学竟，能极小真书。可谓穷微入圣，筋骨紧密，不减于父。如大则尤直而寡态，岂可同年。唯行草之间，逸气过也。及论诸体，多劣右军。总而言之，季孟差耳。子敬隶、行、草、章草、飞白五体皆入神，八分入能。

又

羲之为会稽，子敬出戏，见北馆新白土壁，白净可爱。子敬令取扫帚，沾泥汁中以书壁，为方丈一字。晻暖斐亹，极有势好。日日观者成市，羲之后见，叹其美。问：“谁所作？”答曰：“七郎。”羲之於是作书与所亲曰：“子敬飞白，大有直是图于此壁。”子敬好书，触遇造玄，有一好事年少，故作精白纱襪，著往诣。子敬便取襪，书之。草正诸体悉备，两袖及襟略周。自叹比来之合，年少觉王左右有凌夺之色，于是制襪而走。左右果逐及于门外，斗争分裂衣，少年才得一袖而已。子敬为吴兴，羊欣父不疑为乌程令。欣时年十五六，书已有意，为子敬所知，子敬往县入欣斋。欣著新白绢裙昼眠，子敬乃书其裙幅及带。欣觉欢乐，遂宝之，后以上朝廷。



又

献之尝与简文帝书十许纸，题最后云，下官此书甚合作，愿聊存之，此书为桓玄所宝。玄爱重二王，不能释手，乃撰缣素及纸，书正行之尤美者，各为一秩，尝置左右。及南奔，虽甚狼狈，犹以自随。将败，并投于江。或谓小王为小令，非也。献之为中书令，卒于官。族弟珣代之。时以子敬为大令，季琰为小令。

王 脩

王脩，字敬仁，仲祖之子。官至著作郎，少有秀令之誉。年十三著《贤令论》，刘真长见之，嗟叹不已。善隶、行书。尝就右军求书，乃写东方朔《画赞》与之。王僧虔曰：“敬仁书，殆穷其妙。”王子敬每看，咄咄逼人。升平元年卒，年二十四。始王导爱好钟氏书，丧乱狼狈，犹衣带中盛，尚书宣示。过江后以赐逸少。逸少乞敬仁，敬仁卒，其母见此书平生所好，以入棺。敬仁隶、行入妙。殷仲堪书，亦敬仁之亚也。

荀 爽

荀爽能书，尝写《狸骨方》。右军临之，至今谓之《狸骨帖》。

谢 安

谢安，字安石，学正于右军。右军云：“卿是解书者，然知解书为难。”安石尤善行书，亦犹卫洗马风流名士，海内所瞻。王僧虔云：“谢安人能书品录也。”安石隶、行、草并入妙。兄尚字仁祖万石，并工书。

王 虞

晋平南将军侍中王虞，右军之叔父，工隶、飞白。祖述张卫，法复索靖。书七月二十六日一纸，每宝玩之。遭永嘉丧乱，乃四叠缀衣中以渡江。今蒲州桑泉令豆卢器得之，叠迹犹在。

戴安道 康昕

晋戴安道，隐居不仕。总角时，以鸡子汁洩白瓦屑。作郑玄碑，自书刻之，文既奇丽，书亦妙绝。又有康昕，亦善草隶。王子敬常题方山亭壁数行，昕密改之，子敬后过不



疑。又为谢居士题画像以示子敬，子敬叹能以为西河绝矣。昕，字君明，外国人，官至临沂令。

韦昶

晋韦昶，字文休仲将。兄康字元将，凉州刺史之玄孙，官至颍川太守、散骑常侍。善古文大篆及草，状貌尤古，亦犹人则抱素，木则封冰，奇而且劲。太元中，孝武帝改治官室及庙诸门，并欲使王献之隶草书题榜，献之固辞。乃使刘环以八分书之，后又使文休以大篆改八分焉。或问：“王右军父子书，君以为云何？”答曰：“二王自可谓能，未是知书也。”又妙作笔，王子敬得其笔，叹为绝世。义熙末卒，年七十岁余。文休古文大篆、草书并入妙。

萧思话

宋萧思话，兰陵人，父源冠军琅琊太守。思话官至征西将军左仆射，工书。学于羊欣，得其体法，虽无奇峰壁立之秀，运用连岗尽望势不断绝，亦可谓有功矣。王僧虔云：“萧全法羊，风流媚好，殆欲不减，笔力恨弱。”袁昂云：“羊真孔草，萧行范篆，各一时之妙也。”

王僧虔

琅琊王僧虔，博涉经史，兼善草隶。太祖谓虔曰：“我书何如？”卿曰：“臣正书第一，草书第三。陛下草书第二，正书第三。臣无第二，陛下无第一。”上大笑着曰：“卿善为词也。然天下有道，丘不与易也。”虔历左仆射尚书令，谥简穆公。僧虔长子慈，年七岁，外祖江夏王刘义恭迎之入中斋，施诸宝物，恣其所取，慈唯取素琴一张、《孝子图》而已。年十岁，共时辈蔡约入寺礼佛，正见沙门等忏悔，约戏之曰：“众僧今日何乾乾。”慈应声答：“卿如此不知礼，何以兴蔡氏之宗？”约兴宗之子也。谢超宗见慈学书，谓之曰：“卿书何如虔公？”答云慈书与大人，犹鸡之比凤。超宗，凤之子。”慈历侍中，赠太常卿。约历太子詹事。

又

齐高帝尝与王僧虔赌书毕，帝曰：“谁为第一。”僧虔对曰：“臣书，臣中第一。陛下书，帝中第一。”帝笑曰：“卿可谓善自谋矣。”



王 融

齐末王融，图古今杂体，有六十四书。少年仿效，家藏纸贵。而风鱼虫鸟是七国时书，元长皆作隶字，故贻后来所诘。湘东王遣沮阳令韦仲定为九十一种，次功曹谢朓增其九法，合成百体，其中以八卦为书为一，以太为两法，径丈一字，方寸千言。

萧子云

梁萧子云，字景乔。武帝谓曰：“蔡邕飞而不白，羲之白而不飞，飞白之间，在卿斟酌耳。”尝大书萧字，后人匣而宝之，传至张氏宾护，东都旧第有萧齐前后序，皆名公之词也。

武帝造寺，令萧子云飞白，大书萧字，至今一字存焉。李约竭产自江南买归东洛，建一小亭以玩，号曰“萧齐”。

萧 特

海盐令兰陵萧特，善草隶，高祖赏之。曰：“子敬之书不如逸少，萧特之迹遂过其父。”

僧智永

陈永欣寺僧智永师，远祖逸少。历纪专精，摄齐升堂真草唯命。智永章草及草书入妙，行人能。兄智楷亦工书，丁觐亦善隶书，时人云：“丁真永草。”

又

智永尝于楼上学书，业成方下。

梁周兴嗣编次《千字文》，而有王右军者，人皆不能晓其始。乃梁武教诸王书，令殷铁石于大王书中，榻一千字不重者，每字片纸，杂碎无序。武帝召兴嗣，谓曰：“卿有才思，为我韵之。”兴嗣一夕编缀进上，鬓发皆白，而赏锡甚厚。右军孙智永师自临八百本，散与人外，江南诸寺各留一本。永公住吴兴永欣寺，积年学书，后有秃笔头十瓮，每瓮皆数石。人来觅书并请题额者如市。所居户限为之穿穴，乃用铁叶裹之。人谓为“铁门限”。后取笔头瘞之，号为“退笔冢”，自制铭志。

尝居永欣寺阁上临书，所退笔头置之于大竹簏，簏受一石余，而五簏满。



僧智果

隋永欣寺僧智果，会稽人也，炀帝甚善之。工书铭石，其为瘦健。造次难类，尝谓水师曰：“和尚得右军肉，智果得骨。夫筋骨藏于肤肉，山水不厌高深。而比公稍乏清幽，伤于浅露，若吴人之战，轻进易退，勇力而非武。虚张夸耀，无乃小人儒乎。”智果隶行草人能。

卷 三

唐太宗

唐太宗贞观十四年，自真草书屏风以示群臣，笔力道劲为一时之绝。尝谓朝臣曰：“书学小道，初非急务，时或留心，犹胜弃日。凡诸艺业未有学而不得者也，病在心力懈怠，不能专精耳。”又云：“吾临古人之书，殊不能学其形势，惟在其骨力。及得骨力，而形势自生耳。”尝召三品已上，赐宴于玄武门。帝操笔作飞白书，众臣乘酒就太宗手中相竞。散骑常侍刘洎登御床引手然后得之，其不得者，咸称洎登床罪当死，请付法。帝笑曰：“昔闻婕妤辞辇，今见常侍登床。”

购《兰亭序》

王羲之《兰亭序》，僧智永弟子辩才尝于寝房伏梁上凿为暗槛，以贮《兰亭》，保惜贵重于师在日。贞观中，太宗以听政之暇，锐志玩书。临羲之真草，书帖购募备尽，唯未得《兰亭》。寻讨此书，知在辩才之所。乃敕追师入内道场供养，恩赉优洽。数日后，因言次，乃问及《兰亭》，方便善诱，无所不至。辩才确称往日侍奉先师，实尝获见，自师没后荐经丧乱，坠失不知所在。既而不获，遂放归越中。后更推究，不离辩才之处。又敕追辩才入内，重问《兰亭》，如此者三度，竟靳固不出。上谓侍臣曰：“右军之书，朕所偏宝，就中逸少之迹，莫如《兰亭》。求见此书劳于寤寐，此僧耆年又无所用，若得一智略之士，设谋计取之，必获。”尚书左仆射房玄龄曰：“臣闻监察御史萧翼者，梁元帝之曾孙，今贯魏州莘县，负才艺，多权谋，可充此使，必当见获。”太宗遂召见，翼奏曰：“若作公使，义无得理。臣请私行诣彼，须得二王杂帖三数通。”太宗依给。翼遂改冠微服至洛潭，随商人船下至越州，又衣黄衫极宽长潦倒，得山东书生之体，日暮入寺。巡廊以观壁画，过辩才院，止于门前。辩才遥见翼，乃问曰：“何处檀越？”翼就前礼拜云：“弟子是北人，将少许蚕种来卖，历寺纵观，幸遇禅师。”寒温既毕，语议便合，因延入房内，



即共围棋、抚琴、投壶、握槊，谈说文史，意甚相得。乃曰：“白头如新，倾盖若旧，今后无形迹也，便留夜宿，”设缸面药酒果等。江东云“缸面”，犹河北称“甕头”，谓初熟酒也。酣乐之后，请宾赋诗。辩才探得来字韵，其诗曰：“初酝一缸开，新如万里来。披云同落莫，步月共徘徊。夜久孤琴思，风来旅雁哀。非君有秘术，谁照不然灰。”萧翼探得招字韵，诗曰：“邂逅款良宵，殷勤荷胜招。弥天俄若旧，初地岂成遥。酒蚁倾还泛，心猿躁似调。谁怜失群翼，长苦业风飘”。妍蚩略同，彼此讽味，恨相知之晚，通宵尽欢明日乃去。辩才云：“檀越闲即更来。”翼乃载酒赴之，兴后作诗，如此者数四。诗酒为务，其俗混然，经旬。朔，翼示师梁元帝自画《职贡图》。师嗟赏不已，因谈论翰墨。翼曰：“弟子先传二王楷书法，弟子自幼来耽玩，今亦数帖自随。”辩才欣然曰：“明日可将来此看。”翼依期而往，出其书以示辩才。辩才熟详之，曰：“是即是矣，然未佳善也。贫道有一真迹，颇是殊常。”翼曰：“何帖”？才曰：“《兰亭》。”翼笑曰：“数经乱离，真迹岂在，必是响榻伪作耳。”辩才曰：“禅师在日保惜，临亡之时，亲付于吾，付受有绪，那得参差，可明日来看。”及翼到，临自于屋梁上槛内出之。翼见讫，故驳瑕指类，曰：“果是响榻书也！”纷竞不定，自示翼之后，更不复安于伏梁上，并萧翼二王诸帖并借留置于几案之间。辩才时言八十余，每日于窗下临学数遍，其老而笃好也如此。自是翼往还既数，童弟等无复猜疑。后，辩才出赴露汜桥南严迁家斋。翼遂私来房前，谓童子曰：“翼遗却帛子在床上。”童子即为开门，翼遂于案上取得《兰亭》及御府二王书帖，便赴永安驿。告驿长凌慆曰：“我是御史，奉敕来此，今有墨敕，可报汝都督知。”都督齐善行闻之，驰来拜谒。萧翼因宣示敕旨，具告所由，善行走使人召辩才。辩才仍在严迁家未还寺，遽见追呼，不知所以。又遣云御史须见，及师来见御史，乃是房中萧生也。萧翼报云：“奉敕遣来取《兰亭》，《兰亭》今已得矣，故唤师来取别。”辩才闻语而便绝倒，良久始苏。翼便驰驿南发，至都奏御。太宗大悦，以玄龄举得其人，赏锦彩千段，擢拜翼为员外郎加入五品，赐银瓶一，金铤瓶一，马脑碗一，并实以珠，内厩良马两匹，兼宝装勒骝，宅庄各一区。太宗初怒老僧之秘悻，俄以其年毫不忍加刑。数月后，仍赐物三千段，穀三千石，便敕越州支給。辩才不敢将人已用，回造三层宝塔。塔甚精丽，至今犹存。老僧因惊悸患重，不能强饭，唯歠粥，岁余乃卒。帝命供奉榻书人赵模、韩道政、冯承素、诸葛贞等四人，各榻数本，以赐皇太子、诸王、近臣。贞观二十三年，圣躬不豫，幸玉华宫含风殿。临崩谓高宗曰：“吾欲从汝求一物，汝诚孝也，岂能违吾心耶，汝意如何？”高宗哽咽流涕，引耳而听，受制命。太宗曰：“吾所欲得《兰亭》，可与我将去。”后随仙驾入玄宫矣，今赵模等所榻在者，一本尚直钱数万也。

又

一说王羲之，尝书《兰亭会序》。隋末广州好事僧有三宝，宝而持之。一曰右军《兰



亭书》，二曰神龟（以铜为之，龟腹受一升，以水贮之，龟则动四足，行所在能去），三曰如意（以铁为之，光明洞彻，色如水晶）。太宗特工书，闻右军《兰亭》真迹，求之得其他本。若第一本，知在广州僧，而难以力取。故令人诈僧，果得其书。僧曰：“第一宝亡矣，其余何爱？”乃以如意击石，折而弃之。又投龟，一足伤，自是不能行矣。

汉王元昌

唐汉王元昌，神尧之子，善行书。诸王仲季并有能名，韩王、曹王亦其亚也。曹则妙于飞白，韩则工于草行。魏王、鲁王亦韩王之伦也。

欧阳询

唐欧阳询，字信本，博览今古，官至银青光禄大夫率更令。书则八体尽能，笔力劲险，高丽爱其书，遣使请焉。神尧叹曰：“不意询之书名远播夷狄。”贞观十五年卒，年八十五。询飞白、隶、行、草入妙，大篆、章草入能。

又

率更尝出行，见古碑，索靖所书。驻马观之，良久而去。数步，复下马伫立，疲则布毯坐观，因宿其傍，三日而后去。今开元宝钱，武德四年铸，其文乃欧阳率更书也。

欧阳通

唐欧阳通，询之子。善书，瘦怯于父。尝自矜能书，必以象牙、犀角为笔管，狸毛为心，覆秋兔毫，松烟为墨，末以麝香，纸必须坚紧薄白滑者乃书之，盖自重其书。薛纯陲亦效欧草，伤于肥钝，亦通之亚也。

虞世南

虞世南，字伯施，会稽人，仕隋为秘书郎。炀帝知其才，嫉其鲠直，一为七品十余年。仕唐至秘书监。文皇曰：“世南一人遂兼五绝。”一曰博学，二曰德行，三曰书翰，四曰词藻，五曰忠直，有一于此足谓大臣，而世南兼之。行草之余，尤所偏工，本师于释智永。及其暮齿，加以道逸，卒年八十九。伯施隶、行、草入妙。

褚遂良

褚遂良，河南人，父亮太常卿。遂良官至右仆射，善书。少则伏膺虞监，长则师祖右



军真书，甚得其媚趣。显庆中卒，年六十四。遂良隶、行人妙。亦尝师受史陵，然史亦有古直，伤于疏瘦也。

又

遂良问虞监曰：“某书何如永师？”曰：“吾闻彼一字直五万，官岂能若此者。”曰：“何如欧阳询？”曰：“闻询不择纸笔，皆能如志，官岂得若此。”褚曰：“既然，某何更留意于此？”虞曰：“若使手和笔调遇合作者，亦深可贵尚。”褚喜而退。

薛稷

薛稷，河东人，官至太子少保。书学褚，尤尚绮丽媚好，肤肉得师之半矣。可谓河南公之高足，甚为时所珍尚。稷隶、行人能。

又

稷外祖魏瓘，家富，图籍多，有虞褚旧迹，锐精模仿，笔态遒丽，当时无及之老。反善画，博采古迹，埒于秘书。

高正臣

高正臣，广平人，官至卫尉卿。习右军之法，睿宗爱其书。张怀素之先与高有旧，朝士就高乞书，或凭书之，高尝为人书十五纸，张乃戏换其五纸，又令示高。再看不误，客曰：“有人换公书。”高笑曰：“必是张公也，乃审详之，得其三纸。”客曰：“犹有在”，高又观之，竟不能辨。高尝许人书一屏幛，逾时未获。其人乃出使淮南，临别大怅惋。高曰：“正臣故人在申州，正与仆书一类，公可便往求之，遂立申此意。”陆柬之尝为高书告身，高皇嫌之，不将入秩，后为鼠所伤，乃持去。张公曰：“此鼠甚解正臣意，风调不合，一至于此。”正臣隶、行、草入能。

王绍宗

王绍宗，字承烈，官至秘书少监。祖述子敬，钦羨柬之。其中小真书体象尤甚，其行书及章草次于真。常与人书云：“鄙夫书翰无工者，特由水墨之积习。恒精心率意，虚神静思以取之。每与吴中陆大夫论及此道，明朝必不觉已进。陆后于密访知之，嗟赏不少，将余比虞士。以虞亦不临写故也，但心准目想而已。闻虞眠布被中，恒手画腹皮，与余正同也。”承烈隶、行、草入能。



郑广文

郑虔任广文博士，学书而病无纸，知慈恩寺布柿叶数间屋，遂借僧房居止。日取红叶学书，岁久殆遍。后自写所制诗并画，同为一卷。封进，玄宗御笔书其尾，曰“郑虔三绝。”

李阳冰

李阳冰善小篆，自言斯翁之后，直至小生、曹喜、蔡邕，不足言。开元中，张怀瓘撰《书断》，阳冰、张旭并不载。绛州有篆字与古不同，颇为怪异，李阳冰见之，寝卧其下数日不能去。验其书是唐初，不载书者名姓，碑有“碧落”二字，时人谓之《碧落碑》。

张旭

张旭书得笔法，传崔邈、颜真卿。旭言：“始吾闻公主与担夫争路，而得笔法之意。后见公孙氏舞剑器，而得其神”饮醉辄草书，挥毫大叫，以头蹴水墨中，天下呼为张颠。醒后自视，以为神异不可复得。后辈言笔札者，欧虞褚陆，或有异论，至长史无间言。

又

旭释褐为苏州常熟尉，上后旬日，有老父过状，判去不数日，复至，乃怒而责曰：“敢以闲事屡扰公门？”老父曰：“其实非论事，但睹少公笔迹奇妙，贵为筐笥之珍耳！”长史异之，因诘其何得爱书？答曰：“先父爱书，兼有著述。”长史取示之，信天下工书者也。自是各得笔法之妙，冠于一时。

僧怀素

长沙僧怀素，好草书。自言圣三昧，弃笔堆积，埋山下，号笔冢。（出《国史补》）

卷四

程貌已下

秦狱吏程邈，善大篆。得罪始皇，囚于云阳狱，增减大篆体，去其繁复。始皇善之，



出为御史，名曰“隶书。”

扶风曹喜，后汉人，不知其官。善篆、隶，小异李斯，见师一时。陈留蔡邕，后汉人，左中郎将。善篆，采喜之法，真定直父碑文犹传于世，篆者师焉。杜陵陈遵，后汉人，不知官。善篆、隶，每书，一坐皆惊，时人谓为“陈惊坐”。上谷王次仲，后汉人。作八分楷。法师宜官，后汉不知何许人。宜官能为大字一丈，小字方寸千言，《耿球碑》是宜官书，甚自矜重。或空至酒家，先书其壁，观者云集，酒因大售，至饮足，削书而退。安定梁鸿，后汉人，官至选部尚书，乃师宜官法，魏武重之，常以书悬帐中，宫殿题署多是鸿手也。

邯郸淳已下

陈留邯郸淳为魏临淄侯文学，得次仲法，名在鸿后。毛弘，鸿弟子，秘书八分皆传鸿法。又有左子邑，与淳小异，亦有名。京兆杜度为魏齐相，始有草名。安平崔瑗，汉济北相，亦善草，书平。苻坚得摹瑗书，王子敬云“极似张伯英”。瑗子寔，官至尚书，亦能草。弘农张芝高尚不仕，善草书，精勤绝伦。家之衣帛必先书而后练临池学书，池水尽墨。每书云：‘吾欲不暇草。’时人谓为“草圣”。芝弟昶，汉黄门侍郎，亦能草。今世人中云芝书者，多是昶也。

姜诩已下

姜诩、梁宣、田彦和及司徒韦诞，皆伯英弟子，并善草。诞最优，魏宫馆宝器皆是诞手。魏明帝起凌云台，误先钉榜，而未之题，以笼盛诞，辘轳引上之。去地二十五丈，诞甚危惧，乃诫子孙绝此楷法。诞子少季亦有能称。罗晖赵恭，不详何许人，与伯英同时见称西州，而矜许自与，众颇惑之。伯英与朱宽书，自叙云：“上比崔杜不足，下方罗赵有余。”河间张超亦善草，不及崔张。刘德升善为行书，不详何许人。颍川钟繇，魏太尉，同郡胡昭，公车征，二家俱学于德升，而胡书肥，钟书瘦。钟书有三体，一曰铭石之书，最妙者也，二曰章程书，三曰狎书，相闻者也。繇子会，镇西将军，绝能学父书，改易邓艾上章事，莫有知者。河东卫觊，魏尚书仆射，善草及古文，略尽其妙，草体微瘦，而笔迹精熟。觊子瓘，为晋太保，采芝法，以觊法参之，更为草藁，藁是相闻书也。瓘子恒，亦善书，博识古文字。焜煌索靖，张芝姊之孙，晋征西司马，亦善草。陈国何元公，亦善草书。吴人皇象能草，世称“沉著痛快。”荑阳畅晋秘书令史，善八分。

王羲之

王羲之《告誓文》，今之所传即其藁本，不具年月日朔，其真本。维永和十年三月癸



卯九日辛亥而书亦真。开元初，润州江宁县瓦官寺修讲堂，匠人于鸱吻内竹筒中得之，与一沙门。至八年，县丞李延业求得，上岐王。王以献，便留内不出。或云其后却借岐王，十二年王家失火，图书悉为灰烬，此书亦见焚矣。

王 虞

王虞，羲之之叔也，善书画。尝谓右军曰：“吾诸事不足法，唯书画可法。”晋明帝师其画，王右军学其书。

潞州卢

东都顷年创造防秋馆，穿掘多蔡邕，鸿都学所书石经。后洛中人家往往有之，王羲之《借船帖》书之尤工者也。故山北卢匡宝惜有年，卢公致书借之不得。云：“只可就看，未尝借人也。”卢除潞州，旌节在途，才数程，忽有人将书帖就卢求售，阅之乃《借船帖》也，惊异问之。云：“卢家郎君要钱遣买耳。”卢叹异移时，不问其价还之，后不知落于何人。京师书伶孙盈者，名甚著。盈父曰仲，容亦鉴书画，精于品目，豪家所宝，多经其手，真伪无所逃焉。公《借船帖》是孙盈所蓄，人以厚价求之，不果。卢公时其急切减而赈之，日久满百千，方得。卢公，韩太冲外孙也，故书画之尤者，多阅而识焉。

桓 玄

《晋书》中有饮食名“寒具”者，亦无注解处，后于《齐民要术》并《食经》中检得，是今所谓“馓饼”。桓玄尝盛陈法书名画，请客观之。客有食寒具，不濯手，而执书画，因有浼，玄不怪，自是会客不设寒具。

褚遂良

贞观十年，太宗谓魏徵曰：“世南没后，无人可与论书。”徵曰：“褚遂良后来书流，甚有法则。”于是召见，太宗尝以金帛，购王羲之书迹，天下争赍古书诣阙以献，时莫能辨其真伪，遂良备论所出，咸为证据，一无舛误。十四年四月二十二日，太宗为真草书屏风以示群臣，笔力遒利，为一时之绝，购求得人间真行凡三百九十纸，装为七十卷，草书二千纸，装为八十卷，每听政之暇，时阅之。尝谓朝臣曰：“书学小道，初非急务，时或留心，亦胜弃日。凡诸艺未尝有学而不得者也，病在心力懈怠，不能专精耳。今吾学古人之书，殊不学其形势，唯在求其骨力，得其骨力，形势自生。”



兰亭真迹

太宗酷好书法，有大王书迹三千六百纸，率以一丈一尺为一轴，宝惜者独《兰亭》为最。置于坐侧，朝夕观鉴赏。一日附耳语高宗曰：“吾千秋万岁后，与吾《兰亭》将去也。”及奉讳之日，用玉匣贮之，藏于昭陵。

王方庆

龙朔二年四月，高宗自书与辽东诸将。许敬宗曰：“许国师受书，可于朝示之。”神功二年，上问凤阁侍郎王方庆曰：“卿家合有书法？”方庆奏曰：“臣十代再从伯祖羲之先有四十余纸。贞观十二年，先臣进谏，有一卷，臣近已进谏。臣十一代祖洽、九代祖珣、八代祖县首、七代祖僧绰、六代祖仲宝、五代祖寿、高祖规、曾祖襄、并九代，三从伯祖晋中书令献之已下二十八人，书共十卷，见在。”上御武成殿召群臣取而观之，仍令凤阁舍人崔融作序，目为《宝章集》，以赐方庆，朝野荣之。

二王真迹

开元十六年五月，内出二王真迹及张芝、张昶等书，总一百六十卷，付集贤院。令集字楮两本进，分赐诸王，其书皆是。贞观中太宗令魏徵、虞世南、褚遂良等定其真伪八十卷。小王、张芝等迹，各随多少，勒为卷帙，以真观字为印，印缝及卷之首尾。其草迹又令褚遂良真书小字帖纸影之，其中古本亦有是梁隋官本者，梁则满骞徐僧权沈炯文朱异，隋则江总姚察等，署记太宗，又令魏褚等卷下更署名以记之。其《兰亭》本相传云在昭陵玄宫中。《乐毅论》长安中太平公主奏借出外楮写，因此遂失所在。五年敕陆元悌、魏哲、刘怀信等检校换标，每卷分为两卷，总见在有八十卷，余并失坠。元悌又割去前代记署，以己之名氏代焉。玄宗自书“开元”二字，为印记之。右军凡一百三十卷，小王二十八卷，张芝、张昶各一卷。右军真行书唯有《黄庭告誓》等卷存焉。又得滑州人家所藏右军扇上真尚书宣示，及小王行书白骑遂等二卷，其书有贞观年旧标织成字。

八 体

张怀瓘《书断》曰：“篆、籀、八分、隶书、章草、草书、飞白、行书，通谓之“八体”，而右军皆在神品。右军尝醉书数字，点画类龙爪，后遂有龙爪书，如科斗玉箸偃波之类，诸家共五十二般。



李 都

李都荆南从事时，朝官亲熟自京寓书，书踪甚恶。李寄诗戏曰：“华城千里列荆门，章草纵横任意论。应笑钟张虚用力，却教羲献枉劳弃。惟堪爱惜为珍宝，不敢留传误子孙。深荷故人相厚处，天行时气许教吞。”

东都乞儿

太历中，东都天津桥有乞儿，无两手，以右足夹笔写经，乞钱。欲书时，先用掷笔高尺余，以足接之，未尝失落，书迹楷书不如。

卢弘宣

李德裕作相日，人有献书帖。德裕得之，执玩颇爱其书。卢弘宣时为度支郎中，有善书名。召至，出所获者书帖令观之。弘宣持贴久之不对，德裕曰：“何如”，弘宣有恐悚状，曰：“是某顷年所临小王帖。”太尉弥重之。

岭南兔

岭南兔，尝有郡牧得其皮。使工人削笔，醉失之，大惧。因剪己发为笔，甚善，更使为之。工者辞焉，语其由，因实对，遂下令使一户输人须，或不能致，辄责其直。



续世说

〔宋〕孔平仲 撰

卷一

德行

梁，刘遵为皇太子中庶子。卒，太子深悼惜之。与其从兄孝仪令曰：“贤从弟中庶，孝友淳深，立身贞固，内含玉润，外表澜清，言行相符，终始如一，文史该富，琬炎为心，辞章博赡（原作该博，据《南史》改），元董成采。既以鸣谦表性，又以难进自居。益者三友，此寔其人。及宏道下巴，未申善政而能使人结去思，野多驯翟，此亦威风一羽，足以验其五德。”

梁，明山宾性笃实，尝乏困，货所乘牛。既售钱，乃谓买主曰：“此牛经患漏蹄，疗差已久，恐后脱发，无容不相语。”买主遽追取钱。处士阮孝绪闻之，叹曰：“此言足使还淳反朴，激薄停浇矣。”

梁，庾域母好鹤唳，域孜孜营求。一旦，双鹤来下，人以为孝感。子舆亦有孝行。父卒于蜀，子舆奉丧归。至巴东灊源石，瞿塘大滩，秋水犹壮，子舆抚心长号。其夜五更，水忽退减，安流南下。及度，水壮如旧。时人为之语曰：“灊源如幞本不通，瞿塘水退为庾公。”

梁，顾协清介有志操。初为廷尉正，冬服单薄，寺卿蔡法度欲解襦与之，惮其清严，不敢发口，谓人曰：“我愿解身上襦与顾郎，顾郎难衣食者，竟不敢以遗之。”

宋，甄彬有行谊。尝以一束苧就州长沙寺库质钱，后贖苧还，于苧束中得金五两，以手巾裹之。彬送还寺库，寺僧以半与彬，坚然不受。曰：“五月披羊裘而负薪，岂受遗金者邪？”

宋，郭世通于山阴市物货，误得一千钱。当时不觉，分背方悟，追还本主钱。主惊叹，以半与之。世通委之而去。



唐，河间王孝恭，次子晦，私第有楼，下临酒肆。其人尝候晦，言曰：“微贱之人，虽礼所不及，然家有长幼，不欲外人窥之。家迫明公之楼，出入非便，请从此辞。”晦即日毁其楼。

温大雅改葬祖父。筮者曰：“葬于此地，害兄而福弟。”大雅曰：“若得家弟永康，我将含笑入地。”葬讫，岁余卒。弟彦博官至端揆，年六十四，大有为中书侍郎。

陈叔达赐食于御前，得蒲萄执而不食。高祖问其故，对曰：“臣母患口乾，求之不能致，欲归以遗母。”高祖喟然流涕曰：“卿有母可遗乎？”因赐物百段。

霍王元轨，高祖之第十四子。魏徵与之言，未尝不自失也。为徐州刺史，与处士刘元平为布衣之交。或问元平王之所长，答曰：“无长。”人问其故，元平曰：“夫人有短，所以见长。至于霍王，无所不备，吾何以称之？”

太宗谓虞世南有五绝：一、德行；二、忠直；三、博学；四、文词；五、书翰。

薛元敬与伯收、族兄德音齐名，时人谓之“河东三凤”。收为长离，德音为鹭鹭，元敬年最小为鹪鹩。天策府参军兼记室。时房、杜处腹心之寄，深相友托。元敬畏于权势，竟不至狎。如晦常云：“小记室不可得而亲，不可得而疏。”

崔仁师治青州逆狱，惟坐魁首十余人，余皆原免。敕使至青州，更讯诸囚，咸曰：“崔公仁恕。”皆无异词。又刑部以贼盗律反逆缘坐兄弟，没官为轻，请改从死。仁师驳议，以为父子天属，兄弟同气，诛其父，子足累其心，此而不顾，何爱兄弟？竟从仁师之议。

唐临为万泉丞，有轻囚十数人。会春暮，时雨，临令归耕种，与之约，令事已自归。令争之，临曰：“请自当其罪。”令在假，临出囚。囚皆感恩贷，至时毕集诣狱。临由是知名，后为大理卿。高宗亲录死囚，前卿所断者，叫号称冤，临所入者，独无言。帝怪问状，囚曰：“唐卿所断，既非冤滥，所以绝意尔。”帝叹曰：“为狱者，不当如此耶！”

张文瓘为大理卿，尝有疾，诸囚相与斋祷，愿其视事。当时咸称执法平恕。上元二年，文瓘拜侍中，诸囚闻改官，一时恸哭。其感人心如此。

徐有功为蒲州司法，不忍杖罚，吏人感其恩信，相约曰：“若犯徐司法杖，众必斥罚之。”由是争用命，终于代满，不戮一人。时周兴、来俊臣用事，有功为理官，以执改枉狱，前后三经断死，而执志不渝，酷吏为之少衰。时人比之于张焉，或曰：“若狱官皆然，刑措何远。”

陆象先清静欲愆，不以细务介意，言论高远，雅为时贤所服。崔湜每谓人曰：“陆公加于人一等矣。”太平公主用事，宰相岑义、萧至忠、崔湜咸倾附之，唯象先孤立，未尝造请，亦以免祸。

狄仁杰为并州法曹，有同府法曹郑崇质，母老且病，当使绝域。仁杰曰：“太夫人有疾，而公远使，岂可贻亲万里之忧？”乃诣长史闾仁基，请代崇质行。时仁基与司马李孝廉不协，因谓曰：“吾等独无愧耶？”相待如宾。后为平章事，则天谓曰：“卿在汝南时，



有谪卿者，欲知其人乎？”仁杰谢曰：“陛下以臣为过，臣当改之；陛下明臣无过，臣之幸也，不愿知谪者。”则天叹息。

杜暹弱冠便自誓：不受亲友赠遗，以终其身。及卒，尚书省及故吏赠遗者，其子孝友，遵其素约，皆拒而不受。

权皋为安禄山从事，察禄山有异志，欲潜去，又虑祸及老母。天宝十四年，禄山使皋献戎俘于京师。过福昌，福昌尉仲蕃，皋妹婿也，密以计约之。比至河阳，诈以疾亟召蕃，蕃至，皋示已暗，瞪蕃而瞑。蕃乃勉哀而哭，手自含衾。既逸皋而葬其棺，人无知者。从吏以诏书还，皋母初不知，闻皋之死，恸哭伤行路。禄山不疑其诈死，许其母归。皋时微服匿迹，候母于淇门。既得侍其母，乃奉母昼夜南去。及渡江，禄山已反矣。由是名闻天下，其子德舆为相。

泾师作乱，驾幸奉天。兵部侍郎刘乃，卧疾在私第。贼泚遣使，以甘言诱之。乃称疾笃。又令其伪宰相蒋镇，日来招诱，乃托瘴疾炙灼遍身。镇再至，知不可劫胁，叹息曰：“镇亦尝忝列曹郎，苟不能死，以至于斯，宁以自辱膻腥，复欲污秽贤哲乎？”歔歔而退。乃闻驾再幸梁州，搏膺呼天，绝食而卒。

淮西之师。汴帅韩宏，矜矜倔强，常倚贼势，索朝廷姑息。恶李光颜力战，阴图挠屈，计无所施。遂举大梁城，求得一美妇人，教以歌舞、弦箏、六博之艺，饰之以珠翠、金、玉、衣服之具，计费数百万。乃命使者送遗光颜，冀光颜一见悦惑，而怠于军政也。使者即赍书先遗光颜，曰：“本使令公，忧公暴露，欲进一妓，以慰公征役之思。”光颜曰：“今日已暮，明旦纳焉。”诘朝，光颜乃大宴军士，三军咸集，命使者进妓。妓至，则容止端丽，殆非人间所有，一座皆惊。光颜谓来使曰：“令公怜光颜离家室久，舍美妓见赠，诚有以荷德也。然光颜受国家恩深，誓不与逆贼同生日月下。今战卒数万，皆弃妻子，蹈白刃，光颜奈何独以女色为乐？”言訖，泣涕呜咽。堂下兵士数万，皆感激流涕。乃厚以缣帛酬其来使，俾领其妓自席上而回。自此兵众弥加激励。

柳公绰丁母崔夫人之丧三年，不沐浴。事继母薛氏三十年，姻戚不知公绰非薛氏所生。

柳仲郢为牛僧孺辟客，李德裕知其无私，奏为京兆尹。仲郢谢曰：“自不期太尉恩奖及此，仰报盛德，敢不如奇章公门馆？”德裕不以为嫌，仲郢常感德裕之知。大中朝，李氏无禄仕者，仲郢领盐铁。时德裕兄子从质为推官，知苏州院事，令以禄利贖南宅。令孤绁为宰相，不悦。仲郢与绁书曰：“任安不去，常自愧为昔人；吴咏自裁，亦何施于今日。李太尉受责既久，其家已空，遂绝燕尝，诚增痛侧。”绁深叹，与从质正员官。

徐晦为杨凭所荐，凭贬临贺尉，交亲无敢相送者，晦送至蓝田。时权德舆为相，与凭交分最深，闻晦之行，谓晦曰：“无乃为累乎？”晦曰：“布衣受杨公之眷，方兹流播，何忍不送？如相公它日为奸邪所谮，失意于外，晦安得与相公轻别？”德舆称之于朝。中丞李夷简请晦为监察，曰：“闻公送杨临贺，肯负国乎？”



任迪简为李景略判官，性厚重。尝有军宴，行酒者误以醴进。迪简以景略性严，勉为尽之，归而呕血。军士闻之，泣下。及景略卒，军士皆曰：“判官仁者。”奉以为师。

王义方坐与刑部尚书张亮交通，贬儋州吉安丞。贞观二十三年改洹水丞。时张亮兄子皎配流在崖州，来依义方而卒，临终托以妻子及致尸还乡。义方与皎妻自誓于海神，使奴负柩，令皎妻抱其赤子，乘义方之马，徒步而还。先之原武，葬皎。白告张亮，送皎妻子归家，乃之洹水。

元德秀字紫芝，以不及亲在而娶，终身不婚。曰：“兄有子以祀先人矣。”先是，兄子无乳媪，德秀自乳之，数日湮流，兄子能食乃止。其后兄子婚娶，以家贫无以为礼，求为鲁山令，以诚信化。秩满，结庐陆浑山，有长往之志。属岁饥，庖厨不爨，弹琴读书，怡然自得。房琯每见德秀，叹息曰：“见紫芝眉宇，使人名利之心都尽。”及卒，门人相与谥为“文行先生”。

元德秀为鲁山令，有盗系狱。会县界有虎暴，盗请杀虎赎罪，德秀许之。胥吏争曰：“盗诡计苟免，擅放官司囚，恐为累也。”德秀曰：“吾不欲负约，如有累，吾自当之。”即破械出之。明日，盗负虎而还。

后唐，刑部侍郎郑谠光，字龙府，自襁褓迨于悬车。凡事十一君，越七十载，所在无官谤，无私过。三持使节不辱君命，士无贤不肖，皆恭已接纳。晚年背伛，时人咸曰：“郑伛不迁。”平生交友之中无怨隙，亲族之间无爱憎。恬和自如，性尚平简，及致政归洛，甚愜终焉之志，卒年八十。

后唐，赵光逢，幼嗜《坟典》，动守规检，人目为“玉界尺”。弟光允为平章事，时谒问于私第，语及政事。它日，光逢署其户曰：“请不言中书事。”清静寡欲端默如此。光逢雨登廊庙，四退邱园，百行五常，不欺暗室，搢绅咸仰以为名教主。

吕兗为沧州节度判官，刘守光攻陷沧州，兗被擒，族诛。子琦年十五，将就戮。有赵玉者，幽蜀义士也，久游究门，见琦临危，给谓监刑者曰：“此子，某之同气也，幸无滥焉。”乃引之俱去。琦病足，玉负之而行，逾数百里，变姓名，乞食于路，乃免于祸。琦仕石晋至兵部侍郎。高祖将以琦为相，忽遇疾而逝。常以玉免于难，欲厚报之。玉遇疾，琦亲为扶持，供其医药。玉卒，代其家营葬事。玉之子曰文度，既孤而幼，琦诲之甚笃。及其成人，登进士第，寻升宦路，琦之力也。时议者以非玉之义不能存吕氏之嗣；非琦之仁不能抚赵氏之孤，惟仁义二公得之。燕赵之士流为美谈。

言 语

宋武帝永初二年，祀南郊，大赦。裴子野论曰：“夫郊祀天地，修岁事也，赦彼有罪，夫何为哉？”

魏群臣请增京城及修宫室，曰：“《易》曰：‘王公设险，以守其国。’又萧何云：‘天



子以四海为家，不庄不丽，无以重威’。”魏主曰：“古人有言，在德不在险。屈丐燕土筑城，而朕灭之岂在城也？今天下未平，方须民力，土功之事，朕所未为。”萧何之对非雅言也。宋孝武奢侈无度，多所造立，赋调繁严，征役过苦，后废帝即位，悉皆削除。由紫极南北驰道之属，皆被毁坏。自孝建以来，至大明末，凡诸制度无或存者。蔡兴宗于坐，慨然谓颜师伯曰：“先帝虽非盛德，要以道终始三年无改，古典所贵。今宾馆始彻，山陵未远。而凡诸制度兴造，不论是非，一皆刊削，虽复禅代，亦不至尔。天下有识者，当以此窥人。”师伯不能用其言。

周顺清贫寡欲，终日食蔬。虽有妻子，独处山舍。甚机辩。王俭问曰：“卿山中何所食？”答曰：“赤米白盐，绿葵紫蓼。”文惠太子问顺：“菜食何味最胜？”答曰：“春初早韭，秋末晚菘。”

梁，何远言不虚妄，盖其天性。每戏语人云：“卿能得我一妄语，则谢卿一缗。”众共伺之，不能记也。

顾欢党道教，袁粲崇佛说。张融曰：“道之与道，遥极无二。君见道士与道人战，儒墨道人与道士论是非。昔有鸿飞天首，积远难亮，越人以为鬼，楚人以为□，人自楚越，鸿常一尔。”

周，贺若敦以有怨言，为宇文护所杀。临刑，呼子弼谓曰：“吾欲平江南，然心不果，汝当成吾志。吾以舌死，汝不可不思。”因引锥刺弼舌出血，诫以慎口。后弼果平陈。

唐太宗谓侍臣曰：“君依于国，国依于民。刻民以奉君，犹刻血以充腹。腹饱而身毙，君富而国亡。故人君之患，不自外来，常由身出。夫欲盛则费广，费广则赋重，赋重则民愁，民愁则国危，国危则丧矣。朕常以此思之，故不敢纵欲也。”

太宗时，有上书请去佞臣者。上问：“佞臣为谁？”对曰：“臣居山泽，不能知其人。愿陛下与群臣言，或阳怒以试之，彼执理不屈者，直臣也；畏威顺旨者，佞臣也。”太宗曰：“君自为诈，何以责臣下之直乎？朕方以至诚治天下，见前世帝王，奸以权满小数，接其臣下，常窃耻之。卿策虽善，朕不取也。”

治书侍御史权万纪上言：“宣、饶银大发，采之可得数百万缗。”上曰：“朕贵为天子，所乏者，非财也，但恨无嘉言可以利民尔。与其多得数百万缗，何如得一贤才。卿未尝进一贤，退一不肖，而专言税银之利。昔尧舜抵璧于山，投珠于谷。汉之桓、灵，乃聚钱为私藏。卿欲以桓灵待我耶？”是日，黜万纪，使还家。

太宗指殿柱谓侍臣曰：“治天下如建此屋。营构既成，勿数改易。苟易一椽，正一瓦，践履动摇，必有所损。若慕奇功，变法度，不常其德，劳费实多。”

肃宗欲敕诸将，克长安日，发李林甫冢，焚骨扬灰。李泌曰：“陛下方定天下，奈何仇死者？彼枯骨何知，徒示圣德之不宏尔。且方今从贼者，皆陛下之仇也，若闻此举，恐阻其自新之心。”上不悦，曰：“此贼昔日百方危朕，当是时，朕不保朝夕。朕之全，天幸尔。林甫亦恶卿，但未及害卿而死尔，奈何矜之？”泌曰：“臣非不知，所以言者，上皇有



天下，向五十年，太平娱乐。一朝失意，远处巴蜀。南方地恶，上皇春秋高，闻陛下此敕，意必以为韦妃之故，内惭不怪。万一感愤成疾，是陛下以天下之大，不能安君亲。”言未毕，上流涕被面，降阶，仰天拜曰：“朕不及此，是天使先生言之也。”遂抱泌颈泣不已。

太宗幸翠微宫，房元龄在京城留守，太宗以李纬为户部尚书。有自京师来者，太宗问曰：“元龄闻李纬拜尚书如何？”对曰：“元龄但云：‘李纬好髭须’，更无它语。”太宗遽改授纬洛州刺史。其为当时准的如此。

太宗谓侍臣曰：“朕每日坐朝，欲出一语，即思此言于百姓有利益否，所以不能多言。”杜正伦进曰：“君举必书，史记言动。臣职当修起居注，不敢不尽愚直，若陛下一言乖于道理，则千载累于圣德，非直当今损于百姓。愿陛下慎之。”

魏徵谓太宗曰：“愿陛下使臣为良臣，勿使臣为忠臣。”帝曰：“忠良有异乎？”徵曰：“良臣，稷、契、皋陶是也；忠臣，龙逢、比干是也。良臣使身获美名，君受显号，子孙长世，福禄无疆；忠臣身陷诛夷，君陷大恶，家国并丧，空有其名。以此言之，相去远矣！”帝深纳其言。

高宗责侍臣不进贤良，众皆莫对。李安期对曰：“天下至广，非无英俊，但比来公卿有所荐引，即遭谗谤，以为朋党。沈屈者未申，而在位者已损。所以人思苟免，竟为缄默。若陛下虚已招纳，务于搜访，不忌亲仇，惟能是用，谗毁亦既不入，谁敢不竭忠尽诚？此事由陛下，非臣等所能致也。”高宗深然其言。

高宗谓侍臣曰：“朕思养人之道，未得其要，公等为朕思之。”来济对曰：“昔齐桓公出游，见老而饥寒者，命赐之食。老人曰：‘愿赐一国之饥者。’赐之衣，曰：‘愿赐一国之寒者。’公曰：‘寡人之廩府安足以周一国之饥寒？’老人曰：‘君不夺农时，则国人皆有余食矣；君不夺蚕妾，则国人皆有余衣矣。’故人君之养人，在省其征役而已。今山东役丁，岁别数万，役之则人太劳，取傭则人太费。臣愿陛下量公家所须外，余悉免之。”上从之。

尚方监裴匪躬欲鬻苑中菓菜，收其利。苏良嗣为西京留守，驳之曰：“昔公仪相鲁，拔葵去织。未闻万乘之主鬻果菜，与下人争利也。”

少府监裴匪舒善营利，奏卖苑中马粪，岁得钱二十万缗。上以问刘仁轨，对曰：“利则厚矣，恐后代称唐家卖马粪，非佳名也。”乃止。

马周有机辩，能敷奏。太宗曰：“我于马周，暂不见，便思之。”岑文本谓所亲曰：“吾见马君论事多矣，援引事类，扬摧古今，举要删芜，会文切理，一字不可加，一言不可减，听之靡靡，令人忘倦。昔者苏、张终贾，正应此耳。”

程名振奏对失旨，太宗动色诘之。名振酬对逾辩，太宗意解，谓左右曰：“房元龄常在我前，每见别喷余人，颜色无主。名振平生不见我，向来责让，而词理纵横，亦奇士也。”擢为右骁卫将军。



刘仁轨平百济，浮海西还。仁轨初次行，谓人曰：“天将富贵此公耳！”于司请《历日》一卷，并七庙讳，人怪其故。答曰：“拟削平辽海，颁示国家正朔，使夷俗遵奉焉。”至是皆如其语。

中书舍人徐坚，以集贤院学士多非其人，所司供膳太厚，尝谓朝列曰：“此辈于国家何益？如此虚费！”将建议罢。张说曰：“自古帝王功成，则有奢纵之失。或兴池台，或玩声色。今圣上崇儒重道，亲自讲论，永代规模，不易之道也。所费者大，徐子之言何其隘哉！”元宗知之，由是薄坚。

张嘉贞欲杖裴仙先，张说争之。嘉贞不悦曰：“何言事之深也！”说曰：“宰相时来则为之，岂能长据？若贵臣尽当可杖，恐吾辈行自及矣。此言非为仙先，乃为天下士君子也。”

郑元璩谓颉利曰：“汉与突厥风俗各异，汉得突厥既不能臣，突厥得汉复何所用？且抄掠资财皆入将士，在于可汗一无所得。不如和好国家，必有重赏币帛，皆入可汗，坐受利益。”颉利纳其言，即引还。

唐制，财赋皆入左藏库。太府四时以数闻，比部覆其出入，上下相辖，奸无所容。至第五琦，以京师多豪将，求取无节，乃尽输太盈库，以天下公赋为人君私藏。中官领事几百人，有司不能窥其出入者，殆二十年。杨炎作相，顿首于上前论之：“乞以归有司，度禁中所费，一岁几何，进入不敢亏，如此乃可议政。”德宗下诏从之。炎以片言移人主意，议者以为难，中外称之。

崔佑甫为相，淄青李正己畏德宗威德，表献钱三十万贯。上欲纳之，虑正己反覆，欲以计止之，又未有其词，延问宰相。佑甫曰：“请遣使往淄青宣慰将士，便以此钱赐之，使将士深荷圣恩，又令外藩知朝廷不重财货。”上悦而从之。正己大惭，心畏服焉。

鱼朝恩恶郭子仪，使人发其父墓。及自泾阳入朝，议者虑其搆变，公卿忧之。子仪见帝劳之，子仪号泣奏曰：“臣久主兵，不能禁暴，军士残人之墓，固亦多矣。此臣不忠不孝，上获天谴，非人患也！”朝廷闻其言，乃安。

周墀初作相，私谓韦澳曰：“才小任重，何以相救？”澳曰：“愿相公无权。”墀愕然，不喻其旨。澳曰：“爵赏刑罚，非公共欲行者，愿不以喜怒爱憎行之。但令百司群吏各举其职，则公敛衽于庙堂之上，天下自理，何要权也！”墀深然之。

崔群为翰林学士，以说言正论闻于时。宪宗嘉赏，降旨旨云：“自今后学士进状，并取崔群连书，然后进来。”群以禁密之司，动为故事，自尔学士或恶直丑正，则其它学士无由上言。群坚不奉诏，三疏论奏，方允。

崔群云：“人皆以天宝十四年，禄山自范阳起兵是治乱分时，臣以为开元二十四年，罢贤相张九龄，专任奸臣李林甫，治乱自此分矣。用人得失，所系非小。”

殷侗欲舍王廷凑，专讨李同捷。其疏末云：“伏愿以宗社安危为大计，以善师攻心为神武，以含垢安人为远图，以网漏吞舟为至诚。”文宗虽不纳，然深嘉其言。李训之乱，



上问以治安之策，恂极言：“委任责成，宜在朝之耆德，新进小生，无宜轻用。”帝深嘉之，赐以锦彩黄金。

文宗召赵宗儒，问以理道。对曰：“尧舜之化，慈俭而已。愿陛下守而勿失。”上嘉纳之。

韦温在朝，时与李珣、杨嗣复周旋。及杨、李祸作，叹曰：“杨三李七，若取我语，岂至是耶！”初，温劝杨、李征用德裕，释憾解温。二人不能用，故及祸。

宪宗季年，锐于服饵，裴潏疏曰：“君之药，臣先尝之；亲之药，子先尝之，臣子一也。臣愿所有金石练药人及所荐之人，皆先服一年，以考其真伪，则自然明验矣。”

训、注之祸，宦者气盛，凌轹南司。延英议事中贵语必引训、注以折文臣。李石、郑覃谓之曰：“京师之乱，始自训、注，而训、注之起，始自何人？”仇士良等不能对，其势稍抑。缙绅赖以安。

幽州杨志诚逐李载义，自为帅。文宗闻之，惊，急召宰相。时牛僧孺先至，上曰：“可奈何？”僧孺曰：“此不足烦圣虑，臣被召，疾趋气促，容臣稍缓息以对。”上良久曰：“卿以为不足忧，何也？”僧孺对曰：“陛下以范阳非国家所有，前时刘总向化以土地归阙，朝廷约用钱八十万贯，而未尝得范阳尺布斗粟上供天府。则今日志诚之得，犹前日载义之得也，陛下但因而抚之，亦事之宜也。且范阳国家所赖者，以其北捍突厥，不令南寇。若假志诚节钺，锡其土地，必自为力。则爪牙之用，固不足以逆顺。”上大喜，曰：“如卿之言，吾洒然矣。”

张公艺，郾州人，九代同居。高宗有事泰山，亲幸其宅，问其义居所以久，其人请纸笔，但书百余“忍”字。高宗为之流涕，赐以缣帛。

司马承祯。睿宗问以理国，对曰：“顺物自然而无私焉，而天下理。《易》曰：‘圣人与天地合其德。’是知天不言而信，不为而成，无为之旨，理国之道也。”睿宗叹息。

玄宗问吴筠以道法，对曰：“道法之精，无如五千言，其余枝词蔓说，徒费纸札耳。”

玄宗幸东都，过崤谷，道隘不治，上欲免河南尹及知顿使。宋璟谏曰：“陛下方事巡幸，今以此罪二臣，恐将来民受其弊。”上遽命释之。璟曰：“陛下罪之，以臣释之，是代陛下受德。请令行，待罪朝堂而后赦之。”从之。

宪宗诛李锜，有司籍锜家财输京师。翰林学士裴洎、李绛上言，以为：“李锜僭侈，割剥六州之人，以富其家，或枉杀其身，而取其财。陛下闵百姓无告，故讨而诛之。今禁金帛以输上京，恐远近失望，愿以逆人资财赐浙西百姓，代今年租税。”上嘉叹久之，即从其言。

宪宗从容问李绛曰：“谏官多谤訕朝政，皆无事实。朕欲谪其尤者一二人，以儆其余，何如？”对曰：“此殆非陛下之意，必有邪臣欲壅蔽陛下之聪明也。人臣死生系人主喜怒，故敢发口谏者有几？就有谏者，皆昼度夜思，朝删暮减。比达，什无二三。故人主孜孜求谏，犹惧不至，况罪之乎？如此杜天下之口，非社稷之福也！”上善其言而止。



石晋，桑维翰恐与虏失欢，上疏曰：“议者以陛下于契丹有所供亿，谓之耗蠹；有所卑逊，谓之屈辱。微臣所见，则曰不然。且以汉祖英雄，犹输货于冒顿；神尧武略，尚称臣于可汗。此谓达于权变，善于屈伸。所损者微，所利者大。必若因兹交搆，遂成衅隙，自此岁岁征发，日日转输，困天下之生灵，空国家之府藏，此为耗蠹不亦甚乎？兵戈既起，将帅擅权，武吏功臣，过求姑息；边藩远郡，得以骄矜。外刚内柔，上凌下替，此为屈辱，又非多乎？”

晋天福初，频有肆赦。张允进《驳赦论》曰：“《管子》云：‘凡赦者，小利而大害，久而不胜其祸；无赦者，小害而大利，久而不胜其福。’又《汉纪》云：‘吴汉疾笃，帝问所欲言，对曰：‘唯愿陛下无赦耳。’如是何也？盖行赦不以为恩，不行赦亦不以为无恩，为罚有罪故也。窃观自古帝王，皆以水旱则降德音而有过，开羸牢以放囚假。有二人讼，一有罪，一无罪。若有罪者见舍，则无罪者衔冤。衔冤者何疏？见舍者何亲？如此乃致灾之道，非救灾之术也。”帝览而嘉之，降诏奖饰，仍付史馆。

江南李昉，问道士王栖霞：“何道可致太平。”对曰：“王者治心治身，乃治家国。今陛下尚未能去、饥嗔、饱喜，何论太平？”昉后自帘中称叹，以为至言。

卷 二

政 事

宋，交州刺史杜慧度，为政纤密，一如治家，吏民畏而爱之。城门夜开，道不拾遗。武帝以谢方明为丹阳尹。方明善治郡，所至有能名。承代前人，不易其政，必宜改者，则以渐移变，使无迹可寻。

山阴剧邑，三万户。前后官长，昼夜不得休息，事犹不举。顾凯之御繁以约，县用无事，昼日垂帘，门闲闲寂。宋世为山阴务简而事理，众莫及也。

顾宪之为建康令，人号神明。权要请托，长吏贪残，据法直绳，无所阿纵。性又清俭，强力为政，甚得人和。故都下饮酒，醇者辄号为“顾建康”，谓其清且美焉。

梁，陆襄为番禺内史。有彭、李二家，先因忿事，遂相诬告。襄和言解之，二人感恩，深自悔，乃为设酒，令其欢饮，同载而归。人歌曰：“陆君政，无怨家，斗既罢，仇共车。”

梁始兴，王萧憺为荆州刺史，有善政。被征还朝，人歌曰：“始兴王，人之爹，赴人急，如水火，何时复来哺乳我！”

梁，徐勉为侍中。时师方侵魏，候驿填委。勉参掌军书，劬劳夙夜，动经数旬，乃一归家，群犬惊吠。勉叹曰：“吾忧国忘家，乃至于此。”它日，亦是传中一事。



谓傅炎父子、沈亮、刘元明相继宰山阴，并有政绩，仲孚又过之。

齐，乐预为永世令，人怀其德。卒于官。有一老嫗担榘藟叶造市货之，闻预亡，大泣，弃溪中曰：“失乐令，我辈孤独老姥，政应就死尔。”市人皆泣。其惠化如此！”

北齐，宋世良为清河太守，狱内稻生，桃树、蓬蒿亦满。每日衙门虚寂，无复诉讼者，谓之“神门”。及代，有老人丁金刚，曰：“老人年九十，记三十五政，府君非唯善政清，亦彻底。今失贤者，人何以济？”

北齐，许惇为司徒主簿，以明断见知，时人号曰“入铁主簿”。后迁阳平太守，政为天下第一。惇美须髯，下垂至带，号“长髯公”。

宋，阮长之为武昌太守。时郡田禄以芒种为限，前此去官者，一年禄秩皆入后人。长之去武昌郡，代人未至，以芒种前一日解印绶去。所蒞皆有风政，为后人所思。宋世言善政者，咸称之。

宋，傅琰与父僧祐并有政绩。炎为武康、山阴令，二县皆谓之“傅圣”。时云：“诸傅有《理县谱》，子孙相传，不以示人。”临淮刘玄明亦有吏能，政事为天下第一。琰子朔代玄明为山阴令，朔谓玄明曰：“愿以旧政告新令尹。”玄明曰：“我有奇术，卿家谱所不载，临别当以相示。”既而曰：“作县令，唯日食一升饭而莫饮酒，此第一策也。”

齐，邱仲孚为山阴令，有声称。百姓谣曰：“二傅沈刘，不如一邱”。

文宣因酒酣，提惇须，称美。以刀截之，唯留一握。惇惧，因不敢复长，又号“齐须公”。

魏源怀性宽简，不好烦碎，常语人曰：“为政贵当举纲，何必须太仔细。譬如为屋，但外望高显，楹栋平正足矣。斧斤不平，非屋病也。”

隋，库狄士文为贝州刺史，过为严肃。司马韦焜，清河令赵达，并苛刻，唯长史有惠政。时语曰：“刺史罗刹怒，司马螭蛇瞋。长史含笑判，清河生吃人。”

周，豆卢勣为渭州刺史，有惠政，华夷悦服，大致祥瑞。鸟鼠山俗呼为“高武陇”，其下渭水所出。其山绝壁千寻，由来乏水，诸羌苦之。勣马足所践，飞泉涌出。有白鸟翔止厅前。人谣曰：“我有丹阳，山出玉浆。济我人夷，神鸟来翔。”因呼其泉曰：“玉浆泉”。

隋，赵轨为齐州别驾。文帝令人朝，父老将送者，各挥涕曰：“别驾在官，水火不与百姓交，是以不敢以壶酒相送。公清如水，请酌一杯水奉饯。”轨受而饮之。

北齐，李仲举为修武令。为政宽简，吏人号曰“宽明”。卢昌衡为平恩令，百姓号曰“恩明”。故时称卢、李“宽恩”之政。

隋，于仲文字次武。蜀中语曰：“明断无双有于公，不避强御有次武。”

大业五年，郡国毕集。帝问纳言苏威、吏部尚书牛宏曰：“其中清名天下第一者为谁？”威等以宏化太守柳俭对。又问其次，曰：“涿郡丞郭绚，颍川郡丞敬肃。”帝赐俭帛二百，绚、肃各一百。



隋，刘旷为平乡令。在职七年，风教大洽，狱中无系囚，争讼绝息，囹圄皆生草，庭可张罗。迁临颖令，清名善政，为天下第一。

唐，皇甫无逸为益州大都督府长史。每按部，樵采不犯于人。尝夜宿人家，遇灯炷尽，主人将续之，无逸抽佩刀断衣带以为炷。其廉介如此。

颜游秦为廉州刺史，抚恤境内，敬让大行。邑里歌曰：“廉州颜有道，性行同庄老。爱人如赤子，不杀非时草。”高祖玺书劳勉之。

王方庆为广州都督，廉而严，境内清肃。议者以为有唐以来，治广州者无出方庆之右。则天有制褒之，赐杂彩六十段，并瑞锦等物，以彰善政。

郭元振在凉州五年，夷夏畏慕，令行禁止，牛羊被野，路不拾遗。旧凉州粟麦，斛售数千。元振置屯田，数年丰稔，至一绢杂数十斛。

卢奂为南海太守，遐隅之地贪吏敛迹，人用安之。开元以来四十年，广府节度清白者有四，谓：宋璟、裴仙先、李朝隐、卢奂也。

尹思贞为司府少卿，时侯知一为司府卿，亦厉威严。吏人为之语曰：“不畏侯卿杖，惟畏尹卿笔。”其为人所服如此。

裴灌父炎之，永徽中为同州司户参军。刺史李崇义以少年轻之，先是州中有积年旧案数百道，崇义促炎之使断之。命书史数人连纸进笔，斯须剖断并毕，文翰俱美，且尽予夺之理。崇义大惊，谢曰：“公何忍藏锋，以成鄙夫之过？”由是大知名，号为“霹雳手”。

天宝十三载，连雨六十日，宰臣杨国忠恶京兆尹李岷不附己，出为长沙太守。时京师米麦涌贵，百姓谣曰：“欲得米粟贱，无过追李岷。”其为政得人心如此。

裴遵庆判吏部南曹。天宝中，海内无事，九流辐凑。每岁，吏部选人，动盈万数，遵庆敏识强记，稽核文簿，详而不滞，时称吏事第一。

韦元甫、员锡同在韦陟幕中，元甫精于简牍，锡详于讯覆。时谓员推韦状。

贾明观恃鱼朝恩之势，恣行凶忍，毒甚豺狼。朝恩既诛，元载纳明观奸计，令江西效用。百姓怀砖瓦候之，元载护之获免。在洪二年，魏少游为观察使，承元载意容之。及路嗣恭代少游，到州即日杖杀。识者以为减魏之名，多路之政。嗣恭本名剑客，历仕郡县有能名，累至神乌令，考绩上上，为天下最，赐名“嗣恭”。

刘晏掌计，雅得其术，赋入丰羨。李巽掌使，一年征课所入，类晏之多岁。明年过之，又一年，加一百八十万贯。旧例每岁运江淮米五十万斛抵河阴，久不盈其数，唯巽三年登焉。

李勉在广州，性廉洁，船舶米都不检阅。先是，船舶泛海至者，岁才四五，勉之末年，至者四十余。在官累年，器用、车服无增饰。及代归，至石门，停舟，悉搜家人所贮南货、犀象诸物，投之江中。耆老以为可继前朝宋璟、卢奂、李朝隐之徒。

高崇文为长武城使，练卒五千，常若寇至。永贞元年，刘辟据蜀叛，杜黄裳荐崇文讨辟。中使卯时宣命，崇文辰时出师五千，器用无阙。至兴元，军中有折逆旅七箸者，斩之



以徇，遂平蜀寇。

鱼朝恩以郝廷玉善阵，欲观其教阅。廷玉乃于营内列部伍，鸣鼓角而出，分而为阵，箕张翼舒，乍离乍合，坐作进退，其众如一。朝恩叹曰：“吾在兵间十余年，始见郝将军之训练尔。治戎若此，岂有前敌耶！”廷玉凄然谢曰：“此非末校所能，临淮王之遗法也。太尉善御军，赏罚当功过，每校旗之日，军士小不如令，必斩之以徇。由是人皆自效，而赴陷驰突，有心破胆裂者。太尉薨变以来，无复校旗之事矣！”

卢坦为寿安令，时河南尹征赋限穷，而县人诉以机织未就，请宽十日，府不许。坦令人户但织而输，勿顾限也，违之不过罚令俸尔。既成而输，坦亦坐罚，由是知名。

马总教，儒学长于政术。在南海累年，清廉不扰，夷獠便之。于汉所立铜柱处，以铜一千五百斤特铸二柱，刻书唐德，以继伏波之迹。

淮西之师，柳公绰选卒六千，属李昕军。既行，公绰时令左右省问其家，如疾病、养生、送死，必厚廩给之。士之妻，冶容不谨者，沉之于江。行卒相感曰：“中丞为我辈治家事，何以报效！”故鄂人战每克捷。

卢钧为广州刺史，为政廉洁。请监军领市舶使，已一不干预。自贞元以来，衣冠得罪流于岭表，子孙贫悴不能自还。钧减俸钱为之营榷棧、致医药、毕婚嫁，凡数百家。山越之俗服其德义。

张允济为武阳令。曾有行人候晓先发，遗衫于路，行十数里方觉。或谓曰：“我武阳境内路不拾遗，但能回取，物必当在。”如言果得。远近称之，政绩尤异。

薛大鼎为沧州刺史，开无棣河，引鱼盐于海。百姓歌之曰：“新河得通舟楫利，直达沧海鱼盐至。昔日徒行今骋驷，美哉薛公德滂被。”大鼎与瀛州贾敦颐、冀州郑德本，俱有美政。河北称为“铛脚”刺史。

贾敦颐为洛州刺史，有异政，百姓树碑于大市通衢。后弟敦彦为洛州长史，又有惠政，百姓复刻石颂美，立于兄碑之侧，时人号为“棠棣碑”。

田仁会为郢州刺史。天旱，仁会自曝祈雨，竟获甘泽，其年大熟。百姓歌曰：“父母育我田使君，精诚为人上天闻。田中致雨山出云，仓廩既实礼义申。但愿常在不患贫。”

冯元淑，则天时为潭令，有殊绩，百姓号为“神明”。又历浚仪、始平县令，皆单骑赴职，未尝以妻子之官。所乘马午后则不与刍，云令其作齐身，及奴仆每日一食而已。俸禄之余，皆供公用，并给贫士人。或讥其邀名，元淑曰：“此吾本性，不为苦也。”

袁滋，字德深，为华州刺史，以宽易清简为政，人甚爱之。徵为金吾卫大将军，以杨于陵代之，百姓遮道不得进。于陵宣言曰：“于陵不敢易袁公之政。”然后罗拜而去。

冯立为广州都督，尝至“贪泉”，叹曰：“此吴隐之所酌泉也。饮一杯水，何足道哉。吾当汲而为食，岂止一杯，即安能易吾性乎？”

道州之民多矮，每年常配乡户贡其男，号为“矮奴”。阳城为太守，不平其以良为贱，又闵远氓岁有离异之苦，乃抗疏论而免之。自是停岁贡，民皆赖之，无不泣荷。



玄宗时，蒲州刺史陆象先，政尚宽简，吏民有罪，多晓谕遣之。州录事言于象先，象先曰：“人情不远，此属岂不解吾言耶？必欲垂撻以示威，当从汝始。”录事惭而退。象先尝谓人曰：“天下本无事，但庸人扰之尔。苟清其源，何忧不治。”

玄宗赐酺三日，上御五凤楼，观者喧隘，乐不得奏，金吾白挺如雨，不能遏止，上患之。高力士奏河南丞严安之为理。严，为人所畏，请使止之，上从之。安之至，以手板绕场画地，曰：“犯此者死。”于是三日，指其画以相戒，无敢犯者。

五代，汉，刘审交为汝州防御使，郡人歌之。卒于官，郡人聚哭柩所，列状乞留葬本州界，建祠立碑。诏赠太尉。冯道闻之曰：“子尝为刘汝州僚佐，知其为人廉平慈善，无害之良吏也。民之租税不能减也，徭役不能息也；寒者不能衣也，馁者不能食也。百姓自汲汲然，使君何有于我哉？然身死之日，黎民怀感者，诚以不行鞭朴，不行刻剥，不因公以徇私，不容物以利己，薄罚有过，谨身节用，安俸禄，守礼分而已。”

刘知远谓晋高祖曰：“愿陛下抚将相以恩，臣请戢士卒以威，恩威兼著，京邑自安，本根安固，则枝叶不伤矣。”知远乃严设科禁，宿卫诸军，无敢犯者。有军士盗纸钱一襖，主者擒之，左右请释之，知远曰：“吾诛其情，不计其直。”竟杀之，由是众皆畏服。

文 学

齐，谢朓长于五言诗，沈约曰：“二百年来无此诗也。”

宋，谢惠连十岁能属文，族兄灵运赏之，云：“每有篇章对，惠连辄得佳语。”尝于永嘉西堂思诗，竟日不就，忽梦见惠连，即得“池塘生春草，园柳变鸣禽。”曰：“此语有神助，非吾语也。”

宋文帝令群臣作《赤鹦鹉赋》，袁淑文冠当时，见谢庄赋，叹曰：“江东无我，卿当独秀；我若无卿，亦一时之杰也。”

梁，王筠为诗能用强韵。沈约尝启武帝言：“晚来名家无先筠者。”又谓王志曰：“贤弟子之文章，可谓后来独步。”谢朓尝见语云：“好诗圆美流转如弹丸，近见其数首，方知此言为实。”

王筠，字元礼，自序云：“少好抄书，老而弥笃。虽偶见警观，皆即疏记。后重省览，欢兴弥深。习与性成，不觉笔倦。”

颜延年问鲍昭，已与谢灵运优劣。昭曰：“谢，五言如初发芙蓉，自然可爱；君诗若铺锦列绣，亦雕绩满眼。”延年每薄汤惠休诗，谓人曰：“惠休制作，委巷间歌谣尔，方当误后生。”时议者以延年、灵运，自潘岳、陆机之后，文士莫及。江右称潘、陆；江左称颜、谢焉。

齐，衡阳王钧，尝手细写《五经》一部，置于巾箱中，以备遗忘。侍读贺玠对曰：“殿下家有《坟》索，复何须蝇头细书，别藏巾箱中。”答曰：“以便检阅，且一更手写，



则永不忘矣。”诸王闻而争效之，巾箱五经自此始也。

梁，沈约撰《四声谱》，以为在昔词人，累千载而不悟，而独得之胸襟，穷其妙旨。自谓“人神之作”。武帝雅不好焉，尝问周舍曰：“何谓四声？”舍曰：“天子圣哲是也。”然帝竟不甚遵用约也。

江淹以文章显，晚节才思微退。云为宣城太守时罢归，泊禅灵寺渚，夜梦一人自称张景阳，谓曰：“前寄一匹锦，今可见还。”淹探怀中，得数尺与之。此人大悲曰：“那得割截都尽！”顾见邱迟，谓曰：“余此数尺，既无所用，以遗君。”自尔，淹文章顿矣。又尝宿于冶亭，梦见一丈夫，自称郭璞，谓曰：“吾有笔在卿处多年，可以见还。”淹乃探怀中，得五色笔一以授之。尔后为诗绝无美句，时人谓之才尽。

任昉以文才见知，时人云“任笔沈诗”，以昉能为文，约为诗也。昉闻病之，晚节转好作诗，欲以倾沈，然用事过多，属辞不得流便，士子慕之，转为穿凿，于是有才尽之谈矣。

梁，郑灼性精勤，尤明《三礼》。少时，尝梦与皇侃遇于途，侃谓曰：“郑朗开口。”侃因唾灼口中，自后义理益进。多苦心热，瓜时，以瓜镇心，起便诵读，其笃志如此。

陈，沈不害通经术，善属文。虽博综经典，而家无卷轴。每制文，操笔立成，曾无寻检。汝南周宏正称之曰：“沈生可谓‘无意圣人者’乎。”

梁，何思澄与宗人逊，及何子朗，俱擅文名。世人语曰：“人中爽，有子朗。”又语曰：“东海三何，子朗最多。”思澄闻之，曰：“此言误矣，如其不然，故当归逊。”思澄意谓宜在己也。

北齐，陆又于《五经》最精熟。馆中谓之《石经》，人语曰：“《五经》无对有陆父。”

后魏，李谧少好学，师事孔璠。数年后，璠还就谧请业。时人语曰：“青成蓝，蓝谢青。师何常？在《明经》。”谧每曰：“丈夫拥书万卷，何假南面百城？”遂绝迹下帷，杜门却扫，弃产营书，手自删削，卷无重复者四千有余矣。

隋，薛道衡每构文，必隐坐空斋，踞壁而卧，闻户外有人，便怒，其沉思如此。炀帝即位，献《高祖文皇帝诗》，帝览之不悦曰：“此《鱼藻》之义也。”以事杀之。

唐，房玄龄在秦王府十余年，常典管记军符府檄，驻马立成，文约理赡，初无藁草。高祖尝谓侍臣曰：“此人深识机宜，足堪委任。每为吾儿陈事，必会人心千里之外，犹对面语。”

岑文本草诏、诰，或众务繁凑，即命书僮六七人，随口并写。须臾悉成，亦殆尽其妙。

太宗既平寇乱，留意儒学，乃于宫城西起文学馆，以待四方文士。杜如晦、房玄龄、于志宁、苏世长、薛收、褚亮、姚思廉、陆德明、孔颖达、李元道、李守素、虞世南、蔡允恭、颜相时、许敬宗、薛元敬、盖文达、苏勔，号“十八学士”，图其形状，题其名字爵里，藏之书房，以彰礼贤之重也。诸学士并给珍膳，分为三番更直，宿于阁下。每军国



务静，参谒，即便引见，讨论《坟》籍，商略前载。预入馆者，时所倾慕，谓之“登瀛洲”。

李守素尤工谱学，自晋、宋以降，四海士流及诸勋贵，华戎闾閭，莫不详究，当时号为“肉谱”。

虞世南目为人物志，刘祎之以文藻知名，高宗时与元万顷、范履水、苗楚客、周思茂、韩楚宾，皆召入禁中，共撰《列女传》，又密令参决，以分宰相之权，时人谓之“北门学士”。

苏頲机事填委，文诰皆出其手。中书令李峤叹曰：“舍人思如涌泉，非吾所及也。”

王方庆赏徐坚文章典实，常称曰：“掌纶诰之选也。”杨再思亦曰：“此凤阁舍人样。如此才识，走避不得。”

杨炎与常袞并掌纶诰。袞长于除书，炎善为德音。自开元以来，言制诰之美者，时称常、杨焉。

肃宗赏叹李揆曰：“卿门地、人物、文章，皆当代所推。”故时人称为“三绝”。

李贺文思体势，如崇岩峭壁，万仞崛起。当时文士从而效之，无能仿佛者。

张荐祖鸞为儿童时，梦紫色大鸟，五采成文，降于家庭。其祖请之曰：“五色赤文，凤也。紫文，鸞也，为凤之佐，吾儿当以文章瑞于明廷。”因名鸞。蹇味道尝赏之曰：“此生天下无双矣！”凡应八举，皆登甲科。员半千曰：“张子之文如青钱万简，选中未闻退时。”时因谓之“青钱学士”。

权德舆于述作特盛，《六经》、百氏，游泳渐渍，其文雅正而宏博。王侯将相泊当时名人薨歿，以铭纪为请者什八九时，时人以为宗匠焉。尤嗜读书，无寸晷暂倦。

自魏晋以还，为文者多拘偶饰。而经诰之指归，迁雄之品格，不复振起。韩愈所为文，务反近体，抒意立言，自成一家新语，后学之士取为师法，当时作者甚众，无以过之，故世称“韩文”焉。

王起僻于嗜学，虽官位崇重，耽玩无斁，夙夜孜孜，忘于寝食。无书不览，经目靡遗。

柳璨为左拾遗，公卿朝野托为牋奏，时誉日洽。以其博奥，目为“柳篋子”。昭宗召为翰林学士，即以为相。任人之速，古无兹例。

凤阁舍人王勣，勃之弟也。寿春等五王初出阁，同日受册。有司忘载册文，百寮在列，方知阙礼。宰相相顾失色。勣立召书史五人，各令执笔，口占分写，一时俱毕。词理典贍，人皆叹服。

文士撰碑颂，皆以徐、庾为宗，气调渐劣。富嘉謨与吴少微属词，皆以经典为本，时人钦慕之。文体千变，称为“吴、富体”。

李邕早擅才名，尤长碑颂。虽贬职在外，中朝衣冠及天下寺观，多持金帛往求其文。前后所制，凡数百首，馈遗亦巨万。时议以自古鬻文获财，未有如邕者。



元稹论杜甫之诗，云：“上薄《风》、《骚》，下该沈、宋；言夺苏、李，气吞曹、刘。掩颜、谢之孤高；杂徐、庾之流丽，尽得古今之体势，而兼前人之所独专，能所不能，无可无不可。诗人以来，未有如子美者。”

后唐武皇，议欲修好于梁祖。命李袭吉为书云：“毒手尊拳交相于暮夜，金戈铁马蹂践于明时。”梁祖曰：“李公斗绝一隅，安得此文士如吾之智筭，得袭吉之笔，才如虎添翼矣！”

五代，周，王仁裕年二十五，方有意就学。一夕，梦剖其肠胃，引西江水以浣之。又睹水中砂石，皆有篆文，因取而吞之。及寤，心意豁然。自是性识日高，有诗万余首，勒成百卷，目之曰《西江集》。盖以尝梦吞西江文石，遂以为名焉。

卷 三

方 正

梁，徐勉为吏部尚书，尝与门人夜集，客有虞需求詹事五官。勉正色答云：“今夕止可谈风月，不宜及公事。”时人服其无私。

梁，朱异方贵用事，宾客辐凑，欲引江子一为助。异，子一之姑夫也。子一知异不为物议所归，未尝造门，其高洁如此。

齐，御史中丞颜见远，梁武帝受禅，见远不食，发愤数日而卒。武帝闻之曰：“我自应天从人，何豫天下士大夫，而颜见远乃至于此！”

陶渊明，侃之曾孙。自以晋世宰辅，耻复屈身后代。自宋武帝王业渐隆，不肯复仕。所著文章皆题其年月，义熙以前明书晋氏年号，自永初以来唯云甲子而已。

魏，高道穆为御史中尉。帝姊寿阳公主行犯清路，执赤棒卒呵之不止，道穆令卒棒破其车。公主深恨，泣以诉帝。帝曰：“高中尉清直人，彼所行者公事，岂可以私恨责之也？”道穆后见帝，帝曰：“家姊行路相犯，深以为愧。”道穆免冠谢。帝曰：“朕以愧卿，卿反谢朕。”

北齐，邢峙以经授皇太子，方正纯厚有儒者风。厨宰进食，有邪蒿。峙令去之曰：“此菜有不正之名，非殿下宜食。”文宣闻而嘉之，赐以被褥缣絮。

北齐，苏琼为清河太守，性清慎不发私书。有沙门道研求谒，意在理债。琼每见则谈问玄理，道研无由启口。弟子问其故，研曰：“每见府君径将我入青云间，何由得论地上事？”遂焚债券。

陈，萧引为建康令时，宦者李善度、蔡脱儿多所请托，引一皆不许。或谏曰：“李、蔡之权，在位皆惮，亦宜少为身计。”引曰：“吾之立身，自有本末，亦安能为李、蔡致



屈？就令不平，不过免职尔！”

唐，高宗欲立昭仪武氏为后，长孙无忌数言不可，帝乃密遣使赐无忌金银、宝器各一车。

张易之、昌宗，尝命画工图写武三思、李峤、苏味道等十八人形像，号为“高士图”。引朱敬则预其事，固辞不就。史以为高洁、守正如此。

张易之诬魏元忠有不顺之言，引张说令证之。说皇惑迫惧，宋璟曰：“名义至重，神道难欺，必不可党邪陷正，以求苟免。若缘犯颜流贬，芬芳多矣！或至不测，吾必叩阍救子，与子同死。努力！万代瞻仰，在此举也。”说感其言，及入，乃保明元忠，竟得免死。

张昌宗私引相工李宏泰观占吉凶，言涉不顺，为飞书所告。宋璟为中丞，请穷究。则天曰：“昌宗已自首。”璟曰：“昌宗事露自陈，且谋反大逆，无容首免。请勒就御史台勘鞫。”则天不悦，杨再思遽宣敕，令璟出。璟曰：“天颜咫尺，亲奉德音，不烦宰臣擅宣王命！”则天意稍解，乃收易之等就台。俄有敕，特原之，令诣璟谢，璟拒而不见。

宋璟尝侍宴朝堂，张易之兄弟皆为列卿位，举筯待璟。久之方至，先执酒向西拜谢，饮不尽卮，遽称腹痛而归。

中宗时，韦月将告武三思与韦后通，三思讽有司论月将大逆不道，帝诏杀之。宋璟请付狱，帝怒，岸帻出侧门，谓璟曰：“朕谓已诛之矣，更何请也？”璟曰：“人言三思乱宫掖，陛下不问即斩之，臣恐有窃议者，故请按罪方行刑。”帝愈怒，璟曰：“请先诛臣，不然，终不奉诏！”帝乃免月将死，流之岭南。张嘉贞后为相，阅堂案，见璟危言切议，未尝不失声叹息。

李元纁为雍州司户，太平公主与僧寺争碾硃，元纁断还僧寺。窦怀贞为雍州长史，惧太平公主势，促令改断。元纁大书判后曰：“南山或可改移，此判终无摇动！”怀贞不能夺。

韩休为相，万年尉李美玉得罪，上特令流之岭外。休进曰：“美玉位卑，所犯又非巨害。今朝有大奸，尚不能去，岂可舍大而取小也？臣窃见金吾大将军程伯献，恃恩贪冒，僭拟恣纵，臣请先出伯献，而后罪美玉。”上初不许之，休固争曰：“陛下若不出伯献，臣不敢奉诏。”上以其切直，从之。始，萧嵩以休柔和易制，引为同列。既知政事，峭直多折正嵩。宋璟闻之，曰：“不谓韩休乃能如此，仁者之勇也！”上或宫中宴乐，及后苑游猎，小有过差，辄谓左右曰：“韩休知否？”言终，谏疏已至。上尝临境，默然不乐，左右曰：“韩休为相，陛下殊瘦于旧，何不逐之？”上曰：“吾貌虽瘦，天下必肥。萧嵩奏事，常顺旨，既退，吾寝不安。韩休常力争，既退，吾寝乃安。吾用韩休为社稷尔，非为身也。”

宦官李辅国擅权，判行军司马，潜令军官于人间听察是非，谓之“察事”，忠良被诬搆者继有之。有所迫呼，诸司莫敢抗抑。御史台、大理寺重囚推断未了，追去释放，莫有违者。每日就银台门决天下事，便称“制敕”。禁中符印，悉佩之出入，凡敕，辅国押署，



然后施行。李峴为相，叩头论辅国之罪。上悟，赏峴正直。辅国以此让行军司马，请归本官，“察事”等并停。

崔祐甫性刚直，遇事不回。为中书舍人时，中书侍郎阙。祐甫知省事，与宰相常袞不合。陇州猫鼠同乳，袞以为瑞，率百官称贺，祐甫独不贺。中官诘之，祐甫云：“此物之失常也，可吊不可贺。猫当食鼠，今受人养育，职既不修，何异法吏不触邪、疆吏不扞敌？恐须申金宪司，察听贪吏；戒诸边吏，毋失巡徼，使猫能致功，鼠不为害。”代宗深嘉之。

兴元元年，卢杞移知饶州，给事中袁高论其不可。张献恭因紫宸殿对言：“高所奏至当。”德宗未悟，献恭复奏曰：“袁高是陛下—良臣。”德宗顾谓宰臣李勉曰：“欲授杞一小州，可乎？”对曰：“陛下授大州亦可，其如士庶失望何？”献恭守正不挠如此。

张延赏与柳浑同在相位，延赏怙权矜已，而疾浑守正，俾其所厚谓浑曰：“相公旧德，但节言，庙堂则重位可久。”浑曰：“为我谢张相公，浑头断而舌不可禁也。”竟为延赏所挤罢相。

朱泚盗据宫阙，源休劝泚伪迎銮，阴济逆志，乃遣其将韩闵疾趋奉天。时德宗仓黄之中，未有武备，段秀实陷在贼中，以为宗社之危在顷刻，乃倒用司农印符以追兵。闵至骆驿，得符，军人亦莫辨其印文，遽遽而回。秀实自度，闵之来已必死。明日，泚召秀实议事，语至僭窃，秀实勃然，夺源休笏，唾泚面，曰：“狂贼，恨不斩汝万段！”遂击之。泚举臂自捍，才中其额，流血被面，匍匐而走。秀实遇害。

肃宗尝不豫，太卜云：“崇在山川。”王珣作相，遣女巫分行天下，令中使监之，所至因縁为奸。有一巫，盛年美色，以恶少数十自随，宿黄州传舍。刺史左震晨至驿，门扃不可启，震破锁而入，曳女巫阶下斩之，所从恶少皆毙。阅其赃，赂数十万。震籍以上闻，仍以赃钱代贫民租税，其中使遣归京，肃宗不能诘。

肃宗欲大用李勉，会李辅国宠任，意欲勉降礼于己。勉不为之屈，竟为所抑，出历汾、虢刺史，后为相。卢杞自新州司马除洋州刺史，袁高奏驳，遂授洋州司马。勉谓德宗曰：“众人皆言卢杞奸邪，而陛下独不知，此所以为奸邪也！”时人多其正直。

杜亚为东都留守，诬大将令狐运为盗。朝廷遣御史杨宁按之。亚以为不直，密表陈之，宁遂得罪。上信而不疑，宰相以狱大宜审，命李元素覆按，乃就决之。亚迎路以狱成告元素，元素验之五日，尽释其因以还。亚又诬奏元素。元素奏未毕，上叱出之，元素曰：“臣一出不得复见陛下，乞容尽词。”上意稍缓，元素尽言运冤状明白，上乃悟曰：“非卿孰能辨之？”后数月，竟得真盗。元素由是为时器重。有美官缺人，必指元素。

李晟之子听为羽林将军，有名马。穆宗在东宫，令近侍讽听献之。听以职总亲军，不敢从。及即位，择太原帅，宰臣进拟，上皆不允，曰：“李听不与朕马，是必可任。”以为河东节度使。

杜黄裳为太常卿，方王叔文之盗权，黄裳终不造其门。尝语其子婿韦执谊，令率百官



请皇太子监国，执谊遽曰：“丈人才得一官，宁可复开口议禁中事耶？”黄裳勃然曰：“黄裳受恩王朝，岂可以官见买？”即拂衣而出。寻拜平章事。

李藩为校书郎，王绍持权邀藩，一相见即用，终不肯就。为给事中，制敕有不可，遂于黄敕后批之。吏白：“宜别连白纸。”藩曰：“别以白纸，是文状，岂曰‘批敕’耶？”裴垪言于帝，以藩有宰相器，擢为平章事，与权德舆同在政府。河东节度使王鐔遣赂权幸，有密旨：“王鐔可兼宰相，宜即拟来。”藩遂以笔涂“兼宰相”字，却，奏入云：“不可。”德舆失色云：“纵不可，宜别作奏，岂可以笔涂诏耶？”藩曰：“势迫矣！出今日，便不可止。日又暮，何暇别作奏？”鐔命果寝。史云：“藩为相，材能不及裴垪，孤峻颇后韦贯之。然人物清整，亦其流也。”

卢坦为中丞，裴均为仆射，在班逾位，坦请退之，均不受。坦曰：“姚南仲为仆射，例如此。”均曰：“南仲何人？”坦白：“南仲是守正而不交权幸者也。”

武儒衡，字廷硕，气直貌庄，言不妄发。相国郑余庆不事华洁，后进趋其门者，多垢衣敝服，以望其知。儒衡谒见，未尝辄易所好，但与之正言直论，余庆亦重之。

元稹依倚内官得知制诰，儒衡深鄙之。会食瓜阁下，蝇集于上，儒衡以扇挥之，曰：“适从何处来，而遽集于此。”同僚失色，儒衡意气自若。

韦贯之为长安县丞。德宗末年，京兆尹李实权移宰相，言其可否，必数日而诏行。有以贯之名荐于实者，答曰：“是与吾同里，极闻其贤，但得识其面而荐之上。”举笏示说者曰：“实已记其名氏矣。”说者喜，骤以其语告于贯之，且曰：“子今日诣实而明日受贺矣。”贯之唯唯，终不往，亦不迁，后相宪宗。

韦澳，贯之子也。兄温与中丞高元裕友善，温请用澳为御史，谓澳曰：“高二十九持宪纲，欲与汝相面，汝必得御史。”澳不答。温曰：“高君端士，汝不可轻。”澳曰：“然，恐无呈身御史。”竟不诣元裕之门。后为京兆尹，会宰相萧瑄判度支，而户部缺判，使澳对于延英。宣宗曰：“户部缺判使。”澳对以事。上言户部缺判使者三。又曰：“卿意何如？”澳曰：“臣近年心力减耗，不奈繁剧，累曾陈乞一小镇，圣慈未垂矜允。”上嘿然不乐。綦毋潜曰：“舅特承圣知，延英奏对，恐未得中。”澳曰：“吾不为时相所信，忽自宸衷委以使务，必以吾它岐得之，何以自明？我意不错，尔须知时事渐不佳，是吾徒贪爵位所致，尔宜志之。”后出镇河阳，辞于内殿。上曰：“卿自求便，我不去卿。”

路隋为中书舍人翰林学士，有以金帛谢除制者，必叱而斥之曰：“吾以公事接私财耶？”终无所纳。

韩愈与人交，荣悴不易，而观诸权门豪士，如仆隶焉，瞪然不顾。穆宗以愈为京兆尹，六军不敢犯法，私相谓曰：“是尚欲烧佛骨，何可犯之？”

裴度为元稹所间，罢兵权，为东都留守。过京师朝见，先叙朱克融、王廷凑暴乱河朔，受命讨贼无功；次陈除职东都，许令人觐。辞和气劲，感动左右。度伏奏龙墀，涕泗呜咽，穆宗为之动容，口自谕之曰：“所谢知，朕于延英待卿。”初，人以度无左右之助，



为奸邪排摈，虽度勋德，恐不能感动人主。及度奏河北事，慷慨激切，扬于殿廷，在位无不耸动。虽武夫贵介，亦有咨嗟出涕者。

李甘，字和鼎。大和中为侍御史。郑注求人相，甘唱言于朝曰：“宰相者，代天理物，先德望而后文艺，注何人，敢兹叨窃白麻？若出，吾必坏人！”会李训亦恶注所求相，注之事竟寝。甘犹贬封州司马。

崔从少以贞晦恭逊自处，不交权利，忠厚方严，正人多所推仰。阶品合立门戟，终不之请。四为大镇，家无妓乐，士友多之。

孔纬，字化文。乾符中为御史中丞。纬器志方雅，疾恶如仇。既总宪纲，中外不绳而自肃。僖宗幸蜀，百寮以田令孜在上，左右意不欲行，皆以袍笏不具为词。纬召三院御史谓之曰：“吾辈世荷国恩，身居宪秩，虽六飞奔迫，而咫尺天颜，累诏追征，皆无承禀，非臣之义也。凡布衣交情，旧犹缓急相救。况在君亲，策名委质，安可背也！”言竟泣下。三院云：“聊营一日之费，俟信宿继行。”纬拂衣起曰：“吾妻危疾，且不保夕，丈夫岂以妻子之故忘君父之急乎？公辈善自为谋，吾行决矣！”行至褒中，作相孔氏子孙，元和后昆仲贵盛至正卿方镇者六七人，未有为宰相辅者，至纬始在鼎司。

李辅国求为宰相，讽仆射联章荐已。肃宗密谓宰臣萧华曰：“辅国欲带平章事，卿等欲有章荐信乎？”华不对，出问裴勉曰：“初无此事，吾臂可截，宰相不可得也。”华复入奏，上嘉曰：“勉固堪大用。”

颜杲卿为安禄山所擒，禄山面责之，曰：“汝昨自范阳户曹，我奏为判官，遂得光禄、太常二丞，便用汝摄常山太守，负汝何事，而背我耶？”杲卿瞋目曰：“我身为唐臣，常守忠义，纵受汝奏署便合从汝反乎？且汝本营州一牧羊羯奴尔，叨窃恩宠，致身及此。天子负汝何事，而汝反耶？”禄山怒甚，缚于东都中桥南头，从西第二柱节解之。比气绝，大骂不息。杲卿子泉明亦贤。

刘蕡在籍中，文宗大和二年对制策，斥言宦官。考官不敢留蕡在籍中，物论喧然不平。守道正人传读其文，至有相感泣者。谏官、御史扼腕愤发，而执政之臣从而弭之，以避黄门之怨。惟登科人李郢曰：“刘蕡不第，我辈登科，实厚颜矣，请以所授官让蕡。”事虽不行，人士多之。

中宗时，斜封官皆不由两省而授。两省莫敢执奏，即宣示所司。吏部员外郎李朝隐，前后执破一千四百人，怨谤纷然，朝隐一无所顾。

顺宗时，叔文之党方盛，侍御史窦群奏屯田员外刘禹锡挟邪乱政，不宜在朝。又尝谒叔文，揖之曰：“事固不可知。”叔文曰：“何谓也？”群曰：“去岁李实怙恩挟贵，气盖一时，公当此时逡巡路旁，乃江南一吏尔。今公一旦复据其地，安知路傍不复有如君者乎？”韦执谊以群素有刚直名，止之。

裴垪作相器，局峻整人，不敢干以私。尝有故人子自远诣之，垪资给优厚，从容疑狎。其人乘间求京兆判司，垪曰：“公才不称此官，不敢以故人之私伤朝廷至公。他日有



盲宰相怜公者，不妨得也，埒则必不可。”

僧鉴虚自贞元以来，以财交权幸，受方镇赂遗，厚自奉养，吏不敢诘。宪宗时，于頔以赂求出镇，事发连鉴虚，权幸争为之言，上欲释之。中丞薛存诚不可。上遣中使诣台宣旨曰：“朕欲面诘此僧，非释之也。”存诚对曰：“陛下必欲面释此僧，请先杀臣，然后取之。不然，臣期不奉诏。”上嘉而从之，杖杀鉴虚，没其所有之财。

宪宗时，柳公绰为京兆尹。公绰初赴府，有神策小将跃马横街前导，公绰驻马杖杀之。明日，入对延英，上色甚怒，诘其专杀之状。对曰：“陛下不以臣无似，使待罪京兆。京兆为辇毂师表，今视事之初，而小将敢尔唐突，此乃轻陛下诏令，非特慢臣。臣知杖无礼之人，不知其为神策将军也。”上曰：“何不奏？”对曰：“臣取当杖之，不当奏。”上曰：“谁当奏者？”对曰：“本军当奏。若死于街衢，金吾街使当奏；在坊内，左右巡使当奏。”上无以罪之，谓左右曰：“汝曹须作意，此人朕亦畏之。”

裴均子持万缗诣韦贯之，求作先铭。贯之曰：“吾宁饿死，岂肯为此哉？”

吐突承璀欲立圣德碑，请教学士撰文，且言：“臣已具万缗欲酬之。”宪宗以命李绛，绛立陈立碑为非。诏毁碑楼。

韩公武以财结中外，户部牛侍郎钱千万不纳。穆宗大喜，以为相，乃僧孺也。

宪宗时，吐突承璀方贵宠用事，为淮南监军。李鄲为节度使，性刚严，与承璀元相敬惮，未尝相失。承璀归，引鄲为相，鄲耻由宦官进，乃将佐出祖乐作，鄲泣下曰：“吾老安外镇，宰相非吾任也。”既至京师，辞疾不入见，不视事，百官到门者皆不见，固辞相位。宪宗以为户部尚书。

武宗闻扬州倡女善为酒令，敕淮南监军选十七人献之。监军将请节度使杜棕同选，且欲更择良家美女，教而献之。棕曰：“监军自受敕，棕不敢预闻。”监军再三请之，不从。监军怒，具表其状，上览表，嘿然。左右请敕节度使同选，上曰：“敕藩方选倡女入宫，岂圣天子所为！杜棕不徇监军意，得大臣体，真宰相才也，朕甚愧之。”遽敕监军不复选，擢棕为平章事。棕人谢，上劳之曰：“卿不从监军之言，朕知卿有致君之心。今相卿，如得魏徵矣。”棕佑之子，岐阳公主之夫。

宪宗为陈宏志所弑，宣宗疑郭太后预其谋。又宣宗之母郑太后，本郭太后侍儿，有宿怨，故宣宗即位，待郭太后殊薄。太后意怏怏，一日，登勤政楼欲自陨。宣宗闻之，大怒。是夕，太后崩，外人颇有异论。宣宗以郑太后故，不欲以郭后祔宪宗。有司请葬景陵外园。礼院检讨官王俛奏宜合葬景陵，神主配宪宗室。奏入，宣宗大怒。宰相白敏中召俛诘之，俛曰：“太皇太后，汾阳王之孙，宪宗在东宫为正妃，逮事顺宗为妇。宪宗厌代之夕，事出暧昧。太皇太后母天下，历五朝，岂得以暧昧之事，遽废正嫡之礼乎？”敏中怒甚，俛词气愈厉。诸相会食，周墀立于敏中之门以候之。敏中使谢曰：“方为一书生所苦，公但先行。”墀入至敏中厅，见俛争辩方急，顿举手加额，叹俛孤直。明日，俛贬句容令。懿宗时，俛还为礼官，申抗前论，卒以郭后祔庙。



昭宗在凤翔，韦贻范为相，多受人赂，许以官。既丁母忧，日为债家所噪，故急于起复，日遣人诣两中尉、枢密及李茂贞求之。命翰林学士韩偓草贻范起复制，偓曰：“吾腕可断，此制不可草。”即上疏论贻范忧未数月，遽令起复，实骇物听，伤国体。学士院二使怒曰：“学士勿以死为戏！”偓以疏授之，解衣而寝。二使不得已，奏之。上即命罢草，仍赐敕褒美之。

后唐，李愚行高学赡，有史鱼莲瑗之风，侃然正色，不畏强御。衡王入朝，重臣李振辈皆致拜，惟愚长揖。梁末帝责之曰：“衡王，朕之兄，朕犹致拜，崇政使李振等皆拜，尔何傲耶？”对曰：“陛下以家人礼兄，振等私臣，臣居朝列，与王无素，安敢谄事。”其刚毅如此。

蜀主以李昊领武信节度使右，补阙李起上言：“故事宰相无领方镇者。”蜀主曰：“昊家多冗费，厚禄优之尔。”起性倜傥，李昊尝语之曰：“以子之才，苟能谨默，当为翰林学士。”起曰：“俟无舌乃不言尔。”

石晋命兵部尚书王权使契丹，权以前世累为将相，未尝有称臣于戎虏者，谓人曰：“我虽不才，今耄矣，岂能稽顙于穹庐之长乎？违诏得罪亦所甘心。”坐此停任。王起曾孙也。

雅量 原脱标题，今补

宋，徐羨之起自布衣，又无学术，直以局度。一旦居廊庙，朝野推服，咸谓之有幸臣之望。沉密寡言，不以忧喜见色，颇工奕棋，观戏常若未解，当世倍以此推之。傅亮、蔡郭常言：“徐公晓万事，安异同。”常与傅亮、谢晦宴聚，亮、晦才学辨博，羨之风度详整，时然后言。郑鲜之叹曰：“观徐、傅言论，不复以学问为长。”

梁武帝开讲于同泰寺，会者数万人，南越所献驯象忽狂逸，众皆骇散，唯臧盾、裴之礼巍然不动。帝甚嘉焉。

宋明帝赐王景文死，敕至之夜，景文在江州方与客棋，看敕訖，置局下，神色恬然。争劫，竟斂子纳奁毕，徐谓客曰：“奉敕见赐以死。”方以敕示客。乃墨启答敕，举觞劝客曰：“此酒不可相劝。”自仰而饮之，卒。

齐，萧铿，左右误排楠榴屏风，倒压其背，颜色不异，言谈无辍。

隋，牛宏弟弼，好酒而酗。尝醉，射杀宏驾车牛。宏还宅，其妻迎谓曰：“叔射杀牛。”宏闻，无所怪问，直答曰：“作脯。”其妻又曰：“叔忽射牛，大是异事。”宏曰：“已知。”颜色自若，读书不辍，其宽和如此。

李元道尝事李密为记室。密败，官属为王世充所虏，余人惧死，皆达旦不寝，独元道起居自若，曰：“死生有命，非忧可免。”众服其识量。

唐，刘仁轨、戴至德，高宗时同为仆射，更日受膜謁。仁轨常以美言悦人，至德必据



理诘难，由是皆背归仁轨。有姬陈滕，误诣至德，览之未终，姬曰：“本谓是解事仆射，乃是不解事仆射，归我滕！”至德笑而授之。时人称其长者。

李昭德、娄师德同秉政，俱入朝。师德体肥行缓，昭德屡待之不至，怒骂曰：“田舍夫。”师德徐笑曰：“师德不为田舍夫，谁当为之！”其弟除代州刺史，将行，师德曰：“吾备位宰相，汝复为州牧，宠荣过盛，人所疾也，将何以自免？”弟长跪曰：“自今虽有人唾其面，某拭之而已，庶不为兄忧。”师德愀然曰：“此所以为吾忧也。唾汝面，怒汝也，汝拭之，乃逆其意，所以重其怒。夫唾，不拭而自乾，当笑而受之。”后讨吐蕃，兵败，师德坐贬原州员外司马，因署移滕，惊曰：“官爵尽无耶！”既而曰：“亦善，亦善。”不复介意。

唐，许圜师尝有官吏犯赃，事圜师不令推究，但赐《清白》诗以激之。犯者愧惧，遂改节为廉。

河间王孝恭讨辅公柘，李勣等并受孝恭节度。将发，与诸将宴集，命取水，忽变为血，在坐皆失色。孝恭举止自若，徐谕之曰：“公柘恶积祸盈，今承命致讨。碗中之血，授首之徵也。”遂尽饮而罢。人服其识度能安众。竟擒公柘。

裴行俭平敌，大获环宝。蕃酋将士愿观之，行俭设宴出之。有玛瑙盘，广二尺余，文彩殊绝。军吏王休烈捧盘历阶，足跌，碎之。休烈皇恐，叩头流血。行俭笑曰：“尔非故也。”更不形颜色。有医人合药，失屣，磨而逃；令史试赐马，马倒毁鞍而窜。行俭曰：“皆失误尔。”遣人招致，待之如故。

魏元忠陷周兴狱诣市将刑。则天以元忠尝有功，特免死，配流贵州。承敕者将至市，先令传呼，监刑者遽释元忠，令起。元忠曰：“未知敕虚实，岂可造次。”徐待宣敕，然后起谢。观者咸叹其临刑而神色不挠。

狄仁杰未入相时，娄师德荐之。及仁杰为相，不知师德荐已，数排毁之，令充外使。则天出荐表示之，仁杰大惭，谓人曰：“吾为娄公所含如此，方知不逮娄公远矣。”

郭元振就突厥首领乌质牙帐议军事，时大雪，元振立于帐前，未尝移足。乌质年老，不胜苦寒，会罢而死。其子娑葛，以元振故杀其父，谋勒兵攻之。或劝元振夜遁，元振曰：“吾以诚信待人，何所疑惧？且深在寇庭，遁将安适？”乃安卧帐中。明日亲入军帐，哭之甚哀。娑葛感其义，复与通好。

贾耽在滑州，与淄青李纳相邻。纳时虽外奉朝旨，而常蓄并吞之谋。淄青归卒数千人，路由滑州，大将请馆之城外，耽曰：“与我邻道，奈何野处其兵？”遂馆之城内。淄青将士皆心服之。耽善射好猎，每出败不过百骑，往往猎于李纳之境，纳闻之大喜，心畏其度量不敢异图。

汴州节度使李万荣病甚，邓惟恭自领州事。朝廷以董晋为汴帅，晋将僚从十余人赴镇。至郑州，宣武迎候将吏无至者。官吏皆惧，劝晋迟留以候事势，晋云：“准敕赴官，何可妄为逗留？”人皆忧其不测，晋独恬然。未至汴州十数里，惟恭方来。晋俾其不下马。



既入，仍委惟恭以军政。众服晋达于事体机变，莫测其浅深也。

陆贄出李吉甫为明州长史，久之遇赦，起为忠州刺史。时贄以谪在忠州，议者谓吉甫必逞憾于贄，重构其罪。及吉甫至部，与贄甚欢，不以宿嫌介意。

张建封死，杜兼诬奏李藩摇动军中。德宗大怒，密诏杜佑杀之。佑素重藩，怀诏旬日不忍发，因引藩论释氏曰：“因果之说，信有之否？”藩曰：“信然。”曰：“审如此，君宜遇事无怨。”因出诏，藩览之，无动色，曰：“某与兼信为报也。”佑曰：“慎勿出口，吾已密论，持百口保君矣。”德宗怒不解，追藩赴阙，及召见，望其仪形，曰：“此岂作恶事人耶？”除校书郎。

归登自右拾遗转右补阙，三任十五年。同列常出其下者，多以驰骛至显官。而登与右拾遗蒋武，退然自守，不以淹退介意。尝使僮伺马，马踣僮，僮怒，击折马足，登知而不责。晚年颇好服食，有馈金石之药者，且云：“先尝之矣。”登服之不疑。药发毒，几死，方讯，云：“未之尝。”它人为之怒，登无愠色。常慕陆象先之为人，议者以为登过之。

钱徽为礼部侍郎，段文昌、李绅皆以私书保荐人求名第，徽俱黜之，文昌、绅大怒。文昌镇蜀，辞日，面奏徽所放进士不公，徽坐贬为江州刺史。或令徽以私书进呈，徽曰：“苟无愧心，得丧一致。修身谨行，安可以私书相证耶？”令子弟焚之，人士称徽长者。

裴度在中书，左右忽白失印，闻者失色，度饮酒自如。顷之，左右白曰：“复于故处得印。”度不应。或问其故，度曰：“此必吏人盗之，以印书卷尔。急之，则投之水火；缓之，则复还故处。”人服其识量。

裴度之平淮西，邻洄曲降卒万人入蔡，又以蔡卒为牙兵。或以为反侧之子，其心未安，不可自去其备。度笑而答曰：“吾受命为彰义军节度使，元恶就擒，蔡人即吾人也。”蔡之父老，无不感泣。申、光之民，即时平定。

孔述睿为史馆修撰，性谦和退静，与物无竞。每亲朋集会，恂恂似不能言者，人皆敬之。时令狐珣亦充修撰，与述睿同职，多以细碎之事侵述睿，述睿皆让之，竞不争。时人称为长者。

阳城召为谏议大夫，见诸谏官纷纭言事细碎，无不闻达，天子厌苦之。而城方与二弟痛饮，人莫窥其涯际。有谒城者，城引之与坐，辄强以酒。客醉，城辄自饮，客不得已，乃与城酬酢。或客先醉，扑于席上，或城先醉，卧客怀中，竟不能听客语。城约其二弟云：“吾所得月俸，汝可度吾家有几口，月食米当几何，贸薪菜盐。凡用几钱，先具之，余悉以送酒家，无留也。”

杨行密驰射武艺皆非所长，而宽简有智略，善抚士卒，与同甘苦，推心待物无猜忌。尝早出，从者断马鞵取其金，行密知而不问，它日复早出如故，人服其度量。

裴度不信术数，不好服食。每语人曰：“鸡、猪、鱼、蒜，逢著则吃；生、老、病、死，时至则行。”

处士丁重能阅人，观于琮，谓路岩曰：“某比不熟识于侍郎，今日见之，风仪秀整，



礼貌谦抑。如百斛重器，所贮尚空其半，安使不益于禄位哉！苟逾月不居廊庙，则某无复更至门下矣。”其后浹旬，于果登台铨。

魏，银枪军最为凶悍。唐庄宗为晋王时，张彦作乱，引五百人谒王，王斩张彦及其党七人，余众股栗。王召谕之曰：“罪止八人，余无所问，自今当竭力为吾爪牙。”众皆拜伏，呼万岁。明日王缓带轻裘而进，令张彦之卒擐甲执兵，翼马而从，仍以为帐前银枪军。众心由是大服。

石晋，安彦威，少帝母安氏近属也。帝以渭阳待之，而彦威未尝挂于齿牙。及卒，太妃亲至彦威汴京旧第，预其丧事，人方知为太妃之亲。闻者服其谨重。

后唐明宗时，史圭为右丞相，判铨事。冯道在中书，以掌判衡铨司所注官，圭怒，力争之。道亦微有不足之色，圭后罢之。晋高祖登极，徵为刑部侍郎，判监盐铁副使，皆道之奏请也。圭方愧度量不及道远矣。

石晋时，冯道出镇同州，胡铨时为副使，道以重臣希于接狎，铨忿之，每乘酒于牙门诟道，道必延人待以酒肴致敬而退。道谓左右曰：“此人为不善，自当有报，吾何怒焉。”后作乱被杀。

冯道、赵上交、王度迎刘璘为汉嗣主。既而周太祖已副推戴，左右知其事变，欲杀道等。上交、度皇怖不知所为，唯道偃仰自适，略无惧色。寻亦获免焉。道微时，尝赋诗云：“终闻海岳归明主，未省乾坤陷吉人。”至是其言验矣。

五代，周，郑仁海初事唐晓将陈绍光。绍光恃勇使酒，尝乘醉抽剑，将剗刃于仁海。左右无不奔避，唯仁海端立以俟，略无惧色。绍光掷剑于地曰：“汝有此器度，必当享人间富贵。”后至枢极。

钱鏐与罗隐唱和，隐好讥讽，言鏐微时骑牛操挺之事。钱怡然不怒，其通恕如此。然又有人献诗于鏐者云：“一条江水槛前流。”鏐以为讥己，杀之。

唐明宗诏张从宾发河南兵数千击范延光，遂与延光同反，引兵入洛阳，又扼汜水关，将逼汴州。时羽檄纵横，从官在大梁者，无不涵惧，独桑维翰从容指画军事，神色自若，接待宾客，不改常度，众心差安。维翰尝一制指挥节度使十五人，无敢违者。时人服其胆略。

石晋以刘知远为河东节度使。知远微时，为晋阳李氏赘婿，常牧马犯僧田，僧执而笞之。知远至晋阳，首召其僧，命之坐，慰谕赠劳，众心大悦。

石晋高祖时，张彦泽残虐不法，刑部郎中李涛伏阁极论彦泽之罪，语甚切至。彦泽削一阶，降爵一级。及契丹入京师，彦泽恣行杀戮，士民不寒而栗。涛时为中书舍人，谓曰：“吾与其逃于沟渎而不免，不若往见之。”乃投刺谒彦泽曰：“上疏请杀太尉人李涛，谨来请死。”彦泽欣然接之，谓涛曰：“舍人今日惧乎？”对曰：“涛今日之惧，亦犹足下昔年之惧也。乡使高祖用涛之言，事安至此？”彦泽大笑，命酒饮之，涛引满而去，旁若无人。



江南李氏齐王景遂，为皇太子弟。尝与官僚宴集，赞善大夫张易有所规谏，景遂方与客传玩玉杯，弗之顾。易怒曰：“殿下重宝而轻士。”取杯抵地碎之。众皆失色，景遂敛容谢之。

箴 规

齐王，俭少时，叔父僧虔曰：“我不患此儿无名，政恐名太盛。”

王忱嗜酒，醉辄累旬。范泰规之，以为酒既伤生，所宜深戒，其言甚切。忱嗟叹久之，曰：“见规者众，未有若此者也。”

隋炀帝时，五月五日，百僚上饷，多以珍玩。苏威献《尚书》一部，微以讽帝，帝弥不平。

隋文帝时，苏威见官中以银为幔钩，因盛陈节俭之美以谕上。上为之改容，雕饰旧物，悉命除毁。

唐，刘子翼性不容非，门僚有短长，面折之。友人李百药常称曰：“刘四虽复骂人，人都不恨。”

玄宗欲讨吐蕃，张说密奏，乞与通和，以息边境。玄宗不从。及瓜州失守，王君奭死，说因获《湖州斗羊表》献之，以申讽谕曰：“使羊能言，必将曰：‘若斗而不解，立有死者。’所赖至仁无残，量力取功焉。”玄宗深悟其意。

韩滉专政，每奏事，或日昃，它相充位而已。柳浑虽滉所引，心实恶之，正色让浑曰：“先相公以谏察为政，不满岁，罢相。今相公杖吏省中至死，省中非刑人之地，奈何蹈前非而又甚焉。”浑感悟愧悔，为灵威焉。

德宗令王叔文直东宫。太子欲言宫市之敝，人皆赞美，叔文独无言。罢坐，太子谓叔文曰：“君独无言，何也？”叔文曰：“太子视膳、问安外，不合辄预它事。陛下在位岁久，如小人离间，谓殿下收取人心，则安能自解？”太子谢之曰：“苟无先生，安得闻此言。”

陆贄以受人主殊遇，不敢爱身，事有不可，极言无隐。朋友规之，以为太峻。

湖南观察辛京果，尝以忿怒杀人。论合死，德宗从之。李忠臣奏曰：“京果合死久矣。”上问之，对曰：“渠伯叔某于某处战死，兄弟某于某处战死，渠尝从行，特不死，是以知渠合死久矣！”上亦闵然，改授王傅而已。

蒋文，本名武，因宪宗召对，奏曰：“陛下已诛群寇，偃武修文，臣名于义未允，请改名文。”上忻然从之。时帝方用兵两河，文亦因此讽谕耳。

穆宗问：“攘灾祚福，其可必乎？”韦绶对曰：“齐景一言而星退三舍，此攘灾以德也；汉文除秘祝，言福不可求致也。如失德以祈灾消，媚神以求福至，神苟有知，当以致谴，非祈禳之道也。”时人主失德，绶因以讽之。

高宗出猎，在塗遇雨问：“雨衣若为得不漏？”谷那律曰：“能以瓦为之，必不漏矣。”



意欲上不啖猎。高宗悦，赐物二百段。

齐，高帝幸华林园宴集，使群臣效技艺。褚彦回弹琵琶，王僧虔、柳世隆弹琴，沈文季歌《子夜来》，张敬儿舞。王俭曰：“臣无所解，惟知诵书。”因跪上前诵相如《封禅书》。上笑曰：“此盛德之事，吾何以堪之。”

中宗数引近臣及修文学士与之宴集，令各效伎艺，以为笑乐。张锡为谈“容娘舞”；宗卿舞“浑脱”；张洽舞“黄麾”；杜元炎诵“婆罗门咒”；李行言唱“驾车西河”；卢藏用效道士上章。郭山惲独奏曰：“臣无所解，请诵古诗两篇。”帝从之。于是诵《鹿鸣》、《蟋蟀》之诗。未毕，中书令李峤以其词有好乐无荒之语，恐忤旨，遂止之。翌日，帝降诏褒美，曰：“志在正时，潜申规讽；奢奢之诫弥切，谄谄之操逾明。”赐时服一副。

穆宗见夏州观察使判官柳公权书迹，爱之，以右拾遗翰林侍书学士。上问公权：“卿书何能如是之善？”对曰：“用笔在心，心正则笔正。”上默然改容，知其以笔谏也。

后唐，豆卢革为中山王处直辟客。因牡丹会，赋诗讽处直以桑柘意为，言甚古雅。

蜀主王衍奢纵，嘉州司马刘赞献后主《三阁图》，并作歌以讽。

唐明宗与冯道语及年穀屡登，四方无事，道曰：“臣尝记昔在先皇幕府，奉使中山，历井陉之险，臣忧马蹶，执轡甚谨，幸而无失；逮至平路，放轡自逸，俄至颠陨。凡为天下，亦犹是也。”上深以为然。上又问：“今岁虽丰，百姓贍足否？”道曰：“农家岁凶则流于饿殍，岁丰则伤于穀贱。丰凶皆病，惟农家为然。尝记进士裴夷中诗云：‘二月卖新丝，五月巢新穀。医得眼下疮，剜却心头肉。我愿君王心，化为光明烛。不照绮罗筵，唯照逃亡屋。’语虽鄙俚，曲尽田家之情状。农于四民之中，最为勤苦，人主不可不知也。”命左右录之，常讽诵之。

石晋，和凝为端明殿学士，大署其门：不通宾客。前耀州团练推官襄邑张谊致书于凝，以为：“切近之职，为天子耳目，宜周知四方利病，奈何拒绝宾客！身为便，如负国何！”凝奇之。

卷 四

品 藻

齐，何点常称：“陆慧晓如照镜遇形，触物无不朗然；王思远常如怀冰，暑月亦有霜气。”当时以为实录。

刘孝标云：“刘汧超然越俗，如天半朱霞；刘歊矫矫出尘，如云中白鹤。皆俭岁之梁稷，寒年之纤纩。”

陈，武帝尝与诸将宴，杜僧明、周文育、侯安都各称功伐，帝曰：“卿等皆良将也，



然并有所短。杜公志大而识暗，狎于下而骄于尊，矜其功不收其拙；周侯交不择人，而推心过差，居危履险不设猜防；侯郎傲诞而无厌，轻佻而肆志，并非全身之道。卒皆如言。

梁，邱迟词采丽逸，钟嵘著《诗评》云：“范云婉转清便，如流风回雪；迟点缀映媚，似落花依草，虽取贱文通，而秀于骛子。”其见称如此。

北齐李纬，梁使聘问纬：“诸崔平安？”纬曰：“子玉以还，雕龙绝矣。”崔暹闻之，怒。纬诣门谢之，暹上马不顾。

东魏，刘昼制《六合赋》一首，言甚古拙，自谓绝伦，以呈魏收而不拜。收忿之曰：“赋名《六合》；已是大愚；文又愚于《六合》，君四体又甚于文。”昼不忿，以示邢子才。子才曰：“君此赋正似疥疥，驰伏而无妩媚。”

唐太宗尝面谈群臣得失；目长孙无忌曰：“善避嫌疑，应对敏速，求之古人，亦当无比，而总兵攻城，非所长也；高士廉涉猎古今，心术聪悟，临难既不改节，为官亦无朋党，所少者骨鲠规谏尔；唐俭言词俊利，善和解人，酒杯流行，发言可喜，事朕二十载，遂无一言论国家得失；杨师道性行纯善，自无愆过，而禀性怯懦，未甚更事，缓急不可得力；岑文本性本敦厚，文章论议，其所长也。谋常经远，自当不负于物；刘洎性最坚正，言多有益，而不轻然诺于朋友，能自补阙，亦何以尚；马周见事敏速，性甚贞正，至于论量人物，直道而行，朕比任使多所称意；褚遂良学问优长，性亦坚正，既写忠诚，甚亲附于朕，譬如飞鸟依人，自加怜爱。”

太宗与群臣谓王珪曰：“卿识鉴清通，尤善谈论，自房玄龄等，咸宜品藻，又可自量，孰与诸子贤？”对曰：“孜孜奉国，知无不为，臣不如玄龄；才兼文武，出将入相，臣不如李靖；敷奏详明，出纳惟允，臣不如温彦博；济繁理剧，众务必举，臣不如戴胄；以谏诤为心，耻君不及尧舜，臣不如魏征。至如激浊扬清，疾恶好善，臣于诸子，亦有一日之长。”太宗深然其言。

穆质兄弟俱有令誉而和粹，世以“珍味”目之。赞少俗而有格，为酪质美而多人为酥，员为醍醐，赏为乳腐。近代士大夫言家法者，以穆氏为高。

徐坚问张说文人优劣，说曰：“李峤、崔融、薛稷、宋之问之文，如良金美玉，无施不可；富嘉喜之文如孤峰绝岸，壁立万仞，浓云郁兴，震雷俱发，诚可畏也，若施于廊庙骇矣；阎朝隐之文，如丽服靓妆，燕歌赵舞，观者忘疲，若类之风雅，则罪人矣。”问后进优劣，曰：“韩休之文，如太羹元酒，虽有典则而薄于滋味；许景先之文，如丰肌膩理，虽秾华可爱，而微少风骨；张九龄之文，如轻缣素练，实济时用，而微窘边幅；王翰之文，如琼杯玉罍，虽烂然可珍，而有玷缺。”坚以为然。

后唐欲用相，安重诲欲用崔协；任圜欲用李琪。圜曰：“朝廷有李琪者，学际天人，奕叶轩冕，论才校艺，可敌时辈百人。必舍琪而相协，如弃苏合之丸，取蛭蛄之转也。”

后唐，张文礼素不知书，亦无方略，惟于儒兵之中，妻非上将。言甲不知进退；乙不识军机，以此军人推为良将。



识 鉴

齐，徐勉、王融一代才俊，特相悦慕，尝请交焉。勉谓所亲曰：“王郎名高望促，难可轻敝衣裾。”后果陷法。以此见推识鉴。

隋，吏部侍郎高孝基，鉴赏机悟，清慎绝伦。然俊爽有余，迹似轻薄，时宰多以此疑之。唯牛宏深识其真，推心委任。隋之选举，于斯为最，时论弥服宏识度之远。

开皇中，平陈之后，天下一统，论者咸云将致太平。房彦谦私谓李少通曰：“主上性多忌刻，不纳谏诤，太子卑弱，诸王擅威。在朝唯行苛酷之政，未施宏大之体，天下虽安，方忧危乱。”少通初谓不然。及仁寿、大业之际，其言皆验。

李密为隋左亲卫，尝在仗下。炀帝顾见之，谓宇文述曰：“向者左仗下，黑色小儿为谁？”对曰：“故蒲山公李宽子也。”帝曰：“个小儿瞻视异常，勿令宿卫。”

唐，刘文静察高祖有四方之志，深自结纳。窃观太宗，谓裴寂曰：“非常人也。大度类于汉高，神武同于魏祖。其年虽少，乃天纵矣。”

侯君集平高昌，自负其才，潜有异志。江夏王道宗尝因侍宴，从容言曰：“君集必为戎首。”太宗曰：“何以知之？”道宗曰：“见其恃有微功，深怀矜伐，耻在房玄龄、李靖之下，常有不平之语。”太宗曰：“不可臆度猜贰。”俄而，君集谋反。太宗笑曰：“果如公所揣”。

杨素称赏封伦，每引与论宰相之务。因抚其床曰：“封郎必据吾此坐。”又善李靖，拊其床曰：“卿终当坐此”。

隋，时天下宁晏，论者咸以国祚方永。房玄龄密告其父曰：“隋帝本无功德，但逛惑黔黎，不为后嗣长计，混诸嫡庶，使相侵夺，储后藩枝，竞崇淫侈，终当内相诛夷，不足保全国。今虽清平，其亡可翘足待也。”其父彦谦惊而异之。

隋，吏部侍郎高孝基，号为“知人见”，房玄龄，时年十八，深相嗟挹，谓裴矩曰：“仆阅人多矣，未见如此郎者，必成伟器。但恨不睹其耸壑凌霄耳。”

杜如晦少聪悟，好谈文史。高孝基深器重之，曰：“公有应变之才，当为栋梁之用，愿保崇令德。”如晦果为良相，以孝基有知人之鉴，为树神道碑以纪其德。

高宗幸东都，时关中饥谨，上虑道路多草窃，命监察御史魏元忠检校车驾前后。元忠受诏，即阅视赤县狱，得盗一人，神采语言异于众，命释桎梏，袭冠带，乘驿以从，与之共食宿，托以诘盗。其人笑而许诺。比及东都，士马万数，不亡一钱。

高季辅为吏部侍郎，凡所铨叙，时称“允当”。太宗赐以金背镜一面，以表其清鉴。

则天问狄仁杰曰：“朕要一好汉任使，有之乎？”仁杰曰：“作何任使？”则天曰：“朕欲待以将相。”对曰：“臣料陛下，若作文章资历，则今宰臣李峤、苏味道，亦足为文史矣。岂非文士衺衺，思得奇才用之，以成天下之务乎？”则天悦曰：“此朕心也。”仁杰曰：



“荆州长史张柬之，其人虽老，真宰相才也，但久不遇。若用之，必尽节于国家矣。”则天乃召拜洛州司马。它日，又求贤。仁杰曰：“臣前言张柬之，犹未用也。”则天曰：“已迁之矣。”对曰：“臣荐之为相，今为洛州司马，非用之也。”又迁为秋官侍郎，竟召为相，果能兴复中宗，盖仁杰推荐之力也。

姚崇为灵武军使，将行，则天令举外司堪为宰相者。崇亦对曰：“张柬之之深厚有谋，能断大事。且其人年老，惟陛下急用之。”则天即日召见，以为凤阁鸾台平章事。

娄师德为江都尉，扬州长史卢承业奇其才，尝谓之曰：“吾子台辅之器，当以子孙相托，岂可以官属常礼待也”。

安禄山讨奚、契丹，败衄，张守珪执禄山送京师，请行朝典。张九龄奏劾曰：“穰苴出军，必诛庄贾；孙武教战，亦斩宫嫔。守珪军令必行，禄山不宜免死。”上特舍之。九龄奏：“禄山狼子野心，面有反相，臣请因事戮之，冀绝后患。”上曰：“卿勿以王夷甫知石勒故事误害忠良。”遂放归藩。后禄山反，玄宗幸蜀，思九龄之先觉，下诏褒赠，遣使就韶州致祭。

张守珪为幽州果毅，仪形瑰壮，善骑射，性慷慨，有节义。刺史卢齐卿深礼遇之，常共榻而坐，谓曰：“足下数年后，必节度幽、凉，为国良将，方以子孙相托，岂得以寮属常礼待耶。”

于邵一见樊泽，曰：“将相之材也！”不十五年，泽为节将。崔元翰年近五十，始举进士。邵异其文，擢登甲科，且曰：“不十五年，当掌诰令。”竟如其言。

萧昕与张镐友善，表荐之曰：“如镐者，用之则为王者师，不用则幽谷一隻耳。”玄宗擢镐为拾遗，不数年出将入相。及安禄山反，昕举赞善大夫来瑱，堪任将帅。思明之乱，瑒功居多。

李吉甫拜相，诏下之夕，感激出涕，谓裴垕曰：“吉甫自尚书郎流落远地，十余年方归，便人禁署。今才满岁，后进人物，罕所接识。宰相之职，宜选擢贤俊。卿多精鉴，今之才杰，为我言之。”垕取笔疏三十余人。数月之内，选用俱尽。人翕然称之。

柳公绰伯父子华有知人之明。公绰生三日，子华视之，谓其弟子温曰：“保惜此儿，福气吾兄弟不能及，兴吾门者，此人也。”因以起之为字。

裴度自蔡州行营宣谕还，宪宗问诸将之才。度曰：“臣观李光颜，见义能勇，终有所成。”不数日，光颜奏：“大破贼军于洄曲。”帝尤叹度之知人。

韩滉有知人之鉴，见杨于陵甚悦。滉有爱女方择佳婿，谓其妻柳氏曰：“吾阅人多矣，无如杨生贵而有寿，生子必为宰相。”于陵自句容尉秩满扬州而生嗣复，滉见之，抚其首曰：“名位果逾于父，杨门之庆也。”因字曰“庆门”。于陵更践中外，以右仆射致仕，终年七十八。嗣复作相。

王、杨、卢、骆，谓之“四杰”。裴行俭曰：“士之致远，先器识而后文艺。勃等虽有文才而浮躁浅露，岂享爵禄之器耶！杨子沉静，应至令长，余得令终为幸。”其后勃溺南



海；照邻投颍水；宾王被诛，炯终盈川令，皆如行俭之言。

孙恣为考功员外郎，选贡士二年，多得俊才。初年则杜鸿渐至宰相，颜真卿为尚书。后年拔李华、萧颖士、赵骅登上第。谓人曰：“此三人便堪掌纶诰”。

李华为进士，著《含元殿赋》万余言，萧颖士见而赏之曰：“《景福》之上，《灵光》之下。”华疑其诬词，乃为《祭古战杨文》，熏汗之如故物，置于佛书之阁。华与颖士因阅佛书得之，华谓颖士曰：“此文如何？”颖士曰：“可矣。”华曰：“当代秉笔者谁及于此？”颖士曰：“君稍精思，便可及此。”华愕然。

路岩初佐崖铉于淮南，为支使，铉知其必贵，曰：“路十终须被作一官。”既而人为监察御史，不出长安城，十年至宰相。其自监察入翰林也，铉犹在淮南，闻之曰：“路十今已入翰林，如何得老？”岩竟以流窜赐死。

高崇文平蜀，事无巨细，一遵韦南康故事。韦皋参佐请罪，崇文皆释而礼之，草表荐房式等，目段文昌曰：“君必为将相，未敢奉荐。”

后唐，庄宗平蜀。高季兴方食，闻之失箸。梁震曰：“不足忧也，唐主得蜀益骄，亡无日矣，安知不为吾福？”及庄宗遇弑，季兴益重震焉。

后唐，闵帝自终易月之制，即召学士读《贞观政要》、《太宗实录》。有致治之意，然不知其要，宽柔少断。李愚私谓同列曰：“吾君延访，少及吾辈，位高责重，事亦堪忧。”众惕息不敢应，果有霸王之事。

江南李璟，为人谦谨。初即位不名大臣，数延公卿论政体。李建勋谓人曰：“主上宽仁大度，优于先帝，但性习未定，苟旁无正人，恐不能守先帝之业耳。”

江南李氏取湖南，百官皆贺。起居郎高远曰：“我乘楚乱取之甚易，观诸将之才，但恐守之甚难尔。”以边镐守之，后果失之。

夙 慧

齐，王泰，年数岁，祖母集诸孙侄，散枣栗于床，群儿竞之，泰独不取。问其故，曰“不取，自当得赐。”人皆异之。

袁君正，年数岁。父疾，昼夜不眠，专侍左右，家人劝令暂卧，答曰：“患既未瘳，眠亦不安。”

齐，萧绛五岁，高帝使学凤尾诺，一学即工。高帝大悦，以玉麒麟赐之，曰：“麒麟赏凤尾诺矣。”

陈，陆从典，八岁读《沈约集》，见回文碑铭，援笔拟之，便有佳致。

宋，王僧孺，年五岁，便机警。有馈其父冬李者，先以一与之，僧孺不受，曰：“大人未见，不容先尝。”

梁，虞荔，年九岁，候太常睦倕，问《五经》十事，荔对无遗失，倕甚异之。弟寄亦



聪敏，年数岁，有遗其父，遇寄于门，嘲曰：“郎子姓虞，必当无智。”寄应声曰：“文字不辨，岂得非愚？”客大惭，入谓其父：“此子非常人，文举之流也。”

宋，陶季直年四岁，祖慙祖尝以银四函，列置于前，令诸孙各取其一。季直独不取曰：“若有赐，当先父伯。不度及诸孙，故不取。”慙祖奇之。

梁，谢贞八岁，为《春日闲居诗》。从舅王筠奇之，谓所亲曰：“至如‘风定花犹落’，乃追步惠连矣。”

梁，何妥八岁游太学，顾良戏之曰：“汝姓是荷叶之荷，为河水之河？”妥应声曰：“先生姓眷顾之顾，为新故之故？”众咸异之。时萧音亦有隼才，住青杨巷，妥住白杨巷。时人语曰：“世有两隼，白杨何妥，青杨萧音。”

隋炀帝子昭三岁时，于玄武门弄石狮子。高祖与文献后至其所，高祖适患腰痛，举手凭后，昭因避去，如此者再三。高祖叹曰：“天生长者，谁复教子。”

陈叔达，陈宣帝第十六子也，封义阳王。年十余岁，尝侍宴，赋诗十韵，援笔便就，仆射徐陵甚奇之。

唐，郑善果，其父诚周大將軍，死于王事。善果年九岁袭爵，家人以其要孺弗之告也，及受册，悲恸擗踊不能自胜。观者为流涕。

李百药年九岁，有读徐陵文者云：“既取成周之禾，复刈琅琊之稻。”并不知其事。百药曰：“《传》称：‘邠人藉稻’；杜预注云：‘邠国在琅琊’”。座间闻者大惊异之。

苏世长，年十余岁，上书于周武帝言事。武帝以其年小，召问读何书。对云：“读《孝经》、《论语》。”帝问曰：“《孝经》、《论语》何所言？”对曰：“《孝经》云：‘治国者不敢侮于嫠寡。’《论语》云：‘为政以德’。”武帝善其对。

狄仁杰儿童时，门人有被害者，县吏就诘之。众皆接对，唯仁杰坚坐读书。吏责之，仁杰曰：“黄卷之中，圣贤备在，犹不能接对，何暇偶俗吏而见责耶？”

苏晋数岁能属文，作《八卦论》。王绍宗见而赏叹曰：“此后来王粲也”。

杨绾年四岁，尝因夜宴亲宾，各各举手中物以四声呼之。众皆未言，绾应声指铁树曰：“灯盏柄曲。”闻者惊异。

高定，郢之子也。年七岁时，读《尚书·汤誓》。问郢曰：“奈何以臣伐君？”郢曰：“应天顺人，不为非道。”又问曰：“用命赏于祖，不用命戮于社，是顺人乎？”郢不能对。

白居易生六七月时，乳母抱弄于书屏下，直指“之”字“无”字，示居易。口未能言，心已默识。宿习之缘，已在文字中矣。

孙思邈七岁就学，日诵千余言，弱冠善谈庄老及百家之说，兼好释典。洛州总管独孤信，见而叹曰：“此圣童也”。

宪宗皇帝，顺宗长子也。六七岁时，德宗抱至膝上问：“汝是谁子，在吾怀中？”对曰：“是第三个天子。”德宗异而怜之。

武后时，酷吏横纵。乐思晦男未十岁，没入司农。上变得召见，太后问状，对曰：



“臣父已死，臣家已破，但惜陛下法为来俊臣等所弄。陛下不信臣言，乞择朝臣之忠清、陛下素所信任者。为反状以付俊臣，无不承反矣。”太后稍悟。

苏颐年五岁，裴谈过其父。颐方诵庾信《枯树赋》。避谈字，因易其韵云：“昔年移柳，依依汉阴。今看摇落，凄怆江浔。树犹如此，人何以任。”

后唐明宗时，幽州节度使赵德钧奏：“臣孙赞，年五岁，默念《论语》、《孝经》，举童子于汴州，取解就试。”诏曰：“都尉之子，太尉之孙，能念儒书，备彰家训，不劳就试，特与成名。”宜赐别敕及第，附今年春榜。

捷 悟

宋文帝令到彦之北伐魏，甲兵资实甚盛。及败还，委弃荡尽。府藏武库为之一空。一日，上与群臣宴，有荒外降人在列。上问库部郎顾琛：“库中仗犹有几许？”琛诡对有十万，上既问而悔，得琛对甚喜。

梁，萧琛醉伏于御筵。武帝以枣投之，琛取栗掷上，正中面，帝动色。琛曰：“陛下投臣以赤心，臣敢不报以战栗？”上大悦。

齐高帝时，魏主至淮而退。帝问：“何意忽来忽去？”未有对者。张融从下坐抗声曰：“以无道而来，见有道而去。”公卿咸以为捷。

齐，刘绘为南康相。郡人有姓赖居秒里刺谒绘，绘嘲之曰：“君何秒而居秒里？”此人应声答曰：“未审孔子何阙，而居阙里？”

梁时有沙门讼田，武帝大署曰：“贞有司未辨。”遍问莫知。刘显曰：“贞文字为与上人。”帝忌其能，出之。

宋，巢尚之甚聪敏。时百姓欲为孝武帝，疑其名。尚之应声曰：“宜名‘天保’。诗云：天保，下报上也。”时服其机速。

隋，刘炫眸子精明，视日不眩，强记嘿记，莫与为俦。左画圆，右画方，口诵目数，耳听五事，同举无所遗失。

隋，崔頔从驾往泰山，炀帝问：“何处有羊肠坂？”頔曰：“臣按《汉书·地理志》，上党壶关县有羊肠坂。”帝曰：“不是。”頔曰：“按皇甫士安撰，《地书》云：‘太原北九十里，有羊肠坂。’”帝曰：“是也。”因谓牛宏曰：“崔祖浚所谓问一知二。”

隋，袁充年十岁，冬初尚衣葛衫。客戏充曰：“緇兮绀兮，姜其以风。”充应声答曰：“为緇为绀，服之无斂。”

唐，李泌七岁，召至禁中。玄宗与张说方观棋，使说赋方、圆、动、静。泌曰：“愿闻其略。”说因曰：“方若棋局，圆若棋子，动若棋生，静若棋死。”泌即答曰：“方若行义，圆若运智，动若骋材，静若得意。”说贺帝得奇童子。

李忠臣尝因奏对，德宗谓之曰：“卿耳甚大，真贵人也。”忠臣对曰：“臣闻驴耳大，



龙耳小。臣耳虽大，乃驴耳也。”上说其言。

孙逊年十五，谒雍州长史崔日用。日用小之，令为《土火炉赋》。逊握翰即成，词理典贍。日用览之骇然，遂为忘年之友。

萧颖士聪警绝伦。尝与李华、陆据同游洛南龙门，三人共读路侧古碑，颖士一阅即能诵，华再阅，据三阅方能记之。议者以三人才格高下亦如此。

朱梁，张策年十二，父同尝浚甘泉井得鼎耳，有篆曰：“魏黄初元年春二月，匠吉于制作奇巧。”同甚宝之。策时在旁，徐言曰：“建安二十五年，曹公改年为延康，其年十月，文帝受汉禅，始号“黄初”，元年无二月明矣。鼎文何缪欤！”同大惊，亟取魏志展读之，果验。宗族奇之。

梁太祖过内黄，问曰：“此何故名“内黄”？”李挺曰：“河南有外黄、小黄，故此有内黄。”又曰：“在何处？”对曰：“秦有外黄都尉理外黄，其故墟今在雍邱；小黄为高齐所废，其故墟今在陈留。”太祖称奖数四。

湖南马希范，唐同光中入贡。庄宗问洞庭广狭，希范对曰：“洞庭至狭，若车驾南巡，止可饮马而已。”庄宗拊背嘉之。

卷五

赏 誉

宋文帝以王华、刘湛、王昙首、殷景淳俱为侍中。风力局幹，冠冕一时。上尝与四人于合殿宴饮，甚悦。既罢出，上目送良久，叹曰：“此四贤，一时之秀，同管喉唇，恐后世难继也。”

河西王蒙逊遣尚书郎宗舒等人贡于魏，魏主与之宴，执崔浩之手以示舒曰：“汝所闻崔浩，此则是也。才略之美，于今无比。朕动止咨之，豫陈成败，若合符契，未尝失也。”

宋文帝与萧思话登钟山北岭，中道有盘石清泉，上使思话于石上弹琴，因赐以银钟酒曰：“相赏有松石间意。”

宋武帝引后进二十余人，置酒赋诗。臧盾以诗不成罚酒一斗，盾饮尽，颜色不变，言笑自若；萧介染翰便成，文不加点。帝两美之曰：“臧盾之饮，萧介之文，即席之美也。”

谢超宗诣齐高帝，其日风寒，帝曰：“此客至，使人不衣自暖矣。”

梁，天监中，张率为待诏，赋奏之。帝乃手敕曰：“相如工而不敏，枚皋速而不工。卿可谓兼二子于金马矣。”

裴遼庙在光宅寺西，堂宇宏敞，松柏郁茂；范云庙在三桥，蓬蒿不剪。梁武帝南郊，道经二庙，顾而美曰：“范为已死，裴为更生，之礼遼子也。”



陈宣帝时，张讥为武陵王记室兼东宫学士。后主在东宫，集官僚置宴，造玉柄麈尾新成，后主亲执之曰：“当今虽复多士如林，至于堪捉此者独张讥尔。”后主常幸钟山，召从臣坐松林下，敕讥竖义，时索麈尾未至，后主敕取松枝，手以属讥曰：“可代麈尾。”顾群臣曰：“此即张讥后事”。

魏，陆暉与弟恭之并有时誉。洛阳令贾桢叹曰：“仆以老年更睹双璧。”黄门郎孙惠蔚曰：“不意二陆复在坐隅。”

魏，傅永，字修期，年二十，友人与之书不能答，请于叔父洪坤。洪坤深让之，而不为报。永乃发愤读书，涉猎经史，兼有才幹。孝文每叹曰：“上马能击贼，下马作露布，唯傅修期尔。”

隋，李德林初仕齐，周武帝平齐，以为内史，谓群臣曰：“我当日唯李德林与齐朝作书檄，我正谓其是天上人，岂意今日得其驱使，复为我作文书，极为大异。”神武公竦豆陵毅答曰：“臣闻明主圣德，得麒麟凤凰为瑞。是圣德所感，非力能致之，瑞虽来，不堪使用。如李德林来受驱策，亦是陛下圣德感致，有大才用，胜于麒麟、凤凰远矣。”帝大笑曰：“诚如公之言”。

隋，李穆以太师乞致仕。文帝诏曰：“七十致仕，本为常人。若吕尚以期颐佐周，张苍以华皓相汉。高才命世，不拘常体。公年既耆旧，筋力难烦。今勒所司，敬蠲朝集，如有大事，就第询访。”

北齐，任城王湣称李德林云：“经国大体，是贾生、晁错之俦；雕虫小技，殆相如、子云之辈。”吏部郎中陆印云：“德林文章，浩浩如长河东注，比来所见，后生制作，乃涓涔之流尔。”

李密乘一黄牛，被以蒲鞵。将《汉书》一帙挂于角上，一手捉牛鞵，一手翻《汉书》。尚书令越国公见于道，从后按轡蹶之。既及，问：“何处书生，耽学如此？”密识越公，乃下牛再拜，自言姓名。又问：“所读何书？”答曰：“项羽传。”越公奇之，与语大悦。谓其子玄感等曰：“吾观李密识度，汝等不及。”

唐，李靖平萧铣，禽辅公柝。太宗曰：“李靖是萧铣、辅公柝膏肓。古之名将，韩、白、卫、霍岂能及也？”靖年老，太宗赐灵寿杖，以助足疾。

张行成师事刘炫，炫谓门人曰：“张子体局方正，廊庙才也。”行冲引与之谈，贯穿经史事，如指掌。又试以缀文，操牍便成。行冲大悦，引之同榻，曰：“此吾外家之宝也”。

郝纯子士美，少好学，善记览。父友颜真卿，萧颖士辈尝与之讨论经传，应对如流。既而相谓曰：“吾曹异日当交于二郝之间矣。”

武元衡为御史中丞，因延英对罢。德宗目送之，指示左右曰：“元衡真宰相器也。”

封敖为中书舍人，草“赐阵伤边将”警句云：“伤居尔体，痛在朕躬。”武宗赐之官锦。封李德裕为卫国公，守太尉制云：“遏横议于风波，定奇谋于掌握。逆镇盗兵，壶关昼锁。造膝嘉话，开怀静思。意皆我同，言不他惑。”制出，放往庆之。德裕口诵此数句，



谓敖曰：“陆生有言：‘所恨文不迨意’，如卿此语，秉笔者岂易得耶？”座中解其玉带以遗，敖深礼重之。

文宗撰魏征五代孙暮为起居舍人，曰：“以卿论事忠切，有文贞之风，故不循月限，授卿此官。”又谓之曰：“卿家有何旧书诏？”对曰：“此多失坠，惟簪、笏见存。”上令进来。郑覃曰：“在人不在笏。”上曰：“郑覃不会我意，此即《甘棠》之义，非在笏而已。”

员半千本名余庆，师事学士王义方。义方加重之，尝谓之曰：“五百年一贤，足下当之矣。”因改名半千。义方卒，半千制师服，丧毕而去。高宗尝问“三阵”，半千越次而对以：“师若时雨为天阵；足食为地阵；得人和为人阵。”高宗嗟赏之。垂拱中，为宣尉吐蕃使。则天曰：“久闻卿名，谓是古人，不意乃在朝列。境外小事，不足烦卿，宜留制也。”即日使人阁供奉。

白居易以诗谒顾况。况曰：“米价方贵，居亦不易。”及见首篇“离离原上草，一岁一枯荣。野火烧不尽，春风吹又生。”乃曰：“道得个语，居即易矣。”为之称誉，声名大振。

裴迪，昭宗时为梁祖宾席，转检校司徒，赐号“迎逊协赞功臣”。一日宾佐集谒，梁祖目迪曰：“协赞之名，惟司徒独有之，它人滥处也。”其知重如此。

李珣为梁祖掌记，一日大会将佐，指珣曰：“此真记室也。”

宠 礼

宋文帝以惠琳道人善谈论，因与议朝廷大事，遂参权要。宾客辐凑，门车尝有数十两，四方赠赂相系，方筵七八，座上常满。琳著高屐，披貂裘，置通呈书佐。会稽孔觊尝诣之，遇宾客填咽，喧凉而已。觊慨然曰：“遂有黑衣宰相，可谓冠履失所矣。”

梁，陶宏景隐茅山，武帝每有征讨，吉凶大事，无不前以咨询，月中尝有数信，时人谓为“山中宰相”。

梁，孔休源为晋安王府长史。王深相倚仗，尝于斋中别施一榻云：“此是孔长史坐。”人莫得预焉。

梁，昭明太子薨。有敕夜召休源入宴，居殿与群公参定谋议，立晋王纲为皇太子。自公卿珥貂插笔，奏决于休源前，休源怡然无愧。时人名为“兼天子”。

后周，寇恂，明帝与之同席而坐，顾问洛阳故事。恂身长八尺，须鬓皓然，容止端详，音韵清朗，帝不觉屢为之前膝。及恂辞还，帝亲执其手曰：“公年德俱尊，朕所钦，尚乞言之事，所望于公，宜数相见以慰虚想。”以御舆令于帝前乘出。

隋，高颀，西魏赐姓独孤氏，隋文帝以为左仆射，任寄隆重，朝臣莫比，呼为独孤而不名也。颀每坐朝堂北槐树下以听事。其树不依行列，有司将伐之。帝特命勿去以示后人，其见重如此。帝尝谓之曰：“伐陈后，人云公反，朕已斩之。君臣道合，非青蝇可间也。”将军卢贲等前后短颀于帝，皆被疏绌，因谓颀曰：“独孤犹镜也。每被磨莹，皎然益



明。”

隋，李景。杨玄感之反，朝臣子弟多预焉，景独无关涉。炀帝曰：“公诚直天然，我梁栋也。”赐以美女。帝每呼李大将军而不名。见重如此。

隋，樊子盖屢破杨玄感，炀帝别造玉麟符以代铜兽，谓子盖曰：“玄感之反，神明故以彰公赤心尔。”析珪进爵，宜有令谟。是日进爵为济公，言其功济天下，特为立名，无此郡国也。

隋，李德林上《霸朝集》，高祖省读讫，明旦谓德林曰：“自古帝王之兴，必有异人辅佐。我昨读《霸朝集》，方知感应之理。昨宵恨夜长，不能早见公面，必令公贵与国始终。”德林每赞平陈之计，伐陈之后，高祖以马鞭南指云：“待平陈讫，会以七宝装严，公使自山东，无及之者。”

裴寂于唐有佐命之功，高祖视朝必引与同坐，入阁则引于卧内，呼为裴监而不名也。太宗祠南郊，命寂与长孙无忌同升金格，寂让，太宗曰：“以公有佐命之勋，同载参乘，非公而谁？”高祖尝宴寂于含章殿，极欢，寂顿首乞骸骨。高祖泣下曰：“今犹未也，要相与偕老耳。公为台司，我为太上，逍遥一代，岂不佚哉！”

高祖以姜暮为秦州刺史，云：“衣锦还乡，古人所尚，今以本州相授，用答元功。”

太宗信任长孙无忌。或有密表，言其权宠过盛者，太宗以表示无忌曰：“朕与卿君臣之间，凡事无疑，若各怀所闻而不言，则君臣之意，无以获通。”因召百寮谕之曰：“朕今有子皆幼，无忌于朕实有大功，今者委之犹子也。疏间亲，新闻旧，谓之不顺，朕所不取。”又作《威凤赋》赐无忌，命图无忌形像，太宗自作画赞赐之。

杜如晦没后，太宗食瓜而美，遂辍食之半，遣使奠于灵前。又尝赐房玄龄黄银带，顾玄龄曰：“昔如晦与卿同心辅政，今日所赐，惟独见公。”因泫然流涕。又云：“鬼神畏黄银。”命取黄金带，遣玄龄亲送于灵所。

李勣遇暴疾，验方云惟须灰可疗。太宗乃自剪须，为之和药。勣顿首见血。帝曰：“吾为社稷计，不烦深谢。”

张公谨卒，太宗出次发哀，有司以辰日不可哭。太宗曰：“君臣之义，同于父子，情发于中，安避辰日？”遂哭之。

太宗飞白书赐马周曰：“鸾凤凌云，必资羽翼；股肱之寄，诚在忠良。”高宗飞白书以赐近臣戴至德曰：“泛洪源，俟舟楫。”郝处俊曰：“飞九霄，假六翮。”李敬元曰：“咨启沃，罄丹诚。”崔知悌曰：“竭忠节，赞皇猷。”

岑文本从太宗伐辽，至幽州卒。太宗抚视之流涕。其夕，闻警鼓之声，曰：“文本殒歿，情深侧怛，今宵夜警，所不忍闻。”命停之。

苏颐葬日，玄宗游咸宜宫，将出猎。闻颐丧出，怆然曰：“苏颐今日葬，吾宁忍娱游？”遂中路还宫。

裴行俭兵不血刃平定西服，拜礼部尚书兼检校右卫大将军。高宗谓行俭曰：“卿文武



兼资，今故授卿二职。”

玄宗以苏颐为中书侍郎。入谢日，玄宗谓曰：“常欲用卿，每有好官阙，即望宰相论及。宰相皆卿故人，卒无言者，朕与卿叹息。中书侍郎，朕极重惜。自陆象先没后，朕每思之，无出卿者。”时李义为紫薇侍郎，与颐对掌文诰。他日，上曰：“前朝李峤、苏味道，谓之苏、李。今日亦不让之。卿所制文诰，录一本封进，题云‘臣某撰’，要留宫中披览。”其礼遇如此。

魏元忠为中书令，请归乡拜扫。中宗赐锦袍一领，银千两。手敕曰：“衣锦昼游，在乎兹日；散金敷惠，谅属斯辰。”及还，帝又幸白马寺以迎劳之。恩遇如此。

玄宗宠任张说。说为中书令，上亲为诏赐中上考。及薨，上自制神道碑文，御笔书。赐谥曰“文贞”。

杨绾有疾，代宗每引见延英殿，特许扶入。厘革旧敝，惟绾是恃，恩遇甚厚。既薨，谓左右曰：“天下使朕致太平，何夺我杨绾之速也！”下诏，赐谥曰“文简”。

德宗以“宸扆”、“台辅”二铭赐马燧。燧至太原，乃勒二铭于起义堂，帝为题额。其崇宠如此。

顺宗以女乐二人赐张茂昭，三表辞让。及中使押犊车至第，茂昭立谓中使曰：“女乐出自禁中，非臣下所宜目睹。昔汾阳、咸宁、南平、北平尝受此，不让为宜。茂昭无四贤之功，述职入覲，亦人臣常礼，奈何当此宠赐？后有功臣，陛下何以加赏？”顺宗深加礼异，允其所让。

裴垍为相，宪宗在禁中常以官呼垍，而不名也。又以杜佑高年重德礼重之，常呼司徒而不名。

宪宗以李絳直谏，遽宣宰臣令与改官，乃授中书舍人，依前翰林学士。谢日，面赐金紫，帝亲择良笏赐之。

武后信重狄仁杰，群臣莫及，常谓之“国老”而不名。仁杰好面折廷诤，太后每屈意从之。尝从太后游幸，遇风吹，仁杰巾坠，而马惊不能止。太后命太子追执其鞚而系之。仁杰屡以老病乞骸骨，太后不许。人见，常止其拜，曰：“每见公拜，朕亦身痛。”仁杰薨，太后泣曰：“朝堂空矣！”

后唐，明宗从武皇与葛从周战，径犯其阵，奋击如神，梁军退去。明宗四中流失，血流被服。武皇解衣授药，手赐卮酒，抚其背曰：“吾见神人也！微吾儿。”几为从周所笑。

李存审事后唐武皇，性谨厚，宠遇日隆。武皇四征，存审常从，所至立功。从讨赫连铎，冒刃死战，血流盈袖，武皇手自封药，日夕临问。

石晋，高祖委任冯道。尝称疾求退，帝使郑王重贵诣第省之，曰：“来日不出，朕当亲往。”道乃出视事。当时宠遇，群臣无与为比。

五代，周太祖以高行周着年宿将，赐诏不名，但呼王位而已。钱鏐以尚父薨，唐明宗制曰：“位已极于人臣，名素高于简册；赠典既无其官职，易名宜示其优崇。”赐谥“武



肃”。

周世宗以英武自任，有包举天下之志，而计事者多不谕其意，惟王朴神气劲峻，刚决有断，凡所谋画，动惬世宗之意。急于登用，次为枢密使。卒时年四十五，世宗于枢前以所执玉钺卓地恸哭者数四。

闽主王昶，以师傅之礼待叶翘，翘多所裨益，宫中谓之“国翁”。

周太祖时，李穀以病臂未愈，三表辞位。帝遣中使谕旨曰：“卿所掌至重，朕难其人，苟事功克集，何必朝礼。朕今于便殿待卿，可暂入相见。”穀见于金祥殿，面陈款悃，帝不许。穀不得已，复视事，未能执笔，诏以三司务繁，令刻名印用之。其后又九表辞位，罢守本官，令每月肩舆一诣便殿议政事。

任 诞

宋，谢灵运以文帝不见任遇，意不平，多称疾不朝。出郭游行，或一日六七十里，经旬不归。既无表闻，又不请急，被奏免官。遂为山泽之游。生业甚厚，奴僮既众，门生数百。凿山浚湖，功役无已。寻山陟岭，必造幽峻。岩嶂数十里，莫不备尽登蹶。常著木屐，上山则去其前齿，下山则去其后齿。尝自始宁南山伐木开径，直至临海，从者数百。临海太守惊骇，谓为山贼，知是灵运乃安。

颜延年疏诞，不能取容当世。宋文帝传诏召之，颜不见。常日但酒店裸袒挽歌，了不应付。他日醉醒，乃见。帝尝问以诸子才能，延年曰：“浚得臣笔，测得臣文，奂得臣义，跃得臣酒。”何尚之嘲云：“谁得卿狂？”答曰：“其狂不可及”。

刘穆之少时家贫，诞节嗜酒食，不拘检，好往妻江氏家乞食，多见辱，不以为耻。食毕求槟榔，江氏兄弟戏之曰：“槟榔消食，君乃常饥，何意须此及？”穆之贵为丹阳尹，召江氏兄弟食，令厨人以金杵贮槟榔一斛进之。

谢超宗恃才使酒，多所凌忽，为齐高帝黄门郎，在省常醉。上召见论北方事，超宗曰：“虏动来二十年矣，佛出亦无如之何。”以失仪出为南郡王中军司马，人问曰：“闻有命定是何府？”超宗答曰：“不知是何司马，为是司驴。既是驴府，政应司驴。”

齐，尚书左丞谢几卿，性通脱，不拘朝宪。尝预乐游苑宴，不得醉而还。因诣道边酒垆，停车褰幔与车前三骖对饮。观者如堵，几卿处之自如。

谢谧不妄交接，门无杂宾。有时独醉，曰：“入吾室者，但有清风；对吾饮者，唯当明月。”

袁粲为中书令，领丹阳，不以事务经心，独步园林，诗酒自适。家居负郭，每杖策逍遥，当其意得，悠然忘反。郡南一家，颇有竹石，粲卒尔步往，不通主人，直造竹所，啸咏自得。主人出，语笑款然。俄而车骑羽仪至，方知是袁尹也。又尝步屣白杨郊野间，道遇一士大夫，便呼与酣饮。明日此人谓被知遇，诣门求进。粲曰：“昨日饮酒无偶，聊相



邀尔。”竟不与相见。

梁，萧恭尤好宾客，酣宴终日。时元帝勤心著述，未尝妄进卮酒。恭从容谓曰：“下官历观时人，多有不好欢兴，乃仰眠床上，看屋梁而著书。千秋万岁，谁传此者？劳神苦思，竟不成名。岂当临清风对朗月，登山泛水肆意酣歌也？”

陶渊明九月九日无酒，出宅边菊丛中坐之。逢江州刺史王宏送酒至，即便就酌，醉而后归。潜不解音乐，而蓄素琴一张，每有酒适辄抚弄以寄意。贵贱造之，有酒辄设。潜若先醉，便语客：“我醉欲眠，君可去。”其真率如此。

北齐，王晞为并州司马，人谓之“方外司马”。昭帝欲以晞为侍中，苦辞不受。或劝晞勿自疏，晞曰：“我少年以来，阅要人多矣，充拙少时，鲜不败绩。且性实疏缓，不堪时务，人主恩私，何由可保？万一披猖，求退无地。非不爱作热官，但思之烂熟尔。”

北齐，韩晋明好酒纵诞，每招引宾客，一席之费，动至万钱，犹恨其俭。朝廷欲处之贵要，必以疾辞，告人云：“废人饮美酒，对名胜，安能作刀笔吏续故纸乎？”

东魏，侍中王元忠，虽处要任，不以物干怀，唯以饮酒自娱。丞相高欢欲用为仆射，元忠子劝父节酒，元忠曰：“我言仆射不胜饮酒乐，尔爱仆射宜勿饮酒。”

北齐，崔瞻在御史台，常宅中送食，备尽珍羞，别室独餐，处之自若。有一人，河东人士，姓裴，亦为御史，伺瞻食，便往造焉。瞻不与交言，又不命起箸。裴坐观瞻食罢而退，明日自携匙箸，恣意饮啖。瞻曰：“初不唤君食，亦不共君语，遂能不拘小节。昔刘毅在京口，自请鹅炙，亦岂异是？君定是名士。”于是每与之同食。

唐，傅奕驳佛教，平生遇患，未尝服药，虽究阴阳数学之书，而并不之信。尝醉卧，蹶然起曰：“吾其死矣！”因自为墓志曰：“傅奕，青山白云人也。因醉酒死。呜呼哀哉！”其纵达皆此类。

卢承庆，临终，戒子敛以常服，不用牲牢，坟高可认，不须广大事办即葬，不须卜择。墓中器物，瓷漆而已。有棺无槨，务在简要。碑志但记官号年代，不须广事文饰。

路恕第私有佳园林，自贞元初，李纾、包拯辈，迄于元和末，仅四十年，朝之名卿，咸从之游。高歌纵酒，不屑外虑，未尝问家事。人亦以“和易”称之。

柳洋好谐谑放达，与人交豁然无隐情。不治产业。官至丞相，假宅而居。罢相数日，则命亲族寻胜，宴醉而归，陶陶然忘其黜免。时李勉、卢翰皆退罢，相谓曰：“吾辈视柳宜城，悉为拘俗之人也。”

胡楚宾属文敏速，每饮酒半酣而后操笔。高宗每令作文，必以金银杯盛酒令饮，便以杯赐之。楚宾终日酣宴，家无所藏，费尽复入，待有又出，然未尝言禁中事。醉后人或问之，答以它事而已。

贺知章晚年尤加纵诞，无复规检，自号“四明狂客”，又称“秘书外监”。遨游里巷，醉后属词，动成卷轴，文不加点，咸有可观。又善草隶书，好事者供其笺翰，每纸不过数十字，共传宝之。陆象先，知章族姑子也，与知章相亲善。象先尝谓人曰：“贺兄言论偶



悦，真可谓风流之士。吾与子弟离阔，都不思之，一日不见贺兄，则鄙吝生矣。”

李白待诏翰林，日与饮徒醉于酒肆中。玄宗有感，欲造乐府新词，亟召白，白已卧于肆中矣。召入，以水洒面，即令秉笔，顷之，成十余首，帝颇嘉之。尝沈醉，令高力士脱靴，由是斥去。乃浪迹江湖，终日沈饮，侍御史崔宗之谪官金陵，与白诗酒相欢。尝月夜乘舟采石达金陵，白衣官锦袍，于舟中顾瞻笑傲，旁若无人。初，贺知章见白，赏之曰：“天上谪仙人也。”

杜甫与严武世旧，武镇蜀，辟甫为参谋，待遇甚隆。甫凭醉，登武之床，瞪视武曰：“严挺之乃有此儿！”武虽急暴，不以为忤。甫于成都浣花里种竹植树，结庐就江，纵酒笑咏，与田畯野老相狎荡，无拘检。严武过之，有时不冠，故武诗云：“莫倚善为《鸛鹑赋》，何须不著鸛鹑冠。”其傲诞如此。

后唐马郁，事武皇庄宗，礼遇甚厚，累官至秘书监。监军张承业权责任事，与宾僚宴集，出珍果陈列于前。客无敢食者，当郁前者先食必尽。承业私戒主者曰：“他日马监至，唯以乾藕子置前而已。”郁知不可啖，异日靴中出一铁挝，碎而食之。承业大笑，曰：“为公易之，勿败吾案。”其俊率如此。

容止

魏，崔浩。纤妍洁白，如美妇人。尝谓才比张良，而稽古过之。

谢晦，美风姿，善言笑，眉目分明，鬓发如墨。时谢混风鉴为江左第一，尝与晦同在宋武帝前，帝目之曰：“一时顿有两玉人。”谢览意气闲雅，瞻视聪明。梁武帝目送良久，曰：“觉此生芳兰竟体。”

王琰，字景文，风姿为时之冠。袁粲叹曰：“景文非但风流可悦，乃哺啍亦复可观。”有客及识谢混者曰：“景文方谢叔源则为野父矣。”粲惆怅曰：“恨眼中不见此人。”宋孝武选侍中四人，并以风貌，王琰、谢庄为一双，阮裕、何偃为一双。

褚彦回，美仪貌，善容止，俯仰进退，咸有风则。宋景和中，山阴公主窥见彦回，悦之，以白帝。帝召彦回西上阁，宿十日，公主夜就之，备见逼迫。彦回整身而立，不为移志。公主谓之曰：“君须髯如戟，何无丈夫意？”彦回曰：“回虽不敏，何敢首为乱阶？”山阴都尉何戢，亦美容仪，动止与彦回相慕，时人号为“小褚公”。

梁，何敬容，公廷就列，容止出入。武帝虽衣浣衣，而左右衣必须洁。尝有侍臣，衣带卷折，帝怒曰：“卿衣带如绳，欲何所缚耶？”敬容希旨，故益鲜明。常以胶清刷鬓。衣裳不整，伏床熨之，或暑月，背为之焦。

齐，张绪吐纳风流，听者忘倦。刘俊之为益州，献蜀柳数株，枝条甚长，状若丝缕，时芳林苑始成，武帝以植于太昌灵和殿前。常赏玩咨嗟曰：“此柳风流可爱，似张绪当年。”



齐，张融，风止诡越，坐常危膝，行则曳步，翘身仰首，意制甚多。见者惊异，聚观成市，而融了无惭色。高帝常笑曰：“此人不可无一，不可有二。”

龚祈风姿端雅，容止可观。中书郎范述见之，叹曰：“此荆楚之仙人也。”

北齐神武言崔陵应作令仆，恨其精神太道。赵郡李浑将聘，梁名辈毕萃，诗酒正谐，陵后到，一坐无复谈话。郑伯猷叹曰：“身长八尺，面如刻画；髻欸为洪钟，胸中贮万卷书，那得不畏服？”

北齐，李谐字虔和，短小六指，因瘦而举颐；因跛而缓步；因奢而徐言，遂为风流之冠。时人言李谐善用三短。

北齐，崔瞻、崔子约仪望俱华，俨然相映。诸沙门窃观之，以为二天人也。自天保以后，重吏事，谓容止酝藉者为潦倒，而瞻终不改焉。

隋，韦艺容貌环伟，每著人参谒，必整仪卫盛服以见之，独坐满一榻，著人畏惧，莫敢仰视。

伐陈之役，杨素率水军东下，舳舻被江，旌甲耀日。素坐平乘大船，容貌雄伟，陈人望之，惧曰：“清河公即江神也。”

冯定为太常少卿，因乐成阅于庭中；定立于其间。文宗以端凝若植，问其姓氏，翰林学士曰：“此冯定也。”文宗喜，问曰：“岂非能为古章句者耶？”乃召升阶。文宗自吟定：《送客江南诗》，锡以禁中瑞锦。

崔远文才清丽，风神峻整，人皆慕其为人。当时目为“钉座梨”，言席上之珍也。

郑畋文学优深，器量宏恕，美风仪，神彩如玉。

张知谏兄弟五人，厉志读书，皆以明经登第。仪质环伟，眉目疏朗。则天重其才干，又目其状貌过人，命画工写之，赐以其本。曰：“人或才有，未必有貌。卿家兄弟，可谓两绝。”

玄宗尝炼药于勤政楼下，垂帘观之，兵部侍郎卢绚谓上已起，垂鞭按轡横过楼下。绚风标清粹，上目送之，深叹其蕴藉。李林甫以阴谋废之。

朱梁，赵凝气貌甚伟，好自修检，每整衣冠，必使人持巨鉴前后照之。对客之际，乌巾上微觉有尘，即令侍妓持红拂以去之。

卷六

术解

魏，崔浩善占天文，尝置铜铤于酢器中，夜有见，即以铤画纸作字，以记其异。魏主每如浩家，问以灾异。或仓卒不及束带，奉进蔬食，不暇精美，魏主必为之举箸，或立尝



而还。浩考校汉元以来日星行度，讥前史之失，别为魏历以示高允。高允以汉元年十月，五星聚东井，非十月。浩初犹疑之，后岁余谓允曰：“考究果如君言，五星乃以前三月聚于东井。”

梁，沈僧昭，少事天竺沙门，自云为泰山录事。幽司中有所收录，必僧昭书名。梁武陵王纪宴坐池亭，蛙鸣聒耳。王曰：“殊废丝竹之听。”僧昭咒厌十数口便息。及日晚，王欲其复鸣。僧昭曰：“王欢已阗，今恣汝鸣。”即便喧聒。

齐，柳世隆善卜筮。世祖武皇帝时，尝曰：“永明九年我亡，亡后三年邱山崩，齐亦于此季矣。”屏人命典签李党取笔及高齿屐，题于帘旌曰：“永明十一年。”因流涕谓党曰：“汝见吾不见也。”十一年武帝崩。

梁，韦鼎阴阳善相术。陈武帝在南徐州，鼎望气知其当王，遂寄家焉。至德初，尽货田宅寓居僧寺。毛彪问其故。曰：“江东王气尽于此矣，吾与尔当葬长安。”初鼎之聘周也，尝遇隋文帝，谓曰：“观公容貌，不久必大贵，贵则天下一家，岁一周天，老夫当委质焉。”陈亡，驿召授上仪同三司。

宋，贺瑒伯祖道养工卜筮。有歌工女人病死。为之筮曰：“此非死也，天帝召之歌尔。”乃以土块加其心上，俄顷而苏。

陈，章昭达少时，遇相者曰：“卿容貌甚善，须小亏则当富贵。”梁大同中，昭达因醉坠马，鬓角小伤。相者曰：“未也。”侯景之乱，为流矢所中，眇其一目。相者曰：“卿相善矣”。后仕陈至三公。

宋，庾道愍，尤精相术。时山阳王休祐，屡以言语忤颜色，以已板令道愍占之。道愍曰：“此虽甚贵，然令人多愆忤。”休祐以褚彦回详密，求换其板。它日，彦回侍明帝，自称下官，帝多忌，甚不悦。休祐具以状言，帝意乃解。

宋，顾欢通解阴阳书，为术数多效验。有病邪者问欢，欢曰：“汝家有何书？”答曰：“唯有《孝经》而已。”欢曰：“可取仲尼居置病人枕边，恭敬之，自瘥也。”病者如言，果愈。问其故，答曰：“善攘恶，正胜邪，此病者所以瘥也。”

魏，晁崇善天文。天兴五年，月晕左角，崇以为角虫多死。是岁天下牛死十七八，舆驾巨犗数百头，同日毙于路侧，麋鹿亦多死者。

魏，徐路知星文。坐事系冀州狱。别驾崔隆宗就禁慰问之，路曰：“昨夜驿马星流，赦须臾当到。”隆宗素信之，遂遣人出城候焉，俄而赦至。

檀特师周文召，至岐州，会神武来寇玉壁。檀特曰：“狗岂能至龙门也！”神武果不至龙门而还。

北齐，许遵，值文宣无道日甚，遵语人曰：“多折算来，吾筮此狂夫何时得死！”于是布算满床，大言云：“不出冬初，我乃不及见也。”文宣以十月崩，遵以九月死。

北齐，赵辅和，有人父病求筮，遇“泰”，云：“此卦甚吉”。是人出后，辅和曰：“乾下坤上。乾，父道也；坤上，则父入土矣。岂得言吉？”父果卒。



北齐，贾子儒能相人。崔暹令视文襄。子儒曰：“人有七尺躯，不如一尺面；一尺面不如一寸眼。大将军脸薄盼速，非帝王相也。”

北齐，蔡母怀、文传有、蠕蠕客能算。或指庭中一枣树，令其布算，即知其数，并瓣若干、纯赤若干、赤白相半。于是剥算之，唯少一子。客云：“必不少，但更搯之。”果得一实。

隋文帝将迁都，夜与高颖、苏威二人定议。庾季才旦奏：“臣仰观天象，俯察图记，龟兆允袭，必有迁都。且汉营此城，经今八百岁，水皆咸卤，不甚宜人，愿为迁徙计。”帝愕然，谓颖等曰：“是何神也！”遂发诏施行。

杨伯丑好读《易》，隐于华山。隋开皇初，征入朝。见公卿不为礼，无贵贱皆尔汝之。开肆卖卜，有人失马来诣。伯丑为皇太子所召，在途遇之，立为作卦。卦成，曰：“我不违为卿说，且向西市东壁门南第三店，为我买鱼作鲙。”如言而往，须臾，有一人牵所失马来，遂擒之。

旋宫之义亡绝已久。唐，祖孝孙得毛爽之法，以一律生五音十二律，而为六十音，因而六之故，有三百六十音；以当一岁之日。又以十二月旋相为六十声，八十四调。其法因五音生二变，因变征为正征，因变宫为清宫。七音，起黄钟，终南吕，造为纪纲。一朝复古，自孝孙始也。

太宗之世，有《秘书记》云：“唐三世之后，则女主武王代有天下。”太宗尝密召李淳风访其事。淳风曰：“臣据象推算，其人已生，在陛下宫内，从今不逾三十年，当有天下，诛杀唐氏子孙殆尽。”帝曰：“疑似者尽杀之，如何？”淳风曰：“天之所命，王者不死，今已在宫内，是陛下眷属。更三十年，又当衰老，老则仁慈，虽受终易姓，其于陛下子孙，或不甚损。今若杀之，即当复生，少壮严毒，即杀戮陛下子孙无遗类矣。”太宗善其言而止。

武德九年五月，傅奕奏：“太白见秦分，秦王当有天下。”高祖以状授太宗。及太宗嗣位，召奕，赐之食曰：“汝前所奏，几累于我。然今后但须尽言，无以前事为虑也。”

刘仁轨为陈仓尉，相工袁天纲谓曰：“君终位邻台辅，年将九十。”仁轨为文昌左相，八十四而薨。

裴行俭尤晓阴阳之术，每制敌推阵，先期捷日。尝出阵至单于北塞，晚下营，壕堑方周，遽令移就冈上。将士皆以士众方安，不可劳扰。行俭促之。比夜，风雨暴至，前设营处水深丈余。

萧嵩与吴郡陆象先为僚婿。宣州相术夏荣谓象先曰：“陆郎十年内位极人臣，然不及萧郎一门尽贵官。高而有荣寿。”陆果为相。萧亦为相，寿至八十，其子华、孙俛仿皆至宰辅。

高智周少与乡人蒋子慎善，同诣相者。相者曰：“明公位极人臣，然允嗣微弱；蒋侯官职至薄，而子孙转盛。”智周果作相，子慎为建安尉卒。其子绘谒智周，智周以女妻之。



绘子捷为刺史，捷子洌为左丞，洌弟涣为给事中。高氏之后殄灭已久，果符相者之言。

太原术士温彬，高宗时已老。临终封一状谓其妻曰：“吾死后年名垂拱，即诣阙献之，慎勿开也。”垂拱初，其妻献之。预陈则天革命及突厥至赵定事。俱验。

崔信明以五月五日正中时生，有异雀数头，身形甚小，五色毕备，集于庭中树，鸣声清婉。隋太史令史良至青州，为之占曰：“五月为火，火为离，离为文彩。日中，正文之盛也。又有雀五色，奋翼而鸣。儿必文藻灿烂，雀形既小，禄位殆不高。”及长，博文强记，下笔成章，终于秦川令。

薛颙尝密谓秦王曰：“德星守秦分，王当有天下，愿王自爱也。”太宗朝，上表请为道士。太宗为置紫府观，观中建一清台以考天象。

甄权能针灸。狄鞮苦风患，手不能引弓。权曰：“但将弓矢向垛，一针可愈矣。”针其肩隅一穴，即时能射。其弟立言亦善医。杜淹风毒发肿，立言曰：“从今更十一日，午时死。”如期而死，有尼明谓腹胀身瘦，立言曰：“误食发成虫也。”令服雄黄，吐一蛇，如小指大，唯无眼。烧之有发气，尼疾乃愈。

乙弗宏礼能相。隋炀亦自能之，曰：“卿相朕终当如何？如卿言与朕术不同，罪当死。”宏礼曰：“臣所学相术，凡人之相有类陛下者，不得善终。臣闻圣人不相，故知圣人与世凡不同尔。”自是，帝常遣使监之，不得与人交言。薛大鼎坐事没为奴，诣宏礼，曰：“君奴也。”大鼎有惭色，解衣示之。宏礼曰：“自腰以下，当为方岳之任。”后为泗州刺史。

袁天纲善相。则天初在襁褓，天纲来至第中，谓其母曰：“夫人骨法，必生贵子。”示之。见元爽、元庆曰：“此二子皆保家之主，官至三品。”见韩国夫人，曰：“此女亦大贵，又利其夫。”乳母时抱则天，衣男子之服。天纲曰：“此郎君子，神色奥妙，不可易知。”试令行，又令举目。天纲大惊曰：“龙睛凤颈，贵人之极也！”更转侧视之，又惊曰：“若是女，当为天下之主也！”

卢齐卿童幼，问孙思邈他日之事。思邈曰：“汝后五十年位登方伯，吾儿当为属吏，可自保也。”后齐卿为徐州刺史，思邈、孙博果为萧县丞。齐卿问时，博犹未生。

张憬藏相蒋俨云：“自此二年，当得东宫掌兵之官，秩未终而免职，免职之后，厄在三尺土下。据此合死，然后有名位；不合中天，至六十一为蒲州刺史，十月三十日午时禄绝。”俨后皆如其言。尝奉使高丽，囚地窖中，终六年后得归，及在蒲州，六十一矣。至期，召人吏、妻、子诀别，自云当死，俄有敕许令致仕。

金，梁凤谓祠部郎中裴冕曰：“半年间，公为宰相，大富贵。”裴冕曰：“公乃狂言，冕何至此？”梁凤曰：“‘有一日向东京，一日入蜀川，一日向朔方’，此时，公作相矣！”冕惧其言，深绝之。未几，安禄山反。冕问“三日”之说。梁凤曰：“东京日即自磨灭，蜀川日亦不能久此，间日何转分明。”其后禄山僭号，玄宗幸蜀，肃宗即位于灵武，冕果为中书侍郎平章事。



叶法善少传符录，尤能厌劾鬼神。尝于东都凌虚观设醮，城中士女竞往观之。俄顷数十人自投火中。观者大惊，救之而免。法善曰：“此皆魅病，为吾法摄耳。”问之，果然。法善悉为禁劾，其病愈。

苗晋卿尝遇老父问曰：“要知前事乎？”晋卿曰：“应举已久，有一第分乎？”曰：“大有事”，但更问曰：“晋卿困穷，爱一郡，宁可及乎？”曰：“更向上。”曰：“廉察乎？”曰：“更向上。”曰：“将相乎？”曰：“更向上。”苗怒，全不信曰：“将相向上，是天子矣！”曰：“真者即不得，假者即得。”晋卿以为怪诞，揖之而去。后果为将相。玄宗崩，摄冢宰三日。

朱梁，仇殷艺术精密，太祖之在长芦也，诸将请攻壁，令军中入负蓐二围，真于积。俄而云集，殷曰：“何用？”或以所谋告之。殷曰：“我占之矣，不见攻壁象，乃自退乎？”翌日，有骑驰报，丁会以潞州畔。太祖令尽焚其蓐而还。

后唐，周元豹有袁、许之术。大略状人形貌，比诸龟、鱼、禽、兽，目视臆断，咸造其理。见王都曰：“形若鲤鱼，难免刀几。”都竟被杀。卢程衣道士服，与同志二人谒焉。元豹曰：“二君子明年花发，俱为故人。唯道士甚贵。”至来岁，二子果卒，程后登庸。

五代，周翟光邺，肤革肥皙，善于摄养，仕至枢府。司天监赵延义有袁、许之术，尝谓人曰：“翟君外厚而内薄，虽贵而无寿。”卒时年四十六。

赵延义，清泰中尝与枢密直学士吕琦同宿于内庭。琦因从容密问国家运祚。延义曰：“来年厄会之期，俟遇过别论。”琦询之不已，延义乃曰：“保邦在刑政，保祚在福德。干刑政则术士不敢言，奈际会诸公罕有卓绝。福德者，下官实有恤纬之僭。”

五代，汉隐帝时，宫中数有怪。大风雨发屋拔木，吹破门扇，起十余步而落，震死者六七人，水深平地尺余。帝召司天监赵延义，问以禳祈之术。对曰：“臣之业在天文时日，禳祈非所习也。然王者欲弭灾异，莫如修德。”延义归，帝遣中使问如何为修德？延义请读《贞观政要》而法之。

巧 艺

宋时能棋，王抗第一。褚思庄、夏赤松第二。赤松思速，善于大行；思庄思迟，工于斗棋。齐高帝使思庄与抗交赌，自食时至日暮，一局始竟，上倦遣还省，至五更方决。抗睡于局后，思庄达旦不寐。或云：“思庄所以品高，缘其思深久，人不能对。”

王僧虔论书云：“从祖中书令珣书。”子敬曰：“弟书如骑驃駉駉常欲度骅骝前。”庾征西翼书，少时与右军齐名。右军后进，庾犹不愤。在荆州与都下人书云：“小儿辈贱，家鸡。皆学逸少书。须吾下，当比之张翼。”王右军自书表晋穆帝，令翼题后云。右军当时不别，久方悟云：“小人几欲乱真”。

齐，王彩习篆隶。时人语云：“三真六草，为天下宝。”



宋，垣荣祖善弹，登西楼见翔鸽云中，谓左右当生取之。于是弹其两翅，毛尽脱，坠地不伤。养毛，生后飞去。其妙如此。

褚澄能医，李道念有冷疾五年。澄曰：“汝病是食白沦鸡子过多。”取苏一升，令煮服之，吐一物如升，涎裹之，乃是鸡雏，翅、羽、爪、距皆具，凡十三头而病愈。

徐秋夫能医，尝夜有鬼呻吟，声甚凄怆。秋夫问：“何须？”答言姓某，家在东阳，患腰痛死。虽为鬼，痛犹难忍，请疗之。秋夫曰：“云何厝法？”鬼请为刲人，按孔穴针之。秋夫如言，为灸四处，又针肩井三处，设祭埋之。明日见一人谢恩，忽然不见。

宋文帝云：“天下有五绝，而皆出钱唐。谓：‘杜道鞠弹棋；范悦诗；褚欣远模书；褚允围棋；徐道度疗疾。’道度，秋夫字也。”

薛伯宗善徙痼疽。公孙泰患背，伯宗为气封之，徙置庭前柳树上。明旦痼疽消，树边起一瘤如拳大，稍稍长二十余日，瘤大脓烂出黄赤汁斗余，树为之痿损。

宋，羊欣字敬元，尤长隶书。年十二夏月，著新绢裙，昼寝王献之，至书裙数幅而去。欣书本工，由此弥善。

宋，有嵇元荣、羊盖者，善弹琴。云传戴安道法，齐柳惔从之学，特穷其妙。竟陵王子良曰：“卿巧越嵇心，妙臻羊体。”惔尝赋诗未就，以笔插琴，客以箸扣之。惔惊其哀韵，乃制为雅音，后传击琴自此始。

齐，刘瑱妹为鄱阳王妃，伉俪甚笃。王为明帝所诛，妃追伤遂成痼疾。有陈郡殷善善画，瑱令画王形像并图王所宠姬，共照镜状。如欲偶寝以示妃唾之，因骂云：“宜早死。”由此病愈。

梁，萧子云善草隶，武帝论其书曰：“笔力劲峻！心手相应，巧逾杜度，美过崔实，当与元常并驱争先尔。”子云出为东阳太守，百济使人求书，望船三十许步拜行前，子云为停船三日，书三十纸与之，得金宝数百万。

齐，萧铤善射，常以朔的太阔曰：“终日射侯何难之有？”乃取甘蔗插地，百步射之十发十中。

齐，萧为遥善画，于扇上图山水，咫尺之内便觉万里为遥。矜慎不传，自娱而已。

梁，宣城王于东府起斋，令顾野王画古贤，命王襄书赞，时人称为一绝。

梁，颜协工于草隶飞白，荆楚碑碣皆协所书。时又有会稽谢善助，能为八体六文方寸千言。

自汉始有佛像，形制未工。宋戴禺父子特善其事，宋世子铸丈六铜像于瓦官寺，既成，面瘦乃臂胖肥耳，乃减臂胖，瘦患即除，观者叹服。

西魏，文帝造二欹器，一为二仙人共持一钵，同处一盘，钵盖有山，山有香气。又一仙人持金瓶以临器上，倾水灌山而注乎器；烟气通发山中，谓之“仙人欹器”；一为二荷同处一盘，相去盈尺，中有莲下垂，器上以水注荷，则出于莲而盈乎器，为凫雁蟾蜍饰之，谓之“水芝”。欹器二器皆置清徽前，形似觥而方，满而平，溢则倾。



隋，耿询之巧思若神，创意造浑天仪。不假人力以水转之，施于暗室中，外候天时动，合符契，又作马上刻漏，世称其妙。

北齐，马嗣明善医，杨愔患背肿，嗣明以练石涂之便痊，因此为愔所重，练石法取炼黄石如鹅鸭卵大，猛火烧令赤，纳醇醋中自有石屑落醋里，频烧至石尽取石屑，曝乾捣下徒和醋，以涂肿上无不愈。

梁，姚僧坦，武帝常因发热服大黄，僧坦曰：“至尊年高，大黄快药，不宜轻用。”帝弗从，遂至危笃。梁元帝尝有心腹疾，诸医皆请用平药。僧坦曰：“脉洪实，宜用大黄。”从之，因而疾愈，赐钱百万。

隋，许智藏，秦王俊疾，文帝驰召之。俊夜梦其亡，妃崔氏泣曰：“本来相迎，今召许智藏必当相苦，奈何？”明夜又梦曰：“妾得计矣，当入灵府中避之。”智藏至为俊诊脉曰：“疾已入心”。即死。

隋，何稠有巧思，炀帝伐辽，稠制行殿及六合城，帝于辽左与贼相对，夜中城之，其城周回八里及女垣合高千仞，上布甲士，立仗建旗，四隅置阙，面列一观，观下三门，比明而毕。高丽望见，谓若神功。

宇文恺为炀帝造观风行殿，上容侍卫者数百人，离合为之，下施轮轴推移，倏忽有若神助，人见之者莫不惊骇。

中国久绝琉璃之作，匠人无敢厝意。何稠以绿瓷为之，与真不异。

唐，尉迟敬德善用稍，每单骑入贼阵，贼稍攒刺终不能伤，又能夺取贼稍还以刺之。齐王元吉亦善马稍，欲与相较，凡三夺元吉之稍，元吉虽相叹异然，甚以为耻。

虞世南、同郡沙门智永，善王羲之书。世南师焉，妙得其体。太宗以世南有五绝，书翰是其一。

薛稷尤工隶书，自贞观永徽之际，虞世南、褚遂良时人宗其书，自后罕复能继者。稷外祖魏征家富图籍，多有虞、褚旧迹。稷锐精模仿，笔迹遒丽，当时无及之者。又善画，博采古迹，睿宗在藩留意小学，稷于是时特见招引。

太宗工王羲之书，尤善飞白。尝宴三品于元武门，帝操笔作飞白字，赐群臣，或乘酒争取于帝手。刘洎登御床，引手得之。皆奏曰：“洎登御床，罪当死，请付法。”帝笑曰：“昔闻婕妤辞辇，今见常侍登床。”

阎立本善画，《秦府十八学士图》及贞观中《凌烟阁功臣图》，并立本之迹也，时人称妙。太宗与侍臣学士泛舟于春苑，池中有异鸟随波容与，太宗击赏，诏坐者赋诗，召立本令写焉。阁外传呼云：“画师阎立本。”时已为主爵郎中，奔走流汗，俯伏池侧，手挥丹粉。瞻望座宾，不胜愧赧。退戒其子曰：“吾少学读书，今唯以丹青见知，躬厮役之务，辱莫甚焉，汝宜深戒，勿习此末技。”

太宗尝谓魏征曰：“虞世南死后，无人可与论书。”征曰：“褚遂良下笔道劲，甚得王逸少体。”太宗即日召令侍书。太宗出金帛购王羲之书，天下争献，遂良辨认真伪，一无



舛误。

高宗以裴行俭工草书，以绢素百卷令行俭草书《文选》一部。帝览之称“善”，赐帛五百段。行俭尝谓人曰：“褚遂良非精笔佳墨，未尝辄书，不择笔墨而妍捷者，唯余与虞世南耳。”

韩皋生知音律，尝观弹琴至止息。叹息：“妙哉，嵇生之为是曲也，其当晋魏之际乎，其音主商，商为秋声，秋也者，天将摇落肃杀，其岁之宴乎？又晋乘金运，商金声，此所以知魏之季而晋将代也。慢其商弦与宫同音，是臣夺君之义也，所以知司马氏之将篡也。司马懿受魏帝顾托，后嗣反有篡夺之心，自诛曹爽，逆节弥露。王凌都督扬州，谋立荆主彪，毋邱俭、文钦、诸葛诞前后相继为扬州都督，咸有匡复魏室之谋，皆为懿父子所杀。叔夜以扬州故广陵之地，彼四人者皆魏室文武大臣，咸败散于广陵也。止息者，晋虽暴兴终止息于此也。其哀痛躁蹙，惨痛迫胁之旨，尽在是矣。永嘉之乱其应乎，叔夜撰此将贻后代之知音者，且避晋魏之祸，故托之于鬼神也。”

李皋尝运巧思为战舰，挟二轮，蹈之翔风疾鼓，若挂飘席，又造欹器，进入内中，所造皆省易而久固。

柳公权初学二王书，遍阅近代笔法，体势劲媚，自成一家。当时公卿大臣碑板，不得公权手笔者，人以为不孝。外夷入贡，皆别署货，具曰：“此购柳书。”上都西明寺《金刚经》碑，备有钟、王、欧、虞、褚、陆之体，尤为得意。文宗夏日与学士聊句，帝曰：“人皆苦炎热，我爱夏日长。”公权续曰：“薰风自南来，殿阁生微凉。”文宗吟讽以为词清意足，令公权题于殿壁，方圆五寸，帝视之叹曰：“钟、王复生何以加焉？”大中初转少师中谢，宣宗召升殿御前书三纸：一纸真书十字曰：“卫夫人传笔法于王右军。”一纸书十一字曰：“永禅师真草千字文得家法。”一纸草书曰：“谓语助者焉哉乎也。”赐银锦等，仍令自书谢状，勿拘真行，帝尤奇惜之。

懿宗时，伶官李可及能转喉为新声，音词曲折，听者忘倦。同昌公主除丧，帝与淑妃思念不已。可及为叹百年舞曲，舞人珠玑盛饰者数百人，画鱼龙地衣，用官绁五千匹，曲终乐关珠玑覆地，词语凄侧，闻者流涕。可及为子娶妇，帝赐酒二银樽，启之，非酒，皆金翠也。僖宗即位逐死岭南。

欧阳询初学王羲之书，渐变其体，笔力险劲，为一时之绝。人得其尺牍文字，咸以为楷范。高丽甚重其书，尝遣使求之，高祖叹曰：“不意询之书名，远播如此，彼观其迹，固谓其形魁梧耶，以貌寝陋故也。”

贺知章善草隶书。时有吴郡、张旭亦与知章相善，旭善草书而好酒，每醉后号呼狂走，索笔挥洒，变化无穷，若有神助，时人号为“张颠”。

王维书画特臻其妙，笔端措思，参于造化而创意，经图即有所缺。如山水平远，云峰石色，绝迹天机，非绘者之所及也。

拂菻即大秦国也，其俗无瓦，搗白石为末，罗之涂屋上，其坚密光润还如玉石。至于



盛暑人歊烦，乃引水潜流上遍于屋宇，机制巧密人莫知。观者惟闻屋上泉鸣，俄见四檐飞溜悬波，如瀑激气成凉风，其巧妙如此。

元宗开元十三年，作水运“浑天仪”成。上具列宿，注水激轮，令其自缚，昼夜一周，别置二轮络在天外，缀以日月逆天而行，淹速合度，置木柜为地平令仪半在地下。又立二木人每刻击鼓，每辰击钟机械皆在匱中。

后唐，庄宗与梁人隔水相抗，李存进欲造浮桥，军吏曰：“河桥须竹索大编，两岸石仓铁牛以为固。今无竹石，窃虑难成。”存进曰：“吾成算在心，必有所立。”乃令军造苇索维大舰数十艘，作土山植巨木于岸以纆。之初，军中以为戏，月余桥成，制度条直，人皆服其勤智。庄宗举酒曰：“存进，吾之杜预也”。

排调

宋，何尚之与颜延年少好相狎，二人并短小，尚之尝谓颜延年为猴；延年目尚之为猴。同游太子西池，延年问路人云：“吾二人谁似猴？”路人指尚之为似。延年喜笑，路人云：“彼似猴尔，君乃真猴。”

宋孝武宠姬殷贵妃薨，葬毕，数与群臣至墓次。谓刘德愿曰：“卿哭贵妃，若悲，当加厚赏。”德愿应声便号恸。上悦，以为豫州刺史。又令医人羊志哭，志亦鸣咽。它日，或问志：“那得此副急泪？”志时新丧嬖人，答曰：“我尔日自哭亡妾耳”。

谢眺告王敬则反。敬则女为眺妻，常怀刃欲报眺，眺不敢相见。及眺当拜吏部郎中，谦抑尤甚。尚书郎范缜嘲之曰：“卿人才无惭小选，但恨不可刑于寡妻。”

王裕之形状短小而起坐端方，桓元谓之“弹棋发八势”。

梁武帝赏接到溉，每与对棋，从夕达旦或复失寝，加以低睡。帝以诗嘲之曰：“状若丧家狗，又似悬风槌。”

宋，沈昭略逢王约，张目视之曰：“汝为王约耶，何以肥而痴？”约曰：“汝是沈昭略耶，何乃瘦而狂？”昭略抚掌大笑曰：“瘦已胜肥，狂又胜痴，奈何王约奈尔痴何。”

齐，柳惔甚重其妇，颇成畏惧。性爱音乐、女妓精丽，惔略无敢视仆。射张覆与惔狎密而为惔妻所敬。覆每诣惔，必先通问夫人。惔欲见妓，常因覆以请，然后俟妻隔楼坐，令诸妓出，惔始得寓目焉。

梁，刘諠为湘东王所善。王一目。尝游江滨叹秋望之美，諠曰：“今日可谓帝子降于北渚。”王以为刺已，曰：“卿言目眇眇而愁予耶？”由此嫌之。

齐，王俭与王敬则同拜三公。徐孝嗣于崇礼门候俭，因嘲之曰：“今日可谓连璧。”俭曰：“不意老子遂与韩非同传。”

梁，刘之遴尝梦为折臂太守，后果牛奔堕车折臂，为南郡太守。周舍戏之曰：“虽复并坐可横，政恐陋巷无枕。”



齐，高爽诣孙抱，了无故人之怀。取笔书鼓云：“徒有八尺围，腹无一寸肠。面皮如许厚，受打未渠央。抱形体肥壮，腰带十围爽。”故以讥之。

王伟，侯景之徒也。景败，元帝爱其才将舍之。朝士多忌之曰：“前日伟作檄文有异词句”，帝求而观之云：“项羽重瞳尚有乌江之败，湘东一目宁为四海所归？”帝大怒，以钉钉其舌于柱，刺其肠，颜色自若。

宋世君臣好以父讳为戏。王僧虔子慈，谢凤子超宗。慈方学书，超宗曰：“卿书何如虔公？”慈曰：“慈书比大人，犹鸡之比凤。”王彧之子绚，何尚之子偃。绚五六岁读书《论语》至周监于二代郁郁乎文哉。外祖何尚之戏曰：“可改作耶耶乎文哉。”绚曰：“尊者之名安可为戏？”宁可道草上之风必舅。殷淳之子孚，何无忌之子勔，尝供食于羹尽。勔曰：“益殷羹羹。”孚答曰：“何无忌讳。”谢庄之子沦，刘劭之子俊，尝同饮。俊曰：“谢庄儿不可云不能饮。”沦曰：“苟得其人自可流涎千日。”蔡兴宗之子约，王僧虔之子慈。同入寺，遇沙门忏。约曰：“众僧今日可谓虔虔？”慈应声曰：“卿如此何以兴蔡氏之宗？”张邵小名“黎”，子敷小名“檀”。文帝戏之曰：“檀何如梨？”敷曰：“梨是百果之宗，檀何敢比也。”孝武好诋群臣，并使自相嘲讪以为欢笑。一日，使王僧郎戏其子景文江。智深正色曰：“恐不宜有此戏。”上怒曰：“江僧安痴人，痴人自相惜。”僧安智深之父也，智深避席流涕。谢凤之子超宗，谢庄之子肱，宋明帝敕二人由凤庄门入。超宗曰：“君命不可不往。”乃趋入。肱曰：“君处臣以礼。”遂不入。

元孚性机辩好酒，貌短而秃。周文帝偏所眷顾，尝于室内置酒十缸，缸余一斛；上皆加帽，欲戏孚。适入室见即惊喜云：“吾兄弟辈甚无礼，何为窃入王家，匡坐相对宜早还宅也。”因持酒归，周文拊手大笑。

北齐，宋游道，重交游，存然诺。时人云：“游道猕猴面，陆操科斗形，意识不关见，何谓丑者必无情。”李构尝因游道会客，因戏之云：“贤从在外宜自迎接，为之通名称族。弟游山游道，出见之，乃猕猴而衣帽也。”

郑译请还治疾，隋文帝召见于醴泉宫，令内史李德林立作诏书：复爵沛国公、上柱国。高颖戏曰：“笔乾。”译曰：“出为方岳，杖策言归。不得一钱，何以润笔。”帝大笑。

北齐，李庶生而天阉，崔暹调之曰：“教弟种须，以锥通刺作孔，插以马尾。”庶曰：“请以此方回施贵族艺眉。”世传诸门有痼疾，故庶之言如此。

北齐，孙搴学浅行薄，邢邵尝谓曰：“须臾读书。”搴曰：“我精骑三千足敌君羸卒数万。”搴尝服棘丸，李谐调之曰：“卿应自足，何暇外来？”坐者皆笑。

柳机、柳昂在周朝俱历显要。至隋受禅并为外职。时杨素方用事，因文帝赐宴，素戏机云：“二柳俱摧，孤杨独耸。”

隋，侯白好俳谐，杨素与牛宏退朝，白曰：“日之夕矣。”素曰：“以我为牛羊下来耶。”

北齐，徐之才嘲王昕姓云：“有言则汪，近犬便狂。加颈足而为马，施角尾而成羊。”



又嘲卢元明云：“在上为虐，在邱为虚。生男为虏，配马成驴。”

梁，宗如周面狭长，萧督戏之曰：“卿何为谤经？”如周曰：“自来不谤经。”督大笑：“君当不谤余经，正应不信《法华经》尔。”盖《法华经》云：“闻经随喜面不狭长也。”周乃悟。

苏威之子夔，少聪敏，杨素甚奇之，戏威曰：“杨素无儿，苏夔无父。”

隋，柳调为侍御史。”杨素曰：“柳条通体弱，独摇不禁风。”调敛板正色曰：“调信无取者，公不当以为侍御史；调信有可取，不应发此言。公当具瞻之地，枢机何可轻发？”素甚奇之。

隋，麦铁杖，因朝集考功郎。豆卢威嘲之曰：“麦是何姓？”铁杖曰：“麦豆不殊，那忽相怪。”威赧然，无以应之。

唐，阎立本为右相，姜恪为左相。恪立功塞外，立本尤善图画，非宰辅之器。时人语曰：“左相宣威沙漠；右相驰誉丹青。”

虞世基，世南兄也，许善心敬宗父也，同为宇文士及所害。封德彝时为内史舍人，各见其事。因谓人曰：“世基被诛，世南匍匐而请代；善心之死，敬宗舞蹈以求生。”人以为口实，敬宗深衔之。

李昭德，则天时为相。有人于洛水中获白石，有数点赤，诣阙进之。宰相问其故，对曰：“为此石赤心，所以来进。”昭德叱之曰：“此石赤心，洛水中余石岂尽反邪？”左右皆笑。

来俊臣与李昭德素不协，乃诬搆昭德有逆谋，囚下狱。俊臣以罪，同日被诛。是日大雨，士庶莫不痛昭德而庆俊臣也，相谓曰：“今日天雨，可谓一笑一悲矣。”

则天时，三月雪，苏味道等以为瑞，草表将贺。王求礼止之曰：“宰相调变阴阳，而致雪降暮春，灾也，安得为瑞，如三月雪为瑞，则腊月雷亦为瑞矣。”举朝嗤笑，以为口实。

苗晋卿为吏部侍郎，御史中丞张倚、男夷参选为书判之首。众知夷不读书，议论纷然。元宗亲试之，夷持纸竟日不下一字，时谓之“曳白”，上怒，贬张倚为淮南太守。敕曰：“门庭之间不能训子；选调之际，仍以托人。”时，士子皆以为戏笑。

朱泚僭逆，姚令言为侍中源休同知政事。群凶宴乐既醉，令言与休论功，令言自比萧何，休曰：“帷幄之谋，成秦之业，无出于之右者。吾比萧何，子为曹参可矣。”时朝士在贼庭者闻之皆笑，谓休为“火迫鄢侯。”

乔琳好谈谐侮虐，为监察御史，与同寮毕曜嘲消往复。因成衅隙，遂以公事互相告诘，坐贬巴州司户。朱泚僭逆，琳掌贼中吏部，选人前白曰：“所注某官不稳便。”琳答曰：“足下谓此选竟稳便乎？”

李泌为相，奏请罢拾遗补阙，上虽不从，亦不除人，故谏司惟韩皋归登而已。泌仍令收其署谗钱，令登等寓食于中书舍，故时戏云：“韩谏议难分左右，归拾遗莫辩存亡。”



顾况性好诙谐。柳浑、李泌与之厚，自谓知己。秉枢要当得达官久之，迁著作郎，况不乐，求归于吴。班列群官皆有侮玩之目，人皆恶嫉之。泌卒，况不哭，而有调笑之言，为宪司所劾，贬饶州司户。

关播奇重李元平令知汝州。御李希烈，至部募人修城。希烈令数百人投募，缚元平驰去，既见希烈遣下行地，希烈见其眇小无须，戏谓人曰：“使汝取李元平，何故将元平儿来？”因骂曰：“瞎宰相使汝当我，何待我浅也。”

李实奏不早，由是租税皆不免。人穷无告，乃彻屋瓦，卖麦苗以供赋敛。优人成辅端因戏作语云：“秦地城池二百年，何期如此贱田园。一顷麦苗伍硕米，三间堂舍二千钱。”如此语有数十篇，实以为诽谤，德令遽令杖杀此优。

王士平尚宪宗义成公主，纵恣不法。士平与之忿争，宪宗幽公主于禁中，幽士平于私第。后释之。时轻薄文士蔡南史为团雪、散雪等曲，言游处离异之状，往往歌于酒席，宪宗闻而恶之，欲废进士科。

于頔为苏州刺史。暴横，观察使王纬奏其事，德宗不省。后頔累迁，乃与王纬书曰：“一蒙恶奏，三度改官。”

刘禹锡，元和十年自武陵召还，宰相复欲置之郎署。时禹锡作《游元都观咏看花君子诗》，语涉讥刺，执政不悦，复出连州。大和二年自和州召还，复作《游元都观诗》。前篇云：“紫陌红尘拂面来，无人不道看花回。元都观里桃千树，尽是刘郎去后栽。”后篇云：“百亩庭中半是苔，桃花净尽菜花开。种桃道士归何处？前度刘郎又到来。”人嘉其才而薄其行。

韩退之戏孟郊云：“公合谏安禄山？”郊低头云：“谏即不识大知有它。”

豆卢瑑乾符中作相。宣制曰：“大风雷雨拔树，左丞韦蟾贺之。”瑑言及雷、雨之异，蟾曰：“此应相公为霖作解之祥也。”瑑笑曰：“霖何甚耶？”及巢贼犯京师，僖宗出幸，瑑死于张直方之第。识者以为风雷不令之兆。

郑薰善为诗多侮剧刺时，故落格调，时号“郑五歇后体”初去卢江与郡人别云：“惟有两行公廨泪，一时洒向渡头风。”滑稽皆此类也。

姜师度好沟渎，所在必发众穿掘，虽有不利而成功亦多。先是太史令傅忠孝善占星纬，时人语曰：“傅忠孝两眼看天，姜师度一心穿地。”人传之以为口实。

酷吏郭霸为鬼所杀。时洛阳桥坏，行李病之，至是功毕。则天问群臣比在外有何好事，舍人张元一素滑稽。对曰：“百姓喜洛阳桥成，幸郭霸死，此即好事。”

王勃为沛王府修撰。诸王斗鸡互有胜负，勃戏为《檄英王鸡》。文高宗览之，怒曰：“据此是交构之渐。”即日，斥勃不令人府。

邓元珽为吏部侍郎，既不称职，甚为谈者所鄙。又患消渴之疾，选人目为“邓消渴”，为诗榜于道路。自唐以来掌选之失，未有其比也。

薛逢与刘瑑相善，而瑑词艺不逮。逢每侮之，至大中末瑑稍历禁近。逢愈不得意，自



是相怨。璩作相，逢为郎官，有荐逢知制造者，璩以先朝立制给舍须历郡县。而逢未尝治郡，出为巴州刺史。既而沈询、杨收、王铎由学士相继作将相，皆逢同年进士。而逢文艺最优，杨收作相。逢有诗云：“须知金印朝天客，同是沙堤避路人。威凤偶时皆瑞圣，潜龙无水漫通神。”收闻而大衔之，出为蓬州刺史，收罢相入为太常少卿给事中。王铎作相，逢又有诗云：“昨日鸿毛万钧重，今朝山岳一毫轻。”铎亦怨之。以恃才褻急，人士鄙之，终于秘书监。

崔善为为尚书左丞。令史恶其聪察，以其短而身伛嘲之曰：“崔子曲如钩，随例得封侯，膊上全无项，胸前别有头。”高祖购造言者加其罪。

秦宗权为其爱将申丛所执；昭宗御延喜楼受俘。京兆尹孙揆以组练系之，徇于两市。宗权槛中引颈谓揆曰：“尚书明鉴，宗权岂反者耶？但输忠不效尔。”众大笑。

景龙中，每霖雨必闭坊门禳灾？右卫骑曹宋务先上疏云：“雨赐或愆，貌言为咎，岂有一坊一市遂能感召星灵？暂闭暂开便欲发挥神道？至今巷议街言，共呼坊门为宰相，谓能节宣风雨，燮调阴阳。如是则赫赫尹尹便为虚设，悠悠苍生复何所望？”景龙中，东都霖雨百余日，闭坊市北门，驾车者甚苦。迂远街市言曰：“宰相不能调阴阳，致兹恒雨令我迂行。”会中书令杨再思过，谓之曰：“于理则然，亦卿牛劣耳。”

顺宗宪宗为太子，中外相贺，至有感泣者。王叔文独有忧色，口不敢言，但吟杜甫诗云：“出师未捷身先死，长使英雄泪满襟。”闻者哂之。

僖宗善骑、射、槊、法算，至于音律、蒲博，无不精妙。好蹴鞠、斗鸡，与诸王赌鹅，鹅一头至直五十缗。尤善击球，尝谓优人石野猪曰：“朕若应击球进士举，须为状元。”野猪对曰：“若遇尧、舜作礼部侍郎，陛下不免驳放。”上笑而已。

昭宗时，秦裴为杨行密守昆山，钱镠使顾全武攻之不下。全武檄裴令降。全武尝为僧，裴封函纳款，全武喜，召诸将发函，乃佛经一卷，全武大惭，曰：“裴不忧死，何暇戏乎！”益兵攻城，引水灌之，裴乃降。全武劝钱镠宥之，镠从之。时人称全武长者。

昭宗时，李茂贞劫驾幸凤翔。朱全忠围城。攻城者诟城上人云：“劫天子贼”乘城者诟城下人云：“夺天子贼”

朱，梁成汭初作僧，后镇荆南。抚辑雕残。时韩建亦披荆棘以缉华州，人号“北韩南郭”。初，汭朗二州本属荆南，乾宁中为土豪雷满所据，汭奏请割隶唐，宰相徐彦若执而不行，汭衔之。及彦若出镇南海，路过江陵，汭犹快语及前事，彦若曰：“令公位尊方面，自比桓文，雷满者偏州一草贼尔，令公何加兵而反怨朝廷乎？”汭赧然而屈。因思岭外有黄茅瘴，患者皆发落，乃谓彦若曰：“黄茅瘴望相公保重。”彦若应声曰：“广南黄茅瘴，不死成和尚。”讥汭曾为僧也。汭终席惭赧。

后唐，庄宗刘后生皇子继岌。后父刘叟以医为业，诣邺宫自陈。后方与诸夫人争宠，耻为寒族，笞刘叟于宫门。庄宗好俳优，宫中暇日自负药笈，令继岌携敝盖相随，自称刘山人来访。后大怒，笞继岌。



后唐，僧惠云：“能役使毒龙，可致风雨。”其从号为“降龙大师”。京师旱，庄宗迎至洛下，亲拜之，六宫参礼，士庶瞻仰，谓朝夕可致甘泽。祷祝数旬，略无征应。或谓：“官以祈雨，无验将加焚燎。”惠惧而遁去。及卒，赐名“法雨大师”。塔曰“慈云之塔”。

石晋，桑维翰，身短面广。每对鉴。自叹曰：“七尺之身，何如一尺之面。”登第，同榜四人，秦王幕客陈保极戏谓人曰：“今岁三个半人及第。”以维翰短陋，故谓之半人也。

石晋，王松。契丹北迁，萧翰立许王从益伪署，松为左丞相。汉祖入洛，先降诏谕令受伪命者，可并焚毁，勿至忧疑。于是台司悉敛伪署告牒焚之。松以手自指其胸谓同列曰：“此即二十四孝中书令也。”

五代周，张可复依晋公霍彦威为青州从事。晋公以其滑稽好避事，目为奸兔儿。

唐庄宗趋大梁，梁主召宰相相谋之，郑珣请自怀传国宝诈降，以纾难。梁主曰：“今日固不敢受宝，但如卿此策果可了否？”珣俛首久之，曰：“但恐未了。”左右皆缩颈而笑。

唐庄宗，或自传粉墨，与优人共戏于庭，以悦刘夫人，名谓之“李天下”。尝因为优，自呼曰：“李天下，李天下”，优人敬新磨遽前，批其颊，帝失色，群优亦骇愕。新磨徐曰：“理天下者只此一人，岂有两人耶？”帝悦，厚赐之。

湖南高从诲，时唐、晋、契丹、汉更据中原。汉、闽、吴、蜀皆称帝，从海利其赐予，所向称臣，诸国贱之。号“高无赖”。

江南边镐克建州，凡所俘获，皆全之，建人谓之“边佛子”；及克潭州，市不易肆，潭人谓之“边菩萨”。既为潭帅，政无纲纪，惟日设斋供盛修佛事。潭州人失望，谓之“边和尚”矣。

周行逢兼总湖湘，留心民事，悉除马氏横赋。自王达、刘言以来，屡举兵，将吏积功及所羁縻蛮夷，检校官三公者，以千数。行逢生日，诸道各遣使致贺。行逢有矜色，谓徐仲雅曰：“四邻亦畏我乎？”仲雅曰：“侍中境内，弥天太保，遍地司空，四邻哪得不畏！”

江南翰林学士常梦锡，屡言冯延巳等虚诞。唐主不听，梦锡曰：“奸言似忠，陛下若不悟，亡国必矣。”及臣服于周，冯延巳之党相与言，有谓周为大朝者。梦锡大笑曰：“诸公尝欲效君尧、舜，何意今日为小朝邪？”

卷 七

自 新

齐，王洪轨为晋寿太守，多赋赃贿，为州所按，大惧，弃郡奔。建业复为青、冀二州刺史，悔为晋寿时货赋所败，更厉清节。



朱，萧思话十许岁时未知书，好骑屋栋打细腰鼓，侵暴邻曲，莫不患之。自后折节，数年中遂有令誉。

齐，张充，绪之子也。绪归吴，逢充猎。右臂鹰，左牵狗，曰：“一身两役，母乃劳乎？”充拜曰：“充闻三十而立，今充二十九矣，请至来岁。”绪曰：“过而能改，颜氏有焉。”及明年，便修改，多所该通，尤明易老，能清言有令誉。

齐，高帝有故吏竺景秀，尝以过系作部。高帝谓荀伯玉：“卿比看景秀否？”答曰：“数往候之，备加责诮。”云：“若许某自新，则吞刀、刮肠、饮灰、洗胃。”帝善其言，乃释之。

梁，萧恪为雍州刺史，委政群下，贿赂公行。客有江仲举、蔡远、王台卿、庾仲容皆有蓄积。人间歌曰：“江千万、蔡五百、王新车、庾大宅。”武帝续之曰：“主人愤愤不如客。”帝以示恪，恪大惭，乃折节学问，所历以善政称。

魏，甄甄举秀才入都，颇以奕棋废日。至通夜不止，令苍头执烛，或时睡顿则杖之。奴曰：“郎君辞父母仕宦，若读书执烛不敢辞。今乃围棋日夜不息，岂是向京之意乎？”甄怆然惭感，遂诣赤彪，假书研习，闻见日优。

隋，杨汪少凶疏，好与人群斗拳，所殴击无不颠踣。长更折节勤学，专精《左氏传》，通三礼，解褐周翼王侍读，王甚重之，每曰：“杨侍读，吾之穆生也”。

长孙顺德受人馈绢，唐太宗于殿廷赐绢数十疋以愧其心。云：“得绢甚于刑戮，如不知愧，一禽兽尔，杀之何益”顺德后为泽州刺史，折节为政，号为“明肃”。先是长吏多受馈饷，顺德纠摘一无所容，称为“良牧”焉。

太宗以柳亨为光禄少卿。戒之曰：“与卿旧亲情素甚厚，卿为人交游过名。今授此职，宜存简静。”亨性好射猎，有“饔飧”之名。此后颇自伤厉，杜绝宾客，约身节俭，太宗亦以此称之。

赵武孟，初以驰骋田猎为事。尝得肥鲜以遗母病，泣曰：“汝不读书而田猎，如是我无望矣！”竟不食其膳。武孟感激勤学，遂博通经史，举进士，官至右台御史。

程异以王叔文之党贬。元和初，李巽荐异晓财赋，请弃瑕录用，擢领淮南五道两税使。异自悔前非，厉已竭节。江淮钱穀之敝多所划革，不剥下，不浚财，经费以赢，人颇便之，后为宰相。

石晋，王建立位居方伯，为政严烈，其刑失于人者不可胜纪。时人目之为“王垛叠”，言杀人而积其尸也。晚年归心释氏，饭僧营寺，戒杀慎狱，民稍安之。

企 羨

齐，王俭，作解散幘斜插簪，朝野慕之，相与仿效。俭常谓人曰：“江左风流，宰相惟有谢安。”以自况也。俭生子，字曰元成，取仍世作相之义。



梁，何思澄终日造谒，每宿昔作名纸一束，晓使命驾，朝贤无不悉拜。所在命食，有人方之娄护，思澄欣然当之。

北齐，李神隼晚年无子，见崔瞻才学风流，为后来之秀。叹谓邢邵曰：“昨见崔校儿便为后生第一，我遂无此物，见此使人伤怀。”

后魏，明帝灵太后，尝宴华林园。举觞谓群臣曰：“袁尚书朕之杜预也。”欲以此杯敬属元凯。令为尽之，侍座者莫不羡仰。

唐，李袭誉好写书，谓子孙曰：“吾近京城有赐田十顷，耕之可以充食；河内有赐桑千株，蚕之可以充衣；江东所写之书，读之可以求官。吾没之后，尔曹但勤此三事，何羡于人。”

唐初，选尚多于贵戚或武臣节将之家。宪宗时，翰林学士独孤郁，权德舆之女婿。德舆作相，郁避嫌辞内职，上颇重学士，不获已许之。且叹德舆有佳婿，遂令宰相于卿士家，选文雅之士可居清列者以尚。岐阳公主人皆辞疾不应，唯杜惊愿焉，仕至三公。

玄宗时太平久，朝廷尊。虽冗官擢居方面，皆自谓“下迁”。倪若术为汴州刺史，见班景倩人为大理少卿，钱于郊，谓之“登仙”恨不得为貽仆焉。

武后时，宗楚客坐赃，贬。太平公主观其第舍，叹曰：“见其居处吾辈乃虚生尔。”

湖南马希声闻梁太祖食鸡，慕之。日杀五发引顿食鸡臠数盘。前吏部侍郎潘起，讥之曰：“昔阮藉居丧食蒸豚，何代无贤。”

后晋，梁文矩善清静之教，聚道书数千卷，企慕赤松留侯之事，而服食尤尽其善。然病痼疾五十九终。

简傲

王瞻，字明远，负气傲俗好贬裁人物。仕宋为王府参军，尝谒刘彦卿直登榻曰：“君侯是公孙，仆是公子，引满促膝唯予二人。”彦卿不悦。

黄门郎路琼之，太后之兄，庆之之孙也，与王僧达邻居。盛车服以谒僧达。僧达不与语，谓曰：“身昔门下貽人路庆之者，是君何亲？”遂焚琼之所坐床。太后怒，泣涕诉于孝武帝。帝曰：“琼之年少，无事谒王僧达，见辱，乃其宜尔。”

齐，萧子显自负才气，为吏部尚书。见九流宾客，不与交言，但举扇一拂而已，衣冠窃恨。

梁，张纘性轻傲，为尚书仆射。时何敬容方盛，宾客辐凑，有诣纘者，辄拒之曰：“不能对何敬容残客。”又云：“不喜与俗人共事。”出为湘州刺史。吴兴人吴规颇有才学，邵陵王纶引为宾客。纘路经郢州，纶饯之南浦，规在坐，纘不平之。忽举杯曰：“吴规庆汝，得陪今宴。”规即时起，规子翁孺，知父被辱，气结便卒。规愤哭，亦殒。规妻深痛夫、子，次日又亡。时人谓张纘一杯酒，杀吴氏三人。



陈，陈暄乃后主狎客，甚见亲昵而侮之。尝倒悬于梁，临之以刃。使作赋，仍限以晷刻，暄援笔即成而傲弄转甚。后主稍不能容，遂缚艾为帽加于其首，火以蒸之。然及于发垂泣求，哀声闻于外而弗之释。卫尉卿柳庄在坐遽起拔之，拜谢曰：“陈暄无罪。”后主素重庄，乃引暄出，经数日，暄悸而死。

梁，朱异轻傲朝贤，不避贵戚。人或海之，异曰：“我寒土也，遭逢以至今日，诸贵皆恃枯骨见轻，我下之则为蔑尤甚，我是以先之。”

宋，檀超放诞任气，为州西曹。萧惠开为别驾，稍相凌辱，而超举动骄傲，目惠开曰：“何足以一爵高人？”超嗜酒好谈咏，自比晋穆超，言：“高平有二超。”又谓人曰：“犹觉我为优也。”

梁，卞彬为上虞令，有刚气。会稽太守孟顗以令长裁之，积不能容，脱帻投地曰：“我所以屈者，政为此帻尔。今已投之卿矣，卿以一世勋门，而傲天下国士。”拂衣而去。

唐，李光弼为太原尹。时节度使王承业军政不修，诏御史崔众交兵于河东。众侮易承业，或衷甲持枪突入承业厅事，玩谑之。光弼闻之，素不平，至是众交兵于光弼。众以麾下来，光弼出迎，旌旗相接而不避。光弼怒其无礼，又不即交兵，令收系之，顷中使至，除众御史中丞，怀其敕问众所在。光弼曰：“众有罪系之矣。”中使以敕示。光弼曰：“今只斩侍御史，若宣制令即斩中丞，若拜宰相，亦斩宰相。”中使惧，遂寝之。翌日，以兵仗围众至碑堂下，斩之。

严武为剑南节度使，旧相房琯出为管内刺史，琯于武有荐导之恩。武骄倨见琯，略无朝礼，甚为时议所贬。

刘赞子弟皆亏庭训，虽童年稚齿，便能侮易骄人，人士鄙之。

于邵为知制诰，诏令温雅，合于典谟。然性太刚，徧简傲。每发言吐论，略无阿徇，忤执政旨。故掌诰二年而官不迁，罢为比部郎中。

郑仁表文章俊拔，然恃才傲物，人士薄之。自谓门地、人物、文章甚美。尝曰：“天瑞有五色云，人瑞有郑仁表。”刘鄩小时投文于其父泊仁，表晒之。咸通末鄩为宰相，仁表贬死南荒。

杜审言，甫之祖也。恃才蹇傲，为时辈所疾。乾封中，苏味道为天官侍郎。审言预选貳判诂谓人曰：“味道必死。”人问其故，审言曰：“见吾判自当羞死矣。”又尝谓人曰：“吾之文章，合得屈宋作衙官；吾之书迹，合得王羲之北面。”其矜诞如此。

后唐，陈乂为常山判官日，人有造者，垂帘深处，罕见其面。及为中书舍人姿态倨傲，竟不至公卿，盖器度促狭者也。

尤 悔

魏太武率大众至瓜州，声欲渡江。都下震怒，内外戒严，缘江六七百里，舳舻相接。



始宋文帝议北侵，朝士多有不同。至是帝登烽火楼，极望不悦。谓江湛曰：“北伐之计，同议者少，今日士庶劳怨不得无惭，贻大夫之忧在于过矣。”

宋傅亮，废少帝迎立文帝。当亮之有贵，兄迪每深戒焉，而不能从。及世路屯险著论。名曰“演慎。”及少帝失德，内怀忧惧，直宿禁中。睹夜蛾赴烛作《感物赋》以寄意。初，奉大驾道路赋诗三首。其一篇有悔惧之辞。自知倾覆，求退无由，又作《辛有、穆生、董仲道赞》，称其见微之美云。

唐太宗谓侍臣曰：“张亮有义儿五百人，将何为也？正欲反尔。”命百寮议其狱，多言亮当诛。唯将作少监李道裕言亮反形未具，明其无罪。太宗盛怒，竟斩于市。岁余，刑部侍郎阙，令执政择人，累奏不可。太宗曰：“朕得其人矣。往者李道裕议张亮反形未具，此言当矣。虽不即从，至今追悔。”以道裕为刑部侍郎。

卢祖尚累为郡守，有能名，太宗召为交州都督。祖尚不行，太宗大怒，斩之于朝。寻悔之，复其官荫。

张元素出自刑部令史，仕至三品。太宗问云在隋任何官？曰：“县尉”。又问：“以前何官？”曰：“流外。”又问：“在何曹司？”元素将出阁门，殆不能移步，精爽顿尽，色类死灰。朝臣见之多所惊怪。褚遂良上疏切谏，太宗曰：“朕亦悔此问。”

敬晖与桓彦范、张柬之、崔元禧、袁恕已同诛张易之。中宗反正，洛州长史薛季昶谓曰：“二凶虽除，禄产犹在。请因兵势诛武三思之属。”晖与柬之屡陈不可。季昶叹曰：“吾不知死所矣。”翌日，三思因韦后之助，潜入宫中，又与韦后通内行相事，反易国政，封晖等为五王，罢政事。晖等既失政柄，每椎床嗟惋或弹指出血。柬之叹曰：“皇上畴昔为英主。时素号勇烈，吾留诸武，冀自诛锄尔，今事势已去，知复何道。”

张蕴古，献大宝箴者也。除大理丞。初，河内人李好德语涉妖妄，而素有风癫疾。蕴古以为法不当坐。侍御史权万纪劾蕴古，家住相州，好德之兄厚德为相州刺史，情在阿纵。太宗大怒，斩蕴古东市，寻悔之，自是有覆奏之制。

刘黑闥败斩于洺州，临刑叹曰：“我幸在家粗菜，为高雅贤辈所误，以至于此。”

太宗令太常卿祖孝孙教宫人音乐，不称旨，责之。温彦博、王珪谏，上怒，以为附下罔上。彦博拜谢，珪不拜，曰：“陛下责臣以忠直，今臣所言岂曲曲耶？乃陛下负臣，非臣负陛下。”明日，上谓房元龄云：“自古帝王纳谏诚难，朕昨日责温彦博、王珪至今悔之，公等为此不尽言也。”

太宗辽东之役不能成功，深悔之。叹曰：“魏征若在，不使我有是行也。”命驿祀以少牢，复立所制碑，召其妻、子至行在，劳赐之。

元宗幸蜀，至咸阳望贤宫。有老父郭从谨进言曰：“禄山包藏祸心，固非一日。亦有诣阙告其谋者，陛下往往诛之，使得逞其奸逆。致陛下播越，是以先王务延访忠良，以广聪明，盖为此也。臣犹记宋璟为相，数进直言，天下赖以安平。自顷以来，在廷之臣，以言为讳，唯阿谀取容，是以阙门之外，陛下皆不得而知。草野之臣，必知有今日久矣，但



九重严邃，区区之心无路上达，事不至此，臣亦何由睹陛下之面而诉之乎？”上曰：“此朕之不明，悔无所及。”慰谕而遣之。

肃宗时，两京平受伪官者，以六等定罪。重者刑之于市；次赐自尽；次重杖一百；次三等流贬。群臣随安庆绪在邺者，闻广平王赦陈希烈等，皆悼恨失身贼庭。及闻希烈等诛乃止，上甚悔之。

代宗时，吐蕃犯京师，急起郭子仪。子仪闲废日久，部曲离散，至是召募得二千骑，而后收复京师。上至长安，子仪帅城中百官及诸军，迎于浐水东，伏地待罪。上劳之曰：“用卿不早，以至于此。”

郭子仪，以朔方节度副使张昙性刚，谓其以武人轻己，衔之。孔目官、吴曜为子仪所任，因而构之。子仪怒，诬奏昙煽动军众，诛之。掌书记高郢力争之，子仪不听，奏贬郢猗氏丞。既而索佐多以病去，子仪悔之。悉荐之朝，曰：“吴曜误我。”遂逐之。

哀帝时，魏博、罗绍威以牙军之逼召朱全忠。全忠殪八千余家，其余散在州县，攻讨悉平。全忠留魏半年，绍威供亿所杀牛、羊、豕近七十万。资粮称是，所路遗又近百万。比全忠之去，蓄积为之一空。绍威虽除其逼，而魏兵自是衰弱，绍威悔之。谓人曰：“合六州四十三县铁，不能为此错也。”

后唐，周德威身长，面黑，笑不改容。凡对敌列阵，凜然有肃杀之风，中兴之朝号为名将。胡柳之役，德威欲以方略制之，庄宗迫之出战。德威谓其子曰：“吾不知死所矣。”父子俱战没。庄宗恸哭谓诸将曰：“丧吾良将，吾之咎也。”

后唐，闵帝殂，潞王立。诸军以赏薄怨望，谣曰：“除却生菩萨，扶起一条铁。”以闵帝仁弱，潞王刚严，有悔心也。

后唐，张延郎，末帝时以宰相判三司。晋高祖在太原，朝廷猜忌，不欲令有蓄积。系官货财留使之外。延朗悉遣取之，高祖衔之。晋高祖入洛送台狱，诛之。其后以选求计使，难得其人，甚追悔焉。

后晋，崔暹知贡举，有进士孔英者，行丑而才薄，宰相桑维翰深恶之。及暹将牒院来辞，维翰曰：“孔英来也，盖梃之也。”暹性纯直，因默记之。遂放及第，榜出，人皆喧哗。维翰举手自抑其首者数四，盖悔言也。

湖北高季兴。唐庄宗平定天下，季兴来朝，时论多欲留之。郭崇韬以方推信华夏，请放归藩季兴。促程而去，至襄州酒酣，谓孔勣曰：“是行有二错，来朝一错，放归一错。”

后晋末年，契丹连岁入寇中国，疲于奔命，契丹人畜亦多死，国人厌苦之。述律太后谓契丹曰：“使汉人为胡主可乎？”曰：“不可。”曰：“然则汝何故欲为汉王？”曰：“石氏负恩不可容。”太后曰：“汝今虽得汉地不能居也，万一蹉跌，悔何所及。”

周世宗时，河东刘崇召契丹入寇。崇见周军少，悔召契丹，谓诸将曰：“吾自用汉军可杀也，何必契丹。今日不唯克周，亦可使契丹心服。”既战，崇败遁归。

世宗谓江南钟谔等曰：“归语汝主亟来见朕，再拜请过，则无事矣。不然朕欲往观金



陵城，借府库以劳军，汝君臣得毋悔乎？”

江南孙晟、钟谟使于周世宗，待之甚厚。时召见饮以醇酒，问以唐事。晟但言：“唐主畏陛下神武，事陛下无二心。”及得唐主蜡书诱边将李重，进皆谤毁反间之词。帝大怒，召晟责以所对不实，晟正色抗辞请死而已。问唐虚实，默然不对。送军巡院，更使曹翰与之饮酒，从容问之，终不言。翰乃曰：“有敕赐相公死。”晟神色怡然，索袍笏整衣冠南向拜曰：“臣谨以死报。”乃就刑，并从者百余人皆杀之。贬钟谟擢州司马。既而，帝怜晟忠节，悔杀之，召谟拜少卿。

周世宗用法太严。群臣职事小有不举，往往置之极刑，虽素有才干声名，无所开有寻亦悔之，末年浸宽，登遐之日远近哀慕焉。

卷八

栖逸

宋，王宏之不赴辟召，性好钓。上虞江有一处名三石头，宏之常垂纶于此。经过者不识之，或问：“渔师得鱼，卖否？”宏之曰：“亦自不得，得亦不卖。”日夕，载鱼入上虞郭，经亲故门，各以一两头置门内而去。

宋，何铄心疾，无故害其妻王氏，坐法死。三子求点、允点以家祸绝昏宦。求隐虎邱山，允居若邪山云门寺。世论以点为“孝隐”，允为“小隐”。又号点为“大山”，允为“小山”，亦曰“东山”。兄弟又曰“何氏三高”。

齐，孔稚珪，字德璋，不乐世务。居宅盛营山水，凭几独酌，傍无杂事。门庭之内草莱不翦，中有蛙鸣，或问之曰：“欲为陈蕃乎？”珪笑曰：“我以此当两部鼓吹，何必效蕃。”王晏常鸣鼓吹候之。闻蛙鸣曰：“殊聒人耳”。珪曰：“我听鼓吹殆不及此”。

陶渊明为彭泽令，郡遣督邮至，县吏白：“应束带见之。”潜曰：“我不能为五斗米折腰向乡里小儿。”遂赋《归去来》以遂志，尝言“五六月北窗下卧，遇凉风暂至。”自谓是“义皇上人”。

宋宗少文好山水爱远游。西陟荆巫，南登衡岳，因结宇衡山，怀尚平之志。有疾迁江陵。叹曰：“老疾俱至，恐难遍睹名山”。

澄怀观道卧以游之。凡所游履皆图之于室。谓之曰：“抚琴动操，欲令众山皆响”。古有金石弄为诸桓所重，桓氏亡其声遂绝，唯少文传焉。孙测亦隐庐山，鱼复侯子响厚遣赠遗。测曰：“少有狂疾，寻山采药远来至此。量腹而进松术，度形而衣薜萝，淡然已足，岂容当此横施”。侍中王秀之尤钦慕之，乃令陆探微画其形，与己相对。王俭雅重之，赠以蒲褥笋席。



宋，周续之通“五经”、“五纬”，号曰“十经”。入庐山事沙门，释慧远；时彭城刘遵民迹迹庐山；陶渊明亦不应征命，谓之“寻阳三隐。”关康之世居京口，颜延年等十许人当时名士，入山候之。见其散发被黄巾帔，席松叶枕一块白石而卧，了不相碍。延年等咨嗟而退，不敢干也。臧荣绪亦隐京口，时号为“二隐”。臧自号“被褐先生”。

宋，褚伯玉，字元璩。有隐操，寡嗜欲。年十八，父为之娶妇人前门，伯玉从后门出，遂往剡居瀑布山，性耐寒暑。时人比之王仲都。在山三十余年，隔绝人物。王僧达为吴郡，苦要致之，邱珍孙与僧达书云：“却粒之辈，餐霞之人，乃可暂致，不宜久羁。”僧达答云：“褚先生从白云游旧矣，古之逸人或留虑儿女，或使华阴成市。而此子索然，唯朋松石，介于孤峰绝岭者积数十载，近故要其来此，冀慰日夜比谈访芝桂借访薛萝，若已窥烟液临沧洲矣。”

庐度，隐居庐陵西昌三顾山。居前有池，养鱼皆名呼之。次第来取食乃去。后又会稽钟山，有姓蔡不知名。隐山中养鼠数千头，呼来即来，遣去即去。言语狂易，时谓之“滴仙”，不知所终。

梁，阮孝绪著《高隐传》。上自炎黄，终于天监末，分为三品。言行超逸名氏弗传为上篇；始终不耗姓名可录为中篇；挂冠人世栖心尘表为下篇。南平元襄王闻其名，要之不赴，曰：“非志骄富贵，但性畏庙堂。若使躋廊可参，何以异夫骥骤”。

南岳邓先生名郁，断谷三十余年，唯以涧水服云母屑。白日神仙魏夫人忽来临降，乘云而至。从少姬三十，并著绛紫罗绣挂褙，年皆十七八，色艳桃李，质胜琼瑶。谓郁曰：“君有仙分故来相寻”。天监十四年，忽见二青鸟悉如鹤大，鼓翼鸣舞移晷方去。郁曰：“期会至矣”。是日，无疾而终，山内唯闻香气。武帝令作《邓元传》叙其事。

陶宏景字通明，幼有异操，终身不娶。得葛洪《神仙传》，昼夜研寻，便有养生之志。谓人曰：“仰青云观白日，不为远矣”。以茅山为金陵华阳之天，乃中山立馆。自号“华阳陶”隐居。人间书札以隐居代名。特爱松风，庭馆皆植树，每闻其响欣然为乐。梁武帝手敕招之，不出，惟画两牛，一牛散放水草之间；一牛著金笼头，有人执绳以杖驱之。

梁，刘慧斐、张考秀居东林寺。慧斐于山北构一园，名“离垢园”。时人号为“离垢先生”。论者自远法师后将二百年，始有张、刘之盛矣。

周韦夔所居之宅，环带林泉，对玩琴书，萧然自逸。文帝贻之以诗，敕有司曰：“给河东酒一升”，号之曰“逍遥公”。时人号为居士焉。

唐时，蜀人朱桃椎隐居不仕，沉浮人间。窆轨在益州召见，遗以衣服，逼为御正。桃椎口竟无言，弃衣于地而走。逃入山中，结庵洞曲。夏则裸形，冬则缉树反自覆。每为芘覆，置之于路，人见之者曰：“朱居士之覆也”。为粥米置本处，桃椎至夕取之，不与人相见。高士廉镇蜀时，以礼致之。及至降阶与语，桃椎不答，直视不去。廉每令存问，桃椎见使者，辄入林自匿。

郗纯为谏议大夫，与元载不合，退归东洛，自号“伊川田父”。清名高节传于天下。



孔巢父、韩准、裴政、李白、张叔明、陶沔同隐徂徕山，号“竹溪六逸”。白又与道士吴筠隐于剡中。

王龟字大年，起之子也。起第在永福里，龟意在人外，倦接朋游，乃于永达里园林深僻处，创书斋，吟啸其间，号“半隐亭”。从起河中于中条山谷中起草堂，与山人道士游。朔望一还府第，后人目为“郎君谷”。起保厘东周，龟于龙门西谷，构松斋棲息。起镇兴元，龟于汉阳之龙山，立隐舍。每浮舟而往，其闲逸如此。后为浙东观察使，为贼所害。

武氏炽盛，惟安平郡王武攸绪，弃官隐嵩山，以琴书药餌为务。中宗即位，以安车备礼征之。攸绪应召至都，又归山中。及三思延秀构逆，诸武多坐诛戮，唯攸绪不预其祸。睿宗即位，又令人安息之。开元二年，攸绪请居庐山，制不许，敕州县数加存问，勿令外人侵扰。十一年卒，年六十九。

崔咸，锐之子也。锐在泽潞，有道人自称“庐老”。锐馆之于家，一旦辞去。且曰：“我死当为君子”，因指口下黑子为志。及生成果有黑子，其形神即庐老也。锐以“庐老”字之，咸既冠，栖心高尚，志于林壑，往往独游南山，经时方还。尤长于歌诗，或风景晴明，花朝月夕，朗吟意惬，必凄怆沾襟。旨趣高奇，名流嗟愕。

司空图，唐昭宗时见纪纲大坏，深惟出不如处，乃称疾不起。梁将篡唐，柳璨希贼旨陷害旧族，诏图入朝，图惧诛疾至洛阳，指趣极野坠笏失仪，得放还山。图墅在中条山王官谷，泉石林亭，颇称幽栖之志。日与名僧高士咏咏其中，作“休休亭记”，又为“耐辱居士”。歌题于东北楹。既脱柳璨之祸，乃预为寿藏，故人来引之圻中，赋诗饮酒曰：“非止暂游此中也”。布衣鸠杖，出则以女仆鸾台自随。岁时村社赛祠祷，图必造之，与野老同席曾无傲色。

张果隐于中条山。元宗召至禁中，邢和璞推之，瞠然不知其甲子，师夜光善视，果与并坐而不能见。元宗谓高力士曰：“吾闻饮菹汁无苦者真奇士也。”会天寒以菹汁饮果，果引三卮醺然如醉。曰：“非佳酒也”。引镜视齿焦黑矣。以铁如意齿齿藏于带中，乃以红药傅断就寝，良久齿皆生，粲然洁白。后人恒山，不知所之。

田游岩母、妻、子俱有方外之志，入箕山就许由庙东筑室而居，自称许由东邻。高宗幸嵩山，亲劳之。游岩曰：“臣泉石膏肓烟霞痼疾，既逢圣代，幸得逍遥”。出仕宦，坐与裴炎交结，放还山。

咸亨初，史德义隐居虎邱山。以琴书自适，或骑牛，带瓢出入廛市号为“逸人”。文昌左丞周兴荐之，征为朝散大夫。周兴被诛，亦放归邱壑。

王远知其母昼寝，梦灵凤集其身，因而有娠。又闻腹中啼声，宝志曰：“生子当为神仙宗伯也”。远知初入茅山，师陶宏景，炀帝为晋王召见之，斯须发变白，晋王惧而遣之。太宗平王世充与房龄微服谒之，远知迎谓曰：“此中有圣人，得非秦王乎？”太宗以实告，远知曰：“方作太平天子，愿自惜也”。太宗登极将加重位，固请还茅山。谓弟子潘师正曰：“吾见仙格，以吾小时误损一童子吻，不得白日升天，见署少室伯”。翌日，卒。



年一百二十六岁。

潘师正，居嵩山逍遥谷，服松叶饮水而已。高宗召见，问山中所须，师正对曰：“所须松树清泉，山中不乏”。

杨国忠方盛，或劝陕郡进士张彖谒国忠曰：“见之富贵立可图”。彖曰：“君辈倚杨右相如泰山，吾以为冰山尔。若暖日既出，君辈得无失所恃乎？”遂隐居嵩山。

后唐，许寂字闲之，栖四明山不干时誉。庄宗召对于内殿，方与伶人调品鬻策事讫。方命坐赐汤果问《易义》，寂退谓人曰：“君好淫声不在政矣”。寻请还山，寓居江陵。茹芝绝粒，后为蜀相，与王衍俱徙于东，致政居洛。时寂已年高，精彩犹健。冲漠寡言，时独语云：“可怪，可怪”。人莫知其际。

石晋，郑云叟本名邀，弃家人少室山。闻西岳有玉粒松脂，沦入地千岁化为药，能去三尸。因居华阴与李道殷、罗隐之友善。时人目为三高士。道殷有钓鱼之术，钩而不饵。又能化石为金，无所不至，云叟目击其事而不求。

轻 诋

宋，何偃同颜延年从武帝南郊。偃于路中呼延年曰“颜公”延年曰：“身非三公之公，又非田舍之公，又非君家阿公，何以见呼为公？”偃羞而退。

齐，刘祥于朝士多所贬忽，王奂为尚书仆射，祥与奂子融同载行至堂中，见路人驱驴，祥曰：“驴好为之，如汝人才皆已作令仆矣”。

刘祥性颇刚疏，轻言肆行。褚彦回辅齐，受禅入朝，以腰扇障日。祥从侧过曰：“作如此事羞面见人，扇障何益？”彦回曰：“寒士不避”。祥曰：“不能杀袁、刘，安得免寒士？”

王僧达性好鹰犬。何尚之致仕复起，于宅设八关。大集朝士，行香次至僧达曰：“愿郎解放鹰犬，勿复游猎”。僧达答曰：“家养一老狗放之去，已复还”。尚之失色。

王融初为司徒法曹，指正僧祐。因遇沈昭略，未相识，昭略屡顾眄，谓主人曰：“是何年少？”融殊不意，谓曰：“仆出于扶桑，入于暘谷，照耀天下，云谁不知？”昭略曰：“不知许事，且食蛤蜊”。融曰：“方以类聚，物以群分。君生长东隅，居然应嗜此族”。

梁，到溉掌吏部尚书时，何敬容以令参选事，有不允。溉辄相执，敬容谓人曰：“到溉尚有余臭，遂学作贵人，盖以溉祖彦之尝担粪自给”。讥之也。

梁，柳津，人或劝之聚书。津曰：“吾常请道士上章驱鬼，安用此鬼名邪？”

韦黯为太仆卿，而兄子粲已为左卫。黯常快快，谓人曰：“韦粲已落骅骝前，朝廷是能才否？”识者颇以此闕之。

齐，邱灵鞠好饮酒，臧否人物。在沈深坐见王俭诗，深曰：“王令文章大进”。灵鞠曰：“何如我未进时。”此言达俭。灵鞠宋时文名甚盛，入齐颇减。蓬头弛纵无形仪，不事



家业，王俭谓人曰：“公仕宦不进，才亦退矣”。

齐，卡彬为《禽兽决录》云：“羊性狠而淫”，指吕文显；“猪性卑而率”，指朱隆之；“鹅性顽而傲”，指潘敞；“狗性险而狂”，指吕文度。又为《虾蟆赋》云：“纤青拖紫名为蛤鱼”，比令仆也。又云：“科斗唯唯，群浮暗水，唯朝继夕，聿役如鬼”，比令史咨事也。彬自称卜田居。谓其妻为傅蚕室。或曰：“卿都不持操名器，何由得升？”彬曰：“掷五木子，十掷辄捷。岂复是掷子之拙？吾好掷政极此尔”。

梁，谢朓善饮酒，至数斗醉后辄张眼大骂，虽于贵贱亲疏无所择也。时谓之“谢白眼”。

北齐，文襄嗣位，崔陵窃言：“黄领小儿堪富贵任否？”文襄知此言欲杀之，赖人数解乃止。陵进谒奉谢，文襄犹怒曰：“金石可销，此言难灭！”

隋，元善以高颍有宰相之具，尝言于文帝曰：“杨素庸疏，苏威怯懦，元胄、元闵正似鸭儿。可以付社稷者，唯有高颍”。上初然之，及颍得罪，上以元善之言，为颍游说，深责之。元善先患渴，以忧惧，卒。

朱粲作贼，好取婴儿蒸而啖之，乃令军士曰：“食之美者，宁有过于人肉乎？但令宅内有人，我何所虑”。乃税诸城堡，取小弱男女，以益兵粮。隋著作佐郎陆从典、通事舍人颜慙楚，左迁在南阳，粲悉引之，以为宾客。缓遭饥馑，合家俱为所啖。粲败乞降，唐高祖遣常侍段确迎劳之。确因醉侮粲曰：“闻卿啖人作何滋味？”粲曰：“若啖嗜酒之人，正似糟醢猪肉”。

唐，温彦博，为吏部侍郎。有意沙汰，多损益，而退者不伏。鬻讼盈廷，彦博唯骑雄辨与人相语。终日喧扰，颇为识者所嗤。

李义府先补门下省典仪。黄门侍郎刘洎，为侍书御史马周称荐之。其后义府为宰相，为侍御史王义方所劾。言初以容貌为刘洎、马周所幸，由此得进，言词狠褻。帝怒，出义方为莱州司户。

张嘉贞与张说不相能。嘉贞弟嘉祐脏污事发，说劝嘉贞素服待罪，不得入谒。出为幽州刺史，说遂代为中书令。嘉贞悔恨，谓人曰：“中书令幸有二员，何相迫之甚也？”明年移益州都督，敕就中书省与宰相会宴，嘉贞恨说，因攘袂勃骂，源乾曜、王琬共和解之。

张九龄为相性颇躁急，动处辄忿置议者，以此少之。

京兆尹黎干，戎州人也。白事于宰相王缙，缙曰：“君南方君子也，安知朝礼？”慢而侮人如此。

刘昫《唐书》谓韩退之恃才肆意，亦有鳌孔、孟之旨。若南人妄以柳宗元为罗池神，而愈撰碑以实之。李贺父名晋而愈为贺作讳辨，令举进士，又为《毛颖传》，讥戏不近人情，此文章之甚疵谬者。又云：“至若抑杨墨排释老，虽于道未宏，亦端士之用心也。”此史氏之轻。

穆宗时李景俭为谏议大夫。凌蔑公卿大臣，使酒尤甚。萧俛、段文昌相次辅政，景俭



轻之，形于谈谑，二人俱诉之，贬建州刺史。元稹用事又召为谏议大夫。景俭朝退，与冯宿、杨嗣复、温造、李肇、王镒同谒史官独孤朗。乃与史馆饮酒，景俭乘醉语中书谒宰相，呼王播、崔植、杜元颖名。而疏其失，词颇悻慢。宰相逊言止之，旋奏贬漳州刺史。

郑世翼人号轻薄，时翟信明自谓文章独步，多所凌轹。世翼遇诸江中，谓之曰：“尝闻枫落吴江冷”。信明欣然示以余篇。世翼览之未终曰：“所见不如所闻”。投之于江。信明不能诘，拥橈而去。

李林甫闻萧颖士名，欲拔用之。颖士在广陵居母丧，缟麻而诣京师。径谒林甫于政事省，林甫大恶之，即令斥去。颖士大怒，乃为《代樱桃赋》，以刺林甫云：“擢无庸之琐质，因本支而自庇。泊枝干而非据，专朝廷之右地。虽先寝而或荐，岂和羹之正味。”其狂妄不逊如此。

刘总以河朔归朝，穆宗命张宏靖镇之。宏靖庄默自尊，所辟韦雍辈多少年轻薄之士，数以“反虏”诟责吏卒。谓军士曰：“今天下太平，汝曹能挽两石弓，不若识一个字。”由是军中人人怨怒。

朱梁，王彦章尝轻唐庄宗曰：“李亚子斗鸡小儿，何足可畏。”后战败，夏鲁奇识其语音曰：“王铁枪也”，挥稍刺之，马路，被擒。庄宗曰：“尔尝以小儿待我，今日服未？”彦章曰：“大事已去，非臣智力所及”。

石晋，刘处让，以除执金吾有所不及。覃恩之际，又未擢用，一日至中书，宰臣冯道、赵莹、李崧和凝在列，处让因酒酣历诋诸相，道笑而不答。

五代，汉，史宏肇曰：“安朝廷，定祸乱，直须长枪长剑，至如毛锥子何足用哉。”王章曰：“虽有长枪长剑，若无毛锥子贍军，财赋何自而集？”宏肇嘿然。章尤轻视文士曰：“此等若与一把算子，未知颠倒，何益于国邪？”

汉，贾纬，文笔未能过人，而议论刚强。侂类不平之，目之为“贾铁嘴”。受诏修《高祖实录》，诬桑维翰身没之日，有白金八十铤。又以所撰日历示监修王峻；皆媒孽窦贞、固苏、禹珪之短，历诋朝士之先达者。峻恶之，谓同列曰：“贾给事家有子，亦要门阀无玷。今满朝并遭非毁，教士子何以进身？”乃于太祖前言之，出为平卢行军司马。

贤媛

朱萧娇妻羊氏字淑祗。母尝有疾，淑祗于中夜祈祷。忽见神人在灯下自称“杜桑君”，曰：“若人无患，令泄气，在亥西南求白石镇之”。言訖不见，明日如言而疾愈。

陶渊明赋《归去来》以遂志。其妻翟氏，志趣亦同，能安苦节，为“夫耕于前，妻耘于后”云。

朱百年妻孔氏，百年卒于山中。蔡兴宗为会稽太守，饷孔氏米百斛，孔氏遣婢诣郡固辞，时人美之以比梁鸿。



隋，许善心，不肯从字文化，及被害，母范氏年九十三，临丧不哭。抚柩曰：“能死国难，我有见矣”。因卧不食，后十有余日亦终。

唐高祖妾后，隋总管毅之女也。毅谓此女才貌如此，不可妄许之。乃于门屏画二孔雀，有求婚者与两箭射之。潜约，中目者许之。前后数十辈，皆莫能中。高祖后至，两发，各中一目。毅大悦，遂归高祖。后善字，类高祖之书，人莫能辨，工篇章，好规戒。

太宗长孙后。太宗常与后论及赏罚之事，后曰：“‘牝鸡之晨，惟家之索。’妾以妇人，岂敢愿闻政事？”太宗固与之言，竟不答。后所生长乐公主，太宗特所钟爱。及将出降，敕所司资送倍于长公主。魏征谏曰：“昔汉明帝将封皇子，帝曰：‘朕子安得同于先帝子乎？’若今公主之礼，则有过长公主者，理恐不可。”太宗以征言告后。叹曰：“能以义，制主之情，可谓正直社稷之臣矣。”因请遣中使资帛五百匹，诣征宅赐之。后尝著论，谓汉马后，以为不能抑退外戚，令其贵盛，乃戒其车如流水马如龙，此乃开其祸端而防其事尔。

太宗，徐贤妃谏伐辽云：“运有尽之农功，填无穷之巨浪，图未获之它众，丧已成之我军。”谏造宫室云：“终以茅茨示约，犹兴木石之疲。假使和雇取人，不无烦扰之敝。”又云：“有道之君以逸逸人，无道之君以乐乐身。”谏服玩纤靡云：“作法于俭犹恐其奢，作法于奢何以制后”。

贝州宋廷芬五女：若华、若昭、若伦、若宪、若荀皆有词学。德宗俱召入试以诗赋。问经史中大义，深加赏叹。德宗能诗，若华姊妹应制属和，每进御无不称善。德宗嘉其节，概不以宫妾遇之，呼为“学士先生”。

唐高祖第三女，微时嫁柴绍。高祖起义兵，绍与妻谋曰：“尊公欲扫清多难，绍欲迎接义旗。同去则不可，独行恐惧后害。为计若何？”妻曰：“公宜速去，我一妇人，临时别自为计。”绍即间行赴太原，妻乃归郢县，散家财，货起兵以应高祖，得兵七万人。与太宗俱围京城，号曰“娘子军”。京城平，封平阳公主。葬时特用鼓吹以赏军功。

郑善果母翟氏，贤明晓政道。每善果理务，翟氏常于阁内听之。闻其剖断合理，归则大悦。处事不允，母则不与之言，善果伏于床前，终日不敢食。善果由此厉己为清吏。

崔元暉母卢氏，尝戒子曰：“吾见姨兄辛元取云：‘儿子从宦者，有人来云贫乏不能存，此是好消息。若闻货货充足，衣马轻肥，此是恶消息。’吾重此言，以为确论。比见亲表中仕宦者多，将物上其父母，父母但知喜悦，竟不问物所从来。若是俸禄余货，诚亦善事。如其非理所得，此为盗贼何殊？陶母不受鱼鲙之馈，盖为此也。汝等坐食俸禄，荣幸已多，若不忠清，何以戴天履地？”元暉遵奉母戒，以清谨见称。

李光弼母李氏，有须髯数十茎，长五六寸。以子贵封韩国太夫人。弟光进亦一品节制。双旗在门，鼎味就养，极一时之荣。

薛元暖妻林氏，有母仪令德。博涉《五经》，善属文，所为篇章人多讽咏之。元暖卒，其子彦辅等皆林氏训道，登科者多，凡七十人，衣冠荣之。



于琮尚广德公主。黄巢犯阙，僖宗出幸，琮病不能从。贼起为相，琮以疾辞，为贼所害，而赦公主。主视琮受祸曰：“妾李氏女也，义不独存，愿与于公并命。”贼不许，公主入室自缢而卒。

令狐峒为吉州刺史，齐映廉察江西。故事，刺史始见观察使，皆戎服庭趋。峒以前辈耻为此礼，入告其妻韦氏，亦以抹首庭谒为非。谓峒曰：“卿自视何如人？头白走小生前，卿如不以此礼见映，便虽黜死我亦无恨。”峒曰：“诺”。乃以客礼见。映深以为憾，以事奏，贬峒为衡州别驾。

李极迫于襄王媼，伪署内相。心不自安，尝于退朝驻马国门，望南山而吟曰：“紫宸朝罢缙囊鹭，丹凤楼前驻马看。唯有南山烟色在，晴明依旧满长安。”吟已涕下，后死于乱兵。妻卢氏知书能文，有姿色。伏极尸恸哭，贼逼之，至断一臂终不顾，竟为贼所害。

李德武妻裴淑英，裴矩之女也。德武坐事徙岭南，矩奏请离婚，炀帝许之。德武将与裴别，谓曰：“嫵婉始尔，便事分离，远投瘴疠，恐无还理。尊君奏留，必欲改嫁，尔于此即事长决矣”。裴泣下，欲操刀割耳，誓无他志。裴与夫别后常诵经，不御膏泽。因读《列女传》，见称述不改嫁者。乃谓所亲曰：“不践二庭，妇人常理，何为以此载于传记乎？”十余年间与德武音信断绝。时有柳直求婚，许之，期有定日。裴以刀断发悲泣绝粮，矩不能夺。德武已于岭表娶尔朱氏为妻，及遇赦得还。至襄州闻裴守节，乃出其后妻，重与裴合。生三男四女。贞观中德武终鹿城令，裴岁余亦卒。

樊彦琛妻魏氏。彦琛卒，属李敬业之乱，为贼所获，逼令弹箏，魏曰：“我夫不幸亡没，未能自尽。今复见逼管弦，岂非祸从手发耶？”乃引刀斩指弃之地。贼党又欲妻之，以刀加颈胁之，大骂被杀。

武后时，越王贞谋兴复，唯纪王慎不预谋，乃亦坐死。女东光县主楚媛，幼以孝称，适裴仲将相敬如宾。时宗室诸主皆以骄奢相尚，消楚媛独尚俭素曰：“所贵于富贵者，得适志也，今独守勤苦将何所求？”楚媛曰：“幼而好礼，今而行之。非适志欤”。慎凶问至，楚媛呕血数升，免丧不御，膏沐垂二十年。

宪宗以杜棕尚岐阳公主。公主有贤行，杜氏大族，尊行不啻数十人，公主卑委怡顺一同家人礼，度二十余年人未尝以丝发间指为贵骄。始至则与棕谋曰：“上所赐奴婢卒不肯穷屈，奏请纳之”。悉自市寒贱可制者，自是闺门落然，不闻人声。穆宗大渐，命太子监国。

宦官欲请郭太后临朝称制，太后曰：“武氏称制几倾社稷，我家世守忠义，非武氏之比也。太子虽少，但有贤宰相辅之，卿辈勿预朝政，何患国家不安？自古岂有女子为天下而能致唐虞之理乎？”取制书，手裂之。太后兄太常卿钊闻有是议，密上笺曰：“若果徇其请，臣请先帅诸子，纳官爵，归田里。”太后泣曰：“祖考之庆钟于吾兄”。

长孙皇后侍太宗疾，累月昼夜不离侧。常系毒药于衣带曰：“若有不讳，义不独生”。贞观十年，皇后疾笃，因取衣带之药以示上曰：“妾于陛下不豫之日，誓以死从乘舆，不



能当吕后之地尔”。

唐，常侍李景让母郑氏，性严明，早寡，家贫。居于东都，诸子皆幼，母自教之。宅后石墙因雨隕陷，得钱盈缸。奴婢喜走奔告母，母往焚香祝之：“吾闻无劳而获，身之灾也，天必以先君余庆矜其贫而赐之。则愿诸孤它日学问有成，乃其志也。此不敢取。”遽命掩而筑之。三子皆进士及第。

景让为浙西观察使，左都押衙忤意杖杀之，军中愤怒将变。景让方视事，母出坐听事，立景让于庭而责之曰：“天子付汝以方面，岂得妄杀？万一致一方不宁，岂惟上负天子，使垂老之母衔羞入地，何以见汝之先人乎？”命左右覩其衣坐之，将搯其背。将佐皆为之请，拜且泣，久乃释之，军中遂安。

潘炎，德宗时翰林学士，恩渥极异。其妻刘晏女也，京尹有故伺候炎，累日不得见，乃遣闻者三百缗。夫人知之，谓炎曰：“岂有京尹愿一见遣奴三百缗，其危可知也。”遽劝炎避位。子孟阳初为户部侍郎。夫人忧惕曰：“以尔人材而在丞郎之位，吾惧祸之必至”。孟阳解论再三，乃曰：“不然试会尔同列，吾将观之。”因偏召深熟者客至，夫人垂帘观之。既罢会喜曰：“皆尔之俦也，不足忧矣。末坐惨绿少年何人也？”曰：“补阙杜黄裳”。夫人曰：“此人全别，必是有名卿相”。

朱梁，朱延年，守寿州为杨行密所破。妻王氏闻之，乃部分家仆悉授兵器。遽阖中州之扉，而捕骑已至。遂集家属，出私帑发百僚，合州一廨焚之。既而稽首上告曰：“妾誓不以皎然之躯为仇者所辱”。乃投火而死。

石晋，李从温，在兖州多创乘舆器服。为宗族切戒，从温弗听。其妻关氏素耿介。一日，厉声于牙门曰：“李从温欲为乱，擅造天子法物”。从温惊谢，悉命焚之，家无祸败，关氏之力也。

湖南马希范以廖匡战死。遣吊，其母不器，谓使者曰：“廖氏三百口受王温饱之赐，举族效死未足以报，况一子乎？愿王无以为念。”王以母为贤，厚恤之。

卷 九

惑 溺

宋，颜延年有爱姬。非姬，食不饱寝不安。姬凭宠尝荡延年坠床致损，子竣杀之。延年痛惜甚，至尝于寝坐上哭曰：“贵人杀汝，非我杀汝”。以冬日临哭，忽见妾排屏风以压延年。延年惧，坠地，因病卒。孝武时竣贵用事，称“六贵人”。

北齐，武成见空中五色物，稍近变成一妇人，去地数尺，亭亭而立，食顷变成观世音。徐之才曰：“此色欲，多大虚所致。”即处汤方服一剂，便觉稍远。又服还变成五色



物，数剂遂愈。

唐中宗韦后，帝在房州时常谓后曰：“一朝见天日，誓不相禁忌”。及得志，受上官昭容邪说，引武三思入宫中。升御床与后双陆，帝为点筹，以为欢笑。

姜皎，元宗在藩，见而悦之。皎亦委心焉。及即位召为殿中少监。数召入卧内，命之舍敬坐侍，宴私与后妃连榻，间以击球斗鸡。常呼为“姜七”，而不名也。赐以宫女、名马、珍物不可胜数。尝与皎在殿庭玩一嘉树，皎称其美，遽令徙植于其家。后为太常卿楚国公，又为之下敕辨谤云“悠悠之谈，噉噉妄作。丑正恶直，窃生谤言。”

天后时，张昌宗得幸，又荐其兄易之，由是兄弟俱侍禁中，付粉施朱，衣锦绣衣。诏置奉宸府以易之为令，令选美少年为左右奉宸供奉。右补阙朱敬则上疏云：“陛下内宠有薛怀义、易之兄弟，足矣。尚舍奉御柳模，自言子良宾洁白美髯，左监门卫长史侯祥白云：‘过于怀义’。专欲自进，堪奉宸内供奉，无礼无义溢于朝听。”则天劳之曰：“非卿直言朕不知此”。赐彩百段。

元宗时张玮、王琚、王毛仲皆邓通閼孺之流也。毛仲本高丽人，官至开府仪同三司。每人侍宴，与诸王姜皎等御幄前连榻而坐，元宗或时不见毛仲，则悄然思之，如有所失。见之则欢洽连宵，有至日晏。

徐浩妻其妾侯莫陈氏，以妾弟冒选，托侍郎薛邕注授京尉，为御史大夫李栖筠所弹。自吏部侍郎集贤殿学士，贬明州别驾。

乔知之有侍婢曰：“窈娘”，美丽歌舞为武承嗣所夺。知之怨惜，因作《绿珠篇》以寄情，密送与婢，婢感愤自杀。承嗣大怒。因讽酷吏罗织，知之下狱死。

太宗俘虜天竺国人，就其中得方士那罗迦婆寐。自言二百岁云，自有长生之术。太宗深加礼敬，馆之于金甍门内，造延年之药，令兵部尚书崔敦礼监主之。发使天下采诸奇药异石，不可胜数。延历岁月，药成，服竟不效，放还本国。

武宗奉道，宠道士赵归真等。筑望仙台于南郊，尊号“中令增明道”字。毁天下释教，以铜像钟磬铸钱，上饵金丹。性加急躁，喜怒不常。会昌五年秋冬以来觉有疾而以为换骨，上秘其事，外人但怪。上希复游猎，宰相奏事者亦不敢久留。明年上仙，宣宗即位，诛赵归真。流轩轺集于岭南，既而自受箓于刘元静，迎轩轺集于禁中。饵方士药，日觉躁渴，疽发于背遂弃天下。

闽主王曦纳金吾使尚保疑之女，立为贤妃。有殊色，曦嬖之。醉中，妃所欲杀则杀之，所欲有则有之。

黜免

宋，徐羨之不悦颜延年，出为始安太守。谢晦谓延年曰：“昔荀勗忌阮咸斥为始平郡令，卿又为始安，可谓‘二始’。”延年后又为刘湛所出为永嘉太守。甚怨愤，作“五君



咏”。其咏阮咸云：“屡荐不入官，一麾乃出守”，盖自序也。

宋，袁淑不附刘湛，大相乖忤。淑乃赋诗曰：“种兰忌当门，怀璧莫向楚。楚少别玉人，门非种兰所”。寻乃以久疾免官。

隋文帝宠任高颍。后坐事，免，以公就第。文帝谓侍臣曰：“我于高颍胜儿子，虽或不见，常似目前。自其解落螟然忘之如无，颍不可以身要君自云第一也”。

唐，萧瑀以房元龄、杜如晦新用事，亲封伦而见疏，心不能平。上封事论之而辞旨寥落，由是忤旨，废于家。其后又超知政事，累独奏云：“元龄以下相与执权有同胶漆，但未反尔”。太宗为之信誓，积久衔之，因瑀请出家，许之。又云：“不能出家”，下诏切责。出牧小藩，仍除其封。

颜籀字师古，为秘书少监，多引后进之士为郎校。抑素流先贵，势虽富商大贾，亦引进之。人言其纳贿，由是出为郴州刺史。未行，太宗惜其才，谓之曰：“卿之学识良有可称，但事亲居官未为清论所许。今日此授卿自取之，朕以卿曩经任使不忍遽弃，宜深自戒励也。”

文德皇后崩，百官缟经。率更令欧阳询状貌丑异，众咸指之。中书舍人许敬宗见而大笑，为御史所劾，左授洪州司马。

李义府作相，罪恶贯盈。阴阳占候人杜元纪为义府望气云：“所居宅有狱气，积钱二千万乃可厌胜”。义府信之，聚敛更急。为人所发，除名长流雋州。朝野称庆，为之语曰：“今日巨唐年，还诛四凶族。”司刑太常伯刘祥道推鞠其事，或作河间道行军元帅刘祥道破铜山大贼，李义府露布榜之通衢。义府先多取人奴婢，及败一时奔散，各归其家。露布有云：“混奴婢而乱放，各识家而竞人”，谓此也。

李繁无行，父泌与梁肃友善。肃卒，繁乱其配，士论叹骇。繁坐此积年委弃，起为太常博士。太常卿权德与奏斥之，后除大理少卿。谏官御史章疏相继，出为亳州刺史。

潘孟阳以度支副使巡江淮，但务游赏，与妇女为夜饮，及归，大失人望，罢为大理卿。宪宗令郑敬宣慰江淮，戒之曰：“朕宫中，用度一匹以上皆有簿籍，唯贍恤贫民无所计算。卿今登车传令，宜体吾怀，勿学潘孟阳所至。但务酣饮游山寺而已。”其为人主簿如此。

张仲方，九龄之族也。为度支郎中。太常谥李吉甫为恭懿，仲方驳之曰：“通敏资性便媚取容，故载践枢衡叠致台衮。大权在已，沈谋罕成，好恶徇情，轻诺寡信。谄泪在脸，遇便则流，巧言如簧，应机必发”。宪宗贬仲方为遂州司马，自驳谥之后，为德裕之党排斥，坎坷而没。

杨虞卿能朋比唱和。李宗闵待之如骨肉，时号党魁。京师讹言“郑注为上合金丹，须小儿心肝，密旨捕小儿无算”。民间相告语，扃锁小儿甚密，街肆惶惶。上闻之，郑注不自安，御史大夫李固素疾虞卿朋党，乃言此语出于虞卿之从人。上怒收虞卿下狱，其家称冤，自京兆尹再贬虔州司户。



李邕贬钦州遵化县尉，后为滑州刺史。上计京师，邕素负美名，频被贬斥，皆以邕能文养士，贾生、信陵之流执政，忌胜剥落在外，人间素有声闻。后进不识京洛阡陌，聚观以为古人，或将眉目有异衣冠，望风寻访门巷。

元和初，韦执谊贬崖州司户参军。刺史李申怜其羁旅，乃举牒云：“前件官久在朝廷，颇谙公事。幸期佐理，勿惮廉贤，事须州摄军以衙推”。

朱全忠弑昭宗，以裴枢朝廷宿望。全忠奏以伶人张廷范为太常卿，枢以为必元帅之旨，持之不下。全忠曰：“吾常以裴十四器识真淳，不入浮薄之党，观此议论本态露矣”。李振言于全忠曰：“朝廷所以不理，皆由浮薄之徒紊乱纪纲，不若尽去之”。全忠以为然，有以名检自处，声迹稍著者，皆指为浮薄。贬逐无虚日，搢绅为之一空。

五代，李知损仕晋，以受赂滴均州。仕汉以使江淮行止秽杂，滴棣州司马。至周征还，又上章求为过海使。世宗怒，除名配沙门岛。知损将行，谓所亲曰：“余尝遇善相者言，我三逐之后当居相位，余自此而三矣”。后才岁余，卒于海中。

伤 逝

梁，王规字威明，卒，皇太子与湘东王绎书曰：“王威明风韵道正，神峰标映，千里绝迹，百尺无枝，实俊人也。一逝过隙，永归长夜。金刀掩锐，长淮绝涸。”

宋，范煜谋逆。子嵩连坐，就刑于市。煜醉，嵩亦醉，嵩取土果皮以掷煜，呼为别驾数十声。煜问曰：“汝瞋我耶？”嵩曰：“今日何缘复瞋？父子同在不能不悲尔。”煜妻来别，先抚嵩回骂煜曰：“君不为百岁，阿家不感天子恩遇，身死固不足塞罪，奈何枉杀子孙？”煜干笑而已。嵩幼而洁整，衣服竟岁未尝有点尘，死时年二十。

齐，豫章王嶷薨，武帝哀痛。敕王融作铭曰：“半岳摧峰，中河坠月。”帝流涕曰：“此正吾所欲言也”。

陈，鲁广达为将，阵亡被执，愤慨而卒。江总抚柩恸哭，乃命笔题棺头曰：“黄泉虽抱恨，白日自留名。悲君感义死，不作负恩生。”

宋孝武殷淑妃卒，邱灵鞠献挽词三首云：“云横广阶暗，霜深高殿寒。”帝随句嗟赏。

唐明皇西幸至马嵬驿，杨贵妃缢死瘞于驿西道侧。上皇自蜀还，密令中使改葬于宅所。初瘞时，以紫褥裹之，肌肤已坏而香囊犹在。内官以献上皇，视之凄惋，令图其形于别殿，朝夕视之。

元宗杨皇后，肃宗之母也。元宗命张说为埋铭云：“石兽涅兮绿苔粘，宿草残兮白露沾。园寝阔兮脂粉腻，不知何年开镜奁。”

朱，梁末帝，唐庄宗纳其妃郭氏。许收葬末帝，殷鹏作志文警句云：“七月有期不见望陵之妾，九嶷无色空余泣竹之妃。”闻者为之凄然。



汰侈

梁，贺琛言于武帝云：“今之宴，喜相竞夸豪，积果如邱陵，列肴同绮绣，习以成俗，日见滋甚。宜严为禁制，导以节俭，纠奏浮华，变其耳目。夫失节之嗟，亦民所自患，正耻不能及群，故勉强而为之。苟以纯素为先，足正雕流之敝。”

宋武帝时，岭南献人筒细布一端八丈。帝恶其精丽劳人，即以付有司，弹太守以布还之，并制岭南禁作此布。

夏世祖性奢侈。筑统万城，高十仞，基厚三十步，上广十步，宫墙高五仞，其坚可以厉刀斧。台榭壮大，皆雕镂图书，被以骑绣穷极文采。魏主入其城顾谓左右曰：“蕞尔之国而用民如此，欲不亡得乎？”

魏河间王琛。骏马十余匹，以银为槽，窗户之上玉凤衔铃，金龙吐旗。

徐湛之产业甚厚，室宇园池，伎乐之妙，冠于一时。门生千余，皆三吴富人子，资质端美，衣服鲜丽，每出入行游，涂巷盈满。雨日，悉以后车载之。文帝每嫌其侈纵。时安成公何劭，无忌之子；临汝公孟灵休，昶之子也，并名奢豪，与湛之以肴膳、器服、车马相尚。都下语曰：“安成食，临汝饰”。湛之兼何、孟之美。湛之孙缙，字君倩。仕梁为湘东王镇西咨议参军，颇好声色。侍妾数十皆佩金翠，曳罗绮。时襄阳鱼宏亦以奢侈称，府中谣曰：“北路鱼南路徐”。

宋，谢灵运性奢侈，车服鲜丽，衣服多改旧形制，世共宗之，咸称谢康乐也。

梁，萧宏奢侈过度，修第拟于帝宫，后房数百余人，皆极天下之选。所幸江无畏服玩侔于东昏潘妃，宝厩直千万。豫章王综以宏贪吝，遂作《钱愚论》。

鱼宏尝谓人曰：“我为郡有四尽：水中鱼龟尽，山中獐鹿尽，田中米谷尽，村里人庶尽。大丈夫生如轻尘栖弱草，白驹之过隙。人生但欢乐，富贵在何时。”于是恣意酣赏，侍妾百余人，不胜金翠，服玩车马，皆一时之惊绝。有眠床一张，皆是麝柏四面周匝，无一有异。用银镂金花寿福两重为脚。

陈，孙瑒居家颇失于侈，家庭穿筑，极林泉之致，歌童舞女当世罕俦。及出镇郢州，乃合十余船为大舫，于中立亭池，植荷菱。良辰美景，宾僚并集，泛长江而置酒，亦一时之胜赏焉。

隋文帝子秦王俊，盛修宫室，穷极侈丽。为妃作七宝幂篱，重不可戴，以马负之而行。又为水殿，香涂粉壁，玉砌金阶，梁柱榱桷之间，周以明镜，间以宝珠，极莹饰之美。每与宾客妓女弦歌于上。

隋，虞孝仁性奢华。伐辽之役，以骆驼负函盛水养鱼以自给。

炀帝作西苑，其内为海，海北有龙鳞渠，作十六院，门皆临渠。每院以四品夫人主之。翦彩为菱荷，乘舆临幸，则去水而布之。上好以月夜从宫女数千骑游西苑，作《清夜



游曲》，马上奏之。

唐太宗盛饰宫掖，明然灯烛，与萧后同观之，谓曰：“朕施設孰与隋主？”萧后笑而不答。固问之，曰：“彼乃亡国之君，陛下开基之主。奢俭之事固不同尔”。帝曰：“隋主何知？”萧后曰：“每至除夜，殿前诸位设火山数十，尽沉水香根，每一山焚沉香数车以甲煎簇之，焰起数丈，香闻数十里，一夜之中用沉香二百余车，甲煎二百余石。房中不燃膏火，悬宝珠一百二十，以照之，光比白日。妾观陛下殿前所焚是柴木，殿内所煎是膏油，但觉烟气薰人”。太宗良久不言，口刺其奢，心服其盛。

元宗以风俗奢靡。开元二年秋七月制：乘舆服御，金银器玩，宜令有司销毁，以供军国之用。其珠玉锦绣焚于殿前，后妃以下皆无得服珠玉，锦缕、细绣也。

杨钊、杨钊，韩、虢、秦三夫人，竞开第，各极壮丽。一堂之成，动逾千万。既成，见它人有胜己者，皆辄毁而改为。虢国尤为豪荡，一旦，帅二徒突入韦嗣立宅，即撤去旧屋，自为新第。但授韦氏以隙地十亩而已。中堂既成，召匠巧，约钱二百万，复求赏拔。虢国以绛罗五百段赏之，嗤而不顾曰：“请取蝼蚁、蜥蜴，记数置堂中，苟失一物，不敢受直。”

元宗每十月幸华清宫。五家扈从，每家为一队，著一色衣。五家合队，照映如百花之焕发，遗钿坠乌，琴瑟珠翠，灿烂芳馥于路。

天宝九载，诸贵戚竞以进食相尚。元宗命官姚思艺为司校进食使。水陆珍羞数千盘，一盘费，中人十家之产。

元宗为安禄山起第于亲仁坊，敕令但穷极壮丽，不限财力。既成，具幄幕器皿，充初其中，布帖白檀床二，皆长一丈，阔六尺；银平脱屏风帐一，方一丈八尺。于厨厨之物，皆饰以金银，金饭碗一，银淘盆二，皆受五斗织银丝筐及笊篱各一。它物称是，虽禁中服御之物，殆不及也。上令中使护役，常戒之曰：“胡眼大，勿令笑我。”

郭孝恪性奢侈，仆妾器玩务极鲜华。虽在军中，床帐完具。尝以遣行军大总管阿史那社尔，社尔一无所受。太宗闻之曰：“二将优劣之不同也”。郭孝恪为虜所屠，可谓自贻伊咎耳。

韦陟，安石之子。门地豪华，早践清列，侍儿阉閹，列侍左右者千数，衣、书、药、石咸有掌典，舆马僮奴，势逾王家主第。

裴冕性奢侈，名马在枥，直数百金者常十数。自创巾子号“仆射巾”，初，代鸿渐为相，小吏以俸钱文簿白之。冕顾视喜见于色，其嗜利若此。

元宗幸蜀，所居后以为道观。节度至，皆先拜而后视事。郭英又镇蜀，移去元宗铸金真容，自居之，颇恣狂荡。取女人骑驴击球，制细驴鞍及诸服用，皆侈靡装饰。日费数万以为笑乐，众畔而奔，为人所杀。

江南风俗，春中有竞渡之戏。方舟并进，以急趋疾进者为胜。杜亚在淮南，乃令以漆涂船底贯其速进，又为绮罗之服，涂之以油，令舟子衣入水不濡，亚本书生奢纵如此。



安史大乱之后，法度隳弛，内臣、戎帅竞务豪奢，亭馆第宅，力穷乃止，时谓“木妖”。马磷之第，经始中堂，费钱二十万贯。及磷卒，京师士庶观其中堂，或假称故吏，争往赴吊者数十百人。德宗即位，诏毁磷中堂及中官刘忠翼之第，仍命马氏献其园，谓之“奉诚园”。

潘孟阳气尚豪俊，不拘小节。居第颇极华峻，宪宗微行至乐游园，见其宏敞工犹未已，问之左右以孟阳对，孟阳惧而罢工作。

王起富于文学而理家无法，俸料入门即为仆妾所有。文宗以师徒之恩恤其家贫，特诏每月割仙韶院月料钱三百千添给，议者以与伶官分给，可为耻之。

段文昌布素之时，所向不偶。及其达也。扬厉显重，出入将相。洎二十年其服饰、玩好、歌童、妓女苟说于心无所爱惜，乃至奢侈过度物议贬之。

文宗素恭俭。谓宰臣曰：“朕闻前时内库唯二锦袍，饰以金乌。一袍元宗幸温泉御之，一即与贵妃。当时贵重如此，今奢靡岂复贵之。料今富贵往往皆可，有，左卫副使张元昌用金唾壶，昨因李训已诛之矣。”

中宗安乐公主与长宁公主，竞起第舍以侈丽相高。拟于宫中，而精巧过之。安乐公主请昆明池，上以百姓捕鱼所资，不许。公主不悦，乃更夺民田作定昆池，广袤数里，累石象华山，引水象天津。欲以胜昆明，故名“定昆”。安乐有织成裙，直钱一亿，花卉鸟兽，皆如粟粒，正视旁视，日月影中，各为一色。

懿宗咸通十年，以同昌公主适拾遗韦保衡。公主，郭淑妃之女，上特爱之。倾宫中珍玩以为资送，赐第于广化里。窗户皆饰之以杂宝，并药臼、槽柜，亦以金银为之，编金缕为之箕筐，赐五百万缗，它物称是。十一年，以保衡为相。是年，公主薨。明年，葬韦氏之人，争取庭祭之灰，汰其金银。凡服玩，每服皆百二十舆。以锦绣、珠玉为仪卫，明器辉煌三十余里。赐酒百斛，饼馅四十囊驼，以饲幸夫。上与郭淑妃思公主不已，乐工李可及作《叹百年曲》，舞者数百人。发内库杂宝为首饰，以绫八百匹为地衣，舞罢，珠玑覆地。十四年秋，懿宗上仙。是冬保衡赐自尽。

后唐，李存审，近代良将也。常谓诸子曰：“予本寒家，少小携一剑而违乡里，四十年间位极将帅。其间屯危患难，履锋冒刃。入万死而无一生，身方及此，前后中矢仅百余，乃出铁以示诸子，因以奢侈为戒。”

淮南杨渥居丧，昼夜酣饮作乐，燃十围之烛以击球，一烛费钱数万。

朱梁，朱瑾有所乘名马，冬以锦帐贮之，夏以罗幙护之。

石晋，张钱在雍州，因春景舒和出游近效，憩于大冢之上，忽有黄雀衔一铜钱落于钱前而去。归复于衙院昼卧，见二燕相斗毕，各衔一钱落于钱首。前后所获三钱，常秘于巾箱，识者以为大富之兆。钱后为富家积白金万镞，藏之窟室。出入以扈者十余人从行，食皆水陆之珍鲜，厚自奉养，无与为比。

孙晟仕江南二十年间，货财邸第颇适其意，以家妓甚众，每食不设食几，令众妓各执



一食器，周侍于其侧，谓之肉台盘，其自奉养如此。

蜀主王衍，奢纵无度，常列锦步障，击球其中，往往远适而外人不知。燕诸香，昼夜不绝。久而厌之，更蒸皂荚以乱其气。结缯为山，及宫殿楼观于其上，或为风雨所败，则更以新者易之。或乐饮缯山，经旬不下。山前穿渠通禁中。或乘船夜归，令宫女秉炬烛千余居前船却立，照之水面如昼。或酣饮禁中，鼓吹沸腾，以至达旦，以是为常。

湖南马希范奢侈无厌，宫室、园囿、服用之物，务穷侈靡。作九龙殿，刻沉香为八龙，饰以金宝，长千余丈，抱柱相向，希范居其中，自为一龙。其朴头脚长丈余，以象龙角。

石晋，吐谷浑酋长白承福家甚富，饲马用银槽。

卷十

直 谏

魏主叡于河西，尚书令古弼留守。诏以肥马给猎骑，弼悉以弱马给之。帝大怒曰：“笔头奴敢裁量朕，朕还台，先斩此奴。”弼头锐，故帝常以笔公目之。弼官属皇怖，悉并坐诛。弼曰：“吾为人臣，不使人主盘于游田，其罪小；不备不虞，乏军国之用，其罪大。今蠕蠕力强，南寇未灭，吾以肥马供军，弱马供猎，为国远虑，虽死何伤？”帝闻之叹息，赐之以裘马。它日，魏主复叡于山北，获麋鹿数千头，诏尚书发牛车五百乘载之。诏使已去，魏王谓左右曰：“笔公必不与我，汝辈不如自以马运之。”遂还，行百余里，得弼表曰：“今秋谷悬黄，麻菽布野，猎鹿窃食，鸟雁侵费，风雨所耗，朝夕三倍，乞赐矜缓，使得收穫。”帝曰：“笔公可谓社稷之臣矣。”

齐，文惠太子幸东田观获稻，谓范云曰：“此割甚快。”云曰：“三时之务，亦甚勤劳，愿知稼穡之艰难，无徇一朝之宴逸。”文惠改容谢之，侍中萧缅先不相识，就车握云手曰：“不谓今日复闻说言。”

傅縡谏陈后主曰：“夫人君者，恭事上帝，子爱黔黎，省嗜欲远。谄佞，未明求衣，日旰忘食，是以泽被区宇，庆流子孙。陛下顷来酒色过度，不虔郊庙之神，专媚淫昏之鬼。小人在侧，宦竖弄权，恶忠直若仇讎，视百姓如草芥。后宫曳绮绣，厩马余菽粟，兆庶流离，转尸蔽野，贿赂公行，帑藏虚耗，神怒人怨，众叛亲离。恐东南王气，因兹而尽。”后主人大怒，竟被赐死。

章华谏后主曰：“陛下即位，于今五年，不思先帝之艰难，不知天命之可畏；溺于嬖宠，惑于酒色；祠七庙而不出，拜妃嫔而临轩；老臣宿将，弃之草莽，谄佞谗邪，升之朝廷。今疆场日蹙，隋军压境。陛下如不改弦更辙，臣见麋鹿复游于姑苏矣。”后主大怒，



即日斩之。

宋，明帝起湘宫寺，曰：“此是大功德。”虞愿曰：“陛下起此寺，皆是百姓卖儿鬻妇，佛若有知，当悲哭哀愍。罪高，佛图有何功德？”袁粲在坐，为之失色。帝大怒，使人驰曳下殿，愿徐去无异容。

后周，宣帝德政不修，数行赦宥。乐运上疏曰：“臣案周官，国君过市刑人赦，此谓市者交利之所。君子无故不游观焉，则施惠以悦之也。《尚书》曰：‘眚灾肆赦，此谓过误，为害虽大，当缓赦之。’谨寻经典，未有罪无轻重溥天大赦之文。故管仲曰：‘有赦者奔马之委轡，不赦者痤疽之砺石。’又曰：‘惠者人之仇讎，法者人之父母。’吴汉遗言犹云：‘唯愿无赦。’王符著论亦云：‘赦者非明世之所宜有，至尊岂可数施非常之惠，以肆奸宄之恶乎？’。”

隋，苏威，高祖尝怒一人欲杀之。威伏阁进谏，不纳。上怒甚，将自出斩之，威当前不去。上避之而出，威又遮止。上拂衣而入，良久乃解。召威谢曰：“公能若是，吾无忧矣。”赐马二匹，钱十余万。

隋，刘行本，高祖尝怒一郎，于殿前笞之。行本曰：“此人素清，其过又小，愿陛下少宽假之。”上不顾，行本于是正当上前曰：“陛下不以臣不肖，置臣左右，臣言是，陛下安得不听？臣言若非，当置之于理，以明国法，岂得轻臣言而不顾也！”因晝笞于地而退。上敛容谢之。

刑部侍郎辛亶，常衣绯袴，俗云利于官。隋高祖以为厌蛊，将斩之。刑部侍郎赵绰曰：“据法不当死，臣不敢奉诏。”上怒甚，谓绰曰：“卿惜辛亶而不自惜也。”命左仆射高颖将绰斩之。绰曰：“陛下宁可杀臣，不可杀辛亶。”至朝堂解衣当斩，上使人谓绰曰：“竟如何对？”曰：“执法必不敢惜死。”上拂衣而入，良久释之。明日，谢绰劳勉之，赐物三百段。

魏郑公，容貌不逾中人，而有胆略。善回人主意，每犯颜苦谏。或逢上怒甚，郑公神色不移，太宗亦为之霁威。尝谒告上冢，还，言于上曰：“人言陛下欲幸南山，在外皆丽装已毕，而竟不行，何也？”上笑曰：“初实有此心，畏卿嗔，故中辍尔。”上尝得佳鹞，自臂之，望见征来，匿怀中，征论事故久不已，鹞竟死怀中。太宗尝朝罢，怒曰：“会须杀此田舍翁！”后问为谁，上曰：“魏征每廷辱我。”后退，具朝服立于庭。上惊问其故，后曰：“主明臣直，由陛下之明，故妾敢不贺。”上乃悦。

魏王泰有宠于上，或言三品以上多轻魏王。上怒，引三品以上作色让之曰：“隋文时一品以下皆为诸王所顿颡，彼岂非天子儿耶？朕但不听诸子纵横，耳闻三品以上皆轻之。我若纵之，岂不能折辱公辈耶？”房元龄等皆惶恐流汗拜谢。魏征独正色曰：“臣窃计当今群臣，必无敢轻魏王者。在礼，臣子一也。春秋王人虽微，序于诸侯之上，三品以上皆公卿。陛下所尊礼，若纪纲大坏，固所不论，圣明在上，魏王必无顿辱群臣之理。”隋文骄其诸子使多行无礼，卒皆夷灭，又足法乎？”上悦，曰：“理到之语，不得不服，朕以私爱



忘公义，及闻征言方知理屈。”

唐俭从太宗幸洛阳苑射猛兽。群豕突出林中，太宗引弓四发殪四豕。有雌豕突其马，俭投马搏之，太宗拔剑断豕首，顾笑曰：“天策长史；不见上将击贼耶，何惧之甚？”俭曰：“汉祖以马上得之，不以马上治。陛下以神武定四方，岂复逞雄心一兽？”太宗纳之，为之罢猎。

隋文帝遣屈突通往陇西检覆群牧，得隐藏马二万匹。帝盛怒，欲斩太仆卿以下一千五百人。通谏曰：“岂容以畜产之故，戮千有余人。敢以死请。”帝瞋目叱之，通顿首曰：“臣一身如死，望免千余人。”帝悟曰：“朕之不明，以至于此，今从所请，以旌谏诤。”诸人竟得减死论。

李大亮为凉州都督，有台使到州，见有名鹰，讽大亮献之。亮密表言之，太宗下书嘉叹云：“古人称一言之重于千金，今赐卿胡瓶一枚，虽无千镒之重，是朕自用之物也。”

太宗即位，务止奸吏，遣人以财物试之。有司门吏，受绢一匹，太宗怒，将斩之。裴矩谏曰：“此人受赂，诚合重诛。但陛下不应以物试之。即行极法，所谓陷人以罪，恐非道德、齐礼之义。”太宗从之，因召百寮谓曰：“裴矩遂能庭折，不肯面从，每事如此，天下何忧不治？”

房元龄病笃，谓诸子曰：“当今天下清谧，咸得其宜，惟东讨高丽，方为国患。主上含怒意决，臣下莫敢犯颜。吾知而不言，则衔恨入地。”遂抗表切谏云：“陛下决一死囚，必令三覆五奏，进素食，停音乐。今兵士之徒无罪，乃驱之行阵之间，委之锋鏖之下，使肝脑涂地，魂魄无归。令其老父、孤儿、寡妻、慈母，望辎车而掩泣，抱枯木以摧心。足以变动阴阳，感伤和气。且兵者凶器，不得已而用之。向使高丽违失臣节，诛之可也；侵扰百姓，灭之可也；久长能为国患，除之可也。今无此三者，乃坐蔽中国，所存者小，所损者大。谨罄残魂余息，预代结草之诚。”太宗省表曰：“此人危懼如此，尚能忧我国事。”

太宗闲居，与王珪宴语，时有美人侍侧，本庐江王瑗之姬，瑗败，籍没入宫。太宗指示之曰：“庐江不道，贼杀其夫而纳其室。”珪避席曰：“陛下以庐江取此妇人，为是邪？非邪？”太宗曰：“杀人而取其妻，卿乃问朕是非，何也？”珪曰：“齐桓公之郭，问其父老曰：‘郭何故亡？’父老曰：‘以其善善而恶恶也。’桓公曰：‘若子之言，乃贤君也，何至于亡？’父老曰：‘善善不能用，恶恶不能去，所以亡也。’今此妇人尚在左右，窃以圣心为之。陛下若以为非，此所谓知恶而不能去也。”太宗虽不去此美人，而心甚重之。

太常少卿祖孝孙，以教宫人声乐不称旨，为太宗所让。王珪、温彦博谏曰：“孝孙雅士，陛下忽为教女乐而怪之，臣恐天下惜愕。”太宗怒曰：“卿皆我之腹心，当进忠献直，何乃附下罔上，反为孝孙言也？”彦博拜谢，珪独不谢曰：“臣本事前宫，罪当死。陛下置之枢近，待以忠直。今臣所言，岂是为私？不意陛下忽以疑事诘臣，是陛下负臣，臣不负陛下。”帝默然而罢。明日，帝谓房元龄曰：“昨日责彦博、王珪，朕甚悔之。”

太宗遣使诣西域立叶护可汗，未还，又遣使历诸国市马。魏征谏曰：“今以立可汗为



名，可汗未定，又往市马，彼必以为意在市马，不为专立可汗。可汗得立，则不甚怀惠，诸蕃闻之，以中国薄义重利，未必得马，而已失义矣。昔汉文时有献千里马者曰：‘吾古行五十，凶行三十，銮舆在前，属车在后，吾独乘千里马，将安之。’乃赏其道路所费之术而遣之。汉光武有献千里马、宝剑者，以马驾鼓车，剑赐骑士。凡陛下所为，皆邈逾三王之上，奈何此事欲为孝文、光武之下乎？魏文帝欲求市西域之大珠，苏则曰：‘若陛下惠及四海，则不求自至，求而得之，不足贵也。’陛下纵不能慕汉文帝之高行，可不畏苏则之言乎？”太宗乃止。

刘洎疎峻敢言，太宗每与公卿持论必诘难往复。洎谏曰：“以至愚对至圣，以极卑对至尊，陛下降恩旨，假慈颜凝旒以听其言，虚襟以纳其说，犹恐群下未敢对扬。况动神机，纵天辩，饰词以折其理，援古以排其义，欲令凡庶何阶应答。今日升平皆陛下力行所致，欲其长久，匪由辩博。但当忘彼爱惜慎兹取舍。每事敦朴，无非至公，若贞观之初则可矣。”

马周上疏云：“古语云：‘动人以行不以言，应天以实不以文。以陛下之明诚，欲励精为政，不烦远采。上古之术，但及贞观之初，则天下幸甚。’”

太宗走马射帖，娱悦近臣。孙伏伽谏，以为：“此只是少年诸王之事尔。”太宗览之，大悦。

马周上疏：“以太上皇居城外宫宇卑小，四方观者有不足焉。”又云：“车驾欲幸九成宫避暑，而太上皇尚留热所，温清之道窃所未安。”又谏：“践祚以来未尝亲享宗庙。”又谏：“胎子倡人鸣玉曳履与朝贤比肩。”太宗深纳之。

高祖幸泾阳校猎，顾谓朝臣曰：“今日畋乐乎？”苏世长进曰：“陛下游猎，薄废万机，不满十旬，未为大乐。”高祖色变曰：“狂态发耶。”世长曰：“为私计则狂，为国计则忠。”

高宗遣宦者缘江采异竹欲植苑中，宦者科舟所在纵暴。苏良嗣在荆州囚宦者，上疏切谏。高宗下诏慰勉，令弃竹江中。孙伏伽谏高祖曰：“陛下二十日龙飞，二十一日有献鹞鸟者。又闻相国参军卢牟子献琵琶，长安县丞张安道献弓箭，及太常官司于民间借妇女裙襦五百余具，充散伎之服。”高祖大悦，下诏褒赐。

贞观四年，诏发卒修洛阳宫乾阳殿，以备巡幸。张元素上书极谏云：“阿房成，秦人散；章华就，楚众离；乾阳毕功，隋人解体。且以陛下今时功力何如隋？日役疮痍之人，袭亡隋之敝，恐甚于炀帝。”太宗曰：“卿谓我不如炀帝，何如桀纣。”对曰：“若此殿卒兴，所谓同归于乱。”太宗叹曰：“我不思量，遂至于此。所有作役，宜即停之。”魏征叹曰：“张公论事，遂有回天之力，可谓仁人之言，其利溥哉。”

柳范为侍御史，吴王恪好田猎，损居人，范奏弹之。太宗因谓侍臣曰：“权万纪不能匡正我儿，罪当死。”范进曰：“房元龄事陛下，犹不能谏止田猎，岂可独罪万纪？”太宗大怒，拂衣而起。久之，引范谓曰：“何得逆折我？”范曰：“臣闻主圣臣直，陛下仁明，臣敢不尽愚直。”太宗乃解。



睿宗时，姚宋秉政，奏停中宗朝斜封官数千员。及姚宋出为刺史，太平公主又特为之言，有敕总令复旧。柳泽上疏谏曰：“斜封授官，皆是仆妾汲引迷谬先帝。今又令叙之，将谓斜任封之人忍弃也，先帝之义不可违也。内外咸称太平公主令胡僧慧范曲引此辈，将有误于陛下矣。故语曰：‘姚宋为相，邪不如正。太平用事，正不如邪。’臣恐积小成大，累微起高。勿谓何伤，其祸将长；勿谓何害，其祸将大。”

高季辅尝谏时政得失。太宗特赐钟乳一剂曰：“进药石之言，故以药石相报。”

太宗尝言及山东关中人意有异同。张行成跪奏曰：“臣闻天子以四海为家，不当以东西为限，示人以隘。”太宗又言：“我为人主兼行将相事。”行成上疏以为：“汝惟不矜，天下莫与汝争能。”太宗深纳之。

太宗平高昌，每岁调发千余人防遏其地。褚遂良谏曰：“岁遣千人事屯戍，终年离别，万里思归。去者资装自须营办，既贵菽粟，又倾机杼，经途死亡，复在其外。设令张掖尘飞，酒泉烽起，陛下岂能得高昌一人而及事乎？”

高宗欲废王后立武后。褚遂良谏曰：“先帝不豫执陛下手以语臣曰：‘我好儿好妇，今将付卿。’陛下亲承德音，言犹在耳。皇后自此未闻有愆，恐不可废。”遂良置笏于殿陛曰：“还陛下此笏。”仍解巾，叩头流血。帝大怒，令引出。

贞观十四年，太宗将幸同州夜校猎。时收获未毕，栎阳丞刘仁轨上疏谏曰：“今年甘雨应时，秋稼极盛，元黄亘野，十分才收一二。尽力刈获，月半犹未讫功。贫家无力，禾下始拟种麦。今供承猎事，兼之修理桥道，纵大简略，动费一二万工，百姓收敛，实为狼狽。愿退旬日，收刈足了，则人尽暇豫，公私交泰。”太宗降玺书嘉之。

则天临朝，刘仁轨陈吕后祸败之事，以申规谏。则天玺书慰谕之曰：“卿玉：‘吕后见嗤于后代，禄产贻祸于汉朝’，初闻此语，宁不惘然。静而思之，是为龟镜。”

高宗风疾，欲逊位武后。郝处俊谏以为：“帝之与后，犹日之与月，阳之与阴，各有所主守也。昔魏文帝著令，身崩后尚不许皇后临朝。今陛下奈何遂欲躬自传位于天后！”帝乃止。

高宗既封泰山，欲遍封五岳，作奉天宫于嵩南，监察御史里行李善感谏，上虽不纳亦优容之。自褚遂良、韩瑗之死，中外以言为讳。几二十年，及善感始谏，天下皆喜，谓之：“鸣凤朝阳。”

韦思谦为监察御史曰：“大丈夫当正色之地，必明目张胆以报国恩，终不为碌碌之臣保妻子耳。”又云：“御史出都若不动摇山岳，震慑州县，诚旷职也。”思谦在宪司每见王公不拜，云：“鹄鸮鹰鸞岂众禽之偶，奈何设拜以狎之。”

狄仁杰以百姓西戍疏勒等四镇极为雕敝。上疏曰：“自典籍所纪，声教所主，三代不能至者，国家尽兼之矣。此则今日之四境已逾于夏殷者也。诗人矜薄伐于太原，美化行乎江汉，则是前代之远裔而国家之域中。至前汉时，匈奴无岁不陷边杀略吏人；后汉则西羌侵轶汉中，东寇三辅。入河上党几至洛阳。由此言之，则陛下今日土宇过于汉朝远矣。



若其用武，荒外邀功绝域，竭府库之实以争碣磈不毛之地，得其人不足以增赋；获其土不足以耕织。苟求冠带远夷之称；不务固本安人之术。此秦皇汉武之所行，非二帝三王之事业也。以臣所见，请捐四镇以肥中国；罢安东以实辽西。省军费于远方，并甲兵于塞上，则恒代之镇重，而边州之备实矣。”

朱敬则以则天初，临朝称制，天下颇多流言异议。至是稍宁，宜绝告密罗织之徒，云：“自文明草昧天地屯蒙，二叔流言，四凶构难。不设钩距无以应天顺人；不切刑名不可推奸息暴。故置神器开告端，故能计不下席，听不出闾，苍生晏然，紫宸易位。岂造攻鸣条，大战牧野，血变草木，头折不周，可同年语乎？然急趋无善迹，促柱少和声，拯溺不规行，疗饥非鼎食。即向时之妙策，乃今时之刍狗也。伏愿去萋菲之牙角，顿奸险之锋铓，窒罗织之原，扫朋党之迹。使天下苍生坦然大悦，岂不乐哉？”则天甚善之。

中宗宴侍臣，酒酣，令各为回波调。众多为谄佞或要荣位，次至谏议大夫杨景白曰：“回波尔时酒厄，微臣职在箴规。侍宴既过三爵，喧哗窃恐非仪。”中宗不悦，中书令萧至忠进曰：“此谏官也。”

则天时，张易之引蜀商宋霸子等数人，于内宴上前博戏。宰相韦安石跪奏曰：“蜀商贱类，不合至此。”因顾左右逐出之。在座者皆为失色。则天以安石词直，深慰勉之。陆元方谓人曰：“此真宰相，非吾等所及也。”

武后幸三阳宫避暑，有胡僧邀车驾观葬舍利，太后许之。狄仁杰跪于马前曰：“佛者，戎狄之神不足以屈天下之主。彼胡僧诡满直欲邀致万乘以感远近之人尔。山路险狭不容侍卫，非万乘所宜临也。”太后中道而还曰：“以成吾直臣之气也。”

卢怀慎上疏言三事：一事乞郡县未经四考不得迁除；二事乞省官；三事乞赃吏削迹簪裾，十数年间不许齿录。

郭子仪婿赵纵为奴当千所告，贬循州司马。留当千于内侍省。张镒上疏以为：“太宗之法，奴告主者皆不受，尽令斩决。顷者长安令李济得罪因奴告；万年令霍晏得罪因婢告。愚贱之辈，悖慢成风主反畏之。动遭诬构，准律。奴婢告主非谋反以上者，同自首法。令赵纵所犯非叛逆而奴实奸凶，奴在禁中，纵独下狱，且将帅之功莫大于子仪。坟土未干，两婿先已当辜，赵纵今又下狱，陛下方诛群贼，大用武臣，虽见宠于当时，恐息望于它日矣。”德宗深纳之，杖杀当千。镒乃召子仪家僮数百，以死奴示之。

裴潖为河东租庸等使。关辅大旱，诸人奏计。代宗召见便殿，问谓摧酷之利，一岁出入几何？久之不对。上复问，对曰：“臣有所思。”上曰：“何思？”对曰：“臣自河东来，其间所历三百里，见农人愁叹，穀菽未种，诚谓陛下先问人之疾苦，乃责臣以利。孟子曰：‘治国者亦以仁义而已矣。何必曰利？’上前坐曰：‘微公不闻此言。’”

元载为宰相，建白：“凡论事者，皆须先白长官，长官白宰相，宰相定可否，然后奏闻。”颜真卿上疏以为：“是自蔽其耳目也。太宗著《司门式》云：‘其有无门籍入，有急奏者，皆令监门司与仗家引奏，不许关碍。所以防壅蔽也。并置立仗马二匹，须有乘骑便



往。所以平治天下正用此道。天宝以后，李林甫威权日盛，群臣不白宰相，辄奏事者，托以它故中伤。犹不敢明约百司，先白宰相。然潼关之祸，起于下情不得上通，陵夷至于今日。天下之蔽，萃于圣躬，所从来者渐矣。陛下方当日闻说言，以广视听，而顿欲隔绝。虽李林甫、杨国忠犹不敢公然如此。陛下不早觉悟，渐成孤立，危殆之期，翘足而至也。臣诚知忤大臣者，罪在不测，不忍孤负陛下，无任恳迫之至。”元载构于代宗，贬真卿峡州别驾。

肃宗以王玙为相，信妖祠道士李国祯，请建大地婆父等祠。昭应县令梁镇上表极言其不可，曰：“大地婆父祀典无文言甚不经，义无可取。若陛下特与大地建祖宗之庙，必上天貽向背之责，陛下又何以为祠哉！”

李晟在凤翔谓宾介曰：“魏征能直言极谏，致太宗于尧、舜之上，真忠臣也。仆窃慕之。”行军司马李叔度曰：“缙绅、儒者之事，非助德所宜。”晟敛容曰：“行军失言。邦有道，危言危行。今休明之期，晟幸得备位将相，必有不可，忍而不言，岂可谓有犯无隐，知无不为耶？是非在人主所择尔。”叔度惭而退，故晟为相，每当上所顾问，必极言匪躬，尽大臣之节。

宪宗以皇甫镈为相。裴度上疏以为：“陛下引一市肆商徒与臣同列，在臣亦有何损，但于陛下实有所伤。”宪宗以度为朋党，竟不省。

李晟收京城，德宗令中使宣付翰林院，具录先散失宫人名字，令草诏赐浑瑊于奉天寻访，以得为限。陆贽不奉诏，进状谕之以为：“清庙震惊，三时乏祀，宜先迎复神主，修整郊坛，然后吊恤死义，慰犒有功。至如中栢之侍，宜后不宜先也。内人散失，已经累月，既当乱离之际，必为将士所私，一闻搜索，必皆怀惧。昔人所以掩绝纆而饮盗焉，盖知为君之体然也。”帝遂不降诏，但遣使而已。

奉天围解，从臣称庆。贾隐林起舞奏曰：“贼泚奔遁，臣下大庆，此皆社稷无疆之休。然陛下性灵太急，不能容忍，若旧性未改，贼虽奔亡，臣恐忧未艾也。”上不以为忤，甚称之。

归登为右拾遗，时裴延龄奸佞有恩，欲为相。谏议大夫阳城上疏切直，德宗赫怒，右补阙熊执易等亦以危言忤旨。初，执易草疏成，示登。登愕然曰：“愿寄一名，雷霆之下安忍令足下独当？”自是同列切谏，登每连署，无所回避，时人称重。后为散骑常侍。因中谢宪宗问时所切，登以纳谏为封，时论美之。

敬宗时，少列陈站进注《维摩经》，得濠州刺史。刘宽夫与同列因对论之，言站因供奉僧进经以图郡牧。敬宗怒谓宰相曰：“陈站不因僧得郡，谏官安得此言？须推排头首来。”宽夫奏曰：“昨论陈站之时，不记发言前后，唯握笔草状即是。微臣今论事不当，臣合当罪，若寻究推排，恐伤事体。”帝嘉其引过，欣然释之。

薛廷老与同寮入阁奏事曰：“近日除拜，往往不由中书进拟，或是宣出。伏恐纪纲渐坏，奸邪恣行。”敬宗厉声曰：“更谏何事？舒元褒进曰：“近日宫中修造太多。”上色变



曰：“何处修造？”元褒不能答，廷老进曰：“臣等职是谏官，凡有所闻即合论奏。莫知修造之所但见运瓦木极多，即知有用，乞陛下勿罪臣言。”帝曰：“已谕。”

敬宗荒恣，屡出畋游，每月坐朝不三四日。韦处厚从容奏曰：“臣有大罪，伏乞面首。”帝曰：“何也？”处厚曰：“臣前为谏官，不能先朝死谏，纵先圣好田及色，以至不寿，臣合当诛。然所以不死谏者，亦为陛下尔时在春官，年已十五。今时陛下皇子，始一岁矣，臣安得更避死亡之诛！”上深感悟，赐以银彩。

韩愈始为监察御史，德宗时也，极谏宫中之敝，贬连州阳山令，后为刑部侍郎；宪宗时也，力言佛骨之事，贬潮州刺史。李绛因浴堂北廊奏对，极论中官纵恣，方镇进献之事。宪宗怒，厉声曰：“卿论太过。”绛前论不已曰：“臣所谏论于臣无利，是国家之利。陛下不以臣愚，使处腹心之地，岂可见事亏盛德，致损清时，而惜身不言，仰屋窃叹，是臣负陛下也；若不顾患祸，尽诚奏论，旁忤幸臣，上犯圣旨，以此获罪，是陛下负臣也。且臣与宦官素不相识，又无嫌隙，只是威福太盛，上损圣明。臣所以不敢不论耳，使臣缄嘿非社稷之福也。”宪宗见其诚切，改容慰谕之。

李绛作相时，教坊忽称，密旨取良家士女及衣冠别第妓人，东师囂然。绛谓同列曰：“此事大亏损圣德，须有论谏。”或云：“此嗜欲间事，自有谏官论列。”绛曰：“居常病谏官不论事，此难事即推与谏官，可乎？”乃极言论奏。翌日，延英宪宗举手谕绛曰：“昨见卿状，所论采择事，非卿尽忠于朕，何以及此。朕都不知向外事，此是教坊罪过，不谕朕意，以至于此。朕缘丹王以下四人院中，都无侍者，朕令于乐工中及闾里有情愿者，厚其钱帛，只取四人。王各与一人，伊不会朕意，便如此生事，朕已令科罪，其所取人并已放归。若非卿言，朕宁知此过？”

文宗便殿对六学士，语及汉文恭俭。帝举袂曰：“此浣濯者三矣。”学士皆赞咏帝之俭德，唯柳公权无言。帝留而问之，对曰：“人主当进贤退不肖、纳谏诤、明赏罚，服浣濯之衣乃小节尔。”时周墀同对，为之股票，公权词气不可夺。

温璋为京兆尹。懿宗以同昌公主薨，怒杀医官，其家属下狱者三百人。璋上疏切谏，以为刑法太深，帝怒贬振州司马。制出，璋叹曰：“生不逢时，死何足惜！”是夕，自缢卒。

元稹为东台御史，召还京，宿敷水驿。内官刘士元后至，争厅。士元怒排其户，稹惊而走厅后，士元追之，以箠击伤稹面。执政以稹年少后辈，务作威福，贬为江陵府士曹参军。白居易为拾遗，上疏云：“况闻士元踢破驿门，夺将鞍马，仍索弓箭吓辱朝臣，承前已来未有此事。今日中官有罪未闻处置，御史无过却先贬官，远近闻知实损圣德。”

白居易为翰林学士，尝因论事，言：“陛下错。”宪宗色庄而罢，密召承旨李绛谓曰：“居易小臣不逊，须令出院。”绛曰：“陛下容纳直言，故群臣敢竭诚无隐。居易言虽少思，志在纳忠。陛下若罪之，臣恐天下各思箝口，非所以广聪明昭圣德也。”上悦，待居易如初。



裴度作相，五坊使杨朝汶以贾人张陟负钱逃匿。于陟家得私簿有负钱人卢载初，云：“是故西川节度使卢坦书迹。”即捕坦家人拘之。坦男不敢申理，即以私钱偿之。及征验书迹，乃故郑滑节度使卢群手书也。坦男理其事，朝汶曰：“钱已进，过不可复得。”台谏上疏，陈其暴横，度与崔群因延英对极言之。宪宗曰：“且欲与卿商量东军，此小事我自处置。”度曰：“用兵小事也，五坊追捕平人大事也。兵事不理，只忧山东。五坊使暴横恣乱鞞轂。”上不悦，良久方省悟。召朝汶数之曰：“向者为尔使我羞见宰相。”遽命诛之。

李渤为谏议大夫。长庆宝历中政出多门，事归邪幸，渤不顾患难，章疏论列，曾无虚日。敬宗虽昏纵亦为之感悟，宝历中肆赦，先是鄂杜令崔发以捕五坊内官被系，立在鸡竿下，内官五十余人持杖殴之。是日，系囚皆释，发独不免，渤疏论之云：“县令所犯在恩前，中人所犯在恩后，中人横暴一至于此。”上以为朋党，出渤桂管。

太和中，李中敏为司马员外郎。时王守澄、方宠、郑注及诬构宋申锡，后人侧目畏之。上以久旱诏求致雨之方，中敏上言曰：“仍岁大旱，非圣德不至。直以宋申锡之冤滥，郑注之奸蔽。今致雨之方莫若斩郑注而雪申锡。”士大夫皆危之。疏留中不下。

穆宗不恤政事，喜游宴。即位之始，吐蕃寇边，谏议大夫郑覃与崔元亮廷奏：“陛下宴乐过多，耽游无度。蕃寇在境，缓急奏报，不知乘舆所在。”又云：“倡优近习，赏赐太厚，况金银货币皆生灵膏血，不可使无功之人，滥沾赐与。”帝初不悦其言，顾宰相萧俛曰：“此辈何人？”俛对曰：“谏官也。”帝意稍解乃曰：“朕之过失，臣下尽规，忠也。”乃谓覃曰：“合中奏事，殊不从容。今者有事而陈。朕与卿延英相见。”时久无阁中奏事，覃等抗论人皆相贺。

宪宗时，王承宗叛，以吐突承璀为招讨使。谏官御史上疏相属，皆言自古无中贵人为兵马统帅者。补阙独孤郁、段平仲尤激切。宪宗不获已，罢为招抚处置等使。师出无功，平仲抗疏论承璀轻谋弊赋，请斩之以谢天下。宪宗不获已，降承璀为军器使。

苏安恒谏则天曰：“陛下蔽太子之元良，枉太子之神器，何以教天下母慈子孝？焉能使天下移风易俗？惟陛下思之，将何圣颜以见唐家宗庙？将何诰命以谒大帝陵寝？陛下何故日夜积忧不知钟鸣漏尽？臣愚以天意人事还归李家，陛下虽安天位，殊不知物极则反，器满则倾。”则天不纳其言，亦能容之。

则天时，新丰因风雷山移，乃改县名曰“庆山”，四方毕贺。俞文俊诣阙上书曰：“天气不和而寒暑并；人气不和而疣赘生；地气不和而堆阜出。今陛下以女主处阳位，反易刚柔故地，气隔塞而山变为灾。陛下谓之‘庆山’臣以为非庆也。”则天大怒，流于岭外，后为六道使杀之。

德宗时，裴延龄、李齐运、韦渠牟等以奸佞相次进用，诬陷时宰，毁诋大臣。陆贽等咸遭枉绌，无敢救者。谏议大夫阳城伏合上疏，与拾遗王仲舒共论延龄奸佞，贽等无罪。德宗大怒，召宰相入议，将加城等罪。顺宗在东宫，为城开解之，城赖以免。时朝夕欲相延龄，城曰：“脱以延龄为相，城当取白麻坏之。”



元宗东封，征突厥大臣扈从。突厥遣阿史德頔利发入朝，元宗发都下至嘉会，顿引頔利发及诸蕃酋长入仗，仍与之弓箭，时有兔起于御马之前，上引弓旁射，舍拔获之。頔利发下马捧兔舞蹈曰：“圣人神武超绝若天上，则不知人间无也。”上因令问饥否，对曰：“仰观圣武如此，十日不食犹为饱也。”自是常令突厥人仗驰射，起居舍人吕向上疏谏曰：“鵲巢不鸣，未为瑞鸟。猛虎虽伏，岂齐仁兽。突厥安忍残贼，赐以弓箭同逐兽之乐。若荆卿诡动，何罗窃发。暂逼严辟，仰犯清尘，纵殪元方，墟幽土单于为醢，穹庐为污，何塞过责？”上纳其言，遂令诸蕃先发。

太宗平高昌，将以为郡县。魏征谏曰：“未若抚其人而立其子，所谓吊民伐罪。今若利其土壤以为州县，常须千余人镇守，数年一易。每往交番，死者十有三四，十年之后，陇右空匮。陛下终不得高昌撮谷尺布，以助中国。所谓散有用以事无用，未见其可。”太宗不从，后亦悔之。

宪宗谓宰臣曰：“朕览国书，见文皇帝行事少有过差，谏官论诤，往复数四。况朕之寡昧，涉道未明，今后事或不当，卿等每事十论，不可一二而止。”

开元五年，太庙四室坏，上素服避正殿。时将幸东都，玄宗以问宋璟，璟陈：“天戒请辍行。”又问姚崇曰：“太庙屋材皆苻坚时物，岁久朽坏，适与时会。”上大喜，右散骑常侍褚无量上曰：“隋文富有天下，迁都之日，岂取苻氏旧材以立太庙乎？此特谀臣之言耳，愿陛下克谨天戒，纳忠谏，远谄佞。”上弗听。

代宗时，程元振专权自恣，天下畏之。吐蕃入寇，元振不以时奏，致上狼狈出幸。上发诏征诸道兵，李光弼等皆忌元振居中，莫有至者。中外切齿，莫敢发言。太常博士柳伉上疏以为：“犬戎犯关度陇，不血刃而入京师，刳劫宫闱焚陵寝，武士无一人力战者，此将帅叛陛下也；陛下疏元功，委近习，日引月长，以成大祸。群臣在廷，无一人犯颜回虑者，此公卿叛陛下也；陛下始出都，百姓填然，夺府库，相杀戮，此三辅叛陛下也；自十月朔召诸道兵，尽四十日，无双轮入关，此四方叛陛下也。内外离叛，陛下以今日之势为安耶？危耶？若以为危，岂得高枕不为天下讨罪人乎？陛下视今日之病，何由至此乎？必欲存宗庙社稷，独斩元振首驰告天下，悉出内使逮诸州，持神策兵付大臣，然后削尊号下诏引咎曰：‘天下其许朕自新改过。’宜即募士西赴朝廷，若以朕恶未悛，则帝王大器，敢妨圣贤，其听天下所往。如此而兵不至，人不感，天下不服，臣请阖门并斩，以谢陛下。”帝以元振常有保护功，但削官爵，放归田里。

后唐，明宗时，大理少卿康澄上疏：“国家有不足惧者五，深可畏者六。阴阳不调不足惧；三辰失行不足惧；小人讹言不足惧；山崩川涸不足惧；水旱、虫蝗不足惧，此不足惧五也。贤人藏匿深可畏；四民迁业深可畏，上下相徇深可畏；廉耻道消深可畏；毁誉乱真深可畏；直言蔑闻深可畏，此深可畏六也。”优诏奖之。澄言可畏六事，实中当时之病。

后唐明宗时，太常丞史在德，上疏言事，其略曰：“朝廷任人率多滥进，称武士者不闲计策，穷则背军；称文人者鲜有艺能，多无士行。问谋略则杜口，作文字则倩人。虚设



具员，枉费国力，又欲一一考试群臣。”宰相见其奏不悦，班行亦多愤讲。谏官刘涛、杨昭俭乞出在德疏辨可否？帝召学士马裔孙谓曰：“在德语太凶，其实难容。朕初临天下，须开言路，若朝上以言获罪，谁敢言者？尔代朕作诏，勿加在德之罪也。”于是诏引贞观中陕县令皇甫德参上书谤讪。魏征奏曰：“陛下思闻得失，只得恣其所陈。若所言不中，亦何损于国家？”又云：“昔魏征则请赏德参，今涛等请黜在德，事同言异，何相远哉？”

石晋高祖时，高行周奏修洛阳宫。谏议大夫薛融谏曰：“今宫室虽经焚毁，犹侈于帝、尧之茅茨；所费虽寡，犹多于汉文之露台。况魏城未下，公私窘困，诚非陛下修宫室之日。请俟海内平宁，营之未晚。”上纳其言，仍赐诏褒之。

湖南马希范用孔目官周陟议，常税之外别令人输米。天策学士拓拔恒上书谏曰：“殿下居深宫之中，籍已成之业。身不知稼穡之劳，耳不闻鼓鼙之音，驰骋遨游，雕墙玉食。府库尽矣而浮费益甚，百姓困矣而厚敛不息。今淮南为仇讎之国，番禺怀吞噬之心，荆渚日图窥伺待我姑息。谚曰：‘足寒伤心，民怨伤国。’愿罢输米之令，诛周陟以谢郡县，去不急之务，减天兴作之役，无令一旦祸败，为四方所笑。”希范之大怒，以先王旧臣为隐忍之。

唐庄宗患宫中暑湿，思得高楼避暑。宦官进曰：“臣见长安盛时，大明兴庆宫，楼阁百数。今大内不及故时卿相家。”庄宗曰：“吾富有天下岂不能作一楼？”乃遣宫苑使王允平营之。宦官曰：“郭崇韬眉头不伸，常为租庸惜财用，陛下虽欲有作，其可得乎？”崇韬时为侍中枢密使。庄宗乃问崇韬曰：“昔吾与梁对垒于河上，虽祁寒暑雨，披甲跨马不以为劳。今居深宫，荫广厦，不胜其热，何也？”崇韬对曰：“陛下昔以天下为心，今以一身为意。艰难逸豫为虑不同，势自然也。愿陛下无忘创业之难，常如河上，则可使繁暑坐变清凉。”庄宗默然，终遣允平起楼。崇韬果切谏。宦官曰：“崇韬之第无异皇居，安知陛下之热？”由是谗间愈入。后崇韬破蜀，竟以诬死。宦者为之也。

周世宗深怒翰林学士窦仪，欲杀之。宰相范质入奏事，帝望见知其意，即起避之。质趋前伏地叩头谏曰：“仪罪不至死，臣为宰相，致陛下枉杀近臣，罪皆在臣。”继之以泣，帝意解乃释之。

卷十一

忿 狷

宋，谢宏微性本宽博，无喜愠。末年尝与友人棋。西南有死势，一客曰：“西南风急，或有覆舟者。”友悟乃救之。宏微大怒，投局于地。识者知其暮年之事，果此岁终。

刘瑀与何偃不相得，瑀位本在偃上。孝武时，偃迁吏部尚书，瑀犹为右卫将军，同从



郊祀。偃乘车在前，珥策骊在后，珥追偃及之曰：“君瞽何疾？”偃曰：“牛骏御精，所以疾耳。”偃曰：“君马何迟？”曰：“骥骥罹于羁绊，所以居后。”偃曰：“何不著鞭使致千里？”答曰：“一蹴自造青云，何至与弩马争路。”珥偃同发背疽，珥疾方笃，闻偃之死，欢跃叫呼，于是亦卒。

萧惠开除少府，加给事中，不得志。曰：“大丈夫入管喉舌，出莅方面，乃复低头人中耶？”寺内所住斋，花草甚美，惠开悉划除，别种白杨。每谓人曰：“人生不得行胸怀，虽寿百岁，犹为天也。”发病呕血，吐物如肺肝，卒。

陈傅绌负材使气，凌侮人物，毒恶傲慢，为人所疾。以直谏，后主赐死。死后有屈尾恶蛇来上灵床，当前受祭酹，去而复来者百余日，时时有弹指声。

齐，邱灵鞠领骁骑将军，不乐武位，谓人曰：“我应还东掘顾荣冢。江南地方数千里，士子风流皆出其中。顾荣忽引诸伧至，要妨我辈涂辙，死有余罪。”

隋，贺若弼既平陈，自谓功名，出朝臣之右，每以宰相自许。既而杨素为右仆射，弼仍为将军，甚不平。形于言色，由是免官家居。弼怨望愈甚，后数载下狱，文帝曰：“我以高颎、杨素为宰相，汝每言此二人唯堪饮什，尔是何意也？”弼曰：“颎，臣之故人，素臣之舅子，臣并知其为人，诚有此语。”上数之曰：“公有三太猛，嫉妒心太猛；自是非人心太猛；无上心太猛。”至炀帝，竟杀之。

苏夔少有盛名，士大夫多归之。后议乐事，夔与何妥各有所持。于是夔、妥俱为一议，使百寮署其所同。时夔父威方用事，朝廷多附威，同夔者十八九。妥患曰：“吾席间函丈四十余年，反为昨暮儿之所屈也！”遂奏威等朋党之罪。文帝令杂治之，事皆验。上以《宋书谢晦传》中朋党事，令威读之。威皇恐，免冠顿首谢。上曰：“谢已晚矣。”

唐，萧瑀尝称房元龄以下朋党比周，但未反尔。太宗为之信誓。瑀请出家，太宗曰：“甚知公爱桑门，今者不能违意。”瑀旋踵奏曰：“臣顿思量不能出家。”太宗心不能平，手诏切责，出为商州刺史。后薨，谥曰“褊公”。

尉迟敬德与执政不平，尝侍宴庆善宫，有班在其上者，敬德怒曰：“汝有何功今坐我上？”任城王道宗次其下，因解喻之。敬德勃然拳殴，道宗目几至眇，太宗不悦而罢。

于公异，吴人也，应举时已与陆贽不协。贽在翰林，闻德宗称公异露布之文，尤不悦。及为相，乃擅公异不为后母所容事，下诏放归田里。公异竟名位不振，憾恨而卒。人惜其才，恶贽之褊急焉。

李翱自负词艺，以为合知制诰，以久未如志，郁郁不乐。因入中书谒宰相，面数李逢吉之过失。逢吉不之校，翱心不自安。乃请告百日，有司准例停官，逢吉奏授庐州刺史。

王遂为沂兖海观察使，性猜急，不存大体。而军州民吏久染污俗，率多犷戾。而遂晋将卒曰：“反虏。”将卒不胜其忿，遂被害。

李逢吉欲逐李绅为中丞，以韩愈为京兆尹兼御史大夫。知绅刚褊必与韩愈忿争，制出，果移牒往来论台府事体。而愈复性讦，言词不逊，大喧物论，乃两罢之。



吴越王钱宏侗。民有杀牛者，吏按之，引入所市肉近千斤。宏侗问内牙统军使胡进思：“牛大者肉几何？”对曰：“不过三百斤。”宏侗曰：“然，则吏妄也。”命按其罪，进思拜贺其明，宏侗曰：“公何以知其详？”进思踉跄对曰：“臣昔未从军亦尝从事于此。”进思以宏侗知其素业故辱之，益恨怨。

仇隙

刘毅家在京口，酷贫，尝与乡曲士大夫往东堂共射。时庾悦为司徒长史，要州府僚佐亦来东堂。毅以先至，进白悦曰：“身贫并蹶，营一游甚难，君如意人何处不可为适，岂不能以此堂见让？”悦素豪，径前不答。毅客并避，唯毅留射如故。悦厨饌甚丰，不以及毅，毅既不去，悦甚不欢，毅曰：“今年未食子鹅，请以残炙见惠。”悦又不答。后毅贵用事，悦不得志，疽发背，卒。

梁，钟嵘为古今诗评，其论沈约云：“观休文众制，五言最优”，永平中相王爱文，王融等皆宗附约。常曰：“谢朓未道，江淹才尽，范云各级虽微，故称独步。”谓其词密于范，意浅于江。嵘尝求誉于约，约拒之，故追宿憾，以此为报也。

北齐，崔陵素与魏收不协。收后专典国史，陵恐被恶言，乃悦之曰：“昔有班固，今则魏子收。”缩鼻笑之，憾不释。

魏，毛修之曰：“昔在蜀中闻长老言，陈寿曾为诸葛门下书佐，得罪桀百下，故其论武侯云：‘应变非其所长。’”

北齐，文宣崩，当时文士各作挽词十首，择其善者用之。魏收、阳休之、祖孝征不过得一二首，唯卢思道独得八首，时号“八采卢郎”。刘逖亦只二首中选。中书郎李愔戏逖云：“卢八问讯刘二。”逖衍之。武成时，逖典机密以事中愔。武成怒，大加鞭朴，逖喜复前憾曰：“高捶两下，执鞭一百，何如呼刘二时。”

唐，刘文静、裴寂，俱从高祖起义。文静自以才能干用在裴寂之右，又屡有军功，而位居其下，意甚不平。每廷议，多相违戾，由是有隙。文静酒后，出言怨望，拔刀击柱曰：“必当斩裴寂尔。”

刘宴为吏部尚书，杨炎为侍郎，各恃权使气，两不相下。炎坐元载贬晏快之，昌言于朝，人以为载之得罪晏有力焉。及炎入相，追怨前事，且以晏与元载隙，憾为载复仇，言晏尝请代宗立独孤妃为后，有夺宗之计，赖崔祐甫救解，犹出晏为忠州刺史，又诬晏与朱泚通书，乞诛之。方下诏暴言其罪，李正己上书表讼宴之冤。炎惧，乃遣五使往诸道声言宣慰，而实推过于上，德宗知而深恶之，遂赐炎死。

窦参为相不悦李巽。巽自左司郎中出为常州刺史，仍促其行。巽不平之，不数日，参贬柳州司马。巽为湖南观察使，诬参与藩镇交通，德宗怒，遂赐参死。

李揆秉政，苗晋卿荐元载，揆自恃门望，以载地寒，意甚轻之。曰：“龙章凤姿之士，



不见用尘头鼠目之子，乃求官邪。”载衔恨颇深，及载登相位，揆已先贬。因揆徙职奏为试秘书监江淮养疾，揆既无俸，家复贫乏，孀孤百口，丐食取给萍泛诸州者凡十五六年。牧守稍薄则又移居，故其迁徙去者盖十余州。

大历末，李晟戍剑南，御吐蕃。及师回，以成都官妓高氏随行。张延尝为成都尹，追取之，晟颇衔之，形于词色。贞元初，德宗以延赏为相，晟表论延赏过恶，德宗重违之，改授延赏左仆射。上亦忌晟功名，困吐蕃有离间之言，延赏腾谤于朝，无所不至。晟闻之，昼夜泣，目为之肿。上诏延赏理晟释憾，同饮极欢。晟荐延赏为相，遂加中书门下平章事。晟请以一子婿延赏女，延赏不许。晟谓人曰：“武人性快，释旧恶于杯酒之间。文生难犯，今不许婚，衅未忘也，得无惧焉？”后延赏竟罢晟兵柄，由此武臣不附。

韦执谊因王叔文以得宰相，时时立异，盖欲矛盾以掩其迹。密令人诈叔文曰：“不敢负约，欲共成国家之事故也。”叔文诟怒，遂成仇怨。

赵憬与陆贽同作相。贽恃久在禁庭，持承恩顾，以国政为己任。才周岁转憬为门下侍郎，憬深衔之，数以目疾请告，不堪当政事。因不相协，贽约憬同论裴延龄之奸。既至上前，贽极言延龄逛诞之状，不可任用。德宗不悦，形于颜色，憬默然无言，贽由是罢相。

鲍防为礼部侍郎，常遇知杂宴参，不时引避，仆人为参所鞭。及参秉政令，防致仕。防谓亲友曰：“吾与萧昕之子齿而与昕同致仕，非朽迈之致，以余忿见废耳。”防竟以愤终，参亦寻违处厚曰：“杨炎为元载复仇，卢杞与刘晏报怨，兵连祸结天下不平。”

令狐楚，因皇甫铸作相而逐裴度，群情共怒，楚再贬衡州刺史。时元稹初得幸为学士，素恶楚，与铸胶固希宠，稹草制曰：“楚早以文艺得贱班资，宪宗念才擢居禁近，异端斯害，独见不明，密饬讨伐之谋，潜附奸邪之党，因缘得地进士多门，遂忝台阶，实妨贤路。”楚深恨之。

牛李之党皆挟邪取权，两相倾轧，纷纭倾陷垂四十年。文宗绳之不能去，尝谓待臣曰：“去河北贼非难，去朋党实难。”杨嗣复李珣、郑覃作相，屡争论于上前，李珣曰：“比来朋党亦渐消弭。”覃曰：“近有小朋党生。”覃又曰：“近日事亦渐好。未免些些不公。”然嗣复珣，牛党也，覃，李党也。德裕为相，指搢搢¹⁴⁵欲加之深罪。但以僧孺贞方有素，无以伺其隙。德裕南迁，所著《穷愁志》引里俗筷子之讖，以斥僧孺，又目为太牢公，其相憎如此。

懿宗令韦保衡尚同昌公主。公主薨，懿宗杀医官二十余人，收捕其亲族三百余人，系京兆狱中。宰相刘瞻召谏官使言之，莫敢言者，乃自上言，上不悦。又面谏，上大怒，叱出之。瞻为荆南节度使，保衡又潜衡与医官通谋，误投毒药，贬瞻康州刺史。路岩作相，素与瞻议论不协。既贬康州，岩犹不快。阅十道图以驺州去长安万里再贬瞻驺州司马。¹⁴⁶宗即位，韦路赐死。瞻自驺州刺史召为刑部尚书。瞻之贬也，人无贤愚莫不痛惜。及其还也，长安两市人率钱雇百戏迎之。瞻闻之改期由它道而入。未几，复作相。初，瞻南迁，刘鄩附于韦路共短之，及瞻大用，鄩内惧，召瞻置酒，瞻暴薨。时人皆以¹⁴⁷为鸩之也。



后唐，崔协，父颜融，素与崔尧善。彦融为万年令，尧谒之，彦融未出，尧见按上尺题皆赂遗中贵人，尧知其由径始恶其为人。及彦融除司勋郎中，尧为左丞通札不见曰：“郎中行止鄙杂，故未敢见。”宰相知之改彦融为楚州刺史，卒于任。诫其子曰：“世世无忘尧。”故其子弟常与尧仇。

石晋，桑维翰与冯玉同在中书。会舍人卢榘秩满，玉乃下笔除榘工部侍郎。维翰曰：“词臣除此官稍慢，恐外有所议。”因不署名。属维翰休假，玉竟除之。由此尤不相协。玉以语激少帝，出维翰为开封尹。或谓玉：“桑公元老，奈何使之尹京亲细猥之事？”玉曰：“恐其反尔。”曰：“儒生安得反？”曰：“纵不自反，恐其教人尔。”

五代，汉王章置酒会诸朝贵。为手势，令史宏肇不闲其事，客省使闻晋御坐次，宏肇屡教之。苏逢吉戏之曰：“坐有姓阎，人何忧罚爵？”宏肇妻阎氏，本酒家倡也。意逢吉讥之，大怒，以丑语诟逢吉。逢吉不应，宏肇欲殴之。逢吉起去，宏肇索剑欲追之，杨邠泣止之曰：“苏公宰相，公若杀之置天子何地？愿熟思之。”宏肇即上马去。邠与之联镳送至其第而还，于是将相如水火矣。

纰漏

谢凤子超宗，宋帝赏其文，谓谢庄曰：“超宗殊有凤毛，灵运复出矣。”时右卫将军刘隆闻此语，出候超宗曰：“闻君有异物可得见乎？”超宗曰：“悬磬之室安有异物？”道隆曰：“侍宴至尊，云君有凤毛。”超宗闻讳徒跣还内，道隆谓：“检觅凤毛。”达暮停待不去。

梁，何敬容作宰相浅于学术。尝有客姓吉，敬容问：“卿与丙吉远近？”客答曰：“如明公之与萧何。”

侯景篡梁，王伟请立七庙，并请讳。景曰：“何谓七庙？”伟曰：“天子祭七世祖考，故置七庙。”景曰：“前世吾不复忆，惟阿爷名獬，且在朔州，伊那得来啖是？”众闻咸笑之。

北齐，王皓，从文宣北征，乘赤马。旦蒙霜气遂不复识，自言失马。虞侯为求觅不得，须臾，日出，马体霜尽，系在幕前，方云：“我马尚在。”

北齐，源师摄祠部，属孟夏以龙见请雩。时高阿那肱为录《尚书》事，谓为真龙出见，大惊问：“龙所载《六经》何颜色？”师曰：“此是龙星非真龙也。”阿那肱忿然作色曰：“汉儿多事，强知帝星。”

隋，刘臻为仪同，有刘讷者亦为仪同，俱为太子学士，情好甚密。臻住城南，讷住城东。臻尝欲访讷，谓从者曰：“汝知刘仪同家乎？”从者不知欲访讷也，谓欲归本家既扣门。臻犹未悟，谓是讷家，据鞍大呼曰：“刘仪同可出矣。”其子迎门，臻惊曰：“汝亦来耶？”其子答曰：“此是大人家。”于是顾眄久之，方悟，怒叱从者曰：“吾欲造刘讷尔。”



隋，苏威为仆射，立条款：每岁责民间五品。不逊或答者乃云：“言内无五品之家。”不相应类如此。

隋，王劼爱自志学至乎暮齿，笃好经史，遗落世事。用思既专，性颇忧惚。每至对食闭目凝思，盘中之肉辄为仆从所啖。劼弗之觉，惟责肉少，数罚厨人。厨人以情白劼，劼依前闭目，伺而获之。

唐，王君廓为幽州都督，李元道为长史。君廓屡为非法，元道数裁正之。后君廓入朝房，元龄即元道之从甥也。元道附书君廓私发之，不识草字，疑其谋已，惧而奔叛。

旧史，唐绍传云：“先天二年冬，今上讲武于骊山下。”绍以修仪注不合旨坐斩，此元宗事也。修史者刘煦，后唐人也，乃谓之今上，盖只用旧史，失于删润尔。

李林甫典选，选人严遇判语用“杌杜”二字。林甫不识“杌”字，谓吏部侍郎韦陟曰：“此云‘杖杜’何也？”陟俛首，不敢言。

李林甫引萧灵为户部侍郎，灵尝与严挺之同行庆吊。客次有礼记，灵读之曰：“蒸尝伏猎。”挺之戏问，灵对如初。

太常少卿姜度生子，李林甫手书庆之曰：“闻有弄麋之庆。”客视之掩口。

崔敬嗣为房州刺史，供给中宗，深德之。及登位，有益州长史崔敬嗣，每进拟官皆御笔超转者数四。后引与语，乃同姓名人也，为房州刺史者死矣。

第五琦为相，贬忠州长史。既在道，有人告琦受人黄金二百两者，遣御史刘期光追之。琦对曰：“二百两金十三斤重，忝为宰相不可自持，若其付受有凭，伏请准法科期。”光以为此是琦伏罪也，遽奏之，请除名配流夷州。驰驿发遣，仍差纲领送至彼。

李克宁初封陇西郡公，进威武郡王，每上疏连称二郡，颇为时人所哂。

来子珣为御史，时有朝士不带靴而朝者，子珣弹之曰：“臣闻束带立于朝。”举朝大噱。

李勣征高丽，令元万顷作檄。其语有：“不知守鸭绿之险，”莫离只报云：“谨闻命矣。”遂移兵固守鸭绿，官军不得入。万顷坐是流于岭外。

李克用擒刘仁恭父子，命掌书记。王斌草露布，斌不知故事，书之于布，遣人曳之。

石晋，康福镇天水日，尝有疾，幕客谒问，福拥锦衾而坐，客有退谓同列曰：“锦衾烂兮。”福闻之遽召言者，怒视曰：“吾虽生于塞下，乃唐人也，何得以为烂矣。”因叱出之。

石晋，卢质为翰林学士，承旨，赐论思主佐功臣。会覆试进士，质以“后从谏则圣”为题，“尧、舜、禹、汤倾心求过”为韵，旧例赋韵四平四仄，质乃五平三仄，大为识者所诮。

梁朝宰相李琪以文章自许。唐明宗平中山王都，琪贺表云：“收契丹之凶党，破真定之逆贼。”冯道让琪曰：“昨来收复定州，非真定也。”诏曰：“契丹既无凶党，真定不是逆贼。”李琪罚俸一月。



唐明宗时，国子司业张洎，奉请复八馆以广生徒。按六典，监有六学：国子、太学、四门、律学、书学、算学是也。而洎云八馆，谬矣。

石晋，冯玉为宰相，尝以“姑息”字问于人，人以“辜负”字教玉，玉乃然之。

俭 啬

魏，司空长孙道生，性清俭。一熊皮障泥数年不易。魏主使歌工历颂群臣曰：“智如崔浩，廉若道生。”

宋武帝狎侮群臣，各有称目。多须者谓之“羊”；颜师伯缺齿，谓之“齙”；刘秀之俭吝，呼为“老怪”。

梁，王筠为临海太守，在郡侵刻，还，资有芒屨两舫。家累千金，性俭啬，外服簪敝，所乘牛常饲以青草。及遇乱，为盗所攻，坠井卒。家人十三口同遇害，弃尸空井中。

王琨俭于用财，设酒不过两碗，辄云：“此酒难遇盐、豉、姜、蒜之属。”并挂屏风，酒浆悉置床下，内外有求，琨手自赋之。

梁到溉性率俭，不好声色，虚室单床，旁无姬侍。冠履十年一易，朝服或至穿补。传呼清路，示有朝章而已。

齐，高帝镇东府，虞玩之为少府，犹躡屣造席，高帝取屣视之，讹黑斜锐齿断，以芒接之，问曰：“卿此屣已几载？”玩之曰：“初释褐拜征北行佐买之。著已三十年矣。”

宋，庾杲之清贫自业，食唯有韭菹、苣菹、生韭。任防尝戏之曰：“谁谓庾郎贫，食鲑常有二十七种。”

魏，李崇家富而俭，食常无肉，止有韭茹、韭菹。其客李元祐曰：“李令公一食十八种。”人问其故，元祐曰：“二韭十八。”

梁，沈众性吝啬，财帛亿计无分遗，自奉甚薄。每朝会衣裳中裂，或自提冠履。起为工部尚书监，起太极殿，常服布袍，芒屨以麻绳为索。又囊麦饭，饥则啖之。朝士共诮其所为。

梁，朱异四方馈遗财货充积，性吝啬，未尝有所散施。厨下珍羞常腐烂，每月常弃数十年。虽诸子别房，亦不分贍。

梁，阴子春虽无它才，而临人以廉洁称。闺门混杂而身服垢污，脚数年一洗，言每洗则失财败事。

北齐，封述厚积财产，一无分贍，虽亲友贫病亦绝拯济，朝野鄙之。一子娶陇西李士元女，大输聘财，及将成礼，犹竞。述忽取所供养像对士元打像为誓，士元笑曰：“封公何处常得应急像，须暂使用？”一子娶范阳卢庄之女，述又经府诉云：“送驢乃嫌脚跛；评田则云咸薄；铜器又嫌古废。”皆缘吝啬，致此纠纷。

北齐，庾狄伏连鄙吝，其妻病，以百钱买药，每自恨之。家百余口，盛夏人料仓米二



升，不给盐菜，常有饥色。冬至日，亲表称贺，其妻为设豆饼，问：“豆从来？”云：“于马豆中分减。”伏连大怒，典马掌食人并加杖罚。积年赐物，藏在别库，遣一婢专掌管钥，每入库检阅，必语妻子：“此官物，不得辄用。”至死唯著敝裤，而积绢至二万匹。被诛籍没，并归天府。

唐，王珪通贵渐久而不营私庙。四时蒸尝犹祭于寝坐，为法司所劾。太宗优容弗之遣也，因为立庙以愧其心，珪俭不中礼，时论少之。

徐岱吝嗇颇甚，仓库管钥皆自执掌，获讥于时。

文宗大和三年，敕两军、诸司、内官不得著纱、縠、绫、罗等衣服。帝性俭素，不喜华侈，驸马韦处仁戴夹罗巾，帝谓之曰：“比慕卿门地清素，以之选尚，如此中服从它诸戚为之，唯卿非所宜也。”

后唐李克脩为昭义节度使，武皇抚封于上党。克脩性俭嗇，不事华侈，供帐饗膳，品数简陋。武皇怒其菲薄，笞而诟之。克脩惭愤发疾，卒。

石晋，袁正辞善治生，虽承父旧基，亦自能营构，故家益富。尝于积馀之室有吼声闻于外，人劝其散施以禳灾。正辞曰：“此必喝其同辈，宜更增之。”其庸暗多此类也。

石晋，陈保性极鄙吝，所得利禄，未尝奉身，但蔬食而已。每与人奕棋，败则手乱其局，盖惧所赌金钱不欲偿也。及卒，室无妻儿，唯贮白金十锭，为它人所有。

五代，汉，韦恩，在上党五年无令誉可称，唯以聚敛为事。性又鄙吝，未尝与宾佐有酒食之会，有从事欲求谒见者，恩览札而怒曰：“必是来猎酒也。”命典客者饮而遣之，其鄙吝如此。

江南李升性节俭，常蹶薄屣，盥类用铁盥，暑则寝于青葛，虽左右使令，唯老丑宫人，服饰粗略。

五代，汉，隐帝时，吏部侍郎张允家货万计而性吝。虽妻子不之委，常自系众钥于衣下而行如环佩。郭威入京师，允匿于佛殿中藻井之上，登者浸多，板坏而坠，军士掠其衣，遂以冻馁而卒。

周太祖戒世宗以俭葬，令刻石置陵前云：“周天子平生好俭约。”遣令用纸衣瓦棺，嗣天子不敢违也。

卷十二

假 谥

宋，檀道济伐魏，粮尽而还。军士有亡降魏者，具告之。魏人追之，众恼惧。将溃，道济夜唱筹量沙，以所余少米覆其上。及旦，魏军见之，谓资粮有余，以降者为妄而斩



之。

魏，刘仁之外示长者内多矫诈。其对宾客破床敞席，簞饭冷菜，衣服敝恶，乃过逼下善候当涂，能为诡激。

唐文宗，萧太后福建人。云：“有母弟一人”，文宗诏于故里求访。有户部茶纲役夫萧洪诈称国舅，十数年间两授旄钺。事发赐死。闽人萧本又称太后弟，赐予巨万，官至金吾将军，事闻除名长流爱州。泉州晋江县令萧宏又自称太后弟，按问伪妄配流儋州。

李密初从杨元感，元感败逃避至淮阳，隐姓名自称刘智远，聚徒教授，郁不得志，为五言诗曰：“金风荡初节，玉露凋晚林。此夕穷途士，郁陶伤寸心。野平葭苇合，村荒藜藿深。眺听良多感，徙倚独沾襟。沾襟何所为，怅然怀古意。秦俗犹未平，汉道将何冀。樊哙市井徒，萧何刀笔吏。一朝时运来，千古传名溢。寄言世上雄，虚生真可愧。”

苏世长在陕州，部内多犯法，世长莫能禁。乃责躬引咎，目眈于街市。伍百疾其施，鞭之见血，世长不胜痛，大呼而走。观者盛以为笑，读者方知其诈。

许敬宗掌知国史，虚美隐恶，为子娶尉迟敬德孙女，多得路遗，及为敬德传隐诸过咎。太宗作威风赐长孙无忌，敬宗改为赐敬得焉。

杜淹与韦嗣福为莫逆之交。相与谋曰：“上好嘉遁，苏威以幽人见征，擢居美职，”遂共入太白山中，扬言隐逸，实欲邀求时誉。隋文帝闻而恶之，谪戍江表。

范处讷武三思寮婿也，为太府卿。中宗以谷贵召处讷问其故，三思讽太史奏：“其夜摄提星入太微至帝座，此则王者与大臣私相接，大臣能纳忠，故有所应。”中宗降诏褒述。

崔日知见事敏速，每朝廷有事，转祸为福，以取富贵。常谓人曰：“吾一生行事皆临时制变，不必专守始谋，每一念之，不觉芒刺在于背也。”

陈少游为扬州观察使。李希烈陷汴州，声言欲袭江淮，少游惧，乃送款于希烈曰：“濠寿舒庐寻令罢垒，辍戈卷甲伫候指挥。”然人不知其送款也。刘洽收汴州，得希烈伪起居注，某月曰：“陈少游上表归顺。”少游闻之，惭而卒。

李抱真晚节好长生之术，有方士孙季长者抱真炼金丹。给抱真曰：“服之当升仙。”遂署为宾寮，数谓参佐曰：“此丹秦皇汉武皆不能得，惟我遇之。它日，朝上清不复偶公辈矣。”复梦驾鹤冲天，瘠而刻木鹤，衣道士衣以习乘之，凡服丹二万丸，腹坚不食，将死，不知人者数日矣。道士牛洞元以猪肪谷漆下之，殁。病少间，季长复曰：“垂上仙何自弃也，益服三千丸。”顷之卒。

裴延龄每奏讨除，皆恣聘诡诞虚妄，它人莫敢言者。延龄言之不疑，亦人之所未闻。因计料造神龙寺，前须长五丈松木，延龄奏曰：“臣近于同州检得一谷，木数千条，长八十尺。”上言：“人言开元、天宝中，侧近求觅长五六十尺木，尚未易得，须于岚、胜州采市，如今何为近处便有此木？”延龄奏曰：“臣闻贤材、珍宝、异物，皆在处常有，但遇圣君即出见。今此木生关辅，盖为圣君，岂开元、天宝合得有也？”又奏：“近于左藏库检阅乃于粪土之中，收得十三万两银，其段匹杂货，又百万有余，以充别库羨余。”太府卿韦



少华抗疏，以为皆是正数物；陆贽上书，以为延龄险猾售奸，诡谄求媚。

柳泌为宪宗合长生药，自云：“寿四百岁。”宪宗服药多躁，为宦官所杀，泌系狱。府吏防虞周密，恐其隐化，及解衣就诛，一无变易，但灸灼之瘢，浹身而已。

王锬代杜佑镇淮南，善小数，尝有投匿名书者。左右取以授锬，锬内之靴中，靴中先有它书矣。锬忽然探取焚之，而匿名在也。异日，乃以它事连其所告者，按验之以满众人，人以为神明。

刘君良累代义居，尺布斗粟无私焉。大业末，天下饥馑，君良妻劝其分析，乃窃取庭树上乌雏交置诸巢中，令群乌斗竞。举家怪之，其妻曰：“方今天下大乱，争斗之秋，禽鸟尚不能相容，况于人乎？”君良从之，分别后月余方知其计，中夜揽妻发大呼曰：“此即破家贼尔。”召诸昆弟哭以告之。于是弃其妻与兄弟如初。

高骈好神仙。有方士吕用之，引其党张守一、诸葛殷同蛊惑之。殷始自鄱阳来，用之先言于骈曰：“玉皇以公职事繁重，辍左右尊神一人佐公。”明日，殷谒见，诡辩风生，骈以为神。殷病风疽，骈有畜犬，闻其腥秽，多来近之。骈怪之，殷笑之曰：“殷常于玉皇前见之，别来数百年，犹相识也。”有萧胜者，賂用之求盐城监，骈有难色。用之曰：“用之非为胜也。近得上仙者书云：‘有宝剑在盐城井中，须一灵官取之。以胜上仙左右之人，欲使取剑尔。’”骈乃许之。胜至盐城数月，函一七首以献。用之见，稽首曰：“此北帝所佩，得之则百里之内，五兵不能犯。”骈乃饰以珠玉，常置座隅。用之又刻青石为奇字云：“玉皇授白云先生高骈。”密令左右置道院香案。骈得之，惊喜。用之曰：“玉皇以公焚修功著，将补真官，计鸾鹤不日当降。此际，用之谪限亦满，必得侍幢节同归上清尔。”用之每对骈诃叱风雨，仰揖空际云：“有神仙过云表，”骈辄随之拜之。后用之为杨行密所诛，发其中堂得桐人书骈姓名，桎梏而钉之。

李寰镇晋州，表兄武恭好道而诞妄。寰生日，恭送一故皂袄子曰：“此李西平收复京师时所服也。”恭生日，寰以一破幞头遗之曰：“此洪崖先生初得道时幞头也。”

朱全忠尝与寮佐及游客坐于大柳之下。全忠独言曰：“此木宜为车毂。”众莫有应。有游客数人起应曰：“宜为车毂。”全忠傲然厉声曰：“书生辈好顺口玩人，皆此类也。车毂须用夹榆，柳树岂可为之？”顾左右曰：“更何待？”左右数十人捋言宜为车毂者，悉扑杀之。

朱梁，雷满镇澧朗，于府中浚一深潭，构一大亭于其上，每邻道使车经由，必召燕于中，且言：“此水府也，中有蛟龙，奇怪万态，唯余能游焉。”或酒酣对客，即取筵中实器乱掷于潭中。因自褪其衣，裸露其文身遽跃入水，遍取所掷实器，戏玩于水面，久之方出，复整衣冠就坐，其诡诞如此。

后唐，庄宗与梁相抗，刘郭军于宗城。初，郭在洹水，数日不出，寂无人声。庄宗遣骑视之，无斥候者，城中亦无烟火，但有鸟止垒上，时见旗帜循环往来。庄宗曰：“我闻刘郭用兵，一日百变，必以诡计误我。”使视城中，乃缚旗于刍偶之上，使驴负之，循环



而行。而郢去二日矣。

慕容彦超，汉隐帝时镇郢州，尝召富僧数辈就食。日晏不进饌，大馁而回，如是者累日。他日复召之食，遣庖人致蝇虫于饌中，诸僧立呕，彦超使人验之，则皆已肉食矣。大责其赂，乃释之。

邪 谄

梁武帝时，朱雀门灾。帝曰：“此门制狭，我欲改造遂遭天火。”群臣相顾未对，何敬容曰：“所谓先天而天弗违。”

永元中，任昉好意于梅虫儿，东昏中旨用为中书令。昉谢尚书郎王亮，亮曰：“卿宜谢梅那勿谢我。”昉惭而退。

北齐，和士开用事，人多附之。有一人名曾参，士开病，医者云：“须服黄龙汤。”士开有难色，参曰：“此物甚易，王不须疑惑，请先尝之。”一举而尽。士开深感其意，为之强服，遂得汗，病愈。

隋，郭衍能揣揣帝意，阿谀顺旨。帝每谓人曰：“唯有郭衍心与朕同。”又常劝帝取乐，五日一视事，无效高祖空自劬劳。帝从之，益称其孝顺。

隋，太史令袁孝言：“隋兴以后，日景渐长。太平，日行上道。”文帝曰：“景长之庆，天之祐也。”改元“仁寿”。百工役作，并加程课以日长也，丁匠苦之。

唐，侯君集马病蚌颚，行军总管赵元楷，亲以指沾其腋而舐之，御史劾奏其谄；左迁括州刺史。

有荐山人范知浚文学，并献其所为文。宋璟判曰：“观其《良宰论》颇涉佞谀。山人宜极言说议，岂宜偷合苟容？”抑而不奏。

中宗朝，韦后乱政。右骁卫将军迦叶志忠上奏曰：“昔高祖未受命时，天下歌桃李子；太宗未受命时，天下歌秦王破阵乐；高宗未受命时，天下歌侧堂堂；天后未受命时，天下歌武媚娘；伏惟皇帝未受命时，天下歌英王石州；皇后未受命时，天下歌桑条。韦也，谨进桑条歌十二篇。”宗楚客又讽补阙赵延禧表陈符命，解桑条以为十八代之符。

张易之兄弟幸妻。武三思、懿宗、宗楚客、宗晋卿，候其门庭争执鞭撻，呼易之为五郎，昌宗为六郎。

裴乾祐先为御史大夫，出为外郡刺史。虽强直有器干，而昵于小人。既典外郡，与令史结交，书疏往反，令伺朝廷事。俄为友生所发，坐流爱州。

长寿中明堂灾，则天欲避正殿，宰相姚珣言：“成周宣榑卜代愈隆；汉武建宁盛德弥永。《弥勒下生经》云：‘当弥勒成佛之时。七宝台须臾散坏。’睹此无常之相，遂成正觉之因。”则天依珣奏，遂不避正殿。

姚珣在桂州时，则天雅好符瑞。珣访岭南诸山川、草木名号，有“武”字者皆以为上



符国姓，列奏其事，则天大悦，召为天官侍郎。

杨再思知政十余年，未尝有所荐达。为人巧佞邪媚，能得人主微旨。主意所不欲，因而毁之；主意所欲，因而誉之。左补阙戴令言作《两脚狐赋》讥之。时张易之兄弟请公卿大臣宴集或戏曰：“杨内史面似高丽。”再思欣然剪纸自帖于巾，却披紫袍为高丽舞。紫头纤手举动合节，满坐嗤笑。易之弟昌宗以姿貌有辟阳之宠，再思又谗之曰：“人言六郎面似莲花，再思言莲花似六郎，非六郎似莲花也。”其倾侧如此。

韦巨源为宰相，韦后云：“衣箱中裙上有五色云起，久而方歇。”巨源以为非常佳瑞，请布告于天下。请之中宗，又令画工图其形以示百寮，大赦天下。巨源赞，成妖妄，是岁星坠如雷，野鸡皆雉，咎征若此不闻。巨源有言，盖与后通属藉，固禄位尔。

张嘉贞被召，则天垂帘见之。嘉贞曰：“以臣草莱得入谒九重，是千载一遇也。咫尺之间，如隔云雾，竟不睹日月，恐君臣之道有所未尽也。”则天遽卷帘见之，与语大悦。擢拜监察御史。又尝奏元宗曰：“今志力方壮，是效命之秋，更三数年即衰老无能为也，惟陛下早垂任使，死且不悛。”

来俊臣罗告裴宣礼七族反，武后薄其罪。殿中侍御史霍献可，宣礼之甥也，言于太后曰：“陛下不杀裴宣礼，臣请殒命于前。”以头触殿阶，血流沾地，以示为人臣不私其亲。太后不听，献可常以绿帛裹其伤，微露之于幞头下，冀太后见之以为忠。

武后时，朱前疑上书云：“臣梦陛下寿满八百。”即拜拾遗。又言：“梦陛下发白再黑，齿落再生。”迁驾部郎中。出使还，上书云：“闻嵩高呼万岁。”赐以绯鱼袋。时未五品，于绿衫上佩之。

韦坚广运潭成。陕县尉崔成甫作得宝歌词：“白衣缺膝，绿衣锦膊，半臂偏袒，红罗抹额”。于第一船作号头唱之，妇人百余人之和。

陈少游除桂州，畏远官，覬近郡。时中官董秀用事，少游乃宿于其里，候其下直。际晚谒之，从容曰：“七郎家中几口？月费几何？”秀曰：“久忝近职，然家累甚重，又属时物腾贵，月费过千余缗。”少游曰：“据此费用俸钱不足，须求外人方可取济。少游虽不才，请以一身独供七郎之费，每岁请献钱五万贯。今先输大半，余到官续送，免贵人劳虑不亦，可乎？”秀忻然逾望，厚相结纳。少游言泣泣曰：“南方炎瘴深沅，违辞恐不生还，再睹颜色。”秀遽曰：“中丞美才不当远去，请从容旬日。”冀竭蹶分，时少游又已纳财于元载子仲武矣。秀为之内，载为之外，数日改拜宣州观察使。后移越州，又徙扬州，十余年间三总大藩，皆天下殷厚处也。征求贸易且无虚日，敛积财宝累巨亿万。初结元载每岁馈金帛约十万贯，又纳贿于用事中官骆凤仙、刘清潭、吴承倩等。由是美声达于楚中，累加官至同平章事。

韩滉判度支，秋霖弥月坏人庐舍；盐池为潦水所入，其味多苦。滉虑盐户乞减税，乃诈奏：“雨不坏池，池生瑞草。”上疑之，遣谏议大夫蒋镇驰马验之，镇与滉仍同上表贺，请宣付史馆置神祠。锡嘉号。



齐映为江西观察使，自以须为辅相，无大过而罢。冀复进用，乃倍敛贡奉，及大为金银器以希旨。先是银瓶高者五尺余，李兼在江西进六尺者。至是，映因德宗诞日端午，为瓶高八尺者以献。

李绶为左仆射、司空，尝预百僚廊下食，上合中使马江朝赐樱桃。绶为两班之首，旧识江朝，叙语次，不觉屈膝而拜。江朝答拜，御史大夫高郢亦从而拜，为御史所劾。绶出镇荆南，江朝降一官。

李逢吉与翰林学士李绅不协，逐之岭外。知制诰庞严、蒋防坐绅党左迁，于赦封还诏书。时人皆以赦宥与严善诉其非罪，党曰：“于给事犯宰相之怒，申庞、蒋之屈不亦仁乎。”及驳奏出，乃是论庞严贬黜太轻，中外无不大笑。

王彦威以户部侍郎判度支，既掌利权，心希大用。时内官仇士良、鱼宏志禁中用事。先是左右神策军多以所赐衣服于度支中估判，使曲从厚给其价。开成初，有诏禁止，然趋利者犹希意从其请托。至是彦威大结恩私，凡内官请托无不如意，物议鄙之。

中书主簿滑涣，与内官典枢密刘光琦相通。宰相议事，与光琦异同者，令涣达意，未尝不遂所求。宰相杜佑、郑絪皆姑息之，佑呼为“滑八”。

孟简佞佛，镇襄阳，以腹心吏陆翰如上都进奏，委以关通中贵。翰持简阴事渐不可制，简怒追至州以土囊杀之以灭口。翰子弟诣阙诉冤，且告简赃状。御史台按验获简赂吐突承璀钱帛共计七千余贯匹，再贬简吉州司马。

崔元略户部侍郎出于宣授。时谏官有疏，指言内侍崔潭峻方有权宠，元略以诸父事之。元略上章自辩，上诏答云：“朕所命官，奚恤人言，然终不能逃父事内官之名。”

窦怀贞为御史大夫。时韦后、安乐公主乱政，怀贞谄顺委曲，改名以避后父之讳。娶韦后乳母王氏为妻，自称皇后阿翁。时人或以为国翁，怀贞处之不作。宦官用权，怀贞尤所畏敬，见无须者或误接之。又附会太平公主，为左仆射，时人语曰：“窦仆射前为韦氏国翁，后为公主邑丞。”言怀贞伏事公主同于邑官也。

高力士作宝寿寺钟成，力士斋庆之，举朝毕至，凡击钟者，一击百千，有规其意者击至二十杵，少尚十杵。

金吾大将军程百献与力士约为兄弟。力士母麦氏卒，百献被发受吊，辞踊哭泣，过于己亲。

李辅国权盛宰相。李揆，山东甲族，位居台辅，见辅国执子弟之礼，谓之“五父”。

郭霸为右台御史，初召见于则天，前自陈忠鯁云：“往年征徐敬业，臣愿抽其筋，食其肉，饮其血，食其髓。”则天悦。故时人号为“四其御史”。御史大夫魏元忠卧疾，诸御史尽往省之，霸居后，请示便液曰：“大夫粪味甘，或不瘳；今味苦，当即愈矣。”元忠刚直，殊恶之，以其事露于朝士。

则天不豫，令阎朝隐往少室山祈祷。朝隐乃曲申悦媚，以身为牺牲，请代上所苦。

敬宗时，裴度自兴元入觐。既至，李逢吉不欲度复入中书。京兆尹刘栖楚，逢吉党



也，栖楚等十余人驾肩排度。而朝士持两端者日拥度门。一日，度留饮酒，栖楚矫求度之欢，曲躬附度耳而语。崔咸疾其谄伪，举觞罚度曰：“丞相不当许所属官啜啜耳语。”度笑而饮之。栖楚不自安，趋出座，客皆快之。

中宗宴近臣，国子祭酒祝钦明自请作《八风舞》，摇头转曰，备诸丑态，上笑。祝钦明素以儒学著名。吏部郎中卢藏用，私谓诸学士曰：“祝公《五经》，扫地尽矣。”

中宗时，司农卿赵履温，倾家资以奉安乐公主。为之起第舍，筑台穿池无休已。披紫衫于项，挽公主轆车。公主与韦后作乱被杀，履温驰诣安福楼下舞蹈称万岁。声未绝，相王命斩之。

后唐郭崇韬，父名“宏豆”。卢革谄奉之，上言请依《六典》改“宏文馆”为“崇文馆”。

后唐，苏循，庄宗将即位，张承业意未欲庄宗遽称尊号，人亦无敢赞成者。循自河中来，人衙城见府廨即拜，谓之“拜殿”。见庄宗即呼万岁，舞仆，泣而称臣。翌日又献大笔三十管，谓之“画日笔”。庄宗大悦，承业深恶之。

后唐，梁翘为给事中，因转对上言：“以星辰合度，风雨应时，请御前香一合。”帝亲薰一柱，余令于塔庙中焚之，贵表精至。

何泽为吏部郎中，史馆修撰，尝因起居退，独自迟留，以笏扣头北望而呼曰：“明主，明主。”明宗知其佞，亦不之责。

谗 险

梁，徐摘，武帝问以《五经》大义、历代史、百家杂书，末论释教，摘商较纵横，应答如响，帝加称异，宠遇日隆。朱异不悦，谓所亲曰：“徐叟出入两宫，渐来见逼，我须早为之所。”遂乘间白帝曰：“摘年老，又爱泉石，意在一郡。”帝谓摘欲之，乃召摘曰：“新安大好山水，任昉等并经为之，卿为我临此郡。”遂出为新安太守。

隋，诸葛颖，炀帝所亲幸，出入卧内，帝每赐之曲宴，辄与皇后嫔御连席共榻。颖因间隙，多所谗毁，时人谓之“冶葛”。

唐高祖校猎城外，太子建成、秦王世民、济王元吉皆从。上命三子驰射角胜。建成有胡马，肥壮而善蹶，以授世民，曰：“此马甚骏，能超数丈涧。弟善骑，试乘之。”世民乘以逐鹿，马蹶，世民跃立于数步之外，马起，复乘之，如是者三。顾谓宇文士及曰：“彼欲以此见杀，死生有命，庸何伤乎？”建成因令妃嫔蹇之于上，曰：“秦王自言我有天命，方为天下主，岂有浪死？”上大怒，责世民曰：“天子自有天命，非智力可求。汝求之一何急邪？”世民免冠顿首，乞下法司案验，上怒不解。

唐宗室吴国公李孝逸，有破徐敬业之功，时望益重。武承嗣深忌之，使人诬告孝逸自解“逸”字云：“逐走兔者，常在月中，月既近天，合有天分。”则天以孝逸尝有功，减



死，配徙儋州，寻卒。

萧瑀荐封伦于高祖，高祖以为中书令。太宗嗣位，瑀为左仆射，伦为右仆射。伦素险谲，与瑀商量可奏者，至太宗前，尽变易之。

许敬宗既助立武后，遂潜长孙无忌，遣人上封事，称无忌谋反。帝令敬宗鞠之，敬宗云：“无忌与先朝谋取天下，众人服其智；作宰相三十年，百姓畏其威。攘袂一呼，嗟命同焉，必为宗庙深忧。”又引汉文帝薄昭事。帝竟不亲问，惟听敬宗谗构之说，遂流黔州。敬宗又遣大理正袁瑜，就黔州重鞠无忌反状，公瑜逼无忌，令自缢。

李靖破突厥，擒颉利。温彦博害其功，奏靖军无纲纪，致令虏中奇宝散于乱兵之手。太宗大加责让，未几，太宗谓靖曰：“前有人谗公，今朕已悟，公勿以为怀。”

太宗自辽东还，发定州。在道不康，左庶子兼民部尚书刘洎，与中书令马周入谒。洎周出，褚遂良传问起居，洎泣曰：“圣体患痼，极可忧惶。”遂良诬奏曰：“洎云国家之事不足虑，正当传少主行尹霍故事，大臣有异意者诛之。”太宗疾愈，诘问其故，洎以实对，又引马周以自明。周对与洎同，遂良又执证不已，乃赐洎自尽。

李义府状貌温恭，与人语，必嬉怡微笑，而褊忌阴贼。既处权要，欲人附己，微忤意者，必加倾陷，故时人言“义府笑中有刀。”又以其柔有害物，谓之“李猫”。高宗知其罪，从容戒之，义府勃然变色，腮颈俱起，徐曰：“谁向陛下道此？”上曰：“但我言如是，何须问我所得耶？”义府殊不引咎，缓步而去。

李林甫为相，好陷人，世谓林甫“口有蜜，腹有剑”，以其阳与人善，啖以甘言，而阴挤之也。与李适之争权不协，适之性疏，林甫阴中之，林甫尝谓适之曰：“华山有金矿，采之可以富国，上未知之。”适之心喜其言，它日，从容奏之。元宗大悦，顾问林甫，林甫对曰：“臣知之久矣，然华山，陛下本命王气所在，不可穿掘，臣故不敢上言。”帝以为爱己，薄适之言，疏之。适之惧，求为散职，由此罢相，竟贬宜春太守，又胁杀之。

严挺之为绛郡太守，元宗欲进用之。李林甫忌嫉，召挺之弟损之至门，叙故旧云：“当以子为员外郎。”又云：“圣人待贤兄极深，须作一计入京。既见，当有大用。”令损之取绛郡一状云：“有少风气，乞入京师就医。”林甫持状奏云：“挺之年高，近患风气，且授与一闲官。”元宗叹咤久之，林甫奏授员外詹事，便令东京养疾。

李林甫忌杨慎矜受元宗恩遇，诬慎矜是隋家子孙，欲复隋室。慎矜、慎余、慎名俱赐死。令御史卢铤收拷太府少卿张瑄，使诬证慎矜之罪。瑄不肯答，绋其足以木按其足，间撤其枷柄向前挽其身，长校数尺，腰细欲绝，眼鼻皆血出，谓之驴驹拔搯。瑄竟不答，杖六十，长流临封郡，瑄被杖而死。

王锬与杨慎矜亲且情厚。慎矜颇汲引之，及贵盛争取，锬附李林甫构成慎矜之罪，阖门诛灭，既而王锬亦赤族。史云：“岂天道欤？”

朱泚之乱，德宗卒，迫行幸。后数日崔宁来，上喜甚，宁私谓所亲曰：“圣人聪明爽迈，从善如转规。但为卢杞所惑，以至于此。”潜然出涕。或以告杞，杞谋陷之，诬告宁



为泚内应。俯伏歎歌，上信之，使中人引宁于幕后，二力士缢杀之，中外以为冤。

卢杞忌张镒名重道直，无以陷之。以方用兵西边，伪自请行，上固以为不可。乃荐镒为陇右节度，使镒竟为乱兵所杀。

卢杞字子良，貌陋而色如蓝，人皆鬼视之。初为御史中丞，尚父子仪病，百官造问，皆不屏姬侍，闻杞至，悉令屏去，独隐几以待之。杞去，家人问其故，子仪曰：“杞貌陋而心险，左右见之必笑。此人得权，则吾族无类矣。”杞居相位，忌能妒贤，迎吠阴害。小不附者，必致之于死。杨炎、崔宁、颜真卿皆杞所杀也。又激怒李怀光，使与朱泚连衡，袁高奏其恶云：“将校愿食其肉，卿士嫉之若仇。”

李逢吉恶李绅。张又新、李续之、刘栖楚为之鹰犬，同构绅贬端州司马。朝臣表贺，又至中书贺宰相，及门，门者止之云：“张补阙在相公斋内。”俄而，又新挥汗而出，旅揖群官曰：“端溪之事，又新不敢多让。”人皆辟易惮之。与续之等时号“八关十六子。”

姚南仲为郑滑节度使，监军薛盈珍谗毁之，德宗颇疑。贞元十六年，盈珍遣小使程务盈驰驿奉表，诬奏南仲阴事。南仲裨将曹文治亦入奏事京师，伺知盈珍表中语。文治私怀愤怒，遂晨夜兼程追务盈，至长乐驿，及之，与同舍宿。中夜，杀务盈，沉盈珍表于厕中，乃自杀。日阡，驿吏辟门，见血流涂地，旁得文治二缄，一告于南仲；一表理南仲之冤，且陈首杀务盈事。上闻其事，颇骇异之。南仲虑其衅深，遂乞入朝。德宗曰：“盈珍扰军政耶？”南仲对曰：“盈珍不扰军政，臣自隳陛下法尔。如盈珍辈所在有之，虽羊、杜复生，必不能成豈弟父母之政，师律善陈之制矣。”上默然久之。

李逢吉字虚舟，天与奸回，妒贤伤善，结朝臣之不逞者，造作谤言，百端中伤裴度，赖李绅、韦处厚教解。逢吉结王守澄，言于敬宗，诬绅曾请立深王为太子，乃贬绅端州司马。朝士代逢吉鸣吠者，张又新、李续之、张权舆、刘栖楚、李虞、程昔范、姜给、李仲言，时号“八关十六子”。又新等八人居要剧，而胥附者又八人。敬宗知裴度之贤，因中使往兴元即令问讯。度亦自请入觐，逢吉之党坐不安席，如矢攒身。张权舆尤出死力，遂撰谣言云：“绯衣小儿坦其腹，天上有口被驱逐。”言度有天命，上疏，以度名应图谶，宅据乾冈，不召自来，其心可见。而韦处厚又解析于上前，竟不能沮。度自汉中来，复知政事，逢吉出镇襄阳。

唐次无故贬斥，久滞蛮荒，孤心抑郁。乃采自古忠贤遭罹放逐，虽至杀身而君犹不悟，著书三篇谓之《辨谤》略上之，德宗省之，犹怒谓左右曰：“唐次乃方吾古之昏主。”宪宗即位召还，累官至中书舍人。宪宗因阅书禁中，得次所上三篇善之，谓学士沈传师曰：“唐次所上《辨谤》书，人君宜时观览。朕疑编录未尽”，命传师广为十卷，号《元和辨谤略》。其序曰：“圣虑先，辨谤何由兴。”

武后禁屠杀。右拾遗张德生男三日，私杀羊，会同僚。补阙杜肃怀一饭，上表告之。明日，太后对仗，谓德曰：“闻卿生男，甚喜。”德拜谢，太后曰：“何从得肉？”德叩头服罪。太后又曰：“朕禁屠宰，吉凶不预。然卿自今召客，亦须择人。”出肃表示之，肃大



惭，举朝欲唾其面。

卢杞恶颜真卿，欲出之于外。真卿谓杞曰：“先中丞传首至中原，真卿以舌舐面血。今相公忍不相容乎？”杞矍然起拜，心甚怒之。李希烈叛，德宗问计于杞，杞曰：“诚得重臣为陈逆顺，希烈必革心悔过，可不劳军旅而服。颜真卿三朝旧臣，忠直刚决，名重海内，人所信服，真其人也。”上以为然，命真卿诣许州宣慰。诏下，举朝失色。李勉表言：“失一元老，为朝廷羞。”真卿竟为希烈所杀。

宣宗令白敏中为万寿公主选佳婿，敏中荐郑颢。时颢已婚卢氏，行至郑州，堂帖追还，颢甚衔之，由是数毁敏中于上。敏中自相府除邵宁节度使，将赴镇，言于上曰：“郑颢不乐尚主，怨臣深入骨髓。臣在政府，无如臣何。今臣在外，颢必中伤。臣死无日矣。”上曰：“朕知之久矣。卿何言之晚也？”命左右于禁中取小桎函以授敏中曰：“此皆郑郎潜卿之书也，朕若信之，岂任卿以至今日！”敏中置桎函于佛前，焚香事之。

朱梁，李振，唐自昭宗迁都之后，王室微弱，朝廷班行备员而已。振皆颐指气使，旁若无人。朋附者非次奖升，私恶者数日沉弃。每自汴入洛阳，中必有贬窜。故唐朝士人目为鸱枭耳。

闽主王延钧，好鬼神。巫盛韬有宠，薛文杰恶枢密使吴昉。昉有疾，文杰省之曰：“主上以公久疾，欲罢公。”近密仆言：“公但小苦头痛尔，将愈矣。主上或遣使来问，慎勿以它疾对也。”昉许诺。明日，文杰使韬言于闽主，以告文杰曰：“未可信也。”遣使问之，果以头痛对，即收下狱。遣文杰及狱吏杂治之，昉自诬服，并妻子诛。

五代汉时，陶穀先为李崧所引用，穀从而潜之。崧为苏逢吉所杀。他日，秘书郎李昉诣穀，穀曰：“君于李侍中远近？”昉曰：“族叔父。”穀曰：“李氏之祸，穀有力焉？”昉闻之汗出。

奸佞

宋，郑鲜之事宋武帝。帝时或谈论，人皆依违不敢难。鲜之难必切至，未尝宽假。与帝言，要须帝理屈，然后置之。帝有时慚恶变色，亦感其输情。时人谓为“格佞”。

魏，琅琊公主名玉仪，北齐文襄遇诸涂，悦而纳之，遂被殊宠。奏魏帝封焉。文襄谓崔季舒曰：“尔由来为我求色，不如我目得一绝异者，崔暹必当谏我，亦有以待之。”及暹咨事，文襄不复，假以颜色，居三日，暹怀札坠之于前，文襄问“何用？”暹悚然曰：“未得通公主。”文襄大悦，把暹臂入见焉，季舒语人曰：“崔暹常忿我在大将军前每言叔父合杀，及其自作佞，乃佞过于吾。”

北齐，赵长仁参预朝政，鄆孝裕、陆仁惠、卢元亮厚相结托。屏人私语停废公事，人号为“三佞”。

北齐，和士开说武成云：“自古帝王尽为灰土，尧、舜、桀、纣，竟复何异？陛下宜



及少壮，恣意作乐，纵横行之，即是一日快活敌千年。国事分付大臣，何患不办？无为自勤约也。”帝大悦，三四日一坐朝，书数字而已，略无言。须臾，罢入。

李轨遣邓晓使于唐，闻轨被执，舞蹈称庆。高祖数之曰：“汝委质于人为来使，比闻轨沦陷曾无戚容，苟悦朕情，妄为庆跃，既不能留心于李轨，何能尽节于朕乎？”竟废而不齿。

封伦素从太宗征讨，特蒙顾遇以建成、元吉之故。数进忠款，太宗以为至诚。伦又潜持两端。阴附建成，高祖将谋废立，伦故谏而止。后数年，太宗方知其事，治书侍御史唐临追劾之，改溢谬，黜赠官，削官封。

崔湜，神龙初，桓彦、范敬晖知国政，惧武三思谗间，引湜为耳目，使伺其动静。俄而，中宗疏忌功臣，于三思宠渐厚，湜反以桓、敬等计议，潜告三思。桓、敬等徙岭外，湜又说三思宜尽杀之。三思问谁可使者，湜表兄周利贞先为桓敬所恶而绌，湜乃举充此行，桓、敬等闻利贞至，多自杀。

苏味道为宰相，云：“处事不欲决断明白，若有错误，必贻咎谴。但模棱持两端可矣。”时人号为“苏模棱”。

卢藏用初隐居时，往来少室、终南二山。时人称为“随驾处士”。及登朝越起诡佞，专候权贵，奢靡淫纵，获讥于世。

李林甫面柔而有狡计，能伺候人主意，故骤历清列，为时委任。中官妃家，皆厚结托，伺上动静，皆预知之，故出言进奏，动必称旨。而猜忌阴中人，不见于词色，朝廷受主恩顾，不由其门，则构成其罪；与之善者，虽厮养下士，尽至宠荣。元宗欲罪太子瑛、鄂王瑶、光王琚，张九龄曰：“陛下有三个成人儿，不可得，奈何忍欲废之，臣不敢奉诏。”元宗不悦，林甫惘然而退，初无一言，既而谓中贵人曰：“家事何须谋及于人。”元宗欲加牛仙客实封，兼以为尚书，九龄执不可，林甫密告仙客。仙客泣诉，帝后变色，谓九龄曰：“事总由卿。”九龄顿首谢。帝曰：“卿以仙客无门藉耶？卿有何门阀？”九龄对曰：“臣荒微贱，仙客中华之士，然陛下擢臣践台阁，掌纶诰。仙客本河湟一使，两目不识字，若大用之，恐非所宜。”林甫又退而言曰：“但有才识，何必词学。天子用人，有何不可。”元宗竟相仙客，逐九龄，林甫代九龄为中书令。

元载附李辅国已得宰相。辅国死，又结内侍董秀，多与之金帛，令探密旨。上有所欲，载必知之，承意会合，上益信任。后败赐死。毁载父母及祖坟，断棺弃柩，焚家庙木主。

李道古便佞巧宦，早升朝籍，常以酒肴、棋博游公卿门，角赌之际，伪为不胜而厚偿之。故得一时虚名，而嗜利者悉与之狎。

德宗崩，顺宗寝疾，深居帘帷，阉宦李忠言、美人牛昭容侍左右。王叔文因王伾，伾因李忠言，忠言因牛昭容，转相结搆，事下翰林。王叔文定可否，宣于中书。擢吏部郎中韦执谊为宰相，俾执谊承奏于外。以韩泰、柳宗元、刘禹锡、陈谏、凌准、韩煜唱和，曰



管、曰葛、曰伊、曰周，凡其党，偶然自得，谓天下无人。

熊望性险薄，大言诡异，务进不已。时京兆尹刘栖楚以不次骤居清贵，广树朋党，门庭无昼夜，填委不息。望出入栖楚之门有同密戚，阴计密画人无知者。文宗即位，贬漳州司户。

元稹为江陵府士曹，为监军崔潭峻所厚。长庆初，潭峻归朝，出稹连昌宫词等百余篇奏御。穆宗大悦。问：“稹安在？”对曰：“今为南宮散郎。”即日，转祠部郎中知制诰，朝廷以书命，不由相府甚鄙之，无何为翰林承旨学士。中人以潭峻之故争与稹交，枢密魏宏、简尤与稹相善，穆宗愈深嘉重。河东节度使裴度上疏言：“稹与宏、简为刎颈之交，谋乱朝政”，言甚激切。长庆二年，稹拜相，诏下，朝野嗤笑。

郑注本姓鱼，人目之为水族，以药材游长安权豪之家。李愬镇襄阳，得其药力。移镇徐州，以注参决军政。注诡辩阴狡，善探人意，然专作威福，军府患之。监军王守澄怒以军情白愬，愬曰：“彼实奇才也，将军试与之语。或不如旨，去之未为晚也。”愬令谒守澄。守澄安初有难色，及与语，机辨纵横，尽中其意，遂恨相见之晚。守澄人知枢密，注大用事。御史李欽奏弹注内通敕使，外连朝士，请付法司。旬日之间，章数十上，守澄匿于右军。左军中尉韦元素等皆恶注，左军将李宏楚说元素曰：“郑注奸猾无双，卵壳不除，使成羽翼，必为国患。今因御史所劾，匿军中。”宏楚请以中尉意，召注。伪有口疾，使治之，因而擒之。元素以为然，召之。注至，螭屈鼠伏，佞词泉涌，元素不觉执手款曲，谛听之，忘倦，厚遗金帛而遣之。太和八年，守澄引注见文宗于洛阳门，赐锦彩。是夕，彗星出东方，长三尺，光芒甚紧。

崔允召朱全忠，自助全忠自岐下还河中。允谒见于渭桥，捧卮上寿，持板为全忠唱歌，仍自撰歌词，赞其功业。史以为自古与盗合从，覆亡宗社未有如允之甚也。



桂苑丛谈

〔唐〕冯翊子休 撰

张绰有道术

咸通初，有进士张绰者，下第后多游江淮间，颇有道术，常养气绝粒，嗜酒耽棋，又以炉火药术为事。一旦睹天大晒，命笔题云：“争奈金乌何，头上飞不住。红炉漫烧药，玉颜安可驻？今年花发枝，明年叶落树。不如且饮酒，莫管流年逝。”人以此异之。不喜装饰，多历旗亭而好酒杯也。或人召饮，若遂合意，则索纸剪蛱蝶三二十枚，以气吹之，成列而飞。如此累刻，以指收之，俄皆在手，见者求之，即以他事为阻。常游盐城，多为酒困，非类辈欲乘酒试之，相竞较力，留系是邑中。醒乃述课得陈情二首以上，狄令乃立释之。诗所纪惟一篇云：“门风常有蕙兰馨，鼎族家传霸国名。容貌静悬秋月影，文章高振海涛声。讼堂无事调琴铉，郡阁何妨醉玉觥。今日东渐桥下水，一条从此镇长清。”自后狄宰多张之才，次求其道，日久延接，欲传其术。张以明府勋贵家流，年少而宰剧邑，多声色狗马之求，未暇志味玄奥，因赠诗以开其意云：“何用梯媒向外求，长生只在内中修。莫言大道人难得，自是行心不到头。”他日将欲离去，乃书琴堂而别。后人多云江南上昇。初，去日乘醉，因求捣网剪纸鹤二只，以水喂之。俄而翔翥，乃曰“汝先去，吾即后来。”时狄公亦醉，不暇拘留，遂得去。其所题云：“张绰张绰自不会，天下经书在腹内。身却腾腾处世间，心即逍遥出天外。”至今江淮好事者，记绰时事诗极多。

太尉朱崖辩狱

太尉朱崖出镇浙右。有甘露知主事者，诉交代得常住什物，被前主事隐用，却常住金若干两，引证前数辈，皆有递相交割文字分明，众词皆指以新得替者隐用之。且初上之时，交领既分明，及交割之日，不见其金，鞠成具狱，伏罪昭昭。然未穷破用之所由，或以僧人不拘细行而费之，以是无理可伸，甘之死地。一旦引患之际，公疑其未尽，微以意揣之。髡人乃具实以闻曰：“居寺者乐于知事，前后主之者，积年已来，空交分两文书，其实无金。群众以某孤立，不杂辈流，欲乘此挤排之。”因流涕不胜其冤。公乃悯而悯之，



曰：“此固非难也。”俛仰之间曰：“吾得之矣。”乃立从召兜子数乘，命关连僧人对事，咸遣蔽帘子，毕令门不相对，命取黄泥，各令模前后交付下次金样，以凭证据。僧既不知形段，竟模不成。公怒令劾前辈，皆一一伏罪。其所排者遂获清雪。

崔、张自称侠

进士崔涯、张枯下第后，多游江淮，常嗜酒，侮谑时辈，或乘饮兴，即自称侠。二子好尚既同，相与甚洽，崔因醉作侠士诗云：“太行岭上三尺雪，崔涯袖中三尺铁。一朝若遇有心人，出门便与妻儿别。”由是往往播在人口：“崔、张真侠士也。”以此人多设酒饷待之，得以互相推许。一旦，张以诗上牢盆使，出其子授漕渠小职，得堰俗号“冬瓜”。张二子，一椿儿，一桂子，有诗曰：“椿儿绕树春园里，桂子寻花夜月中。”人或戏之曰：“贤郎不宜作等职。”张曰：“冬瓜合出枯子。”戏者相与大哂。

后岁余，薄有资力。一夕，有非常人，装饰甚武，腰剑，手囊贮一物，流血于外。入门谓曰：“此非张侠士居也？”曰：“然。”张揖客甚谨，既坐，客曰：“有一仇人，十年莫得，今夜获之，喜不可已。”指其囊曰：“此其首也。”问张曰：“有酒否？”张命酒饮之。客曰：“此去三数里，有一义士，余欲报之，则平生恩怨毕矣。闻公气义，可假余十万缗。立欲酬之，是余愿矣。此后赴汤蹈火，为狗为鸡，无所惮。”张且不吝，深喜其说，乃扶囊烛下，筹其缗素中品之物，量而与之。客曰：“快哉！无所恨也。”乃留囊首而去，期以却回。及期不至，五鼓绝声，东曦既驾，杳无踪迹。张虑以囊首彰露，且非己为，客既不来，计将安出，遣家人将欲埋之，开囊出之，乃豕首矣。因方悟之，而叹曰：“虚其名，无其实，而见欺之若是，不可戒欤！”豪侠之气，自此而丧矣。

班支使解大明寺语

太保令狐相出镇淮海日，支使班蒙与从事俱游大明寺之西廊。忽睹前壁题云：“一人堂堂，二曜重光。泉深尺一，点去冰旁。二人相连，不欠一边，三梁四柱烈火燃，添却双勾两日全。”诸宾至而顾之，皆莫能辨。独班支使曰：“‘一人’非大字乎？‘二曜’者，日月，非明字乎？‘尺一’者，寸土，非寺字乎？‘点去冰旁’，水字也。‘二人相连’，天字也。‘不欠一边’，下字也。‘三梁四柱烈火燃’，無字也。‘添却双勾两日全’，比字也。以此观之，得非‘大明寺水天下無比’八字乎？”众皆恍然曰：“黄绢之奇智，亦何异哉！”称叹弥日，询之老僧，曰：“顷年有客独游，题之而去，不言姓氏。”

赏心亭

咸通中，丞相姑臧公拜端揆日，自大梁移镇淮海。政绩日闻，末期周荣加水土，移风



易俗，甚治群情。自彭门乱常之后，藩镇疮痍未平，公按轡躬已而治之，补缀颓毁，整葺坏纲，功无虚日。以其郡无胜游之地，且风亭月榭，既已荒凉；花圃钓台，未愜深旨，一朝命于戏马亭西，连玉钩斜道，开辟池沼，搆葺亭台，挥斥既毕。萃其所，芳春九旬，都人士女，得以游观。一旦闻浙右小校薛阳陶监押度支运米入城，公喜其姓同曩日朱崖左右者，遂令询之，果是其人矣。公愈喜，似获古物，乃命衙庭小将，代押留止别馆。一日，公召陶同游，问及往日芦管之事，陶因献朱崖陆龟元白所撰歌一曲，公亦喜之，即于兹亭奏之。其管绝微，每于一筹策管中，常容三管也，声如天际，自然而来，情思宽‘闲，公大佳赏之。亦赠其诗，不记终篇。其发端云：“虚心纤质雁衔余，风吹龙吟定不如。”於是赐赉甚丰。出其二子，皆授牢盆倅职。初，公搆池亭毕，未有名，因名“赏心”，诸从事以公近讳，盖赏字有尚也。公曰：“宣父言微不言在，言在不称微。且非内官宫妾，何避其疑哉！”遂不改作。其亭自秦毕陷逆，乃为刍豢之地。嗟乎！公孙弘之东阁，刘屈氂后为马厩，亦何异哉！

方竹柱杖

太尉朱崖公，两出镇于浙右。前任罢日，游甘露寺，因访别于老僧院公曰：“弟子奉诏西行，祇别和尚。”老僧者熟于祇接，至于谈话多空教所长，不甚对以他事。由是公怜而敬之。煮茗既终，将欲辞去。公曰：“昔有客遗筇竹杖一条，聊与师赠别。”亟令取之，须臾而至。其杖虽竹而方，所持向上，节眼须牙，四面对出，天生可爱。且朱崖所宝之物，即可知也。别后不数岁，再领朱方，居三日，复因到院，问前时柱杖何在？曰：“至今宝之。”公请出观之，则老僧规圆而漆之矣！公嗟叹再弥日。自此不复目其僧矣。太尉多蓄古远之物，云“是大宛国人所遗竹，唯此一茎而方者也。昔者友人尝语愚云：“往岁江行风阻，未得前去，沿岸野步，望出山岭而去。忽见兰若甚多，僧院睹客来，皆扃门不大，独有一院，大敞其户，见一僧跣足而眠，以手书空，顾客殊不介意。友生窃自思，书空有换鹅之能，跣足类坦床之事，此必奇僧也。直人造之，僧虽强起，全不乐。客不得已而问曰：“先达有诗云，‘书空跣足睡，路险侧身行。’和尚其庶几乎？”僧曰：“贫道不知何许事？”适者尽房门拔匙奔客，不辞而出。呜呼！弥天四海之谈，澄汰簸扬之对。故附于此。

杜可均却鼠

僖宗末，广陵有穷丐人杜可均者，年四十余，人见其好饮绝粒。每日常入酒肆，巡坐求饮，亦不见其醉。盖自量其得所。人有怜之者，命与之饮，三两杯便止。有姓乐者，列酒旗于城街之西，常许以阴雨往诸旗亭不及，即令来此与饮，可均有所求，亦不造矣。或无所获，必乃过之，乐亦无阻。一旦遇大雪，诣乐而求饮，睹主事者白云：“既已啗损，



即须据物陪来。”乐不喜其说，可均乃问曰：“何故？”曰：“有人将衣物换酒，收藏不谨，致鼠啮坏。”杜曰：“此间屋院几何？”曰：“若干。”杜曰：“某弱年曾记得一符，甚能却鼠。即不知可有验否？请书以试之，术或有验，则尽此室永无鼠矣。”就将符依法命焚之，自此鼠踪遂绝，不知何故。杜属府城倾陷之后，秦毕重围之际，容貌不改，皆为绝粒耳。

李将军为左道所误

护军李将军全皋，罢淮海日，寓于开元寺。以朝廷艰梗，未获西归。一旦有一小校，介绍一道人，云能炉火之事，护军乃延而客之。自此，常与之善。一日，话及黄白事，道人曰：“唯某颇能得之。可求一鼎，容五六万已，来者得金二十余两为母，日给水银药物，火候足而换之，莫穷岁月，终而复始。”李喜其说，顾囊有金带，可及其数，以付道人。诸药既备，用火之后，日日亲自看验。居数日，觉有微倦，乃令家人亲爱者守之。数日既满，斋沐而后开，金色粲然，的不虚矣。李拜而信之。三日之内，添换。有一日，道人不来，药炉一切如旧，疑误之。俄经再宿，初且訝其不至，不得已启炉而视之，不见其金矣。事及导引小校，代填其金，道人杳无踪迹。

沙弥辩诗意

乾符末，有客寓止广陵开元寺。因友会语愚云：“顷年在京，权寄青龙寺。日见有客尝访寺僧，屈宾署属主者，忽遽不暇留连。翌日，复至。又遇要地，朝客不得展敬。别时又来，亦阻他事。客怒色取笔题门而去。词曰：‘龕龙东去海，时日隐西斜。敬文今不在，碎石入流沙。’僧众皆不能详。独有沙弥能解之，众问其由，则曰：‘龕龙去矣，有合字；时日隐也，有寺字也；敬文不在，苟字也；碎石入沙，卒字也。此不逊之言，辱我曹矣。’僧人大悟，追前人，杳无踪迹。由客云：‘沙弥乃懿皇朝文皓供奉。’”

客饮甘露亭

有甘露寺僧语愚云：

吴王收复浙右之岁明年夏，中夜月莹无云，望江澄澈如昼，诸徒侣悉已禅寂，竟无人踪，禽犬皆息矣。独某默默持课时，亦惜其皎月沉房廊，临江恰幽静。俄有数人自西轩而来，领仆厮辈挈酒壶，直抵望江亭而止，皆话今宵明月，江水清澄，得与诸人邂逅相遇，且不辜此景矣。僧窥之而思曰：“中夜禁行，客自何来？必是幽灵异人乎？”乃于窗际俯伏而伺之。既至，坐定，命酒罗列果食器皿，随时所有。东向一人，南朝之衣，清扬甚美；西坐一人，北番之服，魁梧豪爽；北行一人，蓬掖之衣，指东向者设礼而坐；南行一人，朱衣霜简，清瘦多髯。飞杯之顷，东向者语西坐曰：“项羽重瞳，犹有乌江之败；湘东一



目，宁为四海所归。果致如是乎？”西坐者乃笑而言曰：“往者贤金昆不竖蒿棘，见未萌，吾子岂有向来之患乎？”由是，二客各低头不乐。南向朱衣曰：“时世命也，知复何为？且某又忽至此，二三君子以为何如？”东向者曰：“朝代虽殊，古今一致。俾公纵无满宫，多少承恩者，似有容华妾也，亦恐不脱此难。”北向逢掖衣曰：“此犹可也。大忌者满身珠翠，将何用？唯与豪客拂象床，大患此也。”朱衣敬歛低头而已。东向曰：“今日得恣纵江南之游，皆乏风流矣。仆记云，‘邑人种得西施花，千古春风开不尽’。可谓越古超今矣。”酒至西行，西坐者曰：“各微曩日临危一言，以代丝竹，自吟自送可乎？”众曰：“可。”西坐者乃执杯而吟曰：“赵壹能为贼，邹阳解献书。可惜西江水，不救辙中鱼。”次至逢掖举杯而歌曰：“伟哉横海鳞，壮矣垂天翼。一旦失风水，翻为蝼蚁食。”巡至东向曰：“功遂侔昔人，保退无智力。既涉太行险，兹路信难陟。”以至朱衣乃朗吟曰：“握裹龙蛇纸上鸾，逡巡千幅不将难。顾云已往罗隐笔，更有何人逞笔端？”吟罢东楼晨钟遽鸣，僧户轧然而启，遂欬尔而散，竟无踪矣。僧之聪慧不群，多有遗之者。愚故得而录其略焉。

史 遗

崔英年九岁，在秦王苻坚宫内读书。坚殿上方卧，诸生皆趋，英独缓步，怪而问之。英曰：“陛下如慈父，非桀纣君，何用畏乎！”又问：“卿读何书？”曰：“《孝经》。”坚曰：“有何义？”曰：“在上不骄。”坚为之起，更问有何义，曰：“自天子至于庶人章，上爱下，下敬上。”坚曰：“卿好待十七，必用卿为大夫。”英曰：“日月可重见，陛下至尊，不可再睹洪恩。士或可用则用，何在后期？”坚曰：“须待十七，必召卿也。”及期拜谏议大夫。

高澄为沧牧，善捕贼，有人失黑牛，背上有白毛，韦道建曰：“高澄捉贼，无不获矣。得此可为神。”澄乃诈为州县市牛皮，不限多少，倍酬其直，使主认之。因获是贼。

高延宗，北齐文帝之弟，纵恣过度，为齐牧，乃于楼上濡，而使人向上，张口承之。又以猪肉和粪，以饲左右。

崔弘度，隋文时为太仆卿，尝戒左右曰：“无得逛我。”后因食鳖，问侍者曰：“美乎？”曰：“美。”弘度曰：“汝不食，安知其美？”皆杖焉。长安为之语曰：“宁饮三斗醋，不见崔弘度；宁茹三斗艾，不逢屈突盖。”盖，同时虐吏也。

王梵志，卫州黎阳人也。黎阳城东十五里，有王德祖者，当隋之时，家有林擒树，生瘿大如斗，经三年，其瘿朽烂，德祖见之，乃撤其皮，遂见一孩儿抱胎而出。因收养之，至七岁能语，问曰：“谁人育我？”及问姓名，德祖具以实告。因林木而生，曰：“梵天，”后改曰“志。”我家长育，可姓王也。作诗讽人，甚有义旨。盖菩萨化也。

释法庆，炀帝时在长安先天寺，造丈六夹柱像，未成暴亡。时宝昌寺僧大智亦卒，三日而还，良久云：“见宫殿若王者，见法庆在一像前语曰：‘法庆造像未毕，何乃令我死？’检簿者曰：‘命禄俱尽。’像曰：‘须成我矣。可给荷叶以终其事。’”言讫，大智再生。众



异之，往问法庆，亦话说其验迹，竟不能食。每旦食荷叶一枚，斋时三枚，如此五年，功就而卒。

邹凤炽，高宗时人。眉高背曲，住长安怀德坊，富于财，市南山木，每树估一疋，自云：“山木可尽，我绢有余。”乃邹骆驼也。

王积薪随明皇西幸。有司奔从，翰林奕棋者，独王在焉。蜀道隘狭，每止息，道路店舍多为尊官所占，王凄凄无所入。因沿溪深远，寓宿山中，孤姥之家，但有妇姑，止给薪米。才暝，妇姑皆阖户而休。王宿于檐下，夜忽闻堂内姑谓妇曰：“良宵无以为适，与子棋一局。”王异之，堂内无烛，又妇姑各在东西室。王即附耳门扉，俄闻妇曰：“起东五南九置子矣。”姑曰：“东五南十二置子矣。”妇又曰：“起西八南十置子矣。”姑又曰：“西九南十四置子矣。”每置一子，皆良久思维，夜及四更，王一一密记，共下止三十六。忽闻姑曰：“子已北矣，吾二胜九枰耳。”妇亦甘焉。迟明，王具礼请问于老姥。姥曰：“尔可率己之意，而按局置子焉。”王则出局，尽平生之妙，而布子未及数十，谓妇曰：“是子可教以常势耳。”因指示攻守、杀夺、救应、防拒之法，其意甚略，王即更求其说，姥笑曰：“止此已无敌于人间矣。”自是，王之艺绝无其伦，即布所记妇姑对敌之势，罄竭心力较其九枰之势，终不得也。因名“邓艾开蜀势”，至今有焉。

郑代，肃宗时为润州刺史。兄侃，嫂张氏，女年十六，名采娘，淑贞其仪，七夕夜陈香筵祈于织女。是夕，梦云雨盖蔽空。驻车命采娘曰：“吾织女，祈何福？”曰：“愿巧巧耳。”乃遗一金针，长寸余，缀于纸上，置裙带中，令：“三日勿语。汝当奇巧。不尔，化成男子。”经二日，以告其母，母异而视之，则空纸矣。其针迹犹在，张数女皆卒。至母娠，病而不言。张氏有恨言曰：“男女五人皆卒，复怀何为？”将复服药以损之，药至将服，采娘昏奄之内，忽称杀人。母惊而问之，曰：“某之身终当为男子，母之所怀是也。闻药至情急，是以呼之。”母异之，乃不服药。采娘寻卒。既葬，母悲念，乃收常所戏之物而匿之。未逾月，遂生一男子，人有动所匿之物，儿即啼哭。张氏哭，女孩儿即啼哭；罢，即愈。及能言，常戏弄之物，乃采娘后身也。因名曰“叔子。”后及位至柱史。

竟陵僧有于水滨得婴儿者。育为弟子。稍长，自筮得蹇之渐繇曰：“鸿渐于陆，其羽可用为仪。”乃姓陆氏，字鸿渐，名羽。及冠，有文章，多意思耻一物，不尽其妙，得煎茶之法。著于世。

吴郡顾况，贞元中进士及第，词清妙绝，为韩晋公浙西观察判官。公尝有乳母与外相通，卜射事，公持法欲杀阖宅，莫敢言，密令人言于况，令救之。况乃诣公所问何故，公曰：“天下皆知某守法，岂伊乳母先犯也？”况对曰：“二尺儿亦知公法令禁，何宅内人而违犯！然公年幼时，读书、早起、夜卧、看待，即要乳母，今年长为公相侯伯，乳母焉用哉？诚宜杀之也。”公悲悟，遽舍之。况后在朝为小著。谐谑轻薄，傲毁朝士，贬信州司马。

崔膺，博陵人也。性狂，少长于外家，不齿。及长能文，首出众子，作《道旁孤儿



歌》以讽外氏。其文典而美，常在张建封书院，怜其才，引为上客。善为画，时因酒兴偶尽得一匹马，为诸小儿窃去，一旦将行营，大叫称“膺失马”。张公令捕之，厢将问毛色，应云：“膺马昨夜犹在毡下。”监军怒请杀之。建封与监军先有约，彼此不相违。建封曰：“却乞取崔膺军中。”遂舍之。

淮南节度杜佑，先婚梁氏女。梁卒，策娶姬李氏为正嫡。有敕封邑为国夫人，膺密劝，请让追封亡妻梁氏。佑请膺为表，略云：“以妾为妻，鲁史所禁。”又云：“岂伊身贱之时，妻同勤苦；宦达之后，妾享荣封”云云。梁氏遂得追封，李亦受命，时议美焉。其后，终为李氏所怒。社日，公命食彘肉，因为李氏置茎而卒。

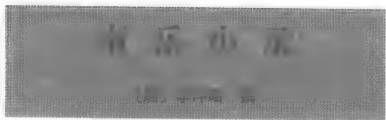
李钊，铸从父弟也，为宋州刺史。闻铸于浙西反，恸哭，悉驱妻子、奴婢、老幼，量项为枷，自拘于廉使。朝廷闻而薄贬。

司马徒之子邕，以第中大杏，馈窦文场。文场以进德宗，德宗以为未尝见，颇怪邕。令中使就封其树，盖惧宅废，为秦城园也。

任迪简为天德军判官，饮酒，吏误以醋供，迪简以李景略令醋，发之必死，乃强饮之，吐血而归。军中闻，皆泣感。后景略卒，军请为主。自衙佐拜中充为军使，后镇亦定。

周郑客唐衢，有文学，老而无成。善哭，每一声，音调哀切，闻者泣下。常游太原，遇享军，酒酣乃哭，满座不乐。主人之为罢宴矣。

越僧灵彻，得莲花漏于庐山，传江西廉使丹，以惠远山中不知刻漏，乃得铜叶制器，状如莲花，置盆水之上，底孔漏水，半之则沉。每昼夜十二沉之节，虽冬夏云阴月黑，无所差矣。



序

冲昭弱年悟道，近岁依师，泊临岳门，频访灵迹，唯求古来旧记，希穷胜异之事，莫之有者，咸云兵火之后，其文散失。遂遍阅古碑及《衡山图经》、《湘中说》，仍致诘于师资长者，岳下耆年，或得一事，旋贮篋笥。今据所得，上自五峰三涧，古来宫观药院，至于历代得道飞升之流，灵异之端，撮而直书，总成一卷，目为《南岳小录》。庶道侣游山，得之彼览，粗知灵迹之所自云。时壬戌岁冬十月序。

叙 岳

南岳者，《周礼·职方氏》曰：“南岳之镇曰衡。”以其分当翼轸，光辅紫宸，钤三气之根，钩五灵之德，上列注生之宿，下符长育之功，称物平施，故谓之衡山。《五岳真形图》云：潜、霍、庐、夙麻、玉笥、洞阳、小泻、九疑、罗浮等十山为之佐命，复有神仙圣境，曰朱陵洞洞天也。又云：“山禀灵气，时有异人。”又《福庭志》云：“朱陵之天，周环七百里，七十大峰，有五小峰，有二坛，露光青玉，学道居此，度世上升。又青玉坛、洞灵源、光天坛，悉是福地，五岳作镇，皆有高真统治，盖以导云南、养万物、惠群生者也。”

五峰 祝融峰 紫盖峰 云密峰 天柱峰 石廪峰

祝融峰，去地高九千七百八十丈，在诸峰之北，最高，拥诸峰而直上。有祝融庙基，及青玉坛、光天坛、白璧坛、雷公池、风穴仙梨树、上清院基。峰之东南，有李秘书堂。

紫盖峰，去地高四千五百丈九尺。其形嵯峨，有似庵盖，因以为名。上有仙人池、七真阁，下有紫盖院基、王氏药堂。



云密峰，昔夏禹治水，登此峰立碑，纪其山高下丈尺，皆科斗文字。近代樵人，或有遇者，其碑至灵，隐而不见。又有禹溪及隐真平、断石源、朱陵洞、丹崖仙人石室存焉。

天柱峰，其形似柱，因以为名，亦名柱括峰。下有魏夫人石坛，或云魏夫人在此处得道。

石廪峰，远望如仓廪，其上方阔十丈，传云傍通洞府。昔有洞门观，胡浮先生常乘白豹游之。又有小石廪峰，下有舜庙，又有华盖、岫嵎、掷钵、回雁，皆小峰之数。

三洞 云洞 寿洞 洞真洞

云洞，以其通于仙源而多灵药，是有其名。出紫盖峰，西逾圣寿观，合寿涧南下岳观，分注平野，及有洞真洞。

司天霍王庙

司天霍王庙，在岳观前，去观百余步。本以南方属火，配神曰祝融。玄宗封为司天王，以配夏享，有庙令司人。本庙在祝融峰上，隋代迁移废华藪观而建立，今祝融峰顶有古庙基存焉。

真君庙

真君庙，在岳观之东五十余步。本与司天王同庙各殿。开元中，司马天师上言：“五岳洞天各有上真所治，不可以血食之神，同其雩祀，既协圣旨，爰创清庙。”是岳也，启夏之际，洁斋致醮，兼度道士五人，长备焚修洒扫，即开元十五年五月十五日明制也。《五灵经》云：“佐治者九人，从吏三百人，羽卫官三万人，为国家祈真请命之地。”《上真记》云：太虚真人领南岳司命，即炎老君也。潜山真人鲍君副治、霍山真人韩君佐治、金华真人黄君初平、天柱真人左君元放、南霍真人郑君思远、霍林真人许君曠、丹霍真人周君阳、紫虚元君魏夫人华存，并居佐命之曹，吴越楚蜀之会，皆当司察之。

衡岳观

衡岳观，在华盖峰下。按旧碑，晋太康八年，徐真人灵期、邓真人郁之建置。梁天监二年，周真人静真再加弘葺，武帝赐三百户庄田充基业。至隋大业八年，诏请蔡天师法涛、李天师法超住观焚修，兴行教法。其衡州府库田畴什物，并赐观资用。唐贞观二年，太宗重书额，请张天师惠朗度道士四十九人，为国焚修。高宗弘道元年，请叶天师法善封岳，辟方四十里，充宫观长生之地，禁樵采，断畋猎，罢献琛，以为常典。观内有田先生得道降真堂、刘天真实堂，后有尹真人上升坛。其观碑文，隋学士曹宪撰，今见存焉。



招仙观

招仙观，按旧碑文曰：“肇基刘宋，分宇萧齐。”又《别传》，晋咸亨间，徐真人建置。至齐元兴元年七月二日，有住持升玄道士张县要乘鹤，白日冲天。其夜雷电激吼，天地震动。今观后约一里地，有朝天香坛存焉。唐贞观二年，萧天师灵护，庐陵人，时在岳招仙观，乱后荒凉。天师素能点化之术，遂点化黄白之物，投外藩，转钱物而创观宇。不数年，克致完合。贞观五年，建寻真阁。

九真观

九真观，按碑文，晋太康中邓真人建置徐真人祠。唐开元年中，有王天师仙乔。初，天师为行者，道性冲昭，有非常之志。因将岳中茶二百余壶，直入京国，每携茶器，于城门内施茶。忽一日，遇高力士，见而异之。问其所来，乃曰：“某是南岳行者，今为本住九真观殿宇破落，特将茶来募施主耳。”于是力士上闻，玄宗召见，嘉叹久之，问曰：“尔有愿否？”对曰：“愿郁郁家国盛，济济道兴。”上深加礼焉，俾于内殿披度，厚与金帛，津置令归岳中，修创观宇。不数年而完全，道行逾高，声流上国，寻有诏命，封为天师。乾元二年三月三十日得道。

又有薛天师季昌，本绵州绵竹县尉，在京舍官入道，志操不群。将归南岳，上闻玄宗，玄宗嘉之，亦厚颁金帛。上命笔赋诗送赠，有序曰：“炼师初解簪裾，栖心衡岳，及登道录，慨然来兹，愿归旧居，以守虚白。不违雅志，且重精修，忽遇灵药志人，时来城阙也。乃赋诗一首宠行云尔。”诗曰：“洞府修真客，衡阳念旧居。将申金阙要，愿奉玉清书。云路三天近，松溪万籁虚。犹期传秘箓，来往候仙舆。”后封天师。天师又师司马天师，玄宗礼重，呼为道兄。凡是观中什物，多是恩赐。临行，又赠金器一百事、银器二百事，绵帛至多，皆有御札。天师以乾元二年二月六日得道。自离乱后，焚烧荡然，虽重修舍宇，竟未完复。唯存恩赐钟一口，重四千斤。咸通中，有王尊师名因节住持，道行出众，营缉至多，声达京师，为王侯所重。今在北岳，封总教大师。观后有白云先生药堂。又有一小池，名甘泉。其泉味甘，煎茶似乳，旧日亦有甘泉院。

西灵观

西灵观，按《图经》云：“梁天监五年建置。”本女真住持，经兵火后，未暇修营。西有魏夫人仙坛，开元中，有女真薛师在观得道。又于晨溪别构道院，每出入常有白豹随行，游历洞府。薛天师常诣之，不与相见，后不知所之。



圣寿观

圣寿观，本灵夏卢尚书名藩书堂，以咸通六年抗表奏舍为圣寿观，观内卢公真堂坛殿俨然，又有层崖峭壁，修竹茂松，涧水潺湲，风景甚异。

九仙宫

九仙宫，本张真人名始珍所居，有石坛，方阔丈余。梁天监三年，有仙者八人，迎张真人于石坛上，同升天去。咸通九年，衡州刺史史规奏置宫额，十年十月敕下，宜依所奏行之。

中 宫

中宫，本梁朝王真人灵輿修行上升之处。又大历年，李得琳先生居之得道。

元阳宫

元阳宫，本晋朝陈真人兴明修行上升之处。

上清宫

上清宫，本徐真人灵期修行上升之处。大历七年，有玄和先生张太空居之得道。又大中元年，韩威仪居之得道。

紫虚阁

紫虚阁，有魏夫人仙坛，高一丈二尺，上圆平，约阔一丈，亦名飞流坛。《传》云：“夫人自抚州乘龙飞来至此。夫人，晋太尉舒之女，讳华存，号上真紫虚元君。”有台阁，仪像俨然。又云：“晋咸和年于此修道。”又北去半里，有神溪投龙潭，每修斋毕，投金龙于此。

石室隐真宫

石室隐真宫，大历年中，广成刘先生玄静修行之处。行三五步冈，夺虎穴而居之，名曰隐真宫，刺史韩皋出俸钱为创会真阁。初，先生在兹十五余年，修道莫有知者。时因太史占之，云有真人星见，隐者在兹岳得道，应于天文。上闻武宗，武宗遽降诏命，委本道



监军使遣人赍诏征召。使人到岳，遍寻无所不至。忽一日，中使人行及中宫西南面三里余，历峻攀萝，见一石室，深邃屈曲，有住之家。于是攀藤萝入深，乃见先生凝然而坐。中使宣命，先生初乃佯狂，后即承命。寻赴阙庭，诏封为帝师，号广成先生。却复兹地，未几而羽化。今石室有昔时镌石为醮坛、天宝台、碓臼、瓮缶、棋局、茶灶、灯台，皆就石而琢成之，今悉存焉。

凌虚台

凌虚台，昔有薛天师季昌、周尊师混污相次居之得道。

洞灵台

洞灵台，本李天师明俊居之得道，亦是福地。

添香台

添香台，昔有女真居之得道，今台及圣境存焉。

刘根先生药岩

刘根先生药岩，昔有仙人刘根居之修行之所，在九仙宫之西北，颇甚深邃，亦殊异之境也。

紫盖院

紫盖院，昔有道人建置，乱后唯基址存焉。

白云先生药堂

白云先生药堂，在九真观西。开元中，司马天师承祜本号白云先生，后授贞一先生，尝于此修行。

尹真人坛

尹真人坛，在岳观北百余步，真人讳道全上升之处。



田先生药岩

田先生药岩，在中宫东面百余步。先生讳良逸，元和中修行于此，后得道。

北帝院

北帝院，在岳观东北，去观三里，昔有女真侯鍊师居之，修行勤于香火，后亦得道。

洞真瀑布

洞真瀑布，在招仙观北，去观三里，瀑布如帘，垂及亭台，碑文纪其胜异。上有朝天坛，昔日张真人尝要上升之处。又下有投龙潭，每修斋毕，投金龙于此也。

王氏药院

王氏药院，咸通间，有术士王生居之。有茂松修竹，流水周绕，及多榷树茶园，今基址存焉。

光天观

光天观，传云融峰院，是观基。

隐真平

隐真平，在云密峰之中，坦然而平，方阔五里，是神仙遨游之所。时人寻之，少有到者。

断石源

断石源，在隐真平水源，有石高数丈，阔数尺而中断，上有镌字云：“此有丹砂水，如乳而甘香。有人得掬饮之，可寿至千岁。”寻游者到此间，唯闻石下有流水之声，在左边听即落右边，在右边听即落左边，罕有得者。

朱陵洞

朱陵洞，即三茅洞天，在九仙宫正西三里，有石岩，下有平石，方二丈，是旧时投金



简之所，传云朱陵洞之东门也。

前代九真人 出《九仙宫碑》，旧有九仙殿

陈真人兴明，居元阳宫，晋武帝太始元年三月一日上升。

胡浮先生，姓施，名存，居洞门观西峰构虚阁，晋惠帝永康九年四月上升。

尹真人道全，居岳观溪，晋怀帝元嘉元年正月九日上升。

徐真人灵期，居上清宫，宋元徽二年九月九日上升。

陈真人惠度，居古玉清宫，齐武帝永明二年五月十三日上升。

张真人晏要，居招仙观，齐延兴元年七月三日上。升。

张真人始轸，居九仙宫，梁天监三年七月十三日上升。

王真人灵舆，居中宫，梁天监十一年七月十三日上升。

邓真人郁之，字玄寂，居洞门观，梁天监十年十二月三十日上升。

又有双裘祖、双子辨二人，相次得道。

唐朝得道人 在岳一十四人

殷先生景童，天宝十七年七月三日得道。

萧先生灵护，弘道三年八月十五日得道。

李天师思慕，天宝十四年八月廿六日得道。

何尊师隐其名，天宝二年十月十五日得道。

薛天师季昌，乾元二年二月六日得道。

王天师仙乔，乾元二年三月三十日得道。

傅天师待仙，乾元三年十一月七日得道。

董先生秦仙，大历元年十一月六日得道。

玄和张先生太空，大历七年二月八日上清宫得道。

李先生德琳，大历十二年九月五日中宫得道。

田先生良逸，元和六年正月七日在降真院得道。

广成刘先生玄静，大中五年五月十一日得道。

周尊师混污，会昌二年正月得道。

韩威仪，大中元年上清宫得道。

田先生有弟子陈微君、冯微君、张微君三人，不就微，皆于天台山相次得道。

《真君传》

汉中垒校尉刘向撰。



赤松子者，神农时雨师也。服水玉以教神农，能入火自烧。数往昆仑山中，常止西王母石室中，随风雨上下。炎帝少女追之，亦得俱去。至高辛时，复为雨师焉。

王母者，神人之面，蓬发戴胜，虎爪善啸，岩居，名王母，在昆仑之墟焉。赞曰：

渺渺赤松，飘飘少女。
接手翻飞，冷然双举。
纵身长风，俄翼玄圃。
妙达坎巽，作范司雨。

《田先生写真赞》 蒙谷子诸葛黄撰

田先生，实衡之攸民，间世所出，天然真气，生而知道，醇孝养亲，得混朴自然之理，言貌不饰，裘褐垢弊。侯王礼重，我亦不荣，氓隶给轻，我亦不陋。驱役鬼神，意往即至。一入衡岳，逾五十年，九百门人，皆是轩冕，请为法主，一作帝师，即先生之道，其可知也。仪形可质，图写存焉。自始及今，未有称述，黄承其阙，序以赞云：

灵根独秀，真人间生。
仙非积学，道乃天成。
汪汪德貌，落落神情。
兹形如在，犹可作程。



历代崇道记

〔唐〕杜光庭 撰

历代崇道记

穆王于昆仑王、王屋山、嵩山、华山、泰山、衡山、恒山、终南山、会稽山、青城山、天台山、罗浮山、崆峒山致王母观，前后度道士五千余人，秦始皇帝并吞六国，招方士，好长生之术，遣使往蓬萊采不死药，造宫观一百余所，度道士一千七百余。汉文帝、窦太后并好黄老之术，造宫观七十二所，敕天下如不通黄老经者，不得注官。又亲访河上公问道德之要，天下大治。计度道士一千余人。孝武帝奉道弥笃，感王母降于宫中，遣帝白银像五躯，曰是太上老君之真形也。帝别营三殿而供养之，后移像于柏梁台上，后又移于甘泉宫内。以一殿而并列之，南向设座，自兹始也。又度公主数人，及度道士约五千余人，并造观三百余所。其嵩岳万岁观、泰山登封观、华山集仙观、终南望灵观，王屋通天观，并不得令庶姓居之，以为恒式。其万岁观因帝巡幸而闻山呼，遂舍行宫而为观焉。至孝宣帝时，有上党郡功曹李傕，因入抱犊山采药，于石室内获天书四十余卷，并玉箱玉杖，献于河东郡太守张纯。纯立遣使上进，帝视之大惊，不觉流涕，乃令宣示内外臣僚。时冉癸为主书中郎将，见之泣曰：“此是武帝临崩时遗制令葬于梓宫之内，何由至此？”及披之卷后所有臣僚校勘姓名，于今见有存者。帝乃遣使检校茂陵，即又安完如故。帝乃为武帝造观二所，一在长安城内，一在茂陵之下，以奉先帝也。复度道士二十人，以奉香火也。后赤眉之乱，茂陵为贼所发，于梓宫之中，但见有剑一口。方欲取之，其剑忽然啾吼腾空而去。

世祖光武皇帝既平王莽，天下大定。东封礼毕，乃为本朝十一帝追荐。及南阳春陵名山大川、长安、洛阳，计造观一百二十所，度道士一千八百人。魏明帝为武帝及先太后造观于五都，计一十三所，度道士一百九人，仍诏道士同御史装饰。吴主孙权于天台山造桐柏观，命葛玄居之。于富春造崇福观，以奉亲也。建业造兴国观，茅山造景阳观，都造观三十九所，度道士八百人。晋武帝于洛阳造通天、洞天、灵仙、灵宝四观，及诸州共二百所。先魏末陇右临洮郡有神人，长三丈，著白衣，垂素发，戴金冠，现于襄武县，告县人



王始曰：“不久当见太平。”及武帝授箓，果天下一统。帝乃令于所现处造告平观，即李宗之故居也。别度道士七人，并前后所度道士，共计四百七十二人。时吴郡临平湖岸崩，获石鼓一枚，遣使上进。帝问司空张华，此物何用？曰：“但以桐木刻作鲸鱼形，扣之必有声，闻于数里。”至惠帝时，于宫中忽夜鸣不已。帝甚恶之，乃迁嵩山万岁观，击之集众，自兹始也。后魏道武帝于云中太原及河朔造观计五十所，度道士六百余人。太武敕令天下造太平观共二百七十五所，度道士一千三百人。帝受箓，改太平真君元年，仍令四方内外上书言太平真君皇帝陛下。自后帝嗣位，并皆受箓。后周武帝于长安造通玄馆，以延羽客。隋高祖文皇帝迁都于龙首原，号大兴城。乃于都下畿内造观三十六所，名曰玄坛，度道士二千人。炀帝迁都洛阳，复于城内及畿甸造观二十四所，度道士一千一百人。

皇朝高祖神尧大圣大光孝皇帝于隋末大业十三年感霍山神，称“奉太上老君命告唐公，汝当来必得天下。”到武德元年，晋州浮山县羊角山著素衣，戴金冠，乘朱骝白马，令吉善行告神尧：“汝今得圣理，可于长安城东致一安化宫而安道像，则神稷延长，天下大定。”善行辞，“见天子何以为据？”太上曰：“但去，有献石龟者，可以为信。”善行乃告晋州刺史贺若孝义。孝义遂将善行见秦王，具言神人现事，群臣拜庆。遂差左亲卫帅杜昂与善行于所现处设祭，太上又现，一如善行所言，以鞭指昂曰：“汝是何人？”昂曰：“是秦王使者。”太上曰：“我不饮不食，何用祭乎？所有委曲，令人具知。”昂还，乃言神人复现。秦王大悦，乃令昂将善行入京上奏。至京立未定，果有印州治中张达献石龟，上有文曰：“天下安，子孙兴。千万岁，千万叶。”遂入面奏。高祖大悦，诏授善行为朝散大夫，赐物一百段。乃令通事舍人柳宪于羊角山立庙，复改浮山县为“神山县”，羊角山为“龙角山”。太上又现，为善行曰：“天子喜欢否？”对曰：“大喜。”又曰：“疑惑何事？”复对曰：“为不知圣者姓名耳。”太上曰：“我是无上神仙，姓李氏，号老君，即我也。我即帝之祖也。《史记》中有传，亳州谷阳县本庙有枯桧再生为验。我已令周公旦领神兵助国家打刘黑闥，得四月节，即破矣。”孝义又令善行人奏，高祖乃敕善行驰驿往洛阳军所，宣敕示谕。至时果平黑闥，四海大定，枯桧亦重生焉。乃改庙为“庆唐观”，今观内有明皇御制石碑，及列圣真容并在。武德三年，诏晋阳道士王远知授朝散大夫，并赐镂金冠子紫丝霞帔，以预言高祖受命之征也。太宗又加远知银青光禄大夫，并远知预言之故也。羽衣人赐紫衣，自兹始也。高宗龙朔二年，诏洛州长史谯国公许力士，于邙山建上清宫以镇鬼。仙洞掘得古石案，即仙人帛仲理之故基也。及功毕，帝令设醮，太上又现，百官进表称贺，帝大悦。乾封初，帝东封礼毕，回銮亳州，亲谒太上，谨上尊号为“混元皇帝”，圣母为“先天太后”，仍改谷阳县为“真源县。”又为太宗及文德皇后造东明观于京师，又敕道士宜求宗正寺，仍立位在亲王之次。

文明元年，天后欲王诸武，太上乃现于虢州阌乡县龙台乡方兴里皇天原，遣郛玄崇令传言于天后云：“国家祚永而享太平，不宜有所僭也。”天后遂寝，乃舍阌乡行宫为奉仙观。后庆山涌出于新丰县界，高三百尺，上有五色云气，下有神池数顷，中有白鹤鸾凤，



四面复有麒麟狮子。天后令置庆山县，其诸祥瑞，具载《天后实录》，以表国家土德中兴之兆也。又舍中岳奉天宫为嵩阳观，以追荐高宗大帝也，竟传位于中宗孝和皇帝。景龙元年，敕天下州郡并令置景龙观，二年改为“中兴观”，三年改为“龙兴观”，其度人一依前代故事。睿宗舍东京宅为“景云观”，又舍太原宅为“唐隆观”，为资荐天皇天后也。

明皇开元中，敕诸道并令置“开元观”，又制《混元赞》，帝亲书，勒之于石。又敕五岳置“真君庙”，又敕上都置“太清宫”，东都置“太微宫”，以太原神尧旧宅为“紫微宫”，潞州潜龙故宅为“启圣宫”，并给袞冕绛纱帷帐交龙门戟，一如宫阙之制。帝又注《道德经》及制序引，诏天下士庶并令家藏一本。两街道众乃以幢幡伎乐自禁中迎引，归于太清宫，香花之盛，近古未有。又敕置道举，一如礼部之制，帝亲自策之，达者甚众。后蒲州奏，因修紫极宫，掘地获玉石，状如半月。复有仙人杵药之像，扣之有声，颇甚清远。帝令悬于太原玄元庙庭，号之为“偃月磬”。东都留守张琦奏：汝州鲁山县因修仙居古观，获玉瑛，扣之声闻数里。帝令悬于太清宫太祖庙庭。衢州为建观宇，穿地得鱼一头，长三尺，其状似铁，微微带紫碧之色，又如青石，光莹雕镂，殆非人工所成也。扣之甚响，其鱼亦不能名，遣使来献。帝令宣示百僚，亦不能辨。帝乃呼为“瑞鱼磬”，仍命悬于太微宫，非讲经设斋，不得击之。由是诸观竞以木石模之，以代集众。又诏诸官悉以宰臣及本道节度使领之，永为常式。帝又制《霓裳羽衣曲》、《紫微八卦舞》，以荐献于太清宫，贵有异于九庙也。帝东封，获江淮间三脊茅，乃令于所获之地置灵茅观。及礼毕回，谒圣祖于亳州本宫，亲礼《道德经》于石，作大幢，造八角楼，覆之于虚无殿之前。又幸怀州开元观及闾乡奉仙观，为王公万民所请，亦亲礼二经，以大石对峙立之，一如太清之制。乃诏授邬玄崇为虢州刺史。开元十七年夏四月五日，益州大都督府长史张敬忠奏，大圣祖混元皇帝应现于当管蜀州新津县津兴尼寺佛殿柱上，自然隐起木纹，为太上老君圣像。当顶上有华盖，足下前后各有云叶天花，共一十三处。谨差判官益州功曹参军王大锁金覆得状，与本州刺史李忠徇、别驾卢昉、县令李韶、道士僧尼一百三十人状同，方敢上奏。至五月二十四日，敕差内侍林昭隐宣取像柱入京，于大同殿供养。又令两街官观各赐供养七日，却令进入大内，于今见在。前后瑞应极多，难以具录。二十九年正月七日，陈王府参军田同秀于丹凤门外忽见紫云自西北暎楼，又见混元乘白马，侍从二童子。二童子谓同秀曰：“我昔与尹喜将入流沙之日，藏一匮灵符在桃林故关尹喜旧宅，汝可请帝取之。”同秀具事闻奏，敕差内使李志忠监同秀往陕州桃林县南十二里故函谷关墟求访之。俄有紫云白兔现于枯桑之下，便乃穿掘，下到水际，得石函经匮，玉版朱书细篆。帝闻奏大悦，即令京师列十部乐，歌舞鼓吹，自通化门入。其文于宝奩中五色放光，洞照天地。帝于丹凤楼上，身披龙袞，手执金炉，六宫嫔嫱，竞于楼上焚香散花，遥自作礼。帝又令乱撒金钱于楼下，纵令士庶分取，以为欢乐。斯须，山呼之声，震动京邑。帝令置宝符于灵昌殿，是夜楼阁林树之上，皆有神灯。乃于正月一日改开元三十年为天宝元年，改桃林县为“灵宝县”。其后三年，帝见灵符有“天宝千载”之字，天宝已应改元之号，遂



改年为载，乃于其地长乐亭置天宝观，御制并书灵符铭，立于所获之处。又于大内置“灵符殿”，赐同秀五品正员官。宰相请加尊号为“开元天宝神武”之字，制可之。乃大赦天下。其年闰四月，帝梦混元谓帝曰：“我在城之西南久矣，当与汝于兴庆相见，可速迎我。”帝谓宰相李林甫、牛仙客曰：“朕临御海内，向三十年，未尝不五更而起，具朝服礼谒真容，为苍生祈福。近因假寐见混元。”具言上事，遂差内使与道门威仪萧玄裕于城西南寻访。数日，忽于楼观山谷间见有紫云现，白光属天，于其下穿之，果得玉像老君，高三尺余以进。其日帝在兴庆宫大同殿亲自迎谒，果符兴庆之言，置于内殿供养，仍令所司写真容，分送天下诸道宫观，遂大赦天下。五载，帝梦见混元言：“我有灵应，寻当自至。”遂于太白山获灵符玉册，及迎到京，置于灵符殿，亲自供养。仍封太白山神为灵应公，改获符洞为“嘉祥洞”，于山下置“真符县”。乃令诸道置真符观，仍编入史。其年十二月，帝幸华清宫；其月四日，日未出时，忽见骊山顶云物积异，须臾云散，见混元圣祖现于朝元阁上。帝与内人瞻谒，良久乃隐。诏改会昌县为“昭应县”，其新丰县隶入昭应。又封会昌山为“昭应山”，封山神为“玄德公”，改朝元阁为“降圣阁”，内出图本，颁示天下，宣付史官。八载，帝获二十七仙玉像于宁州罗川县，敕令迎像入京，一如天宝初迎灵宝符仪注故事。帝亲自制赞，寻改罗川县为“真宁县”，于所获处造通圣观，帝制碑文立之，于今并在。其年六月，大同殿产玉芝一茎，又造金仙、玉芝二观，复度公主二人为道士。又太白山人李浑上言，见混元言：“金星洞内有玉版石，记圣皇福寿之符。”敕御史中丞王锾入游谷，行四百余里，求而得之。敕以殊祥颁示中外，乃于其地造灵符观。闰六月丙寅，帝谒太清宫，加五圣尊号，作仲尼四子像，侍立于混元之前。又敕十道大郡置玉芝观，大赦天下。九载，太白山人王玄翼上言：“混元大帝降现，言宝仙洞中有妙宝真符，谓帝取之。”敕刑部尚书张均、工部尚书王倕往取，获之。乃造真灵观。十三载正月，帝谒太清宫，又上混元尊号为“大圣祖高上大道金阙混元天皇大帝”，五圣各加谥号。帝加“开元天地大宝圣文武证道孝德皇帝”，大赦天下。十五载，帝幸蜀，混元现于汉中郡三泉县黑水之侧。帝亲礼谒，遂命刻石像真容于所现之处，又于利州益昌县山岭上见混元骑白卫而过，示收禄山之兆。诏封其山为“白卫岭”，于所见之处置“自然观”。又于嵩山置“兴唐观”，成都置“福唐观”。

肃宗至德二载三月十八日，混元现于通化郡云龙岩，初因郡人为国祈福，建大斋会。十八日，忽烟雾异香，氤氲不散，至辰时渐渐开霁，神光照天，因见混元真像立于山前，自地接天，通身白衣，左手垂下，右手执五明之扇，仪相炳然。众尽瞻礼。其山虽高，亦不及肘，良久乃隐。遂具上奏，内出图本，太上皇制赞并序，文繁不录，具编史册，仍示天下。乾元二年，帝夜梦二青童导从至一宫阙，谒见混元。混元衣云霞之衣，冠九凤之冠，坐方席，垂宝盖，凭玉几，执白拂。左右侍卫真人、玉女、神仙、童子、五天力士，罗列极众。帝著绛衣秉圭，立侍于混元之后，游涉山海，经历甚远，帝一一潜记。又见混元须发皆黑，及明，宣下两街，访诸瑞像于务本坊光天观圣祖院，果获黑髭老君之像。图



写以进，帝见大悦，一如梦中所睹。乃出帝真容，令侍立于混元之后，仍颁示于天下，普令供养。

代宗初，于楚州安宜县获八宝，因改安宜县为“宝应县”敕于所获处造“宝应观”。遂改元为“宝应元年”，大赦天下。

德宗贞元十年，混元潜使金母累降于果州金泉山，授炼气之术，付女贞谢自然，修习功成。以其年十月十六日，白日上升，后三月乃归，谓刺史李坚曰：“天上有玉堂最高，老君居焉。壁上皆题神仙之名，时往脚下，云在人间，或为帝王，或为宰辅。神仙入谒老君皆四拜焉。”自然言讫，遂即升天。

敬宗宝历二年正月，帝有事于南郊，朝献太清宫，御驾将至长安。县主簿郑翦，忽见老君衣白衣，容状异常，谓翦曰：“当此路有井，可速实之。不然，祸在不测。”翦惊惶顾，其地已微陷，遂并力实之，因失老君所在。驾至，具以上闻，百官称贺。诏兵部侍郎韦处厚为碑，起居郎柳公权书，立于实井之侧，乃编付史官。其年十二月十八日，柳公权书碑之际，忽有劲风飒然而起，旋飏不已。乃见混元著紫衣，金冠金履，立于白莲花之上，右手执五明扇，左手垂下，空中光明如金色。公权与镌碑人瞻睹良久，因以物画地记形像。及画毕，混元忽以扇指空中，流光四散，乃腾空而去。众皆侧身仰视，渐远渐小，没于云中。遂以事上闻，诏编事迹入碑之中，又敕于两京造“延唐观”。

文宗开成二年五月，中书舍人高元裕为闽州刺史，于州北八九里喜渡江上小山之前，忽见崖壁间光彩有异。近而观之，石上自然石文，成老君真像，眉发衣章，巾履服饰，无不周备。傍有一人，宽衣大袖，持炉荐香。后一人童子，双髻高束，谨若听命，皆非人力图绘镌刻所及。元裕每有祈祷，即紫气上浮，又有灵泉自涌。士民请福，无不立效。遂刻石建宇，用旌其瑞，乃画图呈进，乞编入史。诏从之。

武宗会昌元年，敕以二月十五日大圣祖降诞之日为“降圣节”，仍令两京及天下诸州府设斋行道作乐，赐大酺三日，军期急速，亦不在此限，永为常式。

懿宗咸通十年九月十日，徐州逆寇庞勋，领从党三千余人来亳州太清宫。其日宫北百姓三百余人，见老君自宫中乘空而南，须臾黑雾遍南川中。群贼迷路，自相杀戮，庞勋溺水而死，群凶自此殄灭。汴州节度使太清宫使李蔚具事上闻，诏曰：“吾国家系承混元，教导清静。苦县旧里，圣祖故乡，宫宇具严，庙貌斯设。昨者余妖奔突，纵火将欲焚烧，阴霾覆阍于晴空，狂寇颠迷于道路，散逸原野，遂至诛夷。缅惟玄功，申兹灵贶。”内出青词，又委李蔚虔申告谢，布示中外，仍付史官。十三年三月，台州刺史姚鹄奏：于天台山修老君殿，于其地穿获得石函册文以进，乞付史馆，颁示四方。诏从之。

广明二年三月，河中节度使王重荣奏，据晋州申：龙角山庆唐观老君殿侧柏树上，瑞葛枯死重生。先是武德中混元应现后，于二树间立殿宇，逾年之后，柏树上忽自生葛蔓，长十余丈，荣茂于常。其后齐王夺嫡，此蔓枯死。旬月之后，自其末青翠再生，齐王遂败。至中宗复位，安史叛逆，朱泚谋乱，皆忽枯落，久而复生。广明元年，黄巢犯阙，其



年秋葛蔓枯死，二年春枝叶重茂。又于傍树上别生一枝，旬日之中，长五十余尺，相对繁茂，有异于常。奏诏褒美，编付史官。其后祥异，皆有诏敕，盖美乎葛藟庆其孙谋，瓜瓞昭其远祚，混元流貺，奕叶无穷者也。皇帝驻蹕西蜀，中和二年八月九日进到，帝令宣示内外。三年三月十一日，亳州刺史潘稠差道士马含章、孙栖梧等奏，太清宫自乾宁四年，后累有逆寇侵犯真源，少或逾千，多或至万，皆窺伺是宫，欲为焚劫，或来攻城邑，或旁犯县城。老君皆密垂神化，忽起浓云，或驱以阴风，或击以雷霆，率皆颠沛，寻至败亡。灵貺益彰，神功罔测。寻诏升真源县为畿县，仍内出青词，修崇告谢，帝即稽首东拜。八月十二日，敕亳州太清宫是混元降圣之里，名高道祖，福荫皇基，九宫之瑞并涵空，一鹿之仙踪在树，累代之祚祥可纪，近年之感应尤彰，所宜严盛于福庭，安可荒凉于静宇？潘稠能施善政，久染真风，广出俸钱，备修宫观。垣墙栋桷，无不精新，像设丹青，弥加焕丽。观图考事，深可慰嘉。其住宫威仪道士吴重玄可赐紫，仍号“凝玄先生”。道士马含章、孙栖梧并赐紫，潘稠加金紫光禄大夫检校工部尚书，余并如故。其年八月二十九日夜，诏帝房宗室李特立与道士李无为，于成都府青羊肆元中观混元降生旧地，设醮祈真，忽见虹光如弹丸许，渐渐明大，出于殿基东南竹林中，跳踰入西南梅树下没。于没处穿地三尺已来，得宝砖一口，长一尺一寸五分，阔七寸四分，一寸厚一边三分，并有花文；一边厚一寸八分，重一十二斤，有古篆六字各方二寸，深三分。镌刻莹洁，迥非人工。文曰：“太上平中和灾。”九月一日，西川节度使侍中陈敬瑄奏曰：“皇帝陛下稽古顺天，膺图抚运，凝怀至道，属想大同，是用省方，以明罪己。深仁旁达于下土，至德升闻于上玄，符讖允臻，祯祥间出。降太上匡时之命，清中和寇孽之灾，乃示明文，爰形古篆。足表妖氛即殄，圣祚无疆，克知收复之期，便是清宁之日。”至十二日，帝令宣示百官。中书侍郎平章事韦昭度、户部侍郎平章事萧遘、门下侍郎平章事郑畋、御史中丞张洎、宗正卿嗣曹王龟年表贺曰：“伏以萑蒲啸聚，车驾省方，天灾流行，国家代有。陛下降成汤罪己之诏，征王者有征之师，顾彼凶妖，即当殄灭。清平既彰于嘉兆，幽赞爰睹其秘文。赤雀衔书，既岂同于太上；玄龟负卦，庆难比于平灾。况因宗室斋醮之辰，仍有祥光跳踰之瑞，其为感现，可谓丁宁。枢密使李顺融、十浑十二卫都指挥使田令孜表贺曰：“今者又有维城，来于仙观，至诚才发，嘉兆俄呈。现此时在地之赤光，是昔日度关之紫气，及穿积土，果获古文，验逸势于龙蛇，即知平于枭獍，于冲邃理，颇甚昭明。既太上令与平灾，知中和永昌厥祚。所现全因圣祖，掘得又自皇枝，捧此灵踪，可明天意。且混元圣祖，每逢多难，皆有殊祥，唯彼明征，备书正史。昔于丹凤门上，告田同秀于天宝复国之期，今又青羊肆中，示李特立以陛下还宫之庆，莫不天下幸甚，乞付史馆。”帝并俞之。十五日，李特立授太子校书，李无为赐紫，仍各赐缣帛三百匹。二十一日又诏曰：“太上玄元大帝与弟子文始先生讲真经于楼观之台，约后会于青羊之肆，便乘云驾，俱入流沙。仙记传闻，地图标载，自周昭至于此日，历数约二千余年，景像寂寥，基踪牢落。今因巡幸，灵貺昭彰，殊光跳跃于庭前，灵篆申明于树下。砖含古色，字验休祲，中和之灾害欲



平，厚地之祲符乃现，足表玄穹降祐，圣祖垂祥，将歼大盗之兵戈，永耀中兴之事业。须传简册，兼示寰区。已付史官，备令编录，仍模勒文字，告示诸道及军前。其观可改号为‘青羊宫’，仍置殿堂屋宇。侧近属观田地，约有两顷，近来散属黎氓，多植葱蒜，清虚之地，难使熏蒸。已赐钱二百贯，便令收赎，仍给公验，永归靖庐。宗子特立已除官，道士李无为已赐紫，所宜升奖，用荷庆灵。敬瑄位冠公台，风行郡国，效节于延洪之代，修心于道德之乡，遂令境内消兵，地中呈宝，其为休美，倍可嘉称。”至十月七日，敕高品郭遵泰监建青羊宫土木之工，并用内库宣赐。自获灵瑞之后，至是月癸丑，近蜀郡寇，相次擒戮，旬月之内，遂至清平。驾幸青羊宫，颁赐有差。李特立赐绯，授龙州录事参军。又下诏曰：“太上垂祥，青羊应现，礼宜崇饰，用答殊休。诸道州府紫极宫，宜委长吏如法修饰，仍选有科仪道士祭醮。”是月乙卯奏，收复京城，有以见大道垂休，圣祖昭祐，洪图延永，唐祚无疆者也。又敕翰林学士承旨尚书兵部侍郎、知制诰乐朋龟撰碑立之，伏乞颁示天下，以表皇家承神仙之苗裔，感太上之灵贶，实万代之无穷也。

臣今检会会从国初已来，所造宫观，约一千九百余所，度道士计一万五千余人。其亲王贵主及公卿士庶，或舍宅舍庄为观，并不在其数。则帝王之盛业，自古至于我朝，莫得而述也。中和四年十二月十五日，上都太清宫文章应制弘教大师赐紫道士臣杜光庭上讲。谨记。



独异志

〔唐〕李亢 撰

序

《独异志》者，记世事之独异也。自开辟以来迄于今世之经籍，耳目可见闻，神仙鬼怪，并所摭录。然有纪载所繁者，俱不量虚薄，构成三卷。愿传博达，所贵解颐耳。

卷 上

伊尹无父，生于空桑中，禹妻化为石，后剖腹而生启。老君耳长七尺，在母腹中八十一年，剖左胁而生，及生，鬓发皓白。徐偃王无骨而有圣德。刘邕好食人疮痂。文王四乳。皋陶鸟喙。尧眉八彩。汤臂四肘。禹耳三漏。离娄察见秋毫于十里之外。卫臣弘演开已腹纳懿公之肝。周穆贵为天子，车辙马迹遍于天下，凡游行一亿一万里。

海若居海岛，每至八月即有流槎过。如是，累年不失期。其人资粮乘槎而往，及至一处，见有人饮牛于河，又见织女，问其处，饮牛之父曰：“可归问蜀严君平，当知之。”其人归，诣君平。君平曰：“某年月日，有客星犯斗牛，计时，即汝也。”其人乃知随流槎至天津。

娥皇、女英从舜巡狩，行及湘川，闻舜崩于苍梧，泣下，泪洒湘川之竹，皆成斑文。公孙吕面长三尺，阔三寸，为卫国贤臣。

东汉赵伯翁尝昼寝，群孙戏其腹上，内七李于脐中。李至烂，流汁出，其家谓其将死。后李核出而无患。

刘曜字永明，须百茎，皆长五尺。

汉中山靖王胜，有男女一百人，其后子孙流衍于今，问之，皆刘裔。

后周独孤信三女为后，各生周、隋、唐一朝天子。长生周武帝，次生隋炀帝，次生唐高祖。



汉昌邑王贺即位二十七日，积恶凡一千四百二十七条，为霍光所废。

项羽每叱咤，万人手足皆废。

晋宣王司马懿，自顾见背。

隋有麦铁杖，一夕行一千百里。夕发洛阳往宋州为盗，及明却返。宋人因见其所盗之物者，执麦告之，为吏所劫，乃承愆。

淮南程干，本富人，三年间为水火焚荡俱尽。妻茅氏，连八年孕生十六子，相持行乞于市。

梁武帝贵为天子，三舍身为同泰寺奴。

唐郭子仪授中书令，考二十四考，月入俸钱二万贯，官供二千人，熟食、马料五百石。

郭太后贵极，绵联八朝帝王；代宗外孙，德宗外甥，顺宗新妇，宪宗皇后，穆宗之母，敬宗、文宗、武宗三宗祖母。

李广利拔佩刀刺山石，泉涌。

东汉孟业身重千斤，故帝疑其自重，乃以大秤悬栋间。业启曰：“陛下秤上秤臣，请秤之。虽肉重千斤，而智无一两。”

干宝母妒，当葬父时，潜推一婢于墓中。十余年后，母亡，与父合葬，开墓，婢伏于棺上，久而乃生。问之，如平昔之时，指使无异。

唐初，僧玄奘至西域取经，入维摩诘方丈室。及归，将书年月于壁，染翰欲书，约行数千百步，终不及墙。

唐柳子升妻郑氏，无疾而终，临卒时告子升曰：“不离君之身，后十八年更与君为亲。”已而，子升年近七十，再娶于崔氏。或多省前生之事，后产一男而卒。

前梁张轨时，抱罕令严根妾产，同夕产一女、一龙、一鸢。

贾弼之夜梦一人，面貌极醜丑，谓弼之曰：“思以易之，可乎？”梦中微有所诺。及觉，临镜大惊，一如梦中见者。左右家人见之，皆奔走。其所异者，两手各执一笔，书之于纸，俱有理例。徐说之，亲戚然后乃信。

魏建凌云阁既成，匠人误钉其额。文帝乃令车绳引上韦诞，题三字而下。顷刻之间，头须皓白。

晋赵末，年八岁，一夕异长，身長八尺，髭须满颌，三日而死。

唐惠卿，荆州庭中有橘树，其末有一实甚大，独异之。由是会宾客，摘而将食，乃剖之，有一赤蛇蟠于其中矣。

德宗朝，有戴竿三原妇人王大娘，首戴十八人而行。

韶阳有一人牧牛，一旦，牛舐其臂，而色皎白。此人乐之，即袒其体，令牛遍舐，皆白。其人数日间暴卒。其家恨，杀此牛，召村社同食之。凡食者数十人，一夕同卒。

羿烧仙药，药成。其妻嫦娥窃而食之，遂奔入月中。



《山海经》有大耳国，其人寝，常以一耳为席，一耳为衾。

贾耽为滑州节度，酸枣县有悍妇事姑不敬，姑年甚老，无双目，旦食，妇以食裹纳犬粪授姑。姑食之，觉有异气。其子出远还，姑问其子：“此何物？向者妇与吾食。”其子仰天大哭。有顷，雷电发，若有人截妇首，以犬续之。耽令牵行于境内，以告不孝者。时人谓之“狗头新妇。”

天后朝，工人安金藏保中宗不反，乃自持刀开腹明之，五脏坠地。后遣医工复内人腹，以桑皮细针缝合，经夕复生。玄宗即位，追封代国公。

有娥简狄氏，吞鸟卵而生后稷。

东汉陆续，岁饥，太守施贫者食，既毕，问之，凡赐六百人，言其姓名，无一参差。

吴王阖闾死，埋剑客三千，以为殉葬。

汉武钩弋夫人，姓赵氏。手本拳，帝纳后，以后伸之，遂展。

王献之常为写《祭晋元帝庙祝文》版，墨入木，深八分。

王戎视日，睛不眩。

廉颇食，尽米一斗，肉十斤。

陶侃，有相者视其手，策文上指，谓曰：“策文到指上为三公，贵不可说。”侃以针刺之，通指皆出血，洒墙为公字。

唐大历中，河南尹相里造刑洛阳尉苗登，有尾长二尺余。

《神异经》有李子昂，长七寸，日行千里；一旦被海鹄所吞，居鹄腹中，三年不死。

殷纣为糟丘酒池，广可以泛舟。

张少平妻田氏，少平卒后，累年寡居，忽梦一人自天而下，压其腹，因而怀孕。乃曰：“无夫而孕，人闻弃我也。”徙于代，依东方。五月朔旦，生一子。以其居代东方，名之东方朔。或言岁星精，多能，无不该博。

蜀先主刘备，自见其耳。

邹衍吹律，能变寒谷，生禾黍。

京房吹律易姓，本李氏，因吹律知名，乃改京耳。后弃市。

牛哀病三月，化而为虎，遂食其虎，复化为人。当其为虎时，不知其为人；及其为人，又不知其为虎。

申包胥哭于秦廷，七日七夜不食，乞兵救楚。秦感之，乃假兵救之。

后周有一人，姓陈氏，二十而娶妻，妻亦齐年。至四十，儿女又各生孙，孙复生子，子复生孙，相承百年内，其子孙盈数百人。老少悉为炀帝征辽所杀。

东汉灵帝时，有河内人妇食夫，河南人夫食妇。

灵帝时，洛阳女子生时两头四臂。

魏文帝尝著《典论》云，天下无切玉刀、火浣布。俄而外国进此二物，文帝遂毁《典论》。



古有女木兰者，代其父从征，身备戎装凡十三年，同伙之卒不知其是女儿。

蜀人杨行廉精巧，尝刻木为僧，于益州市引手乞钱。钱满五十于手，则自倾泻下瓶，口〔言“布施”字。〕

汉有黄安，不知何许人，常坐一龟，畏日光。龟每二千年一出头，安坐来见龟五出头矣。

符坚三年，凤凰集于东阁，坚欲赦国中，时无有知者。忽有一童儿，绀帕幕首言于市，曰：“官家有赦。”坚复验诘，言赦书日有一苍蝇立于笔端，久而飞去，化为童子，以告市人也。

禹治水，渡浙江，风涛甚，有二花蛇龙负舟而过。左右恐惧，惟禹安然无畏。

王濬伐吴，于蜀江造战舰，长二百四十步，上起走马楼。舟船之盛，自古莫比。

唐贞元中，有乞者解如海，其手自臂而堕，足自胫而脱，善击毬、搏蒲戏，又善剑舞、数丹丸，挟二妻，生子数人。至元和末犹在，长安戏场中日集数千人观之。

《煨煌实录》云：王樊卒，有盗开其冢，见王樊与人搏蒲，以酒赐盗者，盗者惶怖饮之，见有人牵铜马出冢者。夜有神至城门，自言是王樊使，今有人发冢，以酒墨其唇，但至，可以验而擒之。盗既入城，城门者乃缚诸之，如神言。

唐李祐为淮西将，元和十二年送款归国。裴公破吴元济，入其城，汉军有剥妇人衣至裸体者。祐有新妇姜氏，怀妊五月矣，为乱卒所劫，以刀划其腹，姜氏气绝踣地。祐归见之，腹开尺余，因脱衣褰裹之。妇一夕复苏，傅以神药而平。满十月而产一男。朝廷以祐归国功，授一子官。子曰行修，年三十余，为南海节度，罢归，卒于道。

韩晋公滉镇浙西，威令大行。时陈少游为淮南节度，理民有冤不得伸者，往诣晋公，必据而平之。浙右进钱，船渡江，为惊涛所溺。篙工募人漉出，二缗不得，众以钱填其数。滉自至津部视之，乃责江神，因指其钱曰：“此钱干，非水中得之者。”问吏，吏具实对。复投词诟责，俄然二缗浮出波上，遂以取之。

玄宗打羯鼓。天宝初，春景甚煦，而卉物未拆，乃命鼓座于殿阶，击之，满树花发。帝谓左右曰：“一曲未终，而花烂然。得不以我为圣耶！”

刘伶好酒，常袒露不挂丝，人见而责之。伶曰：“我以天地为栋宇，屋室为裋袴，君等无事，何得入我裋袴中？”其人笑而退。

唐开元五年春，司天密奏云：“玄象有谪见，其灾甚重。”玄宗大惊，问曰：“何祥？”对曰：“当有名士三十八人同日冤死，今新进及第进士正应其数。”内一人李蒙者，贵主家婿，上不得已，言其事，密戒主曰：“每有大游宴，汝爱婿可闭留其家。”主居昭国里。时大合乐，音曲远畅，曲江涨水，联舟数十艘，进士毕集。蒙闻之，乃逾垣走赴，群众慨望。方登舟，移就池中，暴风忽起，画舸平沈，声伎、持篙楫者不知纪极，三十八人无一生者。

唐刘闢初登第，诣卜者葫芦生筮得一卦，以定官禄。葫芦生双誓，卦成，谓闢曰：



“自此二十年，禄在西南，不得善终。”闾留束素与之。其后脱褐，从韦令公于西川，官至御史大夫，为行军司马。既二十年，韦病薨，使闾入奏，请益东川。诏未允，闾乃微服单骑，复诣葫芦生。筮之，揲蓍成卦，谓闾曰：“吾二十年前常与一人曾卜得‘无妄之随’，今复得此卦，非曩昔贤乎？”闾即依阿唯诺。葫芦生曰：“若审其人，祸将至矣。”闾不甚信，乃归蜀，果叛。宪宗皇帝擒之，戮于藁街。

唐贺知章，会稽永真人。进士擢第，太常少卿，秘书监，为太子诸王侍读。性落托放纵，逸思过人。年八十余，因醉赋诗，问左右曰：“纸多少？”对曰：“有十幅。”乃书告老，乞归乡里。皇帝及皇太子、诸王皆赋送行诗，赐越中剡曲以给之。

孔子行过少陵原，闻妇人哭甚哀，使子贡问焉：“何哭之悲也？”妇人曰：“向者刈薪而遗簪。”孔子复问曰：“刈薪遗簪乃常也，而哭悲者何也？”答曰：“非惜一簪。所以悲，不忘故也。”

唐天后朝，处士孙思邈居于嵩山修道。时大旱，有敕选洛阳德行僧徒数千百人于天宫寺讲《仁王经》，以祈雨泽。有二人在众中，须眉皓白。讲僧昙林遣人谓二老人曰：“罢后可过一院。”既至，问其所来，二老人曰：“某伊洛二水龙也，闻至言当得改化。”林曰：“讲经祈雨，二圣知之乎？”答曰：“安得不知？然雨者，须天符乃能致之，居常何敢自施也？”林曰：“为之奈何？”二老曰：“有修道人以章疏闻天，因而滂沱，某可力为之。”林乃入启。则天使嵩阳召思邈。内殿飞章，其夕天雨大降。思邈亦不自明，退诣讲席，语林曰：“吾修心五十年，不为天知，何也？”因请问二老。二老答曰：“非利济生人，岂得升仙？”于是思邈归蜀青城山，撰《千金方》三十卷，既成，而白日冲天。

晋尚书令卞壺死苏峻之难，葬在上元县。后盗发其墓，见壺鬓发苍白，面色如生，两手皆拳，甲穿于手背，安帝赐钱十万，令改葬焉。

犂麋《要注》云：晋武帝时，有彭权为侍中。帝问“髦头”义，权答曰：“秦时有奇怪，触山截水，无不崩溃，惟畏髦头。”帝乃令虎贲之士戴之，以卫左右。

河东裴章者，其父冑，曾镇荆州。门僧县照，道行甚高，能知休咎。章幼时为县照所重，言其官班位望过于其父。章弱冠，父为娶李氏女。乃三十年余，章从职太原，弃其妻于洛中，过门不入，别有所挈。李氏自感其薄命，常褐衣髻髻，读佛书，蔬食。又十年，严经自荆州移镇太原，县照随之。章因见县照叙旧。照惊噫久之，谓之曰：“贫道五十年前常谓郎君必贵，今削尽，何也？”章自以薄妻之事启之。照曰：“夫人生魂诉上帝，以罪处君。”后旬日，为其下以刀划腹于浴斛，五脏堕地遂死。

唐贞观中，张宝藏为金吾长史，尝因下直归栢阳，路逢少年牧猎，割鲜野食。倚树长叹曰：“张宝藏身年七十，未尝得一食酒肉如此者，可悲哉！”傍有一僧，指曰：“六十日内，官登三品，何足叹也。”言讫不见。宝藏异之，即时还京。太宗苦病痢疾，众医不效，即下诏问殿廷左右，有能治此疾者，当重赏之。宝藏曾因此疾，即具疏以“乳煎茱萸方”进。上服之，立差。宣下宰臣，与五品官。魏征难之，逾月不进拟。上疾复作，问左右



曰：“吾前服乳煎草茛有效。”复令进之，一啜又平复。上问曰：“尝令与进方人五品官，不见除授，何也？”征惧曰：“奉诏之际，未知文武二吏。”上怒曰：“治得宰相，不妨授三品。我天子也，岂不及汝邪？”乃厉声曰：“与三品文官。”立授鸿胪卿，时正六十日矣。

陶弘景隐居苕山，梁武帝每有大事，飞诏与之参决。时人谓隐居为“山中宰相”。

梁张僧繇善画，为吴兴太守。武帝每思诸王在外藩者，即令僧繇乘传往写其貌，如对其面。尝于江陵天皇后寺画佛并仲尼及十哲，帝曰：“释门之内画此，何也？”对曰：“异日赖之。”至后周焚灭佛教，以此殿有儒圣，独不焚之。又于金陵安乐寺画四龙，不点睛。人问之，答曰：“点则飞去。”众人以为虚诞，固请点之。顷刻雷霆，二龙乘云腾上，其二不点者犹在。画之通神若此。

晋何曾，家法修整，年五十以上，每见妻，必正衣冠，自坐面南，妻坐面北。上酒酬酢，一岁不至再三。年八十而终焉。

唐贞元初，河南少尹李则卒，未殓。有一朱衣人投刺申吊，自称苏郎中。既入，哀恸尤甚。俄顷，亡者遂起，与之相搏，家人子弟惊走出堂。二人闭门殴击，抵暮方息。孝子乃敢入，见二尸并卧一床，长短、形状、姿貌、髻髻、衣服一无差异。于是聚族不能定识，遂同棺葬之。

汉武帝皇后，本其姑公主骊女也，色衰，弃后宫，乃以黄金五百斤赠司马相如，令作赋。赋成，帝见之，再得宠幸。

侯景常有一瘤，如小龟。每战胜，龟则起。及其败死之日，瘤大一寸。

东汉耿秉镇抚西边，单于匈奴多怀其恩，闻秉卒，有髡面流血哀痛者，举国发丧。

唐元和初，有天水赵云，客游郾城，过中部县。县寮有宴，吏擒一囚至，其罪不甚重，官寮愿纵之。云醉，因劝加于刑责，于是杖之二十。累月，云出塞，行及芦子关，道逢一人，邀之言款。日暮，延云下道过其居，去路数里。于是命酒偶酌，既而问之曰：“君省相识否？”云曰：“未尝。此行实昧平昔。”乃曰：“前月中部值君，遭罹横罪。与君素无仇隙，为君所劝，因被重刑。”云遽起，谢之。其人曰：“吾望子久矣，岂虞于此获雪小耻。”乃命左右拽入一室，室有大坑，深三丈余，中唯贮酒糟数十斛。剥去其衣，推云于中。饥食其糟，渴饮其汁，旦夕昏眠。几一月，乃传出之，使人蹙颈鼻额，揉挾肢体、手指、肩髀，皆改于旧，提出风中，倏然凝定，至于声韵亦改，以为贱隶。弟为御史出按灵州狱。云以前事密疏示之。其弟告于观察使李钁。由是发卒讨寻，尽得奸人，而覆灭其党。临刑亦无隐匿，云前后变改人者数代矣。

郑覃历官三十任，未尝出都门，便登相位，以至于终。

唐萧瑀尝因内宴，上曰：“自知一座最贵者，先把酒。”时长孙无忌、房玄龄等相顾未言，瑀引手取杯。帝问曰：“卿有何说？”瑀曰：“臣是梁朝天子儿、隋朝皇后弟、尚书左仆射、天子亲家翁。”太宗抚掌，极欢而罢。

唐贞观初，丹阳令王琼三年调集，遭黜。琼甚愤惋，乃资百千，诣茆山道士叶灵中，



求章奏以问吉凶。灵中年九十，强为奏之，其章随香烟飞去，缥缈不见。食顷后坠地，有朱书批其末，云：“受金百两，折禄三年；枉杀二人，死后处断。”一岁，琮无疾暴卒。

唐初有僧玄奘往西域取经，一去十七年。始去之日，于齐州灵岩寺院，有松一本立于庭，奘以手摩其枝曰：“吾西去求佛教，汝可西长。若归，即此枝东向，使吾门人弟子知之。”及去，年年西指，约长数丈。一年忽东向指，门人弟子曰：“教主归矣。”乃西迎之。奘果还归，得佛经六百部。至今众谓之“摩顶松。”

东晋大将军赵固所乘马暴卒，将军悲惋。客至，吏不敢通。郭璞造门语曰：“余能活此马。”将军遽召见。璞令三十人悉持长竿，东行三十里，遇丘陵社林，即散击，俄顷擒一兽如猿。持归至马前，兽以鼻吸马，马起跃如。今以猕猴置马厩，此其义也。

《说苑》曰：汤时大旱七年，煎沙烂石。于是使人以三足鼎祝山川，教之祝曰：“政不节耶？使民疾耶？苞苴行耶？谗夫昌耶？宫室崇耶？女谒盛耶？何不雨之极也？”言未既，天大雨。

汉霍光立宣帝，帝谒太庙为初献。帝行而光在后，帝恐惧，如负荆棘。

后汉贾琮为冀州刺史，传车垂赤帷裳，琮升车褰帷曰：“刺史当远视广听，纠察善恶，何垂帷裳以自掩塞乎？”百姓闻之，振悚耳目。

吴隐之为广州刺史。旧有贪泉，人饮之则贪黷。隐之酌而饮之，兼赋诗曰：“古人云此水，一饮怀千金。试使夷齐饮，终当不易心。”又居母丧，过礼，家贫，无以候育分，常有双鹤至夜半惊唳，隐之起哭，不失其时。

伍员吹箫行乞，食于市。

庖丁善解牛，投刃皆虚。丁曰：“臣始解牛之时，所见无非全牛。三年之后，未尝见全牛也。及今十九年而刃无肯綮，若初发硎，游刃必有余地也。”

郢人以垩漫其鼻，薄如蝇翼，使匠石斫之。匠石运斤成风，尽去其垩而不伤鼻。

唐高宗尝苦头风而目闭心乱，乃召医工。工曰：“当于眉间刺血，即差。”天后怒曰：“天子头是汝出血处？”命扑之。帝曰：“若因血获差，幸也。”遂针之，血出，溅黼衣，眼遂明而悉复平。天后自抱绘帛以赠医工。

阮籍放旷，有兵家女极有容色，未嫁而死。籍不识其父兄，遂往哭之，尽哀而返。

唐太宗皇帝虬须，可以挂弓。

唐韩干善画马，闲居之际，忽有一人，玄冠朱衣而至。干问曰：“何缘及此？”对曰：“我鬼使也。闻君善画良马，愿赐一匹。”干立画焚之。数日因出，有人揖而谢曰：“蒙君惠骏足，免为山水跋涉之苦，亦有以酬效。”明日，有人送素缣百匹，不知其来，干收而用之。

谢灵运临刑，剪其须施广州佛寺。须长三尺，今存焉。

《博物志》曰：太公为灌坛令，文王梦一人哭于当道，问其故，乃曰：“吾泰山神女，嫁为西海妇。吾行必以暴风雨，灌坛当吾道，不敢以疾风暴雨也。”梦觉，召太公。三日，



果疾风暴雨过境。

晋桓豁镇荆州，有一参军，五月五日采鹑鸽卵，剪其舌，令学人语，经年遂能言。后因大会，豁出之，令遍学座客话。有一人患鼻，鹑乃遽飞入瓮中，语与患者无异。举席皆笑。

玄宗朝宰相卢怀慎无疾暴终，夫人崔氏止儿女，不令号哭，曰：“公命未终，我得知之。”语曰：“公清俭而廉洁，蹇进而谦退，四方赂遗毫发不留。与张燕公同时为相，张纳货山积，其人尚在，奢俭之报岂虚也哉？”及宵分，公复生，左右以夫人之言启陈，公曰：“理固不同，冥司有三十炉，日夕鼓囊，为说铸横财，我无一焉，恶可匹哉？”言讫复绝。

唐裴晋公度寝疾永乐里，暮春之月，忽遇游南园，令家仆僮舁至药栏，语曰：“我不见此花而死，可悲也。”怵然而返。明早，报牡丹一丛先发，公视之，三日乃薨。

晋孟嘉，少知名。庾亮大会州府人士，嘉坐甚远。亮问江州刺史曰：“闻有孟嘉，其人何在？”守曰：“在坐，君自认之。”俄然，指曰：“彼君少异于众，非嘉乎？”曰：“然。”亮大笑，喜得嘉。

王敦为驸马，如厕，左右侍者甚众，敦乃脱衣裸体而登厕，无羞愧色。有一侍女曰：“此人必能作贼。”其后果为乱也。

宋武帝未杀殷仲文之时，仲文每照镜，常不见其首，后数日，果为武帝所杀。

汉宣帝时，有人于疏属山石盖下得二人，俱被桎梏，将至长安，乃变为石。宣帝集群臣问之，无一知者，刘向对曰：“此是黄帝时窫窬国负贰之臣，犯罪大逆，黄帝不忍诛，流之疏属山，若有明君，当得出外。”帝不信，谓其妖言，收向系狱。其子歆自出，应募以救其父，曰：“须七岁女子以乳之，即复变。”帝使女子乳，于是复为人，便能言语，应对如刘向之言。帝大悦，拜向大中大夫，歆为宗正卿。诏曰：“何以知之？”歆曰：“出《山海经》。”

汉东方朔，岁星精也。自入仕汉武帝，天上岁星不见。至其死后，星乃出。

东汉王霸，善抚士卒，每有人死者，脱衣殓之。

刘琨，字越石。尝为胡骑所围，救兵不至，城中窘迫无计。琨乃登楼清啸，贼闻之凄然。日中，又奏胡笳。贼皆流涕怀土。至晚复吹之，贼舍围而去。

宋景公时，荧惑守心，子韦吊曰：“祸当君，可移于相。”公曰：“相，所理国家，不可也。”可移于百姓。”公曰：“百姓，国之本，不可也。”“可移于岁。”公曰：“岁，民之本，不可也。”子韦曰：“君有至德之言三，天必赏君。”于是荧惑退三舍。

唐贞元中，李师古暇日常宴其从事，适有日者预坐，师古遣遍视幕客皇甫朔、贾直言之徒，凡十辈。答曰：“十日之内，俱有重祸。”又指一从事王生者，曰：“此先忌马厄。”时有从事姓魏者，师古之妻党，移第凿池，积土其傍，上构高亭，极为弘敞，既成，即迎入舍，乐之，饮酣，亭忽摧塌，以其下土弱，不胜其任。坐客皆折手足，不至于死。王生因为角马木长钉横贯其脑，立死。



楚昭王与吴战，败走四十步，忽遗其履，取之。左右曰：“楚国虽贫，而无一履哉？”王曰：“吾悲与其俱出而不得与其俱返。”于是国无相弃者。

隋杨素家富侈之极，家僮数千人，后庭曳罗绮之女亦数千。都会之处，邸店碾硙，不知纪极。性贪营利，心无厌足时，议鄙之。

李善，本李元家苍头也。建武中，元家遭疾疫，子孙尽死，唯一子续生数旬。群奴欲杀之，分其财。善窃之，将入瑕丘山中。至七岁，出理于官。钟离意为令，杀群奴，表善之忠孝。善后拜郡守。

魏太祖军中粮乏，令主仓吏用小斗。后军众有言，太祖归罪主吏，谓曰：“借汝死，令压众谤。”词遂息焉。

秦惠王伐蜀，乃刻五石牛，置金于后。曰：“此天牛，能粪金，以遗王。”王以为然，即发五丁力士拖成道，秦使张仪随其后开蜀。

汉于公门坏，大治之，教曰：“稍高其门，可容车马。我治狱多阴德，后世必昌。”子定国果为丞相。

殷仲堪节俭，为荆州刺史。每食，竹落席，自拾食之。

伊尹耻其君不及尧舜，若挹之于市。

禹伤其父功不成，乃南逃衡山，斩马以祭之，仰天而啸。忽梦神人，自称玄夷苍水使者，谓禹曰：“欲得我书者，斋焉。”禹遂斋三日。乃降金简玉字之书，得治水之要。

孙坚，字文台。战而堕马，军吏失之。所爱骏马，入营踏地悲鸣，人异之，逐马往，得坚于草中。

王粲尝谒蔡邕，倒屣迎之，满座皆惊，曰：“王孙久有异才，吾家书籍悉以赠之。”

越王勾践为吴所败于会稽，将以勉励于众。尝施一器，悬胆于门，出入尝之，令士卒不忘其苦。

隋贺若弼父敦，临死之日，令弼吐其舌，以锥刺之，流血及地，戒曰：“吾以舌败，汝可戒言。”及死，弼亦以言议伤炀帝，为炀帝所杀。

宋刘裕贫贱时，尝盖布被，用牛尾作蝇拂子。及登极，亦不弃之，敕其女彭城公主谨收藏，以遗子孙。

梁武帝酷好佛法，然性多含恕，敕天下贡献绫罗锦绮，不令织鸟兽之形，恐裁剪之时，有伤生物之意也。

薛大鼎为沧州刺史，引海水，利鱼盐，邑人歌之。时瀛州刺史贾敦顺、冀州刺史郑德本俱有美政，河北称为“铛脚刺史”。

楚王铸作三剑，晋、郑求之不得，兵围楚，三年不解。楚王登城，引太阿麾之，晋军血流，郑卒奔走。

晋谢玄，字幼度，有才业，甚为从父安所重。少好佩紫罗香囊，安鄙之，而不欲伤其意，因戏赌得焚之。



汉武帝自回中郡，绕一山曲，见一物盘地，状若牛，推之不去，击之不散。问左右，无能知者。东方朔进曰：“请以酒一斛浇之。”帝命酒浇之，立散。复问朔。曰：“此必秦之故狱，积其怨气所致，酒能消愁耳。”帝抚朔曰：“人之多知，有如此者。”

宋明帝借张南苑三百年，敕云：“期毕便申。”

汉光武爱惜士卒，每欲发一兵，头须悉白。

东方朔伏日对武帝拔剑割肉，帝令自责。曰：“拔剑割肉，一何勇也；割之不多，一何廉也；归遗细君，一何仁也。”帝曰：“令卿自责，反自誉也。”蒙赐酒一斛、肉一百斤，令遗细君。

秦穆公亡善马，岐山野人共得而食之。吏欲法之，公曰：“君子不以畜害人。吾闻食马肉不饮酒，伤人。”皆赐酒沃之。后与晋战，而三百人争死以报恩。

卫玠为性通恕，常自戒曰：“人之不逮，可以情恕；非意相干，可以理遣。”故终身无怨怒。

汉阴丈人抱瓮入井，负水灌园。有人教其为桔槔，用力寡而利用多。丈人曰：“吾宁自倦败，不可以机为用，有伤真性。”

秦始皇欲观日，乃造石桥海岸，驱使鬼运。始皇曰：“欲见君形，可乎？”海神遂出，谓始皇左右曰：“我形甚丑，勿画我形。”其下有巧者，暗以脚画地图之。神怒，海岸遂崩。始皇脱走，仅免死，左右皆陷没焉。

历阳县有一媼，常为善。忽有少年过门求食。待之甚恭，临去，谓媼曰：“时往县，见门闾有血，即可登山避难。”自是，媼日往之门。吏问其状，媼答以少年所教。吏即戏以鸡血涂门闾。明日，媼见有血，乃携鸡笼走山上。其夕，县陷为湖，今和州历阳湖是也。

傅奕常不信佛法。高祖时有西国胡僧，能口吐火以威胁众。奕对高祖曰：“此胡法不足信，若火能烧臣，即为圣者。”高祖试之，立胡僧于殿西，奕于殿东，乃令胡僧作法。于是跳跃禁咒，火出僧口，直触奕，奕端笏曰：“乾，元亨利贞。邪不干正。”由是火返焰，烧僧立死。

晋孝武欲为晋陵公主求婚，问王珣曰：“得及刘真长、王子敬便足。”珣曰：“谢琨不及刘真长，不减王子敬。”帝然之。未几，帝崩。后司空袁粲欲以女妻谢琨，珣曰：“卿勿近禁脔。”元帝初渡江，国内常乏，朝士每烹猪，以项肉一斤尤脆美，进充御食。时人以此为“禁脔”。

唐大历中，万年尉侯彝者，好侠尚义，常匿国贼。御史推鞠，理穷，终不言贼所往。御史曰：“贼在汝右膝盖下。”彝遂揭阶砖，自击其膝盖，翻示御史曰：“贼安在？”即以镞贮烈火，置其腹上，烟火蓬勃，左右皆不忍视。彝叫曰：“何不加炭？”御史奇之，奏闻代宗。即召对：“何为隐贼？自贻其苦若是。”彝答曰：“贼，实臣藏之，已然诺其人，终死不可得。”遂以贼故，贬为瑞州高安尉。



周穆王南征，一军尽化为猿鹤，君子为鹤，小人为猿。

陈胜以丹帛书“陈胜王”字，置鱼腹中，令卖。有市得者，烹食之，见而怪之，遂立胜为王。

刘备尝乘爱马号“的卢”。居樊城，刘表欲因会杀之，备走，陷檀溪，乃语的卢曰：“今日之意，得不努力乎？”马一跃三丈，遂脱难。

任公子为钓，用十五犗，蹲于会稽，期年无所得。一日获大鱼，自荆江东皆厌腥臊。

齐田子方出，见老马于道，喟然有志焉，以问御者：“何马也？”对曰：“以公家畜罢而不用，故出放之。”子方曰：“少尽其力，老弃其身，仁者不为。”遂束物以贖之。穷士闻之，知所归矣。

吴起〔吮座疽〕，卒母哭曰：“往年吴起吮其父疽，父不旋踵而死。今吮其子，妾不知〔其〕死所也。”

塞翁失马，乡人皆唁，翁曰：“未必不为福。”明年，引群马至。人复贺，翁曰：“未必不为祸。”子孙、家僮出入多爱乘马，坠折四肢。乡人复唁，翁曰：“未必不为福。”又明年，西胡入国，国中但能披甲者，皆征行之。子孙、家僮以残毁免。

卷 中

吴公子光觴王僚，令专诸侍。置剑于蒸鱼腹中，因进鱼，抽剑刺杀王僚。

晋羊祜，字叔子，为荆州守，有恩及闾里。及死，阖境并不言祜字，其有同音，亦改讳之。襄阳百姓于岘山立堕泪碑。

王允欲杀蔡邕，马日磈曰：“邕逸才多艺，详汉传事，何可害之？”允曰：“汉武不杀司马迁，使作谤书流于后。今岂可使佞臣执笔，我辈等蒙其讪议耶？”遂杀之。

魏陈寿撰《三国志》，丁廙、丁仪俱有盛名于魏，寿谓其子曰：“与我千斛米，当为尊公立佳传。”其子不与之。遂不作传。

晋王蒙、刘恢并为中书侍郎，及宋，辅政，俱加侍中。时人故号为“入室之宾”也。

汉赵尧为周昌侍御史，人谓之曰：“赵尧乃奇士也，必代君为大夫。”昌曰：“尧，刀笔吏。何至此也？”后昌为赵王相，高帝持大夫印，视尧曰：“无以易尧。”乃授尧。

帝问王夷甫曰：“寿阳以东常涝，寿阳以西常旱，何也？”更甫曰：“寿阳以东，吴人，亡国哀音，鼎足强邦，一朝失职，叹愤为阴，阴积成水，故常涝；寿阳以西，中国，新平强吴，美宝尽人，志盈心满，常欢娱，故旱。”

因畅为河南尹，时久旱，祷祠无应，乃收葬傍城客死骸骨百余具。遽降大雨，年谷丰稔。

后魏曹彰，性倜傥。偶逢骏马，爱之，其主所惜也。彰曰：“余有美妾可换，唯君所选。”马主因指一妓，彰遂换之。马号曰“白鹤”。后因猎，献于文帝。



《武陵记》曰：后汉马融勤学，梦见一林，花如锦绣，梦中摘此花食之。及寤，见天下文词，无所不知。时人号为“绣囊”。

崔豹《古今注》：齐王后怨死，尸化为蝉，遂登庭树，嘈啾而鸣。后王悔恨，闻蝉即悲叹。

陈宣帝时，扬州人严秦江行逢渔舟，问之，云：“有龟五十头。”秦用钱五百贖放之。行数十步，渔舟乃覆。其夕，有乌衣五十人扣秦门，谓其父母曰：“贤郎附钱五百，可领之。”缙皆濡湿。父母虽受钱，不知其由。秦归，问焉，乃贖龟之异。因以其居为寺。里人号“法严寺”。

晋王导子悦，年二十，有名，为中书郎。导尝梦人以百万买悦，于梦中领之。导寤，不乐，亟为祈祷。未几，修墙，掘得钱百万，导意恶之，一皆不用。及悦病，导复梦一被甲持刀，自称蒋山侯，索食。食毕，作色谓导曰：“公儿已卖与他。”言讫，觉。翌日，悦卒。

汉景帝好游猎，见虎不能得之，乃为珍饌祭所见之虎。帝乃梦虎曰：“汝祭我，欲得我牙皮耶？我自杀，从汝取之。”明日，帝之山，果见此虎死在祭所，乃命剥取皮牙。余肉悉化为虎而去。

后汉马略，年十七，闭室读书。九年不出，三日一食，续命而已。乡里谓之“潜龙”。三十，谒桓帝，曰：“我，贤人也。”遂拜关内侯光州刺史。略弃官入海，恶虫猛兽悉避路。

《吕氏春秋》曰：齐有二烈士别于路，相与沽酒共饮。其人欲市肉，一人曰：“子亦肉也，我亦肉也，无须往市。”因以刀各割身肉递相食啖。须臾，酒与肉皆尽而俱死。

梁武帝太清三年，侯景反，围台城，远近不通。简文与太子大器为计，缚鸢飞空，告急于外。侯景谋臣谓景曰：“此必厌胜术，不然即事达人。”令左右射之。及墮，皆化为禽鸟飞去，不知所在。

《京房列传》曰：房临刑之时，谓人曰：“吾死之后，客星入天井。”举朝皆哀之。

王充《论衡》云：汉李子长为政，欲知囚情，以桐木刻为囚象，凿地为坎，致木人拷讯之，若正罪则木人不动，如冤枉则木人摇其头。精感立政，动神如此。

王子年《拾遗记》曰：燕昭王时，波弋国人贡荼芜之香，若焚，著衣而弥月不绝，过地则土石皆香，经朽木与腐草则皆荣秀，用薰枯骨则肌肉再生。

后汉明帝杨后，花面美色，有颠狂病，发则杀人。唯内傅孟召为文哀怨，后每读之，颠狂辄醒。时人语曰：“孟召文，差颠狂。”

《玉箱记》曰：前汉刘子光西征过山而渴，无水，子光在山间见一石人，问之曰：“何处有水？”石人不答，乃拔剑斩石人。须臾，穷山水出。

齐王奂二子融、琛，同是殷夫人四月二日孿生，又以四月二日同刑于都市。

梁武太清元年，岳阳郡民王保幸种田六顷，悉生嘉禾。



周厉王时，北斗与三台并流，不知其所。厉王没后，两主星复见。

《搜神记》：吴时，葛祚为衡阳太守，先有大查当江损行舟，若祠祭者，查浮可见；不祭者，辄沈，暗覆行舟。祚造大斧数十，明旦往伐之。其夕，汹汹然，波浪振惊，查浮，遂移去，不为江中之患。郡人立碑，以诵祚之德也。

干宝《搜神记》曰：“零陵太守史满有女，悦书吏，乃密使侍婢取吏食余残水，饮之，遂有孕。十月而生一子，及岁，太守使抱出门，儿匍匐入吏怀，吏推之仆地，化为水。具省前事，太守以女妻吏。

司马懿拜司空日，夜有人扣门请见，自称白虎使者，皆衣白衣，怀中探一物，内懿手中，戒曰：“两世慎勿开，墓中绝。”言讫不见。懿曰：“此或数也。”遂开视之，乃金龙子，长三四寸，背上有铭云：“父子从我受重火。”至武帝受禅，世墓中绝，元帝渡江，都建邺。

《三峡录》云：宋顺帝升明二年，峡人微生亮于溪中钓得一白鱼，长三尺，投置船中，以草覆之。及归，取烹之，见一美女道下，洁白端丽，年可十六七。自称高唐之女，偶化鱼游，为君所得。亮曰：“既为人，能为妻否？”女曰：“冥契使然，何为不得？”其后三年为亮妻。女曰：“数以足矣，请归高唐。”亮曰：“何时复来？”答曰：“情不可忘，有思即复至。”其后一岁三四往，不知所终。

成元亨事统云：车胤好学，常聚萤光读书。时值风雨，胤叹曰：“天不遣我成其志业耶！”言讫，有大萤傍书窗，比常萤数倍，读书讫即去。如风雨，即至。

汉黄霸为封溪令，部人陈康携酒并猩猩以献。霸问：“是何物？”人未及应，囊中语曰：“斗酒并仆耳。”霸以其物有灵，开囊放之，猩猩悲啼而去。

梁徐勉为三公，武帝委以国事，每月三两归其家，家畜犬见，吠之。勉叹曰：“吾忧国忘家，以致如是！”

《越绝书》曰：“越王勾践既为吴辱，尝尽礼接士，思以平吴。一日出游，蛙怒，勾践揖之。左右曰：“王揖怒蛙，何也？”答曰：“蛙如是怒，可不揖？”于是勇士闻之，皆归越而助平吴。

《搜神记》曰：冯稜妻死，稜哭之恸，乃叹曰：“奈何不生一子而死！”俄而，妻复苏。后孕十月，产讫而死。

始皇二十八年登封泰山，至半，忽大风雨雷电，路傍有五松树，荫翳数亩，乃封为五大夫。忽闻松上有人言曰：“无道德，无仁礼，而天下妄命。帝何以封？”左右咸闻，始皇不乐，乃归，崩于沙丘。

汉高祖每战，新当矢石，前后被七十二箭，或言灭七十二黑子。

柳积，字德封。勤苦为学，夜燃木叶以代灯火。中夕，闻窗外有呼者，积出见之，有五六丈夫各负一囊，倾于屋下，如榆荚。语曰：“与君为书粮，勿忧业不成。”明旦起视，皆汉古钱，计得一百七十千，乃终其业。宋明帝时，官至东宫舍人。



后汉刘圣公初得玺绶之夕，有流星下降，如绳绕圣公。明日为刘盆子将谢禄缢杀之，亦绕星之象。

曹操无道，置发丘中郎、谋金校尉数十员。天下人冢墓，无问新旧，发掘时，骸骨横暴草野，人皆悲伤。其凶酷残忍如此。

成应元事统云：刘牧，字子仁，尝居南山野中，喜山鸟之啼，爱风松之韵，植果种蔬。野人侮之，多伐树践圃。牧曰：“我不负人，人何负我？”俄有二虎，近其居，为见牧则摇尾，牧曰：“汝来护我也？”虎辄俛首。历数年，牧卒，虎乃去。

蚩尤是古之帝者，兄弟八十一人。皆铜头铁额，食沙啖石，然卒为黄帝所灭也。

《搜神记》曰：宋康王以韩朋妻美而夺之，使朋筑青陵台，然后杀之。其妻请临丧，遂投身而死。王令分埋台左右。期年，各生一梓树，及大，树枝条相交。有二鸟哀鸣其上。因号之曰“相思树”。

黄帝斩蚩尤，冢在高平寿长县，高七丈。时人常十月祠之，有赤气如匹绛，时人谓之“蚩尤旗”。

《西京杂记》：弘成子少时，好学，尝有人过门授一文石，大如燕卵。吞之遂明悟，而更聪敏，为天下通儒。又五鹿充宗受学成子，成子一日病，乃吐此石。充宗受而吞之，又为名儒。

晋陶侃微时，丁父艰，将葬，忽失牛，不知所在。遇一老父，谓曰：“前有一牛眠圩中，其地若葬，位极人臣。”又指一山云：“亦其次，当世出二千石。”言讫不见。侃寻牛得之，因改葬地。

汉太尉杨震以忠贞见黜，及还洛，叹曰：“吾居上司，疾奸臣樊丰之狡不能诛，知帑藏空虚而不能富。”因饮鸩而卒。门人冤之，天子嘉之。改葬日，有大鸟翼一丈三尺，集于柩前，低头垂泪。葬毕，乃飞去。时人以为忠贞所感。

《会稽记》：上虞兰室山，葛玄所隐之处，有隐几化为鹿。鹿鸣，即县令有罪。

司马郊，字子都，隐居华山向五十年，禽兽日游目前，有如家驯。每灌园，不食菜心，以其伤生意。及四时山果熟，果大，大鸟衔，果小，小鸟衔，俱送郊斋中，不知纪极。叹曰：“禽鸟送我果甚多，但可日料三十颗。”异日如戒。比三十年，及郊卒，百禽聚于庭，悲鸣累日而去。

魏陈思王曹植与文帝不叶。文帝即位，尝欲害之，又以思王太后之爱，不敢肆心。因召植游华林园，饮酒酣醉之，密遣左右缢杀。使者以弓弦三缢不死，而弦皆顿绝，植即惊觉。左右走白帝，帝自是后不敢害植。

《华阳国志》：夜郎者，有一女子浣服水滨，忽见三节大竹筒至女前，闻竹中儿啼，剖而视之，得一男。收养及长，甚有武才，自立为夜郎侯，以竹为姓。

淄川有女曰颜文姜，事姑孝谨，樵薪之外，复汲山泉以供姑饮。一旦，缙笼之下，忽涌一泉，清冷可爱。时人谓之“颜娘泉”，至今利物。



汉杨仆为楼船将军，自以功高，耻为关外人，请以家财移关于新安，有诏从之。

《列子》曰：“韩娥过齐雍门，鬻歌假食，既毕，而余响绕梁三日不绝。娥因曼声哀哭，一里老幼悲愁垂涕相对，三日不食。复作长歌，于是雍门之人欣跃抃舞不止，乃厚赂遣之。

项籍开始皇墓，探取珠宝，其余不尽取者，有金雁飞出墓外，为罗者所获。

汉武帝元封中，浮圻国贡金之泥。其金生于汤泉。盛夏之日，波浪常沸，飞鸟不敢过，居人不敢渡。国人于水边，见有此泥，取为器物，色若紫磨金，其滑者如泥。贡于汉，帝取之，常封玺匣以辟邪魅。卫青、张骞皆蒙此泥封玺绶。帝既崩，紫泥遂绝。

石虎于太武殿前造楼，高四十丈，以珠为帘，五色玉为佩。每风至，即惊触似音乐在空。过者皆仰视，爱之。又屑诸异香如粉，撒楼上，风吹四散，谓之“芳尘”。

《吕氏春秋》曰：有人臭者，父母、兄弟、妻子、道路皆恶之，此人无所容是，乃之海上。海上有人悦其臭，昼夜随之，不能抛舍。

晋文公时，有蛇当道而横。文公以为不祥，反政修德，令吏守蛇。守吏夜梦有人杀蛇，曰：“何以当圣人道？”觉而见蛇已坏矣。

《庄子》云：齐桓公出游于泽，泽畔见一物，其大如毂，其长如猿，紫衣而朱冠，见人则捧其首。公谓管仲曰：“此其怪乎？”仲曰：“此委蛇也，见者必霸。”公后果霸，其国为五霸之首。

魏公子无忌视事，忽有一鹤逐鸠，鸠入公子案下，鹤遂去。令捕鹤，取数百，列于庭下，问之：逐鸠者当伏翅。有鹤伏罪于地，乃杀之，而放其群鹤。

后汉卢景初生，项有一丛白毛，数之得四十九茎。后四十九年卒。

后汉裴安祖，常息大树下，有鸢鸟逐一雄雉，雉急投安祖，忽触树而死。安祖哀之，置于荫地，俄顷复生，乃飞去。因寝，见一人衣冠甚伟，拜谢安祖，曰：“荷君保全，故此伸谢。”安祖年八十而卒。

后汉郑宏为临淮太守，行春，有二白鹿夹车而行。宏异之，主簿黄国曰：“三公车旁画鹿，君必为相。”后位至太尉。

宋长沙王道怜子义庆，在广陵卧病，食粥之次，忽有白虹入室，就食其粥。义庆掷器于阶，虹遂作风雨声，响撼庭户，良久不见。

《列女传》：“陶答子相陶，其政不修而家益富。其妻抱子而泣，姑问：“泣何也？”曰：“妾闻南山有玄豹，雾雨十日，不下食，欲为泽其身而有文章也，故有威而远害。今夫子不修德而家益厚，祸将至矣。”期年，而答子见诛。

伪蜀李势宫人张氏，有妖容，势宠之。一旦化为大斑蛇，长丈余，送于苑中。夜复来寝床下。势惧，遂杀之。后有郑美人，势亦宠爱，化为雌虎，一夕，食势姬三人。未几，势为桓温所杀。

吴道子善画神。开元中，将军甚晏居母丧，诣道子，请于东都天宫寺图神鬼数壁，以



资冥助。答曰：“废画已久，若将军有意，为吾缠结舞剑一曲，庶因猛励，获通幽冥。”于是脱去衰服，若常时妆饰，走马如飞，左旋右抽，掷剑入云，高数十丈，若电光下射，受引手执鞘承之，剑透空而下。观者数千人，无不悚慄。道子于是援毫图壁，俄顷之际，魔魅化出，飒然风起，为天下之壮观。道子平生所画，得意无出于是。

晋王恺有牛，号“八百里”，常莹其蹄角。王武子戏与射赌，以金敌之，偶中的，谓左右曰：“可生采其心作炙。”至，食一脔而止。

蜀将姜维既死，剖其腹，视其胆如斗大。

左思构《三都赋》，门庭墙溷皆置纸笔，十年乃就。

汉张仓年老而无齿，饮人乳，过百余岁终。常感王陵，母卒后奉陵妻，朝夕侍诺，如事其母。

唐德宗朝有阳城者，华阴人也。其弟域。兄弟雍睦，坐卧相随，皆不娶妻。朝廷以谏议大夫征起。性嗜酒，常枕以江石，每用质于酒家，有得三数斛者。料钱入室，即复贖之。

唐文宗朝宰相路随，志行清俭，常闭门不见宾客。状貌或似其先人，以此未尝视镜。又感其父没蕃，终身不肯西坐，其寝西首。

晋桓玄贪秘，金玉不离其手。

吴隐之兄坦之，葬母设祭，每祭，恸绝，至第七祭，呕血而死。

要离羸瘦极，每出，遇顺风即行，逆风即倒。

汉成帝赵飞燕身轻，能为掌上舞。

唐高开道，箭在脑中，使医凿骨取出，与客饮酒，谈笑如常。

唐天后朝，宰相娄师德温恭谨慎，未尝与人有毫发之隙。弟授代州刺史，临行戒曰：“吾甚爱汝，慎勿与人相竞。”弟答曰：“人唾面，亦拭之而去。”兄曰：“只此不可。凡唾汝面者，其人怒也。拭之，是逆其心。何不待其自乾？”其于保身远害，皆如此类也。

苍梧王酷暴好杀，尝自持刀梨行，见人即击刺死之。若一日不杀人，即惨而不乐。何宴常服妇人之衣。

晋陆云，字士龙。家在吴，久不得家信。有犬黄耳，云摩其背，谓曰：“与吾达一书至家，得否？”其犬即摇尾，因以竹筒盛书，置之犬项。旬日达家，得报而还。

陈正为太官，进炙，有发贯炙。光武令斩正，正曰：“臣有三罪，请言毕而后死。”曰：“山出炭，炭焰不能焦发，臣罪一也；匣出佩刀，日砥砺，不能断发，臣罪二也；臣与庖人六目同视之，曾不如黄门两目，臣罪三也。”光武乃罪黄门而释正。

汉武帝自甘泉至渭桥，有女浴于渭水者，乳长七尺。上怪问之，答曰：“后第七车当知我。”时侍中张宽在第七车，使问之，宽曰：“祭天星，斋不严，即此女见。”

梁沈约家书藏十二万卷，然心僻恶，闻人一善，如万箭攒心。

唐富人王元宝，玄宗问其家财多少，对曰：“臣请以一缣系陛下南山一树，南山树尽，



臣缣未穷。”时人谓钱为王老，以有元宝字也。

玄宗御含元殿，望南山，见一白龙横亘山上，问左右，曰：“不见。”急召元宝。问之，元宝曰：“见一白物横在山顶，不辨于状。”左右贵人启曰：“何臣等不见，元宝独见之也？”帝曰：“我闻至富敌至贵。朕天下之主，而元宝天下之富，故耳。”

玄宗幸蜀之时，至东泰山，内臣高力士拢马请下，东北陈四拜，奏曰：“陛下出幸匆遽，不得亲辞九庙。此山最高，可望秦中。”玄宗悲感恻极，左右不胜哀咽。

陆贾得南越王赵佗所赠，囊中装万金。归分五男，各令散居。而贾携侍儿竞乐游于五子之家，每止十日，极其滋味承奉，其玉剑珠宝，随身皆赐之，虽非训导，亦为达见。

魏鲍子都善行于野，见书生卒然心痛，下马为摩其心。有顷，书生卒。子都视其囊中，有素书一帙、金十饼。乃卖二饼，葬书生。其余枕之项下，置素书腹上，而退。其后数年，子都行，有一骏马逐之。既而有认马者，谓子都为盗，因问儿所在。子都具言。于是相随往开墓，取其儿归葬，金八饼在项下，素书在腹上。举家诣官，称子都之德。由是子都声名大振。

魏毛玠，字孝先。为尚书，人无敢以好衣食见者。武帝叹曰：“吾不及毛尚书能移风俗”。

窦婴征七国时，得赐千金。置之庑下，任人所取，不入私室。

宋昭王出亡，谓其御者曰：“吾知所以亡者。”御者曰：“何以知之？”昭王曰：“吾被服而立，左右皆曰：‘君丽者也’；发言举事，左右皆曰：‘君圣者也。’吾内外不见其过，安得不亡乎？”于是改行易操，后三年，美行于宋，宋人迎之，复位，谥曰昭。

晋王戎，字濬仲。性鄙吝。家有绿李，子熟时惠人，必钻破其核，恐他人种植之。

王澄出为荆州刺史，送者盈路，见路傍树有一鹊巢，乃自解衣上树，探弄鹊雏，傍若无人。

王右军，永和九年曲水会，用鼠须笔蚕茧纸为《兰亭记叙》，平生之札，最为得意。其后虽书数百本，无一得及者。太宗令御史萧翼密购得之，爵赏之外，别费亿万。太宗临崩，谓高宗曰：“以《兰亭》殉吾，孝也。”遂随梓宫入陵。

汉张骞奉使大月氏，往返一亿三万里，得葡萄、涂林、安石榴，植之于中国。

汉和亿为畿令，常有一虎害人，亿令设槛，得二虎。亿曰：“害人者低头。”一虎低头，亿杀之，其一虎放去。自是猛兽皆出境，吏人以为神君。

后汉郑玄居山东，有疑，莫知所问，遂往入关诣马融。三年不得见。一日融大会，遂见之。登楼问其疑，数十段皆决。语毕，遂归。融谓门人曰：“玄既归，吾道东矣。”

晋索琳报兄之仇，手杀四十人。

鲁公仪休为相，归见其妻织，乃焚机而出，谓其妻曰：“吾为相食禄，今尔夺百姓之利，使民安归哉？”

韩康伯隐药肆，卖价无二。有二女子买药，不识康伯，乃酬酢之，康伯不移，女子



曰：“君何若康伯无二价也！”康伯乃逃去，不知所在。

高丽国王侍婢立王左右，一旦，有气自天而下，大如鸡子，入其口。十月孕一男，名曰“东明”，善射。王恐为国害，欲杀之。东明走，弯弓射水，鱼鳖浮出而为梁，以渡东明。

魏武帝尝居铜雀台，及终，令妓乐登台望西陵而歌舞。

郑子华之弟子臧，好聚鹬毛为冠，郑伯闻而恶甚，使盗诱杀之。君子曰：“服之不衷，身之灾，以其非法服也。”

晋大医司马程据上武帝雉头裘。诏曰：“此裘非当服，损费功用。”遂命火，于殿前焚之。

陶潜在家，每酒熟，即以头上葛巾漉酒，毕，复裹之。

晋羊琇，字稚舒。家富豪，秋冬月造酒，令人抱瓮，须臾，易之，有顷便可熟。

汉文帝俭约，常集读书囊而为帐。所幸姬慎夫人，衣不曳地。

晋庚袞，字叔襄。父在常戒袞以酒。及父歿，日饮不止。因责曰：“余废先人之戒，何以训人？”乃携挺于墓前，自杖三十。

晋明帝十余岁，未为太子，元帝坐之膝上，问曰：“日与长安孰近？”答曰：“日近。”复问之：“何言日近？”答曰：“举头见日，不见长安。”帝异之，明日对群臣，复问之，答曰：“日远，长安近。”元帝甚惊，问曰：“何以与昨日之对有异？”复答曰：“只闻人从长安来，不闻人从日边来。”帝愈奇之，立为太子。

管辂年七八岁时，与邻里小儿戏，画地为日月星辰之状，言动不常。父母禁之，答曰：“家鸡、野雉尚知天时，况人乎哉！”

舜父瞽瞍纳后妻谗言，尝笞舜。舜见小杖则受，大杖则走，故能保身于孝道。

黄霸为颍川太守，召吏。方食于野亭，鸟攫食。霸见吏曰：“汝为鸟攫食耶？”吏惊，以为霸尽知其行止，后不敢为非。

秦败，豪杰之士争取金玉，唯任氏子独为仓窖贮粟。后谷石万钱，于是金玉宝货尽归任氏。

何邵字敬祖。日供口食，计二万钱，而兼四方珍味，虽三日帝厨之膳，不及之也。

《吕氏春秋》曰：以隋侯之珠弹千仞之雀，人笑其用重求所轻也。

唐初张公艺九世同居，高宗东封过其家，问之：“何以致然？”公艺执笔，唯书百余“忍”字，余无他言。遂旌表其门。

汉高祖既入关，诸将劫珠宝货，唯萧何独收秦格式律令。卒为汉名相，功居第一。

阮修，字宣子。居贫，年四十未有室。王敦等欲钱为婚，皆名士也。时慕之者求人一钱不得。

隋刘君良累代义居，兄弟四人同气。大业末，天下饥馑，其妻欲劝分居，乃窃取庭树中鸟雏置诸巢中，令群鸟斗竞。举家怪之。其妻曰：“今天下大乱，战争之秋，禽鸟尚不



相容，况人乎？”君良知其计，中夜遂揽妻发，大呼曰：“此乃破家贼！”召诸兄弟，哭以告之，而弃其妻，居虽三院，而共一厨。

唐中宗为天后废于房陵，仰天而叹，因抛一石于云中，心祝之曰：“我为帝，即此石不落。”遂为树枝阁之。至今犹存。又有人渡水拾薪，得一古镜，进之。中宗照面，其影中有人语曰：“即作天子，即作天子。未浹旬，践居帝位。

荀奉倩与妻情厚，冬月，妇病热，奉倩出，露坐，候体冷，即入熨之。甚为世所饥。

玄宗幸蜀，至利州吉伯渡，有一白鱼来御舟而过。

河间王孝恭，才智识略时出于众。初受诏征蒲公柘，上有一器，倏然变成血，满坐惊畏，左右不测。孝恭自省无负神祇，此变应是公柘。时人服其先见。

太公封于齐，宿于逆旅，主人晨起，有一人谓曰：“客寝甚甘，殆非就国者也。”太公蹶起即路。俄有追者至，以其出关，遂止。

齐桓公与管仲谋伐莒，国人知之。桓公谓管仲曰：“寡人与仲父言，国人知之，何也？”管仲曰：“意者左右有圣人乎？今东都牙安在？”桓公顾曰：“在此。”管仲曰：“子何以知之？”牙曰：“君子有三色，是以知之。”仲曰：“何谓三色？”曰：“欣欣众悦，钟鼓之色；愁悴哀忧，衰经之色；猛厉忠实，兵革之色。”仲曰：“何以知其莒也？”曰：“君东面南面指之，口张而不掩，舌举而不下，是以知其莒也。”

朱敬则，亳州末城人。孝友忠鲠，举世莫比。门表阙者六所，古今无之。

公仪休相鲁国，入园，见妻蒔葵，因拔去，谓妻曰：“身为国相，与民争利，非理也。”乃逐其妻。

晋文公出伐卫，公子仰而笑。公问曰：“何笑？”公子曰：“臣笑臣邻人也。臣之邻人有送其妻适私家者，道逢桑妇而悦，与之言；然顾视其妻，亦有招之者矣。是以窃笑之。”公悟其言，乃止，引兵而还。未到，有伐其北鄙者。

昔有人海上日与鸥鸟狎，引数百相从。其父曰：“吾闻鸥鸟从汝游，可与俱来。吾玩之。”明日，其人往，群鸥翔而不下，盖以机萌于心而物惧也。

姚泓将妻子降于刘祐，祐斩之于建康市。凡百里之内，草皆焦而死。

符坚委政于王猛，小大无疑。猛卒，其子皮谋反。坚让曰：“丞相临终，以十具牛为田，不闻与子求位。知子莫若父，何斯言之验也。”赦而不诛。

唐仪凤中，中书舍人欧阳通起复判馆，每人朝，必徒跣至城门，然后着鞋。到直省之所，即席地籍藁，非公事不言，未尝启齿。归家必衣衰经，号恸无时。国朝夺情，惟通得理。

汉宣帝足下有毛，所居常有光耀。

晋颜含有孝行。兄儿服药过多，死于家。含遂开棺，复生。母妻家人尽勤倦，含弃绝人事，侍兄疾十三年，曾无劳怠。

宋燕相齐，见逐罢归，召门尉陈饶等二十三人，曰：“诸大夫有能与我赴诸侯乎？”饶



等皆伏而不对。燕曰：“悲乎哉！士大夫易得而难用。”陈饶对曰：“非士大夫易得而难用，君不能用也。君不能用，即有不平之心，是先诸己而责诸人。”燕曰：“先诸己而责诸人，其云何？”饶曰：“三斗之粟，不足于士，而君雁鹜有余食；园果梨栗，后宫妇女以相携掷，而士不得一尝；绌纨绮縠，丽靡于常服，而士大夫不得以为禄。财者，君之所轻；死者，士之所重。君不能捐其所轻而使士致其所重，譬若铅刀蓄之，干将用之，不亦难乎！”宋燕惭而避席，曰：“燕过矣。”

楚王聘庄子，庄子曰：“吾闻神龟死三年，置巾藉之而藏之宗庙堂之上。此宁死为贵乎？宁其生曳尾于泥中矣。”遂不赴楚聘。

汲黯不乐为淮阳相，固辞之。帝曰：“卿可卧理之。”

卷 下

赵简子死而未葬，而中牟叛，五日，襄子举兵攻之。围未匝，而城自坏者十丈，襄子令退军，吏谏曰：“君殊有罪而城自坏者，天助也。曷为退？”襄子曰：“吾闻于叔向曰：‘君子不承人之危，不扼人之险。’使其理城后攻之。”中牟闻之，请降。

太康败于洛之表，十日不返。其弟五人擎其母以从。终失国。

汉王欲以赵王如意易太子，吕后问计于张良。曰：“南山有四皓，隐而不仕于秦。太子卑辞延之，若四老人到，扶太子，一助也。”于是东园公、夏黄公、角里先生、绮里季皆随太子入谒。高帝曰：“吾得天下，不到。今从吾儿游，何也？”四老曰：“陛下侮慢，臣等耻来。今太子贤明，臣故佐之。”于是太子乃定。高祖谓戚夫人曰：“羽翼已成，难动摇矣。”

张嘉祐为相州刺史，至都，询故事。皆云前后太守多不生出郡城，苟不流死则贬。嘉祐按其图籍，自后周尉迟迥死王事始也。乃为迥立庙，四时享之。后三年，入拜大金吾。到吴竟加以冕服，而其后皆荣迁去。

汉耿寿昌置常平仓，贱时籴粟，贵时减价，恤民，以成为国之体也。

唐崔群为相，清名甚重。元和中，自中书舍人知贡举。既罢，夫人李氏因暇日常劝其树庄田以为子孙之计。笑答曰：“余有三十所美庄良田遍天下，夫人复何忧？”夫人曰：“不闻君有此业。”群曰：“吾前岁放春榜三十人，岂非良田耶？”夫人曰：“若然者，君非陆相门生乎？然往年君掌文柄，使人约其子简礼，不令就春闱之试。如君以为良田，则陆氏一庄荒矣。”群惭而退，累日不食。

唐魏元忠神气刚直，初为洛阳令，有罪戮于都市，已坐讫。天后以元忠有平徐敬业之功，特赦免之。承制者走而传呼释元忠。传呼先至，执捉者扶令起，元忠曰：“赦未至，岂可求生？”有顷方至。观者咸服其安闲神异也。

隋炀帝无道，杜伏威以齐州叛。炀帝遣陈稜击之。稜下偏裨射中伏威额。伏威怒曰：



“不杀射我者，终不拔此箭。”由是奋击而入，获所射者，乃令拔箭毕，然后斩其首，携入稜军中，稜遂大败。

汉惠帝时，叔孙通上曰：“古者春有献，今樱桃熟，愿陛下取之。”献果皆自此始。

北齐高洋凶暴，贵嫔薛氏有小过，遽杀支解之。抱其股为琵琶弹之，复叹曰：“佳人难再得。”

唐詹景节度李同捷叛，王智兴帅徐泗兵讨于棣州。时同捷遣一能言者披短褐坐于城上战棚骂智兴，军吏耻之，智兴蒙衣掩耳不忍闻。有一卒曰：“此可用抛石击去其首。”智兴喜曰：“若中，赏汝万金。”乃具抛发一石，正中其首，随石迸落。军中欢叫，城上飞动。

汉承宫威名闻于匈奴，匈奴欲识，使人求见宫。宫启帝曰：“域外重人形状魁梧，巨貌丑陋，不如选瓌伟者示之。”帝以大鸿胪卿魏应代之。

东汉宦者张让、赵忠持国权，引用屠沽人登清贵。灵帝语左右曰：“张常侍是我父，赵常侍是我母。”故卒以灭汉者，赵、张是也。

张安世每举进贤达，不令其知。或有诣门谢者，安世亦不见。终身恨曰：“安有拜官公庭，谢恩私门乎？”

虞氏，梁之富人也。起高楼临大道，日夕歌宴击博于上。博者胜，掩口而笑。适有三客过楼下，飞鸢衔腐鼠堕客。客举面，值其笑。二客相与谋曰：“虞氏富乐久矣，我不侵犯，何为辱我？”乃聚众灭其家。谚曰：“骄奢之灾，祸非一致。”

汉邴丹晏容养志乐，外权势，仕至六百石，即免归，畏权而祸至也。

张衡死，蔡邕生，时人以邕为张衡后身。

唐初有阉稜者，善用长刀，刀长丈余，每下刀，毙数人。莫有嗣者。

薄昭，汉文帝舅。以其杀汉使，文帝不忍行法，乃令朝臣衣丧服哭之。昭遂自尽。或云：昭侍饮，酌酒不满，一郎纠之。昭既归，使人持刀杀纠者。帝闻之，怒，故有此。

北方有匈奴，形质皆人，而足如马蹄，谓之“马蹄突厥”。

宴酒久成，其妻苏氏能词，织锦为回文诗，叙离间阻隔之意以寄之，其理纵横读之皆有旨义。

贾达年五岁，姊抱听邻家读书，及长，俱能通经籍。姊问曰：“吾未尝教汝，何得致然？”答曰：“姊抱听读书，皆省之。”及成人，更博群书。天下闻名，载粟帛受业，而家大富。时人以为贾达“舌耕”。

钟繇年七十而纳正室。

卫青，本平阳公主家参乘。驸马曹寿卒，敕令择国中贵居第一者尚之。青最贵，主问之曰：“是常为我参乘，如之何？”使者答曰：“当世无如将军者。”遂尚平阳公主。

汉武帝乳母恃恩，家人纵横。帝怒，乳母流于边，入辞帝。郭舍人谓曰：“母今出时，但屡顾我，当救母不行。”母如其言，乃顾舍人。舍人骂曰：“姬回顾，何为？帝壮矣，岂



假汝乳耶！”帝于是悦，遂不流乳母。

秦优旃待始皇，立殿上。秦法重，非有诏不得辄动。时天雨甚，武士被盾立于廷，优旃欲救之，戏曰：“被盾郎，汝虽长，立雨中；我虽短，立殿上。”始皇闻之，乃命徙立庑下。

汉高祖微时，常与客过其丘嫂食。客益羹，嫂厌叔，佯为羹尽，忧其釜。高祖怨其嫂。及为帝，封其子为优羹侯。或问帝，帝曰：“其母不长者。”

齐景公时，有一人犯罪，景公怒，令支解之，语曰：“有敢谏者诛！”晏子左手持其头，右手执刀，仰问景公曰：“自古圣主明王，支解人从何而始？”景公遽舍之，曰：“罪在寡人。”

梁元帝眇一目，宠徐姬。姬性妒，后怨帝，每召至，即收半面见之，意者以帝一目，非为全面也。帝亲杀之。

尸乡有祝鸡翁，善养群鸡，皆有名呼之。贩卖鸡卵，获亿万。一旦，逃入山，不知所之。

李怀光既叛于蒲，朝廷以法诛之。有子七人，其长曰钰。谓诸弟曰：“我兄弟不可死于兵卒之手，曾不自裁！”于是执剑俱斩弟首，堆积叠之，立剑于中，以心淬剑，乃洞于胸。闻者伤之。

郑之管城，有居人郑虔章者，落魄杯酒间，年五十余，无闻焉。日醉归，寝宾署中。夕，引手取酒器，遂为鬼拽臂入坑，逡巡至膊，其人慌叫。亲戚举烛俱至，相与牵争而不能制。渐入，至胸臆，头遂入地，俄然全身陷没，若堕水者。乃合众将锹钁掘之，深丈余，得一枯骨，可长八九寸，又复旁搜，无所见。因出而葬之。

王罽为辛京果下偏裨，果时帅长沙，甚易之。一旦击毬，驰逐既酣，罽仰天呵气，气高数丈，若白练上銜。果谓妻曰：“此极贵相。”遂以女弟配之。罽终为将相。

西极有献续弦胶者，帝不信，即断而接之，使人挽拽，及他处断，而接者如故。

魏国有女子，极美丽，逾时不嫁，以右膝上常患一疮，肿，脓水不绝。遇华佗过，其父问之，佗曰：“使人乘马，牵一栗色犬，走三十里。归而截犬右足挂之。”俄顷，一赤蛇从疮而出入犬足中，其疾遂愈。

玄宗朝，有张果老先生者，不知岁数，出于邢州。帝迎于内，礼敬甚。问，无不知者。一旦，有道士叶静能，亦多知解，玄宗问：“果老何人？”静能答曰：“臣即知之。然臣言讫即死，臣不敢言。若陛下免冠跣足敕臣，臣即能活。”帝许之。静能曰：“此混沌初分白蝙蝠精。”言讫，七窍血流，僵仆于地。玄宗遽往，果老徐曰：“此小儿多口过，不滴之，败天地间事耳。”帝哀恳久之，果老以水喷其面，复生。其后果老辞归邢州所隐之处，俄然不知所往。

后汉刘焉，字君卿。灵帝时为太常，见王室多故，意求之交趾，欲避难。侍中董扶谓焉曰：“常见益州有天子气。”焉乃求益州。遂拜之。既而至蜀，思扶之言，咸造乘舆旌



旗，一如王者之制。忽一旦，天火下烧，所造作物荡尽。焉疽背而死。

始皇时，长安县忽有大水涨而欲没县。主簿全干入白，明府谓干曰：“今日卿何作鱼面？”干曰：“明府亦作鱼头。”言讫，遂陷为湖。

唐宰相王涯，奢豪其极。庭穿大井，合木为柜，严其锁钥，天下宝玉珍珠琼璧，投置水中，汲水供涯所饮。未几犯法，为天兵枭戮而赤族，涯骨肉色并如金。

《神异记》注曰：西南大荒中，有兽，形如兔，人面而能言，心常欺人，言东即西，言南即北，其名曰“诡”。

吴孙权猎于武昌，有神女见，曰：“今日当猎异兽。”忽然不见。俄顷，猎得一豹。女复见，曰：“可竖其尾于我处而立祠焉。”或曰，豹尾之设，自孙权始焉。

《三十国春秋》：伪前梁张重华在梁州，欲诛西河张祚。祚厩马数十匹，同时皆无尾。未几祚遇祸。

唐贾直言，德宗朝父泄漏禁中事，帝怒，赐鸩酒。直言白中使，请自执器以饮其父。中使然之。直言既持杯而自饮之，立死。酒自左足间出，复活。具奏，遂流其父于南海。遇恩归，还东平。以劲直名闻，拜谏议大夫。直言妻董氏，亦奇节。直言随父流所，谓董氏曰：“先死莫期，不得相见。”令其改适。董入室以绳缚发，取笔令直言封之，启曰：“非君不解，毕死不开。”其后二十二年再会，旧题宛然。以油沐之，其发俱堕。

太宗朝罢归而含怒曰：“终须杀此田舍奴！”文献皇后问曰：“大家嗔怨谁也？”帝曰：“只是魏征老兵，对众辱我。”后入院，衣赭翟，下殿拜。帝惊问曰：“何也？”后曰：“妾闻主圣臣忠。征能直言，非大家圣德，不有忠臣。妾敢为贺。”帝大悦，益重魏征。

曹操密语左右一人曰：“汝明日可挟一刀入吾室中，吾令人执汝，汝勿言，吾有重报于汝。”其人不悟，遂缄默至于死。操用此以惑众，能察人眉睫之用也。

子贡一出，存鲁、乱齐、破吴、强晋而霸越。

唐张文成七登科选，员半千云：“张子之文如青钱，万拣万中。”时人以文成为“青钱学士”。

唐狄仁杰为大理寺丞，申中上考。考功驳下，问：“有何劳绩？”寺复执申曰：“岁凡断狱一万二千。”考功特升上下考。

齐高洋残酷，其弟南阳王琬献计，令取群蝎置斛中，俛断一人，为蝎所螫，哀号宛转，不胜其苦。洋笑，飞书谓其弟曰：“有此乐事，何不早言之？”

玄宗御勤政楼，于下百戏，坐安禄山于东阁看。肃宗谏曰：“历古今无臣下与君王同坐观戏者。”上曰：“渠有异相，故襁之。”又尝与之夜宴，禄山醉，化为猪而龙头。左右遽告，帝曰：“渠龙首猪身，无能为也。”终不杀之，卒乱中国。

河上公尝居河上，不知姓字，无营欲，不履城郭。文帝召之，不至，乃就见之。自云穷《老子》一经，甚侮侵于世。与帝语之，帝曰：“吾，君也；公，卿也。岂无敬君之礼乎？”公遂跃起空中，曰：“吾上不在天，下不在地。帝虽尊，于我何加！”帝谢之，乃下。



共论《老子》经之义，帝不能屈。

陆云有笑癖，尝谒司空张华，华多须，以袋盛之，云见华，不及拜而笑倒。又尝自服缘缙上船，见水中影，笑而堕水，几至于死。

太宗以魏征为人镜，谓左右曰：“以古为镜见成败，以铜为镜知美丑，以人为镜知善恶。吾用此三镜以辨兴衰。今魏征死，吾失一镜。”

李衡，江陵种橘千树，岁收其利。谓其子曰：“吾有木奴千头，可为汝业，当终身衣食也。”

祭彤为辽东太守三十年，帝嘉其功，赐钱百万。

周亚夫平七国归，不得任用，怏怏不乐。帝觉之，因宴与肉，大戟不设筋。亚夫有怨色。帝付廷尉。饥食藁席九十日，至饿死。先时人相其有纵理入口，当饿死，果然。

吕蒙随姊夫邓当击贼，年十六，呵叱而前。当不能禁止。归言于母曰：“贫贱谁可居？设有功，富贵可致。”又曰：“不探虎穴，焉得虎子？”遂成大名。

隋文帝在位时，已无道。天下船长三丈，谓其既大，必能藏匿奸党，并令没人官。

昔有人出行，逢一兔走，头击树而死，其人得之。后日日忘家失业，专坐此树下守兔。有过者见之，问：“汝何守株也如是？”

后汉竇武生时，其母并生一蛇，乃送山中。及武母死，有大蛇至母棺柩侧，蜿蜒磕头血流而去。

郗都为济南太守，诛豪族三百余家，不顾妻子。

后汉韦逞母宗氏，博究经典，置生徒一百二十人，隔纱窗授业。

荀崧有女名灌。崧为襄阳太守，为杜鲁所围，崧欲求救于平南将军石览。灌年十三，率勇士千余人，逾城突围，且战且前，诣览乞救。览假兵救崧，贼遂走散。

契苾何力，西番酋种太守，授右骁卫将军，早立功勋。太守征辽，至白雀城，为贼所围，腰中贼稍疮极重。帝因传令，及拔贼城，得行稍者高突鹑卵。太宗捉付何力，令自杀。曰：“犬马犹为其主，况于人乎？彼为其主，用刀而刺臣者，是勇也。本不相识，岂是冤仇。”遂舍之。

郗超有旷世之度，每有寒素后进，力引拔之。死日，为其作谏者四千余人。

鲁肃以义气周急为意。周瑜为居巢长，居母丧，过肃求粮。时肃有米两囤，各三千斛，指一囤与瑜。瑜奇之，遂定交。卒霸吴。

晋王浑妻钟氏，名琰，有藻鉴。生女子淑，求夫，有兵家之子甚俊，欲妻之。令与群吏处，琰自帷中窃视之，曰：“此人才足拔萃，然地寒寿促，不足展其器。”遂止。其人数月卒。

伊尹负鼎以干汤，汤令调味甚甘，得进见。汤问之，答曰：“使臣调国亦如是。”遂以为相，果成王道。

玄宗幸蜀，裴士淹从驾。马上以商较当时卿相，士淹曰：“姚元之如何？”上曰：“才



而健者也。”宋璟如何？”上曰：“贤而泥者也。”论及数十人，皆当其目。末曰：“李林甫如何？”上曰：“妒贤嫉能，古今无比。”士淹曰：“若陛下知之，何委用如此之深也！”上佯首而无言。

晋杜预拜荆州，贺客皆集，羊琇与裴楷后至。客坐连床，琇怒曰：“杜预以连榻待客。”拂衣而出。

武宗朝宰相李德裕奢侈极，每食一杯羹，费钱约三万，杂宝贝珠玉雄黄朱砂煎汁为之。至三煎，即弃其滓于沟中。

汉昭帝纳上官桀孙女，其父名安，策立为后，方年六岁。

唐萧颖士，开元中，年十九岁，擢进士第。儒、释、道三教，无不该博。然性褊躁，忿戾无比。常使一佣仆，曰杜亮。每一决责，便至疮痍，养平复，为其指使如故。人有劝亮曰：“子，佣夫也。何不适善主，而自苦若是？”答曰：“愚岂不知？但爱其才，慕其博奥。”以此恋恋不能而卒至于死也。

吴诸葛恪妻晨起对妆台，一婢侍后，忽跃身触栋，张目大叫曰：“室家被害。”有顷，家人归曰：“恪为孙峻所杀。”

陈仲弓《异闻记》曰：“张广定者，遭乱避地，有一女子，四岁，不能走，又不忍弃之，乃悬笼于古冢中，意谓他日得骸骨。及三年，归引取之，见其尚活。问之，女答曰：“食尽则馁，见其旁有物，引颈呼吸，则效之，故能活。”广定人冢视之，乃一龟也。陈寔之言，固当不妄。

玄宗偶与宁王博，召太真妃立观，俄而风冒妃帔，覆乐人贺怀智巾幘，香气馥郁不灭。后幸蜀归，怀智以其巾进于上，上执之潸然而泣，曰：“此吾在位时，西国有献香三丸，赐太真，谓之瑞龙脑。”

晋荀爽女适阴瑜，周岁，瑜卒。爽以女才高气逸，愍其少寡，欲夺志再嫁郭奕，遣所亲人问之。女私挟刃至，爽夺之。其后广集亲族，设大宴，方合，令奕突出见之。女令四角备烛，与奕相见。奕但危坐。即令备浴，女遣二侍者出家以取他物，乃刺臂血书扇曰：“以尸还阴氏。”自缢而死。

昔者愚公居山之阴，而出入有阻，乃勸励子孙移之。山神见曰：“山极崇高，汝何可移？”公曰：“吾生有子，子复有孙，子子孙孙，誓而移之，何为不可？”于是神命夸娥氏为移之。

秦于骊山之下，坑儒士二百四十人，焚诗书，皆用李斯之计，欲愚黔首焉。

赫连勃勃，本号屈子，自改其姓云赫连勃勃，言辉赫与天连。杀人，积其头为京观，谓之髑髅台。蒸土筑城，锥刺入，即杖筑者死；刺之不入，即锻锥者死。其造器，射入甲者，杀铠匠；不入者，杀弓匠。莫知所措。

梁周兴嗣为散骑常侍，聪明多才思。武帝出千言，无章句，令嗣次之，因成《千字文》。归而两目俱丧。及死，开视之，心如掬燥泥。



刘幽求自朝邑尉为中书舍人，三日内拜相。

太宗谓虞世南一人有五绝：一曰博闻，二曰德行，三曰书翰，四曰词藻，五曰忠直。图形凌烟，寿年八十一终。

公孙瓚既杀刘虞，则见有胜己者皆杀之。男子年七岁者，不许入城。传达皆用妇人，令语音雄者宣扬其命。

袁绍逼急，乃先缢其妻儿姊妹，然后自赴火而死。

魏武残人性命，重伎艺。有一歌儿性甚慧，而声响入云。操爱其声未忍杀，乃于群妾中求得二人，声如歌者，密令教授，数月乃成。听之，立杀其前者。

范粲，字承明。时齐王芳被废，承明哭甚恻，因不仕。景王辅政，召之不去，称疾，佯狂不言，足不履地，人不闻音。家有婚姻，咨访之，合意者，即色不变；否者，即卧寝不安。家人以此候其旨于所寝之车。

唐狄仁杰为安抚使，除去淫祠一千二百所。

张巡守宁陵，事急心孤，每战，喊一声，即雁数行飞逆。

阮籍居母丧，有吊客至，籍哭，即呕血，毁瘠骨立。

时苗为寿春令，谒治中蒋济，济醉，不见之。归而刻木为人，书曰：“酒徒蒋济”，以弓矢射之。牧长闻之，不能制。

季孙相鲁，家无衣帛之妾，析无食粟之马。

哀牢夷，其先有妇人名沙壹，居哀牢山，捕鱼水中，触沈木若有感，因妊孕，十月而生十子。今西南夷，其裔也。

唐高祖起义并州，第三女柴绍妻襄兵郾、杜间以应高祖。高祖登位后，封平阳公主，号“娘子军”，克著勋绩。获封邑不因夫子者，葬用卤簿，自此始。

魏文侯问孤卷子曰：“父子兄弟臣贤，足恃乎？”对曰：“父贤不过尧，而丹朱傲；子贤不过舜，而瞽瞍拘；兄贤不过舜，而象傲；弟贤不过旦，而管诛；臣贤不过汤武，而桀纣伐。君欲理国，贤可恃乎？”

常枞有疾，老子曰：“先生疾甚，能无教语弟子乎？”枞乃大其口示老子，曰：“舌存乎？”曰：“存。岂非柔耶？”“齿亡乎？”曰：“亡。岂非刚耶？”枞曰：“天下事尽矣。”

子产闻妇人哭，使人执而拘之。果手刃其夫者。御者问曰：“何以知之？”子产曰：“夫人所亲也，有病则忧，临死则哀。今夫已死，不哀而惧，是以知有奸也。”

隋朝徐德言妻陈氏，叔宝妹。因惧乱不能相保，德言乃破一镜分之，以为他年不知存亡，但端午日各持其半镜于市内卖之，以图相合。至期适市，果有一破镜。德言乃题其背曰：“镜与人俱去，镜归人不归。无复嫦娥影，空余半月辉。”时陈氏为杨素所爱。见之，乃命德言对饮，三人环坐，令陈氏赋诗一章，即还之。陈氏诗曰：“今日何迁次？新官对旧官。笑啼俱不敢，方验作人难。”素感之，乃还德言。

昔宇宙初开之时，只有女媧兄妹二人在昆仑山，而天下未有人民，议以为夫妻，又自



羞耻。兄即与其妹上昆仑山，兄曰：“天若遣我兄妹二人为夫妻而烟悉合；若不使，烟散。”于是烟即合，其妹即来就兄，乃结草为庙，以障其面。今时人取妇执扇，象其事也。

羊角哀、左伯陶二人为友而贤。俱诣道途，其造风雨，粮尽，计不俱存。角哀乃并粮与伯陶，得济；角哀入空树中饿死。

刘仁轨为相，其从父、昆弟皆为北海县邑吏，人有劝曰：“若与君相同籍，而独苦差科。”答曰云云。

汉张良，字子房。少时行至圯桥，忽于桥上见老父堕履桥下，顾良曰：“可取履。”良欲殴，视为老，僇为下履。老人曰：“孺子可教。明日早为期。”良往，已在桥。谓良曰：“与我期，何后也？明日复来。”良于是夜半往之，少顷，父至，怀中取书一帙付良，曰：“读之，王者师。”因使去，戒良曰：“后十年济北谷城相见，即我也。”良佐汉王，为帝师。后往济北谷城问，人曰：“此黄石公庙。”即立祠。

汉武帝迁淮南厉王于蜀巴，道病死。人歌曰：“一尺布，尚可缝；一斗米，尚可舂。兄弟二人不相容。”

《韩子》：齐王好竽，每欲听，必三百人齐吹之，南郭先生，不知竽者。滥求百人中，吹竽食禄。宣王薨后，王即位，曰：“寡人好听竽，欲一一吹之。”南郭先生断而退逃。今冒禄者，亦多如此。

补 佚

晋武帝哭羊祜，冬月涕泗交下，凝须为冰。

《东方朔内传》云：秦并六国，太白星窃织女侍儿梁玉清、卫承庄，逃入卫城少仙洞，四十六日不出。天帝怒，命五岳搜捕焉。太白归位。卫承庄逃焉。梁玉清有子名休，玉清滴于北斗下，常春；其子乃配于河伯，骖乘行雨。子休每至少仙洞，耻其母淫奔之所，辄回驭，故此地常少雨焉。

淮南有居客卢要者，气质文学，俱为郡中绝。人悉以卢三郎呼之。但甚奇蹇，若在群聚中，主人必有横祸，或小儿堕井，幼女入火，既久有验。人皆捐之。时元伯和为郡守，始至，爱其材气，特开中堂设宴，众客咸集。食毕，伯和戏问左右曰：“小儿堕井乎？”曰：“否。”“小女入火乎？”曰：“否。”伯和谓坐客曰：“众君不胜故也。”顷之合饮，群客相目，惴惴然。是日，军吏围宅，擒伯和弃市。时节度使陈少游甚异之，复见其才貌，谓曰：“此人一举，非摩天不尽其才。”即厚与金帛宠荐之。行至潼关，西望烟尘，有东驰者曰：“朱泚作乱，上幸奉天县矣。”

扬州西灵塔，中国之尤峻峙者。唐武宗末，拆寺之前一年，有淮南词客刘隐之薄游明州，梦中如泛海，见塔东渡海，时见门僧怀信居塔三层，凭阑与隐之言，曰：“暂送塔过东海，旬日而还。”数日，隐之归扬州，即访怀信。信曰：“记海上相见时否？”隐之了然



省记。数夕后，天火焚塔俱尽，白雨如泻。旁有草堂，一无所损。

陈霸先未贵时，有直阁史史溥，梦有人朱衣执玉简，自天而降。简上金字书曰：“陈氏五世，三十四年。”及后主降隋，史溥尚在。

李源，洛城北惠林寺住。以其父愷为禄山所害，誓不履人事，不婚，不役僮仆。暮春之际，荫树独处，有一少年，扶弹而至，源爱其风秀，与之驯狎，问其氏行，但曰“武十三”。其依阿，不甚显扬。讯其所居，或东、或西、或南、或北不定。源叔父为福建观察使，源修觐礼；武生亦云有事东去。同舟共载，行及宋之谷熟桥，携手登岸，武曰：“与子决矣。”源惊讯之，即曰：“某非世人也。为国掌阴兵百有余年，凝结此形。今夕，托质于张氏为男子，十五得明经，后终邑令。”又云：“子之禄亦薄，年登八十，朝廷当以谏议大夫征。后二年，当卒矣。我后七年，复与君相见。”言讫，抵村户，执手分袂。既而张氏举家惊喜，新妇诞一男。源累载放迹闽南，及还，省前事，复诣村户。见一童儿形貌类武者，乃呼曰：“武十三相识耶？”答曰：“李七健乎？”其后宪宗读国史，感叹李愷、卢奕之事，有荐源名，遂以谏议大夫征。不起。明年，源卒于惠林寺。张终于宣州广德县令。

宝历二年，崔从镇淮南。五月三日，瓜步镇申浙右试竞渡船十艘，其三船平没于金山下，一百五十人俱溺死。从见申纸叹愤。时军司马皇甫曙入启事，与从同异之。座有宋生归儒者语曰：“彼之祸不及怪也，此亦有之，人数相类，但其死不同耳。”浹日，有大宴，陈于广场，百戏俱呈。俄暴风雨，庭前戏者并马数百匹，系在庇下，迅雷一震，马皆惊奔，大庑数十间平塌。凡居其下者俱压死。公令较其数，与浙右无一人差焉。

管宁辽东三十七年，归柩而阻海风，同行数十船俱没。惟宁船望见火光，投之，得岛屿。及上岸，无火亦无人。玄晏先生以为积善之感。

宋则家奴执弩弦断，误杀其子。则不之罪。

陈子昂，蜀射洪人。十年居京师，不为人知。时东市有卖胡琴者，其价百万，日有豪贵传视，无辨者。子昂突出于众，谓左右：“可辇千缗市之。”众咸惊，问曰：“何用之？”答曰：“余善此乐。”或有好事者曰：“可得一闻乎？”答曰：“余居宜阳里。”指其第处。“并具有酒，明日专候。不唯众君子荣顾，且各宜邀召闻名者齐赴，乃幸遇也。”来晨，集者凡百余人，皆当时重誉之士。子昂大张宴席，具珍羞。食毕，起捧胡琴，当前语曰：“蜀人陈子昂有文百轴，驰走京毂，碌碌尘土，不为人所知。此乐，贱工之役，岂愿留心哉！”遂举而弃之。昇文轴两案，遍赠会者。会既散，一日之内，声华溢都。时武攸宜为建安王，辟为记室。后拜拾遗。归觐，为段简所害。

蜀将关羽善抚士卒而轻士大夫，张飞敬礼士大夫而轻卒伍，二将俱不得其中，亦不得其死。

周世，东海之上，有勇士留丘诩，以勇闻于天下。过神泉，令饮马。其仆曰：“饮马于此者，马必死。”丘诩曰：“以丘诩之言，饮之。”其马果死。丘诩乃去衣拔剑而入。三日三夜，杀二蛟一龙而出。雷神随之击之，十日十夜，眇其左目。要离闻而往见之。丘诩



出送有丧者，要离往见丘诩于墓所，曰：“雷神击子，十日十夜，眇子左目。夫天怨不旋日，人怨不旋踵。子至今弗报，何也？”叱之而去。墓上振愤者不可胜数。要离归，谓人曰：“蚩丘诩，天下勇士也。今日我辱之于众人之中，必来杀我。暮无闭门，寝无闭户。”丘诩至夜半果来。拔剑柱颈曰：“子有死罪三：辱我于众人之中，死罪一也；暮无闭门，死罪二也；寝不闭户，死罪三也。”要离曰：“子待我一言而后杀也。子来不谒，一不肖也；拔剑不刺，二不肖也；刃先词后，三不肖也。子能杀我者，是毒药之死耳。”丘诩收剑而去，曰：“嘻！天下所不若者，唯此子耳。”

晋桓石虔有材干，赳捷绝伦。随父豁在荆州，于猎围中，见猛虎被数箭而伏。诸督将素知其勇，戏令拔箭。石虔因急往，拔一箭，猛虎踞跃，石虔亦跳，高于猛兽。复拔一箭而归。时人有患疾者，谓曰：“桓石虔来。”以怖之，病者多愈。

北齐将彭乐勇猛无双。时神武率乐等十余万人，于沙苑与宇文护战。时乐饮酒，乘醉深入。被刺，肝肚俱出，内之不尽，截去之。复入战。护兵遂败，相枕籍死者三万余人。

唐朝承周隋离乱，乐悬散失，独无征音。国姓所阙，知者不敢言达其事。天后末，御史大夫李嗣真密求之不得，一旦秋爽，闻砧声者在今鸳鸯，是当时英公宅。又数年，无由得之。其后徐敬业反，天后溺其宫。嗣真乃求得丧车一辇，人振之于东南隅，果有应者。遂掘之，得石一段。裁为四具，补乐悬之阙。后享宗庙郊天，挂簋虞者，乃嗣真所得也。

鲍瑗家多丧及病，淳于智为筮之。卦成云：“宜入市门数十步，有一人持荆马鞭，便就买取，悬东北桑树上。无病，三年当得财。”如其言。后穿井得钱及铜器二十万。

唐李佐，山东名族。少时因安史之乱，失其父。后佐进士擢第，有令名，官为京兆少尹。阴求其父。有识者告后，往迎之于鬻凶器家。归而奉养，如是累月。一旦，父召佐，谓曰：“汝孝行绝世。然吾三十年在此党中，昨从汝来，未与流辈谢绝。汝可具大猪五头，白醪数斛，蒜薹数瓮，薄饼十拌，开设中堂，吾与群党一酌申款，则无恨矣。”佐恭承其教，数日乃具。父散召两市善殪歌者百人至。初则列坐堂中，久乃杂讴，及暮皆醉。众扶佐父登榻，而殪歌一声，凡百齐和。俄然相扶父出，不知所在。行路观者亿万。明日，佐弃家人入山，数日而卒。

唐长庆、太和中，王初、王哲，俱中科名。其父仲舒显于时。二子初宦，不为秘书省官，以家讳故也。既而私相议曰：“若遵典礼避私讳，而吾昆弟不得为中书舍人、中书侍郎、列部尚书。乃相与改讳，只言仲字可矣。”又为宣武军掌书记。识者曰：“二子逆天忤神，不永。”未几相次殒谢。

至德元年，史思明未平，卫州有妇人侯四娘等三人，刺血谒于军前，愿入义营讨贼。

王凝之妻谢道韞。王献之与客谈义不胜，道韞遣婢白曰：“请与小郎解围。”乃施青绂步障自蔽，与客谈。客不能屈。

北齐侍御史李广，博览群书，修史。夜梦一人曰：“我心神也。君役我太苦，辞去。”俄而广疾卒。



隋文帝未贵时，常舟行江中。夜泊中，梦无左手。及觉，甚恶之。及登岸，诣一草庵。中有一老僧，道极高。具以梦告之。僧起贺曰：“无左手者，独拳也。当为天子。”后帝兴建此庵为吉祥寺。居武昌下三十里。

贞元中，吴郡进士李赤者，与赵敏之相同游闽。行及衢之信安，去县三十里，宿于馆厅。宵分，忽有一妇人入庭中。赤于睡中蹶起下阶，与之揖让。良久即上厅，开篋取纸笔，作一书与其亲，云：“某为郭氏所选为婿。”词旨重叠，訖，乃封于篋中。复下庭，妇人抽其巾继之。敏之走出大叫，妇人乃收巾而走。及视其书，如赤梦中所为。明日，又偕行。南次建中驿，白昼又失赤。敏之即遽往厠，见赤坐于床，大怒敏之曰：“方当礼谢，为尔所惊。”浹日至闽，属寮有与赤游旧者，设宴饮次，又失赤。敏之疾索于厠，见赤僵仆于地，气已绝矣。

唐大历元年，周智光为华州刺史，劫剥行侣，旋欲谋反。遣吏邵进，潜往京，伺朝廷御伐之意。进归，告曰：“朝廷无疑公之心。”光怒，以其叶朝廷而给于己，遽命斩之。既而甚悔，速遣送其首付妻儿。妻即以针纫颈。俄顷复活，以药傅之。然犹惧智光。使人告光曰：“进本蒲人，今欲归葬。”光亦赐贖之。既至蒲，浹旬，其疮平愈。乃改姓他游。后三十年，崔顺为宋州牧，晨衙，有一人投刺，曰：“敕吏。”顺召见，讯其由。进曰：“明公昔为周智光从事。”因叙其本末。顺乃省悟，与嫌帛。揖之而去。

汉夏侯侯以功封滕公。及死将葬，未及墓，引车马踏地不前。使人掘之，得一石室。室中有铭曰：“佳城郁郁，三千年见白日。吁嗟！滕公居此室。”遂改卜焉。

李灌者，不知何许人。性孤静。常次洪州建昌县，倚舟于岸。岸有小蓬室，下有一病波斯。灌悯其将尽，以汤粥给之。数日而卒。临绝，指所卧黑毡曰：“中有一珠，可径寸。”将酬其惠。及死，毡有微光溢耀。灌取视得珠。买棺葬之，密以珠内胡口中，植木志墓。其后十年，复过旧邑。时杨凭为观察使，有外国符牒，以胡人死于建昌逆旅，其粥食之家，皆被梏讯经年。灌因问其罪，囚具言本末。灌告县寮，偕往郭掘伐树，树已合拱矣。发棺视死胡，貌如生，乃于口中探得一珠还之。其夕，棹舟而去，不知所往。

陇州吴山县，有一人乘白马夜行，凡县人皆梦之语曰：“我欲移居，暂假尔牛。”言訖即过。其夕，数百家牛及明皆被体汗流如水。于县南山曲出一湫，方圆百余步。里人以此湫因牛而迁，谓之“特牛湫”也。

齐丘公时，有里征者，讼三年而狱不决。公乃使二人具一羊，诅于社。二子将羊而刺之，洒其血，羊起触二子，殪于盟所。

梁夏侯壹为九列，家贫而好置乐。妓无衣装饰，客至，即令隔帘奏曲。时人以帘为夏侯妓衣。

尉迟敬德善夺槊，齐王元吉亦善用槊，高祖于显德殿前试之，谓敬德曰：“闻卿善夺槊，令元吉执槊去刃。”敬德曰：“虽加刃，亦不能害。”于是加刃。顷刻之际，敬德三夺之，元吉大惭。



李适之人仕，不历丞簿，便为别驾；不历两畿官，便为京兆尹；不历御史及中丞，便为大夫；不为两省给舍，便为宰相；不历刺史，便为节度使。

贺知章乘醉赋诗，问左右曰：“纸多少？”纸尽诗穷。

长兴于相惊与举人裴丘友善。丘有一古镜，所常宝者。棕布素时，曾一照，分明见有朱衣吏导从。他皆类此。其镜旋亦坠矣。

丞相邹平公段文昌，负才傲俗，落泊荆楚间。尝半酣，羈履于江陵大街往来，雨霁泥甚，街侧有大宅枕渠，公乘醉于渠上脱履濯足，旁若无人。自言：“我作江陵节度使，必买此宅。”闻者皆笑。其后果镇荆南，遂买此宅。

崔圆微时，欲举进士，于魏县见李含章。云：“君合武举出身，官更不停，直至宰相。”开元二十三年，应将帅举，又于河南充乡贡进士。其日于福唐观试，遇敕下便于试场中召拜执戟，参谋河西军事。后官果不停，不逾二十年拜中书令、赵国公。又圆常作司勋员外，初释服，往见会昌寺克慎师，师笑云：“人皆自台入省，公乃自省入台。从此常合在枪槊中，后当大贵。”无何为刑部员外郎兼侍御史，充剑南节度。后入剑门，每行常有兵戈，未逾一年，便致勋业。崔入蜀，常自说其如此。

附录

唐许敬宗奢豪，尝造飞楼七十间，令妓女走马于其上，以为戏乐。

大历中，将作少匠韩晋卿女，适尚衣奉御韦隐。隐奉使新罗，行及一程，怆然有思，因就寝，乃觉其妻在帐外，惊问之。答曰：“慙君涉海，志愿奔而随之。人无知者。”隐即诈左右曰：“欲纳一妓，将侍枕席。”人无怪者。及归，已二年。妻亦随至。隐乃启舅姑，首其罪。而室中宛存焉。及相近，翕然合体。其从隐者，乃魂也。

晋羊祜三岁时，乳母抱行，乃令于东邻树孔中探得金环。东邻之人云：“吾儿七岁堕井死。曾弄金环，失其处所。”乃验祜前身，东邻子也。

唐敦煌李鹞，开元中，为邵州刺史，挈家之任，泛洞庭，时晴景，登岸，因鼻衄，血沙上，为江鼉所舐。俄然复生一鹞，其形体衣服言语，与其身无异。鹞之本身，为鼉法所制，繫于水中。其妻子家人迎奉鼉妖就任。州人亦不能觉悟。为郡凡数年。因天下大旱，西江可涉，道士叶静能自罗浮山赴玄宗急诏，过洞庭，忽沙中见一人面缚，问曰：“君何为者？”鹞以状对。静能书一符帖巨石上，石即飞起空中。鼉妖方拥案晨衙，为巨石所击，乃复本形。时张说为岳州刺史，具奏，并以舟楫送鹞赴郡，家人妻子乃信。今舟行者，相戒不沥血于波中，以此故也。



隋唐嘉话

〔唐〕刘餗 撰

卷 上

述曰：余自髫髻之年，便多闻往说，不足备之大典，故系之小说之末。昔汉文不敢更先帝约束而天下理康，若高宗拒乳母之言，近之矣。曹参择吏必于长者，惧其文害。观焉马周上事，与曹参异乎？许高阳谓死命为不能，非言所也。释教推报应之理，余尝存而不论。若解奉先之事，何其明著。友人天水赵良玉睹而告余，故书以记异。

薛道衡聘陈，为人日诗云：“人春才七日，离家已二年。”南人嗤之曰：“是底言？谁谓此虏解作诗！”及云：“人归落雁后，思发在花前。”乃喜曰：“名下固无虚士。”

隋高颖仆射，每以盘盛粉置于卧侧，思得一公事，辄书其上。至明，则录以入朝行之。

京城南隅芙蓉园者，本名曲江园，隋文帝以曲名不正，诏改之。

李德林为内史令，与杨素共执隋政。素功臣奢侈，后房妇女，锦衣玉食千人。德林子百药夜入其室，则其宠妾所召也。素俱执于庭，将斩之。百药年未二十，仪神俊秀，素意惜之，曰：“闻汝善为文，可作诗自叙。称吾意，当免汝死。”后解缚，授以纸笔，立就。素览之欣然，以妾与之，并资从数十万。

炀帝善属文，而不欲人出其右。司隶薛道衡由是得罪，后因事诛之，曰：“更能作‘空梁落燕泥’否？”

炀帝为《燕歌行》，文士皆和，著作郎王胄独不下帝，帝每衔之。胄竟坐此见害，而诵其警句曰：“‘庭草无人随意绿’，复能作此语耶？”

仆射苏威有镜殊精好，曾日蚀既，镜亦昏黑无所见。威以为左右所污，不以为意。他日日蚀半缺，其镜亦半昏如之，于是始宝藏之。后柜内有声如磬，寻之乃镜声也。无何而子夔死。后更有声，无何而威败。后不知所在云。

洛阳南市，即隋之丰都市也。初筑外垣之时，掘得一冢，无砖甃，棺中有尸，上着平



上愤朱衣，铭云：“筮言居朝，龟言近市，五百年间，于斯见矣。”校其年月，当魏黄初二年。

隋文帝梦洪水没城，意恶之，乃移都大兴。术者云：“洪水，即唐高祖之名也。”

平阳公主闻高祖起义太原，乃于鄠司竹园招集亡命以迎军，时谓之“娘子兵”。

秦王府仓曹李守素，尤精谱学，人号为“肉谱”。虞秘书世南曰：“昔任彦升善谈经籍，时称为‘五经笥’，宜改仓曹为‘人物志’”。

隋司隶薛道衡子收，以文学为秦王府记室，早亡，太宗追悼之，谓梁公曰：“薛收不幸短命，若在，当以中书令处之。”

太宗将诛萧墙之恶，以匡社稷，谋于卫公李靖，靖辞。谋于英公徐勣，勣亦辞。帝以是珍此二人。

太宗宴见卫公，常呼为兄，不以臣礼。初嗣位，与郑公语恒自名，由是天下之人归心焉。

太宗每见人上书有所裨益者，必令黏于寝殿之壁，坐卧观览焉。

太宗每谓人曰：“人言魏征举动疏慢，我但觉其妩媚耳。”贞观四载，天下康安，断死刑至二十九人而已。户不夜闭，行旅不赍粮也。

太宗谓群臣曰：“始人皆言当今不可行帝王道，唯魏征劝我，今遂得功业如此，恨不得使封德彝等见之。”

卫公既灭突厥，斥境至于大漠，谓太宗曰：“陛下五十年后，当忧北边。”高宗末年，突厥为患矣。突厥之平，仆射温彦博请其种落于朔方以实空虚之地，于是人居长安者且万家。郑公以为夷不乱华，非久远策，争论数年不决。至开元中，六胡州竟反叛，其地复空也。

卫公始困于贫贱，因过华山庙，诉于神，且请告以位宦所至，辞色抗厉，观者异之。伫立良久乃去，出庙门百许步，闻后有大声曰：“李仆射好去。”顾不见人。后竟至端揆。隋大业中，卫公上书，言高祖终不为人臣，请速除之。及京师平，靖与骨仪、卫文升等俱收。卫、骨既死，太宗虑囚，见靖与语，固请于高祖而免之。始以白衣从赵郡王南征，静巴汉，擒萧铣，荡一扬、越，师不留行，皆靖之力。武德末年，突厥至渭水桥，控弦四十万，太宗初亲庶政，驿召卫公问策。时发诸州军未到，长安人，胜兵不过数万。胡人精骑腾突挑战，日数十合，帝怒，欲击之。靖请倾府库赂以求和，潜军邀其归路。帝从其言，胡兵遂退。于是据险邀之，虏弃老弱而遁，获马数万匹，玉帛无遗焉。

隋吏部侍郎高孝基，铨人至梁公房、蔡公杜，愕然端视良久，降阶与之抗礼，延入内厅，共食甚恭，曰：“二贤当为兴王佐命，位极人臣，杜年寿稍减于房耳。愿以子孙相托。”贞观初，杜薨于右仆射，房位至司徒，秉政三十余载。

太宗之为秦王，府僚多被迁夺，深患之。梁公曰：“余人不足惜，杜如晦聪明识达，王佐才也。”帝大惊，由是亲宠日笃。杜仆射薨后，太宗食瓜美，怆然思之，遂辍其半，



使置之于灵座。

郑公尝拜扫还，谓太宗：“人言陛下欲幸山南，在外悉装了，而竟不行，因何有此消息。”帝笑曰：“时实有此心，畏卿嗔遂停耳。”

太宗曾罢朝，怒曰：“会杀此田舍汉！”文德后问：“谁触忤陛下？”帝曰：“岂过魏征，每廷争辱我，使我常不自得。”后退而具朝服立于庭，帝惊曰：“皇后何为若是？”对曰：“妾闻主圣臣忠。今陛下圣明，故魏征得直言。妾幸备数后宫，安敢不贺？”

太宗得鹞，绝俊异，私自臂之，望见郑公，乃藏于怀。公知之，遂前白事，因语古帝王逸豫，微以讽谏。语久，帝惜鹞且死，而素严敬征，欲尽其言。征语不时尽，鹞死怀中。

太宗谓梁公曰：“以铜为镜，可以正衣冠；以古为镜，可以知兴替；以人为镜，可以明得失。朕尝宝此三镜，用防己过。今魏征殁逝，遂亡一镜矣。”

太宗令卫公教侯君集兵法。既而君集言于帝曰：“李靖将反。至于微隐之际，辄不以示臣。”帝以让靖，靖曰：“此君集反耳。今中夏义安，臣之所教，足以制四夷矣，而求尽臣之术者，是将有他心焉。”

卫公为仆射，君集为兵部尚书，自朝还省，君集马过门数步不觉，靖谓人曰：“君集意不在人，必将反矣。”

太宗中夜闻告侯君集反，起绕床而步，亟命召之，以出其不意，既至，曰：“臣常侍陛下幕府左右，乞留小子。”帝许之。流其子岭南为奴。

侯君集既诛，录其家，得二美人，容色绝代。太宗问其状，曰：“自尔已来，常食人乳而不饭。”

又君集之破高昌，得金簪二甚精，御府所无，亦隐而不献，至时并得焉。

英公始与单雄信俱臣李密，结为兄弟。密既亡，雄信降王充，勤来归国。雄信壮勇过人。勤后与海陵王元吉围洛阳，元吉恃其膂力，每亲行围。王充召雄信告之，酌以金碗，雄信尽饮，驰马而出，枪不及海陵者尺。勤惶遽，连呼曰：“阿兄阿兄，此是勤主。雄信挽辔而止，顾笑曰：“胡儿不缘你，且了竟。”充既平，雄信将就戮，英公请之不得，泣而退。雄信曰：“我固知汝不了此。”勤曰：“平生誓共为灰土，岂敢念生，但以身已许国，义不两遂。虽死之，顾兄妻子何如？”因以刀割其股，以肉啖雄信曰：“示无忘前誓。”雄信食之不疑。

英公虽贵为仆射，其姊病，必亲为粥，釜燃辄焚其须。姊曰：“仆妾多矣，何为自苦如此？”勤曰：“岂为无人耶！顾今姊年老，勤亦年老，虽欲久为姊粥，复可得乎？”

英公尝言：“我年十二三为无赖贼，逢人则杀；十四五为难当贼，有所不快者，无不杀之；十七八为好贼，上阵乃杀人；年二十，便为天下大将，用兵以救人死。”

鄂公尉迟敬德，性骁果而尤善避槊。每单骑入敌，人刺之，终不能中，反夺其槊以刺敌。海陵王元吉闻之不信，乃令去槊刃以试之。敬德云：“饶王著刃，亦不畏伤。”元吉再



三来刺，既不少中，而槊皆被夺去。元吉力敌十夫，由是大渐恨。太宗之御宴建德，谓尉迟公曰：“寡人持弓箭，公把长枪相副，虽百万众亦无奈我何。”乃与敬德驰至敌营，叩其军门大呼曰：“我大唐秦王，能斗者来，与汝决。”贼追骑甚众，而不敢逼。御建德之役，既陈未战，太宗望见一少年，骑驄马，铠甲鲜明，指谓尉迟公曰：“彼所乘马，真良马也。”言之未已，敬德请取之，帝曰：“轻敌者亡，脱以一马损公，非寡人愿。”敬德自料致之万全，及驰往，并擒少年而返，即王充兄子伪代王琬。宇文士及在隋，亦识是马，实内厩之良也。帝欲旌其能，并以赐之。

太宗将征辽，卫公病不能从，帝使执政以起之，不起。帝曰：“吾知之矣。”明日驾临其第，执手与别，靖谢曰：“老臣宜从，但犬马之疾，日月增甚，恐死于道路，仰累陛下。”帝抚其背曰：“勉之，昔司马仲达非不老病，竟能自强，立勋魏室。”靖叩头曰：“老臣请举病行矣。”至相州，病笃不能进。驻蹕之役，高丽与靺鞨合军，方四十里，太宗望之有惧色。江夏王进曰：“高丽倾国以抗王师，平壤之守必弱，假臣精卒五千，覆其本根，则数十万之众，可不战而降。”帝不应。既合战，为贼所乘，殆将不振，还谓卫公曰：“吾以天下之众，困于蕞尔之夷，何也？”靖曰：“此道宗所解。”时江夏在侧，帝顾之，道宗具陈前言，帝怅然曰：“时匆遽不忆也。”驻蹕之役，六军为高丽所乘，太宗命视黑旗——英公之麾也，候者告黑旗被围，帝大恐。须臾复曰围解，高丽哭声动山谷，勤军大胜，斩首数万，俘虏亦数万。

郑公之薨，太宗自制其碑文并自书，后为人所间，诏令仆之。及征高丽不如意，深悔为是行，乃叹曰：“若魏征在，不使我有此举也。”既渡辽水，令驰驿祀以少牢，复立碑焉。

征辽之役，梁公留守西京，敕以便宜从事不请。或诣留台称有密者，梁公问密谋所在，对曰：“公则是也。”乃驿递赴行所，及车驾于相州。太宗闻留守有表送告人，大怒，使人持长刀于前，而后见之，问反者为谁，曰：“房玄龄。”帝曰：“果然！”叱令斩腰，玺书责梁公以不能自任，更有如此者，得专断之。

太宗尝止一树下，曰：“此嘉树。”宇文士及从而美之不容口，帝正色曰：“魏公常劝我远佞人，我不悟佞人为谁，意常疑汝而未明也，今日果然。”士及叩头谢曰：“南衙群官，面折廷争，陛下尝不得举手，今臣幸在左右，若不少有顺从，陛下虽贵为天子，复何聊乎？”帝意复解。

太宗使宇文士及割肉，以饼拭手，帝屡目焉，士及佯为不悟，更徐拭而便啖之。

赵公宴朝贵，酒酣乐阙，顾群公曰：“无忌不才，幸遇休明之运，因缘宠私，致位上公，人臣之贵，可谓极矣。公视无忌富贵何与越公？”或对为不如，或谓过之。曰：“自揣诚不美越公，所不及越公一而已。越公之贵也老，而无忌之贵也少。”

武卫将军秦叔宝，晚年常多疾病，每谓人曰：“吾少长戎马，经三百余战，计前后出血不啻数斛，何能无病乎？”



秦武卫勇力绝人，其所将枪逾越常制。初从太宗围王充于洛阳，驰马顿之城下而去，城中数十人，共拔不能动，叔宝复驰马举之以还。迄今国家每大陈设，必列于殿庭，以旌异之。

卷 中

太宗令虞监写《列女传》以装屏风，未及求本，乃暗书之，一字无失。

太宗将致樱桃于酈公，称奉则以尊，言赐又以卑，乃问之虞临。曰：“昔梁帝遗齐巴陵王称餉。”遂从之。

太宗尝出行，有司请载副书以从，上曰：“不须。虞世南在，此行秘书也。”

太宗称虞监，博闻、德行、书翰、词藻、忠直，一人而已，兼是五善。

太宗闻虞监亡，哭之恸，曰：“石渠、东观之中，无复人矣。”

虞公之为秘书，于省后堂集群书中事可为文用者，号为《北堂书钞》。今此堂犹存，而《书钞》盛行于代。

太史令李淳风校新历成，奏太阳合日蚀当既，于占不吉。太宗不悦，曰：“日或不蚀，卿将何以自处？”曰：“有如不蚀，则臣请死之。”及期，帝候日于庭，谓淳风曰：“吾放汝与妻子别。”对以尚早一刻，指表影曰：“至此蚀矣。”如言而蚀，不差毫发。

李太史与张文收率更坐，有暴风自南而至，李以南五里当有哭者，张以为有音乐。左右驰马观之，则遇送葬者，有鼓吹焉。

润州得玉磬十二以献，张率更叩其一，曰：“是晋某岁所造也。是岁闰月，造者法月，数当十三，今缺一。宜于黄钟东九尺掘，必得焉。”敕州求之，如其言而得之。

贞观中，景云见，河水清，张率更以为《景云河水清歌》，名曰燕乐，今元会第一奏是也。

太宗之平刘武周，河东士庶歌舞于道，军人相与为《秦王破阵乐》之曲，后编乐府云。

《破阵乐》，被甲持戟，以象战事。《庆善乐》，广袖曳屣，以象文德。郑公见奏《破阵乐》，则俯而不视；《庆善乐》，则玩之而不厌。

太宗阅医方，见《明堂图》，人五脏之系，咸附于背，乃怆然曰：“今《律》杖、笞，奈何令脾背分受？”乃诏不得笞背。

贞观中，有河内人妄为妖言，大理丞张蕴古以其素狂病，不当坐。太宗以有情，令斩之，寻悔，以无所及。自后每决死刑，皆令五复奏。

梁公以度支之司，天下利害，郎曹当阙，求之未得，乃自职之。

张宾客文瑾之为大理，获罪者皆曰：“张卿所罚，不为枉也。”

中书令马周，始以布衣上书，太宗览之，未及终卷，三命召之。所陈世事，莫不施



行。旧诸街晨昏传叫，以警行者，代之以鼓，城门入由左，出由右：皆周法也。

旧官人所服，惟黄、紫二色而已。贞观中，始令三品以上服紫，四品以上朱，六品、七品绿，八品、九品以青焉。

贞观中，拣材力骁捷善射者，谓之“飞骑”。上出游幸，则衣五色袍，乘六闲马，猛兽皮鞞以从。

李义府始召见，太宗试令咏乌，其末句云：“上林多许树，不借一枝栖。”帝曰：“吾将全树借汝，岂惟一枝。”

宋谢朓诗云：“芳洲多杜若。”贞观中，医局求杜若，度支郎乃下坊州令贡。州判司报云：“坊州不出杜若，应由谢朓诗误。”太宗闻之大笑。判司改雍州司法，度支郎免官。

太宗病甚，出英公为叠州刺史，谓高宗曰：“李勣才智有余，屡更大任，恐其不厌伏于汝，故有此授。今若即发者，我死后，可亲任之。如迟疑顾望，便当杀之。”勣奉诏，不及家而行。

有晨梟鸣于张率更庭树，其妻以为不祥，连睡之。文收云：“急洒扫，吾当改官。”言未毕，贺者已在门。

贞观中，西域献胡僧，咒术能死生人。太宗令于飞骑中拣壮勇者试之，如言而死，如言而苏。帝以告太常卿傅奕，奕曰：“此邪法也。臣闻邪不犯正，若使咒臣，必不得行。”帝召僧咒奕，奕对之，初无所觉。须臾，胡僧忽然自倒，若为所击者，便不复苏。

贞观中有婆罗僧，言得佛齿，所击前无坚物。于是士马奔湊其处如市。时傅奕方卧病，闻之，谓其子曰：“是非佛齿。吾闻金刚石至坚，物不能敌，惟羚羊角破之。汝可往试之焉。”胡僧絨膝甚严，固求良久，乃得见。出角叩之，应手而碎，观者乃止。今璚珠玉者皆用之。

阎立本家代善画。至荆州视张僧繇旧迹，曰：“定虚得名耳。”明日又往，曰：“犹是近代佳手。”明日更往，曰：“名下定无虚士。”坐卧观之，留宿其下，十日不能去。张僧繇始作《醉僧图》，道士每以此嘲僧，群僧耻之，于是聚钱数十万，买阎立本作《醉道士图》，今并传于代。

率更令欧阳询，行见古碑，索靖所书，驻马观之，良久而去。数百步复还，下马伫立，疲则布毯坐观，因宿其旁，三日而后去。

贞观初，林邑献火珠，状如水精。云得于罗刹国。其人朱发黑身，兽牙鹰爪也。

太宗宴近臣，戏以嘲谑，赵公无忌嘲欧阳率更曰：“耸膊成山字，埋肩不出头。谁家麟阁上，画此一猕猴？”询应声云：“缩头连背暖，佞裆畏肚寒。只由心潺潺，所以面团团。”帝改容曰：“欧阳询岂不畏皇后闻？”赵公，后之兄也。

高开道作乱幽州，矢陷其颊，召医使出之，对以镞深不可出，则俾斩之。又召一人，如前对，则又斩之。又召一人如前，曰：“可出，然王须忍痛。”因铍面凿骨，置楔于其间，骨裂开寸余，抽出箭镞。开道奏伎进膳不辍。



太宗之征辽，作飞梯临其城，有应募为梯首，城中矢石如雨，而竞为先登，英公指谓中书舍人许敬宗曰：“此人岂不大健？”敬宗曰：“健即大健，要是不解思量。”帝闻，将罪之。

太宗谓鄂公曰：“人言卿反，何故？”答曰：“臣反是实。臣从陛下讨逆伐叛，虽凭威灵，幸而不死，然所存皆锋刃也。今大业已定，而反疑臣。”乃悉解衣投于地，见所伤之处，帝对之流涕，曰：“卿衣矣，朕以不疑卿，故此相告，何反以为恨？”

太宗谓尉迟公曰：“朕将嫁女与卿，称意否？”敬德谢曰：“臣妇虽鄙陋，亦不失夫妻情。臣每闻说古人语：‘富不易妻，仁也。’臣窃慕之，愿停圣恩。”叩头固让。帝嘉之而止。

薛万彻尚丹阳公主，太宗尝谓人曰：“薛驸马村气。”主羞之，不与同席数月。帝闻而大笑，置酒召对，握槊，赌所佩刀子，佯为不胜，解刀以佩之。罢酒，主悦甚，薛未及就马，遽召同载而还，重之逾于旧。

梁公夫人至妒，太宗将赐公美人，屡辞不受。帝乃令皇后召夫人，告以媵妾之流，今有常制，且司空年暮，帝欲有所优诏之意。夫人执心不回。帝乃令谓之曰：“若宁不妒而生，宁妒而死？”曰：“妾宁妒而死。”乃遣酌卮酒与之，曰：“若然，可饮此。”一举便尽，无所留难。帝曰：“我尚畏见，何况于玄龄！”

许敬宗性轻傲，见人多忘之。或谓其不聪，曰：“卿自难记，若遇何、刘、沈、谢，暗中摸索著，亦可识。”

虞监草行，本师于释智永。尝楼上学书，业成方下，其所弃笔头至盈瓮。

褚遂良问虞监曰：“某书何如永师？”曰：“闻彼一字，直钱五万，官岂得若此？”曰：“何如欧阳询？”曰：“闻询不择纸笔，皆能如志，官岂得若此。”褚患曰：“既然，某何更留意于此？”虞曰：“若使手和笔调，遇合作者，亦深可贵尚。”褚喜而退。

褚遂良贵显，其父亮尚在，乃别开门。敕尝有以赐遂良，使者由正门而入，亮出曰：“渠自有门。”

褚遂良为太宗哀册文，自朝还，马误入人家而不觉也。

太宗征高丽，高宗留居定州，请驿递表起居。飞奏事自此始。

高宗之将册武后，河南公褚遂良谋于赵公无忌、英公勣，将以死谏，赵公请先入，褚曰：“太尉，国之元舅，脱事有不如意，使上有怒舅之名，不可。”英公曰：“劝请先入。”褚曰：“司空，国之元勋，有不如意，使上有罪功臣之名，不可。遂良出自草茅，无汗马功，蒙先帝殊遇，以有今日，且当不讳之时，躬奉遗诏，不效其愚衷，何以见先帝？”揖二公而入。帝深纳其言，事遂中寝。

王义方，时人比之覆瓿，郑公每云：“王生太直。”高宗朝，李义府引为御史。义府以定册武后勋，恃宠任势，王恶而弹之，坐是见贬，坎坷以至于终矣。

薛中书元超谓所亲曰：“吾不才，富贵过分，然平生有三恨：始不以进士擢第，不得



娶五姓女，不得修国史。”

有患应声病者，问医官苏澄，云：“自古无此方。今吾所撰《本草》，网罗天下药物，亦谓尽矣。试将读之，应有所觉。”其人每发一声，腹中辄应，唯至一药，再三无声。过至他药，复应如初。澄因为处方，以此药为主，其病自除。

杨弘武为司戎少常伯，高宗谓之：“某人何因辄受此职？”对曰：“臣妻韦氏性刚悍，昨以此人见囑。臣若不从，恐有后患。”帝嘉其不隐，笑而遣之。

卢尚书承庆，总章初考内外官。有一官督运，遭风失米，卢考之曰：“监运损粮，考中下。”其人容止自若，无一言而退。卢重其雅量，改注曰：“非力所及，考中中。”既无喜容，亦无愧词。又改注曰：“宠辱不惊，考中上。”

司御梁孝仁，高宗时造蓬莱宫，诸庭院列树白杨。将军契苾何力，铁勒之渠率也，于宫中纵观。孝仁指白杨曰：“此木易长，三数年间宫中可得荫映。”何力一无所应，但诵古诗云：“白杨多悲风，萧萧愁杀人。”意谓此是冢墓间木，非宫中所宜种。孝仁遽令拔去，更树梧桐也。

许高阳敬宗，奏流其子昂于岭南。及敬宗死，博士袁思古议谥曰“缪”，昂子彦伯于众中将击之，袁曰：“今为贤尊报仇，何为反怒？”彦伯惭而止。

李义府既居荣宠，葬其父祖，自京至于一原七十余里，役者相继。始国家以来，人臣丧事之盛，所未有也。

京城东有冢极高，俗谓吕不韦冢，以其锐上，亦谓之尖冢。咸亨初，布政坊法海寺有英禅师，言见鬼物，云：“秦庄襄王过其舍求食，自言是其冢，而后代人妄云不韦也。”

秘书少监崔行功，未得五品前，忽有鸛鹄衔一物入其堂，置案上而去，乃鱼袋钩铁，不数日而加大夫。

刘仁轨为左仆射，戴至德为右仆射，人皆多刘而鄙戴。有老妇陈牒，至德方欲下笔，老妇问左右曰：“此刘仆射、戴仆射？”曰：“戴仆射。”因急就前曰：“此是不解事仆射，却将牒来。”至德笑令授之。戴仆射在职无异迹，当朝似不能言，及薨，高宗叹曰：“自吾丧至德，无可复闻。当其在时，事有不是者，未尝放我过。”因索其前后所陈章奏盈筐，阅而流涕，朝廷始追重之。

高宗乳母卢，本滑州总管杜才干妻。才干以谋逆诛，故卢没入于宫中。帝既即位，封燕国夫人，品第一。卢既藉恩宠，屡诉才干枉见构陷。帝曰：“此先朝时事，朕安敢追更先朝之事。”卒不许。及卢以亡，复请与才干合葬，帝以获罪先期，亦不许之。

高宗承贞观之后，天下无事。上官侍郎仪独持国政，凌晨入朝，巡洛水堤，步月徐轡，咏诗云：“脉脉广川流，驱马历长洲。鹊飞山月晓，蝉噪野风秋。”音韵清亮，群公望之，犹神仙焉。

高宗时，司农欲以冬藏欲以冬藏余菜，卖之百姓，以墨敕示仆射苏良嗣，判曰：“昔公仪相鲁，犹拔去园葵，况临御万邦，而贩蔬鬻菜。”事竟不行。



杨汴州德干，高宗朝为万年令。有宦官恃贵宠，放鹑不避人禾稼，德干擒而杖之二十，悉拔去鬚头。宦者涕泣袒背以示于帝，帝曰：“你情知此汉狩，何须犯他百姓？”竟不问。

高宗朝，以太原王、范阳卢、荥阳郑、清河博陵二崔、陇西赵郡二李等七姓，恃其族望，耻与他姓为婚，乃禁其自姻娶。于是不敢复行婚礼，密装饰其女以送夫家。

贾嘉隐年七岁，以神童召见。时长孙太尉无忌、徐司空勤于朝堂立语。徐戏之曰：“吾所倚者何树？”曰：“松树。”徐曰：“此槐也，何得言松？”嘉隐云：“以公配木，何得非松。”长孙复问：“吾所倚何树？”曰：“槐树。”公曰：“汝不能复矫对耶？”嘉隐曰：“何烦矫对，但取其以鬼对木耳。年十一二，贞观年被举，虽有俊辩，仪容丑陋。尝在朝堂取进止，朝堂官退朝并出，俱来就看。余人未语，英国公徐勣先即诸宰贵云：“此小儿恰似獠面，何得聪明？”诸人未报，贾嘉隐即应声答之曰：“胡头尚为宰相，獠面何度聪明。”举朝人皆大笑。徐状胡故也。

高宗时，蛮群聚为寇，讨之辄不利，乃以徐敬业为刺史。州发卒郊迎，敬业尽放令还，单骑至府。贼闻新刺史至，皆缮理以待。敬业一无所问，他事已毕，方曰：“贼皆安在？”曰：“在南岸。”乃从一二佐史而往，观者莫不骇愕。贼初持兵觐望，见船中无所有，乃闭营藏隐。敬业直入其营内，使告曰：“国家知君等为贪吏所苦，非有他恶，可悉归田里。后去者为贼。”唯召其魁帅，责以早降之意，各杖数十而遣之，境内肃然。其祖英公闻之，壮其胆略，曰：“吾不办此。然破我家者必此儿。”英公既薨，高宗思平辽勋，令制其冢像高丽中三山，犹汉霍去病之祁连云。后孙敬业兵起，武后令掘平之，大雾三日不解，乃止焉。

卷 下

武后以吏部选人多不实，乃令试日自糊其名，暗考以定等第。判之糊名，自此始也。

武后时，投匭者或不陈事，而漫以嘲戏之言，于是乃置使先阅其书奏，然后投之，匭院有司，自此始也。

徐大理有功，每见武后将杀人，必据法廷争。尝与后反复，辞色愈厉，后大怒，令拽出斩之，犹回顾曰：“臣身虽死，法终不可改。”至市临刑得免，除名为庶人。如是再三，终不挫折，朝廷倚赖，至今犹怀之。其子预选，有司皆曰：“徐公之子，岂可拘以常调者乎？”

皇甫文备，武后时酷吏也，与徐大理论狱，诬徐党逆人，奏成其罪。武后特出之。无何，文备为人所告，有功讯之在宽。或曰：“彼曩时将陷公于死，今公反欲出之，何也？”徐曰：“汝所言者，私忿也；我所守者，公法也。安可以私害公？”

李昭德为内史，姜师德为纳言，相随入朝。姜体肥行缓，李屡顾待不即至，乃发怒



曰：“叵耐杀人田舍汉！”娄闻之，反徐笑曰：“师德不是田舍汉，更阿谁是？”娄师德弟拜代州刺史，将行，谓之曰：“吾以不才，位居宰相。汝今又得州牧，叨据过分，人所嫉也，将何以全先人发肤？”弟长跪曰：“自今虽有唾某面者，某亦不敢言，但拭之而已。以此自勉，庶免兄忧。”师德曰：“此适所谓为我忧也。夫前人唾者，发于怒也。汝今拭之，是恶其唾而拭之，是逆前人怒也。唾不拭将自乾，何若笑而受之？”武后之年，竟保其宠禄，率是道也。

武后初称周，恐下心不安，乃令人自举供奉官，正员外多置里行、拾遗、补阙、御史等，至有“车载斗量”之咏。有御史台令史将入台，值里行御史数人聚立门内，令史不下驴，冲过其间。诸御史大怒，将杖之。令史云：“今日之过，实在此驴，乞先数之，然后受罚。”御史许之。谓驴曰：“汝技艺可知，精神极钝，何物驴畜，敢于御史里行！”于是羞而止。

武后临朝，薛怀义势倾当时，虽王主皆下之。苏良嗣仆射遇诸朝，怀义偃蹇不为礼，良嗣大怒，使左右牵拽，搭面数十。武后知曰：“阿师当向北门出入，南衙宰相往来，勿犯他。”

武后使阎知微与田归道使突厥，归道还云：“突厥叛。”知微争之。后乃令知微多持金帛，以武延秀往聘其女，突厥果留使者而入寇，尊知微与可汗等，以示华人，大破赵、定等州，自河以北骚然。朝廷以为知微卖国，乃族阎氏。知微不知，无何逃还，武后业已致戮，乃云其恶臣子所嫉，赐百官甘心焉。于是兵刃交下，非要职者，或不得其次云。

武后初为明堂，明堂后又为天堂五级，则俯视明堂矣。未就，并为天火所焚。今明堂制度卑狭于前，犹三百余尺。

武后为天堂以安大像，铸大仪以配之。天堂既焚，钟复鼻绝。至中宗欲成武后志，乃斫像令短，建善寺阁以居之。今明堂始微于西南倾，工人以木于中荐之。武后不欲人见，因加为九龙盘糾之状。其圆盖上本施一金凤，至是改凤为珠，群龙捧之。

武后将如洛阳，至闾乡县东，骑忽不进，召巫，言晋龙骧将军王浚云：“臣墓在道南，每为樵者所苦。闻大驾今至，故求哀。”后敕：去墓百步，不得耕殖。至今荆棘森然。

将军王果尝经峡口，见一棺于崖侧，将坠，使人迁之平处，得铭云：“更后三百年，水漂我，临长江，欲堕不堕逢王果。”

张易之、昌宗初入朝，官位尚卑，谄附者乃呼为五郎、六郎，自后因以成俗。

张昌仪兄弟，恃易之、昌宗之宠，所居奢溢，逾于王主，末年有人题其门曰：“一绉丝，能得几日络？”昌仪见之，遽命笔书其下曰：“一日即足。”无何而祸及。

张昌宗之贵也，武三思谓之王子晋后身，为诗以赠之。诗至今犹传。

补阙乔知之有宠婢，为武承嗣所夺。知之为《绿珠篇》以寄之，末句云：“百年离别在高楼，一旦红颜为君尽。”宠者结于衣带上，投井而死。承嗣惊惋，不知其故。既见诗，大恨。知之竟坐此见构陷亡。



沈佺期以工诗著名，燕公张说尝谓之曰：“沈三兄诗，直须还他第一。”

武后游龙门，命群官赋诗，先成者赏锦袍。左史东方虬既拜赐，坐未安，宋之问诗复成，文理兼美，左右莫不称善，乃就夺袍衣之。

狄内史仁杰，始为江南安抚使，以周赧王、楚王项羽、吴王夫差、越王勾践、吴夫概王、春申君、赵佗、马援、吴桓王等神庙七百余所，有害于人，悉除之。惟夏禹、吴太伯、季札、伍胥四庙存焉。

魏仆射元忠每立朝，必得常处，人或记之，不差尺寸。魏仆射本名真宰，武后朝被罗织下狱，有命出之。小吏闻者以告，魏惊喜曰：“汝名何？”曰：“元忠。”乃改从元忠焉。

朱正谏敬则，代著孝义，自宇文周至国家，并令旌表，门标六阙。

中宗反正后，有武当县丞寿春周憬，慷慨有节操，乃与王驸马同改谋诛武三思。事发，同改见害，憬遁于比干庙中自刎，临死谓左右曰：“比干，忠臣也。悦神道有知，明我以忠见杀。”

神龙中，洛城东地若水影，纤微必照，就视则无所见，长史李承喜上表庆贺。

崔融司业作武《后哀策文》，因发疾而卒。时人以为三二百年以来无此文。

朝仪：鱼袋之饰，惟金银二等。至武后乃改五品以铜。中宗反正，从旧。

景龙中，中宗游兴庆池，侍宴者递起歌舞，并唱《下兵词》，方便以求官爵。给事中李景伯亦起唱曰：“回波尔时酒厄，兵儿志在箴规。侍宴既过三爵，喧哗窃恐非宜。”于是乃罢坐。

景龙中，多于侧门降墨敕斜封，以授人官爵，时人号为“斜封官”。

景龙中，妃主家竞为奢侈，驸马杨慎交、武崇训，至油洒地以筑球场。

兵部尚书韦嗣立，景龙中中宗与韦后幸其庄，封嗣立为逍遥公，又改其居凤凰原为清虚原，鸛鹑谷为幽栖谷。吏部南院旧无选人坐，韦嗣立尚书之为吏部，始奏请有司供床褥，自后因为故事。

昆明池者，汉孝武所穿，有蒲鱼利，京师赖之。中宗朝，安乐公主请焉，帝曰：“前代已来，不以与人。不可。”主不悦，因大役人徒，别掘一池，号曰“定昆池”。既成，中宗往观，令公卿赋诗。李黄门日知诗云：“但愿暂思居者逸，无使时传作者劳。”及睿宗即位，谓之曰：“当时朕亦不敢言，非卿中正，何能若是！”无何而迁侍中。

李侍中日知，初为大理丞。武后方肆诛戮，大卿胡元礼承旨欲陷人死，令日知改断，再三不从。元礼使谓李曰：“胡元礼在，此人莫觅活。”李起谓使者：“日知咨卿：李日知在，此人莫觅死。”竟免之。

中宗崩，既除丧，吐蕃来吊，深衣练冠待于庙，或曰：“今定陵自有寝庙，若择宗室最长者，素服受礼于彼，其可乎？”举朝称善而从之。

徐彦伯常侍，睿宗朝以相府之旧，拜羽林将军。徐既文士，不悦武职，及迁，谓贺者曰：“不喜有迁，且喜出军耳。”



崔司直璵，中宗朝为侍御史，弹宗楚客反，盛气作色。帝优之不令问，因诏每弹人，必先进内状，许乃可。自后以为故事。

代有《山东士大夫类例》三卷，其非士族及假冒者，不见录，署云“相州僧昙刚撰”。后柳常侍冲亦明于族姓，中宗朝为相州刺史，询问旧老，云：“自隋已来，不闻有僧昙刚。”盖惧嫉于时，故隐名氏云。

李大夫杰之为河南尹，有妇人诉子不孝。其子涕泣不自辩明，但言：“得罪于母，死甘分。”察其状非不孝子，再三喻其母，母固请杀之。李曰：“审然，可买棺来取儿尸。”因使人尾其后。妇既出，谓一道士曰：“事了矣。”俄而棺至，李尚冀其悔，喻之如初。妇执意弥坚。时道士方在门外，密令擒之，既出其不意，一问便曰：“某与彼妇人有私，常为儿所制，故欲除之。”乃杖母及道士杀，便以向棺载母丧以归。

裴知古自中宗、武后朝以知音直太常。路逢乘马者，闻其声，窃曰：“此人即当堕马。”好事者随而观之，行未半坊，马惊堕殆死。尝观人迎妇，闻妇佩玉声，曰：“此妇不利姑。”是日姑有疾，竟死云。其知音皆此类也。又善于摄卫，开元十二年终，年且百岁。

近代言乐，卫道弼为最，天下莫能以声欺者。曹绍夔与道弼皆为太乐令，享北郊，监享御史有怒于夔，欲以乐不和为之罪，杂扣钟磬，使夔暗名之，无误者，由是反叹服。洛阳有僧，房中磬子夜辄自鸣，僧以为怪，惧而成疾。求术士百方禁之，终不能已。曹绍夔素与僧善，适来问疾，僧具以告。俄顷，轻击斋钟，磬复作声，绍夔笑曰：“明日盛设饌，余当为除之。”僧虽不信其言，冀其或效，乃力置饌以待。绍夔食讫，出怀中错，鏖磬数处而去，其声遂绝。僧苦问其所以，绍夔曰：“此磬与钟律合，故击彼应此。”僧大喜，其疾便愈。

元行冲宾客为太常少卿，有人于古墓中得铜物，似琵琶而身正圆，莫有识者。元视之曰：“此阮咸所造乐具。”乃令匠人改以木，为声甚清雅，今呼为阮咸者是也。

太平公主于京西市掘池，赎水族之生者置其中，谓之“放生池”。墓铭云：“龟言水，誓言市。”

今上之为潞州别驾，将入朝，有军人韩凝礼，自谓知兆，上因以食箸试之。既布卦，一箸无故自起，凡三偃三起，观者以为大吉征。既而诛韦氏，定天位，因此行也。凝礼起家五品，至今犹存。

今上既诛韦氏，擢用贤俊，改中宗之政，依贞观故事，有志者莫不想望太平。中书令元之、侍中璟、御史大夫构、河南尹杰，皆一时之选，时人称姚、宋、毕、李焉。

张同州沛之在州也，任正名为录事，刘幽求为朝邑尉。沛奴下诸官，而独呼二公为刘大、任大，若平常之交。

今上之诛韦氏，沛兄涉为殿中监，见杀，并令诛沛。沛将出就州，正名时假在家，闻之遽出，曰：“朝廷初有大难，同州京之佐辅，奈何单使一至，便害州将，请以死守之。”于是劝令复奏，因送沛于狱曰：“正名若死，使君可忧，不然无虑也。”时方立元勋，用事



于中，竟脱沛于难，二公之力。

萧至忠自晋州之人也，蒋大理钦绪即其妹婿，送之曰：“以足下之才，不忧不见用，无为非分妄求。”至忠不答。蒋退而曰：“九代之卿族，一举而灭之，可哀也哉！”至忠既至中书令，岁余以诛死。

开元始年，上悉出金银珠玉锦绣之物于朝堂，若山积而焚之，示不复御用也。

姚开府凡三为相，而必兼兵部，至于军镇道里与骑卒之数，皆暗能计之矣。

郭尚书元振，始为梓州射洪令，征求无厌，至掠部人卖为奴婢者甚众。武后闻之，使籍其家，惟有书数百卷。后令问资财所在，知皆以济人，于是奇而免之。后为凉州都督，路不拾遗。藩国闻其风，多请朝献。自国家善为凉州者，郭居其最。

今上之初，吐蕃倾国作寇，某官薛讷为元帅以御之，大捷而还，时有贺者退曰：“薛公谦而有礼，宜有凯旋。”

故事：每三月三日、九月九日赐王公以下射，中鹿赐为第一，院赐绶，其余布帛有差。至开元八年秋，舍人许景先以为徒耗国赋而有益于事，罢之，其礼至今遂绝。

京城诸州邸，贞观初所造。至开元初李尚书入，悉卖与居人，以钱入官。

崔湜之为中书令，河东公张嘉贞为舍人，湜轻之，常呼为“张底”。后曾商量数事，意皆出人右，湜惊美久之，谓同官曰：“知无？张底乃我辈一般人，此终是其坐处。”湜死十余载，河东公竟为中书焉。

东封之岁，洛阳平御路，北市东南隅得铭汉丞相长史朱买臣墓云：“著言市，千载之后阿谁是？”

十七年，丞相源乾曜、张说以八月初五今上生之日，请为千秋节，百姓祭皆就此日，名为“赛白帝”。群臣上万岁寿，王公戚里进金镜绶带，士庶结丝承露囊，更相遗问。

十九年春，诏州县社及莫并不得用牲牢，荐脯醢而已。十九年夏，诏京都置太公庙于孔子庙之西，以秋春仲月上戊日致祭，汉留侯张良配享，置令丞、录事各一员。

洛阳画工解奉先为嗣江王家画壁画，未毕而逃。及见擒，乃妄云：“功直已相当。”因于像前誓曰：“若负心者，愿死为汝家牛。”岁余，奉先卒。后岁余，王忤产一骑犍，有白文于背曰：“解奉先”，观者日如市。时今上二十年也。

后土祠，隔河与梁山相望，旧立山神像以配，座如妃匹焉。至开元中年，始别建室而迁出之，或云张燕公之为也。

怀州北有丹水，其源出长平山下。传云：“秦杀赵卒，其水变赤，因以为名。今上始幸太原，知其故，诏改为怀水，潼津关为周密。

开元初，司农卿姜师度引洛水灌朝邑泽，尽发以修堤堰，墓为水所湍击，今寝颓削焉。

崔謁府日知，历职中外，恨不居八座。及为太常，于都寺厅事后起一楼，正与尚书省相望，人谓之“崔公望省楼”。



俗五月五日为竞渡戏，自襄州已南，所向相传云：屈原初沉江之时，其乡人乘舟求之，意急而争前，后因此戏。

晋谢灵运须美，临刑，施为南海祇洹寺维摩诘须。寺人宝惜，初不亏损。中宗朝，安乐公主五日斗百草，欲广其物色，令驰驿取之。又恐为他人所得，因剪弃其余，遂绝。

云阳县界多汉离宫故地，有树似槐而叶细，土人谓之“玉树”。杨子云《甘泉赋》云“玉树青葱”，后左思以雄为假称珍怪，盖不详也。

江宁县寺有晋长明灯，岁久，火色变青而不热。隋文帝平陈，已讶其古，至今犹存。旧人皆服衮巾，至周武始为四脚，国初又加巾子焉。

高齐兰陵王长恭白类美妇人，乃著假面以对敌，与周师战于金墉下，勇冠三军，齐人庄之，乃为舞以效其指麾击刺之容，曰“代面舞”也。

灵州鸣沙县有沙，人马践之，辄枪然有声。持至他处，信宿之后，而无复声矣。

今“开通元宝钱”，武德四年铸，其文欧阳询率更所书也。

王右军《兰亭序》，梁乱出在外，陈天嘉中为僧永所得。至建中，献之宣帝。隋平陈日，或以献晋王，王不之宝。后僧果从帝借拓。及登极，竟未从索。果师死后，弟子僧辩得之。太宗为秦王日，见拓本惊喜，乃贵价市大王书《兰亭》，终不至焉。及知在辩师处，使萧翊就越州求得之，以武德四年入秦府。贞观十年，乃拓十本以赐近臣。帝崩，中书令褚遂良奏：“《兰亭》先帝所重，不可留。”遂秘于昭陵。

晋平南将军侍中王廙，右军之叔父，工草隶飞白，祖述张卫法。后得索靖书“七月二十六日”一纸，每宝玩之。遭永嘉丧乱，乃四叠缀于衣中以过江，今蒲州桑泉令豆卢器得之，叠迹犹存。

王右军《告誓文》，今之所传，即其草稿，不具年月日朔。其真本云：“维永和十年三月癸卯朔九日辛亥。”而书亦真小。开元初年，润州江宁县瓦官寺修讲堂，匠人于鸱吻内竹筒中得之，与一沙门。至八年，县丞李延业求得，上岐王，岐王以献帝，便留不出。或云：后却借岐王。十二年王家失火，图书悉为煨烬，此书亦见焚云。

卢黄门思道仕高齐，久不得进，时和士开方贵宠用事，或谓卢曰：“何不一见和王？”思道素自高，欲往，恐为人所见，乃未明而行。比至其门，立者众矣，卢驻譬望之，彼何人斯，森然而与槐柳齐列。因鞭马疾去。有过卢黄门思道者，见一胡人在座，问此何等，答曰：“从兄浩。”反语卢浩尚为老胡。

梁常侍徐陵聘于齐，时魏收文学北朝之秀，收录其文集以遗陵，令传之江左。陵还，济江而沉之，从者以问，陵曰：“吾为魏公藏拙。”

补 遗

隋末有河间人，觥鼻使酒，自号郎中，每醉必殴击其妻。妻美而善歌，每为悲怨之



声，辄摇顿其身。好事者乃为假面以写其状，呼为“踏摇娘”，今谓之“谈容娘”。

杨帝宴群臣，以唐高祖面皴，呼为“阿婆”。高祖归，不悦，以语妾后，后曰：“此吉兆。公封于唐，唐者堂也，阿婆即是堂主。”高祖大悦。

隋炀帝凿汴河，自制《水调歌》。

隋杨素破突厥，文帝赐以万钉宝带。

吴郡献松江鲈，炀帝曰：“所谓金齏玉脍，东南佳味也。”

郑公尝出行，以正月七日谒见太宗，太宗劳之曰：“卿今日至，可谓人日矣。”

左史东方虬，每云：“二百年后，乞与西门豹作对。”

唐太宗问高州首领冯盎云：“卿宅去沉香远近？”对曰：“宅左右即出香树，然其生者无香，惟朽者始香矣。”

李淳风奏：“北斗七星官化为人，明日至西市饮酒。”使人候之，有僧七人共饮二石，太宗遣人召之，七人笑曰：“此必李淳风小儿言我也。”忽不见。

齐吴均为文多慷慨军旅之意，梁武帝被围台城，朝廷问均外御之计，怯懦不知所答，启云：“愚计速降为上计。”

齐宣都王铿，三岁丧母。及有识，问母所在，左右告以早亡，便思慕蔬食，祈请幽冥，求一梦见。至六岁，梦见一妇人，谓之曰：“我是汝之母。”铿悲泣。旦说之，容貌衣服，事事如平生也。

人妄告东宫。

牛弘，炀帝之在东宫也，数有诗书遗弘，弘亦有答。及嗣位之后，尝赐弘诗曰：“晋家山史部，魏世卢尚书。莫言先哲异，奇才亦佐余。学行敦时俗，道素乃冲虚。纳言云阁上，礼仪皇运初。彝伦欣有叙，垂拱事端居。”

元万顷初为契苾何力征高丽管记，作檄书云：“不知守鸭绿之险。”莫离支报云：“潼关命矣。”遂移兵固守，官军不得入，万顷坐流岭南。

郭正一为李英公征辽管记，勤还曰：“此段行，我录郭正一可笑事，虽满十卷，犹未能尽。”

汉明帝时，刘晨、阮肇同入天台，见二女，出胡麻饭、山羊脯，设桃及酒甚美。逾年乃归，乡里皆变，推寻其家，已经七代孙也。

后魏末，周齐交争，周人贫甚，尝获一齐卒，喜曰：“得一将。”“何以知之？”曰“著缙襜。”

李龟年善羯鼓，玄宗问卿打多少枚，对曰：“臣打五十杖讫。”上曰：“汝殊未，我打却三竖柜也。”后数年，又闻打一竖柜，因赐一拂枚羯鼓棒。

苏州洞庭、杭州兴德寺，房太尉瑄云：“不游兴德、洞庭，未见佳处。”寿安县有喷玉泉、石溪，皆山水之胜绝者也。贞元中，瑄以宾客辞为县令，乃划翳荟，开径隧，人闻而异焉。太和初，博陵崔蒙为主簿，标准于道周，人方造而游焉。又颜太师真卿刻姓名于



石，或置之高山之上，或沈之大洲之底，而云：“安知不有陵谷之变耶？”

卢中丞近有宝瑟四，各值数十万。有寒玉、石磬、响泉、和至之号。

汉中王瑀为太卿，早起朝，闻永兴里人吹笛，问是太常乐人否。曰：“然。”已后因阅乐而唤之，问曰：“何得某日卧吹笛耶？”

汉中王瑀见康昆仑弹琵琶，云：“琵琶声多，瑟声少，亦未可弹五十四弦大弦也。”自下而上谓之瑟，自上而下谓之琵琶。



朝野僉載

〔唐〕张鷟 撰

卷 一

贞观年中，定州鼓城县人魏全家富，母忽失明。问卜者王子贞，子贞为卜之，曰：“明年有人从东来青衣者，三月一日来，疗必愈。”至时，候见一人着青袖襦，遂邀为设饮食。其人曰：“仆不解医，但解作犁耳，为主人作之。”持斧绕舍求犁轡，见桑曲枝临井上，遂斫下。其母两眼焕然见物。此曲桑盖井之所致也。

周郎中裴珪妾赵氏，有美色，曾就张璟藏卜年命。藏曰：“夫人目长而漫视。准相书，猪视者淫。妇人目有四白，五夫守宅。夫人终以奸废，宜慎之。”赵笑而去。后果与人奸，没入掖庭。

杜景佺，信都人也。本名元方，垂拱中，更为景佺。刚直严正，进士擢第，后为鸾台侍郎、平章事。时内史李昭德以刚直下狱，景佺廷诤其公清正直。则天怒，以为面欺，左授濠州刺史。初任濠州，会善筮者于路，言其当重入相，得三品，而不着紫袍。至是夏中服紫衫而终。

瀛州人安县令张怀礼、沧州弓高令晋行忠就蔡微远卜。转式讫，谓礼曰：“公大亲近，位至方伯。”谓忠曰：“公得京官，今年禄尽，宜致仕可也。”二人皆应举，怀礼授左补阙，后至和、复二州刺史。行忠授城门郎，至秋而卒。

开元二年，梁州道士梁虚州，以九宫推算张鷟云：“五鬼加年，天罡临命，一生之大厄。以《周易》筮之，遇《观》之《涣》，主惊恐；后风行水上，事即散。”安国观道士李若虚，不告姓名，暗使推之。云：“此人今年身在天牢，负大辟之罪乃可以免。不然病当死，无救法。”果被御史李全交致其罪，敕令处尽。而刑部尚书李日知，左丞张廷圭、崔玄升，侍郎程行谋咸请之，乃免死，配流岭南。二道士之言信有征矣。

梁州有客卢元钦染大病，惟鼻根未倒。属五月五日官取蚺蛇胆欲进，或言肉可治病，遂取一截蛇肉食之。三五日顿渐可，百日平复。又商州有人患大病，家人恶之，山中为起茅舍。有乌蛇坠药器中，病人不知，饮酒渐差。器底见蛇骨，方知其由也。



则天时，凤阁侍郎周允元朝罢入阁。太平公主唤一医人自光政门入，见一鬼撮允元头，二鬼持棒随其后，直入景运门。医白公主，公主奏之。上令给使规问，在阁无事。食讫还房，午后如厕，长参典怪其久私，往候之，允元踣面于厕上，目直视，不语，口中涎落。给使奏之，上问医曰：“此可得几时？”对曰：“缓者三日，急者一日。”上与锦被覆之，并床舁送宅，止夜半而卒。上自为诗以悼之。

久视年中，襄州人杨元亮，年二十余，于虔州汶山观佣力。昼梦见天尊云：“我堂舍破坏，汝为我修造，遣汝能医一切病。”寤而悦之，试疗无不愈者。赣县里正背有肿，大如拳，亮以刀割之，数日平复。疗病日获十千，造天尊堂成，疗病渐无效。

如意年中，洛州人赵玄景病卒五日而苏。云见一僧与一木，长尺余，教曰：“人有病者，汝以此木拄之即愈。”玄景得见机上尺，乃是僧所与者，试将疗病，拄之立差，门庭每日数百人。御史马知己以其聚众，追之禁左台，病者满于台门。则天闻之，追入内，宫人病，拄之即愈，放出任救病百姓。数月以后，得钱七百余贯。后渐无验，遂绝。

洛州有士人患应病，语即喉中应之。以问善医张文仲，经夜思之，乃得一法。即取《本草》令读之，皆应；至其所畏者，即不言。仲乃录取药，合和为丸，服之应时而愈。一云问医苏澄云。

郝公景于泰山采药，经市过。有见鬼者，怪群鬼见公景皆走避之。遂取药和为“杀鬼丸”，有病患者服之差。

定州人崔秀坠马折足，医令取铜末和酒服之，遂痊愈。及亡后十余年改葬，视其胫骨折处，有铜末束之。

岭南风俗，多为毒药。令奴食冶葛死，埋之土中。草生正当腹上，食之立死；手足额上生者，当日死；旁自外者，数日死；渐远者，或一月，或两月；全远者，一年、二年、三年亦即死。惟陈怀卿家药能解之。或以涂马鞭头控上，拂着手即毒，试着口即死。

赵延禧云，遭恶蛇虺所螫处，贴之艾柱，当上灸之立差，不然即死。凡蛇啖，即当啖处灸之，引去毒气即止。

冶葛食之立死。有冶葛处即有白藤花，能解冶葛毒。鸩鸟食水之处即有犀牛，不濯角，其水物食之必死，为鸩食蛇之故。

医书言，虎中药箭食清泥；野猪中药箭吞茅茹而食；雉被鹰伤，以地黄叶帖之。又矾石可以害鼠，张鹭曾试之，鼠中毒如醉，亦不识人，犹知取泥汁饮之，须臾平复。鸟兽虫物犹知解毒，何况人乎？被蚤啖者，以甲虫末傅之；被马咬者，以烧鞭梢灰涂之。盖取其相服也。蜘蛛啖者，雄黄末傅之。筋断须续者，取旋复根绞取汁，以筋相对，以汁涂而封之，即相续如故。蜀儿奴逃走多刻筋，以此续之，百不失一。

永徽中有崔爽者，每食生鱼三斗乃足。于后饥，作鲙未成，爽忍饥不禁，遂吐一物，状如虾蟆。自此之后，不复能食鲙矣。

国子司业、知制造崔融病百余日，腹中虫蚀极痛，不可忍。有一物如守宫从下部出，



须臾而卒。

后魏孝文帝定四姓，陇西季氏大姓，恐不入，星夜乘鸣驼，倍程至洛。时四姓已定讫，故至今谓之“驼李”焉。

张文成曰：乾封以前选人，每年不越数千；垂拱以后，每岁常至五万。人不加众，选人益繁者，盖有由矣。尝试论之，祇如明经、进士、十周、三卫、勋散、杂色、国官、直司，妙简实材，堪入流者十分不过一二。选司考练，总是假手冒名，势家嘱请。手不把笔，即送东司；眼不识文，被举南馆。正员不足，权补试、摄、检校之官。贿货纵横，脏污狼藉。流外行署，钱多即留，或帖司助曹，或员外行案。更有挽郎、擎脚、营田、当屯，无尺寸工夫，并优与处分。皆不事学问，惟求财贿。是以选人冗冗，甚于羊群，吏部喧喧，多于蚁聚。若铨实用，百无一人。积薪化薪，所从来远矣。

郑愔为吏部侍郎掌选，脏污狼藉。引铨有选人系百钱于靴带上，愔问其故，答曰：“当今之选，非钱不行。”愔默而不言。时崔湜亦为吏部侍郎掌选，有铨人引过，分疏云：“某能翘关负米。”湜曰：“君壮，何不兵部选？”答曰：“外边人皆云‘崔侍郎下，有气力者即存。’”

景龙中，斜封得官者二百人，从屠贩而践高位。景云践祚，尚书宋璟、御史大夫毕构奏停斜封人官。璟、构出，后见鬼人彭卿受斜封人贿赂，奏云见孝和，怒曰：“我与人官，何因夺却。”于是斜封皆复旧职。伪周革命之际，十道使人天下选残明经、进士及下村教童蒙博士，皆被搜扬，不曾试练，并与美职。尘黷士人之品，诱悦愚夫之心，庸才者得官以为荣，有才者得官以为辱。昔赵王伦之篡也，天下孝廉、秀才、茂异，并不简试，雷同与官，市道屠沽、亡命不轨，皆封侯略尽。太府之铜不供铸印，至有白版侯者。朝会之服，貂者大半，故谣云“貂不足，狗尾续”。小人多幸，君子耻之。无道之朝，一何连类也，惜哉！

天后中，契丹李尽忠、孙万荣之破营府也，以地牢囚汉俘数百人。闻麻仁节等诸军欲至，乃令守囚雷等给之曰：“家口饥寒，不能存活。求待国家兵到，吾等即降。”其囚日别与一顿粥，引出安慰曰：“吾此无饮食养汝，又不忍杀汝，总放归若何？”众皆拜伏乞命，乃给放去。至幽州，具说饥冻逗遛。兵士闻之，争欲先入。至黄漳岭，贼又令老者投官军，送遗老牛瘦马于道侧。仁节等三军弃步卒，将马先争入，贼设伏横截，军将被索缚之，生擒节等，死者填山谷，罕有一遗。

景龙四年，洛州凌空观失火，万物并尽，惟有一真人岿然独存，乃泥塑为之。后改为圣真观。

西京朝堂北头有大槐树，隋曰唐兴村门首。文皇帝移长安城，将作大匠高颖常坐此树下检校。后栽树行不正，欲去之，帝曰：“高颖坐此树下，不须杀之。”至今先天百三十年，其树尚在，柯叶森竦，株根盘礴，与诸树不同。承天门正当唐兴村门首，今唐家居焉。



永徽年以后，人唱《桑条歌》云：“桑条苕，女韦也乐。”至神龙年中，逆韦应之。谄佞者郑愔作《桑条乐词》十余首进之，逆韦大喜，擢之为吏部侍郎，赏缣百匹。

龙朔以来，人唱歌名《突厥盐》。后周圣历年中，差阎知微和匈奴，授三品春官尚书，送武延秀娶成默喉女，送金银器物、锦彩衣裳以为礼聘，不可胜纪。突厥翻动，汉使并没，立知微为可汗，《突厥盐》之应。

调露中，大帝欲封中岳，属突厥叛而止。后又欲封，土番入寇，遂停。至永淳年，又驾幸嵩岳，谣曰：“嵩山凡几层，不畏登不得，只畏不得登。三度征兵马，傍道打腾腾。”岳下遽疾，不愈，回至宫而崩。

永淳之后，天下皆唱“杨柳，杨柳，漫头驼”。后徐敬业犯事，出柳州司马，遂作伪敕，自授扬州司马，杀长史陈敬之，据江淮反。使李孝逸讨之，斩业首，驿马驼入洛。“杨柳，杨柳，漫头驼”，此其应也。

周如意年中以来，始唱《黄獐歌》，其词曰：“黄獐，黄獐，草里藏，弯弓射你伤。”俄而契丹反叛，杀都督赵文翔，营府陷没。差总管曹仁师、张玄遇、麻仁节、王孝杰，前后百万众，被贼败于黄獐谷，诸军并没，罔有孑遗。《黄獐》之歌，斯为验矣。

周垂拱已来，《苾拿儿歌》词皆是邪曲。后张易之小名苾拿。

景龙年，安乐公主于洛州道光坊造安乐寺，用钱数百万。童谣曰：“可怜安乐寺，了了树头悬。”后诛逆韦，并杀安乐，斩首悬于竿上，改为悖逆庶人。

神龙以后，谣曰：“山南乌鹊窠，山北金骆驼。镰柯不凿孔，斧子不施柯。”此突厥强盛，百姓不得斫桑养蚕、种禾刈谷之应也。

景龙中，谣曰：“可怜圣善寺，身着绿毛衣。牵来河里饮，踏杀鲤鱼儿。”至景云中，谯王从均州人都作乱，败走，投洛川而死。

景云中，谣曰：“一条麻线挽天枢，绝去也。”神武即位，敕令推倒天枢，收铜并入尚方，此其应兆。

景龙中，谣曰：“黄柏钹子挽蚓断，两脚踏地鞋襦断。”六月，平王诛逆韦，欲作乱。鞋襦断者，事不成。阿韦是“黄桧”之后也。

明堂主簿骆宾王《帝京篇》曰：“倏忽搏风生羽翼，须臾失浪委泥沙。”宾王后与敬业兴兵扬州，大败，投江而死，此其讖也。

麟德已来，百姓饮酒唱歌，曲终而不尽者号为“族盐”。后阎知微从突阙领贼破赵、定。后知微来，则天大怒，磔于西市。命百官射之，河内王武懿宗去七步，射三发，皆不中，其怯懦也如此。知微身上箭如猬毛，挫其骨肉，夷其九族，疏亲及不相识者皆斩之。小儿年七八岁，驱抱向西市，百姓哀之，掷饼果与者，相争夺以为戏笑。监刑御史不忍害，奏舍之。其“族盐”之言，于斯应也。

赵公长孙无忌以乌羊毛为浑脱毡帽，天下慕之，其帽为“赵公浑脱”。后坐事长流岭南，“浑脱”之言，于是效焉。



魏王为巾子向前路，天下欣欣慕之，名为“魏王路。”后坐死。至孝和时，陆頌亦为巾子同此样，时人又名为“陆頌路”。未一年而陆頌殒。

永徽后，天下唱《武媚娘歌》，后立武氏为皇后。大帝崩，则天临朝，改号大周。二十余年，武后强盛，武三王梁、魏、定等并开府，自余郡王十余人，几迁鼎矣。

咸亨以后，人皆云：“莫浪语，阿婆嗔，三叔闻时笑杀人。”后果则天即位，至孝和嗣之。阿婆者，则天也；三叔者，孝和为第三也。

魏仆射子名叔麟，谶者曰：“‘叔麟’，反语‘身戮’也。”后果被罗织而诛。

梁王武三思，唐神龙初改封德靖王。谶者言：“德靖，‘鼎贼’也。”果有窥鼎之志，被郑克等斩之。

天后时，谣言曰：“张公吃酒李公醉。”张公者，斥易之兄弟也；李公者，言李氏大盛也。

孙佺为幽州都督，五月北征。时军师李处郁谏：“五月南方火，北方水，火入水必灭。”佺不从，果没八万人。昔窦建德救王世充于牛口谷，时谓“窦入牛口，岂有还期”。果被秦王所擒。其孙佺之北也，处郁曰：“殍若人咽，百无一全。”山东人谓温饭为殍（音孙），幽州以北并为燕地，故云。

龙朔年已来，百姓饮酒作令云：“子母相去离，连台拗倒。”子母者，盞与盘也；连台者，连盘拗倒盞也。及天后永昌中，罗织事起，有宿卫十余人于清化坊饮，为此令。此席人进状告之，十人皆弃市。自后庐陵徙均州，则子母相去离也；连台拗倒者，则天被废，诸武迁放之兆。

神武皇帝七月即位，东都白马寺铁像头无故自落于殿门外。自后捉搦僧尼严急，令拜父母等，未成者并停革，后出者科决，还俗者十八九焉。

开元五年春，司天奏：“玄象有眚见，其灾甚重。”玄宗震惊，问曰：“何祥？”对曰：“当有名士三十人同日冤死，今新及第进士正应其数。”其年及第李蒙者，贵主家婿，上不言其事，密戒主曰：“每有大游宴，汝爱婿可闭留其家。”主居昭国里，时大合乐，音曲远畅，曲江涨水，联舟数艘，进士毕集。蒙闻，乃逾垣奔走，群众偃望。才登舟，移就水中，画舸平沉，声妓、篙工不知纪极，三十进士无一生者。

夏侯处信为荆州长史，有宾过之，处信命仆作食。仆附耳语曰：“洩几许面？”信曰：“两人二升即可矣。”仆入，久不出，宾以事告去。信遽呼仆，仆曰：“已洩讫。”信鸣指曰：“大异事。”良久乃曰：“可总燔作饼，吾公退食之。”信又尝以一小瓶贮醯一升自食，家人不沾余沥。仆云：“醋尽。”信取瓶合于掌上，余数滴，因以口吸之。凡市易，必经手乃授直。识者鄙之。

广州录事参军柳庆独居一室，器用食物并致卧内。奴有私取盐一撮者，庆鞭之见血。

夏侯彪夏月食饮，生虫在下，未曾沥口。尝送客出门，奴盗食肉内。彪还觉之，大怒，乃捉蝇与食，令呕出之。



郑仁凯为密州刺史，有小奴告以履穿，凯曰：“阿翁为汝经营鞋。”有顷，门夫着鞋者至，凯厅前树上有翼窠。翼，啄木也。遣门夫上树取其子。门夫脱鞋而缘之，凯令奴着鞋而去，门夫竟至徒跣。凯有德色。

安南都护邓祐，韵州人，家巨富，奴婢千人。恒课口腹自供，未曾设客。孙子将一鸭私用，祐以擅破家资，鞭二十。

韦庄颇读书，数米而炊，秤薪而爨，炙少一膏而觉之。一子八岁而卒，妻敛以时服，庄剥取，以故席裹尸，殡讫，擎其席而归。其忆念也，呜咽不自胜，惟慙吝耳。

怀州录事参军路敬潜遭裴连辉事，于新开推鞠，免死配流。后诉雪，授睦州遂安县令。前邑宰皆卒于官，潜欲不赴。其妻曰：“君若舍死，新开之难早已无身，今得县令，岂非命乎？”遂至州，去县水路数百里上，寝堂两间有三痰坑，皆埋旧县令，潜命坊夫填之。有枭鸣于屏风，又鸣于承尘上，并不以为事。每与妻对食，有鼠数十头，或黄或白，或青或黑，以杖驱之，则抱杖而叫。自余妖怪，不可具言。至四考满，一无所失，选授卫令，除卫州司马。入为郎中，位至中书舍人。

周甘子布博学有才，年十七为左卫长史，不入五品。登封年病，以驴舆强至岳下，天恩加两阶，合入五品，竟不能起。邻里亲戚来贺，衣冠不得，遂以绯袍覆其上，帖然而终。

太常卿卢崇道坐女婿中书令崔湜反，羽林郎将张仙坐与薛介然口陈欲反之状，俱流岭南。经年，无日不悲号，两目皆肿，不胜凄楚，遂并逃归。崇道至都宅藏隐，为男娶崔氏女未成，有内给使来取充责人，崇道乃赂给使，别取一崔家女去入内。事败，给使具承，掩崇道，并男三人亦被纠捉，敕杖各决一百，俱至丧命。

青州刺史刘仁轨知海运，失船极多，除名为民，遂辽东效力。遇病卧平壤城下，褰幕看兵士攻城。有一卒直来前头背坐，叱之不去，仍恶骂曰：“你欲看，我亦欲看，何预汝事？”不肯去。须臾城头放箭，正中心而死。徵此兵，仁轨几为流矢所中。

任之选与张说同时应举。后说为中书令，之选竟不及第。来谒张公，公遗绢一束，以充粮用。之选将归，至舍不经一两日，疾大作，将绢市药，绢尽疾自损。非但此度，余处亦然，何薄命之甚也！

杭州刺史裴有敝疾甚，令钱塘县主簿夏荣看之。荣曰：“使君百无一虑，夫人早须崇福以禳之。”崔夫人曰：“禳须何物？”荣曰：“使君娶二姬以压之，出三年则危过矣。”夫人怒曰：“此獠狂语，儿在身无病。”荣退曰：“夫人不信，荣不敢言。使君命合有三妇，若不更娶，于夫人不祥。”夫人曰：“乍可死，此事不相当也。”其年夫人暴亡，敝更娶二姬，荣言信矣。

平王诛逆韦，崔日用将兵杜曲，诛诸韦略尽，缙子中嬰孩亦惶杀之。诸杜滥及者非一。浮休子曰：“此逆韦之罪，疏族何辜！亦如冉闵杀胡，高鼻者横死；董卓诛阉人，无须者枉戮。死生命也。”



逆韦之变，吏部尚书张嘉福河北道存抚使，至怀州武涉驿，有敕所至处斩之。寻有敕矜放，使人马上昏睡，迟行一驿，比至，已斩讫。命非天乎，天非命乎！

沈君亮见冥道事，上元年中，吏部员外张仁玮延生问曰：“明公看玮何当迁？”亮曰：“台郎坐不暖席，何虑不迁。”俄而玮如厕，亮谓诸人曰：“张员外总十余日活，何暇忧官职乎？”后七日而玮卒。

虔州司士刘知元摄判司仓，大饘时，司马杨舜臣谓之曰：“买肉必须含胎，肥脆可食，余瘦不堪。”知元乃拣取怀孕牛犊及猪羊驴等杀之，其胎仍动，良久乃绝。无何，舜臣一奴无病而死，心上仍暖，七日而苏。云见一水饒白额，并子随之，见王诉云：“怀胎五个月，扛杀母子。”须臾又见猪羊驴等皆领子来诉，见刘司士答款，引杨司马处分如此。居三日而知元卒亡，又五日而舜臣死。

率更令张文成，泉晨鸣于庭树，其妻以为不祥，连唾之。文成云：“急洒扫，吾当改官。”言未毕，贺客已在门矣。又一说，文成景云二年为鸿胪寺丞，帽带及绿袍并被鼠啮。有神灵递相诬告，京师及郡县被诛戮者数千余家，蜀王秀皆坐之。隋室既亡，其事亦寝矣。

仪凤年中，有长星半天，出东方，三十余日乃灭。自是土番叛，匈奴反，徐敬业乱，白铁余作逆，博、豫骚动，忠、万强梁，契丹翻覆府，突厥破赵、定，麻仁节、张玄遇、王孝杰等皆没百万众。三十余年，兵革不息。

调露之后，有鸟大如鸠，色如乌鹊，飞若风声，千万为队，时人谓之“鹞雀”，亦名突厥雀，若来突厥必至，后至无差。

天授中，则天好改新字，又多忌讳。有幽州人寻如意上封云：“国字中‘或’，或乱天象，请□中安‘武’以镇之。”则天大喜，下制即依。月余有上封者云：“‘武’退在□中，与囚字无异，不祥之甚。”则天愕然，遽追制，改令中为“八方”字。后孝和即位，果幽则天于上阳宫。

长安二年九月一日，太阳蚀尽，默啜贼到并州。至十五日夜，月蚀尽，贼并退尽。俗谚曰：“枣子塞鼻孔，悬楼阁却种。”又云：“蝉鸣蚯蚓唤，黍种糕糜断。”又谚云：“春雨甲子，赤地千里。夏雨甲子，乘船入市。秋雨甲子，禾头生耳。冬雨甲子，鹊巢下地。”其年大水。

长安四年十月，阴，雨雪，一百余日不见星。正月，诛张易之、昌宗等，则天废。

幽州都督孙佺之人贼也，薛讷与之书曰：“季月不可入贼，大凶也。”佺曰：“六月宣王北伐，讷何所知。有敢言兵出不复者斩。”出军之日，有白虹垂头于军门。其夜，大星落于营内，兵将无敢言者。军行后，幽州界内鸦乌鸱鸢等并失，皆随军去。经二旬而军没，乌鸱食其肉焉。

延和初七日，太白昼见经天。其月，太上皇逊帝位，此易主之应也。至八月九日，太白仍昼见，改元先天。至二月七日，太上皇废，诛中书令萧至忠、侍中岑羲；流崔湜，寻



诛之。

开元二年五月二十九日夜，大流星如瓮，或如盆大者贯北斗，并西北小者随之。无数天星尽播，至晓乃止。七月，襄王崩，谥殇帝。十月，土番人隗右，掠羊马，杀伤无数。其年六月，大风拔树发屋，长安街中树连根出者十七八。长安城初建，隋将作大匠高颖所植槐树殆三百余年，至是拔出。终南山竹开花结子，绵亘山谷，大小如麦。其岁大饥，其竹并枯死。岭南亦然，人取而食之。醴泉雨面如米颗，人可食之。后汉襄楷云：“国中竹柏枯者，不出三年主当之。”人家竹结实枯死者，家长当之。终南竹花枯死者，开元四年而太上皇崩。

开元五年，洪、潭二州复有火灾，昼日人见火精赤灿灿，所诣即火起。东晋时，王弘为吴郡太守，亦有此灾。弘越部人，将为不慎，后坐厅事，见一物赤如信幡，飞向人家舍上，俄而火起，方知变不复由人，遭焚人家遂免笞罚。

开元八年，契丹叛，关中兵救营府，至澠池缺门，营于谷水侧。夜半水涨，漂二万余人，惟行网夜槁漏不睡，据高获免，村店并没尽。上阳宫中水溢，宫人死者十七八。其年，京兴道坊一夜陷为池，没五百家。初，邓州三鸦口见二小儿以水相泼，须臾有大蛇十围已上，张口向天。人或有所射者，俄而云雨晦冥，雨水漂二百家，小儿及蛇不知所在。

洛阳县令宋之逊，性好唱歌，出为连州参军。刺史陈希古者，庸人也，令之逊教婢歌。每日端笏立于庭中，呦呦而唱，其婢隔窗从而和之，闻者无不大笑。

卷 二

北齐南阳王入朝，上问何以为乐，王曰：“致蝎最乐”。遂收蝎，一宿得五斗，置大浴斛中。令一人脱衣而入，被蝎螫死，宛转号叫，苦痛不可言，食顷而死。帝与王看之。

隋末荒乱，狂贼朱粲起于襄、邓间。岁饥，米斛万钱，亦无得处，人民相食。粲乃驱男女小大仰一大铜钟，可二百石，煮人肉以喂贼。生灵殁于此矣。

周恩州刺史陈承亲，岭南大首领也，专使子弟兵劫江。有一县令从安南来，承亲凭买二婢，令有难色。承亲每日重设邀屈，甚殷勤。送别江亭，即遣子弟兵寻复劫杀，尽取财物。将其妻及女至州，妻叩头求作婢，不许，亦缢杀之。取其女。前后官人家过亲，礼遇厚者，必随后劫杀，无人得免。

周杭州临安尉薛震好食人肉。有债主及奴诣临安，于客舍遂饮之醉，杀而啗之，以水银和煎，并骨销尽。后又欲食其妇，妇觉而遁之。县令诘，具得其情，申州，录事奏，奉敕杖一百而死。

周岭南首领陈元光设客，令一袍裤行酒。光怒，令拽出，遂杀之。须臾烂煮以食客，后呈其二手，客惧，攫喉而吐。

周瀛州刺史独孤庄酷虐，有贼问不承，庄引前曰：“若健儿，一一具吐放汝。”遂还巾



带，贼并吐之。诸官以为必放，顷庄曰：“将我作具来。”乃一铁钩长丈余，甚锐利，以绳挂于树间，谓贼曰：“汝不闻‘健儿钩下死’？”令以脰钩之，遣壮士制其绳，则钩出于脑矣。谓司法曰：“此法何似？”答曰：“吊民伐罪，深得其宜。”庄大笑。后庄左降施州刺史，染病，惟忆人肉。部下有奴婢死者，遣人割肋下肉食之。岁余卒。

周推事使索元礼，时人号为“索使”。讯囚作铁笼头，髻（原注：呼角反）其头，仍如楔焉，多至脑裂髓出。又为“风晒翅”、“猕猴钻火”等。以椽关手足而转之，并斫骨至碎。又悬囚于梁下，以石鎚头。其酷法如此。元礼故胡人，薛师之假父，后坐赃贿，流死岭南。

周来俊臣罗织人罪，皆先进状，敕依奏，即籍没。徐有功出死囚，亦先进状，某人罪合免，敕依，然后断雪。有功好出罪，皆先奉进止，非是自专。张汤探人主之情，盖为此也。

羽林将军常元楷，三代告密得官。男彦玮告刘诚之破家，彦玮处待御。先天二年七月三日，楷以反逆诛，家口配流。可谓“积恶之家殃有余”也。

周补阙乔知之有婢碧玉，姝艳能歌舞，有文华，知之时幸，为之不婚。伪魏王武承嗣暂借教数人妆梳，纳之，更不放还知之。知之作《绿珠怨》以寄之，其词曰：“石家金谷重新声，明珠十斛买娉婷。此日可怜偏自许，此时歌舞得人情。君家闺阁不曾观，好将歌舞借人看。意气雄豪非分理，骄矜势力横相干。辞君去君终不忍，徒劳掩袂伤铅粉。百年离恨在高楼，一代容颜为君尽。碧玉读诗，饮泪不食，三日，投井而死。承嗣擦出尸，于裙带上得诗，大怒，乃讽罗织人告之。遂斩知之于南市，破家籍没。

周张易之为控鹤监，弟昌宗为秘书监，昌仪为洛阳令，竞为奢侈。易之为大铁笼，置鹅鸭于其内，当中取起炭火，铜盆贮五味汁，鹅鸭绕火走，渴即饮汁，火炙痛即回，表里皆熟，毛落尽，肉赤烘烘乃死。昌宗活拦驴于小室内，起炭火，置五味汁如前法。昌仪取铁钹钉入地，缚狗四足于钹上，放鹰鹞活按其肉食，肉尽而狗未死，号叫酸楚，不复可听。易之曾过昌仪，忆马肠，取从骑破胁取肠，良久乃死。后诛易之、昌宗等，百姓啖割其肉，肥白如猪肪，煎炙而食。昌仪打双脚折，抉取心肝而后死，斩其首送都。谚云“走马报”。

周秋官侍郎周兴推劾残忍，法外苦楚，无所不为，时人号“牛头阿婆”，百姓怨谤。兴乃榜门判曰：“被告之人，问皆称枉。斩决之后，咸悉无言。”

周侍御史侯思止，醴泉卖饼食人也，罗告准例酬五品。于上前索御史，上曰：“卿不识字。”对曰：“獬豸岂识字？但为国触罪人而已。”遂授之。凡推勘，杀戮甚众，更无余语，但谓囚徒曰：“不用你书言笔语，但还我白司马。若不肯来俊，即与你孟青。”横遭苦楚非命者，不可胜数。白司马者，北邙山白司马坂也；来俊者，中丞来俊臣也；孟青者，将军孟青棒也。后坐私蓄锦，朝堂决杀之。

周明堂尉吉项夜与监察御史王助同宿，王助以亲故，为说慕容耀男大觉、小觉云：



“应两角麒麟也。耀字光翟，言光宅天下也。”项明日录状付来俊臣，敕差河内王懿宗推，诛王助等四十一人，皆破家。后俊臣犯事，司刑断死，进状三日不出，朝野怪之。上入苑，吉项挽马，上问在外有何事意，项奏曰：“臣幸预控鹤，为陛下耳目，在外惟怪来俊臣状不出。”上曰：“俊臣于国有功，朕思之耳。”项奏曰：“于安远告虺贞反，其事并验，今贞为成州司马。俊臣聚结不逞，诬遣贤良，赃贿如山，冤魂满路，国之贼也，何足惜哉！”上令状出，诛俊臣于西市。敕追于安远还，除尚食奉御，项有力焉。除项中丞，赐绯。项瑾连耀事，以为己功，授天官侍郎、平章事。与河内王竞，出为温州司马，卒。

成王千里使岭南，取大蛇八九尺，以绳缚口，横于门限之下。州县参谒者，呼令入门，但知直视，无复瞻仰，踏蛇而惊，惶惧僵仆，被蛇绕数匝。良久解之，以为戏笑。又取龟及鳖，令人脱衣，纵龟等啖其体，终不肯放，死而后已。其人酸痛号呼，不可复言。王与姬妾共看，以为玩乐。然后以竹刺龟等口，遂啖竹而放人；艾灸鳖背，灸痛而放口。人被试者皆失魂至死，不平复矣。

朔方总管张仁亶好杀。时有突厥投化，亶乃作檄文骂默啜，言词甚不逊。书其腹背，凿其肌肤，涅之以墨，炙之以火，不胜楚痛，日夜作虫鸟鸣。然后送与默啜，识字者宣讫，膏而杀之。匈奴怨望，不敢降。

殿中侍御史王旭，括宅中别宅女妇风声色目，有稍不承者，以绳勒其阴，令壮士弹竹击之，酸痛不可忍。倒悬一女妇，以石缢其发，遣证与长安尉房恒奸，经三日不承。女妇曰：“侍御如此，若毒儿死，必诉于冥司；若配入宫，必申于主上。终不相放。”旭惭惧，乃舍之。

监察御史李嵩、李全交，殿中王旭，京师号为“三豹”。嵩为赤鬣豹，交为白额豹，旭为黑豹。皆狼戾不轨，鸩毒无仪，体性狂疏，精神惨刻。每讯囚，必铺棘卧体，削竹签指，方梁压踝，碎瓦搯膝，遣仙人献果、玉女登梯、筷子悬驹、驴儿拔橛、凤凰晒翅、猕猴钻火、上麦索、下阑单，人不聊生，囚皆乞死。肆情锻炼，证是为非，任意指麾，傅空为实。周公、孔子，请伏杀人；伯夷、叔齐，求其劫罪。讯劾干铍，水必有期；推鞠湿泥，尘非不久。来俊臣乞为弟子，索元礼求作门生。被追者皆相谓曰：“牵牛付虎，未有出期；缚鼠与猫，终无脱日。妻子永别，友朋长辞。”京中人相要，作咒曰：“若违心负教，横遭三豹。”其毒害也如此。

京兆人高丽家贫，于御史台替勋官递送文牒。其时令史作伪帖，付高丽追人，拟吓钱。事败，令史逃走，追讨不获。御史张孝嵩提高丽拷，膝骨落地，两脚俱挛，抑遣代令史承伪。准法断死讫，大理卿状上：故事，准《名例律》，笃疾不合加刑。孝嵩勃然作色曰：“脚挛何废造伪。”命两人舁上市，斩之。

周黔府都督谢祐凶险忍毒。则天朝，徙曹王于黔中，祐吓云“则天赐自尽”，祐亲奉进止，更无别敕。王怖而缢死。后祐于平阁上卧，婢妾十余人同宿，夜不觉刺客截祐首去。后曹王破家，簿录事得祐头，漆之题“谢祐”字，以为秽器。方知王子令刺客杀之。



周默啜之陷恒、定州，和亲使杨齐庄敕授三品，入匈奴，遂没贼。将至赵州，襄公段瓚同没，唤庄共出走。庄惧，不敢发，瓚遂先归。则天赏之，复旧任。齐庄寻至，敕付河内王懿宗鞠问。庄曰：“昔有人相庄，位至三品，有刀箭厄。庄走出被赶，斫射不死，走得脱来，愿王哀之。”懿宗性酷毒，奏庄初怀犹豫，请杀之，敕依。引至天津桥南，于卫士铺鼓格上缚磔手足。令段瓚先射，三发皆不中；又段瑾射之，中。又令诸司百官射，箭如猬毛，仍气殢殢然微动。即以刀当心直下，破至阴，割取心掷地，仍赳赳跳数十回。懿宗忍毒如此。

杨务廉，孝和时造长宁、安乐宅仓库成，特授将作大匠，坐赃数千万免官。又上章奏闻陕州三门，凿山烧石，岩侧施栈道牵船。河流湍急，所顾夫并未与价直，苟牵绳一断，栈梁一绝，则扑杀数十人。取顾夫钱采米充数，即注夫逃走，下本贯禁父母兄弟妻子。牵船皆令系二钗于胸背，落栈着石，百无一存，满路悲号，声动山谷。皆称杨务廉“人妖”也，天生此妖以破残百姓。

监察御史李全素以罗织酷虐为业，台中号为“人头罗刹”，殿中王旭号为“鬼面夜叉”。讯囚引枷柄向前，名为“驴驹拔枷”；缚枷头着树，名曰“筷子悬车”；两手捧枷，累砖于上，号为“仙人献果”；立高木之上，枷柄向后拗之，名“玉女登梯”。考柳州典廖福、司门令史张性，并求神狐魅，皆遭唤鹤作风，证蛇成龙也。

陈怀卿，岭南人也，养鸭百余头。后于鸭栏中除粪，粪中有光灿灿然。以盆水沙汰之，得金十两。乃覩所食处，于舍后山足下，因凿有麸金，销得数十斤，时人莫知。卿遂巨富，仕至梧州刺史。

周长安年初，前遂州长江县丞夏文荣，时人以为判冥事。张鷟时为御史，出为处州司仓，替归，往问焉。荣以杖画地，作“柳”字，曰：“君当为此州。”至后半年，除柳州司户，后改德州平昌令。荣刻时日，晷漏无差。又苏州嘉兴令杨廷玉，则天之表侄也，贪狼无厌，著词曰：“回波尔时廷玉，打獠取钱未足。阿姑婆见作天子，傍人不得柰触。”差掇御史康哲推奏断死。时母在都，见夏文荣，荣索一千张白纸，一千张黄纸，为廷玉祷，后十日来。母如其言，荣曰：“且免死矣，后十日内有进止。”果六日有敕，杨廷玉改尽老母残年。又天官令史柳无忌造荣，荣书“卫汉郴”字，曰：“卫多不成，汉、郴二州，交加不定。”后果唱卫州录事。关重，即唱汉州录事。时鸾台凤阁令史进状，诉天官注拟不平。则天责侍郎崔玄晖，玄晖奏：“臣注官极平。”则天曰：“若尔，吏部令史官共鸾台凤阁交换。”遂以无忌为郴州平阳主簿，鸾台令史为汉州录事焉。

周司礼卿张希望，移旧居改造见鬼人，冯毅见之曰：“当新堂下有一伏尸，晋朝三品将军，极怒，公可避之。”望笑曰：“吾少长已来，未曾知此事，公毋多言。”后月余日，毅入，见鬼持弓矢随希望后，适登阶，鬼引弓射中肩膊间。望觉背痛，以手抚之，其日卒。

周左司郎中郑从简所居厅事常不佳，令巫者观之，果有伏尸姓宗，妻姓寇，在厅基之



下。使问之，曰：“君坐我门上，我出入常值君，君自不好，非我之为也。”掘之三丈，果得旧骸，有铭如其言。移出改葬，于是遂绝。

周地官郎中房颖叔除天官侍郎，明日欲上。其夜有厨子王老夜半起，忽闻外有人唤云：“王老不须起，房侍郎不上，后三日李侍郎上。”王老却卧至晓，房果病，数日而卒。所司奏状下，即除李回秀为侍郎，其日谢，即上。王老以其言问诸人，皆云不知，方悟是神明所告也。

北齐稠禅师，邳人也，幼落发为沙弥。时辈甚众，每休暇，常角力腾越为戏。而禅师以软弱见凌，给侮殴击者相继，禅师羞之。乃入殿中，闭户抱金刚足而誓曰：“我以羸弱为等类轻侮，为辱已甚，不如死也。汝以力闻，当佑我。我捧汝足七日，不与我力，必死于此，无还志。”约既毕，因至心祈之。初一两夕，恒尔，念益固。至六日将曙，金刚形见，手执大钵，满中盛筋，谓稠曰：“小子欲力乎？”曰：“欲。”“念至乎？”曰：“至。”“能食筋乎？”曰：“不能。”神曰：“何故？”稠曰：“出家人断肉故。”神因操钵举匕，以筋食之。禅师未敢食，乃怖以金刚忤，稠惧遂食。斯须食毕，神曰：“汝已多力，然善持教，勉励！”神去且晓，乃还所居。诸同列问曰：“竖子顷何至？”稠不答。须臾于堂中会食，食毕，诸同列又戏殴，禅师曰：“吾有力，恐不堪于汝。”同列试引其臂，筋骨强劲，殆非人也。方惊疑，禅师曰：“吾为汝试之。”因入殿中，横塌壁行，自西至东凡数百步，又跃首至于梁数四。乃引重千钧，其拳捷骁武劲。先轻侮者俯伏流汗，莫敢仰视。禅师后证果，居于林虑山。入山数十里，精庐殿堂，穷极壮大，诸僧从而禅者常数千。齐文宣帝怒其聚众，因领骁骑数万，躬自往讨，将加白刃焉。禅师是日领僧徒谷口迎候，文宣问曰：“师何遽此来？”稠曰：“陛下将杀贫僧，恐山中血污伽蓝，故此谷口受戮。”文宣大惊，降驾礼谒，请许其悔过。禅师亦无言。文宣命设饌，施毕，请曰：“闻师金刚处祈得力，今欲见师效少力，可乎？”稠曰：“昔力者，人力耳。今为陛下见神力，欲见之乎？”文宣曰：“请与同行寓目。”先是，禅师造寺，诸方施木数千根，卧在谷口。禅师咒之，诸木起立空中，自相搏击，声若雷霆，斗触摧折，缤纷如雨。文宣大惧，从官散走，文宣叩头请止之。因教禅师度人造寺，无得禁止。后于并州营幢子未成，遭病，临终叹曰：“夫生死者，人之大分，如来尚所不免。但功德未成，以此为恨耳。死后愿为大力长者，继成此功。”言终而化。至后三十年，隋帝过并州见此寺，心中涣然记忆，有似旧修行处，顶礼恭敬，无所不为。处分并州大兴营葺，其寺遂成。时人谓帝“大力长者”云。

真腊国在疆州南五百里。其俗有客设槟榔、龙脑香、蛤屑等，以为赏宴。其酒比之淫秽，私房与妻共饮，对尊者避之。又行房不欲令人见，此俗与中国同。国人不着衣服，见衣服者共笑之。俗无盐铁，以竹弩射虫鸟。

五溪蛮父母死，于村外阉其尸，三年而葬。打鼓路歌，亲属饮宴舞戏一月余日。尽产为棺，余临江高山半肋凿龛以葬之。自山上悬索下柩，弥高者以为至孝，即终身不复祀祭。初遭丧，三年不食盐。



岭南獠民好为蜜唧。即鼠胎未瞬、通身赤蠕者，饲之以蜜，钉之筵上，啜啜而行。以箸夹取啖之，唧唧作声，故曰“蜜唧”。

梁有磕头师者，极精进，梁武帝甚敬信之。后敕使唤磕头师，帝方与人棋，欲杀一段，应声曰：“杀却。”使遽出而斩之。帝棋罢，曰：“唤师。”使答曰：“向者陛下令人杀却，臣已杀讫。”帝叹曰：“师临死之时有何言？”使曰：“师云：‘贫道无罪。前劫为沙弥时，以锹划地，误断一曲蟾。帝时为蟾，今此报也。’”帝流泪悔恨，亦无及焉。

建昌王武攸之别置勾使，法外枉征财物，百姓破家者十而九，告冤于天，吁嗟满路。为大库长百步，二百余间，所征获者贮在其中。天火烧之，一时荡尽。众口所咒，攸之宁患足肿，粗于瓮，其酸楚不可忍，数月而终。

乾封年中，京西明寺僧县畅将一奴二骡，向岐州棱法师处听讲。道逢一道人，着衲帽弊衣，掐数珠，自云贤者五戒讲。夜至马嵬店宿，五戒礼佛诵经，半夜不歇，畅以为精进。一练至四更，即共同发，去店十余里，忽袖中出两刃刀矛，便刺杀畅。其奴下马入草走。其五戒骑骡，驱驮即去。主人未晓，梦畅告云：“昨夜五戒杀贫道。”须臾奴走到，告之如梦。时同宿三卫子被持弓箭，乘马赶四十余里，以弓箭拟之，即下骡乞死。缚送县，决杀之。

后魏末，嵩阳杜昌妻柳氏甚妒。有婢金荆，昌沐，令理发，柳氏截其双指。无何，柳被狐刺螫，指双落。又有一婢名玉莲，能唱歌，昌爱而叹其善，柳氏乃截其舌。后柳氏舌疮烂，事急，就禪师忏悔。禪师已先知，谓柳氏曰：“夫人为妒，前截婢指，已失指；又截婢舌，今又合断舌。悔过至心，乃可以免。”柳氏顶礼求哀，经七日，禪师令大张口，咒之，有二蛇从口出，一尺以上，急咒之，遂落地，舌亦平复。自是不复妒矣。

贞观中，濮阳范略妻任氏，略先幸一婢，任以刀截其耳鼻，略不能制。有顷，任有娠，诞一女，无耳鼻。女年渐大，其婢仍在。女问，具说所由，女悲泣，以恨其母。母深有愧色，悔之无及。

广州化蒙县丞胡亮从都督周仁轨讨獠，得一首领妾，幸之。至县，亮向府不在，妻贺氏乃烧钉烙其双目，妾遂自缢死。后贺氏有娠，产一蛇，两目无睛。以问禪师，师曰：“夫人曾烧铁烙一女妇眼，以夫人性毒，故为蛇报，此是被烙女妇也。夫人好养此蛇，可以免难。不然祸及身矣。”贺氏养蛇一二年，渐大，不见物，惟在衣被中。亮不知也，拔被见蛇，大惊，以刀斫杀之，贺氏两目俱枯，不复见物，悔而无及焉。

梁仁裕为骁卫将军，先幸一婢，妻李氏甚妒而虐，缚婢击其脑。婢号呼曰：“在下卑贱，势不自由。娘子锁项，苦毒何甚！”婢死后月余，李氏病，常见婢来唤。李氏头上生四处瘡疽，脑溃，昼夜鸣叫，苦痛不胜，数月而卒。

荆州枝江县主簿夏荣判冥司。县丞张景先宠其婢，厥妻杨氏妒之。景出使不在，妻杀婢，投之于厕。景至，给之曰婢逃矣。景以妻酷虐，不问也。婢讼之于荣，荣追对之，问景曰：“公夫人病困，说形状。”景疑其有私也，怒之。荣曰：“公夫人枉杀婢，投于厕。



今见推勘，公试问之。”景恬，问其妇，妇病甚，具首其事。荣令厕内取其骸骨，香汤浴之，厚加殡葬。婢不肯放，月余而卒。

左仆射韦安石女适太府主簿李训。训未婚以前有一妾，成亲之后遂嫁之，已易两主。女患传尸瘦病，恐妾厌祷之，安石令河南令秦守一捉来，掠掠楚苦，竟以自诬。前后决三百以上，投井而死。不出三日，其女遂亡，时人咸以为冤魂之所致也。安石坐贬蒲州，太极元年八月卒。

王弘，冀州衡水人，少无赖，告密罗织善人。曾游河北赵、贝，见老人每年作邑斋，遂告二百人，授游击将军。俄除侍御史。时有告胜州都督王安仁者，密差弘往推索，大枷夹颈，安仁不承伏。遂于枷上斫安仁死，便即脱之。其男从军，亦擒而斩之。至汾州，与司马毛公对食，须臾喝下，斩取首级，百姓震悚。后坐诬枉流雷州，将少姬花严，素所宠也。弘于舟中伪作敕追，花严谏曰：“事势如此，何忍更为不轨乎？”弘怒曰：“此老姬欲败吾事。”缚其手足，投之于江。船人救得之，弘又鞭二百而死，埋于江上。俄而伪敕发，御史胡元礼推之，锯身领回。至花严死处，忽云：“花严来唤对事。”左右皆不见，惟弘称“叩头死罪”，如受枷棒之声，夜半而卒。

余杭人陆彦，夏月死十余日，见王，云：“命未尽，放归。”左右曰：“宅舍亡坏不堪。”时沧州人李谈新来，其人合死，王曰：“取谈宅舍与之。”彦遂入谈枢中而苏，遂作吴语，不识妻子，具说其事。遂向余杭访得其家，妻子不认，具陈由来，乃信之。

天后中，涪州武龙界多虎暴。有一兽似虎而绝大，日正中，逐一虎直入人家，噬杀之，亦不食其肉。自是县界不复有虎矣。录奏。检《瑞图》乃首耳，不食生物，有虎暴则杀之。

天后中，成王千里将一虎子来宫中养，损一宫人，遂令生饿数日而死。天后令葬之，其上起塔，设千人供，勒碑号为“虎塔”。至今犹在。

傅黄中为越州诸暨县令，有部人饮大醉，夜中山行，临崖而睡。忽有虎临其上而嗅之，虎须入醉人鼻中，遂喷嚏，声震虎，遂惊跃，便即落崖。腰胯不遂，为人所得。

阳城居夏县，拜谏议大夫；郑钢居阆乡，拜拾遗；李周南居曲江，拜校书郎。时人以转远转高，转近转卑。

袁守一性行浅促，时人号为“料斗鬼翁鸡”。任万年尉，雍州长史窦怀贞每欲鞭之。乃于中书令宗楚客门偷生菜，除监察，怀贞未知也。贞高揖曰：“驾欲出，公作如此检校。”守一即弹之。月余，贞除左台御史大夫，守一请假不敢出，乞解。贞呼而慰之，守一兢惕不已。楚客知之，为除右台侍御史，于朝堂抗衡于贞曰：“与公罗师。”罗师者，市郭儿语，无交涉也。无何，楚客以反诛，守一以其党配流端州。

黄门侍郎崔泰之哭特进李峤诗曰：“台阁神仙地，衣冠君子乡。昨朝犹对坐，今日忽云亡。魂随司命鬼，魄逐阎罗王。此时罢欢笑，无复向朝堂。”

尚书右丞陆余庆转洛州长史，其子嘲之曰：“陆余庆，笔头无力嘴头硬。一朝受词讼，



十日判不竟。”送案褥下。余庆得而读之，曰：“必是那狗。”遂鞭之。

周定州刺史孙彦高被突厥围城数十重，不敢诣厅，文符须征发者于小窗接入，锁州宅门。及贼登垒，乃入匿中藏，令奴曰：“牢掌钥匙，贼来索，慎勿与。”昔有愚人入京选，皮袋被贼盗去，其人曰：“贼偷我袋，将终不得我物用。”或问其故，答曰：“钥匙尚在我衣带上，彼将何物开之？”此孙彦高之流也。

姜师度好奇诡，为沧州刺史兼按察，造抢车运粮，开河筑堰，州县鼎沸。于鲁城界内种稻置屯，穗蟹食尽，又差夫打蟹。苦之，歌曰：“卤地抑种稻，一概被水沫。年年索蟹夫，百姓不可活。”又为陕州刺史，以永丰仓米运将别征三钱，计以为费。一夕忽云得计，立注楼，从仓建槽，直至于河，长数千丈，而令放米。其不快处，具大耙推之，米皆损耗，多为粉末。兼风激扬，凡一函失米百石，而动即千万数。遣典吏者偿之，家产皆竭；复遣输户自量，至有偿数十斛者。甚害人，方停之。

岐王府参军石惠恭与监察御史李全交诗曰：“御史非长任，参军不久居。待君迁转后，此职还到余。”因竟放牒往来，全交为之判十余纸以报，乃假手于拾遗张九龄。

御史中丞李谨度，宋璟引致之。遭母丧，不肯举发哀，诇到皆匿之。官寮苦其无用，令本贯瀛州申谨度母死。尚书省牒御史台，然后哭。其庸狠皆此类也。

王怡为中丞，宪台之秽；姜晦为掌选侍郎，吏部之秽；崔泰之为黄门侍郎，门下之秽。号为“京师三秽”。

阳滔为中书舍人，时促命制敕，令史持库钥他适，无旧本检寻，乃斫窗取得之，时人号为“斫窗舍人”。

国子进士辛弘智诗云：“君为河边草，逢春心刺生。妾如堂上镜，得照始分明。”同房学士常定宗为改“始”字为“转”字，遂争此诗，皆云我作。乃下牒见博士，罗为宗判云：“昔五字定表，以理切称奇；今一言竞诗，取词多为主。诗归弘智，‘转’还定宗。以状牒知，任为公验。”

杭州参军独孤守忠领租船赴都，夜半急追集船人，更无他语，乃曰：“逆风必不得张帆。”众大晒焉。

王熊为泽州都督，府法曹断掠粮贼，惟各决杖一百。通判，熊曰：“总掠几人？”法曹曰：“掠七人。”熊曰：“掠七人，合决七百。法曹曲断，府司科罪。”时人晒之。前尹正义为都督公平，后熊来替，百姓歌曰：“前得尹佛子，后得王癞獭。判事驴咬瓜，唤人牛嚼沫。见钱满面喜，无镫从头痛。尝逢饿夜叉，百姓不可活。”

冀州参军鞠崇裕送司功入京诗云：“崇裕有幸会，得遇明流行。司士向京去，旷野哭声哀。”司功曰：“大才士。先生其谁？”曰：“吴儿博士教此声韵。”司功曰：“师明弟子哲。”

滑州灵昌尉梁士会，官科鸟翎，里正不送。举牒判曰：“官唤鸟翎，何物里正，不送鸟翎！”佐使曰：“公大好判，‘鸟翎’太多。”会案笔曰：“官唤鸟翎，何物里正，不送雁



翅！”有识之士闻而笑之。

卷 三

则天朝，太仆卿来俊臣之强盛，朝官侧目，上林令侯敏偏事之。其妻董氏谏止之曰：“俊臣，国贼也，势不久。一朝事败，党附先遭，君可敬而远之。”敏稍稍引退。俊臣怒，出为涪州武龙令。敏欲弃官归，董氏曰：“速去，莫求住。”遂行至州，投刺参州将，错题一张纸。州将展看，尾后有字，大怒曰：“修名不了，何以为县令！”不放上。敏忧闷无已，董氏曰：“且住，莫求去。”停五十日，忠州贼破武龙，杀旧县令，掠家口并尽。敏以不计上获全。后俊臣诛，逐其党流岭南，敏又获免。

唐冀州长史吉懋，欲为男甥娶南官县丞崔敬女，敬不许。因有故胁以求亲，敬惧而许之。择日下函，并花车卒至门首。敬妻郑氏初不知，抱女大哭，曰：“我家门户低，不曾有吉郎。”女坚卧不起。其小女白其母曰：“父有急难，杀身救解。设令为婢，尚不合辞；姓望之门，何足为耻。姊若不可，儿自当之。”遂登车而去。顷迁平章事，贤妻达节，谈者荣之。顷坐与河内王武懿宗争竞，出为温州司马而卒。

监察御史李畬母，清素贞洁，畬请禄米送至宅，母遣量之，剩三石。问其故，令史曰：“御史例不概剩。”又问车脚几钱，又曰：“御史例不还脚钱。”母怒，令还所剩米及脚钱以责畬，畬乃追仓官科罪。诸御史皆有惭色。

文昌左丞卢献女第二，先适郑氏，其夫早亡，誓不再醮。姿容端秀，言辞甚高。姊夫羽林将军李思冲，姊亡之后，奏请续亲，许之，兄弟并不敢白。思冲择日备礼，币币甚盛。执贻就宅，卢氏拒关，抗声誓曰：“老奴，我非汝匹也。”乃逾垣至所亲家截发。思冲奏之，敕不夺其志。后为尼，甚精进。

沧州弓高邓廉妻李氏女，嫁未周年而廉卒。李年十八守志，设灵几，每日三上食临哭，布衣蔬食六七年。忽夜梦一男子，容止甚都，欲求李氏为偶，李氏睡中不许之。自后每夜梦见，李氏竟不受，以为精魅，书符咒禁，终莫能绝。李氏叹曰：“吾誓不移节，而为此所挠，盖吾容貌未衰故也。”乃拔刀截发，麻衣不濯，蓬鬓不理，垢面灰身。其鬼又谢李氏曰：“夫人竹柏之操，不可夺也。”自是不复梦见。郡守旌其门闾，至今尚有节妇里。

杨盈川侄女曰容华，幼善属文，尝为《新妆诗》，好事者多传之。诗曰：“宿鸟惊眠罢，房栊乘晓开。凤钗金作缕，鸾镜玉为台。妆似临池出，人疑向月来。自怜终不见，欲去复徘徊。”

初，兵部尚书任瓌敕赐官女二人，皆国色。妻妒，烂二女头发秃尽。太宗闻之，令上官资金壶瓶酒赐之，云：“饮之立死。瓌三品，合置姬媵。尔后不妒，不须饮；若妒，即饮之。”柳氏拜敕讫，曰：“妾与瓌结发夫妻，俱出微贱，更相辅翼，遂致荣官。瓌今多内



嬖，诚不如死。”饮尽而卧，然实非鸩也，至夜半睡醒。帝谓璩曰：“其性如此，朕亦当畏之。”因诏二女令别宅安置。

隋开皇中，京兆韦褒有奴曰桃符，每征讨将行，有胆力。褒至左卫中郎，以桃符久从驱使，乃放从良。桃符家有黄犊，宰而献之，因问褒乞姓。褒曰：“止从我姓为韦氏。”符叩头曰：“不敢与郎君同姓。”褒曰：“汝但从之，此有深意。”故至今为“黄犊子韦”，即韦庶人其后也。不许异姓者，盖虑年代深远，子孙或与韦氏通婚，此其意也。

则天后尝梦一鸛，羽毛甚伟，两翅俱折。以问宰臣，群公默然，内史狄仁杰曰：“鸛者，陛下姓也；两翅折，陛下二子庐陵、相王也。陛下起此二子，两翅全也。”武承嗣、武三思连项皆赤。后契丹围幽州，檄朝廷曰“还我庐陵、相王来”，则天乃忆狄公之言，曰：“卿曾为我占梦，今乃应矣。朕欲立太子，何者为得？”仁杰曰：“陛下内有贤子，外有贤侄，取舍详译，断在圣衷。”则天曰：“我自有圣子，承嗣、三思是何疥癣！”承嗣等惧，掩耳而走。即降敕追庐陵，立为太子，充元帅。初募兵，无有应者，闻太子行，北邙山头皆兵满，无容人处。贼自退散。

薛季昶为荆州长史，梦猫儿伏卧于堂限上，头向外。以问占者张猷，猷曰：“猫儿者，爪牙；伏门限者，阃外之事。君必知军马之要。”未旬日，除桂州都督、岭南招讨使。

给事中陈安平子，年满赴选，与乡人李仙药卧。夜梦十一月养蚕，仙药占曰：“十一月养蚕，冬丝也，君必送东司。”数日，果送吏部。

饶阳李置，云勋官番满选，夜梦一母猪极大，李仙药占曰：“母猪，纯主也，君必得屯主。”数日，果如其言。

张鷟曾梦一大鸟，紫色，五彩成文，飞下至庭前不去。以告祖父，云：“此吉祥也。昔蔡衡云，凤之类有五；其色赤者，文章凤也；青者，鸾也；黄者，鹓雏也；白者，鸿鹄也；紫者，鷟鷟也。此鸟为凤凰之佐，汝当为帝辅也。”遂以为名字焉。鷟初举进士，至怀州，梦庆云覆其身。其年对策，考功员外卿味道以为天下第一。又初为岐王属，夜梦着绯乘驴，睡中自怪：我绿衣当乘马，何为衣绯却乘驴？其年应举及第，授鸿胪丞。未经考而授五品，此其应也。

河东裴元质初举进士，明朝唱策，夜梦一狗从窠出，挽弓射之，其箭遂穿。以为不祥，问曹良史，曰：“吾往唱策之夜，亦为此梦。梦神为吾解之曰：狗者，第字头也；弓，第字身也；箭者，第竖也；有穿为第也。”寻而唱第，果如梦焉。

右丞卢藏用、中书令崔湜，太平党，被流岭南。至荆州，湜夜梦讲坐下听法而照镜，问善占梦张猷。谓卢右丞曰：“崔令公大恶梦。坐下听讲，法从上来也；镜子，金榜竟也。其竟于今日乎！”寻有御史陆贽劾奏，令湜自尽。

洛州杜玄有牛一头，玄甚怜之。夜梦见其牛有两尾，以问占者李仙药，曰：“牛字有两尾，失字也。”经数日，果失之。

载初年中，来俊臣罗织，告故庶人贤二子夜遣巫祈祷星月，咒咀不道。拷楚酸痛，奴



婢妄证，二子自诬，并鞭杀之，朝野伤痛。浮休子张鸞曰：下里庸人，多信厌禱，小儿妇女，甚重符书。蕴匿崇奸，构虚成实。坎土用血，诚伊戾之故为；掘地埋桐，乃江充之擅造也。

韦庶人之全盛日，好厌禱，并将昏镜以照人，令其速乱，与崇仁坊邪俗师婆阿来专行厌魅。平王诛之。后往往于殿上掘得巫蛊，皆逆韦之輩为之也。

韦庶人葬其父韦玄贞，号鄆王。葬毕，官人路见鬼师雍文智，诈宣鄆王教曰：“常作官人，甚大艰苦，宜与赏，着绿者与绯。”韦庶人悲恸，欲依鬼教与之。未处分间，有告文智诈受赂贿验，遂斩之。

中宗之时，有见鬼师彭君卿被御史所辱。他日，对百官总集，诈宣孝和敕曰：“御史不检校，去却巾带。”即去之。曰：“有敕与一顿杖。”大使曰：“御史不奉正敕，不合决杖。”君卿曰：“若不合，有敕且放却。”御史裹头，仍舞蹈拜谢而去。观者骇之。

浮休子张鸞为德州平昌令，大旱。郡符下令以师婆、师僧祈之，二十余日无效。浮休子乃推土龙倒，其夜雨足。江淮南好鬼，多邪俗，病即祀之，无医人。浮休子曾于江南洪州停数日，遂闻土人何婆善琵琶卜，与同行郭司法质焉。其何婆士女填门，恻遗满道，颜色充悦，心气殊高。郭再拜下钱，问其品秩。何婆乃调弦柱，和声气曰：“个丈夫富贵。今年得一品，明年得二品，后年得三品，更后年得四品。”郭曰：“阿婆错，品少者官高，品多者官小。”何婆曰：“今年减一品，明年减二品，后年减三品，更后年减四品，更得五六年总没品。”郭大骂而起。

崇仁坊阿来婆弹琵琶卜，朱紫填门。浮休子张鸞曾往观之，见一将军，紫袍玉带甚伟，下一匹绛绡，请一局卜。来婆鸣弦柱，烧香，合眼而唱：“东告东方朔，西告西方朔，南告南方朔，北告北方朔，上告上方朔，下告下方朔。”将军顶礼既，告请甚多，必望细看，以决疑惑。遂即随意支配。

咸亨中，赵州祖珍俭有妖术。悬水瓮于梁上，以刃斫之，绳断而瓮不落。又于空房内密闭门，置一瓮水，横刀其上。人良久入看，见俭支解五段，水瓮皆是血。人去之后，平复如初。冬月极寒，百白水冻，咒之拔出。卖卜于信都市，日取百钱。盖君平之法也。后被人纠告，引向市斩之，颜色自若，了无惧。命纸笔作词，精神不挠。

凌空观叶道士咒刀，尽力斩病人肚，横桃柳于腹上，桃柳断而内不伤。复将双刀斫一女子，应手两断，血流遍地，家人大哭。道人取续之，喷水而咒，须臾平复如故。

河南府立德坊及南市西坊皆有胡袄神庙。每岁商胡祈福，烹猪羊，琵琶鼓笛，酣歌醉舞。酹神之后，募一胡为袄主，看者施钱并与之。其袄主取一横刀，利同霜雪，吹毛不过，以刀刺腹，刃出于背，仍乱扰肠肚流血。食顷，喷水咒之，平复如故。此盖西域之幻法也。

凉州袄神祠，至祈祷日袄主以铁钉从额上钉之，直洞腋下，即出门，身轻若飞，须臾数百里。至西袄神前舞一曲即却，至旧袄所乃拔钉，无所损。卧十余日，平复如故。莫知



其所以然也。

明崇俨有术法。大帝试之，为地窖，遣妓奏乐。引俨至，谓曰：“此地常闻管弦，是何祥也？卿能止之乎？”俨曰：“诺。”遂书二桃符，于其上钉之，其声寂然。上笑唤妓人问，云见二龙头张口向上，遂怖惧，不敢奏乐也。上大悦。

蜀县令刘静妻患疾，正谏大夫明崇俨诊之，曰：“须得生龙肝，食之必愈。”静以为不可得，俨乃画符，乘风放之上天。须臾有龙下，入瓮水中，剔取食之而差。大帝盛夏须雪及枇杷、龙眼，俨坐顷间，往阴山取雪，岭南取果子并到，食之无别。时四月，瓜未熟，上思之，俨索百钱将去，须臾得一大瓜，云缙氏老人园内得之。上追老人至问之，云土埋一瓜拟进，适卖，唯得百钱耳。俨独坐堂中，夜被刺死，刀子仍在心上。敕求贼甚急，竟无踪绪。或以为俨役鬼劳苦，被鬼杀之。孔子曰：“攻乎异端，斯害也已。”信哉！

则天朝有鼎师者，瀛州博野人，有奇行。太平公主进，则天试之，以银瓮盛酒三斗，一举而饮尽。又曰：“臣能食酱。”即令以银缸盛酱一斗，鼎师以匙抄之，须臾即竭。则天欲与官，鼎曰：“情愿出家。”即与剃头。后则天之复辟也，鼎曰：“如来螺髻，菩萨宝首，若能修道，何必剃除。”遂长发。使张潜决一百，不废行动，亦无疮疾，时人莫测。

大足中，有妖妄人李慈德，自云能符书厌，则天于内安置。布豆成兵马，画地为江河，与给使相知削竹为枪，缠被为甲，三更于内反，官人扰乱相杀者十二三。羽林将军杨玄基闻内里声叫，领兵斩关而入，杀慈德、阉竖数十人。惜哉，慈德以厌为客，以厌而丧。

孝和帝令内道场僧与道士各述所能，久而不决。玄都观叶法善取胡桃二升，并壳食之并尽。僧仍不伏。法善烧一铁钵，赫赤两合，欲合老僧头上，僧唱“贼”，袈裟掩面而走。孝和抚掌大笑。

道士罗公远，幼时不慧。入罗山数年，忽有异见，言事皆中，敕追入京。先天中，皇太子设斋，远从太子乞金银器物，太子靳固不与。远曰：“少时自取。”太子自封署房门，须臾开视，器物一无所见。东房先封闭，往视之，器物并在其中。又借太子所乘马，太子怒，不与。远曰：“已取得来，见于后园中放在。”太子急往枥上检看，马在如故。侍御史袁守一将食器数枚，就罗公远看年命，奴擎衣襖在门外，不觉须臾在公远衣箱中。诸人大惊，莫知其然。

欧阳通，洵之子，善书，瘦怯于父。常自矜能书，必以象牙、犀角为笔管，狸毛为心，覆以秋兔毫；松烟为墨，末以麝香；纸必须坚薄白滑者，乃书之。盖自重其书。薛纯陀亦效欧阳草，伤于肥钝，亦通之亚也。

孟知俭，并州人，少时病，忽亡。见衙府如平时时，不知其死，逢故人为史，谓曰：“因何得来？”具报之，乃知是冥途。吏为检寻，曰：“君平生无修福处，何以得还！”俭曰：“一生诵《多心经》及《高王经》，虽不记数，亦三四万遍。”重检，获之，遂还。吏问：“欲知官乎？”曰：“甚要。”遂以簿示之，云“孟知俭合运出身，为曹州参军，转邓州



司金”，即掩却不许看。遂至荒榛，入一黑坑，遂活。不知“运”是何事，寻有敕募运粮，因放选授曹州参军。乃悟曰：“此州吾不见小书耳。”满授邓州司金。去任，又选唱晋州判司，未过而卒。

贞观中，顿丘县有一贤者，于黄河渚上拾菜，得一树栽子大如指。持归，蒔之三年，乃结子五颗，味状如奈，又似林檎多汁，异常酸美。送县，县上州，以其味奇，乃进之，赐绫一十四。后树长成，渐至三百颗，每年进之，号曰“朱奈”，至今存。德、贝、博等州，取其枝接，所在丰足。人以为从西域来，碍渚而住矣。

西晋末有旌阳县令许逊者，得道于豫章西山。江中有蛟为患，旌阳没水，剑斩之。后不知所在。顷渔人网得一石甚鸣，击之声闻数十里。唐朝赵王为洪州刺史，破之得剑一双，视其铭一有“许旌阳”字，一有“万仞”字。遂有万仞师出焉。

上元年中，令九品以上配刀砺等袋，彩帨为鱼形，结帛作之。取鱼之象，强之兆也。至天后朝乃绝。景云之后又复前，结白鱼为饼。

中宗令扬州造方丈镜，铸铜为桂树，金花银叶，帝每骑马自照，人马并在镜中。专知官高邮县令幼临也。

睿宗先天二年正月十五、十六夜，于京师安福门外作灯轮，高二十丈，衣以锦绮，饰以金玉，燃五万盏灯，簇之如花树。宫女千数，衣罗绮，曳锦绣，耀珠翠，施香粉。一花冠、一巾帔皆万钱，装束一妓女皆至三百贯。妙筒长安、万年少女妇千余人，衣服、花钗、媚子亦称是，于灯轮下踏歌三日夜，欢乐之极，未始有之。

张易之为母阿臧造七宝帐，金银、珠玉、宝贝之类罔不毕萃，旷古以来，未曾闻见。铺象牙床，织犀角簾，麝绍之褥，蚕虻之毡，汾晋之龙须、河中之凤翮以为席。阿臧与凤阁侍郎李迥秀通，逼之也。同饮以碗盞一双，取其常相逐。迥秀畏其盛，嫌其老，乃荒饮无度，昏醉是常，频唤不觉。出为衡州刺史。易之败，阿臧入官，回秀被坐，降为卫州长史。

宗楚客造一新宅成，皆是文柏为梁，沉香和红粉以泥壁，开门则香气蓬勃。磨文石为阶砌及地，着吉莫靴者，行则仰仆。楚客被建昌王推得赃万余贯，兄弟配流。太平公主就其宅看，叹曰：“看他行坐处，我等虚生浪死。”一年迫人，为凤阁侍郎。景龙中，为中书令。韦氏之败，斩之。

洛州昭成佛寺有安乐公主造百宝香炉，高三尺，开四门，绛桥勾栏，花草、飞禽、走兽，诸天妓乐，麒麟、鸾凤、白鹤、飞仙，丝来线去，鬼出神入，隐起钗钏，窈窕便娟。珍珠、玛瑙、琉璃、琥珀、玻璃、珊瑚、砮礞、琬琰，一切宝贝，用钱三万，府库之物，尽于是矣。

隋炀帝巡狩北边，作大行殿七宝帐，容数百人，饰以珍宝，光辉洞彻。引匈奴启民可汗宴会其中，可汗恍然，疑非人世之有。识者云，大行殿者，示不祥也。亦是王莽轻车之比，天心其关人事与欤！



安乐公主改为悖逆庶人。夺百姓庄园，造定昆池四十九里，直抵南山，拟昆明池。累石为山，以象华岳，引水为涧，以象天津。飞阁步檐，斜桥磴道，衣以锦绣，画以丹青，饰以金银，莹以珠玉。又为九曲流杯池，作石莲花台，泉于台中流出，穷天下之壮丽。悖逆之败，配人司农，每日士女游观，车马填噎。奉敕，辄到者官人解见任，凡人决一顿，乃止。

安乐公主造百鸟毛裙，以后百官、百姓家效之，山林奇禽异兽，搜山荡谷，扫地无遗，至于网罗杀获无数。开元中，禁宝器于殿前，禁人服珠玉、金银、罗绮之物，于是采捕乃止。

高宗时，有刘龙子妖言惑众。作一金龙头藏袖中，以羊肠盛蜜水绕系之。每相聚出龙头，言圣龙吐水，饮之百病皆差。遂转羊肠，水于龙口中出，与人饮之，皆罔云病愈，施舍无数。遂起逆谋，事发逃走，捕访久之擒获，斩之于市，并其党十余人。

东海孝子郭纯丧母，每哭则群鸟大集，使验有实，旌表门闾。后访乃是孝子每哭，即散饼食于地，群鸟争来食之。后如此，鸟闻哭声以为度，莫不竞凑，非有灵也。

河东孝子王燧家猫犬互乳其子，州县上言，遂蒙旌表。乃是猫犬同时产子，取猫儿置狗窝中，狗子置猫窝内，俱食其乳，遂以为常，殆不可以异论也。自连理木、合欢瓜、麦分歧、禾同穗，触类而长，实繁有徒，并是人作，不足怪也。

唐同泰于洛水得白石篆文，云“圣母临水，永昌帝业”，进之，授五品果毅，置永昌县。乃是白石凿作字，以紫石末和药嵌之。后并州文水县于谷中得一石还如此，有“武兴”字，改文水为武兴县。自是往往作之。后知其伪，不复采用，乃止。

襄州胡延庆得一龟，以丹漆书其腹曰“天子万年”以进之。凤阁侍郎李昭德以刀刮之并尽，奏请付法。则天曰：“此非恶心也，舍而勿问。”

则天好祲祥，拾遗朱前疑说梦云，则天发白更黑，齿落更生，即授都官郎中。司刑寺囚三百余人，秋分后无计可作，乃于圜狱外罗墙角边作圣人迹，长五尺。至夜半，三百人一时大叫。内使推问，云：“昨夜有圣人见，身长三丈，面作金色，云‘汝等并冤枉，不怕伯惧。天子万年，即有恩赦放汝’。”把火照之，见有巨迹，即大赦天下，改为大足元年。

白铁余者，延州稽胡也，左道惑众。先于深山中埋一金铜像于柏树之下，经数年，草生其上。给乡人曰：“吾昨夜山下过，每见佛光。”大设斋，卜吉日以出圣佛。及期，集数百人，命于非所藏处剔，不得。乃劝曰：“诸公不至诚布施，佛不可见。”由是男女争布施者百余万。更于埋处剔之，得金铜像。乡人以为圣，远近传之，莫不欲见。乃宣言曰：“见圣佛者，百病即愈。”左侧数百里，老小士女皆就之。乃以绯紫红黄绛为袋数十重盛像，人聚观者，去一重一回布施，收千端乃见像。如此矫伪一二年，乡人归伏，遂作乱，自号光王，署置官职，杀长吏，数为患。命将军程务挺斩之。

中郎李庆远狡诈倾险，初事皇太子，颇得出入。暂令出外，即恃威权，宰相以下咸谓



之要人。宰执方食即来，诸人命坐，常遣一人门外急唤，云“殿下须使令”，吐饭而去。诸司皆如此。请谒囑事，吏官鬻狱，所求必遂。东宫后稍稍疏之，仍潜入仗内食侍官饭。晚出外腹痛，犹诈云太子赐予食瓜太多。须臾霍出卫士所食米饭黄臭，并齏菜狼藉。凡是小人得宠，多为此状也。

春官尚书闻知微和默啜，司宾丞田归道副焉。至牙帐下，知微舞蹈，宛转抱默啜靴而鼻嗅之。田归道长揖不拜，默啜大怒，倒悬之。经一宿，明日将杀，元珍谏：“大国和亲使，若杀之不祥。”乃放之。后与知微争于殿廷，言默啜必不和；知微坚执以为和。默啜果反，陷赵、定，天后乃诛知微九族，拜归道夏官侍郎。

张利涉性多忘，解褐怀州参军。每聚会被召，必于笏上记之。时河内令耿仁惠邀之，怪其不至，亲就门刺请。涉看笏曰：“公何见顾？笏上无名。”又一时昼寝惊，索马入州，扣刺史邓怀门，拜谢曰：“闻公欲赐责，死罪！”邓怀曰：“无此事。”涉曰：“司功某甲言之。”怀大怒，乃呼州官捶以甲间构，将杖之。甲苦诉初无此语，涉前请曰：“望公舍之，涉恐是梦中见说耳。”时人是知其性理昏惑矣。

五原县令阎玄一为人多忘。尝至州，于主人舍坐，州佐史前过，以为县典也，呼欲杖之，典曰：“某是州佐也。”玄一惭谢而止。须臾县典至，一疑其州佐也，执手引坐，典曰：“某是县佐也。”又愧而止。曾有人传其兄书者，止于阶下，俄而里胥白录人到，玄一索杖，遂鞭送书人数下。其人不知所以，讯之，玄一曰：“吾大错。”顾直典回宅取杯酒暖愈。良久，典持酒至，玄一既忘其取酒，复忘其被杖者，因便赐直典饮之。

沧州南皮县丞郭务静初上，典王庆通判禀，静曰：“尔何姓？”庆曰：“姓王。”须臾庆又来，又问何姓，庆又曰姓王。静怪愕良久，仰看庆曰：“南皮佐史总姓王。”

定州何名远大富，主官中三驿。每于驿边起店停商，专以裘胡为业，货财巨万，家有绫机五百张。远年老，或不从戎，即家贫破。及如故，即复盛。

长安富民罗会以剔粪为业，里中谓之“鸡肆”，言若归之因剔粪而有所得也。会世副其业，家财巨万。有士人陆景暘，会邀过，所止馆舍甚丽，入内梳洗，衫衣极鲜，屏风、毡褥、烹宰无所不有。景暘问曰：“主人即如此快活，何为不罢恶事？”会曰：“吾中间停废一二年，奴婢死亡，牛马散失；复业已来，家途稍遂。非情愿也，分合如此。”

滕王婴、蒋王恽皆不能廉慎，大帝赐诸王，名五王，不及二王，敕曰：“滕叔、蒋兄自解经纪，不劳赐物与之。”以为“钱贯”。二王大渐。朝官莫不自励，皆以取受为脏污，有终身为累，莫敢犯者。

瀛州饶阳县令窦知贪贪污，有一里正死，范集里正二百人为里正造像，各出钱一贯。范自纳之，谓曰：“里正有过罪，先须急救。范先造得一像，且以与之。”纳钱二百千，平像五寸半。其贪皆类此。范惟一男，放鹰马惊，桑枝打破其脑，百姓快之，皆曰“千金之子，易一兔之命。”

益州新昌县令夏侯彪之初下车，问里正曰：“鸡卵一钱几颗？”曰：“三颗。”彪之乃遣



取十千钱，令买三万颗，谓里正曰：“未须要，且寄母鸡抱之，遂成三万头鸡。经数月长成，令县吏与我卖，一鸡三十钱，半年之间成三十万。”又问：“竹笋一钱几茎？”曰：“五茎。”又取十千钱付之，买得五万茎，谓里正曰：“吾未须要笋，且向林中养之。至秋竹成，一茎十钱，成五十万。”其贪鄙不道皆类此。

汴州刺史王志愔饮食精细，对宾下脱粟饭。商客有一驴，日行三百里，曾三十年不卖。市人报价云：“十四千”。愔曰：“四千金少，更增一千。”又令买单丝罗，匹至三千。愔问：“用几两丝？”对曰：“五两。”愔令竖子取五两丝来，每两别与十钱手功之直。

深州刺史段崇简性贪暴，到任令里正括客，云不得称无。上户每取两人，下户取一人，以刑胁之，人惧，皆妄通。通讫，简云：“不用唤客来，但须见主人。”主人到，处分每客索绢一匹，约一月之内得绢三十车。罢任，发至鹿城县，有一车装绢未满载，欠六百匹，即唤里正令满之。里正计无所出，遂于县令、丞、尉家一倍举送。至都，拜柳州刺史。

安南都获崔玄信命，女婿裴惟岳摄爱州刺史，贪暴，取金银财物向万贯。有首领取妇，裴郎要障车绦，索一千匹，得八百匹，仍不肯放。捉新妇归，戏之，三日乃放还，首领更不复纳。裴即领物至扬州。安南及问至，擒之，物并纳官，裴亦锁项至安南，以谢百姓。及海口，会赦而免。

洛州司金严升期摄侍御史，于江南巡察，性嗜牛肉，所至州县，烹宰极多。事无大小，入金则弭，凡到处金银为之踴贵，故江南人谓为“金牛御史”。

张昌仪为洛阳令，借易之权势，属官无不允者。风声鼓动，有一人姓薛，资金五十两遮而奉之。仪领金，受其状，至明堂，付天官侍郎张锡。数日失状，以问仪，仪曰：“我亦不记，得有姓薛者即与。”锡检案内姓薛者六十余人，并令与官。其蠹政也如此。

卷 四

隋辛亶为吏部侍郎，选人为之榜，略曰：“枉州抑县屈滞乡不申里衙恨先生，问隋吏部侍郎辛亶曰：‘当今天子圣明，群僚用命，外拓四方，内齐七政。而子位处权衡，职当水镜，居进退之首，握褒贬之柄。理应识是识非，知滞知微，使无才者泥伏，有用者云飞。奈何尸禄素餐，滥处上官，黜陟失所，选补伤残，小人在位，君子驳弹。莫不代子战灼，而子独何以安？’辛亶曰：‘百姓之子，万国之人，不可皆识，谁厚谁亲。为桀赏者，不可不喜；被尧责者，宁有不愠。得官者见喜，失官者见疾，细而论之，非亶之失。’先生曰：‘是何疾欤，是何疾欤！不识何不访其名，官少何不简其精。细寻状迹，足识法家，细寻判验，足识文华。宁不知石中出玉，黄金出沙。量子之才，度子之智，只可投之四裔，以御魑魅。怨嗟不少，实伤和气。’辛亶再拜而谢曰：‘幸蒙先生见责，实觉多违。谨当刮肌贯骨，改过愆非。请先生纵亶自修，舍亶之罚，如更有违，甘从斧钺。’先生曰：



‘如子之辈，车载斗量，朝廷多少，立须相代。那得久旷天官，待子自作。急去急去，不得久住。唤取师巫，却行无处。’亶掩泣而言曰：‘罪过自招，自灭自消，岂敢更将面目，来污圣朝。’先生曳杖而歌曰：‘辛亶去，吏部明，开贤路，遇太平。今年定知不可得，后岁依期更入京。’”

隋牛弘为吏部侍郎，有选人马敞者，形貌最陋，弘轻之，侧卧食果子嘲敞曰：“尝闻扶风马，谓言天上下。今见扶风马，得驴亦不假。”敞应声曰：“尝闻陇西牛，千石不用驹。今见陇西牛，卧地打草头。”弘惊起，遂与官。

陈朝尝令人聘隋，不知其使机辨深浅，乃密令侯白变形貌，着故弊衣，为贱人供承。客谓是微贱，甚轻之，乃傍卧放气与之言，白心颇不平。问白曰：“汝国马价贵贱？”报云：“马有数等，贵贱不同。若从伎俩筋脚好，形容不恶，堪得乘骑者，直二十千已上。若形容粗壮，虽无伎俩，堪驮物，直四五千已上。若弥（音卜结反）尾躁蹄，绝无伎俩，傍卧放气，一钱不直。”使者大惊，问其姓名，知是侯白，方始愧谢。

唐高士廉选，其人齿高，有选人自云解嘲谑，士廉时着木屐，令嘲之，应声云：“刺鼻何曾嚏，踏面不知瞋。高生两个齿，自谓得胜人。”士廉笑而引之。

周则天朝蕃人上封事，多加官赏，有为右台御史者。因则天尝问郎中张元一曰：“在外有何可笑事？”元一曰：“朱前疑着绿，逯仁杰着朱。闻知微骑马，马吉甫骑驴。将名作姓李千里，将姓作名吴栖梧。左台胡御史，右台御史胡。”胡御史，胡元礼也；御史胡，蕃人为御史者，寻改他官。周革命，举人贝州赵廓眇小，起家监察御史，时人谓之“台秒”，李昭德署之为“中霜谷束”，元一目为“泉坐鹰架”。时同州孔鲁丘为拾遗，有武夫气，时人谓之“外军主帅”，元一目为“鹭入凤池”。苏味道才学识度，物望攸归，王方庆体质鄙陋，言词鲁钝，智不逾俗，才不出凡，俱为凤阁侍郎。或问元一曰：“苏、王孰贤？”答曰：“苏九月得霜鹰，王十月被冻蝇。”或问其故，答曰：“得霜鹰俊捷，被冻蝇顽怯。”时人谓能体物也。契丹贼孙万荣之寇幽，河内王武懿宗为元帅，引兵至赵州，闻贼骆务整从北数千骑来，王乃弃兵甲，南走邢州，军资器械遗于道路。闻贼已退，方更向前。军回至都，置酒高会，元一于御前嘲懿宗曰：“长弓短度箭，蜀马临阶骗。去贼七百里，限墙独自战。甲仗纵抛却，骑猪正南蹀。”上曰：“懿宗有马，何因骑猪？”对曰：“骑猪，夹豕走也。”上大笑。懿宗曰：“元一宿构，不是卒辞。”上曰：“尔叶韵与之。”懿宗曰：“请以葦韵。”元一应声曰：“裹头极草草，掠鬓不葦葦。未见桃花面皮，漫作杏子眼也。”则天大悦，王极有惭色。懿宗形貌短丑，故曰“长弓短度箭”。周静乐县主，河内王懿宗妹，短丑；武氏最长，时号“大歌”。县主与则天并马行，命元一咏，曰：“马带桃花锦，裙拖绿草罗。定知纱帽底，形容似大歌。”则天大笑，县主极惭。纳言姜师德长大而黑，一足蹇，元一目为“行轍方相”，亦号为“卫灵公”，言防灵枢方相也。天官侍郎吉项长大，好昂头行，视高而望远，目为“望柳骆驼”。殿中侍御史元本挛体伛身，黑而且瘦，目为“岭南考典”。驾部郎中朱前疑粗黑肥短，身体垢腻，目为“光禄掌膳”。东方虬



身長衫短，骨面粗眉，目为“外军校尉”。唐波若矮短，目为“郁屈蜀马”。目李昭德“卒（子锐反）岁胡孙”。修文学士马吉甫眇一目，为“端箭师。”郎中张孺子视望阳，目为“呬醋汉”。汜水令苏征举止轻薄，目为“失孔老鼠”。

周张元一腹粗而脚短，项缩而眼跌，吉项目为“逆流虾蟆”。

周韵州曲江令朱随侯，女夫李逖，游客尔朱九，并姿相少媚，广州人号为“三樵”（七育反）。人歌曰：“奉敕追三樵，随侯傍道走。回头语李郎，唤取尔朱九。张鹭目随侯为“臞乱土泉。”

周李详，河内人，气侠刚劲。初为梓州监示盐亭尉，主书考日，刺史问平已否，详独曰不平。刺史曰：“不平，君把笔考。”详曰：“请考使君。”即下笔曰：“怯断大事，好勾小稽。自隐不清，疑人总浊。考中下。”刺史默然而罢。

则天革命，举人不试皆与官，起家至御史、评事、拾遗、补阙者，不可胜数。张鹭为谣曰：“补阙连车载，拾遗平斗量。把推侍御史，碗脱校书郎。”时有沈全交者，傲诞自纵，露才扬己，高巾子，长布衫，南院吟之，续四句曰：“评事不读律，博士不寻章。面糊存抚使，眯目圣神皇。”遂被把推御史纪先知捉向左台，对仗弹劾，以为谤朝政，败国风，请于朝堂决杖，然后付法。则天笑曰：“但使卿等不滥，何虑天下人语？不须与罪，即宜放却。”先知于是乎面无色。

唐豫章令贺若瑾眼皮急，项辕粗，鹭号为“饱乳犊子”。

唐郑僧曾骂选人为“痴汉”，选人曰：“仆是吴痴，汉即是公。”僧令咏痴，吴人曰：“榆儿复榆妇，造屋兼造车。十七八九夜，还书复借书。”僧本姓郑，改姓郑，时人号为“郑郑”。

唐中书令李敬玄为元帅讨吐蕃，至树墩城，闻刘尚书没蕃，著靴不得，狼狈而走。时将军王果、副总管曹怀舜等惊退，遗却麦饭，首尾千里，地上尺余。时军中谣曰：“姚河李阿婆，鄯州王伯母。见贼不能斗，总由曹新妇。”

唐礼部尚书祝钦明颇涉经史，不闲时务，博硕肥腴，顽滞多疑，台中小吏号之为“蛆”。蛆者肉块，无七窍，秦穆公时野人得之。

唐先天中，姜师度于长安城中穿渠，绕朝堂坊市，无所不至。上登西楼望之，师度堰水浇柴筏而下，遂授司农卿。于后水涨则奔突，水缩则竭涸。又前开黄河，引水向棣州，费亿兆功，百姓苦其淹渍，又役夫塞河。开元六年，水泛溢，河口堰破，棣州百姓一概没尽。师度以为功，官品益进。又有傅孝忠为太史令，自言明玄象，专行矫讦。京中语曰：“姜师度一心看地，傅孝忠两眼相天。”神武即位，知其矫，并斩之。

唐姜晦为吏部侍郎，眼不识字，手不解书，滥掌铨衡，曾无分别。选人歌曰：“今年选数恰相当，都由座主无文章。案前一腔冻猪肉，所以名为姜侍郎。”

唐兵部尚书姚元崇长大行急，魏光乘目为“赶蛇鹞鹞”。黄门侍郎卢怀慎好视地，目为“觑鼠猫儿”。殿中监姜皎肥而黑，目为“饱樵母猪”。紫微舍人倪若水黑而无须，目为



“醉部落精”。舍人齐处冲好眇目视，目为“暗烛底觅虱老母”。舍人吕延嗣长大少发，目为“日本国使人”。又有舍人郑勉为“醉高丽”。目拾遗蔡孚“小州医博士诈谄药性”。又有殿中侍御史，短而丑黑，目为“烟薰地朮”。目御史张孝嵩为“小村方相”。目舍人杨仲嗣为“熟整上翮”。目补阙袁晖为“王门下弹琴博士”。目员外郎魏恬为“祈雨婆罗门”。目李全交为“品官给使”。目黄门侍郎李广为“饱水虾蟆”。由是坐此品题朝士，自左拾遗贬新州新兴县尉。

唐贞观中，桂阳令阮嵩妻阎氏极妒。嵩在厅会客饮，召女奴歌，阎披发跣足袒臂，拔刀至席，诸客惊散。嵩伏床下，女奴狼狽而奔。刺史崔懿为嵩作考词云：“妇强夫弱，内刚外柔。一妻不能禁止，百姓如何整肃？妻既礼教不修，夫又精神何在？考下。”省符解见任。

唐郝象贤，侍郎处俊之孙，顿丘令南容之子也。弱冠，诸友生为之字曰“宠之”，每于父前称字。父给之曰：“汝朋友极贤，吾为汝设饔，可命之也。”翼日，象贤因邀致十数人，南容引生与之饮。谓曰：“谚云‘三公后，出死狗’。小儿诚愚，劳诸君制字，损南容之身尚可，岂可波及侍中也！”因涕泣，众渐而退。“宠之”者，反语为“痴种”也。

宋前疑浅钝无识，容貌极丑。上书云“臣梦见陛下八百岁”，即授拾遗，俄迁郎中。出使回，又上书云“闻嵩山唱万岁声”，即赐绯鱼袋。未入五品，于绿衫上带之，朝野莫不怪笑。后契丹反，有敕京官出马一匹供军者，即酬五品。前疑买马纳谄，索素绯，上怒，批其状“即放归丘园”，愤恚而卒。

唐王及善才行庸狠，风神钝浊，为内史时，人号为“鸠集凤池”。俄迁文昌右相，无他政，但不许令史之驴入台，终日追逐，无时暂舍。时人号为“驱驴宰相”。

周有遂仁杰，河阳人。自地官令史出尚书，改天下帐式，颇甚繁细，法令滋章，每村立社官，仍置平直老三员，掌簿案，设锁钥，十羊九牧，人皆散逃。而宰相浅识，以为万代可行，授仁杰地官郎中。数年，百姓苦之，其法遂寝。

周考功令史袁袞，国忌众人聚会，充录事勾当。遂判曰：“曹司繁闹，无时暂闲，不因国忌之辰，无以展其欢笑。”合坐嗤之。

周夏官侍郎侯知一年老，敕放致仕。上表不伏，于朝堂踊跃驰走，以示轻便。张琮丁忧，自请起复。吏部主事高筠母丧，亲戚为举哀，筠曰：“我不能作孝。”员外郎张栖贞被讼诈遭母忧，不肯起对。时台中为之语曰：“侯知一不伏致仕，张琮自请起复，高筠不肯作孝，张栖贞情愿遭忧。皆非名教中人，并是王化外物。”兽心人面，不其然乎！

周天官选人沈子荣诵判二百道，试日不下笔。人问之，荣曰：“无非命也。今日诵判，无一相当。有一道颇同，人名又别。”至来年选，判水碓，又不下笔。人问之，曰：“我诵水碓，乃是蓝田，今问富平，如何下笔。”闻者莫不抚掌焉。

周则天内宴甚乐，河内王懿宗忽然起奏曰：“臣急告君，子急告父。”则天大惊，引问之，对曰：“臣封物承前府家自征，近敕州县征送，太有损折。”则天大怒，仰观屋椽良



久，曰：“朕诸亲饮正乐，汝是亲王，为三二百户封几惊杀我。不堪作王。”令曳下。懿宗免冠拜伏，诸王救之曰：“懿宗愚钝，无意之失。”上乃释之。

周张衡，令史出身，位至四品，加一阶，合入三品，已团甲。因退朝，路旁见蒸饼新熟，遂市其一，马上食之，被御史弹奏。则天降敕：“流外出身，不许入三品。”遂落甲。

周右拾遗李良弼，自矜唇颊，好谈玄理，请使北蕃说骨笃禄。匈奴以木盘盛羹饲之，临以白刃，弼惧，食一盘并尽，乃放还。人讥之曰：“李拾遗，能拾突厥之遗。”出为真源令。秩满还瀛州，遇契丹贼孙万荣使何阿小取沧、瀛、冀、贝。良弼谓鹿城令李怀璧曰：“‘孙’者胡孙，即是猕猴，虽可当也。‘万’字者有‘草’，即是‘草中藏’。”劝怀璧降何阿小，授怀璧五品将军。阿小败，怀璧及良弼父子四人并为河内王武懿宗斩之。

周春官尚书闾知微，庸琐弩怯，使人蕃，受默啜封为汉可汗。贼入恒、定，遣知微先往赵州招慰。将军陈令英等守城西面，知微谓令英曰：“陈将军何不早降下。可汗兵到然后降者，剪土地遣。”令英不答。知微城下连手踏歌，称“万岁乐”。令英曰：“尚书国家八座，受委非轻，翻为贼踏歌，无惭也？”知微仍唱曰：“万岁乐，万岁年，不自由，万岁乐。”时人鄙之。

唐崔湜为吏部侍郎贪纵，兄凭弟力，父挟子威，咸受囑求，脏污狼藉。父挹为司业，受选人钱，湜不之知也，长名放之。其人诉曰：“公亲将赂去，何为不与官？”湜曰：“所亲为谁？吾捉取鞭杀。”曰：“鞭即遭忧。”湜大惭。主上以湜父年老，瓜初熟，赐一颗，湜以瓜遗妾，不及其父，朝野讥之。时崔、岑、郑愔并为吏部，京中谣曰：“岑羲獠子后，崔湜令公孙。三人相比接，莫贺咄最浑。”

唐左卫将军权龙襄，性褊急，常自矜能诗。通天年中，为沧州刺史，初到乃为诗呈州官曰：“遥看沧州城，杨柳郁青青。中央一群汉，聚坐打杯觥。”诸公谢曰：“公有逸才。”襄曰：“不敢，趁韵而已。”又《秋日述怀》曰：“檐前飞七百，雪白后园强。饱食房里侧，家粪集野螂。”参军不晓，请释，襄曰：“鹞子檐前飞，直七百文。洗衫挂后园，乾白如雪。饱食房中侧卧。家里便转，集得野泽蛭螂。”谈者嗤之。皇太子宴，夏日赋诗：“严霜白浩浩，明月赤团团。”太子援笔为赞曰：“龙襄才子，秦州人士。明月昼耀，严霜夏起。如此诗章，趁韵而已。”襄以张易之事，出为容山府折冲。神龙中追入，乃上诗曰：“无事向容山，今日向东都。陛下敕进来，令作右金吾。”又为《喜雨诗》曰：“暗去也没雨，明来也没云。日头赫赤赤，地上丝氲氲。”为瀛州刺史日，新过岁，京中数人附书曰：“改年多感，敬想同之。”正新唤官人集，云有诏改年号为“多感”元年，将书呈判司已下，众人大笑。龙襄复侧听，怪敕书来迟。高阳、博野两县竞地陈牒，龙襄乃判曰：“两县竞地，非州不裁。既是两县，于理无妨。付司。权龙襄示。”典曰：“比来长官判事，皆不著姓。”龙襄曰：“余人不解，若不著姓，知我是谁家浪驴也！”龙襄不知忌日，谓府史曰：“何名私忌？”对曰：“父母忌日请假，独坐房中不出。”襄至日，于房中静坐，有青狗突入，龙襄大怒，曰：“冲破我忌。”更陈牒，改作明朝好作忌日。谈者笑之。



李宜得本贱人，背主逃匿。当玄宗起义，与王毛仲等立功，宜得官至武卫将军。旧主遇诸途，趋而避之，不敢仰视。宜得令左右命之，主甚惶惧。至宅舍，请居上坐，宜得自捧酒食，旧主流汗辞之。流连数日。遂奏云：“臣蒙国恩，荣禄过分；臣旧主卑琐，曾无寸禄。臣请割半俸，解官以荣之。愿陛下遂臣愚款。”上嘉其志，擢主为郎将，宜得复其秩。朝廷以此多之。

苏颐年五岁，裴谈过其父。颐方在，乃试诵庾信《枯树赋》，将及终篇，避“谈”字，因易其韵曰：“昔年移树，依依汉阴。今看摇落，凄凄江浔。树犹如此，人何以任。”谈骇叹久之，知其他日必主文章也。

唐娄师德，茌阳人也，为纳言。客问浮休子曰：“娄纳言何如？”答曰：“纳言直而温，宽而栗，外愚而内敏，表晦而里明。万顷之波，浑而不浊，百炼之质，磨而不磷。可谓淑人君子，近代之名公者焉。”客曰：“狄仁杰为纳言何如？”浮休子曰：“粗览经史，薄阅文华。箴规切谏有古人之风，剪伐淫词有烈士之操。心神耿直，涩而不溜，胆气坚刚，明而能断。晚途钱癖，和娇之徒与！”客曰：“凤阁侍郎李昭德可谓名相乎？”答曰：“李昭德志大而器小，气高而智薄，假权制物，扼险凌人，刚愎有余，而恭宽不足，非谋身之道也。”俄伏法焉。又问：“洛阳令来俊臣雍容美貌，忠赤之士乎？”答曰：“俊臣面柔心狠，行险德薄，巧辨似智，巧谏似忠，倾覆邦家，诬陷良善，其江充之徒欤！蜂蜜害人，终为人所害。”无何为太仆卿，戮于西市。又问：“武三思可谓名王哉？”答曰：“三思凭藉国亲，位超袞职，貌象恭敬，心极残忍。外示公直，内结阴谋，弄王法以复仇，假朝权而害物。晚封为德静王，乃鼎臠也，不可以寿终。”竟为节愍太子所杀。又问：“中书令魏元忠耿耿正直，近代之名臣也？”答曰：“元忠文武双阙，名实两空，外示贞刚，内怀趋附。面折张食其之党，勇若熊黑；谄事武士开之侍，怯同弩犬。首鼠之士，进退两端，虺蜥之夫，曾无一志。乱朝败政，莫非斯人。附三思之徒，斥五王之族，以吾熟察，终不得其死然。”果坐事长流思州，忧恚而卒。又问：“中书令李峤何如？”答曰：“李公有三戾：性好荣迁，憎人升进；性好文章，憎人才笔；性好贪浊，憎人受赂。亦如古者有女君，性嗜肥鲜，禁人食肉；性爱绮罗，断人衣锦；性好淫纵，憎人畜声色。此亦李公之徒也。”又问：“司刑卿徐有功何如？”答曰：“有功耿直之士也，明而有胆，刚而能断。处陵夷之运，不偷媚以取容；居版荡之朝，不逊辞以苟免。来俊臣罗织者，有功出之；袁智弘锻炼者，有功宽之。蹶虎尾而不惊，触龙鳞而不惧。凤跖鸱枭之内，直以全身；豹变豺狼之间，忠以远害。若值清平之代，则张释之、于定国岂同年而语哉！”又问：“司农卿赵履温何如？”答曰：“履温心不涉学，眼不识文，貌恭而性狠，智小而谋大，越超狗盗，突忽猪贪。晨羊诱外，不觉其死，夜蛾覆烛，不觉其毙。头寄于项，其能久乎。”后从事韦氏为逆，夷其三族。又问：“郑愔为选部侍郎何如？”答曰：“愔猖獗小子，狡猾庸人。浅学浮词，轻才薄德。狐蹲贵介，雉伏权门。前托俊臣，后附张易。折支德静之室，舐痔安乐之庭。鸩鹤栖于苇苕，魑鲮游于沸鼎。既无雅量，终是凡材。以此求荣，得死为幸。”果谋反伏诛。



贞观末，南康黎景逸居于空青山，常有鹄巢其侧，每饭食以喂之。后邻近失布者诬景逸盗之，系南康狱，月余劾不承。欲讯之，其鹄止于狱楼，向景逸欢喜，似传语之状。其日传有赦，官司诘其来，云路逢玄衣素衿人所说。三日而赦至，景逸还山。乃知玄衣素衿者，鹄之所传也。

汝州刺史张昌期，易之弟也，恃宠骄贵，酷暴群僚。梁县有人白云“有白鹄见”，昌期令司户杨楚玉捕之。部人有鹄子七十笼，令以蜡涂爪。至林见白鹄，有群鹄随之，见鹄迸散，惟白者存焉。鹄竦身取之，一无损伤，而笼送之。昌期笑曰：“此鹄贐君命也。”玉叩头曰：“此天活玉，不然投河赴海，不敢见公。”拜谢而去。

渤海高嶷巨富，忽患月余日，帖然而卒。心上仍暖，经日而苏，云有一白衣人眇目，把牒冥司，讼杀其妻子。嶷对：“元不识此老人。”冥官云：“君命未尽，且放归。”遂悟白衣人乃是家中老瞎麻鸡也。令射杀，魅遂绝。

文明以后，天下诸州进雌鸡，变为雄者多。或半已化，半未化。乃则天正位之兆。

卫觚为县官下乡，至里人王幸在家，方假寐，梦一乌衣妇人引十数小儿着黄衣，咸言乞命，叩头再三。斯须又至。觚甚恶其事，遂催食欲前。适所亲有报曰：“王幸在家穷，无物设饌，有一鸡见抱儿，已得十余日，将欲杀之。”觚方悟乌衣妇人果乌鸡也，遂市解放。是夜复梦，咸欣然而去。

久视年中，越州有祖录事，不得名，早出，见担鹅向市中者。鹅见录事，频顾而鸣。祖乃以钱贖之，至僧寺，令放为长生鹅，竟不肯入寺，但走逐祖后。经坊历市，稠人广众之处一步不放。祖收养之。左丞张锡亲见说也。

汉时鄆县南门两扇忽开，忽一声称“鸳”，一声称“央”。晨夕开闭，声闻京师。汉末恶之，令毁其门，两扇化为鸳鸯，相随飞去。后改鄆县为晏城县。

天后时，左卫兵曹刘景阳使岭南，得秦吉了鸟雄雌各一只，解人语。至都进之，留其雌者。雄者烦然不食，则天问曰：“何无聊也？”鸟为言曰其配为使者所得，今颇思之。乃呼景阳曰：“卿何故藏一鸟不进？”景阳叩头谢罪，乃进之。则天不罪也。

峰州有一道水从吐蕃中来，夏冷如冰雪。有鱼长一二寸，来去有时，盖水上如粥。人取烹之而食，千万家取不可尽，不知所从来。

通川界内多獾，各有主养之，并在河侧岸间。獾若入穴，插雉尾于獾穴前，獾即不敢出。去却尾即出。取得鱼，必须上岸，人便夺之。取得多，然后放令自吃，吃饱即鸣杖以驱之还。插雉尾，更不敢出。

有人见竖子在洛水中洗马，顷之，见一物如白炼带，极光晶，缴竖子项三两匝，即落水死。凡是水中及湾泊之所皆有之。人澡浴洗马死者，皆谓鼃所引，非也。此名“白特”，宜慎防之，蛟之类也。

齐州有万顷陂，鱼鳖水族，无所不有。咸亨中，忽一僧持钵乞食，村人长者施以蔬供，食讫而去。于时渔人网得一鱼，长六七尺，丝鳞镂甲，锦质宝章，特异常鱼。赍赴州



餽遗，至村而死。众共剖而分之，于腹中得长者所施蔬食，俨然并在。村人遂于陂中设斋超度。自是陂中无水族，至今犹然。

杭州富阳县韩珣庄掘井，才深五六尺，土中得鱼数十头，土有微润。

贞观中，卫州板桥店主张迪妻归宁。有卫州三卫杨贞等三人投店宿，五更早发。夜有人取三卫刀杀张迪，其刀却内鞘中，贞等不知之。至明，店人趋贞等，拔刀血狼藉，囚禁拷讯，贞等苦毒，遂自诬。上疑之，差御史蒋恒复推。至，总追店人十五以上集，为人不足，且散，惟留一老婆年八十已上。晚放出，令狱典密视之，曰：“婆出，当有一人与婆语者，即记取姓名，勿令漏泄。”果有一人共语者，即记之。明日复尔。其人又问婆：“使人作何推勘？”如是者二日，并是此人。恒总追集男女三百余人，就中唤与老婆语者一人出，余并放散。问之具伏，云与迪妻奸杀有实。奏之，敕赐帛二百段，除侍御史。

卷 五

贞观中，左丞李行廉弟行诠前妻子忠，烝其后母，遂私将潜藏，云敕追入内。行廉不知，乃进状问，奉敕推诘极急。其后母诈以领巾勒项卧街中，长安县诘之，云有人诈宣敕唤去，一紫袍人见留宿，不知姓名，勒项送至街中。忠惶恐，私就卜问，被不良人疑之，执送县。县尉王璲引就房内推问，不承。璲先令一人于案褥下伏听，令一人走报长使唤，璲锁房门而去。子母相谓曰：“必不得承。”并私密之语。璲至开门，案下之人亦起，母子大惊，并具承伏法云。

李杰为河南尹，有寡妇告其子不孝。其子不能自理，但云“得罪于母，死所甘分。”杰察其状，非不孝子，谓寡妇曰：“汝寡居，惟有一子，今告之，罪至死，得无悔乎？”寡妇曰：“子无赖，不顺母，宁复惜乎！”杰曰：“审如此，可买棺木来取儿尸。”因使人视其后。寡妇既出，谓一道士曰：“事了矣。”俄而棺至，杰尚冀有悔，再三喻之，寡妇执意如初。道士立于门外，密令擒之，一问承伏：“某与寡妇私，尝苦儿所制，故欲除之。”杰放其子，杖杀道士及寡妇，便同棺盛之。

卫州新乡县令裴子云，好奇策。部人王敬成边，留犍牛六头于舅李进处，养五年，产犍三十头，例十贯已上。敬还索牛，两头已死，只还四头老牛，余并非汝牛生，总不肯还。敬忿之，经县陈牒。子云令送敬府狱禁，敕追盗牛贼李进。进惶怖至县，叱之曰：“贼引汝同盗牛三十头，藏于汝家，唤贼共对。”乃以布衫笼数头，立南墙下。进急，乃吐款云“三十头牛总是外甥犍牛所生，实非盗得”云。遣去布衫，进见是敬，曰：“此是外甥也。”云曰：“若是，即还他牛。”进默然。云曰：“五年养牛辛苦，与数头，余并与敬。”一县服其精察。

中书舍人郭正一破平壤，得一高丽婢，名玉素，极姝艳，令专知财物库。正一夜须浆水粥，非玉素煮之不可。玉素乃毒之而进，正一急曰：“此婢药我！”索土浆、甘草解解



之，良久乃止。觅婢不得，并失金银器物十余事。录奏，敕令长安、万年捉不良脊烂求贼，鼎沸三日不获。不良主帅魏昶有策略，取舍人家奴，选年少端正者三人，布衫笼头至卫。缚卫士四人，问十日内已来，何人觅舍人家。卫士云：“有投化高丽留书，遣付舍人捉马奴，书见在。”检云“金城坊中有一空宅”，更无语。不良往金城坊空宅，并搜之。至一宅，封锁正密，打锁破开之，婢及高丽并在其中。拷问，乃是投化高丽共捉马奴藏之，奉敕斩于东市。

垂拱年，则天监国，罗织事起。湖州佐史江琛取刺史裴光判书，割字合成文理，诈为徐敬业反书以告。差使推光，款书是光书，疑语非光语。前后三使推，不能决。敕令差能推事人勘当取实，金曰“张楚金可”，乃使之。楚金忧闷，仰卧西窗，日高，向看之，字似补作。平看则不觉，向日则见之。令唤州官集，索一瓮水，令琛投书于水中，字一一解散，琛叩头伏罪。敕令决一百，然后斩之。赏楚金绢百匹。

怀州河内县董行成能策贼。有一人从河阳长店盗行人驴一头并皮袋，天欲晓，至怀州。行成至街中见，嗤之曰：“个贼住，即下驴来。”即承伏。人问：“何以知之？”行成曰：“此驴行急而汗，非长行也；见人则引驴远过，怯也。以此知之。”捉送县，有顷驴主踪至，皆如其言。

张鷟为阳县尉日，有称架人吕元伪作仓督冯忱书，盗巢仓粮粟。忱不认书，元乃坚执，不能定。鷟取吕元告牒，括两头，惟留一字，问：“是汝书，即注是，以字押；不是，即注非，亦以字押。”元乃注曰“非”，去括即是元牒。且决五下。括诈冯忱书上一字以问之，注曰“是”，去括乃诈书也。元连项赤，叩头伏罪。又有一客驴缰断，并鞍失三日，访不获，经县告。鷟推勘急，夜放驴出而藏其鞍，可直五千已来。鷟曰：“此可知也。”令将却笼头放之，驴向旧喂处，鷟令搜其家，其鞍于草积下得之，人伏其计。

张松寿为长安令，时昆明池侧有劫杀，奉敕十日内须获贼，如违，所由科罪。寿至行劫处寻踪迹，见一老婆树下卖食，至以从骑驮来入县，供以酒食。经三日，还以马送旧坐处，令一腹心人看，有人共婆语，即捉来。须臾一人来问，明府若为推逐，即披布衫笼头送县，一问具承，并赃并获。时人以为神明。

元嘉少聪俊。左手画圆，右手画方，口诵经史，目数群羊，兼成四十字诗，一时而就，足书五言一绝；六事齐举。代号“神仙童子”。

并州人毛俊诞一男，四岁，则天召入内试字。《千字文》皆能暗书，赐衣裳放还。人皆以为精魅所托，其后不知所终。

纳言娄师德，郑州人，为兵部尚书。使并州，接境诸县令随之。日高至驿，恐人烦扰驿家，令就厅同食。尚书饭白而细，诸人饭黑而粗，呼驿长嗔之曰：“饭何为两种者？”驿客将恐，对曰：“邈迤渐米不得，死罪。”尚书曰：“卒客无卒主人，亦复何损？”遂换取粗饭食之。检校营田，往梁州，先有乡人姓娄者为屯官犯赃，都督许钦明欲决杀。令众乡人谒尚书，欲救之，尚书曰：“犯国法，师德当家儿子亦不能舍，何况渠。”明日宴会，都督



与尚书俱坐，尚书曰：“闻有一人犯国法，云是师德乡里。师德实不识，但与其父为小儿时共牧牛耳。都督莫以师德冤国家法。”都督遽令脱枷至，尚书切责之曰：“汝辞父娘，求觅官职，不能廉洁，知复奈何？”将一碟槌饼与之曰：“噀却，作个饱死鬼去。”都督从此舍之。后为纳言、平章事，又检校屯田，行者日矣。谄执事早出，姿先足疾，待马来，于光政门外横木上坐。须臾有一县令，不知其纳言也，因诉身名，遂与之并坐。令有一子远视之，走告曰：“纳言也。”令大惊，起曰：“死罪？”纳言曰：“人有不相识，法有何死罪。”令因诉云，有左婞，以其年老眼暗奏解，“某夜书表状亦得，眼实不暗”。纳言曰：“道是夜书表状，何故白日里不识宰相？”令大惭，曰：“愿纳言莫说向宰相，纳言南无佛不说。”公左右皆笑。使至灵州，果驿上食讫，索马，判官谄驿家浆水，亦索不得，全不抵承。纳言曰：“师德已上马，与公料理。”往呼驿长，责曰：“判官与纳言何别，不与供给？索杖来。”驿长惶怖拜伏，纳言曰：“我欲打汝一顿，大使打驿将，细碎事，徒淹却名声。若向你州县道，你即不存生命。且放却。”驿将跪拜流汗，狼狈而走。姿目送之，谓判官曰：“与公颺颺之矣。”众皆怪叹。其行事皆此类。浮休子曰：司马徽、刘宽无以加也。

英公李勣为司空，知政事，有一番官者参选被放，来辞英公。公曰：“明朝早向朝堂见我。”及期而至，郎中并在傍，番官至辞，英公皱眉谓之曰：“汝长生不知事尚书、侍郎，我老翁不识字，无可教汝，何由可得留，深负愧汝。努力好去。”侍郎等惶惧，遽问其姓名，令南院看榜。须臾引入，注与吏部令史。英公时为宰相，有乡人尝过宅，为设食。食客裂却饼缘，英公曰：“君大少年。此饼犁地两遍熟，概下种锄时刈打扬讫，磑罗作面，然后为饼。少年裂却缘，是何道？此处犹可，若对至尊前，公作如此事，参差斩却你头。”客大惭悚。浮休子曰：宇文朝华州刺史王黑，有客裂饼缘者，黑曰：“此饼大用功力，然后入口。公裂之，只是未饥，且擎却。”客愕然。又台使致黑食饭，使人割瓜皮大厚，投地，黑就地拾起以食之。使人极悚息。

刑部尚书李日知自为畿赤，不曾打杖行罚，其事亦济。及为刑部尚书，有令史受敕三日，忘不行者。尚书索杖剥衣，唤令史总集，欲决之。责曰：“我欲笞汝一顿，恐天下人称你云撩得李日知嗔，吃李日知杖。你亦不是人，妻子亦不礼汝。”遂放之。自是令史无敢犯者，设有稽失，众共谏之。

兵部郎中朱前疑貌丑，其妻有美色。天后时，洛中殖业坊西门酒家有婢，蓬头垢面，偃肩蜷腹，寝恶之状，举世所无。而前疑大悦之，殆忘寝食。乃知前世言宿瘤蒙爱，信不虚也。夫人嗜嗜，一何殊性。前闻文王嗜昌歆，楚王嗜芹苳，屈到嗜芰，曾皙嗜羊枣，宋刘雍嗜疮痂，本传曰：“雍诣前吴兴太守孟灵休，灵休脱袜，黏炙疮痂坠地，雍俯而取之餐焉。”宋明帝嗜蜜渍蠅蛾，每啖数升。是知海上逐臭之谈，陈君爱丑之说，何足怪欤！夫亦其癖也。

太宗时，西国进一胡，善弹琵琶。作一曲，琵琶弦拨倍粗。上每不欲番人胜中国，乃



置酒高会，使罗黑黑隔帷听之，一遍而得。谓胡人曰：“此曲吾宫人能之。”取大琵琶，遂于帷下令黑黑弹之，不遗一字。胡人谓是宫女也，惊叹辞去。西国闻之，降者数十国。

王沂者，平生不解弦管。忽旦睡，至夜乃寤，索琵琶弦之，成数曲：一名《雀啄蛇》，一名《胡王调》，一名《胡瓜苑》。人不识闻，听之者莫不流泪。其妹请学之，乃教数声，须臾忘之，不复成曲。

周有婆罗门僧惠范，奸矫狐魅，挟邪作蛊，容超鼠黠，左道弄权。则天以为圣僧，赏赉甚重。太平以为梵王，接纳弥优，生其羽翼，长其光价。孝和临朝，常乘官马，往还宫掖。太上登极，从以给使，出入禁门，每人即赐绫罗、金银器物。气岸甚高，风神傲诞，内府珍宝，积在僧家。矫说妖祥，妄陈祸福。神武斩之，京师称快。

道士史崇玄，怀州河内县缝靴人也。后度为道士，侨假人也，附太平为太清观主。金仙、玉真出俗，立为尊师。每人内奏请，赏赐甚厚，无物不赐。授鸿胪卿，衣紫罗裙帔，握象笏，佩鱼符，出入禁闼，公私避路。神武斩之，京中士女相贺。

岭南风俗，家有人病，先杀鸡鹅等以祀之，将为修福。若不差，即次杀猪狗以祈之。不差，即次杀太牢以祷之。更不差，即是命，不复更祈。死则打鼓鸣钟于堂，比至葬泣。初死，且走，大叫而哭。

景云中，有长发贺玄景，自称五戒贤者。同为妖者十余人，于陆浑山中结草舍，幻惑愚人子女，倾家产事之。给云至心求者必得成佛。玄景为金簿袈裟，独坐暗室，令愚者窃视，云佛放光，众皆慑伏。缘于悬崖下烧火，遣数人于半崖间披红碧纱为仙衣，随风飞扬，令众观之。诳曰：“此仙也。”各令着仙衣以飞就之，即得成道。克日设斋，饮中置莛苳子，与众餐之。女子好发者，截取为剃头，串仙衣，临崖下视，眼花恍惚，推崖底，一时烧杀，没取资财。事败，官司来检，灰中得焦拳尸骸数百余人。敕决杀玄景，县官左降。

景龙中，瀛州进一妇人，身上隐起浮图塔庙诸佛形像。按察使进之，授五品。其女妇留内道场，逆韦死后，不知去处。

周证圣元年，薛师名怀义造功德堂一千尺于明堂北。其中大像高九百尺，鼻如千斛船，中容数十人并坐，夹纈以漆之。五月十五，起无遮大会于朝堂。掘地深五丈，以乱彩为宫殿台阁，屈竹为胎，张施为楹盖。又为大像金刚，并坑中引上，诈称从地涌出。又刺牛血画作大像头，头高二百尺，诳言薛师膝上血作之，观者填城溢郭，士女云会。内载钱抛之，更相踏藉，老少死者非一。至十六日，张像于天津桥南，设斋。二更，功德堂火起，延及明堂，火焰冲天，洛城光如昼日。其堂作仍未半，已高七十余尺，又延烧金銀库，铁汁流液，平地尺余，人不知错入者，便即焦烂。其堂煨烬，尺木无遗。至晓，乃更设会，暴风掀起，裂血像为数百段。浮休子曰：梁武帝舍身同泰寺，百官倾库物以贖之。其夜欬电霹雳，风雨晦冥，寺浮图佛殿一时荡尽。非理之事，岂如来本意哉！

景云中，西京霖雨六十余日。有一胡僧名宝严，自云有术法，能止雨。设坛场，诵经



咒。其时禁屠宰，宝严用羊二十口、马两匹以祭。祈请经五十余日，其雨更盛。于是斩逐胡僧，其雨遂止。

周圣历年中，洪州有胡超僧出家学道，隐白鹤山，微有法术，自云数百岁。则天使合长生药，所费巨万，三年乃成。自进药于三阳宫，则天服之，以为神妙，望与彭祖同寿，改元为久视元年。放超还山，赏赐甚厚。服药之后三年而则天崩。

则天时，调猫儿与鹦鹉同器食，命御史彭先觉监，遍示百官及天下考使。传看未遍，猫儿饥，遂咬杀鹦鹉以餐之，则天甚愧。武者国姓，殆不祥之征也。

裴炎为中书令，时徐敬业欲反，令骆宾王画计，取裴炎同起事。宾王足踏壁，静思食顷，乃为谣曰：“一片火，两片火，绯衣小儿当殿坐。”教炎庄上小儿诵之，并都下童子皆唱。炎乃访学者令解之。召宾王至，数啖以宝物锦绮，皆不言。又赂以音乐、女妓、骏马，亦不语。乃对古忠臣烈士图共观之，见司马宣王，宾王欬然起曰：“此英雄丈夫也。”即说自古大臣执政，多移社稷，炎大喜。宾王曰：“但不知谣谶何如耳。”炎以谣言“片火绯衣”之事白，宾王即下，北面而拜曰：“此真人矣。”遂与敬业等合谋。扬州兵起，炎从内应，书与敬业等合谋。惟有“青鹅”，人有告者，朝廷莫之能解，则天曰：“此‘青’字者十二月，‘鹅’字者我自与也。”遂诛炎，敬业等寻败。

逆韦之妹冯太之和之妻号七姨，信邪，见豹头枕以辟邪，白泽枕以去魅，作伏熊枕以为宜男。太和死，嗣虢王娶之。韦之败也，虢王斫七姨头送朝堂，则知辟邪之枕无效力。

后魏高流之为徐州刺史，决漳沔河水绕城。破一古墓，得铭曰“吾死后三百年，背底生流泉，赖逢高流之，迁吾上高原。”流为造棺槨衣物，取其柩而改葬之。

东都丰都市在长寿市之东北。初筑市垣，掘得古冢，土藏无砧髹，棺木陈朽，触之便散。尸上着平上幘，朱衣。得铭云“筮道居朝，龟言近市，五百年间，于斯见矣。”当时达者参验，是魏黄初二年所葬也。

寇天师谦之，后魏时得道者也，常刻石为记，藏于嵩山。上元初，有洛州郾城县民因采药于山，得之以献。县令樊文言于州，州以上闻，高宗皇帝诏藏于内府。其铭记文甚多，奥不可解，略曰“木子当天下”；又曰“止戈龙”；又曰“李代代，不移宗”；又曰“中鼎显真容”；又曰“基千万岁”。所谓“木子当天下”者，盖言唐氏受命也。“止戈龙”者，言太后临朝也，止戈为武，武，天后氏也。“李代代，不移宗”者，谓中宗中兴，再新天地。“中鼎显真容”者，实中宗之庙讳，真为睿圣之徽谥，得不信乎？“基千万岁”者，基，玄宗名也，千万岁，盖历数久长也。后中宗御位，樊文男钦贲以石记本上献，上命编于国史。

辰州东有三山，鼎足直上，各数千丈。古老传曰，邓夸父与日竞走，至此煮饭，此三山者，夸父支鼎之石也。

宝历元年乙巳岁，资州资阳县清弓村山有大石，可三间屋大。从此山下忽然吼踊，下山越涧，却上坡，可百步。其石走时，有锄禾人见之，各手把锄，趁至所止。其石高二



丈。

赵州石桥甚工，磨砢密致如削焉。望之如初日出云，长虹饮涧。上有勾栏，皆石也，勾栏并有石狮子。龙朔年中，高丽谍者盗二狮子去，后复募匠修之，莫能相类者。至天后大足年，默啜破赵、定州，贼欲南过，至石桥，马跪地不进，但见一青龙卧桥上，奋迅而怒，贼乃遁去。

永昌年，太州敷水店南西坡，白日飞四五里，直塞赤水。坡上桑畦麦陇依然仍旧。

邹骆驼，长安人。先贫，常以小车推蒸饼卖之。每胜业坊角有伏砖，车触之即翻，尘土浼其饼，驼苦之。乃将镬剗去十余砖，下有瓷瓮，容五斛许，开看，有金数斗，于是巨富。其子昉，与萧佺交厚，时人语曰：“萧佺骑马子，邹昉骆驼儿。非关道德合，只为钱相知。”

先天年，洛下人牵一牛奔，腋下有一人手，长尺余，巡坊而乞。

隋文皇帝时，大宛国献千里马，骏曳地，号曰“师子骢”。上置之马群，陆梁人莫能制。上令并群驱来，谓左右曰：“谁能驭之。”郎将裴仁基曰：“臣能制之。”遂攘袂向前，去十余步，蹑身腾上，一手撮耳，一手捩目，马战不敢动，乃辔乘之。朝发西京，暮至东洛。后隋末，不知所在。唐文武圣皇帝敕天下访之，同州刺史宇文士及访得其马，老于朝邑市面家挽碓，驰尾焦秃，皮肉穿穴，及见之悲泣。帝自出长乐坡，马到新丰，向西鸣跃。帝得之甚喜，齿口并平，饲以钟乳，仍生五驹，皆千里足也。后不知所在矣。

德州刺史张訥之一白马，其色如练，父雄为荆州刺史常乘。雄薨，子敬之为考功郎中，改寿州刺史，又乘此马。敬之薨，弟訥之从给事中、相府司马改德州刺史，人为国子祭酒，出为常州刺史，至今犹在。计八十余年，极肥健，行骤脚不散。

广平宋察娶同郡游昌女。察先代胡人也，归汉三世矣。忽生一子，深目而高鼻，疑其非嗣，将不举。须臾赤草马生一白驹，察悟曰：“我家先有白马，种绝已二十五年，今又复生。吾曾祖貌胡，今此子复其先也。”遂养之。故曰“白马活胡儿”，此其谓也。

东海有蛇丘，地险多渐洳，众蛇居之，无人民。蛇或有人头而蛇身。

岭南有报冤蛇，人触之，即三五里隨身即至。若打杀一蛇，则百蛇相集，将蜈蚣自防乃免。

顾渚山颢石洞有绿蛇，长可三尺余，大类小指，好栖树杪。视之若辮带，缠于柯叶间。无螫毒，见人则空中飞。

山南五溪黔中皆有毒蛇，乌而反鼻，蟠于草中。其牙倒勾，去人数步，直来疾如缴箭，螫人立死。中手即断手，中足则断足，不然则全身肿烂，百无一活。谓蝮蛇也。有黄喉蛇，好在舍上，无毒，不害人，惟善食毒蛇。食饱则垂头直下，滴沫地坟起，变为沙虱，中人为疾。额上有“大王”字，众蛇之长，常食蝮蛇。

种黍来蛇，烧羶羊角及头发则蛇不敢来。

隋绛州夏县树提家新造宅，欲移之。忽有蛇无数，从室中流出门外，其稠如箔上蚕，



盖地皆遍。时有行客，云解符镇，取桃枝四枝书符，绕宅四面钉之，蛇渐退，符亦移就之。蛇入堂中心，有一孔大如盆口，蛇入并尽。令煎汤一百斛灌之。经宿以锹掘之，深尺，得古铜钱二十万贯。因陈破铸新钱，遂巨富。蛇乃是古铜之精。

开元四年六月，郴州马岭山侧有白蛇长六七尺，黑蛇长丈余。须臾二蛇斗，白者吞黑蛇，到粗处，口两噬皆裂，血流滂沛。黑蛇头入，啗白蛇肋上作孔，头出二尺余。俄而两蛇并死。后十余日大雨，山水暴涨，漂破五百余家，失三百余人。

左补阙毕乾泰，瀛州任丘人。父母年五十，自营生藏讫。至父年八十五，又自造棺，稍高大，嫌藏小，更加砖二万口。开藏欲修之，有蛇无数。时正月尚寒，蛰未能动，取蛇投一空井中，仍受蛇不尽。其蛇金色。泰自与奴开之，寻病而卒。月余，父母俱亡。此开之不得其所也。

沧州东光县宝观寺常有苍鹤集重阁。每有鹤数千，鹤冬中每夕取一鹤以暖足，至晓放之而不杀。自余鹰鹤不敢侮之。

太宗养一白鹤，号曰“将军”。取鸟常驱至于殿前，然后击杀，故名“落雁殿”。上恒令送书，从京至东都与魏王，仍取报，日往返数回。亦陆机黄耳之徒欤！

上元中，华容县有象入庄家中庭卧。其足下有槎，人为出之，象乃伏，令人骑。入深山，以鼻培土，得象牙数十，以报之。

吏部侍郎郑愔，初托附来俊臣。俊臣诛，即托张易之。易之被戮，托韦庶人。后附谗王，竟被斩。

太子少保薛稷，雍州长史李晋，中书令崔湜、萧至忠、岑羲等，并外饰忠贞，内藏谄媚，翕肩屏气，舐痔折肢。附太平公主，并腾迁云路，咸自以为得志，保泰山之安。七月三日，破家身斩，何异鸳鸯栖于苇荇，大风忽起，巢折卵破。后之君子，可不鉴哉！

赵履温为司农卿，谄事安乐公主，气势回山海，呼吸变霜雪。客谓张文成曰：“赵司农何如人？”曰：“猖獗小人，心佞而险，行僻而骄，折支势族，舐痔权门，谄于事上，傲于接下，猛若饥虎，贪若饿狼。性爱食人，终为人所食。为公主夺百姓田园，造定昆池，言定天子昆明池也，用库钱百万亿。斜褰紫衫，为公主背挽金轳车。险谀皆此类。诛逆韦之际，上御承天门，履温诈喜，舞蹈称万岁。上令斩之，刀剑乱下，与男同戮。人割一脔，肉骨俱尽。”

天后时，张发谄事薛师，掌擎黄幘，随薛师后。于马傍伏地，承薛师马镫。侍御史郭霸尝来俊臣糞秽，宋之问捧张易之溺器，并偷媚取容，实名教之大弊也。

天后时，太常博士吉项父督易州刺史，以赃坐死。项于天津桥南要内史魏王承嗣，拜伏称死罪。承嗣问之，曰：“有二妹，堪事大王。”承嗣然之，遂驾车载入。三日不语，承嗣怪问之，二人曰：“儿父犯国法，忧之无复聊赖。”承嗣既幸，免其父极刑，遂进项宠马监，俄迁中丞、吏部侍郎。不以才升，二妹请求承嗣故也。

天后内史宗楚客性谄佞。时薛师有嫖毒之宠，遂为作《传》二卷，论薛师之圣从从而



降，不知何代人也。释迦重出，观音再生。期年之间，位至内史。

天后梁王武三思为张易之作《传》，云是王子晋后身。于缙氏山立庙，词人才子佞者以诗以咏之，舍人崔融为最。周年，易之族，佞者并流于岭南。

崔湜谄事张易之与韦庶人。及韦氏诛，附太平，有冯子都、董偃之宠。妻美，与二女并进储闈，为中书侍郎、平章事。或有人榜之曰：“托庸才于主第，进艳妇于春宫。”

燕国公张说，幸佞人也。前为并州刺史，谄事特进王毛仲，饷致金宝不可胜数。后毛仲巡边，会说于天雄军大设，酒酣，恩敕忽降，授兵部尚书、同中书门下三品。说谢讫，便把毛仲手起舞，嗅其靴鼻。

将军高力士特承玄宗恩宠。遭母丧，左金吾大将军程伯献、少府监冯绍正二人直就力士母丧前披发哭，甚于己亲。朝野闻之，不胜耻笑。

前侍御史王景融，瀛州平舒人也。迁父灵柩就洛州，于隧道掘着龙窟，大如瓮口。景融俯而观之，有气如烟直上，冲损其目。遂失明，旬日而暴卒。

卷六

天宝中，万年主簿韩朝宗尝追一人，来迟，决五下。将过县令，令又决十下。其人患天行病而卒。后于冥司下状言，朝宗遂被追至。入乌头门极大，至中门前，一双桐树，门边一阁垂帘幕，窥见故御史洪子舆坐。子舆曰：“韩大何为得此来？”朝宗云：“被追来，不知何事。”子舆令早过大使，入屏墙，见故刑部尚书李义。朝宗参见，云：“何为决杀人？”朝宗诉云：“不是朝宗打杀，县令重决，由患天行病自卒，非朝宗过。”又问：“县令决汝，何牵他主簿！朝宗无事。然亦县丞，悉见例皆受行杖。”亦决二十放还。朝宗至晚始苏，脊上青肿，疼痛不复可言，一月已后始可。于后巡检坊曲，遂至京城南罗城，有一坊中，一宅门向南开，宛然记得追来及乞杖处。其宅中无人居，问人，云此是公主凶宅，人不敢居。乃知大凶宅皆鬼神所处，信之。

神鼎师不肯剃头，食酱一斗。每巡门乞物，得粗布破衣亦着，得绉锦罗绮亦着。于利贞师座前听，问贞师曰：“万物定否？”贞曰：“定。”鼎曰：“阁梨言若定，何因高岸为谷，深壑为陵；有死即生，有生即死；万物相纠，六道轮回？何得为定耶！”贞曰：“万物不定。”鼎曰：“若不定，何不唤天为地，唤地为天，唤月为星，唤星为月？何得为不定！”贞无以应之。时张文成见之，谓曰：“观法师即是菩萨行人也。”鼎曰：“菩萨得之不喜，失之不悲，打之不怒，骂之不嗔，此乃菩萨行人也。鼎今乞得即喜，不得即悲，打之即怒，骂之即嗔。以此论之，去菩萨远矣。”

空如禅师者，不知何许人也。少慕修道，父母抑婚，以刀割其势，乃止。后成丁，征庸课，遂以麻蜡裹臂，以火蒸之，遂成废疾。入陆浑山坐兰若，虎不为暴。山中偶见野猪与虎斗，以藜杖挥之，曰：“檀越不须相争。”即珥耳分散。人皆敬之，无敢议者。



司刑司直陈希闵，以非才任官，庶事凝滞。司刑府史目之为“高手笔”。言秉笔支额，半日不下，故名“高手笔”。又号“按孔子”。言审割至多，纸面穿穴，故名“按孔子”。

衡州龙游县令李凝道，性褊急，姊男年七岁，故恼之，即往逐之，不及，遂诱得之，咬其胸背流血，姊救之得免。又乘驴于街中，有骑马人靴鼻拨其膝，遂怒，大骂，将殴之，马走，遂无所及。忍恶不得，遂嚼路傍棘子流血。

贞观中，冀州武强县丞亮君卿失马。既得贼，枷禁未决，君卿指贼面而骂曰：“老贼吃虎胆来，敢偷我物！”贼举枷击之，应时脑碎而死。

开元中，萧颖士方年十九，擢进士。至二十余，该博三教。其赋性躁忿浮戾，举无其比。常使一仆杜亮，每一决责，皆由非义。平复，遭其指使如故。或劝亮曰：“子佣夫也，何不择其善主，而受苦若是乎？”亮曰：“愚岂不知。但爱其才学博奥，以此恋恋不能去。”卒至于死。

敬宗时，高崔巍喜弄痴。大帝令给使撩头向水下，良久，出而笑之。帝问，曰：“见屈原，云：‘我逢楚怀王无道，乃沉汨罗水。汝逢圣明主，何为来？’”帝大笑，赐物百段。

秋官侍郎狄仁杰嘲秋官侍郎卢献曰：“足下配马乃作驴。”献曰：“中弊明公，乃成二犬。”杰曰：“狄字犬傍火也。”献曰：“犬边有火，乃是煮熟狗。”

吏部侍郎李安期，隋内史德林之孙，安平公百药之子，性好机警。常有选人被放，诉云：“羞见来路。”安期问：“从何来？”“从蒲津来。”安期曰：“取潼关路去。”选者曰：“耻见妻子。”安期曰：“贤室本自相谮，亦不笑。”又一选人引铨，安期看判曰：“弟书稍弱。”对曰：“昨坠马损足。”安期曰：“损足何废好书？”为读判曰：“向看贤判，非但伤足，兼似内损。”其人惭而去。又选士姓杜名若，注芳洲官，其人渐而不伏。安期曰：“君不闻芳洲有杜若？”其人曰：“可以赠名公。”曰：“此期非彼期。”若曰：“此若非彼若。”安期笑，为之改注。又一吴士，前任有酒状，安期曰：“君状不善。”吴士曰：“知暗枪已入。”安期曰：“为君拔暗枪。”答曰：“可怜美女。”安期曰：“有精神选，还君好官。”对曰：“怪来晚。”安期笑而与官。

尹神童每说，伯乐令其子执《马经》画样以求马，经年无有似者。归以告父，乃更令求之，出见大虾蟆，谓父曰：“得一马，略与相同，而不能具。”伯乐曰：“何也？”对曰：“其隆颅跌目脊郁缩，但蹄不如累趋尔。”伯乐曰：“此马好跳踔，不堪也。”子笑乃止。

安南有象□□，能默识人之是非曲直。其往来山中，遇人相争，有理者即过。负心者以鼻卷之，掷空中数丈，以牙接之，应时碎矣。莫敢竞者。

安南武平县封溪中有猩猩焉，如美人，解人语，知往事。以嗜酒故，以履得之，檻百数同牢。欲食之，众自推肥者相送，流涕而别。时封溪令，以靶盖之，令问何物，猩猩乃笼中语曰：“惟有仆并酒一壶耳。”令笑而爱之，养畜，能传达言语，人不如也。

前御史王义方，出莱州司户参军，去官归魏州，以讲授为业。时乡人郭无为颇有法术，教义方使野狐。义方虽呼得之，不伏使，却被群狐竞来恼，每掷砖瓦以击义方。或正



诵读，即裂其书碎。闻空中有声云：“有何神术，而欲使我乎！”义方竟不能禁止，无何而卒。

并州石艾、寿阳二界，有妒女泉，有神庙，泉水沉洁澈千丈。祭者投钱及羊骨，蛟然皆见。俗传妒女者，介之推妹，与兄竞，去泉百里，寒食不许举火，至今犹然。女锦衣红鲜，装束盛服，及有人取山丹、百合经过者，必雷风电雹以震之。

景龙末，韦庶人专制，故安州都督、赠太师杜鹏举时尉济源县，为府召至洛城修籍。一夕暴卒，亲宾具小殓，夫人尉迟氏，敬德之孙也，性通明强毅，曰：“公算术神妙，自言官至方伯，今岂长往。”即安然不哭。泊二日三夕，乃心上稍温，翌日徐苏。数日方语，云初见两人持符来召，遂相引出徽安门。门隙容寸，过之尚宽，直北上邙山，可十余里，有大坑，视不见底。使人令人，鹏举大惧，使者曰：“可闭目。”执手如飞，须臾足已履地。寻小径东行，凡数十里，天气昏惨，如冬凝阴。遂至一廨，墙宇宏壮，使者先入。有碧衣官出，趋拜颇恭，既退引入，碧衣者踞坐案后，命鹏举前。傍有一狗，人语曰：“误，姓□名同，非此官也。”笞使者，改符令去。有一马半身两足，跳梁而前曰：“往为鹏举所杀，今请理冤。”鹏举亦醒然记之，诉云：“曾知驿，敕使将马令杀，非某所愿。”碧衣命吏取案，审然之，马遂退。傍见一吏，挥手动目，教以事理，意相脱脱。证既毕，遂揖之出，碧衣拜送门外，云：“某是生人，安州编户，少府当为安州都督，故先施敬，愿自保持。”言讫而向所教之吏趋出，云姓韦名鼎，亦是生人，在上都务本坊。自称向来有力，祈钱十万。鹏举辞不能致，鼎云：“某虽生人，今于此用纸钱，易致耳。”遂许之。又囑云：“焚时愿以物藉之，幸不着地，兼呼韦鼎，某即自使人受。”鼎又云：“既至此，岂不要见当家簿书？”遂引入一院，题云“户部”，房廊四周簿帐山积，当中三间架阁特高，覆以赤黄特帕，金字榜曰“皇籍”。余皆露架，往往有函，紫色盖之，韦鼎云：“宰相也。”因引诣杜氏籍，书签云“濮阳房”，有紫函四，发开卷，鹏举三男，时未生者，籍名已俱。遂求笔，书其名于臂。意愿踟蹰，更欲周览，韦鼎云：“既不住，亦要早归。”遂引出，令一吏送还。吏云：“某苦饥，不逢此使，无因得出，愿许别去，冀求一食。但寻此道，自至其所。”留之不可。鹏举遂西行，道左忽见一新城，异香闻数里，环城皆甲士持兵。鹏举问之，甲士云：“相王于此上天，有四百天人来送。”鹏举曾为相王府官，忻闻此说，墙有大隙，窥见分明。天人数百，围绕相王，满地彩云，并衣仙服，皆如画者。相王前有女人执香炉，行近窥席，衣裙带状似剪破，一如雁齿状。相王戴一日，光明辉赫，径可丈余。相王后凡有十九日，累累成行，大光明皆如所戴。须臾有绋骑来迎，甲士令鹏举走，遂至故道，不觉已及徽安门。门闭，过之亦如去时容易，为鸡犬遮啖，行不可进。至家，见身在床上，跃入身中，遂寤。臂上所记如朽木书，字尚分明。遂焚纸钱十万，呼赠韦鼎。心知卜代之数，中兴之期，遂以假故来谒睿宗。上握手曰：“岂敢忘德。”寻求韦鼎，适卒矣。及睿宗登极，拜右拾遗，词云：“思入风雅，灵通鬼神。”敕官人妃子数十同其牧服。令视执炉者，鹏举遥识之，乃太平公主也。问裙带之由，公主云：“方赞龙袞，忽为



火进，惊忙之中，不觉燕带。仓惶不及更服。”公主歔歔陈贺曰：“圣人之兴，固自天也。”鹏举所见，先睿宗龙飞前三年，故鹏举墓志云：“及睿宗践祚，阴降祥符。启圣期于化元，定成拜于幽数。”后果为安州都督。处士萧时和作传。一说，鹏举得释后入一院，问帘下者为谁，曰“魏元忠也”。有顷敬捍人，下马，众接拜之，云是大理卿，对推事。见武三思着枷；韦温、宗楚客、赵履温等着锁；李峤露头散腰立。闻元忠等云“今年大计会”。至六月，诛逆韦，宗、赵、韦等并斩，峤解官归第，皆如其言。

柴绍之弟某，有材力，轻矫迅捷，踊身而上，挺然若飞，十余步乃止。太宗令取赵公长孙无忌鞍鞮，仍先报无忌，令其守备。其夜，见一物如鸟飞入宅内，割双鞮而去，追之不及。又遣取丹阳公主镂金函枕，飞入房内，以手搯土公主面上，举头，即以他枕易之而去。至晓乃觉。尝着吉莫靴走上砖城，直至女墙，手无攀引。又以足踏佛殿柱，至檐头，捻椽覆上。越百尺楼阁，了无障碍。太宗奇之，曰：“此人不可处京邑。”出为外官。时人号为“壁龙”。太宗尝赐长孙无忌七宝带，直千金，时有大盗段师子从屋上上椽孔间而下，露拔刀谓曰：“公动即死。”遂于函中取带去，以刀拄地，踊身椽孔间出。

天后时将军李楷固，契丹人也，善用绳索。李尽忠之败也，麻仁节、张玄遇等并被缚。将獐鹿狐兔走马遮截，放索缚之，百无一漏。鞍马上弄弓矢矛稍如飞仙。天后惜其材不杀，用以为将。稍贪财好色，出为潭州乔口镇守将，愤恚而卒。

宋令文者，有神力。禅定寺有牛触人，莫之敢近，筑围以阬之。令文怪其故，遂袒褐而入。牛犊角向前，令文接两角拔之，应手而倒，颈骨皆折而死。又以五指撮碓薨壁上书，得四十字诗。为太学生，以一手挟讲堂柱起，以同房生衣于柱下压之。许重设酒，乃为之出。令文有三子：长之问，有文誉；次之逊，善书；次之悌，有勇力。之悌后左降朱鸢，会贼破驩州，以之悌为总管击之。募壮士，得八人。之悌身長八尺，被重甲，直前大叫曰：“獠贼，动即死。”贼七百人一时俱倒，大破之。

彭博通者，河间人也，身長八尺。曾于讲堂阶上临阶而立，取鞋一鞮以臂夹，令有力者后拔之，鞋底中断，博通脚终不移。牛驾车正走，博通倒曳车尾，却行数十步，横拔车辙深二尺余，皆纵横破裂。曾游瓜埠，江有急风张帆，博通捉尾挽挽之，不进。

定襄公李宏，虢王之子，身長八尺。曾猎，有虎搏之，踣而卧，虎坐其上。奴走马傍过，虎跳攫奴后鞍，宏起，引弓射之，中臂而死。宏及奴一无所伤。

忠武将军辛承嗣轻捷。曾解鞍绊马，脱衣而卧，令一人百步走马持枪而来。承嗣解鞍解绊，着衣擐甲，上马盘枪逆拒，刺马擒人而还。承嗣曾与将军元帅奖驰骋，一手捉鞍桥，双足直上掠蜻蜓，走马二十里。与中郎裴绍业于青海被吐蕃围，谓绍业曰：“相随带将军共出。”绍业惧，不敢。承嗣曰：“为将军试之。”单马持枪，所向皆靡，却迎绍业出。承嗣马被箭，乃跳下，夺贼壮马乘之，一无损伤。裴旻为幽州都督，孙佺北征，被奚贼围之。旻马上立走，轮刀雷发，箭若星流，应刀而断。贼不敢取，蓬飞而去。

贞观中，恒州有彭闾、高瓚二人斗豪，时于大酺场上两朋竞胜，闾活捉一豚，从头像



至项，放之地上仍走。瓊取猫儿从尾食之，肠肚俱尽，仍鸣唤不止。闕于是乎帖然心伏。

梁庾信从南朝初至北方，文士多轻之。信将《枯树赋》以示之，于后无敢言者。时温子升作《韩陵山寺碑》，信读而写其本，南人问信曰：“北方文士何如？”信曰：“惟有韩陵山一片石堪共语。薛道衡、卢思道少解把笔，自余驴鸣犬吠，聒耳而已。”

卢照邻字升之，范阳人。弱冠拜邓王府典签，王府书记一以委之。王有书十二车，照邻总披览，略能记忆。后为益州新都县尉，秩满，婆娑于蜀中，放旷诗酒，故世称“王杨卢骆”。照邻闻之曰：“喜居王后，耻在骆前。”时杨之为文，好以古人姓名连用，如张平子之略谈，陆士衡之所记，潘安仁宜其陋矣，仲长统何足知之。号为“点鬼簿”。骆宾王文好以数对，“如秦地重关一百二，汉家离宫三十六。”时人号为“算博士”。如卢生之文，时人莫能评其得失矣。惜哉，不幸有冉耕之疾，著《幽忧子》以释愤焉。文集二十卷。

北齐兰陵王有巧思，为舞胡子，王意所欲劝，胡子则捧盏以揖之，人莫知其所由也。

幽州人刘交，戴长竿高七十尺，自攀上下。有女十二，甚端正，于竿上置定，跨盘独立。见者不忍，女无惧色。后竟为扑杀。

巧人张崇者，能作灰画腰带铰具，每一胯大如钱，灰画烧之，见火即隐起，作龙鱼鸟兽之形，莫不悉备。

则天如意中，海州进一匠，造十二辰车。回轳正南则午门开，马头人出。四方回转，不爽毫厘。又作木火通，铁盏盛火，辗转不翻。

韩王元嘉有一铜樽，背上贮酒而一足倚，满则正立，不满则倾。又为铜鸪，毡上摩之热则鸣，如真鸪之声。

洛州殷文亮曾为县令，性巧好酒，刻木为人，衣以缯彩，酌酒行觞，皆有次第。又作妓女，唱歌吹笙，皆能应节。饮不尽，即木小儿不肯把；饮未竟，则木妓女歌管连理催。此亦莫测其神妙也。

将作大匠杨务廉甚有巧思，常于沁州市内刻木作僧，手执一碗，自能行乞。碗中钱满，关键忽发，自然作声云“布施”。市人竞观，欲其作声，施者日盈数千矣。

郴州刺史王琚刻木为獭，沉于水中，取鱼引首而出。盖獭口中安饵，为转关，以石缝之则沉。鱼取其饵，关即发，口合则衔鱼，石发则浮出矣。

薛合惑者，善投壶，龙跃隼飞，矫无遗箭。置壶于背后，却反矢以投之，百发百中。

天后朝，地官郎中周子恭忽然暴亡，见大帝于殿上坐，裴子仪侍立。子恭拜，问为谁，曰：“周子恭追到。”帝曰：“我唤许子儒，何为错将子恭来！”即放去。子恭苏，问家中曰：“许侍郎好在否？”时子儒为天官侍郎，已病，其夜卒。则天闻之，驰驿向并州，问裴子仪，时为判官，无恙也。

张易之将败也，母韦氏阿藏在宅坐，家人报云有车马骑从甚多，至门而下。疑其内官也，藏出迎之，无所见。又野狐数十擎饭瓮墙头而过。未旬日而祸及。垂拱之后，诸州多进雌鸡化为雄鸡者，则天之应也。



神龙中，户部尚书李承嘉不识字，不解书。为御史大夫，兼洛州长史，名判司为狗，骂御史为驴，威振朝廷。西京造一堂新成，坊人见野狐无数直入宅。须臾堂舍四裂，瓦木一聚，判事笔管手中直裂，别取笔，复裂如初。数日，出为藤州员外司马，卒。

大定年中，太州赤水店有郑家庄，有一儿郎年二十余，日晏于驿路上见一青衣女子独行，姿容姝丽。问之，云欲到郑县，待三婢未来，踟蹰伺候。此儿屈就庄宿，安置厅中，借给酒食，将衣被同寝。至晓，门久不开，呼之不应。于窗中窥之，惟有脑骨头颅在，余并食讫。家人破户入，于梁上暗处见一大鸟，冲门飞出。或云是“罗刹魅”也。

怀州刺史梁载言昼坐厅事，□□□忽有物如蝙蝠从南飞来，直入口中，翕然似吞一物。腹中遂绞痛，数日而卒。

寿安男子不知姓名，肘拍板，鼻吹笛，口唱歌，能半面笑半面啼。一乌犬解人语，应口所作，与人无殊。

越州兵曹柳崇忽病生于头，呻吟不可忍。于是召术士夜观之，云：“有一妇女绿裙，问之不应，在君窗下，急除之。”崇访窗下，止见一瓷妓女，极端正，绿瓷为饰。遂于铁臼捣碎而焚之，疮遂愈。

永徽中，张鸷筑马槽厂宅，正北掘一坑丈余。时《阴阳书》云子地穿，必有墮井死。鸷有奴名水进，淘井土崩压而死。又鸷故宅有一桑，高四五丈，无故枯死，寻而祖亡歿。后有明阴阳云“乔木先枯，众子必孤”，此其验也。

徐敬业举兵，有大星蓬蓬如筐笼，经三宿而失。俄而敬业败。

司刑卿杜景佺授并州长史，驰驿赴任。其夜有大星如斗，落于庭前，至地而没。佺至并州析县界而卒。群官迎祭，回所上食为祭盘。

将军黑齿常之镇河源军，城极严峻。有三口狼入营，绕官舍，不知从何而至，军士射杀。黑齿忌之，移之外。奏讨三曲党项，奉敕许，遂差将军李谨行充替。谨行到军，旬日病卒。

天官侍郎顾琮新得三品，有子婿来谒。时大门造成，琮乘马至门，鼓鼻踏地不进。鞭之，跳跃而入，从骑亦如之。有顷，门无故自倒，琮不悦，遂病。郎中、员外已下来问疾，琮云：“未合入三品，为诸公成就至此，自知不起矣。”旬中而薨。

张易之初造一大堂，甚壮丽，计用数百万。红粉泥壁，文柏帖柱，琉璃沉香为饰。夜有鬼书其壁曰“能得几时”，令削去，明日复书之。前后六七，易之乃题其下曰“一月即足”，自是不复更书。经半年，易之籍没，入官。

崔玄纬初封博陵王，身为益府长史，受封。令所司造辂，初成，有大风吹其盖倾折，识者以为不祥。无何，弟举为云阳令，部人杀之雍州衙内。纬三从以上长流岭南。斯亦咎征之先见也。

潞州饶阳人宋善威曾任一县尉，尝昼坐，忽然取鞋衫笏走出门，迎接拜伏引入。诸人不见，但闻语声。威命酒饌乐饮，仍作诗曰：“月落三株树，日映九重天。良夜欢宴罢，



暂别庚申年。”后威果至庚申年卒。

开元三年，有熊昼日入广府城内，经都督门前过，军人逐十余里，射杀之。后月余，都督李处鉴死。自后长史朱思贤被告反，禁身半年，才出即卒。司马宋草宾、长史窦崇嘉，相继而卒。

开元四年，尚书考功院厅前一双桐树忽然枯死。旬日，考功员外郎邵某卒。寻而麴先冲为郎中，判邵旧案。月余，西边树又枯死，省中忧之。未几而先冲又卒。

源乾曜为宰相，移政事床。时姚元崇归休，及假满来，见床移，忿之。曜惧，下拜。玄宗闻之而停曜。宰相讳移床，移则改动，曜停后元崇亦罢，此其验也。

梁简文之生，志公谓武帝曰：“此子与冤家同年生。”其年，侯景生于雁门；乱梁，诛萧氏略尽。

魏征为仆射，有二典事之长参，时征方寝，二人窗下平章。一人曰：“我等官职总由此老翁。”一人曰：“总由天上。”征闻之，遂作一书，遣“由此老翁”人者送至侍郎处，云“与此人一员好官”。其人不知，出门心痛，凭“由天上”者送书。明日引注，“由老人”者被放，“由天上”者得留。征怪之，问焉，具以实对。乃叹曰：“官职禄料由天者，盖不虚也。”

娄师德为扬州江都尉，冯元常亦为尉，共见张罔藏。藏曰：“二君俱贵，冯位不如娄。冯惟取钱多，即官益进；娄若取一钱，官即落。”后冯为浚仪尉，多肆惨虐，巡察以为强，奏授云阳尉。又缘取钱事雪，以为清强监察。娄竟不敢取一钱，位至台辅，家极贫匮。冯位至尚书左丞，后得罪，赐自尽。娄至纳言卒。

王显与文武皇帝有严子陵之旧，每挈犗为戏，将帽为欢。帝微时，常戏曰：“王显抵老不作茧。”及帝登极，而显谒奏曰：“臣今日得作茧耶？”帝笑曰：“未可知也。”召其三子，皆授五品，显独不及。谓曰：“卿无贵相，朕非为卿惜也。”曰：“朝贵而夕死足矣。”时仆射房玄龄曰：“陛下既有龙潜之旧，何不试与之？”帝与之三品，取紫袍、金带赐之，其夜卒。

太宗极康豫，太史令李淳风见上，流泪无言。上问之，对曰：“陛下夕当晏驾。”太宗曰：“人生有命，亦何忧也。”留淳风宿。太宗至夜半，奄然入定，见一人云：“陛下暂合来，还即去也。”帝问：“君是何人？”对曰：“臣是生人判冥事。”太宗入见，冥官问六月四日事，即令还。向见者又迎送引导出。淳风即观玄象，不许哭泣，须臾乃寤。至曙，求昨所见者，令所司与一官，遂往蜀道一丞。上怪问之，选司奏，奉进止与此官。上亦不记，旁人悉闻，方知官皆由天也。

王无寻好博戏，善鹰鹞。文武圣皇帝微时，与无寻蒲戏争彩，有李阳之宿憾焉。帝登极，无寻匿不出。帝令给使将一鹞子于市卖之，索钱二十千。无寻不知也，酬钱十八贯，给使以闻。帝曰：“必王无寻也。”遂召至，惶惧请罪。帝笑赏之，令于春明门待诸州麻车三日，并与之。无寻坐三日，属灞桥破，只得麻三车，更无所有。帝知其薄命，更不复赏。频



请五品，帝曰：“非不与卿，惜卿不胜也。”固请，乃许之，其夜遂卒。

补 辑

鲁般者，肃州敦煌人，莫详年代，巧侔造化。于凉州造浮图，作木鸢，每击楔三下，乘之以归。无何，其妻有妊，父母诘之，妻具说其故。父后伺得鸢，击楔十余下，遂至吴会。吴人以为妖，遂杀之。般又为木鸢乘之，遂获父尸。怨吴人杀其父，于肃州城南作一木仙人，举手指东南，吴地大旱三年。卜曰：“般所为也。”资物具千数谢之，般为断一手，其日吴中大雨。国初，土人尚祈祷其木仙。六国时，公输般亦为木鸢以窥宋城。

隋未有咎君谟善射，闭目而射，应口而中，云志其目则中目，志其口则中口。有王灵智学射于谟，以为曲尽其妙，欲射杀谟，独擅其美。谟执一短刀，箭来辄截之。惟有一矢，谟张口承之，遂啖其镞。笑曰：“学射三年，未教汝啖镞法。”《列子》云：“甘蝇，古之善射者，弟子名飞卫，巧过于师。纪昌又学射于飞卫，以蒸角之弧，朔蓬之竿，射贯虱心。既尽飞卫之术，计天下敌己者一人而已，乃谋杀飞卫。相遇于野，二人交射，矢锋相触，坠地而尘不扬。飞卫之矢先穷，纪遗一矢，既发，飞卫以棘刺之端捍之而无差焉。于是二子泣而投弓，请为父子，刻臂以誓，不得告术于人。”《孟子》曰：“逢蒙学射于羿，尽羿之道，惟羿为愈己，于是杀羿。”

伪周滕州录事参军袁思中，平之子，能于刀子锋杪倒箸挥蝇起，拈其后脚，百不失一。

苏頌为中书舍人，父右仆射瓌卒，頌哀毁过礼。有敕起复，頌表固辞不起。上使黄门侍郎李日知就宅喻旨，终坐无言，乃奏曰：“臣见瘠病羸瘦，殆不胜哀。臣不忍言，恐其殒绝。”上恻然，不之逼也。故时人语曰：“苏瓌有子，李峤无儿。”

唐越州山阴县有智禅师，院内有池，恒贻生以放之。有一鼈长三尺，恒食其鱼，禅师患之，取鼈送向禹王庙前池中。至夜还来，禅师咒之曰：“汝勿食我鱼，即从汝在此。”鼈于是出外放粪，皆是青泥。禅师每至池上，唤鼈即出，于师前伏地。经数十年，渐长七八尺。禅师亡后，鼈亦不复见。

梁武帝萧衍杀南齐主东昏侯，以取其位，诛杀甚众。东昏死之日，侯景生焉。后景乱梁，破建业，武帝禁而饿绝，简文幽而压死，诛梁子弟略无子遗。时人谓景是东昏侯之后身也。

唐赵公长孙无忌，奏别敕长流，以为永例。后赵公犯事，敕长流岭南，至死不复回。此亦为法之弊。

唐冀州刺史王珣，性酷烈，时有敕使至州，珣与使语，武强县尉蒯奖曰：“日过，移就阴处。”珣怒，令典狱扑之，项骨折而死。至明日，狱典当州门限垂脚坐，门扇无故自发，打双脚胫俱折。珣病，见奖来，起，自以酒食求之，不许。珣恶之，回面向梁，奖在



屋梁。旬日而死。

唐左史江融，耿介正直。扬州徐敬业反，被罗织，酷吏周兴等枉奏杀之，斩于东都都亭驿前。融将被诛，请奏事引见，兴曰：“囚何得奏事！”融怒叱之曰：“吾无罪枉戮，死不舍汝。”遂斩之，尸乃激扬而起，蹭蹬十余步；行刑者踏倒，还起坐；如此者三，乃绝。虽断其头，似怒不息。无何周兴死。

唐凤阁侍郎李昭德，威权在己，宣出一敕云：“自今以后，公坐徒，私坐流，经恩百日不首，依法科罪。”昭德先受孙万荣贿财，奏与三品。后万荣据营州反，货求事败，频经恩赦，以百日不首，准赃断绞。

唐洛州司马弓嗣业、洛阳令张嗣明，造大枷长六尺、阔四尺、厚五寸倚前，人莫之犯。后嗣明及嗣业资遣逆贼徐真北投突厥，事败，业等自著此枷，百姓快之也。

唐秋官侍郎周兴与来俊臣对推事。俊臣别率进止鞠兴，兴不之知也。及同食，谓兴曰：“囚多不肯承，若为作法？”兴曰：“甚易也。取大瓮，以炭四面炙之，令囚人处之其中，何事不吐！”即索大瓮，以火围之，起谓兴曰：“有内状勘老兄，请兄入此瓮。”兴惶恐叩头，咸即款伏。断死，放流岭南。所破人家流者甚多，为仇家所杀。《传》曰“多行无礼必自及”，信哉！

唐鱼思诤有沈思，极巧。上欲造匾，召工匠，无人作得者。诤应制为之，甚合规矩，遂用之。无何，有人投匿名言诤，云徐敬业在扬州反，诤为敬业作刀轮以冲阵，杀伤官军甚众。推问具承，诛之。为法自毙，乃至于此。

唐索元礼为铁笼头以讯囚。后坐赃贿，不承，使人曰：“取公铁笼头。”礼即承伏。

唐张楚金为秋官侍郎，奏反逆人持赦免死，家口即绞斩及配没入官为奴婢等，并入律。后楚金被罗织反，持赦免死，男子十五以上斩，妻子配没。识者曰：“为法自毙，所谓交报也。”

唐京兆尹崔日知，处分长安、万年及诸县左降流移人，不许暂停，有违晷刻，所由决杖。无何，日知贬歙县丞，被县家催，求与妻子别不得。

唐太宗问光禄卿韦某，须无脂肥羊肉充药。韦不知所从得，乃就侍中郝处俊宅问之。俊曰：“上好生，必不为此事。”乃进状自奏：“其无脂肥羊肉，须五十口肥羊，一一对前杀之，其羊怖惧，破脂并入肉中。取最后一羊，则极肥而无脂也。”上不忍为，乃止。赏处俊之博识也。

咸亨中，贝州潘彦好双陆，每有所诣，局不离身。曾泛海，遇风船破，彦右手挟一板，左手抱双陆局，口衔双陆骰子。二日一夜至岸，两手见骨，局终不舍，骰子亦在口。

润州兴国寺苦鸬鹚栖梁上，秽污尊容，僧繇乃东壁上画一鹰，西壁上画一鹤，皆侧首向檐外看。自是鸬鹚等不复敢来。

江岭之间有飞蛊，其来也有声，不见形，如鸟鸣啾啾唧唧然。中人即为痢，便血，医药多不差，旬日间必不救。



唐乾封年中，有人于镇州东野外见二白兔，捕之，忽却入地，绝迹不见。乃于人处掘之，才三尺许，获铜剑一双，古制殊妙。于时长吏张祖宅以闻。

唐天授年，彭城刘诫之粗险不调，高言库语，凌上忽下，恐吓财物，口无关钥，妄说妖灾。从万年县尉常彦玮索钱一百千，云：“我是刘果毅，当与富贵。”彦玮进状告之，上令二给使先入彦玮房中，下帘坐窗下听之。有顷，诫之及卢千仞至，于厅上坐谈话，彦玮引之说国家长短，无所忌讳。给使一一纸笔抄之以进。上怒，令金吾捕捉，亲问之，具承，遂腰斩诫之，千仞处绞，授彦玮侍御史。

唐老三卫宗玄成，邢州南和人。祖齐，黄门侍郎。玄成性粗猛，禀气凶豪，凌轹乡村，横行州县。纪王为邢州刺史，玄成与之抗行。李备为南和令，闻之，每降阶引接，分庭抗礼，务在招延，养成其恶。属河朔失稔，开仓赈给，玄成依势，作威乡墅，强乞粟一石。备与客对，不命。玄成乃门外扬声，奋臂直入，备集门内典正一百余人，举牒推穷，强乞是实。初令项上著锁，后却锁上著枷。文案既周，且决六十，杖下气绝，无敢言者。

孟神爽，扬州人。禀性狼戾，执心鸩毒。巡市索物，应声即来，人邸须钱，随口而至。长史、县令，高揖待之；丞、尉、判司，颌之而已。张潜为扬州刺史，闻其暴乱，遣江都县令店上捉来，拖入府门，高声唱“速付法曹李广业推鞠”，密事并虚，准敕杖百，杖下卒。

则天之废庐陵也，飞骑十余人于客户坊同饮。有一人曰：“早知今日无功赏，不及扶竖庐陵。”席上一人起出，北门进状告之。席未散，并擒送羽林，鞠问皆实。告者授五品，言者斩，自余知反不告，坐绞。

周令史韩令珪耐羞耻，厚貌强梁，王公贵人皆呼次第，平生未面亦强干之。曾选，于陆元方下引铨。时舍人王勣夺情，与陆同厅而坐。珪佯惊曰：“未见王五。”勣便降阶恹然。令珪蹙眉蹙刺，相慰而去。陆与王有旧，对面留住，问勣是谁，莫之识也。后吓人事败，于朝堂决杖，遥呼河内王曰：“大哥何不相救！”懿宗目之曰：“我不识汝。”催杖苦鞭，杖下取死。

唐李宏，汴州浚仪人也，凶悖无赖，狼戾不仁。每高鞍壮马，巡坊历店，吓庸调租船纲典，动盈数百贯，强贷商人巨万，竟无一还。商旅惊波，行纲侧胆。任正理为汴州刺史，上十余日，遣手力捉来，责情决六十，杖下而死。工商客生酣饮相欢，远近闻之莫不称快。

唐长孙昕，皇后之妹夫，与妻表兄杨仙玉乘马，二十余骑并列瓜挝，于街中行。御史大夫李杰在坊内参姨母，僮仆在门外，昕与仙郎使奴打杰左右。杰出来，并波按顿。须臾，金吾及万年县官并到，送县禁之。昕妻父王开府将二百百骑劫昕等去。杰与金吾、万年以状闻上，奉敕断昕杀。积杖至数百而卒。

张易之兄弟骄贵，强夺庄宅、奴婢、姬妾不可胜数。昌期于万年县街内行，逢一女，人媼抱儿相逐。昌期马鞭拨其头巾，女妇骂之。昌期顾谓奴曰：“横欺将来。”媼投匭三四



状，并不出。昌期捉送万年县，诬以他罪，决死之。昌仪常谓人曰：“丈夫当如此：今时千人推我不能倒；及其败也，万人擎我不能起。”俄而事败，兄弟俱斩。

唐邢州刺史权怀恩无赖，除洛州长史，州差参军刘犬子迎。至怀州路次拜，怀恩突过，不与语。步趁二百余步，亦不遣乘马。犬子觉不似，乃自上马驰之。至驿，令脱靴讫，谓曰：“洛州几个参军？”对曰：“正员六人，员外一人。”怀恩曰：“何得有员外？”对曰：“余一员遣与长史脱靴。”怀恩惊曰：“君谁家儿？”对曰：“阿父为仆射。”怀恩怏然而去。仆射刘仁轨谓曰：“公草里刺史，至神州不可以造次。参军虽卑微，岂可令脱靴耶？”怀恩惭，请假不复出。旬日为益州刺史。

唐洛阳丞宋之愁，太常主簿之问弟，罗织杀驸马王同皎。初，之愁谄附张易之兄弟，出为兖州司仓，遂亡而归，王同皎匿之于小房。同皎，慷慨之士也，忿逆韦与武三思乱国，与一二所亲论之，每至切齿。之愁于帘下窃听之，遣侄呈上书告之，以希韦之旨。武三思等果大怒，奏诛同皎之党。兄弟并授五品官，之愁为光禄丞，之问为鸿胪丞，呈为尚衣奉御。天下怨之，皆相谓曰：“之问等绯衫，王同皎血染也。”诛逆韦之后，之愁等长流岭南。客谓浮休子曰：“来俊臣之徒如何？”对曰：“昔有师子王，于深山获一豺，将食之，豺曰：‘请为王送二鹿以自贖。’师子王喜。周年之后，无可送，王曰：‘汝杀众生亦已多，今次到汝，汝其图之。’豺默然无应，遂腊杀之。俊臣之辈，何异豺也！”

周御史彭先觉，无面目。如意年中，断屠极急，先觉知巡事，定鼎门草车翻，得两犂羊。门家告御史，先觉进状，奏请合官尉刘緬专当屠，不觉察，决一顿杖，肉付南衙官人食。緬惶恐，缝新裤待罪。明日，则天批曰：“御史彭先觉奏决刘緬，不须。其肉乞緬吃却。”举朝称快。先觉于是乎惭。

唐衢州盈川县令杨炯，词学优长，恃才简倨，不容于时。每见朝官，目为麒麟植许怨。人问其故，杨曰：“今哺乐假弄麒麟者，刻画头角，修饰皮毛，覆之驴上，巡场而走。及脱皮褐，还是驴马。无德而衣朱紫者，与驴覆麟皮何别矣！”

后赵石勒将麻秋者，太原胡人也，植性险鸩毒。有儿啼，母辄恐之“麻胡来”，啼声绝。至今以为故事。

赵州刺史高睿妻秦氏，默啜破定州部，至赵州，长史已下开门纳贼。睿计无所出，与秦氏仰药而诈死。昇至啜所，良久，啜以金狮子带、紫袍示之，曰：“降我与尔官，不降即死。”睿视而无言，但顾其妇秦氏。秦氏曰：“受国恩，报在此今日。受贼一品，何足为荣！”俱合眼不语。经两日，贼知不可屈，乃杀之。

王湛判冥事。初，叔玄式任荊州富阳令，取部内人吴实钱一百贯，后诬以他事，决杀之以灭口。式带别仇，并有上下考，五选不得官，以问湛，白为叔检之。经宿曰：“叔前任富阳令日，合有负心事。其案见在，冥司判云：杀人之罪，身后科罚。取钱一百贯，当折四年禄。”叔曰：“诚有此事，吾之罪也。”

舒绰，东阳人，稽古博文，尤以阴阳留意，善相冢。吏部侍郎杨恭仁欲改葬其亲，求



善图墓者五六人，并称海内名手，停于宅，共论执，互相是非，恭仁莫知孰是。乃遣微解者驰往京师，于欲葬之原取所拟之地四处，各作历，记其方面高下形势，各取一斗土，并历封之。恭仁隐历出土，令诸生相之，取殊不同。言其行势，与历又相乖背。绰乃定一土堪葬，操笔作历，言其四方形势，与恭仁历无尺寸之差，诸生雅相推服。各赐绢十四遣之。绰曰：“此所拟处深五尺之外有五谷，若得一谷即是福地，公侯世世不绝。”恭仁即将绰向京，令人掘深七尺，得一穴如五石瓮大，有粟七八斗。此地经为粟田，蚁运粟下入此穴。当时朝野之士以绰为圣。葬竟，赐细马一匹，物二百段。绰之妙能，今古无比。

隋内史令李德林，深州饶阳人也，使其子卜葬于饶阳城东，迁厝其父母。遂问之，其地奚若，曰：“卜兆云葬后当出八公。其地东村西郭，南道北堤。”林曰：“村何名？”答曰：“五公。”林曰：“惟有三公在。此其命也，知复云何！”遂葬之。子百药，孙安期，并袭安平公。至曾孙，与徐敬业反，公遂绝。

唐郝处俊为侍中死，葬讫，有一书生过其墓叹曰：“葬压龙角，其棺必斫。”后其孙象贤坐不道斫发棺，焚其尸，俊发根入脑骨，皮讹毛著髑髅，亦是奇毛异骨，贵相人也。

唐英公徐勣初卜葬，谣曰：“朱雀和鸣，子孙盛荣。”张景藏闻之，私谓人曰：“所占者过也。此所谓朱雀悲哀，棺中见灰。”后孙敬业扬州反，弟敬贞答款曰：“敬业初生时，于幕下掘得一龟，云大贵之象。英公令秘而不言，果有大变之象。”则天怒，斫英公棺，焚其尸，灰之应也。

江东西山中多有枫木人，于枫树下生，似人形，长三四尺。夜雷雨即长与树齐，见人即缩依旧。曾有人合笠于首，明日看，笠子挂在树头上。早时欲雨，以竹束其头，楔之即雨。人取以为式盘，即神验，枫木枣地是也。

唐河东裴同父患腹痛数年，不可忍，嘱其子曰：“吾死后，必出吾病。”子从之，出得一物，大如鹿条脯，悬之久乾。有客窃之，其坚如骨，削之文彩焕发，遂以为刀靶子佩之。在路放马，抽刀子割三棱草，坐其上，把尽消成水。客怪之，回以问同，同泣，具言之。后病状同者，服三棱草汁多验。

永淳年，岚胜州兔暴，千万为群，食苗并尽，不知何物变化。及暴已，即并失却，莫知何所。异哉！

唐初以来，百姓多事狐神，房中祭祀以乞恩，食饮与人同之，事者非一主。当时有谚曰：“无狐魅，不成村。”

唐国子监助教张简，河南缙氏人也。曾为乡学讲《文选》，有野狐假简形，讲一纸书而去。须臾简至，弟子怪问之，简异曰：“前来者必野狐也。”讲罢归舍，见妹坐络丝，谓简曰：“适煮菜冷，兄来何迟？”简坐，久待不至，乃责其妹，妹曰：“元不见兄来。此必是野狐也，更见即杀之。”明日又来，见妹坐络丝，谓简曰：“鬼魅适向舍后。”简遂持棒，见其妹从厕上出来，遂击之。妹号叫曰：“是儿。”简不信，因击杀之。问络丝者，化为野狐而走。



泉建州进蚺蛇胆，五月五日取。时胆两柱相去五六尺，击蛇头尾，以杖于腹下来扣之，胆即聚。以刀剖取，药封放之。不死复更取，看肋下有痕即放。

唐魏伶为西市丞，养一赤嘴鸟，每于人群中乞钱。人取一文而衔以送伶处，日收数百，时人号为“魏丞鸟”。

剑南鼓蜀间有鸟大如指，五色毕具。有冠似凤，食桐花，每桐结花即来，桐花落即去，不知何之。俗谓之“桐花鸟”，极驯善，止于妇人钗上，客终席不飞。人爱之，无所害也。

真腊国有葛浪山，高万丈，半腹有洞。先有浪鸟，状似老鸱，大如骆驼，人过即攫而食之，腾空而去，百姓苦之。真腊王取大牛肉，中安小剑子，两头尖利，令人戴行，鸟攫而吞之，乃死，无复种矣。

百舌，春啼夏至惟食蚯蚓。正月后冻开，蚓出而来；十月后，蚓藏而往。盖物之相感也。

岭南罗州辩州界内，水中多赤鳖，其大如匙而赫赤色。无问禽兽水牛，入水即被曳深渊，吸血死。或云蛟龙使曳之，不知所以然也。

唐天后中，尚食奉御张恩恭，进牛窟利上蚰蜒，大如箸。天后以玉合贮之，召思恭示曰：“昨窟利上有此，极是毒物。近有鸡食乌百足虫忽死，开腹，中有蚰蜒一抄，诸虫并尽，此物不化。朕昨日以来意恶不能食。”思恭顿首请死，赦免之，与宰夫并流岭南。

唐开元四年，河南北蠹为灾，飞则翳日，大如指，食苗草树叶连根并尽。敕差使与州县相知驱逐，采得一石者与一石粟；一斗，粟亦如之，掘坑埋却。埋一石则十石生，卵大如黍米，厚半寸盖地。浮休子曰：昔文武圣皇帝时，绕京城蝗大起，帝令取而观之，对仗选一大者，祝之曰：“朕刑政乖僻，仁信未孚，当食我心，无害苗稼。”遂吞之。须臾，有鸟如鹞，百万为群，拾蝗一日而尽。此乃精诚所致。天若偶然，则如勿生；天若为厉，埋之滋甚。当明德慎罚，以答天谴，奈何不见福修以攘灾，而欲逼杀以消祸！此宰相姚元崇失掌理之道矣。

炀帝令朱宽征留仇国还，获男女口千余人，并杂物产，与中国多不同。缉木皮为布，甚细白，幅阔三尺二寸。亦有细斑布，幅阔一尺许。又得金荆榴数十斤，木色如真金，密致而文彩盘盛，有如美锦。甚香极精，可以为枕及案面，虽沉檀不能及。彼土无铁，朱宽还至南海郡，留仇中男夫壮者，多加以铁钳锁，恐其道逃叛。还至江都，将见，为解脱之，皆手把钳，叩头惜脱，甚于中土贵金。人形短小，似昆仑。

沧州南皮丞郭务静，性糊涂，与主簿刘思庄宿于逆旅，谓庄曰：“从驾大难。静尝从驾，失家口三日，于侍官幕下讨得之。”庄曰：“公夫人在其中否？”静曰：“若不在中，更论何事！”又谓庄曰：“今大有贼。昨夜二更后，静从外来，有一贼忽从静房内走出。”庄曰：“亡何物？”静曰：“无之。”庄曰：“不亡物，安知其贼？”静曰：“但见其狼狽而走，不免致疑耳。”



孝杰将四十万众，被贼诱退，逼就悬崖，渐渐挨排，一一落间。坑深万丈，尸与崖平，匹马无归，单兵莫返。

俊臣尝以三月三日萃其党于龙门，竖石题朝士姓名以卜之，令投石遥击，倒者则先令告。至暮，投李昭德不中。

突厥破万荣新城，群贼闻之失色，众皆溃散。

韦氏遭则天废庐陵之后，后父韦玄贞与妻女等并流岭南，被首领宁氏大族逼夺其女，不伏，遂杀贞夫妻，七娘等并夺去。及孝和即位，皇后当途，广州都督周仁轨将兵诛宁氏，走入南海。轨追之，杀掠并尽。韦后隔帘拜，以父事之，用为并州长史。后阿韦作逆，轨以党与诛。

琬以谄谀自进，末周年为中书侍郎。其母氏闻之，自洛赴京，戒之曰：“汝徒以谄媚险谀取容，色交自达，朝廷侧目，海内切齿。吾尝恐汝家坟陇无人守之！”琬惭惧，表请侍母。上初大怒，后许之。

紫微舍人倪若水赃至八百贯，因诸王内宴，姚元崇讽之曰：“倪舍人正直，百司嫉之，欲成事，何不为上言之？”诸王入，众共救之，遂释，一无所问。主书赵海受蕃饷一刀子，或直六七百钱，元崇宣敕处死。后有降，崇乃批曰：“别敕处死者，决一百，配流。”大理决赵海一百不死，夜遣给使继杀之。

唐俭事太宗，甚蒙宠遇，每食非俭至不餐。数年后，特憎之，遣谓之曰：“更不须相见，见即欲杀。”隋文帝重高颎，初甚爱，后不愿见，见之则怒。

薛师有巧性，常入宫闱。补阙王求礼上表曰：“太宗时，罗黑能弹琵琶，遂闾为给使，以教官人。今陛下要怀义入内，臣请闾之，庶宫闱不乱。”表寝不出。

少府监裴匪舒，奏卖苑中官马粪，岁得钱二十万贯。刘仁轨曰：“恐后代称唐家卖马粪。”遂寝。

尚书左丞张庶廉子利涉为怀州参军，刺史邓恽曰：“名父出如此物。”

张易之、昌宗目不识字，手不解书，谢表及和御制皆谄附者为之。所进《三教珠英》，乃崔融、张说辈之作，而易之窃名为首。

逆韦诗什并上官昭容所制。昭容，上官仪孙女，博涉经史，研精文笔，班婕妤、左嫔无以加。

贺兰敏之为《封东岳碑》，张昌龄所作也。《刘子》书，咸以为刘勰所撰，乃渤海刘昼所制。昼无位，博学有才，窃取其名，人莫知也。

吏部尚书唐俭与太宗棋，争道。上大怒，出为潭州。蓄怒未泄，谓尉迟敬德曰：“唐俭轻我，我欲杀之，卿为我证验有怨言指斥。”敬德“唯唯”。明日对仗云，敬德顿首曰：“臣实不闻。”频问，确定不移。上怒，碎玉珥于地，奋衣入。良久索食，引三品以上皆入宴，上曰：“敬德今日利益者各有三：唐俭免枉死，朕免枉杀，敬德免曲从，三利也；朕有怒过之美，俭有再生之幸，敬德有忠直之誉，三益也。”赏敬德一千段，群臣皆称“万



岁”。

魏元忠忤二张，出为端州高要尉。二张诛，入为兵部尚书、中书令、左右仆射，不能复直言。古人有言，“妻子具则孝衰，爵禄厚则忠衰。”

三狗俱用，觉魏祚之陵夷；五侯并封，知汉图之圯缺。

太岁在午，人马食土。岁在辰巳，货妻卖子。岁在申酉，乞浆得酒。

唐刘仁轨为左仆射，天下号为“解事仆射”。

唐崔浑御史，性至温恭，能尽色养。父母少不安，辄祈幽灵以身代。母尝有病，浑跪请病授己。有顷，觉疾从十指入，俄而遍身，母所苦遂愈。丁母艰，勺饮不入口，哀毁瘠立。无何，不胜哀而卒，朝野伤之。

周挽郎裴最，于天官试，问目曰：“山陵事毕，各还所司，供葬羽仪，若为处分？”最判曰：“大行皇帝，奉敕升遐，凡是羽仪，皆科官造。即宜贮纳，以待后需。”殿十选。

隋末深州诸葛昂性豪侠，渤海高瓚闻而造之，为设鸡肫而已。瓚小其用，明日大设，屈昂数十人，烹猪羊等长八尺，薄饼阔丈余，裹饧粗如庭柱，盆作酒碗行巡，自为金刚舞以送之。昂至后日屈瓚，屈客数百人，大设，车行酒，马行炙，挫碓斩脍，砑铄蒜齏，唱夜叉歌，师子舞。瓚明日设，烹一奴子十余岁，呈其头颅手足，座客皆攫喉而吐之。昂后日报设，先令爱妾行酒，妾无故笑，昂叱下。须臾蒸此妾坐银盘，仍饰以脂粉，衣以綾罗，遂擘脍肉以啖瓚诸人，皆掩目。昂于奶房间撮肥肉食之，尽饱而止。瓚羞之，夜遁而去。昂富足遭离乱，狂贼来求金宝，无可给，缚于椽上炙杀之。

唐滕王极淫，诸官妻美者，无不尝遍，诈言妃唤，即行无礼。时典签崔简妻郑氏初到，王遣唤，欲不去则怕王之威，去则被王所辱。郑曰：“昔滕怀之妃，不受贼胡之逼，当今清泰，敢行此事邪！”遂入王中门外小阁，王在其中，郑人，欲逼之。郑大叫，左右曰：“王也。”郑曰：“大王岂作如是，必家奴耳。”以一只履击王头破，抓面血流，妃闻而出，郑氏乃得还。王惭，旬日不视事。简每日参候，不敢离门。后王銜坐，简向前谢过，王惭却入，月余日乃出。诸官之妻曾被王唤入者，莫不羞之。其婿问之，无辞以对。

唐垂拱四年，安抚大使狄仁杰檄告西楚霸王项君将校等，略曰：“鸿名不可以谬假，神器不可以力争，应天者膺乐推之名，背时者非见机之主。自祖龙御宇，横噬诸侯，任赵高以当轴，弃蒙恬而齿剑。沙丘拼祸于前，望夷覆灭于后，七庙堕圯，万姓屠原，鸟思静于飞尘，鱼岂安于沸水。赫矣皇汉，受命玄穹，膺赤帝之镇符，当素灵之缺运。俯张地纽，彰凤举之符，仰缉天纲，郁龙兴之兆。而君潜游泽国，啸聚水乡，矜扛鼎之雄，逞拔山之力，莫测天符之所会，不知历数之有归。遂奋关中之翼，竟垂垓下之翅，盖尽由于人事，焉有属于天亡！虽驱百万之兵，终弃八千之子。以为殷鉴，岂不惜哉！当匿魄东峰，收魂北极，岂合虚承庙食，广费牲牢。仁杰受命方隅，循革攸寄，今遣焚燎祠宇，削平台室，使蕙绵销烬，羽帐随烟，君宜速迁，勿为人患。檄到如律令。”遂除项羽庙，余小神并尽，惟会稽禹庙存焉。



唐张狗儿亦名怀庆，爱偷人文章，与冀州枣强尉。才士制述，多翻用之。时为之语曰：“活剥张昌龄，生吞郭正一。”谅不诬也。

俗例，春雷始鸣记其日，计其数满一百八十日，霜必降。又曰雁从北来记其日，后十八日，霜必降。

周舒州刺史张怀肃好食人精，唐左司郎中任正名亦有此病。

周沧州南皮县丞郭务静每巡乡，唤百姓妇托以缝补而奸之。其夫至，缚静鞭数十步。主簿李想往解救之，静羞讳其事，低身答云“忍痛不得”，口唱“阿瘡瘡”，“静不被打，阿瘡瘡”。

唐宜城公主驸马裴巽，有外宠一人，公主遣阍人执之，截其耳鼻，剥其阴皮漫驸马上，并截其发，令厅上判事，集僚吏共观之。驸马、公主一时皆被奏降，公主为郡主，驸马左迁也。

唐开元二年，衡州五月颇有火灾。其时人尽皆见物大如瓮，亦如灯笼，所指之处，寻而火起。百姓咸谓之“火殃”。

内官过武三思宅，三思曲意祗承，恣其所欲。装束少年男子，衣以罗绮，出人行觞，驰驱不食，淫戏忘反，倡荡不归。争称三思之忠节，共誉三思之才贤。外受来娣之奸，内构逆书之衅。

周如意中，洛下有牛三足。

汉发兵用铜虎符。及唐初，为银龟符，以兔子为符瑞故也。又以鲤鱼为符瑞，遂为铜鱼符以珮之。至伪周，武姓也，玄武，龟也，又以铜为龟符。

郴州，古桂阳郡也。有曹泰年八十五，偶少妻生子，名曰曾，日中无影焉，年七十方卒，亲见其孙子具说。道士曹体一即其从孙侄，云的不虚。故知那吉验影不虚也。

唐太宗之代有《秘记》，云唐三代之后，即女主武王代有天下。太宗密召李淳风以询其事，淳风对曰：“臣据玄象推算，其兆已成。然其人已生在陛下宫内，从今不逾四十年，当有天下，诛杀唐氏子孙殆将殄尽。”帝曰：“求而杀之如何？”淳风曰：“天之所命，不可废也。王者不死，虽求恐不可得。且据占已长成，复在宫内，已是陛下眷属。更四十年，又当衰老，老则仁慈，其于陛下子孙或不甚损。今若杀之，即当复生，更四十年，亦堪御天下矣。少壮严毒，杀之为血仇，即陛下子孙无遗类矣。”

裴冕代裴鸿渐秉政，小吏以俸钱文簿白之。冕顾子弟，喜见于色，其嗜财若此。冕性本侈靡，好尚车服，名马数百金铸者十匹。每会客，滋味品数多有不知名者。

成都有丐者诈称落泊衣冠，弊服褴褛，常巡成都市廛，见人即展手希一文，云失坠文书，求官不遂。人皆哀之，为其言语悲嘶，形容憔悴。居于早迁桥侧。后有势家于所居旁起园亭，欲广其池馆，遂强买之。及辟其圭窰，则见两间大屋皆满贮散钱，计数千万，邻里莫有知者。成都人一概呼求事官人为“乞措大”。

唐户部郎侯味虚著《百官本草》。题御史曰：“大热，有毒。”又朱书云：“大热，有



毒，主除邪佞，杜奸回，报冤滞，止淫滥，尤攻贪浊，无大小皆搏之。畿尉薄为之，相畏还使，恶爆直，忌按权豪。出于雍洛州诸县，其外州出者尤可用，日炙乾硬者为良。服之长精神，减姿媚，久服令人冷峭。”

卢夫人，房玄龄妻也。玄龄微时，病且死，诿曰：“吾病革，君年少，不可寡居，善事后人。”卢泣，入帏中，剔一目示玄龄，明无他。会玄龄良愈，礼之终身。

玉英，唐时符凤妻也，尤姝美。凤以罪徙儋州，至南海，为獠贼所杀，胁玉英私之。对曰：“一妇人不足以事众男子，请推一长者。”贼然之，乃请更衣。有顷，盛服立于舟上，骂曰：“受贼辱，不如死。”遂自沉于海。



大唐创业起居注

〔唐〕温大雅 撰

卷 一

起义旗至发引凡四十八日

初，帝自卫尉卿转右骁卫将军，奉诏为太原道安抚大使。郡文武官治能不称职者，并委帝黜陟选补焉。河东已来兵马仍令帝征发，讨捕所部盗贼。隋大业十二年，炀帝之幸楼烦时也。帝以太原黎庶，陶唐旧民，奉使安抚，不逾本封，因私喜此行，以为天授。所经之处，示以宽仁贤智，归心有如影响。

炀帝自楼烦远至雁门，为突厥始毕所围，事甚平城之急。赖太原兵马及帝所征兵声势继进，故得解围，仅而获免。遂向东都，仍幸江都宫。以帝地居外戚，赴难应机，乃诏帝率太原部兵马，与马邑郡守王仁恭北备边朔。帝不得已而行，窃谓人曰：“匈奴为害自，古患之，周秦及汉魏，历代所不能攘，相为劲敌者也。今上甚惮塞虏，远适江滨，反者多于猬毛，群盗所在蜂起。以此击胡，将何以济？天其或者殆以俾余。我当用长策以取之，和亲而使之，令其畏威怀惠，在兹一举。”

既至马邑，帝与仁恭两军兵马不越五千余人，仁恭以兵少甚惧。帝知其意，因谓之曰：“突厥所长，惟恃骑射。见利即前，知难便走，风驰电卷，不恒其阵。以弓矢为爪牙，以甲冑为常服。队不列行，营无定所。逐水草为居室，以羊马为军粮，胜止求财，败无惭色。无警夜巡昼之劳，无构垒馈粮之费。中国兵行，皆反于是。与之角战，罕能立功。今若同其所为，习其所好，彼知无利，自然不来。当今圣主在远，孤城绝援，若不决战，难以图存。”仁恭以帝隋室之近亲，言而诣理，听帝所为，不敢违异。乃简使能骑射者二千余人，饮食居止，一同突厥。随逐水草，远置斥堠。每逢突厥候骑，旁若无人，驰骋射猎，以曜威武。帝尤善射，每见走兽飞禽，发无不中。尝卒与突厥相遇，□骁锐者为别队，皆令持满，以伺其便。突厥每见帝兵，咸谓似其所为，疑其部落。有引帝而战者，常不敢当，辟易而去。如此再三，众心乃安，咸思奋击。帝知众欲决战，突厥畏威，后与相



逢，纵兵击而大破之，获其特勤所乘骏马，斩首数百千级。自尔厥后，突厥丧胆，深服帝之能兵，收其所部，不敢南入。

时有贼帅王漫天别党，众逾数万，自号历山飞。结营于太原之南境上党、西河，京都道路断绝。炀帝后十三年，敕帝为太原留守，仍遣兽贲郎将王威、兽牙郎将高君雅为副。帝遂私窃喜甚，而谓第二子秦王等曰：“唐固吾国，太原即其地焉。今我来斯，是为天与。与而不取，祸将斯及。然历山飞不破，突厥不和，无以经邦济时也。”既而历山飞众数不少，劫掠多年，巧于攻城，勇于力战。南侵上党，已破将军慕容、将军罗侯之兵。北寇太原，又斩将军潘长文首，频胜两将，所向无前。于是帝率王威等，及河东、太原兵马往讨之，于河西雀鼠谷口与贼相遇。贼众二万余人。帝时所统步骑才五六千而已。威及三军，咸有惧色，帝笑而谓威等曰：“此辈群盗，惟财是视。频恃再胜，自许万全。斗力而取，容未能克。以智图之，事无不果。所忧不战，战必破之，幸无忧也。”须臾，贼阵齐来，十许里间，首尾相继。去帝渐近，帝乃分所将兵为二阵。以羸兵居中，多张幡帜，尽以輜重继后，从旌旗鼓角，以为大阵。又以麾下精兵数百骑，分置左右队为小阵。军中莫识所为。及战，帝遣王威领大阵居前，旌旗从。贼众遥看，谓为帝之所在，乃帅精锐，竞来赴威。及见輜馱，舍鞍争取，威怖而落马，从者挽而得脱。帝引小阵左右二队，大呼而前，夹而射之。贼众大乱，因而纵击，所向摧陷，斩级获生，不可胜数。而余贼党老幼男女数万人并来降附。于是郡境无虞，年谷丰稔，感帝恩德，若亢阳之逢膏雨焉。

后突厥知帝已还太原，仁恭独留无援，数侵马邑。帝遣副留守高君雅将兵，与仁恭并力拒之。仁恭等违帝指踪，遂为突厥所败。既而隋主远闻，以帝与仁恭不时捕虏，纵为边患，遂遣司直驰驿，系帝而斩仁恭。帝自以姓名著于图策，太原王者所在，虑被猜忌，因而祸及，颇有所晦。时皇太子在河东，独有秦王侍侧耳，谓王曰：“隋历将尽，吾家继膺符命，不早起兵者，顾尔兄弟未集耳。今遭美里之厄，尔昆季须会盟津之师，不得同受孥戮，家破身亡，为英雄所笑。”王泣而启帝曰：“芒碭山泽，是处容人。请同汉祖，以观时变。”帝曰：“今遇时来，逢兹绸缪。虽睹机变，何能为也。然天命有在，吾应会昌，未必不以此相启。今吾励谨，当敬天之诫，以卜兴亡。自天祐吾，彼焉能害？天必亡我，何所逃刑？”尔后数日，果有诏使驰驿而至，释帝而免仁恭，各依旧检校所部。炀帝之幸江都也，所在路绝。兵马讨捕，来往不通，信使行人，无能自达。惟有使自江都至于太原，不逢劫掠，依程而至，众咸异焉。初，使以夜至太原，温彦将宿于城西门楼上，首先见之。喜其灵速，报兄彦弘，驰以启帝。帝时方卧，闻而惊起，执彦弘手而笑曰：“此后余年，实为天假。”退谓秦王曰：“吾闻惟神也不行而至，不疾而速。此使之行，可谓神也。天其以此使促吾，当见机而作。”雄断英谟，从此遂定。帝素怀济世之略，有经纶天下之心。接待人伦，不限贵贱，一面相遇，十数年不忘。山川冲要，一览便忆。远近承风，咸思托附。仍命皇太子于河东潜结英俊，秦王于晋阳密招豪友。太子及王俱禀圣略，倾财赈施，



卑身下士。逮乎鬻绾博徒，监门厮养，一技可称，一艺可取，与之抗礼，未尝云倦。故得土庶之心，无不至者。

十三岁，岁在丁亥，正月丙子夜，晋阳宫西北有光夜明，自地属天，若大烧火。飞焰炎赫，正当城西龙山上，直指西南，极望竟天。俄而山上当童子寺左右，有紫气如虹，横绝火中，上冲北斗，自一更至三更而火。城上守更人咸见，而莫能辨之，皆不敢道。大业初，帝为楼烦郡守，时有望气者云：“西北乾门有天子气，连太原甚盛。”故隋主于楼烦置宫，以其地当东都西北，因过太原，取龙山风俗道，行幸以厌之云。后又拜代王为郡守以厌之。

二月己丑，马邑军人刘武周杀太守王仁恭，据其郡而自称天子，国号定杨。武周窃知炀帝于楼烦筑宫厌当时之意，故称天子，规以应之。帝闻而叹曰：“顷来群盗遍于天下，攻略郡县，未有自谓王侯者焉。而武周竖子，生于塞上，一朝欻起，轻窃大名。可谓陈涉狐鸣，为沛公驱除者也。”然甚欲因此起兵，难于先发。私谓王威、高君雅等曰：“武周虽无所能，僭称尊号。脱其进入汾源宫，我辈不能剪除，并当灭族矣。”雅大惧，固请集兵。帝察威等情切，谬谓之曰：“待据楼烦，可微为之备。宜示宽闲，以宁所部。”三月丁卯，武周南破楼烦郡，进据汾源宫。帝谓官僚曰：“兵可戒严，城可守备，粮可赈给。三者当今废一不可，须预部分，惟诸公断之。”威等计无所出，拜而请帝曰：“今日太原土庶之命，悬在明公。公以为辞，孰能预此？”帝知众情归己，乃更从容谓之曰：“朝廷命将出师，皆禀节度，未有阃外敢得专之。贼据离宫，自称天子，威福赏罚，随机相时。以此攻城，何城不克？汾源去此数百里间，江都悬隔三千余里。关河襟带，他贼据之。闻奏往来，还期莫测。以要城胶柱之兵，当巨猾豕突之势，咨文人以救火，其可扑灭乎？公等国之爪牙，心如铁石，欲同戮力，以除国难。公家之利，见则须为，俾其无猜，期于报效。所以询议，择善行之，是非惮于治兵，敢辞戎首。”威等对曰：“公之明略，远近备知，地在亲贤，与国休戚。公不竭力，谁尽丹诚？若更逡巡，群情疑骇。”帝若不得已而从之，众皆悦服，欢而听命。帝以王威兼任太原郡丞，为人清恕，令与晋阳宫监裴寂相知检校仓粮，赈给军户口。高君雅尝守高阳，得无失脱，遣巡行城池及捍御器械。以兵马铠仗，战守事机，召募赏罚，军民征发，皆须决于帝。太原左近闻帝部分募兵备边，所在影赴。旬日之顷，少长得数千人。兵司总帐以闻，请安营处。帝指兴国寺曰：“勤王之师，不谋而至，此其兴国者焉。宜于此寺安处。”恐威、雅猜觉，亦不之阅问。私谓秦王等曰：“纪纲三千，足成霸业。处之兴国，可谓嘉名。”仍遣密使往蒲州，催追皇太子等。是月也，朔方郡人梁师都又杀郡官而称天子。初，帝遣兽牙郎将高君雅与马邑守王仁恭防遏突厥，雅违帝旨，失利而还。帝恐炀帝有责，便欲据法绳雅。雅是炀帝旧左右，虑被猜嫌，忍而弗问。雅性庸很，不知惭屈。帝甚得太原内外人心，瞻仰龙颜，疑有异志。每与王威密伺帝隙。有乡长刘龙者，晋阳之富人也。先与宫监裴寂引之谒帝，帝虽知其微细，亦接待之，



以招客。君雅又与龙相善，龙感帝恩，窃知雅等密意，具以启闻。帝谓龙曰：“此辈下愚，暗于时事，同恶违众，必自毙也。然卿能相报，深有至诚。幸勿有多言，我为之所。”

夏五月癸亥夜，帝遣长孙顺德、赵文恪等率兴国寺所集兵五百人，总取秦王部分，伏于晋阳宫城东门之左以备。甲子旦，命晋阳县令刘文静开开府司马刘正会，辞告高君雅、王威等与北蕃私通，引突厥南寇。帝集文武官僚，收威等系狱。丙寅，而突厥数万骑抄逼太原，入自罗郭北门，取东门而出。帝分命裴寂、文静等守备诸门，并令大开，不得辄闭，而城上不张旗帜。守城之人，不许一人外看，亦不得高声，示以不测。众咸莫知所以。仍遣首贼帅王康达率其所部千余人，与志节府鹰扬郎将杨毛等，潜往北门隐处设伏。诫之：“待突厥过尽，抄其马群，拟充军用。”然突厥多，帝登宫城东南楼望之，旦及日中，骑尘不止。康达所部，并是骁锐，勇于抄劫。日可食时，谓贼过尽，出抄其马。突厥前后夹击，埃尘涨天，逼临汾河。康达等无所出力，并坠汾而死，唯杨毛等一二百人浮而得脱。城内兵数无几，已丧千人。军民见此势，私有惧，皆疑王威、君雅召而至焉，恨之愈切。帝神色自若，欢甚于常，顾谓官僚曰：“当今天下贼盗，十室而九，称帝图王，专城据郡。孤荷文皇殊宠，思报厚恩，欲与诸贤立功王室。适欲起兵，威、雅沮众，深相猜忌，密构异谋，欲加之罪。疑其私通境外。岂谓系之二日（甲子是十五日丙寅是十七日），突厥果入太原。此殆天心为孤罚罪，非天意也，何从而至？天既为孤遣来，还应为孤令去。彼若不去，当为诸军遣之，无为虑也。”帝以见兵未多，又失康达之辈，战则众寡非敌，缓恐入掠城外居民。夜设伏兵，出城以据险要。晓令他道而入，若有援来。仍诫出城将士，遥见突厥，则速据险，勿与共战。若知其去，必莫追之。但送出境而还，使之莫测。尔后再宿，突厥达官自相谓曰：“唐公相貌有异，举止不凡，智勇过人，天所与者。前来马邑，我等已大畏之，今在太原，何可当也。且我辈无故远来，他又不与我战，开门待我，我不能入，久而不去，天必瞋我。我以唐公为人，复得天意，出兵要我，尽死不疑。不如早去，无住取死。”己亥夜，潜遁。明旦，城外覩人驰报，帝曰：“我知之矣。”文武官入贺，帝曰：“且莫相贺，当为诸官召而使之。”即立自手疏与突厥书，曰：“何所闻而来，何所见而去，自去自来，岂非天所为也？我知天意，故不遣追。汝知天意，亦须同我。当今隋国丧乱，苍生困穷，若不救济，终为上天所责。我今大举义兵，欲宁天下，远迎主上还。共突厥和亲，更似开皇之时，岂非好事？且今日陛下虽失可汗之意，可汗宁忘高祖之恩也？若能从我，不侵百姓，征伐所得，子女玉帛，皆可汗有之。必以路远，不能深入，见与和通，坐受宝玩，不劳兵马，亦任可汗。一二便宜，任量取中。”仍命封题，署云某启。所司报请云：“突厥不识文字，惟重货财，愿加厚遗，改启为书。”带笑而谓诸者曰：“何不达之深也。自顷离乱，亡命甚多，走胡奔越，书生不少。中国之礼，并在诸夷。我若敬之，彼仍未信。如有轻慢，猜虑愈深。古人云：‘屈于一人之下，伸于万人之上。’塞外群胡，何比拟凡庸之一耳。且启之一字，未直千金。千金尚欲与之，一字何容



有吝。此非卿等所及。”乃遣使者驰驿送启。始毕得书，大喜，其部达官等曰：“我知唐公非常人也，果作异常之事。隋主前在雁门，人马甚众，我辈攻之，竟不敢出。太原兵到，我等畏之若神，皆走还也。天将以太原与唐公，必当平定天下。不如从之，以求宝物。但唐公欲迎隋主，共我和好，此语不好，我不能从。隋主为人，我所知悉，若迎来也，即忌唐公，于我旧怨，决相诛伐。唐公以此唤我，我不能去。唐公自作天子，我则从行，觅大勋赏，不避时热。”当日，即以此意作书报帝。使人往还，不愈七日。使至，前日所贺官僚，舞蹈称庆。帝开书叹息久之，曰：“非有天命，此胡宁岂如此？但孤为人臣，须尽节。主忧臣辱，当未立功，欲举义兵，欲戴王室，大名自署，长恶无君，可谓阶乱之人，非复尊隋之事。本虑兵行以后，突厥南侵，屈节连和，以安居者。不谓今日所报，更相要逼，乍可绝好蕃夷，无有从其所劝。”突厥之报帝书也，谓使人曰：“唐公若从我语，即宜急报，我遣大达官，往取进止。”官僚等以帝辞色凛然，莫敢咨谏。兴国寺兵知帝未从突厥所请，往往偶语曰：“公若更不从突厥，我亦不能从公。”裴寂、刘文静等知此议，以状启闻，帝作色曰：“公等并是隋臣，方来共事，以此劝孤，臣节安在？”裴寂等对曰：“倪使伊、吕得尽诚于桀、纣，即不为汤、武之臣。寂等改以事君，不敢拘于小节。且今士众已集，所乏者马。蕃人未是，急须胡马，待之如渴。若更迟留，恐其有悔。”帝曰：“事不师古，鲜能克成。诸贤宜更三思，以谋其次。”

六月己卯，太子与齐王至自河东，帝欢甚。裴寂等乃因太子、秦王等人启，请依伊尹放太甲，霍光废昌邑故事，废皇帝而立代王，兴义兵以撤郡县，改旗帜以示突厥，师出有名，以辑夷夏。帝曰：“如此所作，可谓掩耳盗铃。事机相迫，不得不尔。虽失意于后主，幸未负于先帝。众议既同，孤何能易。所恨元首丛脞，股肱堕哉。”歉歉不得已。裴寂等曰：“文皇传嗣后主，假权杨素，亡国丧家，其来渐矣。民怨神怒，降兹祸乱。致天之罚，理应其宜。”于是遣使以众议驰报突厥。始毕依旨，即遣其柱国康鞘利、级失、热寒、特勤、达官等，送马千匹来太原交市，仍许遣兵送帝往西京，多少惟命。康鞘利将至，军司以兵起甲子之日，又符纛尚白，请建武王所执白旗，以示突厥。帝曰：“诛纣之旗，牧野临时所仗，永人西郊，无容预执，宜兼以绛，杂半纛之。”诸军稍幡皆放此。营壁城垒，幡旗四合，赤白相映若花园。开皇初，太原童谣云：“法律存，道德在，白旗天子出东海。”常亦云：“白衣天子。”故隋主恒服白衣，每向江都，拟于东海。常修律令，笔削不停，并以彩画五级木坛，自随以事道。又有《桃李子歌》曰：“桃李子，莫浪语，黄鸝绕山飞，宛转花园里。”案：李为国姓，桃当作陶，若言陶唐也。配李而言，故云桃园，宛转属旌幡。汾晋老幼，讴歌在耳。忽睹灵验，不胜欢跃。帝每顾旗幡，笑而言曰：“花园可尔，不知黄鸝如何。吾当一举千里，以符冥谶。”自尔已后，义兵日有千余集焉。二旬之间，众得数万。裴寂等启曰：“义军渐大，宜有司存。官僚所统，须有隶属。”帝曰：“布衣之士，或假名窃位。孤实将军，居唐大字，近舍于此，更欲何求！”裴寂等请进位大



将军，以隆府号，不乖古今，权籍威名。帝曰：“卿以废立相期，欲孤为霍光之任，威在将军，何关大也。必须仍旧，亦任加之，署置府僚长史已下，功次取之，量能受职。”裴寂等又请置诸军并兵士等总号，帝曰：“诸侯三军，春秋所许。孤今霸业，差拟晋文，可作三军，分置左右。谋简统帅，妙选其人。诸军既是义兵，还可呼为义士。昔周武克殷，义士非其薄德。况今未有所克，敢忘义士者乎。”

太原辽山县令高斌廉拒不从命，仍遣使间行往江都，奏帝主兵。炀帝恶李氏据有太原，闻而甚惧。乃敕东都西京，严为备御。西河不时送款。帝曰：“辽山守株，未足为虑。西可绕山之路，当吾行道，不得留之。”六月甲申，乃命大郎、二郎率众取之，除程命赍三日之粮。时文武官人并未署置，军中以次第呼太子、秦王为大郎、二郎焉。临行，帝语二郎曰：“尔等少年，未之更事。先以此郡，观尔所为，人具尔瞻，咸宜勉力。”大郎、二郎跪而对曰：“儿等早蒙弘训，禀教义方，奉以周旋，不敢失坠。家国之事，忠孝在焉。故从严令，事须称旨。如或有违，请选军法。”帝曰：“尔曹能尔，吾复何忧。”于时义师初会，未经讲阅。大郎等虑其不攻，以军法为言。三军闻者，人皆自肃，兵向西河。大郎、二郎在路，一同义士，等其甘苦，齐其休息。风尘警急，身即前行。民间近道，果菜已上，非买不食。义士有窃取者，即遣求主为还价，亦不诘所窃之人。路左有长老或进蔬食壶浆者，重伤其意，共所见军人等同分，未尝独受。如有牛酒馈遗，案舆来者，劳而遣之曰：“此隋法也，吾不敢。”颇虑前人有限，遂为终日不食以谢之。于是将士见而感悦，人百其勇。至西河城下，大郎、二郎不甲，亲往喻之。城外欲入城，人无间男女大小，并皆放入。城内既见义军宽容至此，感恩奔赴，唯有郡丞高德儒执迷不反。己丑，以兵临之，飞梯才进，众皆争上。郡司法书佐朱知瑾等从城上引兵而入，执德儒以送军门。德儒即隋之见鸢人也，大郎、二郎等数之曰：“卿逢野鸟，谬道见鸢。佞惑隋侯，以为祥瑞。赵高指鹿为马，何相似哉。义兵今奖王室，理无不杀赵高之辈。”仍命斩焉。自外不戮一人，秋毫不犯。往还九日，西河遂定。师归，帝闻喜曰：“以此用兵，天下横行可也。”是日，即定入关之策。癸巳，以世子为陇西公，为左领军大都督，左三统军等隶焉。二郎为敦煌公，为右领军大都督，右三统军等隶焉。世子仍为太原郡守，命裴寂、刘文静为大将军府长史、司马。以殷开山、刘正会、温大雅、唐俭、权弘寿、卢阶、思德平、武士彠等为掾属、记室、参佐等官，以鹰扬王长阶、姜宝谊、扬毛、京兆长孙顺德、窦琮、刘弘基等分为左右统军、副统军。自外文武职员，随才铨用。

其平旦，有僧俗姓李氏，获白雀而献之。至日未时，又有白雀来止帝牙前树上，左右复捕获焉。明旦，有紫云见于天，当帝所坐处，移时不去。既而欲散，变为五色，皆若龙兽之象。如此三朝，百姓咸见，文武谒贺，帝皆抑而不受。丙申，突厥柱国康鞘利等并马而至，舍之于城东兴国玄坛。鞘利见老君尊容皆拜。道士贾昂见而谓同郡温彦将曰：“突厥来诣唐公，而先谒老君，可谓不失尊卑之次。非天所遣，此辈宁知礼乎？”丁酉，帝引



康鞘利等，礼见于晋阳宫东门之侧舍，受始毕所送书信。帝伪貌恭，厚加餽贿，鞘利等大悦。退相谓曰：“唐公见我蕃人，尚能屈意，见诸华夏，情何可论。敬人者，人皆敬爱。天下敬爱，必为人主。我等见之，人不觉自敬。”从此以后，帝每见，鞘利等愈加敬畏，不失蕃臣之礼。其马千匹，唯市好者而取其半。义士等咸自出物，请悉买之。帝曰：“彼马如羊，方来不已，吾恐尔辈不能买之。胡人贪利，无厌其欲，少买，且以见贫，示其非急于马。吾当共之贡市，不用尔物，毋为迫役，自费家财。”

已而，高阳郡灵寿贼帅郝士陵，以其党数千人款附，即授镇东将军，封燕郡公，仍置镇东府，具补僚属，以招抚山东郡县。乙巳，康鞘利等还蕃，乃命司马刘文静报，使并取其兵。静辞，帝私诫之曰：“胡兵相送，天所遣来，敬烦天心，欲存民命。突厥多来，民无存理。数百之外，无所用之。所防之者，恐武周引为边患。又胡马牧放，不烦粟草。取其声势，以怀远人。公宜体之，不须多也。”

卷 二

起自太原至京城凡一百二十六日

秋七月，壬子，以四郎元吉为太原郡守，留守晋阳宫，文武后事并委焉。义师欲西入关，移营于武德南。癸丑，将引帝立军门，仗白旗而大号誓众，文曰：“夫天地定位，否泰迭其盛衰。日月著明，亏盈贬其贞满。惟神莫测，尚乃盈虚，矧兹王道，能无悔吝。克先帝世，炎汉周商，拨乱乘乾，多历年所。厥嗣坠绪，时属艰危，则其股肱宰衡，藩屏亲戚，戮力同奖，推心翼戴。颠或可扶，纠合而奔，官守恶不可救，废放而安宗社。伊、霍、桓、文，并其人也。率尔踵武，代有其事，布在方策，可得而言。日者苍精云谢，炎运将启，上天眷命，属乎隋室。于是我高祖文皇帝，以后父之尊，周亲人相。豹变陝左，龙飞汉东，诛尉迥于韩魏，则神征遏响。剿王谦于巴蜀，则灵山斯降。四罪咸服，九有乐推，经纶帷幄之间，揖让岩廊之内。造我区夏，不更期月。舜、禹以来，受终未有如斯之易者。以故临朝恭己，庶绩为心，亲览万机，平章百姓。兢兢慎于馭朽，翼翼惧于烹鲜。齐六合为一家，等黔黎于赤子。有陈不率，殄虐政于江湖。獯丑相屠，降封虜于沙漠。其吊民也如彼，其和戎也若兹。散马牛于山林，铸剑戟为农器。求瘼恤隐，讼息刑清。轻徭薄赋，家给人足。仓库流衍于里闾，职贡委输于帑藏。岂独水衡贯朽，常平粟红而已哉。加以爱民治国，节用而敦本。深根固蒂，因河而践华。肆觐朝宗，止于京邑。玄览纵观，弗逾岐下。遐迩叶和，内外提福。凯泽洋溢，休祥绍至。一世之氓，咸赖仁寿。二纪之治，可谓隆平。扬往初，历选前辟。诗书所美，莫之能尚。然圣人千虑，失于知子。以正万国，轻易元良。废守器之长，立不才之庶。兆乱之萌，于是乎在。异哉今上之行己也，独智自贤，安忍忌刻。拓狂悖为混沌，苟鸩毒为恣睢。饰非好佞，拒谏信谗。敌怨诚良，



仇饕骨肉。巡幸无度，穷兵极武。喜怒不恒，亲离众叛。御河导洛，肆舳舻而达江。驰道缘边，径长城百傍海。离宫别馆之所在，车辙马迹之所向，咸塹山而堙谷，毕结瑶而构琼。辽水屡征，歼丁壮于亿兆。伊谷转输，毙老幼于百万。禽荒罄于飞走，蚕食穷于水陆，征税尽于重敛，民力殫于劳止。十分天下，九为盗贼。荆棘旅于阙廷，豺狼充于道路。带牛佩犊，辍耕者连孤竹而寇潢池，锄耰棘矜，大呼者聚萑蒲而起芒泽。青羌白狄，剿夷道而□□黄巾赤眉，屠闾左而窃号。曝骸如莽，僵尸若麻。敌国满画鹳之舟，胡越绕和鸾之毂。四海波振而冰泮，五岳尘飞而土崩。踞积薪以待然，钳众口而寄坐。明明皇祖，貽厥无人。赫赫宗隋，灭为亡国。某以庸愚，谬蒙嘉惠。承七叶之余庆，资五世之克昌。遂得地臣戚里，家称公室。典卫之禁兵，守封唐之大宇。义无坐观，绥旒之绝，不举勤王之师。苟利社稷，专之可也。废昏立明，敢遵故实。今便兴甲晋阳，奉尊代邸。扫定咸洛，集宁寓县。放后主于江都，复先帝之鸿绩。固配天于园寝，存司牧于苍生。岂谓一朝，言及于此。事不获己，追增感歎。凡厥士民，义旅豪杰。敏究时难，晓达权谋。家怨国耻，雪乎今日。从我同盟，无为贰志。有渝此盟，神其殛之。”仍命以此誓辞，檄喻所在郡县，并命檄书勿得因御妄论军势。

帝性简质，大度豁如，前代自矜远嫌之事，皆以恕实行之，不为欺诌，自然反经合义，妙尽机权，类皆如此。其义士等，各以名到先后为次第，泛加宣惠、绥德二尉官。帝谓行之等曰：“吾特为此官，示宣行惠，知绥抚以德。使远者知有征无战，见我心焉。”是夕，次于清源，牧马置营，皆据高险。老弱樵采，丁壮休息，虞侯覘守之地，飞鸟不通，勿论人也。帝乃将世子及敦煌公等，率家僮十数，巡行营幕。次比器仗精粗，坐卧饮食，粮粟升斗，马驴饥饱，逮乎仆隶，皆亲阅之。如有不周，即令从人借助，亦不责所属典司。顾谓二儿曰：“天下神器，圣人大宝，非符命所属，大功济世，不可妄居。所以纳谏试艰，虞登帝位；栉风沐雨，夏会诸侯。自时厥后，庸困众庶。启基创业，未有无功而得帝王者也。吾生自公宫，长于贵戚，牧州典郡，少年所为，晏乐从容，欢娱事极。饥寒贱役，见而未经，险阻艰难，闻而不冒。在兹行也，并欲备尝。如弗躬亲，恐违天旨。尔等从吾，勿欲懈怠。今欲不言而治，故无所尤，庶愚者悦我宽容，智者惭而改过。”世子及敦煌公请曰：“经纶机务，一日万端，取决英谟。四方辐辏，麾下驱驰，儿等承之。自余常事，请付司存。巨细以闻，恐疲神思。又虑将佐等不被委任，颇以自疑。”帝曰：“是何言欤？是何言欤？华夷不附，爵赏不行，吾之责也。摧锋蹈刃，斩将搴旗，尔之务也。深沟高垒，谈笑从容，将吏之逸也。吾忧责尔，急于务逸乐，推下功名与之，贤自当内省，不贤吾无所愧。然晋阳从我，可谓同心之人，俱非致命之士。汉初，有萧曹，而无尔辈，今我有尔辈，而无萧曹。天道平分，乃复如是。行矣自爱，吾知尔怀。”自是以后，记室奉命宣旨称教，部伍间事，给付一物，军书羽檄，赏罚科条，接抚初附，慰悦远近，帝或口陈事绪，手疏意谓，发言折中，下笔当理，非奉进旨，所司莫能裁答。义旗之下，每日



千有余人，请赏论勋，告冤申屈，附文希旨，百计千端，来众如云，观者如堵。帝处断若流，尝无疑滞。人人得所，咸尽欢心。皆叹神明，谓为天下主也。

壬寅，遣通议大夫张纶等率师经略稽胡、离石、龙泉、文成等诸郡。丙辰，至于西河，引见民庶等，礼敬耆老，哀抚茆独，赈贷穷困，擢任贤能，平章狱讼。日昃而罢，罔有所遗。顾谓左右曰：“向之五条，惶皇要道，聪明文思，以之建极，孤所以自强不息，为义兵之先声也。”仍自注授老人七十已上通议、朝请、朝散三大夫等官，教曰：“乞言将智，事属高年，毫厘杖乡，礼宜优异。老人等年余七十，匍匐垒壁，见我义旗，欢逾击壤。筋力之礼，知不可为，肉帛之资，虑其多阙。式加荣秩，以周其养。节级并如前授。”自外当土豪，以资除授各有差。官之大小，并帝自手注，量才叙效，咸得厥宜。口问功能，笔不停辍，所司唯给告身而已，尔后遂为恒式。帝特善书，工而且疾，真草自如，不拘常体，而草迹韶媚可爱。尝一日注授千许人官，更案遇得好纸，走笔若飞，食顷而讫。得官人等不敢取告符，乞宝神笔之迹，遂各分所授官名而去。

乙丑，张纶等下离石郡，其太守杨子崇为乱兵所害。崇即后主从弟也，颇有学识性理，帝甚惜之。崇性怯而无谋，故及于难。人自雀鼠谷，次于灵石县。壬戌，霖雨甚，顿营于贾胡堡。去霍邑五十里，此县西北抗汾水，东拒霍太山，守险之冲，是为襟带。西京留守代王，遣骁将兽牙郎将宋老生，率精兵二万拒守。又遣左武侯大将军屈突通，将辽东兵及骁果等数万余人据河东，与老生相影响。仍命临汾以东诸郡，所在军民城守，并随便受老生、屈突等征发。帝闻而笑曰：“亿兆离心，此何为也。老生乳臭，未知师老之谋。屈突胆薄，尝无曲突之虑。自防轻敌，二子有之。阍外相时，俱非其事。且屈突尝破玄感，时人谓其能兵。老生数胜群盗，自许堪当敌。无识之徒，因相谄附，谓其必能制我，不遣援兵。我若缓以持之，彼必以吾为怯。出其不意，不过一两月间，并当擒之。吾无忧也。”于时秋霖未止，道路泥深。帝乃命府佐沈叔安、崔善为等，间遣羸兵往太原，更运一月粮，以待开霁。

甲子，有白衣野老，自云霍太山遣来，诣帝请谒。帝弘达至理，不语神怪，逮乎佛道，亦以致疑，未之深信。门人不敢以闻，此老乃伺帝行营，路左拜见。帝戏谓之曰：“神本不测，卿何得见？卿非神类，岂其神言？”野老对曰：“某事山祠，山中闻语：‘遣语大唐皇帝云：若往霍邑，宜东南傍山取路，八月初雨止，我当为帝破之，可为吾立祠庙也。’帝试遣案行，傍山向霍邑，道路虽峻，兵枉行而城中不见。若取大路，去县十里，城上人即遥见兵来。”帝曰：“行逢滞雨，人多疲湿，甲仗非精，何可令人远见？且欲用权谲，难为之巧，山神示吾此路，可谓指踪。雨霁有征，吾从神也。然此神不欺赵襄子，亦应无负于孤。”顾左右笑以为乐。丙寅，突厥始毕使达官、级失、特勤等先报，已遣兵马上道，计日当至。帝曰：地名贾胡，知胡将至。天其假吾此胡，以成王业也。”

己巳，荥阳贼帅李密遣使送款致书，请与帝合从。帝大悦，谓大郎、二郎等曰：“杰



贼南柔，强胡北附，所忧此辈，今并归心。主上志在过江，京都忧死不暇，天下可传檄而定。何乐如之。”初，李密与杨玄感同逆，感诛而密亡命，投东郡贼帅翟让。让知密是蒲山公之子，颇读《汉书》，纳而礼之，推为谋主。密以百姓饥弊，说来据洛口仓，屯守武牢之险。密自复旧封为魏公，号翟让为司徒公。让所部兵，并齐济间渔猎之手，善用长枪。华骝、龙厖、细马所向江都者，多为让所劫。故其兵锐于他贼，加以密是逃刑之人，同守冲要隋主以李氏当王，又有桃李之歌，谓密应于符谶，故不敢西顾，尤加惮之。密虽为让所推，恐其图己，恭俭自励，布衣蔬食。所居之室，积书而已。子女珍玩，一无所取。赈贷贫乏，敬礼宾客。故河汴间绝粮之士多往依之。密又形仪眇小，让弗之忌，遂谋杀让，而并其众。密以炀帝不来，翟让已死，坐对敖仓，便有自矜之志。作书与帝，以天下为己任，屡有大言（其书多不录），大略云：欲帝为盟津之会，殪商辛于牧野，执子婴于咸阳。其旨以杀后主，执代王为意。帝览书抵掌，谓所亲曰：“密夸诞不达天命，适所以为吾拒东都之兵，守成皋之阨更觅韩、彭，莫如用密。宜卑辞推奖，以骄其志，使其不虞。于我得入关，据蒲津而屯永丰，阻崤函而临伊洛。东看群贼鹬蚌之势，吾然后为秦人之渔父矣。”记室承旨，报密书曰：“顷者昆山火烈，海水群飞，赤县丘墟，黔黎涂炭。布衣戍卒，耒耨棘矜，争帝图王，狐鸣蜂起。翼翼京洛，强弩围城。阡陌周原，僵尸满路。主上南巡，泛胶舟而忘返。匈奴北炽，将被发于伊川。辇上无虞，群下结舌。大盗移国，莫之敢指。忽焉至此，自贻伊戚，七百年之基，穷于二世。周齐以往，书契以还，邦国沦胥，未有如斯之酷者也。则我高祖之业，几坠于地。吾虽庸劣，幸承余绪，出为八使，入典八屯，位未为高，足成非贱。素餐当世，愧俊叨荣。从容平、勃之间，谁云不可。但颠而不扶，通贤所责。主忧臣辱，无义徒然。等袁公而流涕，极贾生之恸哭。所以仗旗投袂，大会义兵，缓抚河朔，和亲蕃塞。共匡天下，志在尊隋。以弟见机而作，一日千里，鸡鸣起舞，豹变先鞭。御宇当涂，聿来中土。兵临郑郛，将观周鼎。营屯敖仓，酷似汉王。前遣简书，屈为唇齿。今辱来旨，莫我肯顾。天生蒸民，必有司牧，当今为牧，非子而谁？老夫年逾知命，愿不及此。欣戴大弟，攀鳞附翼。惟冀早膺图篆，以宁兆庶。宗盟之长，属籍见容。复封于唐，斯荣足矣。殪商辛于牧野，所不忍言。执子婴于咸阳，非敢闻命。汾晋左右，尚须安辑，盟津之会，未暇卜期。今日銮舆南幸，恐同永嘉之势。顾此中原，鞠为茂草，兴言感叹，实疚于怀。脱知动静，迟数贻报。未面虚襟，用增劳轸。名利之地，锋镝纵横。深慎垂堂，勉兹鸿业。”密得帝书甚悦，示其部下曰：“唐公见推，天下不足定也。”遂注意东都，无心外略。

刘文静之使蕃也来迟，而突厥兵马未至，时有流言者云：“突厥欲与武周南人，乘虚掩袭太原。”帝集文武官人及大郎、二郎等，而谓之曰：“以天赞我而言，应无此势。以人事见机而发，无有不为。此行遣吾当突厥、武周之地，何有不来之理。诸公意谓何？”议者以老生突厥相去不遥，李密满班，奸谋难测。突厥见利则行，武周事胡者也。太原一都



之会，义兵家属在焉。愚夫所虑，伏听教旨。帝顾谓大郎、二郎等曰：“尔辈如何？”对曰：“武周位极而志满，突厥少信而贪利，外虽相附，内实相猜。突厥必欲远离太原，宁肯亡马邑，武周悉其此势，必未同谋。又朝廷既闻唐国举兵，忧虞不暇，京都留守，特畏义旗，所以骁将精兵，鳞次在近。今若却还，诸军不知其故，更相恐动，必有变生。营之内外皆为劲敌。于是突厥，武周不谋同至，老生、屈突追奔竞来，进阙面南，退穷自北。还无所入，往无所之。畏溺先沉，近于斯矣。且今来禾菽被野，人马无忧，坐足有粮，行即得众。李密恋于仓米，未遑远略。老生轻躁，破之不疑。定业取威，在兹一决。诸人保家爱命，所谓言之者也。儿等捐躯力战，可谓行之者也。耕织自有其人，请无他问。雨罢进军，若不杀老生而取霍邑，儿等敢以死谢。”帝喜曰：“尔谋得之，吾其决矣。三占从二，何籍輿言。懦夫之徒，几败乃公事耳。”丙子，太原运粮人等至。八月己卯，霖止。帝指霍太山而言曰：“此神之语，信而有征。封内名山，礼许诸侯有事。”乃命所部乡人设祠致祭焉。庚辰，命诸军曝行装，整铠仗。辛巳，旦，发引，取傍山道而趋霍邑，七十余里。初行，雾甚，俄而秋景澄明。帝谓大郎、二郎曰：“今日之行，在卿两将。景色如此，天似为人。唯恐老生怯而不战，闭门城守。其若之何？”大郎、二郎启帝曰：“老生出自寒微，勇而无智，讨捕小盗，颇有名声。今来居此，必当大蒙赏劳。若不出战，死在不疑。轻骑挑之，无忧不出。如其固守，便可诬其相引，谬为诚节。彼无识解，不知远大，为其左右体悉凡庸群小，相猜自成疑阻。无妨密相表奏，不废传首京都。小慧之人，思此解事，以此量之，来战不惑。”帝曰：“老生不能逆战贾胡，吾知无能可为也。尔等筹之，妙尽其实。”是日未时，帝将麾下左右轻骑数百，先到霍邑城东，去五六里，以待步兵至。方欲下营，且遣大郎、二郎各将数十骑逼其城，行视战地。帝分所将人为十数队，巡其城东南而向西南，往往指麾，似若安营而攻城者，仍遣殷开山急追马步等后军。老生在城上，遥见后军欲来，真直谓逼其城置营。乃从南门、东门两道引兵而出，众将三万许人。帝虑其背城不肯远斗，乃部勒所将骑兵马左右军，大郎领左军，拟屯其东门，二郎将右军，拟断其南门之路。仍命小缩，伪若避之。既而老生见帝兵却，谓为畏己，果引兵更前，去城里余而阵。殷开山等所追步兵，前军统列方阵，以当老生中军，后军相续而至。未及战，帝命大郎、二郎依前部分，驰而向门。义兵齐呼而前，红尘暗合，鼓未及动，锋刃已交，响若山崩，城楼皆振。帝乃传言已斩宋老生，所部众闻而大乱，舍仗而走，争奔所出之门，门已大郎、二郎先所屯守，悬门不发。老生取入不得，城上人下绳引之，老生攀绳欲上，去地丈余，军头卢君谔所部人等，跳跃及而斩之，传首诣帝。于是兵随所向奋击，禁不可止。数里之间，血流蔽地，僵尸相枕。日欲将落，帝见战士心锐，仍命登城。时无攻具，肉薄而上。自申至酉，遂平霍邑。帝视战地，怆然谓左右曰：“河东已来，孤之所使，百姓见义旗有诚节。老生所逼，至于涂炭。乱兵之下，善恶不分，火烧崑山，谁论玉石。无妨死人之内，大有赤心于我者也。取来不得，及此战亡，生未被知，没有余



恨，静而思之，良深痛惜。从今已去，当以文德来之，不复用兵戈矣。其破霍邑，攻战人等有勋者，并依格受赏。”事不逾日，惟有徒隶一色，勋司疑请，教曰：“义兵取人，山藏海纳，逮乎徒隶，亦无弃者。及著勋绩，所司致疑，览其所请，可为太息。岂有矢石之间，不辩贵贱，庸勋之次，便有等差。以此论功，将何以劝。黥而为王，亦何妨也。赏宜从重，吾其与之。诸部曲及徒隶征战有功勋者，并从本色授勋。”

壬午，帝引霍邑城内老生文武长幼见而劳之曰：“老生之外，孤无所咎。纵卿不诚于孤，亦当以赤心相仰。”乃节级授官，与元从人齐等。其丁壮胜兵者，即遣从军，配左右领军大都督，还取其同色同党，自相统处之，不为疑异。俘降之徒，不胜喜跃，欣若再生。其有关中人欲还者，即授五品散官放还。内外咸悦，咸思报效。仍命葬宋老生以本官之礼。自是以后，未归附者，无问乡村堡坞，贤愚贵贱，咸遣书招慰之，无有不至。其来诣军者，帝并节级授朝散大夫以上官。至于逸民道士，亦请效力。教曰：“义旗拔乱，庶品来苏，类聚群分，无思不至。乃有出自青溪，远辞丹灶。就人间而齐物，从戎马以同尘。咸愿解巾，负兹羁鞅。虽欲勿用，重违其请。逸民道士等，诚有可嘉，并依前授。”人或以授官太高谏帝者，帝曰：“不吝爵赏，汉氏以兴。比屋可封，唐之盛德。吾方稽古，敢不遵行。天下之利，义无独独。率土皆贵于我，岂不益尊乎？且皇隋败坏，各归于此。雁门解围之效，东都援台之勋，在难即许授大夫，免祸则惟加小尉。所以士无斗志，将有惰心。版荡分崩，至于今日。覆车明鉴，谁敢效尤。然亦使外寇覬觐之徒，尝授无过此也。又加官慰抚，何如用兵杀戮？好生任赏，吾觉其优。当以不日而定天下，非卿等小见所及。”丙戌，入临汾郡，劳抚任用郡内官民，一如霍邑。庚寅，宿于绛郡西北之鼓山。此山帝为讨捕大使时旧停营所，故逗而宿焉。去绛十余里，绛城不下。是日晓，鼓山西北有大浮云，色或紫或赤，似华盖楼阙之形。须臾，有暴风吹来，向营而临帝所居帐上。帝指绛城而谓傍侍曰：“风云如此见从，彼何不达之甚。”仍命厨人，明日下城而后进食。辛卯，帝观兵于绛城，将士等争欲先登，因而纵上。自卯及巳，遂取之。而食于正平县令李安远之宅。通守陈叔达已下，面缚请罪，并舍而不同，待之如初。余依临汾郡部分。

癸巳，至于龙门县。刘文静、康鞘利等来自北蕃。突厥五百人，马二千疋，从鞘利等至。帝喜其兵少而来迟，藉之以关陇，谓刘文静曰：“吾已及河，突厥始至。马多人少，甚愜本怀。”先是帝使时，于此县界见河水清，皇太子又于此界获玄狐。于县西南宴见鞘利，并与县内道俗等叙旧极欢。丙申，至汾阴。遣书招冯翊贼帅孙毕，华所部强兵至于数千，积年劫掠，非常富实，涑水以北，莫敢当之。帝书到，华喜而从命。己亥，进营，停于壶口。分遣诸军，问津水滨之人，具舟争进，日有数之。翠石丹文，天然映彻，上方下锐，宛若龟形。神工器物，见者咸惊奇异。帝初弗之信也，乃令水渍磨以验之，所司浸而经宿，久磨其字，愈更鲜明。于是内外毕贺，帝曰：“上天明命，赐以万吉。恭承休祉，须安万方。孤以寡德，宁堪预此。既为人下，不容以之颂告。宜以少牢祀石龟，而爵送龟



人，用彰休庆。”是日，又有获嘉禾而献者，教曰：“嘉禾为瑞，闻诸往策。逮乎唐氏，世有兹祥。放勋获之于前，叔虞得之于后。孤今纠合，复逢灵贶，出自兴平，来因善乐，休徵伟兆，何其美与。顾循虚薄，未堪当此。呈形之处，须表天休。送嘉禾人兴平孔善乐，宜授朝散大夫，以旌嘉应。”壬寅，孙华率其腹心轻骑数十，至自郃阳。华年余弱冠，言容质直。帝见而轻之，华每殷勤诚款，请先立效。帝乃厚加抚遇，甚得其情。帝曰：“卿能渡河，远来相见，吾当贵卿，不减邓仲华也。关中卿辈不少，名并劣卿，卿今率先从我，群雄当相继而至。”于是拜华左光禄大夫，封武乡县公，加冯翊郡守。从其来者，仍委华以次授官，颁赐各有差。仍命华先济，为西道主人，华大悦而去。仍命左右绕军王长谐、刘弘基，并左领军大都督府长史陈演寿等，率师次华而渡，据河西岸以待大兵。

九月乙卯，张绁自离石道下龙泉、文城等郡，获文城太守莘公郑元璋，送焉。帝见元璋，释而遣之。初，王长谐、刘弘基、陈演寿之济河也，帝诫之曰：“屈突通今在河东，精兵不少，相去五十余里而不敢来，足验人情不为之用。然通虽不武，久在戎行，守法惧罪，终无坐位。不妨伺便时相邀袭，宜为之备，以折要冲。通若不入关，河东自然归我，分兵向彼，我即击其河东。通若全兵守城，卿其绝其桥道，可谓前扼其喉，后抚其背，首尾相救，非通所堪。若不走之，必成擒矣。吾且按兵观其进退。”至是，通闻孙华导长谐等渡河，果遣兽牙郎将桑显和，率骁果精骑数千人，夜驰掩袭长谐等军营。谐及孙华等奉教备预，故并觉之，伺和赴营，设伏分击，应时摧散。追奔至于饮马泉，斩首获生，略以千计。显和走入河东城，仅以身免。仍撤断蒲津桥。帝闻而谓官属曰：“屈突遣兵此行，事不获已。今若进逼围之，必不敢出。使刘弘基、孙华等至关门，断其行路，然后吾于壶口朝服济河。‘利涉大川’，斯之谓矣。”戊午，帝亲率诸军围河东郡，分遣大郎、二郎、长史裴寂，勒兵各守一面。帝登城东原上，西望城内所为，屈突果不敢出兵，闭门自守，城高甚峻，不易可攻。帝观义士等志，试遣登之。南面千余人，应时而上。时值雨甚，帝命旋师。军人既得上城，遂不时速下。帝曰：“屈突宿卫旧人，解安阵队，野战非其所长，婴城善为捍御。我师常胜，人必轻之，骁锐先登，恐无还路。今且示威而已，未是攻城之时。杀人得城，如何可用？”乃还。命诸将移营河渚，文武佐佑等已下定河北。众数十万。今欲入关，请兼置公府，观领太尉，增选僚属。帝曰：“兵临蒲坂，诸君欲以舜职见推，此意可知，未烦如此。必为僚属增府，任从便宜加置。”于是复领太尉。

丙辰，冯翊太守萧造率官属举郡归义。相继有华阴县令李孝常据永丰仓，遣子弟妹夫窦轨等送款，仍便应接河西关上兵马。又京兆万年、醴泉等诸县，皆遣使至。帝曰：“吾未济者，正须此耳。今既事办，可以济乎？”乃命所司以少牢祀河。庚申，率诸军以次而渡。甲子，舍于朝邑长春宫。三秦士庶衣冠子弟，郡县长吏豪族，弟兄老幼，相携来者如市。帝皆引见，亲劳问，仍节级授官，教曰：“义旗济河，关中响应。轘门辐凑，赴者如归。五陵豪杰，三辅冠盖，公卿将相之绪余，侠少良家之子弟，从吾投刺，咸畏后时。扼



腕连镞，争取立效。廉之好爵，以永今朝。”于是秦人大悦，更相语曰：“真吾主也，来何晚哉。”咸愿先驱，以死自效。丙寅，遣世子陇西公将司马刘文静、统军王长谐、姜宝谊、宝琼诸军数万人，屯永丰仓，守潼关，备他盗，尉抚使人窦轨等受节度焉。遣敦煌公率统军刘弘基、长孙顺德、杨毛等诸军数万人，往高陵道，定泾阳、云阳、武功、豳屋、鄂诸县等，慰抚使人掾殷开山等受节度焉。

先是，帝从弟赵兴公神通起兵郿县，有众数千，闻义旗渡河，遣使迎帝。又贼帅李仲文遣兄仲威送款，仲文则魏公密之从父也。以密反于荥阳，缘坐亡命，招集无赖，抄劫郿县之间，众将四五千。豳屋贼帅何潘儿、向善志等，亦各率众数千归附。宜君贼帅刘旻、又率其党数千人降。帝并以不次封，遣书劳之，仍令各于当界率众，便受敦煌公部署。旬日间，京兆诸贼四面而至，相继归义，罔有所遗。商农工贾，各安其业。京城留守代王，及尚书卫文升、将军阴世师、京兆丞骨仪等，以帝威德遐振，民愿所从，恐京邑之人一旦去尽，乃闭门拒守，运粮入宫。帝闻而叹曰：“吾既平戎于王，冀尊隋室，欲立孺子以报高皇。今被见疑，拒不相纳，方知邵爽不悦于周旦，非徒言耳。阴卫、群小，负我之深。”己巳，帝之蒲津，观河东城。庚午，南过永丰仓。是夜，宿于临晋涿、渭合流之处，将渡渭津，人以见船朽破，不堪帝渡，乃于涿水上流数十里，更取好船。苦于水浅，沙磧相次，船行不进，忧怖不知所为。其夜三更，天甚晴弄，忽然觉水暴长数尺，逆流而上，船泛深波，得达津次，及明，帝登船欲渡，乃见逆流不已。津司以闻，众咸骇异，以为光武渚沱之水，无以异此，并于舟中拜贺。帝曰：“此偶然耳，吾何德以堪之。”乃命所司以少牢祀涿、渭，并有事于华山。

帝至仓所劳军，见箱廩填实，铭题数多，喜谓从者曰：“千里远来，急于此耳。此既入手，余复何论。食之与兵，今时且足，信出于己，行之已久，诸将俱谨备守，无为他虑。”未下马，仍开仓大赈饥民。辛未，还宫。壬申，进屯冯翊郡，过旧宅，饷告五庙，礼也。初，周齐战争之始，周太祖数往同州，侍从达官，随便各给田宅。景皇帝与隋太祖并家于州治。隋太祖宅在州城东南，西临大路。景皇帝宅居州城西北，而面涿水。东西相望，二里之间，数十年中，两宅俱出受命之主。相继代兴，时人所见，开辟已来，未之有也。

乙亥，敦煌公至豳屋，所过诸县及诸贼界，莫不风驰草靡，裹粮卷甲，唯命是从。遣使启帝，请期日赴京。帝曰：“屈突东行不可，西归无路，观吾成败，方有所之，不可为虞矣。”乃命龙西公量筒仓，上精兵，自新丰道趋长乐离宫。令敦煌公率新附诸军，自郿县道屯长安故城。至，并各听教。追上郡雕阴以北，咸遣使归款。丙子，大军西引，历下邽，过栎阳，路左所有炀帝行宫、园苑及宫人等，并罢之。教曰：“大业已来，巡幸过度，宿止之处，好依山水。经兹胜地，每起离宫，峻宇雕墙，亟成壮丽。良家子女，充仞其间。怨旷感于幽冥，靡费极于民产。替否迭进，将何纠劾。驰道所有宫室，愁宜罢之。其



宫人等并放还亲属。”

冬十月辛巳，帝至灊上，仍进营，停于大兴城春明门之西北，与陇西、敦煌等二公诸军二十余万众会焉。帝勒诸军各依垒壁，勿入村居，无为侵暴，若无兵者，恭以俟命。代王与留守卫文升、阴世师等，以义兵多而且肃，不令而齐，门防转严，拒守愈固，信使不通，告喻事绝。帝虽每遣使至城下，申以尊隋夹辅之意，愚人俗吏，不达变通，暗于事机，往而无报。如此，向经旬日，诸将相率启帝曰：“京城不启，此是隋运其亡。天既亡之，非人能复。违天弃日，劳师费粮，坐守愚夫，恐非长策。请进围之，以观其意。”帝曰：“兵编象魏，矢及黄屋，人其谓我何哉？”诸将对曰：“无成王之主，不得行周公之事。又恐巨猾之徒，知义兵已定关中，来争形胜，请更思之。”帝乃逡巡，未有报。京兆旧贼帅等，并以家近帝城，不预元从，耻无功，乃各率所部兵，分地逼城而上。帝虑其轻脱失利，辛卯，命二公各将所统兵往为之援。京城东面、南面，陇西公主之。西面、北面，敦煌公主之。城中见而失色，更无他计，惟冀屈突及东都救援而已。甲午，关中群帅等，各请率锐登城。二公莫之能止。时帝在春明门外，闻而驰入，舍于罗郭安兴坊以镇之。甲辰，诸军各竞造攻具以临城，帝又未之许。二公及文武所司等固请曰：“太原以来，所过未尝经宿，长驱四塞，罕有不克之城。今至京师，不时早定，玩敌致寇，以挫兵锋，又虑初附之人，私轻太原之兵，无能为此。此机不小，请速部分。”帝曰：“强弩长戟，吾岂不许用之。所冀内外共知，以安天下。斯志不果，此外任诸公从民所欲。然七庙及代王并宗室支戚，不得有一惊犯。”乃下敕：“有违此者，罪及三族。”于是诸军各于所部营分角，修攻战之具。云梯竞筑，楼争高，百道齐来，千里并进。绕京竹木，斫于斯矣。十一日丙辰，昧爽，咸自逼城。帝闻而驰往，欲止之而弗及。才至景风门东面，军头雷永吉等已先登而入，守城之人分崩。帝乃遣二公率所统兵，依城外部分，封府库，收图籍，禁掳掠。军人勿杂，勿相惊恐。太仓之外，他无所干。吏民安堵，一如汉初入关故事。代王先在东宫，乃奉迎居于大兴后殿。是日，帝还移营舍于长乐宫浚川上。先是，隋主以巢穴作逆，掘其坟塋而浚其室，阴世师、骨仪等遂以为恒准，乃令京兆郡访帝之五庙茔域所在并发掘焉。帝以此憾之，言必流涕。戊午，收阴世师、骨仪、崔毗伽、李仁政等，并命陇西公新于朱雀街道，以不从义而又悞焉。余无所问，京邑士女，欢娱道路，华夷观听，相顾欣欣。乃命太常促择吉日，告高庙，定尊位，立代王之礼。文武将佐等议请曰：“天厌隋德，历数在唐。讴歌在路，被于遐迩。兵起晋阳，远定秦雍，百余日间，廓清帝宅。神武之速，此谓若飞。非天启圣，孰能如是？昔汉高入关，不即自立，项羽后至，悔无所及。公虽卑以自牧，须安天下。”金议请依符谶，上尊号。帝愀然改容曰：“举兵之始，本为社稷，社稷有主，孤何敢二？刘季不立子婴，所以屈于项羽。孤今尊奉世嫡，复何忧哉？”壬戌，乃率百僚，备羽仪法物，具法驾，迎代王即位于大兴殿，时代王十余岁矣。大赦天下，改大业十二年为义宁元年。复天下勿出今年租赋，赐民子孙承后者爵一级。是日，仍



遥尊后主为太上皇，与少帝在，不言废也。

卷 三

起摄政至即真日凡一百八十三日。

义宁元年，冬十一月甲子，少帝以帝为丞相，进封唐王，位在王公上。以武德殿为丞相府，改“教”称“令”。万机百度，礼乐征伐，兵马粮仗，庶绩群官，并责成于相府。惟郊祀天地，四时禘祫奏闻。帝固辞不拜，公卿将佐等请曰：“公负孺子当朝，岂得辞乎？摄政公不入相，王室何依？临兹大节，义无小让。”帝叹曰：“王家失鹿，遂使孤同老狼。”乃奉诏受册。乙丑，榆林、灵武、五原、平凉、安定诸郡，并举城降。并遣使诣义军请命。于是遣书发使，慰喻巴蜀。丙寅，置丞相府长史已下属官。还以大将军府僚裴寂等依次为之。己卯，以陇西公为唐王世子，改封敦煌公为秦国公，四郎元吉为齐国公。仍改太原留守为镇北府，总统山东诸郡。

十二月，陇西金城郡奴贼薛举等，破贼率唐弼于扶风，自称天子。初，弼遣使诣帝归款，投状扶风郡，而为薛举所围。帝遣援兵往扶风，未至，弼竟在郡城外为举所图。弼遂被郡守窦瑒所杀。俄而瑒及河池郡守萧瑒，相继归京师。于是拜瑒为户部尚书、上柱国，封燕国公。瑒拜礼部尚书，封宋公。是月也，屈突通自潼关都尉府欲奔东都，关上刘文静等诸军追而获焉，送之相府。帝见通，舍而礼之，谓曰：“公以清贞奉上，臣道不亏，孤所翘心，惟恨得卿之晚。”通拜款。刘文静等仍定弘农郡及诸县。

义宁二年，春正月，蜀汉及氐羌所在诸郡雄豪并守长等，奉帝书感悦，竞遣子弟献款，络绎而至。所司报答，日有百余，梁、益之间，晏如也。承诏封丞相长史裴寂为魏国公，司马刘文静为鲁国公，赵兴公神通为郑国公，永安公孝基为蜀国公。自余将佐殷开山、刘弘基已下，并以次封开国郡公、县公焉。其日令曰：“李密超超汎洛，自许当涂，王城如毁，忧心孔棘。束都危逼，有若倒悬。西人之子，理本奔命，其左右大都督府所统诸军，并宜减严，以时式遇。有征无战，是谓义师，招谕不从，勿难还也。初年孟月，春作方兴，不夺农时，宜知其速。”于是以世子为左元帅，秦王为右元帅，左右二府诸军十余万众，引于浚水之北。仍以尚书萧瑒为相府司马，刘文静为左元帅府长史，尚书窦瑒为掾，殷开山为右元帅府长史司马，又拜屈突通为上柱国，封蒋国公、检校行军左右虞候事，军士以下僚佐等，皆选知名者为之。帝亲诣军，劳而誓遣之。

二月，涿郡太守罗艺与渔阳、上谷、北平、柳城等郡诸官民，遣使送款。先是，平原贼窦建德聚众数万人，充斥河右、渤海、高阳等郡，大将军府使人张道源所定赵郡、襄国、武安、清河等郡，至是并陷于贼。道源亦随而没焉。建德遂称王，自号夏国。又南阳朱粲，众有数万，并好食人，自称可达汗，莫知可达汗之名有何义理，酷害异常。又有



贼萧铣起兵于江陵，于是以华阳公郑元琬为太常卿，封沛国公，遣将兵出商山上洛道，定南阳以东诸郡。并遣使人左领军大都督府司马元规慰抚安陆及荆襄间。三月，左右二元帅军招谕东都城门不收，李密又不敢西寇。时逼农月，遂奉令旋师宜阳、新安二郡而还。留行军总管史万宝、盛彦师镇宜阳，吕绍宗、任怀镇新安。

少帝以帝功德日懋，天历有归，欲行禅让之礼，乃进帝为相国，加九锡，赐殊物，加殊礼焉。册曰：“于戏，维尔假黄钺、使持节大都督内外诸军事、录尚书大丞相、新除相国、总百揆唐王、夫乾道贞观，四象所以运行。坤德含弘，万有凭其载育。是以天地交泰，资始由乎圣人。阴阳顺成，总已归其元辅。故能陶甄品物，代彼天工。息四海之群飞，回三灵之掩耀。百揆时序，五典克从。虽伊尹格于皇天，周公光于四表，方斯蔑如也。今将授王典册，其敬听朕命：上天不造，降祸于我国家，高祖弃盛业而升龙，太上释宝图以委御，王室如燬，丧乱弘多，数量道消，时钟代季，郊庙绝主，有若缀旒，则我祖宗之业已坠于地矣。王应休明之运，从兆人之欲，奉七玺于代邸，飞六轡于周京。此乃纲我绝维，有大造于皇家者也。曩者塞表省方，群胡反噬，矢流君侧，圉基平城，沦陷指期，阽危莫恤。王释位同谋，总伐千里。晨炊蓐食，倍道兼行。匈奴远迹，乘輿反正。此则王之功也。历山飞称兵燕赵，妄假名号，河朔响应，山西屯结。王首启戎行，大歼丑类。此又王之功也。夷狄贪婪，属犯关塞，驱迫良善，杀略吏人。王鞠旅理兵，卷甲长驾，追奔逐北，扫地无遗。此又王之功也。王威徒党，潜谋逆乱，外交边裔，内聘奸回，实繁有徒，倾覆宗社。王收戮凶渠，罪人斯得。此又王之功也。四郊多垒，三辅倒悬，黄巾示官阙之名，赤眉为园陵之祸。凶荒仍岁，荆棘旅庭。王投袂义举，星言电迈，取霍邑如摧枯，举秦关如反掌。克清河渭，志存匡复。此又王之功也。北荒獯鬻，事藉羁縻，比者中原多故，龙堆道绝。王式遏有方，款关请吏，更敦邻睦，复我旧藩。此又王之功也。汾晋地险，逋逃攸聚，山藏川量，负罪稽诛，类马腾之乞活，同严尤之尽赦。王怀柔伏叛，仗信示威，交臂屈膝，申其向化。此又王之功也。河潼转漕，密迩关畿，京坻委积，由来尚矣。群凶据窃，一鼓而崩。此又王之功也。京师危迫，奸臣放命，异一相之居内，同四凶之扇祸。王大誓师旅，兴言感慨，荡清上国，拯厥颓流，暴市焚尸，并枭元恶。此又王之功也。上天貽爱，莫甚乎人，爰祚圣哲，弼予冲幼，官守司存，社稷有奉，济方割于下垫，烁员光于上参。此又王之功也。唐弼凶竖，草窃岐阳，吞噬旧邦，侵逼都鄙。王制以衍策，观其携二，亲离众叛，我尽收之。此又王之功也。华阴黑水，控接岷嶓，山川阻深，尽为逋藪。义风所靡，化行江汉。此又王之功也。薛举崇奸，同恶相济，僭拟舆服，滔天泯夏。西土游魂，泰山肆毒。赫斯授律，咸俘丑类。岐陇齐筑京观，汧渭为之不流。此又王之功也。三蜀奥区，一都之会，夷民纷杂，蛮貊荒梗。王发一介之使，降咫尺之书，而灵关洞开，剑阁无隘。此又王之功也。弘农甸服，襟带河陕，鞠为寇场，连城阻乱，长策远振，不征而服。此又王之功也。王有济天下之勋，重之以明德，爰初发迹，肇



自鸿阶，峻极比于嵩华，清澜运于溟渤。休兹将圣，道破如仁，在物不失其宜，含灵咸安其所。春生长天，信及四时。地平天成，义兼得一。总万机之务，因百姓之心，保我皇家，弘济乎多难者也。是以济济多士，庶政缉熙，穆穆四时，要荒式序。激清风以厉俗，畅和气以调时。神功俾于造化，积德高于垂象。朕又闻之，先王之宰物也，尊贤尚德，茂赏畴庸。五侯专征，九命作伯，周襄光锡，桓文是膺。大启南阳，以表东海。况乃道冠伊、稷，功高晋、郑。酬勋蔑尔，朕甚惧焉。今晋授相国，以河内、汲郡、清河、武安、魏郡、信都、高阳、平原、赵郡、襄国，通前三十郡，增封唐国。锡兹黑土，直以白茅。爱定尔邦，用建冢社。昔周部分陕，咸为保传。毛毕诸侯，人作卿士。内外之任，礼实攸宜。今授相国印绶，唐王玺绶，茅土金兽符第一至第五，竹使符第一至第十。相国礼绝群后，任总所司，朝班彝数，宜以事革，其以相国总百揆，去录尚书之号。上所假黄钺内外都督丞相印绶，又加王九锡，其敬听后命。以主绳纪礼度，哀矜折狱，罔不用情，无或迁志，是用锡王大辂、戎辂各一，玄牡二驷。以王分地教本，人天是赖，疏爵务农，所宝惟穀。是用锡王衮冕之服，赤舄副焉。以王风雅所被，獫戎咸格，阴阳顺理，遐迩宅心，是用锡王轩悬之乐，六佾之舞。以王翼宣皇道，义声遐畅，三才所运，四海攸归，是用锡王朱户以居。以王登贤命秩，哀德升朝，思帝所难，能官流咏，是用锡王纳陛以登。以王正色持衡，谄范御下，式遏奸宄，荡清华夏，是用锡王武贲之士三百人。以王威同夏日，志厉秋霜，刑厝有期，宽而不漏，是用锡王钺、钺各一，彤弓一，彤矢百，旅弓十，旅矢千。以王霜露履践，衽祀恭严，天地幽通，孝思至感，是用锡王钺鬯一亩，珪瓚副焉。唐国宣置丞相已下，一遵旧式。往钦哉！祇奉大礼，用膺多福，以光我高祖之休命，可不慎欤！”（侍中陈叔达之词也）

帝私谓元从府僚曰：“少帝今时，可谓吾家所立。本为社稷，上报高祖，冀终隋氏，不失人臣。岂期孺子尚幼，未复明辟，侥幸之徒，讽其假孤名器。安有至尊羽仪，天子之礼，假诸臣下，何以为国？孤总朝政，此事不得不知。政由己出，还自锡进。贪天之功，以为己力，孤不欺人，敢欺天也！”群僚等固请曰：“萧何为相国，鲁公用王礼，前贤不让，请以为不疑。”帝曰：“两贤遇周汉之初兴，有大勋于二代。孤属乱离之季世，值隋运之将尽，昏明时异，授受事殊。拟于其伦，实多惭德。然诸公欲孤行魏晋之故事，为豹变之鸿渐，乃为吾子扬榷而陈之。曹、马之兴，不以义举。英雄鼎峙，角逐争衡。无君之人，欲速大位，逼胁孤寡，假诏自媒，因九锡而论功，矜百辟于殊礼，示难进于谦退，思厌塞于群情。故路人咸见其心，有识呼为狐媚。斯皆兆庶不推，讴歌不属者也。宋、齐蔑尔，处于江湖，地当汉之一郡，自称尊号，可知必以魏、晋为楷模，习虞、夏而禅让。功微五伯，礼盛二王，于是阿谀希旨之传，申敦功于抗矫。饰非轻薄之子，骋让辞而伟毕。未闻桀、纣之胤，禅于殷周之初。从此而言，断可知矣。何轻易天命，以自厚诬。孤每观前史，见斯事迹，未尝不抚掌而笑。嗤彼群迷，明贤所弃。见贤思齐，勿循前弊。”时有



启帝者，以为即真之渐，旧事因循，相承作故。帝曰：“孤闻昇天无阶，于何为渐？必如来旨，事转成疑。至若河滨仄陋，泗上亭长，令其位次受终，未易享国。所问功德何如，谁云位之大小。以孤堪守关中，能负孺子，见推相国，作镇假王，汉有前踪，不能违众。欲以曹操、司马炎为例，九锡殊物，赐加非宜，不愿拟议，亦耻老瞶同传。”公卿闻帝此旨，寤而厚颜，诣府陈谢。帝又谓之曰：“魏氏以来，革命不少，鸿儒硕学，世有名臣。佐命兴皇，皆行禅代。不量功业之本，惟存揖让之容。上下相蒙，遂为故实。宁有汤、武接于夏、殷，不宪章于尧、舜；晋、魏隔于周、汉，翻祖述于勋、华。且尧之禅舜，二圣继踵。舜因让禹，以明尧哲。示天下为至公，不私己于尊位。故宾虞以后，若脱屣焉。是知非尧不能让舜，非舜不能命禹。商、周德所不逮，有拨乱反正之功。顺天行诛，逆取顺守，咸以至诚兼济，无隐神祇，三五帝王，称兹四圣，英声茂实，飞腾万古。尧、舜不及于□子，让德而称帝。汤武不私于后胤，力取而为王。故道有降差，名有优劣，然立功立德，亦各一时。末叶后来，功德无纪，时逢屯否，拥兵窃命，托云辅政，择立余孽，顽器支庶，先被推崇，睿哲英宗，密加夷戮，专权任己，逼令让位。虽欲己同于舜，不觉禅者非尧，贬德于唐、虞，见过于汤、武，岂不悖哉！魏、晋、宋、齐，为感已甚，托言之士，须知得失。”群公退而悦服，私相谓曰：“相王格论，绝后光前，发明典谟，申理誓诰，可谓君子一言，定八代之荣辱矣。”帝又谓所亲曰：“诸人虽复见吾言论，仍自不知至理。吾今一匡天下，三分有二，入关形势，颇似汉高祖。且起军甲子，旗帜已革，如何更于少帝之处，却受九锡而求殊礼。孺子有知，不容肯行此事。既成无识，此乃吾自为之。立身以来，不欺暗室，如何今日，诬罔天听？所区别帝王，激扬名理，以怨是古非今之辈，谬相劝逼。”于是惟改丞相府为相府国，而九锡殊礼，并属诸有司。

是月也，宇文文化及兼弟智及等，并骁果武贲司马龟、监门郎将裴乾通等，谋同逆，因骁果等欲还，精锐遂夜率之而围江都宫，杀后主于彭城阁。初，骁果兵等苦于久在江都，咸思归叛。至是，炀帝知唐据有西京，过江计定，仍先分骁果往守会稽，诳之云往东吴催米，故文化及等因之而作难。于是隋主崩问至，帝乃率文武群贤僚佐，从少帝举哀于大兴后殿。帝哭哀甚，有谏止帝者，帝曰：“吾为人下，丧居何可不哀！然亦恨后主不亡于开皇之末，以延鼎祚耳。”文化及等本自因思归之众而行杀逆，及以许公之子为众所推，至是遂僭称尊号，率其同恶欲入关，以李密断成皋，据洛口，乃图北取黎阳仓，从白马津而渡。帝乃遣统军张伦将蒲津以东从兵，往魏郡道招慰文化及等，继遣淮安王神通，往定山东诸郡。又募犯罪者数千人，听效力赎罪，并张伦等并是淮安王节度焉。李密闻文化及之趣河北，乃分兵遣别将徐世勣等屯黎阳拒守。文化及从宛道渡河，绝粮，遂顿于聊城县。淮安王等率众图城，部分失机，行兵不利，退保魏郡。文化及众聚聊城，粮无所出。窦建德知其穷蹙，遂攻破之，获文化及兼弟智及，责以弑逆，并斩之而徇众。炀帝萧皇后亦没于贼庭。于是江都宫人、美女、珍宝金帛及乎玉玺，并建德有之，不逞之徒，因说建德送萧皇后及宫



人等，多资金帛，重赂突厥，市马而求援。

少帝年未胜衣，不经师傅，长于妇人之手，时事茫然。既知炀帝不存，惟求潜逊。夏四月，诏曰：“天祸隋国，大行太上皇遇盗江都，酷甚望夷，衅深邠北。悯予小子，奄绍丕祚，哀号永感，五情糜溃，仰惟荼毒，仇复靡申，形影相吊，罔知启处。相国唐王，膺期命世，扶危拯溺。自北徂南，东征西伐。总九合于一匡，决百胜于千里。纠率夷夏，大庇氓黎，保义朕躬，繫王是赖。德侔造化，功格苍旻，兆庶归心，历数斯在。屈人为臣，载违天命。昔在虞夏，揖让相推，苟非重华，谁堪命禹。当今九服崩离，三灵改卜，大运去矣，请避贤路。兆谋布德，顾己莫能，私僮命驾，须归藩国。予本代王，及予而代，天之所废，岂其如是。庶凭稽古之圣，以诛四凶。幸值惟新之恩，预充三恪。雪耻怨于皇祖，守禋祀为孝孙，朝闻夕殒，及泉无恨。今遵故事，逊于旧邸。庶官群后，改事唐朝。宜依前典，趣上尊号。若释重负，感泰兼怀，假手真人，俾除丑逆。济济多士，明知朕意。仍敕有司，凡是表奏，皆不得以闻。”

章表不通，理难再请。欲召公卿议之，渐以启谕。于是文武将佐裴寂等二千人，不谋同辞，并不肯奏诏，乃相率上疏劝进曰：“臣闻天下至公，非一姓之独有，圣人达节，与万物而推移。故五运递兴，百王更王，春兰秋菊，无绝终古。玉疏石记，笔石纷纶；垂统有光，焕乎宝篆。伏惟陛下，资灵种德，稟庆至真，固纵惟神，生知乃圣。量包乎宇宙，智周乎品物，群生涂炭，跻之仁寿。逢百六之厄，创业云雷。追三五之踪，财成天地。仲夏之半，龙跃晋阳。孟冬伊始，凤翔灞上。鸿志翊毛之及者，雾委来庭。触柱拔山之大盗，风驰献款。三晋子弟，共獯豨而陪麾。咸秦豪杰，连巴蜀而响应。英声西被，懋德东渐，南谐交趾，北变幽都。躬未戎衣，手不提剑。机务成于雄断，人杰得于才子。威加四海，功出一门，计极万安，战穷百胜。小往大来，算无遗策。时未期月，业倍前王。今古代兴，膺斯拨乱。若兹之举，如兹之速，载籍以来，未之前闻也。臣等诚欢诚喜，顿首顿首，死罪死罪。窃以陛下承家开国，积德累功，世济拟于高阳，绪盛于周武。载诞烛神光之异，仪形表玉胜之奇。白雀呈祥，丹书授历。名合天渊，姓符桃李。君尧之国，靡不则天。星纪云周，奉时图始。甲子之旦，不俟而□，起兵西北，势合乘乾。我来自东，位当出震。至八井深水之图谶，唐唐李树之谣歌，固以备在人谣，无德而称者也。且夫体非常之道，立非常之功，实非常之人，有非常之事。不时仁位，人神是武，天命不常，惟德是与。迁虞事夏，抑有前规。臣等敢录旧典，奉上尊号。当今万机旷主，九有困穷，伏愿降鉴回虑，忧世外已，上顺天心，祇膺允执，俯从人愿，屈就乐推。变黎庶于时雍，配上帝于宗祀。勿以王者兼济之功，而为匹夫独美之操。昔之尧佐，咸大天工。绩尤著者，胤胤稷禹，播谷之都，余庆商周。皋陶好生治人，今兴陛下。盛德有后，其若是乎。四相三王，齐名踵武，千年得一，相继风声，符命所钟，有自来矣。愿纳缙绅凄凄之情，允副亿兆颺颺之望。率土更生，含灵幸甚。臣等诚惶诚恐，昧死以闻。顿首顿首，死罪死罪。”



所司以表章奏闻。帝退所奏表，谓奏者曰：“吾固知如是。”拒而不答。裴寂等进见曰：“昔桀纣虽复不贤，亦各有子，未闻汤武臣辅之。龟镜已见，兹无疑也。先人有言曰：‘功盖天下者不赏’。陛下欲让至尊而为臣下，恐隋朝不然此事。且臣等唐之将佐，茅土大位，受之唐国。陛下不为唐帝，臣等应须去官。伏愿深思，容臣等有地。”帝笑曰：“裴公何相逼之深，当为审思。”亦未之许。裴寂等又依光武长安同舍人强华奉赤伏符故事，乃奉：“神人太原慧化尼、蜀郡卫元嵩等歌谣诗谶。慧化尼歌词曰：‘东海十八子，八井唤三军。手持双白雀，头上戴紫云。’”又曰：“丁丑语甲子，深藏入堂裏。何意坐堂裏？中央有天子。”又曰：“西北天火照龙山，童子赤光连北斗。童子木上悬白幡，胡兵纷纷满前后。拍手唱堂堂，驱羊向南走。”又曰：“胡兵未济汉不整，治中都护有八井。”又曰：“兴伍伍，仁义行，武德九九得声名。童子木底百丈水，东家井里五色星。我语不可信，问取卫先生。”蜀郡卫元嵩，周天和五年闰十月作诗：“戊亥君臣乱，子丑破城隍，寅卯如欲定，龙蛇伏四方。十八成男子，洪水主刀傍，市朝义归政，人宁俱不荒。人言有恒性，也复道非常。为君好思量，何□□禹汤。桃花源□□，李树起堂堂。只看寅卯岁，深水没黄杨。”未萌之前，谣谶遍于天下，今睹其事，人人皆知之。陛下虽不以介怀，天下信为灵效。特此欲作常人，恐难以免。须上为七庙，下安万民。既膺符命，不得拘文牵旨，违天不祥。裴寂等言之甚切。帝曰：“所以逡巡至于再三者，非徒推让，亦恐群公面谏，退为口实，然汉高云：诸侯王推高于寡人，以为皇帝位，甚便宜于天下之民则可矣。孤亦何能有异之哉！”于是寂等再拜舞蹈，称万岁而出，遂与国子博士丁孝乌等数百人，具礼仪，择良日。以武德元年，岁在戊寅，五月甲子，皇帝即位于太极前殿，设坛于长安城南，柴燎告天，册文曰：“皇帝臣某，敢用玄牡，昭告于皇天后帝。生人以来，树之司牧，随命所属，谓之大宝。历数不在，罔或偷安。故舜禹至公，揖让而兴虞、夏，汤、武兼济，干戈而有商、周。事乃殊途，功成一致。后之创业，咸取则焉。某承家庆，世祿降祉，曰祖曰考，累功载德。赐履参墟，建侯唐旧，地居咸里，门号公宫，丕绪建基，足为荣矣。但有隋属厌，大业夷德，饥谨师旅，民胥怨咨。谪见咎徵，昭于皇鉴。备闻卑听，所不忍言。某守晋阳，驰心魏阙，授手濡足，拯溺救焚。大举义兵，式宁区宇。惩边荒之辍发，辑兆庶之离心。誓以捐躯，救兹生命。指除丧乱，期之又安。有功继世，无希九五，惟身及子，竭诚尽力，率先锋镝，誓以无二。再蒙弘诱，克济艰难，电扫风驱，廓清大邑。传檄而定峨嵋，拱手而平关陇。西戎即叙，东夷底定。非启非赞，孰能兹速。尊立世嫡，翼奉宗隋，戮力辅政，无亏臣节。值鼎祚云革，天祿将移，讴歌狱讼，聿来唐邸。人神符瑞，辐凑微躬，远近宅心，华夷请命。少帝知神器有适，大运去之，逊位而禅，若隋之初。让德不嗣，群情逼请。六宗阙祀，七政未齐，罪有所归，恐当天谴。请因吉日，克举前典，设坛肆类，祗谒上帝，惠兹下人。翼子谋孙，罔敢愆德，则小则大，无或有违。对越鸿休，伏深惭惧。谨遣太尉公裴寂等，用荐告之礼，瑞册苍璧，秬鬯清酌，芻合芻蕡，



明棗嘉蔬，禋祀于皇皇后帝。明灵降享，皇帝备羽仪法物，临轩大赦天下，改义宁二年为武德元年。□□□□□□踐祚。

有司以子卯不乐，请择他日。帝曰：“岁在戊寅，□□□□□□始。此为难子得，至今遇之，乌可失之。且殷周二代□□□□□□所之，以为大吉，周域之诚，又甲子五行为木，木加于子，□□□良日。虽欲勿用，其能舍诸？”故自起军遽乎人相登极，咸用甲子焉。



魏郑公谏录

〔唐〕王方庆 撰

序

盖闻主圣于上，臣忠于下，非圣无以纳忠，非忠无以感圣。逖观前载，罔弗由兹。太子太师郑国文贞魏公，运属昌期，时逢馭后，乃神乃武，亟虚襟以待谏，将之明之，遂竭诚而荐说。事有必犯，知无不为，故能契叶云龙，义均鱼水，成百代之楷模，固一时之准的。茂躋宏规，已备于青史；片言余论，或漏于繙图。虽贞质自然，无假于饰，而高山仰止，有欲增峻。于是采听人谣，参详国典，撰成《谏录》，凡为五卷，亦犹平仲《春秋》，不遗其实录；宣尼《论语》兼叙其对问。各为题目，列之如左。唐尚书吏部郎中琅琊王缙撰。

卷 一

谏诏免租赋又令输纳

太宗初即位，诏关中免二年租赋，关东给复一年。又有敕：“已役已纳并遣输了，明年总为准折。”公谏曰：“臣伏见八月九日诏，率土皆复一年，老幼相欢，式歌且舞在路。又闻有敕，丁已配役，即令役满折造；于物亦遣输了，待至明年，总为准折。道路之人，咸失所望。此诚非平分万姓，均同七子。然下民难与图始，日用不知，皆谓国家追悔前言，二三其德。臣窃闻天之所辅者仁，人之所助者信，陛下初膺大宝，亿兆观德，始发大号便有二言，生八表之疑心，失四时之大信。如国有倒悬之急，犹必不可为，况以泰山之安而辄行此事，为陛下为计者，于财利则小益，于德义则大损。臣诚智识浅短，窃为陛下惜之。”



谏简点中男入军

简点使出，右仆射封德彝等并欲令取中男，敕三四出。公执奏不可，德彝重奏称：“今见简点使云：‘中男内大有壮者。’”太宗怒，乃出敕：“中男虽未十八，身形壮大，亦取。”公又不肯署敕，太宗召公，作色让之曰：“男若实小，不点入军；若实大，是其诈妄。依式点取，于理何妨邪？如此固执，不解卿意。”公正色曰：“臣闻竭泽而渔，非不得鱼，明年无鱼；焚林而畋，非不获兽，明年无兽。若中男以上尽点入军，租赋杂徭将何取给？然比年来，国家卫士，不堪攻战，岂为其少邪？但为礼遇失所，遂使人无斗志。若多点取人还充杂役，其数虽多，终是无用。若精简壮健，遇之以礼，人百其勇，何必在多？陛下每云：‘我之为君，以诚信待物，欲使官人百姓并无矫伪之心。’自登极以来，大事三数，皆是不信，复何取信于人？”太宗愕然，曰：“所云不信是何等也？”公曰：“陛下初即位，诏书云：‘逋租宿债，欠负官物，并悉原免。即令所司列为事条，秦府国司，亦非官物。陛下自秦王为天子，国司不为官物，其于官物复将何有？又关中免二年租赋，关外给复一年，百姓蒙恩，无不欣悦；寻更有敕云：今年白丁多已役讫，若从此放免便是虚荷国恩；若已折已输，并令总纳，所免者皆以来年为始，散还之后方更徵收，百姓之心不能无怨。已徵得物，便点入军。来年为始，何所取信？又共理所寄，唯在县令刺史，年常检阅，并悉委之。至于简点，即疑其诈伪，望下诚信，不亦难乎？’”太宗曰：“朕向见卿固执，疑卿蔽于此事，今论国家不信，乃是人情不通。朕不审思，过亦深矣，行事往往如此，天下若为致化？”乃停取中男，赐金瓮一口。

谏复厖相寿任

濮州刺史厖相寿，贪浊有闻，追还解任，自陈幕府之旧，太宗深矜之，使人谓之曰：“尔是我旧左右，今取他物，祇应为贫。赐尔绢百匹，即还向任，更莫作罪过。”公进谏曰：“相寿狼滥，远近所知，今以故旧私情，赦其贪浊，更加以厚赏，还令复任。然相寿性识未知愧耻。幕府左右，其数甚多，人皆恃恩私足，使为善者惧。”太宗欣然纳之，引相寿于前，谓之曰：“我昔为王，与一府作主；今为天子，为四海作主；既为四海作主，不可偏与一府恩泽。向欲令尔重任，侍臣云：尔若重任，必使为善者皆不用心。侍臣所执既是，便不得申我私意。”乃赐物而遣之，相寿默然，流涕而去。

谏斩叱奴鹭

侍御史仲素奏：“庆州乐蟠县令叱鹭盗用官仓，案验并实。”太宗令斩之。中书舍人杨文琬奏：“据律，不合死。”太宗曰：“仓粮，朕之所重，若不加法，恐犯者滋多。”公谏



曰：“陛下设法，与天下共之，今若改张，人将法外畏罪，更复有重者，又何以加焉。”太宗从之。

谏武官起服

武官丁艰忧，屡有起服者。公谏曰：“国家草创之初，武官不格丧制，天下今既安定，不可仍夺其情。必有金革之事，自有墨绖之经。”太宗曰：“朕思之，然为武事未息。如不可，即止。”

谏讨击冯盎

岭南诸州奏冯盎反叛，前后奏者数十辈，乃命将军蒿谟、中郎将牛进等，发江岭数十州兵以讨之。公谏曰：“中国初定，疮痍未复；岭表瘴疠，山川阻深，兵运难继，疾疫或起，若不如意，悔不可追。且反形未成，无容动众。”太宗曰：“岭南告者，道路不绝，奈何云反形未成邪？”公曰：“冯盎若反，即须及中国未宁时。交结远人，分断险要，破掠州县，署置官司，何因告来数年兵不出境？凡所告者，皆论田洞，此则不反之状昭然可知。陛下未有使人亲往观察，即来朝谒，恐不见明，所以迁延，苟避罪戮。今若遣所司，分明晓谕，彼既怀诚信，又喜于免祸，必不劳师旅自至阙廷。”太宗乃罢兵，令前蒲州刺史韦叔谐员外散骑侍郎李公淹充使。即至，盎即遣其长子智戴随叔谐等人朝。太宗曰：“初，岭南诸州咸言冯盎反，人皆劝朕须振兵威，言者既多，不能无惑。唯魏徵以为千石之弩，不为鼯鼠发机；大国之师，岂为蛮夷兴动。胜之不武，不胜为笑，但怀之以德，必不召自来。朕命一介使人，遂得岭表无事，不劳而定，胜于十万之师，徵不可不赏。”乃赐绢百匹。（蒲州，蒲阪也，今河中府）

谏科祖孝孙罪

太宗谓侍臣曰：“人皆以祖孝孙为知音，今教曲多不谐韵，此其未至精妙？为不存意乎？”乃敕所司，令定其罪。公进谏曰：“陛下生平不爱音声，今忽为教女乐差舛，责及孝孙，臣恐天下貽愕。”太宗曰：“汝等并是我腹心，应须中正，何反附下罔上，为孝孙为辞？”温彦博拜谢，公及王珪进曰：“陛下不以臣等不肖，置于樞近，今臣所言，岂是为私？不願陛下責臣至此。臣常奉明旨云：‘勿臨時嗔怒即便曲從，成我大過。’臣等不敢失墜，所以每觸龍鱗。今以此為責，祇是陛下負臣，臣終不負于陛下。”太宗怒猶未已，懷然作色。公曰：“祖孝孫學問立身，何如白明達？陛下平生禮遇孝孫，復何如白明達？今過聽一言，便謂孝孫可疑，明達可信，臣恐群臣衆庶有以窺陛下。”太宗意乃解。



諫决王文楷杖

裴寂坐事免，放歸鄉宅。寂表乞住京師，久而不去。太宗大怒，長安令王文楷坐不發遣，令笞三十。公進諫曰：“裴寂所為事合萬死，令陛下念其舊功，不置于法，唯解其官，止削半封，合流之人尚自給假，況寂放還鄉宅。古人雲：進人以禮，退人以禮。臣愚以為，文楷識陛下恩貸，見寂是大臣，不時遽逼，論其此情，未合得罪。太宗曰：“朕令寂拜掃，豈非禮邪？”乃釋文楷不問。

諫皇甫德參上書以為訕謗

太宗謂房玄齡等曰：“昨皇甫德參上書言，朕脩營洛州宮殿，是勞人也；收地租，是厚斂也；俗尚高髻，當是宮中所作也。此人欲使國家不役一丁，不收一租，宮人皆無髻，乃稱其意耳。事既訕謗，當須論罪。”公進諫曰：“賈誼當漢文之時上書雲：‘可為痛哭者三，可為長太息者五。’自古上書率多激切，若不激切則不能起人主心，激切即似訕謗，所謂‘狂夫之言，聖人擇焉’。惟在陛下裁察，不可責也。”太宗曰：“朕初欲責此人，若責之，則誰敢言者。”因賜絹二十四匹。

諫國家愛珠

使者從奚契丹中返者，太宗問其土俗，對曰：“最愛肉珠，以數百珠博一馬。”太宗曰：“何為愛重此物？”對曰：“穿以系頸及交絡身。”太宗哂之。公曰：“此物誠不足重，人各有所惑。西域諸賈，愛重珍寶，若遇好珠，則傾家市取，乃劈肌膚，藏之于身內，此人有所經過，咸共敬重，其意所須，莫不資給，人聞皆以為笑。然國家今日亦太重之。”太宗曰：“魏徵即以我為一胡也，事皆如此。往者見林邑使人，每旦磨沈水等諸香，用涂身體，皆共笑之，以為虛費；我今愛重此物與彼亦何異乎？有識者還共笑我耳，安可不深思也。”

諫西域諸國入朝

高昌主麴文泰將入朝也，西域諸國咸欲遣使，乃敕蕃人壓恒紇干使，往西域引諸國使入朝。公諫曰：“中國始平，瘡痍未復，若有勞役，則不能安。往年高昌主來入貢，馬才數百匹，所經州縣猶不能供，況復加于此也。若任其興販，邊人則獲其利；若引為賓客，中國則受其弊矣。漢建武二十二年，天下寧晏，西域諸置都護送侍子，光武不許，不以蠻夷勞弊中國。今若許十國入貢，其使不減千人，使緣邊諸州，將何取給？事既不濟，人心



萬端，后方悔之，恐無所及。”太宗然共議，乃追歷恒紇下還。

諫科圍川縣官罪

或奏雲：“右僕射李靖、侍中王珪，奉使九成宮，還，至圍川縣，有官人先舍于令厅，靖等后至，乃移却官人，安置靖等。又，近有官人使至始平縣，縣令已安置訖，右丞裴載家口后至，移動官人，不加禮敬。”太宗聞之大怒，曰：“此等官職都不由我，皆由李靖、王珪等乎？何見李靖王珪等如此，見我官人都不禮遇。始平官、司空處約等決杖一百，解官，仍案驗圍川官人及李靖等。”公進諫曰：“李靖、王珪皆知禮法，必不許移動官人自取好處，此或言者過誤，發陛下嗔怒；如其實然，亦可矜恕。何者？李靖等陛下心膂大臣；官人、皇后、掃除仆隸，其委付事理不同，較其輕重，全無等級。又，靖等出外，官人訪朝廷法式，歸來陛下問百姓疾苦，靖等自不可不与官人相見，官人等亦不得不參。至于官人出使，不与州縣交涉，惟得供其飲食，自外何所參承？若以此罪責及官人，不益陛下德音，徒駭天下耳目。”太宗曰：“公言是也。”乃釋州縣之罪，李靖等亦寢不问。

諫優長樂公主禮數

長樂公主將出降，太宗謂房玄齡等曰：“長樂公主，皇后所生，朕及皇后并所鍾愛。今將出降，禮數欲有所加。”房玄齡等咸曰：“陛下所愛，欲少加之，何為不得？請倍永嘉公主。”然永嘉公主即太宗之妹也。公曰：“不可。昔漢明帝欲封其子，云：‘我子豈得與先帝子等，可半楚淮陽。’前史以為美談。天子姊妹為長公主，天子之女為公主，既加長字，即是禮有尊崇，或可情有淺深，無容禮相逾越。”太宗然其言，入謂文德皇后曰：“我欲加長樂公主禮數，魏徵不肯。”文德皇后聞之，大喜，遣中使賁錢二十萬，絹四百匹，詣公宅，宣令謂公曰：“比者常聞公中正而不能得見，今論長樂公主禮事，不許增加，始驗從來所聞，信非虛妄。愿公常保此心，莫移今日。喜聞公言，故令將物相賞。公有事即道，勿為形迹也。”

諫所行事與貞觀初有異

太宗公問曰：“朕所行事，與貞觀初有異否？”對曰：“貞觀之初，陛下銳情思政，從諫如流，每因事觸類為善，志存儉約，無所營求。比者造作微多，至于諫爭，時有忤色，以此為有異耳。”

諫權萬幻任心彈射

公奏：“治書權萬紀、侍御史季仁敬，俱以告訐為正凡所彈射，皆非有罪，陛下掩其



所短，收其一切之用，乃聘其奸计，附下罔上，多行无礼以取强正之名，诬房玄龄、斥退张亮，无所肃厉，徒损圣明，道路之人皆有谤议。臣伏度圣心，必不以谋虑深长，可委以栋梁之任，将以其无所避忌，欲以警厉群臣。若群臣信扶回邪，犹不可以小谋大；若群臣素无矫伪，空使上下离心。以玄龄张亮之徒，犹不得申其枉曲，其余疏贱之类，孰能免其欺罔？伏愿陛下留神再思。自任二人已来，有事弘益，臣即甘心斧钺，受不忠之罪；陛下如未能举善以崇德，岂可进奸而自损乎？”太宗默然无以应，赐绢五百匹，俄而奸状渐露，遂免仁敬而出万纪。

谏魏王不得折辱贵臣

魏王，文德皇后所生，太宗特所宠异。贵要言：三品以上多轻蔑王者。意欲诬毁公等以激怒太宗。太宗大怒，御齐政殿，引三品以上人，作色而言曰：“我有一口语，欲向卿等道。往前天子是天子，今时天子即非天子邪？往前天子儿是天子儿，今天子儿即非天子儿邪？我见隋家诸王，一品以下皆不免其顾顿，我自不许儿子纵横，卿等何为蔑我儿邪？我若教之，岂不能折辱卿等？”房玄龄以下，战栗流汗，拜谢。公正色而进曰：“当今群臣，必无敢轻魏王者。然在礼，臣子一也。传称：王人虽微，列诸侯之上，诸王用之为公卿，若不为公卿，则下土之诸侯也。今三品以上列为公卿，并天子大臣，陛下之所敬异。如其小小不是，魏王何得折辱？若国家纲纪替坏，臣所不知。以当今圣明，魏王岂得如此？且隋高祖不知礼义，宠纵诸子，使行无礼，寻皆罪黜，不可为法，亦何足道。”太宗闻之，喜形于色，谓群臣曰：“凡语理到，不可不服。朕之所言，身之私爱；魏徵所言，国家大法。朕向者忿怒，谓理在不疑；见魏徵所论，方始觉屈也。人君发言，亦何容易。”

谏于虢州采银

虢州统军裴师利奏：“诸山大有银矿，采之极有利益。”敕殿中少监赵元楷，令诸国府卫士及百姓采之。类为劳扰。公进谏曰：“昔尧舜置壁于山，投珠于谷，所以崇名显号，见称千祀。陛下巍巍盛德，思与尧舜比隆；戡定大功，远逾汤武之烈。所急在于仁义，所宝岂是珍奇？珍奇既积，仁义必损。且劳役卫士，与下争利，人不见德，将何取焉。”太宗深纳之，即令停度。

谏听谏与贞观初不同

太宗御两仪殿，谓公曰：“朕比来所行得失、所布政化，何如昔年？”对曰：“若威之所加，远夷朝贡，比于贞观之始，不可等级而论；若德义潜通，人心悦服，比于贞观之初，相去又亦甚远。”太宗曰：“远夷来朝，应由德义所加。德义不如昔时，功业何以得



益？”公曰：“昔者，四方未定，常以德义为心；今以海内无虞，渐更骄奢自溢。所以功业虽盛，终是不如往时。”太宗曰：“今所行与往前何以为异？”公曰：“贞观之初，恐人不言，导之使谏；三年以后，见人谏争，悦而从之；四年以来，不悦人谏，虽勉强听受而终有难色。”太宗曰：“于何事如此？”公遂指陈之曰：“即位之初，处元律师罪死，孙伏伽谏曰：‘法不至死，无容滥加。’遂赐兰陵公主园准钱百万。或曰：‘所言寻常而所赏太厚。’答曰：‘我即位以来，未有谏者，所以赏之。’此导之使言也。某州司户参军柳雄于隋资妄加等级，人有言之者，陛下令其自首，不首当与死罪，遂固言是真，竟不肯首。大理推得其伪，将处雄死，少卿戴胄奏云：‘法止合徒。’陛下曰：‘我已与其断，当但与死罪。’胄曰：‘陛下即不时杀，非臣所及，付臣法司，法不合死，不敢酷滥。’陛下作色遣杀，胄争之不已，至于四五，然后欣然赦之，曰：‘曹司但能为我作如此守法，岂畏滥有诛夷。’此则悦以从谏也。往者，某县丞皇甫德参上书，有忤圣者，陛下以为訕谤，臣奏称贾谊当汉文之代，上书云：可为痛哭者三，长太息者五，自古上书率多激切，若不激切，不能起人主之心；激切即似訕谤。于时虽从臣言，赏物二十段，然意甚不可。此是小难于受谏。”太宗曰：“诚如公言，非公无能道此者。人皆苦不自觉，公向未道之时，都自言所行不变；及见公论说，始觉志意渐移。公但常保此心，朕终不违公语也。”

谏遣使西域市马

太宗遣使西域，立叶护可汗，又别使赍金帛，历诸国市马。公谏曰：“今发国使以立可汗为名，可汗未定即缘诸国市马，彼必以为意在市马，不为专立可汗，得立，则不甚怀恩；不得立，则以为深怨。诸蕃闻之，必不重中国，市马既不可得，纵得马，亦还路无从。但使彼安宁，则诸国之马，不求自至矣。昔汉文帝有献千里马者，曰：‘吾吉行日三十，凶行日五十。銮舆在前，属车在后，吾独乘千里马，将以安之乎？’乃偿其道里之费而反之。汉光武有献千里马及宝剑者，马以驾鼓车，剑以赐骑士。陛下凡所施为，皆邈过三王之上，奈何至于此事，欲为二帝之下乎？魏文帝欲求市西域大珠，苏则曰：‘若陛下惠及四海，则珠不求自至；求得之，不足贵也。’陛下如不能慕汉文之高行，不畏苏则之言乎？”太宗纳其言，欣然而止。

谏益州北门造绫锦

益州及北门造绫锦金银等作，公谏曰：“金银珠玉，妨农事者也；锦绣纂组，害女工者也。一夫不耕，天下有受其饥；一女不织，天下有受其寒。古人或投之深泉，或焚之通衢，而陛下好之，愚臣不胜其耻。”



卷二

谏聘郑仁基女为充华

隋通事舍人郑仁基女，年十五六，有容色。文德皇后请备嫔御，太宗乃聘为充华，诏已施行，册使将行，公闻已许嫁陆氏，遽进谏曰：“陛下为人父母，子爱万姓，当忧其所忧，乐其所乐。自古有道之主，以百姓心为心，故君处台榭，则欲人有栋宇之安；食膏粱，则欲人无饥寒之患；愿嫔御，则欲人有室家之欢。此人主之常道也。今郑氏之女，久已许人，陛下取之而无顾问，播之四海，岂为人父母之义乎？臣所传闻，或未指的，恐亏盛德，情不敢隐。君举必书，所愿特留神虑。”太宗闻之，大惊，乃手诏答之，深自克责，遂停册使。左仆射房玄龄、中书令温彦博、礼部尚书王珪、御史大夫韦挺等内外群官奏称：“许适陆氏，无显然之状，大礼既行，不可即止。”陆爽又抗表云：“其父存日，与郑家还往，时相赠遗资财，无婚姻交涉。”太宗谓公曰：“群臣或阿顺旨，陆氏何为分疏？”公曰：“以臣度之，其意可识，将以陛下同于太上皇。”太宗曰：“何谓也？”公曰：“太上皇昔平都城，得幸处俭妇。处俭时为太子舍人，太上皇闻之不悦，遂令东宫出为万泉令，每恐惧不全首领。此陆爽谓陛下今虽容之，恐阴加谴责，所以反覆自陈，不足多怪。”太宗笑曰：“外人意见，或当如此。然朕之所言，未能使人必信。”

谏解薛仁方官加杖

蜀王妃杨誉，竟婢为都官郎中薛仁方留问，未及与夺，其子为千牛，于殿庭自列云：“五品已上，不合留身。以臣父是国亲，故生节目，不肯断决，淹历岁年。”太宗闻之大怒，曰：“知是我之亲戚，犹作如此艰难，不可容也。”即令杖仁方一百，免所居官。公进谏曰：“城狐社鼠，皆是微物，为其所凭恃，除之不易；况外家公主，旧号难理。汉晋以来莫能禁御。武德之中，已多骄逸，陛下登极方已肃然。仁方既是职司，能为国家守法，岂可横加严罚以成外戚之私乎？此源一开，万端争起，后必悔之，将无所及。自古能禁此事，唯陛下一人。备预不虞，为国常道，岂以水未横流便欲自毁堤防？臣窃思度，未见其可。”太宗曰：“诚如公言，向未思耳。然仁方专擅，禁不奏闻，虽不合重罪，宜少加惩肃。”笞三十，放之。

谏处张君快等死

刑部奏：“张君快、欧阳林谋杀苏志约取银，君快不下手。贞观九年三月赦：劫贼不



伤财主，免死，配流。经门下奏定。”刑部郎中高敬言：“举断合死。”门下执依前奏，尚书任城王道宗录奏。太宗谓侍臣曰：“国有常典，事迹可明，何得各为意见，弄其文墨。”因令御史勘当。御史奏之，太宗曰：“君快等谋为劫杀，何得免死？”因令杀之。公进谏曰：“据律：劫贼伤财主者皆死；谋杀之条：元谋者斩，下手者绞，于皆配流。劫贼重谋杀，轻赦是一时之恩，劫贼不伤财主，免死配流。则君快从重，法被宽；而刑部于后从轻，法断死，臣实有疑。”太宗曰：“几人行劫？”公对曰：“三人，下手者处死罪。”太宗令议。议定奏闻，太宗曰：“三人谋，从二人之言。”因令配流。

谏贵臣遇亲王下马

魏王师王珪奏：“准令，三品已上，遇亲王于道不下马。今皆失于仪准。”太宗怒曰：“尔等并自尊贵，卑下我子，此为非法，我不能行。”公谏曰：“自古迄今，亲王在京师者，班次三公，吏部、尚书、侍中、中书令，并三品也。若此等为王下马，王又不可安。然访诸故事，则无可准行之，于今自贻国法。”太宗曰：“国家所以立太子者，拟朕百年之后以为君也。然则人之存亡不在老幼，设无太子，则立嫡孙；若无嫡孙，即立诸子。以此而言，亦须崇敬。比孙于我，不亦近乎？”公曰：“殷家有兄终弟及之义，自周已降，立嫡必长，所以绝庶孽之觊觎，塞祸乱之源本，为国家者，所宜深慎。陛下向责王珪，乃忿怒肆情，不可以闻于臣庶。”太宗怒乃解。

谏责显仁官官司

太宗东巡，将入洛，次显仁宫，官苑官司多被责罚。公进谏曰：“陛下今幸洛州，为是旧征行处，喜其安定，故欲加恩故老。城郭之人未蒙德泽，官司苑监多及罪辜。或以供奉之物不精，或以不为献食，此则不思止足，志存奢靡，既乖行幸本心，何以副百姓所望？隋主每命在下多作献食，好为供奉，倘不好不多，则有威罚。上之所好，下必有甚，竞为无限，遂至灭亡。此非载籍所传，陛下目所亲见。为其无道，故天命陛下代之。当须战战兢兢，每事俭约，参踪盛烈，贻训子孙。奈何令在下之人，悔不为奢丽也？陛下若以为足，今日不啻足矣；为不足，万此亦不足矣。”太宗大惊曰：“非公，朕安得闻此言？而今而后，庶无此事。”

谏河南安置突厥部落

伐国公李靖、英国公李勣等击突厥牙，破之，其部落或投延陲，或投西域，而多归降者。太宗欲于河南处之。公谏曰：“匈奴自古至今，未有如斯之破败也，此是上天剿绝，宗庙神武。且其积代为寇，百姓冤讎。陛下以其归降，不能诛灭，即宜遣还河北，居其故



土。匈奴人面兽心，非我族类，强必寇盗，弱则卑服，不顾恩义，其天性也。秦汉患之若是，故发猛将以击之，收取河南以为郡县。陛下奈何以內地居之？且今降者，几至十万，数年之间，滋息加倍。居我肘腋，甫迓王畿，心腹之疾将为后患，尤不可居以河南也。”温彦博曰：“不然。天子之于物也，天覆地载，有归我者则必养之。今突厥服灭，余落归附，陛下不加怜愍，弃而不纳，非天地之道，阻四夷之意。臣愚甚，谓不可遣居河南，初无所患。所谓死而生之，亡而存之，怀我德惠，终无叛逆。”公曰：“不然。晋代有魏，时番落分居近郡，郭钦、江统请逐塞北，武帝不纳钦统等言，数年之后遂倾瀛洛。前代覆车，殷鉴不远。陛下必用彦博之言，遣居河南，所谓养虎自遗患也。”彦博又曰：“不然。圣人之道，无不通古先哲，王有教无类。突厥余魂，以命归我，我受护之，使居内地，指麾教导，示以礼法。数载之后，自为农夫，选其酋首，遣居宿卫。畏威怀德，何患之有。且光武居南单于于内部，为汉藩翰，终乎一代，不有叛逆。”太宗遂用彦博计。

谏出韦元方为华阴令

司门员外郎韦元方，给使过，所供迟晚，给使奏之，太宗大怒，出元方为华阴令。公进谏曰：“帝王震动若雷霆，怒须当罪，何得妄发前为？给使夜行，遂出敕书，事似军期，谁不惊骇？但宦者之徒，古来难狎，轻为言语，易生患害，独行远使，深非事宜，渐不可长，所宜深慎。”太宗深纳其言。

谏平高昌以为州县

高昌平，太宗欲以为州县，公谏曰：“陛下初临天下，高昌主先来朝谒，自后屡有商胡。称其绝远贡献，不礼大国，遂使王诛。再加若罪，止文泰斯亦可矣。未若因而抚之，而立其子，所谓伐罪吊人，威德被于遐外，为国之善者也。今若利其土壤以为州县，常须千于兵镇守，数年一易，每往交替，死者十有三四，遣办衣资，离别亲戚，十年之后，陇右空虚，陛下终不得高昌撮谷尺布以助中国。所谓散有用而事无用，臣未见其可。”太宗不从。

谏高昌不失臣礼

太宗谓侍臣曰：“高昌不失臣礼，岂至灭亡？朕平此一国，甚自内惧，今欲永隆功业，唯在上下不骄，进拔忠谏，以匡匡正，黜贪残，用忠良，不以小人之言而议君子，以此三道守兹宝位。”公进言曰：“臣观古帝王拨乱创业，必自诚惧。采刍尧之言，从忠谏之策；天下既安，恣情肆欲，甘乐谄谀，恶闻正谏。张良，汉王画计之臣，及高祖为天子，废嫡立庶，良曰：‘今日之事，非口舌所能争也，’终不敢复言。况陛下功业之盛，以汉高祖方



之，彼不足言，唯即位十有五年，圣泽光被；今又平殄高昌，屢以安危系意，方欲纳用忠良，开正言之路，天下幸甚。昔齐桓公、管仲、鲍叔牙、甯戚并饮，桓公谓叔牙曰：‘曷不起为寡人寿？’叔牙奉觞而起曰：‘使公无忘出而在于莒也，使管仲无忘束缚在于鲁也，使甯戚无忘饭牛车下也。’桓公避席再拜曰：‘寡人与二大夫能无忘夫子之言，则社稷不危矣。’”太宗笑谓公曰：“朕不忘布衣，公不得忘叔牙之为人也。”

谏封禅

贞观六年，匈奴克平，远夷入贡，符瑞日至，年谷频登。太宗欲封泰山，数与房玄龄等言及封禅；太宗欣然。于是群臣咸称述功德，以为时不可违，今日行之，臣等犹谓其晚。公谏以为不可。太宗曰：“朕欲公极言之，勿有所隐。朕功不高邪？”曰：“功高矣。”“德未厚邪？”曰：“德厚矣。”“华夏未义安邪？”曰：“义安矣。”“远夷不慕义邪？”曰：“慕义矣。”“嘉瑞不至邪？”曰：“至矣。”“年谷不登邪？”曰：“登矣。”“然则何为不可？”公对曰：“陛下功高矣，人未怀惠；德厚矣，泽未滂流；诸夏义安矣，未足以供事；远夷慕义矣，无以供其求；符瑞虽臻而爵罗犹密，积岁丰稔而仓廩尚虚，此臣所以窃为未可。臣未能远譬，且借喻于人。今有人长患十年疼痛，不息医疗，且愈，皮骨仅存，便欲负米一石，日行百里，必不可得。隋氏之乱，非只十年，陛下为良医，除其疾，虽已义安，未甚充实，告成天地，臣窃为疑。且陛下东封，万国咸萃；要荒之外，莫不奔走。今自伊洛已东，暨乎海岱，灌莽巨泽，茫茫千里，人烟断绝，鸡犬不闻道路，萧条进退艰阻，宁可引彼夷狄，示以虚弱乎？竭财以赏，未厌远人之望；加年终复不偿百姓之劳。或遇水旱之灾，风雨之警，又庸夫横议，悔不可追。岂独臣之愚，亦有舆人之诵众无以夺。”于是乃止。

谏西行诸将不得上考

太宗考三品已上，令公省其当否，有所疑者，辄于状傍注帖。西行诸将并不得考。公乃谏曰：“臣闻采尺璧者，弃其微瑕；录大功者，不论细过。西行诸将，虽无大功，君集万均，克平寇乱，不辱国命，跋涉艰阻，来往二年，考其勤劳，与在家者不异。若使人无怨，亦不可劝勉将来。臣愚以谓，西行诸将，君集万均以外，五品已上，有功勋、无罪殿者，其考请，更斟酌，匪唯一事得所，足以劝后人。”太宗从之。

谏亲格猛兽晨出夜还

太宗幸同州，校猎，亲格猛兽，晨出夜还。公谏曰：“臣闻《书》美文王不敢盘于游田；《传》述虞箴，称夷羿以为诫。昔汉文临霸坂，欲驰下，袁盎揽辔曰：‘圣主不乘危，



不微幸。’今陛下驰六轡，飞驰不测，如有马惊车败，陛下若欲自轻，其奈高庙何？孝武好格猛兽，相如谏曰：‘力称乌获，捷言庆忌，人诚有之，兽亦宜然。卒然遇逸才之兽，骇不存之地，虽有乌获之猛，逢蒙之伎，不可得用而枯木朽株尽为难矣。虽万全而无患，然本非天子所宜。’近孝元郊泰畤，因留射猎，薛广德奏称：‘窃见关东困极，人民流离，今日撞亡秦之钟，歌郑卫之乐，士卒暴露，从官劳倦，愿亟反宫。’上即日还。臣窃思此数帝之心，岂同木石，独不好驰骋之乐而割情屈已？从臣下之言者，志存为国，不为身也。臣闻车驾近出，亲格猛兽，晨往夜还，以万乘之尊，暗行荒野，践深林，涉丰泽，甚非万全之计。愿陛下割私情之娱，释格兽之乐，上为宗庙社稷，下慰群寮兆庶。”太宗曰：“昨夜之事，偶属麇昏，非故然也。自今以后，深用为诫。”

谏禁张士贵

太宗因教习不整，遣太将军张士贵杖中郎、郎将等，士贵坐杖轻，下吏。公谏曰：“臣在外窃闻大将军张士贵坐行杖阿纵，送付大理。臣以为教习不整，官司诚合重责，但将军之任，职在爪牙，委以心膂，取其诚效，行杖小有不称，未是将军之罪。且使将军执杖，已不可为后法。又以杖轻加责，弥复惊骇物情。假令推得阿私，终恐有亏圣德。”太宗大笑，遽令释之。

谏案验告讦

太宗听告讦之言，案验多谬。公进曰：“凡欲致化，必在上下相亲，朝廷辑睦。今则告讦者进，遇恶者不齿，君子苟免，小人遂忘，莫相劝诫，任其是非，国俗如此，何以求化？”太宗纳之。

谏内出高昌妇女与薛万均对事

或告大将军薛万均平高昌，日与高昌妇女有私，敕大理卿孙伏伽推鞠，万均不服，内出高昌妇女对问。公谏曰：“万均兄弟，诚款早著；奸私之事，虚实难明。若罪状显然，录付伏伽自了；若事无指的，万均必是有辞，遣大将军与破亡妇女对辨奸秽，辞既不伏，听者必疑。臣闻君使臣以礼，臣事君以忠。实则所得者轻，虚则所失者重，故秦穆公饮盗马之酒，楚庄王赦绝缨之客，且楚庄秦穆，并夷狄之诸侯，列名五伯，垂芳千祀。况陛下以万乘之主，道高尧舜，作之不法，何以示远？”太宗纳其言而罢焉。

谏新罗国献美女

新罗国献美女，公谏曰：“臣一昨在内，略闻新罗国重更进女，未委逗留计。蕃夷献



女，诚不足怪，但今日受纳，实非其时，道路传闻，必生横议，若微亏圣德，悔不可追。且愿详择事谊，以礼告示，申其使人诚款；必不得已，然后遂其所欲，则远夷悦服，人无谤言。”太宗喜形于色而遣之。

谏阉竖妄有所奏

阉竖使还，妄有所奏发，太宗甚怒，公进谏曰：“阉竖虽微，狎近左右，时有言语，轻而易信，浸润之譖，为患特深。以今日之明，必无所虑；为子孙教，不可不杜绝其原。”太宗笑曰：“非公，朕安得闻此言。”

谏责房玄龄等

房玄龄、高士廉问少府少监窦德素，北门近有何营造，德素以闻，太宗大怒，谓玄龄等曰：“君但知南牙耳，北门小小营造，何预君事邪？”玄龄等拜谢。公进曰：“臣不解陛下所责，亦不解玄龄等谢。玄龄等并是大臣，即陛下股肱耳目，有何营造，何容不知？责其访问，臣所不解；且所为有利害，役功有多少。陛下所为若是，当助陛下成之；所为若非，奏陛下罢之，此乃君使臣，臣事君之道也。玄龄等问既无事而陛下责之，玄龄等不识所守，但知拜谢，臣亦不解。”太宗深愧之。

谏李弘节家人卖珠坐所举

桂州督李弘节身死之后，其家卖珠，太宗闻之，乃宣言于朝曰：“此人平生之日，宰相皆言其清，其家今既卖珠，所举者岂得无罪？”敕案之。公谏曰：“陛下生平疑此人浊，未见受财之所，今闻其实珠，将过罪举者，臣不知所谓。自圣朝以来，为国尽忠、清贞自守、终始不渝者，屈突通、张道源而已。通子三人来选，共有一匹羸马；道源儿子不能存立，未见一言及之。今弘节为国立功，前后大蒙赏赉，居官终没不言贪残，妻子卖珠，未为有罪。审其清者，无所存问；疑其浊者，傍责举人，虽云疾恶情深，是亦好善不笃。臣窃思度，未见其可，恐有识闻之，必生横议。伏愿留心再思。”太宗抚掌曰：“造次下思，遂有此语，方知谈不容易。”

谏上书多论绫锦

或有上书者，太宗览之，谓侍臣曰：“比来多论绫锦，却不言猎射。”公对曰：“绫锦虽陛下所好，比之犹差；从禽不强人所不能。古人有言曰：‘道所以不言，言亦知不可得。’”太宗笑曰：“理实当然，魏徵之言，亦何由可得。”



谏移魏王居武德殿院

太宗移魏王于武德殿院，公谏曰：“此殿在内，处所宽闲，参奉往来，极为便近。王既是爱子，陛下常欲安全，每事抑其骄奢，不处嫌疑之地。今移此殿，便是东宫之西，海陵昔居，时人以为不可，虽时异事异，犹恐人之多言。又王之本心，亦不宁息。既能以宽为惧，伏愿成人之美。”太宗欣然从之。

卷 三

对突厥内大雪

北蕃归朝人奏称：“突厥境风大寒雪，人饥，羊马并死。中国人在彼者，皆入山作贼，其人情大恶。”太宗闻之，谓公曰：“观古来人君，行仁义、任贤良则理；行暴虐、任小人则乱。突厥所信任者，并共卿等见之，略无忠正可取者。頡利复不忧百姓，恣情所欲为，朕以人事观之，亦何可久，卿以为何如？”公对曰：“昔晋文侯问李克，诸侯谁先亡？克曰：吴先亡。文侯曰：何故？克曰：战数胜战。数则人疲，数胜则主骄，以骄主驭疲人，不亡何待？頡利逢隋末中国丧乱，遂恃众内侵，今尚不息，此其必亡之道。”太宗然之。

对北蕃扰乱须发兵

太宗谓公曰：“今北蕃扰乱，须发兵收取河南地。”公对曰：“突厥虽乱，未甚指的。必其牙所有事，自不敢住在河南。臣愿请更详审。”太宗曰：“古有好仁义而亡者，有好战伐而灭者，朕意止欲安静，得非病邪？”公对曰：“静者为化之本。”

对大乱之后大可致化

太宗论自古政化得失，因曰：“当今大乱之后，造次不可致化。”公对曰：“不然。凡人居安乐则骄逸，骄逸则思乱，思乱则难化。在危困则忧死亡，忧死亡则思化，思化则易教。然则，乱后易教，犹饥人易食也。”太宗曰：“善人为邦百年，然后胜残去杀，大乱之后，将求致化，宁可造次而望乎？”公对曰：“此指常人，不在圣哲。若圣哲施化，上下同心，人应如响，不疾而速，期月而可，信不为过。三年成功，犹谓其晚。”太宗深纳其言。右仆射封德彝等，咸共非之曰：“三代以后，人渐浇讹。故秦任法律，汉杂霸道，皆欲化而不能，岂能化而不欲。魏徵书生，不识时务，若信其虚论，必败乱国家。”公曰：“五帝



三王不易人而化，行帝道则帝行，王道则王，在于当时所化之而已。考之载籍，可得而知。昔黄帝与蚩尤七十于战，其乱甚矣，既胜之后，复致太平。九黎乱德，颡项征之，既克之后，不失其化。桀为乱虐而汤放之，在汤之日则得太平。纣为无道，武王伐之，成王之日亦致太平。若言人渐浇讹，不返淳朴，至今应悉为鬼魅，宁可复得而教化邪？”德彝等无以难之，然咸以为不可。太宗力行不倦，三数年间，契丹、靺鞨内附，突厥破灭，部落列为编户。太宗每谓侍臣曰：“贞观之初，人皆异论云：当今必不可行帝王道，唯魏徵劝我而已。我从其言，不过数载，遂得华夏安宁，远夷宾服。突厥万代以来常为劲敌，今头首并带刀宿卫，部落皆袭衣冠，使我不动干戈，数年之间遂至于此，皆魏徵之力也。”又复谓公曰：“玉虽有美质，在石间，不值良工琢磨，与瓦砾不别；若遇良工，即为万代之宝。朕虽无美质，为公所切磋，约我以仁义，弘我以道德，使朕功业至此，公亦足为良匠，唯惜不得使封德彝见之。”公再拜，谢曰：“匈奴破灭、海内康宁，自是陛下威德所加，实非群下之力；但喜逢明圣，不敢贪天之功。”太宗曰：“朕能任公，公称所委，其功独在朕乎？何故饰让也。”

对上封人请亲纳表奏

上封人多请太宗亲纳表奏，以防壅塞。太宗以问公，公对曰：“观此人意见，殊乖大体。若请陛下，不任百司亲庶事，岂唯朝堂一所，则州县之务亦须陛下亲断。”

对隋日禁囚

太宗论隋日禁囚，公对曰：“臣昔在隋时，闻有盗发炀帝，令士澄捕之，但有疑即苦加拷掠，枉承贼者二千于人，并令同日斩决。大理丞张元济怪之，试寻其状，乃有六七人盗发之日，先禁他所，才被放出，亦遭推劾，不胜苦痛，虚以自诬。元济因此更事，寻究二千人内，唯有九人不明，又案验九人，四人非贼。有司不敢执奏，遂并杀之。”太宗曰：“非唯炀帝无道之君，臣下亦不尽忠。须相匡谏，不避诛戮。岂得苟行谄佞，求悦乎？君臣如此，何能不败？赖公等共相辅弼，遂得囹圄空虚。欲公等善始令终，常如今日。”

对齐文宣何如人

太宗谓侍臣曰：“齐文宣何如人？”公对曰：“非常颠狂，然与人共争道理，自知短屈，即能从之。臣闻齐时，魏恺先任青州长史，尝使梁还，除光州长史，不就，杨遵彦奏之。文宣帝大怒，召而责之。恺曰：‘臣先任青州大藩长史，今有使劳，更无罪过，反授小州，所以不就。’乃顾谓遵彦曰：‘此汉有理。’因令舍之。”太宗曰：“往者卢祖尚不肯受官，朕遂杀之，宣帝虽颠狂，尚能容止，此事朕所不如也。祖尚不受处分，虽失人臣之礼，朕



即杀之，大是伤急。一死不可再生，悔所无及，宜复其官阴。”

对周孔儒教商韩刑法

太宗曰：“周孔儒教，非乱代之所行；商韩刑法，实清平之秕政。道既不同，固不可一概也。”公对曰：“商鞅韩非申不害等，以战国纵横，间谍交错，祸乱易起，谲诈难防，务深法峻刑以遏其患，所以权教于当时，固非致化之通轨。”

对为政之要务全其本

太宗与贵臣宴于丹霄殿，谓群官曰：“为政之要，务全其本。若中国不静，远夷虽至，亦何所益？朕与公辈共理天下，令中夏义安，四方静肃，并由公等咸尽忠诚，共康庶绩之所致耳。朕实喜之。然安不忘危，亦兼以惧。朕见隋炀帝篡祚之初，天下强盛，弃德穷兵以取颠覆；頔利近者，足为强大，意既盈满，祸乱斯及，丧其大业，为臣于朕；叶护可汗亦大强盛，自恃富贵，通使求婚，失道怙乱，奄致破灭；其子既立，便肆猜忌，众叛亲离，覆基绝嗣。朕虽不能远慕尧舜禹汤之德，自睹此辈，何得不减惧乎？公等辅朕，功绩已成，唯当慎以守之，自致长保，并宜勉力，事有不可，则须明言，君臣同心，何得不理。”公对曰：“陛下弘至化，安天下，可谓功已成矣。然每睹非常之庆，弥切虑危之心，自古至慎，无以加此。臣闻鲍叔牙饮桓公，祝曰：‘愿君无忘在莒，管仲无忘在鲁，甯戚无忘饭牛’。陛下居安思危，在治思乱，无忘之念过叔牙之愿矣。臣闻上之所好，下必从之，明诏奖励，足使懦夫立节。”

对为君之道先存百姓

太宗问拓设使人曰：“拓设兵马，今有几许？”对曰：“见有四千余兵，旧有四万余人。”太宗曰：“为君之道，必须先存百姓，若损百姓以奉其身，如割胫以自啖，腹饱而身弊。”又曰：“身安天下安。必须先正其身，未有表正而影曲，上理而下乱者。朕每思伤其身者，不缘外物，皆由嗜欲以成其祸。若耽嗜滋味，玩悦声色，所欲既多，所须亦大，既妨政事，又扰生人。且复出一非理之言，万姓为之解体，怨讟既作，离叛亦兴。朕每思此，不敢放逸。”公对曰：“古者圣哲之王，亦近取诸身，远体诸物。昔楚聘詹何曰：‘未闻身理而国乱者。’陛下所明，实古之大义。”

对西胡爱珠

太宗谓侍臣曰：“朕闻西胡爱珠，若得好珠，劈身藏之。”侍臣咸曰：“贪财损己，实



为可笑。”太宗曰：“勿唯笑彼，今官人贪财，不顾性命，身死之后，子孙被辱，何异西胡之爱珠邪？帝王亦然。恣情放逸，劳役无度，信任群小，疏远忠正，有一于此，岂不灭亡。隋炀帝奢侈自贤，身死匹夫，亦为可笑。”公对曰：“臣闻鲁哀公谓孔子曰：‘有人好忘者，移宅乃忘其妻。’孔子曰：‘又有好忘者甚于此，丘见桀纣之君，乃忘其身。’”太宗曰：“朕与公等，既知笑人，今共相匡辅，庶免人笑。”

对奏事战惧

太宗谓侍臣曰：“朕见胡裴始毕上书，论西蕃事，意颇有情理。朕与共语，非常战惧。今奏一事，人亦应如此。”公对曰：“天颜俯临，岂得不惧。臣见在外诸司，欲奏事者，先三五日反覆寻思，及其临奏，三分不能道得一分。寻常易事，尚难如此，况争谏之人，出言皆是触忤。赖蒙陛下假其颜色，若不如此，理终不申。”

对古来帝王皆欲国祚长久

太宗曰：“古来帝王，皆欲国祚长久，但为威势既高，下情不能上达，加以小人君子杂处，其朝任不得人，遂至灭亡。”公对曰：“巧佞忠正，无代不有，但相时君所好而进。若用忠正则理，用邪佞则乱，必然之理也。”太宗曰：“为帝王者，必须慎其所与，只如鹰鹞鞍马声色殊味，朕若欲之，随须即至，如此等事，常败人正道。邪佞忠正，亦在时君所好。若任不得贤，何能无灭。”公对曰：“臣闻齐威王问淳于髡曰：‘寡人所好，与古者圣王同否？’髡对曰：‘古者圣王所好有四，今王所好唯有三种。古者好色，王亦好之；古者好马，王亦好之；古者好味，王亦好之；古者好贤，王独不好。’齐王曰：‘今无贤可好也。’髡曰：‘古之美色即有西施毛嫱，奇味即有龙肝豹胎，善马即有飞兔绿耳，此等今既无之，王之厨膳、后宫、外厩，今亦备矣。王若以今之无贤，未知前代之贤得与王相见否。’”太宗深然之。

对西蕃通来几时

太宗尝御瑶池殿，顾谓侍臣曰：“西蕃通来几时？”公对曰：“《禹贡》云：西至流沙。又云：西戎即叙，不明境域所至。汉武帝置敦煌、张掖等郡，自此已后渐通西域。”太宗谓群臣曰：“朕闻汉武帝时，为通西蕃，中国百姓死者大半。此事著在史籍，不能具道。但隋后主欲开葱岭已西，镇守俱不当死者，继于道路。加闻流沙已西，仍有隋破坏车毂，其边即有白骨狼籍。北筑长城，东渡辽水，征伐不息，人无聊生，天下叛之，聚而为盗，炀帝安然，恣其所欲，遂至灭亡，只为不闻其过。朕以此事永为鉴诫。今与诸公共理百姓，但有不可行，即向朕言，勿得面从，苟相悦善。且朕素无学术，未闲政道。一日万



机，不能尽经耳目，所有处断，恐独见不明，致有失所。所以委公等，公等善相辅弼，使兆庶得所，此乃长保富贵，荫及子孙；若尸禄旷官，苟贪荣利，必加黜辱，终不容舍。朕既以汉武帝、隋后主为龟镜，公等亦须常将此事相规谏也。”群臣并拜谢。公进曰：“陛下思弘至化，砥砺群下，臣等敢不竭股肱之力。但恐识度愚浅，无益万分。臣闻汉武帝承五代之资，天下无事，府库充实，士马强盛，遂思骋其欲以事四夷，闻蒟酱而开邛笮，贪良马而通大宛，北逐匈奴，南征百越，老弱疲于转输，丁壮死乎军旅。海内骚然，户口减半，至于国用不足，府库空虚。乃榷估盐铁，征税关市，课算舟车，告缗卖爵，侵渔百姓。万端俱起，外内困穷，无以给边费，议以营田代卒，冀以助军，迄于暮年，方始觉悟。下哀痛之诏，封丞相为富民侯，仅以寿终，几及大乱。炀帝恃其强盛，思欲追踪汉武帝，戎车屡动，人不聊生。十余年间，亡身戮国。陛下威加海外，无远不臻，深惟二主以为殷鉴，所谓一人有庆，兆民赖之。臣等奉以周旋，不敢失坠。”太宗曰：“朕遇千虑一失，必望有犯无隐。”

对百官应有堪用者

太宗曰：“百官之内，应有堪用者，朕未能知之，不可造次，为天下主诚亦难。朕今行一事，则为天下所观；出一言即为天下所听。用得好人，为善者皆劝；误用恶人，不善者竞进。赏当其劳，无功者自退；罚当其罪，为恶者减惧。故知赏罚不可轻行，用人弥须审悉。”公对曰：“举选之事，自古为难。故考绩黜陟，察其善恶。今欲求人，必须先访其行，审知其善，然后任之。假令此人不能济事，只是才力不及，不为大害；误用恶人，假令强干，为患极多。但乱代唯求其材，不顾其行；太平必须材行俱兼，始可任用也。”

对铁之为用

太宗曰：“铁之为用，无处不须。至于金银，玩好而已。不知何意，人皆爱之。”公曰：“兵杖农器，非铁不可；金银珠玉，唯有丰年人以为货。故谚云：‘丰年珠玉，俭年谷粟’。”太宗曰：“正为蕃人爱，不可全弃。”

对侍臣全无谏争

太宗谓孙伏伽曰：“今以公为谏议大夫，必须献可替否。”又谓侍臣曰：“公等全无谏争。”公对曰：“昔者齐景公射不中的，而左右俱称其善，景公曰：‘自晏子死，不复闻寡人之过。’弦章对曰：‘上之所好，下必从之。君若以谗谄为忠，则人皆晏子。’陛下每称述忠谏之士，若有事须献替，谁敢不尽其忠？”



对李密王世充优劣

太宗问曰：“义宁之初，国家虽有关中，王世充、李密各自割据。当此之时，诸君所事之主，谁优谁劣？”公对曰：“李密智计英拔而器度局小。”戴胄奏称：“王世充言议分明繁而寡要，为化但为一时之利，不堪思其后图。”太宗曰：“平定天下，朕虽有其事，若守之失图，功业亦复难保。秦始皇实可为诫。公等宜念公忘私，荣名高位，可以长守。”公对曰：“臣闻之：战胜易，守胜难。陛下深思远虑，安不忘危，功业既彰，德教复治。常以此为政，天下不得不安，四海不得不乐。”

对吐谷浑使人惧

吐谷浑使人请婚，唐俭奏称：“其使大战惧。”太宗曰：“公等以此言虚实。”公对曰：“今四方诸国，并为陛下臣妾。若发一使，遣诸国征之，立即败亡，何得不惧也。”

对隋炀帝求觅无己

太宗曰：“隋炀帝求觅无己，内则淫荡于声色；外则剿人以黩武，遂至灭亡。朕睹此，但以清静抚之。今百姓自言安乐，岂知朕之力也。”公对曰：“尧人击壤而歌，亦云：‘帝有何力于我哉？’只将此事，以为太平百姓，亦不知由主上安之也。”太宗曰：“朕今安养百姓，岂求其知，但论理乱在时君耳。”公对曰：“此事非知之难，终行之难。”

对隋日山东养马

太宗曰：“隋日，山东养武马，一匹百余贯钱。”公对曰：“当时官人因自贩马，粟麦既贱，立限令市。非理督责，乃至破其产业，官人马尽便宽其日月。百姓不堪，所以聚而为盗。”太宗谓侍臣曰：“朕身不下殿堂而四夷宾服，此之功业，实所重惜思安，其术未尝一日忘也。朕见隋炀帝，都不以官人违法为意，性多猜忌，唯虑有反叛者。朕则不然，但虑公等不遵法式，致有冤滞，每见告密之徒，殊不挂意，宜体此心，务以德养人，即是勿毁之道。”公对曰：“陛下平定宇内，实如诏旨。今功业既定，天下已安，而日慎一日，务以德胜。臣等虽愚，敢不奉识圣意。”太宗又谓萧瑀曰：“卿在隋时，数见皇后否？”瑀对曰：“自其儿女，不得相见；臣何人也，辄得见之。”公曰：“臣闻炀帝，特不信齐王，常有中使察之，奏其饮宴，则曰：‘经营何事称意？’若其忧悴，则曰：‘彼将有他念。’故尔父子之间且犹至是，而况他人乎？”太宗曰：“今朕视正道，胜炀帝知齐王远矣。”



对隋主入突厥界

太宗曰：“大业之初，隋主人突厥界，兵马之强，自古已来不过一两代耳。大业之末，夷人极盛，今一衰弊，并为我擒。以此观之，富贵不可骄逸也。”公对曰：“天下安危，唯在为政善恶。臣观隋氏、突厥之败，实由贪戡放逸。陛下居安思危，故得天下静谧。”

对不见谏言

太宗谓侍臣曰：“比三两月来，不见公等谏言，未知以朕不可谏争，隐而不言为？是庶事咸得不须论也？”公对曰：“陛下每见一事即为鉴诫，臣等深识圣情，必事理有违，岂敢隐而不奏。然比来大使既出，内外无事，所以不论。”

对丧乱未有如隋日者

太宗曰：“古来虽复时遭丧乱，未有如隋日者。朕皆平之，功何如古人？”公对曰：“前代虽逢丧乱，皆有牧宰割据，不过数岁即有所归。至于隋末天下鼎沸，百姓涂炭，经十余年，陛下应天顺人，一时平定，此乃再造天地，重立区夏，此之功业，古来未有。”

对人君所务宽厚

太宗谓右仆射李靖等曰：“人君之道，唯在宽厚，非但刑戮，乃至鞭撻亦不欲行。比每人嫌朕太宽，未知此言可行否？”公对曰：“古来帝王，以杀戮肆虐者实非久安之策。臣等见隋炀帝初有天下，亦大威严，而官人百姓造罪未一。今陛下仁育天下，万姓获安，臣下虽愚，岂容不识恩造。”太宗曰：“公等假以为非，朕终不改此志。”

对向晓后有一星

太宗谓李靖等曰：“今旦向晓，复有一星出东方，旧者合昏没，何因更有此星？”又曰：“孛星。”公对曰：“典籍所载，有长星，有彗星，有彗星。长星其形极长，彗星长短，彗星如帚形。今人所谓帚者，即是彗星。”公又奏曰：“臣闻古帝王未有无灾变者，但能修德，灾变自消。陛下因有天变，遂能减惧，反覆思量，深自克责，虽有此变，必不为灾。”

对人身假令无病

太宗曰：“夫人之身，假令无病，不免有疥癣，及时有小恶处。用人求备，理实为



难。”公对曰：“自古为政，但举大体。尧舜之时，非全无恶，但为恶者少；桀纣之代，非全无善，但为恶者多。譬如百尺之木，岂能无一枝节？今官人居职，岂能全不为非？但犯罪者少，即是大化。”

对百姓籍我抚养

太宗谓房玄龄等曰：“今天下百姓，籍我抚养，先须令我安稳。今上封者，唯道九成往来，百姓辛苦。”公对曰：“陛下意存容纳，许其进言，则妄处多不妨，时有可录。陛下所有短长，此人多不肯隐，但容纳之，亦是善事。”

对百姓大似信佛

太宗谓长孙无忌等曰：“在外百姓，大似信佛。上封人欲我每日将十个大德共达官同人，令我礼拜。观此，乃是道人教其上书。”公对曰：“佛法本贵清静，以退浮竞；且道、俗事既不同，昔释道安，一时名德，符永固与之同舆，权翼以为不可；释惠琳非无才俊，宋文引之升殿，颜延之云：‘此三台之位，岂可使刑余之人居之。’今陛下若欲崇信佛教，岂须日别见道人。”

对儿子常一处

吴王恪奉见太宗，谓房玄龄等曰：“朕于儿子，常欲一处。但家国事义，实亦不同。欲令其子孙代代恒继，且又绝其覬觐。朕今供养太上皇，与私亦异，以镇抚四海，不貽太上皇忧。为孝则天子之孝也。”公对曰：“臣闻孝行有三：大孝尊亲，其次不辱，其下能养。今陛下立身扬名，富有天下，华夷安泰，此实大孝，岂同进膳粥侍左右之孝也。且以四海之主，岂比庶人？若与子孙同在一处，非所以保根固本之策。”

对无事与公等饮

太上皇幸两仪殿，内外群臣奉见太上皇，还西宫，太宗从至大安宫，还，顾谓长孙无忌等曰：“今天下无事，侍太上皇与公等同宴，可谓至乐。然朕若与公等忘政事，但欢宴，盖非常安之法。”公对曰：“陛下酣宴之后，犹不忘庶政，古者尧舜禹汤所以太平，实用此道。”太宗因曰：“古之人君处廊庙，居逸乐，臣下一事失所，便弃前功，解免黜放，急处如此。”公对曰：“人君发怒于一臣，将行刑罚而能念其旧功者，鲜矣。陛下今发德音，臣等幸甚。”



对言者君子之枢机

太宗曰：“朕每思言者，君子之枢机，谈何容易；匹夫之间，出言不善，人或记之，成其耻累。朕则四海之主，出一言失所，亏损岂同匹夫者邪？”公对曰：“人君居四海之尊，若有亏失，古人以为日月之蚀，人皆见之，实如陛下之所诫慎。”

卷 四

对所居殿隋文帝造

太宗谓房玄龄等曰：“朕所居殿，隋文帝造，已经四十于年，损坏处少。唯承乾殿是炀帝造，工多觅新奇，斗棋至小，年月虽近，破坏已多。今为政，更欲别作意见，亦恐似此屋耳。”公对曰：“昔魏文侯时租赋岁倍，有人致贺，文侯曰：‘令户口不加，租赋岁倍，此由课敛多，譬如皮，熟之令大则薄，令小则厚，理人当亦如此。’由是魏国大化。臣今量之，陛下为政，百夷宾服，天下已安，但须守今日化道，亦归之于厚，此即是已足也。”

对周齐末主优劣

太宗谓公曰：“昨进周齐史看，末代之主，为恶莫不相似，俱至灭亡。然两主若为优劣？”公对曰：“二主亡国虽同，其行即别。齐主懦弱，政出多门，上下相蒙，遂至亡国；周主立性凶强，威福在己，亡国之事，皆在其身。以此而论，齐主为劣。”

对平定四方

太宗谓侍臣曰：“计朕平定四方，优勤百姓，虽不及前代哲王，比炀帝故应万倍。但君臣相须，事同鱼水。然鱼不得水则立，水无鱼则废。世有理乱，移易风俗，终自如旧。固知国家唯藉臣佐及百姓，共相翊戴，方得保其尊荣。”公对曰：“昔楚王召詹何为相，何曰：‘唯解修身，不解理国。’王又遣使重请何曰：‘未有身正而国不理者。’今远方慕化，并由陛下克己自修，所以夷狄咸知效命。”

对刑法宽猛

太宗御太极殿，大赦，因谓侍臣曰：“为君极难，法若急，恐滥及善人；法若宽，则



不肃奸宄。宽猛之间，若为折衷？”公对曰：“自古为政者，因时设教。若人情似急，则济之以宽；如有宽慢，则纠之以猛。时既不常，所以法令无定。”

对有天下者皆欲子孙万代

太宗曰：“朕常思，自古有天下者，皆欲子孙万代，政化过于尧舜，及其所行，则与尧舜相反。如秦始皇，亦是英雄之主，平定六国已后，才免其身，至子便失其国。桀纣幽厉，亦皆丧亡，朕为此不得不惧。且天下百姓，倾耳侧目，唯看善恶。朕岂得不自思之。”公对曰：“自古以来，人君为难，只为出言即成善恶。若人君出言欲闻已过，其国即兴；若出言欲人从己，其国即丧。古人云：‘一言可以兴邦，一言可以丧邦。’正为如此。但天下人，皆自进于陛下以荣其身，若正人即欲以正道辅佐，佞人即欲以邪道自媚，工巧者则进奇服异器，好鹰犬者即欲劝令畋游。所欲自进者，不觉为非，皆言为是。若陛下常守正道，则奸人不能自效，如开其路，则人人欲遂其心矣。”太宗曰：“然。”

对隋大业起居注

太宗问侍臣：“隋《大业起居注》，今有在者否？”公对曰：“在者极少。”太宗曰：“起居注既无，何因今得成史。”公对曰：“隋家旧史，遗落甚多。比其撰录，皆是采访，或是其子孙自通家传参校，三人所传者，从二人为实。”又问：“隋代谁作起居舍人？”公对曰：“崔祖浚、杜之松、蔡允恭、虞南等。臣每见虞南说，祖浚作舍人时，大欲记录，但隋主意不在此，每须书、手、纸、笔所司多不即供，为此，私将笔抄录，非唯经乱零落，当时亦不悉具。”

对帝王有盛衰

太宗谓侍臣曰：“观古来帝王，有盛有衰，犹朝之有暮，皆为蔽其耳目，忠正者不言，邪谄者日进。既不见其过，以至于灭亡。朕在九重之中，不能遍览天下，故布之卿等，以为朕之耳目，莫以天下无事，四海安宁，便不存意。”公对曰：“自古亡国之主皆为居安忘危，处理忘乱，所以不能长久。陛下富有四海，内外清晏，遂能留心政道，常如临深履薄，国家历数，自然灵长。臣等滥当重任，今又亲蒙诫励，唯知自励，敢不尽心。”

对隋末百姓不自保

太宗曰：“隋时百姓，假有财物，岂能自保？自我有天下以来，存心抚养；无所科差，人人皆得营产业，守其资财，即我所赐。向使我徵求无已，虽数赏赐，亦不如不得。”公



对曰：“尧舜在上，百姓亦云：‘耕田而食，凿井而饮。’含哺鼓腹而云：‘帝有何力于其间哉。’今陛下如此含养百姓，可谓日用而不知矣。”又奏曰：“昔晋文公出畋，逐兽砀入大泽，迷不知所出。其中有渔者，文公谓曰：‘我，若君也，道安从出？我且厚赐汝。’渔者曰：‘臣愿有献。’文公曰：‘出泽而受之。’于是送出泽。文公命曰：‘子之所欲教寡人者何也？愿受之。’渔者曰：‘鸿鹄保大海之中，厌而数移徙之小泽，则必有缙弋之忧；鼉鼉保渊厌而出之浅渚，则必有网罗钩射之忧。今君逐兽，砀人至此，何行之大远也。’文公曰：‘善。’谓从者记渔者名，渔者曰：‘君何以名为君？其尊天事地，敬社稷，固四国，慈爱万民，薄赋敛，轻租税者，臣亦与焉；君不尊天事地，不敬社稷，不固四国，外失礼于诸侯，内逆人心，一国流亡，渔者虽有厚赐，不得保也。’遂辞不受。”太宗曰：“卿言是也。”

对月令早晚有

太宗谓侍臣曰：“《月令》蚤晚有？”公对曰：“今《礼记》所载，《月令》起自吕不韦。”太宗曰：“但为政专依月令，善恶复皆如所记否？”公对曰：“秦汉以来，圣主依《月令》事多矣；若一依者，亦未有善，但古者设教，劝人为善，所行皆欲顺时，善恶亦未必有此。”太宗曰：“《月令》既起秦时，三皇五帝并是圣主，因何不行《月令》？”公对曰：“计《月令》起于上古，是以《尚书》云：‘敬授人时。’吕不韦止是修古《月令》，未必始起秦代也。”

对读书善事

太宗问曰：“朕比读书，所见善事，并即行之，都无所疑；至于用人，则善恶难别，故知人极为不易。朕比任使公等数人，何因政化犹不及文景？”公对曰：“陛下留心政道，委任臣等，逾于古人，正由臣等庸短，不能副陛下所寄；若论四夷宾服；天下无事，古来未有似今日者。至于文景，不足以方圣德。”公又曰：“自古人君，初为政者皆欲比于尧舜，及天下既安，即不能终其善事。人臣初被委任，亦欲尽心竭力，及得富贵，即欲保全官爵。若使君臣常不懈怠，岂有天下不安之理？”太宗曰：“确论至理，诚如公言。”

对弘演内肝

太宗谓侍臣曰：“狄人杀卫懿公，尽食其肉，独留其肝，弘演呼天大哭，自出其肝而内懿公之肝。今欲求其人，不可得也。”公对曰：“在君待之而已。昔豫让为智伯报仇，欲刺赵襄子，襄子执而护之，谓让曰：‘子昔不事范中行乎？智伯尽灭之，子乃委质智伯，不为报仇，今为智伯，何也？’让答曰：‘臣昔事范中行，中行以众人遇我，我以众人报



之；智伯以国土遇我，我以国土报之。’在君礼之而已，何患无人。”

对怀州有上封事者

太宗谓侍臣曰：“朕昨往怀州，有上封事者云：‘何为常差山东众丁于苑内营造，即日徭役似不减隋时。怀洛已东雕残，人不堪命，而畋猎尤数，骄逸之主也。今者复来怀州游畋，是不得复至洛阳矣。’夫四时搜狩，既是帝主常礼，今幸怀州，秋毫不干于百姓，凡上书谏争，自有常准。臣贵有辞，主贵能改。如斯诋毁，有似咒诅。”公对曰：“国家开正言之路，所以上封者极多。陛下亲自披阅，或冀片言可取，所以侥幸之士，得肆丑词。臣谏其君，其难折衷，从容讽劝使行之。孔子曰：‘凡谏有五，吾从讽谏。’汉元帝尝酎祭宗庙，出便门，御楼船，御史大夫薛广德当乘舆前，免冠顿首曰：‘宜从桥。陛下不听臣，臣自刎，以颈血汗车轮，陛下不得入庙矣。’元帝不悦，光禄勋张猛进曰：‘臣闻主圣臣直，乘船危，就桥安。圣主不乘危。广德言不可不听。’元帝曰：‘晓人不当如是邪。’乃从桥。以此而言，张猛可谓能谏其君者也。”

对百姓安否

公拜谒还乡，太宗遣三卫二十人从，仍借殿中马三十匹，赐物七百段。并给传乘。至是还，奉见焉，太宗劳之曰：“今日卿至，真可谓喜也。”公再拜谢。太宗乃问所经百姓安否，公对曰：“百姓咸蒙亭毒之恩，并得安居乐业。”太宗曰：“朕存心爱养，不愧古人，所未免百姓之言，唯猎一事耳。”时桂阳主在座，奏称：“陛下出游，唯将近亲左右及给使等，何关百姓？”公曰：“譬如人之故旧，有儿子无赖，破其产，虽不关已，然心必恶之。”又曰：“去冬暮，从怀州还，有人言陛下复欲幸关南，在外悉装束讫而竟不行，因何有此消息。”太宗笑曰：“当时实有此心，但畏卿嗔，遂即不去。”公再拜谢。

对守文创业

太宗谓侍臣曰：“帝王之业，草创与守文，孰难？”左仆射房玄龄奏称：“天地草昧，群雄竞逐，功破乃降，战败乃服。由此言之，草创为难。”公对曰：“帝王之起，必由仁德，天下乐推，同心协力，为物除害，天授人与，翻为不难；然既得之后，志趣骄逸，人乐安静而行役不休，人已雕残而哀敛不息，有国之弊，常由此起，以斯而言，守文则难。”太宗谓房玄龄曰：“卿所对，不如微之切也。”

对君臣治乱

太宗谓侍臣曰：“君乱于上，臣理于下；或臣乱于下，君理于上，二者苟逢，何者为



甚？”公对曰：“君心向理，则照见下非；若诛一劝百，谁敢不畏？若昏暴于上，忠谏不从，虽百里奚、伍子胥之在吴虞，不救其祸。”太宗曰：“必如此也。齐文宣昏暴，杨遵彦以正道扶之，得理，如何？”公对曰：“遵彦弥缝暴主，救理人物，才得免乱，亦甚艰辛，于圣主严明，臣下畏法，不同日而语。”

对山崩川竭

太宗谓侍臣曰：“山崩川竭，自古以为灾。比来水旱不调，抑亦由人事？”公谢曰：“山有朽壤而崩，古人不以为患；唯政教有失，乃以为灾。”太宗曰：“然。”

对隋主博物有才

太宗谓侍臣曰：“朕观隋主文集，博物有才，亦知悦尧舜之风，五桠紂之行。然而行事，即与言相违，何也？”公对曰：“自古称人主之善，在有君人之量，能任使人，智者为之谋，勇者为之战，虽聪明圣哲，以黠纡冕旒垂耳目。隋主虽有俊才，无人君之量，恃才骄物，所以至于灭亡。”太宗曰：“然。昔汉武征役不息，户口减半，中涂能改，还得传祚子孙。向使隋主早寤，亦不至灭亡也。”

对往岁马料

太宗曰：“往岁马料甚厚，今唯料馥三升，数年来又放宫人三五百人出，准计所费，与旧当减半，何为往日人多料厚而常足，今日人少料薄反以不供，何也？”公对曰：“往岁所须，皆于百姓取足；今日所用，皆于仓库出供，所用虽多，不扰百姓；所以用虽少于往时，而供进时有所阙。”

对古今人同异

太宗问曰：“今人与古人同邪？”公对曰：“人多以古人淳朴，今人浇浮。以臣量之，势亦相似。”太宗曰：“今之人固不及古，古之君臣为化，唯以百姓心为心；近代帝王，唯损百姓以适其欲。朕今与公等，虽不及古，然须以百姓为心，不得有损于物而自奉也。”

对庆善乐为文舞

庆善乐为文舞，破阵乐为武舞，诏公及虞南、褚亮、李百药等为之词。太宗谓侍臣曰：“昔周公相成王，制礼作乐，久之乃成。逮朕即位，数年之间，成此二乐；五礼又复刊定，未知堪为后代法否？朕观前王有功于人者，作事施令，有即为法所贵，不忘其德者



也。朕既平定天下，安堵海内，若德惠不倦，有始善终，自我作古，何虑不法。若遂无德于物，后代何所遵承？以此而言，后法不法，犹在朕耳。”公对曰：“陛下拨乱反正，功高百王，自开辟以来，未有如陛下者也。更创新乐，兼修大礼，自我作古，万代取法，岂止子孙而已。”

对太子师保古难其选

太宗谓侍臣曰：“太子师保，古难其选。成王幼小，以周召为保傅，左右皆贤，足以长仁致化，称为圣主。及秦之胡亥，始皇所爱赵高作傅，教以刑法，及其篡也，诛功臣、杀亲戚，酷烈不已，旋踵亦亡。以此而言，人之善恶，诚由近习。朕弱冠交游，唯柴绍宴诞，然则诞等为人，既非三益，及朕居宝位，经理天下，虽不及尧禹之明，庶免乎孙皓、高纬之暴，以此言之，复不由染，何也？”公对曰：“中人可与为善，亦可与为恶。然上智之人，自无所染。陛下受命自天，平定寇乱，救兆人之命，旋致升平，岂绍诞之徒能累圣德？但《传》云：‘放郑声，远佞人。’近习之间，尤宜深慎。”太宗称善。

对汉代常以八月选子女

太宗谓侍臣曰：“汉代常以八月选洛阳中子女姿色端丽者，载还后宫，此不可为法。然即日宫内，甚多配役之口，使其诞乳诸王，是非所宜。据此论选补宫列，理宜依礼。”公对曰：“人多惑嬖色，乃致败乱。周幽惑褒姒，晋献惑骊姬，耽于宠欲，废嫡立庶，幽王因此身死，遂丧西周；献公身虽护设，祸延数代。嬖御之间，所宜深慎。”

对帝王之兴有天命

太宗问侍臣曰：“帝王之兴，必有天命，非幸而得之也。”房玄龄对曰：“王者必有天命。”太宗曰：“此言是也。朕观古之帝王，有天命者，其势如神，不行而至；其无天命，终至灭亡。昔周文王、汉高祖，启洪祚，初受命，则赤雀来；始发迹则五星聚。此并上天垂示，徵验不虚。非天所命，理难妄得。朕若仕隋朝，不过三卫，亦自惰慢，不为时须。”公对曰：“《易》云：‘潜龙勿用。’言圣德潜藏之时，自不为凡庶所识，所以汉祖仕秦，不逾亭长。”

对封禅

太宗谓房玄龄等曰：“封禅是帝王盛事，比表请者不绝，公等以为何如？”公对曰：“帝王在德不在封禅。自丧乱以来，近秦山州县，雕残最甚。若车驾既行，不能全无使役，



此便是因封禅而劳役百姓。”太宗曰：“封禅之事，不自取功绩归之于天；譬如玄龄等功臣，虽有益于国，能自谦让归之于朕，岂似不言而欲自取。今向泰山，功归于天，有似于此。然朕意常以嵩高，既是中岳，何谢泰山。公等评议。”

对积德累仁

太宗问公曰：“朕为人主，实仰止古先帝王。至于积德累仁，丰功厚利，四者朕皆行之，何等优劣？”公对曰：“德仁功利，陛下兼行矣。至于功利二善，所益居多。夫平海内之乱，除戎狄之害，是陛下之功；安堵黎元，各复生业，是陛下之利。”

对贤人出仕

太宗谓侍臣曰：“夫贤人出仕，进则利物荣主，退则官达名成，勤于此事，闻之益少。唯有见恶如崩，淫酒是务，此皆不学而能，是以善人常少，恶人居多。古人称百年一贤，谓之比户企仁，奇才常不可得。”公对曰：“夫贤人居则善其身，达则兼济其物。是以明圣求之，不有懈怠。”

对帝王不能常理

太宗谓侍臣曰：“朕闻自古帝王，亦不能常化。假令内安，必有外扰。当今远夷率服，百谷丰稔，贼盗不作，内外宁静，朕喜得此事，故共公等乐饮。此非朕一人之力，亦由公等共相存辅。然安不忘亡，理不忘乱，虽知今日无事，亦须思臣终始，常得如此，始是可贵。”公对曰：“自古以来，元首股肱不能备具，或时君圣臣即不贤，或遇贤臣即无圣主。今陛下圣明，所以致化；臣等驽蹇，不称陛下所任，然臣等虽不堪任用，陛下放黜即得；若有贤臣，但令君不思化，亦无所益。今天下太平，臣等以为喜，此由陛下居安思危，孜孜不息。”太宗曰：“万机事重，岂得不思。公可语起居郎，常书笏上云：‘居安思危。’朕若不思，即向朕道。”

对加蒯谟罪

太宗与大将军蒯谟语，谟不对，太宗怒而系之，后知其聋，乃释不问，谓侍臣曰：“我昨发怒蒯谟，若遂加其罪，岂不枉滥。”公对曰：“古者帝王多因喜怒遂滥其赏罚。今陛下思怒蒯谟，遂能却更思省，若此心不移，四海之福。”



对凌敬乞贷责所举

有司奏：“近臣所荐凌敬，乞贷之状。”太宗责公等滥进何也，公对曰：“臣等每蒙顾问，常具言其长短，有学识，强谏争，是其所长；爱生产，好经营，是其所短。今其为人作碑文，教人读书，即附托官人，回易求利，与臣等所说事实未乖。陛下未用其长，唯见其短，以为臣等欺罔，实不甘心。”

对高丽等三蕃僧求学

高丽等三蕃僧，求学至中国，游莱州，莱州以闻。太宗曰：“不须遣来，此非为学问，但覩国家虚实耳。”公对曰：“陛下所为，若善此等，固当取则；若不善，虽拒蛮夷，亦无益也。”

对可爱非君

太宗曰：“《书》云：‘可爱非君，可畏非人。’天子者，有道则人推而为主，无道则人弃而不用，诚可畏也。”公对曰：“古语云：‘君，舟也；人，水也。水能载舟，亦能覆舟。’陛下以为可畏，诚如圣旨。”

卷 五

或奏公阿党亲戚

或奏公阿党亲戚者，太宗使御史大夫温彦博案验其事，乃言者谬妄。彦博奏：“魏徵人臣，须存形迹，不能避远嫌疑，为人所道，虽情在无私，事亦可责。”乃令彦博以此旨责公。因谓之曰：“君前后谏争，凡数百条，岂以小事损君众美。自今以往，不得不存形迹也。”经数日太宗问公曰：“昨来在外，闻有何不是事？”公正色曰：“前日令彦博宣敕，语臣何因不作形迹，此言大不是。臣闻君臣叶契，义体一同，未闻不存公道，唯事形迹。若君臣上下同遵此路，则邦之兴丧，或未可知。”太宗默然改容，曰：“前发此语，寻已悔之，君不得因兹遂怀隐避。”公乃再拜而言曰：“臣以身许国，正道而行，必不敢欺负；但愿陛下使臣为良臣，勿使臣为忠臣。”太宗曰：“忠良有异乎？”公曰：“良臣，稷契咎繇是也；忠臣，龙逢比干是也。良臣使身获美名，君受显号，子孙传业，福禄无疆。忠臣身受诛夷，君陷大恶，家国并丧，独有其名。由此而言，相去远矣。”太宗谓曰：“君但莫违此



言，朕不忘社稷之计。”乃赐绢一百匹。

权贵疾公

权贵疾公，每言于太宗曰：“魏徵凡所谏争，委曲反覆，从不中止，意以陛下为幼主，不同于长君。”太宗曰：“朕少不学问，唯好弓马，至于起义，即有大功；既封为王，偏蒙偏爱，理道政术，都不留心；及为太子，初入东宫，思安天下，欲克己为政，唯魏徵与王珪导我以礼，弘我以道，勉强从之，大觉利益，遂力行不息，以致太平，并魏徵等之力，所以特加礼重，每事听从，非私之也。”言者乃惭而止。

霍行斌告变

霍行斌告变，公预其事，太宗览之，谓侍臣曰：“此言大无由绪，不须鞠问，行斌宜付所司定罪。”公曰：“臣蒙近侍，未以善闻而有大逆之名，罪合万死。陛下曲垂矜照，臣将何以自安？请鞠之。”寻仍拜谢，太宗曰：“卿之累仁积行，朕所自知。愚人相谤，岂能由己，不须致谢也。”

房玄龄考绩不平

房玄龄、王珪掌内外考绩，治书御史权万纪奏其不平，追案勘问，王珪不伏，太宗付侯君集案之。公奏称：“无阿私，必不可推鞠。”太宗大怒，令君集勘当。未奏，太宗问君集，君集奏称：“‘臣谓魏徵，玄龄、王珪挟私滥考，何得阿党，固执言不可推。’徵答云：‘玄龄、王珪俱是国家重臣，并以忠正任使，其所考者既多，或一两人不当，祇是见有左右，终非心有阿私。若即推绳，不信任，此事便不可信，何以堪当重委。假令错谬有实，未足亏损国家。穷鞠若虚，失委大臣之体。且万纪每日常在考堂，必有乖违，足得论正，当时鉴见，一无陈说，身不得考，方始纠弹，徒发在上嗔怒，非是诚心为国，无益于上，有损于下，所惜伤于正体，不敢有所阿党。’”遂释不问。

侍宴于丹霄门

太宗宴于丹霄门楼，极欢，长孙无忌奏称：“王珪、魏徵昔在东宫，臣等疾之如仇，岂谓今日并坐而宴。”太宗曰：“魏徵等既能尽心，所事当时诚亦可恕。朕能拔擢用之，以至今日，足谓无愧古人。”酒酣，太宗谓曰：“徵每谏，我不能得，即嗔，公等知否？”公对曰：“臣谏不得，实未有喜，亦不敢嗔。”太宗曰：“君若不嗔，何因临时不应？”公对曰：“臣以事有不可，所以进谏。若不从辄应，便恐此事即行。”太宗曰：“当时且应，更



别陈论，亦何为不得？”公曰：“昔舜戒群下：‘汝无面从，退有后言。’若臣面从，陛下方始别陈，此即退有后言，岂是稷契事尧舜之意？”太宗大笑曰：“人言魏徵举动疏慢，此实不然。朕但见其所为，只觉婉媚耳。”公拜谢，曰：“陛下导之使言，臣所以敢谏；若陛下不受，臣岂敢数犯龙鳞。”太宗曰：“史官须记此言。”

论止足之分

公频论止足之分，太宗未之许。公曰：“群臣委任既久，许其进退，权用之，次观其能否；既得预察群才，又无独任之谤，使善人得进，长廉让之风；若能行之于今，足为将来永法。”太宗曰：“信如公言，然论者犹有同异，待至京下当别议。”

太宗谓侍臣天下安宁

太宗谓群臣曰：“为政者，岂待尧舜之君，龙益之佐。自我驱使魏徵，天下又安，边境无事，时和岁稔，其忠益如此。”先是，将发十六道黜陟大使，畿内道未有其人，太宗亲定之，问房玄龄等曰：“此道事最重，谁可先使？”右仆射李靖对曰：“畿内事大，非魏徵莫可。”太宗作色曰：“朕欲向九成，事亦不小，宁遣魏徵邪？朕每行，不欲与其相离者，适为其见朕是非，必无所隐，今从公等语遣去，朕若有得失，公等能止邪？”乃令李靖充使，公从往九成宫。

太宗御西堂宴集

太宗坐于丹霄门外之西堂，引公及右仆射李靖、中书令温彦博等人宴，言及群臣才行，谓靖等曰：“朕自为王至于今日，官人或上书献计，劝朕为善者多矣，日月稍久，官职渐大，志意即移，言论渐少，无不衰倦；唯魏徵与朕为善，官职益高，志节弥厉，见朕一事失所，甚于已身有过，朝夕孜孜，终始如一。自立以来，唯见此一人而已。是以敬之重之，同于师傅，不以人臣处之。”其后每谓房玄龄等曰：“魏徵被我拔擢特异，其报我亦深矣。君与我契阔艰辛，多历年所，劳苦之极，人莫能加。然自即位以来，辅弼我躬，安我社稷，成我今日功业，为天下所称，君不得与魏徵比矣。”

文德后载诞侍宴

文德皇后诞公主，月满，宴群臣于丹霄殿。太宗命公围棋赌，公再拜曰：“臣无可赌之物，不敢烦劳圣躬。”太宗曰：“朕知君有物，不须致辞。”公固言无物堪供进者，太宗曰：“朕知君大有忠正，君若胜，朕与君物；君若不如，莫亏今日。”遂与公棋，才下数十



子，太宗曰：“君已胜矣”赐尚乘马一匹，并金装鞍轡勒，仍赐绢千匹。

进五代史

武德中，公与侍中陈叔达、中书令萧瑀、左仆射封德彝、太子詹事裴矩等，同奉诏分修魏、梁、陈、周、齐、隋六代史。侍中已下，各居权要，既不相统摄，撰者无所禀承，事历数年，竟无次序。贞观初，公为秘书监，乃奏停后魏而修梁以下五代。奉敕遣秘书丞令狐德棻、秘书郎岑文本撰周史，前中书侍郎颜师古、给事中孔颖达撰隋史，著作郎姚思廉撰梁陈史，中书舍人李百药撰齐史。师古徙职，以许敬宗代之。公受诏总加修撰，裁定去取，咸资笔削，多所损益，务在简正。隋史序论皆出公手，梁陈及齐各为总论。梁史六秩五十六卷，陈史四秩三十六卷，周史五秩五十卷，齐史五秩五十卷，隋史六秩五十五卷，奏之，时称良史，加左光禄大夫，进封郑国公，赐物二千段。

让左光禄大夫

公诣朝堂，抗表让左光禄大夫，附崔确奏称：“臣在隋朝，备经丧乱，如臣流辈，死亡略尽，臣得奉太平，又特蒙拔擢，恩泽既深，唯思报效，惶臣先有眼疾，比加风疹，转加增剧。天才阴晦，数步之外，全不见人；仓卒转动，即觉心识闷乱。方今天下无事，英彦如林，无容痼疾之人久在枢近，非但不可，更加二品，仍乞解侍中之职，授臣一二品散官，不离左右，足申愚见，拾遗补阙，非敢虚饰，此实臣志愿。”太宗令崔敦礼谓之曰：“国之安危，资于辅弼，得其人则日隆日化，失其人则败不旋踵。公宽以接下，忠以奉上，朕每有乖僻，公未尝不言，社稷安危，唯公是寄。假使公全无两目，犹当异公置于左右，朝夕谘询；况公所患非重，便欲拂衣高蹈，匪独乖于朕意，金议以为未可。”

太宗移旧阁

太宗谓侍臣曰：“我疹病，移一旧阁，伊乃谤我作望陵台，公等须为我鞠问取。”谓杨师道曰：“卿道姜行本作处，用十车铜，闻谁道？”师道奏曰：“魏徵道。”太宗问公曰：“何以生此？”公不应。太宗再三问，对曰：“道十车铜，是谏争语；臣若道姓名，某即是讪谤，必不益圣德。”太宗曰：“我有事，皆向卿道，今卿乃为在下，不向朕道，是朕尽心向卿，卿不尽心向朕也。”因令御史引出鞠问之，乃谓治书侍御史杜正伦曰：“朕于天下亦是有功，每至祠祭，虽不亲行，常心怀悚惧。魏徵于朕，非义从府臣，朕于罪人之中擢与富贵，得朕借问，遂有所隐。朕事天即能畏敬，魏徵即事，便不尽心。昔萧何有大功于汉家，祇为请上林地，汉高祖尚系械之，计魏徵勋庸，岂得与萧何为等，朕为其能谏争，遂宠遇至此，乃恃宠自骄。朕昔问房玄龄事，答云‘不知，’徵当即奏称：‘岂有人臣报主得



有所隐。’朕今借问，便不尽心。遣御史推问，乃负气作如此行步，若朕儿能谏争，还作此骄慢，亦须扑杀。朕到伊上，岂有顾惜，看伊意况，似国家不得伊时即不得理。古来帝王，未有魏徵，亦得为化，在朕今日，何藉魏徵。”敕杜正伦速按问。公附奏称：“此阁初移，臣等面奉敕旨，本为避湿，所造不多；但众庶无知，或有谤议，臣初闻望陵台名，即欲内奏，仍共杨师道平章云：‘此名必是浪语，若出合名，百姓自然不惑。’师道语臣：‘有便即奏至尊，听其与说。’不愿即显姓名，非是欲私其人，故隐不道。陛下深居九重，细事不可亲见；臣作股肱耳目，非同无由得知。臣数日前见少府监官某乙，问访比来作司事务多少，云：‘更无造作，事亦不多，但北门造阁处，须钉铰甚急，恐少，便须市。’供作司唯恐阙乏获罪，臣即语云：‘移一旧阁费用几何？’报臣云：‘虽是旧事料理，钉铰须十车五车。’臣即向师道说。前日面奉进，止所造，盖亦不多役人，又是丁匠，何因人有此语师道共臣平章。只是至尊每事存养，无所造作，人见小小事，即以为多。百姓不可家至户说，那可彰其言语。”遂释不问。太宗御百福殿，公奉谢，太宗令韦挺谓之曰：“卿罪重于千钧，朕任卿使卿，逾于管仲，自近代以来，君臣相得，未似今日。昨问卿事，遂隐不言，朕今思量深可怪恨，向若遂即不道，终不与卿相见。欲论十年任使，一朝遂失，朕意可不惜邪？赖卿出外列其姓名，朕录卿忠诚，所以不责。”公对曰：“臣本九泉下人，蒙陛下拔擢，职在枢近，已经十年，情有所守。昨日遂被闻奏，罪合万死。陛下平一海内，爱养生人，天授明德，情存至化，军国机务，皆出圣躬，臣承受不暇，有何功绩？昨日若死，今日无由奉见圣颜。”

太宗即位有上书者

太宗谓长孙无忌等曰：“朕躬即位之初，有上书者非一，或言人主必须威权独运，不得委任群下；或耀兵振武，威慑四夷，唯有魏徵劝朕偃革兴文，布德施惠，中国即安，远人自服。朕从其语，天下安宁，绝域君长皆来朝贡，九夷重译，相望于道。凡以此等事皆魏徵之力也。朕之任用，岂不得人。”公拜谢曰：“陛下圣德自天，留心政术，臣以庸短，承受不暇，岂有所益。”

太宗幸积翠池赐宴赋诗

太宗幸积翠池，赐贵臣宴。太宗曰：“今兹年谷既登，边方静息，因此农隙，与公举酒，酒酣各咏一事。”公得西汉，其词曰：“受降临轺道，争长赴鸿门。骅传渭桥上，观兵细柳屯。夜宴经柏谷，朝游出杜原。终藉叔孙礼，方知皇帝尊。”太宗曰：“魏徵所言，必约我以礼。此语意极好，特宜记录。”



皇孙载诞侍宴

皇孙载诞，太宗幸东宫，置酒极欢。群臣等奏称：“皇子多已长成，而陛下初未有孙。今者东宫先诞首嫡，此卜代之休徵，无疆之美庆也。率土苍生，莫不抃舞，臣等喜跃，特百常情。”太宗曰：“君子抱孙不抱子，此是社稷之庆，公等又助朕尽饮，朕安得不喜。”酒酣，太宗召左仆射房玄龄及公于御床前地席，谓曰：“贞观已前，从朕平定天下，夷凶克乱，周旋艰辛，玄龄勋勋，何所与让。”太宗自解佩刀以赐之。又曰：“贞观以来，尽心于主，献纳忠谏，国安人利，犯颜正谏，匡朕之违，唯见魏徵一人。古之名臣，何以加此。”双解佩刀以赐之。

上类戴氏礼

戴氏礼并为注解二秩二十卷上之，诏曰：“礼经残缺，其来已久。汉代戴圣爱记旧闻，古今所宗。条目杂乱，先儒传授，多历年所，咸事因循，莫能厘正。特进郑国公。徵文高翰林，学综册府，服膺典礼，有志讨论，乃依圣所记，更事编录，以类相从。别为篇第，并更注解，文义粲然，遂得先圣微言，因兹重阐，后之学者，多有弘益，宜付秘书，仍令缮写，赐皇太子及诸王各一本。”并赐物一千匹。

论十六国诸主优劣

太宗与群臣论及十六国诸主优劣，太宗曰：“苻永固何独为所称？”房玄龄对曰：“为任使得人则见称，无其人则不见称。当时为有王景略。”太宗谓群臣曰：“此犹朕之有魏徵。”公拜谢焉。

预章公主薨

预章公主薨，公奏：“自豫章公主薨逝，陛下久著素服，群情悚栗，咸不自宁。臣闻古之王者，绝于期服，此乃前书典礼，列代旧章。陛下发上圣之慈，深下流之恻，素服以来，遂经旬月；悼往之义，足为加隆。伏愿割无已之痛，从先王之礼，改御常服以副群下之心。臣滥蒙重任，不敢寝默。”太宗从之。

太宗以公比诸葛亮

太宗谓侍臣曰：“魏徵何如诸葛亮？”岑文本对曰：“诸葛亮一国之政，内处宁安，又行师用兵，威动勍敌，见称今古。魏徵虽未事事尽兼，至于忧国如家，忠言正谏，朝夕孜



孜，古人亦无以加也。”太宗曰：“魏徵怀忠奉国，蹈履仁义，唯以道德为务，无所欺负；执持朕躬，必欲致于尧舜之上。诸葛所行，无以过也；所不如者，行师用兵耳。”

太宗谓侍臣自知者明

太宗谓侍臣曰：“自知者明。人不能善鉴已过，如善为文章，工诸伎艺，皆自谓已善，他人不及；若良工商略，文匠诋诃，荒音拙句，往往而有。又譬傅母养子，颊面豫饰乃堪见人，若栉发必须明镜，览其形容，以鉴善恶。以此而言，人君亦须得匡谏之臣，道其愆过，即其为政无大乖违。一日万机，一人听断，细微差僻，安能尽美。唯有魏徵，随事谏正，多中朕失，其进喻启沃，有同明镜；分明善恶，瞭见已形。即数餐嘉言，安得不喜。”太宗因举觞以赐房玄龄、高士廉等，数数励之。

辞太子太师

皇太子承乾不修德业，魏王泰宠爱日隆，内外庶僚，咸有疑议，太宗闻而恶之，谓侍臣曰：“当今朝臣，忠誓无如魏徵，我遣傅皇太子，用绝天下望。”遂命草诏，谓侍臣曰：“其辞乎？”皆曰：“徵昔为侍中，卒以退让，储傅之重，恐必不当。”太宗曰“徵识吾此意，将不固辞矣。”及诏下，拜为太子太傅，公自陈有疾，太宗谓之曰：“太子，宗社之本，须有师傅，故选忠正以为辅弼。昔周幽晋献废嫡立庶，有国行此，国必危；有家行此，家必败，如汉家几废太子，赖四皓来助，乃始得安。我今赖公，即其义也。如公疹病，可卧护之。”公乃就职。

手诏问疾

公疾，太宗手诏曰：“不见数日，忧愤甚深，自顾过已多矣，言已失矣，行已亏矣。古人云：‘无镜可以鉴须眉’，可谓实也。比欲自往，恐劳卿，所以使人来去。若有闻知，此后可以信来具报。”公奏曰：“尧舜率天下以仁而人从之，桀纣率天下以暴而人从之，下之所行，皆从上之所好。今大臣进一人则疑其亲故，拜一人则疑其夺权，欲遣其人，若为展力？所以契阔艰辛，同其生死，闻一人之言，即谓可信；新来言者，何以明其无私？”又奏曰：“古者虽犯重罪，君上每言宽宥，必不获已，方始加刑。且人君之威，甚于雷霆，今欲加其罪，则理外诬造；将有其过，则法内曲辞；欲求刑，必宽平，吏不严酷，不可得也。”又奏曰：“帝王所重在乎定君臣、明父子、正夫妇，三者不乱，然后内外安宁。比见弟子陵师，奴婢忽主，下多轻上，皆有为而来，渐不可长。”又奏曰：“君子有诸已然后求诸人。无诸已然后非诸人，所藏于身不恕而能喻诸人者，未之有也。今临朝堂，以至公为言；退而行之，乃未免私僻之事。或恐有所不便，闻于在下，即横加威怒以掩塞之，欲人



不知，莫若勿为；欲盖弥彰，掩之何益。帝王大如天地，信如四时，诸葛亮，小国之臣，犹能开诚心，布公道，今之为政，未能平心，亦亏公道。心所爱则虽谏不以为非，心所嫌则虽正不见其是，居人上者，其身正不令而行，其身不正，虽令不从。今每发言，常疾私相请托，或至小事，自所未免，上为下效，理必然也，虽加之以罪，必不心伏。”太宗称善。

手诏重闻

太宗手诏曰：“近来疹病，何似渐得可未？卿患日久，言面已赭，理国立家，方知难耳。比日自为，劳思委顿，始验任人则逸，自任则劳，非虚言也，此怀公想知之，可以意得，书何尽心，略而言耳。”

赐殿材为起堂

公宅内无堂，太宗常欲为营造，公谦让不受。太宗虑公疾甚，乃以小殿材为造焉，五日而成，仍遣中使赍素屏风素褥几案床等就赐之，遂其所尚也。公附表陈谢，太宗手诏曰：“观卿书，不如寻常，忧惋之情切朕怀意，处卿至此，当为横济黎元，经图达化耳，岂为朕一人而已，何事果来相谢。”

太宗亲临丧

公疾亟，太宗幸其第宅，因屏人而语。明日降手诏曰：“观卿形，甚忧闷。昨语深慰，昨坐久何似，但得眠即无苦，以卿有古人之风，今送被二张，勿辞也。”太宗又幸其第，公命加朝服，拖绅以见，太宗抚之，流涕问所欲言，公对曰：“夔不恤纬而忧宗周之亡。”乃拜其子叔玉为朝散大夫，并赐牙，仍遣左屯卫中郎将李安俨夜，宿公第，动止辄奏。皇太子亦再幸其第，对之流涕。公薨夜，太宗梦公若平生及朝而奏之，太宗趋临，赴哭之甚恻，废朝五日；皇太子亦于西华堂举哀，悲不自胜，诸王及文武百官、诸州计吏，九品以上皆赴丧所。诏赠司空，相卫黎魏洛荆贝七州诸军事，相州刺史，谥曰文贞。给羽葆鼓吹班剑四十人，赐绢布千段，米粟千石，陪葬昭陵。因车载柩，无文彩之饰，申其宿志也。

太宗幸苑西楼观葬

公葬日，敕京官文武九品以上及计吏，并送至开远门外。太宗幸苑西楼望哭，尽哀，令晋王宣敕祭之。太宗因望送作诗曰：“阊阖总金鞍，上林移玉辇。野郊怆新别，河桥非旧饯。惨日映峰沈，愁云随盖转。哀笳时断续，悲旌乍舒卷。望望情何极，浪浪泪空弦。



无复昔时人，芳春共谁遣。”御撰碑文及挽歌辞，仍亲为书。太宗思之不已，遂登凌烟阁，观其画，又赋七言诗送灵座焉，其辞曰：“劲筱逢霜摧美质，台星失位夭良臣。唯当掩泣云台上，空对于形无复人。”

太宗临朝诏群臣

太宗尝临朝，谓侍臣曰：“夫以铜为镜，可以正衣冠；以古为镜，可以知兴替；以人为镜，可以明得失。朕常保此三镜，以防已过。今魏徵殁逝，遂亡一镜矣。徵亡，朕遣人至宅，就求其书，得遗表一纸，始立稿，草字皆难识，唯有数行乃稍可分辨，云：‘天下之事，有善恶。任善人则国安，用恶人则国乱。公卿之内，情有爱憎。憎者唯见其恶，爱者唯见其善，爱憎之间，宜详审。若爱而知恶，憎而知善，去邪勿疑，任贤勿贰，可以兴化矣。’其遗表如此，何必在多。在朕思之，恐不免。斯事书于笏，知而即谏也。”

野史，是真正的历史。

——鲁迅



ISBN 7-80628-390-0



9 787806 283905 >

ISBN 7-80628-390-0/K · 146 定价：2580.00 元（全十二卷）